

科目名	Conversation I [クォーター]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード、デントン ルーカス

■講義の目的および概要

Conversation I クォーターでは、日常の幅広い様々なシチュエーションで、柔軟に会話を維持・発展させるコツを学びながら、実践的な英語力を身につけることができます。学生は話すことによって学び、より良い会話のパートナーになることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

一般的なパターンは、教師がロールプレイを行ったり例を示しながら行うペアディスカッションと、教科書で取り上げられたポイントに関する短い講義である。授業では、学生の発言時間を最大限に確保するよう心がける。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業開始時、ペアワーク時、テスト後にフィードバックを行います。

■授業計画

- ①Orientation: conversation cafe and explanation of assessment
- ②Unit 1 Introductions
- ③Unit 2 Family
- ④Unit 3 Shopping
- ⑤Unit 4 Food
- ⑥Unit 5 Music
- ⑦Unit 6 Free time
- ⑧Unit 7 Travel
- ⑨中間テスト (scripted conversation)
- ⑩Unit 8 Sports
- ⑪Unit 9 Friends
- ⑫Unit 10 Work
- ⑬Unit 11 Movies
- ⑭リハーサル
- ⑮期末テスト (conversation in pairs or threes)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生徒が自信を持って自律的に話し、会話を続け、相手と対話することができるようにする。
将来の留学やスピーキングを伴う各種英語試験に対応できるリスニングとスピーキング力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

授業中のパフォーマンス 20%
中間テスト 30% (スクリプトによる会話)
期末テスト 50% (ペアまたはトリオ会話)

■テキスト・参考文献

『Nice Talking With You 1』
著者：Tom Kenny & Linda Woo
出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の前に、教科書を予習し、講師に質問したいことを書き、授業で質問する。

【必要な時間】

授業後、ノートを見直す。また、授業外でもクラスメートと英語で話す機会を見つけることが奨励される。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

話すことに自信を持つことが、成功への第一歩です。

科目名	Conversation I
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード

■講義の目的および概要

Conversation I では、日常の幅広い様々なシチュエーションで、柔軟に会話を維持・発展させるコツを学びながら、実践的な英語力を身につけることができます。学生は話すことによって学び、より良い会話のパートナーになることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

一般的なパターンは、教師がロールプレイを行ったり例を示しながら行うペアディスカッションと、教科書で取り上げられたポイントに関する短い講義です。授業では、学生の発言時間を最大限に確保するよう心がけます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業開始時、ペアワーク時、テスト後にフィードバックを行います。

■授業計画

- ①Orientation: conversation cafe and explanation of assessment
- ②Unit 1 Introductions
- ③Unit 2 Family
- ④Unit 3 Shopping
- ⑤Unit 4 Food
- ⑥Unit 5 Music
- ⑦Unit 6 Free time
- ⑧Unit 7 Travel
- ⑨中間テスト (scripted conversation)
- ⑩Unit 8 Sports
- ⑪Unit 9 Friends
- ⑫Unit 10 Work
- ⑬Unit 11 Movies
- ⑭リハーサル
- ⑮期末テスト (conversation in pairs or threes)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生徒が自信を持って自律的に話し、会話を続け、相手と対話することができるようにする。
将来の留学やスピーキングを伴う各種英語試験に対応できるリスニングとスピーキング力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

授業中のパフォーマンス 20%
中間テスト 30% (スクリプトによる会話)
期末テスト 50% (ペアまたはトリオ会話)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『Nice Talking With You 1』
著者：Tom Kenny & Linda Woo
出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に、前回の授業内容を確認し、教科書を予習しておくこと。

【必要な時間】

授業後、リスニングの宿題を終わらせ、クラスメイトと英語で話す練習をする。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

話すことに自信を持つことが、成功への第一歩です。

科目名	Conversation II
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード

■講義の目的および概要

Conversation 2は、実用的な言語を学びながら、日常の幅広い様々なシチュエーションで実践的なスピーキングスキルを身につけることができる。会話の流れの調整、話の展開、議論を深めるなど、他者とのよりよいやりとりができるようになることが最大の目的である。このスキルを身につけることで、留学や公的な英語スピーキング試験の際にも、よりスムーズなやり取りができるようになる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

一般的なパターンは、講師が短いレクチャーでポイントを引き出しながら教材を確認し、ロールプレイやモデルを提供した後、ペアや3人組でのディスカッションの練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

フィードバックは、授業の冒頭、ペアワーク、テスト後に行われる。また、オプションとしてスピーキングの練習内容を教師に提出できる。

■授業計画

- ①Orientation: Conversation cafe and explanation of assessment
- ②Unit 1 Long Time No See
- ③Unit 2 My Place
- ④Unit 3 Money
- ⑤Unit 4 Going out
- ⑥Unit 5 Fashion
- ⑦Unit 6 Learning
- ⑧Unit 7 Experience Abroad
- ⑨中間テスト (scripted conversation)
- ⑩Unit 8 Health
- ⑪Unit 9 Personalities
- ⑫Unit 10 Careers
- ⑬Unit 11 Personal Entertainment
- ⑭リハーサル
- ⑮期末テスト (pair or trio conversation)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

パートナーと対話しながら、より流暢に話し、自分の意見を表現する自信を持つことができるようにする。留学や海外生活、公式な英語のスピーキング試験などに適したリスニングとスピーキングのスキルを向上させる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

授業内パフォーマンス 20%
中間テスト 30% (スクリプトによる会話)
期末テスト 50% (ペアまたはトリオでの会話)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『Nice Talking With You 2』
著者：Tom Kenny & Linda Woo
出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の前に、前回の授業内容の復習と教科書の予習をしておくこと。

【必要な時間】

授業後は、リスニングの宿題を終わらせ、クラスメイトと英語で話す練習をする機会を設ける。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

よく英語を話す人は、上達が早い傾向があります。

科目名	インターンシップ I [大学]
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・実習
担当者	吉沢 直、平塚 彰、新谷 弥、椿 明美、河本 洋一、濱田 剛一、遊佐 順和

■講義の目的および概要

■職業体験型インターンシップ(短期)

現在大学で用意しているインターンシップ先や経済同友会紹介先、北海道商工会議所・札幌商工会議所等からの紹介先を中心に参加するインターンシップである。派遣一覧から希望する企業を選択し、学内面接、あるいはインターンシップ先の面接を経て派遣を決定する。派遣が決定した後、事前指導を実施し派遣する。社会で活躍できる人材となるための準備として、実際の 職業の現場を知り、働くことについて考える。単なる「仕事体験、見学」ではなく、卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らの キャリアを形成する一助とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。

学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導 (1) ~ (5) は集中講義となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

- ①ガイダンス、インターンシップ経験談(学生発表)、派遣企業一覧、教員との相談タイム
- ②企業研究、インターンシップ企業エントリー
- ③派遣先選考・面接
- ④事前指導(1) インターンシップ授業の意味・心構え、インターンシップで意識が変わる(学生発表)
- ⑤事前指導(2) プロフィールシートの書き方、通勤時のビジネスカジュアル
- ⑥事前指導(3) 社会人基礎力、コンプライアンス
- ⑦事前指導(4) 日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状(お礼メール)の書き方
- ⑧事前指導(5) 職場での振る舞い(対面とオンライン版)、派遣前チェックリスト
- ⑨~⑭【インターンシップ実施】 8日以上
- ⑮【事後報告会】グループワークと発表

※担当教員の個別指導あり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。
- ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
- ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし
 教員より適宜資料配布

【参考文献】

「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社(2023)

■授業外学習

【具体的な内容】

日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業は毎週あるわけではありません。事前指導は集中講義となります。ガイダンスでスケジュールを配布しますのでそれに沿って参加してください。
- ・配布物やmanabaで確認しましょう。交通費・食事の支給は原則ありません（自己負担）が、インターンシップ先によっては支給される場合があります。

科目名	インターンシップⅡ[大学]
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・実習
担当者	吉沢 直、平塚 彰、新谷 弥、椿 明美、河本 洋一、濱田 剛一、遊佐 順和

■講義の目的および概要

■自己応募型(就職サイト等からのエントリー)、自己開拓応募型(自分で行きたい会社を開拓)(短期)
就職サイト等から自分で応募し参加可能となる場合や、行きたいと思う会社に自ら連絡をして受入れの承諾が得られた場合に成立するインターンシップ。学生からの申し出があった後、大学担当者が先方と研修の確認をして学内手続きをする。自分からの行動により始まるインターンシップで、行動力、実行力が身に付く。卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。
学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導(1)～(5)は集中講義となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

- ①ガイダンス、インターンシップ経験談(学生発表)、派遣企業一覧、教員との相談タイム
- ②企業研究、インターンシップ企業エントリー
- ③派遣先選考・面接
- ④事前指導(1)インターンシップ授業の意味・心構え、インターンシップで意識が変わる(学生発表)
- ⑤事前指導(2)プロフィールシートの書き方、通勤時のビジネスカジュアル
- ⑥事前指導(3)社会人基礎力、コンプライアンス
- ⑦事前指導(4)日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状(お礼メール)の書き方
- ⑧事前指導(5)職場での振る舞い(対面とオンライン版)、派遣前チェックリスト
- ⑨～⑭【インターンシップ実施】 8日以上
- ⑮【事後報告会】グループワークと発表

※担当教員の個別指導あり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。
- ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
- ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし
教員より適宜資料配布

【参考文献】

「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社(2023)

■授業外学習

【具体的な内容】

日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業は毎週あるわけではありません。事前指導は集中講義となります。ガイダンスでスケジュールを配布しますのでそれに沿って参加してください。
- ・配布物やmanabaで確認しましょう。交通費・食事の支給は原則ありません（自己負担）が、インターンシップ先によっては支給される場合があります。

科目名	キャリア形成論[国教]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	椿 明美

■講義の目的および概要

テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。
 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。
 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス：キャリア形成、キャリアデザインの基礎理解
- ②人生設計 (1) ライフサイクルと職業
- ③人生設計 (2) 生涯収支と職業
- ④人生設計 (3) キャリアの広がりや生涯発達
- ⑤自己理解 (1) 働く意味と自分の職業観
- ⑥自己理解 (2) 相互インタビューによる自己分析
- ⑦仕事理解 (1) 学生生活で得るキャリア意識の明確化
- ⑧仕事理解 (2) 経済・雇用環境に応じた働き方の理解
- ⑨職場理解 (1) インターンシップを活用したキャリア考察
- ⑩職場理解 (2) キャリア形成と求められる基礎能力
- ⑪職場理解 (3) 多彩な職種や業種と自分の適職
- ⑫ケーススタディ (1) 具体的な事例で考える将来設計
- ⑬ケーススタディ (2) 様々なキャリア形成のあり方
- ⑭「なぜ我々は働くのか」グループディスカッション
- ⑮キャリア形成に向けて (まとめ) キャリア形成論全体の振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する。
- ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる。
- ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ①「コミュニケーション能力」(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
 (DP2) 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。
- ②【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)
 (DP5) 自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

■成績評価基準と方法

- ①講義内での個人ワークでのアウトプット (50%)
- ②講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文 (30%)
- ③自身のキャリアプランの作成・最終提出物 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

「キャリアデザイン講座」第3版 日経BP社 大宮登監修

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア形成論[臨床]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する
 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。
 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意味、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。
 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。
 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 人生設計 (1)
- ③ 人生設計 (2)
- ④ 人生設計 (3)
- ⑤ 自己理解 (1)
- ⑥ 自己理解 (2)
- ⑦ 仕事理解 (1)
- ⑧ 仕事理解 (2)
- ⑨ 職場理解 (1)
- ⑩ 職場理解 (2)
- ⑪ 職場理解 (3)
- ⑫ ケーススタディ (1)
- ⑬ ケーススタディ (2)
- ⑭ 「なぜ我々は働くのか？」グループディスカッション
- ⑮ キャリア形成に向けて (まとめ)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する。
- ② 多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる。
- ③ 修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ① 講義内での個人ワーク、グループワークでのアウトプット (50%)
- ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文 (30%)
- ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア形成論[子心]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する
 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。
 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意義、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。
 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。
 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 人生設計（1）
- ③ 人生設計（2）
- ④ 人生設計（3）
- ⑤ 自己理解（1）
- ⑥ 自己理解（2）
- ⑦ 仕事理解（1）
- ⑧ 仕事理解（2）
- ⑨ 職場理解（1）
- ⑩ 職場理解（2）
- ⑪ 職場理解（3）
- ⑫ ケーススタディ（1）
- ⑬ ケーススタディ（2）
- ⑭ 「なぜ我々は働くのか？」グループディスカッション
- ⑮ キャリア形成に向けて（まとめ）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する。
- ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる。
- ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①講義内での個人ワーク、グループワークでのアウトプット（50%）
- ②講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30%）
- ③自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア形成論[スビ]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。

本学での学びを突き進めるには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。

そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意味、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。

前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。

後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

①ガイダンス

テーマ：キャリア形成、キャリアデザインの基礎理解

キャリアの定義、キャリア形成の必要性、変化するキャリア形成の課題

キャリア形成の基本と方法（なぜ働くのか?）、モチベーション曲線（個人ワーク）

②人生設計（1）

テーマ：ライフサイクルと職業

変わる家族のライフサイクルと性別役割、家族の変化と長寿社会、女性の就業意識の変化、出産後の就業パターン、ライフコース（個人ワーク）

③人生設計（2）

テーマ：生涯収支と職業

職業生活が持つ意味（マズローの欲求五段階説、経済的報酬、安定性・継続性、社会人的人間関係、社会的評価、自己実現・自己啓発）、現代家族の生涯収入と支出の現状、自分のライフコースの生涯収支（個人ワーク）

④人生設計（3）

テーマ：キャリアの広がりとは生涯発達

自律的なキャリア形成、ライフキャリアという考え方、ライフロールとは何か（ライフキャリアレインボー）、キャリアの生涯発達（若年、中年、老年）、人生の形成期課題

⑤自己理解（1）

テーマ：働く意味と自分の職業観、自己のキャリア意識を明確にする

人生に求める価値観、人はなぜ仕事をするのか（社会的活動の領域別・個人ワーク、社会的活動のライフステージ別・個人ワーク、社会的活動の担い手別・個人ワーク、就業形態別・個人ワーク）

⑥自己理解（2）

テーマ：相互インタビューによる自己分析

自分史チェックシートの作成、相互インタビュー（インタビューシート作成）、相互インタビューシートから自己分析シートを作成する（グループワーク）

⑦仕事理解（1）

テーマ：学生生活で得るキャリア意識の明確化

学生生活とキャリア形成（どのように大学生生活を歩んだか）、就職での評価基準（経験なのか、資質なのか）、企業が求める採用選考での重要項目、早期離職とフリーター問題、大学での学びとキャリア意識（個人ワーク）

⑧仕事理解（2）

テーマ：経済・雇用環境に応じた働き方の理解

キャリア形成の外的環境（社会、経済、組織）の重要性、少子高齢化社会の到来、社会・経済の構造転換がもたらす働き方の変化（チャンスとリスク）

⑨職場理解（1）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する
- ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる
- ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の3つの力の修得を目指します。

- (DP2) 「コミュニケーション能力」
- (DP3) 「課題を発見し、解決する力」
- (DP5) 「能動的に学び続ける力」

■成績評価基準と方法

- ①講義内での個人ワーク、グループワークでのアウトプット（50%）
- ②講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30%）
- ③自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

キャリアデザイン講座第3版 日経BP社 監修:大宮登

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア形成論[ス指]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	樋原 智恵

■講義の目的および概要

本学での学びをより多きものにし「自分にとって人生とは何か」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来に向けたキャリア形成を考えることが目的です。人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意義、いわゆる職業観を早期に認識することを目指します。さらに将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを理解し、キャリア形成を明確にすることもこの講義の目的となります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分にとっての「働くこと」の意味を考察するために個人ワーク、グループワークが中心となります。

後半はケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話とグループディスカッション、さらにプレゼンテーションを実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①オリエンテーション (授業内容・成績評価について)
キャリアデザインの基礎理解
- ②人生設計 (1) ライフサイクルと職業
変わる家族のライフサイクルと性別役割
- ③人生設計 (2) 生涯収支と職業
職業生活が持つ意味 (マズローの欲求五段階説、経済的報酬、社会的人現関係)、現代家族の生涯収入と支出の現状、自分のライフコースの生涯収支
- ④人生設計 (3) キャリアの広がりや生涯発達
自律的なキャリア形成、ライフロールとは何か (ライフキャリアレインボー)、キャリアの生涯発達 (若年、中年、老年)、人生の形成期課題
- ⑤自己理解 (1) 働く意味と自分の職業観、自己のキャリア意識を明確にする
人生に求める価値観、人はなぜ仕事をするのか
- ⑥自己理解 (2) 相互インタビューによる自己分析
自分史チェックシートの作成、相互インタビュー (インタビューシート作成)
- ⑦仕事理解 (1) 学生生活で得るキャリア意識の明確化
学生生活とキャリア形成 (どのように大学生生活を歩んだか)、企業が求める採用選考での重要項目、フリーター問題
- ⑧仕事理解 (2) 経済・雇用環境に応じた働き方の理解
キャリア形成の外的環境 (社会、経済、組織) の重要性、少子高齢化社会の到来、社会・経済の構造転換がもたらす働き方の変化 (チャンスとリスク)
- ⑨職場理解 (1) インターンシップを活用したキャリア考察
インターンシップとは何か、インターンシップの活用 (目的、種類、事前準備、注意点)
- ⑩職場理解 (2) キャリア形成と求められる基礎能力
キャリア・アンカー探し、仕事 (職業) に関する情報収集、入社後に求められる能力や資質 (社会人基礎力)
- ⑪職場理解 (3) 多彩な職種や業種と自分の適職
早期離職の問題点を考える (3年離職率)、適職の探し方、業種・職種
- ⑫ケーススタディ (1) テーマ: 具体的な事例で考える将来設計
*講師招聘
- ⑬ケーススタディ (2) テーマ: 様々なキャリア形成のあり方
*講師招聘
- ⑭「なぜ我々は働くのか?」グループディスカッション
*道商連・連携共同研究企画 (なぜ、我々は働くのか?)
- ⑮キャリア形成に向けて (まとめ)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自己のキャリアを考える上での基礎知識を修得する
- ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる
- ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文書化し、自分の言葉で表現できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
(DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①講義内での個人ワークでのアウトプット（50%）
- ②講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30%）
- ③自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

キャリアデザイン講座第3版 日経B P社 監修大宮登

■授業外学習

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立ててください。

特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。

また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がります。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

「人の話を聴く態度（傾聴）＝マナー」「時間を守ること」もキャリア形成における大事な構成要素です。積極的な受講態度を期待します。ノートPC持ち込み可です。座席指定する場合があります。

科目名	キャリア形成論[観光]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	平塚 彰

■講義の目的および概要

テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。
 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。
 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意味、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。
 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。
 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

①ガイダンス

テーマ：キャリア形成、キャリアデザインの基礎理解
 キャリアの定義、キャリア形成の必要性、変化するキャリア形成の課題
 キャリア形成の基本と方法（なぜ働くのか?）、モチベーション曲線（個人ワーク）

②人生設計（1）

テーマ：ライフサイクルと職業
 変わる家族のライフサイクルと性別役割、家族の変化と長寿社会、女性の就業意識の変化、出産後の就業パターン、ライフコース（個人ワーク）

③人生設計（2）

テーマ：生涯収支と職業
 職業生活が持つ意味（マズローの欲求五段階説、経済的報酬、安定性・継続性、社会人的人間関係、社会的評価、自己実現・自己啓発）、現代家族の生涯収入と支出の現状、自分のライフコースの生涯収支（個人ワーク）

④人生設計（3）

テーマ：キャリアの広がりとは生涯発達
 自律的なキャリア形成、ライフキャリアという考え方、ライフロールとは何か（ライフキャリアレインボー）、キャリアの生涯発達（若年、中年、老年）、人生の形成期課題

⑤自己理解（1）

テーマ：働く意味と自分の職業観、自己のキャリア意識を明確にする
 人生に求める価値観、人はなぜ仕事をするのか（社会的活動の領域別・個人ワーク、社会的活動のライフステージ別・個人ワーク、社会的活動の担い手別・個人ワーク、就業形態別・個人ワーク）

⑥自己理解（2）

テーマ：相互インタビューによる自己分析
 自分史チェックシートの作成、相互インタビュー（インタビューシート作成）、相互インタビューシートから自己分析シートを作成する（グループワーク）

⑦仕事理解（1）

テーマ：学生生活で得るキャリア意識の明確化
 学生生活とキャリア形成（どのように大学生生活を歩んだか）、就職での評価基準（経験なのか、資質なのか）、企業が求める採用選考での重要項目、早期離職とフリーター問題、大学での学びとキャリア意識（個人ワーク）

⑧仕事理解（2）

テーマ：経済・雇用環境に応じた働き方の理解
 キャリア形成の外的環境（社会、経済、組織）の重要性、少子高齢化社会の到来、社会・経済の構造転換がもたらす働き方の変化（チャンスとリスク）

⑨職場理解（1）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する
- ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる
- ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。
（DP2）「コミュニケーション能力」
（DP5）「能動的に学び続ける力」

■成績評価基準と方法

- ① 講義内での個人ワークでのアウトプット（50%）
- ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30%）
- ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

キャリアデザイン講座第3版 日経BP社 監修大宮登

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	英語Ⅱ
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード、ジョン カートライト、デントン ルーカス、中津川 雅宣、佐々木 朋子、壺岐 朱花、片岡 晃、陳 堯柏

■講義の目的および概要

英語Ⅱ

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

話す練習としてペアでロールプレイを行う。教科書をもとに実用的な文法やリスニング力をつける。Zoomを使用し、30分×5回海外のネイティブの先生とオンラインで会話の練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。確認テスト1, 2は授業内で解説をして、結果を発表する。

■授業計画

1. Orientation
2. Unit 10
3. Unit 10 / FT Session
4. Unit 12
5. Unit 12 / FT Session
6. Unit 13
7. Unit 13 / FT Session
8. 復習 (Unit 10. 12. 13)
9. 中間テスト
10. Unit 16
11. Unit 16 / FT Session
12. Unit 18
13. Unit 18 / FT Session
14. 復習 (Unit 16. 18)
15. 期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日常生活や将来の仕事に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP2)【コミュニケーション能力】

「国際社会の発展に寄与する社会人を育成」するに基づき、基礎となる英語の知識、技能を身につける。

■成績評価基準と方法

クラスタイムアクティビティ：20%

宿題：20%

中間テスト：30%

期末テスト：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『Free Talking』

著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvist, Yuki Hasegawa

出版社：Cengage Learning

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の始めに前回の授業の復習として質問をしますので、復習をして授業を受けてください。学修管理システムManabaのリスニングの宿題があります。

【必要な時間】

学修管理システムManabaのリスニングの宿題も含め、予習、復習を2時間程度行ってください。

■その他

予習をすることで学習効果が上がりますので、しっかり予習をすることをお勧めします。

科目名	英語 I
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード、ジョン カートライト、デントン ルーカス、佐々木 朋子、壺岐 朱花、片岡 晃、陳 堯柏

■講義の目的および概要

英語Iは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

話す練習として、主としてペアでロールプレイを行う。教科書をもとに実用的な文法やリスニング力をつける。Zoomを使用し、30分×5回海外のネイティブの先生とオンラインで会話の練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。確認テスト1, 2は授業内で解説をして、結果を発表する

■授業計画

1. Orientation, Introduction to Zoom
2. Unit 1
3. Unit 1 / FT Session
4. Unit 2
5. Unit 2 / FT Session
6. Unit 3
7. Unit 3 / FT Session
8. 復習 (Unit 1. 2. 3)
9. 中間テスト
10. Unit 4
11. Unit 4 / FT Session
12. Unit 5
13. Unit 5 / FT Session
14. 復習 (Unit 4. 5)
15. 期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日常生活や将来の仕事に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP2) 【コミュニケーション能力】

「国際社会の発展に寄与する社会人を育成」するに基づき、基礎となる英語の知識、技能を身につける。

■成績評価基準と方法

クラスタイムアクティビティ：20%

宿題：20%

中間テスト：30%

期末テスト：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『Free Talking』

著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvist, Yuki Hasegawa

出版社：Cengage Learning

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の始めに前回の授業の復習として質問をしますので、復習をして授業を受けてください。学修管理システムmanabaを用いた宿題があります。

【必要な時間】

学修管理システムmanabaを用いた宿題を含め、予習、復習を2時間程度行ってください。

■その他

予習をすることで学習効果が上がりますので、しっかり予習をすることをお勧めします。

科目名	英語 I [クォーター]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	デントン ルーカス、中津川 雅宣

■講義の目的および概要

英語Iは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

話す練習として、主としてペアでロールプレイを行う。教科書をもとに実用的な文法やリスニング力をつける。Zoomを使用し、30分×5回海外のネイティブの先生とオンラインで会話の練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。確認テスト1, 2は授業内で解説をして、結果を発表する

■授業計画

1. Orientation, Introduction to Zoom
2. Unit 1
3. Unit 1 / FT Session
4. Unit 2
5. Unit 2 / FT Session
6. Unit 3
7. Unit 3 / FT Session
8. 復習 (Unit 1, 2, 3)
9. 中間テスト
10. Unit 4
11. Unit 4 / FT Session
12. Unit 5
13. Unit 5 / FT Session
14. 復習 (Unit 4, 5)
15. 期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日常生活や将来の仕事に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP2) 【コミュニケーション能力】

「国際社会の発展に寄与する社会人を育成」するに基づき、基礎となる英語の知識、技能を身につける。

■成績評価基準と方法

クラスタイムアクティビティ：20%

宿題：20%

中間テスト：30%

期末テスト：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『Free Talking』

著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekqvist, Yuki Hasegawa

出版社：Cengage Learning

【参考文献】

■授業外学習

毎回授業の始めに前回の授業の復習として質問をしますので、復習をして授業を受けてください。学修管理システムmanabaを用いた宿題があります。

【必要な時間】

学修管理システムmanabaを用いた宿題を含め、予習、復習を2時間程度行ってください。

■その他

予習をすることで学習効果が上がりますので、しっかり予習をすることをお勧めします。

科目名	英語 I [秋学期入学生]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

英語Iは、英語における「聞く」・「話す」の2技能の上達を目標としている。英語で日常生活に関連した場面で話す力を育成し、講義や教科書を通して聞く力も伸ばすことを目的とする。またオンラインの手法を用いて、外国人教師と実際に英語での会話を練習することで、英語でのコミュニケーション能力を高める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

話す練習として、主としてペアでロールプレイを行う。教科書をもとに実用的な文法やリスニング力をつける。Zoomを使用し、30分×5回海外のネイティブの先生とオンラインで会話の練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で行われる学生のペアワークや先生とのロールプレイを通して、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。確認テスト1、2は授業内で解説をして、結果を発表する。

■授業計画

1. Orientation
2. Unit 1
3. Unit 1
4. Unit 2
5. Unit 2
6. Unit 3
7. Unit 3
8. 復習(Unit 1. 2 .3)
9. 中間テスト
10. Unit 4
11. Unit 4
12. Unit 5
13. Unit 5
14. 復習(Unit 4. 5)
15. 期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日常生活や将来の仕事に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、テーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP2)【コミュニケーション能力】

「国際社会の発展に寄与する社会人を育成」するに基づき、基礎となる英語の知識、技能を身につける。

■成績評価基準と方法

クラスタイムアクティビティ：20%

宿題：20%

中間テスト：30%

期末テスト：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『Free Talking』

著者：Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvist, Yuki Hasegawa

出版社：Cengage Learning

【参考文献】

■授業外学習

毎回授業の始めに前回の授業の復習として質問をしますので、復習をして授業を受けてください。学修管理システムmanabaを用いた宿題があります。

【必要な時間】

学修管理システムmanabaを用いた宿題を含め、予習、復習を2時間程度行ってください。

■その他

予習をすることで学習効果が上がりますので、しっかり予習をすることをお勧めします。

科目名	日本語表現 I
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	上野 直幸、千原 治、宇留野 健太、森岡 毅、赤岩 輝雄、金庭香理

■講義の目的および概要

レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。
- ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②レポートとは：レポートの形式など
- ③レポートにふさわしい表現Ⅰ：基本的な表現ルール、書き言葉、句読点
- ④レポートにふさわしい表現Ⅱ：文体など
- ⑤引用Ⅰ：事実と意見
- ⑥引用Ⅱ：直接引用・間接引用
- ⑦引用Ⅲ：参考文献
- ⑧読解Ⅰ：事実の読み取り
- ⑨読解Ⅱ：意見と理由の読み取り
- ⑩演習：引用及び読解
- ⑪レポートの書き方Ⅰ：説得性とは、接続関係、論理関係、段落の作り方
- ⑫レポートの書き方Ⅱ：アウトライン（構成）
- ⑬レポートの書き方Ⅲ：パラグラフ・ライティング
- ⑭レポートの書き方Ⅳ：意見と理由、引用、参考文献
- ⑮レポートの書き方Ⅴ：振り返り・レポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①レポートの形式を理解する。
- ②レポートにふさわしい表現ができる。
- ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

レポート課題：50%
演習課題：30%
小テスト：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』（ひつじ書房）

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・小テストの予習
- ・提出課題の返却後の振り返り
- ・テキストの読解
- ・レポートのテーマに関する情報収集

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

科目名	日本語表現 I [クォーター]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	高橋 伸

■講義の目的および概要

レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。
- ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②レポートとは: レポートの形式など
- ③レポートにふさわしい表現 I: 基本的な表現ルール、書き言葉、句読点
- ④レポートにふさわしい表現 II: 文体など
- ⑤引用 I: 事実と意見
- ⑥引用 II: 直接引用・間接引用
- ⑦引用 III: 参考文献
- ⑧読解 I: 事実の読み取り
- ⑨読解 II: 意見と理由の読み取り
- ⑩演習: 引用及び読解
- ⑪レポートの書き方 I: 説得性とは、接続関係、論理関係、段落の作り方
- ⑫レポートの書き方 II: アウトライン (構成)
- ⑬レポートの書き方 III: パラグラフ・ライティング
- ⑭レポートの書き方 IV: 意見と理由、引用、参考文献
- ⑮レポートの書き方 V: 振り返り・レポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①レポートの形式を理解する。
- ②レポートにふさわしい表現ができる。
- ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

レポート課題: 50%
演習課題: 30%
小テスト: 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

近藤裕子他 (2019) 『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』 (ひつじ書房)

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・小テストの予習
- ・提出課題の返却後の振り返り
- ・テキストの読解
- ・レポートのテーマに関する情報収集

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

科目名	日本語表現 I [入門スタート]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	藤田 綾、高橋 伸

■講義の目的および概要

レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。
- ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②レポートとは：レポートの形式など
- ③レポートにふさわしい表現Ⅰ：基本的な表現ルール、書き言葉、句読点
- ④レポートにふさわしい表現Ⅱ：文体など
- ⑤引用Ⅰ：事実と意見
- ⑥引用Ⅱ：直接引用・間接引用
- ⑦引用Ⅲ：参考文献
- ⑧読解Ⅰ：事実の読み取り
- ⑨読解Ⅱ：意見と理由の読み取り
- ⑩演習：引用及び読解
- ⑪レポートの書き方Ⅰ：説得性とは、接続関係、論理関係、段落の作り方
- ⑫レポートの書き方Ⅱ：アウトライン（構成）
- ⑬レポートの書き方Ⅲ：パラグラフ・ライティング
- ⑭レポートの書き方Ⅳ：意見と理由、引用、参考文献
- ⑮レポートの書き方Ⅴ：振り返り・レポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①レポートの形式を理解する。
- ②レポートにふさわしい表現ができる。
- ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

レポート課題：50%
演習課題：30%
小テスト：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』（ひつじ書房）

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・小テストの予習
- ・提出課題の返却後の振り返り
- ・テキストの読解
- ・レポートのテーマに関する情報収集

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

科目名	日本語表現Ⅱ
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	上野 直幸、千原 治、宇留野 健太、森岡 毅、赤岩 輝雄、金庭香理、高橋 伸

■講義の目的および概要

「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。
- ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②レポートとは何か：表現、形式、種類、引用
- ③文章構成Ⅰ：読解(1)
- ④文章構成Ⅱ：読解(2)
- ⑤文章構成Ⅲ：考察と主張(1) 説得性と根拠
- ⑥文章構成Ⅳ：考察と主張(2) 接続関係・パラグラフライティング・アウトライン
- ⑦文章構成Ⅴ：主張のための資料の探し方
- ⑧演習：読解及び考察と主張
- ⑨レポート作成Ⅰ：資料の読解
- ⑩レポート作成Ⅱ：根拠・資料
- ⑪レポート作成Ⅲ：説得性と論理(1) アウトライン・問題背景の理解
- ⑫レポート作成Ⅳ：説得性と論理(2) 引用・パラグラフライティング
- ⑬レポート作成Ⅴ：説得性と論理(3) 参考文献
- ⑭演習Ⅰ：考察と主張
- ⑮演習Ⅱ：説得性と論理

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。
- ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。
- ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

レポート課題：50%
演習課題：30%
小テスト：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』（ひつじ書房）

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・小テストの予習
- ・提出課題の返却後の振り返り
- ・テキストの読解
- ・レポートのテーマに関する情報収集

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

科目名	日本文化論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

・「日本文化」とは何か？そしてそれを現在の我々が学ぶ意味はどこにあるのか？本講義はこのような問いをテーマとして、「日本文化を“学ぶ”」ではなく、「日本文化“とはなにか？”」について考えていくことを目的としている。

・本講義で重視するのは、国際的視点と学生の主体性である。日本の文化の大部分は、中国や朝鮮、ヨーロッパの強い影響を受けたものである。本授業では、このような世界史的観点から日本の文化を位置付け、双方向的視野や、国際交流の重要性について学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・講義形式。必要に応じ、アクティブラーニング

【ICT機器】…プロジェクターを使用し、画像、映像を使用。zoomなど(遠隔の場合)

【実務経験】…中学校の「社会」、高等学校の「日本史」、「世界史」での授業経験を一部使用。

【課題に対するフィードバックの方法】

・学生の課題、感想ペーパーなどに必要に応じ、コメントをつけて返却。

■授業計画

- ①ガイダンスー “日本文化、とは何か？
- ② “日本文化、を探す その1ー “ことば、
- ③ “日本文化、を探す その2ー “すがた、
- ④ “日本文化、を探す その3ー “ひと、
- ⑤日本文化の基層を探る その1ー古代における神と仏
- ⑥日本文化の基層を探る その2ー東大寺のお水取り
- ⑦日本文化の基層を探る その3ー絵巻物の歴史
- ⑧日本文化の基層を探る その4ー禅宗と日本文化
- ⑨日本文化の基層を探る その5ー東アジアのなかの文化
- ⑩日本文化の基層を探る その6ー京都の文化
- ⑪ “日本の伝統文化、を考える その1ー “鎖国、とは何か
- ⑫ “日本の伝統文化、を考える その2ー東アジアの陶磁器流通と日本
- ⑬ “日本の伝統文化、を考える その3ー東アジア国際情勢のなかの “日本文化、
- ⑭ “日本の伝統文化、を考える その4ー “発見、される日本文化
- ⑮まとめー再び、 “日本文化、とは何か？

※感染症の状況などによる履修者の環境(遠隔か否か)により、講義の内容を変更する場合があります。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・日本文化に関する基本的な知識を習得するとともに、文化をみる目、調べる主体性などを身に付ける。
- ・日本文化が外部との交流の中で成立し、現在に至っているという国際的視野を持つ。
- ・自ら「日本文化とはなにか」について、「考える」ことが出来るようになる。
- ・また、日本語の構造、文字と表記についての理解を深める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ・DP1【専門知識・技能を活用する力】
- ・DP4【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

- ・各授業中に実施する課題…50%
- ・定期試験or学生が授業外で実施するレポートなどの課題…50%

※コピー、剽窃、虚偽の連絡、その他不正は、上記の評価と無関係に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中に指示する。

【参考文献】

- ・橋本雄『中華幻想』（2011年、勉誠出版社）。
- ・荒野泰典『「鎖国」を見直す』（2019年、岩波書店）。
- ・村井章介『東アジアのなかの日本文化』（2021年、北海道大学出版会）。

- ・『少年少女 マンガ 日本の歴史1～21、ほか』（1998年、小学館）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・各回、4時間程度。
- ・「問い」を立ててもらおう。また、講義の予習、復習など。
- ・配布したプリント及び授業中に提示した課題については、各自、事前事後に図書館などを使用して期日までにまとめておくこと。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・コピー、出席の不正、虚偽の連絡、その他、講義者が不正と判断した行為については、厳正に対処する。
- ・感染症の状況に応じて、授業内容をシラバスから変更する場合がある。その場合も到達目標は変らない。

科目名	学生と社会
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	佐久間 章、新井 貢、横田 久貴、横山 克人

■講義の目的および概要

本講義は、人文学部・観光学部・スポーツ人間学部の1年生全員を対象とする初年次教育科目です。本学の教育や「建学の礎」、および社会問題をテーマとして、現状や課題を理解し、さらには多角的な視点で解決方法や対処方法について考えることを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

人文学部・観光学部・スポーツ人間学部の1年生全員を対象とし、学部横断型でクラスを編成します。

各テーマについての講話によって、現状・課題を理解します。さらに、講義を踏まえて、課題解決方法についてグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス SIUを知る I 学長講話「建学の礎と新入生への期待」
- ②社会を知る I 講演 「他人とのコミュニケーションの取り方」
- ③社会を考える I 討論 「ワークショップ」
- ④社会を知る II 講演 「人生の試練が教えてくれたもの」
- ⑤社会を考える II 討論 「覚醒剤から身を守るために」
- ⑥社会を知る III 講演 「奨学金とお金の問題」
- ⑦社会を知る III 講演 「18歳成人を迎え 消費者問題を考える」
- ⑧社会を考える III 討論 「大学生生活とお金の問題」
- ⑨社会を知る IV 講演 「SOGI (ソジ) とは」
- ⑩社会を考える IV 討論 「LGBTQへの理解」
- ⑪社会を知る V 講演 「DV、ストーカー被害の実際」
- ⑫社会を考える V 討論 「DV、ストーカー被害・加害者にならないために」
- ⑬社会を知る VI 講演 「自分を知る」
- ⑭社会を考える VI 討論 「自分を理解する」
- ⑮定期試験、振り返り、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

本学の教育や「建学の礎」を理解し、大学4年間の目標や目的について説明できる。また、社会に関心を持ち、授業で取り扱ったテーマについて説明ができ、それらについて自身の考えを伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP6) 【社会に貢献する力】

■成績評価基準と方法

- 毎回の提出物 (80%)
 課題レポート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を配布します。

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

本講義では、社会問題（時事問題）を取り上げるため、日頃からニュース、新聞などで、最近の社会や企業の動き、情報を入手するよう心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

さまざまな不安を抱えて大学に入ってくる1年生が、大学の学びへ円滑に移行できるようになるための教育を【初年次教育】といいます。「学びの技法」「学生と社会」「日本語表現」を中心に、「情報機器操作」や所属学科「基礎ゼミ」と連動して学ぶ技術や他人と協調・協働する力を獲得し、学習意欲・学習目的を明確に持つことができるよう設計されています。学部学科では、アドバイザーを中心に初年次教育を通じて、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

科目名	学生と社会[秋学期入学生用]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義は、人文学部・観光学部・スポーツ人間学部の1年生全員を対象とする初年次教育科目です。本学の教育や「建学の礎」、および社会問題をテーマとして、現状や課題を理解し、さらには多角的な視点で解決方法や対処方法について考えることを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

人文学部・観光学部・スポーツ人間学部の1年生全員を対象とし、学部横断型でクラスを編成します。

各テーマについての講話によって、現状・課題を理解します。さらに、講義を踏まえて、課題解決方法についてグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス SIUを知る I 学長講話「建学の礎と新入生への期待」
- ②社会を知る I 講演 「他人とのコミュニケーションの取り方」
- ③社会を考える I 討論 「ワークショップ」
- ④社会を知る II 講演 「人生の試練が教えてくれたもの」
- ⑤社会を考える II 討論 「覚醒剤から身を守るために」
- ⑥社会を知る III 講演 「奨学金とお金の問題」
- ⑦社会を知る III 講演 「18歳成人を迎え 消費者問題を考える」
- ⑧社会を考える III 討論 「大学生生活とお金の問題」
- ⑨社会を知る IV 講演 「SOGI (ソジ) とは」
- ⑩社会を考える IV 討論 「LGBTQへの理解」
- ⑪社会を知る V 講演 「DV、ストーカー被害の実際」
- ⑫社会を考える V 討論 「DV、ストーカー被害・加害者にならないために」
- ⑬社会を知る VI 講演 「自分を知る」
- ⑭社会を考える VI 討論 「自分を理解する」
- ⑮定期試験、振り返り、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

本学の教育や「建学の礎」を理解し、大学4年間の目標や目的について説明できる。また、社会に関心を持ち、授業で取り扱ったテーマについて説明ができ、それらについて自身の考えを伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP6) 【社会に貢献する力】

■成績評価基準と方法

- 毎回の提出物 (80%)
 課題レポート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を配布します。

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

本講義では、社会問題（時事問題）を取り上げるため、日頃からニュース、新聞などで、最近の社会や企業の動き、情報を入手するよう心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

さまざまな不安を抱えて大学に入ってくる1年生が、大学の学びへ円滑に移行できるようになるための教育を【初年次教育】といいます。「学びの技法」「学生と社会」「日本語表現」を中心に、「情報機器操作」や所属学科「基礎ゼミ」と連動して学ぶ技術や他人と協調・協働する力を獲得し、学習意欲・学習目的を明確に持つことができるよう設計されています。学部学科では、アドバイザーを中心に初年次教育を通じて、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

科目名	学生と社会[クォーター]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

本講義は、人文学部・観光学部・スポーツ人間学部の1年生全員を対象とする初年次教育科目です。本学の教育や「建学の礎」、および社会問題をテーマとして、現状や課題を理解し、さらには多角的な視点で解決方法や対処方法について考えることを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

人文学部・観光学部・スポーツ人間学部の1年生全員を対象とし、学部横断型でクラスを編成します。各テーマについての講話によって、現状・課題を理解します。さらに、講義を踏まえて、課題解決方法についてグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配布します。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施します。

全学科合同による実施回、多文化言語コース単独での実施回とありますが、概ね全学共通の内容で授業を展開します（下記講義はレクチャーおよび討論を実施）。

- ①ガイダンス SIUを知る I 学長講話「建学の礎と新入生への期待」
- ②社会を知る I 講演 「他人とのコミュニケーションの取り方」
- ③社会を考える I 討論 「ワークショップ」
- ④社会を知る II 講演 「人生の試練が教えてくれたもの」
- ⑤社会を考える II 講義 「社会的包摂と共生社会」
- ⑥社会を考える III 討論 「覚醒剤から身を守るために」
- ⑦社会を考える IV 講義 「DV、ストーカー被害の実際」
- ⑧社会を知る III 講演 「奨学金とお金の問題」
- ⑨社会を考える V 討論 「大学生活とお金の問題」
- ⑩社会を知る IV 講演 「18歳成人を迎え消費者問題を考える」
- ⑪社会を考える VI 討論 「消費者トラブルに巻き込まれないために」
- ⑫社会を知る V 講義 「LGBTQへの理解」
- ⑬特別講話 講演 「世界とつながり自分の未来をみつめる」
- ⑭社会を知る VI 講演 「SOGI（ソジ）とは」
- ⑮まとめと全体の振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・本学の教育や「建学の礎」を理解し、大学4年間の目標や目的を説明できる。
- ・社会に関心を持ち、授業で取り扱ったテーマについて説明ができ、それらについて自身の考えを伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP6) 【社会に貢献する力】

■成績評価基準と方法

- 毎回の提出物（80%）
- 課題レポート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を配布します。

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

本講義では、社会問題（時事問題）を取り上げるため、日頃からニュース、新聞などで、最近の社会や企業の動き、情報を入手するよう心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

さまざまな不安を抱えて大学に入ってくる1年生が、大学の学びへ円滑に移行できるようになるための教育を【初年次教育】といいます。「学びの技法」「学生と社会」「日本語表現」を中心に、「情報機器操作」や所属学科「基礎ゼミ」と連動して学ぶ技術や他人と協調・協働する力を獲得し、学習意欲・学習目的を明確に持つことができるよう設計されています。学部学科では、アドバイザーを中心に初年次教育を通じて、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

科目名	中国語 I
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	崔 鵬、杉江 聡子、高 翔

■講義の目的および概要

本講義の目的は、中国語の発音、語句、文法の基礎を学び、簡単な日常会話の場面で使えるようになることです。中国語独自の発音のしかた、語句の意味、文法や文の構造についての基礎を学習します。また、母語とは異なる言語の学習を通して、中華圏の文化や社会に関心をもち、自分の国・地域のことばや文化に関する比較や観察を通じて、世界観を広げましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・主に、対面型の講義形式で授業を行います。教員や活動によっては、遠隔、遠隔とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の授業を行う場合もあります。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

・授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を学びます。会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

主に以下の形式で質問に回答します。

- ・授業の冒頭で前回の復習や課題を踏まえて解説をします。
- ・オンライン課題や授業中に送られた質問などに授業内で回答します。
- ・オンライン課題のフィードバックを学習管理システム「manaba」から返信します。

■授業計画

1. ガイダンス

①スマホやパソコンで中国語を入力する方法、中国・中国語の概況（音節、声調、母音とは）、簡単な自己紹介（名前、大学、学年）

2. 中国語発音の基本学習

- ②音の上がり下がり＝「声調」、音節の母音が一つ＝「単母音」
- ③音節の母音が複数＝「複母音」、子音
- ④鼻を抜ける母音「鼻母音」、発音の応用・簡単な挨拶

3. 基本文法

- ⑤第2課：「是（～です）」を使った表現、人称代名詞、副詞「不（ではない）」「都（みな）」「也（も）」を使った表現
- ⑥あいさつ、出身、学生かどうか、名前、家族構成について言う・尋ねる練習
- ⑦第2課の練習問題、応用練習
- ⑧第3課：形容詞、指示代名詞「あれ、これ」、所在を表す「在」、疑問詞を使った疑問文
- ⑨友達紹介、学年・専攻、大学内施設の場所を言う・尋ねる練習
- ⑩第4課：希望を伝える「想」「要」、「～するのが好きだ」、年齢、時刻、日付
- ⑪相手を指そう、食べたいもの、食べものの味について言う・尋ねる練習
- ⑫第5課：趣味・好き嫌いを言う・たずねる
- ⑬アルバイト、予定をたずねる、待ち合わせ（日時、場所）
- ⑭定期試験前の総復習
- ⑮授業内試験または最終課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・中国とはどのような国か、中国語はどのような特徴を持つ言語かを説明できる。
- ・ピンインが付いた中国語の語句や文を正確に音読できる。
- ・中国語であいさつや自己紹介などができる。
- ・基本単語を100語程度覚え、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。
- ・文の構造や語順を理解し、自分で簡単な中国語の文を考えて作ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

中国語 I は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のDP1、DP2に該当します。

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業中の応答、課題や小テスト、試験に基づき総合的に判断します。
第15回目の授業内で定期試験または最終課題を行います。

2023（令和5）年4月1日

- ・ 授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%）
- ・ 小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%）
- ・ 定期試験または最終課題（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社）

【参考文献】

『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社）

※その他、授業で紹介するウェブサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 各課の新出単語とテキスト本文について、WEB公開されている音声を聞き、耳を慣らしておきましょう。
- ・ わからない語句の意味を調べてノートにまとめておくこと。
- ・ 単元やトピックのまとめりごとに課題提出や小テストを行う場合があります。範囲や形式については授業で指示します。予告があったら必ずテスト範囲を復習しておくこと。
- ・ ピアやグループでの発表を行います。授業で指示があったら、協力して準備を進め、十分に練習しておくこと。

【必要な時間】

- ・ 予習・復習の時間は各1時間を目安とします。

■その他

- ・ 初回ガイダンスは特に、遠隔授業の受講環境（通信や端末の環境）をチェックするので、必ず出席してください。
- ・ 授業で段階的に取り入れていきますが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	中国語 I
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	崔 鵬、高 翔

■講義の目的および概要

本講義の目的は、中国語の発音、語句、文法の基礎を学び、簡単な日常会話の場面で使えるようになることです。中国語独自の発音のしかた、語句の意味、文法や文の構造についての基礎を学習します。また、母語とは異なる言語の学習を通して、中華圏の文化や社会に関心をもち、自分の国・地域のことばや文化に関する比較や観察を通じて、世界観を広げましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・主に、対面型の講義形式で授業を行います。教員や活動によっては、遠隔、遠隔とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の授業を行う場合もあります。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

・授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を学びます。会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

主に以下の形式で質問に回答します。

- ・授業の冒頭で前回の復習や課題を踏まえて解説をします。
- ・オンライン課題や授業中に出示された質問などに授業内で回答します。
- ・オンライン課題のフィードバックを学習管理システム「manaba」から返信します。

■授業計画

1. ガイダンス

①スマホやパソコンで中国語を入力する方法、中国・中国語の概況（音節、声調、母音とは）、簡単な自己紹介（名前、大学、学年）

2. 中国語発音の基本学習

- ②音の上がり下がり＝「声調」、音節の母音が一つ＝「単母音」
- ③音節の母音が複数＝「複母音」、子音
- ④鼻を抜ける母音「鼻母音」、発音の応用・簡単な挨拶

3. 基本文法

- ⑤第2課：「是（～です）」を使った表現、人称代名詞、副詞「不（ではない）」「都（みな）」「也（も）」を使った表現
- ⑥あいさつ、出身、学生かどうか、名前、家族構成について言う・尋ねる練習
- ⑦第2課の練習問題、応用練習
- ⑧第3課：形容詞、指示代名詞「あれ、これ」、所在を表す「在」、疑問詞を使った疑問文
- ⑨友達紹介、学年・専攻、大学内施設の場所を言う・尋ねる練習
- ⑩第4課：希望を伝える「想」「要」、「～するのが好きだ」、年齢、時刻、日付
- ⑪相手を指そう、食べたいもの、食べものの味について言う・尋ねる練習
- ⑫第5課：趣味・好き嫌いを言う・たずねる
- ⑬アルバイト、予定をたずねる、待ち合わせ（日時、場所）
- ⑭定期試験前の総復習
- ⑮授業内試験または最終課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・中国とはどのような国か、中国語はどのような特徴を持つ言語かを説明できる。
- ・ピンインが付いた中国語の語句や文を正確に音読できる。
- ・中国語であいさつや自己紹介などができる。
- ・基本単語を100語程度覚え、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。
- ・文の構造や語順を理解し、自分で簡単な中国語の文を考えて作ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

中国語 I は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のDP1、DP2に該当します。

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業中の応答、課題や小テスト、試験に基づき総合的に判断します。
第15回目の授業内で定期試験または最終課題を行います。

2023（令和5）年4月1日

- ・ 授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%）
- ・ 小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%）
- ・ 定期試験または最終課題（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社）

【参考文献】

『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社）

※その他、授業で紹介するウェブサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 各課の新出単語とテキスト本文について、WEB公開されている音声を聞き、耳を慣らしておきましょう。
- ・ わからない語句の意味を調べてノートにまとめておくこと。
- ・ 単元やトピックのまとめりごとに課題提出や小テストを行う場合があります。範囲や形式については授業で指示します。予告があったら必ずテスト範囲を復習しておくこと。
- ・ ピアやグループでの発表を行います。授業で指示があったら、協力して準備を進め、十分に練習しておくこと。

【必要な時間】

- ・ 予習・復習の時間は各1時間を目安とします。

■その他

- ・ 初回ガイダンスは特に、遠隔授業の受講環境（通信や端末の環境）をチェックするので、必ず出席してください。
- ・ 授業で段階的に取り入れていきますが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	中国語Ⅱ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	崔 鵬、杉江 聡子

■講義の目的および概要

本講義の目的は、「中国語Ⅰ」に引き続き、正確な発音を定着させ、単語量と基本文法の知識を増やして、少し詳しい自己紹介や大学生活での日常会話ができるようになることです。授業で使うあいさつ、声かけ、応答をはじめ、日常会話でよく使う会話表現を学習します。中華文化の伝統や年間行事などを通して、社会的・文化的な視点から中華圏への国・地域に対する理解を深めましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・主に、対面型の講義形式で授業を行います。教員や活動によっては、遠隔、遠隔とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の授業を行う場合もあります。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

・授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を学びます。会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

主に以下の形式で質問に回答します。

- ・授業の冒頭で前回の復習や課題を踏まえて解説をします。
- ・オンライン課題や授業中に出された質問などに授業内で回答します。
- ・オンライン課題のフィードバックを学習管理システム「manaba」から返信します。

■授業計画

- ①ガイダンス、春学期の復習（夏休みの思い出や秋学期の目標紹介）
- ②第6課 買い物をする、値段を聞く・答える、商品と数量詞の表現、通貨の単位
- ③買い物、貨幣と単位、値段の確認や交渉、ものに適した数量詞、道案内について言う・尋ねる練習
- ④第7課 「～したことがある」・過去の経験についての言い方、旅行の思い出について話す、動作の回数と時間の表現、時間の長さの表現
- ⑤週末にしたこと、旅行などの経験について言う・尋ねる練習
- ⑥第8課 「～した」・動作の完了や状況の実現の表現、アルバイトについて話す、「いつからいつまで、どこからどこまで」を聞く・話す、距離の遠さ・近さの表現
- ⑦アルバイトのスケジュール、場所、家や学校からの遠さについて言う・尋ねる練習
- ⑧第6～8課の応用練習
- ⑨第9課 餃子を作る、大学祭で餃子を売る、学習による習得の「会」、環境による possible の「能」
- ⑩大学祭の出し物紹介、現在進行形の「正在」、許可の「可以」
- ⑪第10課 風邪をひく・治る、試験の準備、変化の「了」、二重目的語を取る動詞
- ⑫試験の結果について言う・尋ねる、様態補語、比較表現
- ⑬第9～10課の応用練習
- ⑭定期試験に向けた総復習
- ⑮授業内定期試験または最終課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・単語量を300語程度まで増やす。新しい語句を覚えて、春学期に習った単語と合わせて300語程度を目指す。
- ・習った中国語の語句や文を正しい発音で音読できる。
- ・習った中国語の語句や文について、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。
- ・基礎的な日常会話について、中国語の意味を理解し、質疑応答ができる。
- ・文の構造や語順を理解し、自分で複数の意味がつながる中国語の文を考えて作ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業中の応答、課題や小テスト、試験に基づき総合的に判断します。
第15回目の授業内で定期試験または最終課題を行います。

2023（令和5）年4月1日

- ・ 授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%）
- ・ 小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%）
- ・ 定期試験または最終課題（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社）

※「中国語Ⅰ」と同じ教科書を続けて使用します。

【参考文献】

『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社）

※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 各課の新出単語とテキスト本文について、WEB公開されている音声を聞き、耳を慣らしておきましょう。
- ・ わからない語句の意味を調べてノートにまとめておくこと。
- ・ 単元やトピックのまとめりに課題提出や小テストを行う場合があります。範囲や形式については授業で指示します。予告があったら必ずテスト範囲を復習しておくこと。
- ・ ピアやグループでの発表を行います。授業で指示があったら、協力して準備を進め、十分に練習しておくこと。

【必要な時間】

- ・ 予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・ この授業は、過去に「中国語Ⅰ」を履修した学生を対象としています。
- ・ 中国語技能検定試験としてHSK（漢語水平考試）の1級～3級、中国語検定準4～4級の受験を勧めます。
- ・ 授業で段階的に取り入れていきますが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	インターンシップⅢ[大学]
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 4単位・実習
担当者	吉沢 直、平塚 彰、新谷 弥、椿 明美、河本 洋一、濱田 剛一、遊佐 順和

■講義の目的および概要

■長期派遣型のインターンシップ

原則、1か月以上、実働20日以上で長期間で派遣するインターンシップで、地域連携プロジェクト(1年タイプ)、ホテルインターンシップ、後志留学などがこれに入る。長期に亘るため、大学が実施するインターンシップは原則休業中に実施する。長期間体験のため企業や仕事をより深く知るものとなり、自己の能力開発にも繋がり、職業選択に有効となる。20日を過ぎると有償(有給)となる場合もある。卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導(1)～(5)は集中講義となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

- ①ガイダンス、インターンシップ経験談(学生発表)、派遣企業一覧、教員との相談タイム
- ②企業研究、インターンシップ企業エントリー
- ③派遣先選考・面接
- ④事前指導(1)インターンシップ授業の意味・心構え、インターンシップで意識が変わる(学生発表)
- ⑤事前指導(2)プロフィールシートの書き方、通勤時のビジネスカジュアル
- ⑥事前指導(3)社会人基礎力、コンプライアンス
- ⑦事前指導(4)日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状(お礼メール)の書き方
- ⑧事前指導(5)職場での振る舞い(対面とオンライン版)、派遣前チェックリスト
- ⑨～⑭【インターンシップ実施】 8日以上
- ⑮【事後報告会】グループワークと発表

※担当教員の個別指導あり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。
- ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
- ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし
 教員より適宜資料配布

【参考文献】

「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社(2023)

■授業外学習

【具体的な内容】

日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業は毎週あるわけではありません。事前指導は集中講義となります。ガイダンスでスケジュールを配布しますのでそれに沿って参加してください。
- ・配布物やmanabaで確認しましょう。交通費・食事の支給は原則ありません（自己負担）が、インターンシップ先によっては支給される場合があります。

科目名	韓国語 I
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	呉 泰均、趙 恵真、都 賢娥

■講義の目的および概要

韓国および韓国語について理解を深め、韓国と韓国語に対する基礎知識を確実にするための入門レベルの科目です。韓国語の文字であるハングルの仕組みを理解し、スムーズに音読できるように学習します。また、簡単な表現に触れながら基礎的な日常会話と自己紹介ができることを目標とします。なお、韓国における社会・文化がわかり、国際社会をより深く理解する姿勢を身につけます。ハングルの音読と自己紹介ができる能力を中心に評価します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にして、理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaを通してフィードバックします。

■授業計画

- ①韓国、韓国語についての概略
- ②第1課 単母音・半母音
- ③第1課 初声(鼻音・流音)・終声(パッチム)①
- ④第2課 初声(平音)
- ⑤第2課 二重母音・母音のまとめ
- ⑥第2課 連音化
- ⑦第3課 初声(激音)
- ⑧第3課 初声(濃音)
- ⑨第3課 終声(パッチム)②
- ⑩ハングルのまとめ
- ⑪第4課 助詞「は」
- ⑫第4課 ムニダ体「です・ですか」
- ⑬第5課 助詞「が」・ヘヨ体「です・ですか」
- ⑭第5課 「ではありません」
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

韓国語への関心を持ったうえで、簡単な挨拶や自己紹介に応用できます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末テスト：50%
小テスト：20%
口頭発表：20%
授業への参加度：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

三訂版・韓国語の世界へ(入門編)、李潤玉他、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業中に、韓国語の発音について随時指名して発言を求めするので、しっかりと予習
- ・復習した上で授業に参加してください。
- ・韓国語Ⅱと原則同時に履修することができません。
- ・留学生は母国語を履修できません。

科目名	韓国語 I
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	趙 恵真、都 賢娥

■講義の目的および概要

韓国および韓国語について理解を深め、韓国と韓国語に対する基礎知識を確実にするための入門レベルの科目です。韓国語の文字であるハングルの仕組みを理解し、スムーズに音読できるように学習します。また、簡単な表現に触れながら基礎的な日常会話と自己紹介ができることを目標とします。なお、韓国における社会・文化がわかり、国際社会をより深く理解する姿勢を身につけます。ハングルの音読と自己紹介ができる能力を中心に評価します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にして、理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaを通してフィードバックします。

■授業計画

- ①韓国、韓国語についての概略
- ②第1課 単母音・半母音
- ③第1課 初声(鼻音・流音)・終声(パッチム)①
- ④第2課 初声(平音)
- ⑤第2課 二重母音・母音のまとめ
- ⑥第2課 連音化
- ⑦第3課 初声(激音)
- ⑧第3課 初声(濃音)
- ⑨第3課 終声(パッチム)②
- ⑩ハングルのまとめ
- ⑪第4課 助詞「は」
- ⑫第4課 ムニダ体「です・ですか」
- ⑬第5課 助詞「が」・ヘヨ体「です・ですか」
- ⑭第5課 「ではありません」
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

韓国語への関心を持ったうえで、簡単な挨拶や自己紹介に応用できます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末テスト：50%
小テスト：20%
口頭発表：20%
授業への参加度：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

三訂版・韓国語の世界へ(入門編)、李潤玉他、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業中に、韓国語の発音について随時指名して発言を求めするので、しっかりと予習
- ・復習した上で授業に参加してください。
- ・韓国語Ⅱと原則同時に履修することができません。
- ・留学生は母国語を履修できません。

科目名	韓国語Ⅱ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	趙 恵真、都 賢娥

■講義の目的および概要

韓国語Ⅰを発展させ、韓国語の基礎文法を利用し、作文と日常会話に応用できる初級レベルの科目です。韓国語における文法体系を理解した上で、語彙を覚えて短い文章を作る練習を通し、作文と会話ができるようになることを目標とします。日常会話でよく使用される表現を習得し、外国語学習者に求められる聞く・話す・読む・書く能力をバランスよく身につけます。学習した文法と表現を応用して作文と会話の能力を向上させ、その進化を中心に評価します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にし、理解を深めていきます。

「ディスカッション」および「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaを通してフィードバックします。

■授業計画

- ①ハングルの読み書き/自己紹介
- ②韓国語Ⅰまでの復習
- ③第6課 漢数詞・「に」「います・いません」
- ④ヨ体の作り方
- ⑤過去形の作り方
- ⑥第7課 「を」「も」
- ⑦第8課 「で」「に」
- ⑧第9課 「で」「から～まで」
- ⑨第9課 固有数詞
- ⑩第10課 「しに」「から～まで」
- ⑪第11課 不規則活用
- ⑫第11課 否定表現
- ⑬第12課 敬語
- ⑭第12課 「つもりです」「したいです」
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

韓国語の基礎文法を理解し、日常会話に応用できます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力

DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末テスト：50%

小テスト：40%

授業への参加度：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

三訂版・韓国語の世界へ(入門編)、李潤玉他、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

今回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業中に韓国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習⁰²³（令和5）年4月1日復習した上で授業に参加してください。
- ・韓国語 I と原則同時に履修することができません。
- ・韓国語 I を修得したあと履修できます。
- ・留学生は母国語を履修できません。

科目名	表計算
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	安井 政樹、岩崎 有朋、工藤 敦

■講義の目的および概要

パソコンの代表的なアプリケーションソフトである表計算ソフトの利用方法を学習します。そして表計算ソフトを用いて社会の実データについて基本的な分析をしたり、それを分かりやすく表現したりするスキルを身に付け、表計算での処理の良さやデータ分析の良さを理解します。これにより、A I データサイエンス科目の基礎を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。一人一人が自分の力で表計算ソフトを活用してデータを処理すると同時に、グループワークや発表でコミュニケーションを取りながら協働的に学ぶことも重視します。また、複数回オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で適宜、フィードバックを行います。一人一人の課題については、manabaを活用して得点や改善点などをフィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション・Excelの基本操作（情報機器操作の復習）
- ②Excelの基本操作（セルとデータ入力、オートフィル）
- ③Excelで表の作成（表と簡単な関数）
- ④Excel操作（簡単なグラフ作成）
- ⑤ここまでの復習と課題作成
- ⑥Excelでデータ活用
- ⑦Excelでデータ活用
- ⑧ここまでの復習と課題作成
- ⑨Excelでデータ活用
- ⑩Excelでデータ活用
- ⑪ここまでの復習と課題作成
- ⑫Excelでデータ活用
- ⑬Excelでデータ活用（分析レポート）
- ⑭ここまでの復習と課題作成
- ⑮canvaで応用：表やグラフ作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・表計算ソフト（Excelやcanva）を用いた基本操作ができる。
- ・表計算ソフトを用いて、基本的なデータ分析をしたり、それを分かりやすく表現したりするスキルを身に付け、表計算での処理の良さやデータ分析の良さを理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）
表計算ソフトに関する知識や技能を高める。

■成績評価基準と方法

以下のABCDについて、以下の割合で総合的に評価します。

- A (60%) Excelの課題（15点×4回=60点）
- B (15%) データ活用についてのレポート（15点×1回=15点）
- C (15%) 毎時間の振り返りレポート（1点×15回=15点）
- D (10%) CANVAでの課題（10点×1回=10点）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

Word&Excel 完全ガイド 改訂第2版
[Office 2021/2019/2016/Microsoft 365対応]
基本操作+疑問・困った解決+便利ワザ（「一冊に凝縮」シリーズ）

【参考文献】

Excelに関する一般書籍を適宜参考にするとうい。

■授業外学習

【具体的な内容】

テキストを参考に自分のノートPCで実際に操作をしながら、基本的な表計算スキルを身に付けることが望ましい。

【必要な時間】

授業の前後各2時間程度の予習復習を主体的にしながら学修することが必要である。

■その他

- ・基本的に自分のノートPCを持参すること。
- ・テキストは遅くとも2回目に届いているようにすぐに注文すること（全員購入）。
なお、テキストは「文書作成」の授業と共通のものです。

科目名	学びの技法[大学]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	安田 純輝、杉江 聡子、田村 こずえ、高野 創子

■講義の目的および概要

大学で何かを学ぶために必要な基礎的知識、学修方法を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、他学科の学生とコミュニケーションを深めながら学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に伝える講義と、それを使ってみる実践が組み合わされた授業です。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業内のミニ・ワークの結果については、授業内で口頭でフィードバックします
- ・manabaで提出されたものは、必要に応じて個別にmanaba上でフィードバックします

■授業計画

- ① オリエンテーション・講話「大学での学びとは」
- ② 大学の施設を活用する【図書館ガイダンス】
- ③ 大学の施設を活用する【ライティングラボ】・ノートテイク
- ④ 大学の施設を活用する【グローバルcommons】・mini SIU Talk
- ⑤ 伝える技術①非言語コミュニケーション
- ⑥ 伝える技術②言語コミュニケーション
- ⑦ データと向き合う
- ⑧ レジュームの書き方
- ⑨ レポートの書き方
- ⑩ 剽窃、ダメ！絶対！
- ⑪ プレゼンテーションの基本①
- ⑫ プレゼンテーションの基本②
- ⑬ 「学び」のプランを考える【SA（先輩学生）によるミニレクチャー】
- ⑭ プレゼンテーションの発表準備
- ⑮ 最終成果のプレゼンテーション（グループ発表）とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現の基礎的スキルを身に着け、実践できるようになる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ・授業のワーク・・・30%
- ・授業課題提出・・・30%
- ・定期課題提出（プレゼンテーション）・・・40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する

【参考文献】必要に応じて、適宜授業中に紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後と判然とは分けられず、次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集活動と分析・授業のフィードバックへのリアクション・評価などを授業外学修として行う

【必要な時間】

授業外学修として、平均すると週4時間ほど

■その他

さまざまな不安を抱えて大学に入ってくる1年生が、大学の学びへ円滑に移行できる²³（令和5）年4月1日
ようになるための教育を【初年次教育】といいます。「学びの技法」「学生と社会」「日本語表現」を中心に、「情報機器操作」や所属学科「基礎ゼミ」と連動して学ぶ技術や他人と協調・協働する力を獲得し、学習意欲・学習目的を明確に持つことができるよう設計されています。学部学科では、アドバイザーを中心に初年次教育を通じて、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

科目名	学びの技法[大学・秋学期入学生用]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

大学で何かを学ぶために必要な基礎的知識、学修方法を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、他学科の学生とコミュニケーションを深めながら学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に伝える講義と、それを使ってみる実践が組み合わされた授業です。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 授業内のミニ・ワークの結果については、授業内で口頭でフィードバックします
- ・ manabaで提出されたものは、必要に応じて個別にmanaba上でフィードバックします

■授業計画

- ① オリエンテーション・講話「大学での学びとは」
- ② 大学の施設を活用する【図書館ガイダンス】
- ③ 大学の施設を活用する【ライティングラボ】・ノートテイク
- ④ 大学の施設を活用する【グローバルcommons】・mini SIU Talk
- ⑤ 伝える技術①非言語コミュニケーション
- ⑥ 伝える技術②言語コミュニケーション
- ⑦ データと向き合う
- ⑧ レジュームの書き方
- ⑨ レポートの書き方
- ⑩ 剽窃、ダメ！絶対！
- ⑪ プレゼンテーションの基本①
- ⑫ プレゼンテーションの基本②
- ⑬ 「学び」のプランを考える【SA（先輩学生）によるミニレクチャー】
- ⑭ プレゼンテーションの発表準備
- ⑮ 最終成果のプレゼンテーション（グループ発表）とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・ 大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現の基礎的スキルを身に着け、実践できるようになる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ・ 授業のワーク・・・30%
- ・ 授業課題提出・・・30%
- ・ 定期課題提出（プレゼンテーション）・・・40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する

【参考文献】必要に応じて、適宜授業中に紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後と判然とは分けられず、次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集活動と分析・授業のフィードバックへのリアクション・評価などを授業外学修として行う

【必要な時間】

授業外学修として、平均すると週4時間ほど

■その他

さまざまな不安を抱えて大学に入ってくる1年生が、大学の学びへ円滑に移行できる²³（令和5）年4月1日
ようになるための教育を【初年次教育】といいます。「学びの技法」「学生と社会」「日本語表現」を中心に、「情報機器操作」や所属学科「基礎ゼミ」と連動して学ぶ技術や他人と協調・協働する力を獲得し、学習意欲・学習目的を明確に持つことができるよう設計されています。学部学科では、アドバイザーを中心に初年次教育を通じて、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

科目名	学びの技法[クォーター]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	武井 昭也

■講義の目的および概要

高校までとは異なる大学の特徴を理解したうえで、大学で何かを学ぶために必要な基礎的知識、学修方法を身につけることが目的の授業です。大学に必要な基本的事項について、他学科の学生とコミュニケーションを深めながら学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

札幌国際大学の学生として必要な基礎的知識を一斉に伝える講義と、それを使ってみる実践が組み合わされた授業です。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業内のミニ・ワークの結果については、授業内で口頭でフィードバックします
- ・manabaで提出されたものは、必要に応じて個別にmanaba上でフィードバックします

■授業計画

【クォーター多文化言語展開】は以下の全学展開と連動して、15回分の内容を第1クォーターに集中して展開します。

- ①ガイダンス（授業内容・進め方、高校と大学の違い）
多文化①プレゼンテーション（様々なプレゼンテーションと技術）
- ②大学での学習環境①respon・非言語コミュニケーション
多文化②プレゼンテーション（企画と作成）
- ③大学での学習環境
多文化③プレゼンテーション（準備とリハーサル）
- ④情報を収集するということ
多文化④プレゼンテーション（発表）
- ⑤図書館を使うということ
多文化⑤図書館演習
- ⑥レジュメとは
多文化⑥レジュメ作成・提出
- ⑦レポートとは
多文化⑦レポート作成（バンクーバー）・提出
- ⑧まとめ

【全学展開】

- ①ガイダンス（授業内容・進め方の確認）
高校と大学の違い・大学の学修環境
- ②大学での学習環境①respon・非言語コミュニケーション
- ③大学での学習環境②manaba・言語コミュニケーション
- ④情報を収集するということ
- ⑤図書館を使うということ
- ⑥レジュメとは
- ⑦レポートとは
- ⑧データと向き合う①（大学生になった自分をデータから見てみる）
- ⑨データと向き合う②（大学生になった自分をデータの中においてみる）
- ⑩プレゼンテーションとは①（様々なプレゼンテーションと技術）
- ⑪プレゼンテーションとは②（企画と作成）
- ⑫プレゼンテーションとは③（準備とリハーサルの必要）
- ⑬プレゼンテーションとは④（準備とリハーサルの必要）
- ⑭学修成果発表会（各クラス）
- ⑮学修成果発表会（全体）とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・大学での学修とはどのような特徴を持つものかを理解し、表現できるようになる
・大学での学修に必要な情報収集・集約と分析・表現の基礎的スキルを身に付け、実践できるようになる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2)【コミュニケーション能力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ・授業毎回のワーク 40%
- ・課題（プレゼン・レジュメ・レポート）60%

■テキスト・参考文献

【参考文献】必要に応じて、適宜授業中に紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後と判然とは分けられず、次回の授業内容にかかわる課題・テーマに即した情報収集活動と分析・授業のフィードバックへのリアクション・評価などを授業外学修として行う

【必要な時間】

授業外学修として、平均すると週4時間ほど

■その他

さまざまな不安を抱えて大学に入ってくる1年生が、大学の学びへ円滑に移行できるようになるための教育を【初年次教育】といいます。「学びの技法」「学生と社会」「日本語表現」を中心に、「情報機器操作」や所属学科「基礎ゼミ」と連動して学ぶ技術や他人と協調・協働する力を獲得し、学習意欲・学習目的を明確に持つことができるよう設計されています。学部学科では、アドバイザーを中心に初年次教育を通じて、入学時の不安を解消し、大学での学習を主体的に継続できることを目指しています。それぞれの科目の内容が連動していることを意識して学んで下さい。

科目名	社会学
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

本講義では人間の社会と生活のあり方の基本を社会学の主要な領域に即して明らかにします。その際、「社会の基礎」である家族、地域社会、教育、「社会の構造」を形づくる階級・階層、ジェンダー、エスニシティ、「社会の変動」をもたらす高齢化、情報化、国際化についてとりあげます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントのスライドを使用して講義をします。授業内で講義内容に関わるアンケートやクイズなども取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回、授業の感想・意見・質問などをリアクションペーパーに記入してもらいます。感想・意見および質問と回答は次回の授業内でフィードバックします。
- ・提出されたレポートは授業内で全体の講評を行うとともに、代表的なレポート例を紹介しします。

■授業計画

- ①「社会の基礎」：家族の社会的機能（1）—家族の歴史
- ②「社会の基礎」：家族の社会的機能（2）—家族の現状と課題
- ③「社会の基礎」：地域社会の社会的意義（1）—地域社会の原型
- ④「社会の基礎」：地域社会の社会的意義（2）—地域政策の展開と地域社会の変貌
- ⑤「社会の基礎」：社会における教育の役割（1）—教育制度の変遷と教育の特質
- ⑥「社会の基礎」：社会における教育の役割（2）—学歴社会の形成と展開
- ⑦「社会の構造」：階級・階層の形成と展開（1）—現実と概念
- ⑧「社会の構造」：階級・階層の形成と展開（2）—階級・階層的な不平等の再生産
- ⑨「社会の構造」：ジェンダーとセクシャリティ（1）—概念と歴史
- ⑩「社会の構造」：ジェンダーとセクシャリティ（2）—教育におけるジェンダーの形成と再生産
- ⑪「社会の構造」：エスニシティと人種・民族（1）—概念と歴史
- ⑫「社会の構造」：エスニシティと人種・民族（2）—アイヌの民族的復権と課題
- ⑬「社会の変動」：超高齢社会の課題
- ⑭「社会の変動」：情報化社会の光と影
- ⑮「社会の変動」：グローバリゼーション（国際化）の未来

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

家族、地域社会や教育は人々の生活とどのように関係するか、階級、ジェンダー、エスニシティは社会をどのように構造化するのか、また近年の高齢化、情報化、国際化は社会にどのような影響をもたらすのかなどについて理解ができることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

最終レポート、小レポートと授業参加態度により評価します。評価の配分は、最終レポート60%、小レポート20%、授業参加態度20%とします。なお、最終レポートは出席回数が3分の2以上であることを提出条件とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使いません。講義のレジユメをmanabaを通じて配布します。

【参考文献】

長谷川公一他『新版 社会学』有斐閣、2019年
筒井淳也・前田泰樹『社会学入門』有斐閣、2017年
小内透『戦後日本の地域社会変動と地域社会類型』東信堂、1996年
平沢和司『格差の社会学入門〔第2版〕』北海道大学出版会、2021年
小内透『教育と不平等の社会理論』東信堂、2005年
小内透『再生産論を読む』東信堂、1995年
笹谷春美・小内透・吉崎祥司編著『階級・ジェンダー・エスニシティ』中央法規出版、2001年
小内透編著『講座 トランスナショナルな移動と定住』（全3巻）、御茶の水書房、2010年
小内透編著『講座 先住民族の社会学』（全2巻）、東信堂、2018年

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時の最後に次週の学習について予告するので、配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。

【必要な時間】

事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	スポーツ I
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	佐藤 文亮、吉沢 直、橋本 文音、粟野 祐弥、金 誠

■講義の目的および概要

本授業では、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを学ぶ。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解した上で、健康とスポーツの関連性について学習する。スポーツ I では、多様なスポーツ種目を経験する中で、スポーツの様々な親しみ方を知り、スポーツを通じて健康づくりを行うための知識を修得し、スポーツを通じたコミュニケーションスキルの獲得を目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、実践形式で行います。スポーツ I は、多様なスポーツ種目を経験する中で、スポーツの様々な親しみ方を知るといった『基本型』として捉えていきます。ゴール型球技やネット型球技といった異なる種目を展開し、それぞれのスポーツが持つ競技特性や基礎技能を幅広く学ぶことを目指します。スポーツを通じて健康づくりを行うための知識や種目の実践に必要な基礎技能を体験的に学習します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、毎授業の冒頭で説明し、実戦形式の中で解説をします。授業終了前には、質疑応答の時間を設け、課題の解釈を深めます。

■授業計画

- ①授業ガイダンス (グループ編成)
- ②ゴール型球技を主としたスポーツ (実技テスト：プレ)
- ③ゴール型球技を主としたスポーツ (基礎的な技能の獲得)
- ④ゴール型球技を主としたスポーツ (基礎的な技能の応用)
- ⑤ゴール型球技を主としたスポーツ (基礎的な技能の発展)
- ⑥ゴール型球技を主としたスポーツ (発展的な技能の獲得)
- ⑦ゴール型球技を主としたスポーツ (発展的な技能の応用)
- ⑧ゴール型球技を主としたスポーツ (実技テスト：ポスト)
- ⑨ネット型球技を主としたスポーツ (実技テスト：プレ)
- ⑩ネット型球技を主としたスポーツ (基礎的な技能の獲得)
- ⑪ネット型球技を主としたスポーツ (基礎的な技能の応用)
- ⑫ネット型球技を主としたスポーツ (基礎的な技能の発展)
- ⑬ネット型球技を主としたスポーツ (発展的な技能の獲得)
- ⑭ネット型球技を主としたスポーツ (発展的な技能の応用)
- ⑮ネット型球技を主としたスポーツ (実技テスト：ポスト)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ゴール型球技やネット型球技など、動きの異なるスポーツを体験的に学び、スポーツを通して身体を動かす楽しさについて理解できる。また、多様なスポーツを行うことで、健康を阻害する要因が改善されることについて説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

スポーツ (実施種目) の理解度と取り組み (マナー)	60%
種目に特化した基礎的な技能の到達度	20%
課題レポート	20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「観るまえに読む大修館スポーツルール2020」大修館書店編集部 大修館書店

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃から体を動かすことを心がけ、生活の質（QOL）を高めるために、本講義以外でもスポーツを行う時間を確保して下さい。また、傷害予防のために、講義の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。

なお、本講義で取り扱うスポーツについて、ニュース、新聞等で情報を入手するよう心がけて下さい。

【必要な時間】

より良い生活習慣を確立するために、1日40分（6日で4時間）を目安とします。

■その他

スポーツをすることに適した格好を準備して下さい。詳細については、初回の授業にて説明いたします。また、初回の授業では、授業の説明に加え、2回目の以降のクラス分けを行いますので、必ず初回の授業に出席して下さい。種目および担当教員により、履修人数に制限を設けます。

科目名	スポーツⅡ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	土肥 崇史、橋本 文音、田部井 祐介、赤川 智保、金 誠

■講義の目的および概要

本授業では、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを学びます。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解した上で、健康とスポーツの関連性について学習します。スポーツⅡでは、1つのスポーツを通じて種目特性やルールについて深く学びます。ゲームの中でルールの理解を深め、生涯を通じて活用できる知識と技能およびスポーツを通じてコミュニケーションスキルを身につけることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、実践形式で行います。スポーツⅡでは、1つのスポーツを通じて、種目特性やルールについて深く学び、スポーツの楽しみ方を知るといった『追求型』として捉えていきます。本講義では、種目特性や歴史的背景およびルールを学び、実践を通じて基礎技能の獲得を目指します。また、ゲームの中でルールの理解を深め、獲得した技能の発揮を促す体験的な学習を行い、生涯を通じて活用できる知識と技能を身に付けることを目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、毎授業の冒頭で説明し、実戦形式の中で解説をします。授業終了前には、質疑応答の時間を設け、課題の解釈を深めます。

■授業計画

- ①ガイダンス（種目説明とグループ編成）
- ②種目特性と歴史的背景
- ③実技テストとゲーム（プレ）
- ④基礎的な技能の獲得
- ⑤基礎的な技能の応用
- ⑥基礎的な技能の発展
- ⑦発展的な技能の獲得
- ⑧発展的な技能の応用
- ⑨ゲーム（基本的なルール解説）
- ⑩ゲーム（技能面の課題提示Ⅰ）
- ⑪ゲーム（段階的なルール導入）
- ⑫ゲーム（技能面の課題提示Ⅱ）
- ⑬ゲーム（正式ルールと技能発揮）
- ⑭実技テストとゲーム（ポスト）
- ⑮筆記テストとゲーム

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種目に必要な基礎技能の獲得と種目特性やルールについて深く学ぶことで、スポーツの本質的な楽しさについて理解できる。また、ゲームを通じた実践的且つ、体験的な学びから、生涯にわたって活用できる知識と技能を身に付けることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

スポーツ（実施種目）の理解度と取り組み（マナー）	40%
種目に特化した基礎的な技能の到達度	20%
種目に特化したルールの理解度	20%
課題レポート	20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「観るまえに読む大修館スポーツルール2020」大修館書店編集部 大修館書店

■授業外学習

本講義で取り扱うスポーツについて、ニュース、新聞、インターネット等で国内外の動向や試合映像などの情報を入手するよう心がけ、そのスポーツに関する知識を深めて下さい。また、本講義以外でもスポーツを行う時間を確保し、傷害予防のために、日頃から体を動かすこと、講義の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。

【必要な時間】

継続的な学習活動を心がけ、1日40分（6日で4時間）を目安とします。

■その他

スポーツをすることに適した格好を準備して下さい。詳細については、初回の授業にて説明いたします。また、初回の授業では、授業の説明に加え、2回目の以降のクラス分けを行いますので、必ず初回の授業に出席して下さい。種目および担当教員により、履修人数に制限を設けます。

科目名	情報機器操作
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	安井 政樹、岩崎 有朋、工藤 敦、平田 嘉宏、樋原 智恵

■講義の目的および概要

ソサイエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。

実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝えることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら協働的に学び思考力を高めることも重視します。プレゼンテーションにより双方向性のある授業も実施します。また、複数回オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション・AI時代と私たち
- ②情報セキュリティ・情報モラルと関係法規
- ③AIとどう付き合うか・いろいろなネット検索・フィルターバブル
- ④Word (1) ★
- ⑤Word (2) ★
- ⑥リーフレット交流/powerpoint (1)
- ⑦powerpoint (2) ★
- ⑧Excel (1)
- ⑨Excel (2) ★
- ⑩Excel (3) ★
- ⑪実データを用いた分析 (1) 情報整理の仕方
- ⑫実データを用いた分析 (2) プレゼンづくり★
- ⑬実データを用いた分析 (3) 発表会
- ⑭課題フォローアップ/タイピングテスト
- ⑮ITパスポート講演会/まとめ

★のところは、課題の作成回です

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。

実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】**(DP1)【専門知識・技能を活用する力】**

情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身に付ける。

(DP2)【コミュニケーション能力】

相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。

(DP4)【多様性の理解と協働する力】

情報セキュリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。

(DP5)【能動的に学び続ける力】

タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようにする。

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることができる。

■成績評価基準と方法

以下のABCについて総合的に評価します。

- A (60%) 授業内での課題 (10点×6回=60点)
- B (10%) タイピングテスト (10点×1回=10点)
- C (30%) 毎回の授業内レポート (2点×15回=30点)

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

- ・Office 2021(30時間アカデミック) 実教出版
- ・授業内で必要に応じて資料を配布します。

【参考文献】

- ・officeソフトの各種書籍
- ・情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

■授業外学習**【具体的な内容】**

- ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。
- ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。

【必要な時間】

- ・毎回、主体的に予習復習を各2時間程度することを求めます。

■その他

- ・自分のノートPCで学習することを基本としますので毎回持参してください。
- ・Word、Excel、powerpointのアプリ版を利用します。PCに入っていない場合は、office365からアプリをダウンロードしておきましょう(分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと)。
- ・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

科目名	情報機器操作[未修得]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	安井 政樹

■講義の目的および概要

ソサイエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。そのために、情報セキュリティーや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。

実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝えることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら協働的に学び思考力を高めることも重視します。プレゼンテーションにより双方向性のある授業も実施します。また、複数回オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション・AI時代と私たち
- ②情報セキュリティー・情報モラルと関係法規
- ③AIとどう付き合うか・いろいろなネット検索・フィルターバブル
- ④Word (1) ★
- ⑤Word (2) ★
- ⑥リーフレット交流/powerpoint (1)
- ⑦powerpoint (2) ★
- ⑧Excel (1)
- ⑨Excel (2) ★
- ⑩Excel (3) ★
- ⑪実データを用いた分析 (1) 情報整理の仕方
- ⑫実データを用いた分析 (2) プレゼンづくり★
- ⑬実データを用いた分析 (3) 発表会
- ⑭課題フォローアップ/タイピングテスト
- ⑮ITパスポート講演会/まとめ

★のところは、課題の作成回です

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。

実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】**(DP1)【専門知識・技能を活用する力】**

情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身に付ける。

(DP2)【コミュニケーション能力】

相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。

(DP4)【多様性の理解と協働する力】

情報セキュリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。

(DP5)【能動的に学び続ける力】

タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようにする。

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることができる。

■成績評価基準と方法

以下のABCについて総合的に評価します。

- A (60%) 授業内での課題 (10点×6回=60点)
- B (10%) タイピングテスト (10点×1回=10点)
- C (30%) 毎回の授業内レポート (2点×15回=30点)

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

- ・Office 2021(30時間アカデミック) 実教出版
- ・授業内で必要に応じて資料を配布します。

【参考文献】

- ・officeソフトの各種書籍
- ・情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

■授業外学習**【具体的な内容】**

- ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。
- ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。

【必要な時間】

- ・毎回、主体的に予習復習を各2時間程度することを求めます。

■その他

- ・自分のノートPCで学習することを基本としますので毎回持参してください。
- ・Word、Excel、powerpointのアプリ版を利用します。PCに入っていない場合は、office365からアプリをダウンロードしておきましょう(分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと)。
- ・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

科目名	情報機器操作[クォーター]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	安井 政樹

■講義の目的および概要

ソサイエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。

実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝えることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら協働的に学び思考力を高めることも重視します。プレゼンテーションにより双方向性のある授業も実施します。また、複数回オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション・AI時代と私たち
- ②情報セキュリティ・情報モラルと関係法規
- ③AIとどう付き合うか・いろいろなネット検索・フィルターバブル
- ④Word (1) ★
- ⑤Word (2) ★
- ⑥リーフレット交流/powerpoint (1)
- ⑦powerpoint (2) ★
- ⑧Excel (1)
- ⑨Excel (2) ★
- ⑩Excel (3) ★
- ⑪実データを用いた分析 (1) 情報整理の仕方
- ⑫実データを用いた分析 (2) プレゼンづくり★
- ⑬実データを用いた分析 (3) 発表会
- ⑭課題フォローアップ/タイピングテスト
- ⑮ITパスポート講演会/まとめ

★のところは、課題の作成回です

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。

実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをすることを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】**(DP1)【専門知識・技能を活用する力】**

情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身に付ける。

(DP2)【コミュニケーション能力】

相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。

(DP4)【多様性の理解と協働する力】

情報セキュリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。

(DP5)【能動的に学び続ける力】

タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようにする。

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることができる。

■成績評価基準と方法

以下のABCについて総合的に評価します。

- A (60%) 授業内での課題 (10点×6回=60点)
- B (10%) タイピングテスト (10点×1回=10点)
- C (30%) 毎回の授業内レポート (2点×15回=30点)

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

- ・Office 2021(30時間アカデミック) 実教出版
- ・授業内で必要に応じて資料を配布します。

【参考文献】

- ・officeソフトの各種書籍
- ・情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

■授業外学習**【具体的な内容】**

- ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。
- ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。

【必要な時間】

- ・毎回、主体的に予習復習を各2時間程度することを求めます。

■その他

- ・自分のノートPCで学習することを基本としますので毎回持参してください。
- ・Word、Excel、powerpointのアプリ版を利用します。PCに入っていない場合は、office365からアプリをダウンロードしておきましょう(分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと)。
- ・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

科目名	情報機器操作[秋学期入学生]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	岩崎 有朋

■講義の目的および概要

ソサイエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。そのために、情報セキュリティーや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。

実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝えることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。

一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら協働的に学び思考力を高めることも重視します。プレゼンテーションにより双方向性のある授業も実施します。

また、複数回オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。

また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション・AI時代と私たち
- ②情報セキュリティー・情報モラルと関係法規
- ③AIとどう付き合うか・いろいろなネット検索・フィルターバブル
- ④Word (1) ★
- ⑤Word (2) ★
- ⑥リーフレット交流/powerpoint (1)
- ⑦powerpoint (2) ★
- ⑧Excel (1)
- ⑨Excel (2) ★
- ⑩Excel (3) ★
- ⑪実データを用いた分析 (1) 情報整理の仕方
- ⑫実データを用いた分析 (2) プレゼンづくり★
- ⑬実データを用いた分析 (3) 発表会
- ⑭課題フォローアップ/タイピングテスト
- ⑮ITパスポート講演会/まとめ

★のところは、課題の作成回です

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティー等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。

実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

情報セキュリティーや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身に付ける。

(DP2)【コミュニケーション能力】

相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。

(DP4)【多様性の理解と協働する力】

情報セキュリティーの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。

(DP5)【能動的に学び続ける力】

タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようにする。

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることができる。

■成績評価基準と方法

以下のABCについて総合的に評価します。

- A (60%) 授業内での課題 (10点×6回=60点)
- B (10%) タイピングテスト (10点×1回=10点)
- C (30%) 毎回の授業内レポート (2点×15回=30点)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・Office 2021(30時間アカデミック) 実教出版
- ・授業内で必要に応じて資料を配布します。

【参考文献】

- ・officeソフトの各種書籍
- ・情報セキュリティーや情報モラルに関わる各種書籍

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。
- ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。

【必要な時間】

- ・毎回、主体的に予習復習を各2時間程度することを求めます。

■その他

- ・自分のノートPCで学習することを基本としますので毎回持参してください。
- ・Word、Excel、powerpointのアプリ版を利用します。PCに入っていない場合は、office365からアプリをダウンロードしておきましょう(分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと)。
- ・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

科目名	文書作成
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	安井 政樹、岩崎 有朋

■講義の目的および概要

パソコンの代表的なアプリケーションソフトである文書作成ソフトの利用方法を学習します。文書作成の知識と技術を演習を通じて身につけます。
1年生春学期に開講された情報機器操作で学習した文書作成の基礎についても再確認しますが、更に表計算の利用やグラフの挿入などで文書作成の高度化を図ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。
一人一人がPCで文書を作成すると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら協働的に学ぶことも重視します。
また、複数回オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内での解説を中心にフィードバックをします。
なお、課題については、個別にmanabaで採点を行い、改善点がある場合にはコメントでフィードバックを行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション・Wordの基本操作（確認）
- ②Wordの基本操作（第2章）
- ③Wordの基本操作（第2章）★
- ④Word文書の編集と書式設定（第3章）
- ⑤Word文書の編集と書式設定（第3章）★
- ⑥説得力のある図表やグラフの作り方（第4章）★
- ⑦説得力のある図表やグラフの作り方（第4章）★
- ⑧長文作成と文書校正の基本操作と便利ワザ（第5章）
- ⑨Wordの印刷を完璧にマスターする（第6章）
- ⑩課題作成★
- ⑪課題作成★
- ⑫課題作成★
- ⑬課題作成★
- ⑭CANVAでのリーフレットづくり☆
- ⑮タイピングテスト☆

★と☆は課題やテストの日です。
この日は特に欠席しないように気をつけましょう。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

文書作成ソフトWordの利用方法やcanvaの利用方法を学び、相手意識をもった分かりやすい文書の作成について学修します。実社会に役立つような課題作成を通して、社会に出たときにも生かせるような力を身に付けることが目標です。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）
文書作成ソフトに関する知識や技能を高める。

(DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）
リーフレットづくりをブラッシュアップするためのグループワークなどを通してより協働的に学ぶことができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）
実社会の課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。

(DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）
より良い作品作りに向けてディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける

(DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）
文書作成ソフトの基本操作スキルについて、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようにする。

(DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）
社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じる。

■成績評価基準と方法

以下のABCについて、総合的に評価します。

- A (80%) Wordでの文書作成課題（10点×8回＝80点）
- B (10%) タッチタイピングテスト（10点×1回＝10点）
- C (10%) CANVAでのリーフレット作成課題（10点×1回＝10点）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

Word&Excel 完全ガイド 改訂第2版
[Office 2021/2019/2016/Microsoft 365対応]
基本操作＋疑問・困った解決＋便利ワザ（「一冊に凝縮」シリーズ）

【参考文献】

Wordについての各種市販解説本

■授業外学習

【具体的な内容】

テキストを参考に、いろいろな操作を試したり、学修した内容について、自分のPCで再度操作をしてみたりすることを通して、文書作成力を高めてください。

【必要な時間】

1回の授業につき、授業前後で各2時間程度の主体的な学びを求めます。

■その他

- ・基本的に自分のノートPCを持参すること。
- ・テキストは遅くとも2回目に届いているようにすぐに注文すること（全員購入）。
なお、テキストは「表計算」の授業と共通のものです。
- ・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。
- ・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

科目名	基礎ゼミ I [国教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	新谷 弥、杉江 聡子、椿 明美、篠崎 敦史、遊佐 順和

■講義の目的および概要

この授業では、在学4年間から卒業後の進路までを見据えて、大学での学びの目的や意味を意識しながら、人文・社会科学に関する学びを進めるために必要な「知識・技能」、「運用・応用力」、「協働・コミュニケーション力」の基本を修得することを目指します。

1年次に履修する必修科目（「学びの技法」や「学生と社会」）と結び付け、より確かな習得や定着につなげましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。

対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。

遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニングも行います。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

・授業内容

アドバイザーのもとで、学習環境の設定（パソコンや各種アプリなどの設定、履修登録、学習管理システム「manaba」の操作、学内施設の使い方）、教職員とのコミュニケーションマナー、チームワークと協働（大学祭などの学校行事）、レポートや文章の書き方、プレゼンテーションの基礎などについて学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・授業の中で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。

・授業中に出された質問やコメントに授業内で回答します。

・オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をします。

■授業計画

①ガイダンス

（教員・アドバイザー紹介、学生ポータルの使い方、シラバス確認、4年間の学修計画、履修登録等）

②大学の学びと授業の基本

（履修登録の確認、学修ポートフォリオ記入、大学での学びと学習環境について、個人PCへのOffice365インストール、大学Outlookメールの設定、スマホOutlookAPPのインストールと設定等）

③学習管理システム「manaba」の使い方

（ログイン、画面の見方、小テストや課題の提出等）

④学内施設の使い方：図書館、ライティングコモンズ、グローバルコモンズ

（図書館へ行き、文献検索や貸出・返却手続）

（ライティングコモンズへ行き、自主学習や文書作成の支援を受ける等）

（グローバルコモンズへ行き、国際課スタッフや留学生と交流する等）

⑤大学生活で困ったときは

（事務フロアへ行き、在学中に教務課、学生課、会計課等で必要な手続きを説明）

（学修サポート室、保健室の場所確認と受けられる支援等）

⑥アドバイザーや教職員へのメールの書き方と研究室訪問のマナー

（Outlook署名の設定、件名と本文、送受信と返信、ごみ箱の確認等）

⑦データを入れたレジュメやレポートの書き方

⑧データを入れたレジュメやレポートの書き方

⑨大学祭「清麗祭」の学科企画準備等

⑩大学祭「清麗祭」の学科企画準備等

⑪大学祭「清麗祭」の学科企画準備等

⑫成果発表の準備と資料作成

⑬成果発表の準備と資料作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・4年間の学修計画を見通して1年次の履修登録ができる。
- ・大学の学びを円滑に進めるために必要なツールやアプリを設定し、適切に使用できる。
- ・図書館で本や資料の検索、閲覧、貸出・返却、学外からの取り寄せ、文献調査等ができる。
- ・インターネットやテクノロジーを適切に活用して、資料や情報の収集やまとめ、レジュメやレポートの作成できる。
- ・新聞記事や文献等の文章から事実や主旨を読み取り、要約することができる。
- ・プレゼンテーションのスライドを作成し、口頭発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業への取り組みとグループワークの成果 30%
課題の提出と完成度 40%
発表やプレゼンテーションと完成度 30%

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」

※入学時に紙の冊子が配布されるほか、学習管理システム「manaba」からも電子版をダウンロードできます。

【参考文献】

必要に応じて、授業内で指示、配布します。

■授業外学習**【具体的な内容】**

- ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word、PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とする。
通常時の予習・復習のほか、学校行事や学科合同企画などで課外活動を行う場合がある。

■その他

- ・円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。
- ・初回ガイダンスは特に、遠隔授業の受講環境（通信や端末の環境、連絡方法等）を確認するので、必ず出席すること。
- ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	基礎ゼミ I [国教・クォーター]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣

■講義の目的および概要

この授業では、在学4年間から卒業後の進路までを見据えて、大学での学びの目的や意味を意識しながら、人文・社会科学に関する学びを進めるために必要な「知識・技能」、「運用・応用力」、「協働・コミュニケーション力」の基本を修得することを目指します。

1年次に履修する必修科目（「学びの技法」や「学生と社会」）と結び付け、より確かな習得や定着につなげましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。

対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。

遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム

「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニングも行います。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

・授業内容

アドバイザーのもとで、学習環境の設定（パソコンや各種アプリなどの設定、履修登録、学習管理システム「manaba」の操作、学内施設の使い方）、教職員とのコミュニケーションマナー、チームワークと協働（大学祭などの学校行事）、レポートや文章の書き方、プレゼンテーションの基礎などについて学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・授業の中で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。

・授業中に出された質問やコメントに授業内で回答します。

・オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をします。

■授業計画

①ガイダンス

（教員・アドバイザー紹介、学生ポータルの使い方、シラバス確認、学修ポートフォリオ記入、4年間の学修計画、履修登録等）

②大学の学びと授業の基本

（履修登録の確認、大学での学びと学習環境について、パソコンやスマホで大学メールの利用設定等）

③学習管理システム「manaba」の使い方

（ログイン、画面の見方、小テストや課題の提出等）

④学内施設の使い方：図書館、ライティングcommons、グローバルcommons

（図書館へ行き、文献検索や貸出・返却手続）

（ライティングcommonsへ行き、自主学習や文書作成の支援を受ける等）

（グローバルcommonsへ行き、国際課スタッフや留学生と交流する等）

⑤大学生活で困ったときは

（事務フロアへ行き、在学中に教務課、学生課、会計課等で必要な手続きを説明）

（学修サポート室、保健室の場所確認と受けられる支援等）

⑥アドバイザーや教職員へのメールの書き方と研究室訪問のマナー

（Outlook署名の設定、件名と本文、送受信と返信、ごみ箱の確認等）

⑦データを入れたレジュメやレポートの書き方

⑧データを入れたレジュメやレポートの書き方

⑨留学に向けた準備等

⑩留学に向けた準備等

⑪留学に向けた準備等

⑫成果発表の準備と資料作成

⑬成果発表の準備と資料作成

⑭最終成果発表・相互評価

⑮振り返りとフィードバック

※「学びの技法」や「学生と社会」の進捗や修得状況に応じて内容を変更する可能性があります。

※必要に応じて学年または複数アドバイザーグループ合同で実施します

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 4年間の学修計画を見通して1年次の履修登録ができる。
- ・ 大学の学びを円滑に進めるために必要なツールやアプリを設定し、適切に使用できる。
- ・ 図書館で本や資料の検索、閲覧、貸出・返却、学外からの取り寄せ、文献調査等ができる。
- ・ インターネットやテクノロジーを適切に活用して、資料や情報の収集やまとめ、レジュメやレポートの作成できる。
- ・ 新聞記事や文献等の文章から事実や主旨を読み取り、要約することができる。
- ・ プレゼンテーションのスライドを作成し、口頭発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業への取り組みとグループワークの成果 30%
課題の提出と完成度 40%
発表やプレゼンテーションと完成度 30%

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」

※入学時に紙の冊子が配布されるほか、学習管理システム「manaba」からも電子版をダウンロードできます。

【参考文献】

必要に応じて、授業内で指示、配布します。

■授業外学習**【具体的な内容】**

- ・ 必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・ 授業で課される課題はMicrosoft365 (Word, PowerPoint等) で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とする。

通常時の予習・復習のほか、学校行事や学科合同企画などで課外活動を行う場合がある。

■その他

- ・ 円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。
- ・ 初回ガイダンスは特に、遠隔授業の受講環境（通信や端末の環境、連絡方法等）を確認するので、必ず出席すること。
- ・ 授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	基礎ゼミ I [国教・秋]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

この授業では、在学4年間から卒業後の進路までを見据えて、大学での学びの目的や意味を意識しながら、人文・社会科学に関する学びを進めるために必要な「知識・技能」、「運用・応用力」、「協働・コミュニケーション力」の基本を修得することを目指します。

1年次に履修する必修科目（「学びの技法」や「学生と社会」）と結び付け、より確かな習得や定着につなげましょう。

○基本的に春学期の「基礎ゼミ I」に準拠します。春学期の行事関係については代替活動ないしそれに相当する活動を実施します。到達目標は変わりません。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。

対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。

遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニングも行います。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

・授業内容

アドバイザーのもとで、学習環境の設定（パソコンや各種アプリなどの設定、履修登録、学習管理システム「manaba」の操作、学内施設の使い方）、教職員とのコミュニケーションマナー、チームワークと協働（大学祭などの学校行事）、レポートや文章の書き方、プレゼンテーションの基礎などについて学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・授業の中で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。

・授業中に出了された質問やコメントに授業内で回答します。

・オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をします。

■授業計画

- ①ガイダンス
(教員・アドバイザー紹介、学生ポータルの使い方、シラバス確認、学修ポートフォリオ記入、4年間の学修計画、履修登録等)
- ②大学の学びと授業の基本
(履修登録の確認、大学での学びと学習環境について、パソコンやスマホで大学メールの利用設定等)
- ③学習管理システム「manaba」の使い方
(ログイン、画面の見方、小テストや課題の提出等)
- ④学内施設の使い方：図書館、ライティングコモンズ、グローバルコモンズ
(図書館へ行き、文献検索や貸出・返却手続)
(ライティングコモンズへ行き、自主学習や文書作成の支援を受ける等)
(グローバルコモンズへ行き、国際課スタッフや留学生と交流する等)
- ⑤大学生活で困ったときは
(事務フロアへ行き、在学中に教務課、学生課、会計課等で必要な手続きを説明)
(学修サポート室、保健室の場所確認と受けられる支援等)
- ⑥アドバイザーや教職員へのメールの書き方と研究室訪問のマナー
(Outlook署名の設定、件名と本文、送受信と返信、ごみ箱の確認等)
- ⑦データを入れたレジメやレポートの書き方
- ⑧データを入れたレジメやレポートの書き方
- ⑨実践活動 その①
- ⑩実践活動 その②
- ⑪実践活動 その③
- ⑫成果発表の準備と資料作成
- ⑬成果発表の準備と資料作成

～～～～～

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・4年間の学修計画を見通して1年次の履修登録ができる。
- ・大学の学びを円滑に進めるために必要なツールやアプリを設定し、適切に使用できる。
- ・図書館で本や資料の検索、閲覧、貸出・返却、学外からの取り寄せ、文献調査等ができる。
- ・インターネットやテクノロジーを適切に活用して、資料や情報の収集やまとめ、レジメやレポートの作成できる。
- ・新聞記事や文献等の文章から事実や主旨を読み取り、要約することができる。
- ・プレゼンテーションのスライドを作成し、口頭発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

授業への取り組みとグループワークの成果 30%
課題の提出と完成度 40%
発表やプレゼンテーションと完成度 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」

※入学時に紙の冊子が配布されるほか、学習管理システム「manaba」からも電子版をダウンロードできます。

【参考文献】

必要に応じて、授業内で指示、配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365 (Word, PowerPoint等) で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とする。
通常時の予習・復習のほか、学校行事や学科合同企画などで課外活動を行う場合がある。

■その他

- ・円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。
- ・初回ガイダンスは特に、遠隔授業の受講環境（通信や端末の環境、連絡方法等）を確認するので、必ず出席すること。
- ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	基礎ゼミ I [臨床]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	吉崎 俊一郎、品川 ひろみ、橋本 久美、赤城 由紀

■講義の目的および概要

本講義の目的は、入学から卒業までを見据えて、専攻での学修や活動の基礎的知識と学修方法を修得することを目的とする。

また同時期に履修する必修科目（「学びの技法」や「学生と社会」）と結び付け、より確かな習得に繋げる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

大学の学びに必要な「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」の基礎を身につけるためのトレーニングを行う。各ゼミ担当者に分かれて行う場合と、合同ゼミで行う場合がある。またグループで課題解決学習に取り組むことを通して仲間との関係を構築する。

【課題に対するフィードバックの方法】

各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション：大学での学びについて
- ②各ゼミでの仲間作り活動（自己紹介・履修等個別指導）
- ③学生生活の目標 小レポート
- ④学びの計画 -学修ポートフォリオ-
- ⑤SNSについて
- ⑥レポートを書く（1）レポートの概要と図書館ガイダンス
- ⑦レポートを書く（2）自分の考えをまとめる
- ⑧レポートを書く（3）添削と修正
- ⑨アクティブラーニングとは
- ⑩グループワーク（1）計画（大学祭を活用した地域貢献活動）
- ⑪グループワーク（2）実施（大学祭を活用した地域貢献活動）
- ⑫グループワーク（3）大学祭の振り返り
- ⑬Emailの書き方
- ⑭読書と書評コンクール
- ⑮春学期のまとめ 授業内レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。仲間とともにグループワークを通して課題を解決する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP2【コミュニケーション能力】
 DP3【課題を発見し、解決する力】
 DP4【多様性の理解と協働する力】
 DP5【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- 毎回の講義での学修シート：20%
 学修ポートフォリオ：20%
 レポート課題：30%
 小レポート課題および提出物：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』

【参考文献】

参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

準備学習の内容については、授業ごとにゼミ担当者から指示する。グループワークの計画と実施では、授業時間以外の時間を使い計画を立てたり、準備することがあるので予定しておくように。具体的にはオリエンテーション時に説明する。

【必要な時間】

事前・事後学習はそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

授業計画及び成績評価基準は、学生の進捗・状況により変更することがあります。

科目名	基礎ゼミ I [子心]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	東 重満、榎本 光邦、橋場 俊輔、青木 美和子

■講義の目的および概要

本演習では、大学で学ぶために必要な基礎力を身につけることを目的とする。とりわけ、自ら疑問を抱き、それを追求する向学心の深化、その成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うことを目指す。また、ゼミという小集団のホームページでの活動を通じて、本学学生としての帰属意識・仲間意識および今後のキャリア形成についても考える場とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- 1) 各自が自分の課題を設定して資料を検索し、レポートにまとめる
- 2) ゼミ単位でのプレゼンを通して、ディスカッションを深める
- 3) 4ゼミ合同でプレゼンを行い、質疑応答を通して、課題の理解を深める

【課題に対するフィードバックの方法】

課題について提出されたレポートを教員が個別に添削をすること、ゼミ内でのプレゼンにコメントをすることを通して、課題の理解を深める

■授業計画

- ①ガイダンス
(教員・アドバイザー紹介、学生ポータルの使い方、シラバス確認、学修ポートフォリオ記入、4年間の学修計画、履修登録等)
- ②大学の学びと授業の基本(履修登録の確認、大学での学びと学習環境について、パソコンやスマホで大学メールの利用設定等)
- ③学習管理システム「manaba」の使い方(ログイン、画面の見方、小テストや課題の提出等)
- ④学内施設の使い方:図書館、ライティングcommons、グローバルcommons
(図書館へ行き、文献検索や貸出・返却手続)
(ライティングcommonsへ行き、自主学習や文書作成の支援を受ける等)
(グローバルcommonsへ行き、国際課スタッフや留学生と交流する等)
- ⑤大学生活で困ったときは
(事務フロアへ行き、在学中に教務課、学生課、会計課等で必要な手続きを説明)
(学修サポート室、保健室の場所確認と受けられる支援等)
- ⑥アドバイザーや教職員へのメールの書き方と研究室訪問のマナー (Outlook署名の設定、件名と本文、送受信と返信、ごみ箱の確認等)
- ⑦キャンプ飯コンテスト企画立案
- ⑧キャンプ飯コンテスト
- ⑨大学祭「清麗祭」の学科企画立案
- ⑩大学祭「清麗祭」準備等
- ⑪大学祭「清麗祭」準備等
- ⑫大学祭「清麗祭」リハーサル
- ⑬大学祭「清麗祭」玉人形本番⑭書評について
- ⑮春学期のまとめと秋学期に向けて
夏休み中のボランティアについて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 1) 大学で学ぶために必要な基礎力を身につけること (DP1)
- 2) 自ら疑問を抱き、それを追求する向学心 (DP3)
- 3) 学習成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うこと (DP2)
- 4) 本学学生としての帰属意識・仲間意識および社会貢献を意図した今後のキャリア形成について考えられる (DP6)

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

課題のレポート5回(4年間の見直し、お礼状など)100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】
使用しない

【参考文献】

必要に応じて紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】
事前に、テーマに関する資料の検索をする
事後に、テーマに関連する資料の検索をする

【必要な時間】
事前学習、事後学習とも、毎回2時間とする

■その他

授業内容がフィールドワーク I と連動しているので、FW I にも注意すること

科目名	基礎ゼミ I [親ビ]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	斉藤 巧弥、横田 久貴、田村 こずえ、細野 弥恵、黄 旭暉

■講義の目的および概要

本講義の目的は、在学4年間から卒業後の進路までを見据えて、大学での学びの目的や意味を意識しながら、観光を学ぶ上で必要な「知識・技能」、「運用・応用力」、「協働・コミュニケーション力」の基本を修得することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

演習形式等を通して行います。

配布資料等をファイリングしたり、デジタル資料を保存したりすることで、学習成果の蓄積としてのポートフォリオを作成します。

アドバイザーからの指導だけでなく、ゼミ生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども適宜取り入れます。

・授業内容

アドバイザーのもとで、学習環境の設定（履修登録、学習管理システムの活用、校内施設の使い方）、マナーやコミュニケーションスキル、チームワークと協働（学校祭や行事）、観光調査の基本などを学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。

- ・ゼミの冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。
- ・前回のゼミ中に出された疑問・質問に授業内で回答します。
- ・課題のフィードバックを各自に返信します。

■授業計画

- ①ガイダンス（教員紹介、シラバス説明、PCとスマホの設定確認、履修登録）
- ②学修ポートフォリオの作成
- ③図書館へ行こう
- ④「新聞記事」を読んで意見を出し合い、内容をまとめてみよう
- ⑤メールの書き方と電話の対応（専門家によるレクチャー）
- ⑥地域とつながろう：清田スイーツ企画：お店の調査
- ⑦地域とつながろう：清田スイーツ企画：ポスター作成
- ⑧地域とつながろう：清田スイーツ企画：ポスター発表
- ⑨地域とつながろう：清田スイーツ企画：学祭企画①（役割・担当を決める）
- ⑩地域とつながろう：清田スイーツ企画：学祭企画②（担当内容の詳細を確認する）
- ⑪地域とつながろう：清田スイーツ企画：学祭企画③（学祭当日について最終確認）
- ⑫オープンキャンパスへの参画：ツアー企画：担当を決める
- ⑬オープンキャンパスへの参画：ツアー企画：ツアーの詳細について話し合う①
- ⑭オープンキャンパスへの参画：ツアー企画：ツアーの詳細について話し合う②
- ⑮オープンキャンパスへの参画：ツアー企画：ツアーの実行

※社会状況に応じた大学祭や学校行事の変更に伴い、授業計画も変更する可能性がある。

※「学びの技法」、「学生と社会」科目の進捗や修得状況に応じて活動内容を変更する可能性がある。

※必要に応じて学年または複数アドバイザーグループ合同で実施する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・4年間の学修計画を見通して1年次の履修登録ができる。
- ・図書館で本を検索、貸し出し、返却でき、資料の取り寄せや文献調査ができる。
- ・資料や情報の集め方、情報のまとめ方、レジュメ作成や発表などにおいて、インターネットやテクノロジーを活用できる。
- ・観光産業の状況や観光調査の基本的な手法について理解する。
- ・観光に関する文章から事実や主旨を読み取り要約することができる。
- ・プレゼンテーションのスライドを作成し、口頭発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

授業への取り組み 40%

課題（レジュメ、レポート）の提出、完成度 20%

企画等の完成度 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」

【参考文献】
必要に応じて、授業内で適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】
・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

・社会の動向に関心を向けながら、観光に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。
・授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	基礎ゼミ I [観ピ・秋]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

本講義の目的は、在学4年間から卒業後の進路までを見据えて、大学での学びの目的や意味を意識しながら、観光を学ぶ上で必要な「知識・技能」、「運用・応用力」、「協働・コミュニケーション力」の基本を修得することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式および実習の要素を含む演習形式を組み合わせで行います。対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、出席登録・アンケートアプリ「Respon」などを使用します。配布資料等をファイリングしたり、デジタル資料を保存したりすることで、学習成果の蓄積としてのポートフォリオを作成します。教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども適宜取り入れます。

・授業内容

アドバイザーのもとで、学習環境の設定（遠隔授業の環境整備、履修登録、学習管理システムの活用、学内施設の使い方）、マナーやコミュニケーションスキル、チームワークと協働（学校祭や行事）、観光調査の基本などを学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。

- ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。
- ・オンライン課題や授業中に与えられた疑問・質問に授業内で回答します。
- ・オンライン課題のフィードバックを各自に返信します。

■授業計画

（1）履修登録と学習環境の設定

- ①ガイダンス（自己紹介、シラバス検索、大学での学びと学習環境、学修ポートフォリオ記入）
- ②大学の学びと授業の基本（履修登録、4年間の学修計画、パソコンやスマートフォンの設定）
- ③学習管理システム（LMS）「manaba」の使い方
- ④図書館ガイダンス

（2）観光ビジネス学科の学びに必要な基礎力

- ⑤メールの書き方と研究室訪問のマナー
- ⑥観光に関する文章の要約、レジュメ作成
- ⑦PREP型の文章構成
- ⑧観光調査法（合同）
- ⑨オンラインリソースを用いた情報収集
- ⑩ウインターイベントの準備
- ⑪ウインターイベントの振り返り
- ⑫プレゼンテーションを作る（「学びの技法」と連携）
- ⑬プレゼンテーションを作る（「学びの技法」と連携）
- ⑭プレゼンテーションを作る（「学びの技法」と連携）
- ⑮学習成果発表（合同）、学修ポートフォリオ記入

※「学びの技法」、「学生と社会」科目の進捗や修得状況に応じて活動内容を変更する可能性がある。

※必要に応じて学年または複数アドバイザーグループ合同で実施する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 4年間の学修計画を見通して1年次の履修登録ができる。
- ・ 遠隔授業を受けるために必要なツールを設定し、適切に使用できる。
- ・ 図書館で本を検索、貸し出し、返却でき、資料の取り寄せや文献調査ができる。
- ・ 資料や情報の集め方、情報のまとめ方、レジュメ作成や発表などにおいて、インターネットやテクノロジーを活用できる。
- ・ 観光産業の状況や観光調査の基本的な手法について理解する。
- ・ 観光に関する文章から事実や主旨を読み取り要約することができる。
- ・ プレゼンテーションのスライドを作成し、口頭発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 授業への取り組み 40%
- 課題（レジュメ、レポート）の提出、完成度 20%
- プレゼンテーションの発表、完成度 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」

【参考文献】

必要に応じて、授業内で適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・ 授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・ 社会の動向に関心を向けながら、観光に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。
- ・ 授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	基礎ゼミ I [スピ]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	吉沢 直、横山 克人、粟野 祐弥

■講義の目的および概要

本講義は、大学生活への期待を具体的に体感させ、学びについて意欲的に取り組むために必要な情報を提供し、支援するための初年次教育科目です。授業クラスは、学科・専攻単位のアドバイザーによるクラス編成とし、学部学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、学部学科への帰属を実感させるイベント、面談、履修相談、調査・発表するための技法、フィールドワーク等について学修していきます。仲間づくりやコミュニケーションを図る内容を工夫し、項目ごとの課題について自己評価させ、大学での学習に意欲的に向き合えるような動機付けを重視します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、グループワークやディスカッション等の能動的学習を取り入れながら、大学での学びを促進するための学習を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

口頭によるフィードバック、manaba等を使用した課題に対するフィードバックを授業内で適宜行う。

■授業計画

- ①ガイダンス（大学の学び、出席と単位、履修登録確認）
- ②ICリテラシー（メール、manaba、キャンパスプラン）
- ③図書館ガイダンス（図書借本、manaba課題提出）
- ④学科の学びについて
- ⑤学科イベント企画Ⅰ（グループワーク）
- ⑥学科イベント企画Ⅱ（グループワーク）
- ⑦学科イベント準備Ⅰ（グループワーク）/ 個人面談
- ⑧学科イベント準備Ⅱ（グループワーク）/ 個人面談
- ⑨学科イベント準備Ⅲ（グループワーク）/ 個人面談
- ⑩学科イベント運営Ⅰ（グループワーク）
- ⑪学科イベント運営Ⅱ（グループワーク）
- ⑫学科イベント振り返り（グループワーク・個人）
- ⑬学科イベント成果報告（グループワーク）
- ⑭基礎演習報告会 聴講
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

大学生活での目標やビジョンを描くことができ、そのために必要な情報収集を行うことができるようになる。また、スポーツとビジネスについて深く考え、発展的なアイデアを持つことができる。グループワークを通して、他人と円滑なコミュニケーションをとることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

課題（30%）
グループワーク（45%）
振り返り（25%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で、適時紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、大学で学びたいことや達成したい目標について考える習慣をつけておいてください。また、ニュースや新聞、雑誌等を通してスポーツとビジネスに関連した基礎的な知識や世の中の動向を認識しておくことを推奨します。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

学科イベントの参加は、授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

科目名	基礎ゼミ I [ス指]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	塚本 智宏

■講義の目的および概要

本科目は、在学4年間から卒業後の進路までを見据えて、大学での学びの目的や意味を意識しながら、人文・社会科学に関する学びを進めるために必要な「知識・技能」、「運用・応用力」、「協働・コミュニケーション力」の基本を修得することを目指す。また、本科目は、1年次に履修する必修科目（「学びの技法」や「学生と社会」）と結び付け、学生の基盤となる知識の習得や定着に繋げていく。加えて、スポーツ指導学科の「基礎ゼミ I」では、スポーツ指導学科の特色や学びのポイントを踏まえ、本学科における学びの目的を理解するとともに学校教育やスポーツ施設などでより良い実践活動を行うことのできる人材となることを目指し、スポーツと健康に関する基礎的な専門知識・技能について学んでいく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせた展開とする。状況に応じて対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を展開する。

遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用する。教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニング形式の展開も取り入れることから、学生の主体的かつ協調的な学びの姿勢が求められる。

・授業内容

アドバイザーの下で、学習環境の設定（パソコンや各種アプリ等の設定、履修登録、学習管理システム「manaba」の操作、学内施設の使い方）、教職員とのコミュニケーションマナー、チームワークと協働（大学祭などの学校行事）、レポートや文章の書き方、プレゼンテーションの基礎などについて学ぶ。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で前回の課題や復習を踏まえて解説する。
授業中に出された質問やコメントに授業内で回答する。
オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をする。

■授業計画

- ①ガイダンス
（教員・アドバイザー紹介、学生ポータルの使い方、シラバス確認、学修ポートフォリオ記入、4年間の学修計画、履修登録等）
- ②大学の学びと授業の基本
（履修登録の確認、大学での学びと学習環境について、パソコンやスマホで大学メールの利用設定等）
- ③学習管理システム「manaba」の使い方
（ログイン、画面の見方、小テストや課題の提出等）
- ④学内施設の使い方：図書館、ライティングcommons、グローバルcommons
（図書館へ行き、文献検索や貸出・返却手続）
（ライティングcommonsへ行き、自主学習や文書作成の支援を受ける等）
（グローバルcommonsへ行き、国際課スタッフや留学生と交流する等）
- ⑤大学生活で困ったときは
（事務フロアへ行き、在学中に教務課、学生課、会計課等で必要な手続きを説明）
（学修サポート室、保健室の場所確認と受けられる支援等）
- ⑥アドバイザーや教職員へのメールの書き方と研究室訪問のマナー
（Outlook署名の設定、件名と本文、送受信と返信、ごみ箱の確認等）
- ⑦データを入れたレジュメやレポートの書き方1
- ⑧データを入れたレジュメやレポートの書き方2
- ⑨大学祭「清麗祭」の学科企画準備等1
- ⑩大学祭「清麗祭」の学科企画準備等2
- ⑪大学祭「清麗祭」の学科企画準備等3
- ⑫成果発表の準備と資料作成1
- ⑬成果発表の準備と資料作成2
- ⑭最終成果発表・相互評価
- ⑮振り返りとフィードバック

※2023（令和5）年度の大学祭「清麗祭」は7月初旬開催予定である。

学科企画等、関連する活動は時期を変更する可能性がある。

※「学びの技法」や「学生と社会」の進捗や修得状況に応じて内容を変更する可能性がある。

※必要に応じて学年または複数アドバイザーグループ合同で実施する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・4年間の学修計画を見通して1年次の履修登録ができる。
- ・大学の学びを円滑に進めるために必要なツールやアプリを設定し、適切に使用できる。
- ・図書館で本や資料の検索、閲覧、貸出・返却、学外からの取り寄せ、文献調査等ができる。
- ・インターネットやテクノロジーを適切に活用して、資料や情報の収集やまとめ、レジュメやレポートの作成できる。
- ・新聞記事や文献等の文章から事実や主旨を読み取り、要約することができる。
- ・プレゼンテーションのスライドを作成し、口頭発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①グループワーク：30%
- ②課題の提出とその完成度：20%
- ③発表やプレゼンテーションとその完成度：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」

※入学時に紙の冊子が配布される他、

学習管理システム「manaba」からも電子版のダウンロードが可能である。

その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word、PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

各回の予習・復習には、およそ90～120分程度を要することが想定される。

通常時の予習・復習の他、学校行事や学科合同企画などで課外活動を行う場合がある。

■その他

2023（令和5）年4月1日

- ・本科目は、スポーツ指導学科1年生の必修科目である。
- ・本科目は、毎時間の授業冒頭で教員ならびに学生の連絡・報告を行う機会を設ける。
- ・円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。
- ・初回ガイダンスは、特に遠隔授業の受講環境（通信や端末の環境、連絡方法等）を確認するため、必ず出席すること。
- ・授業でも段階的に取り入れるが、社会情勢に応じて柔軟に様々なアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	基礎ゼミ I [ス指]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	安田 純輝、林 満章、樋口 善英

■講義の目的および概要

本科目は、在学4年間から卒業後の進路までを見据えて、大学での学びの目的や意味を意識しながら、人文・社会科学に関する学びを進めるために必要な「知識・技能」、「運用・応用力」、「協働・コミュニケーション力」の基本を修得することを目指す。また、本科目は、1年次に履修する必修科目（「学びの技法」や「学生と社会」）と結び付け、学生の基盤となる知識の習得や定着に繋げていく。加えて、スポーツ指導学科の「基礎ゼミ I」では、スポーツ指導学科の特色や学びのポイントを踏まえ、本学科における学びの目的を理解するとともに学校教育やスポーツ施設などでより良い実践活動を行うことのできる人材となることを目指し、スポーツと健康に関する基礎的な専門知識・技能について学んでいく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせた展開とする。状況に応じて対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を展開する。

遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用する。教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニング形式の展開も取り入れることから、学生の主体的かつ協調的な学びの姿勢が求められる。

・授業内容

アドバイザーの下で、学習環境の設定（パソコンや各種アプリ等の設定、履修登録、学習管理システム「manaba」の操作、学内施設の使い方）、教職員とのコミュニケーションマナー、チームワークと協働（大学祭などの学校行事）、レポートや文章の書き方、プレゼンテーションの基礎などについて学ぶ。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で前回の課題や復習を踏まえて解説する。授業中に出された質問やコメントに授業内で回答する。オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をする。

■授業計画

- ①ガイダンス
（教員・アドバイザー紹介、学生ポータルの使い方、シラバス確認、学修ポートフォリオ記入、4年間の学修計画、履修登録等）
- ②大学の学びと授業の基本
（履修登録の確認、大学での学びと学習環境について、パソコンやスマホで大学メールの利用設定等）
- ③学習管理システム「manaba」の使い方
（ログイン、画面の見方、小テストや課題の提出等）
- ④学内施設の使い方：図書館、ライティングcommons、グローバルcommons
（図書館へ行き、文献検索や貸出・返却手続）
（ライティングcommonsへ行き、自主学習や文書作成の支援を受ける等）
（グローバルcommonsへ行き、国際課スタッフや留学生と交流する等）
- ⑤大学生活で困ったときは
（事務フロアへ行き、在学中に教務課、学生課、会計課等で必要な手続きを説明）
（学修サポート室、保健室の場所確認と受けられる支援等）
- ⑥アドバイザーや教職員へのメールの書き方と研究室訪問のマナー
（Outlook署名の設定、件名と本文、送受信と返信、ごみ箱の確認等）
- ⑦データを入れたレジュメやレポートの書き方1
- ⑧データを入れたレジュメやレポートの書き方2
- ⑨大学祭「清麗祭」の学科企画準備等1
- ⑩大学祭「清麗祭」の学科企画準備等2
- ⑪大学祭「清麗祭」の学科企画準備等3
- ⑫成果発表の準備と資料作成1
- ⑬成果発表の準備と資料作成2
- ⑭最終成果発表・相互評価
- ⑮振り返りとフィードバック

※2023（令和5）年度の大学祭「清麗祭」は7月初旬開催予定である。

学科企画等、関連する活動は時期を変更する可能性がある。

※「学びの技法」や「学生と社会」の進捗や修得状況に応じて内容を変更する可能性がある。

※必要に応じて学年または複数アドバイザーグループ合同で実施する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・4年間の学修計画を見通して1年次の履修登録ができる。
- ・大学の学びを円滑に進めるために必要なツールやアプリを設定し、適切に使用できる。
- ・図書館で本や資料の検索、閲覧、貸出・返却、学外からの取り寄せ、文献調査等ができる。
- ・インターネットやテクノロジーを適切に活用して、資料や情報の収集やまとめ、レジュメやレポートの作成できる。
- ・新聞記事や文献等の文章から事実や主旨を読み取り、要約することができる。
- ・プレゼンテーションのスライドを作成し、口頭発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①グループワーク：30%
- ②課題の提出とその完成度：20%
- ③発表やプレゼンテーションとその完成度：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」

※入学時に紙の冊子が配布される他、学習管理システム「manaba」からも電子版のダウンロードが可能である。その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

各回の予習・復習には、およそ90～120分程度を要することが想定される。通常時の予習・復習の他、学校行事や学科合同企画などで課外活動を行う場合がある。

■その他

2023（令和5）年4月1日

- ・本科目は、スポーツ指導学科1年生の必修科目である。
- ・本科目は、毎時間の授業冒頭で教員ならびに学生の連絡・報告を行う機会を設ける。
- ・円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。
- ・初回ガイダンスは、特に遠隔授業の受講環境（通信や端末の環境、連絡方法等）を確認するため、必ず出席すること。
- ・授業でも段階的に取り入れるが、社会情勢に応じて柔軟に様々なアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	基礎ゼミⅡ[国教]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣、新谷 弥、杉江 聡子、椿 明美、篠崎 敦史、遊佐 順和

■講義の目的および概要

この授業では、「基礎ゼミⅡ」で習得した、大学での学びに必要な基礎知識・スキルを踏まえて、人文学に関する情報を収集してまとめ、課題を発見し、解決策を考えて、発信するという応用力を身につけることを目指します。クラスメイトと協働して、国際化が進む北海道や地域社会にみられる様々な課題に目を向け、テーマを設定し、調査と分析を行い、まとめた結果をプレゼンテーションします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニングも行います。学生の主体的かつ協動的な学びの態度が求められます。

・授業内容

アドバイザーのもとで、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) と地域の課題や身近な問題を関連づけ、改善案や解決策を検討します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業の中で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。
- ・授業中に出席された質問やコメントに授業内で回答します。
- ・オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をします。

■授業計画

- ① ガイダンス (夏休みの活動報告、春学期の振り返り等) (学年合同)
- ② SDGsについての事前学習 (SDGs17の目標と169のターゲット) (学年合同)
- ③ SDGs(2030年の社会と自分を考える) 外部講師レクチャー (学年合同)
- ④ SDGsについての事後学習 (学年合同)
- ⑤ SDGsと多文化共生社会と自分を関連付ける
- ⑥ SDGs調査テーマを考える
- ⑦ フィールドワークの事前学習
- ⑧ 調査・フィールドワーク
- ⑨ 調査・フィールドワーク
- ⑩ フィールドワークの事後学習 (情報・データの整理と共有)
- ⑪ 分析とまとめ
- ⑫ Power Pointスライドの作成 1
- ⑬ Power Pointスライドの作成 2
- ⑭ クラス内成果発表
- ⑮ 最終成果発表 (学年合同)

※外部講師レクチャーとフィールドワークは、関係者との調整により、時期を変更する可能性があります。

※必要に応じて学年または複数アドバイザーグループ合同で実施します。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・SDGsや自分の身近な問題と人文社会学に関する課題を関連づけて課題を発見し、解決策を考えることができる。
- ・インターネットや文献を用いた情報収集ができる。
- ・事実や根拠に基づき自分の考えを説明できる。
- ・レジュメ・口頭発表・スライドなど様々なツールや手法を用いてプレゼンテーションができる。
- ・ゼミのメンバーと協働し、課題の完成に向けて作業に取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業への取り組みとグループワークの成果 30%
課題の提出と完成度 40%
発表やプレゼンテーションと完成度 30%

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」

※入学時に紙の冊子が配布されるほか、学習管理システム「manaba」からも電子版をダウンロードできます。

【参考文献】
必要に応じて、授業内で指示、配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】
・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。
通常時の予習・復習のほか、学科・学年合同で課外活動を行う場合がある。

■その他

・円滑な学習活動のため、各自でノートパソコンやタブレットなどを保有し、授業に持参することが望ましい。
・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	基礎ゼミⅡ[臨床]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	吉崎 俊一郎、品川 ひろみ、橋本 久美、赤城 由紀

■講義の目的および概要

本講義の目的は、卒業までを見据えての大学での学びに必要な基本的スキルを身に付けることです。
基礎ゼミⅠで学んだ技法を応用し、技法の定着と、より高度な技法の獲得を目指します。また、様々な活動を通してコミュニケーション力の強化も目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基礎ゼミⅠで学んだ「読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する」等の基礎的な学びのスキルを応用した課題に取り組む。具体的には、①「書評」の作成 ②各自が設定したテーマを基にパワーポイントスライドを作成し、プレゼンテーションを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

各ゼミの担当教員が、課題等の返却時に口頭または課題等へのコメントで行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション 学修ポートフォリオの作成
- ②「学び」の表現：書評の書き方
- ③食とコミュニケーション
- ④「学び」の表現：書評作成
- ⑤「学び」の表現：書評添削と修正
- ⑥スポーツとコミュニケーション
- ⑦PPTプレゼンテーション（1）解説
- ⑧PPTプレゼンテーション（2）作成
- ⑨表現とコミュニケーション
- ⑩PPTプレゼンテーション（3）添削と修正
- ⑪PPTプレゼンテーション（4）まとめと最終確認
- ⑫プレゼンテーションゼミ内発表会Ⅰ
- ⑬プレゼンテーションゼミ内発表会Ⅱ
- ⑭合同ゼミ成果発表会
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スタディスキル（読む・書く・聴く・話す・調べる・表現する）の基礎を身に付ける。聴き手・読み手のことを配慮した表現方法（レポートおよびプレゼンテーション）について理解する。様々な活動を通して、積極的に人と関わる力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP2【コミュニケーション能力】
DP3【課題を発見し、解決する力】
DP4【多様性の理解と協働する力】
DP5【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回の講義での学修シート：20%
学修ポートフォリオ：20%
書評課題：30%
プレゼンテーション課題・発表・評価シート：30%
これらすべてが提出されていること。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『スタディガイド』『キャンパスガイド』『大学生のマナー』『キャリアハンドブック』

【参考文献】

参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で提示した課題は必ず提出すること。また、書評やパワーポイントの作成では、資料や文献を収集し授業に臨むこと。

【必要な時間】

事前事後学習時間の目安は、2時間程度を目安とする。

■その他

授業計画及び成績評価基準は、学生の進捗・状況により変更することがあります。

科目名	基礎ゼミⅡ[子心]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	東 重満、榎本 光邦、橋場 俊輔、青木 美和子

■講義の目的および概要

本ゼミでは、Iで学修した大学で学ぶために必要な基礎力を深めることを目的とする。とりわけ、自ら疑問を抱き、それを追求し、疑問を解くことを深める。また、その成果を仲間との交流議論を通じて、切磋琢磨し合うことを目指す。また、ゼミという小集団のホームページでの活動を通じて、本学学生としての帰属意識・仲間意識および今後のキャリア形成、社会貢献についても考える場とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- 1) 各自が自分の課題を設定して資料を検索し、レポートにまとめる
- 2) ゼミ単位でのプレゼンを通して、ディスカッションを深める
- 3) 4ゼミ合同でプレゼンを行い、質疑応答を通して、課題の理解を深める

【課題に対するフィードバックの方法】

課題について提出されたレポートを教員が個別に添削をすること、ゼミ内でのプレゼンにコメントをすることを通して、課題の理解を深める

■授業計画

- ①オリエンテーション・履修確認・教職カルテ
- ②オータムフェスト発表準備①
企画・立案
- ③オータムフェスト発表準備②
- ④オータムフェスト
- ⑤実習報告会
- ⑥子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習①
- ⑦子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習②
- ⑧子どもの世界、日本の子どもたちの課題と現実を知る。厚真町ボランティア実習事後学習③
- ⑨防災教育（自衛隊）
- 秋学期最終レポートとプレゼンについて
- ⑩
- ⑪ゼミ内プレゼン
- ⑫プレゼン
- ⑬
- ⑭野外で遊ぼうへの参加
- ⑮1年間のまとめ・教職カルテ作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 1) 大学で学ぶために必要な基礎力を身につけること
- 2) 自ら疑問を抱き、それを追求する向学心
- 3) 学習成果を仲間との交流、議論を通じて、切磋琢磨し合うこと
- 4) 本学学生としての帰属意識・仲間意識および社会貢献を意図した今後のキャリア形成について考えられる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 小レポート（ビジネスマナ）10点
- 小レポート（演劇鑑賞）10点
- 書評20点
- 最終レポートのプレゼン20点
- 最終レポート40点

■テキスト・参考文献

【テキスト】
使用しない

【参考文献】
必要に応じて紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】
事前に、テーマに関する資料の検索をする
事後に、テーマに関連する書籍、映像、などの資料の検索をする

【必要な時間】
事前学習、事後学習とも、毎回2時間とする

■その他

フィールドワークⅡと連動しているので、FWⅡも注意すること

科目名	基礎ゼミⅡ[親ビ]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	斉藤 巧弥、横田 久貴、田村 こずえ、細野 弥恵、黄 旭暉

■講義の目的および概要

本講義の目的は、春学期の「基礎ゼミⅠ」で習得した、大学での学びに必要な基本知識・スキルを踏まえて、観光に関する情報を収集してまとめ、課題を発見し、解決方法を考え、発信するという応用力を身につけることです。ゼミのメンバーと協力し合い、国際化が進む北海道の観光産業とSDGsに関連する課題に基づき、調べ学習を行い、プレゼンテーションやイベント企画・運営などの形で成果を発表します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式および実習の要素を含む演習形式を組み合わせで行います。配布資料等をファイリングしたり、デジタル資料を保存したりすることで、学習成果の蓄積としてのポートフォリオを作成します。アドバイザーからの指導だけでなく、ゼミ生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども適宜取り入れます。

・授業内容

アドバイザーのもとで、SDGs (Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標) の目標、観光産業や地域の課題、自分の身近な問題との関連付け、課題発見・解決型のグループワークを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当教員により異なりますが、主に以下の形式で質問に回答します。

- ・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をします。
- ・授業中に出了れた疑問・質問に授業内で回答します。
- ・課題のフィードバックを各自に返信します。

■授業計画

- ①ガイダンス (履修登録など)
- ②ゼミ研修：先輩のレクチャー
- ③ゼミ研修：事前調査①
- ④ゼミ研修：事前調査②
- ⑤ゼミ研修：研修 (11月4日 (土) 予定)
- ⑥SDGsに関するワークショップ (専門家によるレクチャー) ①
- ⑦SDGsに関するワークショップ (専門家によるレクチャー) ②
- ⑧ビバレッジ企業におけるSDGsの取り組み (専門家レクチャー)
- ⑨SDGsエコバッグデザインを考える①
- ⑩SDGsエコバッグデザインを考える②
- ⑪SDGsエコバッグデザインを考える③デザイン決定
- ⑫学年成果発表会への準備①
- ⑬学年成果発表会への準備②
- ⑭学年成果発表：アドグル内発表⇒優秀者選出
- ⑮学年成果発表：優秀者による全体発表⇒振り返り

※学年全体の合同授業を基本とする。アドグルに分かれて授業を行う場合は、授業内で別途指示する。

※基本的には上記のように行うが、課題については変更となる可能性がある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・SDGs、観光、自分の身近な問題を関連付けて課題を発見し、実践を通じて理解を深め、解決策を考えることができる。
 ・インターネットや文献を用いた情報収集ができる。
 ・事実や根拠に基づき自分の考えを説明できる。
 ・レジュメ、口頭発表、スライドなど様々なツールや手法を用いて日本語のプレゼンテーションができる。
 ・ゼミのメンバーと協力し合い、積極的に意見交換し、公平に分担して、課題の完成に向けた作業に取り組むことができる。
 ・他者の意見を傾聴し、良い点や改善点などの意見を受け入れ、自分の不足や問題点を改善できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

授業への取り組み 40%
課題（レジュメ、レポート）の提出、完成度 20%
プレゼンテーションの発表、完成度 40%

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「キャンパスガイド」「スタディガイド」「大学生のマナー」「キャリアハンドブック」

【参考文献】
必要に応じて、授業内で適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】
・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

・社会の動向に関心を向けながら、観光に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。
・授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	基礎ゼミⅡ[スピ]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	吉沢 直、横山 克人、粟野 祐弥

■講義の目的および概要

本講義は、基礎ゼミⅠを発展させ、学びについて意欲的に取り組むために必要な情報を提供し、支援するための初年次教育科目です。授業クラスは、学科・専攻単位のアドバイザーによるクラス編成とし、学部学科ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、学部学科への帰属を実感させるイベント、面談、履修相談、調査・発表するための技法、フィールドワーク等について学修していきます。

仲間づくりやコミュニケーションを図る内容を工夫し、項目ごとの課題について自己評価させ、大学での学習に意欲的に向き合えるような動機付けを重視します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッションを通して、基礎ゼミⅠで身につけた力をさらに応用させていきます。様々なイベントへの参加・企画を通して実践的な経験を多く取り入れながら、スポーツビジネス現場での応用力を身につけていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

口頭によるフィードバック、または課題へフィードバックなどを効果的に使用しながら、学生への振り返りを行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②学科プロジェクトについて
- ③合同授業Ⅰ（基礎演習Ⅱ 2年生）
- ④合同授業Ⅱ（基礎演習Ⅱ 2年生）
- ⑤合同授業Ⅲ（基礎演習Ⅱ 2年生）
- ⑥合同授業Ⅳ（基礎演習Ⅱ 2年生）
- ⑦オムニバスⅠ（学科教員担当）
- ⑧オムニバスⅡ（学科教員担当）
- ⑨オムニバスⅢ（学科教員担当）
- ⑩オムニバスⅣ（学科教員担当）
- ⑪オムニバスⅤ（学科教員担当）
- ⑫オムニバスⅥ（学科教員担当）
- ⑬オムニバスⅦ（学科教員担当）
- ⑭オムニバスⅧ（学科教員担当）
- ⑮基礎演習報告会 聴講

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

様々な企画・イベント等をより良い活動にするための応用的な観点から考えることができる。グループワークやディスカッションを通して、円滑なコミュニケーションを図り、個人がリーダーシップを発揮しながら学びの質を高めていくことができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

振り返りシート（40%）
 課題（40%）
 まとめ（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業の中で適宜配布します。

【参考文献】

授業の中で適宜配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、普段のニュースや新聞等のメディアに目を通し、スポーツビジネスについての情報収集を行うとともに、自らの考えを反映しながら意見を述べられるように訓練しておくことを推奨します。

【必要な時間】

予習・復習に必要な時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

合同授業等は授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

科目名	基礎ゼミⅡ[ス指]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	塚本 智宏、安田 純輝、林 満章、樋口 善英

■講義の目的および概要

スポーツ指導学科の特色や学びのポイントを踏まえ、本学科における学びの目的を理解する。
 スポーツ指導学科の「基礎ゼミ」では、学校教育やスポーツ施設などでより良い実践活動を行うことのできる人材となることを目指し、スポーツと健康に関する基本的な専門知識・技能について学んでいく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は、講義形式あるいは演習形式によって展開する。本科目では、授業の展開に応じて、グループディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。

本科目の他、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習に参加することがある。
 やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

本科目の課題は、eラーニングシステム (manaba) を活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、授業外での本科目に関する質問は、個別対応とする。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②春学期の取り組みを踏まえた学習計画
- ③アドバイザー企画1：専門領域の概要
- ④アドバイザー企画2：専門領域の概要
- ⑤アドバイザー企画3：専門領域の概要
- ⑥アドバイザー企画4：専門領域の概要
- ⑦グループディスカッション1：スポーツの現状と課題に関するテーマ
- ⑧グループディスカッション1：スポーツ科学に関するテーマ
- ⑨グループディスカッション2：スポーツ指導に関するテーマ
- ⑩プレゼンテーション1：テーマ設定・発表準備
- ⑪プレゼンテーション2：アドグル内発表
- ⑫プレゼンテーション3：スポーツ指導学科1年全体発表
- ⑬スポーツを取り巻く問題や諸課題への見方・考え方
- ⑭スポーツ指導学科における今後の展望
- ⑮まとめ：秋学期・1年間の振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツ指導学科における学びの目的を理解できる。
 口頭発表や文書による報告の手法を習得することができる。
 スポーツ指導分野の現状を知り、スポーツを取り巻く諸課題を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

○成績評価基準と方法

①グループワーク：30%

授業の内容に応じてグループワークの機会を設ける。
 集団での課題解決に対する積極性を評価する。

②プレゼンテーション：20%

授業冒頭において学生からの近況報告、授業内において発表の機会をそれぞれ設ける。

発表に対する積極性を評価する。

③レポート：30%

授業の内容に応じてレポート課題を設定する。設定された課題の達成度を評価する。

④最終課題：20%

本科目の最終課題として、スライド資料の作成と提出を設定する。
 指定された要件の達成状況を踏まえて総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
札幌国際大学（2023）Sapporo international university 2023 study guide
札幌国際大学（2023）Sapporo international university campus guide 2023
その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】
本科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを実施する。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は、スポーツ指導学科1年生の必修科目である。
本科目は、毎時間の授業冒頭で教員ならびに学生の連絡・報告を行う機会を設ける。

科目名	言語学
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	細野 弥恵

■講義の目的および概要

本講義は主に一般言語学 (General linguistics) の視点から、言語を分析的に観察する方法を理解し、日本語教育のための言語の知識を系統的・類型的に捉えます。語と文に見られる仕組みを学び、世界の諸言語および日本語の構造を理解し、多様な現場に効果的に対応できるよう、日本語の指導に結びつけるための基礎知識の習得を目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・主に講義形式で行いますが、必要に応じてグループワークを取り入れます。
- ・毎回の授業で課題 (ワークシート) に取り組みます。発言を求められる頻度も高いです。履修者の積極的な参加を期待します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業内にて解説し、必要に応じてmanabaなどで資料を配付します。

■授業計画

「一般言語学」「日本語教育のための日本語分析」「日本語教育のための意味体系」「日本語教育のための語用論的規範」などに関する基礎知識を学びます。

- ① ガイダンス
- ② 第1章「言語学のはじまり」1：言語学の歴史 (1～8ページ)
- ③ 第1章「言語学のはじまり」2：言語学の基礎知識 (9～21ページ)
- ④ 第1章「言語学のはじまり」3：言語の機能 (22～31ページ)
- ⑤ 第4章「形態論」1：形態素とは (99～103ページ)
- ⑥ 第4章「形態論」2：語構成 (104～109ページ)
- ⑦ 第4章「形態論」3：日本語述語の活用 (110～122ページ)
- ⑧ 第5章「統語論」1：統語論とは (123～133ページ)
- ⑨ 第5章「統語論」2：変形生成文法 (チョムスキーの言語理論) (134～150ページ)
- ⑩ 第6章「意味論」1：語の意味 (151～165ページ)
- ⑪ 第6章「意味論」2：句の意味、文の意味 (165～171ページ)
- ⑫ 第6章「意味論」3：語用論 (1) (172～178ページ)
- ⑬ 第6章「意味論」4：語用論 (2) (179～186ページ)
- ⑭ 第6章「意味論」5：言語・文化・思考 (187～197ページ)
- ⑮ 期末試験：試験時間50分+授業アンケート+解説

* 受講生および授業の進行状況によって変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・日本語を世界の様々な言語の中の一つとしてとらえ、分析できるようになる。
- ・言語学の基礎知識や変遷を理解し、日本語学習者の視点に立って言語理論を運用できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2)【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

- ・課題に対する取り組み、および授業への参加度 (授業中の積極的な発言など) 40%
- ・学習内容に関する小テスト 20%
- ・期末試験 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・原沢伊都夫（2016）『日本語教師のための入門言語学：演習と解説』（スリーエーネットワーク）
- 第1章「言語学のはじまり」、第4章「形態論」、第5章「統語論」、第6章「意味論」
- ・教員が配布する資料

【参考文献】

- ・三省堂編修所（2021）『新しい国語表記ハンドブック』【第9版】（三省堂）
- ・石黒圭（2016）『語彙力を鍛える』光文社新書821（光文社）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前学習として、教科書を読んで次回の内容を確認しておいてください。
- ・事後学習として、毎回の授業で取り組むワークシートを復習し、授業内で実施される小テストに備えてください。

【必要な時間】

- ・事前、事後学習ともに1～2時間を目安とします。

■その他

- ・本講義は第5回から第14回まで毎回小テストを行います。また、第15回目には授業内試験で期末試験を実施します。
- ・小テストの時間は5分程度です。
- ・期末試験の試験時間は50分です。試験後に授業アンケートにこたえてもらいます。そのあと解説を行います。
- ・小テストと期末試験では、自作ノートの持ち込みを許可します。教科書やプリント（授業で配るワークシートや資料など）の持ち込みはできません。試験に備えてノートを作ってください。
- ・授業では、間違えることを怖がらず、積極的に大きな声で発言してください。みなさんは将来、日本語教師として教壇に立って授業を行うこととなります。いまのうちに人前で話すことに慣れておきましょう。

科目名	社会と経済
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

日本または海外の社会で起きている経済現象や経済問題が、私たちの日常生活に影響を及ぼす機会は益々多くなっています。生産者や企業だけでなく、消費者や労働者となり得る私たちの身の回りにも経済問題は存在します。例えば、お金を何にどれだけ使うか、どんな職業に就くかなど、経済に関する多くの選択肢や意思決定、制約条件といった様々な課題に直面します。さらに経済の問題は、社会の問題と深く関係しているのが実状です。本講義では、こうした様々な問題を考え、読み解く力を養うために、経済学の理論的基礎を学びます。そして実際の社会で起きている経済現象や経済問題への応用力を身につけることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

板書を中心に講義を進めます。受講生には本講義専用の授業ノートを用意してもらいます。適宜グループディスカッションを行ったり、パワーポイントや動画などの視聴覚教材も使用します。授業内容に応じてレポートも作成してもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業ノートと課題レポートをチェックし、コメントをつけて返却します。また授業中に解説や意見交換を通じてフィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション、社会に存在する様々な経済とは
- ②需要と供給
- ③消費者行動の理論
- ④企業行動の理論
- ⑤立地競争論
- ⑥地域の経済と市民の生活を支える企業
- ⑦資源配分と価格調整のメカニズム
- ⑧コストと機会費用
- ⑨マクロ経済とGDP
- ⑩経済成長と経済発展
- ⑪経済の外部効果
- ⑫貿易と為替レート
- ⑬貧困と経済
- ⑭国際ビジネスと多国籍企業
- ⑮期末試験

※以上の内容で行う予定ですが、受講生の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・経済学の基礎理論を理解し、正確に説明することができる。
 ・経済学で学んだ知識と見解を基に、実社会での日本経済や世界経済が抱える諸問題について考え、自分の意見を述べるすることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

授業ノート・課題レポート：40%

期末試験：60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。

【参考文献】

井堀利宏『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』角川文庫、2018年
 ジョセフ・E・スティグリッツ『入門経済学』第4版、東洋経済新報社、2012年
 村上周三、遠藤健太郎、藤野純一、佐藤真久、馬奈木俊介『SDGsの実践』事業構想大学院大学、2019年
 P. R. クルーグマン、M. オブズフェルド『クルーグマンの国際経済学－理論と政策－上巻：貿易編』原著第8版、丸善出版、2014年
 友原章典『国際経済学へのいざない』第2版、日本評論社、2014年
 伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』改訂3版、日本経済新聞出版社、2012年

■授業外学習

【具体的な内容】

予習・復習として、授業中に指示される学習内容の他、講義内容に関連する文献やWebサイトなどを調べて情報収集することが必要です。日本および世界の社会と経済に関するニュースも毎日チェックしましょう。

【必要な時間】

事前・事後学習ともに2時間を目安とします。

■その他

授業中は必ず板書とメモをしっかりとることが求められる。講義最終日（第15回目）に実施する期末試験は、板書の内容の中から出題し、60点以上合格を単位認定の必要条件とする。毎回授業を集中して聞きながら本講義専用ノートを作成し、無遅刻無欠席の志で臨まない授業についていくことは難しいため、経済学に興味があり意欲的に勉強する学生の受講が望ましい。

科目名	社会と経営
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	濱田 剛一

■講義の目的および概要

本講義は社会活動で必ず必要な組織のマネジメントの基礎を身につけることを目標とし、具体的にはビジネス・企業経営分野について、大学で学修するための基礎力を身につけるコースです。具体的には企業行動の原理について経営学のアプローチで理解し、企業と社会の関わりについての今日的な課題を議論するために必要な基礎力を身につけることを目的とします。併せて企業経営（マネジメント）の考え方・手法が企業活動のみではなく社会活動の全てに応用できることを学修します。なお講義はテレビゲーム業界の競争など身近の事例を題材にした、分かりやすい内容です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に授業時間の50%を講義形式で行い、残りを「ディスカッション」や「ディベート」「グループワーク」を行い能動的な学修を目指します。また毎回授業では書き込み資料を配布し、記入するとともに、講義内容の反復振り返りを行っていきます。本講義は銀行において、経営の実務経験および大企業・中小企業との融資・証券・保険・外国為替業務などの実務経験のある教員がビジネス現場に即した実践的な講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題等については授業内で解説するとともにmanabaを活用します。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール等でのフィードバックも行います。

■授業計画

- ①ガイダンス～経営管理（マネジメント）
- ②企業行動「競争戦略」～任天堂とプレステ
- ③企業行動「競争優位」～任天堂とプレステ
- ④企業行動「プラットフォームと持続的競争優位」～任天堂とプレステ
- ⑤企業行動「競争優位の確立とSWOT分析」～任天堂とプレステ
- ⑥企業行動「プラットフォームと持続的競争優位」～任天堂とプレステ
- ⑦企業行動「減価償却」～任天堂とプレステ
- ⑧中間テスト～中間振り返り～任天堂とプレステ
- ⑨企業文化
- ⑩企業と社会「コンプライアンス」
- ⑪企業と社会「CSR」
- ⑫企業と社会「SDGs①多様性」
- ⑬企業と社会「SDGs②環境」
- ⑭企業と社会「SDGs③格差」
- ⑮期末テスト～期末振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

企業行動の原理を理解し、CSR、コンプライアンス、SDGsの今日的な課題の重要性について考察し説明できるようにする。また経営と社会の関わりについて議論することにより専門科目の履修に必要なディスカッション能力、コミュニケーション能力、問題解決型授業を効果的に受講できる基礎力を身に付けることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1) 専門知識・技能を活用する力
(DP 2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業内提出物・発表	30%
中間テスト	30%
期末テスト	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しません。資料を適宜配布します。

【参考文献】

「経営管理」塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男（著）有斐閣アルマ

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業内容についてキーワードを提示しますので、意味などを調べると共に意見をノートしてください。毎回授業の冒頭に前回の授業内容を復習し、問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の授業内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。

また、ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。

【必要な時間】

予習復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。

科目名	日本の音楽
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	竹内 亜紀、須藤 宏志

■講義の目的および概要

国際交流の場において、諸外国の方から日本の文化や芸術、宗教、習慣、自然、産業など様々なことを尋ねられることがあります。音楽もそのテーマの一つです。しかし西洋音楽化した現代日本の環境下で育った皆さんは、日本の音楽について、どの程度親しみを持っているでしょうか。

この授業は、鑑賞や歌唱などを中心に、日本の伝統音楽や近代日本の子どもの歌についての知識や技術を身に付け、日本の歴史や文化を理解し、感性豊かな国際人の育成を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「日本の伝統音楽」「近代日本の子どもの歌」の二つのテーマを、2名の教員がオムニバス形式で担当します。

I. 日本の伝統音楽（竹内）

長唄や三味線のルーツ及び日本の伝統芸能について、基本的に講義形式で行います。長年の演奏実務経験に基づく演奏技術や、日本の伝統音楽特有の表現方法について、実践的な授業を行います。

II. 近代日本の子どもの歌（須藤）

季節ごとに歌を集めて鑑賞し、作詞家や作曲家のエピソードや、歌が作られた背景などを紹介します。

【課題に対するフィードバックの方法】

I. 日本の伝統音楽

毎授業後に、授業で学んだ内容をまとめ、内容に対する感想などをManabaに提出してもらいます。感想や質問等に対し、次の授業時にコメントや回答をします。

II. 近代日本の子どもの歌

鑑賞した音源や資料をManabaに保存します。課外時間にも鑑賞して歌を覚え、資料で復習してください。各自の復習を前提として、翌週の授業時にManaba入力による小テストを行います。

■授業計画

- ① I-1. オリエンテーション／日本音楽の歴史～歌舞伎音楽の成り立ち／長唄鑑賞
- ② I-2. 伝統芸能から学ぶマナーと文化
／楽説（三味線について）／長唄演習『供奴』譜面解説
- ③ II-1. 唱歌、童謡、子どもの歌の歴史
- ④ I-3. 楽器（囃子について）／長唄演習『供奴』
- ⑤ II-2. 唱歌、童謡、こどもの歌-春(1)
- ⑥ II-3. 唱歌、童謡、こどもの歌-春(2)
- ⑦ II-4. 唱歌、童謡、こどもの歌-夏(1)
- ⑧ II-5. 唱歌、童謡、こどもの歌-夏(2)
- ⑨ II-6. 唱歌、童謡、こどもの歌-秋(1)
- ⑩ I-4. 長唄『供奴』演習／歌舞伎『勸進帳』鑑賞
- ⑪ I-5. 長唄「供奴」演習／歌舞伎『藤娘』鑑賞
- ⑫ II-7. 唱歌、童謡、こどもの歌-秋(2)
- ⑬ II-8. 唱歌、童謡、こどもの歌-冬、その他の歌／Ⅱのまとめ
- ⑭ I-6. 歌舞伎『棒縛り』鑑賞／長唄「供奴」演習
- ⑮ I-7. 口頭発表／歌舞伎『口上』鑑賞／長唄鑑賞

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

I. 日本の伝統音楽

日本の伝統文化を学ぶ事により、マナーや文化を自然に身に付けることができる。コミュニケーション能力の高い、感性の豊かな国際人となる素養を身に付けることができる。

II. 近代日本の子どもの歌

四季折々の歌を、作詞、作曲者や、各楽曲の作曲の背景なども含めて覚えることができる。

唱歌、童謡、子どもの歌の歴史の変遷を理解することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

I. 日本の伝統音楽

レポート：42%

口頭発表：8%

II. 近代日本の子どもの歌

IIの2回目以降に毎回行うManaba上の小テスト：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

I 日本の伝統音楽

適宜プリントを配布します。

II 近代日本の子どもの歌

楽譜付き解説プリントを授業ごとに配付します。

Manabaに毎回使用するPPTや、鑑賞した楽曲の音源を保存します。

【参考文献】

必要に応じて紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

I 日本の伝統音楽

授業内容の復習を中心として、専門用語の意味や重要事項の他、心に留めたことをノートに纏めてください。

II 近代日本の子どもの歌

授業で紹介した楽曲の音源をManabaに保存します。授業の中で一度鑑賞しただけでは、個々の曲の理解が深まりませんので、課外時間を使って各自鑑賞して下さい。また授業で使うPPTスライドも、資料として授業後にManabaへ保存します。音源の鑑賞とあわせて読み返し、IIで毎時最初に行う小テストに備えて下さい。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	地域アクティビティ I (ボランティア)
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	新谷 弥、濱田 剛一

■講義の目的および概要

私たちが所属する地域社会は様々な課題を抱えている。本講義ではその課題解決に参加することの意義を理解し、自ら社会参加する意欲を育むことを目指します。具体的には地域ボランティアの参加方法を学び、さらに企業がなぜ社会的責任を果たすために地域ボランティアに積極的に参加しているか等も学修し、地域課題解決の基礎知識を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、授業テーマに沿った課題を提示します。課題に沿った「ディスカッション」「ディベート」「グループワーク」を実施し、能動的な学修を目指します。全員がボランティアに参加し、講義の目的を達成します。また毎回授業では書き込み式の資料を配布し、記入すると共に講義内容の反復振り返りを行っていきます。本講義は社会活動について経験豊富な教員が様々な事例をもとに指導に当たります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題等については授業内で開設すると共にmanabaを活用します。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール等でのフィードバックも行います。具体的なボランティア参加はボランティア参加計画の作成から紹介・情報提供も実施します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②ボランティアとは
- ③企業とボランティア (企業取組の紹介、解説)
- ④企業とボランティア (グループディスカッション)
- ⑤第1回ボランティア (事前準備)
- ⑥第1回ボランティア (リフレクション)
- ⑦第1回ボランティア (実施報告)
- ⑧第1回ボランティア (振替日)
- ⑨第1回ボランティア (振替日)
- ⑩第1回ボランティア (振替日)
- ⑪地域の課題
- ⑫第2回ボランティア (振替日)
- ⑬第2回ボランティア (振替日)
- ⑭個人・グループワーク (事前準備・計画書作成など)
- ⑮第2回ボランティア報告会 (9月)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ボランティアによる社会参加の重要性と実際に参加したボランティアの意義を説明できるようにする。あわせて地域社会の現状認識や課題を見出しその解決策を考察する能力を身につけることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|--------------|-----|
| ①授業中のワークシート等 | 40% |
| ②第1回ボランティア参加 | 30% |
| ③第2回ボランティア参加 | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しません。資料を適宜配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業内容についてキーワードを提示しますので、意味などを調べると共に意見をノートしてください。毎回授業の冒頭に前回の授業内容を復習し、問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の授業内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。またニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入力し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間

■その他

授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習復習したうえで授業に参加してください。フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。

科目名	地域アクティビティⅡ(清田)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

地域アクティビティ（ボランティア）での学修内容を踏まえ、四年間の学生生活を送る身近な「地域＝清田区」を見つめ、地域が有する資源の魅力や生活の「場」としての資源、環境や地域産業のチカラなどを理解し、その魅力や課題に関して学習する。教室での資料収集・調査や外部講師レクチャーなどにより「清田」に関する基本的な内容を理解する。その上で、テーマ設定、計画立案を行ない実際に現地に赴きフィールドワークを行い、地域力を高めるために具体的な方法を現地で考える。最終的にグループワークにより、地域に対する提案事項を検討する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式の授業ではレジュメや資料を配付し、パワーポイントを用いて地域理解に関する学習を行う。外部講師招聘による授業では、講演をとおして清田区の現状を理解し、地域が有する諸課題の認識や地域の資源価値などを理解する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題は、授業内およびmanabaなどにより適宜フィードバックを行う。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施する。

- ①オリエンテーション
- ②地域理解のための外部講師レクチャー
- ③グループワークⅠ（ディスカッション）
- ④グループワークⅠ（ディスカッション）
- ⑤グループワークⅠ（ディスカッション）
- ⑥グループワークⅠ（プレゼンテーション）
- ⑦グループ実践活動（事前準備、計画書作成など）
- ⑧グループ実践活動（グループでの現地実践活動）
- ⑨グループ実践活動（グループでの現地実践活動）
- ⑩グループ実践活動（グループ活動の実施報告と振り返り）
- ⑪グループワークⅡ（地域提案ディスカッション）
- ⑫グループワークⅡ（地域提案ワーキング）
- ⑬グループワークⅡ（地域提案ワーキング）
- ⑭グループワークⅡ（地域提案プレゼンテーション）
- ⑮まとめと振り返り

* 外部講師の都合などにより、実施順序が入れ替わる場合がある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①地域社会の現状認識や課題を抽出することができる。
- ②地域課題の改善や、地域の魅力を高めるための提案をすることができる。
- ③チームワークを持ち、計画的かつ主体的にプロジェクト活動ができる。
- ④広い視野で、地域貢献に寄与するための問題意識を持つことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------|-----|
| ①授業中のワークシート | 30% |
| ②グループワークの報告 | 40% |
| ③期末レポート | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、レジュメや資料を作成、配布する。

【参考文献】

必要に応じて適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・清田区に関する文献資料の調査や、新聞・ニュースにもアンテナを張り情報収集を行う。
- ・講義内容を振り返りまとめる作業。
- ・必要に応じて課題を指示する。

【必要な時間】

事前、事後の学習にそれぞれ2時間程度必要となる。

■その他

科目名	クールジャパン
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	濱田 剛一

■講義の目的および概要

本講義は貿易・観光などにおいて必要な発信力の基礎を身につけるためのコースです。具体的には世界から共感される日本の魅力をブランド力として捉え、文化と経済の観点から、食、アニメ、ポップカルチャーなど、日本が誇る文化を世界がどのように見ているのかを、マーケティングアプローチにより多文化共生社会の進展の中で理解することを目的とします。併せて、その経済効果と今後日本の文化にはどのような可能性があるのかについて学修し、文化の発信力を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に授業時間の30%を講義形式で行い、残りを「ディスカッション」や「グループワーク」を行い、アイデアを「プレゼンテーション」に結びつける能動的な学修を目指します。また毎回授業では書き込み資料を配布し、記入するとともに、講義内容の反復振り返りを行っていきます。

本講義は食文化の発信による輸出促進などの貿易実務経験のある教員がビジネス現場に即した実践的な講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題等については授業内で解説するとともにmanabaを活用します。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール等でのフィードバックも行います。

■授業計画

- ①ガイダンス～クールジャパンとは
- ②ブランド～マーケティング4Pの視点
- ③クールジャパンを見つけよう①～ニューラルマーケティングの視点
- ④クールジャパンを見つけよう②～ストーリーマーケティングの視点
- ⑤クールジャパンを見つけよう③～デザイン
- ⑥中間発表演習①
- ⑦中間発表演習②
- ⑧中間発表～中間振り返り
- ⑨多様性と多文化共生
- ⑩プレゼンテーション資料作成①～文化の発信
- ⑪プレゼンテーション資料作成②～STP
- ⑫プレゼンテーション資料作成③～プロモーション
- ⑬プレゼンテーション資料作成④～インターネット社会の進展とAIDMAの法則
- ⑭期末発表演習
- ⑮期末発表～期末振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自らの文化および他者の文化を認識し、整理する能力を身に付けることを目標とします。

併せて自らの文化・価値観を他の人に説明し、理解してもらえるようになる。また授業全体を通して多文化共生と多様性の重要性についての議論とプレゼンテーションを実施することにより、専門科目の履修に必要なディスカッション能力、コミュニケーション能力、問題解決型授業を効果的に受講できる基礎力を身に付けることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

授業内提出物・発表	40%
中間発表	30%
期末発表	30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しません。資料を適宜配布します。

【参考文献】

「クールジャパン?外国人が見たニッポン」 鴻上尚史 (著) 講談社現代新書

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業内容についてキーワードを提示しますので、意味などを調べると共にグループディスカッションの準備をしてください。毎回授業の冒頭に前回の授業内容を復習し、問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の授業内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。発表資料などは役割分担の中で責任をもって作成する必要があります。

また、ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。

【必要な時間】

予習、復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。

フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。

科目名	海外研修 I
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	趙 恵真

■講義の目的および概要

この授業は世界に目を向ける国際的な人材の養成を目的とする。世界に飛び出して新たな発見をすると同時に、現在生活している北海道や日本という地域が世界の中でどのように位置づけられているのかを客観的に見る視点を培う。実際に韓国を訪れ、人との交流や自身の見聞を通じて国際感覚を養ってくる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前学習：韓国と日本についての文化・歴史・社会問題などについて調べて、プレゼンテーションのテーマを決める。

現地学修：現地の大学による対面講義、2週間の研修と文化体験

事後学習：研修についての最終発表

【課題に対するフィードバックの方法】

対面とmanabaなどを通じて添削やコメントを与える。

■授業計画

- ①説明会
- ②課題の設定
- ③出発前の最終確認

④～⑬

<研修>9月に研修を現地にて行う。

- ⑭学習後のまとめ
- ⑮最終報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・国際感覚を養い、国際人としての自覚を持つのを目標とする。
- ・インターネットなどから現地の情報を収集する能力を養う。
- ・韓国と日本の文化的に相違点と類似点を分析して理解を深めて、現地の人々にプレゼンテーションができる。
- ・積極的な態度で現地の人々とコミュニケーションを取ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

現地での学習と達成度：40%

現地での発表：30%

最終報告会：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業で適宜指示する。

【参考文献】

授業で適宜指示する。

■授業外学習

【事前事後学習】

テーマについては大学図書館や学外の外国に関するインフォメーションセンターなどの情報源を大いに利用し調査を進め、パワーポイントにまとめる。授業では発表とディスカッションが中心になる。授業以外の時間を使って、準備と修正を繰り返す。予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

2023（令和5）年4月1日

- ・説明会で詳しい日程の案内をします。
- ・ワクチン接種が求められる可能性があります。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響でスケジュールや費用が変更になる可能性があります。（前泊などの費用）
- ・2023年度の研修は、韓国の大邱大学で、2023年9月上旬～9月中旬（14日間）を予定しています。ただ、コロナ状況により、日程に変更がある可能性があります。

科目名	海外研修Ⅱ
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣

■講義の目的および概要

本講義の目的は、本学協定校のうち北米の大学において、ホームステイや語学研修を通じて、英語コミュニケーション能力や異文化適応能力を高め、当該地域の歴史・文化・社会に対する理解を深めることを目的とする。

2023 (令和5) 年度の研修は、カナダ・アルバータ州のカルガリー大学で、2022年8月6日～9月3日 (4週間) を予定しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

カナダや北米圏についての文化・歴史・社会問題などについて調べる。

学外学修
 現地の教員による対面講義
 4週間の研修(120時間)

事後授業
 研修についての発表

【課題に対するフィードバックの方法】

主に以下の形式でフィードバックをする。

- ・事前授業：学修管理システム(manaba)を通じて添削やコメントを与える。
- ・学外学修：現地教員たちからのファイナルレポートでのフィードバック。
- ・事後授業：最終発表に対して、学修管理システム(manaba)を通じてコメントを与える。

■授業計画

- ①事前説明会
- ②事前授業
- ③～⑭ 学外学修(カルガリー大学ESL Program :)
 ※出発・帰国時は担当教員が同行します。
 ※大学側で用意されている週末の旅行は任意参加です。(別途料金がかかります。)
 (3) 事後報告会
- ⑮研修成果報告プレゼンテーション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・インターネットやオンラインリソース、書籍などから現地の情報を収集できる。
- ・日常生活で支障のない英語力を習得する。
- ・自分の文化や生活などについてホストファミリーなど現地の人に説明できるようになる。
- ・自らの異文化交流体験について、日本語・英語で報告できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

事前学習、課題 20%
 事後学習、レポート 20%
 取り組みと達成度 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】
渡航前の事前学習により、現地の情報を可能な限り入手すること。
・語学力の向上にも努め、現地での活動に備えること。例えば、自己紹介や自分の住む
・国・地域（日本・北海道・札幌、その他の都道府県など）について、英語で説明できるように準備すること。
・研修後に報告発表会を開催するので、多くの写真や動画を集めておくこと。

【必要な時間】
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

・入国に伴い、日本政府より3回の新型コロナワクチンの接種を要請されています。
接種が済んでいない人は、早急に摂取すること。
・新型コロナウイルス感染拡大の影響でスケジュールが変更になる可能性があります
。大学からの通知・連絡を見逃さないよう注意すること

科目名	海外研修Ⅲ
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	杉江 聡子

■講義の目的および概要

本講義の目的は、本学協定校のうち中華圏の大学において、語学研修、地域社会・文化に関する講義、人文学や日本語を専攻する現地学生との交流（中国語を中心に多言語を用いる）を通じて、中国語コミュニケーション能力や異文化適応能力を高め、当該地域の歴史・文化・社会に対する理解を深めることです。

2023 (令和5) 年度は台湾・嶺東科技大学、2023年9月15日～9月25日（10日間）を予定しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

現地の教員や学生による対面講義や交流活動を中心に行いますが、遠隔も適宜取り入れる可能性があります。

現地では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、その他SNSなどのツールを用いて連絡や課題のやり取りを行います。

教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども適宜取り入れます。

・授業内容

中華圏の社会や文化について、現地で実物に触れ、実際に体験する活動を通じて、理解を深めます。

日常生活の各場面で中国語を用いたコミュニケーションを体験するとともに、多様な中国語のバージョンや各地の方言にも触れます。

現地の人々との交流を通じて積極的にコミュニケーションする態度を育成し、中国語運用に対する自信を高めます。

日本語授業で教える体験を通じて、日本の国や文化に対する客観的で批判的な視点を養うと共に、日本語学習者との交流を通じて、日本語・日本文化のインフォーマントとして架け橋の役割を果たします。

【課題に対するフィードバックの方法】

主に以下の形式で質問に回答します。

- ・研修活動時間内で質問や課題に対する回答・解説をします。
- ・オンライン課題に対するフィードバックを各自に返信します。

■授業計画

(1) 事前学習

説明会（4月中旬）

①～④研修参加準備プレゼンテーション（9月中旬）

(2) 現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度）

⑤札幌～（台北経由）～台中へ移動

⑥現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会

⑦中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策）

⑧～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等）

⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会

⑫台中～（台北経由）～札幌へ移動

※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。

(3) 事後学習

⑬～⑮成果報告会準備

研修成果報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・インターネットやオンラインリソース、書籍などから現地の情報を収集できる。
- ・簡単な中国語（初修中国語学習歴1年程度）を用いて、自己紹介や自分たちの住む国・地域の紹介（プレゼンテーション）ができる。
- ・日本語、中国語、英語、筆談、ボディランゲージなどを総合的に用いて、積極的に現地の人々とコミュニケーションできる。
- ・異文化交流の体験を通じて、中華圏の社会や文化の特徴、自分の国と中華圏の人々の考え方や行動の共通点や相違点などについて理解を深める。
- ・研修の体験を通じて学んだことを、帰国後に日本語で報告、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 事前学習、課題 20%
- 事後学習、レポート 20%
- 海外研修中の活動への取り組みと達成度 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】必要に応じて指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

渡航前の事前学習により、現地の情報を可能な限り入手すること。
語学力の向上にも努め、現地での活動に備えること。例えば、自己紹介や自分の住む国・地域（日本・北海道・札幌、その他の都道府県など）について、中国語（英語併用も可）で説明できるように準備することが必要です。
研修後に報告発表会を開催しますので、写真や動画、資料メモなどを集めてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響でスケジュールや費用が変更になる可能性があります。大学からの通知・連絡を見逃さないよう注意すること。

科目名	海外研修Ⅳ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	田部井 祐介

■講義の目的および概要

本講義の目的は、英語コミュニケーション能力や異文化適応能力を高め、当該地域の歴史・文化・社会に対する理解を深めることを目的とする。

2023 (令和5) 年度の研修は、オーストラリア (メルボルン) で、2024年2月中盤から終盤にかけて (7日間) を予定しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前授業

オーストラリアやオセアニア圏化・歴史・社会問題などについて調べる。

学外学修

メルボルン市内でのフィールドワーク

Holmesglen Institute・Phillip Islandでの野外アクティビティ

事後授業

研修についての発表

【課題に対するフィードバックの方法】

学修管理システム (manaba) を通じてコメントを与える。

■授業計画

- ①事前説明会
- ②事前授業
- ③～⑭メルボルンでの学外学修
※担当教員が同行します。
- ⑮研修成果報告プレゼンテーション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・インターネットやオンラインリソース、書籍などから現地の情報を収集できる。
- ・日常生活で支障のない英語力を習得する。
- ・自分の文化や生活などについて現地の人に説明できるようになる。
- ・自らの異文化交流体験について、日本語・英語で報告できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

事前学習、課題 20%

事後学習、レポート 20%

海外研修中の活動への取り組みと達成度 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

渡航前の事前学習により、現地の情報を可能な限り入手すること。

- ・語学力の向上にも努め、現地での活動に備えること。例えば、自己紹介や自分の住む
- ・国・地域（日本・北海道・札幌、その他の都道府県など）について、英語で説明できるように準備すること。
- ・研修後に報告発表会を開催するので、多くの写真や動画を集めておくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・入国に伴い、オーストラリア政府より新型コロナワクチンの接種を要請されています。接種が済んでいない人は、早急に接種すること。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響でスケジュールが変更になる可能性があります。大学からの通知・連絡を見逃さないよう注意すること。

科目名	日本語表現入門
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	藤田 綾、高橋 伸

■講義の目的および概要

文章表現の基礎を確実にするための科目である。大学で学ぶ際に身に付けておくべき、読解力や表現力などの日本語運用能力を獲得することを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数形式を取り、講義と演習を行う。配付物や課題をファイルにまとめ、学びを振り返るために活用する。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ① 授業期間内に提出された課題に対しては、原則として翌週までに教員のコメント付きで返却する。
- ② 提出課題については、添削をして返却する。最終課題に対するフィードバックは、希望者に対し行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション 授業の意義、シラバスの理解
- ②読解(1) 事実に対する意見を書く
- ③文章のルール(1) 文体、用語、句読点、書き言葉など
- ④文章のルール(2) パラグラフ、上位語下位語、ねじれ文、接続詞など
- ⑤読解(2) 事実文の構成を理解し、要旨を捉える
- ⑥読解(3) 事実文の構成を捉え要約する
- ⑦読解(4) 意見文を読み要約する。根拠を挙げ賛成・反対を表明する
- ⑧表現(1) 体験を基に報告型の文章を書く
- ⑨表現(2) 事実を比較する文章を書く
- ⑩表現(3) 資料を引用して書く 図書館の活用
- ⑪表現(4) 事実に対する意見を書く
- ⑫演習 資料を基に意見を書く(1) 資料の読解、検討
- ⑬演習 資料を基に意見を書く(2) 意見と構成を練る
- ⑭演習 資料を基に意見を書く(3) 意見文の記述
- ⑮演習 資料を基に意見を書く(4) 課題完成 振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①文章のルールを理解し、読解や表現に役立てることができる。
- ②資料の性質(事実性、意見性)を踏まえて適切に引用ができる。
- ③説得力のある文章を書くことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

単位認定教科とする。

認定：課題として取り組んだレポートと振り返りを全て提出している。

不可：提出していないレポートがある。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定のテキストを用いず、適宜プリントを配付する。

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・読解力の課題に取り組む。
- ・表現力の課題に取り組む。
- ・レポート作成のために、資料の収集や解釈をする。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

秋学期から日本語表現Ⅰで使用する以下のテキストを、春に他のテキストと同時に購入すること。

近藤裕子他(2019)『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』(ひつじ書房)

科目名	プロジェクトマネジメント
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	工藤 敦

■講義の目的および概要

プロジェクトマネジメントとは、ある目的の実現や問題課題を解決するための計画を、期限や目標を決めて実施するための行動計画の管理手法である。
このプロジェクトマネジメントの基本的な考え方や用語、実施手法を理解する。
実社会におけるプロジェクトの実例からプロジェクトマネジメントの重要性や実態を理解する。
テキスト等を用いて担当教員が用語等について説明する。プロジェクトの実例を用いてプロジェクトマネジメントについて解説する。
授業内試験と演習課題に対するレポートの提出で評価する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義前半では、プロジェクトマネジメントの基本的な手法やプロジェクトの実例等を解説と演習を交えながら進める。
講義後半ではグループワークにて、各チームで模擬プロジェクトテーマを考え、プロジェクトマネジメントに必要な工程を試行錯誤しつつ、問題解決や意見交換と補足しながら進める。
また、毎回振り返りシートを記入し、講義や演習内容の振り返りを行う。
講義は解説を含め、演習やグループワークではPCを活用する。

【課題に対するフィードバックの方法】

演習やグループワークで作成した成果物の作成方法を授業内で教員が説明することでフィードバックを行う。

■授業計画

- ①科目ガイダンス（授業に関する説明）
- ②プロジェクト構想・企画、PDCA・WBS概要
- ③PDCAの実施方法・ポイント・具体例、プロジェクト体制・担当役割
- ④コンフリクトマネジメント、変更要求と不測事態の対応方法、WBS演習 1
- ⑤WBS演習 2（WBSとガントチャート作成演習）
- ⑥タイムマネジメント、クリティカルパス
- ⑦品質管理、契約管理
- ⑧グループワーク 1（ブレインストーミングによるプロジェクトテーマの洗出し）
- ⑨グループワーク 2（プロジェクトテーマの検討作成、WBSによる具体的なタスクの検討作成）
- ⑩グループワーク 3（全体スケジュールとタスク個別スケジュールの検討作成）
- ⑪グループワーク 4（プロジェクト体制、予算案の検討作成）
- ⑫グループワーク 5（品質計画、コミュニケーション計画、セキュリティ計画の検討作成）
- ⑬グループワーク 6（グループワークでの成果物を元に、プロジェクト計画書の作成、プレゼンテーション準備）
- ⑭チーム毎にグループワークで作成した「プロジェクト計画」のプレゼンテーション
- ⑮授業内試験（まとめテスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

プロジェクトマネジメントの基本である、PDCA、WBS、スケジュール、コミュニケーション等の管理手法を実務に沿った解説、演習、グループワークにて習得すること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

小テスト：20%
課題レポート・グループワーク成果物：60%
授業内試験：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『プロジェクトマネジメント』
出版社：大和書房

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

- ①前回の授業内容の振り返りやポイントや重要事項を復習ノートにまとめること。
- ②山口周『プロジェクトマネジメント』（大和書房）を授業15回終了までに読み終えること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	文系のための数学入門
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	平田 嘉宏、菅原 和良

■講義の目的および概要

文系学生の学修では、論理的に考える力や数学を用いて分析等をする力が必要とされる。そのため、本講義では、代数、関数、微積分、統計などについて中高での数学の基礎を確認するとともに、行列など新たな分野を取り扱い、大学における数学の素養を身に付けることを目標とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に説明した内容について演習する形で行う。
本講義は、高等学校等において数学教育の実務経験のある教員が担当する。具体的な講義の内容は、本学において数学教育の実務経験のある教員が作成する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対して適宜適切にフィードバックをする。

■授業計画

- ①オリエンテーション（高校までの履修分野と理解度の確認）
- ②文字と式
- ③方程式・不等式
- ④二次・三次以上の関数
- ⑤三角比と三角関数
- ⑥指数・対数関数
- ⑦微分
- ⑧積分
- ⑨等差・等比数列
- ⑩和の記号 Σ と数列
- ⑪ベクトルの演算と内積
- ⑫行列・逆行列とその利用
- ⑬統計（質的・量的データ、代表値、分散・標準偏差）
- ⑭統計（相関係数）
- ⑮統計（回帰分析）、期末テスト

場合によってはオンライン・オンデマンド授業の可能性がある。その際は、事前にmanaba等で連絡する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①中高での数学の基礎を復習することで理解を深められる。
- ②論理的に考える力や分析する力を向上させることができる。
- ③大学における数学の素養を身に付け活用することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- ①振り返りシート : 30%
- ②レポート(1回) : 30%
- ③期末テスト : 40%

ただし、遠隔授業等で期末テストが実施できない場合は、レポートに切り替えることがある。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。
適宜、必要なプリントを配布する。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

予習は、前時に指示された内容について、下調べをする。
復習は、使用したプリントを整理し、内容を理解するまで確認する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	日本語(留学生) I
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	傳法 智恵美、宇留野 健太、清水 孝俊、黄 旭暉

■講義の目的および概要

この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞く・話す・読む・書く」の4技能を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを旨とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、試験などで確認する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の結果については授業内で説明するとともに、必要に応じて全体または個別に補助資料を配布する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ③各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ④各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑤各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑥各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑦各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑧学習内容に関する中間的確認テスト
- ⑨各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑩各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑪各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑫各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑬各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑭各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑮まとめ（期末／総合確認テスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・それぞれのレベルに応じた「聞く・話す・読む・書く」の4技能を向上させる。
- ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。
- ・大学での学習で使う日本語(アカデミックジャパニーズ)について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

- ・課題に対する取り組み 20%
- ・授業への積極的な参加 20%
- ・まとめテスト 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・クラスごとに指示する。
- ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。

【参考文献】

- ・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・学習した内容の復習やまとめを行うこと。
- ・小テストや課題の準備をすること。
- ・次回に学習する課の予習を行うこと。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。

科目名	日本語(留学生)Ⅱ
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	宇留野 健太、細野 弥恵

■講義の目的および概要

この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞く・話す・読む・書く」の4技能を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを旨とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、試験などで確認する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の結果については授業内で説明するとともに、必要に応じて主にmanabaを利用し全体または個別に補助資料を配布する。

■授業計画

以下のとおりを実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。

- ①ガイダンス
- ②各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ③各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ④各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑤各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑥各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑦各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑧学習内容に関する中間的確認テスト
- ⑨各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑩各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑪各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑫各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑬各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑭各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑮まとめ（期末／総合確認テスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・それぞれのレベルに応じた「聞く・話す・読む・書く」の4技能を向上させる。
- ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。
- ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

- ・課題に対する取り組み 20%
- ・授業への積極的な参加 20%
- ・まとめテスト 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・クラスごとに指示する。
- ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。

【参考文献】

- ・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・学習した内容の復習やまとめを行うこと。
- ・小テストや課題の準備をすること。
- ・次回に学習する課の予習を行うこと。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・日本語能力のプレースメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。
- ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること。

科目名	日本語(留学生)Ⅲ
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	細野 弥恵、金庭 香理、黄 旭暉

■講義の目的および概要

この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞く・話す・読む・書く」の4技能を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを旨とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、試験などで確認する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の結果については授業内で説明するとともに、必要に応じて主にmanabaを利用し全体または個別に補助資料を配布する。

■授業計画

以下のとおりに実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。

- ①ガイダンス
- ②各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ③各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ④各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑤各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑥各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑦各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑧学習内容に関する中間的確認テスト
- ⑨各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑩各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑪各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑫各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑬各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑭各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑮まとめ（期末／総合確認テスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・それぞれのレベルに応じた「聞く・話す・読む・書く」の4技能を向上させる。
- ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。
- ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1【専門知識・技能を活用する力】
DP2【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

- ・課題に対する取り組み 20%
- ・授業への積極的な参加 20%
- ・まとめテスト 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・クラスごとに指示する。
- ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。

【参考文献】

- ・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・学習した内容の復習やまとめを行うこと。
- ・小テストや課題の準備をすること。
- ・次回に学習する課の予習を行うこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・日本語能力のプレースメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。
- ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること。
- ・PCを使用するクラスは、毎時、各自のPCを持参すること。

科目名	日本語(留学生)IV
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	傳法 智恵美

■講義の目的および概要

この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞く・話す・読む・書く」の4技能を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを旨とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、試験などで確認する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の結果については授業内で説明するとともに、必要に応じて全体または個別に補助資料を配布する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ③各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ④各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑤各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑥各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑦各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑧学習内容に関する中間的確認テスト
- ⑨各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑩各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑪各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑫各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑬各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑭各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑮まとめ（期末／総合確認テスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・それぞれのレベルに応じた「聞く・話す・読む・書く」の4技能を向上させる。
- ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。
- ・大学での学習で使う日本語（アカデミックジャパニーズ）について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

- ・課題に対する取り組み 20%
- ・授業への積極的な参加 20%
- ・まとめテスト 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・クラスごとに指示する。
- ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。

【参考文献】

- ・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・学習した内容の復習やまとめを行うこと。
- ・小テストや課題の準備をすること。
- ・次回に学習する課の予習を行うこと。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・日本語能力のプレイスメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。

科目名	日本語(留学生)V
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	清水 孝俊

■講義の目的および概要

この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞く・話す・読む・書く」の4技能を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを旨とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、試験などで確認する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の結果については授業内で説明するとともに、必要に応じて全体または個別に補助資料を配布する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ③各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ④各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑤各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑥各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑦各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑧学習内容に関する中間的確認テスト
- ⑨各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑩各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑪各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑫各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑬各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑭各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑮まとめ（期末／総合確認テスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・それぞれのレベルに応じた「聞く・話す・読む・書く」の4技能を向上させる。
- ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。
- ・大学での学習で使う日本語(アカデミックジャパニーズ)について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

- ・課題に対する取り組み 20%
- ・授業への積極的な参加 20%
- ・まとめテスト 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・クラスごとに指示する。
- ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。

【参考文献】

- ・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・学習した内容の復習やまとめを行うこと。
- ・小テストや課題の準備をすること。
- ・次回に学習する課の予習を行うこと。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

・日本語能力のプレイメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。2023（令和5）年4月1日。

科目名	日本語(留学生)VI
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	金庭 香理

■講義の目的および概要

この科目は、日本語非母語話者のための日本語科目である。授業では、各レベルに応じて「聞く・話す・読む・書く」の4技能を総合的に学習し、日本語の運用能力を高める。この日本語科目を通して、大学での学習に必要な日本語力（アカデミックジャパニーズ）向上や日本社会・文化への理解を深め卒業後の社会生活に必要な日本語力の向上などを旨とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業では、個人やペア、グループなどさまざまな形の活動（アクティブラーニング）を行う。語彙や文法に関する知識、学習内容の理解については、小テスト、レポート、プレゼンテーション、試験などで確認する。課題作成においては、積極的にPCを活用する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の結果については授業内で説明するとともに、必要に応じて主にmanabaを利用し全体または個別に補助資料を配布する。

■授業計画

以下のとおりを実施していくが、進度・学生のレベルにより変更することもある。クラスごとの学習内容の詳細は別途配布する。

- ①ガイダンス
- ②各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ③各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ④各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑤各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑥各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑦各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑧学習内容に関する中間的確認テスト
- ⑨各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑩各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑪各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑫各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑬各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑭各レベルに即した学習内容（文法・文型、語彙、音声その他）
- ⑮まとめ（期末／総合確認テスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・それぞれのレベルに応じた「聞く・話す・読む・書く」の4技能を向上させる。
- ・状況に応じた適切な日本語を考え、使えるようになる。
- ・大学での学習で使う日本語(アカデミックジャパニーズ)について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1【専門知識・技能を活用する力】
DP2【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

- ・課題に対する取り組み 20%
- ・授業への積極的な参加 20%
- ・まとめテスト 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・クラスごとに指示する。
- ・副教材・資料などは必要に応じて指示する。

【参考文献】

- ・各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・学習した内容の復習やまとめを行うこと。
- ・小テストや課題の準備をすること。
- ・次回に学習する課の予習を行うこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・日本語能力のプレイメントテストの結果などによって、日本語クラスを決定する。
- ・この授業は、毎回の授業内容の積み重ねが重要である。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡し、担当教員の指示を受けること。
- ・PCを使用するクラスは、毎時、各自のPCを持参すること。

科目名	ビジネス実務演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	椿 明美

■講義の目的および概要

ビジネスを個人の側から見つめ、職業生活の質を高めるためのビジネスワーク力について考え、実践をとおして学びます。ビジネスの場で求められる知識、技能とは何か、仕事力を高めるにはどのような方法があるのかについてその基本を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習形式で授業を進めます。実際に業務を体験することで、ビジネススキルをしっかりと身につけていきます。ロールプレイング、ペアワーク、グループワークを取り入れます。

この講義は、実務経験のある教員が自らのキャリアパスをもとに、必要な情報を適宜入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。
学生からの質問については、授業の始めあるいはその都度、全体へ向けて答えます。

■授業計画

- ①ガイダンス、ビジネス実務学習のねらい
- ②ビジネス実務の基本 (1) 仕事の進め方
- ③ビジネス実務の基本 (2) ビジネスとサービス活動
- ④ビジネス実務の基本 (3) ビジネスと表現活動
- ⑤ビジネス実務の基本 (4) ビジネスと情報活用
- ⑥ビジネス実務の基本 (5) ビジネスと組織活動
- ⑦中間テスト
- ⑧ビジネス実務演習 (1) ビジネスメール
- ⑨ビジネス実務演習 (2) データの読み方
- ⑩ビジネス実務演習 (3) 会議の基本的流れと準備
- ⑪ビジネス実務演習 (4) 会議の参加と運営、議事録
- ⑫企画・立案 (1) SWOT分析
- ⑬企画・立案 (2) 企画書
- ⑭企画・立案 (3) 発表
- ⑮まとめ、振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ビジネス実務の基本的な業務（データ、セキュリティ）を理解し実践できる。
- ②ビジネスコミュニケーション（指示、クレーム、会議、部門間コミュニケーション）を実践できる。
- ③ビジネス文書（メール、議事録、企画書）を作成できる。
- ④企画・立案ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1【専門知識・技能を活用する力】

DP2【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

課題提出物・企画書・・・30%
中間テスト・最終テスト・・・60%
まとめ・振り返り・・・10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回、資料を配布します。

【参考文献】

「ビジネス実務総論」改訂版、全国大学実務教育協会編、紀伊国屋書店、2012

■授業外学習

【具体的な内容】

授業内で完成できなかった課題を作成します。
事前配布の授業資料を一読し課題に取り組みます。

【必要な時間】

・事前・事後学修の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	ビジネス実務総論[大学]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	和田 佳子

■講義の目的および概要

ビジネスを働く人の視点から捉え、経済や社会構造の変化の中で、ビジネス実務がどのように行われているのかを概観します。同時に、働く人に求められる能力と、これからの働き方について考察することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

原則的に講義形式の授業になりますが、出来る限り、ワーク等を取り入れ、能動的な学修になることを目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回何らかのシート提出を求めます。次週の授業内で解説、フィードバックを行うとともに、質問を受ける時間を設けます。

■授業計画

- ①ビジネス実務とは：授業の位置づけと到達目標、評価の視点
- ②組織は何のためにあるのか
- ③私たちはどんな時代を生活しているのか
- ④働き方の多様化（1）
- ⑤働き方の多様化（2）
- ⑥ビジネス実務と法律（1）
- ⑦ビジネス実務と法律（2）
- ⑧ビジネスとコミュニケーション
- ⑨職場の人間関係はなぜ難しいのか
- ⑩ビジネス実務と“お金”決算書が読めるとはどういうことか
- ⑪ビジネス実務に必要な論理的思考の技術（1）
- ⑫ビジネス実務に必要な論理的思考の技術（2）
- ⑬オフィスにおける基礎業務と求められる能力
- ⑭振り返りとまとめ
- ⑮最終課題（定期試験）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会の出来事に関心を持ち、組織の仕組みや働き方について理解できる。また、働く人に求められる能力について理解するとともに、実践に向けた心構えができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

出席状況と毎回の課題 30%
中間課題 20%
最終課題 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料を配布します（授業資料はmanabaのコースコンテンツに掲載します）

【参考文献】

授業内で紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】

必要に応じて、事前課題を出します。指示に従ってください。

【必要な時間】

課題により異なりますが、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

コロナ感染状況等により、オンラインやオンデマンド形式で授業を開講することがあります。

科目名	英語Ⅱ[未修得・2年]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	片岡 晃

■講義の目的および概要

○国際的な人材となるために求められるグローバルコミュニケーションスキルのうち、基礎となるリスニング、リーディング、文法、語彙の力を付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

○語彙、文法を確認した後、まとまった量の英文を声を出して読み、内容を理解する。また、主題に即した会話の練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

○各回の授業課題について、小テストを行い結果をフィードバックする。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② Unit 8 Smartphones 1
- ③ Unit 8 Smartphones 2
- ④ Unit 9 Good Writing Skills 1
- ⑤ Unit 9 Good Writing Skills 2
- ⑥ Unit 10 Emails 1
- ⑦ Unit 10 Emails 2
- ⑧ 中間試験
- ⑨ Unit 11 Writing Emails 1
- ⑩ Unit 11 Writing Emails 2
- ⑪ Unit 12 Public Speaking 1
- ⑫ Unit 12 Public Speaking 2
- ⑬ Unit 13 Traveling Around the World 1
- ⑭ Unit 13 Traveling Around the World 2
- ⑮ 期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

○CEFR A2以上の語彙とリスニング、リーディングのスキルを身に付けること。
○自律的な学習者となるため、自己学習の仕方を身に付けること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。
(DP2) 【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

○授業参加・家庭学習40%
○中間試験及び期末試験60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

○ “Good English Vibes: Learning for a Bright Future”, Samuel Rose, 朝日出版社 ¥1,870

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

○各ユニット終了後の宿題と小テストに取り組むこと。

【必要な時間】

○予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	英語Ⅱ[未修得・3年]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	片岡 晃

■講義の目的および概要

○国際的な人材となるために求められるグローバルコミュニケーションスキルのうち、基礎となるリスニング、リーディング、文法、語彙の力を付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

○語彙、文法を確認した後、まとまった量の英文を声を出して読み、内容を理解する。また、主題に即した会話の練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

○各回の授業課題について、小テストを行い結果をフィードバックする。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② Unit 8 Smartphones 1
- ③ Unit 8 Smartphones 2
- ④ Unit 9 Good Writing Skills 1
- ⑤ Unit 9 Good Writing Skills 2
- ⑥ Unit 10 Emails 1
- ⑦ Unit 10 Emails 2
- ⑧ 中間試験
- ⑨ Unit 11 Writing Emails 1
- ⑩ Unit 11 Writing Emails 2
- ⑪ Unit 12 Public Speaking 1
- ⑫ Unit 12 Public Speaking 2
- ⑬ Unit 13 Traveling Around the World 1
- ⑭ Unit 13 Traveling Around the World 2
- ⑮ 期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

○CEFR A2以上の語彙とリスニング、リーディングのスキルを身に付けること。
○自律的な学習者となるため、自己学習の仕方を身に付けること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。
(DP2) 【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

○授業参加・家庭学習40%
○中間試験及び期末試験60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

○ “Good English Vibes: Learning for a Bright Future”, Samuel Rose, 朝日出版社 ¥1,870

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

○各ユニット終了後の宿題と小テストに取り組むこと。

【必要な時間】

○予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	英語 I [未取得]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	片岡 晃

■講義の目的および概要

○国際的な人材となるために求められるグローバルコミュニケーションスキルのうち、基礎となるリスニング、リーディング、文法、語彙の力を付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

○語彙、文法を確認した後、まとまった量の英文を声を出して読み、内容を理解する。また、主題に即した会話の練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

○各回の授業課題について、小テストを行い結果をフィードバックする。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② Unit 1 Greetings 1
- ③ Unit 1 Greetings 2
- ④ Unit 2 Body Language 1
- ⑤ Unit 2 Body Language 2
- ⑥ Unit 3 Weather 1
- ⑦ Unit 3 Weather 2
- ⑧ 中間試験
- ⑨ Unit 4 Food 1
- ⑩ Unit 4 Food 2
- ⑪ Unit 5 Sports 1
- ⑫ Unit 5 Sports 2
- ⑬ Unit 6 Music 1
- ⑭ Unit 6 Music 2
- ⑮ 期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

○CEFR A2以上の語彙とリスニング、リーディングのスキルを身に付けること。
○自律的な学習者となるため、自己学習の仕方を身に付けること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】 (知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。
(DP2) 【コミュニケーション能力】 (思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

○授業参加・家庭学習40%
○中間試験及び期末試験60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

○ “Good English Vibes: Learning for a Bright Future”, Samuel Rose, 朝日出版社 ¥1,870

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

○語彙を復習・予習すること、及び文を読む練習をすること。

【必要な時間】

○ 毎日30分以上の学習が必要です。

■その他

科目名	国際事情
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

私たちが今生きているこの世界では、グローバル化により人種や国境を超えてさまざまな問題が新たに生じています。グローバル化に向き合うためには、世界を理解する必要があります。この授業では、人文・社会科学を学ぶ基盤となる知見と見識を確立するため、世界事情の知見を出発点に、さまざまな境界領域的テーマを学び、視野を広げ、国際的感覚を涵養するとともに、複眼的な問題を分析できるようになることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的に講義中心の座学ですが、必要に応じて適宜グループディスカッションを行うことがあります。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。履修者の数やニーズに応じて、進め方の調整を行う可能性があります。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 国際社会とは?
- ③ なぜSDGsに取り組むべきなのか
- ④ 世界の貧困問題
- ⑤ SDGsの考え方をより深く理解する
- ⑥ 個人としてSDGsにどう向き合うべきか(1)
- ⑦ 個人としてSDGsにどう向き合うべきか(2)
- ⑧ 世界各国のSDGsの取り組み状況(1)
- ⑨ 世界各国のSDGsの取り組み状況(2)
- ⑩ 世界の言語政策(1)「危機言語 part-I」
- ⑪ 世界の言語政策(2)「危機言語 part-II」
- ⑫ 世界の言語政策(3)
- ⑬ 世界の教育事情
- ⑭ 世界の観光事情(1)
- ⑮ 世界の観光事情(2)、世界の今

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「世界」を中軸に据えて、言語・歴史・宗教・芸術・文化・経済・社会学・人類学など、様々な関連分野を視野に入れて、人文・社会科学における「国際事情」に関わる現象や問題を取り上げながら、国際的感覚を身につけていきます。さまざまなテーマでの考察を通して、世界事情を理解するとともに、境界領域から人文・社会科学全体についての認識を深めていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「授業内課題 (30%) + 学期末課題 (50%)」によりですが、平常点 (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は使いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語の意味などを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は「2時間」、次回の授業内容の予習は「2時間」を要します。

■その他

- ①授業中の私語など、他人に迷惑となる行為はお控えください。
- ②毎回配布するハンドアウトを必ずご持参ください。

科目名	生涯学習論
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	塚本 智宏

■講義の目的および概要

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことを目的とする。前半では、学校教育や生涯学習に関する考え方が現れてくる国際的な歴史や背景を学び、後半では、日本の戦後を中心に形成されてきた生涯学習の考え方や生涯学習社会の構築の必要性について、制度・施策などと関わらせながら考察する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、配布資料に基づき講義を行う。
毎回の授業に関し、振り返りの課題・感想文を提出することを求める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で説明する。

■授業計画

- ①ガイダンス 近代以前の「文字と記号」の世界の出現と教育
- ②近代の二つの革命・近代社会の成立と学校教育の成立
- ③近代の教育制度の構造の変遷(西欧と日本)
- ④20世紀後半世界の「急激な変化」と生涯教育の必要性
- ⑤21世紀に向けての生涯教育の内容・学習の考え方と人権(教育)強化
- ⑥20世紀末情報化社会の進展と各国の対応 ML教育からICT教育
- ⑦戦前の日本の教育から戦後の日本の教育へ
- ⑧戦後の日本国憲法・教育基本法と学校教育-社会教育
- ⑨現代日本の生涯学習と社会教育 政策の転換と諸施策
- ⑩現代日本の生涯学習と社会教育 制度・施策と理念
- ⑪生涯発達段階(乳児期)と学習の内容・方法
- ⑫生涯発達段階(幼児期)と学習の内容・方法
- ⑬生涯発達段階(学童期・思春期)の学習の内容・方法
- ⑭生涯発達段階(成人期から高齢期)と学習の内容・方法
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生涯学習の理念及び生涯学習社会構築の必要性について理解し、説明できる。
さらに、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

成績評価基準と方法
毎回の提出物(振り返り課題・感想文) 30%
定期試験 70%
これらをめどとして総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

鈴木敏正著(増補改訂版)『生涯学習の教育学』
神野善治『ミュージアムと生涯学習』中村・三輪編『生涯学習社会の展開』
香川・鈴木・佐々木編『よくわかる生涯学習』

■授業外学習

【具体的な内容】

ネットや新聞等のメディアで、生涯学習に関するニュースや記事を常にチェックしておいてください。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、事後学習が必要です。

【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科目名	日本語表現 I [再履修]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	大村 勅夫

■講義の目的および概要

レポートを書くための技法として、レポートにふさわしい表現、引用、読解を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。
- ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②レポートとは：レポートの形式など
- ③レポートにふさわしい表現Ⅰ：基本的な表現ルール、書き言葉、句読点
- ④レポートにふさわしい表現Ⅱ：文体など
- ⑤引用Ⅰ：事実と意見
- ⑥引用Ⅱ：直接引用・間接引用
- ⑦引用Ⅲ：参考文献
- ⑧読解Ⅰ：事実の読み取り
- ⑨読解Ⅱ：意見と理由の読み取り
- ⑩演習：引用及び読解
- ⑪レポートの書き方Ⅰ：説得性とは、接続関係、論理関係、段落の作り方
- ⑫レポートの書き方Ⅱ：アウトライン（構成）
- ⑬レポートの書き方Ⅲ：パラグラフ・ライティング
- ⑭レポートの書き方Ⅳ：意見と理由、引用、参考文献
- ⑮レポートの書き方Ⅴ：振り返り・レポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①レポートの形式を理解する。
- ②レポートにふさわしい表現ができる。
- ③相手や状況に応じて、説得力のあるレポートが書ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

レポート課題：50%
演習課題：30%
小テスト：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』（ひつじ書房）

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・小テストの予習
- ・提出課題の返却後の振り返り
- ・テキストの読解
- ・レポートのテーマに関する情報収集

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

科目名	日本語表現Ⅱ[再履修]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	大村 勅夫、東谷 一彦

■講義の目的および概要

「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。
- ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②レポートとは何か：表現、形式、種類、引用
- ③文章構成Ⅰ：読解(1)
- ④文章構成Ⅱ：読解(2)
- ⑤文章構成Ⅲ：考察と主張(1) 説得性と根拠
- ⑥文章構成Ⅳ：考察と主張(2) 接続関係・パラグラフライティング・アウトライン
- ⑦文章構成Ⅴ：主張のための資料の探し方
- ⑧演習：読解及び考察と主張
- ⑨レポート作成Ⅰ：資料の読解
- ⑩レポート作成Ⅱ：根拠・資料
- ⑪レポート作成Ⅲ：説得性と論理(1) アウトライン・問題背景の理解
- ⑫レポート作成Ⅳ：説得性と論理(2) 引用・パラグラフライティング
- ⑬レポート作成Ⅴ：説得性と論理(3) 参考文献
- ⑭演習Ⅰ：考察と主張
- ⑮演習Ⅱ：説得性と論理

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。
- ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。
- ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

レポート課題：50%
演習課題：30%
小テスト：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』（ひつじ書房）

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・小テストの予習
- ・提出課題の返却後の振り返り
- ・テキストの読解
- ・レポートのテーマに関する情報収集

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

科目名	日本語表現Ⅱ[入門スタート]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	大鐘 秀峰、高橋 伸

■講義の目的および概要

「日本語表現Ⅰ」で学んだレポートの技法を発展させ、読解、考察、主張、論理などを深めた文章構成を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数編成の授業で講義と演習を行う。レポート作成のための課題に取り組むとともに小テストを実施する。また、必要に応じてグループワークなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ①小テストや課題などについて、それぞれ次時に解答解説を行う。
- ②レポートの作成の各段階で校正や表現をチェックし、改善点を伝える。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②レポートとは何か：表現、形式、種類、引用
- ③文章構成Ⅰ：読解(1)
- ④文章構成Ⅱ：読解(2)
- ⑤文章構成Ⅲ：考察と主張(1) 説得性と根拠
- ⑥文章構成Ⅳ：考察と主張(2) 接続関係・パラグラフライティング・アウトライン
- ⑦文章構成Ⅴ：主張のための資料の探し方
- ⑧演習：読解及び考察と主張
- ⑨レポート作成Ⅰ：資料の読解
- ⑩レポート作成Ⅱ：根拠・資料
- ⑪レポート作成Ⅲ：説得性と論理(1) アウトライン・問題背景の理解
- ⑫レポート作成Ⅳ：説得性と論理(2) 引用・パラグラフライティング
- ⑬レポート作成Ⅴ：説得性と論理(3) 参考文献
- ⑭演習Ⅰ：考察と主張
- ⑮演習Ⅱ：説得性と論理

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① レポート作成にふさわしい語彙力や読解力を土台にして、適切に表現することができる。
- ② 資料の性質（事実性、意見性）を踏まえて適切に考察と主張ができる。
- ③ 相手意識をもち、深い思考による主張を含んだ説得力のある文章が書ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

レポート課題：50%
演習課題：30%
小テスト：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』（ひつじ書房）

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・小テストの予習
- ・提出課題の返却後の振り返り
- ・テキストの読解
- ・レポートのテーマに関する情報収集

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

必要に応じて、図書館を活用して講義を行う。

科目名	日本語表現Ⅲ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	大村 勅夫

■講義の目的および概要

本講義は、1年次に「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」によって行った表現方法・表現技術を発展させて、特に論理的・学術的な文章を作成するにあたって必要な思考方法や文章の構成方法を実践的に学び、自分の考えをどのように表現すれば説得力のあるものになるかを学ぶものである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で実施する。

毎時、論理的な文章を作成するための課題を提示する。それらについて、個人および協同での検討を行い、ひとつひとつクリアを図る。

なお、事前の予習が大きなウェイトを占めることになる。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については毎時出していくが、それについての検討や講評を次時に行いながら進めていく。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ②～③ 「先行研究」「先行論文」とは
- ④～⑥ テーマを設定して、「先行研究」等を要約する
- ⑦～⑧ 主張や仮説の決定と、目次の仮設定
- ⑨～⑪ 調査と考察
- ⑫～⑭ 論文の作成
- ⑮ まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

論理的かつ批判的な思考スキルを習得し、文章表現への応用ができること。他者の考えを理解し、自分の文章表現に生かすことができること。他者の文章について検討し、それをよりよくするための自らの考えを提示することができること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1【専門知識・技能を活用する力】

DP2【コミュニケーション能力】

DP5【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

提出課題に対する評価：50%

まとめ課題（論文（8000字以上）作成）：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しない。授業時に資料等を配付する。

【参考文献】

参考文献は必要に応じて紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

この授業では、各表現課題は事前に授業外で行ってこることが原則となる。授業では、その準備してきた作品をもとに行われる。

【必要な時間】

事前準備に要する時間は、おおよそ3時間から5時間程度である。

■その他

日本語表現Ⅰ・Ⅱの発展的科目なので、日本語表現Ⅰ・Ⅱの両方の科目の単位を修得³（令和5）年4月1日していない学生は履修できない。どちらか一方でも単位未修得の場合は、次年度に履修すること。
同じく、日本語表現Ⅰ・Ⅱの発展的科目であるので、双方を優れた成績をとっていることを推奨する。

まとめ課題は「8000字以上のレポート」を予定しているが、同時に、ほぼ毎時のレポート等もある。

なお、授業内で頻繁に他者との意見交換が行われる。協調的な学習に対する心構えが必要となるので、その旨考えて履修を決めること。

科目名	日本国憲法[大学]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	及川 華恵

■講義の目的および概要

「憲法」と聞くと、「かたい」「難しい」「退屈」というイメージが強いかもしれませんが、実は、社会生活の色々な場面で、憲法の権利や憲法の考え方が関わっています。

この講義では、憲法をめぐる様々な問題を取り上げながら、原点からものごとを考える、何のための憲法か、について学修していきます。

憲法に対する「かたい」イメージを少しでも変えてもらえたらと思っています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に、レジュメを配布して、具体的な憲法問題を取り上げながら、憲法で保障されている権利や憲法の考え方について、講義形式で行います。

講義終了後、振り返りシートを記入し、講義内容について振り返りを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて講義の中で解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス～憲法とは
- ②憲法の誕生と基本原理
- ③国際平和主義
- ④基本的人権の尊重（総論）
- ⑤基本的人権～生命・自由・幸福追求権
- ⑥基本的人権～法の下での平等
- ⑦基本的人権～精神的自由（思想良心の自由）
- ⑧基本的人権～精神的自由（表現の自由）
- ⑨基本的人権～経済的自由
- ⑩基本的人権～人身の自由
- ⑪レポート課題（ある教材を視聴した上でのレポート作成を予定しています）
- ⑫基本的人権～社会権（生存権）
- ⑬基本的人権～社会権（教育を受ける権利、労働基本権）
- ⑭統治機構（三権分立、国会、内閣、裁判所）
- ⑮憲法改正、全体のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「憲法」に対する「かたい」イメージを少しでもなくし、社会生活の様々な場面で憲法の考え方が関わっていることを理解すること、自由、自立、自省の精神をもつ社会人として生きていくために必要な柔軟な思考力を身につけることを目標としています。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

振り返りシート	30%
レポート課題	20%
定期試験	50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありません。毎回の講義でレジュメを配布します。

【参考文献】

- ・目で見える憲法 第5版（初宿正典ほか 有斐閣）
- ・いちばんやさしい憲法入門 第6版（初宿正典ほか 有斐閣アルマ）
- ・あたらしい憲法のはなし（童話社）

■授業外学習

【具体的な内容】

授業内容に関連するニュースをチェックするようにしてください。また、レジュメにそって説明したことを含めて、講義で扱った事例を振り返り、裁判所や政府の解釈・運用についての考えを深めてください。

【必要な時間】

予習と復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

講義終了後に記入する振り返りシートで、毎回の理解度を把握します。

科目名	中国語Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	高 翔

■講義の目的および概要

本講義の目的は、「中国語Ⅰ」に引き続き、正確な発音を定着させ、単語量と基本文法の知識を増やして、少し詳しい自己紹介や大学生活での日常会話ができるようになることです。授業で使うあいさつ、声かけ、応答をはじめ、日常会話でよく使う会話表現を学習します。中華文化の伝統や年間行事などを通して、社会的・文化的な視点から中華圏への国・地域に対する理解を深めましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・主に、対面型の講義形式で授業を行います。教員や活動によっては、遠隔、遠隔とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の授業を行う場合もあります。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

・授業では、最初に中国語の特徴である音の高低・上がり下がりを表す「声調」と、読み仮名にあたる「ピンイン」を学びます。会話文を使って中国語を音読し、定型文の言い換えや質疑応答の練習を行います。課外では教科書にある「総合練習」や「ドリル」を使用して、発音の聞き取り、語句の並べ替え、質問と応答、翻訳、作文などの練習をします。暗記や個人学習だけでなく、クラスメートどうし中国語で積極的に対話するためのグループワークや簡単なプレゼンテーションも取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

主に以下の形式で質問に回答します。

- ・授業の冒頭で前回の復習や課題を踏まえて解説をします。
- ・オンライン課題や授業中に出された質問などに授業内で回答します。
- ・オンライン課題のフィードバックを学習管理システム「manaba」から返信します。

■授業計画

- ①ガイダンス、春学期の復習（夏休みの思い出や秋学期の目標紹介）
- ②第6課 買い物をする、値段を聞く・答える、商品と数量詞の表現、通貨の単位
- ③買い物、貨幣と単位、値段の確認や交渉、ものに適した数量詞、道案内について言う・尋ねる練習
- ④第7課 「～したことがある」・過去の経験についての言い方、旅行の思い出について話す、動作の回数と時間の表現、時間の長さの表現
- ⑤週末にしたこと、旅行などの経験について言う・尋ねる練習
- ⑥第8課 「～した」・動作の完了や状況の実現の表現、アルバイトについて話す、「いつからいつまで、どこからどこまで」を聞く・話す、距離の遠さ・近さの表現
- ⑦アルバイトのスケジュール、場所、家や学校からの遠さについて言う・尋ねる練習
- ⑧第6～8課の応用練習
- ⑨第9課 餃子を作る、大学祭で餃子を売る、学習による習得の「会」、環境による possible の「能」
- ⑩大学祭の出し物紹介、現在進行形の「正在」、許可の「可以」
- ⑪第10課 風邪をひく・治る、試験の準備、変化の「了」、二重目的語を取る動詞
- ⑫試験の結果について言う・尋ねる、様態補語、比較表現
- ⑬第9～10課の応用練習
- ⑭定期試験に向けた総復習
- ⑮授業内定期試験または最終課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・単語量を300語程度まで増やす。新しい語句を覚えて、春学期に習った単語と合わせて300語程度を目指す。
- ・習った中国語の語句や文を正しい発音で音読できる。
- ・習った中国語の語句や文について、日本語を中国語に、あるいは中国語を日本語に訳すことができる。
- ・基礎的な日常会話について、中国語の意味を理解し、質疑応答ができる。
- ・文の構造や語順を理解し、自分で複数の意味がつながる中国語の文を考えて作ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業中の応答、課題や小テスト、試験に基づき総合的に判断します。
第15回目の授業内で定期試験または最終課題を行います。

2023（令和5）年4月1日

- ・ 授業参加態度、授業中の応答、授業内課題への取り組み（30%）
- ・ 小テストやオンライン課題の達成度と成績（30%）
- ・ 定期試験または最終課題（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『即練！使える中国語』上智大学中国語教材作成チーム（朝日出版社）

※「中国語Ⅰ」と同じ教科書を続けて使用します。

【参考文献】

『クラウン中日辞典』（三省堂）『標準中国語辞典』第2版（白帝社）

※その他、授業で紹介するWEBサイトやアプリなど、各種のオンラインリソースを有効に活用してください

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 各課の新出単語とテキスト本文について、WEB公開されている音声を聞き、耳を慣らしておきましょう。
- ・ わからない語句の意味を調べてノートにまとめておくこと。
- ・ 単元やトピックのまとめりに課題提出や小テストを行う場合があります。範囲や形式については授業で指示します。予告があったら必ずテスト範囲を復習しておくこと。
- ・ ピアやグループでの発表を行います。授業で指示があったら、協力して準備を進め、十分に練習しておくこと。

【必要な時間】

- ・ 予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・ この授業は、過去に「中国語Ⅰ」を履修した学生を対象としています。
- ・ 中国語技能検定試験としてHSK（漢語水平考試）の1級～3級、中国語検定準4～4級の受験を勧めます。
- ・ 授業で段階的に取り入れていきますが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	TOEIC I
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	富田 敏明

■講義の目的および概要

本講義では、リスニング、リーディング、文法、語彙を総合的に学習することにより、TOEIC Testのスコアの向上を目指す。また、単なるスコアの向上だけでなく、英語の学習習慣を確立して、自律的な英語学習者を育成することを狙いとする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

TOEIC L&Rテストの7パート（①リスニング=写真描写問題、応答問題、会話問題、説明文②リーディング=短文穴埋め、長文穴埋め、読解問題）の出題形式に対応した問題演習を行う。リスニング、リーディングどちらの活動も、ペアワークによる会話、ディクテーション、シャドーイングなど能動的な活動を取り入れる中で、総合的な英語力の向上を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については確認テスト等の実施により、毎回確認するとともに、授業内でポイントとなる事項の解説を行う。

■授業計画

- ①Orientation, Listening Practice
- ②Unit2(Dining Out) Vocabulary (1-100)
- ③Unit2(Dining Out) Vocabulary (101-200)
- ④Unit3(Media) Vocabulary (201-300)
- ⑤Unit3(Media) Vocabulary (301-400)
- ⑥Unit6(Clients) Vocabulary (1-400)
- ⑦Unit6(Clients) Vocabulary (401-500)
- ⑧The midterm exam
- ⑨Unit7(Recruiting) Vocabulary (501-600)
- ⑩Unit7(Recruiting) Vocabulary (601-700)
- ⑪Unit9(Advertising) Vocabulary (701-800)
- ⑫Unit9(Advertising) Vocabulary (401-800)
- ⑬Unit10(Meetings) Vocabulary (1-400)
- ⑭Unit10(Meetings) Vocabulary (1-800)
- ⑮The Final exam

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

TOEICスコア500点に相当する英語力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 定期試験 40%
- ・ 語彙テスト 40%
- ・ 課題、授業中の言語活動（リスニングプラクティス等） 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE
- ・ TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）

【参考文献】

- ・ 自学用サイト
- ・ News On Japan
- ・ NHK NEWSLINE - NHK World
- ・ VOA - Voice of America English News

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 事前 ①語彙テスト範囲の学習
- ・ 事後 ②テキストの聞き取り問題スクリプトのリスニング&シャドーイング
- ③上記自学用サイトを活用したリーディング及びリスニング

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

TOEICについてはこの科目のあとTOEIC IIへと発展的に学習します。実際のTOEIC受験²³（令和5）年4月1日を自分の学習計画に組み入れて、自分の英語力を定点観測するとともに、常に明確な目標を持って学習を継続してください。

科目名	英語Ⅲ
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード

■講義の目的および概要

英語Ⅲでは、幅広いトピックに触れることで、語彙に慣れ、よりアカデミックな英語を使うために必要なスキルを身につけることを目的としている。主な学習内容は、意見をより明確に表現すること、複雑な内容を英語で聞くことですが、リーディングとライティングも含まれる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業の大まかな流れは、クラスで教科書について議論し、簡単なインタラクティブ講義を行った後、プレゼンテーションや作文、ロールプレイに取り組み、最後に復習を行うというものです。

【課題に対するフィードバックの方法】

フィードバックは、各授業の冒頭、宿題の小テスト、各課題の終了後に行います。

■授業計画

- ① Orientation: diagnostic test and explanation of assessment
- ② Unit 1 Creating connections
- ③ Unit 2 Language and culture
- ④ Unit 3 Fact or fiction?
- ⑤ Unit 4 Why we make art
- ⑥ Unit 5 Explorers
- ⑦ Unit 6 The value of memory
- ⑧ リハーサル
- ⑨ 中間課題 (プレゼンテーション)
- ⑩ Unit 7 Get Creative
- ⑪ Unit 8 Is there good in gaming?
- ⑫ Preparation for written assignment
- ⑬ 最終課題 (ライティング)
- ⑭ Review session
- ⑮ 期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

よりアカデミックな語彙を使い、複雑なトピックを英語で論じることに自信を持ち、講義を聴き、プレゼンテーションを行い、自分の意見を文章にするスキルを身につけることを目的とする。

練習したスキルは、英語の公式試験や将来の海外留学にも役立つ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

授業中のパフォーマンス 20%
中間課題 (プレゼンテーション) 25%
最終課題 (ライティング) 25%
期末テスト 30%

■テキスト・参考文献

『Reflect: Listening and Speaking 3』
著者：Laurie Blass & Mari Vargo
出版社：Cengage Learning

講師が補助的な資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】
授業前に、教科書を予習しておくこと。

【必要な時間】
授業終了後、manabaに関するフォローアップクイズを行う。また、manabaで利用できるオプションの読み物も用意される。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

英語のトピックに出会えば出会うほど、使える言葉の幅が広がります。

科目名	英語Ⅳ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード

■講義の目的および概要

英語Ⅳは、より高度な語彙力とアカデミックな英語に必要なスキルを身につけることを目的とし、幅広いトピックを扱う。主にアカデミックなリスニングに必要なスキルを身につけ、プレゼンテーションのような時間制限のある場面で複雑な意見を表現できるようになることに重点を置く。このコースは、生徒の英語力を総合的に向上させることを目的としており、リーディングとライティングも含まれる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業の大まかな流れは、クラスで教科書について議論し、簡単なインタラクティブ講義を行った後、プレゼンテーションや作文、ロールプレイに取り組み、最後に復習を行うというものです。

【課題に対するフィードバックの方法】

フィードバックは、各授業の冒頭、宿題の小テスト、各課題の終了後に行われます。また、オプションでライティングやスピーチの練習内容を提出し、講師が確認することも可能である。

■授業計画

- ①Orientation: diagnostic test and explanation of assessment
- ②Unit 1 A sense of place
- ③Unit 2 Something borrowed
- ④Unit 3 The language of symbols
- ⑤Unit 4 Science or science fiction?
- ⑥Unit 5 The plastic age
- ⑦Unit 6 Business with a heart
- ⑧リハーサル
- ⑨中間課題（プレゼンテーション）
- ⑩Unit 7 Emotional intelligence
- ⑪Unit 8 Learning from life
- ⑫Preparation for written assignment
- ⑬最終課題（ライティング）
- ⑭Review session
- ⑮期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

よりアカデミックな語彙を自信を持って使い、複雑なトピックを英語で論じ、講義を聴き、プレゼンテーションを行い、自分の意見を書くスキルを身につけることを目的としています。
練習したスキルは、英語の公的試験や英語を使う将来のキャリアに役立つ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

授業中のパフォーマンス 20%
中間課題(プレゼンテーション) 25%
最終課題(ライティング) 25%
期末テスト 30%

■テキスト・参考文献

『Reflect: Listening and Speaking 4』
著者 : Paul Dummett
出版社 : Gengage Learning

講師が副教材としてリーディング資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に、教科書を予習しておくこと。

【必要な時間】

授業終了後、manabaに関するフォローアップクイズを行う。また、オプションでmanabaで読める資料も用意する。また、オプションでスピーキングやライティングのワークを提出することが推奨される。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

全ての言語スキルは繋がっているので、より多くのワークをこなせば、より多くの成果を得ることができます。

科目名	韓国語Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	趙 恵真

■講義の目的および概要

韓国語Ⅰを発展させ、韓国語の基礎文法を利用し、作文と日常会話に応用できる初級レベルの科目です。韓国語における文法体系を理解した上で、語彙を覚えて短い文章を作る練習を通し、作文と会話ができるようになることを目標とします。日常会話でよく使用される表現を習得し、外国語学習者に求められる聞く・話す・読む・書く能力をバランスよく身につけます。学習した文法と表現を応用して作文と会話の能力を向上させ、その進化を中心に評価します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にし、理解を深めていきます。

「ディスカッション」および「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaを通してフィードバックします。

■授業計画

- ①ハングルの読み書き/自己紹介
- ②韓国語Ⅰまでの復習
- ③第6課 漢数詞・「に」「います・いません」
- ④ヨ体の作り方
- ⑤過去形の作り方
- ⑥第7課 「を」「も」
- ⑦第8課 「で」「に」
- ⑧第9課 「で」「から～まで」
- ⑨第9課 固有数詞
- ⑩第10課 「しに」「から～まで」
- ⑪第11課 不規則活用
- ⑫第11課 否定表現
- ⑬第12課 敬語
- ⑭第12課 「つもりです」「したいです」
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

韓国語の基礎文法を理解し、日常会話に応用できます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力

DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末テスト：50%

小テスト：40%

授業への参加度：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

三訂版・韓国語の世界へ(入門編)、李潤玉他、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業中に韓国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習⁰²³（令和5）年4月1日復習した上で授業に参加してください。
- ・韓国語 I と原則同時に履修することができません。
- ・韓国語 I を修得したあと履修できます。
- ・留学生は母国語を履修できません。

科目名	韓国語Ⅲ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	趙 恵真、都 賢娥

■講義の目的および概要

韓国語Ⅱを発展させ、韓国語の初中級の文法を学習し、日常会話で駆使できる初中級レベルの科目です。日本と韓国の言語を関連付けて比較しながら、日韓両言語の理解を深めて、幅広い教養として身につけます。韓国語Ⅰ・Ⅱで培った表現力を向上させ、あるシチュエーションの中で適切な会話ができる能力を中心に評価します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にして、理解を深めていきます。

「ディスカッション」および「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaを通してフィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション・韓国語Ⅱの復習
- ②第1課 ヘヨ体の作り方
- ③第1課 ハムダ体の作り方
- ④第2課 「…するつもりです」「…して」
- ⑤第2課 「…でしょう」本文・復習
- ⑥第3課 「…だけど」、連体形①
- ⑦第3課 「…してあげる・くれる」本文・復習
- ⑧第1課～第3課のまとめ
- ⑨第4課 「…れば」、連体形②
- ⑩第4課 否定表現、本文・復習
- ⑪第5課 連体形③、「…ですね」
- ⑫第5課 不規則活用、本文・復習
- ⑬第6課 敬語、理由・原因
- ⑭第6課 連体形④
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

一段と洗練された韓国語表現や構文を身につけることができます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力

DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末テスト：50%

小テスト：40%

授業への参加度：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

改訂版・韓国語の世界へ(初中級編)、李潤玉他、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業中に韓国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習023（令和5）年4月1日復習した上で授業に参加してください。
- ・韓国語Ⅰ・Ⅱと原則同時に履修することができません。
- ・韓国語Ⅱを修得したあと履修できます。
- ・留学生は母国語を履修できません。

科目名	韓国語Ⅲ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	趙 恵真

■講義の目的および概要

韓国語Ⅱを発展させ、韓国語の初中級の文法を学習し、日常会話で駆使できる初中級レベルの科目です。日本と韓国の言語を関連付けて比較しながら、日韓両言語の理解を深めて、幅広い教養として身につけます。韓国語Ⅰ・Ⅱで培った表現力を向上させ、あるシチュエーションの中で適切な会話ができる能力を中心に評価します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にして、理解を深めていきます。

「ディスカッション」および「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaを通してフィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション・韓国語Ⅱの復習
- ②第1課 ヘヨ体の作り方
- ③第1課 ハムダ体の作り方
- ④第2課 「…するつもりです」「…して」
- ⑤第2課 「…でしょう」本文・復習
- ⑥第3課 「…だけど」、連体形①
- ⑦第3課 「…してあげる・くれる」本文・復習
- ⑧第1課～第3課のまとめ
- ⑨第4課 「…れば」、連体形②
- ⑩第4課 否定表現、本文・復習
- ⑪第5課 連体形③、「…ですね」
- ⑫第5課 不規則活用、本文・復習
- ⑬第6課 敬語、理由・原因
- ⑭第6課 連体形④
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

一段と洗練された韓国語表現や構文を身につけることができます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力

DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末テスト：50%

小テスト：40%

授業への参加度：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

改訂版・韓国語の世界へ(初中級編)、李潤玉他、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業中に韓国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習023（令和5）年4月1日復習した上で授業に参加してください。
- ・韓国語Ⅰ・Ⅱと原則同時に履修することができません。
- ・韓国語Ⅱを修得したあと履修できます。
- ・留学生は母国語を履修できません。

科目名	韓国語Ⅳ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	趙 恵真

■講義の目的および概要

韓国語Ⅲの継続として、韓国語中級の語彙や文法を学習し、ビジネスや接客、発表で使用する語彙や文法表現を中心に学びます。主に仕事の場で通用できる表現を習い、教師とクラスメイトとの練習を繰り返し、話すスキルを身につけます。そのうえ聞く・読む・話すのみではなく、仕事場でよく要求される作文のスキルを習得します。韓国語能力試験3, 4級を挑戦することを推奨します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にして、理解を深めていきます。

「ディスカッション」および「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaを通してフィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション・韓国語Ⅲの復習
- ②第7課 「…したことがある」「…ている」
- ③第7課 不規則活用、本文・復習
- ④第8課 「…している」「…ので」
- ⑤第8課 「…しますね」本文・復習
- ⑥第9課 「…けど」、「…てもいい」
- ⑦第9課 不規則活用、本文・復習
- ⑧第7課～第9課のまとめ
- ⑨第10課 意思・推量、「…んですよ」
- ⑩第10課 「…しなければならない」、本文・復習
- ⑪第11課 「…であらうか」「…してみる」
- ⑫第11課 「…できる」、本文・復習
- ⑬第12課 「…するようだ」「…しようと思う」
- ⑭第12課 禁止の表現、本文・復習
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

電話接客、面接、エントリーシートの作成などで適切に対応できる能力を身につけることができます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末テスト：50%
小テスト：40%
授業への参加度：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

改訂版・韓国語の世界へ(初中級編)、李潤玉他、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業中に韓国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習⁰²³（令和5）年4月1日復習した上で授業に参加してください。
- ・韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと原則同時に履修することができません。
- ・韓国語Ⅲを修得したあと履修できます。
- ・留学生は母国語を履修できません。

科目名	中国語Ⅲ
開講期・単位	2年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	高 翔

■講義の目的および概要

中国語Ⅰ・Ⅱに引き続き、多くの単語と会話出来ますようになる為、日常会話をもっとスムーズに出来るようになることです。色々な話を聞き朗読文もあり、もっと聞ける話せる。社会に貢献できるように役に立ちます。授業の中に中国の歴史・文化・風俗を話をして、もっと中国を理解して貰う狙いです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

対面中心に行います。必要な時にオンライン形式も使用します。

【課題に対するフィードバックの方法】

原則として授業中に説明答え終わらせます。
オンライン形式の時課題のフィードバックを各自に返信します

■授業計画

- ①ガイダンス・総合復習・自己紹介
- ②第一課：家族について
- ③朗読と解説・練習
- ④第二課：方位について
- ⑤朗読と解説・練習
- ⑥第三課：時間について
- ⑦朗読と解説・練習
- ⑧小テスト・練習
- ⑨第四課：趣味について
- ⑩朗読と解説・練習
- ⑪第五課：天気について
- ⑫朗読と解説・練習
- ⑬第六課：運動について
- ⑭朗読と解説・総合練習
- ⑮期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

400語程度を増やして、普通に会話を出来るようにいきたいです。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

合格すれば単位差し上げます。他の修得単位合わせて単位が取得すれば卒業が出来ます。

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP2) 【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

授業中の態度・課題・小テスト・期末テストに合わせて総合判断します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『現代中国アラカルト』 作者：楊 暁安 郁文堂

【参考文献】

中日辞書

■授業外学習

【具体的な内容】

各課新出単語を事前に予習・朗読文も理解する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・この授業は中国語 I ・ II 修得した学生を対象とします。
- ・中国語検定試験の受験をお勧めします。

2023（令和5）年4月1日

科目名	中国語Ⅳ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	高 翔

■講義の目的および概要

中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに引き続き、多くの単語と会話出来ますようになる為、日常会話をもっとスムーズに出来るようになることです。色々な話を聞き朗読文もあり、もっと聞ける話せる。短文も書けるよう練習していきます。社会に貢献できるように役に立ちます。授業の中に中国の歴史・文化・風俗を話をして、もっと中国を理解して貰う狙いです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

対面中心に行います。必要な時にオンライン形式も使用します。

【課題に対するフィードバックの方法】

原則として授業中に説明答え終わらせます。
オンライン形式の時課題のフィードバックを各自に返信します。

■授業計画

- ①ガイダンス・総合復習・自己紹介
- ②第七課：旅行について
- ③朗読と解説・練習
- ④第八課：飲食について
- ⑤朗読と解説・練習
- ⑥第九課：交通について
- ⑦朗読と解説・練習
- ⑧小テスト・練習
- ⑨第十課：診察について
- ⑩朗読と解説・練習
- ⑪第十一課：買い物について
- ⑫朗読と解説・練習
- ⑬第十二課：祝日について
- ⑭朗読と解説・総合練習
- ⑮期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

400語程度を増やして、普通に会話を出来るようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

合格すれば単位差上げます。他の修得単位合わせて単位が取得すれば卒業が出来ます。

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP2)【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

授業中の態度・課題・小テスト・期末テストに合わせて総合判断します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『現代中国アラカルト』 作者：楊 曉安 郁文堂

【参考文献】

中日辞書

■授業外学習

【具体的な内容】

各課新出単語を事前に予習・朗読文も理解する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・この授業は中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ修得した学生を対象とします。
- ・中国語検定試験の受験をお勧めします。

科目名	日本文化演習(茶道)
開講期・単位	2年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	吉井 守和

■講義の目的および概要

茶道とは何だろうか。点前とは何だろうか。最低限の道具を使って、略盆の点前を習いながら、点前の意味、茶道の意味を学んでいきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

点前に関しては、実習です。基本動作を繰り返して、身につけます。講義部分では茶道を学ぶ上で常識としてほしい内容を学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は振り返りながら進みます。それぞれが独立しているわけではなく、関連しているということを意識して下さい。

■授業計画

以下は基本的な進行です。状況によって多少変化していきます。授業の中で変わる部分は説明していきますので、授業を休まないようにしてください。

- ①オリエンテーション/道具の説明/座すということ
- ②道具の引き渡し(菓子)
- ③茶を点じてみる/基本の手順
- ④茶巾の畳方と扱い/袱紗の扱い
- ⑤茶筴の扱い
- ⑥通しで点前をする
- ⑦通しで点前をする
- ⑧実技試験
- ⑨実技試験
- ⑩煎茶
- ⑪茶道の歴史(10)
- ⑫茶事(茶会)と懐石料理(10)
- ⑬茶道具について(10)
- ⑭菓子について(10)
- ⑮まとめ(茶から何を楽しむか/何を学ぶか)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

茶道とは何かということについてある程度の説明ができるようになること。
抹茶を点てる、煎茶を入れることができるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

以下のような内容を基本的に考えていますが、進度や状況によって変わります。

<実技>茶巾の扱い(10)、袱紗の扱い(10)、点前(20)、客の作法(10)、煎茶(10)

<講義>茶道の歴史(10)、懐石料理(10)、茶道具(10)、菓子(10)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

配布物

【参考文献】

茶道、懐石料理、禅、焼き物など多くの関連分野があります。【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

型を正確に覚えるためには繰り返しが必要です。
また、先入観が非常に多い内容です。自分の目でしっかりと見て、判断することが重要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

茶道には様々な側面があります。茶を楽しむ。道具を楽しむ。精神修養。礼儀作法Q23（令和5）年4月1日
様々な側面があることを学ぶことが第一歩です。

科目名	日本文化演習(華道)[春学期]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	柏葉 弥生

■講義の目的および概要

華道は長い歴史に培われた日本独自の美意識から生まれた『花の芸術』です。本講座では、〈和の心〉をキーワードにして、華道の基礎理論の理解と基礎技法の習得をめざします。講義と実習を段階的かつ繰り返し行うことで日本の美意識をより深く理解し、自由花を生ける際の美の設定を明確にすることができるようになります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

華道概論の講義と講師によるデモンストレーションからはじめます。その後、華道実習(講義・作品制作・手直し・作品録作成)を繰り返すことで理解を深めてゆきます。また、デザインプラン&プレゼンテーション、花展見学レポートで習熟度のチェックを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

学生は、作品録を作成し、自己作品の分析・評価を行います。講師は、個別手直しと総評および質疑応答を行います。小テストやレポートについては、授業内で模範解答例を具体的に解説し、総評をします。

■授業計画

- ①ガイダンス(授業の進め方)～華道とは 講師によるデモンストレーション
- ②講義 華道概論-華道の歴史と様式・自由花の構成
- ③実習(1)準備 花材・道具の使い方、稽古の手順とマナー
- ④実習(2)なびく花/縦の花
- ⑤実習(3)横の花
- ⑥実習(4)面の花
- ⑦実習(5)テクニク-テーピング・ワイヤーリング
- ⑧実習(6)構成要素と立体構成その1
- ⑨実習(7)構成要素と立体構成その2・変形花器
- ⑩講義 池坊映画「花戦さ」歴史背景と前編鑑賞
- ⑪講義 池坊映画「花戦さ」後編鑑賞とレポート
- ⑫講義 デザインプラン&プレゼンテーション(小テスト)
- ⑬実習(8)遊心制作
- ⑭実習(9)自由制作
- ⑮全体のまとめと振り返り レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

伝統文化としてのいけばなの歴史、基本を理解する。明確な「美の設定」を行い、魅力ある作品をめざす。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

華道実習及び作品録の提出	40%
小テスト	20%
課題(レポート)	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『はじめのいけばな学校華道』監修:池坊 専永 発行所:日本華道社 800円+税

【参考文献】

いけばな歴史年表(池坊からの無料配布物)

■授業外学習

【具体的な内容】

事前：テキストを使用し予習したうえで授業に臨んでください。

日常生活の中で目に入る植物の姿を観察するよう心掛けてください。

事後：作品デッサン、構成の分析等を記録し、作品録としてまとめます。

日常生活の中で目に入る植物の姿を観察し、作品のデザインをイメージできるようにする事が望ましい。

【必要な時間】

予習・復習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

教材費合計7,830円（花材費1回870円×9回=7830円）

※今年度、持ち帰り用の花合羽に代わる安価な代用品を利用予定。

履修定員は30名。定員超過の場合は抽選にて決定。

道具（刃物・剣山・割れ物の花器）を使用するので、教室内では落ち着いて行動してください。

科目名	日本文化演習(華道)[秋学期]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	柏葉 弥生

■講義の目的および概要

華道は長い歴史に培われた日本独自の美意識から生まれた『花の芸術』です。本講座では、<和の心>をキーワードにして、華道の基礎理論の理解と基礎技法の習得をめざします。講義と実習を段階的かつ繰り返し行うことで日本の美意識をより深く理解し、自由花を生ける際の美の設定を明確にすることができるようになります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

華道概論の講義と講師によるデモンストレーションからはじめます。その後、華道実習(講義・作品制作・手直し・作品録作成)を繰り返すことで理解を深めてゆきます。また、デザインプラン&プレゼンテーション、レポートで習熟度のチェックを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で模範解答例を具体的に解説し、総評を行います。manabaで個別に質疑応答も可能です。

■授業計画

- ①ガイダンス(授業の進め方)～華道とは 講師によるデモンストレーション
- ②講義 華道概論-華道の歴史と様式・自由花の構成
- ③実習(1)準備 花材・道具の使い方、稽古の手順とマナー
- ④実習(2)なびく花/縦の花
- ⑤実習(3)横の花
- ⑥実習(4)面の花
- ⑦実習(5)テクニク-テーピング・ワイヤーリング
- ⑧実習(6)構成要素と立体構成その1
- ⑨実習(7)構成要素と立体構成その2・変形花器
- ⑩講義 池坊映画「花戦さ」歴史背景と前編鑑賞
- ⑪講義 池坊映画「花戦さ」後編鑑賞とレポート
- ⑫デザインプラン&プレゼンテーション(小テスト)
- ⑬実習(8)行事の花の制作(クリスマスの自由花)
- ⑭実習(9)行事の花の制作(正月の自由花)/遊心制作
- ⑮全体のまとめと振り返り レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

伝統文化としてのいけばなの歴史、基本を理解する。明確な「美の設定」を行い、魅力ある作品をめざす。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

華道実習及び作品録の提出	40%
小テスト	20%
課題(レポート)	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『はじめるいけばな学校華道』監修:池坊 専永 発行所:日本華道社 800円+税

【参考文献】

いけばな歴史年表(池坊からの無料配布物)

■授業外学習

【具体的な内容】

事前:テキストを使用し予習したうえで授業に臨んでください。
日常の生活の中で目に入る植物の姿を観察するよう心掛けてください。
事後:作品のデッサン、構成の分析等を記録し、作品録としてまとめる。
日常の生活の中で目に入る植物の姿を観察し、作品のデザインをイメージできるようにする事が望ましい。

【必要な時間】

予習・復習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

教材費合計7,830円（花材費1回870円×9回=7830円）

※今年度、持ち帰り用の花合羽に代わる安価な代用品を利用予定。

履修定員は30名。定員超過の場合は抽選にて決定。

道具（刃物・剣山・割れ物の花器）を使用するので、教室内では落ち着いて行動してください。

科目名	日本文化演習(書道)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	山中 草叶

■講義の目的および概要

書道を学ぶことは、東洋における文字文化の歴史性を理解することであり、同時に伝統に込められた芸術、文化への想いを追体験することである。本講座では時代と共に進化した文字の変遷史を臨書して体験し、人生における書の創格や創造の精神に触れる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】講座目的に基づき書の技法を会得しながら、書体の変遷を学び伝統文化の本質を身につける。

【課題に対するフィードバックの方法】講義の目的に基づき、課題を通し書道の 1. 基本・2. 歴史 3. 書道実技を取得する。

■授業計画

- ①ガイダンス 資料をもとに書道についてと基本の基本
- ②楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醜泉銘1』
- ③楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醜泉銘2』
- ④楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『九成宮醜泉銘3』
- ⑤楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛けつ造像記1』
- ⑥楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛けつ造像記2』
- ⑦楷書 書体の基本 基本的な書体と書風 『牛けつ造像記3』
- ⑧行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序1』
- ⑨行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序2』
- ⑩行書 書体の基本 基本的な書体と書風 『蘭亭序3』
- ⑪隸書 書体の基本 基本的な書体と書風 『礼器碑1』
- ⑫隸書 書体の基本 基本的な書体と書風 『礼器碑2』
- ⑬古文 書体の基本 基本的な書体と書風 『甲骨文1』
- ⑭古文 書体の基本 基本的な書体と書風 『甲骨文2』
- ⑮筆記試験・課題臨書・214までの書体から一文字を選択し臨書

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】授業計画に基づいた歴史上の書の基本的な書体や書風を身につけながら、学習を通して得られる臨書法(臨書力)を培いたい。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】日本文化である書道歴史や書道実技に関わり、書を通して文字に対する教養や人格形成の一躍になるよう希望する。

■成績評価基準と方法

毎講義の実技課題の提出 (65%)
 内訳:基本書体の理解度 30% 古典臨書の理解度 20% 書風の理解度 15%
 筆記試験 (35%)方法で評価

■テキスト・参考文献

【テキスト】「書道芸術 漢字編(改訂版)」久米東邨編集者 中教出版株式会社

【参考文献】「大学書道中国篇」「法帖学書学大系研究篇」「學書筌蹄 比田井天来著」「楷書階梯」

■授業外学習

【具体的な内容】
 臨書力を深めるには、授業内容を復習し書体への基本、書風を深めることが重要である。楷・行・隸書にもそれぞれの書風があることをつかみ取ってほしい。実技が主体ではあるが、実技以外には書の鑑賞、書展に足を運ぶことも書の目を養うのには大切である。

【必要な時間】
 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

各人で準備する書道用具(筆・硯 墨液入れ・文鎮・書道用下敷き・布巾タオル) 2023 (令和5)年4月1日
教材費として 700 円を徴収(墨液・半紙)

科目名	日本事情 I
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	飯嶋 美知子

■講義の目的および概要

日本語及び日本文化に関し、主に言語面の特徴を学ぶことによって理解することを目的とします。

「言語を学ぶことは文化を学ぶことである」と聞いたことがあると思います。本講義では、日本語のさまざまな特徴を取り上げ、そこに反映されている日本語母語話者のものの考え方や文化的背景を学んでいきます。受講生の使用言語や出身地の文化との共通点や相違を考える機会を多く設け、それにより日本語や日本文化への理解を深めます。日本の文学作品のほか、マンガ、アニメ等のポップカルチャーについても取り上げます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で、テーマに関する教員の説明を経た後、DVD等を視聴します。その後、グループに分かれてテーマについてディスカッションをします。授業の最後には毎回ミニレポートを提出してもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中に実施し、クラス全体で共有します。

■授業計画

- ①オリエンテーション、日本人の姓名 1
- ②日本人の姓名2
- ③世界の中の日本語
- ④日本語の辞書
- ⑤日本語の類義語
- ⑥日本語のオノマトペ
- ⑦日本語の省略表現
- ⑧日本のマンガ、アニメ
- ⑨日本語の発音、早口言葉
- ⑩俳句、川柳
- ⑪日本の文学
- ⑫日本語のことわざ
- ⑬日本語の文字
- ⑭日本語の待遇表現
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日本語や日本文化への関心と理解を深め、自己の使用言語や出身地の文化との共通点や相違について説明できるようになるとともに、言語や文化の多様性を理解し尊重できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

毎回の授業中の課題：30%
毎回のミニレポート：30%
まとめのレポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

『知っていますか 日本のこと 〈2023年版〉—学ぼう 話そう 日本事情 (改訂版)』JASSO日本語教育センター編集・発行
『基礎日本語学』衣畑智秀編 ひつじ書房

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前にテーマについて、関連する日本語を調べてきてください。授業後には、その日に学んだテーマについて自分なりに考えをまとめてきてください。毎回授業の冒頭に、前回の授業の振り返りをし、受講生の意見を聞きます。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

受講生の発言の機会を多く設け、グループでのディスカッションも毎回実施します。授業への積極的な参加を期待します。

科目名	日本事情Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	飯嶋 美知子

■講義の目的および概要

日本の風俗習慣及び日本文化に関し、主にマナーを学ぶことによって理解することを目的とします。

社会生活ではさまざまな場面で決まったマナーが必要となります。場面ごとのマナーを学び、受講生が自己の出身地のマナーとの共通点や相違を考えることを通して、日本の風俗習慣や日本文化への理解を深めます。

日本の芸術である生け花、日本の武道、年中行事についても学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で、テーマに関する教員の説明を経た後、DVD等を視聴します。その後、グループに分かれてテーマについてディスカッションをします。授業の最後には毎回ミニレポートを提出してもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中に実施し、クラス全体で共有します。

■授業計画

- ①オリエンテーション、電話のかけ方のマナー
- ②訪問のマナー
- ③食事のマナー (和食)
- ④食事のマナー (洋食)
- ⑤飲み会のマナー
- ⑥結婚式のマナー1
- ⑦結婚式のマナー2
- ⑧生け花
- ⑨葬式のマナー1
- ⑩葬式のマナー2
- ⑪日本の宗教、日本の武道
- ⑫年末年始の行事
- ⑬ビジネスのマナー
- ⑭お見舞いのマナー
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日本の風俗習慣や日本文化への関心と理解を深め、自己の出身地との共通点や相違について説明できるようになるとともに、風俗習慣や文化の多様性を理解し尊重できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

毎回の課題：30%
毎回のミニレポート：30%
まとめのレポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

『知っていますか 日本のこと 〈2023年版〉—学ぼう 話そう 日本事情 (改訂版)』 JASSO日本語教育センター編集・発行
『きちんと知っておきたい 大人の冠婚葬祭マナー新事典—(増補改訂版)』 岩下宣子監修 朝日新聞出版

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前にテーマについて、関連する日本語を調べてきてください。授業後には、その日に学んだテーマについて自分なりに考えをまとめてきてください。毎回授業の冒頭に、前回の授業の振り返りをし、受講生の意見を聞きます。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

受講生の発言の機会を多く設け、グループでのディスカッションも毎回実施します。
授業への積極的な参加を期待します。

科目名	情報機器操作[未修得]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	安井 政樹

■講義の目的および概要

ソサイエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。そのために、情報セキュリティーや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。

実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝えることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら協働的に学び思考力を高めることも重視します。プレゼンテーションにより双方向性のある授業も実施します。また、複数回オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション・AI時代と私たち
- ②情報セキュリティー・情報モラルと関係法規
- ③AIとどう付き合うか・いろいろなネット検索・フィルターバブル
- ④Word (1) ★
- ⑤Word (2) ★
- ⑥リーフレット交流/powerpoint (1)
- ⑦powerpoint (2) ★
- ⑧Excel (1)
- ⑨Excel (2) ★
- ⑩Excel (3) ★
- ⑪実データを用いた分析 (1) 情報整理の仕方
- ⑫実データを用いた分析 (2) プレゼンづくり★
- ⑬実データを用いた分析 (3) 発表会
- ⑭課題フォローアップ/タイピングテスト
- ⑮ITパスポート講演会/まとめ

★のところは、課題の作成回です

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等をできるようにする。

実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】**(DP1)【専門知識・技能を活用する力】**

情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身に付ける。

(DP2)【コミュニケーション能力】

相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。

(DP4)【多様性の理解と協働する力】

情報セキュリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。

(DP5)【能動的に学び続ける力】

タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようにする。

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることができる。

■成績評価基準と方法

以下のABCについて総合的に評価します。

- A (60%) 授業内での課題 (10点×6回=60点)
- B (10%) タイピングテスト (10点×1回=10点)
- C (30%) 毎回の授業内レポート (2点×15回=30点)

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

- ・Office 2021(30時間アカデミック) 実教出版
- ・授業内で必要に応じて資料を配布します。

【参考文献】

- ・officeソフトの各種書籍
- ・情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

■授業外学習**【具体的な内容】**

- ・学習したことをもとに、操作練習をすることを求めます。
- ・PC操作の基本として、タイピング練習をし、タッチタイピングができるように練習すること。

【必要な時間】

- ・毎回、主体的に予習復習を各2時間程度することを求めます。

■その他

- ・自分のノートPCで学習することを基本としますので毎回持参してください。
- ・Word、Excel、powerpointのアプリ版を利用します。PCに入っていない場合は、office365からアプリをダウンロードしておきましょう(分からないときは基礎ゼミで質問をして入れておくこと)。
- ・この科目は、必要に応じてオンデマンド授業を取り入れ、より受講生が学びやすい学習環境を作るように展開します。

科目名	人間と哲学
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	大小田 重夫

■講義の目的および概要

「哲学」とは、私たちが持っている常識的な知識をあえて問い直すことによって、固定化し狭量になりがちな思考と生活から抜け出し、よりよく生きようとするための営みである。本講義の目的は、過去の哲学者の実践例を学ぶことを通して、レベルの違いはあれ、哲学的思考を実践できるようになることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行う。講義ごとにプリントを配布し、そのプリントに従って様々な哲学の問題を紹介し、それらに対する哲学者の代表的な見解を解説する。また講義後、アンケートの機会を設け質問や意見を求め、次回講義時にフィードバックし共有を図る。

【課題に対するフィードバックの方法】

アンケートや中間テストを実施した際は、次回の講義内で解説、解答します。

■授業計画

- ①イントロダクション — 哲学とは何か
- ②西洋哲学の歴史（1）— 古代哲学の歴史
- ③西洋哲学の歴史（2）— 合理主義哲学の歴史
- ④「心」とは何か — 心身問題について
- ⑤西洋哲学の歴史（3）— イギリス経験論哲学とその言語観
- ⑥言葉と意味 — 現代哲学における言語論的転回について
- ⑦言葉と行為 — 言語行為論について
- ⑧「時間」とは何か — ベルクソンの時間論について
- ⑨「時間」と自由 — 自由であるとはどういうことか
- ⑩「私」とは何か — アイデンティティについて
- ⑪「他者」とは何か — 私たちにとって<他者>とはどのような存在か
- ⑫「行為」とは何か — カントの倫理学について
- ⑬「美」とは何か — カント哲学における「美」について
- ⑭「身体」とは何か — 心身問題について
- ⑮西洋哲学の歴史（4）— 反合理主義の哲学

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

以下の3点を目標とする。

1. 哲学の代表的な問題について知る。
2. 自分が共有できる問題を積極的に見つける。
3. 考えたことを理論的に文章化できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

定期試験：60%

授業期間内試験：30%

提出物（講義のアンケート）：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用しない。プリントを配布します。

【参考文献】

授業内で紹介し、参考資料等は適宜、配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心を持ったテーマや哲学者に関する本を見つけて読んでみる。また毎回の講義後、書き留めたノートや資料を見返すこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

受講にあたって哲学の予備知識はいっさい必要ありませんが、積極的な授業参加を希望します。

科目名	人間と哲学
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	大小田 重夫

■講義の目的および概要

「哲学」とは、私たちが持っている常識的な知識をあえて問い直すことによって、固定化し狭量になりがちな思考と生活から抜け出し、よりよく生きようとするための営みである。本講義の目的は、過去の哲学者の実践例を学ぶことを通して、レベルの違いはあれ、哲学的思考を実践できるようになることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行う。講義ごとにプリントを配布し、そのプリントに従って様々な哲学の問題を紹介し、それらに対する哲学者の代表的な見解を解説する。また講義後、アンケートの機会を設け質問や意見を求め、次回講義時にフィードバックし共有を図る。

【課題に対するフィードバックの方法】

アンケートや中間テストを実施した際は、次回の講義内で解説、解答します。

■授業計画

- ①イントロダクション — 哲学とは何か
- ②西洋哲学の歴史（1）— 古代哲学の歴史
- ③西洋哲学の歴史（2）— 合理主義哲学の歴史
- ④「心」とは何か — 心身問題について
- ⑤西洋哲学の歴史（3）— イギリス経験論哲学とその言語観
- ⑥言葉と意味 — 現代哲学における言語論的転回について
- ⑦言葉と行為 — 言語行為論について
- ⑧「時間」とは何か — ベルクソンの時間論について
- ⑨「時間」と自由 — 自由であるとはどういうことか
- ⑩「私」とは何か — アイデンティティについて
- ⑪「他者」とは何か — 私たちにとって<他者>とはどのような存在か
- ⑫「行為」とは何か — カントの倫理学について
- ⑬「美」とは何か — カント哲学における「美」について
- ⑭「身体」とは何か — 心身問題について
- ⑮西洋哲学の歴史（4）— 反合理主義の哲学

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

以下の3点を目標とする。

1. 哲学の代表的な問題について知る。
2. 自分が共有できる問題を積極的に見つける。
3. 考えたことを理論的に文章化できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

定期試験：60%

授業期間内試験：30%

提出物（講義のアンケート）：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用しない。プリントを配布します。

【参考文献】

授業内で紹介し、参考資料等は適宜、配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心を持ったテーマや哲学者に関する本を見つけて読んでみる。また毎回の講義後、書き留めたノートや資料を見返すこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

受講にあたって哲学の予備知識はいっさい必要ありませんが、積極的な授業参加を希望します。

科目名	人間と心理
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	岡田 美恵子

■講義の目的および概要

心理学の入門の授業である。心理学の各分野の基礎知識を学びながら、心理学的な見方や考え方を習得することを目指している。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントを使用しながら授業を展開する。必要に応じて、授業内容に関連する視聴覚教材を使用する。心理学の考え方を理解するために、簡単な実験や調査を実施することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で返却、解説を行う。

■授業計画

身近な事例等を交えながら、概ね以下の分野に関連する講義を展開する予定である。進行状況や理解度によって扱う順序を変更したり、数週にわたって同テーマを展開したり複合的に扱うことがある。

1. オリエンテーション
2. 心理学って何だろう
3. 臨床の心理学
4. 感覚と知覚
5. 動機付け
6. 発達
7. 知覚
8. 認知
9. 性格
10. 学習
11. 記憶
12. 対人関係
13. 社会のなかの「こころ」
14. 関係とコミュニケーション 1
15. 関係とコミュニケーション 2

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 心理学の全体について基礎知識を獲得する。
2. 心理学的研究方法について理解し応用できる。
3. 日常生活の中に心理学的視点を持ち、社会事象や他者、自分自身について心理学的探求をし理解を深める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

リモート授業の場合—小テスト (60%)、最終試験 (40%) で評価する。

対面・ハイブリッド授業の場合—小テスト (60%)、期末定期試験 (40%) で評価する。

* 提出物の締切後の提出は減点になるので注意すること。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- 図書やWebを活用し、興味や関心のある心理学のトピックスについて学習すること。
授業中に得た知識を定着させるため復習を行うこと。

【必要な時間】

予習・復習はそれぞれ2時間程度を目安とする。

科目名	人間と心理
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	岡田 美恵子

■講義の目的および概要

心理学の入門の授業である。心理学の各分野の基礎知識を学びながら、心理学的な見方や考え方を習得することを目指している。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントを使用しながら授業を展開する。必要に応じて、授業内容に関連する視聴覚教材を使用する。心理学の考え方を理解するために、簡単な実験や調査を実施することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で返却、解説を行う。

■授業計画

身近な事例等を交えながら、概ね以下の分野に関連する講義を展開する予定である。進行状況や理解度によって扱う順序を変更したり、数週にわたって同テーマを展開したり複合的に扱うことがある。

1. オリエンテーション
2. 心理学って何だろう
3. 臨床の心理学
4. 感覚と知覚
5. 動機付け
6. 発達
7. 知覚
8. 認知
9. 性格
10. 学習
11. 記憶
12. 対人関係
13. 社会のなかの「こころ」
14. 関係とコミュニケーション 1
15. 関係とコミュニケーション 2

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 心理学の全体について基礎知識を獲得する。
2. 心理学的研究方法について理解し応用できる。
3. 日常生活の中に心理学的視点を持ち、社会事象や他者、自分自身について心理学的探求をし理解を深める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

リモート授業の場合—小テスト (60%)、最終試験 (40%) で評価する。

対面・ハイブリッド授業の場合—小テスト (60%)、期末定期試験 (40%) で評価する。

* 提出物の締切後の提出は減点になるので注意すること。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- 図書やWebを活用し、興味や関心のある心理学のトピックスについて学習すること。
- 授業中に得た知識を定着させるため復習を行うこと。

【必要な時間】

予習・復習はそれぞれ2時間程度を目安とする。

科目名	社会と法
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	楊 迪耕

■講義の目的および概要

法は社会のルールとして存在します。したがって、社会と法は、密接な関係があります。しかし、社会の動きが早く、法がどのようにそれに対応するかは常に問題となります。それらの問題を考える者は、国家や立法者だけでなく、実は我々社会の一市民として、それに対する好奇心を持つことも必要です。この授業は、社会においていろんな場面で起きる問題に対して、法の観点から考える能力を身につけることを目的とします。授業では、いくつかのトピックに分けて、具体例をあげながら、現代社会における法律問題を解説します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的にパワーポイントを使用して、講義方式で行いますが、必要に応じてディスカッションなどの能動的な学習方法も取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニレポートについて、授業内にコメントをします。また、manabaを通して、資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②基本的人権の話 1
- ③基本的人権の話 2
- ④財産と法 1
- ⑤財産と法 2
- ⑥家族と法 1
- ⑦家族と法 2
- ⑧犯罪と法 1
- ⑨犯罪と法 2
- ⑩労働と法
- ⑪消費者と法
- ⑫企業と法
- ⑬情報化社会と法 1
- ⑭情報化社会と法 2
- ⑮紛争解決と法

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

授業内容を通して、法の仕組みと基礎知識を修得します。そして、社会において発生する様々な問題に関心をもったうえで、法的な根拠を示しながら、自分の意見を他人に説明できます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

ミニレポート、授業参加度と最終レポートにより評価します。評価の配分は、ミニレポート30%、授業参加度（授業中のディスカッションなど）30%、最終レポート40%とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

『まだ、法学を知らない君へ-未来を開く13講』東京大学法学部「現代と法」委員会
編有斐閣
『法学入門』宍戸常寿・石川博康編 有斐閣

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

次回の授業に関する資料を予め配布しますので、その資料を元にして事前に読んで調べておいてください。復習する際に、授業中に出てきた条文や法律の概念などをもう一度振り返って、資料やノートで確認してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	社会とメディアの倫理
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	保浦 聡

■講義の目的および概要

この講義では、情報化社会と呼ばれる現代において、氾濫する膨大な量の情報の中から、何が正しい情報なのかを見極めるための基本的な理論を学びます。前半で、メディア・リテラシー論の基礎を確認し、後半では、メディア・リテラシーの限界を確認しながら、実社会の中で、いかにより正しい情報を選択していくべきか、その可能性を模索するための手がかりを確認し、実際のビジネスとの調和点について、受講者とともに理解を深めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・基本的に、講師が用意する教材に沿って講師が説明を進めます。
 毎回講義のはじめに、データ社会に関連するホットな新聞情報から最新のトレンドを共有します。講義では、Thinking Timeを用意し、考えたことを発表し、参加者間で共有し、より理解を深めます。

・当講義は、IT企業において実務経験のある教員が企業のしくみや活動、業務マネジメントの知識を活かして、メディア・リテラシーとは何かをビジネスワーカーの視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

Thinking Timeの結果、疑問点等があれば、講義後でもメール等で相互確認できるようにします。講義の最後に課題がある場合は、必ず次回にそれに対する考え方を解説のうえフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス：メディアの倫理とは何か？
- ②メディア・リテラシー論とは
- ③メディアの屈折作用とは
- ④メディア・リテラシーの4類型とは
- ⑤ウェブ時代の流言リテラシーの特徴
- ⑥バッシングと政治の流言
- ⑦流言を拡散する側と検証する側
- ⑧中間（前半）のまとめ
- ⑨リテラシーはなぜ必要なのか
- ⑩退けるべき3つの言説
- ⑪より良い情報受容のための手法
- ⑫メディア・リテラシーの政治的傾向
- ⑬社会の多様性はなぜ重要か
- ⑭社会の多様性が政治にもたらす影響
- ⑮全体のまとめ：私たちが選択すべきこと

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

当講義を通じて、現代社会におけるメディア・リテラシーの重要性とそれを踏まえてどのように社会に対応すべきなのか、実際のビジネス現場における情報を適切に取扱うための契機とすることができること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力（知識・技能・判断力）
 メディア・リテラシーに関する知識・技能を修得し、活用することができる。
 (DP2) コミュニケーション能力（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）
 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

期末レポート課題：70%、中間および講義内の課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講師が毎回事前にPDF資料として配布予定

【参考文献】

『ダメ情報の見分けかた メディアと幸福につきあうために』 荻上チキ・飯田泰之・鈴木謙介共著、NHK出版生活人新書、2010年

■授業外学習

【具体的な内容】

事前：教材（manabaを通じて事前配布）のキーワードの中で不明点を特定し、web検索等で調べる
事後：講義の結果、上記不明点が解明されたかどうか再確認し、不足があれば深掘りする

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

オンデマンド講義を最大4回実施予定。当講義では、Thinking Timeにおいて、学生各自に自信の考えをまとめたうえで説明できる方式を組み込んでいます。そのためには、講義教材を踏まえて、各所から情報収集することも必要となります。オンデマンド教材は、そのヒントをコンパクトに収めることが可能で、その他の時間を取材、レポート等の時間として有効活用できることを狙いとしています。

科目名	音楽実践
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	松井 亜樹

■講義の目的および概要

固有の楽器の演奏技術を求める事なく、音楽の実践として、誰もが最も取り組みやすい合唱を中心とした実技を行います。札幌国際大学学歌など本学独自の楽曲斉唱の練習を重ねて、本学の式典や応援時などの場で歌唱できる事を目指します。さらに二部合唱、三部合唱の合唱曲に取り組み、合唱を通してアンサンブルの楽しさを体験的に学び、また歌詞のすばらしさ、詞とフレーズの関連などにも目を向けて、音楽作品への理解を深めながら音楽表現技術を体得していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の進度に合わせて授業を行います。90分の内、約10分程度発声練習をし、残りの時間で学歌、二部合唱、三部合唱の合唱曲に取り組み、実技レッスン形式で行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

この科目は演奏家としての実務経験のある教員が毎回授業内に振り返りを行います。学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につけられるように振り返りをします。

■授業計画

- ①オリエンテーション、各個人のパート分け
- ②正しい姿勢、声の出し方とは
- ③札幌国際大学学歌の読譜(1)
- ④札幌国際大学学歌の読譜(2)
- ⑤札幌国際大学学歌の仕上げ(1)
- ⑥二部合唱(君をのせて、Believe、見上げてごらん夜の星を)の読譜、パート練習(1)
- ⑦二部合唱の読譜、パート練習(2)
- ⑧ハーモニーの基本を学ぶ(1)
- ⑨二部合唱の仕上げ
- ⑩三部合唱(旅立ちの日に、翼をください、瑠璃色の地球)の読譜、パート練習(1)
- ⑪三部合唱の読譜、パート練習(2)
- ⑫ハーモニーの基本を学ぶ(2)
- ⑬三部合唱の仕上げ
- ⑭習得した曲から選択曲の発表とリハーサル
- ⑮習得した曲から選択曲発表(授業内試験)とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①正しい呼吸法と発声法を学び、伸びやかな声で歌うことができる。
- ②正確で美しい日本語で歌うことができる。
- ③合唱の基本的なテクニックやハーモニーの感覚を身につけることができる。
- ④グループワークにより豊かな表現活動の在り方を考察できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

実技試験(授業内試験:演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性) 60%
 振り返りレポート 20%
 毎時の取り組み状況 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・「コンサートで歌いたい同声合唱の定番」ヤマハミュージックメディア
- ・「混声合唱とピアノのための出発の歌」カワイ出版
- ・「新しい卒業式第1集」教育研究社

■授業外学習

【具体的な内容】

授業内で次の時間までの課題を提示しますので、練習してから受講してください。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるために毎日練習する習慣をつけて、授業に臨んでください。

■その他

積極的な授業参加を希望します。一人ひとりが意欲的に取り組むことを期待します。

科目名	フィットネス I
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・実習
担当者	橋本 文音

■講義の目的および概要

本講義は、様々な運動を通して、運動機能の向上・怪我の予防・疲労回復など健康の維持・増進を目指すことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
実践形式で行います。

【課題に対するフィードバックの方法】
課題については、授業内で解説・質疑応答の時間を設け、理解を深めます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②体カテスト (プレ)
- ③体づくり (1)
- ④体づくり (2)
- ⑤体づくり (3)
- ⑥有酸素運動 (1)
- ⑦有酸素運動 (2)
- ⑧有酸素運動 (3)
- ⑨アネロビクス (1)
- ⑩アネロビクス (2)
- ⑪アネロビクス (3)
- ⑫レジスタンストレーニング (1)
- ⑬レジスタンストレーニング (2)
- ⑭レジスタンストレーニング (3)
- ⑮様々な運動のまとめ
- ⑯体カテスト (ポスト)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
健康の維持・増進に関心を持ち、日常的に運動に取り組む。運動の安全性に配慮し、目的に応じて適した運動を選択できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

スポーツの理解度と取り組み (マナー) : 60%
スポーツの基礎的な技能到達度 : 20%
課題レポート : 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じて配布します。

【参考文献】
適宜案内します。

■授業外学習

【具体的な内容】
自主的に運動する機会をつくる

【必要な時間】
1回あたり30分から1時間程度

■その他

スポーツに適した格好と室内シューズを用意してください。

科目名	フィットネスⅡ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	橋本 文音

■講義の目的および概要

本講義は、様々な運動を通して、体組成の正常化・心肺機能の向上・筋力強化・筋持久力の向上など健康の維持・増進を目指すことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
実践形式で行います。

【課題に対するフィードバックの方法】
課題については、授業内で解説・質疑応答の時間を設け、理解を深めます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②体カテスト (プレ)
- ③ウォーミングアップ (1)
- ④ウォーミングアップ (2)
- ⑤クールダウン (1)
- ⑥クールダウン (2)
- ⑦レジスタンストレーニング (1)
- ⑧レジスタンストレーニング (2)
- ⑨レジスタンストレーニング (3)
- ⑩サーキットトレーニング (1)
- ⑪サーキットトレーニング (2)
- ⑫コンディショニング (1)
- ⑬コンディショニング (2)
- ⑭様々な運動のまとめ
- ⑮体カテスト (ポスト)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
健康の維持・増進に関心を持ち、日常的に運動に取り組む。また、運動の効果を得るための適切な強度や量、安全性について科学的根拠に基づいて説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

スポーツの理解度と取り組み (マナー) : 60%
スポーツの基礎的な技能到達度 : 20%
課題レポート : 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じて配布します。

【参考文献】
適宜案内します。

■授業外学習

【具体的な内容】
自主的に運動する機会をつくる

【必要な時間】
1回あたり30分から1時間程度

■その他

スポーツに適した格好と室内シューズを用意してください。

科目名	地域学
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

地域社会の今日的意味を理解するため、わが国の地域社会変動の諸相を明らかにし、現段階における地域社会の特質について検討します。なお、戦前戦後を通じた地域社会と教育との関わりの変化についても把握できるように授業を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントのスライドを使用して講義をします。授業内で講義内容に関わるアンケートやクイズなども取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 毎回、授業の感想・意見・質問などをリアクションペーパーに記入してもらいます。感想・意見および質問と回答は次回の授業内でフィードバックします。
- ・ 提出されたレポートは授業内で全体の講評を行うとともに、代表的なレポート例を紹介します。

■授業計画

- ① 地域社会の今日的意味——地域社会の定義と新たな注目
- ② 戦前日本の地域社会（1）——農村社会の特質
- ③ 戦前日本の地域社会（2）——農村社会と都市社会
- ④ 戦前日本の地域社会（3）——地域社会と教育・学校の関連
- ⑤ 戦後日本の地域政策の展開（1）——15年戦争とその帰結
- ⑥ 戦後日本の地域政策の展開（2）——戦後農政の展開
- ⑦ 戦後日本の地域政策の展開（3）——戦後の地域開発政策の展開
- ⑧ 戦後日本の地域社会変動（1）——戦後の人口変動と地域社会
- ⑨ 戦後日本の地域社会変動（2）——地域社会類型の変動
- ⑩ 戦後日本の地域社会変動（3）——過疎地と都市における地域課題
- ⑪ 戦後日本の地域社会変動（4）——外国人の受け入れの歴史
- ⑫ 戦後日本の地域社会変動（5）——ニューカマーの増加と課題
- ⑬ 教育の地域性と地域の教育性（1）——戦後の教育改革と教育制度の変遷
- ⑭ 教育の地域性と地域の教育性（2）——「地域と教育」の変化
- ⑮ 教育の地域性と地域の教育性（3）——現段階の地域における多様な教育課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

戦前日本の地域社会、戦後日本の地域政策や地域社会の変化、地域と教育の関連などについて理解ができることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

最終レポート、小レポートと授業参加態度により評価します。評価の配分は、最終レポート60%、小レポート20%、授業参加態度20%とします。なお、最終レポートは出席回数数が3分の2以上であることを提出条件とします。

テキスト・参考文献

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使いません。講義のレジュメをmanabaを通じて配付します。

【参考文献】

小内透『戦後日本の地域社会変動と地域社会類型』東信堂、1996年
 地域社会学会編『新版キーワード 地域社会学』ハーベスト社、2011年
 笹谷春美・吉崎祥司・藤井史朗・小内透編『変動期の社会学』中央法規出版、1992年

■授業外学習

【具体的な内容】

小内透『戦後日本の地域社会変動と地域社会類型』東信堂、1996年
地域社会学会編『新版キーワード 地域社会学』ハーベスト社、2011年
笹谷春美・吉崎祥司・藤井史朗・小内透編『変動期の社会学』中央法規出版、1992年

【必要な時間】

事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	北海道学
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

北海道の歴史を理解するため、旧石器時代・縄文時代・統縄文時代・擦文時代・アイヌ文化時代・近代・現代にわたって通史を明らかにします。そのうち、近代および現代を中心的にとりあげて授業を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントのスライドを使用して講義をします。授業内で講義内容に関わるアンケートやクイズなども取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 毎回、授業の感想・意見・質問などをリアクションペーパーに記入してもらいます。感想・意見および質問と回答は次回の授業内でフィードバックします。
- ・ 提出されたレポートは授業内で全体の講評を行うとともに、代表的なレポート例を紹介します。

■授業計画

- ①旧石器時代から擦文時代まで
- ②中世アイヌ文化期
- ③近世アイヌ文化期
- ④近代（1）——明治維新と開拓使時代
- ⑤近代（2）——3県1局時代と道庁の開拓政策
- ⑥近代（3）——アイヌ政策と産業・教育の発展
- ⑦近代（4）——第1次世界大戦後の北海道
- ⑧近代（5）——15年戦争下の北海道
- ⑨現代（1）——第二次大戦後の日本の歩み
- ⑩現代（2）——連合軍の進駐と復員・引揚
- ⑪現代（3）——戦後直後の混乱
- ⑫現代（4）——農業と漁業の変容
- ⑬現代（5）——鉱工業の推移と他の産業
- ⑭現代（6）——産業・生活基盤の整備
- ⑮現代（7）——行政・人口の推移とアイヌの人々

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の現状や課題が生みだされた歴史的背景を把握するために、北海道の歴史、とくに近代および現代について深く理解できるようになることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

最終レポート、小レポートと授業参加態度により評価します。評価の配分は、最終レポート60%、小レポート20%、授業参加態度20%とします。なお、最終レポートは出席回数が3分の2以上であることを提出条件とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使いません。講義のレジュメをmanabaを通じて配付します。

【参考文献】

桑原真人・川上淳『増補版 北海道の歴史がわかる本』亜細亜社、2018年
関秀志他『新版 北海道の歴史 下 近代・現代編』北海道新聞社、2006年
『新北海道史』第3～6巻通説2～5、1971、1973、1975、1977年

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

授業時の最後に次週の学習について予告するので、配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。

【必要な時間】

事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	地域アクティビティⅢ(北海道)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	濱田 剛一

■講義の目的および概要

私たちが所属する地域社会は様々な課題を抱えており、継続的な課題解決への取り組みが必要です。海外においても所属する地域コミュニティについての現状と将来展望を語れない場合は、コミュニケーションの立脚点を失うことが多々あります。本講義では地域活性化プロジェクトの事例を通じて地域の具体的な政策課題の理解を深めると共に、大学での学びを社会地域の諸課題具体的に接続させることを目的とします。さらにディスカッションなどにより現状の地域政策の評価と改善点を指摘する能力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に授業時間の30%を講義形式で行い、残りを「ディスカッション」「ディベート」や「グループワーク」を行い「プレゼンテーション」に結びつけることによる能動的な学修を目指します。さらに授業成果をフィールドワークの実施により自らの目で確認します。

本講義はシンクタンク調査会社および経済団体において地域政策・経済政策の立案に携わった実務経験のある教員が実践的な講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題等については授業内で解説するとともにManabaを活用します。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール等でのフィードバックも行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②「地域の課題と地域活性化プロジェクト①」事例研究
- ③「地域の課題と地域活性化プロジェクト②」事例研究
- ④「地域の課題と地域活性化プロジェクト③」事例研究
- ⑤フィールドワーク計画書作成
- ⑥フィールドワーク計画書作成
- ⑦フィールドワーク計画書作成
- ⑧中間プレゼンテーション演習①「課題と現状の政策」
- ⑨中間プレゼンテーション演習②「課題と現状の政策」
- ⑩フィールドワーク
- ⑪フィールドワーク
- ⑫フィールドワーク
- ⑬フィールドワーク
- ⑭フィールドワーク報告会
- ⑮フィールドワーク報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の地域課題とその課題解決のために現状実施されている地域政策体系について説明できるようになる。また北海道の持続的発展のために具体的な地域政策についての問題点を指摘し、併せて自ら提案できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内提出物・発表	40%
中間プレゼンテーション	30%
フィールドワーク報告会	30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

北海道総合計画 (2021改訂版)

【参考文献】

北海道総合開発計画

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業内容についてキーワードを提示しますので、意味などを調べると共に意見をノートしてください。毎回授業の冒頭に前回の授業内容を復習し、問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の授業内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。

また、ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください

【必要な時間】

予習復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。

フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。

科目名	多文化共生論
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	野崎 剛毅

■講義の目的および概要

本講義は、主に日本国内の多文化主義に関する実情、対策を取り上げ、共生のあり方を検討することを目的とする。現状の把握をもとに、これまでに蓄積してきた理論の批判的検討や各国の事例を学ぶことで、社会が多文化であること、他者の文化を尊重することの意義について深めていく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回レジュメを配布し講義形式を中心におこなう。履修者の意識を聞き、それを題材にグループワーク等もおこなう。

【課題に対するフィードバックの方法】

レスポンスを使用し、意見や質問を受け付ける。質問に対しては次の講義で必ずフィードバックをおこなう。

■授業計画

- ①ガイダンス：多文化共生論とはなにか
- ②文化とはなにか：文化論概説
- ③共生とはなにか①：古典的アプローチ
- ④共生とはなにか②：多文化主義と文化相対主義
- ⑤共生とはなにか③：システム共生と生活共生
- ⑥日本の現状①：日本における多文化観の変遷
- ⑦日本の現状②：オールドカマーの文化
- ⑧日本の現状③：入国管理法改正とニューカマーの登場
- ⑨日本の現状④：外国人排斥運動
- ⑩日本の現状⑤：現在の多文化政策
- ⑪世界の外国人政策①：移民と難民
- ⑫世界の外国人政策②：EUの取り組み
- ⑬世界の外国人政策③：アメリカとカナダ
- ⑭多文化共生と教育
- ⑮総括：多文化共生は実現するか

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・多文化に関する基礎的な理論を理解し、説明できる。
- ・多文化共生の可能性と問題点をともに理解し、よりよい共生のあり方を検討できる。
- ・日本と世界における多文化状況を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力。
- (DP4) 多様性の理解と協働する力。

■成績評価基準と方法

最終レポート：50%
各レポート・コメント：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

多文化共生キーワード事典編集委員会編『【改訂版】多文化共生キーワード事典』（明石書店）

【参考文献】

授業内で紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時に予告した内容について事前学習をおこなう。授業後、内容や論点を整理する。不明な点やさらに発展させたい点があった場合は教員に伝える。日頃からテレビ、新聞等でニュースを良く見て、現状を把握しておく。

【必要な時間】

事前・事後それぞれ2時間を目安とする。

■その他

日本語教師課程の選択科目である。

科目名	海外ボランティア・インターンシップ I
開講期・単位	2年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣、椿 明美、濱田 剛一

■講義の目的および概要

海外での様々な体験を通し、世界を違う視点から見ることで、グローバル人材を養成していくことを目的としています。海外ボランティアを通じて国際社会に貢献する活動を行い、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を養い、海外に積極的にチャレンジしていく学生を育てます。また海外インターンシップでは、企業などのグローバル化に対応して各国の経済状況や文化を体感しながら、働き方や文化の違いを学びます。将来的な学生のキャリア形成支援につなげていくものです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本学およびエージェントが実施する海外ボランティア、海外インターンシップを選択し、単位として認定できる条件にあるかを確認して参加します。インターンシップ後は、報告会で報告をします。

現地研修：海外でのボランティア活動、およびインターンシップ（約4週間）
※信頼できる業務委託先が現地での支援を行います。教員の引率はありません。
※時期、期間は受け入れ先により異なる場合があります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説し、学修支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、週間レポートなどのフィードバックをしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②事前指導
 - ・海外ボランティア、インターンシップの目的・目標の設定および確認
- ③事前研修
 - ・インターンシップ先におけるボランティア活動、インターンシップ先企業の基礎知識
 - ・インターンシップ先企業の業界研究調査
 - ・インターンシップ先地域の情報収集、安全対策
- ④現地研修
 - ・インターンシップ先でのオリエンテーション、注意事項
- ⑤～⑬現地研修
- ⑭事後研修
 - ・現地でのボランティア活動、インターンシップ振り返り
- ⑮事後報告会
 - ・振り返り、ボランティア活動、インターンシップ成果報告会、最終成果報告書提出

※授業の内容についてはガイダンスで説明します。
※担当教員の個別指導あり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①国際事情、国際的な活動の実態を知ることができる。
- ②異文化を理解し、多文化共生の考え方が理解できる。
- ③実践的な語学力、コミュニケーション能力を養うことができる。
- ④リーダーシップ、主体性、協調性、倫理観を育むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の3つの力の修得を目指します。
(DP3)【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)
(DP4)【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)
(DP6)【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)

■成績評価基準と方法

事前指導での提出物、事後報告会の参加、最終報告書を確認し、「認定」します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

「海外インターンシップマニュアル」上野由佳、パプフル 2020
「最新インターンシップ—ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社（2023）
有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ①インターンシップ先に関する情報を収集する。
- ②インターンシップ計画を立てる。
- ③報告書を作成する。
- ④発表の準備をする。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	海外ボランティア・インターンシップⅡ
開講期・単位	2年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣、椿 明美、濱田 剛一

■講義の目的および概要

海外ボランティア・インターンシップⅠを履修後に履修する科目です。海外での様々な体験を通し、世界を違う視点から見ることで、グローバル人材を養成していくことを目的としています。海外ボランティアを通じて国際社会に貢献する活動を行い、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を養い、海外に積極的にチャレンジしていく学生を育てます。また海外インターンシップでは、企業などのグローバル化に対応して各国の経済状況や文化を体感しながら、働き方や文化の違いを学びます。将来的な学生のキャリア形成支援につなげていくものです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本学およびエージェントが実施する海外ボランティア、海外インターンシップを選択、単位として認定できる条件にあるかを確認して参加します。インターンシップ後は、報告会で報告をします。

現地研修：海外でのボランティア活動、およびインターンシップ（約4週間）

※信頼できる業務委託先が現地での支援を行います。教員の引率はありません。

※時期、期間は受け入れ先により異なる場合があります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説し、学修支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、週間レポートなどのフィードバックをしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②事前指導
 - ・海外ボランティア、インターンシップの目的・目標の設定および確認
- ③事前研修
 - ・インターンシップ先におけるボランティア活動、インターンシップ先企業の基礎知識
 - ・インターンシップ先企業の業界研究調査
 - ・インターンシップ先地域の情報収集、安全対策
- ④現地研修
 - ・インターンシップ先でのオリエンテーション、注意事項
- ⑤～⑬現地研修
- ⑭事後研修
 - ・現地でのボランティア活動、インターンシップ振り返り
- ⑮事後報告会
 - ・振り返り、ボランティア活動、インターンシップ成果報告会、最終成果報告書提出

※授業の内容についてはガイダンスで説明します。

※担当教員の個別指導あり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

海外でのボランティア活動や職業体験を通して

- ①国際事情、国際的な活動の実態を知ることができる。
- ②異文化を理解し、多文化共生の考え方が理解できる。
- ③実践的な語学力、コミュニケーション能力を養うことができる。
- ④リーダーシップ、主体性、協調性、倫理観を育むことができる。

■成績評価基準と方法

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の3つの力の修得を目指します。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)

(DP4)【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)

(DP6)【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
なし
教員より適宜資料配布

【参考文献】
「海外インターンシップマニュアル」上野由佳、パプフル 2020
「最新インターンシップ—ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜
代編著、学文社（2023）
有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】
①インターンシップ先に関する情報を収集する。
②インターンシップ計画を立てる。
③報告書を作成する。
④発表の準備をする。

【必要な時間】
事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

初回ガイダンスには必ず出席してください。

科目名	AI・データサイエンス
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	岩崎 有朋

■講義の目的および概要

文理を問わず、デジタル社会の基礎知識（「読み・書き・そろばん」的要素）である AI・データサイエンスの初級レベルの習得をめざします。学部ごとに関連のある実データを活用しながら社会的な事象を適切に捉える力は卒業後の即戦力につながります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストの内容を中心に教員が説明を行います。学生は、テキストに記載されている演習問題や専門分野に関連のある実データを扱いながら【演習形式】で課題解決を行うことをとおして、社会事象を捉え、分析・説明できる力を習得します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業中にフィードバックします。（一部、翌週の講義の中でフィードバックする場合もあります。）

■授業計画

- ①科目内容ガイダンス、授業の進め方の確認
- ②デジタル社会の「読み・書き・そろばん」的要素とは
- ③データを通して捉える事象の全体
- ④データを通して見出す事象の関係
- ⑤データの可視化
- ⑥効果的なグラフ表現
- ⑦データに基づく課題発見（学部の専門に関連のあるデータの収集も含む）
- ⑧データの分類（その1） 1回目確認テスト（③～⑦）
- ⑨データの分類（その2）
- ⑩データから見出す法則（その1） 2回目確認テスト（⑧～⑨）
- ⑪データから見出す法則（その2）
- ⑫データに基づく予測（その1） 3回目確認テスト（⑩～⑪）
- ⑬データに基づく予測（その2）
- ⑭仕事で活かすデータリテラシー
- ⑮全体まとめと振り返り 4回目確認テスト（⑫～⑬）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

専門分野の特性に応じたテーマ設定に基づき、データサイエンスを日常生活や仕事で使うことができる基礎的素養を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

下記の①を40%、②を30%、③を30%の割合で評価します。

- ①1～4回の確認テスト
- ②課題・提出物
- ③出席・授業参加度
（出席は最低でも3分の2以上であることが評価の前提条件です）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

紙と鉛筆で身につける データサイエンティストの仮説思考
 編集：孝忠 大輔
 翔泳社（2022/7/15）

■授業外学習

【具体的な内容】

各学部の専門性に関係する実データを扱いながら、データをどのように捉えるのかのパターンを少しずつ勉強していきます。そのためには、事前に次回の範囲の内容を読んでおくことと、授業中に示す課題にも取り組んでみましょう。その準備があることで、授業の理解が進みます。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

受講者同士で分からない部分を質問し合うなど、協働的に学ぶ場面を予定しています。23（令和5）年4月1日
。教え合う体験を通して、社会的コミュニケーションスキルも身に付ける機会として
ください。
テキストは全員に必要です。2回目の授業に間に合うように購入してください。

科目名	ITパスポート演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	岩崎 有朋

■講義の目的および概要

仕事に役立つITや経営に関する知識を幅広く身に付けるとともに、国家資格取得というゴールを1つの目的とします。

PCやアプリの操作能力を伸ばすための授業ではありませんので、操作スキルが高くなくても受講できます。ITに関わる基礎的知識を得る学習を通して、少しずつ学習成果を積み重ねていく達成感を感じながら資格取得を目指す演習形式の授業です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ITパスポート試験の内容を踏まえて、分野ごとに身近な具体例などを交えながら、動画教材、テキスト、講義を組み合わせを進めます。また、本番がCBT（コンピュータを利用した試験）ですので、これにも慣れるために、PCで解答する練習も行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内容ごとに小テストを行い、その時間内に解答を行います。全体の成績状況を見ながら、間違いやすい問題の注意点などをフィードバックします。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 会社の形成と組織
- ③ マーケティング①
- ④ マーケティング②
- ⑤ 企業会計、キャッシュフロー
- ⑥ システム開発プロセス①
- ⑦ システム開発プロセス②
- ⑧ コンピュータの構成
- ⑨ 情報資産とセキュリティ
- ⑩ コンピュータの世界
- ⑪ データの取り扱い
- ⑫ 国家試験の申込方と試験対策（問題演習と解説）①
- ⑬ 国家試験対策（問題演習と解説）②
- ⑭ 国家試験対策（問題演習と解説）③
- ⑮ 国家試験対策（問題演習と解説）④

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 社会で用いられているIT技術や、関連業務で必要となる知識を身につける。
- ② ITパスポート試験受験に向けて、自主的な学習につなげることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

以下のA Bをもとに総合的に評価する。

- A 80% 授業内容ごと毎回の小テスト8点×10回(2~11回目) 80点
B 20% 国家試験対策の期末テスト10点×2回(14回目・15回目) 20点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

1週間でITパスポートの基礎が学べる本
(ITすま教室 渡辺さき著2021 インプレス)

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前後にテキストおよびテキストの動画を視聴することを通して、学習内容を定着できるようにすること。

【必要な時間】

予習復習それぞれ2時間程度が望ましい

■その他

テキストは全員に必要です。2回目の授業に間に合うように購入してください。 2023（令和5）年4月1日

科目名	キャリアデザイン[スピ]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	樋原 智恵

■講義の目的および概要

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけます。M. ポーターの競争戦略論からトレードオフを学び、その競合優位性を確固たるものとしている実践例や、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。この学びから広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式とともに個人ワーク、さらに課題解決型授業：Project Based Learning (PBL)を行います。与えられた課題をクリアするために、チーム活動に必要なスキルを理解し、さらに課題解決のために必要な知識を得るために、どんなことを学ぶべきかを自ら考えてもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション (授業内容、評価方法他)
- ②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭になぶ仕組み、需要と供給 B2BとB2Cを理解する。
- ③業界の仕組み (1) (建設、不動産、金融)
- ④業界の仕組み (2) (自動車、食品、小売・流通)
- ⑤業界の仕組み (3) (北海道の農業団体、漁業団体、北海道の農業5団体中央会：ホクレン、信連、共済連、厚生連)
- *オンデマンド授業
- ⑥業界の仕組み (4) (マスコミ・情報通信)
- ⑦業界の仕組み (5) 業界プレゼンテーション
- ⑧M. ポーターの競争戦略 (1)
- ⑨M. ポーターの競争戦略 (2)
- ⑩M. ポーターの競争戦略 (3) 事例研究
(ニトリ、ユニクロ、シマムラ、スタバ、ガリバー、LCCほか多数の事例を参考にしながらM. ポーターの競争戦略論を理解していきます)
- ⑪PBL I (企業におけるトレードオフを視点の調査研究。情報収集)
11回から13回までチーム活動による実社会で実践されているトレードオフについて調査研究を実施します。
- ⑫PBL II (トレードオフ実践のプレゼンテーション資料作成と準備①)
- ⑬PBL III (トレードオフ実践のプレゼンテーション資料作成と準備②)
- ⑭調査研究プレゼンテーション I
- ⑮調査研究プレゼンテーション II

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
- ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
- ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
(DP3) 【課題を発見し、解決する力】
(DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎時レポート (50%)
M. ポーター競争戦略論の理解度 (20%)
調査研究報告書およびプレゼンテーション (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストなし。

講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

- ①' 22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ マイケル E. ポーター（著）、竹内弘高（翻訳）、DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部（翻訳）
- ③ [エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ（著）、櫻井祐子（著）、櫻井 祐子（翻訳） 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけてください。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がります。能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

科目名	キャリアデザイン[ス指]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

テーマ：業界や企業を多角的に見る習慣を身に付ける（ベースとしてM.ポーターの競争戦略論を修得します）

講義の目的および概要

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors=事業成功の主要因、特にM.ポーターの競争戦略論からトレードオフをまなびます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとするトレードオフを実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors=事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning (PBL)、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ① ガイダンス（業界とは？、分析の視点、情報収集方法）
- ② 産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭に並ぶ仕組み、需要と供給 B2BとB2Cを理解する
- ③ 建設業界、不動産業界の仕組みを理解する
- ④ 自動車業界、食品業界の仕組みを理解する
- ⑤ 北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する
北海道の農業5団体の仕組み（中央会、ホクレン、信連、共済連、厚生連）
- ⑥ 金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する
- ⑦ マスコミ・情報通信業界の仕組みを理解する
- ⑧ M.ポーターの競争戦略（1）
- ⑨ M.ポーターの競争戦略（2）
- ⑩ M.ポーターの競争戦略（3）事例研究
（ニトリ、ユニクロ、シマムラ、スタバ、ガリバー、LCCほか多数の事例を参考にしながらM.ポーターの競争戦略論を理解していきます）
- ⑪ PBL（企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究）
グループワークにより実社会で実践されているトレードオフについて調査研究します
- ⑫ PBL（企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成）
グループワークにより実社会で実践されているトレードオフについて調査研究します
- ⑬ PBL（企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成）
グループワークにより調査研究報告書を作成します
- ⑭ 調査研究報告書の発表（グループ発表）
調査研究結果をPPTなどを用いて発表します
- ⑮ 調査研究報告書の発表（グループ発表）
調査研究結果をPPTなどを用いて発表します

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
- ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
- ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の3つの力の修得を目指します。

【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）

（DP2）資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）

（DP3）現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）

（DP5）自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

■成績評価基準と方法

講義内小テストおよびレポート（50%）
M. ポーター競争戦略論の理解度（20%）
調査研究報告書および発表（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

- ①22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ マイケル E. ポーター（著）、竹内弘高（翻訳）、DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部（翻訳）
- ③[エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ（著）、櫻井祐子（著）、櫻井 祐子（翻訳） 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ1～2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリアデザイン[臨床]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors=事業成功の主要因、特にM. ポーターの競争戦略論からトレードオフを学びます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとするトレードオフを実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors=事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning (PBL)、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ① ガイダンス (業界とは?、分析の視点、情報収集方法)
- ② 産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭と並ぶ仕組み、需要と供給B2BとB2Cを理解する
- ③ 建設業界、不動産業界の仕組みを理解する
- ④ 自動車業界、食品業界の仕組みを理解する
- ⑤ 北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する
- ⑥ 金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する
- ⑦ マスコミ・情報通信業界の仕組みを理解する
- ⑧ M. ポーターの競争戦略 (1)
- ⑨ M. ポーターの競争戦略 (2)
- ⑩ M. ポーターの競争戦略 (3) 事例研究
- ⑪ PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究)
- ⑫ PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
- ⑬ PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
- ⑭ 調査研究報告書の発表 (グループ発表)
- ⑮ 調査研究報告書の発表 (グループ発表)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
 - ② 多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
 - ③ 自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- 自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 講義内小テストおよびレポート (50%)
 M. ポーター競争戦略論の理解度 (20%)
 調査研究報告書および発表 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

- ①' 22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論 I・II マイケル E. ポーター (著), 竹内弘高 (翻訳), DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (翻訳)
- ③ [エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ (著), 櫻井祐子 (著), 櫻井 祐子 (翻訳) 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリアデザイン[国教]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	樋原 智恵

■講義の目的および概要

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけます。M.ポーターの競争戦略論からトレードオフを学び、その競合優位性を確認したるものとしている実践例や、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。この学びから広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式とともに個人ワーク、さらに課題解決型授業：Project Based Learning (PBL)を行います。与えられた課題をクリアするために、チーム活動に必要なスキルを理解し、さらに課題解決のために必要な知識を得るために、どんなことを学ぶべきかを自ら考えてもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション (授業内容、評価方法他)
- ②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭に並ぶ仕組み、需要と供給 B2BとB2Cを理解する
- ③業界の仕組み (1) (建設、不動産、金融)
- ④業界の仕組み (2) (自動車、食品、小売・流通)
- ⑤業界の仕組み (3) (北海道の農業団体、漁業団体、北海道の農業5団体中央会：ホクレン、信連、共済連、厚生連)
- *オンデマンド授業
- ⑥業界の仕組み (4) (マスコミ・情報通信)
- ⑦業界の仕組み (5) 業界プレゼンテーション
- ⑧M.ポーターの競争戦略 (1)
- ⑨M.ポーターの競争戦略 (2)
- ⑩M.ポーターの競争戦略 (3) 事例研究
(ニトリ、ユニクロ、シマムラ、スタバ、ガリバー、LCCほか多数の事例を参考にしながらM.ポーターの競争戦略論を理解していきます)
- ⑪PBL I (企業におけるトレードオフを視点の調査研究。情報収集)
11回から13回までチーム活動による実社会で実践されているトレードオフについて調査研究を実施します。
- ⑫PBL II (トレードオフ実践のプレゼンテーション資料作成と準備①)
- ⑬PBL III (トレードオフ実践のプレゼンテーション資料作成と準備②)
- ⑭調査研究プレゼンテーション I
- ⑮調査研究プレゼンテーション II

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
- ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
- ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎時レポート (50%)
M.ポーター競争戦略論の理解度 (20%)
調査研究報告書およびプレゼンテーション (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストなし。

講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

- ①' 22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ マイケル E. ポーター（著）、竹内弘高（翻訳）、DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部（翻訳）
- ③ [エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ（著）、櫻井祐子（著）、櫻井 祐子（翻訳） 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけてください。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がります。能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

科目名	キャリアデザイン[親ビ]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	平塚 彰

■講義の目的および概要

業界や企業を多角的に見る習慣を身に付ける
(ベースとしてM.ポーターの競争戦略論を修得します)

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査・分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors=事業成功の主要因、特にM.ポーターの競争戦略論からトレードオフを学びます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとするトレードオフを実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors=事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning (PBL)、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス (業界とは?、分析の視点、情報収集方法)
- ②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭になぶ仕組み、需要と供給 B2BとB2Cを理解する
- ③建設業界、不動産業界の仕組みを理解する
- ④自動車業界、食品業界の仕組みを理解する
- ⑤北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する
- ⑥金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する
- ⑦マスコミ・情報通信業界の仕組みを理解する
- ⑧M.ポーターの競争戦略 (1)
- ⑨M.ポーターの競争戦略 (2)
- ⑩M.ポーターの競争戦略 (3) 事例研究
(ニトリ、ユニクロ、シママラ、スタバ、ガリバー、LCCほか多数の事例を参考にしながらM.ポーターの競争戦略論を理解していきます)
- ⑪PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究)
グループワークにより実社会で実践されているトレードオフについて調査研究します
- ⑫PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
グループワークにより実社会で実践されているトレードオフについて調査研究します
- ⑬PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
グループワークにより調査研究報告書を作成します
- ⑭調査研究報告書の発表 (グループ発表)
調査研究結果をPPTなどを用いて発表します
- ⑮調査研究報告書の発表 (グループ発表)
調査研究結果をPPTなどを用いて発表します

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
- ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
- ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の3つの力の修得を目指します。

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

講義内小テストおよびレポート（50%）
M. ポーター競争戦略論の理解度（20%）
調査研究報告書および発表（30%）

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

- ①' 22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ マイケル E. ポーター（著）、竹内弘高（翻訳）、DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部（翻訳）
- ③ [エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ（著）、櫻井祐子（著）、櫻井 祐子（翻訳） 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリアデザイン[子心]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors=事業成功の主要因、特にM. ポーターの競争戦略論からトレードオフを学びます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとするトレードオフを実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors=事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning (PBL)、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ① ガイダンス (業界とは?、分析の視点、情報収集方法)
- ② 産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭と並ぶ仕組み、需要と供給 B2BとB2Cを理解する
- ③ 建設業界、不動産業界の仕組みを理解する
- ④ 自動車業界、食品業界の仕組みを理解する
- ⑤ 北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する
- ⑥ 金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する
- ⑦ マスコミ・情報通信業界の仕組みを理解する
- ⑧ M. ポーターの競争戦略 (1)
- ⑨ M. ポーターの競争戦略 (2)
- ⑩ M. ポーターの競争戦略 (3) 事例研究
- ⑪ PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究)
- ⑫ PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
- ⑬ PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
- ⑭ 調査研究報告書の発表 (グループ発表)
- ⑮ 調査研究報告書の発表 (グループ発表)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
 - ② 多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
 - ③ 自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- 自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 講義内小テストおよびレポート (50%)
 M. ポーター競争戦略論の理解度 (20%)
 調査研究報告書および発表 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

- ①' 22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論 I・II マイケル E. ポーター (著), 竹内弘高 (翻訳), DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (翻訳)
- ③ [エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ (著), 櫻井祐子 (著), 櫻井 祐子 (翻訳) 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	SIU特講
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	原 一将、平塚 彰

■講義の目的および概要

企業や諸団体に活躍する卒業生を講師として招聘し、担当教員との対談形式で授業を展開していきます。卒業後、どのような仕事をしているのか、社会人に求められる資質や仕事への取り組み姿勢など対談を通じて学んでいきます。特に大学での学びと社会で働くことの関係性について理解し、正解のない時代をどう生き抜くか、ロールモデルである卒業生から気づきを与えてもらいます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

卒業生の招聘は隔週になります。卒業生を招聘した週は課題（感想レポート）をmanabaから提出してもらいます。当然メモを取らないと課題はできません（ノートPC、タブレットの持ち込みは可）。対談の翌週は卒業生から与えられた課題にグループで取り組んでももらいます。そして皆さんの提案・提言を卒業生にフィードバックします。この授業は社会経験豊富な教員が担当しますので、実社会と乖離（かいり）がないリアルな授業を展開していきます。根拠なく夢だけを追うのではなく、現実を理解したうえで目標を定めてもらいます。夢はその先にあるのです。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックは対談翌週の授業内で適宜行います。またグループワークではプレゼンテーションも行い、学生同士のフィードバックも実施します。

■授業計画

下記はあくまで予定です。外部講師の都合により内容に変動が生じます。

- ①ガイダンス（授業内容、進行、評価などの説明）
- ②アジアで最も大きい巨大アウトレットモールオペレーションに挑む
～同期のなかでトップクラスに評価が高い卒業生
- ③前週の課題に対するグループワーク～プレゼンテーション
- ④公務員を退職しブラジルへ
～海外青年協力隊という人生における選択
- ⑤前週の課題に対するグループワーク～プレゼンテーション
- ⑥教わる立場から教える立場へ
～ある高校教員の苦悩、葛藤、そして涙と感動
- ⑦前週の課題に対するグループワーク～プレゼンテーション
- ⑧「君は情熱枠での採用だ」
～努力で運命は変えられる、そのとき彼が取った行動は？
- ⑨前週の課題に対するグループワーク～プレゼンテーション
- ⑩転職成功物語
～金融機関からマスコミへ、転職して憧れの業界へ
- ⑪前週の課題に対するグループワーク～プレゼンテーション
- ⑫空港が職場
～管理職として部下育成というミッションを背負い空港を運営
- ⑬前週の課題に対するグループワーク～プレゼンテーション
- ⑭学科で最後の内定がプロスポーツチーム
～アジアを見据えた企業戦略
- ⑮前週の課題に対するグループワーク～プレゼンテーション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・卒業生の話を聴き、社会人としての心構えや仕事の内容を理解できるようになる。
- ・卒業生の話を聴き、自分自身の人生設計に関心を持つようになる。
- ・卒業生の話を聴き、働き甲斐、生き甲斐について、自分の言葉で説明できるようになる。
- ・卒業生の話を聴き、自分の進むべき道、就きたい仕事についてじっくり考察できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①manabaに提出する毎回の感想レポート（50%）
- ②グループワークの内容（20%）
- ③最終レポート（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じ適宜配布します。

【参考文献】
必要に応じ適宜配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】
講師一覧は今後掲示予定ですが、掲示され次第、事前に講師のプロフィールや所属している企業、諸団体は調べておいてください。

【必要な時間】
事前・事後の学習時間は概ね2時間を目安とします。

■その他

人生や自身が進む道を考える絶好の機会です。前向きに聴いてください。

科目名	ビジネス日本語
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	椿 明美

■講義の目的および概要

就職活動をしたり、働いたりする際に必要な日本語力をロールプレイやケース学習などを通して学ぶ。言語表現だけでなく、言語の背景にある価値観や慣習などを理解した上で、ビジネス場面での日本語表現を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
演習形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での解説や個別対応による。必要な場合には資料を配布する。

■授業計画

概ね以下の内容で実施予定ですが、変更もあります。

- ①ビジネス会話の基本 (1) 自己紹介と日本の企業文化
- ②ビジネス会話の基本 (2) 社外での自己紹介
- ③ビジネス会話の基本 (3) 電話対応の基本
- ④ビジネス会話の基本 (4) 電話でのアポイント
- ⑤ビジネス会話の基本 中間テスト
- ⑥ビジネスの場に応じたコミュニケーション (1)
- ⑦ビジネスの場に応じたコミュニケーション (2)
- ⑧ビジネスの場に応じたコミュニケーション (3)
- ⑨ビジネスの場に応じたコミュニケーション (4)
- ⑩ビジネスの場に応じたコミュニケーション (5)
- ⑪ビジネスの場に応じたコミュニケーション 中間テスト
- ⑫ビジネス文書の基本 (1) メール
- ⑬ビジネス文書の基本 (2) 報告書
- ⑭ビジネス文書の基本 (3) 議事録
- ⑮期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
・日本社会や商習慣への理解を深め、インターンシップ、就職に必要な待遇表現の意味を理解できる。
・場面や相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
・メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を作成できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
DP1【専門知識・技能を活用する力】
DP2【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

- ・課題・小テスト・授業への積極的な参加 40%
- ・中間テスト 20%
- ・期末テスト 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『上級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語』村野節子・山辺真理子・向山陽子著 (スリーエーネットワーク)

【参考文献】
『新・にほんご敬語トレーニング』(ASK)
『マンガで体験! にっぽんのカイシャ〜ビジネス日本語を实践する〜』(日本漢字能力検定協会)
『中級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語』(スリーエーネットワーク)

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・日頃からニュース、新聞、インターネットなどにより、ビジネスの話題に関心を持つこと。
- ・授業前にテキストを読むこと、授業後に理解できなかったことを整理、復習すること。

【必要な時間】

- ・事前・事後学習ともに2時間を目安とする。

■その他

- * 留学生クラス（金庭担当）は履修条件があります。

科目名	ビジネス日本語
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	金庭 香理

■講義の目的および概要

就職活動をしたり、働いたりする際に必要な日本語力をロープレイやケース学習などを通して学ぶ。言語表現だけでなく、言語の背景にある価値観や慣習などを理解した上で、ビジネス場面での日本語表現を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
演習形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内での解説や個別対応による。必要な場合には資料を配布する。

■授業計画

概ね以下の内容で実施予定ですが、変更もあります。

- ①ビジネス会話の基本 (1) 自己紹介と日本の企業文化
- ②ビジネス会話の基本 (2) 社外での自己紹介
- ③ビジネス会話の基本 (3) 電話対応の基本
- ④ビジネス会話の基本 (4) 電話でのアポイント
- ⑤ビジネス会話の基本 中間テスト
- ⑥ビジネスの場に応じたコミュニケーション (1)
- ⑦ビジネスの場に応じたコミュニケーション (2)
- ⑧ビジネスの場に応じたコミュニケーション (3)
- ⑨ビジネスの場に応じたコミュニケーション (4)
- ⑩ビジネスの場に応じたコミュニケーション (5)
- ⑪ビジネスの場に応じたコミュニケーション 中間テスト
- ⑫ビジネス文書の基本 (1) メール
- ⑬ビジネス文書の基本 (2) 報告書
- ⑭ビジネス文書の基本 (3) 議事録
- ⑮期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
・日本社会や商習慣への理解を深め、インターンシップ、就職に必要な待遇表現の意味を理解できる。
・場面や相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
・メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を作成できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
DP1【専門知識・技能を活用する力】
DP2【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

- ・課題・小テスト・授業への積極的な参加 40%
- ・中間テスト 20%
- ・期末テスト 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『上級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語』村野節子・山辺真理子・向山陽子著 (スリーエーネットワーク)

【参考文献】
『新・にほんご敬語トレーニング』(ASK)
『マンガで体験! にっぽんのカイシャ〜ビジネス日本語を实践する〜』(日本漢字能力検定協会)
『中級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語』(スリーエーネットワーク)

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・日頃からニュース、新聞、インターネットなどにより、ビジネスの話題に関心を持つこと。
- ・授業前にテキストを読むこと、授業後に理解できなかったことを整理、復習すること。

【必要な時間】

- ・事前・事後学習ともに2時間を目安とする。

■その他

- * 留学生クラス（金庭担当）は履修条件があります。

科目名	日本文化論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

・「日本文化」とは何か？そしてそれを現在の我々が学ぶ意味はどこにあるのか？本講義はこのような問いをテーマとして、「日本文化を“学ぶ”」ではなく、「日本文化“とはなにか？”」について考えていくことを目的としている。

・本講義で重視するのは、国際的視点と学生の主体性である。日本の文化の大部分は、中国や朝鮮、ヨーロッパの強い影響を受けたものである。本授業では、このような世界史的観点から日本の文化を位置付け、双方向的視野や、国際交流の重要性について学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・講義形式。必要に応じ、アクティブラーニング

【ICT機器】…プロジェクターを使用し、画像、映像を使用。zoomなど(遠隔の場合)

【実務経験】…中学校の「社会」、高等学校の「日本史」、「世界史」での授業経験を一部使用。

【課題に対するフィードバックの方法】

・学生の課題、感想ペーパーなどに必要に応じ、コメントをつけて返却。

■授業計画

- ①ガイダンスー “日本文化、とは何か？
- ② “日本文化、を探す その1ー “ことば、
- ③ “日本文化、を探す その2ー “すがた、
- ④ “日本文化、を探す その3ー “ひと、
- ⑤日本文化の基層を探る その1ー古代における神と仏
- ⑥日本文化の基層を探る その2ー東大寺のお水取り
- ⑦日本文化の基層を探る その3ー絵巻物の歴史
- ⑧日本文化の基層を探る その4ー禅宗と日本文化
- ⑨日本文化の基層を探る その5ー東アジアのなかの文化
- ⑩日本文化の基層を探る その6ー京都の文化
- ⑪ “日本の伝統文化、を考える その1ー “鎖国、とは何か
- ⑫ “日本の伝統文化、を考える その2ー東アジアの陶磁器流通と日本
- ⑬ “日本の伝統文化、を考える その3ー東アジア国際情勢のなかの “日本文化、
- ⑭ “日本の伝統文化、を考える その4ー “発見、される日本文化
- ⑮まとめー再び、 “日本文化、とは何か？

※感染症の状況などによる履修者の環境(遠隔か否か)により、講義の内容を変更する場合があります。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・日本文化に関する基本的な知識を習得するとともに、文化をみる目、調べる主体性などを身に付ける。
- ・日本文化が外部との交流の中で成立し、現在に至っているという国際的視野を持つ。
- ・自ら「日本文化とはなにか」について、「考える」ことが出来るようになる。
- ・また、日本語の構造、文字と表記についての理解を深める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ・DP1【専門知識・技能を活用する力】
- ・DP4【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

- ・各授業中に実施する課題…50%
- ・定期試験or学生が授業外で実施するレポートなどの課題…50%

※コピー、剽窃、虚偽の連絡、その他不正は、上記の評価と無関係に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中に指示する。

【参考文献】

- ・橋本雄『中華幻想』（2011年、勉誠出版社）。
- ・荒野泰典『「鎖国」を見直す』（2019年、岩波書店）。
- ・村井章介『東アジアのなかの日本文化』（2021年、北海道大学出版会）。

- ・『少年少女 マンガ 日本の歴史1～21、ほか』（1998年、小学館）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・各回、4時間程度。
- ・「問い」を立ててもらおう。また、講義の予習、復習など。
- ・配布したプリント及び授業中に提示した課題については、各自、事前事後に図書館などを使用して期日までにまとめておくこと。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・コピー、出席の不正、虚偽の連絡、その他、講義者が不正と判断した行為については、厳正に対処する。
- ・感染症の状況に応じて、授業内容をシラバスから変更する場合がある。その場合も到達目標は変らない。

科目名	芸術論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

本講義では、アートを通して教養を養うことを目指す。西洋ビジュアルアートの歴史と発展を背景に、紀元前5世紀のギリシャアートから17世紀のネーデルランド地方のバロックアートの代表的なアーティストと作品を紹介する。人間は、なぜ「美の世界」にあこがれているか、芸術はどんな役割を持っているか、アーティストがどんなことを求めて作品作成に向かっているかという問題を解きながらアートに対する理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ① 教員はパワーポイントを中心とした講義をする。
- ② 学生はノートを取り、毎回の小テストをオンラインで撮る。
- ③ 宿題・課題の場合は、自ら調べた後サマリーを書く・オンラインで答える。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中に学生が書いたコメントを教員がチェックし、評価する。
毎回の小テストは評価され、結果は学生に知らされる。

■授業計画

- ①オリエンテーションⅠ・ポップアートとハイパーリアリズムについて
- ②オリエンテーションⅡ・評価システム・マナバを使って授業のパワーポイントやプリントを使って復習する方法の説明・期末テストや課題について
- ③古代ギリシャ、西洋芸術・民衆や美のコンセプト・オリンピックの始まり
- ④古代ギリシャから西洋建築の基本となったパルテノン神殿・メトープ
- ⑤古代ギリシャ、パルテノン神殿の中、フリーズ、アテナ・パルテノス増
- ⑥古代ローマの建築的な発見や「美」と「実」の融合
- ⑦中世・Carolingian ルネサンスとヨーロッパの国々づくりの背景
- ⑧中世・ロマネスク、修道院の文化・手書きの本
- ⑨中世・ゴシック、大聖堂の文化・騎士道
- ⑩ルネサンスの線遠近の発展（学生と一緒に描く）
- ⑪サイエンティフィック遠近法と芸術発展に対してのインパクト（レオナルド）
- ⑫レオナルドダヴィンチの傑作：「最後の晩餐」と「モナリサ」
- ⑬ミケランジェロの彫刻に対するアプローチ
- ⑭講義内容の復習
- ⑮期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】芸術に関心をもって、教養知識を取得。歴史的な背景を学びながら建築、絵画、彫刻の分野での偉大な作品に触れる。学習者として観察力や分析ができるスキルを養う。基盤となっているパースペクティブルールを学ぶ。アートを通して西洋思想の理解が深まる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】専門知識の取得と同時にアートに対する興味や理解を深めることを到達目標とする。

DP1 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

授業の15回目後、筆記試験がある（期末試験）。

毎回の小テスト	30%
期末テスト	60%
課題	10%

アクティブ参加/発言 オプションポイント可能

■テキスト・参考文献

【テキスト】
テキストありませんが参考文献を紹介する。毎回の授業でプリントを配布する。すべての講義のパワーポイントはFileSIUなどに入れて、pdfファイルを見ることができる。復習をするとき、または欠席した場合は、講義のパワーポイントを各自で見つめて読むようにする。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
授業中は学生の発言が評価される。授業内容に関する発言が求められるので、学生がオプションポイントを稼ぐことができる。また授業で紹介されるアーティスト、背景にあった歴史的な出来事について自ら調べをお勧めする。課題は主に復習として出される。新たな知識が多くなるので配布資料をベースに復習を行う。

【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業のテーマに関連する書物を読み、テレビの教育番組を参考し、美術館やギャラリーで多くの作品に触れることをお勧めする。

科目名	芸術論[英語による授業]
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

The aim of this course [芸術論(英語による授業)] is to introduce you to the history and development of western visual art ranging from Greek art (500 BC) to Baroque in the Netherlands (1600 AD~), and at the same time to give you an opportunity to enhance your English skills. Students, who want to advance in English and learn about art are welcome to this course. The contents are the same as in the 芸術論, but the lectures are given in English.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

1. Instructor: Lecture style, PowerPoint presentations (possibly online)
2. Students: Take notes, write comments, take active participation during the lecture by asking and answering questions, taking short tests online
3. Assignments: researching subjects related to lectures and writing short essays. Also answering additional questionnaires

【課題に対するフィードバックの方法】

The instructor will evaluate your comments on Chat, and the short test answers. Students can get a feedback/evaluation for the short tests on Manaba.

■授業計画

- ①Orientation: a demo lecture on pop-art, hyperrealism and trends in visual arts
- ②Guidance on final exam, evaluation, and a second lecture on hyperrealism
- ③Greek art of the Golden Age (BC 5) its impact on Western art & Olympic Games
- ④Greek art of the Golden Age/western concept of Absolute Beauty and Proportions in art / Parthenon outside - metopes and mythology
- ⑤Greek art of the Golden Age/architectural orders/Parthenon/statue of Atena and Elgin marbles dispute
- ⑥Art of the Roman Republic & Empire. Concepts of Utility/art & architecture
- ⑦ Middle Ages. The Carolingian Renaissance and creation of the first European countries
- ⑧Romanesque architecture, manuscripts and monastery culture
- ⑨Gothic architecture, cathedrals and chivalry
- ⑩Scientific linear perspective development in Renaissance Italy
- ⑪Renaissance man/his impact in the field of art and science/"Vitruvian man"
- ⑫Leonardo da Vinci/ use of perspective in "The last supper" and "Mona Lisa"
- ⑬Michelangelo di Buonarrotti and his approach to sculpture and painting
- ⑭Course review
- ⑮Final test

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

You will learn how to look at visual art, increase your knowledge, and appreciate reproductions of significant works of art. Our Goals are to:

1. study range of art and architectural works within historical and cultural contexts.
2. become familiar with several significant works of art
3. learn fundamentals of perspective drawing

【卒業認定・学位授与の方針との関連】 The aim is to develop skills in visual observation and analysis, and get a general understanding of the concepts of western philosophy through the experience with western visual art

DP1 **【専門知識・技能を活用する力】**

■成績評価基準と方法

Final Test 60%
Short tests: 30%
Active participation: 10%
There are optional points to earn during the lecture for active students.

■テキスト・参考文献

【テキスト】 There is no textbook, but the text and/or references will be provided by the instructor in form of handouts on Manaba. The PowerPoint presentations of each lecture will be available for reviewing on Manaba system.

【参考文献】

History & Art books relevant to the period compatible with the lectures

■授業外学習

【具体的な内容】

The following is suggested: Reading appropriate books on art, watching educational programs and reviewing notes taken during lectures. Students not familiar with the subject should review notes on daily basis.

【必要な時間】 About 2 hours of reviewing the subject (before and after the lecture) is strongly advised.

■その他

A dictionary may help you with the new vocabulary.

科目名	北海道の自然
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	荒井 三津子

■講義の目的および概要

北海道の雄大な自然を求めて、国内外から大勢の観光客が訪れる。特異な歴史と豊かな食文化も大きな魅力となり、北海道の自然は重要な観光資源になっている。本科目では、北海道の地質環境や気候、生態系と農業、水産業、酪農、食文化などを学び、観光資源としての北海道の自然について理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布し、講義形式で行う。毎回パワーポイントを利用し、視覚的な理解と考察を深める。テーマに沿った課題の提出と小レポートを講義中に書くことで、能動的な学習を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

北海道の魅力を探ることを目的としているため、複数回レポートを提出してもらおうが、そのつど授業内で各自の疑問点や提案をとりあげて解説し、問題意識を共有できるようにする。

■授業計画

- ①ガイダンス ー北海道についてどれだけ知っていますか？ー
- ②北海道の地形となりたち ーマンモスはいたのかー
- ③北海道の山脈と火山 ー美しい自然と豊かな大地はいかにしてできたのかー
- ④北海道の川と湖 ー青池はなぜ美しいのかー
- ⑤北海道のいきものたち ー気候と地形といきものたちー
- ⑥クマ学入門 I ークマから学ぶ自然と文化ー
- ⑦クマ学入門 II ークマとシカとオオカミの関係ー
- ⑧北海道の気候と雪 ー雪はなぜ降るのか・雪の結晶はなぜできるのかー
- ⑨北海道の気候と農業 ー開拓と米づくりの歴史ー
- ⑩北海道の農業と酪農 ー観光資源としての農業と酪農ー
- ⑪北海道の水産業の現状と未来 ー歴史を学び未来を考えるー
- ⑫サケ学入門 I ーサケの仲間と生態系ー
- ⑬サケ学入門 II ーサケの回遊と食料問題ー
- ⑭昆布学入門 ー北前船が果たした役割・生態系と昆布の関係ー
- ⑮北海道の自然と生活文化 ー人はなぜそこに行くのか・そこに住むのかー

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光ビジネスだけでなく、教育や営業等の実務においても必要な北海道に関する幅広い知識を身につけることができる。理系文系の枠を超えた学際的な考え方と興味の持ち方を習得できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

小テスト 40%
レポート 60% (2回程度実施予定)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

【参考文献】

「サケ学入門ー自然史・水産・文化ー」阿部ほか著 北海道大学出版会
「ヒグマ学入門ー自然史・文化・現代社会ー」天野ほか著 北海道大学出版会

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回、前回の講義に関する質問を行うので、必ず前回使用したプリントや講義中にとったノートの重要事項を復習すること。次回の予告に合わせた予習も含め、予習復習を2時間程度行うことを目安とする。また、北海道に関するあらゆるニュースに関心を持ち、得た情報を講義中に発表できるよう積極的に日々学習すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

配布した資料は毎回必ず持参し、ノートも用意すること。課題やレポートの発表、および意見を求められた時は、積極的に発言することを希望する。

科目名	キャリアデザイン I [スピ]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	樋原 智恵

■講義の目的および概要

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけます。M. ポーターの競争戦略論からトレードオフを学び、その競合優位性を確固たるものとしている実践例や、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。この学びから広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式とともに個人ワーク、さらに課題解決型授業 : Project Based Learning (PBL) を行います。与えられた課題をクリアするために、チーム活動に必要なスキルを理解し、さらに課題解決のために必要な知識を得るために、どんなことを学ぶべきかを自ら考えてもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション (授業内容、評価方法他)
- ②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭になぶ仕組み、需要と供給 B2BとB2Cを理解する
- ③業界の仕組み (1) (建設、不動産、金融)
- ④業界の仕組み (2) (自動車、食品、小売・流通)
- ⑤業界の仕組み (3) (北海道の農業団体、漁業団体、北海道の農業5団体中央会 : ホクレン、信連、共済連、厚生連)
- *オンデマンド授業
- ⑥業界の仕組み (4) (マスコミ・情報通信)
- ⑦業界の仕組み (5) 業界プレゼンテーション
- ⑧M. ポーターの競争戦略 (1)
- ⑨M. ポーターの競争戦略 (2)
- ⑩M. ポーターの競争戦略 (3) 事例研究
(ニトリ、ユニクロ、シマムラ、スタバ、ガリバー、LCCほか多数の事例を参考にしながらM. ポーターの競争戦略論を理解していきます)
- ⑪PBL I (企業におけるトレードオフを視点の調査研究。情報収集)
11回から13回までチーム活動による実社会で実践されているトレードオフについて調査研究を実施します。
- ⑫PBL II (トレードオフ実践のプレゼンテーション資料作成と準備①)
- ⑬PBL III (トレードオフ実践のプレゼンテーション資料作成と準備②)
- ⑭調査研究プレゼンテーション I
- ⑮調査研究プレゼンテーション II

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
- ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
- ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
(DP3) 【課題を発見し、解決する力】
(DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- 毎時レポート (50%)
M. ポーター競争戦略論の理解度 (20%)
調査研究報告書およびプレゼンテーション (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストなし。

講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

- ①' 22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ マイケル E. ポーター（著）、竹内弘高（翻訳）、DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部（翻訳）
- ③ [エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ（著）、櫻井祐子（著）、櫻井 祐子（翻訳） 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけてください。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がります。能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

科目名	キャリアデザイン I [ス指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

テーマ：業界や企業を多角的に見る習慣を身に付ける（ベースとしてM. ポーターの競争戦略論を修得します）

講義の目的および概要

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors=事業成功の主要因、特にM. ポーターの競争戦略論からトレードオフをまなびます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとするトレードオフを実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors=事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning (PBL)、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス（業界とは？、分析の視点、情報収集方法）
- ②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭と並ぶ仕組み、需要と供給 B2BとB2Cを理解する
- ③建設業界、不動産業界の仕組みを理解する
- ④自動車業界、食品業界の仕組みを理解する
- ⑤北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する
- 北海道の農業5団体の仕組み（中央会、ホクレン、信連、共済連、厚生連）
- ⑥金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する
- ⑦マスコミ・情報通信業界の仕組みを理解する
- ⑧M. ポーターの競争戦略（1）
- ⑨M. ポーターの競争戦略（2）
- ⑩M. ポーターの競争戦略（3）事例研究
（ニトリ、ユニクロ、シマムラ、スタバ、ガリバー、LCCほか多数の事例を参考にしながらM. ポーターの競争戦略論を理解していきます）
- ⑪PBL（企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究）
グループワークにより実社会で実践されているトレードオフについて調査研究します。
- ⑫PBL（企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成）
グループワークにより実社会で実践されているトレードオフについて調査研究します。
- ⑬PBL（企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成）
グループワークにより調査研究報告書を作成します。
- ⑭調査研究報告書の発表（グループ発表）
調査研究結果をPPTなどを用いて発表します。
- ⑮調査研究報告書の発表（グループ発表）
調査研究結果をPPTなどを用いて発表します。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
- ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
- ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の3つの力の修得を目指します。

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

講義内小テストおよびレポート (50%)
M. ポーター競争戦略論の理解度 (20%)
調査研究報告書および発表 (30%)

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

- ①22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論 I・II マイケル E. ポーター (著), 竹内弘高 (翻訳), DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (翻訳)
- ③[エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ (著), 櫻井祐子 (著), 櫻井 祐子 (翻訳) 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習**【具体的な内容】**

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリアデザイン I [臨床]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors=事業成功の主要因、特にM. ポーターの競争戦略論からトレードオフをまなびます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとするトレードオフを実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors=事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning (PBL)、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス (業界とは?、分析の視点、情報収集方法)
- ②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭に並ぶ仕組み、需要と供給B2BとB2Cを理解する
- ③建設業界、不動産業界の仕組みを理解する
- ④自動車業界、食品業界の仕組みを理解する
- ⑤北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する
- ⑥金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する
- ⑦マスコミ・情報通信業界の仕組みを理解する
- ⑧M. ポーターの競争戦略 (1)
- ⑨M. ポーターの競争戦略 (2)
- ⑩M. ポーターの競争戦略 (3) 事例研究
- ⑪PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究)
- ⑫PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
- ⑬PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
- ⑭調査研究報告書の発表 (グループ発表)
- ⑮調査研究報告書の発表 (グループ発表)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
- ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
- ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 講義内小テストおよびレポート (50%)
- M. ポーター競争戦略論の理解度 (20%)
- 調査研究報告書および発表 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

- ①' 22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論 I・II マイケル E. ポーター (著), 竹内弘高 (翻訳), DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (翻訳)
- ③ [エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ (著), 櫻井祐子 (著), 櫻井 祐子 (翻訳) 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリアデザイン I [現文]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	樋原 智恵

■講義の目的および概要

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけます。M. ポーターの競争戦略論からトレードオフを学び、その競合優位性を確固たるものとしている実践例や、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。この学びから広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式とともに個人ワーク、さらに課題解決型授業 : Project Based Learning (PBL)を行います。与えられた課題をクリアするために、チーム活動に必要なスキルを理解し、さらに課題解決のために必要な知識を得るために、どんなことを学ぶべきかを自ら考えてもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション (授業内容、評価方法他)
- ②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭になぶ仕組み、需要と供給 B2BとB2Cを理解する
- ③業界の仕組み (1) (建設、不動産、金融)
- ④業界の仕組み (2) (自動車、食品、小売・流通)
- ⑤業界の仕組み (3) (北海道の農業団体、漁業団体、北海道の農業5団体中央会 : ホクレン、信連、共済連、厚生連)
- *オンデマンド授業
- ⑥業界の仕組み (4) (マスコミ・情報通信)
- ⑦業界の仕組み (5) 業界プレゼンテーション
- ⑧M. ポーターの競争戦略 (1)
- ⑨M. ポーターの競争戦略 (2)
- ⑩M. ポーターの競争戦略 (3) 事例研究
(ニトリ、ユニクロ、シマムラ、スタバ、ガリバー、LCCほか多数の事例を参考にしながらM. ポーターの競争戦略論を理解していきます)
- ⑪PBL I (企業におけるトレードオフを視点の調査研究。情報収集)
11回から13回までチーム活動による実社会で実践されているトレードオフについて調査研究を実施します。
- ⑫PBL II (トレードオフ実践のプレゼンテーション資料作成と準備①)
- ⑬PBL III (トレードオフ実践のプレゼンテーション資料作成と準備②)
- ⑭調査研究プレゼンテーション I
- ⑮調査研究プレゼンテーション II

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
- ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
- ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- 毎時レポート (50%)
- M. ポーター競争戦略論の理解度 (20%)
- 調査研究報告書およびプレゼンテーション (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

- ①' 22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ マイケル E. ポーター (著), 竹内弘高 (翻訳), DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (翻訳)
- ③ [エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ (著), 櫻井祐子 (著), 櫻井 祐子 (翻訳) 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけてください。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がります。能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

科目名	キャリアデザイン I [観光]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	平塚 彰

■講義の目的および概要

業界や企業を多角的に見る習慣を身に付ける
(ベースとしてM.ポーターの競争戦略論を修得します。)

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors=事業成功の主要因、特にM.ポーターの競争戦略論からトレードオフをまなびます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとするトレードオフを実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors=事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning (PBL)、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス (業界とは?、分析の視点、情報収集方法)
- ②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭に並ぶ仕組み、需要と供給 B2BとB2Cを理解する
- ③建設業界、不動産業界の仕組みを理解する
- ④自動車業界、食品業界の仕組みを理解する
- ⑤北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する
- ⑥北海道の農業5団体の仕組み (中央会、ホクレン、信連、共済連、厚生連)
- ⑦金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する
- ⑧マスコミ・情報通信業界の仕組みを理解する
- ⑧M.ポーターの競争戦略 (1)
- ⑨M.ポーターの競争戦略 (2)
- ⑩M.ポーターの競争戦略 (3) 事例研究
(ニトリ、ユニクロ、シママラ、スタバ、ガリバー、LCCほか多数の事例を参考にしながらM.ポーターの競争戦略論を理解していきます)
- ⑪PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究)
グループワークにより実社会で実践されているトレードオフについて調査研究します
- ⑫PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
グループワークにより実社会で実践されているトレードオフについて調査研究します
- ⑬PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
グループワークにより調査研究報告書を作成します
- ⑭調査研究報告書の発表 (グループ発表)
調査研究結果をPPTなどを用いて発表します
- ⑮調査研究報告書の発表 (グループ発表)
調査研究結果をPPTなどを用いて発表します

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
- ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
- ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- ④自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の3つの力の修得を目指します。

- (DP2) 「コミュニケーション能力」
- (DP3) 「課題を発見し、解決する力」
- (DP5) 「能動的に学び続ける力」

■成績評価基準と方法

講義内小テストおよびレポート（50%）
M. ポーター競争戦略論の理解度（20%）
調査研究報告書および発表（30%）

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

- ①' 22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論Ⅰ・Ⅱ マイケル E. ポーター（著）、竹内弘高（翻訳）、DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部（翻訳）
- ③ [エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ（著）、櫻井祐子（著）、櫻井 祐子（翻訳） 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリアデザイン I [子心]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

どの業界、どの企業にも強みと弱みがあります。この講義を通して業界や企業を調査、分析する習慣を身につけていきます。企業のKey Success Factors=事業成功の主要因、特にM. ポーターの競争戦略論からトレードオフをまなびます。すなわち競合他社が「捨てられない何か」を捨てること、言い換えると一方を選択して他方を犠牲にすることで競合優位性を確固たるものとするトレードオフを実践し、事業成功を成し遂げている企業を調査・分析して調査研究報告書にまとめます。企業の強み、Key Success Factors=事業成功の主要因を理解し就職活動に臨むことで、広い視野、多角的な視点からより現実的に就職をとらえることができます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は講義とともに個人ワークが中心となりますが、後半はアクティブラーニングの一手法であるProject Based Learning (PBL)、いわゆる課題解決型授業を行います。与えられた課題をクリアするためには、どんな知識が必要か、その知識を得るためにはどんなことを学ぶべきかを自ら考え各方面からアプローチします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス (業界とは?、分析の視点、情報収集方法)
- ②産業界の全体像、産業の仕組みの基本、商品が店頭に並ぶ仕組み、需要と供給 B2BとB2Cを理解する
- ③建設業界、不動産業界の仕組みを理解する
- ④自動車業界、食品業界の仕組みを理解する
- ⑤北海道の農業団体、漁業団体の仕組みを理解する
- ⑥金融業界、小売・流通業界の仕組みを理解する
- ⑦マスコミ・情報通信業界の仕組みを理解する
- ⑧M. ポーターの競争戦略 (1)
- ⑨M. ポーターの競争戦略 (2)
- ⑩M. ポーターの競争戦略 (3) 事例研究
- ⑪PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究)
- ⑫PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
- ⑬PBL (企業におけるトレードオフを視点に企業の調査研究報告書作成)
- ⑭調査研究報告書の発表 (グループ発表)
- ⑮調査研究報告書の発表 (グループ発表)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業界研究のポイントを知り、キャリア設計に活かすことができる。
 - ②多様な情報を得て興味・関心を広げ、将来のキャリアを柔軟に考えることができる。
 - ③自らのキャリアを拓く意欲をもち、就職活動に向けて目標を明確にし、計画を立て、それを行動に移すことができる。
- 自らの課題に計画的に取り組み、必要な知識、技能、能力の養成に継続して取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力 (DP3) 課題を発見し、解決する力 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

講義内小テストおよびレポート (50%)
M. ポーター競争戦略論の理解度 (20%)
調査研究報告書および発表 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

- ①' 22-23 北海道の業界地図 北海道新聞社編
- ②[新版]競争戦略論 I・II マイケル E. ポーター (著), 竹内弘高 (翻訳), DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (翻訳)
- ③ [エッセンシャル版] マイケル・ポーターの競争戦略 ジョアン・マグレッタ (著), 櫻井祐子 (著), 櫻井 祐子 (翻訳) 早川書房
- ④ストーリーとしての競争戦略 楠木建 東洋経済新報社

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、業界や企業を多角的に見る習慣をつけていきます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動くことが必要となります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ1～2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリアデザインⅡ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

1年次のキャリア形成論が座学中心の基礎編だとすれば、2年次のキャリアデザインⅠ・Ⅱは課題解決型の応用編です。社会では様々な問題に向き合うことになります。そのためには思考力や情報収集力、行動力などあらゆる能力が問われます。協働においては協調性が問われ、エンドユーザーに対しては交渉能力も必要とされます。本科目では調べて終わりという調べ学習ではなく、課題を発見し、その課題を解決するところまでを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義、ディスカッション、グループワーク、ディベート、プレゼンテーションなどあらゆる要素が盛り込まれます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、フィードバックについても授業内に直接行います。

■授業計画

概ね以下のテーマを扱います。

※予告なく内容が変わる場合もあります。

1. ガイダンス（講義内容、進行、評価などの説明）
2. 企業改善プロジェクト（プロジェクトの説明、グループワークの進め方、企画立案・提案書作成の仕方、発表の仕方、中間報告の意味、グループ分け）
3. 企業紹介-I（研究対象企業紹介～有意義な発表に向けて研究シート作成）
4. 企業紹介-II（各社による自社紹介～研究対象企業割当発表 ※抽選）
- 5～6. 協働作業
7. 中間報告
- 8～9. 協働作業
10. 発表
11. 全体発表（学科対抗）
12. 課題発見・解決スキル-I（事例紹介）
13. 課題発見・解決スキル-II（インターンシップ、就職活動との関係性）
14. 社会人による講話（「私のキャリア～V字回復した経験」）
15. 授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ニューノーマル時代における企業・団体の課題を発見し、課題を解決する能力を身につけます。その過程において数的処理と向き合うことにより、数字に対する苦手意識を克服します。また協働作業のなかで自分の役割を理解し、その任務を果たすことができるようになります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①発表（60%）
- ②授業内課題（20%）
- ③授業内試験（20%）を総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【参考文献】

北海道の業界地図

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

日頃からインターネットや新聞、テレビのニュース番組などで時事問題に触れ、世の中の出来事に関心を抱いてください。大学は自ら学ぶところです。わからないことがあれば放置せず、まずは「自分で調べる」習慣をつけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

講義ではなくグループワークが中心になるため、受け身の姿勢では単位取得が難しい授業です。協働の意味が問われます。

科目名	哲学[大学]
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	大小田 重夫

■講義の目的および概要

「哲学」とは、私たちが持っている常識的な知識をあえて問い直すことによって、固定化し狭量になりがちな思考と生活から抜け出し、よりよく生きようとするための営みである。本講義の目的は、過去の哲学者の実践例を学ぶことを通して、レベルの違いはあれ、哲学的思考を実践できるようになることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行う。講義ごとにプリントを配布し、そのプリントに従って様々な哲学の問題を紹介し、それらに対する哲学者の代表的な見解を解説する。また講義後、アンケートの機会を設け質問や意見を求め、次回講義時にフィードバックし共有を図る。

【課題に対するフィードバックの方法】

アンケートや中間テストを実施した際は、次回の講義内で解説、解答します。

■授業計画

- ①イントロダクション — 哲学とは何か
- ②西洋哲学の歴史（1）— 古代哲学の歴史
- ③西洋哲学の歴史（2）— 合理主義哲学の歴史
- ④「心」とは何か — 心身問題について
- ⑤西洋哲学の歴史（3）— イギリス経験論哲学とその言語観
- ⑥言葉と意味 — 現代哲学における言語論的転回について
- ⑦言葉と行為 — 言語行為論について
- ⑧「時間」とは何か — ベルクソンの時間論について
- ⑨「時間」と自由 — 自由であるとはどういうことか
- ⑩「私」とは何か — アイデンティティについて
- ⑪「他者」とは何か — 私たちにとって<他者>とはどのような存在か
- ⑫「行為」とは何か — カントの倫理学について
- ⑬「美」とは何か — カント哲学における「美」について
- ⑭「身体」とは何か — 心身問題について
- ⑮西洋哲学の歴史（4）— 反合理主義の哲学

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

以下の3点を目標とする。

1. 哲学の代表的な問題について知る。
2. 自分が共有できる問題を積極的に見つける。
3. 考えたことを理論的に文章化できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

定期試験：60%

授業期間内試験：30%

提出物（講義のアンケート）：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用しない。プリントを配布します。

【参考文献】

授業内で紹介し、参考資料等は適宜、配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心を持ったテーマや哲学者に関する本を見つけて読んでみる。また毎回の講義後、書き留めたノートや資料を見返すこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

受講にあたって哲学の予備知識はいっさい必要ありませんが、積極的な授業参加を希望します。

科目名	哲学[大学]
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	大小田 重夫

■講義の目的および概要

「哲学」とは、私たちが持っている常識的な知識をあえて問い直すことによって、固定化し狭量になりがちな思考と生活から抜け出し、よりよく生きようとするための営みである。本講義の目的は、過去の哲学者の実践例を学ぶことを通して、レベルの違いはあれ、哲学的思考を実践できるようになることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行う。講義ごとにプリントを配布し、そのプリントに従って様々な哲学の問題を紹介し、それらに対する哲学者の代表的な見解を解説する。また講義後、アンケートの機会を設け質問や意見を求め、次回講義時にフィードバックし共有を図る。

【課題に対するフィードバックの方法】

アンケートや中間テストを実施した際は、次回の講義内で解説、解答します。

■授業計画

- ①イントロダクション — 哲学とは何か
- ②西洋哲学の歴史（1）— 古代哲学の歴史
- ③西洋哲学の歴史（2）— 合理主義哲学の歴史
- ④「心」とは何か — 心身問題について
- ⑤西洋哲学の歴史（3）— イギリス経験論哲学とその言語観
- ⑥言葉と意味 — 現代哲学における言語論的転回について
- ⑦言葉と行為 — 言語行為論について
- ⑧「時間」とは何か — ベルクソンの時間論について
- ⑨「時間」と自由 — 自由であるとはどういうことか
- ⑩「私」とは何か — アイデンティティについて
- ⑪「他者」とは何か — 私たちにとって<他者>とはどのような存在か
- ⑫「行為」とは何か — カントの倫理学について
- ⑬「美」とは何か — カント哲学における「美」について
- ⑭「身体」とは何か — 心身問題について
- ⑮西洋哲学の歴史（4）— 反合理主義の哲学

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

以下の3点を目標とする。

1. 哲学の代表的な問題について知る。
2. 自分が共有できる問題を積極的に見つける。
3. 考えたことを理論的に文章化できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

定期試験：60%

授業期間内試験：30%

提出物（講義のアンケート）：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用しない。プリントを配布します。

【参考文献】

授業内で紹介し、参考資料等は適宜、配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心を持ったテーマや哲学者に関する本を見つけて読んでみる。また毎回の講義後、書き留めたノートや資料を見返すこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

受講にあたって哲学の予備知識はいっさい必要ありませんが、積極的な授業参加を希望します。

科目名	文学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	武井 昭也

■講義の目的および概要

文学は、失われてしまった至福の一体感、到達感を我々に与えてくれる祝祭的異次元空間の一つである。文学作品を読む醍醐味は非日常的体験の享受にあるという考えを根底に据え、神話からSFまで、国や時代、ジャンルにこだわらずいろいろな作品を扱い、原型←→類型←→個別作品と、融通無碍に話題にしたい。人は様々な自己を表現する。あるいはそのように表現されたものを通して自己以外の存在を知ろうとする。自己と他者、自己と世界の繋がりが様々な表現されて人間世界は成り立っているが、文学は言語を通して自己を表現する、あるいは世界を映す卓越した表現形式である。映像とともに人間と文学の関わり、文学の魅力を考える。歴史軸と地理軸をベースに人間の営みを俯瞰し、現代社会に通じる営みから幸福や平和、家族愛、悲嘆、憎しみ、祈りなど文学諸相から伝わる思いを共有する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

指定の作品を事前に読んで臨むことを想定し解説する。また、関連する映像により視点を変え、視野の広がりを期待する。出席者からの質問、意見を尊重し、正解のない人生について様々な考える時間としたい。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の感想用紙を紹介し補足する。また、質問や要望を反映して意見交換する内容を各自が咀嚼して最終提出課題に反映させ整理する。

■授業計画

- ①オリエンテーション 文学とは
- ②夢見る力・口承文学「オイディプス王」
- ③初恋のせつなさ「鮎」人生のはかなさ「老妓抄」
- ④小市民の幸福—0・ヘンリー「賢者の贈り物」
- ⑤不条理の悲しみ「ごんぎつね」純愛「クロコダイルとイルカ」
- ⑥中国文学の魅力—劉慈欣「三体」・李商隱「無題詩」
- ⑦明治の苦悩—森鷗外「舞姫」
- ⑧語り手は葛藤する—太宰治「人間失格」「津軽」
- ⑨韻文の魅力—万葉集・小倉百人一首・原爆詩
- ⑩人生の悔恨—カズオ・イシグロ「日の名残り」
- ⑪北海道と文学—三浦綾子・知里幸恵
- ⑫読書の楽しみ—ヘレン・ハンフ「チャリング・クロス街84番地」
- ⑬政治と文学—三島由紀夫「憂国」
- ⑭現代社会を見る—村上龍「希望の国のエクソダス」
- ⑮まとめ・授業内試験（テーマに基づく自由記述）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テキストを数作品消化し、文学史の教養を身につけ、現代のコンテキストに置き換え再利用できる応用的知性を獲得する。また現在の状況に至った歴史的因果を理解して、政治や社会情勢を読み解くリテラシーを高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回の感想 40%
授業内課題 20%
最終レポート40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

manaba上で資料配付。

【参考文献】

その都度紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予告した本を読んで授業に臨めば、3倍楽しめる。また質問を用意してくると、実質個別指導を得られる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	心理学
開講期・単位	3年 春秋学期・選択 2単位・講義
担当者	岡田 美恵子

■講義の目的および概要

心理学の入門の授業である。心理学の各分野の基礎知識を学びながら、心理学的な見方や考え方を習得することを目指している。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントを使用しながら授業を展開する。必要に応じて、授業内容に関連する視聴覚教材を使用する。心理学の考え方を理解するために、簡単な実験や調査を実施することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で返却、解説を行う。

■授業計画

身近な事例等を交えながら、概ね以下の分野に関連する講義を展開する予定である。進行状況や理解度によって扱う順序を変更したり、数週にわたって同テーマを展開したり複合的に扱うことがある。

1. オリエンテーション
2. 心理学って何だろう
3. 臨床の心理学
4. 感覚と知覚
5. 動機付け
6. 発達
7. 知覚
8. 認知
9. 性格
10. 学習
11. 記憶
12. 対人関係
13. 社会のなかの「こころ」
14. 関係とコミュニケーション 1
15. 関係とコミュニケーション 2

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 心理学の全体について基礎知識を獲得する。
2. 心理学的研究方法について理解し応用できる。
3. 日常生活の中に心理学的視点を持ち、社会事象や他者、自分自身について心理学的探求をし理解を深める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

リモート授業の場合—小テスト(60%)、最終試験(40%)で評価する。

対面・ハイブリッド授業の場合—小テスト(60%)、期末定期試験(40%)で評価する。

* 提出物の締切後の提出は減点になるので注意すること。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

図書やWebを活用し、興味や関心のある心理学のトピックスについて学習すること

- 。授業中に得た知識を定着させるため復習を行うこと。

【必要な時間】

予習・復習はそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

科目名	経済学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	森 邦恵

■講義の目的および概要

皆さんは、経済学についてどのようなイメージを持っていますか。「経済」というと遠い世界の話と思われるかもしれませんが、子供からお年寄りまで全ての人々が関わる生活の基盤といえます。主要産業のことだけではなく、人間関係をはじめ、ボランティア活動や、お年寄りの介護、教育支援なども全て経済学の範疇です。

本講義では、経済学の世界を紹介するとともに、皆さんの住んでいる北海道という地域を例にして、問題点や解決方法を探ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

遠隔授業による講義です。毎回、講義内容の確認を兼ねた課題提出（300字以上の文章作成）があります。さまざまな社会問題を経済学の視点で考えると、どうなるのか。履修学生には課題において解決方法のアイデアを出してもらい、都度紹介しながら、一緒に何が問題なのかを考えます。経済学を身近に感じてもらえるような授業とします。

講義内容は、様々なテーマを教員独自に再構成しています。実際の教員の経験や新聞などの記事などから、具体的な事例を多く紹介し多面的に検証していきます。以上のことから、講義に即した指定の教科書がありませんので、出席を怠らないようにしてください。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①イントロダクション 経済学の紹介
- ②経済学の世界（1）～経済って何？
- ③経済学の世界（2）～経済と幸せ
- ④経済学の世界（3）～財とサービス
- ⑤経済学の世界（4）～利己的と利他的
- ⑥経済学の世界（5）～需要と供給・市場均衡
- ⑦経済学の世界（6）～ここまでのまとめ・事例応用
- ⑧事例からみる経済（1）～北海道の地域
- ⑨事例からみる経済（2）～北海道の産業【1】
- ⑩事例からみる経済（3）～北海道の産業【2】
- ⑪事例からみる経済（4）～北海道の交通【1】
- ⑫事例からみる経済（5）～北海道の交通【2】
- ⑬事例からみる経済（6）～北海道の交通【3】
- ⑭事例からみる経済（7）～北海道の環境
- ⑮全体のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・経済学の内容に関する新聞やニュースを理解できるようになる
- ・データや資料の読み方について、理解が深まるようになる。
- ・自らの言葉を使って、地域の解決策を提案できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

毎回の提出物・課題：50%

最終レポート：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回資料を配布します。

【参考文献】

適宜指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業冒頭に、前回の課題・学生からのコメントを踏まえた解説をしますので、授業終了後も課題等において真剣に取り組むことを期待します。また、ネットでも構いませんから、時間があるときにニュースを見るように心掛けてください。授業の最後に、学生の皆さんに質問を投げかけますので、次の講義までに予習をしてくるとより理解が深まります。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

質問などは授業中に受け付けます。連絡先、方法の詳細については、授業の初回にお知らせします。

科目名	世界史
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、冷戦後に頻発する民族・地域・国家間対立などの遠因に、歴史的、文化的な意味が関連していることを理解してもらうためにある。そのために、比較文明論による枠組みとしての「文明」という単位を用いて、世界の歴史を説明する方法をとる。

講義では、現存する「文明」内の過去の出来事だけを取り扱うわけではない。現存の「文明」の素となった過去の「文明」の主な出来事、性質についても取り上げる。そして、そのことから、過去の「文明」が現存の「文明」にも影響を与えていることを認識してもらうつもりである。(現存の「文明」に影響を与えていないものはとりあげない。)

高校までに学んできた「国家」という枠組みに基づく世界史、そのことによってなされた欧米中心の世界史とは異なる取りあげ方を予定である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

写真、その他資料を用いるが、基本的には内容説明を中心とした講義形式である。復習とイメージ作りのため、映像を用いることもある。

毎時の課題 (manabaの「小テスト」) を実施するが、時間の関係で宿題となることも多い。提出し忘れると評価に大きく影響する。また、欠席すると全体像を理解できなくなるため、定期テストにも影響するので注意すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、次時の講義で毎時解説するが、詳細はmanabaを通じてコメントし、フィードバックとする。

■授業計画

- ①ガイダンス、
文明の誕生前夜、都市革命による古代文明誕生1 (メソポタミア文明)
- ②都市革命による古代文明誕生2 (エジプト文明、クレタ文明)
- ③都市革命による古代文明誕生3 (インダス文明、古典中国文明)
- ④古代の諸文明から生まれた地中海での文明1 (シリア・ヘブライ文明)
- ⑤古代の諸文明から生まれた地中海での文明2 (古代ギリシア・ローマ文明)
- ⑥現存する主要文明1 (西欧文明)
- ⑦現存する主要文明2 (東方正教会文明)
- ⑧現存する主要文明3 (イスラーム文明)
- ⑨現存する主要文明4 (インド文明)
- ⑩現存する主要文明5 (中国文明、日本文明)
- ⑪西欧文明の拡大と他の主要文明との関係1
- ⑫西欧文明の拡大と他の主要文明との関係2
- ⑬西欧文明と他の主要文明との衝突1
- ⑭西欧文明と他の主要文明との衝突2
- ⑮文明間の衝突とフォルトライン

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①比較文明論に基づく「文明」という枠組みを理解できる。
- ②「文明」という枠組みを意識しながら現在の国際社会の諸問題を理解することができる。
- ③欧米中心の世界認識とは異なる、国際社会における多元性を理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- ①毎時の課題 (manabaの「小テスト」) 50%
※毎時の平均点
- ②定期テスト 50% (レジュメ等の持ち込み可)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・毎時のレジュメ、必要に応じた史料 配布

【参考文献】

- ・トインビー『歴史の研究』社会思想社
- ・ハンチントン『文明の衝突』集英社
- ・ハンチントン、鈴木主税訳『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書
- ・高校時代の世界史の教科書

■授業外学習

【具体的な内容】

- 予習として、高校時代の世界史の教科書をもう一度読んでくること。
- 復習として、各文明のおおよその地理的位置と各時代での主要な出来事を高校時代の世界史の教科書や資料集で確認しておくこと。
- 毎時の課題は、宿題になるケースが多々あるが、必ず期限内に行うこと。

【必要な時間】

- 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- 人類の歴史の全体像を捉えることになるので、近代になって、細かな部分が薄くなるが、別の角度からの歴史であるとしてとらえてもらいたい。
- 情報量が多いので、配布されたレジュメだけでは十分なスペースがないかもしれない。定期テストにむけて、ノートを作成し、テスト時にはそれを持参した方がよい。

科目名	日本史
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

- ・「なぜ」を中心に、歴史を通じ、「考える」ことを目的とする講義である。

【個別事象】

- ・「日本」の歴史を通史で学び、それを主体的に考えることを目的とする講義である。これを通じ、2023年の現在を生きる社会人としてふさわしい知識と自ら考える姿勢を身につける。
- ・3世紀～19世紀前半(古代～近世)の日本の歴史について、重要トピックを中心として、通時的に把握し、過去と現在の関係について、学生が主体的に学ぶことを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・講義形式。

【ICT機器】…プロジェクターを使用し、画像、映像を使用。zoomなど(遠隔の場合)

【実務経験】…中学校の「社会」、高等学校の「日本史」、「世界史」での授業経験を一部使用。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・学生の課題、感想ペーパーなどに必要に応じ、コメントをつけて返却する。

■授業計画

- ①ガイダンスー “なぜ日本史を学ぶのか?、”
- ②古代1 古墳時代ーなぜ古墳が造られるのか?
- ③古代2 飛鳥時代ーなぜ寺院が造られるのか?
- ④古代3 奈良時代ーなぜ皇位継承争いが発生するのか?
- ⑤古代4 平安時代 その1ーなぜ都は遷るのか?
- ⑥古代5 平安時代 その2ーなぜ年中行事が行われるのか?
- ⑦中世1 平安時代 その3ーなぜ「古代」と「中世」と区別されているのか?
- ⑧中世2 鎌倉時代 その1ーなぜ鎌倉幕府の成立年が変わるのか?
- ⑨中世3 鎌倉時代 その2ー中世の日本をどうとらえるか?
- ⑩中世4 南北朝時代ーなぜ天皇家は分裂したのか?
- ⑪中世5 室町時代ーなぜ「和室」が生まれたのか?
- ⑫近世1 戦国時代から江戸時代ーなぜ「中世」と「近世」が区別されているのか?
- ⑬近世2 江戸時代 その1ーなぜ生類憐みの令が出されたのか?
- ⑭近世3 江戸時代 その2ー江戸時代が現在の日本に与えた影響とは何か?
- ⑮まとめー現在における “なぜ日本史を学ぶのか?、”

※感染症の状況などによる履修者の環境(遠隔か否か)により、講義の内容や一部の授業名を変更する場合がある。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・大学生にふさわしい日本史の基礎知識を身に付け、専門的な知識にも触れ、それを現在の課題として問題意識を持ち、主体的に考えることが出来るようになる。
- ・学んだ知識をふまえ、自ら「考える」ことが出来るようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ・DP1「自文化と異文化を理解し発信することに関する知識・技能を修得し、活用することができる」

■成績評価基準と方法

- ・各授業中に実施する課題…50%(任意提出感想ペーパーなど、自由実施課題もここに含む)
- ・定期試験or学生が授業外で実施するレポートなどの課題…50%

※コピー、剽窃、虚偽の連絡、その他不正は、上記の評価と無関係に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中にレジュメを配布。

【参考文献】

『大学の日本史1～4』（2016年、山川出版社）
『少年少女 マンガ 日本の歴史1～21、ほか』（1998年、小学館）
石母田正『日本の古代国家』（2017年、岩波書店）
中央公論社『日本の歴史 1～26』（2005～06年、中央公論新）

【推奨文献】

『論点・日本史学』（2022年、ミネルヴァ書房）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・各回4時間程度の課題。講義内容に関する事前ないし、事後のまとめ、用意など。
- ・配布したプリント及び授業中に提示した課題については、各自、事前事後に図書館などを使用して期日までにまとめておくこと。

【必要な時間】

- ・履修者は授業時間外に図書館、文献を読む時間を考慮した授業時間登録をすること。
- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・コピー、出席の不正、虚偽の連絡、その他、講義者が不正と判断した行為については、厳正に対処する。

科目名	現代メディア論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	芳賀 恵

■講義の目的および概要

本講義は、メディアが発信する情報を取捨選択し使いこなす能力（メディア・リテラシー）を身につけることを目的とします。インターネットが普及した現代社会は情報へのアクセスが容易になる一方、情報が膨大であるがゆえにメディア・リテラシーに格差が生まれやすい時代といえます。本講義では、新聞・テレビ・雑誌・インターネットなどの身近なメディアを題材に、社会・メディア・市民の關係に着目しながら、メディアとの接し方について考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

新聞・テレビのニュースやインターネット上の情報、各種広告などを題材に、基本的に講義形式で進めます。毎回の講義の最後に、その日のテーマに関連するワークシートの作成を課すとともに、必要に応じてグループワークや発表（プレゼンテーション）を取り入れ、能動的な学修を目指します。

道内放送局やオンラインメディアの記者・編集者としての実務経験のある教員が、ニュース取材や編集の知識を活かして、メディアの情報を適切に読み取り活用する力をつけるための講義を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出物（課題・ワークシート）は次回講義でフィードバックを行います。発表については講義内でコメントします。

■授業計画

- ①オリエンテーション ～メディアとは何か
- ②メディアの定義と歴史
- ③社会とメディア ～「出来事」が「情報」として発信されるプロセス
- ④メディア・リテラシー～情報の批判的分析と活用
- ⑤テレビニュースの裏側～放送メディアの特性、ニュースができるプロセス
- ⑥インターネット(1) ～ネットの普及にともなうメディア環境の変化
- ⑦インターネット(2) ～ソーシャル・メディアの可能性と課題
- ⑧スポーツとメディア ～スポーツ報道の特性
- ⑨ジェンダーとメディア～「女性像」の構築と広告の「炎上」
- ⑩北海道とメディア ～地域メディアの役割と課題
- ⑪ドキュメンタリー(1) ～番組内容の理解と考察
- ⑫ドキュメンタリー(2) ～送り手の意図と受け手の解釈
- ⑬写真が伝えるもの ～報道写真や広告写真のメッセージ
- ⑭文化の越境 ～国際的リメイク作品の事例
- ⑮全体のまとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①現代社会におけるメディアの役割と可能性、課題について理解することができる。
- ②メディアによって情報がどのように構築されるのかを知り、情報を批判的に読み解くことができる。
- ③情報を適切に取捨選択して解釈し、主体的に物事を判断することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

- 期末レポート：50%
課題および発表：20%
毎回の提出物（ワークシート）：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料（データまたは印刷物）を配布します。

【参考文献】

- 『大学生のためのメディアリテラシー・トレーニング』長谷川一・村田麻里子編著、三省堂
『現代メディア史 新版』佐藤卓己著、岩波書店
『ウェブ炎上—ネット群衆の暴走と可能性』荻上チキ著、ちくま新書
『炎上CMからよみとくジェンダー論』瀬地山角著、光文社新書

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：講義のテーマについて指示に従って予習し、気づいた点や不明点をまとめてください。

事後学習：課題に取り組むとともに、各回のテーマに関連する事例を新聞・テレビ・ネットなどから探してまとめてください。

また、ニュース記事をチェックする習慣をつけてください（インターネット上の閲覧も可）。

【必要な時間】

事前・事後の学習時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

講義の順序および内容は、受講人数などの状況により一部変更することがあります。

科目名	経営論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	芝野 隆

■講義の目的および概要

- ・「企業を経営するために必要なこと？」などについて基礎的な事項を理解する。
- ・有為な人材として社会で活躍するために必要な知識・スキル・技術を学ぶ。
- ・授業におけるグループワークでコミュニケーション力や主体性を開発する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・パワーポイントを使うことで要点を理解する講義方法を展開する。
- ・個人ワーク、グループディスカッションにより結論を出し発表を行う。
- ・グループワークで自己理解を深め、社会で活躍するための力に気づく。
- ・授業後の受講レポートで知識・スキル・技術を気づきとして定着させる

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス（講義内容、授業進行・方法、成績評価などの説明）
- ②企業や経営を考え、基礎的な企業の種類・違いなどを学ぶ
- ③経営に必要な資源を知り、求められる「ヒト＝人（材）」を理解する
- ④社会や経営に求められる人材としての「基礎的な力」を知る
- ⑤経営や仕事に必要な資源としての「モノ＝物」を考える
- ⑥実際の企業の事例から経営戦略における「モノ＝物」を考える
- ⑦経営や仕事で求められる「カネ＝金」の重要性を理解する
- ⑧更に近年の企業経営に必要とされる、その他の資源を考える
- ⑨経営資源の「ジカン＝時間」で問われる優先順位などを考える
- ⑩生産性について考え、グループワークでPDCAを実践してみる
- ⑪企業経営で重視される「ジョウホウ＝情報」と収集の仕方を学ぶ
- ⑫事例から収集した情報をどのように分析するのかを実践してみる
- ⑬事例から重要な要素の「ギジュツ＝技術（知的資産）」を整理する
- ⑭筆記試験および解説
- ⑮授業全体の振り返り・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・企業経営とは？を考え、必要な基礎的な知識を修得する。社会に必要な基本的な力を活用できるようになる。
- ・個人ワークで自分の考えをまとめ、グループでのディスカッションやワークで整理し、クラス共有を通して主体性の発揮やプレゼンテーションができるようになる。
- ・授業での事例研究を通して情報を収集・分析し、結論を導き出すために必要な論理的な思考ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

- ・各授業のレポートの提出回数と内容（学びと気づき）を評価する（140ポイント）。
- ・加点ポイントとして授業や発表での主体的な参加姿勢を評価する（20ポイント）。
- ・14回目の授業で筆記試験を行う（40ポイント）。
- ・合計200ポイントを満点として総合評価を行なう。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特になし

【参考文献】

- ・特になし

■授業外学習

【具体的な内容】

・企業や経営に関わるニュースに関心を持ち、人材・設備・働き方・ブランド・技術などの情報に注意を払う。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	データと社会
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	保浦 聡

■講義の目的および概要

この講義では、まず前半で、「情報化社会とは何か」、「情報化の原理」および企業を取り巻くステークホルダーの視点から情報とデータの関与について、基本的な知識を習得します。後半では、前半の議論を踏まえ、2018年に経済産業省から発信された「DXレポート」を教材に、日本におけるDX課題について理解を深めるとともに、日本におけるDX推進の方向性を考察していきます。講義はディスカッション方式を組み込み、その中で、実業界の現実を示唆しながら、受講者とともに考え、課題認識と解決能力を高めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・基本的に、講師が用意する教材に沿って講師が説明を進めます。
 毎回講義のはじめに、データ社会に関連するホットな新聞情報から最新のトレンドを共有します。講義では、Thinking Timeを用意し、考えたことを発表し、参加者間で共有し、より理解を深めます。

・本講義は、IT企業において実務経験のある教員が、企業のしくみや活動、業務マネジメントの知識を活かして、データと社会の関わりについてビジネスワーカーの視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

Thinking Timeの結果、疑問点等があれば、講義後でもメール等で相互確認できるようにします。講義の最後に課題がある場合は、必ず次回にそれに対する考え方を解説のうえフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス：データが水のように流れる社会とは
- ②情報化社会とは何か：産業革命と技術革新
- ③情報化の原理
- ④社会を取り巻く情報とデータ
- ⑤企業を取り巻くステークホルダーとCSR
- ⑥ステークホルダーとデータ(1)：従業員、株主
- ⑦ステークホルダーとデータ(2)：取引先、顧客、社会
- ⑧中間(前半)のまとめ
- ⑨日本のDX推進
- ⑩スマートシティ構想
- ⑪データが水のように流れる社会：社会的共通資本化
- ⑫中小企業におけるDX課題
- ⑬「信頼」という社会関係資本
- ⑭デジタル規制問題
- ⑮持続可能な社会発展に寄与するDXについて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

当講義を通じて、データと社会の関連性、結びつきを理解し、実際のビジネス現場において、AI、データサイエンスなどデータ関連の応用機能を有効に利活用するための契機とすることができること

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力(知識・技能・判断力)
 企業が求めるITあるいはデジタル人材としての知識・技能を修得し、活用することができること。

■成績評価基準と方法

期末レポート課題：70%、中間および講義内の課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講師が毎回事前にPDF資料として配布予定

【参考文献】

『DXレポート～ITシステム「2025年の崖」克服とDXの本格的な展開～』経済産業省、2018年
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_transformation/20180907_report.html

■授業外学習

【具体的な内容】

事前：教材（manabaを通じて事前配布）のキーワードの中で不明点を特定し、web検索等で調べる
事後：講義の結果、上記不明点が解明されたかどうか再確認し、不足があれば深掘りする

【必要な時間】

事前：1時間
事後：1時間

■その他

オンデマンド講義を最大4回実施予定。当講義では、Thinking Timeにおいて、学生各自に自信の考えをまとめたうえで説明できる方式を組み込んでいます。そのためには、講義教材を踏まえて、各所から情報収集することも必要となります。オンデマンド教材は、そのヒントをコンパクトに収めることが可能で、その他の時間を取材、レポート等の時間として有効活用できることを狙いとしています。

科目名	北海道経済と産業
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	保浦 聡

■講義の目的および概要

この講義では、まず前半で、北海道開発の歴史と経済・産業構造の現状、およびその問題点を把握します。後半は、前半で確認した課題を踏まえて、北海道経済・産業、そのうち特に、観光産業にフォーカスし、近未来の戦略について、受講者とともに議論し、理解を深め、ビジネスの実践において応用できるよう、その契機とすることが狙いです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・基本的に、講師が用意する教材に沿って講師が説明を進めます。
 毎回講義のはじめに、データ社会に関連するホットな新聞情報から最新のトレンドを共有します。講義では、Thinking Timeを用意し、考えたことを発表し、参加者間で共有し、より理解を深めます。
 ・当講義は、北海道に基盤をもつ銀行、IT企業において実務経験のある教員が、北海道におけるビジネス展開の知識を活かして、ビジネスワーカーの視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

Thinking Timeの結果、疑問点等があれば、講義後でもメール等で相互確認できるようにします。講義の最後に課題がある場合は、必ず次回にそれに対する考え方を解説のうえフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス：北海道の地域特性とその開発
- ②北海道開発の歴史(1)：戦前期
- ③北海道開発の歴史(2)：～高度成長期
- ④北海道開発の歴史(3)：開発体制の変遷
- ⑤北海道の現状と問題点(1)：産業構造
- ⑥北海道の現状と問題点(2)：経済の問題点
- ⑦北海道の現状と問題点(3)：バブル崩壊の爪痕
- ⑧中間(前半)のまとめ
- ⑨近未来の北海道戦略(1)：比較優位性
- ⑩近未来の北海道戦略(2)：経済社会目標
- ⑪近未来の北海道戦略(3)：都市戦略
- ⑫北海道の観光(1)：意義と歴史
- ⑬北海道の観光(2)：課題分析
- ⑭北海道の観光(3)：情報通信技術との関連
- ⑮後半および全体のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ビジネス実務への関心を持った上で、ビジネス実務を取り巻く北海道の経済と産業における環境の変化、および現実を踏まえ、ビジネス実務を行う上で課題・問題認識について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力(知識・技能・判断力)
 北海道の経済と産業に関する知識・技能を修得し、活用することができる。
 (DP2) コミュニケーション能力(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

期末レポート課題：70%、中間および講義内の課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講師が毎事前にPDF資料として配布予定

【参考文献】

『北海道の経済と開発』小林好宏著、北海道大学出版会、2010年
 『観光と北海道経済』佐藤郁夫著、北海道大学出版会、2008年

■授業外学習

【具体的な内容】

事前：教材（manabaを通じて事前配布）のキーワードの中で不明点を特定し、web検索等で調べる。

事後：講義の結果、上記不明点が解明されたかどうか再確認し、不足があれば深掘りする。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

オンデマンド講義を最大4回実施予定。当講義では、Thinking Timeにおいて、学生各自に自信の考えをまとめたうえで説明できる方式を組み込んでいます。そのためには、講義教材を踏まえて、各所から情報収集することも必要となります。オンデマンド教材は、そのヒントをコンパクトに収めることが可能で、その他の時間を取材、レポート等の時間として有効活用できることを狙いとしています。

科目名	現代の医療
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	林 美枝子

■講義の目的および概要

現代の医療に関する概要を把握し、その歴史や制度、政策的な展開を知る。次に、日本の医療制度の特徴について学び、医療と介護の一括法までの流れを理解する。あわせて介護保険の制度についても学習する。また、超高齢社会が抱える課題の中から、特に終末期の医療と、その受け皿としての地域包括ケアシステムについて理解を深め、さらには地域完結型社会の背景である死生観や病い観を医療人類学の視点から学習する。最後に現代社会が直面している医療の課題を認知する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】主に講義形式とするが、毎回出欠シートに感想や質問の記入を求める。また演習として死生観を養成する北海道デス・カフェを実施するが、2回分の時間を使うため、皆で実施日に関しては話し合いを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】演習の結果は、各自Manabaで小レポートとして提出する。その中身を以後の授業に活用する。

■授業計画

- ①ガイダンス 授業のルールの説明と評価の方法について
医療・介護人類学とは何か 参考図書の利用法について
- ②医療の歴史(医師・看護師などの医療関係者の養成について)、北海道医療史・疾病史
- ③健康とは何か WHOの定義の変遷
- ④日本の医療制度の4つの特徴と課題
- ⑤『病院の世紀』の成立とその崩壊、生物医学の相対化の流れについて
- ⑥死生観を学ぶ1 死とは何か
- ⑦死生観を学ぶ2 死の受容について
- ⑧グループワーク 北海道デス・カフェの開催、最後にこだわりたいことは何か(1)
- ⑨グループワーク 北海道デス・カフェの開催、最後にこだわりたいことは何か(2)
- ⑩病院完結型社会から地域完結型社会へ 介護の世紀が始まる
- ⑪医療人類学から学ぶ社会と医療1 Diseaseではなく、Illness
- ⑫医療人類学から学ぶ社会と医療2 病因論の現在
- ⑬スピリチュアル・ペインへの対応 補完・代替的医療
- ⑭現代社会が抱える医療的課題1 コロナ禍から見える化したもの
- ⑮現代社会が抱える医療的課題2 新たな医療システムの試み まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

単に日本の医療制度を理解するのではなく、より広い視野で医療を理解することを指すとともに、今日本社会が抱えている社会的課題を、医療システムとの関係で説明できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

共通科目であるため「自立して生きていくための幅広い教養、技能を身に着ける」ことを目指す。

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

出欠シートへの毎回の感想や質問の記入内容への評価 20%

グループワーク後のレポート 20%

定期試験 60%(授業で配布した資料の持ち込み可)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

林美枝子『介護人類学事始め 生老病死をめぐる考現学』明石書店

■授業外学習

【具体的な内容】

事前に、それぞれの授業に関連する参考文献の節やページを示すので、一読すること。事後学習は配布した資料を復習すること。

日常的に社会で起きている医療・介護・福祉関係のニュースを常に留意するようにすること。15回目の授業で、何について留意していたかを出欠シートの最後の欄に記入して提出してもらう。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

毎回の授業内容が異なるため、系統だった学習はあまりできない。是非授業内容から、自らの興味をかきたてられる課題や疑問を見出してほしい。そこから新たな自学自習のスタートを切るといった取り組みや授業態度を期待する。

科目名	身近な数学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	菅原 和良

■講義の目的および概要

本講義では社会生活において数学が活用されている場面や身近な事象を数理的なフィルターを通して考察することにより、数学と世の中や社会的現象との関わりについて認識を深めます。また、数学的な表現を工夫して、能率的に処理したり、自分の考えを的確に伝えることが出来るようにすることも目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業では、講義・演習・課題発表・ワークショップ・ディスカッションなどを組み合わせて、身近な事象を教材とした数学的な思考力や発想力を社会生活の中で活かしていくことを学びます。

基本的に1回の授業では1テーマとし、そのテーマに関する事柄をまとめながら、数学的な見方や考え方、論理的な思考力、発想力が伸長するように、身近な数学の学びを深めていきます。

本講義は、高等学校等において数学教育の実務経験のある教員が担当します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業ごとに学生へフィードバックするとともに、課題によっては学生による相互評価も取り入れ、授業に対する参加意欲や学習に対する主体性が向上するようにします。

■授業計画

- ①定義から考える
- ②数の拡張
- ③置き換え
- ④頂点と最大・最小
- ⑤平行移動
- ⑥対称性
- ⑦拡大・縮小
- ⑧逆・裏・対偶
- ⑨データの活用
- ⑩組合せ
- ⑪順序を変えたら
- ⑫場合分け
- ⑬規則性・単純化
- ⑭数字の活用
- ⑮思考の整理

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

身近な事象から数学的な見方や考え方を身に付け、社会生活や文化活動における数学的な思考力・判断力・表現力を伸長し、社会において広く活用できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

定期試験：50%

課題：30%

振り返りシート：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業において随時紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業では原則毎回課題発表を行うことから、個人の発表に対する取組やプレゼン、ディスカッション、グループ協議などの演習にも授業以外の時間を積極的に活用し、主体的に取り組むようにしてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業計画については、状況等により順序を入れ替えて実施することがあります。

科目名	数学とIT
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	保浦 聡

■講義の目的および概要

この講義では、まず前半で、ITに必要な数学とは何かについて、基本的な考え方を共有します。後半は、前半における議論を踏まえて、昨今のビジネス実践で注目されるAIが得意とする機械学習のうち、もっとも典型的な線形回帰の基本について、演習を通じて学習します。演習を通じて受講者とともに議論し、AIの有効活用の方向性についても理解を深めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・基本的に、講師が用意する教材に沿って講師が説明し、その後演習を通じて理解を深めていきます。

・毎回講義のはじめに、データ社会に関連するホットな新聞情報から最新のトレンドを共有します。

・演習では、アウトプットを発表し、参加者間で共有し、より理解を深めます。

・本講義は、IT企業において実務経験のある教員が、企業のしくみや活動、業務マネジメントの知識を活かして、ITにどの程度の数学知識が必要なのか、とりわけ機械学習に必要な数学領域について、ビジネスワーカーの視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

演習の結果、疑問点等があれば、講義後でもメール等で相互確認できるようにします。講義の最後に追加の演習課題がある場合は、必ず次回にそれに対する考え方を解説のうえフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス：ITに数学は必要か？
- ②コンピュータに必要な数学とは
- ③プログラマー視点の数学とは(1)
- ④プログラマー視点の数学とは(2)
- ⑤数式のコードによる理解
- ⑥数学系エンジニアの思考法
- ⑦数字力・データ分析力の必要性
- ⑧中間（前半）のまとめ（中間演習総括）
- ⑨数学とコンピュータのつながり
- ⑩線形代数と機械学習(1)
- ⑪線形代数と機械学習(2)
- ⑫線形代数と機械学習(3)
- ⑬線形代数の応用(1)
- ⑭線形代数の応用(2)
- ⑮後半および全体のまとめ（総合演習）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ビジネス実務への関心を持った上で、企業が求めるITあるいはデジタル人材としての数学的知識を習得し、ビジネス実務を行う上で応用に必要な基礎的視点を養うこと

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力（知識・技能・判断力）
ITと数学の関わりに関する知識・技能を修得し、活用することができる。

■成績評価基準と方法

総合演習：60%、毎回の演習提出：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講師が毎回事前にPDF資料として配布予定

【参考文献】

『ITと数学』中井悦司ほか著、技術評論社、2021年

■授業外学習

【具体的な内容】

講義内で演習問題を提示します。次回までに提出された解答を教員が確認のうえ、講義でより良い対応方法があればフィードバックします。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

オンデマンド講義を最大4回実施予定。第10回から第14回は、前半の基礎知識を踏まえた実演習が主体となります。オンデマンド教材をもとにハンズオン演習を繰り返し実施することが効果的であることから実施するものです。（第10, 11, 12, 14回で調整）

科目名	健康づくり I
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	栗野 祐弥、赤川 智保

■講義の目的および概要

本演習では、個人が健康的な身体づくりに関連する課題を設定し、それを達成するためのプログラムを作成し、実行する。また、設定した課題に取り組む過程で、より効果的かつ効率的に実施するための知識や情報収集の仕方についても学修する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

設定した目標達成に向けた実技(運動・トレーニング)を中心に行う。本演習は運動実践やトレーニング指導に関する実務経験のある教員がトレーニングの専門的知識のほか、コーチング方法を踏まえながら「健康づくり」の基礎理論と実践方法および評価についての知識を身につけることができる演習を実施する。必要に応じて、目標課題の達成に関する学修、情報収集も行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②体カテスト1(事前評価)
- ③健康づくりに関する基礎理論1(運動)
- ④健康づくりに関する基礎理論2(栄養)
- ⑤健康づくりに関する基礎理論3(睡眠)
- ⑥健康づくりに関する実践1(目標設定)
- ⑦健康づくりに関する実践2(目標修正)
- ⑧健康づくりに関する実践3(振り返り)
- ⑨中間評価および後半に向けた個人目標の再設定(測定、評価)
- ⑩健康づくりに関する実践4(追加関連情報の収集)
- ⑪健康づくりに関する実践5(進捗の評価)
- ⑫健康づくりに関する実践6(設定課題の評価)
- ⑬健康づくりに関する実践7(最終評価の準備と手順の確認)
- ⑭体カテスト2(事後評価)
- ⑮まとめレポートの作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①健康づくり(運動・トレーニング)に関して適切な課題設定およびメニュー作成ができるようになる。
- ②設定した個人課題の解決に向けて計画的に取り組み評価することができる。
- ③課題解決に向けて実践のみならず関連する知識を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

課題提出と取り組み状況 (50%)
 実技テスト(体カテスト) (20%)
 最終レポート (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業内適宜配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前および事後学習として、「専門領域において高度な専門知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で課題解決に関する情報収集に関する課題を課す。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

運動のできる服装(着替えも含めて)、シューズを持参してください。実技の際、装飾品等は必ず外してください。
使用施設の関係で50名の履修制限とします。選抜方法は、ガイダンスにて説明します。

科目名	健康づくりⅡ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	粟野 祐弥、赤川 智保

■講義の目的および概要

本演習では、健康づくりⅠの学習をふまえて、個々が健康的な身体づくりに関連する、新たな、あるいは継続的な課題を設定し、それを達成するためのプログラムをより詳細に作成し、実行する。また、設定した課題に取り組む過程で、より効果的かつ効率的に実施するための方法や、評価、目標設定の適切さなどについてもより深く考察する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

設定した目標達成に向けた実技(運動・トレーニング)を中心に、健康づくりⅠの内容をふまえ、より発展的に行う。本演習は運動実践やトレーニング指導に関する実務経験のある教員がトレーニングの専門的知識のほか、コーチング方法を踏まえながら「健康づくり」の基礎理論と実践方法および評価についての知識を身につけることができる演習を実施する。必要に応じて、目標課題の達成に関するディスカッションなどの能動的学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②体カテスト1(事前評価)
- ③健康運動プログラム作成① グループ分け
- ④健康運動プログラム作成② 準備・リハーサル
- ⑤健康運動プログラム作成③ リハーサル
- ⑥健康運動プログラ実践①+専門実技
- ⑦健康運動プログラ実践②+専門実技
- ⑧健康運動プログラ実践③+専門実技
- ⑨健康運動プログラ実践④+専門実技
- ⑩健康運動プログラ実践⑤+専門実技
- ⑪健康運動プログラ実践⑥+専門実技
- ⑫健康運動プログラ実践⑦+専門実技
- ⑬体カテスト(事後評価)
- ⑭体カテスト結果、生活記録表の振り返り
- ⑮プレスト(健康の維持増進に向けた課題)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①健康づくり(運動・トレーニング)に関して適切な課題設定およびメニュー作成ができるようになる。
- ②設定した個人課題の解決に向けて計画的に取り組む評価することができる。
- ③課題解決に向けて実践のみならず関連する知識を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

課題提出と取り組み状況 (50%)
実技テスト(体カテスト) (20%)
最終レポート (30%)

2023 (令和5)年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
授業内適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】
事前および事後学習として、「①各専門領域において高度な専門知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で課題解決のための情報収集に関する課題を課す。

【必要な時間】
上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。
その他

■その他

運動のできる服装(着替えも含めて)、シューズを持参してください。実技の際、装飾品等は必ず外してください。使用施設の関係で50名の履修制限とします。選抜方法は、ガイダンスにて説明します。

科目名	英会話実践
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	デントン ルーカス

■講義の目的および概要

This class will be held in English. It will focus on expanding upon the student's conversation abilities by giving them opportunities to use English in natural, daily situations. This course will also take place partly off-campus to allow students to communicate in uncontrolled environments.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

This course will be student-centered and teamwork-based. Following initial lectures from their instructor, students will discuss and prepare for the field work by making a questionnaire of their own. Along the process of preparation, students will get to acquire new vocabulary and practice their English skills.

【課題に対するフィードバックの方法】

Prior to the field work, instructors will give feedback on questionnaires produced by students. After completing their survey, students will show the survey result by doing a presentation. Instructors will give further feedback on the result.

■授業計画

- ① Orientation
- ② Lecture on issues.
- ③ How to make a survey - introduction and analysis.
- ④ Writing surveys and field work preparation
- ⑤ Writing surveys and field work preparation
- ⑥ Writing surveys and field work preparation
- ⑦ Field work day 1
- ⑧ Analyzing and transcribing data from surveys
- ⑨ Field work day 2
- ⑩ Analyzing and transcribing data from surveys
- ⑪ Group Discussion
- ⑫ Preparation for final presentations
- ⑬ Preparation for final presentations
- ⑭ Final presentations
- ⑮ Final presentations

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

By the end of this course, students will be able to design a questionnaire and conduct the survey, both in English. In addition, they are expected to perform their class discussions and do a presentation using English.

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

Based on the policy of "Fostering competent professionals to provide contributions to the development of the international community," this course will assist students in acquiring necessary English skills for their future tasks.

■成績評価基準と方法

Questionnaire: 20%
 Survey Activity: 30%
 Presentation: 30%
 Participation in class discussions: 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

There is no textbook required for this course. Necessary printouts will be distributed to students.

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

Stay on track with all assigned reading and homework allocated by the instructor. Students are expected to participate actively in group work activities.

【必要な時間】

Each pre-reading assignment will take 1-2 hours.

■その他

Parts of this course will take place off campus and costs will be borne by the students. Students are responsible for their own transportation to and from the venues.

科目名	表計算基礎
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	安井 政樹

■講義の目的および概要

パソコンの代表的なアプリケーションソフトである表計算ソフトの利用方法を学習します。そして表計算ソフトを用いて社会の実データについて基本的な分析をしたり、それを分かりやすく表現したりするスキルを身に付け、表計算での処理の良さやデータ分析の良さを理解します。これにより、A I データサイエンス科目の基礎を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。一人一人が自分の力で表計算ソフトを活用してデータを処理すると同時に、グループワークや発表でコミュニケーションを取りながら協働的に学ぶことも重視します。また、複数回オンデマンド授業も採用し、自分で課題を解決する力を身に付けるような授業方法で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で適宜、フィードバックを行います。一人一人の課題については、manabaを活用して得点や改善点などをフィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション・Excelの基本操作（情報機器操作の復習）
- ②Excelの基本操作（セルとデータ入力、オートフィル）
- ③Excelで表の作成（表と簡単な関数）
- ④Excel操作（簡単なグラフ作成）
- ⑤ここまでの復習と課題作成
- ⑥Excelでデータ活用
- ⑦Excelでデータ活用
- ⑧ここまでの復習と課題作成
- ⑨Excelでデータ活用
- ⑩Excelでデータ活用
- ⑪ここまでの復習と課題作成
- ⑫Excelでデータ活用
- ⑬Excelでデータ活用（分析レポート）
- ⑭ここまでの復習と課題作成
- ⑮canvaで応用：表やグラフ作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・表計算ソフト（Excelやcanva）を用いた基本操作ができる。
- ・表計算ソフトを用いて、基本的なデータ分析をしたり、それを分かりやすく表現したりするスキルを身に付け、表計算での処理の良さやデータ分析の良さを理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）
表計算ソフトに関する知識や技能を高める。

(DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）
実データを基にした分析について、グループワークなどを通してより協働的に学ぶことができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）
実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。

(DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）
データの活用から見えることについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける

(DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）
表計算ソフトの基本操作スキルについて、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようにする。

(DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）
社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じる。

■成績評価基準と方法

以下のABCDについて、以下の割合で総合的に評価します。

- A（60%） Excelの課題（15点×4回＝60点）
- B（15%） データ活用についてのレポート（15点×1回＝15点）
- C（15%） 毎時間の振り返りレポート（1点×15回＝15点）
- D（10%） CANVAでの課題（10点×1回＝10点）

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

Word&Excel 完全ガイド 改訂第2版
[Office 2021/2019/2016/Microsoft 365対応]
基本操作+疑問・困った解決+便利ワザ（「一冊に凝縮」シリーズ）

【参考文献】

Excelに関する一般書籍を適宜参考にするとうい。

■授業外学習**【具体的な内容】**

テキストを参考に自分のノートPCで実際に操作をしながら、基本的な表計算スキルを身に付けることが望ましい。

【必要な時間】

授業の前後各2時間程度の予習復習を主体的にしながら学修することが必要である。

■その他

- ・基本的に自分のノートPCを持参すること。
- ・テキストは遅くとも2回目に届いているようにすぐに注文すること（全員購入）。
なお、テキストは「文書作成」の授業と共通のものです。

科目名	表計算応用
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	保浦 聡、工藤 敦

■講義の目的および概要

表計算応用として、統計処理を表計算ソフトを使用した処理方法を学習します。表計算ソフトを利用して大学の講義及び卒業後の社会人生活で有用な統計処理の方法を習得することを目標とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

指定テキストの内容を教員が説明します。テキスト中の教材データを使用して、統計処理を表計算ソフトで実際に処理しながら説明します。受講生は用意された練習問題を解くことで【実技演習形式】で実践して習得を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

受講生に授業内で提示した教材はその授業時間内に教員が解答することでフィードバックします。

■授業計画

- ①科目ガイダンス（授業に関する説明）
- ②表計算ソフトの操作に関する復習
- ③集計データから特徴を把握（度数分布表、ヒストグラム、ピボットテーブル復習）
- ④調査対象商品に関する評価の掘り下げ1（平均値、中央値、平均値、幾何平均、中央値、最頻値など）
- ⑤調査対象商品に関する評価の掘り下げ2（二項分布、正規分布）、【授業内試験1回目】
- ⑥調査対象商品に関する評価の掘り下げ3（分散、標準偏差、偏差値など）
- ⑦売上に関することの特定1（相関関係など）【授業内試験2回目】
- ⑧売上に関することの特定2（回帰分析、重回帰分析など）【授業内試験3回目】
- ⑨競合対象の評価に差、ばらつきによる特定1（平均値の差の検定：T検定）
- ⑩競合対象の評価に差、ばらつきによる特定2（分散の差の検定：F検定、比率の差の検定：Z検定）【授業内試験4回目】
- ⑪属性による違い学習1（回帰分析・重回帰分析の検定）
- ⑫属性による違い学習2（クロス集計、 χ^2 乗検定）【授業内試験5回目】
- ⑬属性による行動の差の学習1（一元配置分散分析など）
- ⑭属性による行動の差の学習2（二元配置分散分析など）【授業内試験6回目】
- ⑮授業のまとめ（まとめレポート）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・ビジネス実務への関心を持った上で、ビジネス実務のなかでよく活用される表計算の手法を実践できる能力を養うこと。
・表計算ソフトを使用して一般的な統計処理方法を習得すること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力（知識・技能・判断力）
表計算に関する知識・技能を修得し、活用・応用することができる。

■成績評価基準と方法

- ①授業内試験：6回実施
- ②提出課題：6題提出
- ③評価配分：①授業内試験60%、②提出課題：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『できる やさしく学ぶ Excel統計入門』
出版社：インプレス

【参考文献】

市販のExcelまたは統計の本

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・学習した回の講義で実施した練習問題の復習をする。
- ・次回の講義テーマを周知するのでテキスト内容の予習をする。
- ・授業内試験の解答については試験実施の次回に教員が解説を行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

2回目の授業からはテキストを持参してください。

科目名	データ活用
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	保浦 聡

■講義の目的および概要

この講義では、まず前半で、「データ活用」についての基本的な知識を習得します。後半は、前半で得た基本知識を踏まえて、データ活用の実践として、統計手法のほか分析技術について演習を通じて、理解を深めます。同時に、時事情報、業界の現実などを共有し、現代の企業が求めているビジネス感覚を磨きます。受講者とともにディスカッションしながら、課題認識能力と実践的な課題解決能力を高めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的に、講師が用意する教材に沿って講師が説明し、その後演習を通じて理解を深めていきます。
- ・毎回講義のはじめに、データ社会に関連するホットな新聞情報から最新のトレンドを共有します。
- ・演習では、アウトプットを発表し、参加者間で共有し、より理解を深めます。
- ・本講義は、IT企業において実務経験のある教員が、企業のしくみや活動、業務マネジメントの知識を活かして、データの利活用について、ビジネスワーカーの視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

演習の結果、疑問点等があれば、講義後でもメール等で相互確認できるようにします。講義の最後に追加の演習課題がある場合は、必ず次回にそれに対する考え方を解説のうえフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス：私たちを取り巻くデータとは？
- ②データ活用概説(1)：データ分析との違い
- ③データ活用概説(2)：データの主な種類
- ④データ活用概説(3)：ビッグデータの活用
- ⑤ビジネスにおけるデータ活用のメリット
- ⑥データ活用をするためのポイント
- ⑦データ活用を行う時の基本的な手順
- ⑧中間（前半）のまとめ
- ⑨データ分析の技術演習(1)：時系列分析
- ⑩データ分析の技術演習(2)：併売分析
- ⑪データ分析の技術演習(3)：最適化問題
- ⑫データ分析の技術演習(4)：記述統計
- ⑬データ分析の技術演習(5)：多変量解析
- ⑭データ分析の技術演習(6)：機械学習
- ⑮後半および全体のまとめ（総合演習）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ビジネス実務への関心を持った上で、現在のビジネス実務を取り巻く情報化社会、ビッグデータ等の特性を踏まえ、AI活用のための基礎的な知識を習得し、ビジネス実務を行う上で必要な能力について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力(知識・技能・判断力)
データ活用に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

■成績評価基準と方法

総合演習：60%、
毎回の演習提出：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講師が毎回事前にPDF資料として配布予定

【参考文献】

データカタログサイト：DATA.GO.JP
<https://www.data.go.jp/?lang=ja>

■授業外学習

【具体的な内容】

講義内で演習問題を提示します。次回までに提出された解答を教員が確認のうえ、講義でより良い対応方法があればフィードバックします。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

オンデマンド講義を最大4回実施予定。第9回から第14回は、前半の基礎知識を踏まえた実演習が主体となります。オンデマンド教材をもとにハンズオン演習を繰り返し実施することが効果的であることから実施するものです。（第10, 11, 12, 13回で調整）

科目名	プログラミング
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	安井 政樹、岩崎 有朋

■講義の目的および概要

本講義では、実際にプログラミングを体験することを重視しながら実社会におけるプログラミングの利用についての理解を深めたり、プログラミング的思考ができるようになったりできるようにすることを目的とします。
学習したことを実際に生かす課題解決の経験も踏み、プログラミングの良さを実感できるような授業を展開します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実際にプログラミングしながらグループワークなどを行い、体験的に学ぶ演習形式の授業です。担当者の学校現場における実務経験をもとに、プログラミング教育の必要性などを実習を通して学びます。
基本的に私物のノートPCを持参してください。

【課題に対するフィードバックの方法】

基本的に授業内で、フィードバックを行います。
提出されたものについては、manabaを活用して得点及び改善点などをフィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション・実社会の中にあるプログラミング
- ②プログラミングの重要性・ビスケットでプログラミングの第1歩
- ③scratchでプログラミング体験1
- ④scratchでプログラミング体験2
- ⑤AKADAKO探究ツールとプログラミング1
- ⑥AKADAKO探究ツールとプログラミング2
- ⑦ドローンプログラミング1
- ⑧ドローンプログラミング2
- ⑨AI時代とIOT
- ⑩プログラミングで課題解決実習1
- ⑪プログラミングで課題解決実習2
- ⑫プログラミングで課題解決実習3
- ⑬課題解決発表会1
- ⑭課題解決発表会2
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・各種プログラミングを実際にすることができる。
- ・実社会におけるプログラミング利用に目を向け、課題解決に活用されていることを理解する。
- ・実際に課題解決のためのプログラミングを行い、社会貢献を意識してものづくりをすることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
プログラミングに関する知識や技能を高める。

(DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
プログラミングを用いた課題解決のためのグループワークなどを通してより協働的に学ぶことができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)
実社会の課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。

(DP4)【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)
より良い作プログラミングを生かしたものづくりに向けてディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける

(DP5)【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)
各種プログラミングの基本操作スキルについて、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。

(DP6)【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)
社会に役立つプログラミングを生かしたものづくりを通して、社会貢献の楽しさを感じる。

■成績評価基準と方法

以下のABCについて総合的に評価します。

- ・ A（45%）各プログラミングの課題（scratch・AKADAKO・ドローン）15点×3＝45点
- ・ B（25%）課題解決学習実習 25点
- ・ C（30%）毎時間の小レポート2点×15回＝30点

■テキスト・参考文献

【テキスト】
いちばんやさしいプログラミングの教本（インプレス）

【参考文献】
プログラミング関係の市販の書籍を参考にするとよい

■授業外学習

【具体的な内容】
自分のPCでさまざまなプログラミングに慣れ親しみ、自分の思いを学習で身に付けた操作を通して実現できるように試行錯誤すること。

【必要な時間】
事前・事後各2時間程度の主体的な学習をしながら、プログラミングのスキルを楽しみながら修得してほしい。

■その他

テキストは全員に必要です。
2回目の授業に間に合うように購入してください。
基本的に私物のノートPCで学びを進めますので、各自持参してください。

科目名	キャリア形成論 I [スピ]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する

本学での学びを突き多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車を通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意味、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

①ガイダンス

テーマ：キャリア形成、キャリアデザインの基礎理解
キャリアの定義、キャリア形成の必要性、変化するキャリア形成の課題
キャリア形成の基本と方法 (なぜ働くのか?)、モチベーション曲線 (個人ワーク)

②人生設計 (1)

テーマ：ライフサイクルと職業
変わる家族のライフサイクルと性別役割、家族の変化と長寿社会、女性の就業意識の変化、出産後の就業パターン、ライフコース (個人ワーク)

③人生設計 (2)

テーマ：生涯収支と職業
職業生活が持つ意味 (マズローの欲求五段階説、経済的報酬、安定性・継続性、社会的人間関係、社会的評価、自己実現・自己啓発)、現代家族の生涯収入と支出の現状、自分のライフコースの生涯収支 (個人ワーク)

④人生設計 (3)

テーマ：キャリアの広がりや生涯発達
自律的なキャリア形成、ライフキャリアという考え方、ライフロールとは何か (ライフキャリアレインボー)、キャリアの生涯発達 (若年、中年、老年)、人生の形成期課題

⑤自己理解 (1)

テーマ：働く意味と自分の職業観、自己のキャリア意識を明確にする
人生に求める価値観、人はなぜ仕事をするのか (社会的活動の領域別・個人ワーク、社会的活動のライフステージ別・個人ワーク、社会的活動の担い手別・個人ワーク、就業形態別・個人ワーク)

⑥自己理解 (2)

テーマ：相互インタビューによる自己分析
自分史チェックシートの作成、相互インタビュー (インタビューシート作成)、相互インタビューシートから自己分析シートを作成する (グループワーク)

⑦仕事理解 (1)

テーマ：学生生活で得るキャリア意識の明確化
学生生活とキャリア形成 (どのように大学生生活を歩んだか)、就職での評価基準 (経験なのか、資質なのか)、企業が求める採用選考での重要項目、早期離職とフリーター問題、大学での学びとキャリア意識 (個人ワーク)

⑧仕事理解 (2)

テーマ：経済・雇用環境に応じた働き方の理解
キャリア形成の外的環境 (社会、経済、組織) の重要性、少子高齢化社会の到来、社会・経済の構造転換がもたらす働き方の変化 (チャンスとリスク)

⑨職場理解 (1)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する
- ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる
- ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の3つの力の修得を目指します。

- ①「コミュニケーション能力」（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）
（DP2）資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。
- ②「課題を発見し、解決する力」（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）
（DP3）現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。
- ③【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）
（DP5）自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

■成績評価基準と方法

- ①講義内での個人ワーク、グループワークでのアウトプット（50%）
- ②講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30%）
- ③自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

キャリアデザイン講座第3版 日経BP社 監修:大宮登

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ1～2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア形成論 I [ス指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	樋原 智恵

■講義の目的および概要

本学での学びを実り多きものにし「自分にとって人生とは何か」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来に向けたキャリア形成を考えることが目的です。人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意義、いわゆる職業観を早期に認識することを目指します。さらに将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを理解し、キャリア形成を明確にすることもこの講義の目的となります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分にとっての「働くこと」の意味を考察するために個人ワーク、グループワークが中心となります。

後半はケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話とグループディスカッション、さらにプレゼンテーションを実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①オリエンテーション (授業内容・成績評価について)
キャリアデザインの基礎理解
- ②人生設計 (1) ライフサイクルと職業
変わる家族のライフサイクルと性別役割
- ③人生設計 (2) 生涯収支と職業
職業生活が持つ意味 (マズローの欲求五段階説、経済的報酬、社会的人現関係)、現代家族の生涯収入と支出の現状、自分のライフコースの生涯収支
- ④人生設計 (3) キャリアの広がりや生涯発達
自律的なキャリア形成、ライフロールとは何か (ライフキャリアレインボー)、キャリアの生涯発達 (若年、中年、老年)、人生の形成期課題
- ⑤自己理解 (1) 働く意味と自分の職業観、自己のキャリア意識を明確にする
人生に求める価値観、人はなぜ仕事をするのか
- ⑥自己理解 (2) 相互インタビューによる自己分析
自分史チェックシートの作成、相互インタビュー (インタビューシート作成)
- ⑦仕事理解 (1) 学生生活で得るキャリア意識の明確化
学生生活とキャリア形成 (どのように大学生生活を歩んだか)、企業が求める採用選考での重要項目、フリーター問題
- ⑧仕事理解 (2) 経済・雇用環境に応じた働き方の理解
キャリア形成の外的環境 (社会、経済、組織) の重要性、少子高齢化社会の到来、社会・経済の構造転換がもたらす働き方の変化 (チャンスとリスク)
- ⑨職場理解 (1) インターンシップを活用したキャリア考察
インターンシップとは、インターンシップの活用 (目的、種類、事前準備、注意点)
- ⑩職場理解 (2) キャリア形成と求められる基礎能力
キャリア・アンカー探し、仕事 (職業) に関する情報収集、入社後に求められる能力や資質 (社会人基礎力)
- ⑪職場理解 (3) 多彩な職種や業種と自分の適職
早期離職の問題点を考える (3年離職率)、適職の探し方、業種・職種
- ⑫ケーススタディ (1) テーマ: 具体的な事例で考える将来設計
*講師招聘
- ⑬ケーススタディ (2) テーマ: 様々なキャリア形成のあり方
*講師招聘
- ⑭「なぜ我々は働くのか？」グループディスカッション
*道商連・連携共同研究企画 (なぜ、我々は働くのか?)
- ⑮キャリア形成に向けて (まとめ)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する。
- ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる。
- ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の3つの力の修得を目指します。

（DP2）【コミュニケーション能力】

資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

（DP5）【能動的に学び続ける力】

自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

■成績評価基準と方法

- ①講義内での個人ワークでのアウトプット（50%）
- ②講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30%）
- ③自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

キャリアデザイン講座第3版 日経BP社 監修大宮登

■授業外学習

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立ててください。

特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。

また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がります。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

科目名	キャリア形成論 I [臨床]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。

本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。

そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意味、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。

前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。

後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 人生設計 (1)
- ③ 人生設計 (2)
- ④ 人生設計 (3)
- ⑤ 自己理解 (1)
- ⑥ 自己理解 (2)
- ⑦ 仕事理解 (1)
- ⑧ 仕事理解 (2)
- ⑨ 職場理解 (1)
- ⑩ 職場理解 (2)
- ⑪ 職場理解 (3)
- ⑫ ケーススタディ (1)
- ⑬ ケーススタディ (2)
- ⑭ 「なぜ我々は働くのか？」グループディスカッション
- ⑮ キャリア形成に向けて (まとめ)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する。
- ② 多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる。
- ③ 修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ① 講義内での個人ワーク、グループワークでのアウトプット (50%)
- ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文 (30%)
- ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア形成論 I [現文]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	椿 明美

■講義の目的および概要

テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。

本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。

後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス：キャリア形成、キャリアデザインの基礎理解
- ②人生設計 (1) ライフサイクルと職業
- ③人生設計 (2) 生涯収支と職業
- ④人生設計 (3) キャリアの広がりと言生発達
- ⑤自己理解 (1) 働く意味と自分の職業観
- ⑥自己理解 (2) 相互インタビューによる自己分析
- ⑦仕事理解 (1) 学生生活で得るキャリア意識の明確化
- ⑧仕事理解 (2) 経済・雇用環境に応じた働き方の理解
- ⑨職場理解 (1) インターンシップを活用したキャリア考察
- ⑩職場理解 (2) キャリア形成と求められる基礎能力
- ⑪職場理解 (3) 多彩な職種や業種と自分の適職
- ⑫ケーススタディ (1) 具体的な事例で考える将来設計
- ⑬ケーススタディ (2) 様々なキャリア形成のあり方
- ⑭「なぜ我々は働くのか」グループディスカッション
- ⑮キャリア形成に向けて (まとめ) キャリア形成論全体の振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する。
- ②多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる。
- ③修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) 【コミュニケーション能力】

資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

(DP5) 【能動的に学び続ける力】

自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

■成績評価基準と方法

- ①講義内での個人ワークでのアウトプット (50%)
- ②講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文 (30%)
- ③自身のキャリアプランの作成・最終提出物 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

「キャリアデザイン講座」第3版、日経BP社、大宮登監修、2016

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア形成論 I [観光]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	平塚 彰

■講義の目的および概要

テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。
 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。
 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意味、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性をもったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。
 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。
 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

①ガイダンス

テーマ：キャリア形成、キャリアデザインの基礎理解
 キャリアの定義、キャリア形成の必要性、変化するキャリア形成の課題
 キャリア形成の基本と方法（なぜ働くのか？）、モチベーション曲線（個人ワーク）

②人生設計（1）

テーマ：ライフサイクルと職業
 変わる家族のライフサイクルと性別役割、家族の変化と長寿社会、女性の就業意識の変化、出産後の就業パターン、ライフコース（個人ワーク）

③人生設計（2）

テーマ：生涯収支と職業
 職業生活が持つ意味（マズローの欲求五段階説、経済的報酬、安定性・継続性、社会人的人間関係、社会的評価、自己実現・自己啓発）、現代家族の生涯収入と支出の現状、自分のライフコースの生涯収支（個人ワーク）

④人生設計（3）

テーマ：キャリアの広がりとは生涯発達
 自律的なキャリア形成、ライフキャリアという考え方、ライフロールとは何か（ライフキャリアレインボー）、キャリアの生涯発達（若年、中年、老年）、人生の形成期課題

⑤自己理解（1）

テーマ：働く意味と自分の職業観、自己のキャリア意識を明確にする
 人生に求める価値観、人はなぜ仕事をするのか（社会的活動の領域別・個人ワーク、社会的活動のライフステージ別・個人ワーク、社会的活動の担い手別・個人ワーク、就業形態別・個人ワーク）

⑥自己理解（2）

テーマ：相互インタビューによる自己分析
 自分史チェックシートの作成、相互インタビュー（インタビューシート作成）、相互インタビューシートから自己分析シートを作成する（グループワーク）

⑦仕事理解（1）

テーマ：学生生活で得るキャリア意識の明確化
 学生生活とキャリア形成（どのように大学生生活を歩んだか）、就職での評価基準（経験なのか、資質なのか）、企業が求める採用選考での重要項目、早期離職とフリーター問題、大学での学びとキャリア意識（個人ワーク）

⑧仕事理解（2）

テーマ：経済・雇用環境に応じた働き方の理解
 キャリア形成の外的環境（社会、経済、組織）の重要性、少子高齢化社会の到来、社会・経済の構造転換がもたらす働き方の変化（チャンスとリスク）

⑨職場理解（1）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する
- ② 多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる
- ③ 修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。
（DP2）「コミュニケーション能力」
（DP5）「能動的に学び続ける力」

■成績評価基準と方法

- ① 講義内での個人ワークでのアウトプット（50%）
- ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文（30%）
- ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

キャリアデザイン講座第3版 日経BP社 監修大宮登

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア形成論 I [子心]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

テーマ：キャリアを考える＝自分の将来を考え、働くことの意味を理解し、意識を確立する。
 本学での学びを実り多きものにするには、将来に向けたキャリア形成を考えることが重要です。キャリアという言葉の語源は「車が通った道」であり、これが「歩んできた人生」につながりキャリアという意味になります。従ってキャリアを考えるということは「自分にとって人生とは何か」「どのように生きるべきか」「いかなる職業を選択すべきか」といった将来を見据えたテーマが含まれます。
 そのためには人生に対する主体的な姿勢を確立し、仕事や職業に就くことの意味、いわゆる職業観を早期に認識することが大切となります。そして将来の目標と、その実現にはどのような能力が必要かを認識し、本学での学びの方向性や到達目標、すなわちキャリア形成を明確にすることができると考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性、自律性を持ったキャリア形成を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識してもらいます。
 前半は講義とともに個人ワーク、グループワークが中心となります。
 後半にはケーススタディとして実社会で活躍する社会人の講話に加え、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 人生設計 (1)
- ③ 人生設計 (2)
- ④ 人生設計 (3)
- ⑤ 自己理解 (1)
- ⑥ 自己理解 (2)
- ⑦ 仕事理解 (1)
- ⑧ 仕事理解 (2)
- ⑨ 職場理解 (1)
- ⑩ 職場理解 (2)
- ⑪ 職場理解 (3)
- ⑫ ケーススタディ (1)
- ⑬ ケーススタディ (2)
- ⑭ 「なぜ我々は働くのか？」グループディスカッション
- ⑮ キャリア形成に向けて (まとめ)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 自己のキャリアを考える上での基礎的な知識を修得する。
- ② 多様なリソースを駆使して適切な情報収集ができ、また話を聞き、関心領域を広げることができる。
- ③ 修得した知識をもとに自己のキャリア形成への認識を深め、それを文章にまとめ、自分の言葉で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ① 講義内での個人ワーク、グループワークでのアウトプット (50%)
- ② 講義内での招聘講師、グループディスカッション感想文 (30%)
- ③ 自身のキャリアプランの作成・最終提出物 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。まずは能動的に動きましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア研究 I [現文]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	平塚 彰

■講義の目的および概要

テーマ

- ①実践的な授業を通して自らのキャリアを構築する力を養成する
- ②キャリア研究 I では企業分析の手法のうち3C（自社、顧客、競合）分析を自分のものにする。

まず自己分析を行うことで、自身の思考パターンや価値観を知るとともに、強みとしてPRできる点や課題を把握します。

また就職活動では業界研究、企業研究が必要となります。企業選択の視野を広げることを目的に、多様な情報リソースを駆使して優良企業の見つけ方を理解し、自分自身が企業を選択する際の具体的な手法3C分析を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義のほか、個人ワークやグループディスカッションなどを通して、自分自身のライフビジョンを明確化し、どのようなキャリアを作り上げていくかを構想する機会を数多く設けます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス（自分を知る⇒業界を知る⇒職種を知る⇒企業を知る）
実践キャリア実務士の説明。
- ②自分を知る（個人ワーク：モチベーション曲線、ガクチカを書いてみる）
自分の過去を振り返る。アルバイト、部・サークル活動、ゼミナール、ボランティア・留学など学外学修の中から学生時代最も力を入れたことを考える。、キャリアハンドブック配布。
- ③自分を知る（個人ワーク：自己PRを書いてみる）
長所、短所について考える。自分の強み、例えばチャレンジ精神旺盛、積極性、リーダーシップ、協調性、企画力・・・などから自分の強みを見出し自己PRを考える。
- ④業界・職種を知る（個人ワーク：どのような業界・職種があるのかを理解する・業界研究ノート作成）
メーカー、商社、金融、ソフトウェア・情報処理、百貨店・ストア、通信・マスコミ、サービスなどの業界。B2B企業とB2C企業の理解。営業、接客・販売、事務などの職種について理解する。
- ⑤優良企業の見つけ方（個人ワーク：売上高と利益率、時系列比較してどちらが良い会社かを判断する）
求人票の見方（基本給、月給、固定残業の説明）、簡単な決算書の見方、有価証券報告書の見方、ビジネスモデルの良い会社を理解する。
- ⑥企業を知る（個人ワーク：職種の志望動機、企業の志望動機を書いてみる）
企業の経営理念、社長メッセージなどから、自身の価値観との共通点に触れ、志望動機の書き方を理解する。
- ⑦3C（自社、顧客、競合）分析
基本的なフレームワークを作成して配布し、求人票や会社HP、有価証券報告書をダウンロードするなどして3C分析シートを作成する。
- ⑧3C（自社、顧客、競合）分析発表
作成した3C分析シートを用いその要点を発表する。その企業を選んだ理由、自社、顧客、競合について特徴を発表する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業種、業界、職種について十分な知識を得る。
- ②自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。
- ③多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法（3C分析）を行うことができる。
- ④実社会に必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。

（DP2）【コミュニケーション能力】

資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

（DP6）【社会に貢献する姿勢】

地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。

■成績評価基準と方法

成績評価基準と方法

- ①講義内での個人ワークでのアウトプット（70%）
- ②3C分析の理解、それに係る最終提出物および発表（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

講義においてテーマに応じレジュメを配布するほか、有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

日本経済新聞のコピーや関連資料

日経電子版（無料会員サービス・ビジネス欄）

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア研究 I [臨床]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

まず自己分析を行うことで、自身の思考パターンや価値観を知るとともに、強みとしてPRできる点や課題を把握します。
また就職活動では業界研究、企業研究が必要となります。企業選択の視野を広げることが目的に、多様な情報リソースを駆使して優良企業の見つけ方を理解し、自分自身が企業を選択する際の具体的な手法 3C分析を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義のほか、個人ワークやグループディスカッションなどを通して、自分自身のライフビジョンを明確化し、どのようなキャリアを作り上げていくかを構想する機会を数多く設けます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ① ガイダンス (自分を知る⇒業界を知る⇒職種を知る⇒企業を知る)
- ② 自分を知る (個人ワーク：モチベーション曲線、ガクチカを書いてみる)
- ③ 自分を知る (個人ワーク：自己PRを書いてみる)
- ④ 業界・職種を知る (個人ワーク：どのような業界・職種があるのかを理解する・業界研究ノート作成)
- ⑤ 優良企業の見つけ方 (個人ワーク：売上高と利益率、時系列比較してどちらが良い会社かを判断する)
- ⑥ 企業を知る (個人ワーク：職種の志望動機、企業の志望動機を書いてみる)
- ⑦ 3C (自社、顧客、競合) 分析
- ⑧ 3C (自社、顧客、競合) 分析発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 業種、業界、職種について十分な知識を得る。
- ② 自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。
- ③ 多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法 (3C分析) を行うことができる。
- ④ 実社会に必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) 【コミュニケーション能力】
(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ① 講義内での個人ワークでのアウトプット (70%)
- ② 3C分析の理解、それに係る最終提出物および発表 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。
キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

科目名	キャリア研究 I [子心]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	椿 明美

■講義の目的および概要

テーマ：①実践的な授業を通して自らのキャリアを構築する力を養成する。
 ②企業分析の手法のうち3C（自社、顧客、競合）分析を自分のものにする。
 授業ではまず、自己分析により自身の思考パターンや価値観を知るとともに、強みとしてPRできる点や自己課題を把握します。また就職活動では業界研究、幼稚園・保育園等の研究が必要となりますので、選択の視野を広げることを目的に、多様な情報リソースを駆使して優良な園の見つけ方を理解し、自分自身が就職先を選択する際の手法として、企業分析の具体的な手法3C分析を学び参考にします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義のほか、個人ワークやグループディスカッションなどを通して、自分自身のライフィジョンを明確化し、どのようなキャリアを作り上げていくかを構想する機会を数多く設けます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス（自分を知る⇒業界を知る⇒職種を知る⇒企業を知る）
- ②自分を知る（個人ワーク：モチベーション曲線、ガクチカを書いてみる）
自分の過去を振り返る
- ③自分を知る（個人ワーク：自己PRを書いてみる）
- ④業界・職種を知る（個人ワーク：どのような業界・職種があるのかを理解する・業界研究ノート作成）
- ⑤優良企業の見つけ方（個人ワーク：売上高と利益率、時系列比較してどちらが良い会社かを判断する）
- ⑥企業を知る（個人ワーク：職種の志望動機、企業の志望動機を書いてみる）
- ⑦保育者のキャリア研究
- ⑧保育者のキャリア発表、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業種、業界、職種について十分な知識を得る。
- ②自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。
- ③多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法（3C分析）を行うことができる。
- ④実社会で必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。
 (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①講義内での個人ワークでのアウトプット（70%）
- ②最終提出物および発表（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

講義においてテーマに応じレジュメを配布するほか、有用な文献、参考サイト等を随時指示します。
 日本経済新聞のコピーや関連資料
 日経電子版（無料会員サービス・ビジネス欄）

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

全学共通の科目ですが、このクラスは保育希望学生用になっています。一般企業を希望する学生は、現代文化学科あるいは臨床心理学科の授業を履修してください。

科目名	キャリア研究 I [観光]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	平塚 彰

■講義の目的および概要

テーマ：

- ①実践的な授業を通して自らのキャリアを構築する力を養成する
- ②キャリア研究 I では企業分析の手法のうち3C（自社、顧客、競合）分析を自分のものにする。
まず自己分析を行うことで、自身の思考パターンや価値観を知るとともに、強みとしてPRできる点や課題を把握します。
また就職活動では業界研究、企業研究が必要となります。企業選択の視野を広げることを目的に、多様な情報リソースを駆使して優良企業の見つけ方を理解し、自分自身が企業を選択する際の具体的な手法3C分析を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義のほか、個人ワークやグループディスカッションなどを通して、自分自身のライフビジョンを明確化し、どのようなキャリアを作り上げていくかを構想する機会を数多く設けます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス（自分を知る⇒業界を知る⇒職種を知る⇒企業を知る）
実践キャリア実務士の説明。
- ②自分を知る（個人ワーク：モチベーション曲線、ガクチカを書いてみる）
自分の過去を振り返る。アルバイト、部・サークル活動、ゼミナール、ボランティア・留学など学外学修の中から学生時代最も力を入れたことを考える。キャリアハンドブック配布。
- ③自分を知る（個人ワーク：自己PRを書いてみる）
長所、短所について考える。自分の強み、例えばチャレンジ精神旺盛、積極性、リーダーシップ、協調性、企画力・・・などから自分の強みを見出し自己PRを考える。
- ④業界・職種を知る（個人ワーク：どのような業界・職種があるのかを理解する・業界研究ノート作成）
メーカー、商社、金融、ソフトウェア・情報処理、百貨店・ストア、通信・マスコミ、サービスなどの業界。B2B企業とB2C企業の理解。営業、接客・販売、事務などの職種について理解する。
- ⑤優良企業の見つけ方（個人ワーク：売上高と利益率、時系列比較してどちらが良い会社かを判断する）
求人票の見方（基本給、月給、固定残業の説明）、簡単な決算書の見方、有価証券報告書の見方、ビジネスモデルの良い会社を理解する。
- ⑥企業を知る（個人ワーク：職種の志望動機、企業の志望動機を書いてみる）
企業の経営理念、社長メッセージなどから、自身の価値観との共通点に触れ、志望動機の書き方を理解する。
- ⑦3C（自社、顧客、競合）分析
基本的なフレームワークを作成して配布し、求人票や会社HP、有価証券報告書をダウンロードするなどして3C分析シートを作成する。
- ⑧3C（自社、顧客、競合）分析発表
作成した3C分析シートを用いその要点を発表する。その企業を選んだ理由、自社、顧客、競合について特徴を発表する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業種、業界、職種について十分な知識を得る。
- ②自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。
- ③多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法（3C分析）を行うことができる。
- ④実社会で必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

成績評価基準と方法

- ①講義内での個人ワークでのアウトプット（70%）
- ②3C分析の理解、それに係る最終提出物および発表（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

講義においてテーマに応じレジュメを配布するほか、有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

日本経済新聞のコピーや関連資料
日経電子版（無料会員サービス・ビジネス欄）

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア研究 I [スビ]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

テーマ：

- ①実践的な授業を通して自らのキャリアを構築する力を養成する。
- ②キャリア研究 I では企業分析の手法のうち3C（自社、顧客、競合）分析を自分のものにする。

【講義の目的および概要】

まず自己分析を行うことで、自身の思考パターンや価値観を知るとともに、強みとしてPRできる点や課題を把握します。
また就職活動では業界研究、企業研究が必要となります。企業選択の視野を広げることを目的に、多様な情報リソースを駆使して優良企業の見つけ方を理解し、自分自身が企業を選択する際の具体的な手法3C分析を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス（自分を知る⇒業界を知る⇒職種を知る⇒企業を知る）
実践キャリア実務士の説明
- ②自分を知る（個人ワーク：モチベーション曲線、ガクチカを書いてみる）
自分の過去を振り返る。アルバイト、部・サークル活動、ゼミナール、ボランティア・留学など学外学修の中から学生時代最も力を入れたことを考える、キャリアハンドブック配布
- ③自分を知る（個人ワーク：自己PRを書いてみる）
長所、短所について考える。自分の強み、例えばチャレンジ精神旺盛、積極性、リーダーシップ、協調性、企画力・・・などから自分の強みを見出し自己PRを考える。
- ④業界・職種を知る（個人ワーク：どのような業界・職種があるのかを理解する・業界研究ノート作成）
メーカー、商社、金融、ソフトウェア・情報処理、百貨店・ストア、通信・マスコミ、サービスなどの業界。B2B企業とB2C企業の理解。営業、接客・販売、事務などの職種について理解する。
- ⑤優良企業の見つけ方（個人ワーク：売上高と利益率、時系列比較してどちらが良い会社かを判断する）
求人票の見方（基本給、月給、固定残業の説明）、簡単な決算書の見方、有価証券報告書の見方、ビジネスモデルの良い会社を理解する。
- ⑥企業を知る（個人ワーク：職種の志望動機、企業の志望動機を書いてみる）
企業の経営理念、社長メッセージなどから、自身の価値観との共通点に触れ、志望動機の書き方を理解する。
- ⑦3C（自社、顧客、競合）分析
基本的なフレームワークを作成して配布し、求人票や会社HP、有価証券報告書をダウンロードするなどして3C分析シートを作成する。
- ⑧3C（自社、顧客、競合）分析発表
作成した3C分析シートを用いその要点を発表する。その企業を選んだ理由、自社、顧客、競合について特徴を発表する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業種、業界、職種について十分な知識を得る。
- ②自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。
- ③多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法（3C分析）を行うことができる。
- ④実社会で必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。
 (DP2) 「コミュニケーション能力」
 (DP6) 「社会に貢献する姿勢」

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

- ①講義内での個人ワークでのアウトプット（70%）
- ②3C分析の理解、それに係る最終提出物および発表（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。2回目の授業でキャリアハンドブックを配布します。

【参考文献】

講義においてテーマに応じレジュメを配布するほか、有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

日本経済新聞のコピーや関連資料
日経電子版（無料会員サービス・ビジネス欄）

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア研究 I [ス指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

テーマ：

- ①実践的な授業を通して自らのキャリアを構築する力を養成する
- ②キャリア研究 I では企業分析の手法のうち3C（自社、顧客、競合）分析を自分のものにする。

【講義の目的および概要】

まず自己分析を行うことで、自身の思考パターンや価値観を知るとともに、強みとしてPRできる点や課題を把握します。
また就職活動では業界研究、企業研究が必要となります。企業選択の視野を広げることを目的に、多様な情報リソースを駆使して優良企業の見つけ方を理解し、自分自身が企業を選択する際の具体的な手法3C分析を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス（自分を知る⇒業界を知る⇒職種を知る⇒企業を知る）
実践キャリア実務士の説明
- ②自分を知る（個人ワーク：モチベーション曲線、ガクチカを書いてみる）
自分の過去を振り返る。アルバイト、部・サークル活動、ゼミナール、ボランティア・留学など学外学修の中から学生時代最も力を入れたことを考える、キャリアハンドブック配布
- ③自分を知る（個人ワーク：自己PRを書いてみる）
長所、短所について考える。自分の強み、例えばチャレンジ精神旺盛、積極性、リーダーシップ、協調性、企画力・・・などから自分の強みを見出し自己PRを考える。
- ④業界・職種を知る（個人ワーク：どのような業界・職種があるのかを理解する・業界研究ノート作成）
メーカー、商社、金融、ソフトウェア・情報処理、百貨店・ストア、通信・マスコミ、サービスなどの業界。B2B企業とB2C企業の理解。営業、接客・販売、事務などの職種について理解する。
- ⑤優良企業の見つけ方（個人ワーク：売上高と利益率、時系列比較してどちらが良い会社かを判断する）
求人票の見方（基本給、月給、固定残業の説明）、簡単な決算書の見方、有価証券報告書の見方、ビジネスモデルの良い会社を理解する。
- ⑥企業を知る（個人ワーク：職種の志望動機、企業の志望動機を書いてみる）
企業の経営理念、社長メッセージなどから、自身の価値観との共通点に触れ、志望動機の書き方を理解する。
- ⑦3C（自社、顧客、競合）分析
基本的なフレームワークを作成して配布し、求人票や会社HP、有価証券報告書をダウンロードするなどして3C分析シートを作成する。
- ⑧3C（自社、顧客、競合）分析発表
作成した3C分析シートを用いその要点を発表する。その企業を選んだ理由、自社、顧客、競合について特徴を発表する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業種、業界、職種について十分な知識を得る。
- ②自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。
- ③多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法（3C分析）を行うことができる。
- ④実社会で必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

- ①講義内での個人ワークでのアウトプット（70%）
- ②3C分析の理解、それに係る最終提出物および発表（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。2回目の授業でキャリアハンドブックを配布します。

【参考文献】

講義においてテーマに応じレジュメを配布するほか、有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

日本経済新聞のコピーや関連資料
日経電子版（無料会員サービス・ビジネス欄）

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。
キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア研究Ⅱ[現文]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	平塚 彰

■講義の目的および概要

テーマ：より実践的な面接の練習、および履歴書、エントリーシートの書き方などを修得し就職活動に備える。

本学のキャリア教育科目の総まとめの授業科目となります。これまでのキャリア形成論、キャリアデザインにおいて修得したあらゆる能力、スキル、ノウハウを活用し実際の面接練習、履歴書の書き方、企業のエントリーシートの書き方を総合的に修得することを目的とします。内定を取得した在学生の体験談の講話も用意しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義方法/課題に対するフィードバックの方法

前半はグループワークを主として用い、後半は履歴書、エントリーシートの書き方などの基礎ワークをします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

①グループワークⅠ (グループディスカッション)

企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。

②グループワークⅡ (集団面接)

企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。

③グループワークⅢ (個人面接)

企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。

④就職内定者による就活体験談 (個人ワーク：感想文)

内定を取得している本学4年生により、就活の心構え、いつどのような就活準備をしたか、エントリーシートをどのように書いたか、面接ではどのようなことを聞かれたか、適性試験の準備等はどのようにしたかなど生の情報をお話し頂きます。

⑤本学所定の履歴書の書き方 (個人ワーク：履歴書提出)

⑥企業のエントリーシート作成例 (個人ワーク：エントリーシート提出)

⑦総まとめレポート

(個人ワーク：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業種、業界、職種について十分な知識を得る。
- ②自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。
- ③多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法 (3C分析) を行うことができる。
- ④実社会で必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。

(DP2) 【コミュニケーション能力】

(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①グループワークでの積極的な参画 (30%)
- ②在学生の就活体験談感想文 (30%)
- ③講義内での個人ワーク (20%)
- ④最終提出物：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

講義においてテーマに応じレジュメを配布するほか、有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

日本経済新聞のコピーや関連資料

日経電子版 (無料会員サービス・ビジネス欄)

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。

キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア研究Ⅱ[臨床]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

本学のキャリア教育科目の総まとめの授業科目となります。これまでのキャリア形成論、キャリアデザインにおいて修得したあらゆる能力、スキル、ノウハウを活用し実際の面接練習、履歴書の書き方、企業のエントリーシートの書き方を総合的に修得することを目的とします。内定を取得した在学生の体験談の講話も用意しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半はグループワークを主として用い、後半は履歴書、エントリーシートの書き方などの基礎ワークをします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ① グループワークⅠ (グループディスカッション)
- ② グループワークⅡ (集団面接)
- ③ グループワークⅢ (個人面接)
- ④ 就職内定者による就活体験談 (個人ワーク: 感想文)
- ⑤ 本学所定の履歴書の書き方 (個人ワーク: 履歴書提出)
- ⑥ 企業のエントリーシート作成例 (個人ワーク: エントリーシート提出)
- ⑦ 総まとめレポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。

(DP2) 「コミュニケーション能力」

(DP6) 「社会に貢献する姿勢」

■成績評価基準と方法

- ① グループワークでの積極的な参画 (30%)
- ② 在学生の就活体験談感想文 (30%)
- ③ 講義内での個人ワーク (20%)
- ④ 最終提出物: キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア研究Ⅱ[子心]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	椿 明美

■講義の目的および概要

テーマ：より実践的な面接の練習、および履歴書、エントリーシートの書き方などを修得し就職活動に備える。

本学のキャリア教育科目の総まとめの授業科目となります。これまでのキャリア形成論、キャリアデザインにおいて修得したあらゆる能力、スキル、ノウハウを活用し実際の面接練習、履歴書の書き方、企業のエントリーシートの書き方を総合的に修得することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半はグループワークを主として用い、後半は履歴書、エントリーシートの書き方などの個人ワークをします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①グループワークⅠ（グループディスカッション）
- ②グループワークⅡ（集団面接）
- ③グループワークⅢ（個人面接）
- ④履歴書の書き方（個人ワーク：履歴書提出）
- ⑤先輩の体験談（個人ワーク：感想文）
- ⑥現役保育者の体験談（個人ワーク：感想文）
- ⑦総まとめレポート（個人ワーク：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・就職に必要なコミュニケーションができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。

(DP2) 【コミュニケーション能力】

(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①グループワークでの積極的な参画（30%）
- ②講義内での個人ワーク（50%）
- ③最終提出物（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

講義においてテーマに応じレジュメを配布するほか、有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

日本経済新聞のコピーや関連資料

日経電子版（無料会員サービス・ビジネス欄）

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも積極的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

このクラスは保育希望者向けです。一般企業を希望する学生は、同時開講の別学科Q23（令和5）年4月1日
専攻のクラスを受講してください。

科目名	キャリア研究Ⅱ[観光]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	平塚 彰

■講義の目的および概要

テーマ：より実践的な面接の練習、および履歴書、エントリーシートの書き方などを修得し就職活動に備える。

本学のキャリア教育科目の総まとめの授業科目となります。これまでのキャリア形成論、キャリアデザインにおいて修得したあらゆる能力、スキル、ノウハウを活用し実際の面接練習、履歴書の書き方、企業のエントリーシートの書き方を総合的に修得することを目的とします。内定を取得した在学生の体験談の講話も用意しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半はグループワークを主として用い、後半は履歴書、エントリーシートの書き方などの個人ワークを主として行ってまいります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム（manaba）を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①グループワークⅠ（グループディスカッション）
企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。
- ②グループワークⅡ（集団面接）
企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。
- ③グループワークⅢ（個人面接）
企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。
- ④就職内定者による就活体験談（個人ワーク：感想文）
内定を取得している本学4年生により、就活の心構え、いつどのような就活準備をしたか、エントリーシートをどのように書いたか、面接ではどのようなことを聞かれたか、適性試験の準備等はどのようにしたかなど生の情報をお話し頂きます。
- ⑤本学所定の履歴書の書き方（個人ワーク：履歴書提出）
- ⑥企業のエントリーシート作成例（個人ワーク：エントリーシート提出）
- ⑦総まとめレポート
（個人ワーク：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①業種、業界、職種について十分な知識を得る。
- ②自己の特性を正確に把握して、意欲的かつ前向きに将来を構想することができる。
- ③多様なリソースから情報収集し、企業分析の具体的な手法（3C分析）を行うことができる。
- ④実社会で必要な意欲や態度を身につけ、積極的なキャリア構築を行うことができる。

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 「コミュニケーション能力」
(DP6) 「社会に貢献する姿勢」

■成績評価基準と方法

- ①グループワークでの積極的な参画（30%）
- ②在学生の就活体験談感想文（30%）
- ③講義内での個人ワーク（20%）
- ④最終提出物：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

講義においてテーマに応じレジュメを配布するほか、有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

日本経済新聞のコピーや関連資料

日経電子版 (無料会員サービス・ビジネス欄)

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。

キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア研究Ⅱ[スピ]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

テーマ：より実践的な面接の練習、および履歴書、エントリーシートの書き方などを修得し就職活動に備える。

【講義の目的および概要】

本学のキャリア教育科目の総まとめの授業科目となります。これまでのキャリア形成論、キャリアデザインにおいて修得したあらゆる能力、スキル、ノウハウを活用し実際の面接練習、履歴書の書き方、企業のエントリーシートの書き方を総合的に修得することを目的とします。内定を取得した在学生の体験談の講話も用意しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半はグループワークを主として用い、後半は履歴書、エントリーシートの書き方などの基礎ワークをします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①グループワークⅠ (グループディスカッション)
企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。
- ②グループワークⅡ (集団面接)
企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。
- ③グループワークⅢ (個人面接)
企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。
- ④就職内定者による就活体験談 (個人ワーク：感想文)
内定を取得している本学4年生により、就活の心構え、いつどのような就活準備をしたか、エントリーシートをどのように書いたか、面接ではどのようなことを聞かれたか、適性試験の準備等はどのようにしたかなど生の情報をお話し頂きます。
- ⑤本学所定の履歴書の書き方 (個人ワーク：履歴書提出)
- ⑥企業のエントリーシート作成例 (個人ワーク：エントリーシート提出)
- ⑦総まとめレポート
(個人ワーク：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 「コミュニケーション能力」
(DP6) 「社会に貢献する姿勢」

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

- ①グループワークでの積極的な参画 (30%)
- ②在学生の就活体験談感想文 (30%)
- ③講義内での個人ワーク (20%)
- ④最終提出物：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

講義においてテーマに応じレジュメを配布するほか、有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

日本経済新聞のコピーや関連資料
日経電子版 (無料会員サービス・ビジネス欄)

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。
キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	キャリア研究Ⅱ[ス指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

テーマ：より実践的な面接の練習、および履歴書、エントリーシートの書き方などを修得し就職活動に備える

【講義の目的および概要】

本学のキャリア教育科目の総まとめの授業科目となります。これまでのキャリア形成論、キャリアデザインにおいて修得したあらゆる能力、スキル、ノウハウを活用し実際の面接練習、履歴書の書き方、企業のエントリーシートの書き方を総合的に修得することを目的とします。内定を取得した在学生の体験談の講話も用意しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半はグループワークを主として用い、後半は履歴書、エントリーシートの書き方などの基礎ワークをします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学習支援システム (manaba) を活用して資料等を配布し、フィードバックしていきます。

■授業計画

- ①グループワークⅠ (グループディスカッション)
企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。
- ②グループワークⅡ (集団面接)
企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。
- ③グループワークⅢ (個人面接)
企業の人事担当をしている外部の招聘講師による指導を行います。
- ④就職内定者による就活体験談 (個人ワーク：感想文)
内定を取得している本学4年生により、就活の心構え、いつどのような就活準備をしたか、エントリーシートをどのように書いたか、面接ではどのようなことを聞かれたか、適性試験の準備等はどのようにしたかなど生の情報をお話し頂きます。
- ⑤本学所定の履歴書の書き方 (個人ワーク：履歴書提出)
- ⑥企業のエントリーシート作成例 (個人ワーク：エントリーシート提出)
- ⑦総まとめレポート
(個人ワーク：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- (DP2)「コミュニケーション能力」
(DP6)「社会に貢献する姿勢」

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の2つの力の修得を目指します。
(DP2)「コミュニケーション能力」
(DP6)「社会に貢献する姿勢」

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

- ①グループワークでの積極的な参画 (30%)
- ②在学生の就活体験談感想文 (30%)
- ③講義内での個人ワーク (20%)
- ④最終提出物：キャリア形成に向けた卒業までの行動計画表の作成 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート、課題の提出、及び個人ワーク、グループワークにおける指導については学修管理システム (manaba) を用います。

【参考文献】

講義においてテーマに応じレジュメを配布するほか、有用な文献、参考サイト等を随時指示します。

日本経済新聞のコピーや関連資料
日経電子版 (無料会員サービス・ビジネス欄)

■授業外学習

【具体的な内容】

関心のある分野に関連する情報を新聞、雑誌、書籍、インターネット、テレビニュースなどで収集し、自身のキャリア形成に役立てます。特に日本経済新聞の14面、15面にあるビジネス1、ビジネス2の紙面を見る習慣づけをお勧めします。また日経電子版・無料会員サービスのビジネス欄もとても有益です。関心のある業界、企業の記事を追うことで視野が広がっていきます。
キャリア支援センター主催の各種イベント、就職ガイダンス、授業外学修にも能動的に参加しましょう。

【必要な時間】

事前事後学修はそれぞれ2時間程度を目安としています。

■その他

科目名	インターンシップ事前指導
開講期・単位	3年 春秋学期・選択 1単位・講義
担当者	吉沢 直、平塚 彰、新谷 弥、椿 明美、河本 洋一、濱田 剛一、遊佐 順和

■講義の目的および概要

インターンシップ研修の事前指導をする科目です。インターンシップ企業研究をとおして、研修でどのようなことを学んでこうとしているのかを押さえます。また、研修に必要な最小限の職場でのマナーを身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

オムニバスでの講義、グループワーク、ディスカッション等を入れて授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出書類はコメントを付して返却します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②企業研究、インターンシップ企業エントリー
- ③派遣先選考・面接
- ④事前指導（１）インターンシップ授業の意味・心構え、インターンシップで意識が変わる(学生発表)
- ⑤事前指導（２）プロフィールシートの書き方、通勤時のビジネスカジュアル
- ⑥事前指導（３）社会人基礎力、コンプライアンス
- ⑦事前指導（４）日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状（お礼メール）の書き方
- ⑧事前指導（５）職場での振る舞い(対面とオンライン版)、派遣前チェックリスト

【事後報告会】

グループワークと発表

（注意事項）

○インターンシップ研修参加予定学生は必ず受講してください。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・インターンシップから何を学ぶかを把握できる。
- ・インターンシップのための最低限の職場のルールとマナーを理解できる。
- ・インターンシップに行く準備を完了する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

事前指導での提出課題、事後報告会での提出物、報告書の全てが提出されて「認定」とする。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

担当教員より適宜資料配布。
本学オリジナル「研修日誌」

【参考文献】

「インターンシップ 第2版 - キャリア形成に資する就業体験」古閑博美編、学文社（2016）

■授業外学習

【具体的な内容】

・実際に企業で働くための基本能力などを、授業の事前、事後に積極的に情報を取り入れ行動に移す努力をしてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・インターンシップ研修に参加希望の学生は必ず履修してください。
- ・ビジネス実務総論、ビジネス実務演習の授業内容も参考にしてください。

科目名	インターンシップA
開講期・単位	3年 春秋学期・選択 2単位・実習
担当者	吉沢 直、平塚 彰、新谷 弥、椿 明美、河本 洋一、濱田 剛一、遊佐 順和

■講義の目的および概要

■職業体験型インターンシップ(短期)

現在大学で用意しているインターンシップ先や経済同友会紹介先、北海道商工会議所・札幌商工会議所等からの紹介先を中心に参加するインターンシップである。派遣一覧から希望する企業を選択し、学内面接、あるいはインターンシップ先の面接を経て派遣を決定する。派遣が決定した後、事前指導を実施し派遣する。社会で活躍できる人材となるための準備として、実際の 職業の現場を知り、働くことについて考える。単なる「仕事体験、見学」ではなく、卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。

学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導(1)～(5)は集中講義となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

- ①ガイダンス、インターンシップ経験談(学生発表)、派遣企業一覧、教員との相談タイム
- ②企業研究、インターンシップ企業エントリー
- ③派遣先選考・面接
- ④事前指導(1) インターンシップ授業の意味・心構え、インターンシップで意識が変わる(学生発表)
- ⑤事前指導(2) プロフィールシートの書き方、通勤時のビジネスカジュアル
- ⑥事前指導(3) 社会人基礎力、コンプライアンス
- ⑦事前指導(4) 日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状(お礼メール)の書き方
- ⑧事前指導(5) 職場での振る舞い(対面とオンライン版)、派遣前チェックリスト
- ⑨～⑭【インターンシップ実施】 8日以上
- ⑮【事後報告会】グループワークと発表

※担当教員の個別指導あり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。
- ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
- ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし
 教員より適宜資料配布

【参考文献】

「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社(2023)

■授業外学習

【具体的な内容】

日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業は毎週あるわけではありません。事前指導は集中講義となります。ガイダンスでスケジュールを配布しますのでそれに沿って参加してください。
- ・配布物やmanabaで確認しましょう。交通費・食事の支給は原則ありません（自己負担）が、インターンシップ先によっては支給される場合があります。

科目名	インターンシップB
開講期・単位	3年 春秋学期・選択 2単位・実習
担当者	吉沢 直、平塚 彰、新谷 弥、椿 明美、河本 洋一、濱田 剛一、遊佐 順和

■講義の目的および概要

●課題解決型インターンシップに参加する科目です。派遣先により異なりますが、一般的に企業から課題が示され、それについてグループで企画し提案する形式のインターンシップです。自分の意見を持つこと、チームとして力を発揮し貢献することで、社会で活躍できる人材となるための準備として大変有効です。卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助として参加してください。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導(1)～(5)は集中講義となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

- ①ガイダンス、インターンシップ経験談(学生発表)、派遣企業一覧、教員との相談タイム
- ②企業研究、インターンシップ企業エントリー
- ③派遣先選考・面接
- ④事前指導(1)インターンシップ授業の意味・心構え、インターンシップで意識が変わる(学生発表)
- ⑤事前指導(2)プロフィールシートの書き方、通勤時のビジネスカジュアル
- ⑥事前指導(3)社会人基礎力、コンプライアンス
- ⑦事前指導(4)日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状(お礼メール)の書き方
- ⑧事前指導(5)職場での振る舞い(対面とオンライン版)、派遣前チェックリスト
- ⑨～⑭【インターンシップ実施】 8日以上
- ⑮【事後報告会】グループワークと発表

※担当教員の個別指導あり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。
- ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
- ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし
 教員より適宜資料配布

【参考文献】

「最新インターンシップ～ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社(2023)

■授業外学習

【具体的な内容】

日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業は毎週あるわけではありません。事前指導は集中講義となります。ガイダンスでスケジュールを配布しますのでそれに沿って参加してください。
- ・配布物やmanabaで確認しましょう。交通費・食事の支給は原則ありません(自己負担)が、インターンシップ先によっては支給される場合があります。

科目名	インターンシップC
開講期・単位	3年 春秋学期・選択 2単位・実習
担当者	吉沢 直、平塚 彰、新谷 弥、椿 明美、河本 洋一、濱田 剛一、遊佐 順和

■講義の目的および概要

■自己応募型(就職サイト等からのエントリー)、自己開拓応募型(自分で行きたい会社を開拓)(短期)
就職サイト等から自分で応募し参加可能となる場合や、行きたいと思う会社に自ら連絡をして受入れの承諾が得られた場合に成立するインターンシップ。学生からの申し出があった後、大学担当者が先方と研修の確認をして学内手続きをする。自分からの行動により始まるインターンシップで、行動力、実行力が身に付く。卒業後に続く職業 人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。
学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導(1)～(5)は集中講義となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

- ①ガイダンス、インターンシップ経験談(学生発表)、派遣企業一覧、教員との相談タイム
- ②企業研究、インターンシップ企業エントリー
- ③派遣先選考・面接
- ④事前指導(1)インターンシップ授業の意味・心構え、インターンシップで意識が変わる(学生発表)
- ⑤事前指導(2)プロフィールシートの書き方、通勤時のビジネスカジュアル
- ⑥事前指導(3)社会人基礎力、コンプライアンス
- ⑦事前指導(4)日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状(お礼メール)の書き方
- ⑧事前指導(5)職場での振る舞い(対面とオンライン版)、派遣前チェックリスト
- ⑨～⑭【インターンシップ実施】 8日以上
- ⑮【事後報告会】グループワークと発表

※担当教員の個別指導あり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。
- ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
- ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし
教員より適宜資料配布

【参考文献】

「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社(2023)

■授業外学習

【具体的な内容】

日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業は毎週あるわけではありません。事前指導は集中講義となります。
ガイダンスでスケジュールを配布しますのでそれに沿って参加してください。

配布物やmanabaで確認しましょう。交通費・食事の支給は原則ありません（自己負担）
が、インターンシップ先によっては支給される場合があります。

科目名	インターンシップD
開講期・単位	3年 春秋学期・選択 4単位・実習
担当者	吉沢 直、平塚 彰、新谷 弥、椿 明美、河本 洋一、濱田 剛一、遊佐 順和

■講義の目的および概要

■長期派遣型のインターンシップ

原則、1か月以上、実働20日以上で長期間で派遣するインターンシップで、地域連携プロジェクト(1年タイプ)、ホテルインターンシップ、後志留学などがこれに入る。長期に亘るため、大学が実施するインターンシップは原則休業中に実施する。長期間体験のため企業や仕事をより深く知るものとなり、自己の能力開発にも繋がり、職業選択に有効となる。20日を過ぎると有償(有給)となる場合もある。卒業後に続く職業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「事前指導」「インターンシップ」「事後報告会」に分けられます。学内で行う事前指導の授業では、学生の経験談、映像の活用、ワークシートへの記入やディスカッションを取り入れ、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。事前指導(1)～(5)は集中講義となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

- ①ガイダンス、インターンシップ経験談(学生発表)、派遣企業一覧、教員との相談タイム
- ②企業研究、インターンシップ企業エントリー
- ③派遣先選考・面接
- ④事前指導(1)インターンシップ授業の意味・心構え、インターンシップで意識が変わる(学生発表)
- ⑤事前指導(2)プロフィールシートの書き方、通勤時のビジネスカジュアル
- ⑥事前指導(3)社会人基礎力、コンプライアンス
- ⑦事前指導(4)日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状(お礼メール)の書き方
- ⑧事前指導(5)職場での振る舞い(対面とオンライン版)、派遣前チェックリスト
- ⑨～⑭【インターンシップ実施】 8日以上
- ⑮【事後報告会】グループワークと発表

※担当教員の個別指導あり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① インターンシップを通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を向上させることができる。
- ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
- ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

事前指導での提出物、報告会の参加、報告書、企業からの評価を確認し、「認定」します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし
 教員より適宜資料配布

【参考文献】

「最新インターンシップ―ニューノーマル時代のキャリア形成」古閑博美、牛山佳菜代編著、学文社(2023)

■授業外学習

【具体的な内容】

日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、インターンシップ前にも予習復習をしておきましょう。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・授業は毎週あるわけではありません。事前指導は集中講義となります。ガイダンスでスケジュールを配布しますのでそれに沿って参加してください。
- ・配布物やmanabaで確認しましょう。交通費・食事の支給は原則ありません（自己負担）が、インターンシップ先によっては支給される場合があります。

科目名	歴史文化探究
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

- ・歴史学(文献史学)の手法を学び、学生が主体的に調査・「探求」を行う講義である。
- ・履修者(学生)の「発表」、「調査」、「質疑」が主体となる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ディスカッション、アクティブラーニング、グループワーク、フィールドワーク(実施可能な場合)

- ・学生主体の調査、研究発表。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・講義中に担当者より口頭ないし文書で伝達する。

■授業計画

- ①. ガイダンス
- ②. 自由発表—信憑性チェックなど
- ③. 文献調査と発表1—文献を「読む」手法と語釈
- ④. 文献調査と発表2—文献を「読む」手法と語釈 実践
- ⑤. 文献調査と発表3—文献の整理手法 「年表」
- ⑥. 文献調査と発表4—文献の整理手法 「年表」 実践
- ⑦. 文献調査と発表5—文献のまとめ方 「書く」
- ⑧. 文献調査と発表6—文献のまとめ方 「書く」 実践
- ⑨. 文献調査と発表7—研究の発展 参考文献とテーマ発表
- ⑩. 文献調査と発表8—研究の発展 参考文献とテーマ発表 実践
- ⑪. 文献調査と発表9—文献と調査の関係性
- ⑫. 文献調査と発表10—文献と調査の関係性 実践
- ⑬. 研究発表1—これまでの調査法をふまえ
- ⑭. 研究発表2
- ⑮. 研究発表3—まとめもふくめ

※調査などは、全体的な状況をふまえ、実施授業回数や実施日、実施の有無など、適宜順番を入れ替える可能性がある。

※全体的に、感染症の影響で、フィールドワークの実施有無や、シラパスの内容を変更する場合がある。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・歴史学(文献史学)の調査法を身に付ける。
- ・文献調査と、フィールド調査の双方の技法を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・授業中…調査、発表(50%)
- ・授業外…感想、講義者から指示された課題、まとめレポートなど(50%)

※コピー、剽窃、虚偽の連絡、その他不正は、上記の評価と無関係に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・別途、指示する。

※1,000~2,000円以内の書籍を教科書として購入してもらう場合がある。この点をふまえた履修を行うこと。

【参考文献】

- ・なし。講義中に指示する。

■授業外学習

【必要な時間】

- ・各回、2～4時間程度。調査、発表準備は基本的に授業時間外に実施しておくこと。
- ・レジュメ作成、文献輪読、内容要約、語釈、年表作成、追加調査などが主な内容である。
- ・正規の授業時間とは別に、フィールドワークを実施する場合がある。それに必要な時間の確保、調整を履修前に念頭に置いておくこと。

【必要な時間】

- ・課題やフィールドワーク調査に必要な調査、図書館使用や文献読書、報告レポートなどの作成時間を考慮した上で履修すること。
- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・私語、ほかの受講者に迷惑がかかる行為、いわゆるコピーや剽窃、自分で実施をしていないもの、そのほか不正行為や授業担当者が必要と判断したことについては厳正に対処する。
- ・履修者の数が多すぎる場合は、相談の上、人数制限をする場合がある。これは授業の性質及び、質維持の観点からである。
- ・フィールドワーク、教科書購入の費用は履修者の負担となる場合がある。ただし、履修者の負担を配慮する。
- ・フィールドワークの実施については、感染症の状況に応じて考慮する。実施しない場合もあるので、その点を理解した上で履修しておくこと。
- ・感染症の状況などに応じた授業形態の変化に応じて、シラバスの内容を変更する場合がある。ただし、到達目標などは変更しない。

科目名	国際観光探究
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	斉藤 巧弥、田村 こずえ、藤崎 達也

■講義の目的および概要

「学習者自らが課題を抽出し、その課題解決に向けたチームプロジェクトを実行し、何らかの結論まで導き、それを公表する」ことをねらいとした演習である。チームで積極的にプロジェクトに取り組むことで課題解決能力を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数のチームを結成し、グループワーク等を通じて、具体的な課題解決のためのプロジェクトに取り組む。

【課題に対するフィードバックの方法】

教室内での文献調査だけではなく、実地演習（聞き取り調査、課題解決のための実践等）も行うアクティブラーニングとする。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 「探究」とは。個々が関心のある社会課題を見つける。
- ③ グループワーク1（社会課題のディスカッション）
- ④ グループワーク2（取り組みたい社会課題についてのイ企画書・イメージボード作成）
- ⑤ グループワーク3（連携先の意向を踏まえての企画の練り直し）
- ⑥ グループワーク4（ゲスト講師へのプレゼン用企画書・イメージボードの完成）
- ⑦ ゲスト講師1
- ⑧ 企画ごとにプロジェクトグループ分け
- ⑨ 観光におけるイベントの意義
- ⑩ ゲスト講師2
- ⑪ グループワーク1
- ⑫ グループワーク2
- ⑬ グループワーク3
- ⑭ グループワーク4
- ⑮ パネル作成
- ⑯ イベント活動

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・チームの課題を自らのものとして捉え、主体的に考え、行動できるようになる。
- ・チーム内での課題解決プロセスを通じて、適切にコミュニケーションできるようになる。
- ・課題解決に必要な学習を自ら行うことができるようになる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

次の卒業要件の到達目標となる
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

毎回の提出物、グループワークへの参加20%
 報告会・イベント等での貢献度60%
 レポート20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

■授業外学習

週に1回（90分）の議論のみでは到底なし得ない実行型演習である。所定の時間以外²³（令和5）年4月1日に、チームごとに熟議する時間を積極的に設けることが求められる。そのためにも、主体的に励むことが強く求められる。

【必要な時間】
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	スポーツ探究
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	栗野 祐弥

■講義の目的および概要

本演習では、与えられたテーマに関して個人の課題を設定し、その解決に向けた学修を行う。個人課題の取り組みに関してプレゼンテーションを行う。また、課題解決に向けた取り組みの中で、必要に応じてフィールドワークを行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「スポーツ」という大枠をテーマに、各個人がこれに関するテーマ(課題)を設定する。情報収集や文献学習を通してテーマに関する課題を解決するためのプロジェクトに取り組む。課題の特殊性により、実地演習(聞き取り調査、課題解決のための実践等)も行う場合がある。本演習は、学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域における経験や知識をふまえ、効果的な課題解決方法へのアドバイスをしながら学習をサポートする形式で実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

■授業計画

- ①ガイダンス(「スポーツ探究」とは)
- ②個人課題設定と情報収集(課題に関する興味関心)
- ③個人課題設定と情報収集(調査課題の絞り込み)
- ④課題解決に向けた実行(調査1)
- ⑤課題解決に向けた実行(調査2)
- ⑥課題解決に向けた実行(実地調査等1)
- ⑦課題解決に向けた実行(実地調査等2)
- ⑧中間報告会
- ⑨課題解決に向けた実行および課題設定の見直し
- ⑩課題解決に向けた実行(課題の見直しおよび修正1)
- ⑪課題解決に向けた実行(課題の見直しおよび修正2)
- ⑫課題解決に向けた実行(追加実地調査1)
- ⑬課題解決に向けた実行(追加実地調査2)
- ⑭最終報告会の練習および準備
- ⑮最終報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自らの課題を明確にし、解決に向けて主体的に考え、取り組むことができるようになる。
- ②上記学習にて修得した知識を整理し、他人にわかりやすくプレゼンできる力を身につける。
- ③文献検索方法や、関連資料の入手方法など基本的な学習ソースのアクセス方法を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】
 (DP6) 【社会に貢献する力】

■成績評価基準と方法

プレゼンテーション(40%)
 課題提出状況および提出物(40%)
 最終レポート(20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業内適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、「各専門領域において高度な専門知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で課題解決のための情報収集に関する課題を課す。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業展開の関係で50名の履修制限とします。選抜方法は、ガイダンスにて説明します。

科目名	協同実践
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	平塚 彰

■講義の目的および概要

この講義のテーマは、北海道の地域社会、特に本学の位置する清田区エリアを中心に歴史、社会、風俗、文化等を通じて、この特徴や課題を理解することです。清田区で活躍する区民の方々に直に聴き取り・インタビューし、生の声を聴くことで清田区の特徴や課題を深く理解します。皆さんが聴き取り・インタビューした内容をまとめ最終的に「清田区の人々に学ぶ」という文章にまとめます。清田区への興味を喚起するとともに、地域が抱えている課題についても区民の生の声を集め「清田区ってどんな街なのだろう？」という疑問へ答える内容を目指します。さらに、この講義の進捗について、皆さんに「FMしろいし」に出演してもらい放送を通じてこの取り組みを解説し他者への説明力を高めていきます。皆さんが聴き取り・インタビューしことを文章でも言葉でも他者に伝えるということです。この講義では、課題発見力、傾聴力、協働力、コミュニケーション力の育成を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義のほか、フィールドワーク、グループワークが中心になります。まず1. 歴史の視点から清田区エリアの成り立ち、特徴について学び、フィールドワークにて清田区唯一の歴史遺産、吉田用水跡地を探索します。次に2. 現代的視点から清田区エリアの地域課題解決のための取り組みについて学び、3. マーケティング・ミックスやSWOT分析など課題抽出、解決策立案の技法を修得します。4. 聴き取り・インタビューについての基礎的知識と方法を学修します。2～4人グループ単位で5. 事前にアポイントを取得した区民の方々とお会いし、直に聴き取り・インタビューを行い、その内容をグループで協力しながら2,000～3,000字程度の記事にまとめます。聴き取り・インタビューをさせて頂く方々の候補としては、清田区の郷土史研究家、古くからの店主さん、清田区に移住してきて出店したご夫婦、人気の洋菓子店の店主さん、本場の味を清田区へ（中華料理、韓国料理）、、、、等々、いろいろな方々が様々なテーマでお話して頂けるような内容を目指します。どの方々に聴き取り・インタビューするかは皆さんの主体性を重視し、グループごとに相談しながら決定します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説し、学修管理システム（manaba）を活用して資料等を配布していきます。

■授業計画

講義のスケジュールは以下を予定しています。講義の進捗状況、理解度に応じて順次³（令和5）年4月1日
を変更することがあります。またインタビュー対象の方々のご都合に合わせて、「FMしろいし」オンエアの時間帯に合わせるなど、講義時間外での活動も適宜必要となります。グループでの話し合いで打ち合わせして頂きます。

①ガイダンス

イントロダクションとして授業計画の説明、自己紹介、皆さんの興味、関心の方向性についてお聞かせ頂き、このあとの講義の内容を抜粋してお聞き頂いて感触をつかんで頂きます。

②清田区の成り立ちと特徴について（地理、歴史、地形、自然）

③清田区の成り立ちと特徴について（社会、産業、室蘭街道、米作り）

④学外フィールドワーク（講師：郷土史研究者）

大学バスで清田区・あしりべつ郷土館まで行き、現地で郷土史研究者からの説明を聴講します。授業時間内に大学に戻ります。

⑤学外フィールドワーク（吉田用水跡地探索、講師郷土史研究者）

大学バスで清田区・吉田用水跡地まで行き、現地で郷土史研究者からの説明を聴講します。授業時間内に大学に戻ります。

⑥地域課題とその解決のための取り組みについて（マーケティング・ミックス、SWOT分析など課題抽出、解決策立案の技法）

⑦地域課題とその解決のための取り組みについて（マーケティング・ミックス、SWOT分析など課題抽出、解決策立案の技法）

⑧地域課題とその解決のための取り組みについて（マーケティング・ミックス、SWOT分析など課題抽出、解決策立案の技法）

⑨インタビュー調査の方法、インタビュー対象者の検討、インタビュー実行計画（グループワーク）

⑩実践編Ⅰ（インタビュー&FMしろいし出演）

⑪実践編Ⅱ（インタビュー&FMしろいし出演）

⑫実践編Ⅲ（インタビュー&FMしろいし出演）

⑬実践編Ⅳ（インタビュー&FMしろいし出演）

⑭「清田区の人々に学ぶ」原稿まとめ

⑮「清田区の人々に学ぶ」原稿グループ発表

■到達目標・卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①清田区の地域社会の成り立ちを歴史的、現代的に理解できる。
- ②清田区エリアの特徴と課題、解決のための取り組みを理解できる。
- ③聞き取り・インタビューの基礎的知識、方法を修得する。
- ④課題発見力、傾聴力、協働力、コミュニケーション力を修得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この講義は本学の学位授与方針において、特に以下の3つの力の修得を目指します。

(DP2)【コミュニケーション能力】

資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

(DP4)【社会に貢献できる姿勢】

地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。

■成績評価基準と方法

グループ評価と個人評価を合計して最終評価とします。

【グループ評価（60%）】

活動成果の内容が十分な水準に達している場合を基準とし、以下のポイントの評価を加減します。

- ・区民の方々に聞き取り・インタビューを行い、その内容をグループで協力しながら2,000~3,000字程度の記事を原稿にまとめた最終成果物
- ・聞き取り・インタビューを受けた区民の方々による評価
- ・「FMしろいし」のスタッフによる評価
- ・活動期間におけるグループマネジメント（プロジェクト管理）
- ・その他評価すべき特徴的な要素

【個人評価（40%）】

グループでの活動において、その寄与度を多面的に評価する。メンバーとしての役割を適切に果たしたと判断される場合を基準として、以下のポイント、及びグループ内におけるメンバー相互評価を参考に加減します。

- ・グループ活動全般への参加状況
- ・聞き取り・インタビューへの参加状況
- ・「FMしろいし」への出演参加状況
- ・チームメンバーによる相互評価
- ・講義内での課題、小テスト等に対する評価
- ・その他評価すべき特徴的な要素

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキスト購入の必要はありません。必要に応じて個別に指示します。講義における連絡やレポート課題の提出、及びフィールドワークにおける指導については学修管理システム（manaba）を用います。

【参考文献】

あしりべつ郷土館ホームページ
<https://ashiribetsu-museum.com/>

ひろまある清田ホームページ
<https://hiromaaru.org/>

清田の歴史（清田区役所ホームページ）
<https://www.city.sapporo.jp/kiyota/outline/history/index.html>

「日本探検」149ページ 北海道独立論 梅棹忠夫 講談社学術文庫2254
「街道をゆく15 北海道の諸街道」司馬遼太郎 朝日文庫 360
そのほか必要に応じて個別に指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・清田区について、文献、新聞・雑誌、Webサイト等を活用し出来る限り情報収集し、皆さんが清田区にどのような関心があるかを考えておいてください。
- ・関心がある分野に関連する場所を可能な範囲で訪問してみてください。清田区に関する話を聞く、名所旧跡、観光スポット等の施設を見学する、地域で有名なお店で食べてみる等、情報に限らず清田区を体感することが大切です。

事後学修

清田区の特徴、魅力、課題などについて、情報発信できるようにすることが重要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安としています。

その他

ゲスト講師は「あしりべつ郷土館」所属の郷土史研究家を予定しています。出来る限り皆さんの活動を把握するため、都度学修管理システム（manaba）、responを活用しながら、振り返りの機会を設定し、簡単な自己評価をして頂きます。

■その他

科目名	海外体験A
開講期・単位	3年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣、杉江 聡子、田部井 祐介、趙 恵真

■講義の目的および概要

この授業は世界に目を向ける国際的な人材の養成を目的とする。世界に飛び出して新たな発見をすると同時に、現在生活している北海道や日本という地域が世界の中でどのように位置づけられているのかを客観的に見る視点を培う。実際に韓国を訪れ、人との交流や自身の見聞を通じて国際感覚を養ってくる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前学習：韓国と日本についての文化・歴史・社会問題などについて調べて、プレゼンテーションのテーマを決める。

現地学修：現地の大学による対面講義、2週間の研修と文化体験

事後学習：研修についての最終発表。

【課題に対するフィードバックの方法】

対面とmanabaなどを通じて添削やコメントを与える。

■授業計画

- ①説明会
- ②課題の設定
- ③出発前の最終確認

④～⑬

<研修>9月に研修を現地にて行う。

- ⑭学習後のまとめ
- ⑮最終報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・国際感覚を養い、国際人としての自覚を持つのを目標とする。
- ・インターネットなどから現地の情報を収集する能力を養う。
- ・韓国と日本の文化的に相違点と類似点を分析して理解を深めて、現地の人々にプレゼンテーションができる。
- ・積極的な態度で現地の人々とコミュニケーションを取ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

現地での学習と達成度：40%

現地での発表：30%

最終報告会：30%

■テキスト・参考文献

【事前事後学習】

テーマについては大学図書館や学外の外国に関するインフォメーションセンターなどの情報源を大いに利用し調査を進め、パワーポイントにまとめる。授業では発表とディスカッションが中心になる。授業以外の時間を使って、準備と修正を繰り返す。予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■授業外学習

【事前事後学習】

テーマについては大学図書館や学外の外国に関するインフォメーションセンターなどの情報源を大いに利用し調査を進め、パワーポイントにまとめる。授業では発表とディスカッションが中心になる。授業以外の時間を使って、準備と修正を繰り返す。予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・説明会で詳しい日程の案内をします。
- ・ワクチン接種が求められる可能性があります。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響でスケジュールや費用が変更になる可能性があります。(前泊などの費用)
- ・2023年度の研修は、韓国の大邱大学で、2023年9月上旬～9月中旬(14日間)を予定しています。ただ、コロナ状況により、日程に変更がある可能性があります。

科目名	海外体験B
開講期・単位	3年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣、杉江 聡子、田部井 祐介、趙 恵真

■講義の目的および概要

本講義の目的は、本学協定校のうち北米の大学において、ホームステイや語学研修を通じて、英語コミュニケーション能力や異文化適応能力を高め、当該地域の歴史・文化・社会に対する理解を深めることを目的とする。

2023 (令和5) 年度の研修は、カナダ・アルバータ州のカルガリー大学で、2022年8月6日～9月3日 (4週間) を予定しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

講義方法】

事前授業

カナダや北米圏についての文化・歴史・社会問題などについて調べる。

学外学修

現地の教員による対面講義

3週間の研修(80時間)

事後授業

研修についての発表

【課題に対するフィードバックの方法】

主に以下の形式でフィードバックをする。

- ・事前授業：学修管理システム(manaba)を通じて添削やコメントを与える。
- ・学外学修：現地教員たちからのファイナルレポートでのフィードバック。
- ・事後授業：最終発表に対して、学修管理システム(manaba)を通じてコメントを与える。

■授業計画

①事前説明会

②事前授業

③～⑭ 学外学修(カルガリー大学ESL Program :)

※出発・帰国時は担当教員が同行します。

※大学側で用意されている週末の旅行は任意参加です。(別途料金がかかります。)

(3) 事後報告会

⑮研修成果報告プレゼンテーション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

到達目標】

- ・インターネットやオンラインリソース、書籍などから現地の情報を収集できる。
- ・日常生活で支障のない英語力を習得する。
- ・自分の文化や生活などについてホストファミリーなど現地の人に説明できるようになる。
- ・自らの異文化交流体験について、日本語・英語で報告できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

事前学習、課題 20%

事後学習、レポート 20%

海外研修中の活動への取り組みと達成度 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

渡航前の事前学習により、現地の情報を可能な限り入手すること。

- ・語学力の向上にも努め、現地での活動に備えること。例えば、自己紹介や自分の住む国・地域（日本・北海道・札幌、その他の都道府県など）について、英語で説明できるように準備すること。
- ・研修後に報告発表会を開催するので、多くの写真や動画を集めておくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・入国に伴い、日本政府より3回の新型コロナワクチンの接種を要請されています。接種が済んでいない人は、早急に摂取すること。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響でスケジュールが変更になる可能性があります。大学からの通知・連絡を見逃さないよう注意すること。

科目名	海外体験C
開講期・単位	3年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣、杉江 聡子、田部井 祐介、趙 恵真

■講義の目的および概要

本講義の目的は、本学協定校のうち中華圏の大学において、語学研修、地域社会・文化に関する講義、人文学や日本語を専攻する現地学生との交流（中国語を中心に多言語を用いる）を通じて、中国語コミュニケーション能力や異文化適応能力を高め、当該地域の歴史・文化・社会に対する理解を深めることです。

2023 (令和5) 年度は台湾・嶺東科技大学、2023年9月15日～9月25日（10日間）を予定しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

現地の教員や学生による対面講義や交流活動を中心に行いますが、遠隔も適宜取り入れる可能性があります。

現地では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、その他SNSなどのツールを用いて連絡や課題のやり取りを行います。

教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども適宜取り入れます。

・授業内容

中華圏の社会や文化について、現地で実物に触れ、実際に体験する活動を通じて、理解を深めます。

日常生活の各場面で中国語を用いたコミュニケーションを体験するとともに、多様な中国語のバージョンや各地の方言にも触れます。

現地の人々との交流を通じて積極的にコミュニケーションする態度を育成し、中国語運用に対する自信を高めます。

日本語授業で教える体験を通じて、日本の国や文化に対する客観的で批判的な視点を養うと共に、日本語学習者との交流を通じて、日本語・日本文化のインフォーマントとして架け橋の役割を果たします。

【課題に対するフィードバックの方法】

主に以下の形式で質問に回答します。

- ・研修活動時間内で質問や課題に対する回答・解説をします。
- ・オンライン課題に対するフィードバックを各自に返信します。

■授業計画

(1) 事前学習

- ①説明会
- ②～③研修参加準備プレゼンテーション

(2) 現地研修（10日間：授業内外の学修時間40～60時間程度）

- ④札幌～（台北経由）～台中へ移動
- ⑤現地教員・学生との顔合わせ、大学キャンパス見学、歓迎交流会
- ⑥中国語学習、日本語教育、市内見学（台中旧城散策）
- ⑦～⑩中国語学習、日本語教育、中華圏の文化体験プログラム（太極拳、書道、台湾文化、切り絵、台湾茶道、台湾語、少数民族について等）
- ⑪現地視察（特産・土産品、若者文化等）、送別交流会
- ⑫台中～（台北経由）～札幌へ移動

※現地大学側で用意される活動によっては別途費用がかかる可能性があります。

(3) 事後学習

- ⑬成果報告準備
- ⑭研修成果報告プレゼンテーション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・インターネットやオンラインリソース、書籍などから現地の情報を収集できる。
- ・簡単な中国語（初修中国語学習歴1年程度）を用いて、自己紹介や自分たちの住む国・地域の紹介（プレゼンテーション）ができる。
- ・日本語、中国語、英語、筆談、ボディランゲージなどを総合的に用いて、積極的に現地の人々とコミュニケーションできる。
- ・異文化交流の体験を通じて、中華圏の社会や文化の特徴、自分の国と中華圏の人々の考え方や行動の共通点や相違点などについて理解を深める。
- ・研修の体験を通じて学んだことを、帰国後に日本語で報告、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 事前学習、課題 20%
- 事後学習、レポート 20%
- 海外研修中の活動への取り組みと達成度 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】必要に応じて指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

渡航前の事前学習により、現地の情報を可能な限り入手すること。
語学力の向上にも努め、現地での活動に備えること。例えば、自己紹介や自分の住む国・地域（日本・北海道・札幌、その他の都道府県など）について、中国語（英語併用も可）で説明できるように準備することが必要です。
研修後に報告発表会を開催しますので、写真や動画、資料メモなどを集めてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響でスケジュールや費用が変更になる可能性があります。大学からの通知・連絡を見逃さないよう注意すること。

科目名	環境問題
開講期・単位	4年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	菅井 貴子

■講義の目的および概要

環境問題は科学、政治、経済、社会、産業など様々な分野に関わる非常に複雑な問題です。ただ、本質はとてもシンプルかもしれません。本講義は、北海道の天気や気候変化、異常気象を通して、人と地球システムの関わりや温暖化の基本的な仕組み、大気汚染・河川汚染・森林破壊・ゴミ問題・自然エネルギーなどを学びながらディスカッションやプレゼンテーションを行うことで、環境意識を高め、持続可能な社会形成に向けて言葉で議論ができるようになることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

スライドや配布するプリントを中心とした講義、課題発表のプレゼンテーション、感想レポート、授業まとめレポートなどを実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示、配布します。

■授業計画

授業はおおむね以下の通りに実施します。
時事問題などを絡めるため、順序は前後することがあります。

- ①オリエンテーション 授業の説明
- ②ニュースから知る環境問題
- ③北海道の天気と気候多様性
- ④生物季節の変化
- ⑤地球温暖化
- ⑥温室効果ガスと自然エネルギー
- ⑦異常気象と自然災害
- ⑧防災の基礎知識
- ⑨オゾン層・酸性雨・大気汚染・森林破壊の現状
- ⑩生物多様性
- ⑪IPCC 第6次評価報告書と世界
- ⑫SDGs 循環型社会
- ⑬CSR・環境マネジメント 企業と個人の取り組み
- ⑭振り返りとまとめ
- ⑮確認テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

環境へのアカデミックスキルを身につけ、環境意識の向上と問題の現状や課題について理解を深める。
持続可能な社会形成に向けて自身の考えを持ち、自身の言葉で表現ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

- ①課題提出 30%
- ②授業でのプレゼンテーション 30%
- ③授業内でのレポート 30%
- ④確認テスト 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を提示、配布します。

【参考文献】

東京商工会議所 環境社会検定試験 持続可能な社会をわたしたちの手で eco検定

■授業外学習

【具体的な内容】

新聞、雑誌、テレビ、SNSが日々取り上げる環境ニュース、話題を積極的に読み、みずからがどう考えるかをまとめておいてください。なお、新聞各紙は大学図書館で閲覧できますので、積極的に活用の心掛けを習慣づけましょう。

（予習）前講義で課題を与えますので、調べておいてください

（復習）講義内容をしっかりと整理し、自らの意見なども次の講義で述べられるように考えをまとめておいてください。

【必要な時間】

それぞれ1時間ぐらいかかります。

■その他

科目名	北海道史
開講期・単位	4年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

北海道の歴史を理解するため、旧石器時代・縄文時代・続縄文時代・擦文時代・アイヌ文化時代・近代・現代にわたって通史を明らかにします。そのうち、近代および現代を中心的にとりあげて授業を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントのスライドを使用して講義をします。授業内で講義内容に関わるアンケートやクイズなども取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 毎回、授業の感想・意見・質問などをリアクションペーパーに記入してもらいます。感想・意見および質問と回答は次回の授業内でフィードバックします。
- ・ 提出されたレポートは授業内で全体の講評を行うとともに、代表的なレポート例を紹介します。

■授業計画

- ①旧石器時代から擦文時代まで
- ②中世アイヌ文化期
- ③近世アイヌ文化期
- ④近代（1）——明治維新と開拓使時代
- ⑤近代（2）——3県1局時代と道庁の開拓政策
- ⑥近代（3）——アイヌ政策と産業・教育の発展
- ⑦近代（4）——第1次世界大戦後の北海道
- ⑧近代（5）——15年戦争下の北海道
- ⑨現代（1）——第二次大戦後の日本の歩み
- ⑩現代（2）——連合軍の進駐と復員・引揚
- ⑪現代（3）——戦後直後の混乱
- ⑫現代（4）——農業と漁業の変容
- ⑬現代（5）——鉱工業の推移と他の産業
- ⑭現代（6）——産業・生活基盤の整備
- ⑮現代（7）——行政・人口の推移とアイヌの人々

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の現状や課題が生みだされた歴史的背景を把握するために、北海道の歴史、とくに近代および現代について深く理解できるようになることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

最終レポート、小レポートと授業参加態度により評価します。評価の配分は、最終レポート60%、小レポート20%、授業参加態度20%とします。なお、最終レポートは出席回数が3分の2以上であることを提出条件とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使いません。講義のレジュメをmanabaを通じて配付します。

【参考文献】

桑原真人・川上淳『増補版 北海道の歴史がわかる本』亜細亜社、2018年
関秀志他『新版 北海道の歴史 下 近代・現代編』北海道新聞社、2006年
『新北海道史』第3～6巻通説2～5、1971、1973、1975、1977年

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時の最後に次週の学習について予告するので、配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。

【必要な時間】

事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科目名	地域研究
開講期・単位	4年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

地域社会の今日的意味を理解するため、わが国の地域社会変動の諸相を明らかにし、現段階における地域社会の特質について検討します。なお、戦前戦後を通じた地域社会と教育との関わりの変化についても把握できるように授業を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントのスライドを使用して講義をします。授業内で講義内容に関わるアンケートやクイズなども取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 毎回、授業の感想・意見・質問などをリアクションペーパーに記入してもらいます。感想・意見および質問と回答は次回の授業内でフィードバックします。
- ・ 提出されたレポートは授業内で全体の講評を行うとともに、代表的なレポート例を紹介します。

■授業計画

- ① 地域社会の今日的意味——地域社会の定義と新たな注目
- ② 戦前日本の地域社会（1）——農村社会の特質
- ③ 戦前日本の地域社会（2）——農村社会と都市社会
- ④ 戦前日本の地域社会（3）——地域社会と教育・学校の関連
- ⑤ 戦後日本の地域政策の展開（1）——15年戦争とその帰結
- ⑥ 戦後日本の地域政策の展開（2）——戦後農政の展開
- ⑦ 戦後日本の地域政策の展開（3）——戦後の地域開発政策の展開
- ⑧ 戦後日本の地域社会変動（1）——戦後の人口変動と地域社会
- ⑨ 戦後日本の地域社会変動（2）——地域社会類型の変動
- ⑩ 戦後日本の地域社会変動（3）——過疎地と都市における地域課題
- ⑪ 戦後日本の地域社会変動（4）——外国人の受け入れの歴史
- ⑫ 戦後日本の地域社会変動（5）——ニューカマーの増加と課題
- ⑬ 教育の地域性と地域の教育性（1）——戦後の教育改革と教育制度の変遷
- ⑭ 教育の地域性と地域の教育性（2）——「地域と教育」の変化
- ⑮ 教育の地域性と地域の教育性（3）——現段階の地域における多様な教育課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

戦前日本の地域社会、戦後日本の地域政策や地域社会の変化、地域と教育の関連などについて理解ができることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

最終レポート、小レポートと授業参加態度により評価します。評価の配分は、最終レポート60%、小レポート20%、授業参加態度20%とします。なお、最終レポートは出席回数数が3分の2以上であることを提出条件とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使いません。講義のレジュメをmanabaを通じて配付します。

【参考文献】

小内透『戦後日本の地域社会変動と地域社会類型』東信堂、1996年
 地域社会学会編『新版キーワード 地域社会学』ハーベスト社、2011年
 笹谷春美・吉崎祥司・藤井史朗・小内透編『変動期の社会学』中央法規出版、1992年

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

授業時の最後に次週の学習について予告するので、配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。

【必要な時間】

事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	Conversation I
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード

■講義の目的および概要

Conversation I では、日常の幅広い様々なシチュエーションで、柔軟に会話を維持・発展させるコツを学びながら、実践的な英語力を身につけることができます。学生は話すことによって学び、より良い会話のパートナーになることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

一般的なパターンは、教師がロールプレイを行ったり例を示しながら行うペアディスカッションと、教科書で取り上げられたポイントに関する短い講義です。授業では、学生の発言時間を最大限に確保するよう心がけます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業開始時、ペアワーク時、テスト後にフィードバックを行います。

■授業計画

- ①Orientation: conversation cafe and explanation of assessment
- ②Unit 1 Introductions
- ③Unit 2 Family
- ④Unit 3 Shopping
- ⑤Unit 4 Food
- ⑥Unit 5 Music
- ⑦Unit 6 Free time
- ⑧Unit 7 Travel
- ⑨中間テスト (scripted conversation)
- ⑩Unit 8 Sports
- ⑪Unit 9 Friends
- ⑫Unit 10 Work
- ⑬Unit 11 Movies
- ⑭リハーサル
- ⑮期末テスト (conversation in pairs or threes)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生徒が自信を持って自律的に話し、会話を続け、相手と対話することができるようにする。
将来の留学やスピーキングを伴う各種英語試験に対応できるリスニングとスピーキング力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

授業中のパフォーマンス 20%
中間テスト 30% (スクリプトによる会話)
期末テスト 50% (ペアまたはトリオ会話)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『Nice Talking With You 1』
著者：Tom Kenny & Linda Woo
出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に、前回の授業内容を確認し、教科書を予習しておくこと。

【必要な時間】

授業後、リスニングの宿題を終わらせ、クラスメイトと英語で話す練習をする。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

話すことに自信を持つことが、成功への第一歩です。

科目名	Conversation II
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード

■講義の目的および概要

Conversation 2は、実用的な言語を学びながら、日常の幅広い様々なシチュエーションで実践的なスピーキングスキルを身につけることができる。会話の流れの調整、話の展開、議論を深めるなど、他者とのよりよいやりとりができるようになることが最大の目的である。このスキルを身につけることで、留学や公的な英語スピーキング試験の際にも、よりスムーズなやり取りができるようになる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

一般的なパターンは、講師が短いレクチャーでポイントを引き出ししながら教材を確認し、ロールプレイやモデルを提供した後、ペアや3人組でのディスカッションの練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

フィードバックは、授業の冒頭、ペアワーク、テスト後に行われる。また、オプションとしてスピーキングの練習内容を教師に提出できる。

■授業計画

- ①Orientation: Conversation cafe and explanation of assessment
- ②Unit 1 Long Time No See
- ③Unit 2 My Place
- ④Unit 3 Money
- ⑤Unit 4 Going out
- ⑥Unit 5 Fashion
- ⑦Unit 6 Learning
- ⑧Unit 7 Experience Abroad
- ⑨中間テスト (scripted conversation)
- ⑩Unit 8 Health
- ⑪Unit 9 Personalities
- ⑫Unit 10 Careers
- ⑬Unit 11 Personal Entertainment
- ⑭リハーサル
- ⑮期末テスト (pair or trio conversation)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

パートナーと対話しながら、より流暢に話し、自分の意見を表現する自信を持つことができるようにする。留学や海外生活、公式な英語のスピーキング試験などに適したリスニングとスピーキングのスキルを向上させる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

授業内パフォーマンス 20%
中間テスト 30% (スクリプトによる会話)
期末テスト 50% (ペアまたはトリオでの会話)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『Nice Talking With You 2』
著者 : Tom Kenny & Linda Woo
出版社 : Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の前に、前回の授業内容の復習と教科書の予習をしておくこと。

【必要な時間】

授業後は、リスニングの宿題を終わらせ、クラスメイトと英語で話す練習をする機会を設ける。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

よく英語を話す人は、上達が早い傾向があります。

科目名	現代文化論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

本講義は、「文化・社会を学ぶ」ということはどういうことかを、現代文化学科生が理解するために行われる入門的な授業である。文化や社会現象は、自然現象とは異なり、人間により生み出されて、ある種主観的なものである。このような文化や社会現象を理解することとはどういうことか、諸分野のレクチャーと実践を通じて学生が感覚をつかむことを主眼とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は、教員が各テーマについてレクチャーする講義部分とそれをもとに受講生が実践してみる演習部分が組み合わされて、行われる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題は、その授業の中であるいは次の授業までに、教員から口頭あるいは添削等を通じてフィードバックされる。

■授業計画

- ①オリエンテーション 大学で学ぶ学問とは何か
- ②自然科学、社会科学と人文学の違い
- ③「文化」とはなにか
- ④「社会」とはなにか
- ⑤「文化」/「社会」は変わるのか・変わらないのか 本質主義と構築主義
- ⑥まとめ1
- ⑦人の認識の外部に客観的存在はありうるか
- ⑧言語学
- ⑨文学
- ⑩哲学
- ⑪歴史学
- ⑫ジェンダースタディーズ
- ⑬「文化を読む」①
- ⑭「文化を読む」②
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・「文化を学ぶ」とはどういうことかを理解できる。
- ・自らの関心のある領域はどこか、ほかの分野とどう違うかを漠然とでもつかむことができる。
- ・理解したことを文章によって表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

授業内課題・・・56%

期末課題・・・44%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは用いず、適宜プリントなどが配布される

【参考文献】

授業内で、その授業に関する参考文献が示される。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業のノートづくりとmanaba上で課される事後課題、および参考文献の講読・理解を通じてテーマについて考えること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	考古学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	坂梨 夏代、越田 賢一郎

■講義の目的および概要

考古学とはどのような学問なのか、その基礎となる考え方はどのようなものかを理解してもらうことを目的とする。年代決定、時期区分、遺構の把握、遺物の取り扱い、文献資料との対比などについて実物資料に即しながら解説していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義の概要を記したテキストを配布するとともに、ビデオ、スライドなどの映像を活用して講義内容の理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義中に小レポートの提出を求め、講義内容の理解を確認することがある。

■授業計画

次の順序で進めていく。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ① 考古学とは？ | |
| ② 文献に残された考古資料 | 文献史学と考古学『風土記』と『蝦夷日誌』 |
| ③ 年代を決める 1 | 相対年代と土器編年 |
| ④ 年代を決める 2 | 絶対年代 |
| ⑤ 考古展示施設見学 | |
| ⑥ 旧石器時代 | 国宝誕生 最初の日本列島人と黒曜石 |
| ⑦ 土器と石器 | 自然環境と人類の知恵 |
| ⑧ 縄文時代とは | 世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」 |
| ⑨ 縄文人と弥生人 | 渡来系弥生人の存在 |
| ⑩ 三国志の世界 | 東アジア世界のなかの日本 邪馬壹国はどこか |
| ⑪ 女王卑弥呼の実像 | 「以って死す」の解釈 |
| ⑫ 弥生文化と北海道 | 続縄文文化 |
| ⑬ 日本国の成立と北海道 | 擦文文化とオホーツク文化（東北アジア世界） |
| ⑭ 中世・近世の考古学 | 北海道アイヌ考古学とは |
| ⑮ 考古学と現代 | 歴史が私たちに語り掛けるものは何か |

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

考古学的発掘調査で検出した遺構や遺物をもとに、どのように人々の歴史を描くことができるのかを理解する。併せて、博物館、郷土資料館などの役割を学ぶ。

【卒業認定・学位授与方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】 学芸員資格、考古調査士取得可能

■成績評価基準と方法

筆記試験 60、
講義中の小レポート 10%
外部施設見学レポート 15%
受講態度 15%。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義の際配布するプリントに参考文献等を記載する。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

高等学校の歴史程度の知識が必要となる。年号まではいらませんが、日本史の時代区分を世紀単位で把握しておいてほしい。また本州の時代区分と北海道の時代区分が異なるので、講義後に年代の確認が必要になる。

【必要な時間】各講義、前後30分程度

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

講義の1回分を外部施設見学とし、レポートの提出を求める。見学は週末に行い、現地集合・現地解散とするため、交通費が必要となる。

科目名	考古学実習
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・実習
担当者	坂梨 夏代、越田 賢一郎

■講義の目的および概要

歴史を理解するための学問領域の1つである考古学の基本は、発掘調査によって掘り出した遺構や遺物について研究することにある。本講義では、その基礎的操作としての遺跡の発掘について、目的、方法をどのように決めるのか、また、見つかった遺構や出土遺物をどのように取り扱うのかについて学ぶ。その技術や知識をもって、実際の発掘調査に向けての準備と、発掘実習を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

考古学・博物館実習室、構内において講義および機器操作の実習を行なうほか、8月～9月の夏季休業中に俱知安町で発掘実習を行う予定である。履修者はこの調査に数日間参加しなければならない。

【課題に対するフィードバックの方法】

発掘調査の意義について、認識度を確認するアンケートを実施する。機器操作を全員が理解するまで何度もフィードバックを行う。実習で学んだ技術・知識を使い、夏季休業中に発掘調査を行う。

■授業計画

学内実習：

- ①ガイダンス
- ②発掘調査の意義
- ③発掘調査から報告書まで
- ④General Survey(分布調査) 大学周辺の遺跡と地形
- ⑤発掘調査で見つかるもの 遺物
- ⑥発掘調査で見つかるもの 遺構
- ⑦測量実習1 レベル1
- ⑧測量実習2 レベル2
- ⑨測量実習3 断面図1
- ⑩測量実習4 平板1
- ⑪測量実習5 平板2
- ⑫測量実習6 トータルステーション1 (外部講師)
- ⑬測量実習7 トータルステーション2 (外部講師)
- ⑭発掘調査準備
- ⑮調査までのまとめ

学外実習：

フィールドワークとして、俱知安町の遺跡を発掘調査する(予定)。遺跡の調査方法について理解し、調査手法を修得するための実習となる。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

考古学のフィールドワークに必要な発掘調査に関連する最低限度の機器に関する知識、現場調査、およびその記録作業ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

機器操作の習熟度 (30%)
 発掘調査の意義の理解 (40%)
 講義ごとの成果提出 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。授業中にプリントを配付する。

【参考文献】

文化庁文化財部記念物課『発掘調査の手引き』2010

■授業外学習

【具体的な内容】

発掘調査の意義について、遺跡の調査についての文献を読み、認識を深めること。また、授業外でも機器操作の練習をおこない、習熟に努めること。

【必要な時間】

日常から考古学に関する新聞、テレビなどの報道に関心を持つこと。
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

考古学、先史文化論などを履修しておくこと。
秋学期に考古学資料演習（室内作業）を必ず履修すること。
・実習費5,000円を徴収する。
・発掘調査の宿泊費用（2～3万円程度）が必要となる。
※2級考古調査士資格の必修科目

科目名	国際関係論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	坂口 可奈

■講義の目的および概要

現代の国際社会は、国家のみならず非国家アクターが複雑に絡み合いながら形成されている。それゆえ、どのような個人でも国際社会の動きと無縁ではられない。このような時代において、国際関係に関する知識は我々にとって必須である。そこで、本講義は事例を通して国際関係論の基礎を学んでいく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には教員による講義形式で進めていくが、受講生諸君によるグループワーク & プレゼンテーションも求める。履修者確定後に担当テーマを決定する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次週授業の冒頭に課題へのコメント・解説を行う。

■授業計画

- 1週目： ガイダンス
- 2週目： 国際関係論の基礎
- 3週目： 国際関係論の諸理論
- 4週目： 戦争の悲劇
- 5週目： 保護する責任
- 6週目： 時事問題から世界を見る（ヨーロッパ）
- 7週目： 移民について
- 8週目： 難民について
- 9週目： 紛争と内戦
- 10週目： テロリズム
- 11週目： サイバー安全保障
- 12週目： 感染症と国際政治
- 13週目： 核兵器
- 14週目： 時事問題から世界を見る（アジア）
- 15週目： まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ より広い視野と知識のもとで国際社会を分析することができるようになること。
- ・ 自分の研究成果を他人にわかりやすく伝えられるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)：【専門知識・技能を活用する力】
- (DP6)：【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

毎週のミニ課題 30%
 プレゼンテーション 30%
 定期試験またはレポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しない。レジュメを配布する

【参考文献】

授業内で適宜紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：授業中に指示した課題に取り組むこと。次週のテーマに関連した国際ニュースに触れて、自分なりの見解をまとめておくこと。
 事後学習：授業内容をノートにまとめること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	自然地理学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

地理学のうち、山や川などの自然に関する地理的なものの見方や考え方の基礎的な概念について学びます。
特に北海道の自然地理（山、海、川など）や地形を通じて地理的なものの見方、考え方を養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、北海道の自然を山・川などの自然事象の地理的説明・考察を中心に、順を追って解説してゆきます。北海道の多様な自然地理をつうじた学びを中心としています。

【課題に対するフィードバックの方法】

manabaの「小テスト」「レポート」に従い、毎回の講義の際に「予習・振り返り」について具体的に指示していますので、その内容に従い着実な知識理解を図ります。

■授業計画

■自然地理学基礎編■

- 1 ガイダンス、講義の内容と課題について
- 2 大陸移動説と内的営力
- 3 山ができる、陸ができる
- 4 侵食されてできる地形
- 5 大気の大循環（地球の大気の動き）
- 6 海洋の大循環
- 7 中間テスト

■北海道の自然地理学編■

- 8 北海道の概要
- 9 北海道の成り立ち（内的営力）
- 10 北海道の成り立ち（外的営力）
- 11 北海道の気候と自然
- 12 北海道の湿原
- 13 北海道の自然公園
- 14 アイヌ語地名と自然地理
- 15 定期テストとその解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】…到達目標と評価規準

- 1 (知識・理解)北海道の自然地理（山・海・川など）や地形に関する基本的な知識を修得できたか。
- 2 (判断・技能)北海道の自然地理を通じて地理的なものの見方・考え方を身につけることができたか。
- 3 (意欲・態度)興味関心をもち、自らが設定した到達目標に対する到達度を検証できたか。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

自立して生きていくための幅広い教養、技能を身につけている。
また、教職課程（社会科）関係科目であることを念頭に講義を行う。

■成績評価基準と方法

- 1 事後学習課題（授業中・後の小テスト・課題） 7回相当 40%
- 2 定期試験 2回（100点） 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業内で適宜指示します。

【参考文献】

授業内で適宜指示します。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】
事前・事後学習課題（manaba）に記載されている事項について講義の前後に必ず予習・復習に取り組み、学びを確実なものにしてください。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	消費社会論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	赤城 由紀

■講義の目的および概要

私たちは今まさに消費社会の中に生きています。消費社会の変遷と消費者の意識の変化を学ぶとともに、グローバル社会の中で現代の消費社会が抱える課題について自分の消費行動と関連付けて考え、生活の中に活かす力を身につけることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

消費生活アドバイザー（内閣総理大臣及び経済産業大臣認定）資格を有する教員が担当します。基本的に、パワーポイントにより講義資料を提示します。環境が整えば視聴覚教材も用います。毎回ミニレポートの提出を求めます。受講人数が少ない場合は、発表や意見交換の場を持ちたいと思っています。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポート内容については、次回以降の講義の中で他の学生にも紹介し、質問に対する補足・補講をします。参加者全員が閲覧出来るようにします。

■授業計画

消費社会の変遷を理解し、消費社会の諸問題や消費者の意識の変化について、概ね以下の内容について講義を展開します。

学生の感想や質問を大切にしたいと思っています。そのため学生からの質問や理解度によって内容の増減・変更をすることがあります。

- ①消費社会とは何か
- ②消費社会の形成
- ③資本主義と消費社会
- ④消費社会の変遷 1
- ⑤消費社会の変遷 2
- ⑥消費社会の変遷 3
- ⑦消費社会における広告・プロモーション
- ⑧消費の記号論
- ⑨消費社会の人間と文化
- ⑩消費と浪費
- ⑪消費社会の諸問題
- ⑫消費社会の諸問題
- ⑬消費社会の諸問題
- ⑭レポート作成
- ⑮まとめ 受講者ディスカッション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

消費社会がどのように形成され、どのような状況にあるのかを説明でき、自らの消費に対する姿勢や価値観について模索し、自分の考えを述べる事が出来るようになることを目標とします。社会情勢に関心を持ち、グローバルな感覚を有した消費行動を身につけてほしいと思っています。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

授業時作成の提出課題 50%

最終レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

『新・消費社会論』間々田孝夫著 有斐閣コンパクト
『消費社会の神話と構造』ジャン ボードリヤール 紀伊國屋書店
『第四の消費 つながりを生み出す社会へ』三浦展著 朝日新書
『暇と退屈の倫理学』國分功一郎著 太田出版
その他、講義内で紹介します。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

必要に応じて、授業内で指示します。毎回の授業の冒頭に、前回の授業内容の感想や質問を扱いますので、必ず前回の授業内容の振り返っておいてください。
社会動向や消費者問題に関心を持つように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

受講人数によって履修制限をすることがあります。

科目名	生活文化論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	中島 宏一

■講義の目的および概要

厳寒の北海道。暖かい部屋でビールを飲む、アイスクリームを食べる、Tシャツで過ごす。結婚式披露宴の参加は会費制、運動会は地域の一大イベント、大晦日に豪華な料理を食べる、お赤飯の豆は甘納豆…。私たち北海道民の風習と衣食住の習慣、すなわち「北海道の生活文化」はどのように形づくられてきたのか。現代の暮らしぶりから平成、昭和、大正、明治時代へとさかのぼり、その原点と形成過程をたどり、未来の北海道の生活文化を学生と共に展望します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本は講義方式で進めます。その過程で、学生の意見や考えなどの発言を受けながら、質疑応答、対話、議論を組み入れ、コミュニケーションを重視した講義を目指します。また、近郊施設を見学し、その成果をレポートする学外学習（授業外学習）を設ける予定です。この学外学習に係る交通費、施設入場料などが発生した場合は、その都度学生個々の負担になることをご了承ください。

【課題に対するフィードバックの方法】

常に前回、前々回の講義内容を復習し、その成果を積み上げていく形で15回の学習を完成させます。

■授業計画

初回と最終講義を除き、毎回テーマを決め、学生が予習しやすい環境づくりに努めます。

- ①授業計画と内容説明（ガイダンス）、成績評価の基準説明、課題と学外学習のレポート作成と評価基準、学生と講師の自己紹介など。
- ②「住」環境の変遷 - 1
－暖かい部屋に至る過程…ストーブ、薪、炭鉱。
- ③「住」環境の変遷 - 2
－北海道型住宅の完成…間取りが変わる！
- ④「住」環境の変遷 - 3（授業外学習）
－北海道の「住」環境が本州以南と異なる点を探し出し、レポートせよ。
- ⑤「食」の変遷 - 1（授業外学習）
－北海道の「食」が本州以南と異なる点を探し出し、レポートせよ。
- ⑥「食」の変遷 - 2
－本州以南から持ち込まれた料理。例えば「お雑煮」の具材、味付けの出身県別の特徴。
- ⑦「食」の変遷 - 3
－北海道で生まれた独自の食文化。魚介類、肉類、野菜類を使った料理。
- ⑧北海道の生活文化の形づくられ方
－明治期以降の開発政策と本州以南からやってきた移住者たちの母県文化の流入。
- ⑨野外博物館北海道開拓の村に見る欧米文化＝博物館の利用
－同館で北海道近代化を推進した欧米文化を探り、現代の北海道の生活文化の形成過程を探る。
- ⑩「生活習慣」（暮らしぶり）の変遷 - 1（授業外学習）
－北海道の生活習慣が本州以南と異なる点を探し出し、レポートせよ。
- ⑪「生活習慣」（暮らしぶり）の変遷 - 2
－生活習慣、通過儀礼、年中行事などの姿を確認し、その由縁を学ぶ。
- ⑫「食」の変遷 - 1
－北海道米の品種改良と日本酒、ワインなど北海道の産物を原料にした嗜好品の開発。
- ⑬「食」の変遷 - 2
－スイーツ王国北海道と呼ばれるようになったのはなぜ？
- ⑭これからの北海道を考える
－農業、工業、商業、観光…今ある北海道の資源を再発見する！
- ⑮「現在」の北海道の生活文化をとりまとめ、今後の人口減少と高齢社会、生活スタイルの変化、観光人口の増加、地域環境の変化などを踏まえ、「未来」の北海道の生活文化を展望する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道独自の生活文化の形成過程を学び、これからの北海道における暮らし、日本における生活文化を展望し、今を生きる私たちに託された使命を認識する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

出席と授業を受ける態度（姿勢）で50%、授業外学習で20%、レポート発表状況で30%（令和5）年4月1日
%の配分と考えてください。毎回の授業では、学生に授業内容に関するもののほか、時事問題等についても意見や考えを求めますので、積極的に発言してください。この点も評価対象となります。こうした授業環境の中で、コミュニケーション能力を養います。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要と思われるものをその都度、プリントにして配布します。

【参考文献】

「さっぽろ文庫シリーズ」札幌市教育委員会編
「エゾ開拓生活誌」小山内忠司著
「聞き書 北海道の食事」日本の食生活全集①「日本の食生活全集 北海道」編集委員会など。

■授業外学習

【具体的な内容】

各回の授業テーマに関わる学生個々の考えや学習してきたことを皆で共有し、また、それを議論のテーマにすることもあるので、授業の事前事後の予習復習することは必要です。

【必要な時間】

学生相互で休憩時間などを利用して、事前事後の予習復習に励んでください。学生個々では日常生活に支障がない程度で、予習復習に努めてください。
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本授業を進めていくうえで、その情報源として利用価値が高い地域博物館の活動についても理解を深めます。

科目名	先史文化論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	坂梨 夏代

■講義の目的および概要

我々の祖先である人々はどのような暮らしをしてきたのだろうか。
本講義は長い人類の歴史の中で文字がない時代—先史時代について知ること、人類が歩んできた歴史について学習することを目的とした授業である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式でおこなう。適宜ビデオ映像や実際の資料などの視覚的な具体的例を見ながら講義を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業前に前回の復習のための確認ミニテストを行う。
確認ミニテストを用いながら、授業の前半で前回の振り返りをおこなう。

■授業計画

- ①オリエンテーション、先史時代とはなにか
- ②考古学とはどんな学問か
- ③進化論と考古学
- ④人類が使った道具について(石器と石ころはどう違うのか)
- ⑤考古学における年代測定とは①放射性炭素年代測定法
- ⑥考古学における年代測定法とは②その他の測定法
- ⑦人類の誕生(サルとヒトの違いとは何か)①生物学的視点
- ⑧人類の誕生(サルとヒトの違いとは何か)②言語とコミュニケーション
- ⑨人類の誕生(サルとヒトの違いとは何か)③道具
- ⑩我々の祖先はどこからきたのか(人類の拡散の問題)①猿人
- ⑪我々の祖先はどこからきたのか(人類の拡散の問題)②原人
- ⑫我々の祖先はどこからきたのか(人類の拡散の問題)③現生人類
- ⑬どんな生活だったのか(住まい、環境など)①道具
- ⑭どんな生活だったのか(住まい、環境など)②環境適応
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

考古学の枠組みについて理解し、人類がどのように進化し、社会を形成してきたかを説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

確認ミニテスト 20%

レポート 20%

定期試験 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし
授業中に適宜プリントを配布する

【参考文献】

三井誠『人類進化の700万年』2005 講談社現代新書
斎藤成也編『図解人類の進化』2021 講談社

■授業外学習

【具体的な内容】

考古学、人類進化についての本を読むこと。
博物館見学も積極的に行うこと。
授業で前回の授業の確認ミニテストを行うので、ノートを整理し予習復習をしておくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

考古学や人類の歴史に興味ある人が受講するが望ましい。

科目名	博物館概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	阿部 千春

■講義の目的および概要

本講義は、「博物館とは何か？」という基礎的な知識の習得をはじめ、現代社会における博物館の位置づけについて学んだうえで、「地域課題と博物館」「観光と博物館」「まちづくりと博物館」など博物館が総合的に果たす役割について具体例を学び、博物館を核とした地域のあり方を考えていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

担当教員が作成した作成したテキスト並びにパワーポイントを用いた講義形式で行います。また、博物館の役割や地域課題への対応等については、必要に応じてグループワークやディスカッションを取り入れるなど、主体的な学びにつながる授業を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

適宜、前回の授業の振り返りを行いながら学びの習熟を図るとともに、課題については授業内で解説をした後にmanabaを通じて資料配付等を行います。

■授業計画

- ①博物館概論で学ぶこと/概要説明
- ②日本の博物館のあゆみ/現代までの成り立ち
- ③世界の博物館のあゆみ/現代までの成り立ち
- ④博物館の種類/施設の類型について
- ⑤博物館の資料/人文・自然・生態の各資料
- ⑥博物館の保存と活用/地域資源と環境の保護
- ⑦博物館の展示手法/手法の分類と形態
- ⑧振り返りと課題
- ⑨博物館のあり方を考える①/博物館と観光
- ⑩博物館のあり方を考える②/博物館と地域振興
- ⑪博物館のあり方を考える③/博物館と世界遺産
- ⑫博物館のあり方を考える④/博物館とシンクタンク
- ⑬振り返りと課題
- ⑭北海道の博物館を考える
- ⑮まとめ、及び授業内試験 (50分)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①博物館に関する基礎知識（歴史・定義・役割）を身につける
- ②博物館の活用のあり方を理解する。
- ③地域社会における博物館の可能性を考える

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

博物館に関する基礎知識、博物館の活用のあり方 各課題20%
授業内試験60% 計100%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

全講義とも担当教員が作成したテキストやパンフレットもしくはパワーポイント等を使用します。

【参考文献】

『観光資源としての博物館』芙蓉書房 2016年 2,500円＋税

■授業外学習

【具体的な内容】

講義を受ける前に、どこでも良いので博物館施設を見学することを進めます。特に北海道博物館は、北海道の中核となる博物館なのでお勧めします。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

科目名	博物館資料論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	工藤 義衛

■講義の目的および概要

博物館資料の収集、保存・管理、展示、調査研究は博物館活動の基幹業務です。本講義ではまずこれらについて理念と方法を学び、博物館資料の概念を明確にし、博物館資料と博物館及び博物館活動の基本について理解を図ります。博物館資料に係る書業務は学芸員の関与なしには行われ得ないことから、博物館資料と学芸員の関りについて理解を深めます。

博物館活動なかでの博物館資料と学芸員の関りを学ぶことは学芸員業務だけでなく、社会人生活でも生かすことができるでしょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は地方自治体の効率博物館での勤務経験のある教員が、博物館資料の収集、保管、展示、研究に関する実務経験を踏まえて博物館資料の多様さや博物館資料にかかる業務や博物館資料の意義について理解を図る講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ① ガイダンス 博物館資料論の概要
- ② 博物館資料とは 定義と実物資料
- ③ 博物館の種類と博物館資料
- ④ 博物館資料の種類① 文書資料
- ⑤ 博物館資料の種類② 考古資料
- ⑥ 博物館資料の種類③ 民俗資料
- ⑦ 博物館資料の収集
- ⑧ 博物館資料の整理と保存
- ⑨ 博物館資料の修復
- ⑩ 博物館資料と研究
- ⑪ ①～⑩回まとめ・中間考査
- ⑫ 博物館資料の展示手法
- ⑬ 博物館資料と展示施設
- ⑭ 博物館資料と情報
- ⑮ 博物館資料と社会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

博物館資料の定義、種類について十分な理解をした上で、博物館資料の収集手法、展示手法、展示施設の種類と意義について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

授業中に実施する小テスト、中間テスト、期末テストの総合点で評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業ごとにプリントを配布します。

【参考文献】

『概説博物館学』 全国大学博物館協議会西日本部会編 2002

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で使用される専門用語について、ノートにまとめておいてください。授業の最初ないし最後に講義内容についての小テストを実施します。授業の要点ですからノートにじっくりまとめておいてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

できるだけ博物館や展示施設に足を運ぶこと。そして授業で学んだ知識をもとに展示されている博物館資料を見ること。また、商業施設の商品ディスプレイも展示のひとつです。かならずヒントになることがあります。日常生活のなかの資料の取り扱いに目を向けてください。

科目名	比較文化論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

多様な文化のあり方を理解するため、文化の多面的な捉え方を確認した上で、イギリス、ブラジル、北欧諸国および日本を取り上げ、それぞれの社会に存在する文化とその多様性について、移民や先住民族にも注目しながら、明らかにします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントのスライドを使用して講義をします。授業内で講義内容に関わるアンケートやクイズなども取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 毎回、授業の感想・意見・質問などをリアクションペーパーに記入してもらいます。感想・意見および質問と回答は次回の授業内でフィードバックします。
- ・ 提出されたレポートは授業内で全体の講評を行うとともに、代表的なレポート例を紹介しします。

■授業計画

- ①理論的概観：文化とは——理論的検討
- ②理論的概観：移民と先住民族の歴史・文化をめぐる議論
- ③諸外国の社会と文化：イギリス（1）——地域と階級の多様性
- ④諸外国の社会と文化：イギリス（2）——移民の増大と課題
- ⑤諸外国の社会と文化：ブラジル（1）——歴史と先住民族
- ⑥諸外国の社会と文化：ブラジル（2）——移民による社会形成
- ⑦諸外国の社会と文化：北欧諸国（1）——北欧3国の歴史
- ⑧諸外国の社会と文化：北欧諸国（2）——北欧サーミの歴史と現状
- ⑨諸外国の社会と文化：北欧諸国（3）——移民・難民の現状と課題
- ⑩日本の社会と文化：近代までの日本文化の形成と変容
- ⑪日本の社会と文化：近代以降の日本文化の再編
- ⑫日本の社会と文化：移民の送出国
- ⑬日本の社会と文化：オールドカマーの形成と変容
- ⑭日本の社会と文化：ニューカマーの増大
- ⑮日本の社会と文化：先住民族としてのアイヌ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

多様な文化やその変容のあり方を把握するために、時代と社会による比較の観点から、日本と諸外国の社会と文化およびその歴史について深く理解できるようになることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

最終レポート、小レポートと授業参加態度により評価します。評価の配分は、最終レポート60%、小レポート20%、授業参加態度20%とします。なお、最終レポートは出席回数が3分の2以上であることを提出条件とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使いません。講義のレジュメをmanabaを通じて配付します。

【参考文献】

小内透編著『講座 先住民族の社会学1 北欧サーミの復権と現状』東信堂、2018年
 小内透編著『講座 先住民族の社会学2 現代アイヌの』東信堂、2018年
 丸山浩明編著『ブラジル日本移民』明石書店、2010年
 小内透編著『講座 トランスナショナルな移動と定住』（全3巻）御茶の水書房、2009年
 小坂田裕子ほか編『考えてみよう 先住民族と法』信山社、2022年

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時の最後に次週の学習について予告するので、配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。

【必要な時間】

事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科目名	文化人類学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小坂 みゆき

■講義の目的および概要

文化人類学を学ぶための材料は私たちの日々の生活の中にあります。文化人類学は、世界各地の様々な場所で暮らす人びとのあり方を記述・分析することで、私たちが「当たり前」と思っていることを再検討し、新しい発想を生み出す学問です。

講義では、まず文化人類学の基礎知識と理論の解説を行います。そのうえで生業、食、衣服、世界観、宗教、通過儀礼などいくつかのトピックについて事例をたどりながら文化の多様性を理解することをこの講義のねらいとします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ① 対面授業を基本として、映像など視覚的な面からも理解できる方法をとる。
- ② 理解を深めるためにリアクションペーパーでのコメントを作成を求める。
- ③ ②の補足を次の講義にて対応する。
- ④ 講義前半が終わるころ、小テストに向けて、講義前半の振り返りを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ① リアクションペーパーにコメントをして、授業で総評する。
- ② 講義内小テストについては、採点后に答案を返却し解答例を公表する。
- ③ 期末試験についてはManabaを通して解説を行う。

■授業計画

- ① ガイダンス：この授業の進め方の解説
導入-文化とは何か
- ② 2つの文化概念-文化の定義について理解する
- ③ 文化人類学の歴史-文化人類学の学問的成り立ちを理解する
- ④ 文化人類学の理論-進化主義の功罪（人類学の誕生とエスノセントリズム）
- ⑤ 文化人類学の理論-文化相対主義・機能主義・構造主義（研究と理論の概要を理解する）
- ⑥ 文化はなぜ変わるのか？-伝播主義・文化変容論
- ⑦ 文化人類学とフィールドワーク-人類学の調査研究方法
- ⑧ 前半のまとめ・小テスト
- ⑨ 生業と暮らし
- ⑩ 食の文化人類学-なぜ食べるのか
- ⑪ 衣服の文化人類学-なぜ着るのか
- ⑫ 宗教と世界観
- ⑬ 人生儀礼・通過儀礼
- ⑭ 医療と文化-生と死の多様性
- ⑮ 全体のまとめ、期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 文化とは何かを説明できる。
- ② 文化人類学の基礎知識、理論を習得する。
- ③ 世界中の人間がもつ多様な価値観や行動に注目するとともに文化の多様性を理解する。
- ④ 具体的なトピックと事例をみることで、文化人類学的な視点、アプローチの仕方を理解する。
- ⑤ 文化の変化の主体はその文化の担い手であり、私たちも同じであることを理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）
- ・ 提示された情報を正確に読み取り、科学的視点から分析・考察できる。
 - ・ 地域の人々の立場になり、地域貢献のヒントを考案できる。
 - ・ さまざまな地域や民族の視点に立ち、事物を理解できる。
 - ・ 地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。

■成績評価基準と方法

リアクションペーパー・授業への主体的参加状況（10%）
到達目標②を測定する小テスト（20%）
到達目標①-⑤を測定する期末テスト（70%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特になし、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

『よくわかる文化人類学』綾部恒雄・桑山敬己、ミネルヴァ書房、2006

『人類学とは何か』ティム・インゴルド、亜紀書房、2020

『これからの時代を生き抜くための文化人類学入門』奥野克己、辰巳出版、2022

■授業外学習

【具体的な内容】

- ① 日常行われていることについて、なぜ？どうして？と疑問を持つことが文化人類学のスタートであり、そのような視点を持ちながら講義を受講する。
- ② 新聞、テレビなどのメディアを通じて今日の社会、人々の暮らしを意識する。
- ③ 事前に配布した資料を読む。
- ④ 授業終了後、内容を振り返り意見などをまとめ、次回の授業内容を確認する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

文化人類学についての予備知識は不要。

日常行われていることについて、なぜ？どうして？と疑問を持ちながら受講する。

新聞、テレビなどのメディアを通じて今日の社会、人々の暮らしを意識する。

科目名	法学概論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	楊 迪耕

■講義の目的および概要

法学は一般に難しい学問と思われませんが、実際に、法がわれわれの生きる社会においてどのように機能するかを探求する身近な学問です。この授業は、法学の基礎知識と仕組みを学びながら、法が社会のいろんな場面で果たす役割を知ることが目的となります。授業では、身近な具体例を通して、法の仕組みや法律概念を説明します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義では、パワーポイントを使用します。基本的に、講義形式で行いますが、受講者とのコミュニケーションも重視しますので、講義中、適宜に質疑応答や議論などを織り交ぜます。

【課題に対するフィードバックの方法】

小レポートに対して、授業内にコメントします。

■授業計画

- ①ガイダンス、法の意義とその概観
- ②公法と私法
- ③私法の基本 (1)
- ④私法の基本 (2)
- ⑤私法の基本 (3)
- ⑥公法の基本 (1)
- ⑦公法の基本 (2)
- ⑧公法の基本 (3)
- ⑨公法 (刑事法) の基本 (1)
- ⑩公法 (刑事法) の基本 (2)
- ⑪社会法の基本 (1)
- ⑫社会法の基本 (2)
- ⑬私法の応用 (1)
- ⑭私法の応用 (2)
- ⑮定期試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・法の仕組みを理解し、法学に関する基礎知識を修得すること。
- ・社会においていろんな場面に発生した法律問題に対して、法がどのように機能するかを法的な根拠を示し、他人に説明できること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

小レポート、授業参加度と定期試験により評価します。

小レポート 20%、
授業参加度 20%
定期試験 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『カリンと学ぶ法学入門 第2版』林誠司編 法律文化社

【参考文献】

適宜に紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前の予習は求められます。講義は、教科書の章立てのトピックごとに進む予定です。講義前に、必ず指定した内容(十数ページ)を読んでおいてください。復習する際に、講義内容をもう一度教科書と配った資料で確認すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	北方民族論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	坂梨 夏代

■講義の目的および概要

本講義は、特にシベリア、サハリン、北海道などの北方地域に住む民族に焦点を当て、こうした地域に住むいわゆる北方民族が厳しい環境をどう生きてきたのかを知り、彼らの持つ独自の文化を理解し、現代に生きる民族の問題を考えるための授業である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で授業をおこない、ビデオや写真などの視覚教材も使って視覚的理解を促す。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の最初または最後に授業内容の確認ワークなどを行い、これを用いて授業内容の振り返り等を行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②北方民族とは何か
- ③北方民族の分布
- ④北方民族と自然環境
- ⑤北方民族の形成について
- ⑥北方民族について (1) 東シベリア
- ⑦北方民族について (2) 極東・沿海州
- ⑧北方民族について (3) サハリン
- ⑨北方民族と言語 消えゆく少数言語
- ⑩北方民族と儀礼 (1) 動物儀礼について
- ⑪北方民族と儀礼 (2) クマ送りについて
- ⑫現代に生きる北方民族 (1) イヌイット
- ⑬現代に生きる北方民族 (2) 戦争と北方民族
- ⑭自然との共生 日本列島の狩猟民族 マタギ
- ⑮記録を作る 松浦武四郎と北方民族

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北方民族とは何かを知り、その現状を多角的に理解することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門領域・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

授業ミニテスト 20%
 授業レポート 20%
 定期試験 (レポート) 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜資料を配布する

【参考文献】

『環北太平洋の環境と文化』2006 北海道立北方民族博物館編

その他授業内で適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で授業内容などの確認ミニテストとおこなうので、ノートを整理し予習復習をしておくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

文化人類学、考古学などの授業を受講していた(あるいは履修中)ほうが望ましいが、北方世界、そこに生きる民族がもつ言語や文化に興味がある学生を希望する。

科目名	TOEIC I
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	富田 敏明

■講義の目的および概要

本講義では、リスニング、リーディング、文法、語彙を総合的に学習することにより、TOEIC Testのスコアの向上を目指す。また、単なるスコアの向上だけでなく、英語の学習習慣を確立して、自律的な英語学習者を育成することを狙いとする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

TOEIC L&Rテストの7パート（①リスニング=写真描写問題、応答問題、会話問題、説明文②リーディング=短文穴埋め、長文穴埋め、読解問題）の出題形式に対応した問題演習を行う。リスニング、リーディングどちらの活動も、ペアワークによる会話、ディクテーション、シャドーイングなど能動的な活動を取り入れる中で、総合的な英語力の向上を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については確認テスト等の実施により、毎回確認するとともに、授業内でポイントとなる事項の解説を行う。

■授業計画

- ①Orientation, Listening Practice
- ②Unit2(Dining Out) Vocabulary (1-100)
- ③Unit2(Dining Out) Vocabulary (101-200)
- ④Unit3(Media) Vocabulary (201-300)
- ⑤Unit3(Media) Vocabulary (301-400)
- ⑥Unit6(Clients) Vocabulary (1-400)
- ⑦Unit6(Clients) Vocabulary (401-500)
- ⑧The midterm exam
- ⑨Unit7(Recruiting) Vocabulary (501-600)
- ⑩Unit7(Recruiting) Vocabulary (601-700)
- ⑪Unit9(Advertising) Vocabulary (701-800)
- ⑫Unit9(Advertising) Vocabulary (401-800)
- ⑬Unit10(Meetings) Vocabulary (1-400)
- ⑭Unit10(Meetings) Vocabulary (1-800)
- ⑮The Final exam

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

TOEICスコア500点に相当する英語力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 定期試験 40%
- ・ 語彙テスト 40%
- ・ 課題、授業中の言語活動（リスニングプラクティス等） 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE
- ・ TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）

【参考文献】

- ・ 自学用サイト
- ・ News On Japan
- ・ NHK NEWSLINE - NHK World
- ・ VOA - Voice of America English News

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 事前 ①語彙テスト範囲の学習
- ・ 事後 ②テキストの聞き取り問題スクリプトのリスニング&シャドーイング
- ③上記自学用サイトを活用したリーディング及びリスニング

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

TOEICについてはこの科目のあとTOEIC IIへと発展的に学習します。実際のTOEIC受験²³（令和5）年4月1日を自分の学習計画に組み入れて、自分の英語力を定点観測するとともに、常に明確な目標を持って学習を継続してください。

科目名	TOEIC II
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	富田 敏明

■講義の目的および概要

本講義では、TOEICスコア500点を目標とする学生を対象に、リスニング、リーディング、文法、語彙を総合的に学習する。また、単なるスコアの向上だけでなく、英語学習への動機づけを高め、自律的な英語学習者を育成することを狙いとする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

TOEICの7パートの出題形式に対応した問題演習を行う。特にリスニングの写真描写問題及び応答問題については正答率を高レベルに保つことを目指す。リスニング、リーディングどちらの活動も、ペアワーク等による会話、ディクテーション、シャドーイングなど能動的な活動を取り入れる中で、総合的な英語力の向上を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については確認テスト等の実施により、毎回確認するとともに、授業内でポイントとなる事項の解説を行う。

■授業計画

- ①Orientation, Listening Practice
- ②Unit1 (Travel) Vocabulary (401-450)
- ③Unit1 (Travel) Vocabulary (451-500)
- ④Unit4 (Entertainment) Vocabulary (501-550)
- ⑤Unit4 (Entertainment) Vocabulary (551-600)
- ⑥Unit5 (Purchasing) Vocabulary (451-600)
- ⑦Unit5 (Purchasing) Vocabulary (601-650)
- ⑧The midterm exam
- ⑨Unit8 (Personnel) Vocabulary (651-700)
- ⑩Unit8 (Personnel) Vocabulary (701-750)
- ⑪Unit11 (Meetings) Vocabulary (601-750)
- ⑫Unit11 (Meetings) Vocabulary (751-800)
- ⑬Unit12 (Offices) Vocabulary (401-800)
- ⑭Unit12 (Offices) Vocabulary (401-800)
- ⑮The final exam

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ TOEICスコア500点を常時クリアできる英語力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 定期試験 40%
- ・ 語彙テスト 40%
- ・ 課題、授業中の言語活動（リスニングプラクティス等） 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE
- ・ TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）

【参考文献】

- 自学用サイト
- ・ News ON Japan
- ・ NHK NEWSLINE - NHK WORLD
- ・ VOA - VOICE of America English News

■授業外学習

【具体的な内容】

- 事前 ①語彙テスト範囲の学習
 事後 ②テキストの聞き取り問題のリスニング&シャドーイング
 ③上記自学用サイトを活用しやリーディング&リスニング

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

TOEICについては、この科目のあとTOEICⅢ→TOEICⅣへと発展的に学習します。実際²³（令和5）年4月1日のTOEIC受験を学習計画に組み入れて、自分の英語力を定点観測するとともに、常に明確な目標を持って学習を継続してください。

科目名	応用演習 I [現文]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	高橋 伸

■講義の目的および概要

本講義は、「言葉を調べる」ことをテーマとして、言葉の仕組みや働きに対する理解を深めると共に、それぞれの課題に沿って、言葉について調査研究し、理解を深めることを目指します。特に音読することや意見を文字にして表出することを通して、他者との交流を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で授業を行います。

授業の前半は、まず、事前に提示された文章を解釈し、自らの考えを発表できるように準備しておきます。演習では、事前に考えてきたことを全体に説明し、他者の質問や意見、助言などを受けた上で、自分の考えを再検討して、理解を深めます。授業時に提示された課題について、グループディスカッションなどを通してさまざまな観点から検討し、グループとしての意見をまとめ上げることで、協動的思考力を身につけます。

授業の後半は、言葉に関して、それぞれ課題を立て調査し、レポートにまとめます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・演習の中の質疑応答でコメントします。
- ・レポートに対しては、コメントをつけてフィードバックします。

■授業計画

演習は、以下のように行いますが、状況に応じて計画の変更もあり得ます。

- ① ガイダンス
- ② 資料の読解 言葉の役割を考える 1
- ③ 資料の読解 言葉の役割を考える 2
- ④ 資料の読解 言葉の役割を考える 3
- ⑤ 資料の読解 言葉の役割を考える 4
- ⑥ 資料の読解 言葉の役割を考える 5
- ⑦ 資料の読解 言葉の役割を考える 6
- ⑧ 中間のまとめ
- ⑨ 文献の読解と調査研究 1
- ⑩ 文献の読解と調査研究 2
- ⑪ 文献の読解と調査研究 3
- ⑫ 文献の読解と調査研究 4
- ⑬ 研究成果のまとめ1
- ⑭ 研究成果のまとめ2
- ⑮ 学修成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・言葉に関する文章を読み、内容を理解することができる。
- ・他者の見解に耳を傾け、物の見方や考え方を交流できる。
- ・理解した内容を他者にわかりやすく自分の言葉で伝えることができる。
- ・言葉について調べ、言葉の役割や言葉と人の関わりについて文章で表現することができる。
- ・調査研究したことを他者に伝え、他者と学びを共有することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・調査研究発表 40%
- ・レポート 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜配付します

【参考文献】

石黒圭 (2013) 『日本語は「空気」が決める』光文社新書

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前学習として、資料について、自分なりの解釈をしておくこと。
- ・事後学習として、授業での学びをまとめて記述すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間以上を目安とします。

■その他

・次の授業に向けて、毎回解釈・批評を書く課題が出ます。その点を踏まえて履修登録をしてください。

科目名	応用演習 I [現文]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	坂梨 夏代、越田 賢一郎

■講義の目的および概要

本演習は、考古学、先史学、博物館学、文化資源学、文化人類学の領域、北海道、ロシア極東を中心とした先史文化、また地域の歴史的文化資源の活用をテーマとする。資料調査、フィールドワーク等を通じて、学生が主体的に学ぶ力を身につけることを目的とした授業である。

また4年のテーマ研究Ⅰ・Ⅱに続く基礎的な資料調査、分析、論文作成の方法などを学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に演習方式であるため、テーマごとに調査、発表をおこなってもらう。また地域資源の活用を演習全体のテーマとして、フィールドワークなどの活動を実施する予定である。

【課題に対するフィードバックの方法】

調査に関するシートやレジュメ確認、発表、フィールドワークにおけるディスカッション、報告などでフィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②文化資源の活用とは
- ③地域と文化資源について
- ④自分の街紹介(1)
- ⑤自分の街紹介(2)
- ⑥北海道の文化資源について
- ⑦道内市町村の文化資源について(1)レジュメ発表
- ⑧道内市町村の文化資源について(2)レジュメ発表
- ⑨フィールドワーク準備・調査
- ⑩フィールドワーク準備・発表
- ⑪フィールドワーク
- ⑫フィールドワーク事後報告
- ⑬報告準備
- ⑭報告事前練習
- ⑮成果報告(中間発表会)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

論文、調査(調べもの)、フィールドワーク等を通じて、地域資源の活用について自分なりの考えを持ち、主体的な活動ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

調べもの 20%
発表 20%
レジュメ 20%
成果報告 40%で評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。適宜指示・配布する。

【参考文献】

『季刊まちづくり』八甫谷 邦明編 学芸社 など

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外においても、図書館、博物館等を訪ね、資料収集、準備等を重ねること

【必要な時間】

各自必要な調べものに(予習復習)2時間程度を必要とする

■その他

フィールドワークに別途費用が掛かる場合がある（授業内で説明）。

授業外でも積極的に活動すること。

※コロナの状況によりフィールドワーク等授業内容の変更あり。担当教員の指示に従うこと。

科目名	応用演習 I [現文]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

本演習では現代の社会問題の構造や背景について理解を深めることを目的に、「現代的な社会問題」に関わるテーマで、選定された文献や資料に基づきながら履修者による文献・資料の解説や議論を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の問題意識に合わせて「現代的な社会問題」に関わる文献や資料を選定し、それをもとに議論を行います。毎回、レポーターと司会を決め、レポーターは文献の要約と論点の提示、司会はゼミの進行・論点の整理を行ってもらい、議論の活性化を図るようにします。履修者には各自レポーターと司会をそれぞれ1回以上、担当してもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

当日の議論に参加し、レポーターが作成してきた資料や討論内容に関して、質疑応答やコメントを行うことを通して、フィードバックします。

■授業計画

- ①演習の進め方と文献の選定 (1)
- ②演習の進め方と文献の選定 (2)
- ③文献・資料の読解と議論 (1)
- ④文献・資料の読解と議論 (2)
- ⑤文献・資料の読解と議論 (3)
- ⑥文献・資料の読解と議論 (4)
- ⑦文献・資料の読解と議論 (5)
- ⑧文献・資料の読解と議論 (6)
- ⑨文献・資料の読解と議論 (7)
- ⑩文献・資料の読解と議論 (8)
- ⑪文献・資料の読解と議論 (9)
- ⑫文献・資料の読解と議論 (10)
- ⑬文献・資料の読解と議論 (11)
- ⑭まとめと振り返り
- ⑮ゼミ発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

多様な現代的な社会問題の現状や課題について理解ができ、自らの意見をもてるようになることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

レポーターや司会を担当した際の達成度と毎回の授業における議論への参加の度合いによって評価する。評価の配分は、担当の報告資料の充実度40%、報告資料の発表の出来40%、司会と各授業における議論の参加の度合い20%とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

1回目と2回目の授業で決めます。

【参考文献】

授業の中で適宜、紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時の最後に次週の学習について予告するので、文献・資料の該当箇所の予習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、配付された資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。また、日常から新聞を読み、ニュースの報道、解説に関心を持つようにしてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	応用演習 I [現文]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

本演習では、自らの将来を考えることができるようになるために、資格取得についての講義、グループワーク、学生同士のディスカッションなどを通じて、大学で学ぶ意義を考えることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

少人数のゼミナール形式で実施するが、グループワークによるディスカッションやフィールドワークによる調査を実施し、ディスカッションやデータ分析を通し、成果をまとめ、プレゼンテーションなどの形で発表する。

・授業内容

ゼミ担当教員のもとで、自らの将来についてテーマ研究や調査を行う。テーマに関する知識と調査や活動に必要な手法を修得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。
- ・オンライン課題や授業中に出示された疑問・質問に授業の中で回答補足する。
- ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②将来について
- ③社会が求める人材とは
- ④グループワーク1
- ⑤グループワーク2
- ⑥グループワーク3
- ⑦グループワーク4
- ⑧グループワーク5
- ⑨グループワーク6
- ⑩グループワーク7
- ⑪発表準備1
- ⑫発表準備2
- ⑬プレゼンテーション
- ⑭成果発表と相互評価
- ⑮まとめとフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①大学で学ぶことを自ら考えることができることを身につける。
- ②情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40%
 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20%
 プレゼンテーションの発表と完成度 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて、授業内で適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・自らのグループのテーマに即し、文献の読解、情報やデータの収集、発表準備、課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

科目名	応用演習 I [現文]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

「我々はどうのような時代・文化の中で生きているのか」を考えるために、「科学と宗教」というテーマを掲げる。我々は「科学」に依拠した世界観をもち、生活をしているが、この世界には「疑似科学」あるいは「宗教」に依拠し、ある意味科学を拒否して生きている人々もいる。科学とは何か、なぜ科学を我々は全人類に普遍的なものと考えているのだろうか。本授業はこうした問題に、複数の文献の購読を通じて考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献購読を主体とした演習授業。全員がテキストを予習し、内容要約を作成する。当日は、各人が理解したところを報告しつつ、互いに議論し、それをメモする。後日、それを整理し、読書ノートとして完成させる。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・作成してきた内容要約に対しては、当日の質疑応答でコメントし、フィードバックする。
- ・後日作成した読書ノートに対しては、次回までに添削指導を行う。
- ・最終課題のレポートに対しては、応用演習IIの冒頭でコメントをつけてフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②講読文献の決定
- ③～⑦科学についての文献講読
- ⑧中間のまとめ
- ⑨～⑬宗教についての文献講読
- ⑭学修成果発表にむけて
- ⑮学修成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

到達目標】

- ・一定水準以上の学術的文献を精読し、内容を理解することができる
- ・理解した内容を他者にわかりやすく自分のことばで伝えることができる
- ・「科学とは何か」という問題に、自分なりの回答をすることができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・予習としての内容要約づくり・・・28%
- ・復習としての読書ノートづくり・・・28%
- ・最終成果物・・・44%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講読テキストは、受講者との議論で決定する。

【参考文献】

以下の文献を、テキスト候補として参考文献に挙げておく

- ・高橋昌一郎『理性の限界 —不可能性・不確定性・不完全性』（講談社、008）
- ・須藤靖、伊勢田哲治『科学を語るとはどういうことか』増補版（河出書房新、2021年）
- ・宇都宮輝夫『宗教の見方 人はなぜ信じるのか』（勁草書房 2012年）
- ・八木誠一『宗教とは何か 現代思想から宗教へ』（法蔵館、2020年）

* この分野における先進的な文献は英語で書かれていることが多いので、場合によっては英語文献の購読があることに留意すること。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前学習として、全員がテキストを予習し、内容要約を作成する。
- ・事後学習として、授業での議論を整理し、読書ノートとして完成させる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習 I [現文]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

○研究とは、自らの「楽しい」、「知りたい」気持ちからはじまり、その背後にある構造を明らかにするものである。

- ・「日本史(文献史学)」のゼミである。
- ・各自が「知りたい」「勉強したい」と自発的に設定した研究テーマについて、学生主体で調査、文献調査などを行い、それが歴史的にどのような意味を持つのかを考えるゼミである。
- ・学生主体の研究活動、調査報告が主体となる。講義時間は、基本的に①研究発表、②篠崎が指定した調査発表、③議論、となる。授業時間以外での調査、研究、レポート、論文執筆が主体となること及び、口頭による質疑、議論を行うゼミであることを十分理解した上で履修すること。
- ・就職活動、卒業後の職業人としての前提としてゼミ活動を行う。具体例は、報告出来ない時の事前連絡などである。また、将来の自身の進路とかかわることを研究テーマとする。この点を留意した上で履修すること。

【個別事象】

- ・3年次春学期・秋学期を通しての目標・・・卒業論文、卒業研究など、何らかの形での研究成果物を作成、完成させることを目的とした活動を行う。
- ・履修の際は、本シラバスの「その他」を熟読すること。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・演習形式
- ・課題解決型、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、アクティブラーニング、フィールドワーク(必要な場合)
- ・ゼミ生による研究報告・討論中心
- ・史料、参考文献など、文献史学の手順を必ずふまえた報告を行う

【課題に対するフィードバックの方法】

【講義方法】

- ・課題解決型、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、アクティブラーニング、フィールドワーク(必要な場合)
- ・ゼミ生による研究報告・討論中心
- ・史料、参考文献など、文献史学の手順を必ずふまえた報告を行う

【ICT機器】

- ・PC、プロジェクター、映像資料、zoomなど(遠隔の場合)

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・講義中に口頭ないし文書でのコメントをつけ、行う。
- ・レポート、卒業論文、卒業研究などに相当するものについては、添削を行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②自由に発表
- ③日本史の研究手法1—文献調査・輪読
- ④日本史の研究手法2—実践編
- ⑤研究発表1—調査法をふまえ
- ⑥研究発表2—調査法をふまえ
- ⑦日本史の研究手法3—文献の読み方・調べ方・語釈
- ⑧日本史の研究手法4—実践編
- ⑨研究発表3—調査法をふまえ
- ⑩研究発表4—調査法をふまえ
- ⑪日本史の研究手法5—文章執筆
- ⑫日本史の研究手法6—実践編
- ⑬研究発表5—調査法をふまえ
- ⑭研究発表6と全体発表予行演習—調査法をふまえ
- ⑮全体発表

※13~15回目の授業は、ゼミ発表関係である。そのため、学科、ほかゼミの動向で内容を変更する場合がある。

※全体的に、感染症の影響で、シラバスの内容を変更する場合がある。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・自らテーマを設定し、主体的に調査、研究する手法と姿勢を身につける
- ・論理的思考と表現力を身につける
- ・先行研究整理や史料批判を通じ、文献史学の学問手法を学ぶ
- ・議論を通じ、多角的視野と他者の意見を尊重する重要性を学ぶ
- ・歴史学の調査を通じて、それが現代の日本・世界にどのような意味があるかを考え、異文化・過去・他者との交流の重要性に触れる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (Dp3) 【課題を発見し、解決する力】
- (Dp4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・授業中…レジュメ、発表、発表の文章化したもの、質疑など—50%
- ・授業外…まとめレポート、まとめ発表など。卒業論文執筆予定者は、次年度の研究計画書・予備論文…50%

※コピー、剽窃、虚偽の連絡、その他不正は、上記の評価と無関係に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中、指示する。

【参考文献】

- ・なし。講義中、指示する。

※論文執筆のための文章作成の推奨文献

- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中央公論新社、1981年）←第一に読むべきもの
- ・清水幾太郎『論文の書き方』（岩波書店、1959年）
- ・梅棹忠夫『知的生産の技術』（岩波書店、1969年）
- ・野内良三『日本語作文術』（中央公論新社、2010年）
- ・山田ズーニー『伝わる・揺さぶる！文章を書く』（PHP研究所、2001年）

■授業外学習

【具体的な内容】

- 発表準備、文献調査、論文執筆など(各回、2～4時間程度)
- ・基本的に授業外での事前調査を中心とし、授業内はその成果報告を行うこととする
- ・事後学習は、ゼミ中に指摘された問題、新たな史料、文献調査などを各自で行うこととする
- ・各自の研究テーマに合わせ、フィールドワーク・学外の史料調査を行う場合あり

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。文献の調査、それを読むことなどに必要な時間は各自、確保した上で履修すること(講義時間以外の調査、主体的な準備ができるかどうか、本講義の「本質」部分である)。

■その他

- ・卒業論文ないしそれと同等の水準のものを作成することを目的とするゼミである。この点をふまえた上で履修すること。
- ・履修希望者が多い場合、履修人数を制限をする場合がある。これは教育の質保証の観点からである。
- ・原則として、図書館などの文献、書籍利用を学生が主体的に調査、利用することを前提とするゼミである。ネットのみの調査などは認めない。この点をふまえた上で選択すること。
- ・コピー、出席の不正、虚偽の連絡、その他、講義者が不正と判断した行為については、厳正に対処する。
- ・学生が主体的に文献(文字資料)から研究を行うゼミである。文献を使用しないテーマや、他者(教員)が設定したテーマを行うゼミではないことに注意してから履修すること。
- ・下記に該当する場合、研究テーマの変更を求める場合がある。これをふまえた上で履修すること
- ①日本史、文献史学の学問分野、講義担当者(篠崎)の専門とは異なる場合。また、学科、大学のこれまでの教育と異なるもの。
 - ②差別・偏見を助長するもの、特定の政治的主張のためのもの、「結論ありき」の研究
 - ③本講義の主題とはそぐわない研究(例、ある本を単に読むだけ、「この本を1冊を半年かけて読みます」など、大学の研究として著しく作業時間が過大、ないし少ないもの)
 - ④その他、講義者が不相当と判断したもの
 - ・研究が上手いかない、発表が難しい時などは、必ず授業前に教員に相談すること。
 - ・感染症の状況に応じて、授業内容をシラバスから変更する場合がある。その場合も到達目標は変らない。
 - ・フィールドワークを実施する場合は、費用は履修者の負担となる。

科目名	応用演習 I [現文]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣

■講義の目的および概要

- ①社会言語学の基礎を学ぶとともに、言語が実社会でいかに使用されているかを分析することを目的とする。
- ②データの収集、共有、そして発信手法を学ぶ。
- ③英語によるディスカッションやライティングを通じ、英語の実践的運用能力を高める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式ディスカッション、プレゼンテーションなど、主体的な学びが求められます。フィードワークを通して、北海道における文化・社会と英語について学んでいきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中での発表は口頭にて、適宜フィードバックを行なう。レポートについては添削やコメントをつける。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 社会言語学とは
- ③ 言語の変異
- ④ バイリンガリズム、マルチリンガリズム
- ⑤ リンガフランカ、ピジン、クレオール
- ⑥ 調査方法1
- ⑦ フィールドワーク1
- ⑧ ジェンダーと言語
- ⑨ 調査方法2
- ⑩ フィールドワーク2
- ⑪ 飲食業界と英語の問題点
- ⑫ ファイナルプロジェクト
- ⑬ ファイナルプロジェクト
- ⑭ プレゼンテーション
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

学術的な英語を読み・まとめることができるようになる。
北海道における文化・社会とそれを取り巻く英語の問題について包括的に学ぶ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

・ゼミ発表の参加度・積極性	30%
・宿題	30%
・ファイナルプロジェクト	30%
・フィールドワークでのリフレクション	10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて、ハンドアウトを適宜配布予定

【参考文献】

特になし

■授業外学習

【具体的な内容】

現地フィールドワークについては、土日祝日に実施することもある。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

英語の教材を多く扱うため、英語が得意、頑張りたい学生の履修を推奨する。

フィールドワークは、実際に街に出て、観光地などで語学がどう使われているかを確認
かめ学ぶことを目的としている（主に札幌市内を想定、交通費は各自負担）

プロジェクトでは、企業と協力して社会の問題について解決するような取り組みを行う。

科目名	応用演習 I [現文]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

【ゼミの目的】

本演習では北海道が育む「食」の魅力と可能性に関する理解を深め、その活用により文化的な側面から地域の活性化を検討することをテーマとする。

【ゼミの概要】

本年は日本人の伝統的な食文化である「和食－自然を尊重する日本人の心を表現した伝統的な社会的習慣－」が、2013年12月ユネスコ無形文化遺産登録から10周年を迎える。文化遺産登録以降、和食やそのベースとなるうま味はその価値を見直され国内外から注目されており、その一役を担う昆布はじめ北海道が育む海山の幸に関して、文献調査などから基礎知識を身につける。その上で、フィールドワークや地域活動などを通して北海道の食の魅力を理解し、さらにその普及拡大を担う人材を目指したい。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習授業のため、テーマごとに文献リサーチ、レジュメ作成、プレゼンテーションを個人もしくはグループで取組む。北海道の重要な地域資源「食」に関する理解を深めるため、現地で五感を働かせて学ぶためフィールドワークを実施する。食はじめ地域資源に対する理解を深め、多様な人々とのコミュニケーションをもちながら自分事として学修に取組む。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に関しては授業内、もしくはmanabaを通じてフィードバックを行う。

■授業計画

演習は、概ね以下のとおり実施する。

- ① ガイダンス
- ② 北海道の郷土料理
- ③ 北海道産食財のチカラ
- ④ 北海道が育む和食文化
- ⑤ 北海道の食に関するリサーチ・発表1
- ⑥ 北海道の食に関するリサーチ・発表2
- ⑦ 北海道の食に関するリサーチ・発表3
- ⑧ 北海道の食に関するリサーチ・発表4
- ⑨ フィールドワーク準備 (リサーチ)
- ⑩ フィールドワーク準備 (発表)
- ⑪ フィールドワーク
- ⑫ フィールドワーク振り返り・報告
- ⑬ 学修成果発表会 事前準備
- ⑭ 学修成果発表会 事前発表練習
- ⑮ 学修成果発表会 (中間発表会)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・文献調査、レジュメ作成に関する基本的な力を身につける。
- ・多様な人々とともに活動し、自分の考えもち行動できるようになる。
- ・北海道の食や地域資源に関して、その魅力を発信できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------|-----|
| ① 授業内課題 | 20% |
| ② レジュメ | 20% |
| ③ プレゼンテーション | 20% |
| ④ 成果発表 | 40% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】
適宜、レジュメや資料を配付する。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
書籍、新聞、雑誌などから授業テーマに関連する情報収集し、理解を深める。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークに要する費用は、履修者各自の負担となる。春学期は道内（料亭会食、食関連の歴史的建造物の視察等）での実施を計画しており、詳細はゼミ実施時およびmanaba等で周知する。

科目名	応用演習Ⅱ[現文]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣

■講義の目的および概要

本講義では、映画を通して、社会を包括的に学ぶことを目的とする。英語で書かれた教科書を精読し、英語力を伸ばすとともに、異文化コミュニケーションについて理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義は、大きく分けて二つある。

?英語の講読とその分野についてのプレゼンテーション

?その分野に対するディスカッションとその実地調査

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中での発表は口頭にて、適宜フィードバックを行う。レポートについては添削やコメントをつける。

■授業計画

week1 : introduction

week2 : LGBT

week3 : Gender and Racial Segregation

week4 : Slavery Systems

week5 : Immigrants

week6 : Foreign Language

week7 : Fieldwork in the Embassy of the U.S.A

week8 : Cross-Cultural Communication

week9 : Physical Disability

week10 : Diseases : PTSD

week11 : Refugees

week12 : The Holocaust/History

week13 : Fieldwork

week14 : Final Project

week15 : Final Project

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

?英語の講読を通し、自分の意見を英語で議論・レポートを書けることができる。

?多文化社会を理解し、その問題について自ら考え、アウトプットできる力を身につける。

③授業で取り上げた多文化について日本のケースについて考え、発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) 【コミュニケーション能力】

(DP3) 【課題を発見し、解決する力】

(DP4) 【多様性の理解と協働する力】

(DP5) 【能動的に学び続ける力】

(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

・ゼミ発表の参加度・積極性	30%
・宿題	20%
・ファイナルプロジェクト	30%
・調査	20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて、ハンドアウトを適宜配布予定

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

現地フィールドワークについては、土日祝日に実施することもある。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークやボランティア活動にかかる交通費は原則自費だが、一部補助の場合³（令和5）年4月1日
合もある。
英語の教材を多く扱うため、英語が得意、頑張りたい学生の履修を推奨する。

科目名	応用演習Ⅱ[現文]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	坂梨 夏代、越田 賢一郎

■講義の目的および概要

本演習は、考古学、先史学、博物館学、文化資源学、文化人類学の領域、北海道、ロシア極東を中心とした先史文化、また地域の歴史的文化資源の活用をテーマとする。資料調査、フィールドワーク等を通じて、学生が主体的に学ぶ力を身につけることを目的とした授業である。

また4年のテーマ研究Ⅰ・Ⅱに続く基礎的な資料調査、分析、論文作成の方法などを学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に演習方式であるため、テーマごとに調査、発表をおこなってもらう。また地域資源の活用を演習全体のテーマとして、フィールドワークなどの活動を実施する予定である。

【課題に対するフィードバックの方法】

調査に関するシートやレジュメ確認、発表、フィールドワークにおけるディスカッション、報告などでフィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②担当地域について
- ③レジュメ発表(1)
- ④レジュメ発表(2)
- ⑤レジュメ発表(3)
- ⑥レジュメ発表(4)
- ⑦個別テーマについて
- ⑧北海道の魅力・これまでのまとめ
- ⑨フィールドワーク準備
- ⑩フィールドワーク調査
- ⑪フィールドワーク実施
- ⑫フィールドワーク事後報告
- ⑬個別テーマゼミ内発表(1)
- ⑭個別テーマゼミ内発表(2)
- ⑮成果報告(最終報告会)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

論文、調査(調べもの)、フィールドワーク等を通じて、地域資源の活用について自分なりの考えを持ち、主体的な活動ができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

調べもの 20%
発表 20%
レジュメ 20%、
成果報告 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。適宜指示・配布する。

【参考文献】

『季刊まちづくり』八甫谷 邦明編 学芸社 など

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外においても、図書館、博物館等を訪ね、資料収集、準備等を重ねること

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークに別途費用が掛かる場合がある（授業内で説明）。

授業外でも積極的に活動すること。

※コロナの状況によりフィールドワーク等の授業内容に変更あり。担当教員の指示に従うこと。

科目名	応用演習Ⅱ[現文]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

本演習では現代の社会問題の構造や背景について理解を深めることを目的に、「現代的な社会問題」に関わるテーマで、選定された文献や資料に基づきながら履修者による文献・資料の解説や議論を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の問題意識に合わせて「現代的な社会問題」に関わる文献や資料を選定し、それをもとに議論を行います。毎回、レポーターと司会を決め、レポーターは文献の要約と論点の提示、司会はゼミの進行・論点の整理を行ってもらい、議論の活性化を図るようにします。履修者には各自レポーターと司会をそれぞれ1回以上、担当してもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

当日の議論に参加し、レポーターが作成してきた資料や討論内容に関して、質疑応答やコメントを行うことを通して、フィードバックします。

■授業計画

- ①演習の進め方と文献の選定 (1)
- ②演習の進め方と文献の選定 (2)
- ③文献・資料の読解と議論 (1)
- ④文献・資料の読解と議論 (2)
- ⑤文献・資料の読解と議論 (3)
- ⑥文献・資料の読解と議論 (4)
- ⑦文献・資料の読解と議論 (5)
- ⑧文献・資料の読解と議論 (6)
- ⑨文献・資料の読解と議論 (7)
- ⑩文献・資料の読解と議論 (8)
- ⑪文献・資料の読解と議論 (9)
- ⑫文献・資料の読解と議論 (10)
- ⑬文献・資料の読解と議論 (11)
- ⑭まとめと振り返り
- ⑮ゼミ発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

多様な現代的な社会問題の現状や課題について理解ができ、自らの意見をもてるようになることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

レポーターや司会を担当した際の達成度と毎回の授業における議論への参加の度合いによって評価する。評価の配分は、担当の報告資料の充実度40%、報告資料の発表の出来40%、司会と各授業における議論の参加の度合い20%とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

1回目と2回目の授業で決めます。

【参考文献】

授業の中で適宜、紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時の最後に次週の学習について予告するので、文献・資料の該当箇所の予習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、配付された資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。また、日常から新聞を読み、ニュースの報道、解説に関心を持つようにしてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[現文]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

本演習では、自らの将来を考えることができるようになるために、資格取得についての講義、グループワーク、学生同士のディスカッションなどを通じて、大学で学ぶ意義を考えることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

少人数のゼミナール形式で実施するが、グループワークによるディスカッションやフィールドワークによる調査を実施し、ディスカッションやデータ分析を通し、成果をまとめ、プレゼンテーションなどの形で発表する。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。
- ・オンライン課題や授業中に出了された疑問・質問に授業の中で回答補足する。
- ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②将来について
- ③社会が求める人材とは
- ④グループワーク1
- ⑤グループワーク2
- ⑥グループワーク3
- ⑦グループワーク4
- ⑧グループワーク5
- ⑨グループワーク6
- ⑩グループワーク7
- ⑪発表準備1
- ⑫発表準備2
- ⑬プレゼンテーション
- ⑭成果発表と相互評価
- ⑮まとめとフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①大学で学ぶことを自ら考えることができることを身につける。
- ②情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40%
 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20%
 プレゼンテーションの発表と完成度 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて、授業内で適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・自らのグループのテーマに即し、文献の読解、情報やデータの収集、発表準備、課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word、PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[現文]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

我々はどのような時代・文化の中で生きているのか」を考えるために、「科学と宗教」というテーマを掲げる。我々は「科学」に依拠した世界観をもち、生活をしているが、この世界には「疑似科学」あるいは「宗教」に依拠し、ある意味科学を拒否して生きている人々もいる。科学とは何か、なぜ科学を我々は全人類に普遍的なものと考えているのだろうか。本授業はこうした問題に、複数の文献の購読を通じて考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】演習授業

前半（10月末まで）は、春学期の文献購読の成果をもとにし、自身の考察をまとめる訓練を行う。
後半から各人の関心に即した研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・作成してきた提出課題・発表に対しては、当日の質疑応答でコメントし、フィードバックする。
- ・中間課題・最終課題のレポートに対しては、適宜コメントをつけてフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンスと春学期のフィードバック
- ②～⑤ 評論作成
- ⑥文献検索方法ガイダンス
- ⑦～⑬ 各人の関心に則した調査・研究発表
- ⑭学修成果発表にむけて
- ⑮学修成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・一定水準以上の学術的文献を精読し、内容を理解することができる
- ・理解した内容を他者にわかりやすく自分のことばで伝えることができる
- ・自身の関心に即し、調査探究し、その成果を他者に伝えることができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・評論の作成・・・40%
- ・授業内課題・・・20%
- ・授業内発表・・・30%
- ・学修成果発表・・・10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】統一的なテキストは用いない

【参考文献】受講者全員に当てはまる参考文献はない。

■授業外学習

【具体的な内容】

空き時間のほとんどを、評論作成、文献の調査や読解、必要な史資料の探索と読解、整理に費やすことになる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[現文]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	高橋 伸

■講義の目的および概要

本講義は、「言葉を調べる」ことをテーマとして、言葉の仕組みや働きに対する理解を深めると共に、それぞれの課題に沿って、言葉について調査研究し、理解を深めることを目指します。特に音読することや意見を文字にして表出することを通して、他者との交流を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で授業を行います。

授業の前半は、まず、事前に提示された文章を解釈し、自らの考えを発表できるように準備しておきます。演習では、事前に考えてきたことを全体に説明し、他者の質問や意見、助言などを受けた上で、自分の考えを再検討して、理解を深めます。授業時に提示された課題について、グループディスカッションなどを通してさまざまな観点から検討し、グループとしての意見をまとめ上げることで、協動的思考力を身につけます。

授業の後半は、言葉に関して、それぞれ課題を立て調査し、レポートにまとめます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・演習の中の質疑応答でコメントします。
- ・レポートに対しては、コメントをつけてフィードバックします。

■授業計画

演習は、以下のように行いますが、状況に応じて計画の変更もあり得ます。

- ① ガイダンス
- ② 資料の読解 言葉の役割を考える 1
- ③ 資料の読解 言葉の役割を考える 2
- ④ 資料の読解 言葉の役割を考える 3
- ⑤ 資料の読解 言葉の役割を考える 4
- ⑥ 資料の読解 言葉の役割を考える 5
- ⑦ 資料の読解 言葉の役割を考える 6
- ⑧ 中間のまとめ
- ⑨ 個々の関心に基づいてテーマを決め資料を収集する。
- ⑩ 文献の読解と調査研究 1
- ⑪ 文献の読解と調査研究 2
- ⑫ 文献の読解と調査研究 3
- ⑬ 文献の読解と調査研究 4
- ⑭ 成果のまとめ
- ⑮ 学修成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・言葉に関するを読み、内容を理解することができる。
- ・他者の見解に耳を傾け、物の見方や考え方を交流できる。
- ・理解した内容を他者にわかりやすく自分の言葉で伝えることができる。
- ・言葉について調べ、言葉の役割や言葉と人の関わりについて文章で表現することができる。
- ・調査研究したことを他者に伝え、他者と学びを共有することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・調査研究発表 40%
- ・レポート 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜配付します。

【参考文献】

中村桃子 (2021) 『「自分らしさ」と日本語』ちくまプリマー新書

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前学習として、資料について、自分なりの解釈をしておくこと。
- ・事後学習として、授業での学びをまとめて記述すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間以上を目安とします。

■その他

なし

科目名	応用演習Ⅱ[現文]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

○研究とは、自らの「楽しい」、「知りたい」気持ちからはじまり、その背後にある構造を明らかにするものである。

- ・「日本史(文献史学)」のゼミである。
- ・基本的な概要は、前期「応用演習Ⅰ」に準じる(前期シラバス参観のこと)
- ・後期の特徴は、①文章作成(書評など)、②4年次の卒業論文作成のための活動を行う。
- ・履修の際は、本シラバスの「その他」を熟読すること。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・演習形式
- ・課題解決型、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、アクティブラーニング、フィールドワーク(必要な場合)
- ・ゼミ生による研究報告・討論中心
- ・史料、参考文献など、文献史学の手順を必ずふまえた報告を行う

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題解決型、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、アクティブラーニング、フィールドワーク(必要な場合)
- ・ゼミ生による研究報告・討論中心
- ・史料、参考文献など、文献史学の手順を必ずふまえた報告を行う

【ICT機器】

- ・PC、プロジェクター、映像資料、zoomなど(遠隔の場合)

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・講義中に口頭ないし文書でのコメントをつけ、行う。
- ・レポート、卒業論文、卒業研究などに相当するものについては、添削を行う。

■授業計画

- ①ガイダンス—状況確認
- ②自由に発表
- ③日本史の研究手法1—書評など
- ④日本史の研究手法2—実践編
- ⑤日本史の研究手法3—文章成果物の確認・添削
- ⑥研究発表1—4年次に向けて
- ⑦研究発表2—4年次に向けて
- ⑧日本史の研究手法4—論文計画、章立て・説立てなど
- ⑨日本史の研究手法5—実践編
- ⑩研究発表3—研究の全体像を意識して
- ⑪研究発表4—研究の全体像を意識して
- ⑫研究発表5—3年次のまとめ
- ⑬研究発表6—3年次のまとめ
- ⑭全体発表予行演習
- ⑮全体発表

※14～15回目の授業は、ゼミ発表関係である。そのため、学科、ほかゼミの動向で内容を変更する場合がある。

※全体的に、感染症の影響で、シラバスの内容を変更する場合がある。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- ・自らテーマを設定し、主体的に調査、研究する手法と姿勢を身につける
- ・論理的思考と表現力を身につける
- ・先行研究整理や史料批判を通じ、文献史学の学問手法を学ぶ
- ・議論を通じ、多角的視野と他者の意見を尊重する重要性を学ぶ
- ・歴史学の調査を通じて、それが現代の日本・世界にどのような意味があるかを考え、異文化・過去・他者との交流の重要性に触れる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・授業中…レジュメ、発表、発表の文章化したもの、質疑など—50%
- ・授業外…まとめレポート、まとめ発表など。卒業論文執筆予定者は、次年度の研究計画書・予備論文…50%

※コピー、剽窃、虚偽の連絡、その他不正は、上記の評価と無関係に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中、指示する。

【参考文献】

- ・なし。講義中、指示する。

※論文執筆のための文章作成推奨文献は、前期シラバスを参照

■授業外学習

【具体的な内容】—発表準備、文献調査、論文執筆など(各回、2～4時間程度)

- ・基本的に授業外での事前調査を中心とし、授業内はその成果報告を行うこととする
- ・事後学習は、ゼミ中に指摘された問題、新たな史料、文献調査などを各自で行うこととする
- ・各自の研究テーマに合わせ、フィールドワーク・学外の史料調査を行う場合あり

【必要な時間】

- ・文献の調査、それを読むことなどに必要な時間は各自、確保した上で履修すること(講義時間以外の調査、主体的な準備ができるかどうか、本講義の「本質」部分である)。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・後期から履修するものは、履修前に講義者(篠崎)とそのほか必要な教員(現代文化学科長など)へ連絡、相談してから履修すること。
- ・卒業論文ないしそれと同等の水準のものを作成することを目的とするゼミである。この点をふまえた上で履修すること。
- ・履修希望者が多い場合、履修人数を制限をする場合がある。これは教育の質保証の観点からである。
- ・原則として、図書館などの文献、書籍利用を学生が主体的に調査、利用することを前提とするゼミである。ネットのみの調査などは認めない。この点をふまえた上で選択すること。
- ・コピー、出席の不正、虚偽の連絡、その他、講義者が不正と判断した行為については、厳正に対処する。
- ・学生が主体的に文献(文字資料)から研究を行うゼミである。文献を使用しないテーマや、他者(教員)が設定したテーマを行うゼミではないことに注意してから履修すること。
- ・下記に該当する場合、研究テーマの変更を求める場合がある。これをふまえた上で履修すること
- ①日本史、文献史学の学問分野、講義担当者(篠崎)の専門とは異なる場合。また、学科、大学のこれまでの教育と異なるもの。
- ②差別・偏見を助長するもの、特定の政治的主張のためのもの、「結論ありき」の研究
- ③本講義の主題とはそぐわない研究(例、ある本を単に読むだけ、「この本を1冊を半年かけて読みます」など、大学の研究として著しく作業時間が過大、ないし少ないもの)
- ④その他、講義者が不適当と判断したもの
- ・研究が上手いいかない、発表が難しい時などは、必ず授業前に教員に相談をすること。
- ・感染症の状況に応じて、授業内容をシラバスから変更する場合がある。その場合も到達目標は変わらない。
- ・フィールドワークを実施する場合は、費用は履修者の負担となる。

科目名	応用演習Ⅱ[現文]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

【ゼミの目的】

本演習では、北海道が育む「食」の魅力と可能性に関する理解を深め、その活用により文化的な側面から地域の活性化を検討することをテーマとする。

【ゼミの概要】

本年は、日本人の伝統的な食文化である「和食－自然を尊重する日本人の心を表現した伝統的な社会的習慣－」が、2013年12月ユネスコ無形文化遺産登録から10周年を迎える。文化遺産登録以降、和食やそのベースとなるうま味はその価値を見直され国内外から注目されており、その一役を担う昆布はじめ北海道が育む海山の幸に関して、文献調査などから基礎知識を身につける。その上で、フィールドワークや地域活動などを通して北海道の食の魅力を理解し、さらにその普及拡大を担う人材を目指したい。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習授業のため、テーマごとに文献リサーチ、レジュメ作成、プレゼンテーションを個人もしくはグループで取り組む。北海道の重要な地域資源である「食」が各地で地域独自の食文化形成に寄与していることを理解するため、北海道と関わり深い道外地域でフィールドワークを実施する。授業では、食はじめ訪問地が有する諸資源などを事前に調査して理解を深め、現地では多様な人々とのコミュニケーションを通じ、その地域と北海道との関係性を理解し、外から北海道を見つめ優位性を理解する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に関しては授業内、もしくはmanabaを通じてフィードバックを行う。

■授業計画

演習は、概ね以下のとおり実施する。

- ①ガイダンス
- ②訪問先に関する事前調査1
- ③訪問先に関する事前調査2
- ④訪問先に関する事前調査3
- ⑤訪問先に関する事前調査4
- ⑥訪問先に関する事前調査5
- ⑦訪問先に関する事前調査6
- ⑧フィールドワーク：1日目
- ⑨フィールドワーク：2日目
- ⑩フィールドワーク：3日目
- ⑪フィールドワーク：4日目
- ⑫フィールドワーク：5日目
- ⑬フィールドワークの振り返り・まとめ
- ⑭学修成果発表会 事前準備・発表練習
- ⑮学修成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・文献調査、レジュメ作成に関する基本的な力を身につける。
- ・多様な人々とともに活動し、自分の考えを持ち行動できるようになる。
- ・北海道の食や地域資源に関してその魅力を発信できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|------------|-----|
| ①授業内課題 | 20% |
| ?レジュメ | 20% |
| ③プレゼンテーション | 20% |
| ④成果発表 | 40% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】
適宜、レジュメや資料を配付する。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
書籍、新聞、雑誌などから授業テーマに関連する情報収集し、理解を深める。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークに要する費用は履修者各自の負担となる。訪問先は履修生と協議した上で決定する。

?実施時期：2024年1月上旬（4泊5日を予定）

?訪問先：沖縄（もしくは富山・福井）

③実習費用：概ね10万円（沖縄の場合。航空時代、宿泊費等含む）

④詳細は、別途ゼミおよびmanaba等で周知する。

科目名	応用演習Ⅱ[現文・秋入学生]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

本講義では、映画を通して、社会を包括的に学ことを目的とする。英語で書かれた教科書を精読し、英語力を伸ばすとともに、異文化コミュニケーションについて理解を深める

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義は、大きく分けて二つある。

- ①英語の講読とその分野についてのプレゼンテーション
- ②その分野に対するディスカッションとその実地調査

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中での発表は口頭にて、適宜フィードバックを行なう。レポートについては添削やコメントをつける。

■授業計画

Week 1: Introduction
 Week 2: LGBT
 Week 3: Gender and Racial Segregation
 Week 4: Slavery Systems
 Week 5: Immigrants
 Week 6: Foreign Language
 Week 7: Fieldwork in the Embassy of the U.S.A
 Week 8: Cross-Cultural Communication
 Week 9: Physical Disability
 Week 10: Diseases: PTSD
 Week 11: Refugees
 Week 12: The Holocaust/History
 Week 13: Fieldwork
 Week 14: Final Project
 Week 15: Final Project

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①英語の講読を通し、自分の意見を英語で議論・レポートを書けることができる。
- ②多文化社会を理解し、その問題について自ら考え、アウトプットできる力を身につける。
- ③授業で取り上げた多文化について日本のケースについて考え、発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DR2) コミュニケーション能力
- (DR3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DR6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

・ゼミ発表の参加度・積極性	30%
・宿題	20%
・ファイナルプロジェクト	30%
・調査	20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて、ハンドアウトを適宜配布予定

■授業外学習

【具体的な内容】
現地フィールドワークについては、土日祝日に実施することもある。

【必要な時間】
予習・復習でおおよそ2時間程度必要とする。

■その他

フィールドワークやボランティア活動にかかる交通費は原則自費だが、一部補助の場合もある。
英語の教材を多く扱うため、英語が得意、頑張りたい学生の履修を推奨する。

科目名	応用演習Ⅱ[現文・秋入学生]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	坂梨 夏代、越田 賢一郎

■講義の目的および概要

【ゼミの目的】

本演習では北海道が育む「食」の魅力と可能性に関する理解を深め、その活用により文化的な側面から地域の活性化を検討することをテーマとする。

【ゼミの概要】

本年は、日本人の伝統的な食文化である「和食－自然を尊重する日本人の心を表現した伝統的な社会的習慣－」が、2013年12月ユネスコ無形文化遺産登録から10周年を迎える。文化遺産登録以降、和食やそのベースとなるうま味はその価値を見直され国内外から注目されており、その一役を担う昆布はじめ北海道が育む海山の幸に関して、文献調査などから基礎知識を身につける。その上で、フィールドワークや地域活動などを通して北海道の食の魅力を理解し、さらにその普及拡大を担う人財を目指したい。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習授業のため、テーマごとに文献リサーチ、レジュメ作成、プレゼンテーションを個人もしくはグループで取り組む。北海道の重要な地域資源である「食」が各地で地域独自の食文化形成に寄与していることを理解するため、北海道と関わり深い道外地域でフィールドワークを実施する。授業では、食はじめ訪問地が有する諸資源などを事前に調査して理解を深め、現地では多様な人々とのコミュニケーションを通じ、その地域と北海道との関係性を理解し、外から北海道を見つめ優位性を理解する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に関しては授業内、もしくはmanabaを通じてフィードバックを行う。

■授業計画

演習は、概ね以下のとおり実施する。

- ① ガイダンス
- ② 訪問先に関する事前調査1
- ③ 訪問先に関する事前調査2
- ④ 訪問先に関する事前調査3
- ⑤ 訪問先に関する事前調査4
- ⑥ 訪問先に関する事前調査5
- ⑦ 訪問先に関する事前調査6
- ⑧ フィールドワーク：1日目
- ⑨ フィールドワーク：2日目
- ⑩ フィールドワーク：3日目
- ⑪ フィールドワーク：4日目
- ⑫ フィールドワーク：5日目
- ⑬ フィールドワークの振り返り・まとめ
- ⑭ 学修成果発表会 事前準備・発表練習
- ⑮ 学修成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・文献調査、レジュメ作成に関する基本的な力を身につける。
- ・多様な人々とともに活動し、自分の考えもち行動できるようになる。
- ・北海道の食や地域資源に関して、その魅力を発信できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------|-----|
| ① 授業内課題 | 20% |
| ② レジュメ | 20% |
| ③ プレゼンテーション | 20% |
| ④ 成果発表 | 40% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】
適宜、レジュメや資料を配付する。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
書籍、新聞、雑誌などから授業テーマに関連する情報収集し、理解を深める。

【必要な時間】
予習・復習は情報収集および資料整理などに2時間程度要する。

■その他

フィールドワークに要する費用は履修者各自の負担となる。訪問先は履修生と協議した上で決定する。

- ① 実施時期：2024年1月上旬（4泊5日を予定）
- ② 訪問先：沖縄（もしくは富山・福井）
- ③ 実習費用：概ね10万円（沖縄の場合。航空券代、宿泊費等含む）
- ④ 詳細は、別途ゼミおよびmanaba等で周知する。

科目名	応用演習Ⅱ[現文・秋入学生]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

「我々はどうの時代・文化の中で生きているのか」を考えるために、各受講者がそれぞれのテーマをもって調査研究を行う授業。教員はそれをもとに論文にまとめる指導を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習授業。各受講者がテーマに沿って授業外学習で調査研究をしてそれをまとめ、授業内で発表する。それに基づき、教員を含めた全員で質疑応答を行う。発表者は、その結果を踏まえ、さらなる調査研究へと向かう。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 順番で行う調査研究成果の発表は、授業内の質疑応答のかたちでフィードバックする。
- ・ 学修成果発表で高等報告したものに対しては、秋学期開始時にコメント付きでフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス 研究テーマ決め
- ②～⑬順番で調査研究結果の報告と質疑応答
- ⑭学修成果発表に向けて
- ⑮学修成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 自分の問題関心に即しつつ、適切な問いを設定することができる
- ・ その問いに答えるために、適切な調査研究ができる
- ・ その結果を明瞭で論理的な文章で表現できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・ 調査研究発表……50%
- ・ 学修成果発表……50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】 統一的なテキストは用いない

【参考文献】 受講者全員に当てはまる参考文献はない。

■授業外学習

【具体的な内容】

空き時間のほとんどを、文献の調査や読解、必要な史資料の探索と読解、整理に費やすことになる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[現文・秋入学生]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	宇留野 健太

■講義の目的および概要

本講義は、「外国語としての日本語」に関することからについて調査・研究することを目的とする。外国語としての日本語とは、日本語非母語話者の視点から見た日本語という意味である。

授業の前半部分では、日本語の類義表現についての調査を行う。調査を通して、日本語の語彙に対する理解を深め、資料の調査方法やまとめ方、論理的な文章を書く力などを身につける。

授業の後半部分では、外国語としての日本語に関して、各々がテーマを設定し、調査・研究を進める。最終的に一定以上の成果物を作成する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で授業を進める。

授業の前半部分では、日本語の類義表現に関する課題について調査する。その後、調査した内容をレジュメ等にまとめ、自分の意見について発表し、他の受講者全員と質疑応答を行う。質疑応答で得たアドバイス等をもとに日本語の類義表現について、さらに理解を深める。

授業の後半部分では、自らが設定したテーマについて調査・研究を行う。発表、質疑応答については授業の前半部分と同様である。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内において質疑応答というかたちでフィードバックを行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②日本語の類義表現
- ③日本語の類義表現についての調査 (1)
- ④日本語の類義表現についての調査 (2)
- ⑤日本語の類義表現についての発表 (1)
- ⑥日本語の類義表現についての発表 (2)
- ⑦テーマについての調査・研究 (1)
- ⑧テーマについての調査・研究 (2)
- ⑨テーマについての調査・研究 (3)
- ⑩テーマについての発表 (1)
- ⑪テーマについての発表 (2)
- ⑫テーマについての発表 (3)
- ⑬学修成果発表会の準備 (1)
- ⑭学修成果発表会の準備 (2)
- ⑮学修成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・日本語の類義表現について理解を深める。
- ・資料の調査方法やまとめ方、論理的な文章を書く力などを身につける。
- ・他の受講者の発表をよく聞き、その人の考え方を理解することができる。
- ・調査・研究した内容を他の受講者が理解できるように、様々な方法を用いて伝えることができる。
- ・自分の考えや意見を自らのことばで相手に伝えることができる。
- ・テーマに関する調査・研究内容を論理的な文章で表現することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

調査・研究の発表…50%
レポート …50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
テキストは用いない。

【参考文献】
授業内で適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】
・事前学習は、日本語の類義表現およびテーマに関する調査、発表資料の作成が中心となる。
・事後学習は、質疑応答で指摘された内容について、新たに調査・研究を行い、まとめ直すことが中心となる。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

積極的な授業への参加が求められる。

科目名	考古学資料演習
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	坂梨 夏代、越田 賢一郎

■講義の目的および概要

本講義は春学期考古学実習の続編にあたる。発掘調査後の室内作業について、発掘して得た考古資料をどのように整理して学術資料とするのか、その手順、方法について理解することを目的としている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

考古学・博物館実習室で実習形式で行う。実物資料を取り扱うので、破損、紛失に注意を払うこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回実施する資料の扱い方などが課題にあたる。作業を何度も繰り返す＝フィードバックすることで資料の扱い方の習熟度をアップさせる。

■授業計画

考古学における発掘調査後の室内作業全般について学ぶ。以下の内容について資料整理の作業をし、資料整理の意義について体得する。デジタル実測、デジタルアーカイブへの基礎的な取り組みも行う。

- ①考古学における資料整理の意義
- ②資料整理作業の流れ
- ③遺物の水洗
- ④遺物の注記
- ⑤遺物台帳の作成
- ⑥遺物の計測
- ⑦遺物の接合作業
- ⑧遺物観察法
- ⑨遺物の実測1
- ⑩遺物の実測2
- ⑪遺物の実測3
- ⑫拓本作業
- ⑬報告書編集
- ⑭報告書の読み方
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

考古学の室内整理作業について理解し、資料の扱い方などについて基礎的な作業が出来る

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

レポート (30%) 実習で実測した遺物について調べ、それをレポートにまとめる。
作業手順の理解 (40%)
実測成果品 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

細部については講義ごとに指示する。

【参考文献】

文化庁文化財部記念物課『発掘調査の手引き』2010

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外においても、考古学関係の図書を読み、実測を行っている資料についての知識を獲得し、それをレポートとしてまとめること。また、資料観察や実測方法の練習を行うこと。

【必要な時間】

個々で必要な時間は異なるが、資料観察が適切にでき、実測で示せるようになるまで自身で習得することが必要。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

考古学実習を履修していることが望ましい。

※履修していない場合は、考古学資料について興味をもち、考古学に関連する授業を履修していること。

水洗などの作業もあるので、汚れてもいい服装で出席すること

科目名	社会学概論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

本講義では人間の社会と生活のあり方の基本を社会学の主要な領域に即して明らかにします。その際、「社会の基礎」である家族、地域社会、教育、「社会の構造」を形づくる階級・階層、ジェンダー、エスニシティ、「社会の変動」をもたらす高齢化、情報化、国際化についてとりあげます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントのスライドを使用して講義をします。授業内で講義内容に関わるアンケートやクイズなども取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回、授業の感想・意見・質問などをリアクションペーパーに記入してもらいます。
- ・感想・意見および質問と回答は次回の授業内でフィードバックします。
- ・提出されたレポートは授業内で全体の講評を行うとともに、代表的なレポート例を紹介しします。

■授業計画

- ①「社会の基礎」：家族の社会的機能（1）—家族の歴史
- ②「社会の基礎」：家族の社会的機能（2）—家族の現状と課題
- ③「社会の基礎」：地域社会の社会的意義（1）—地域社会の原型
- ④「社会の基礎」：地域社会の社会的意義（2）—地域政策の展開と地域社会の変貌
- ⑤「社会の基礎」：社会における教育の役割（1）—教育制度の変遷と教育の特質
- ⑥「社会の基礎」：社会における教育の役割（2）—学歴社会の形成と展開
- ⑦「社会の構造」：階級・階層の形成と展開（1）—現実と概念
- ⑧「社会の構造」：階級・階層の形成と展開（2）—階級・階層的な不平等の再生産
- ⑨「社会の構造」：ジェンダーとセクシャリティ（1）—概念と歴史
- ⑩「社会の構造」：ジェンダーとセクシャリティ（2）—教育におけるジェンダーの形成と再生産
- ⑪「社会の構造」：エスニシティと人種・民族（1）—概念と歴史
- ⑫「社会の構造」：エスニシティと人種・民族（2）—アイヌの民族的復権と課題
- ⑬「社会の変動」：超高齢社会の課題
- ⑭「社会の変動」：情報化社会の光と影
- ⑮「社会の変動」：グローバリゼーション（国際化）の未来

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

家族、地域社会や教育は人々の生活とどのように関係するか、階級、ジェンダー、エスニシティは社会をどのように構造化するのか、また近年の高齢化、情報化、国際化は社会にどのような影響をもたらすのかなどについて理解ができることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

最終レポート、小レポートと授業参加態度により評価します。評価の配分は、最終レポート60%、小レポート20%、授業参加態度20%とします。なお、最終レポートは出席回数が3分の2以上であることを提出条件とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使いません。講義のレジュメをmanabaを通じて配布します。

【参考文献】

長谷川公一他『新版 社会学』有斐閣、2019年
 筒井淳也・前田泰樹『社会学入門』有斐閣、2017年
 小内透『戦後日本の地域社会変動と地域社会類型』東信堂、1996年
 平沢和司『格差の社会学入門〔第2版〕』北海道大学出版会、2021年
 小内透『教育と不平等の社会学理論』東信堂、2005年
 小内透『再生産論を読む』東信堂、1995年
 笹谷春美・小内透・吉崎祥司編著『階級・ジェンダー・エスニシティ』中央法規出版、2001年
 小内透編著『講座 トランスナショナルな移動と定住』（全3巻）、御茶の水書房、2010年
 小内透編著『講座 先住民族の社会学』（全2巻）、東信堂、2018年

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

授業時の最後に次週の学習について予告するので、配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。

【必要な時間】

事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	社会言語学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	宇留野 健太

■講義の目的および概要

社会言語学は、普段の社会生活の中で、どのように言語が使用されているのかを研究する学問である。本講義は、コミュニケーションツールとしての言語の役割を深く理解し、社会と言語との関係について考えることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で行うが、受講人数によりグループワークなどを実施することもある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については次の授業時に説明し、必要に応じて補助資料を配布する。

■授業計画

日本語教師課程の「世界と日本の日本語教育事情、社会言語学、言語政策とことば、コミュニケーションストラテジー、待遇・敬意表現、言語・非言語行動、異文化間教育、異文化コミュニケーション、コミュニケーション教育」に対応した内容である。

- ①ガイダンス/言語とは
- ②社会言語学とは (1)
- ③社会言語学とは (2)
- ④地域方言・社会方言・その他の方言 (1)
- ⑤地域方言・社会方言・その他の方言 (2)
- ⑥地域方言・社会方言・その他の方言 (3)
- ⑦待遇・敬意表現/ポライトネス (1)
- ⑧待遇・敬意表現/ポライトネス (2)
- ⑨やさしい日本語 (1)
- ⑩やさしい日本語 (2)
- ⑪日本語の人称表現
- ⑫言語の選択
- ⑬言語と文化
- ⑭異文化コミュニケーションと社会
- ⑮期末テスト/まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・社会的・文化的な観点を通して、言語のありかた、社会と言語との関係性について理解し、考えることができる。
- ・社会生活における円滑なコミュニケーションの実現について理解し、考えることができる。
- ・異文化コミュニケーション、コミュニケーションストラテジーについて理解し、考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・ 課題に対する取り組み 20%
- ・ 授業内に行う小テスト 20%
- ・ 課題レポート 30%
- ・ 授業内に行う期末テスト 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。授業内で資料を適宜配布する。

【参考文献】

- 庵功雄 (2016) 『やさしい日本語ー多文化共生社会へ』岩波書店
- 石黒圭 (2013) 『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社
- 加藤重広 (2007) 『学びのエクササイズ ことばの科学』ひつじ書房

■授業外学習

【具体的な内容】

基礎的な知識を理解するために、予習・復習を行うことが求められる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

「社会言語学」は日本語教師課程の選択科目であるが、当課程修了には必要な科目であるので、日本語教師課程修了希望者は必ず履修すること。

科目名	現代思想
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	水野 浩二

■講義の目的および概要

現代社会を倫理思想史の立場から「正義」と「平等」という切り口で考察します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、授業の冒頭で前回の授業の確認を行います。次にその日の授業の概要を話したのち、本題に入ります。本題は講義中心になりますが、適宜学生側に質問をしますので、答えてください。最後に、翌週の内容について簡単に触れますので予習に役立ててください。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニレポートを提出してもらいます。課題はmanabaに入っていますので、そこに回答してください。翌週の授業で解説を行います。

■授業計画

- ①現代社会とはどんな社会ですか
- ②金儲けをすることは悪いことですか
- ③結果と過程のどちらが大事ですか
- ④自分だけ儲ければよいのでしょうか
- ⑤多数決は平等でしょうか
- ⑥環境保護とは何をするのでしょうか
- ⑦現代のわれわれに未来の人に対する責任はあるのでしょうか
- ⑧嘘をつくことは悪いことでしょうか
- ⑨エゴイズムに基づく行為は反道徳的でしょうか
- ⑩他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいのでしょうか
- ⑪平等と効率のどちらを選びますか
- ⑫正義とは何か
- ⑬ロールズの『正義論』を読む
- ⑭ピケティの『21世紀の資本』を読む
- ⑮古代ギリシャの正義論

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

現代思想の基本用語が理解でき、それを現実生活に応用して自分の言葉で説明できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「文化領域における基礎知識の修得」を通して、グローバル化した世界で活躍することを目指す。

(DPI)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

期末レポート（60%）＋ミニレポート（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

manabaのコンテンツに授業の資料が入っていますので、各自で予めプリントアウトしておいてください。

【参考文献】

梅津光弘『ビジネス倫理学』丸善株式会社。加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫。J. ロールズ『正義論』紀伊國屋書店。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業資料及び各自のノートを使って復習をしっかりと行ってください。また、わからない点を書き出し、自分で調べてみましょう。次回の講義資料にもしっかりと目を通しておきましょう。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中に指名されたら、わかる範囲で十分ですので、しっかり答えてください。

科目名	和の精神史
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	橋本 雄

■講義の目的および概要

日本の歴史をふりかえれば、〈和〉と対になるものは、長らく〈漢〉であった。つまり、〈和〉を知るには、〈漢〉についても知らなければならない。ところが、摂関期頃から、これに天竺(インド)の要素が新たに加わってきた。日本では仏教が広く信仰されたため、本朝(日本)・震旦[ツタン](中国)・天竺(インド)という仏教的な三国世界観が共有されていたからである。この天竺に仮託される価値観を、当時しばしば〈梵〉と表現した。〈和漢〉の関係をさまざまな事象からさぐり、〈梵〉がどのような意味をもったのか見据えることで、〈和漢梵〉の三つ巴の具体相が明らかになる。これにより、「和の精神史」に迫ってゆきたい。なお、授業で扱う時代や内容は、講師の専門とする中世日本史分野が中心となる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に、配布資料あるいはテキスト=教科書(拙著『中華幻想』)に沿って簡単な講義(レクチュア)を行なう。その合間合間にディスカッションをはさんでいく。人数が少なければ、フリーセッションのような時間を多く取りたい。

また、国立博物館研究員の実務経験を活かして、さまざまな文化財や芸能などをとりあげるべく、動画や画像資料を活用する予定である。なお、授業の中では、Responを使って簡単なクイズに答えて貰うことがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題提示時に、併せて指示します。おおむね、レポート等提出物に対する講評の送付あるいは掲出となる予定です。

■授業計画

- ① 〈和〉の定義をめぐって——トンカツやアンパンは和食か洋食か
- ② 〈漢〉の流入と普及と——中国趣味のNewWave
- ③ 足利義満の「日本国王」冊封
- ④ 室町時代の唐物数寄——足利将軍家を中心に
- ⑤ 〈漢〉になろうとした将軍、足利義持
- ⑥ 渡唐天神説話の誕生と流行
- ⑦ かわいそうな象——”生きた唐物”の象徴性
- ⑧ 室町殿の〈皇帝の絵画〉
- ⑨ 東山殿の文化生活と同朋衆
- ⑩ 中間考査；小総括
- ⑪ 雪舟から〈和漢の構図〉を考え直す
- ⑫ 「和漢の境をまぎらかす」再考(1) 珠光「心の一紙」から
- ⑬ 「和漢の境をまぎらかす」再考(2) 雪舟・王維・〈和漢梵〉
- ⑭ 〈和漢〉の構図をどう乗り越えるか
- ⑮ 期末試験；解説+総括

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

〈和〉という概念は簡単に民族主義と結びつき、しばしば自文化中心主義を誘発してしまう。だが、絶対不変で確固たる〈和〉など存在しない。だが、それにも拘らず、〈漢〉を変形させてしまう〈和〉の価値観があったように見えることも事実である。果たしてそれがどこまで真実か、検証して自分で判断できるようになることを目指す。

受講生の皆さんには、周囲にマウントをとりたがる〈和〉や〈漢〉などの志向性をしっかり認知し、それに振り回されないだけの開かれた世界像を築いてほしい。要するに、この授業では、その必要性・重要性を認識することを目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

平常点(ミニツペーパー・授業内課題等) 30%
 中間考査 30%
 最終考査 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特になし。

【参考文献】

- ・河添房江『唐物の文化史』（岩波新書、2014年）
- ・河添房江・皆川雅樹編『「唐物」とは何か：舶載品をめぐる文化形成と交流』（勉誠出版、2022年）
- ・島尾 新『「和漢のさかいをまぎらかす」』（淡交新書、2013年）
- ・橋本 雄『中華幻想：唐物と外交の室町時代史』（勉誠出版、2011年）※絶版につき古書で購入できたらしてください。
- ・村井章介『東アジアのなかの日本文化』（北海道大学出版会、2021年）
- ・村井康彦『武家文化と同朋衆：生活文化史論』（ちくま学芸文庫、2020年）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・一度、高校の日本史教科書でよいので、前近代日本の文化史の箇所を熟読しておいてください。
- ・配布資料の事前学習を必ず行なってください（要点をまとめる；辞書を引く；など）。
- ・事後には授業外課題（レポート等）に必ず取り組んでください。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。
- じっくり時間をかけて課題等に向き合ってください。

■その他

科目名	博物館経営論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	坂梨 夏代

■講義の目的および概要

博物館の今日的課題、使命、社会的役割について考察し、なぜ博物館に経営が必要であるのかを理解する。博物館の管理・運営に関わる経営基礎および経営手法、利用者とのかかわり、地域社会との連携、博物館ネットワークについて取り上げ、博物館の将来像について考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

博物館経営に関わる基礎知識について、板書・パワーポイント・ビデオ等の映像を活用して講義する。講義内容をもとに、学生による意見交換や発表をおこなう時間を確保する。また、実際の博物館見学を行い経営の在り方について学ぶ。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業開始時に確認ミニテストを実施する。
また博物館見学をするにあたって事前事後学習を実施することで、見学博物館において自己課題を抽出させ、それに基づいて見学し、事後レポートとして提出する。

■授業計画

- ①オリエンテーション：本授業のねらい・概要
- ②博物館の今日的課題
- ③ミュージアムマネジメント
- ④博物館の行財政制度・財務
- ⑤博物館の施設・設備
- ⑥博物館の組織と職員
- ⑦博物館の使命・計画・評価
- ⑧博物館の行動規範
- ⑨博物館の危機管理
- ⑩博物館の広報・マーケティング
- ⑪博物館の市民参画・地域社会と博物館
- ⑫博物館ネットワーク・博物館と他機関との連携
- ⑬⑭⑮ 市内博物館見学

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解する。博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する知識と方法を習得し、学芸員としての基礎的能力を身につけることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①提出物 20%
 - ②小レポート 20%
 - ③定期試験レポート 60%
- により評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし
適宜プリントを配布する。

【参考文献】

授業内で適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業内容をきちんと整理し、まとめておくこと。
多くの博物館を見学すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

博物館学芸員資格必修科目

※講義期間内に、博物館施設を見学する機会を設け、講義と振り替える（札幌市内・近郊、現地集合・現地解散）。詳しくはオリエンテーションのときに説明する。

※コロナの状況により授業内容に変更あり。

科目名	博物館資料保存論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	志賀 健司

■講義の目的および概要

博物館は、実物資料を取り扱う現場です。机上の理論だけではなく、“実物”に対する物理・化学的な視点や、経験が極めて重要になります。講義では、担当者の博物館学芸員としての実務経験に基づき、多数の実例を紹介し、可能な限り実物資料・標本も使用します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室内で、スライド（パワーポイント）を使い、必要に応じて配布資料を用いて講義します。回によっては、実物資料・標本等を用いた解説等も行います。毎回の最後には、講義内容に関する簡易なレポートを作成・提出していただきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

次の回に、前回レポートに対する解説や補足、質問への回答をします。

■授業計画

- ① ガイダンス／博物館資料の意義と保存の重要性
- ② 博物館資料の種類
- ③ 博物館資料と自然科学 1
- ④ 博物館資料と自然科学 2
- ⑤ 採集物が標本になるまで 1
- ⑥ 採集物が標本になるまで 2
- ⑦ 資料の保存と環境 1：温度
- ⑧ 資料の保存と環境 2：湿度・空気
- ⑨ 資料の保存と環境 3：光
- ⑩ 資料の保存と環境 4：生物
- ⑪ 資料の保存と環境 5：災害
- ⑫ 博物館の収蔵庫
- ⑬ 資料の研究と破壊
- ⑭ 資料の展示と劣化
- ⑮ まとめ／博物館資料を未来に残すために

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・博物館における資料・標本の保存の原則を理解する。
- ・博物館資料に限らず、モノを取り扱う際に必要な、物理・化学的視点を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

レポート（冬休み・期末の2回）：55%

毎回の簡易レポート：45%

単位の認定には、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要です。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは設定しませんが、必要に応じてプリント等を配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・毎回授業で講義内容に関する簡易なレポートを作成してもらいますので、日頃から予習・復習を心がけてください。
- ・資料保存という視点を持ち、近隣の複数の博物館等を見学してください。

【必要な時間】

1回の講義につき、予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

「博物館概論」および「博物館資料論」を履修していることを前提とします。事情により履修できていない場合は、それらに関連した図書等で十分に自主学習をしていること。

科目名	博物館展示論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	坂梨 夏代

■講義の目的および概要

本講義では、展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養うことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式である。博物館展示の意義を歴史的観点から整理し、コミュニケーションの媒体として、展示が持つ様々なメッセージをどのように展示してきたかを明らかにし、また実際の展示の諸形態を、展示解説や展示制作等の事例やグループ活動をおこないながら実践的に展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

展示作業などのグループ活動において、グループ同士の評価を実施する(他評価)

■授業計画

- ①博物館とは(博物館法、博物館の役割の再確認)
- ②展示とは(展示とは何か、展示の歴史)
- ③展示の持つメッセージ(展示の政治性と社会性)
- ④展示の諸形態
- ⑤展示の製作(企画～施行まで)
- ⑥展示の管理(関係者との協力)
- ⑦展示の評価
- ⑧展示のデザイン
- ⑨展示のストーリーライン
- ⑩展示計画と展示方法
- ⑪展示の解説活動とは
- ⑫解説文・解説パネルについて
- ⑬解説の方法
- ⑭その他の展示解説方法
- ⑮まとめ(これからの展示とは)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

博物館における展示の基礎知識と応用力を身につけることができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

提出物 40%

定期試験レポート 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。適宜資料を配布する。

【参考文献】

『博物館展示論』2016 稲村哲也 放送大学教育振興会

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業内容をきちんと整理し、まとめておくこと。
多くの博物館を見学すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

博物館見学を積極的に行い、展示方法について学ぶことが望ましい。

科目名	博物館教育論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	水崎 禎

■講義の目的および概要

博物館が担う役目の一つとして「教育」があります。教育機関としての博物館の在り方を理解するにあたり、教育方法の歴史について言及いたします。フォーマル・エデュケーションの場である学校に対し、インフォーマル・ラーニングの場である博物館が教育機関としての使命を遂行するために必要な考え方を学びます。そのためには、インフォーマル・ラーニングに効果的な理論を理解し、五感で体感する「学び」と、その効果を知ることが必要です。上記の事項を認識したうえで、展示空間、および教育プログラムを創作する際の効果的手法の実践へとつなげるため、教育機関としての学芸員の心得を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式での授業が基本ですが、課題の発表を予定しております。また、授業では適宜学生を指名して意見や考えを答えてもらいます。尚、COVID-19への対応、留学生の入国状況などにより、授業内容の変更、それに伴う評価方法の変更が生じる可能性もあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス：授業に関する留意事項
博物館教育論を学ぶにあたっての、博物館学の基本事項の確認
- ②教育機関としての博物館、博物館教育とは？
- ③博物館教育の歴史：博物館における教育活動の変遷
- ④博物館教育のメソッド（1）：視聴覚教育
- ⑤博物館教育のメソッド（2）：インフォーマル・ラーニング
3つのコンテキスト〔1〕：個人的コンテキスト
- ⑥3つのコンテキスト〔2〕：社会的コンテキスト
- ⑦3つのコンテキスト〔3〕：物理的コンテキスト
- ⑧文字と文章による表現
- ⑨デザイン発表
- ⑩博物館教育を実践するための効果的展示空間デザインと調査
- ⑪博学連携
- ⑫博物館活動事例（1）：講演会、ワークショップ、体験学習、etc.
- ⑬博物館活動事例（2）：SWOTと既存する強みの活用、歴史空間再現、etc.
- ⑭博物館教育における学芸員の役割と、博物館教育で求められる能力
「博物館教育」についての課題とまとめ
- ⑮試験と総括

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

教育機関である博物館に於いての教育形態を理解したうえで、博物館としての教育活動の在り方について指摘し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

試験：75%
課題：10%
毎回の設問シート：15%
※提出課題の遅延は減点の対象となります。
※受講態度に著しい問題があった場合は、成績を不合格とする可能性もあります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜印刷物を配布します。

【参考文献】

参考文献等に関しては、必要に応じて授業でその都度紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

各回の授業内容が以降の授業にかかわってきます。また、この科目は他の学芸員課程の科目と関連しております。よって、授業で学んだことはしっかりと復習し、他の回の授業、および他の学芸員課程の科目でも応用して反映できるよう心がけて下さい。疑問点がある場合は授業で講師に確認して下さい。
予習としては、シラバスに示された次回の講義タイトルに関連した出来事を意識し、自分なりの考えをもって、次回の授業に臨んで下さい。
復習は、授業で学んだことや自身でメモしたことを忘れる前に、今後へ活かせるようにまとめる等して下さい。
日頃から、博物館における教育（インフォーマル・ラーニング）に関するニュースがないか、授業で学んだ事柄と関連する出来事がないかを意識し、自分なりの思考を巡らせて下さい。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

学芸員資格取得の必修科目です。

科目名	経済学概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	金盛 直茂

■講義の目的および概要

経済学は初めての方が多くと思います。経済学は、今を生きるために必要な道具です。決して学者や官僚の方々だけが知っていれば良いものではありません。この企業に入社すべきなのか？この人と結婚すべきなのか？いま、家は建てるべきなのか？人生の重大な選択の際、経済学はあなたに示唆を与えてくれます。

本授業で経済学を学ぶことによって、現実の様々な問題（身近な日常の問題から世界の問題まで）を、経済学的思考で、考えることができるようになるでしょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

最初の1/3は、経済の仕組みについて授業を行い、経済学の基礎を身につけます。真ん中の1/3は、経済学の知識をもとに、日本の財政、労働、社会保障、金融についてみていきましょう。最後の1/3は、グローバル経済について考えます。教科書は特に利用しません。プリント資料を配布します。毎回、授業の中で問題演習を行います。また、授業の最後に、小テストを行い、授業時間以外では、課題を提示するのでそれを行ってください。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テスト・課題については、次回の授業中に解説を行う。

■授業計画

受講者の理解度に応じて調整は行いが、以下の15回を予定している。

1. ガイダンス：経済学とはどのような学問かを理解する。
2. 経済学の考え方① トレードオフと費用
3. 経済学の考え方② 経済循環図
4. 経済学の考え方③ 需要と供給から市場を理解
5. 経済学の考え方④ 需要と供給を使って、様々な市場に応用
6. 経済学の考え方⑤ 市場の失敗と政府の役割を理解する。
7. 日本経済の仕組み① GDP
8. 日本経済の仕組み② 日本の財政・金融政策
9. 日本経済の仕組み③ 労働力減少と社会保障
10. 日本経済の仕組み④ 公的年金制度・医療保険制度
11. 日本経済の仕組み⑤ 生活保護制度
12. 世界経済の仕組み① グローバル化の功罪
13. 世界経済の仕組み② 国際金融
14. 世界経済の仕組み③ TPP, FTA
15. まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

本授業の目標は、次の3つです。1つは、経済学（主に、ミクロ経済学とマクロ経済学）の基礎を学び、ニュースや新聞の記事を経済的視点で考えることができることです。2つ目は、日本のさまざまな制度や、その問題点を経済学の視点で考えることができるようになることです。3つ目は、国際経済学の基本を学び、世界経済の仕組みを理解することです。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

小テスト40%、
定期試験60%で評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は特に指定しません。プリントを配布します。

【参考書】

- ① 『マンキュー入門経済学 第3版』マンキュー 東洋経済新報社
- ② 『1からの経済学』 中谷 武, 中村 保 碩学舎

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回課題を提示しますので、それについて考えてください。また、授業内容の発表の機会を設けます。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

高校で学んだ政治経済の知識はなくても構いません。しかし、経済学を学びたいという強い意欲は、必ず持って授業を受けてください。よって、当たり前ですが、授業中の私語は厳禁です。

科目名	文化財の保護と活用
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	坂梨 夏代

■講義の目的および概要

本講義の目的は、人間活動の成果としての文化財および文化遺産の基本を理解し、その保存や活用を考えていくことである。その上で、地域における新たな価値を創造していくことである。

それには、文化財保護法に規定される文化財の種類を基軸に、主に北海道に所在する文化遺産を概観する。そして、背景にある史実を捉えながら、「特色」「保存」「活用」をキーワードに、評価の仕組みや文化遺産が担う社会的な役割についても考えていく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で実施する。

また、フィールドワークとして、文化財見学をしてもらう。休日等を利用し、個人的・自主的に近隣の文化遺産・文化財や関連施設を一回訪れてもらい、直接的な実感と共に学習を進めていく。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題やミニテストについては、その解説を授業の中で行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②文化財、文化遺産、文化資源について
- ③有形文化財、無形文化財、民俗文化財
- ④記念物、景観地、建造物保存地区
- ⑤埋蔵文化財
- ⑥世界遺産、無形文化遺産
- ⑦日本遺産、北海道遺産
- ⑧北海道について 1 環境
- ⑨北海道について 2 歴史
- ⑩北海道について 3 地域
- ⑪北海道の事例 1
- ⑫北海道の事例 2
- ⑬北海道の事例 3
- ⑭文化資源 地域の事例
- ⑮保存から活用、普及啓発活動

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道と各地域性ある文化遺産の特性と背景について説明できること。
さまざまな文化財の種類や基本概念を捉え、地域の新たな価値を見いだせること。
さらに、保存と活用を踏まえ、現在の地域資源の掘り起こしに応用させながら、社会的な役割について考えられること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

確認ミニテスト 10%
レポート 30%
定期試験 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

垣内恵美子他『文化財の価値を評価する』2011 水曜社
その他講義の中で、適宜指示する。その他講義の中で、適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

確認ミニテストを実施するので普段からノートをきちんと取り、まとめておくこと。
またニュース・新聞などから文化財の情報を入手し、常に関心を持つよう心掛けてほしい。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業内で各自市内文化財見学を行いレポート作成を行ってもらおう。
コロナなどの感染状況によって授業内容の変更もある。

科目名	現代民俗学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	林 美枝子

■講義の目的および概要

民俗学とは私たちの日常における生活文化を、民間伝承を資料として探る試みです。人生儀礼や死生観、衣食住や振る舞い方など、毎回の授業で扱う分野は多岐にわたりますが、すべて日本に置ける民俗の解説となります。民俗学は、常に経世(世を治めているもの)の学として唯一の現代科学ですが、その学問的な独自性を理解することはなかなか困難です。授業では具体的な事例を数多く提示することで、この学問の面白さや奥深さを突き詰めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

主に講義形式です。毎回出欠シートに感想や質問の記入を求めます。また授業内容から課題を選択し、身近な地域社会における民俗についての具体的な事例を、年末年始の期間に、親族や地域のお年寄りに、聞き取りをしてもらいます。Manabaでの提出となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

昨年までの先輩たちの調査結果や、今年の皆さんの調査結果を、授業の内容に反映させていただきます。出欠シートの質問には、次の授業時間に回答を試みます。

■授業計画

- ①民俗学の歴史と課題
- ②民俗学者たち 宮崎県椎葉村の調査から
- ③死の民俗1 他界観 死後婚の話 青森県つがる市の調査から
- ④死の民俗2 黒不浄 遺体の処理の仕方、葬送儀礼 札幌市の墓地の調査から
- ⑤生の民俗、白不浄について、親子なり、生育儀礼 現代の親子なりとは
- ⑥性別の民俗1 赤不浄について、成女式、成年式
- ⑦性別の民俗2 性的な関係性の成立、婚姻儀礼 群馬県六合村の調査から
- ⑧霊性について 「妹の力」と巫 沖縄粟国村の調査から
- ⑨カミと人との関係について1 依り代と依りまし
- ⑩カミと人との関係について2 神祀りについて 椎葉村の神楽宿の調査から
- ⑪カミと人との関係について3 神祀りについて ヤガンウユミーの調査から
- ⑫イエとムラ 人が集う民俗
- ⑬北海道の民俗1『北海道民俗地図』と母村研究について
- ⑭北海道の民俗2 にしん場における擬制的男女関係の民俗について
- ⑮北海道の民俗3 「姉の力」考 まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

単に日本の民俗文化の事例を学習するのではなく、より広い視野で日本人とはどのような民族なのかを説明できるようになる。また伝統的な民俗が、現代文化の中でどのように変容しつつあるのかの理解を深めること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

出欠・自学自習シートへの書き込み 20%
調査報告 20%
定期試験 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし 資料を毎回配布する

【参考文献】

授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の民俗事例を自らの地域社会に照らして、同様の地元での事例を調べ、考察する。あるいは祖父母や地域の身近なお年寄りへの聞き取り調査を個別で行ってみる。配布物を整理し、必要な情報に当たる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

留学生にとっては一種の日本を深く学ぶ授業となりますが、同様の事項が自民族の出身地域ではどのような民俗として生きられているのかを、常に考察しながら授業を受けてください。

科目名	マンガ学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	かじ さやか

■講義の目的および概要

日本で独自の発達を遂げた「マンガ」。このマンガを通じて「日本人の認識方法の特徴」ひいては「日本文化の特徴」を理解できるよう講義を行ないます。具体的には、マンガ独特の表現の解説を中心に、現代のマンガを取り巻く状況、マンガ発達の歴史、他のメディア（アニメーション、映画、フィギュア・プラモデルなど）との相互作用、海外での日本のマンガの評価の検証など行ないます。マンガという小さな窓から日本文化を捉え直し理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行います。毎回課題を出しますのでmanabaを通じ提出してもらいます。この課題により講義内容の振り返りを促します。本講義は現役の漫画家による実績と知識を生かして「日本文化とは何か」「日本人とはどのようなものなのか」を学べるよう構成されたものです。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説するとともに、manabaを通じて資料の配布と課題の受付をします。提出された課題には必ず返信の予定です。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②日本人とマンガ-1「線vs塊 線で物事を捉える文化」
- ③マンガの解剖-A マンガの構成要素とその特徴
- ④マンガの解剖-B 荒唐無稽とリアリティ
- ⑤憧れの巨大ロボット今昔
- ⑥日本人の怪獣観?西洋との比較
- ⑦手塚治虫とブラックジャック
- ⑧手塚以降の漫画事情（あずまきよひこ と 士郎正宗）
- ⑨萌えとは何だったのか
- ⑩表現を規制するということ
- ⑪著作権とは何か
- ⑫日本文化のロボット観?西洋との比較
- ⑬マンガというビジネスの仕組み
- ⑭マンガを創るということ（発想から制作まで）
- ⑮日本人とマンガ-2「日本人の物事の捉え方とマンガ」

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

現代のマンガは日本人の伝統的なモノの見方、捉え方によって形作られている事を理解し、またマンガを産み出した日本の文化の特徴を掴むこと。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識、技能を活用する力

■成績評価基準と方法

講義毎に課題を出します。
1~14回の課題の合計90%
15回授業期間内試験10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回manabaを通じ講義資料を配布します。

【参考文献】

講義内で適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習については毎回、次回の講義の予習プリントを配布します。そこに予習課題を載せます。
事後学習については毎回配布する講義概要をもとに振り返って下さい。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	メディア文化論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	小新井 涼

■講義の目的および概要

本講義の目的は、特定のメディアコンテンツの分析を通じて、近年生じた主要メディアの移行やそれに伴う社会の変容（つまり近現代のメディア文化史の概観）を、包括的に理解していくことである。

具体的には以下の通り、

- ①特定のメディアコンテンツとして〈アニメ〉に焦点を当て
- ②作品の鑑賞を交えながら、それらの文化的な位置づけの解説を通じて
- ③この15年ほどで生じた、テレビからインターネットへの主要メディアの移行と、それに伴い、作品を取り巻く社会や我々に生じている様々な変容を読み解き、理解する力を身につけることとする。

また、授業での発見や理解を自分の言葉で他者に伝えるために、課題レポートによるアウトプットを定期的に行う。そしてそこでの実践的な作業を通じて、論文執筆に向けた文章表現力も身につける。

以上を、現在も様々なメディアにおいてアニメコラムニストとして活動する授業担当者の実務経験も活かしながら展開していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- 基本的に対面授業とする。状況に応じてZoomによるリモート授業やハイブリッド授業に適宜切り替える。
- パワーポイントを用いて各回の講義内容の詳細やポイントを掲示しつつ、口頭説明にて講義を進める。適宜PDF形式のレジュメをmanabaにて配布する。
- 各回に関連する映像作品を部分的に上映する。補足的に映像ソフトも用いるが、基本的にはタイムロス削減のため正規配信の映像を用いる。
- 講師からの一方的な授業となることを避けるため、受講生からの質問や意見は随時受け付ける。また講師からも意見の募集や質問を投げかける形で適宜ディスカッションを展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

- 受講生は毎時間、manabaにて講義内容へのコメントや質問、疑問点などを簡潔にまとめ、リアクションシートとして講義終了後一定期間内に提出する。
- 上記に対し、講師は次回講義内で疑問点への返答、解説を行う。

■授業計画

- ①ガイダンス：本講義の概要と講義の進め方
- ②〈メディア〉と〈コンテンツ〉の違い：アニメが関わるメディアの多様化
- ③アニメ受容の変化①：SNSの定着と放送との親和性
- ④アニメ受容の変化②：VODの台頭と世界での消費
- ⑤アニメ受容の変化③：シネコンの定着と体験型の映画鑑賞
- ⑥ネット時代のファンの実践①：プロシューマーの誕生
- ⑦ネット時代のファンの実践②：ファン文化のトランスナショナルな伝播
- ⑧ネット時代のファンの実践③：〈聖地巡礼〉の誕生背景
- ⑨北海道へのツーリズムを誘引するコンテンツ
- ⑩ネット時代のファンの実践④：ガイドラインやキャンセルカルチャー
- ⑪アニメを取り巻く社会①：メディアミックスとアダプテーション、異業種との関わり
- ⑫アニメを取り巻く社会②：世界の〈アニメーション〉と日本の〈アニメ〉
- ⑬アニメを取り巻く社会③：国際的な消費への期待と異なる文化的背景によるコンフリクト
- ⑭〈効果的な〉インプットと〈伝わる〉アウトプット①：文章の組み立て方
- ⑮〈効果的な〉インプットと〈伝わる〉アウトプット②：文章執筆時のルール

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① (知識・理解) アニメの文化史を通じて、近年のメディア史における主要メディアの移行やそれに伴う社会的な変容を理解する。
- ② (思考・判断) ただ講義を聴くだけでなく、最新の主要メディアへ日常的に触れている当事者として、授業内で取り上げられた問題や課題について自らも能動的に思考することができる。
- ③ (関心・意欲) 日常生活において馴染み深いメディアコンテンツを入りに、それらを取り巻く社会情勢やテクノロジー、地域創生、国際交流といった他分野への領域横断的な関心を持ち、知識を深めていくことができる。
- ④ (技能・表現) 自身の考えを他者に伝えるための文章表現ができる。また、そのために必要な最低限のメディアリテラシーを持ち、デジタルデバイスの操作が行える。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

【成績評価基準】

全3回の課題レポート (80%) + 各回のリアクションシートによる授業点 (20%) = 100%

【評価方法】

定期試験は行わない。講義の第5回、10回、14回目に、理解度の確認を兼ねた課題レポートの出題を行う。そのレポート全3回の平均点 (80%) に、各回の授業点 (20%) を加えた100%を満点とし、総合評価を行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。
 必要に応じて、適宜参考資料や各講義のレジュメをPDF形式で配布する。

【参考文献】

- Convergence Culture: Where Old and New Media Collide、Jenkins, Henry、NYU Press
- 『映画館と観客の文化史』、加藤幹郎、中央公論新社
- 『鬼滅フィーバーはなぜ起こったか？ データで読み解くヒットの理由』、小新井涼、インプレス
- Theme Park Fandom: Spatial Transmedia, Materiality and Participatory Cultures、Williams, Rebecca、Amsterdam Univ Press
- 『コンテンツツーリズム メディアを横断するコンテンツと越境するファンダム』、山村高淑・フィリップ・シートン (編著翻訳)、北海道大学出版会
- 『Contents Tourism in Sapporo Vol.1 (日本語版)』、山村高淑・小新井涼 (編)、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院2021年度後期開講科目 『コンテンツツーリズム論演習』

■授業外学習

【具体的な内容】

【事前】事前配布資料がある場合、内容を確認し、難解な用語は予め調べ、授業内で聞きたいこと、疑問点などをメモしておく。また、前回授業で予告した視聴予定作品について、概要や関連情報を事前にある程度調べておく。

【事後】講義中のメモを見返し、気になった項目や追加情報を得たいと思った事柄を自身でも一度調べてみる癖をつける。その上で、理解しきれなかった項目や、次回講義で質問したいことをメモに残しておく。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

注意事項として、本講義はアニメの内容 (物語、世界観、キャラクター等) に焦点をあてた〈作品解説〉や〈作品分析〉を行うものではない。
 あくまでアニメを起点に、作品を取り巻く状況 (メディア文化、技術的發展、ファン文化、社会的背景や時代背景等) の変化を多角的に把握し、各分野の相補的な関係性や相互作用を読み解き、理解していくものである。

科目名	宗教学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	鈴木 廣隆

■講義の目的および概要

宗教は人間を幸せに導こうとする。しかしその宗教が争いを生み、不幸をもたらすこともある。それはなぜか。
この講義は古代インドに始まった仏教が世界に広がって行く過程に着目し、人々は宗教によってどう変わるのか、また宗教は人々によってどう変容するのかを考察しながら、現代を生きる我々と宗教の関係を解明するために行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

仏教が人々にどう受け入れられ、どのように変容したのかを文献学的研究、考古学的研究にもとづいて考察する。

具体的には資料プリント、ビデオ、スライドなどを使って講義を進めるが、寺院住職としての実務経験に基づいて宗教的な現象を解説し、小レポートやアンケートによって学生一人一人の宗教的な問題を共有しながら講義を進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義中に小レポートやアンケートを提出させて、それにコメントする形で質疑応答の場を設ける。

■授業計画

- ① 仏教の源流：古代インドの宗教世界 —大いなる異文化—
- ② ブッダの生涯（1）：若き日 —誕生の地ルンビニー—
- ③ ブッダの生涯（2）：出家 —なぜ家や家族を捨てたか—
- ④ ブッダの生涯（3）：苦行 —なぜ苦行したのか—
- ⑤ ブッダの生涯（4）：ブッダとなる —「悟り」とは—
- ⑥ 仏教の始まり：ブッダの教え —原始仏教経典に触れる—
- ⑦ 仏教の展開：ブッダ亡き後の弟子たち —悟りを求めて—
- ⑧ 仏教の大衆化：大乘仏教の成立 —救済を求めて—
- ⑨ 大乘仏教（1）：ブッダと菩薩 —新たな信仰対象—
- ⑩ 大乘仏教（2）：ガンダーラ —仏教飛翔の地—
- ⑪ 大乘仏教（3）：空と浄土 —大乘仏教の思想—
- ⑫ 仏教の伝播（1）：インドから中国へ —訳経僧の活躍—
- ⑬ 仏教の伝播（2）：ネパール仏教 —異教との共存—
- ⑭ 仏教の伝播（3）：日本の仏教 —ありのまま—
- ⑮ 現代日本の宗教：「宗教なんかこわくない」

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人間にとって宗教とは何なのかを考えることによって、自分と世界との関わりをしっかりと考察すること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

講義中に毎回アンケートを提出してもらい、全講義終了後には最終レポートを提出してもらい、評価の配分は最終レポートが6割、アンケート提出を含めた受講態度が4割である

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、その都度プリントを配付する

【参考文献】

前田専学『ブッダを語る』（NHK出版）、藤田宏達『ジャータカ全集Ⅰ』（春秋社）、田中公明・吉崎一美『ネパール仏教』（春秋社）、内規理『ガンダーラ彫刻と仏教』（京都大学学術出版会）、立川武蔵編『講座仏教の受容と変容3 チベット・ネパール編』（佼成出版社）、立川武蔵『日本仏教の思想』（講談社現代新書）、橋本治『宗教なんか怖くない』（ちくま文庫）、森岡正博『宗教なき時代を生きるために』（法蔵館）など

■授業外学習

【具体的な内容】

ブツダの伝記を事前に調べておくことが望ましい。参考文献の『ブツダを語る』以外にも、映画『リトルブツダ』（DVD）、手塚治虫『ブツダ』などは親しみやすい。また、講義全体のまとめには橋本治『宗教なんかこわくない』（ちくま文庫）、森岡正博『宗教なき時代を生きるために』（法蔵館）が役に立つ。仏教用語については中村元『広説仏教語大辞典』（東京書籍）にあたるとよい。

【必要な時間】

予習・復習として、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

講義中のアンケートを提出しない場合、きちんと講義を受けたとは見なし難いので、必ず回答すること。わからない場合は「わからない」と回答すること。

科目名	人文学概論
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	塚本 智宏、小内 透、榎本 光邦

■講義の目的および概要

人文学の学問的構成および人文学部の学修内容を解説する。また、心理学、社会学、教育学を専門とする3名の教員が、それぞれの立場から、人文学とは何か、学問とは何かを語り、さらには人文学部では何が学べるか、どのように学んだらよいのかを考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

3名の教員が5回ずつ担当し、講義＋ディスカッションにより展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については3名の教員がそれぞれ授業内で解説するとともに、manaba上で資料を公開する。

■授業計画

I 心理学入門（榎本）

- ①心理学とは
- ②血液型の性格の関係
- ③「やる気」を考える
- ④対人関係と集団
- ⑤大学生の発達課題

II—学歴社会の構造（小内）

- ⑥学歴社会とは何か
- ⑦学歴社会の実像
- ⑧学歴形成における属性の制約
- ⑨学歴格差の要因をめぐる議論
- ⑩学歴社会の克服の道

III—19～20世紀転換期のJ. コルチャックの人権思想（塚本）

- ⑪思想をつくる Dr. Korczakの子ども＝すでに人間という思想の形成
- ⑫思想を鍛える 子どもの権利・人権思想としての成熟
- ⑬思想を生む時代 世紀転換と子どもの権利思想
- ⑭思想と実践 孤児院と「最後の行進」を通じての思想の実践
- ⑮思想とその影響 子どもの権利条約・権利条例・まちづくり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人文学および人文学部の歴史と概要を知り、学ぶことの楽しさと考え方から、学科専門領域の学びに向かうことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する能力】

■成績評価基準と方法

榎本—レポート 30%
 小内—レポート 30%
 塚本—レポート 30%
 感想・意見 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料・課題シートはmanaba上にアップして配付する。

【参考文献】

『コルチャックと「子どもの権利」の源流』子どもの未来社 2019年

■授業外学習

【具体的な内容】

図書館で関連文献を読むなどレポートのための準備（復習）をおこなってください。授業の最後で翌週のテーマに触れるので、インターネットや図書館で関連事項を予習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業の最後に感想記入やディスカッションをします。遠慮なく意見・質問をしまし2023（令和5）年4月1日
。

科目名	日本文学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	大村 勅夫

■講義の目的および概要

本講義では、文学の中でも日本文学の諸作品についての詳解初歩ができるようになることを目指すものである。特に、様々な方法によってどのようにどんなことが表現されているのか、どんな文化が表されているのかなどを考察・検討・議論する講義である。本講義で扱う作品の多くは、小中高教科書等に掲載されたものを中心とし、それらを再読し、読み深めていくことを行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本として、ディスカッション・グループワーク等を用いながら、作品について教師と学生の対話や学生相互の検討を行う。また、実習的要素も活用しながら進めていく予定である。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、毎時出していくが、それについての検討や講評を次時に行いながら進めていく。

■授業計画

- ①ガイダンス (文学作品を読むために)
- ②芥川を再読する (1)
- ③芥川を再読する (2)
- ④芥川を再読する (3)
- ⑤漱石を再読する (1)
- ⑥漱石を再読する (2)
- ⑦漱石を再読する (3)
- ⑧太宰を再読する
- ⑨絵本を再読する
- ⑩古典を再読する (1)
- ⑪古典を再読する (2)
- ⑫古典を再読する (3)
- ⑬韻文を再読する (1)
- ⑭韻文を再読する (2)
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

文学作品の詳細な読みを通して、そこに表された文化的要素を読みとらえる初級の姿勢を手に入れる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

毎回の提出物：80%
まとめレポート：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

小中高時に使用していた国語教科書等

■授業外学習

【具体的な内容】

該当回に扱う作品を前時に示すので、それを精読してくることを事前学習として求める。また、その際に、作品の特徴等について気づいたことを必ず記載してくる。事後学習として、再読を求める。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	政治学概論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

現代の政治を考える場合に必要な基本的概念について、とくに日本国をケースとして取り上げ、解説していきます。ただし、用語や概念を暗記することが目的ではありません。それを使って、現代の政治的事象について自分で考え、それを自分の言葉で表現できるようになることが目標です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習ではないが、反転授業形式で行われる。事前準備としてノートづくりが課され、授業時間は、疑問点の解説、教員と学生のディスカッションを行う。授業後にその授業回で理解したこと、疑問に思ったことをまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・事前課題と事後課題については、原則として提出した翌週に教員のコメント付きで返却する
- ・期末課題については、manaba上でフィードバックする

■授業計画

- ①オリエンテーション・大学で学ぶということと政治「学」
- ②政治を行うということ
- ③権力：ルールを守らせるということ
- ④国家権力：近代国家の特質
- ⑤デモクラシーは重要なのか
- ⑥議会制民主主義と主権者
- ⑦政党の役割
- ⑧イデオロギー
- ⑨多数決と選挙
- ⑩決まったことは絶対か・・・立憲主義
- ⑪国家権力が暴走しないために・・・権力分立（1）
（さまざまな水平的権力分立／三権分立）
- ⑫国家権力が暴走しないために・・・権力分立（2）
（さまざまな垂直的権力分立／地方自治）
- ⑬日本の国家制度 天皇・内閣と国会・裁判所
- ⑭国際社会（1） 近代国家からなるアナーキーな世界
- ⑮国際社会（2） さまざまな国際機構と平和

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・現代の政治を考える場合に必要な基本的概念について理解し、自らの言葉で表現できる
- ・民主主義や国民主権の意義について理解し、自分の言葉で表現できる
- ・近代国家の特質を日本国を例にとりながら理解し、それを自分の言葉で表現できる
- ・近代国家からなる国際社会の特質を理解し、それを自分の言葉で表現できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

事前課題・・・28%
事後課題・・・28%
期末課題・・・44%

■テキスト・参考文献

【テキスト】テキストは用いない。毎時、受講生は事前課題としてのノートを作成し、持ってくる。
授業時に必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

- 全体に関わる参考文献として、
- ・田村哲樹ほか『政治学』勁草書房、2020年
 - ・宇野重規『民主主義とは何か』講談社、2020年
 - ・宇野重規『民主主義を信じる』青土社、2021年
 - ・田中拓道『リベラルとは何か』中央公論新社、2020年
 - ・山本圭『現代民主主義』2021年
 - ・前田健太郎『女性のいない民主主義』2019年

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

- ・次の授業で扱う内容について、講義担当者はmanaba上に映像のリンクを貼る。受講者はそれをもとに、ノートを作成して画像を撮り、manabaで提出するほか、疑問に思ったことを記入する
- ・授業で疑問を解説したうえで、教員と学生、学生同士でディスカッションを行う

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	社会思想史
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	水野 浩二

■講義の目的および概要

社会思想史の観点から西洋思想を通覧します。話は個人と社会という対立軸を中心に展開されます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、授業の冒頭で前回の授業の確認を行います。次にその日の授業の概要を話したのち、本題に入ります。本題は講義中心になりますが、適宜学生側に質問をしますので、答えてください。最後に、翌週の内容について簡単に触れますので予習に役立ててください。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニレポートを提出してもらいます。課題はmanabaに入っていますので、そこに回答してください。翌週の授業で解説を行います。

■授業計画

- ①社会思想史と「学際」
- ②労働 (M. ウェーバー)
- ③自然 (F. ベイコン)
- ④「自然に帰れ」 (J=J・ルソー)
- ⑤野蛮 (Th. アドルノ)
- ⑥国家 (Th. ホッブズ)
- ⑦歴史 (K. マルクス)
- ⑧寛容 (ヴォルテール)
- ⑨ユートピア (Th. モア)
- ⑩人格 (I. カント)
- ⑪実存 (S. キルケゴール)
- ⑫集団 (J=P. サルトル)
- ⑬大衆 (オルテガ)
- ⑭私と他者 (E. レヴィナス)
- ⑮詩人哲学者・ジャン・ヴァール

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

思想家の基本的な考え方を理解し、それを現実生活に応用して自分の言葉で説明できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「文化領域における基礎知識の修得」を通して、グローバル化した世界で活躍することを目指す。

(DPI)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

期末レポート (60%) + ミニレポート (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

manabaのコンテンツに授業の資料が入っていますので、各自で予めプリントアウトしておいてください。

【参考文献】

城塚登編著『社会思想史の展開』北樹出版。M. アンリ (水野浩二他訳) 『マルクス』法政大学出版局。水野浩二『倫理と歴史』月曜社。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業資料及び各自のノートを使って復習をしっかりと行ってください。また、わからない点を書き出し、自分で調べてみましょう。次回の講義資料にもしっかりと目を通しておきましょう。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業中に指名されたら、わかる範囲で十分ですので、しっかり答えてください。

科目名	世界史概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

グローバル化が進むといわれる21世紀にあつて、過激派によるテロの頻発は「文明の衝突」の証拠ともいわれています。この授業では、なぜ、一見すると相反する両現象が同時に生じるのかという問題を考えるために歴史的に俯瞰します。それは、古代以来の諸文明が存在していることと、西欧近代が生み出した諸価値の普遍化のプロセスが進行していること、この二つの意味を考えることを意味するでしょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習ではないが、反転授業形式で行われる。事前準備としてノートづくりが課され、授業時間は、疑問点の解説、教員と学生のディスカッションを行う。授業後にその授業回で理解したこと、疑問に思ったことをまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・事前課題と事後課題については、原則として提出した翌週に教員のコメント付きで返却する。
- ・期末課題については、manaba上でフィードバックする。

■授業計画

①オリエンテーション、「地域世界」の誕生

古代：

②各「地域世界」の基本形について

中世：

③地中海世界の再編

④イスラーム世界の登場

⑤中華世界の再編

近世：

⑥近世の始まり

⑦大航海時代

⑧宗派化の時代

⑨近世アジアの大帝国

⑩平和なき近世ヨーロッパ・大西洋三角貿易

近代：

⑪産業革命

⑫環大西洋革命

⑬一八四八年の革命

⑭近代の波及

現代：

⑮現代

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・各文明の通時的な特徴について理解し、それを自分の言葉で表現できる
- ・世界的な時代ごとの共通性について理解し、それを自分の言葉で表現できる
- ・グローバル化のプロセスを理解し、自分の言葉で表現できる
- ・西洋発の近代化がいかに進展したかを理解し、自分の言葉で表現できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

事前課題・・・28%

事後課題・・・28%

期末課題・・・44%

■テキスト・参考文献

【テキスト】テキストは用いない。毎時、受講生は事前課題としてのノートを作成し、持ってくる。
授業時に必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

- 全体に関わる参考文献として、
- ・金澤周作監修『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年）
 - ・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』（ミネルヴァ書房、2022年）
 - ・岩城卓二ほか編著『論点・日本史学』（ミネルヴァ書房、2022年）
 - ・細谷雄一編『世界史としての「大東亜戦争」』（PHP新書、2022年）
- を上げておく。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・次の授業で扱う内容について、講義担当者はmanaba上に映像のリンクを貼る。受講者はそれをもとに、ノートを作成して画像を撮り、manabaで提出するほか、疑問に思ったことを記入する
- ・授業で疑問を解説したうえで、教員と学生、学生同士でディスカッションを行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	アジアの歴史
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	川口 琢司

■講義の目的および概要

毎回、一つの「時代」をとりあげ、「ヨコ」からみたユーラシア世界史を解説します。まず、その「時代」のユーラシア大陸と周辺海域のおおまかな歴史的特徴をつかみます。続いて、ユーラシアで興亡した主な国家をとりあげ、それらの関係性に注目します。また、民族の移動、文化の伝播、特定の間人集団の動向にも注意を払います。こうして、アジア史の大きな流れをつかむことがねらいです。なお、映像資料を用いた講義も予定しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

配布資料を使いながら、講義形式で進めていきます。また、映像資料を用いた講義を予定しており、映像からの学びや映像に対する感想をまとめた中間レポートを提出してもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

中間レポートについては、採点后、講義内で総評をおこないます。

■授業計画

- ①ガイダンス：シラバスの確認と序論
- ②前4世紀～前1世紀：東西文化の融合
- ③1世紀～4世紀：東西交流の活発化
- ④4世紀～6世紀：第一次民族大移動
- ⑤6世紀～8世紀(1)：イスラームの成立と拡大
- ⑥6世紀～8世紀(2)：東アジア文化圏の形成
- ⑦9世紀～12世紀(1)：第二次民族大移動(東アジア)
- ⑧9世紀～12世紀(2)：第二次民族大移動(ロシア、西アジア、南アジア)
- ⑨13世紀～14世紀：モンゴルによるユーラシアの一体化
- ⑩14世紀～15世紀：ペストの大流行
- ⑪15世紀～16世紀：大航海時代とイスラーム圏
- ⑫16世紀～17世紀：ヨーロッパ諸国の植民活動とアジア諸帝国
- ⑬17世紀～18世紀：ロシアと清の台頭
- ⑭18世紀～19世紀：イギリスの覇権とロシアの南下
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 基礎的な知識を習得しながら、アジア史の大きな流れをつかみ、個々の時代状況を的確に説明できる。
2. 各時代における諸地域間の交流やヨーロッパとの接触を学ぶことで、それらが各文化圏におよぼした影響について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DPI)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

到達目標1を測定するための小レポート：30%

到達目標2を測定するための定期試験：50%

授業への参加状況(授業への質問や感想、意見など)：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

とくに使用せず、資料を配布します。

【参考文献】

講義中に適宜紹介しますが、全体を通して参考になるものを挙げておきます。

- ・木村靖二他編『詳説世界史研究』(山川出版社、2017年)
- ・木村靖二他編『もういちど読む山川世界史PLUSアジア編』(山川出版社、2022年)

■授業外学習

【具体的な内容】

高校世界史レベルの知識を必要とするので、事前に、授業計画に示したテーマについて高校世界史教科書やネット等で調べておくこと。事後には、自筆ノートや配布資料を読み直し、講義中に指摘したポイントを復習しておくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

こちらから問題を提起することもあるので、積極的に対話に参加することを期待し2023（令和5）年4月1日
す。

科目名	日本史概論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

・「世界」のなかで「日本」ととらえる。また、教職課程とかかわる講義であることをふまえ、現在の中学校、高等学校の社会科、日本史の授業実施などにふさわしい知識と「考える」授業を作ることを目的とする。

【個別事象】

・2022年度より、高校教育において「歴史総合」がはじまった。その特徴は①「主体的な学び」―「問い」と「探求」、②世界の中で日本をとらえる、③考えることにある。本講義は、そのような動向をふまえるとともに、社会科教員免許取得希望者が、歴史探究などの授業が実施出来るようになることを目指す。

・本講義の目的は、日本史上の重要トピックを手がかりに、3世紀～19世紀前半(古代～近世)の日本の歴史について、通時的かつ東アジアとの関連という目線から、学生が主体的に学ぶことを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・講義形式。

【ICT機器】…プロジェクターを使用し、画像、映像を使用。zoomなど(遠隔の場合)

【実務経験】…中学校の「社会」、高等学校の「日本史」、「世界史」での授業経験を一部使用。

【課題に対するフィードバックの方法】

・学生の課題、感想ペーパーなどに必要に応じ、コメントをつけて返却する。

■授業計画

- ①ガイダンス―「日本史」の範囲―
- ②古代 その1―「東アジア」のなかで日本をとらえる
- ③古代 その2―東アジアのなかの「倭国」と「日本」
- ④古代 その3―律令制とは何か
- ⑤古代 その4―東部ユーラシアとソグド人 前篇―ソグド人とは何か?―
- ⑤古代 その5―東部ユーラシアとソグド人 後篇―遣唐使とは何か?―
- ⑥古代 その6 国風文化―国風文化とは何か?―
- ⑦古代 その7 遣唐使から海商へ
- ⑧中世 その1 「武士」とは何か?
- ⑨中世 その2 明朝と海禁―勘合とは何か?
- ⑩中世 その3 琉球王国―なぜ琉球王国が成立したのか?―
- ⑪中世 その4 倭寇―前期倭寇とは何か?―
- ⑫中世 その5 倭寇―後期倭寇とは何か?―
- ⑬近世 その1 秀吉の朝鮮侵略
- ⑭近世 その2 朝鮮通信使
- ⑮まとめ―「日本史」の範囲とは何か?

※感染症の状況などによる履修者の環境(遠隔か否か)により、講義の内容を変更する場合があります。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・大学生にふさわしい日本史の基礎知識を身に付け、専門的な知識にも触れ、それを現在の課題として問題意識を持ち、主体的に考えることが出来るようになる。
・自ら「問い」を立て、自ら「考える」ことが出来るようになる。
・東アジア、世界の中で日本を考えることが出来るようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- ・各授業中に実施する課題…50%
- ・定期試験or学生が授業外で実施するレポートなどの課題…50%

※コピペ、剽窃、虚偽の連絡、その他不正は、上記の評価と無関係に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中、プリントを適宜配布。

【参考文献】

西嶋定生『日本歴史の国際環境』（1985年、東京大学出版会）。
ロナルド・トビ『日本の歴史第九巻 「鎖国」という外交』（2008年、小学館）。
山内晋次『日宋貿易と「硫黄の道」』（2009年、山川出版社）。
田中健夫『倭寇』（2011年、講談社）。
橋本雄『さかのぼり日本史 外交篇7室町』（2015年、NHK出版）。
石母田正『日本の古代国家』（2017年、岩波書店）。
榎本渉『僧侶と海商たちの東シナ海』（2020年、講談社）。
吉川真司編『シリーズ古代史をひらく 国風文化』（2021年、岩波書店）。

『少年少女 マンガ 日本の歴史1～21、ほか』（1998年、小学館）。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前・事後あわせて4時間程度。
- ・「問い」を立ててもらう。
- ・配布したプリント及び授業中に提示した課題については、各自、事前事後に図書館などを使用して期日までにまとめておくこと。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

・コピー、出席の不正、その他、講義者が不正と判断した行為については、厳正に対処する。

・感染症の状況に応じて、授業内容をシラバスから変更する場合がある。その場合も到達目標は変らない。

科目名	近現代日本史
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

- ・本講義は、幕末から昭和の終わり(19世紀後半～20世紀後半)までの日本の歴史をてがかりに、それが「現代」の我々にどのような意味をもった出来事なのか、国際的視野から考えることを目的とする。
- ・特に本講義で強調したいのは、「外からの視点」である。明治維新などを日本国内だけの出来事にとらえず、これらを諸外国はどのようにとらえ、また、日本の行動が世界にどのような影響を与えたのかという、双方向的な視野から近現代の日本史を学んでいく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・講義形式。必要に応じ、アクティブラーニング。
- ・適宜、課題や記述による課題を授業中に実施する。

【ICT機器】

- ・プロジェクターを介した画像、映像などを使用。zoom(遠隔の場合のみ)。

【実務経験】・・・中学校の「社会」、高等学校の「日本史」、「世界史」での授業経験を一部使用。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・口頭ないし文書で、コメントをつけて返却する。

■授業計画

- ①ガイダンスー「近現代、とはなにか?
- ②明治維新
- ③西南戦争
- ④日清戦争
- ⑤日露戦争
- ⑥大正と昭和のライフスタイル その1ー大衆娯楽の成立
- ⑦大正と昭和のライフスタイル その2ー「伝統文化」の成立
- ⑧大正と昭和のライフスタイル その3ー現在との比較
- ⑨昭和という時代 その1ー1930年代
- ⑩昭和という時代 その2ー1940年代 その1
- ⑪昭和という時代 その3ー1940年代 その2
- ⑫高度経済成長と現在の日本 その1
- ⑬高度経済成長と現在の日本 その2
- ⑭高度経済成長の終わりと現在の日本
- ⑮まとめー「現代」の日本

※感染症の影響で、一部の講義内容を変更する可能性がある。ただし、その場合も到達目標は変えない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・大学生、社会人としてふさわしい日本史と世界に関する知識を身につける。
- ・身につけた知識をふまえ、自ら「考える」ことが出来るようになる。
- ・国際社会と日本が密接に関係し、現在も互いに影響を与えているという、双方向的な視座に大切さについて学ぶ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

- ・各授業中に実施する課題・・・50%
- ・定期試験or授業外で履修者がまとめてくるレポートなどの課題・・・50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中にプリントを配布。

【参考文献】

川北稔『世界システム論講義』(2016年、筑摩書房)

岩波新書『日本近現代史 1～10』(2010年、岩波書店)。

吉見俊哉『平成時代』(2019年、岩波書店)

■授業外学習

【具体的な内容】

・講義中指定された課題や、予習・復習など事前、事後学習に関わる講義中に指示した課題については、指定された期日までに仕上げる。

【必要な時間】

・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

・私語やほかの受講者に迷惑がかかる行為、いわゆるコピーや剽窃、そのほか不正行為や授業担当者が必要と判断したことについては、厳正に対処する。
・感染症の状況による授業形態の変化に応じて、授業内容をシラバスから変更する場合があります。その場合も到達目標は変わらない。

科目名	哲学概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	水野 浩二

■講義の目的および概要

【哲学の基礎を学びます。基本的な哲学的問題について解説します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、授業の冒頭で前回の授業の確認を行います。次にその日の授業の概要を話したのち、本題に入ります。本題は講義中心になりますが、適宜学生側に質問をしますので、答えてください。最後に、翌週の内容について簡単に触れますので予習に役立ててください。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニレポートを提出してもらいます。課題はmanabaに入っていますので、そこに回答してください。翌週の授業で解説を行います。

■授業計画

- ①哲学の樹のたとえ
- ②家を建てるためには何が必要か（形相と質料）
- ③物はどのように変化するか（潜勢態と顕勢態）
- ④何かを知るとはどういうことか
- ⑤客観的に妥当する認識（知識）とは何か
- ⑥心と身体とはどのようにかかわっているか（心身問題）
- ⑦われわれはどこまで自由か（自由論）
- ⑧真理とは何か（真理論）
- ⑨論理とは何か（論理学入門）
- ⑩意識の私秘性と言語の公共性
- ⑪主体性とは何か
- ⑫懐疑論
- ⑬知覚と想像
- ⑭イメージの哲学とプラトン主義批判
- ⑮ホンモノとニセモノの見分け方

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

哲学の基本用語を理解し、現実生活において応用できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

期末レポート（60%）＋ミニレポート（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

manabaのコンテンツに授業の資料が入っていますので、各自で予めプリントアウトしておいてください。

【参考文献】

山本信『哲学の基礎』北樹出版。J=P. サルトル（水野浩二他訳）『主体性とは何か？』白水社。F. ダゴニエ（水野浩二訳）『イメージの哲学』法政大学出版局。J=P. サルトル（水野浩二他訳）『イメージネール』講談社学術文庫。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業資料及び各自のノートを使って復習をしっかりと行ってください。また、わからない点を書き出し、自分で調べてみましょう。次回の講義資料にもしっかりと目を通しておきましょう。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業中に指名されたら、わかる範囲で十分ですので、しっかり答えてください。

科目名	現代文化フィールドワーク演習
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

- ・本講義は、歴史学におけるフィールドワークの手法を学び、これを通じて「現代文化」がどのような歴史的経緯でなり立っているかを考えるとともに、学生が主体的に「考え」、自ら調査する姿勢を身につけることを目指す。
- ・歴史学のフィールドワークは、過去を「追体験」とともに、「現代文化」がどのような歴史的背景をもって成り立っているのかについて考えることを目的とする。
- ・学生主体のフィールドワーク、プレゼンテーションを中心に授業を展開する。

【重要！】本講義を履修するものは、必ず【その他】を熟読すること。

【2023年度の特記事項】

- ・感染症の影響などで、フィールドワークは、縮小実施ないし行わない場合がある。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・授業担当者による説明・プレゼンの準備
- ・学生による自主的な調査と、プレゼンテーション中心
- ・アクティブラーニング…フィールドワーク、学生主体のプレゼンテーション、ディスカッション。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・口頭によるコメントや課題にコメントをつける形などで行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②自由に発表
- ③フィールドワークの視点・技法 その1—歴史学の立場から
- ④フィールドワークの視点・技法 その2—実践編
- ⑤フィールドワークの視点・技法 その3—文献を使って
- ⑥フィールドワークの視点・技法 その4—実践編
- ⑦フィールドワークの視点・技法 その5—過去との比較
- ⑧フィールドワークの視点・技法 その6—実践編
- ⑨フィールドワークの準備 その1—調査目的の設定
- ⑩フィールドワークの準備 その2—周辺情報の整理
- ⑪フィールドワークの実施と事後整理 その1—現地へ
- ⑫フィールドワークの実施と事後整理 その2
- ⑬フィールドワークの実施と事後整理 その3
- ⑭調査結果の発表 その1—フィールドワークのまとめ
- ⑮調査結果の発表 その2

※フィールドワークなどは、全体的な状況をふまえ、実施授業回数や実施日など、適宜順番を入れ替える可能性がある。

※全体的に、感染症の影響で、シラバスの内容を変更する場合がある。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・歴史学のフィールドワークの技法を身に付ける。
- ・フィールドワークに必要な技法、事前調査や現地調査、情報収集、そしてその後、入手した情報を適切にまとめ発表し、自ら「考える」ことが出来るようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・事前調査…プレゼンテーション—30%
- ・フィールドワーク調査…フィールドワーク関連作業(レジュメ、現地調査など)—30%
- ・事後調査…フィールドワーク事前情報のまとめ、事後報告(レポートなど)—40%

※ただし、やむを得ない事情、病欠・体調不良、そのほか適切な理由を除き、フィールドワークの実施ないしそれに相当する活動を必須とする。フィールドワークないしそれに相当する活動をともなわない調査、発表などは、評価対象としない場合がある。

※コピー、出席の不正、虚偽の連絡、そのほか、不正と判断されるものについては、上記の評価とは別に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中に適宜、指示。

【参考文献】

- ・なし。講義中に適宜、明示。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・プレゼンテーションのスライド作成、参考文献の調査などは、基本的に授業外で行うこと。これにかかわる授業外の時間が必要なことを、履修前に考えておくこと。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。
- ・とくに、フィールドワークは授業として実施するが、かならずしも授業時間の曜日、時間にとらわれない。この点を留意、納得した上で履修すること。

■その他

【重要！】

- ・本講義は学外フィールドワークをともなう講義である。そのため安全性や大学・講義者の指示に必ず従うこと。
- ・また、フィールドワークの特性上、講義の時間、曜日などにとらわれない調査実施を行う場合がある。この点をふまえ、履修すること。

・履修希望者は、必ず、第一回講義、ないしフィールドワークの事前説明会(実施の場合のみ)に出席すること。出席しない場合の対応は必ず履修登録前に講義者に相談すること(公欠、病欠、そのほか適正な理由を除く)。これは講義の特性(フィールドワークの講義)をふまえずに履修することを防ぐためである。

・講義の性質上、毎回の講義に出席することを前提としている(公欠、病欠、やむを得ない事情を除く)。特にフィールドワークの実施もしくはそれに相当する活動は、必須に位置している。ただし、欠席をする場合は、配慮と柔軟な対応を行うので、必ず授業担当者に相談に来て、欠席時の対応の指示を受けること。この点を留意した上で履修すること。

・フィールドワーク費用は、一部、学生の負担となる(キャンセル料含む)。ただし、教育効果と学生の負担が最も軽い形を選択する(参考 [類似の講義での実施状況]、2017、22年度、関西は約5万円)。

・原則として、フィールドワークの実施を前提とした授業である。この点をよく考えて履修すること。また、人数があまりに多い場合は、履修制限を設ける場合がある。これは授業の質の維持、及び講義者がフィールドワーク引率可能な人数という観点からである。

・フィールドワークは、下記を想定している。

- ①関西(大阪・京都・奈良・兵庫県など)、
- ②札幌近郊
- ③その他

ただし、学生の経済的負担の軽重及び、調査・関心・問題意識、教育的効果などによって、変更する場合がある。

・フィールドワークの日時…学生の都合・授業・就職活動などを考慮し、最も良い日程で決定する。

・コピー、出席の不正、その他、講義者が不正と判断した行為については、厳正に対

科目名	TOEICⅢ
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	富田 敏明

■講義の目的および概要

本講義はTOEICⅡ履修者又は英語中級者を対象&リーディング&リーディング、文法、語彙を総合的に学習することにより、TOEIC Testスコアの向上を目指す。またテキスト以外の英語情報（英語ニュース、英文記事等）を主体的に学習する姿勢を身に付けることをねらいとする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

TOEICの中級テキストを活用し、TOEICの7パートの出題形式に対応した問題演習を行う。リスニング、リーディングどちらの活動も、ペアワーク等による会話、ディクテーション、シャドーイングなど能動的な活動を取り入れる中で、総合的な英語力の向上を目指す。リスニング、リーディングどちらの領域においてもスラッシュリーディング等の手法を用いて速読及び直解の力を養う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については確認テスト等の実施により、毎回確認するとともに、授業内においてポイントとなる事項の解説を行う。

■授業計画

- ①Orientation
- ②Unit1 (Food & Restaurant) Vocabulary (1-100)
- ③Unit1 (Food & Restaurant) Vocabulary (101-200)
- ④Unit2 (Entertainment) Vocabulary (201-300)
- ⑤Unit2 (Entertainment) Vocabulary (301-400)
- ⑥Unit3 (Travel) Vocabulary (1-400)
- ⑦Unit3 (Travel) Vocabulary (401-500)
- ⑧The midterm exam (重要事項の確認)
- ⑨Unit4 (Sports & Health) Vocabulary (501-600)
- ⑩Unit4 (Sports & Health) Vocabulary (601-700)
- ⑪Unit5 (Purchasing) Vocabulary (701-800)
- ⑫Unit5 (Purchasing) Vocabulary (401-800)
- ⑬Unit6 (Housing & Accommodation) Vocabulary (1-400)
- ⑭Unit6 (Housing & Accommodation) Vocabulary (1-800)
- ⑮The final exam (重要事項の確認)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

TOEICスコア500点～600点に相当する英語力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 定期試験 40%
- ・ 語彙テスト 40%
- ・ 課題、授業中の言語活動（リスニングプラクティス等） 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ FAST PASS FOR THE TOEIC L&R TEST (Cengage)
- ・ TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）

【参考文献】 自学用サイト

- ・ Japan Today
- ・ NHK NEWSLINE - NHK WORLD
- ・ VOA - Voice of America English News

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 事前 ①語彙テスト範囲の学習
- ・ 事後 ②テキストのリスニング問題スクリプトのシャドーイング
③上記自学用サイトを活用したリスニング&リーディング

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

英語のインプットを増やすことは、4技能の向上につながります。本学図書館の2023（令和5）年4月1日「Extensive Reading」コーナーにある英書を活用し、大量の英文を読むことを勧めます。

科目名	TOEICⅣ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	富田 敏明

■講義の目的および概要

本講義は「TOEICⅢ」での学習内容を踏まえて、英語の4技能をバランスよく学習することにより、TOEIC Testスコアの向上を目指す。また、卒業後に備え、テキスト以外の英語情報（英語放送ニュース、英文記事）を主体的に学習する姿勢を身に付けることをねらいとする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

TOEICの中級テキストを活用し、TOEICの7パートの出題形式に対応した問題演習を行う。特にリスニング分野においては、Part3,4のまとまった英文を聞き取る力を身に付けるとともに、リーディングにおいては速読力を高めることを常に意識して学習を行う。ペアワーク等による会話、シャドーイング、ディクテーションなど能動的な活動を取り入れる中で、総合的な英語力の向上を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については確認テスト等の実施により、毎回確認するとともに、授業内においてポイントとなる事項を解説を行う。

■授業計画

- ①Orientation
- ②Unit7(Office Work1) Vocabulary(1-100)
- ③Unit7(Office Work1) Vocabulary(101-200)
- ④Unit8(Office Work2) Vocabulary(201-300)
- ⑤Unit8(Office Work2) Vocabulary(301-400)
- ⑥Unit9(Employment) Vocabulary(1-400)
- ⑦Unit9(Employment) Vocabulary(401-500)
- ⑧The midterm exam (重要事項の確認)
- ⑨Unit10(Lectures & Presentations) Vocabulary(501-600)
- ⑩Unit10(Lectures & Presentations) Vocabulary(601-700)
- ⑪Unit11(Business Affairs1) Vocabulary(701-800)
- ⑫Unit11(Business Affairs1) Vocabulary(401-800)
- ⑬Unit12(Business Affairs2) Vocabulary(1-800)
- ⑭Unit12(Business Affairs2) Vocabulary(1-800)
- ⑮The final exam (重要事項の確認)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

TOEIC Score 600点を常時クリアできる英語力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・定期試験 40%
- ・語彙テスト 40%
- ・課題、授業中の言語活動（リスニングプラクティス等） 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・FAST PASS FOR THE TOEIC L&R TEST (Cengage)
- ・TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）

【参考文献】 自学用サイト

- ・CNN International, BBC News
- ・NHK NEWSLINE - NHK World
- ・Japan Today

■授業外学習

【具体的な内容】

- 事前 ①語彙テスト範囲の学習
事後 ②テキストのリスニング問題スキットのシャドーイング、Part 6 & 7のテキストの速読
③上記自学用サイトを活用したリスニング&リーディング

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

「Extensive Reading」については「100万語」が目標です。こちらは勉強というよりも「楽しむ」ことがキーワード。多読とTOEICスコアの相関関係を実証するケースが多く報告されています。

科目名	TOEIC集中講座
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	富田 敏明

■講義の目的および概要

本講義では、TOEICを受検する際に必要な英語能力の向上を目指す。学習レベルは「TOEIC I」に準ずる。授業においては、オフィスや日常生活のいろいろな場面で使用する英語の表現について聞き、読む能力を養い、問題の形式に習熟することを目指す

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

TOEICのPart1~Part7の形式に対応する問題演習を行い、リスニング、リーディングの実用的なスキルを身に付ける。また、音読、シャドーイング、会話練習など能動的な活動を取り入れる中で、総合的な英語力の向上を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については確認テスト等の実施により、毎回確認するとともに、授業内でポイントとなる事項の解説を行う。

■授業計画

- ①Unit1 (Shopping)
- ②Unit2 (Daily Life)
- ③Unit3 ((Transportation)
- ④Unit1~Unit3
- ⑤Unit4 (jobs)
- ⑥Unit5 (Meals)
- ⑦Unit6 (Communication)
- ⑧Unit4~Unit6
- ⑨Unit7 (Fun)
- ⑩Unit8 (Office Work)
- ⑪Unit9 (Meeting)
- ⑫Unit7~Unit9
- ⑬Unit10 (Travel), Unit11 (Finance)
- ⑭Unit12 (Business)
- ⑮確認テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

TOEIC Score 400点~450点に相当する英語力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP6) 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

- ・ Review tests 40%
- ・ 語彙・表現テスト 40%
- ・ 課題 (Overlapping & Shadowing) 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST (Gengage)

【参考文献】

- ・ 自学用サイト
YouTube 「Lisa Mojsin」

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 事前 ①前回学習した語彙・表現の復習
- ・ 事後 ②テキストの聞き取り問題スクリプトのリスニング&シャドーイング
③上記自学用サイトを活用したリスニング

【必要な時間】

- ① 30分 ② 50分 ③ 40分

■その他

- ・ 自学用サイトのリスニング教材は英語の発音、表現、文法などについて実際に英語で授業を受けている感覚が持てます。積極的に視聴してください。

科目名	リーディング I
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

「読書は学習への王道」のみならず、読む、話す、聞く、書くスキルの向上への道です。英語で自分に合ったレベルの書物を読み、読書の楽しさを発見できる授業です。主にモチベーションアップと読むスキルの改善を目指しています。よりよい理解と読むスピードを養い、英語学カテストや英会話などに欠かせない授業です。また、extensive & intensive readingの特徴を理解し、活用すること。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ① 学生は自分のレベルに適したショートストーリーを読む (extensive)
- ② 読んだストーリーの簡単なサマリーを書く
- ③ オンライン記事を読む、重要な情報を引き出す (intensive)
- ④ 読むスピードと理解度を図るアクティビティの紹介・実施

【課題に対するフィードバックの方法】

読むスピードや理解度を数字で表し、データを学生一人一人に紹介する。Graded Readersに関するコメントをチェックし学生にフィードバックする。

■授業計画

- ①オリエンテーション・多読メソッドの紹介・intensive/extensive readingの説明
- ②Activity in the library (AL), GRs (graded readers)の紹介
- ③読むスピードと理解度のアセスメント
- ④読むスピードと理解度に関する個人的なコンサルテーション
- ⑤図書館での読書・サマリー
- ⑥図書館での読書・サマリー
- ⑦「自分を読者として理解する」グループディスカッション
- ⑧リーディングの重要性と自分の目標に関するワークショップ
- ⑨図書館での読書・サマリー
- ⑩クラスでアクティビティ (intensive reading) & building vocabulary
- ⑪クラスでアクティビティ (intensive reading) & building vocabulary
- ⑫図書館での読書・サマリー
- ⑬図書館での読書・サマリー
- ⑭コースまとめ・グループディスカッション
- ⑮読むスピードと理解度のテスト・サマリーの提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自分に合った英語の書物を読むとき日本語に翻訳しないで内容を理解する。長文をパーツに分けることなくメインアイデアをつかむことができる。読むスピードを増やす。英語で読むことを実感する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

英語日常会話に不可欠である「通訳・翻訳なし」の表現取得。

- DP 1【専門知識・技能を活用する力】
 DP 2【コミュニケーション能力】
 DP 6【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

読んだ本 (Graded Readers)の数 30%
サマリー 30%
ディスカッションの参加 20%
読むスピードや理解度伸びしろ 20%

2023 (令和5)年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。図書館のGraded Readersとオンラインの記事を使う。

【参考文献】

実践的な授業なので、図書館のGraded ReadersとJapan Timesを紹介。

■授業外学習

【具体的な内容】

読む習慣をつけるために毎日シンプルなストーリーを読むことを強くお勧めします。
またはオンラインの記事やニュースを観たり、読んだり習慣的に行うこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

Graded Readers に含まれるCDを使ってリスニングを行うことをお勧めします。

科目名	リーディングⅡ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

リーディングⅡは前期のリーディングⅠの引き続きですが、初めてこの科目を取る学生でも問題なく受講できます。「読書は学習への王道」のみならず、読む、話す、聞く、書くスキルの向上への道です。英語で自分に合ったレベルの書物を読み、読書の楽しさを発見できる授業です。主にモチベーションアップと読むスキルの改善を目指しています。よりよい理解と読むスピードを養い、英語学カテストや英会話などに欠かせない授業です。リーディングⅠを前期に取っていた学生は、一段と英語で読むスキルを向上させるチャンスです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ① 学生は自分のレベルに適したショートストーリーを読む(extensive)
- ② 読んだストーリーの簡単なサマリーを書く
- ③ 読むスピードと理解度を図るアクティビティーの紹介・実施
- ④ 「強いリーダーになるため方法を考える」のワークショップ

【課題に対するフィードバックの方法】

読むスピードや理解度を数字で表し、データを学生一人一人に紹介する。Graded Readersに関するコメントをチェックし学生にフィードバックする。

■授業計画

- ①オリエンテーション・多読メソッドの紹介・extensive reading の特徴と役割
- ②Activity in the library (AL), GRs (graded readers)の紹介・セレクト
- ③読むスピードと理解度のアセスメント (テスト)
- ④読むスピードと理解度に関する個人的なコンサルテーション (フィードバック)
- ⑤図書館での読書・サマリー
- ⑥図書館での読書・サマリー
- ⑦「自分を読者として理解する」グループディスカッション
- ⑧リーディング重要性和自分の目標に関するワークショップ
- ⑨図書館での読書・サマリー
- ⑩図書館での読書・サマリー
- ⑪クラスでアクティビティー(intensive reading) & building vocab.
- ⑫クラスでアクティビティー(intensive reading) & building vocab.
- ⑬図書館での読書・サマリー
- ⑭コースまとめ・グループディスカッション
- ⑮読むスピードと理解度のアセスメント (テスト) ・サマリーの提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自分に合った英語の書物を読むとき日本語に翻訳しないで内容を理解する。長文をパーツに分けることなくメインアイデアをつかむことができる。読むスピードを増やす。英語で読むことを実感する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する能力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

読んだ本（Graded Readers）の数	30%
サマリー	30%
ディスカッションの参加	20%
読むスピードや理解度伸びしろ	20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。図書館のGraded Readersとオンラインの記事を使う。

【参考文献】

実践的な授業なので、図書館のGraded ReadersとJapan Timesを紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

読む習慣をつけるために毎日シンプルなストーリーを読むことを強くお勧めします。
またはオンラインの記事やニュースを見たり、読んだり習慣的に行うこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

Graded Readers に含まれるCDを使ってリスニングを行うことをお勧めします。

科目名	実用英語 I (外国の文化と歴史)
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

本講義は外国生まれの様々な表現や習慣を紹介しながら文化的で歴史的なルーツに関して知識や理解を深めることを目的とします。外来語・和製英語として日本語の中で存在する言葉の意味は、本来の姿、意味、使い方などと異なることが少なくありません。この授業では他の文化からモディフィケーションされて、現在は日本でなじみのある英単語、コンセプト、名前のルーツについて学び、文化の奥深さに気づき、新しい知識を得ます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ①講義はパワーポイントとレクチャースタイル
- ②学生はノートを取り、コース終了の時ノートを手出
- ③学生によるペアーや個人のPPによる発表

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中の課題やクイズ学生が参加し、評価される。

■授業計画

- ①オリエンテーション・授業の進め方と評価
- ②文化、社会、歴史と考えるパターン
- ③ヨーロッパ生まれの民衆主義と古代オリンピックス（古代と現在）
- ④レーディーファーストなぜ生まれたか（中世と現在）
- ⑤バージンロードを歩くのは誰か（中世と現在）
- ⑥言葉と歴史的な出来事・カレンダー・年明けはなぜ真冬の一月になったか（古代）
- ⑦コミュニケーションを取るとは何か・「学生によるプレゼンテーション」
- ⑧コミュニケーションを取るとは何か・「学生によるプレゼンテーション」
- ⑨English loanwords in Japanese 「学生によるプレゼンテーション」
- ⑩ことわざの中で賢明さが眠っているか「English proverbs」
- ⑪社会の動きを表す新しい表現「学生によるプレゼンテーション」
- ⑫言葉を大事にする理由「学生によるプレゼンテーション」
- ⑬サンタさんはフィンランド人か（古代、中世、現在）
- ⑭復習
- ⑮期末テストフィードバック

注意：以降の順番に変更が可能です。学生によるプレゼンテーションは遠隔授業の場合はパワーポイントのプレゼンテーションのみとなります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

様々なステレオタイプを確認し、言語と文化の強い結びつきに気づき、言葉に含まれている意味や由来に対して興味を持ち、人間のコミュニケーション手段として言語の重要性に気づくこと。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

自立した人間として、教養を持ち言葉を大事にすること。

DP1【専門知識・技能を活用する力】

DP2【コミュニケーション能力】

DP6【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

ノート作成 40%

学生発表 50%

参加・授業中の小テスト 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし、教員が資料を配布する

【参考文献】

オンラインの記事を授業中に紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習として、それぞれのトピックについて調べることを
授業中学んだことに関して疑問に思ったことを必ず自分なりに調べ、授業の中でクラス全体に報告し、意見・感想を求めること。授業中紹介された語彙の復習を行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中にアクティブ参加が望まれる。

科目名	実用英語Ⅱ(国際教養)
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	竹内 康二

■講義の目的および概要

基礎的な英語運用力を土台に、実践的に英語を活用して国際的な視野を身に付ける科目です。現在我々が直面している様々な問題のうち、国際連合が設定している17のSDG項目の中から主要なものを取り上げ、問題点は何か、解決策はあるか、身近に起きている問題なのかなど、それぞれの問題について知識を深め、個人としての意見を英語で発表し、互いに意見を交換することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回の授業は、①Warm-up ②Vocabulary ③Note-taking ④Shadowing ⑤Comprehension ⑥Extensionの順序で進行します。それぞれのトピックの概要を英語で表現し、それに対して自分の意見を英語でまとめることが、毎回の授業の目標です。毎授業後、小テストとレポートがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の最初に前回のトピックについて振り返りを行います。レポートで述べられたそれぞれの意見について考えをまとめるとともに、小テスト中の表現を確認します。

■授業計画

- ①Orientation: Procedure of the class/ Evaluation / What are SDGs?
- ②Unit 1 No Poverty
- ③Unit 2 Zero Hunger
- ④Unit 3 Good Health and Well-being
- ⑤Review: Watching Youtube (poverty/hunger/health)
- ⑥Unit 4 Quality Education
- ⑦Unit 5 Gender Equality
- ⑧Unit 6 Clean Water and Sanitation
- ⑨Unit 7 Affordable and Clean Energy
- ⑩Review: Watching Youtube (education/gender)/Directions for Presentations
- ⑪Directions/Preparation for Presentation (1)
- ⑫Directions/Preparation for Presentation (2)
- ⑬Directions/Preparation for Presentation (3)
- ⑭Rehearsal of Presentation
- ⑮Presentation

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

国際的な視野を深め、平易な英語を用いて自分の意見を発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

発表60% (delivery:20%/script20%/Powerpoint20%), short tests & reports40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

Making Choices. Miki Tagashira/Fergus Hann/Reiko Fujita. National Geographic Learning. ISBN:978-4-86312-394-6

【参考文献】

Wikipediaや Youtubeなど

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業後に小テストと簡単なライティングのレポートを課します。レポートに表現された意見から、次回の授業の初めにそれぞれのトピックの問題点や解決策を考えます。また小テストで焦点をあてた語彙や表現などを演習するので、ノートにまとめておくことが必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

自分の生活も大きな世界の流れに巻き込まれていることを認識し、世界が当面する問題を自分の問題としてとらえることが大切です。

科目名	実用英語Ⅲ(国際協力)
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	竹内 康二

■講義の目的および概要

実用英語Ⅱと連動して、英語を用いて国際的な問題について理解を深め、その原因や解決を妨げている障害などを考察し、自分の意見を簡潔な英語を用いて表現することを目的とします。特に、気候変動や平和な社会の構築など、現在の喫緊の問題について焦点を当て、現状を把握し、個人やコミュニティが持つ役割や協力について意見をまとめ発表します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

それぞれのトピックについて基本的な知識をまとめるとともに、Ted TalksやBBC/CNNなどの情報に加え、国際的な問題について理解を深め、その原因や解決策を考えます。実用英語Ⅱのshadowingなども引き続き行い、英語の基礎的なコミュニケーション力の向上も目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の最初に前回のトピックについて振り返りを行います。レポートで述べられたそれぞれの意見について考えをまとめるとともに、小テスト中の表現を確認します。

■授業計画

- ①Orientation: Procedure of the class/Evaluation/SDGs
- ②Unit8: Decent Work and Economic Growth
- ③Unit10: Reduced Inequalities
- ④Unit11: Sustainable Cities and Communities
- ⑤Unit12: Responsible Consumption and Production
- ⑥Review
- ⑦Unit13&14: Climate Action / Life below Water
- ⑧Unit13&15: Climate Action / Life on Land
- ⑨Unit16: Peace, Justice & Strong Institutions
- ⑩Unit16: Peace & Migration
- ⑪Directions/Preparation for Presentation (1)
- ⑫Directions/Preparation for Presentation (2)
- ⑬Directions/Preparation for Presentation (3)
- ⑭Rehearsal of Presentation
- ⑮Presentation

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

国際問題について知識と理解を深め、簡潔な英語を用いて国際協力について自分の意見を表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

発表60% (delivery 20%, script20%, powerpoint20%), short tests and reports40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

Making Choices. Miki Tagashira/Fergus Hann/Reiko Fuita. National Geographic Learning. ISBN:978-4-86312-394-6 (実用英語Ⅱから引き続き使用)

【参考文献】

CNN/BBC/Ted Talks/Wikipedia など

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業後に小テストと簡単なライティングのレポートを課します。レポートに表現された意見から、次回の授業の初めにそれぞれのトピックの問題点や解決策を考えます。また小テストで焦点を当てた語彙や表現などを演習するので、ノートにまとめておくことが必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

SDGsについて、批判的精神をもって自分の問題として考えることが大切です。 2023（令和5）年4月1日

科目名	アカデミックライティング I
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	高橋 伸

■講義の目的および概要

この科目は、4年次の「卒業研究」(卒業論文)の作成に向けて、「何が問題か」「その問題をどのように考えるか」「問題解決には何が必要か」など、論理的思考を養い、卒業論文につなげることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、受講生相互の主体的活動を含んだ演習形式で行います。グループ活動を行い、他者の考えと自分の考えとの違いを考えたり、他者の助けを借りて、自らの考えを深めたりしながら、思考力を発揮します。

【課題に対するフィードバックの方法】

個々のレポートに関して、アイデアの提案や反対意見の提示などを通して、サポート的フィードバックを行い、さらに思考を深めていく方法を取ります。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 学術論文とは何か
- ③ テーマの選択 「問い」を立てる
- ④ 文献研究 実証研究
- ⑤ 先行研究 引用をする、参考文献を示す
- ⑥ 画像やデータを読む
- ⑦ 共通テーマに関する活動
- ⑧ 共通テーマに関する問いを立てる
- ⑨ 中間の振り返りとフィードバック
- ⑩ 個々のテーマに関する活動 資料収集
- ⑪ 個々のテーマに関する活動 交流
- ⑫ レポート執筆1
- ⑬ レポート執筆2
- ⑭ レポート完成
- ⑮ 交流と振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・資料を解釈し、他者の解釈と比較しながら多角的に思考することができる。
- ・論文に必要な表現の仕方を身に付けることができる。
- ・論理的な文章を書くことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

中間発表：30%

最終レポート：40% 最終レポートは4000字以上とします。

授業後の振り返りと次時の準備：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

統一的なものは用いない

【参考文献】

佐渡島紗織・吉野亜矢子(2021)『これから研究を書くひとのためのガイドブック』
ひつじ書房

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・配付されるテキストの読解
- ・発表のための情報収集 発表準備
- ・レポート執筆のための準備

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業内で他者との相互交流を行います。その点をふまえて履修を決めてください。

科目名	アカデミックライティングⅡ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード

■講義の目的および概要

アカデミックライティングⅡは、IELTSなどの公式試験でよく出題されるようなトピックを用い、時間制限のあるライティング試験やアカデミックなコースワークのエッセイに重要なライティングスキルを練習する。学生は批判的思考を使い、自分の文章に責任を持つことを学ぶ。このコースはリーディングとスピーキングも含まれる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

週ごとのテーマ（スポーツ、環境、犯罪など）に関するプレリーディングを行い、それを例としてライティングテクニック、練習、学生同士のレビューのインタラクティブな講義を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業開始時に講師が前回の学生のパフォーマンスについて解説し、コース中盤にフィードバックセッションを設ける。

■授業計画

- ①Orientation: Paragraph structure
- ②Coherent order of information
- ③Defining key terms
- ④Paraphrasing vs Summarising
- ⑤Analysing essay questions and Brainstorming ideas
- ⑥Generalising vs stating a stance
- ⑦Introductions and Conclusions
- ⑧Developing body paragraph points
- ⑨Writing feedback session
- ⑩Cause and effect
- ⑪Compare and contrast
- ⑫Problem solution
- ⑬Opinion
- ⑭Preparation for final writing assignment
- ⑮最終課題（エッセイ）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

このコースは、より効果的なアカデミック英語エッセイを書くことを目的とする。また、批判的思考を養い、明確な意見を述べたり、自分のライティングを編集するなど、ライティングプロセスを管理する方法を学ぶ。また、IELTSやTOEFLなどの時間制限のあるライティング試験でより良い成績を修めることができるようになることが期待される。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

自文化と異文化を理解し発信することに関する知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】

歴史・文化・宗教・習慣に関する資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

■成績評価基準と方法

授業中のパフォーマンス 20%
継続的評価：アカデミックポキャブラリーの記録 30%
最終課題（エッセイ） 50%

■テキスト・参考文献

教材は講師が資料を配布する。

【参考文献】

『Longman Academic Writing Series 3: Paragraphs to Essays』
著者：Alice Oshima & Ann Hogue
出版社：Pearson

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に、次のトピックを紹介し、目標とするアカデミックな語彙を含むプレリーディングをmanabaで行う。これを読んで、テーマについて各自ブレインストーミングを行い、知らない単語を確認すること。

【必要な時間】

授業終了後、自分の語彙記録を更新する。任意で講師にライティングワークを提出することも可能である。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

すべての言語スキルはつながっています。幅広いトピックを読めば読むほど、より効果的に文章を書くことができます。できるだけ多くのアカデミック文書とトピックを復習してください。

科目名	認知言語学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	金庭 香理

■講義の目的および概要

【2023年度科目「心理言語学」と同内容です】
本講義は言語教育の視点から、言語運用における心理過程などを明らかにしようとするものである。特に、外国語習得のメカニズムを明らかにする分野である第二言語習得論の基礎を学び、効果的な日本語教育について考える。また、記憶の仕組みや言語理解の過程について基礎的な事項を学び、日本語教育への応用を考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
基本的には講義形式で行いますが、講義理解を促すため、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れます。学生の能動的な学修が求められます。

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内にて解説し、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

日本語教師課程の「談話理解、言語学習、習得過程（第一言語・第二言語）、学習ストラテジー、異文化受容・適応、日本語の学習・教育の情意的側面、中間言語分析、受容・理解能力、言語運用能力、社会文化能力、対人関係能力、異文化調整能力」に対応した内容です。

概ね以下の内容で講義を展開する予定。

- ①ガイダンス
- ②ことばの発達－第一言語習得－
- ③第二言語習得研究とは
- ④中間言語の発達
- ⑤母語の影響
- ⑥習得順序
- ⑦インプット、アウトプット
- ⑧文法学習の効果
- ⑨誤りの訂正、フィードバック
- ⑩年齢の影響
- ⑪言語適性
- ⑫学習者要因
- ⑬記憶の仕組み
- ⑭まとめ
- ⑮テスト

※不測の事態のときは、オンライン授業となることがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
・効果的な日本語教育を考えるために、学習者の言語情報の処理過程、学習の仕組み、学習の方法について理解する。
・学習者に合わせた日本語教育を考えるために、言語の習得過程、学習者要因、学習ストラテジーについて理解する。
・言語習得のメカニズムを踏まえた日本語の指導方法についての知識を得る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・課題に対する取り組み、授業への参加度 40%
- ・小テスト 30%
- ・期末試験 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『日本語を教えるための第二言語習得論入門』大関浩美著（くろしお出版）

【参考文献】
『ことばとこころ入門 心理言語学』村杉恵子（みみずく舎）
『日本語教師のための新しい言語習得概論』小柳かおる（スリーエーネットワーク）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 次回の授業範囲について予習してください。
- ・ 専門用語調べたり、重要事項をノートにまとめてください。

【必要な時間】

事前・事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

日本語教師を志望する人もそうでない人も、興味がある方の受講を歓迎します。

科目名	多文化交流 I
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	杉江 聡子

■講義の目的および概要

この授業は、国際化や多様化が進む社会と言語や文化の関係を考え、異なる言語・文化を背景とする相手とのコミュニケーションのあり方や方略について理解したうえで、言語・非言語を用いたコミュニケーション活動を通して、多様な人々との関係構築に役立つための知識とスキルを身に付けることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。

対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。

遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

中国語の産業通訳、観光ガイド、企業インバウンド研修の実務経験を有する教員が、アジアの社会、言語、文化の多様性や日本とのコミュニケーション様式の相違などに配慮した実践的なコミュニケーション方略を取り入れながら指導します。

教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども取り入れます。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

・授業内容

多文化共生社会における、異なる文化・言語を持つ人々の思考、行動、解釈の相違や円滑なコミュニケーション方略について、コミュニケーション実践を通じて体験的に学びます。

言語・非言語コミュニケーションの効果、限界、可能性などについて、グラフィックファシリテーションの手法を取り入れながら学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・授業の冒頭で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。

・授業中に出席された質問やコメントに授業内で回答します。

・オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をします。

■授業計画

- ①ガイダンス（自己紹介、異文化コミュニケーション体験の共有等）
- ②異文化間ソーシャルスキル、寛容性
- ③アサーション・トレーニング、ビジネスでの異文化接触
- ④国籍・アイデンティティ、宗教観
- ⑤言語習得、やさしい日本語
- ⑥手話、英語
- ⑦複言語主義、言語バリエーション
- ⑧グラフィックファシリテーションの基本
- ⑨グラフィックファシリテーションの基本
- ⑩グラフィックファシリテーションの基本
- ⑪グラフィックファシリテーションの基本
- ⑫グラフィックファシリテーション実践（専門家によるワークショップ型授業）
- ⑬グラフィックファシリテーション実践（専門家によるワークショップ型授業）
- ⑭成果発表と相互評価（専門家によるワークショップ型授業）
- ⑮振り返りとフィードバック

※専門家によるゲストレクチャーは、7月中旬の週末（2日間）を予定しているが、スケジュール調整により実施時期を変更する可能性がある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・世界と日本の日本語教育事情の概要について説明できる。
- ・国際社会における文化、政策、言語との関係や社会文化の背景にある慣習を理解できる。
- ・多様な社会や集団における言語・非言語コミュニケーション方略を実践できる。
- ・異なる文化・言語を持つ人々と共存するうえで必要な相互理解や文化の多様性に対する尊重の態度を身に着ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

授業への取り組みとグループワークの成果 30%
課題の提出と完成度 40%
発表やプレゼンテーションと完成度 30%

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

授業の中で適宜資料を配布する。

【参考文献】

『多文化社会で多様性を考えるワークブック』（研究社、2018）
『グローバル社会における異文化コミュニケーション—身近な「異」から考える』（池田理知子編、2019、三修社）
『Graphic Recorder —議論を可視化するグラフィックレコーディングの教科書』（清水淳子、2017、ビー・エヌ・エヌ新社）

■授業外学習**【具体的な内容】**

- ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・初回ガイダンスは特に、遠隔授業の受講環境（通信や端末の環境、連絡方法等）を確認するので、必ず出席すること。
- ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	多文化交流Ⅱ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	杉江 聡子

■講義の目的および概要

この授業は、国際化や多様化が進む社会と言語や文化の関係を考え、異なる言語・文化を背景とする相手とのコミュニケーションのあり方や方略について理解したうえで、言語・非言語を用いたコミュニケーション活動を通して、多様な人々との関係構築に役立てるための知識とスキルを身に付けることを目指します。
「異文化コミュニケーションⅠ」を基礎として、地域社会における、より実際の課題やテーマを扱います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。
対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。
遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

中国語の産業通訳、観光ガイド、企業インバウンド研修の実務経験を有する教員が、アジアの社会、言語、文化の多様性や日本とのコミュニケーション様式の相違などに配慮した実践的なコミュニケーション方略を取り入れながら指導します。
教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども取り入れます。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

・授業内容

多文化共生社会における、異なる文化・言語を持つ人々の思考、行動、解釈の相違や円滑なコミュニケーション方略について、コミュニケーション実践を通じて体験的に学びます。
日本と海外、内と外など、異なる価値観を持つ人々の視点から地域の魅力や課題を発見するための多言語コミュニケーション活動を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業の冒頭で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。
- ・授業中に出された質問やコメントに授業内で回答します。
- ・オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をします。

■授業計画

- ①ガイダンス（シラバス確認、春学期の振り返り）
- ②マイクロ・アグレッション、マイノリティとマジョリティ
- ③ユニバーサルデザイン、沖縄米軍基地問題
- ④ステレオタイプ、ナショナリズム
- ⑤地元・地域と異文化コミュニケーションの課題解決学習
- ⑥地元・地域と異文化コミュニケーションの課題解決学習
- ⑦地元・地域と異文化コミュニケーションの課題解決学習
- ⑧AIを用いた多言語・多文化学習
- ⑨AIを用いた多言語・多文化学習
- ⑩AIを用いた多言語・多文化学習
- ⑪地域の魅力をマルチメディア・多言語で表現する：専門家によるワークショップ型授業
- ⑫地域の魅力をマルチメディア・多言語で表現する：専門家によるワークショップ型授業
- ⑬最終成果物の作成と発表準備
- ⑭成果発表と相互評価
- ⑮振り返りとフィードバック

※専門家によるゲストレクチャーは、12月中旬～下旬を予定しているが、スケジュール調整により実施時期を変更する可能性がある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・多様な社会や集団における言語・非言語コミュニケーション方略を実践できる。
- ・異なる文化・言語を持つ人々と共存するうえで必要な相互理解や文化の多様性に対する尊重の態度を身に着ける。
- ・地域の魅力や課題を発見し、言語・非言語コミュニケーションの手法を用いて表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- 授業への取り組みとグループワークの成果 30%
- 課題の提出と完成度 40%
- 発表やプレゼンテーションと完成度 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業の中で適宜資料を配布する。

【参考文献】

- 『多文化社会で多様性を考えるワークブック』（研究社、2018）
- 『グローバル社会における異文化コミュニケーション—身近な「異」から考える』（池田理知子編、2019、三修社）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word、PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	日本史演習
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

- ・日本史(文献史学)の手法である「史料」と「論文(参考文献)」の扱いについて学ぶ講義である。
- ・演習形式の講義である。履修者(学生)の調査、発表、史料・論文輪読などが主な内容となる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

—ディスカッション、アクティブラーニング

- ・講義者が配布した史料、テーマについて、学生が調査、まとめることを主体とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・講義中に講義者から口頭ないし文書で実施する。

■授業計画

- ①. ガイダンス—日本史の研究手法とは—
- ②. 自由に発表 —各自の興味があるテーマと信憑性チェック
- ③. 文献史学の調査法1—史料の読み方
- ④. 文献史学の調査法2—史料の読み方 実践
- ⑤. 文献史学の調査法3—史料の読み方 語釈
- ⑥. 文献史学の調査法4—史料の読み方 実践
- ⑦. 文献史学の調査法5—史料からテーマを決める
- ⑧. 文献史学の調査法6—史料からテーマを決める 実践
- ⑨. 文献史学の調査法7—史料輪読
- ⑩. 文献史学の調査法8—史料輪読 実践
- ⑪. 研究発表1—これまでの調査法をふまえ
- ⑫. 研究発表2—これまでの調査法をふまえ 実践
- ⑬. 研究発表3—テーマを深める
- ⑭. 研究発表4—テーマを深める 実践
- ⑮. 研究発表5—まとめもふくめて

※履修者の状況(発表の進捗、調査の進捗など)に応じて、内容を変更、実施回数を増減する場合がある。

※全体的に、感染症の影響で、シラバスの内容を変更する場合がある。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・文献史学の手法を身につける。
- ・学生が主体的に調査、研究を行えるようになる。
- ・過去が現在に影響を与えているという他者への共感と想像力を養う。
- ・自分の興味、関心を他者に正確に伝える力と、自分の関心を社会の発展など、大きな問題関心へつなげる意識に触れる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・講義中…課題発表など、50%
- ・講義外…発表の感想、まとめレポートなど(授業外) 50%

※コピー、剽窃、虚偽の連絡、自分で実施していないもの、その他不正は、上記の評価と無関係に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中に指示する。

【参考文献】

浜田久美子『日本史を学ぶための図書館活用術』(2020年、吉川弘文館)。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・各回、4時間程度。具体的内容は、史料・文献の読解と要約、語釈、参考文献の調査などである。
- ・基本的に、①「調査法の教授(授業中。90分)」→②「授業外で準備(2~4時間)」+③「授業中に発表(授業中。90分)」の繰り返しである。学生が主体的に②を実施することが講義の中核となるので、これにかかる時間が授業以外に必要な点、考慮して履修すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・私語、ほかの受講者に迷惑がかかる行為、いわゆるコピーや剽窃、自分で実施をしていないもの、そのほか不正行為や授業担当者が必要と判断したことについては厳正に対処する。
- ・履修者の数が多すぎる場合は、相談の上、人数制限をする場合がある。これは授業が演習形式であるという性質及び、講義の質維持の観点からである。
- ・感染症の状況などに応じた授業形態の変化に応じて、シラパスの内容を変更する場合がある。ただし、到達目標などは変更しない。

科目名	歴史地理学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、地理学の中でも異質な「時間」と「空間」を同時に視野とする学問に触れることである。

歴史という「時間」の中で起こった事実を地理学の「空間」でとらえるという研究方法に触れることで、歴史学との違いに気づいてもらうことである。それは、学問の多様性を認識してもらうことにもつながると考えている。

講義の3回目までは歴史地理学の定義、概念等の説明をするが、その後の中心は、具体的な様々な研究内容を簡単に紹介するだけである。取り上げる「空間」は、日本国内だけではなく、国外の「空間」を研究した事例を紹介することもある。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には資料とパワーポイントを利用した講義形式で実施する。各回において、テーマごとに課題レポートを行い、提出する。

課題レポートの中には課題解決型の内容も含んでいる。そして、最後の授業では、簡単な歴史地理学としての実践も行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時の課題については、次時の講義で毎時解説し、フィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス・歴史地理学とはなにか。
- ②歴史地理学の基礎概念
- ③歴史地理学の本質理論と論理構造
- ④先史の歴史地理（先史地理学と長江文明の事例）
- ⑤古代の歴史地理1（条里制の復原事例）
- ⑥古代の歴史地理2（港湾の復原事例）
- ⑦中世・近世の歴史地理1（主な研究対象と城郭）
- ⑧中世・近世の歴史地理2（中世城郭の復原事例）
- ⑨近代の歴史地理1（必要な基本フレーム）
- ⑩近代の歴史地理2（交通と都市に関する復原事例）
- ⑪近代の歴史地理3（国外都市の復原事例）
- ⑫北海道の歴史地理1（北海道史と蝦夷地陣屋の復原事例）
- ⑬北海道の歴史地理2（北海道開拓地の復原事例）
- ⑭北海道の歴史地理3（北海道の港湾の復原事例）
- ⑮北海道の歴史地理4（札幌の復原事例）・簡単な実践

※④以降の内容は変更することもある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 歴史地理学と歴史学の違いを理解できる。
- ② 「時の断面」を意識した歴史地図を作成し、現代における問題点を推論できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- | | |
|--------|-----|
| ①毎時の課題 | 25% |
| ②簡単な実践 | 25% |
| ③定期テスト | 50% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎時のレジュメ 配布

【参考文献】

菊地利夫『歴史地理学方法論』大明堂

■授業外学習

【具体的な内容】

予習としては、前時の授業内容の意味合いを確認すること。本時の授業を聴く上での参考になる。毎時の課題にも反映される。

定期テストの関係もあるので、内容理解を中心にした復習が必要。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・授業時に発言を求めらるので、積極的に参加してください。
- ・中学や高校時代に使用した地図帳があれば便利なので授業時に持参してください。
- ・暗記よりも内容を理解することを中心に授業を受けてください。

科目名	文化資源学
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	越田 賢一郎

■講義の目的および概要

「文化資源」とは何でしょうか？人類は自然環境の中で、環境に様々な働きかけをしながら生活してきました。その結果生み出されてきたのが文化であり、長い歴史を経て、現在を築き上げてきた基盤となります。現在、私たちが生活している場に残されたものの中から、文化財として保存されるものがある一方、知らずに失われていくものがあります。そこに目を向けて、私たちの未来の生活の中に生かそうと考える時、私たちの身の回りのものは「文化資源」となり、それが生かされていくときに文化遺産となっていきます。今私たちが目を向けていかなければいけないものは何かを考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式と現場フィールドワークを併用していく。
その結果を発表し、討論形式でのまとめを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義で学んだことをフィールドワークで体験してみる。実際に現場に出て、自らの感覚でとらえ、それを持ち帰って討議をする。さらにその活用計画を考え、出来る範囲で実行し、それを討議の中で相互に評価しあう。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②文化資源とは？
- ③市民遺産から世界遺産まで
- ④身の回りの文化資源を探そう (1)
- ⑤身の回りの文化資源を探そう (2) 札幌の北海道遺産
- ⑥札幌の文化資源を探そう (フィールドワーク)
- ⑦文化財保護法を読んでみよう (1) 様々な文化財と日本遺産
- ⑧文化財保護法を読んでみよう (2) 新しい文化財の創出
- ⑨縄文遺跡群の世界遺産登録 (1) 歴史的価値
- ⑩縄文遺跡群の世界遺産登録 (2) 地域と世界遺産
- ⑪縄文遺跡群の世界遺産登録 (3) 地域の活動と町おこし
- ⑫私の身近な文化資源 (発表) (1)
- ⑬私の身近な文化資源 (発表) (2)
- ⑭私の身近な文化資源 (発表) (3)
- ⑮まとめ (討論)

* フィールドワークは新型コロナ禍の状況を見ながら実施する。講義時間外で実施することになる可能性が高い (現地集合・現地解散：交通費がかかる) ので注意。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人類の文化とは何かを理解することを第1とする。文化資源の意味を理解し、身の回りの文化資源を探してみる。

第2にそれを生かすにはどのような方法があるのか、観光と町おこしの視点で考えることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発表 (40%)
討論内容 (20%)
フィールドワークレポート (20%)
小レポート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回プリントを配布する。また、見学地点のパンフレット、ホームページからの情報などを利用する。

【参考文献】

田中輝美2017『関係人口をつくる』木楽舎

■授業外学習

【具体的な内容】自分が生まれ育った地域の文化財をあらかじめ調べておくこと。2023（令和5）年4月1日
た今住んでいる場所の文化資源を実際に歩いて探すこと。

【必要な時間】

地域活動のコアとなるのが、博物館である場合が多い。休日等を利用しての博物館見学などが必要となる。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークは新型コロナ禍の状況を見ながら実施する。講義時間外で実施することになる可能性が強い（現地集合・現地解散：交通費がかかる）ので注意。
留学生は、自国のことについて発表することもありうる。

科目名	文化情報アーカイブ論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	水崎 禎

■講義の目的および概要

アーカイブという言葉が多くの場面で用いられるようになっております。この授業ではアーカイブとは何かということを理解したうえで、文化に関するアーカイブの在り方を学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式での授業が基本ですが、授業で学んだ知識を定着させ応用する能力を助長するため、授業の多くの場面で各自の意見を求めます。尚、COVID-19への対応、留学生の入国状況などにより、授業内容の変更、それに伴う評価方法の変更が生じる可能性もあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス：授業の目的および概要
- ②アーカイブの定義
- ③アーカイブの歴史 —— アーカイブの起源
- ④アーカイブの歴史 —— 中世以降のアーカイブの在り方
- ⑤アーカイブの原則
- ⑥アーカイブの形成
- ⑦アーカイブの保存
- ⑧文化とは
- ⑨無形文化財の資料
- ⑩歴史学、考古学とのかかわり
- ⑪教育への活用
- ⑫今後のアーカイブに求められるもの
- ⑬アーカイブ関連トピック
- ⑭「文化情報アーカイブ」についての課題とまとめ
- ⑮試験と総括

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

アーカイブとは何かということを理解したうえで、文化という領域に於いてのアーカイブの在り方を指摘し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

試験 80%
 毎回の設問シート 15%
 課題 5%
 ※受講態度に著しい問題があった場合は、成績を不合格とする可能性もあります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜印刷物を配布いたします。

【参考文献】

参考文献等に関しては、必要に応じて授業でその都度紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

各回の授業内容が以降の授業にかかわってきます。よって、授業で学んだことはしっかりと復習し、他の回の授業でも応用して反映できるよう心がけて下さい。疑問点がある場合は授業で講師に確認して下さい。

予習としては、シラバスに示された次回の講義タイトルに関連した出来事を意識し、自分なりの考えをもって、次回の授業に臨んで下さい。

復習は、授業で学んだことや自身でメモしたことを忘れる前に、今後へ活かせるようにまとめる等して下さい。

日頃から、アーカイブや文化に関するニュースがないか、授業で学んだ事柄と関連する出来事がないかを意識し、自分なりの思考を巡らせて下さい。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

秋学期開講の『デジタル・アーカイブス論』と関連した科目です。
学芸員課程の科目とも関連する内容が多い科目です。

科目名	デジタル・アーカイブ論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	水崎 禎

■講義の目的および概要

記録媒体のアナログからデジタルへの変換が急加速している現代社会に於いて、アーカイブに於いてもデジタル化に伴い多くの対応が求められております。この授業ではこれまでの（アナログ）アーカイブに対して、デジタル・アーカイブとは何かということを理解したうえで、デジタル・アーカイブを取り巻く状況と活用を学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式での授業が基本ですが、授業で学んだ知識を定着させ応用する能力を助長するため、授業の多くの場面で各自の意見を求めます。尚、COVID-19への対応、留学生の入国状況などにより、授業内容の変更、それに伴う評価方法の変更が生じる可能性もあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス：授業の目的および概要、アーカイブの定義の確認
- ②デジタル・アーカイブとは
- ③デジタル・アーカイブの評価
- ④デジタル・アーカイブの対象
- ⑤資料の収集とデジタル化
- ⑥関連する法 ～著作権～
- ⑦関連する法
～肖像権・個人情報保護法・クリエイティブコモンライセンス&自由利用マーク～
- ⑧トータルカルチャーとサブカルチャー
- ⑨デジタル技術の進化と活用
- ⑩デジタル・アーカイブが可能にしたこと
- ⑪鑑賞から体験へ
- ⑫デジタル・アーカイブを取り入れたストーリーの構成
- ⑬デジタル・アーカイブの課題
- ⑭「デジタル・アーカイブ」についてのまとめと今後について
- ⑮試験と総括

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

デジタル・アーカイブとは何かということを理解したうえで、デジタル・アーカイブの在り方を指摘し、活用方法を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

試験：75%

課題：10%

毎回の設問シート：15%

※受講態度に著しい問題があった場合は、成績を不合格とする可能性もあります。

※提出課題の遅延は減点の対象となります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜印刷物を配布します。

【参考文献】

参考文献等に関しては、必要に応じて授業でその都度紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

各回の授業内容が以降の授業にかかわってきます。よって、授業で学んだことはしっかりと復習し、他の回の授業でも応用して反映できるよう心がけて下さい。疑問点がある場合は授業で講師に確認して下さい。

予習としては、シラバスに示された次回の講義タイトルに関連した出来事を意識し、自分なりの考えをもって、次回の授業に臨んで下さい。

復習は、授業で学んだことや自身でメモしたことを忘れる前に、今後へ活かせるようにまとめる等して下さい。

日頃から、デジタル・アーカイブに関するニュースがないか、授業で学んだ事柄と関連する出来事がないかを意識し、自分なりの思考を巡らせて下さい。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

春学期開講の『文化情報アーカイブ論』と関連した科目です。
学芸員課程の科目とも関連する内容が多い科目です。

科目名	博物館情報・メディア論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	水崎 禎

■講義の目的および概要

現代社会においては様々なメディアの形態が存在します。そして、それらは日々進化し、変化しています。情報はこれらメディアによって伝達、およびアクセスされます。博物館でも、その活動においてどのようなメディアをどのように利用するのかを考えなければなりません。また、情報の種類とその扱い、および管理についての理解も重要です。博物館情報・メディア論の目的は、博物館活動において必要な情報について理解し、情報化社会においての博物館のあり方を学修することです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式での授業が基本ですが、学期の中盤から後半で体感学習等を予定しております。また、授業では適宜学生を指名して意見や考えを答えてもらいます。尚、COVID-19への対応、留学生の入学状況などにより、授業内容の変更、それに伴う評価方法の変更が生じる可能性もあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス：授業の目的および概要、博物館の定義の確認
- ②「博物館情報・メディア論」について
- ③情報の種類について
- ④メディアについて
- ⑤ドキュメンテーション / データベース
- ⑥博物館情報と博物館の役割
- ⑦展示と情報メディア
- ⑧ホームページ
- ⑨ミュージアム・アイデンティティ：博物館のミッションとシンボルマーク
- ⑩情報の保護と権利：知的財産権、著作権
- ⑪情報の保護と権利：肖像権、個人情報
- ⑫博物館情報・メディアに関する事例
- ⑬情報伝達の体感
- ⑭「博物館と情報」についての課題とまとめ
- ⑮試験と総括

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

博物館における情報の保存・管理、および活用とメディアとの関連、これらについての課題等を理解し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

試験：75%

課題：10%

毎回の設問シート：15%

※提出課題の遅延は減点の対象となります。

※受講態度に著しい問題があった場合は、成績を不合格とする可能性もあります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜印刷物を配布します。

【参考文献】

参考文献等に関しては、必要に応じて授業でその都度紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

各回の授業内容が以降の授業にかかわってきます。また、この科目は他の学芸員課程の科目と関連しております。よって、授業で学んだことはしっかりと復習し、他の回の授業、および他の学芸員課程の科目でも応用して反映できるよう心がけて下さい。疑問点がある場合は授業で講師に確認して下さい。
予習としては、シラバスに示された次回の講義タイトルに関連した出来事を意識し、自分なりの考えをもって、次回の授業に臨んで下さい。
復習は、授業で学んだことや自身でメモしたことを忘れる前に、今後へ活かせるようにまとめる等して下さい。
日頃から、博物館における情報に関するニュースがないか、授業で学んだ事柄と関連する出来事がないかを意識し、自分なりの思考を巡らせて下さい。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

学芸員資格取得の必修科目です。

科目名	卒業研究[現文]
開講期・単位	4年 通年・選択 4単位・演習
担当者	坂梨 夏代、宇留野 健太、小内 透、横川 大輔、篠崎 敦史、越田 賢一郎、高橋 伸

■講義の目的および概要

大学で四年間学修した成果として相応しい質・量の卒業研究を行い、卒業論文などの成果物にままとめることを目的とする通年授業。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

課題の提出とそれをもとにした質疑応答を行う演習形式。受講学生と指導教員との個別指導が中心となる。

【課題に対するフィードバックの方法】

受講学生は、研究計画書、その都度の進捗状況報告、原稿などの課題を提出するが、これらの課題に対して教員はその都度フィードバックをする。受講学生は、教員からのフィードバックを踏まえて、次回までに課題を提出する。

■授業計画

春学期は研究計画の作成と先行研究のレビューを指導する。また仮説を検証するための調査計画の立て方、調査法を教授したうえで、夏休みに実際の調査を実施する。

- 1～5 研究計画の指導
- 6～10 研究の背景としての先行研究、そのレビュー
- 11～15 調査法やアンケート法の指導

秋学期は調査資料のデータ分析の仕方を指導する。定性的な分析も定量的な分析もどちらでも対応は可能。

- 16～20 研究データの分析と整理、論文のコンテンツ作り
- 21～25 論文の作成指導
- 26～29 論文の作成指導と発表の準備

30 卒業論文発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・一定以上の水準かつ分量を伴った一年程度のプロジェクトを遂行し、その成果をまとめ、他者に提示することができる。
- ・自らの関心を具体的な課題のかたちに磨き上げ、自分の言葉で説明することができる。
- ・その課題に対し仮説・検証を行い、他者に説得力のある形で自らの考えを説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

卒業研究としての成果物(卒業論文など)……100%

* 成績評価にあたっては、授業担当教員が主査、それ以外の関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で決定する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

統一的なテキストは用いない。

【参考文献】

受講学生の個別テーマに関しては、必要に応じて紹介する。巷に溢れる「論文の書き方」についての文献は読んでおいて損はないだろうが、参考以上にはならない。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時間は、その都度提出された課題に対するフィードバックとしての質疑応答が中心となるので、作業時間の圧倒的大部分は授業外となる。

自発的・自律的に学修に取り組まねば、長期にわたっておこなわれる一定以上の質と量を伴った学修成果を出せないことは言うまでもないだろう。

【必要な時間】

上述のことから、史資料の探索、その読解と分析、成果を一定水準の文章にまとめる作業は、週に4時間を下回りえない。

■その他

札幌国際大学人文学部現代文化学科で学んだ四年間の集大成となる作品を仕上げる授業です。意義ある四年間になるよう、積極的に取り組んでください。教員にできることは、それを応援することだけです。

科目名	博物館実習
開講期・単位	4年 通年・選択 3単位・実習
担当者	坂梨 夏代、越田 賢一郎

■講義の目的および概要

本講義は学芸員資格取得のための実習である。
 学内博物館、学外博物館での実習を行い、学芸員として必要な技術、知識の修得を目指す。博物館での実務を想定した作業実習となる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

通常の時間割での実習授業。博物館施設の見学。
 授業空き時間を使っての学内博物館の運営、管理業務にあたる。
 大学祭などで、展示企画、展示解説、体験学習などを実施する。
 グループワーク、ディスカッションなど学生が主体的に取り組む授業である。

【課題に対するフィードバックの方法】

通常開館時の博物館運営に関する報告を授業等で全員で確認する。
 企画などでおこなうディスカッションやグループワークの報告などを毎時間行う。
 博物館実習(公欠・1週間)における業務報告、全体反省会などを実施する。

■授業計画

授業計画

春学期

- ①ガイダンス
 - ②博物館解説について 博物館法改正の要点
 - ③清麗祭に向けての活動①担当決め
 - ④清麗祭に向けての活動②企画
 - ⑤清麗祭に向けての活動③準備
 - ⑥清麗祭に向けての活動④準備
 - ⑦清麗祭に向けての活動⑤準備
 - ⑧清麗祭に向けての活動⑥準備
 - ⑨清麗祭実施
 - ⑩清麗祭実施
 - ⑪清麗祭の反省会
 - ⑫館園実習準備①実習手順
 - ⑬館園実習準備②展示解説企画
 - ⑭館園実習準備③展示解説実施
 - ⑮春学期総括
- ※通常授業とは別に博物館当番実習をおこなう(日程等は調整)

秋学期

- ①収蔵資料の取り扱い概論
 - ②軸物の取り扱い(1)
 - ③軸物の取り扱い(2)
 - ④巻物の取り扱い(1)
 - ⑤巻物の取り扱い(2)
 - ⑥卒業制作立案(1)
 - ⑦卒業制作立案(2)
 - ⑧企画展示立案(1)
 - ⑨企画展示立案(2)
 - ⑩卒業制作作成・企画展示実施(1)
 - ⑪卒業制作作成・企画展示実施(2)
 - ⑫卒業制作作成・企画展示実施(3)
 - ⑬大学博物館実習報告会
 - ⑭博物館実習反省会
 - ⑮反省・まとめ
- ※秋学期は大学博物館実習を実施する
 博物館当番および実習は鍵の管理、館開閉業務、温湿度管理、来館者への展示解説、

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

博物館の展示や諸活動について理解し、評価できるようになること。また大学博物館での展示解説では来館者に応じた解説が出来るレベルを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- | | |
|----------------------|-------------|
| (DP2)【コミュニケーション能力】 | 展示解説 |
| (DP3)【課題を発見し、解決する力】 | 展示企画と実施 |
| (DP4)【多様性の理解と協働する力】 | アイヌ文化への理解 |
| (DP5)【能動的に学び続ける力】 | 博物館資料のアーカイブ |
| (DP6)【社会に貢献する姿勢到達目標】 | 文化芸術基本法 の精神 |

■成績評価基準と方法

大学博物館実習業務（40%）
大学祭業務（20%）
グループ活動（20%）
博物館見学レポート2回（20%）

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特になし。適宜プリントを配布する。

【参考文献】
『博物館実習マニュアル』 2002 全国大学博物館学講座協議会西日本【テキスト】

■授業外学習

【具体的な内容】
各自博物館等を見学し、館園見学レポート提出のこと。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・博物館学芸員資格の必修科目を取得済みもしくは取得中の学生しか原則履修を認めない。
- ・実習費6,000円を徴収する。

科目名	テーマ研究 I [現文]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

本授業では、受講生がそれぞれの関心にもとづいてテーマを設定し、各自のテーマに沿って調査・研究を行い、そのプロセスや成果を報告します。各授業では、その報告をもとに質疑応答や討論を行い各自の研究をよりよいものにします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数の演習形式の授業とします。毎回の授業では各自の研究の進捗状況や成果を報告します。

【課題に対するフィードバックの方法】

当日の議論に参加し、各自の報告やそれにもとづく討論内容に関して、質疑応答やコメントを行うことを通して、フィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション テーマ設定について
- ②テーマの決定 (1)
- ③テーマの決定 (2)
- ④研究計画の報告 (1)
- ⑤研究計画の報告 (2)
- ⑥資料・文献収集 (1)
- ⑦資料・文献収集 (2)
- ⑧補足資料の収集
- ⑨調査の設計と設定
- ⑩調査項目の設定 (1)
- ⑪調査項目の設定 (2)
- ⑫実査 (1)
- ⑬実査 (2)
- ⑭まとめと振り返り
- ⑮ゼミ発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自らの問題意識を明確にし、それによって調べ論理的な思考に基づき、レポートを執筆できるようになることを目標とします。また、研究のプロセスや成果をプレゼンテーションできるようになることを目標にします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

毎回の報告	20%
最終レポート	40%
最終プレゼン	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

授業の中で適宜、紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の前には各回の課題に沿った作業を行っておいてください。授業後には議論を踏まえて研究計画の再検討を行ってください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	テーマ研究 I [現文]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	坂梨 夏代、越田 賢一郎

■講義の目的および概要

本授業は研究レポートを作成するための論文作成指導を目的としている。考古学、先史学、民族学、文化人類学、博物館学領域での論文指導および研究指導を行なう。自分でテーマを設定して資料を収集し、情報整理を行い、論文執筆の準備を行う。また地域文化資源の活用をテーマにフィールドワークも実施する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ①各自のテーマに沿って、課題を与え、その課題について発表し、全員で討議する形で授業を行なう。レジュメ、パワーポイントなどを使った発表等。
- ②フィールドワークの実施

【課題に対するフィードバックの方法】

レジュメ、レポート等に対して担当者が内容・文章等を指導するフィールドワークの成果を発表し、活動内容、成果、発表等に対して振り返り授業を行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②論文について
- ③研究テーマの設定法と調査方法
- ④資料調査法（文献調査、実物資料調査、写真調査など）
- ⑤文献の読み方とまとめ方
- ⑥執筆の要領、引用、要約の仕方
- ⑦レジュメ発表（1）
- ⑧レジュメ発表（2）
- ⑨フィールドワーク準備
- ⑩フィールドワーク実施
- ⑪フィールドワーク報告
- ⑫グラフ、表、図版作成について
- ⑬レジュメ発表（1）
- ⑭レジュメ発表（2）
- ⑮中間報告

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

文献収集、資料整理を通じて、研究論文またはレポートの基本的な執筆方法を理解し、論文執筆ができるようになる。フィールドワークを通じて、地域資源の活用について自分なりの考えを持ち、活動ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発表	30%
レジュメ	30%
中間報告	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。適宜配布する。

【参考文献】

『季刊まちづくり』八甫谷 邦明編 学芸社 など

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外においても、図書館、博物館等を訪ね、資料収集、準備等を重ねること。

【事前事後学習】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークは一部自己負担がある（最大10,000円程度）
※コロナの状況により授業内容等に変更あり。

科目名	テーマ研究Ⅰ[現文]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

○研究とは、自らの「楽しい」、「知りたい」気持ちからはじまり、その背後にある構造を明らかにするものである。

【ゼミの目的・概要】

- ・「日本史(文献史学)」のゼミである。
- ・学生主体の研究活動、調査報告が主体となる。講義時間は、基本的に①研究発表、②篠崎が指定した調査発表、③議論、となる。授業時間以外での調査、研究、文章・論文執筆が主体となること及び、口頭による質疑、議論を行うゼミであることを十分理解した上で履修すること。
- ・就職活動、卒業後の職業人としての前提としてゼミ活動を行う。具体例は、報告出来ない時の事前連絡連絡などである。この点を留意した上で履修すること。

【個別事象】

- ・4年次春学期・秋学期を通しての目標・・・卒業論文、卒業研究など、何らかの形での研究成果物を作成、完成させる。
- ・履修の際は、本シラバスの「その他」を熟読すること。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・課題解決型、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、アクティブラーニング、フィールドワーク(必要な場合)
- ・ゼミ生による研究報告・討論中心
- ・史料、参考文献など、文献史学の手順を必ずふまえた報告を行う。

【ICT機器】

- ・PC、プロジェクター、映像資料、zoomなど(遠隔の場合)

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・講義中に口頭ないし文書でのコメントをつけ、行う。
- ・卒業論文、卒業研究などに相当するものについては、添削を行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②研究状況確認 その1—これまでの活動の確認
- ③研究状況確認 その2—研究計画書作成など
- ④卒業論文・研究に向けて その1—主観と客観
- ⑤卒業論文・研究に向けて その2—実践編
- ⑥卒業論文・研究に向けて その3—参考文献のまとめ方
- ⑦卒業論文・研究に向けて その4—実践編
- ⑧卒業論文・研究に向けて その5—文章の書き方
- ⑨卒業論文・研究に向けて その6—実践編
- ⑩研究報告 その1—これまでの調査法をふまえて
- ⑪研究報告 その2
- ⑫研究報告 その3
- ⑬研究報告 その4
- ⑭まとめ発表の予行演習
- ⑮全体ゼミ発表

※14、15回目の授業は、全体ゼミ発表関係である。そのため、学科、ほかゼミの動向で内容を変更する場合がある。

※全体的に、感染症の影響で、シラバスの内容を変更する場合がある。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・自らテーマを設定し、主体的に調査、研究する手法と姿勢を身につける。
- ・論理的思考と表現力を身につける。
- ・先行研究整理や史料批判を通じ、文献史学の学問手法を学ぶ。
- ・議論を通じ、多角的視野と他者の意見を尊重する重要性を学ぶ。
- ・歴史学の調査を通じて、それが現代の日本・世界にどのような意味があるかを考え、異文化・過去・他者との交流の重要性に触れる
- ・卒業後の社会人として、ふさわしい態度と能力、社会常識を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・授業中…レジュメ、発表、発表の文章化したもの、質疑など—50%
- ・授業外…まとめレポート、まとめ発表など。卒業論文執筆予定者は、予備論文…50%

※コピー、剽窃、虚偽の連絡、その他不正は、上記の評価と無関係に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

- ・なし。講義中、指示する。

【参考文献】

- ・なし。講義中、指示する。

※論文執筆のための文章作成の推奨文献

- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中央公論新社、1981年）←第一に読むべきもの
- ・清水幾太郎『論文の書き方』（岩波書店、1959年）
- ・梅棹忠夫『知的生産の技術』（岩波書店、1969年）
- ・野内良三『日本語作文術』（中央公論新社、2010年）
- ・山田ズーニー『伝わる・揺さぶる！文章を書く』（PHP研究所、2001年）

■授業外学習**【具体的な内容】**

- 発表準備、文献調査、論文執筆など(各回、2～4時間程度)
- ・基本的に授業外での事前調査を中心とし、授業内はその成果報告を行うこととする。
- ・事後学習は、ゼミ中に指摘された問題、新たな史料、文献調査などを各自で行うこととする。
- ・各自の研究テーマに合わせ、フィールドワーク・学外の史料調査を行う場合あり。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・3年次、講義者(篠崎)の応用演習を履修していない学生が履修する場合は、事前に講義者と必要な教員(学科長)などに相談すること。
- ・卒業論文執筆予定者は、別途、「卒業研究」を履修すること。履修上の扱いなどについては、教員の助言をふまえること。
- ・コピー、出席の不正、虚偽の連絡、その他、講義者が不正と判断した行為については、厳正に対処する。
- ・学生が主体的に文献(文字資料)から研究を行うゼミである。文献を使用しないテーマや、文献(書籍)をとまなわないネット調査のみは認めない。また、他者(教員)が設定したテーマを行うゼミではないことに注意してから履修すること。
- ・下記に該当する場合、研究テーマの変更を求める場合がある。これをふまえた上で履修すること
- ①日本史、文献史学の学問分野とは異なる場合。また、学科、大学のこれまでの教育と異なるもの。
- ②差別・偏見を助長するもの、特定の政治的主張のためのもの、「結論ありき」の研究
- ③本講義の主題とはそぐわない研究(例、ある本を単に読むだけ、「この本1冊を半年かけて読みます」など、大学の研究として著しく作業時間が過大、ないし少ないもの)
- ④その他、講義者が不適当と判断したもの
- ・研究が上手いかわからない、発表が難しい時などは、必ず授業前に教員に相談をすること。
- ・感染症の状況に応じて、授業内容をシラバスから変更する場合がある。その場合も到達目標は変わらない。
- ・フィールドワークを実施する場合は、費用は履修者の負担となる。

科目名	テーマ研究 I [現文]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	高橋 伸

■講義の目的および概要

本講義は、「言葉」をテーマとして、言葉の仕組みや働きに対する理解を深めると共に、それぞれの課題に沿って、言葉について調査研究し、成果物作成を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習授業。各受講者がテーマに沿って調査研究をしてそれをまとめ、授業内で発表する。それに基づき、教員を含めた全員で質疑応答を行う。発表者は、その結果を踏まえ、さらなる調査研究へと向かい、最終的に「ゼミ論 I」として一定以上の論理的著作物にまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 輪番で行う調査研究成果の発表は、授業内の質疑応答のかたちでフィードバックする。
- ・ 最終成果物（「中間発表としてのゼミ論 I」）は、秋学期開始時にフィードバックする。

■授業計画

- ① ガイダンス—卒業論文、卒業研究作成に向けて
- ② 卒業論文・研究の作成に向けて 1
- ③ 卒業論文・研究の作成に向けて 2
- ④ 卒業論文・研究の作成に向けて 3
- ⑤ 卒業論文・研究の作成に向けて 4
- ⑥ 卒業論文・研究の作成に向けて 5
- ⑦ 卒業論文・研究の作成に向けて 6
- ⑧ 研究報告1—これまでの調査法をふまえて
- ⑨ 研究報告2
- ⑩ 研究報告3
- ⑪ 研究報告4
- ⑫ 研究報告5—改善点を見つける
- ⑬ 研究報告6
- ⑭ 成果発表会準備
- ⑮ 学修成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 他者の見解に耳を傾け、物の見方や考え方を交流できる。
- ・ 理解した内容を他者にわかりやすく自分の言葉で伝えることができる。
- ・ 言葉について調べ、言葉の役割や言葉と人の関わりについて文章で表現することができる。
- ・ 調査研究したことを他者に伝え、他者と学びを共有することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】
 (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

・ 調査研究発表 40%
 ・ レポート 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

統一的なテキストは用いない。

【参考文献】

受講者それぞれに示す。

■授業外学習

【具体的な内容】

—発表準備、文献調査、論文執筆など

- ・基本的に授業外での事前調査を中心とし、授業内はその成果報告を行うこととする。
- ・事後学習は、ゼミ中に指摘された問題、新たな資料、文献調査などを各自で行うこととする。
- ・各自の研究テーマに合わせ、フィールドワーク・学外の調査を行う場合がある。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・卒業論文執筆予定者は、別途、「卒業研究」を履修すること。履修上の扱いなどについては、教員の助言をふまえること。

科目名	テーマ研究 I [現文]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

「我々はどうのような時代・文化の中で生きているのか」を考えるために、各受講者がそれぞれのテーマをもって調査研究を行い、その結果を各自が報告する授業。教員はそれをもとに指導をする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習授業。各受講者がテーマに沿って授業外学習で調査研究をしてそれをまとめ、授業内で発表する。それに基づき、教員を含めた全員で質疑応答を行う。発表者は、その結果を踏まえ、さらなる調査研究へと向かう。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 輪番で行う調査研究成果の発表は、授業内の質疑応答のかたちでフィードバックする。
- ・ 最終成果物（「中間発表としてのゼミ論!」）は、秋学期開始時にコメント付きでフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス 研究テーマ決め
- ②これまでの調査の発表と今後の方向
- ③中間レポート1
- ④～⑬輪番で調査研究結果の報告と質疑応答
- ⑭学修成果発表に向けて
- ⑮学修成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 自分の問題関心に即しつつ、適切な問いを設定することができる。
- ・ その問いに答えるために、適切な調査研究ができる。
- ・ その結果を明瞭で論理的な文章で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・ 調査研究発表……50%
- ・ 学修成果発表…… (50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ 統一的なテキストは用いない

【参考文献】

- ・ 受講者全員に当てはまる参考文献はない。

■授業外学習

【具体的な内容】【必要な時間】

空き時間のほとんどを、文献の調査や読解、必要な史資料の探索と読解、整理に費やすことになる。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究 I [現文][秋入学生]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

「我々はどうのような時代・文化の中で生きているのか」を考えるために、各受講者がそれぞれのテーマをもって調査研究を行う授業。教員はそれをもとに論文にまとめる指導を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習授業。各受講者がテーマに沿って授業外学習で調査研究をしてそれをまとめ、授業内で発表する。それに基づき、教員を含めた全員で質疑応答を行う。発表者は、その結果を踏まえ、さらなる調査研究へと向かう。

【課題に対するフィードバックの方法】

・ 輪番で行う調査研究成果の発表は、授業内の質疑応答のかたちでフィードバックする。
 ・ 学修成果発表で高等報告したものに対しては、秋学期開始時にコメント付きでフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス 研究テーマ決め
- ②文献の調査の結果発表と議論
- ③～⑬輪番で調査研究結果の報告と質疑応答
- ⑭学修成果発表に向けて
- ⑮学修成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 自分の問題関心に即しつつ、適切な問いを設定することができる。
- ・ その問いに答えるために、適切な調査研究ができる。
- ・ その結果を明瞭で論理的な文章で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・ 調査研究発表……50%
- ・ 学修成果発表……50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ 統一的なテキストは用いない

【参考文献】

- ・ 受講者全員に当てはまる参考文献はない。

■授業外学習

【具体的な内容】・【必要な時間】

空き時間のほとんどを、文献の調査や読解、必要な史資料の探索と読解、整理に費やすことになる。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究 I [現文][秋入学生]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	宇留野 健太

■講義の目的および概要

本講義は、主に「外国語としての日本語」に関することがらについて研究することを目的とする。外国語としての日本語とは、日本語非母語話者から見た日本語という意味である。本講義では、卒業論文またはそれに相当する調査研究成果物の作成・発表を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講者がテーマに関する卒業論文または調査研究をレジュメ等にまとめ、授業内で発表する。その発表について受講者と教員の全員で質疑応答を行う。卒業論文・調査研究の作成・発表を踏まえ、最終的に一定以上の成果物を作成する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内において質疑応答というかたちでフィードバックを行う。

■授業計画

- ①ガイダンス/卒業論文・調査研究の作成について
- ②卒業論文・調査研究の作成 (1)
- ③卒業論文・調査研究の作成 (2)
- ④卒業論文・調査研究の作成 (3)
- ⑤卒業論文・調査研究の作成 (4)
- ⑥卒業論文・調査研究の作成 (5)
- ⑦卒業論文・調査研究の発表 (1)
- ⑧卒業論文・調査研究の発表 (2)
- ⑨卒業論文・調査研究の発表 (3)
- ⑩卒業論文・調査研究の発表 (4)
- ⑪学修成果発表会に向けて卒業論文・調査研究のまとめ (1)
- ⑫学修成果発表会に向けて卒業論文・調査研究のまとめ (2)
- ⑬学修成果発表会の準備 (1)
- ⑭学修成果発表会の準備 (2)
- ⑮学修成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・他の受講者の発表をよく聞き、その人の考え方を理解することができる。
- ・調査・研究した内容を他の受講者が理解できるように、様々な方法を用いて伝えることができる。
- ・自分の考えや意見を自らのことばで相手に伝えることができる。
- ・外国語としての日本語に関する調査・研究内容を論理的な文章で表現することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

卒業論文または調査研究の発表…50%
レポート …50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは用いない。

【参考文献】

受講者のテーマに沿い、適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前学習は研究テーマに関する調査、発表資料の作成が中心となる。
- ・事後学習は質疑応答で指摘された内容について、新たに調査・研究を行い、まとめ直すことが中心となる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

積極的な授業への参加が求められる。

科目名	テーマ研究Ⅱ[現文]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

本授業では、春学期で設定したテーマにもとづく調査結果をもとに、資料・データを整理・分析し、研究レポートを完成させるために、作業プロセスの報告と検討を行います。最終的には研究レポートを完成させることとなります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数の演習形式の授業とします。毎回の授業では各自のレポートの進捗状況や成果を報告します。

【課題に対するフィードバックの方法】

当日の議論に参加し、各自の報告やそれにもとづく討論内容に関して、質疑応答やコメントを行うことを通して、フィードバックします。

■授業計画

- ① 研究計画の確認
- ② 資料・データの整理 (1)
- ③ 資料・データの整理 (2)
- ④ 資料・データの分析 (1)
- ⑤ 資料・データの分析 (2)
- ⑥ 補足調査
- ⑦ 中間報告
- ⑧ 研究レポートの執筆計画 (1)
- ⑨ 研究レポートの執筆計画 (2)
- ⑩ 研究レポートの執筆と点検 (1)
- ⑪ 研究レポートの執筆と点検 (2)
- ⑫ 研究レポートの執筆と点検 (3)
- ⑬ 報告の準備・練習 (1)
- ⑭ 報告の準備・練習 (2)
- ⑮ ゼミ発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自らの問題意識を明確にし、それによって調べた結果をふまえ、論理的な思考にもとづいて、研究レポートを完成させ、そのレポートをもとにプレゼンテーションすることを目標にします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

毎回の報告	20%
研究レポート	40%
最終プレゼン	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

授業の中で適宜、紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の前には各回の課題に沿った作業を行っておいてください。授業後には議論を踏まえて研究作業の再検討を行ってください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[現文]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

「我々はどうのような時代・文化の中で生きているのか」を考えるために、各受講者がそれぞれのテーマをもって調査研究を行う授業。教員はそれをもとに論文指導をする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習授業。各受講者がテーマに沿って授業外学習で調査研究をしてそれをまとめ、授業内で発表する。それに基づき、教員を含めた全員で質疑応答を行う。発表者は、その結果を踏まえ、さらなる調査研究へと向かい、最終的に「ゼミ論Ⅰ」と呼ばれる一定以上の論理的著作物にまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 輪番で行う調査研究成果の発表は、授業内の質疑応答のかたちでフィードバックする。
- ・ 最終成果物に向けて成果発表会で報告するが、出席教員・学生から質疑応答がある。
- ・ それをもとにゼミ論Ⅱを完成させるが、そのフィードバックは必要に応じて行う。

■授業計画

- ①ガイダンスと秋学期の予定
 - ②～③輪番で研究調査の報告と質疑応答
 - ④・⑤「論文」の形式について
 - ⑥～⑬「論文」を書く作業
- 輪番制で、草稿を事前に提出し、ピア・リーディング/ピア・ティーチングを行い、相互に批評する
- ⑭学修成果発表に向けて
 - ⑮学修成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 自分の問題関心に即しつつ、適切な問いを設定することができる。
- ・ その問いに答えるために、適切な調査研究ができる。
- ・ その結果を明瞭で論理的な文章で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・ 授業内発表……50%
- ・ 学期末に提出する成果物……30%
- ・ 成果発表会での発表……20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ 統一的なテキストは用いない

【参考文献】

- ・ 受講者全員に当てはまる参考文献はない。

■授業外学習

【具体的な内容】・【必要な時間】

空き時間のほとんどを、文献の調査や読解、必要な史資料の探索と読解、整理に費やすことになる。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[現文]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	坂梨 夏代、越田 賢一郎

■講義の目的および概要

本授業は研究レポートを作成するための論文作成指導を目的としている。考古学、先史学、民族学、文化人類学、博物館学領域での論文指導および研究指導を行なう。自分でテーマを設定して資料を収集し、情報整理を行い、論文執筆の準備を行う。また地域文化資源の活用をテーマにフィールドワークも実施する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ①各自のテーマに沿って、課題を与え、その課題について発表し、全員で討議する形で授業を行なう。レジュメ、パワーポイントなどを使った発表等。
- ②フィールドワークにおいて地域資源を利用した展示の実施を行う(今金町)

【課題に対するフィードバックの方法】

レジュメ、レポート等に対して担当者が内容・文章等を指導する
フィールドワークの成果を発表し、活動内容、成果、発表等に対して振り返り授業を行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②進捗状況の確認(1)
- ③進捗状況の確認(2)
- ④論文の書き方の再確認(文献の読み方とまとめ方、執筆の要領、引用、要約の仕方、グラフ、表、図版作成についてなど)
- ⑤レジュメ発表(1)
- ⑥レジュメ発表(2)
- ⑦レジュメ発表(3)
- ⑧レジュメ発表(4)
- ⑨フィールドワーク準備
- ⑩フィールドワーク実施
- ⑪フィールドワーク報告
- ⑫レジュメ発表(5)
- ⑬レジュメ発表(6)
- ⑭レジュメ発表(7)
- ⑮最終報告

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

文献収集、資料整理を通じて、研究論文またはレポートの基本的な執筆方法を理解し、論文執筆ができるようになる。
フィールドワークを通じて、地域資源の活用について自分なりの考えを持ち、活動ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発表	30%
レジュメ	30%
最終報告	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。適宜配布する。

【参考文献】

『季刊まちづくり』八甫谷 邦明編 学芸社 など

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外においても、図書館、博物館等を訪ね、資料収集、準備等を重ねること。

【事前事後学習】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークは一部自己負担がある（最大10,000円程度）
※コロナの状況により授業内容の変更があり。

科目名	テーマ研究Ⅱ[現文]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

○研究とは、自らの「楽しい」、「知りたい」気持ちからはじまり、その背後にある構造を明らかにするものである。

【ゼミの目的・概要】

・「日本史(文献史学)」のゼミである。—基本的に、春学期「テーマ研究Ⅰ」に準じる(該当シラバス参照)

【個別事象】

・テーマ研究Ⅱでは、最後に講義時数とは別に、「口頭試問」を実施する。
 ・4年次春学期・秋学期を通しての目標…卒業論文、卒業研究など、何らかの形での研究成果物を作成、完成させる。
 ・履修の際は、本シラバスの「その他」を熟読すること。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・課題解決型、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、アクティブラーニング、フィールドワーク(必要な場合)
 ・ゼミ生による研究報告・討論中心
 ・史料、参考文献など、文献史学の手順を必ずふまえた報告を行う。

【ICT機器】

・PC、プロジェクター、映像資料、zoomなど(遠隔の場合)

【課題に対するフィードバックの方法】

・講義中に口頭ないし文書でのコメントをつけて行う。
 ・卒業論文、卒業研究などに相当するものについては、添削を行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②研究状況確認 その1—これまでの活動の振り返り
- ③研究状況確認 その2—今後の日程確認
- ④卒業論文・研究の完成に向けて その1—完成に向けて
- ⑤卒業論文・研究の完成に向けて その2—実践編
- ⑥研究発表 その1
- ⑦研究発表 その2
- ⑧研究発表 その3
- ⑨研究発表 その4
- ⑩研究発表 その5
- ⑪研究発表 その6
- ⑫研究の完成・提出 その1
- ⑬研究の完成・提出 その2
- ⑭まとめと予行演習
- ⑮全体ゼミ発表

※上記授業以外で、「口頭試問」を実施する。履修希望者は、この点を納得の上、履修すること。

※14~15回目の授業は、学科全体のゼミ発表である。そのため、学科、ほかゼミの動向で内容を変更する場合がある。

※全体的に、感染症の影響で、シラバスの内容を変更する場合がある。ただし、到達目標は変更しない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・自らテーマを設定し、主体的に調査、研究する手法と姿勢を身につける。
 ・論理的思考と表現力を身につける。
 ・先行研究整理や史料批判を通じ、文献史学の学問手法を学ぶ。
 ・議論を通じ、多角的視野と他者の意見を尊重する重要性を学ぶ。
 ・歴史学の調査を通じて、それが現代の日本・世界にどのような意味があるかを考え、異文化・過去・他者との交流の重要性に触れる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・授業中…レジュメ、発表、発表の文章化したもの、質疑など—50%
- ・授業外…卒業論文(関連作業含む)、まとめレポート、まとめ発表など。口頭試問—50%

※「授業外」成果物は、3～4年次の活動を総合的に評価する。また、必ず講義者の指定した形式で提出すること(例、文章の形式や参考文献表記など)
 ※コピー、剽窃、虚偽の連絡、その他不正は、上記の評価と無関係に、厳正に対処する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中、指示する。

【参考文献】

- ・なし。講義中、指示する。

※論文執筆のための文章作成の推奨文献

- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中央公論新社、1981年）←第一に読むべきもの
- ・清水幾太郎『論文の書き方』（岩波書店、1959年）
- ・梅棹忠夫『知的生産の技術』（岩波書店、1969年）
- ・野内良三『日本語作文術』（中央公論新社、2010年）
- ・山田ズーニー『伝わる・揺さぶる！文章を書く』（P H P 研究所、2001年）

■授業外学習

【具体的な内容】

- 発表準備、文献調査、論文執筆など(各回、2～4時間程度)
- ・基本的に授業外での事前調査を中心とし、授業内はその成果報告を行うこととする。
- ・事後学習は、ゼミ中に指摘された問題、新たな史料、文献調査などを各自で行うこととする。
- ・各自の研究テーマに合わせ、フィールドワーク・学外の史料調査を行う場合あり。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

・これ以前に講義者(篠崎)の「テーマ研究Ⅰ」ないし「応用演習Ⅰ・Ⅱ」を履修していないもので今期より履修するものは、事前に講義者と必要な教員(学科長)に相談すること。

・上記授業以外で、「口頭試問」を実施する。履修希望者は、この点を納得の上、履修すること。

・卒業論文執筆予定者は、別途、「卒業研究」を履修すること。履修上の扱いなどについては、教員の助言をふまえること。

・コピー、出席の不正、虚偽お連絡、その他、講義者が不正と判断した行為については、厳正に対処する。

・学生が主体的に文献(文字資料)から研究を行うゼミである。文献を使用しないテーマや、文献(図書)を用いないネットのみの調査は認めない。また、他者(教員)が設定したテーマを行うゼミではないことに注意してから履修すること。

・下記に該当する場合、研究テーマの変更を求める場合がある。これをふまえた上で履修すること。

①日本史、文献史学の学問分野とは異なる場合。また、学科、大学のこれまでの教育と異なるもの。

②差別・偏見を助長するもの、特定の政治的主張のためのもの、「結論ありき」の研究。

③本講義の主題とはそぐわない研究(例、ある本を単に読むだけ、「この本を1冊を半年かけて読みます」など、大学の研究として著しく作業時間が過大、ないし少ないものなど)

④その他、講義者が不適当と判断したもの。

・研究が上手くいかない、発表が難しい時などは、必ず授業前に教員に相談をすること。

・感染症の状況に応じて、授業内容をシラバスから変更する場合がある。その場合も到達目標は変わらない。

・フィールドワークを実施する場合は、費用は履修者の負担となる。

科目名	テーマ研究Ⅱ[現文]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	高橋 伸

■講義の目的および概要

本講義は、「言葉」をテーマとして、言葉の仕組みや働きに対する理解を深めると共に、それぞれの課題に沿って、言葉について調査研究し、成果物作成を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習授業。各受講者がテーマに沿って調査研究をしてそれをまとめ、授業内で発表する。それに基づき、教員を含めた全員で質疑応答を行う。発表者は、その結果を踏まえ、さらなる調査研究へと向かい、最終的に「ゼミ論Ⅱ」として一定以上の論理的著作物にまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 輪番で行う調査研究成果の発表は、授業内の質疑応答のかたちでフィードバックする。
- ・ 最終成果物（「ゼミ論Ⅱ」）に向けて成果発表会で報告するが、出席教員・学生から質疑応答がある。

■授業計画

- ① ガイダンス—卒業論文、卒業研究作成に向けて
- ② 卒業論文・研究の作成に向けて 1
- ③ 卒業論文・研究の作成に向けて 2
- ④ 卒業論文・研究の作成に向けて 3
- ⑤ 卒業論文・研究の作成に向けて 4
- ⑥ 卒業論文・研究の作成に向けて 5
- ⑦ 卒業論文・研究の作成に向けて 6
- ⑧ 研究報告1—これまでの調査法をふまえて
- ⑨ 研究報告2
- ⑩ 研究報告3
- ⑪ 研究報告4
- ⑫ 研究報告5—改善点を見つける
- ⑬ 研究報告6
- ⑭ 成果発表会準備
- ⑮ 学修成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 他者の見解に耳を傾け、物の見方や考え方を交流できる。
- ・ 理解した内容を他者にわかりやすく自分の言葉で伝えることができる。
- ・ 言葉について調べ、言葉の役割や言葉と人の関わりについて文章で表現することができる。
- ・ 調査研究したことを他者に伝え、他者と学びを共有することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】
 (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・ 調査研究発表 40%
- ・ レポート 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ 統一的なテキストは用いない。

【参考文献】

- ・ 受講者それぞれに示す。

■授業外学習

【具体的な内容】

—発表準備、文献調査、論文執筆など

- ・基本的に授業外での事前調査を中心とし、授業内はその成果報告を行うこととする。
- ・事後学習は、ゼミ中に指摘された問題、新たな資料、文献調査などを各自で行うこととする。
- ・各自の研究テーマに合わせ、フィールドワーク・学外の調査を行う場合がある。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[現文][秋入学生]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

「我々はどうのような時代・文化の中で生きているのか」を考えるために、各受講者がそれぞれのテーマをもって調査研究を行う授業。教員はそれをもとに論文指導をする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習授業。各受講者がテーマに沿って授業外学習で調査研究をしてそれをまとめ、授業内で発表する。それに基づき、教員を含めた全員で質疑応答を行う。発表者は、その結果を踏まえ、さらなる調査研究へと向かい、最終的に「ゼミ論Ⅰ」と呼ばれる一定以上の論理的著作物にまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 輪番で行う調査研究成果の発表は、授業内の質疑応答のかたちでフィードバックする。
- ・ 最終成果物に向けて成果発表会で報告するが、出席教員・学生から質疑応答がある。
- ・ それをもとにゼミ論Ⅱを完成させるが、そのフィードバックは必要に応じて行う。

■授業計画

- ①ガイダンスと秋学期の予定
 - ②～③輪番で研究調査の報告と質疑応答
 - ④・⑤「論文」の形式について
 - ⑥～⑬「論文」を書く作業
- 輪番制で、草稿を事前に提出し、ピア・リーディング/ピア・ティーチングを行い、相互に批評する
- ⑭学修成果発表に向けて
 - ⑮学修成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 自分の問題関心に即しつつ、適切な問いを設定することができる。
- ・ その問いに答えるために、適切な調査研究ができる。
- ・ その結果を明瞭で論理的な文章で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・ 授業内発表……50%
- ・ 学期末に提出する成果物……30%
- ・ 成果発表会での発表……20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ 統一的なテキストは用いない

【参考文献】

- ・ 受講者全員に当てはまる参考文献はない。

■授業外学習

【具体的な内容】・【必要な時間】

空き時間のほとんどを、文献の調査や読解、必要な史資料の探索と読解、整理に費やすことになる。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	生命と倫理
開講期・単位	4年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	水野 浩二

■講義の目的および概要

生命科学は近年目覚ましい発展を遂げています。その一方で、急速な発展に伴う弊害も出てきています。問題の解決を専門家だけに任せるわけにはいきません。多くの方がともに考えてみなければなりません。なぜなら、生命科学の問題は、最終的には社会的・倫理的問題だからです。そうした問題を考えるためには基礎知識が必要です。本講義では、主として医療にかかわる問題を取り上げます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、授業の冒頭で前回の授業の確認を行います。次にその日の授業の概要を話したのち、本題に入ります。本題は講義中心になりますが、適宜学生側に質問をしますので、答えてください。最後に、翌週の内容について簡単に触れますので予習に役立ててください。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニレポートを提出してもらいます。課題はmanabaに入っていますので、そこに回答してください。翌週の授業で解説を行います。

■授業計画

- ①生命倫理（学）とは何か
- ②「ヒポクラテスの誓い」とは何か
- ③心臓移植の歴史
- ④脳死と臓器移植
- ⑤脳死再定義
- ⑥インフォームド・コンセント
- ⑦パターンリズム
- ⑧尊厳死
- ⑨安楽死
- ⑩QOLとSOL
- ⑪ターミナルケアとキューブラー・ロス
- ⑫ソフテノン訴訟
- ⑬死刑制度
- ⑭脳倫理
- ⑮生物と無生物

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生命倫理の基本用語を理解し、現実生活において応用できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

期末レポート（60%）＋ミニレポート（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

manabaのコンテンツに授業の資料が入っていますので、各自で予めプリントアウトしておいてください。

【参考文献】

『文系のための生命倫理』羊土社。『生命倫理Q&A』太陽出版。水野浩二『倫理と歴史』月曜社。M. ガザニガ『脳の中の倫理』紀伊國屋書店。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業資料及び各自のノートを使って復習をしっかりと行ってください。また、わからない点を書き出し、自分で調べてみましょう。次回の講義資料にもしっかりと目を通しておきましょう。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業中に指名されたら、わかる範囲で十分ですので、しっかり答えてください。

科目名	コミュニケーション演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	椿 明美

■講義の目的および概要

変化の激しい時代を生きるために、社会では様々な問題に向き合うことになり、広い視野や情報を持って対応する必要があります。この授業では、社会の現実課題をテーマに、チームでテーマを見つけ、仮説、検証を行うプロセスで、チーム力とコミュニケーション力を身につけていきます。自ら考え、発言することで深く多角的に物事を考え、発信する力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

問題解決型学習である「教室内PBL」(Problem Based Learning)を導入し、チームで課題を設定し、問題は何か、どのような解決方法が考えられるのかを議論します。チームでリーダー、サブリーダー、タイムキーパー、書記を決めて、限られた時間の中で、議論を進めて行くため、事前課題として各自が情報を持ち寄り、それをもとに議論を重ね仮説を検証します。エビデンスを用意することが求められます。この講義は実務経験のある教員が自らの経験をもとに、必要な情報を適宜入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。
学生からの質問については、授業内での解説や個別対応をします。

■授業計画

- ①ガイダンス、コミュニケーションとは、役割責任と合意形成（ゲーム）
- ②スタディ・スキル（1）ブレインストーミング・アサーション
- ③スタディ・スキル（2）ディベート①
- ④スタディ・スキル（3）ディベート②
- ⑤スタディ・スキル（4）ディスカッションの手順とルール
- ⑥スタディ・スキル（5）プレゼンテーションの基本、ミニプレゼン
- ⑦テーマA（1）事例提示、ディスカッション、テーマ設定、仮説設定
- ⑧テーマA（2）ディスカッション、プレゼンシート作成
- ⑨テーマA（3）ディスカッション、プレゼンシート作成
- ⑩テーマA（4）発表・質疑応答、ピア評価、振り返りシート記入
- ⑪テーマB（1）事例提示、ディスカッション、テーマ設定、仮説設定
- ⑫テーマB（2）ディスカッション、プレゼンシート作成
- ⑬テーマB（3）ディスカッション、プレゼンシート作成
- ⑭テーマB（4）チーム発表準備・リハーサル
- ⑮発表、まとめ

※授業の進行状況によって、進め方を変更することがある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①聞き手を共感させるプレゼンテーションができる。
- ②チームでの自分の役割を理解し、協力してコミュニケーションをとることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①提出物等（毎回の提出シート・宿題シート、ピア評価）・・・40%
- ②プレゼンテーション・・・30%
- ③レポート・・・30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
毎回資料を配布する。

【参考文献】
アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門:学生のためのプレゼン上達術、慶
応義塾大学教養研究センター監修、慶応義塾大学出版会（2020）

■授業外学習

【具体的な内容】
・授業の前に必要な情報を集めてくること。
・プレゼンテーションの準備は、授業後に取り組むこと。

【必要な時間】
事前・事後学修の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

日本語教師資格の科目です。受容・理解能力、言語運用能力、社会文化能力、対人関係能力等を身に付けていきます。

科目名	コミュニケーション論
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	高橋 伸

■講義の目的および概要

コミュニケーションについて、基礎的な理論を学ぶ。また、日常の事例を通してコミュニケーションの影響について理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式を基本とするが、学生相互の対話を行いながらコミュニケーションについて理解を深めていく。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時間、振り返りを行い、疑問などを次時の授業で取り上げる。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② コミュニケーションとは何か
- ③ 非言語コミュニケーション1
- ④ 非言語コミュニケーション2
- ⑤ 言語コミュニケーション1
- ⑥ 言語コミュニケーション2
- ⑦ 受容と理解の能力 言語運用能力
- ⑧ 中間発表とフィードバック
- ⑨ コミュニケーションストラテジー
- ⑩ 社会とコミュニケーション1 (社会文化能力)
- ⑪ 社会とコミュニケーション2 (対人関係能力 異文化調整能力)
- ⑫ コミュニケーションの影響1
- ⑬ コミュニケーションの影響2
- ⑭ 最終発表とフィードバック
- ⑮ 振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① コミュニケーションについて、基礎的な理論を理解できる。
- ② 日常的に行われているコミュニケーションを分析できる。
- ③ より良いコミュニケーションを図るために必要な工夫を考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】)

- (DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

中間発表：30%
最終発表：30%
授業後の振り返り40% (10回程度)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

統一的なものはない

【参考文献】

入門編として 平田オリザ (2012) 『わかりあえないことから』 講談社現代新書

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ コミュニケーションに関する用語について調べる。
- ・ 配付されるテキストの読解
- ・ 発表のための情報収集

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

なし

科目名	先史文化論
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	坂梨 夏代

■講義の目的および概要

我々の祖先である人々はどのような暮らしをしてきたのだろうか。
本講義は長い人類の歴史の中で文字がない時代—先史時代について知ること、人類が歩んできた歴史について学習することを目的とした授業である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式でおこなう。適宜ビデオ映像や実際の資料などの視覚的な具体的例を見ながら講義を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業前に前回の復習のための確認ミニテストを行う。
確認ミニテストを用いながら、授業の前半で前回の振り返りをおこなう。

■授業計画

- ①オリエンテーション、先史時代とはなにか
- ②考古学とはどんな学問か
- ③進化論と考古学
- ④人類が使った道具について(石器と石ころはどう違うのか)
- ⑤考古学における年代測定とは①放射性炭素年代測定法
- ⑥考古学における年代測定法とは②その他の測定法
- ⑦人類の誕生(サルとヒトの違いとは何か) ①生物学的視点
- ⑧人類の誕生(サルとヒトの違いとは何か) ②言語とコミュニケーション
- ⑨人類の誕生(サルとヒトの違いとは何か) ③道具
- ⑩我々の祖先はどこからきたのか(人類の拡散の問題) ①猿人
- ⑪我々の祖先はどこからきたのか(人類の拡散の問題) ②原人
- ⑫我々の祖先はどこからきたのか(人類の拡散の問題) ③現生人類
- ⑬どんな生活だったのか(住まい、環境など) ①道具
- ⑭どんな生活だったのか(住まい、環境など) ②環境適応
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

考古学の枠組みについて理解し、人類がどのように進化し、社会を形成してきたかを説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

確認ミニテスト 20%
レポート 20%
定期試験 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし
授業中に適宜プリントを配布する

【参考文献】

三井誠『人類進化の700万年』2005 講談社現代新書
斎藤成也編『図解人類の進化』2021 講談社

■授業外学習

【具体的な内容】

考古学、人類進化についての本を読むこと。
博物館見学も積極的に行うこと。
授業で前回の授業の確認ミニテストを行うので、ノートを整理し予習復習をしておくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

考古学や人類の歴史に興味ある人が受講するが望ましい。

科目名	博物館概論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	阿部 千春

■講義の目的および概要

本講義は、「博物館とは何か？」という基礎的な知識の習得をはじめ、現代社会における博物館の位置づけについて学んだうえで、「地域課題と博物館」「観光と博物館」「まちづくりと博物館」など博物館が総合的に果たす役割について具体例を学び、博物館を核とした地域のあり方を考えていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

担当教員が作成した作成したテキスト並びにパワーポイントを用いた講義形式で行います。また、博物館の役割や地域課題への対応等については、必要に応じてグループワークやディスカッションを取り入れるなど、主体的な学びにつながる授業を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

適宜、前回の授業の振り返りを行いながら学びの習熟を図るとともに、課題については授業内で解説をした後にmanabaを通じて資料配付等を行います。

■授業計画

- ①博物館概論で学ぶこと/概要説明
- ②日本の博物館のあゆみ/現代までの成り立ち
- ③世界の博物館のあゆみ/現代までの成り立ち
- ④博物館の種類/施設の類型について
- ⑤博物館の資料/人文・自然・生態の各資料
- ⑥博物館の保存と活用/地域資源と環境の保護
- ⑦博物館の展示手法/手法の分類と形態
- ⑧振り返りと課題
- ⑨博物館のあり方を考える①/博物館と観光
- ⑩博物館のあり方を考える②/博物館と地域振興
- ⑪博物館のあり方を考える③/博物館と世界遺産
- ⑫博物館のあり方を考える④/博物館とシンクタンク
- ⑬振り返りと課題
- ⑭北海道の博物館を考える
- ⑮まとめ、及び授業内試験 (50分)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①博物館に関する基礎知識（歴史・定義・役割）を身につける
- ②博物館の活用のあり方を理解する。
- ③地域社会における博物館の可能性を考える

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

博物館に関する基礎知識、博物館の活用のあり方 各課題20%
 授業内試験60% 計100%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

全講義とも担当教員が作成したテキストやパンフレットもしくはパワーポイント等を使用します。

【参考文献】

『観光資源としての博物館』芙蓉書房 2016年 2,500円＋税

■授業外学習

【具体的な内容】

講義を受ける前に、どこでも良いので博物館施設を見学することを進めます。特に北海道博物館は、北海道の中核となる博物館なのでお勧めします。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

科目名	比較文化論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

多様な文化のあり方を理解するため、文化の多面的な捉え方を確認した上で、イギリス、ブラジル、北欧諸国および日本を取り上げ、それぞれの社会に存在する文化とその多様性について、移民や先住民族にも注目しながら、明らかにします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントのスライドを使用して講義をします。授業内で講義内容に関わるアンケートやクイズなども取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 毎回、授業の感想・意見・質問などをリアクションペーパーに記入してもらいます。感想・意見および質問と回答は次回の授業内でフィードバックします。
- ・ 提出されたレポートは授業内で全体の講評を行うとともに、代表的なレポート例を紹介しします。

■授業計画

- ①理論的概観：文化とは——理論的検討
- ②理論的概観：移民と先住民族の歴史・文化をめぐる議論
- ③諸外国の社会と文化：イギリス（1）——地域と階級の多様性
- ④諸外国の社会と文化：イギリス（2）——移民の増大と課題
- ⑤諸外国の社会と文化：ブラジル（1）——歴史と先住民族
- ⑥諸外国の社会と文化：ブラジル（2）——移民による社会形成
- ⑦諸外国の社会と文化：北欧諸国（1）——北欧3国の歴史
- ⑧諸外国の社会と文化：北欧諸国（2）——北欧サーミの歴史と現状
- ⑨諸外国の社会と文化：北欧諸国（3）——移民・難民の現状と課題
- ⑩日本の社会と文化：近代までの日本文化の形成と変容
- ⑪日本の社会と文化：近代以降の日本文化の再編
- ⑫日本の社会と文化：移民の送出国
- ⑬日本の社会と文化：オールドカマーの形成と変容
- ⑭日本の社会と文化：ニューカマーの増大
- ⑮日本の社会と文化：先住民族としてのアイヌ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

多様な文化やその変容のあり方を把握するために、時代と社会による比較の観点から、日本と諸外国の社会と文化およびその歴史について深く理解できるようになることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

最終レポート、小レポートと授業参加態度により評価します。評価の配分は、最終レポート60%、小レポート20%、授業参加態度20%とします。なお、最終レポートは出席回数が3分の2以上であることを提出条件とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使いません。講義のレジュメをmanabaを通じて配付します。

【参考文献】

小内透編著『講座 先住民族の社会学1 北欧サーミの復権と現状』東信堂、2018年
 小内透編著『講座 先住民族の社会学2 現代アイヌの』東信堂、2018年
 丸山浩明編著『ブラジル日本移民』明石書店、2010年
 小内透編著『講座 トランスナショナルな移動と定住』（全3巻）御茶の水書房、2009年
 小坂田裕子ほか編『考えてみよう 先住民族と法』信山社、2022年

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時の最後に次週の学習について予告するので、配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。

【必要な時間】

事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科目名	文化人類学
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小坂 みゆき

■講義の目的および概要

文化人類学を学ぶための材料は私たちの日々の生活の中にあります。文化人類学は、世界各地の様々な場所で暮らす人びとのあり方を記述・分析することで、私たちが「当たり前」と思っていることを再検討し、新しい発想を生み出す学問です。

講義では、まず文化人類学の基礎知識と理論の解説を行います。そのうえで生業、食、衣服、世界観、宗教、通過儀礼などいくつかのトピックについて事例をたどりながら文化の多様性を理解することをこの講義のねらいとします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ① 対面授業を基本として、映像など視覚的な面からも理解できる方法をとる。
- ② 理解を深めるためにリアクションペーパーでのコメントを作成を求める。
- ③ ②の補足を次の講義にて対応する。
- ④ 講義前半が終わるころ、小テストに向けて、講義前半の振り返りを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ① リアクションペーパーにコメントをして、授業で総評する。
- ② 講義内小テストについては、採点后に答案を返却し解答例を公表する。
- ③ 期末試験についてはManabaを通して解説を行う。

■授業計画

- ① ガイダンス：この授業の進め方の解説
導入-文化とは何か
- ② 2つの文化概念-文化の定義について理解する
- ③ 文化人類学の歴史-文化人類学の学問的成り立ちを理解する
- ④ 文化人類学の理論-進化主義の功罪（人類学の誕生とエスノセントリズム）
- ⑤ 文化人類学の理論-文化相対主義・機能主義・構造主義（研究と理論の概要を理解する）
- ⑥ 文化はなぜ変わるのか？-伝播主義・文化変容論
- ⑦ 文化人類学とフィールドワーク-人類学の調査研究方法
- ⑧ 前半のまとめ・小テスト
- ⑨ 生業と暮らし
- ⑩ 食の文化人類学-なぜ食べるのか
- ⑪ 衣服の文化人類学-なぜ着るのか
- ⑫ 宗教と世界観
- ⑬ 人生儀礼・通過儀礼
- ⑭ 医療と文化-生と死の多様性
- ⑮ 全体のまとめ、期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 文化とは何かを説明できる。
- ② 文化人類学の基礎知識、理論を習得する。
- ③ 世界中の人間がもつ多様な価値観や行動に注目するとともに文化の多様性を理解する。
- ④ 具体的なトピックと事例をみることで、文化人類学的な視点、アプローチの仕方を理解する。
- ⑤ 文化の変化の主体はその文化の担い手であり、私たちも同じであることを理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）
- ・ 提示された情報を正確に読み取り、科学的視点から分析・考察できる。
 - ・ 地域の人々の立場になり、地域貢献のヒントを考案できる。
 - ・ さまざまな地域や民族の視点に立ち、事物を理解できる。
 - ・ 地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。

■成績評価基準と方法

- リアクションペーパー・授業への主体的参加状況（10%）
到達目標②を測定する小テスト（20%）
到達目標①-⑤を測定する期末テスト（70%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特になし、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

『よくわかる文化人類学』綾部恒雄・桑山敬己、ミネルヴァ書房、2006

『人類学とは何か』ティム・インゴルド、亜紀書房、2020

『これからの時代を生き抜くための文化人類学入門』奥野克己、辰巳出版、2022

■授業外学習

【具体的な内容】

- ① 日常行われていることについて、なぜ？どうして？と疑問を持つことが文化人類学のスタートであり、そのような視点を持ちながら講義を受講する。
- ② 新聞、テレビなどのメディアを通じて今日の社会、人々の暮らしを意識する。
- ③ 事前に配布した資料を読む。
- ④ 授業終了後、内容を振り返り意見などをまとめ、次回の授業内容を確認する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

文化人類学についての予備知識は不要。

日常行われていることについて、なぜ？どうして？と疑問を持ちながら受講する。

新聞、テレビなどのメディアを通じて今日の社会、人々の暮らしを意識する。

科目名	日本語教育概論
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	金庭 香理

■講義の目的および概要

本講義は初めて日本語教育に触れる学生を対象とした授業です。日本語学習者を取り巻く環境、教育の情勢、学習者、日本語教師、言語教育などの観点から日本語教育の全体像をつかむことを目的とします。また、それらの知識と日本語教育の実践とを結びつける能力を涵養します。

※日本語教育課程の指定科目です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、講義理解を促すため、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れます。学生の能動的な学修が求められます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内にて解説し、必要に応じて資料を配付します。

■授業計画

授業計画

- ①ガイダンス、世界と日本の社会と文化ー日本語教育の推進ー
- ②日本語学習者、日本語教育プログラムの理解と実践
- ③日本語教師の資質と資質・能力
- ④多文化共生ー地域社会における共生ー
- ⑤多言語・多文化主義
- ⑥言語政策とことば
- ⑦言語政策とことば
- ⑧日本語教育史
- ⑨日本語教育史
- ⑩日本の在住外国人施策
- ⑪世界と日本の教育事情
- ⑫世界と日本の教育事情
- ⑬日本語能力の試験
- ⑭全体まとめ
- ⑮期末試験（レポート）

※受講生数及び授業の進行具合によって変更することがあります。
※3～5回程度、オンデマンド教材を使用する予定があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・日本語教育の情勢を理解する。
- ・日本語教育の概観を理解する。
- ・これからの日本語教育における教師の役割を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・小テスト及び課題 50%
- ・授業への参加度 20%
- ・期末試験 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・坂本正 他（2017）『日本語教育への道しるべ 第1巻 ことばのまなび手を知る』（凡人社）
- ・その他、資料を配布します。

【参考文献】

- ・森篤嗣 他（2019）『超基礎・日本語教育』（くろしお出版）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・次回の授業範囲(テキスト)について予習してください。
- ・毎回の授業の冒頭に、前回の授業内容の復習問題を出題します。必ず前回の授業内容の振り返りポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

事前・事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

各自の外国語学習経験、異文化接触体験を内省しながら、日本語教育について考えていきます。
実際に日本語教師を志望する人もそうでない人も、興味がある方の受講を歓迎します。

科目名	人文学概論
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	塚本 智宏、小内 透、榎本 光邦

■講義の目的および概要

人文学の学問的構成および人文学部の学修内容を解説する。また、心理学、社会学、教育学を専門とする3名の教員が、それぞれの立場から、人文学とは何か、学問とは何かを語り、さらには人文学部では何が学べるか、どのように学んだらよいのかを考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

3名の教員が5回ずつ担当し、講義＋ディスカッションにより展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については3名の教員がそれぞれ授業内で解説するとともに、manaba上で資料を公開する。

■授業計画

I 心理学入門（榎本）

- ①心理学とは
- ②血液型の性格の関係
- ③「やる気」を考える
- ④対人関係と集団
- ⑤大学生の発達課題

II—学歴社会の構造（小内）

- ⑥学歴社会とは何か
- ⑦学歴社会の実像
- ⑧学歴形成における属性の制約
- ⑨学歴格差の要因をめぐる議論
- ⑩学歴社会の克服の道

III—19～20世紀転換期のJ. コルチャックの人権思想（塚本）

- ⑪思想をつくる Dr. Korczakの子ども＝すでに人間という思想の形成
- ⑫思想を鍛える 子どもの権利・人権思想としての成熟
- ⑬思想を生む時代 世紀転換と子どもの権利思想
- ⑭思想と実践 孤児院と「最後の行進」を通じての思想の実践
- ⑮思想とその影響 子どもの権利条約・権利条例・まちづくり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人文学および人文学部の歴史と概要を知り、学ぶことの楽しさと考え方から、学科専門領域の学びに向かうことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する能力】

■成績評価基準と方法

榎本—レポート 30%
小内—レポート 30%
塚本—レポート 30%
感想・意見 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料・課題シートはmanaba上にアップして配付する。

【参考文献】

『コルチャックと「子どもの権利」の源流』子どもの未来社 2019年

■授業外学習

【具体的な内容】

図書館で関連文献を読むなどレポートのための準備（復習）をおこなってください。授業の最後で翌週のテーマに触れるので、インターネットや図書館で関連事項を予習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業の最後に感想記入やディスカッションをします。遠慮なく意見・質問をしまし2023（令和5）年4月1日
。

科目名	人文学概論
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	塚本 智宏、小内 透、榎本 光邦

■講義の目的および概要

人文学の学問的構成および人文学部の学修内容を解説する。また、心理学、社会学、教育学を専門とする3名の教員が、それぞれの立場から、人文学とは何か、学問とは何かを語り、さらには人文学部では何が学べるか、どのように学んだらよいのかを考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

3名の教員が5回ずつ担当し、講義＋ディスカッションにより展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については3名の教員がそれぞれ授業内で解説するとともに、manaba上で資料を公開する。

■授業計画

I 心理学入門（榎本）

- ①心理学とは
- ②血液型の性格の関係
- ③「やる気」を考える
- ④対人関係と集団
- ⑤大学生の発達課題

II—学歴社会の構造（小内）

- ⑥学歴社会とは何か
- ⑦学歴社会の実像
- ⑧学歴形成における属性の制約
- ⑨学歴格差の要因をめぐる議論
- ⑩学歴社会の克服の道

III—19～20世紀転換期のJ. コルチャックの人権思想（塚本）

- ⑪思想をつくる Dr. Korczakの子ども＝すでに人間という思想の形成
- ⑫思想を鍛える 子どもの権利・人権思想としての成熟
- ⑬思想を生む時代 世紀転換と子どもの権利思想
- ⑭思想と実践 孤児院と「最後の行進」を通じての思想の実践
- ⑮思想とその影響 子どもの権利条約・権利条例・まちづくり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人文学および人文学部の歴史と概要を知り、学ぶことの楽しさと考え方から、学科専門領域の学びに向かうことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する能力】

■成績評価基準と方法

榎本—レポート 30%
小内—レポート 30%
塚本—レポート 30%
感想・意見 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料・課題シートはmanaba上にアップして配付する。

【参考文献】

『コルチャックと「子どもの権利」の源流』子どもの未来社 2019年

■授業外学習

【具体的な内容】

図書館で関連文献を読むなどレポートのための準備（復習）をおこなってください。授業の最後で翌週のテーマに触れるので、インターネットや図書館で関連事項を予習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業の最後に感想記入やディスカッションをします。遠慮なく意見・質問をしまし2023（令和5）年4月1日
。

科目名	地域研究 I (アジアの文化)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	坂口 可奈

■講義の目的および概要

東南アジアは日本と深いかかわりを持つ地域である。このような歴史のかかわりとどまらず、近年では政治的・経済的・人的つながりも強化されている。学生諸君らも、東南アジアから多くの人びとが北海道を訪れていることに気付いているだろう。このような状況では、日本と東南アジア諸国はともに発展していくためのパートナーであると個々人が認識し、一人ひとりが相互理解を促進する必要がある。このためにも、我々には東南アジアの文化・社会・歴史・政治・経済についての基礎知識と相互理解のための姿勢が求められている。そこで、本講義は東南アジア諸国についての基礎知識を身に付け、東南アジア諸国との共存共栄のための基本的姿勢を学ぶことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

<講義方法>

本講義は教員からの対面形式の講義と受講生によるプレゼンテーションの二本立てで行う。1週目から9週目は教員が講義を行う。10週目から14週目は受講生によるプレゼンテーションを通して東南アジアについて学んでいく。受講生は興味関心に合わせて国とテーマを選び、綿密な準備の上でプレゼンテーションを行うことになる。プレゼンテーションの担当は履修確定後に決定する。

<フィードバック>

毎週ミニ課題を課すので各自で取り組んでほしい。課題についてのフィードバックは次回授業開始時に口頭で行う。プレゼンテーションに対するフィードバックは発表当日に口頭で行う。

■授業計画

1. イントロダクション
2. 食べ物から東南アジアを学ぶ
3. 日本と東南アジアのかかわり 1 (第二次世界大戦)
4. 日本と東南アジアのかかわり 2 (戦後の政治と経済)
5. ASEANについて
6. 東南アジアにおける多民族共生
7. 東南アジアの経済発展戦略と教育
8. 映画で東南アジアを学ぶための基礎知識
9. 映画で東南アジアを学ぶ
10. 東南アジア地域の政治
11. 東南アジア地域の自然・環境
12. 東南アジア地域の観光
13. 東南アジア地域の文化
14. 東南アジア地域の宗教
15. まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

<到達目標>

- ・自分の意見を論理的に説明できるようになる
- ・東南アジア地域の文化・政治・社会のうち自分の関心のあるテーマについて説明できるようになる
- ・東南アジア地域と日本とのつながりを理解できる

<卒業認定・学位授与の方針との関連>

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ミニ課題：20%
- プレゼンテーション40%
- レポートもしくは試験 40%

■テキスト・参考文献

<テキスト>

授業内でレジュメを配布する

<参考文献>

テーマに合わせて適宜授業内で紹介する。ただし、プレゼンテーションのテーマに関連する文献については各自で探すこと。

■授業外学習

＜事前学習＞

1. 東南アジアに関するニュースを毎週1つ選び、自分なりの見解をメモしておくこと
2. 担当のプレゼンテーションのための準備を行うこと

＜事後学習＞

1. プレゼンテーション時に指摘された点を修正すること
2. プレゼンテーション時にこたえられなかった質問の回答を用意すること
3. 与えられた課題に取り組むこと

＜所要時間＞

事前学習と事後学習を合わせて2時間程度

■その他

- ・プレゼンテーションに関する説明は初回授業と二回目授業にのみ行う。履修変更可能期間中であっても、履修を希望する学生は必ずどちらかに参加するようにしてほしい。
- ・受講生は必ずプレゼンテーションを行うこと

科目名	グローバリズムと地域経済
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	濱田 剛一

■講義の目的および概要

本講義は私たちが所属している地域経済の現状と課題を理解し、課題解決につなげる基礎力を身につけるためのコースです。具体的にはグローバル化が地域経済に及ぼす影響を与えているか理解し、将来地域経済はどのような変貌を遂げようとしているかを考察する能力を身に付けることを目的とします。さらにディスカッションなどによる地域経済の現状と課題を認識するに止まらず、その課題についての解決策を議論、考察する能力を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に授業時間の50%を講義形式で行い、残りを「ディスカッション」「ディベート」や「グループワーク」を行い「プレゼンテーション」に結びつける能動的な学修を目指します。また毎回授業では書き込み資料を配布し、記入するとともに、講義内容の復帰振り返りを行っていきます。

本講義はシンクタンク調査会社および経済団体において地域政策・経済政策の立案に携わった実務経験のある教員が実践的な講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題等については授業内で解説するとともにManabaを活用します。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール等でのフィードバックも行います。

■授業計画

- ①ガイダンス～グローバル化に対処する地域経済
- ②伝統的なコマース
- ③決済とは～コマースのインフラ
- ④インターネットと地域経済
- ⑤Eコマース①～現状
- ⑥Eコマース②～課題
- ⑦クラウドファンディング～資金調達とマーケットの評価
- ⑧中間テスト～中間振り返り
- ⑨社会調査の手法
- ⑩事例研究①～地域の制度的課題
- ⑪事例研究②～地域の固有の課題
- ⑫事例研究③～地域課題に対する国と自治体の取り組み
- ⑬事例研究④～地域課題に対する企業の取り組み
- ⑭事例研究⑤～産学官連携とクラスター
- ⑮期末テスト～期末振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

グローバル化の進展によって、国境を越えたヒト、モノ、カネそして情報の移動は急速に活発化し、人々の生活や経済活動は、より広い空間スケールで展開されるようになった現状を説明できるようになる。社会調査の概要を知り、調査結果を活用した課題解決力を身に付けることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内提出物・発表	40%
中間テスト	30%
期末テスト	30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しません。資料を適宜配布します。

【参考文献】

「コミュニティと共生」総合人間学会（編）学分社

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業内容についてキーワードを提示しますので、意味などを調べると共に意見をノートしてください。毎回授業の冒頭に前回の授業内容を復習し、問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の授業内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。

また、ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。

【必要な時間】

予習復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。

フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります

科目名	スキルアップ総合演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	新谷 弥

■講義の目的および概要

本講義では、マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業に必要な基礎知識・技能を学びます。販売担当として必要な接客や売り場づくりの技術を身につけても身につけます。また、ビジネス環境が大きく変わる中、企業は経済環境の変化を敏感に察知し、新たな時代に適応可能な経営戦略を策定する必要があります。この講義では、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書などの財務諸表の分析、経営に必要な企業会計の仕組みについて学び、実際に企業で使われる財務分析スキルや今後求められる最先端のスキルについても探求します。最終的に、企業経営に関するスキルアップを目指します。

【当科目に含む事項】：リテールマーケティング3級取得のための科目であるため、授業以外に3回の検定講習を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストでの解説ですが、発問し、問題解決しながら意見交換と補足しながら進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を添付する。

■授業計画

- ①講義の概要把握・課題提出確認
- ②小売業とは何か・中小小売業の現状と役割
- ③組織小売業の種類と特徴・チェーンストアの基本的役割
- ④販売形態の種類と特徴
- ⑤インターネット社会と小売業
- ⑥小売業態の基本知識
- ⑦店舗形態別小売業の基本知識
- ⑧商店街の現状と特徴
- ⑨ショッピングセンターの現状と特徴
- ⑩答案練習1
- ⑪答案練習2
- ⑫答案練習3(オンデマンド)
- ⑬答案練習4(オンデマンド)
- ⑭答案練習5(オンデマンド)
- ⑮検定

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

小売店舗の運営に必要な基本的な仕組みを学び、販売員としての基礎的な知識と技術を身につけます。また、リテールマーケティング3級の取得を目指します。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

課題・小テスト	20%
検定講義	40%
授業内試験	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】 『レクチャー&トレーニング』 実教出版

【参考文献】 『販売士教科書販売士（リテールマーケティング）3級一発合格テキスト&問題集』（Exampress）

■授業外学習

【具体的な内容】

今回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習ノートにまとめること。また、毎回の授業の始めに用語などの小テストをします。

■その他

資格取得を前提とした科目であり自意識の低い学生は排除する。
冬季休暇中に検定講義を3回行う。

科目名	Reading Skills I [クォーター]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

"Reading skills I" course is designed for lower-level English proficiency, but active students. It allows students to review their vocabulary and grammar while getting new expressions. Vocabulary building, comprehension, and literacy that extends beyond ability to read passages of text are the main objectives in this course, but it also helps with speaking.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】Textbook-based, student-oriented course. The text in the course book is easy enough, but the unit components engage students in a substantial number of activities. There is a part titled: Discussion, in which all students are expected to take part. Some of the activities will take place in pairs and groups. Some will be conducted individually. The Dictation part may be a part of the homework. The feedback will depend on the size of the class, if possible, in form of an interview with each student.

【課題に対するフィードバックの方法】Checking vocabulary & grammar tests, giving assignments, and discussing results with students individually.

■授業計画

- ①Orientation, course objectives and procedure, evaluation, sample reading
- ② Unit 1 The Arts
- ③Unit 2 Incredible Races
- ④ Unit 3 Movies
- ⑤ Unit 4 Careers
- ⑥ Test 1, Units 1 - 4 (20%)
- ⑦ Unit 5 Animals
- ⑧ Unit 6 Handmade items
- ⑨ Unit 7 Cooking
- ⑩ Unit 8 Sports
- ⑪ Unit 9 Natural Places and Maps
- ⑫ Test 2, Units 5 - 8 (20%)
- ⑬ Unit 10 Dreams and Seasons
- ⑭ Unit 11 Culture
- ⑮ Unit 12 Music / wrap-up

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

The objective of this course is to be able to read fluently on pre-intermediate level with high degree of comprehension.

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

Students will be able to read short texts, announcements, maps, graphs, schedules, dialogs etc.

DP1【専門知識・技能を活用する力】

DP2【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

in-class activity 40%

short vocabulary, comprehension, and grammar tests 40% (20% + 20%)

homework/assignments 20% (+ GRs)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

Reading Links 1 by Andrew. E. Bennet, published by NAN'UN-DO, 2021, ISBN 978-4-523-17922-1

【参考文献】 Authentic texts will be provided by the instructor.

■授業外学習

【具体的な内容】

Students need to preview and review the material in the textbook. They also should try to discover their own way to practice new expressions, like writing them in a hand-made dictionary, or e-mails.

【必要な時間】 Students are advised to spend about 2 hours on reading and reviewing.

■その他

Try to find the best way to expand your reading ability. You may spend time online, read the easy books from the library, read and translate songs etc.

科目名	Reading Skills II
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

"Reading skills II" course is designed for lower-level English proficiency, but active students. It allows students to review their vocabulary and grammar while getting new expressions. "Critical thinking and active student engagement are also encouraged" says the textbook in its introduction. Vocabulary building, comprehension, and literacy that extends beyond ability to read passages of text are the main objectives in this course, but it also helps with speaking.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

Textbook-based, student-oriented course. The text in the course book is easy enough, but the unit components engage students in a substantial number of activities. There is a part titled: Discussion, in which all students are expected to take part. Some of the activities will take place in pairs and groups. Some will be conducted individually. The Dictation part may be a part of the homework. The feedback will depend on the size of the class.

【課題に対するフィードバックの方法】 Checking vocabulary & grammar tests, giving assignments, and discussing results with students individually.

■授業計画

- ① Orientation, course objectives and procedure, evaluation, sample reading
- ② Unit 1 Weather
- ③ Unit 2 The Internet
- ④ Unit 3 Animals
- ⑤ short test/ Unit 4 Friends
- ⑥ Unit 4 Friends
- ⑦ Unit 5 Helping others
- ⑧ Unit 6 Traveling
- ⑨ short test/ Unit 7 Collections and Gifts
- ⑩ Unit 7 Collection and Gifts
- ⑪ Unit 8 Careers
- ⑫ Unit 9 European Cultures
- ⑬ short test/ Unit 10 Gifted Children
- ⑭ Unit 10 Gifted Children
- ⑮ Unit 11 Restaurants

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】 The objective of this course is to be able to read fluently on pre-intermediate level with high degree of comprehension.

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

Students will be able to read short texts, announcements, maps, graphs, schedules, dialogs etc.

DP1【専門知識・技能を活用する力】

DP2【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

in-class activity 50%
short vocabulary, comprehension, and grammar tests 30%
homework/assignments 20%

■テキスト・参考文献

【参考文献】 There will be authentic texts provided by the instructor.

■授業外学習

【具体的な内容】 Students need to preview and review the material in the textbook. They also should try to discover their own way to practice new expressions, like writing them in a hand-made dictionary, or e-mails.

【必要な時間】 Students are advised to spend about 2 hours on reading and reviewing.

■その他

Try to find the best way to expand your reading ability. You may spend time online, read the easy books from the library, read and translate songs etc.

科目名	English Communication I [クォーター]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣、富田 敏明

■講義の目的および概要

自分のこと、学生生活、日本の観光スポットなどのテーマについて、英語でまとめた内容を話す能力を育成する。英語による簡単なプレゼンテーションを行うことにより、人前で自信を持って英語で発信する能力を育成することをねらいとする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

英語プレゼンテーションの基礎知識を学んだ後、4つのプロジェクトについて、個人またはグループで英語のプレゼンテーションを行う。1つのプロジェクトは①モデルプレゼンテーションの学習、②スクリプト作成、③スライド作成、④プレゼンテーション及びQ&Aセッションの4つのパートで構成する。個人によるプロジェクトが2つ、グループによるプロジェクトが2つで、グループプロジェクトでは学生同士が協働してプレゼンテーションを作成、発表する。また、毎回テーマを設けてペアまたはグループによる会話練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

プレゼンテーションごとに、学生による相互評価、教員による評価をフィードバックし、プレゼンテーションの完成度を高めていく。

■授業計画

- ①Introduction (英語プレゼンテーションの基礎知識)
- ②Project 1 Introduce Yourself (script)
- ③Project 1 Introduce Yourself (slides, rehearsal)
- ④Project 1 Introduce Yourself (presentation)
- ⑤Project 2 Give Your Ideas (model presentation)
- ⑥Project 2 Give Your Ideas (script)
- ⑦Project 2 Give Your Ideas (slides, rehearsal)
- ⑧Project 2 Give Your Ideas (presentation)
- ⑨Project 3 Introduce Nice Places in Japan (model presentation)
- ⑩Project 3 Introduce Nice Places in Japan (script)
- ⑪Project 3 Introduce Nice Places in Japan (slides, rehearsal)
- ⑫Project 3 Introduce Nice Places in Japan (presentation)
- ⑬Project 4 Talk about Your Summer Plans (model presentation, script)
- ⑭Project 4 Talk about Your Summer Plans (script, slides, rehearsal)
- ⑮Project 4 Talk about Your Summer Plans (presentation)

→ Project 1, 4 (個人) Project 2, 3 (グループ)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・学校生活、日本の観光地、夏休みの計画などについて、まとめた内容を英語で話すことができる。
- ・プレゼンテーションの基礎知識、スキルを身に付け、短期学外研修で臆せずに英語で自己表現することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・プレゼンテーション 60%
- ・授業中の言語活動(ペアワーク等) 20%
- ・課題(英語日記、スクリプト等) 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・One-minute Presentation in English (Noboru Matsuoka/ Kazuo Sobajima SHOHAKUSHA)

【参考文献】

- ・1分間英語で自分のことを話してみる (浦島久/ Clyde Davenport, 中経出版)
- ・英語で日本のしきたりと文化を伝える本 (荒井弥栄、二見書房)

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストのModel Presentationをしっかりと読み込み、プレゼンテーションの基本的な形式を理解する。
- ・スクリプト、スライドを作成する。スクリプトを見ないで発表できるように何度も練習を行う。
- ・毎日の出来事、考えたことなどを英語で日記を書く。

【必要な時間】

- ・manabaを活用した課題を含め、上記の内容について、予習、復習を2時間程度行ってください。

■その他

- ・他人との比較ではなく、入学時の自分と比較して英語力がどのくらい伸びたかを常に意識して学習を継続してください。

科目名	English Communication II
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード、富田 敏明

■講義の目的および概要

「English Communication I」での学習内容をふまえ、日本の文化、社会問題、将来の計画などに関するテーマについて、英語でまとめた内容を話す能力を育成する。英語による簡単なプレゼンテーションを行うことにより、自信を持って英語で発信する能力を育成することを狙いとす。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

英語プレゼンテーションの基礎知識を復習・確認した後、4つのプロジェクトについて、個人またはグループで英語のプレゼンテーションを行う。1つのプロジェクトは①モデルプレゼンテーションの学習、②スクリプトの作成、③スライドの作成、④プレゼンテーション及びQ&Aセッションの4つのパートで構成する。個人によるプロジェクトが2つ、グループによるプロジェクトが2つで、グループプロジェクトでは学生同士が協働してプレゼンテーションを作成、発表する。また、毎回テーマを設定してペアワークまたはグループによる会話練習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

プレゼンテーションごとに、学生による相互評価、教師による評価をフィードバックし、プレゼンテーションの完成度を高めていく。

■授業計画

- ①Orientation (Review 英語プレゼンテーションの基礎知識)
- ②Project 1 Introduce Your Classmates (model presentation, script)
- ③Project 1 Introduce Your Classmates (slides, rehearsal)
- ④Project 1 Introduce Your Classmates (presentation)
- ⑤Project 2 Explain Japanese Culture (model presentation)
- ⑥Project 2 Explain Japanese Culture (script)
- ⑦Project 2 Explain Japanese Culture (slides, rehearsal)
- ⑧Project 2 Explain Japanese Culture (presentation)
- ⑨Project 3 Solve Problems (model presentation)
- ⑩Project 3 Solve Problems (script)
- ⑪Project 3 Solve Problems (slides, rehearsal)
- ⑫Project 3 Solve Problems (presentation)
- ⑬Project 4 Talk about Your Future Plans (model presentation, script)
- ⑭Project 4 Talk about Your Future Plans (slides, rehearsal)
- ⑮Project 4 Talk about Your Future Plans (presentation)

→Project 1, 4 (個人) Project 2, 3 (グループ)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・日本文化についての紹介、また関心のある社会問題等について自分の考えを英語で表現できる。
- ・簡単なプレゼンテーションを単独または仲間と協働して英語で行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・プレゼンテーション 60%
- ・授業中の言語活動(ペアワーク等) 20%
- ・課題 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・One-minute Presentation in English (Noboru Matsuoka/ Kazuo Sabajima, SHOHAKUSHA)

【参考文献】

- ・日本のことを1分間英語で話してみる(広瀬直子、KADOKAWA)

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・プレゼンテーションはスクリプトを見ないで行うことを基本とするので、スラスラ言えるようになるまで練習する。
- ・英語によるアウトプット量を増やすため、manabaに提示したライティングの課題を継続して行う。

【必要な時間】

- ・manabaを活用した課題を含め、予習、復習を2時間程度行ってください。

■その他

- ・他人との比較ではなく、入学時の自分と比較して英語力がどのくらい伸びたかを常に意識して学習を継続してください。

科目名	短期学外学修
開講期・単位	1年 春学期・選択 3単位・演習
担当者	中津川 雅宣、富田 敏明

■講義の目的および概要

本授業では、事前授業・海外研修・事後授業と学外学修がメインとなる科目である。学外学習では、現地での語学学習に加えて、現地のスポーツ、観光分野などを専門家の案内のもと学修するプログラムである。事前授業では、学外学修に対する心得のほか、現地ですべて学ぶ内容を事前に学修することにより、学びの深化をはかり、さらに事後授業では、学習者自身が振り返りを行うことにより、専門教育の学びにつながるよう設計されており、更なる学びのきっかけとなる授業を目指していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本授業は、事前・事後授業として、対面による講義形式と、グループワークの形式をとる。また、研修中は対面で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

事前・事後授業では、学修管理システムmanabaを通して書面にて行う。研修中は、現地の教員が成績表として配布する予定である。

■授業計画

【事前授業】

- ①ガイダンス
- ②カナダの生活

【研修】

③～⑭ 学外学修 (ESL3校に分かれての研修: 2022/7/2～9/3)

研修先:

1. SELC Language College
2. Van West College
3. VGC International College

【事後授業】

- ⑮ 成果報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・カナダの生活について理解し、円滑な留学となるよう基本的な知識を得る。
- ・現地での生活を通し、海外で生活できる英語力を身につける。
- ・現地での英語学校での学習を通し、最低でも英検2級程度の英語力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

事前学習、課題 20%
 事後学習、レポート 20%
 海外研修中の活動への取り組みと達成度 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する

■授業外学習

【具体的な内容】

・事前授業
カナダ渡航に関する知識を学習する。
・事後授業
カナダの研修の振り返りをする。
研修の報告会を実施し、それを広く公表する。

また、研修中の事前・事後学習が必要となる。

【必要な時間】

概ね2時間の事前・事後学習が必要となる。

■その他

派遣までの第1クォーターの学修成果が著しく乏しい場合や、取り組みがあまりにも不十分である場合、奨学金の支給を取りやめる場合もある。

科目名	北海道の民俗学
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	林 美枝子

■講義の目的および概要

民俗学とは私たちの日常における生活文化を、民間伝承を資料として探る試みです。人生儀礼や死生観、衣食住や振る舞い方など、毎回の授業で扱う分野は多岐にわたりますが、すべて日本における民俗の解説となります。民俗学は、常に経世(世を治めているもの)の学として唯一の現代科学ですが、その学問的な独自性を理解することはなかなか困難です。授業では具体的な事例を数多く提示することで、この学問の面白さや奥深さを突き詰めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】主に講義形式です。毎回出欠シートに感想や質問の記入を求めます。また授業内容から課題を選択し、身近な地域社会における民俗についての具体的な事例を年末年始の期間に、親族や地域の高齢者に聞き取り調査をして、Manabaで提出してもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】昨年までの先輩たちの調査結果や、今年の皆さんの調査結果は、授業の内容に反映させていきます。出欠シートの質問には、次の授業時間に回答を試みます。

■授業計画

- ①民俗学の歴史と課題
- ②民俗学者たち 宮崎県椎葉村の調査から1
- ③死の民俗1 他界観 死後婚の話 青森つがる市の調査から
- ④死の民俗2 黒不浄 遺体の処理の仕方、葬送儀礼 札幌市の墓地の調査から
- ⑤生の民俗、白不浄について、親子なり、生育儀礼 現代の親子なりについて
- ⑥性別の民俗1 赤不浄について、成女式、成年式
- ⑦性別の民俗2 性的な関係性の成立、婚姻儀礼 群馬県六合村の調査から
- ⑧霊性について 「妹の力」と巫 沖縄県粟国村の調査から
- ⑨カミと人との関係について1 依り代と依りまし
- ⑩カミと人との関係について2 神祀りについて 椎葉村の神楽宿の調査から
- ⑪カミと人との関係について3 神祀りについて ヤガンウユミーの調査から
- ⑫イエとムラ 人が集う民俗
- ⑬北海道の民俗1『北海道民俗地図』と母村研究について
- ⑭北海道の民俗2 にしん場における擬制的男女関係の民俗について
- ⑮北海道の民俗3 「姉の力」考 まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】単に日本の民俗文化の事例を学習するのではなく、より広い視野で日本人とはどのような民族なのかを説明できること。また伝統的な民俗が、現代文化の中でどのように変容しつつあるのかの理解を深めること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

出欠・自学自習シートへの書き込み20%
調査報告 20%
定期試験 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
なし 資料を毎回配布する
【参考文献】
授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
毎回の民俗事例を自らの地域社会に照らして、同様の地元での事例を調べ、考察する。あるいは祖父母や地域の身近なお年寄りへの聞き取り調査を個別で行ってみる。配布物を整理し、必要な情報に当たる。

【必要な時間】
2時間程度

■その他

留学生にとっては一種の日本を深く学ぶ授業となりますが、同様の事項が自民族の出身地域ではどのような民俗として生きられているのかを、常に考察しながら授業を受けてください。

科目名	北海道の文化 I (歴史と文化遺産)
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	坂梨 夏代

■講義の目的および概要

本講義の目的は、人間活動の成果としての文化財および文化遺産の基本を理解し、その保存や活用を考えていくことである。その上で、地域における新たな価値を創造していくことである。

それには、文化財保護法に規定される文化財の種類を基軸に、主に北海道に所在する文化遺産を概観する。そして、背景にある史実を捉えながら、「特色」「保存」「活用」をキーワードに、評価の仕組みや文化遺産が担う社会的な役割についても考えていく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で実施する。

また、フィールドワークとして、文化財見学をしてもらう。休日等を利用し、個人的・自主的に近隣の文化遺産・文化財や関連施設を一回訪れてもらい、直接的な実感と共に学習を進めていく。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題やミニテストについては、その解説を授業の中で行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②文化財、文化遺産、文化資源について
- ③有形文化財、無形文化財、民俗文化財
- ④記念物、景観地、建造物保存地区
- ⑤埋蔵文化財
- ⑥世界遺産、無形文化遺産
- ⑦日本遺産、北海道遺産
- ⑧北海道について 1 環境
- ⑨北海道について 2 歴史
- ⑩北海道について 3 地域
- ⑪北海道の事例 1
- ⑫北海道の事例 2
- ⑬北海道の事例 3
- ⑭文化資源 地域の事例
- ⑮保存から活用、普及啓発活動

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道と各地域性ある文化遺産の特性と背景について説明できること。
さまざまな文化財の種類や基本概念を捉え、地域の新たな価値を見いだせること。
さらに、保存と活用を踏まえ、現在の地域資源の掘り起こしに応用させながら、社会的な役割について考えられること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 確認ミニテスト 10%
- レポート 30%
- 定期試験 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

垣内恵美子他『文化財の価値を評価する』2011 水曜社
その他講義の中で、適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】
確認ミニテストを実施するので普段からノートをきちんと取り、まとめておくこと。
またニュース・新聞などから文化財の情報を入手し、常に関心を持つよう心掛けてほしい。

【必要な時間】
予習復習を含めて2時間程度とする。

■その他

授業内で各自市内文化財見学を行いレポート作成を行ってもらう。
コロナなどの感染状況によって授業内容の変更もある。

科目名	まちづくりと北海道
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	中根 宏樹

■講義の目的および概要

まちづくりは、人々が生活している地域の諸問題を解決し、地域資源の価値を見だし、保全、修復、改善する取り組みである。
本講義では、まちづくりの概念、進め方、及びそのあり方について学ぶ。特に北海道における、まちづくりの変遷、各市町村の具体的な取り組み事例をあげ、その現状と課題について整理する。また、これからの北海道のまちづくりのあり方について、持続可能な地域における社会経済、文化、環境といった視点から考察する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
講義形式とグループワークによるディスカッションの組み合わせによって、能動的な学修を目指す。
本講義は、観光分野の民間企業において自治体と協働したプロジェクトなどの実務経験のある教員が担当する。まちづくりに関連する様々な学問領域の理論的枠組みを援用しながら、民間での知見を活かして講義を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】
適時提出を課すミニレポートをもとに、学生の興味関心に基づく講義内容の振り返りを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②まちづくりの意義と目的
- ③まちづくりの変遷
- ④まちづくりの実践と仕組み
- ⑤北海道のまちづくりと課題
- ⑥環境と北海道のまちづくり
- ⑦モビリティと北海道のまちづくり
- ⑧安全・安心と北海道のまちづくり
- ⑨文化芸術と北海道のまちづくり
- ⑩観光と北海道のまちづくり
- ⑪持続可能性とは何か
- ⑫持続可能な地域の指標
- ⑬持続可能な地域のマネジメント
- ⑭持続可能性と北海道のまちづくり
- ⑮総括・課題レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
・まちづくりの基本的な枠組みを理解する。
・北海道のまちづくりの動きや諸地域での事例に関する知識を得る。
・まちづくりの実例を応用できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

講義中に実施する課題 30%
授業への積極的な参加度 20%
課題レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
講義内容に合わせて適宜資料を配布する。

【参考文献】
講義内容に合わせて適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】
日常的に自分の住むまちやまちづくりに関心を持ち、新聞やインターネットなどを通して具体的な動向を把握する。

【必要な時間】
進捗状況により適宜設定する。

科目名	地域学習 I
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

本講義の目的は、人々が暮らす場をしっかりと見つめ、その地に根ざす歴史や価値を理解し、その地に暮らす住民が矜持とエネルギーを獲得し、主体性を取り戻すための空間に変えるために必要となる知識と思考法を習得することにある。基本的な知識を身につけ、ケーススタディーとして特長ある取組みを行う地域を取上げ、その取組みを考察する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、授業テーマに沿ったレジュメや資料を配付し、パワーポイント等を使用して講義形式で授業を実施する。演習形式により、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどの能動的な学修も実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で実施する課題は、適宜フィードバックする。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施する。

- ①ガイダンス
- ②地域とは
- ③地図からの発見
- ④地域を調べる
- ⑤地域資源の可視化
- ⑥地域ブランドを創る
- ⑦ローカルホスピタリティ
- ⑧人口減少と関係人口
- ⑨地域マネジメント
- ⑩地域振興プロジェクト (1) 住民参加型イベント
- ⑪地域振興プロジェクト (2) 地域人材の育成
- ⑫地域振興プロジェクト (3) 地域資源の有効活用
- ⑬地域振興プロジェクト (4) 外部人材・外部評価の活用
- ⑭地域振興プロジェクト (5) 地域経営戦略の展開
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①地域が有する諸課題や魅力を抽出することができるようになる。
- ②地域課題を解決するための方法を考え、説明することができるようになる。
- ③地域資源の価値を再認識し、付加価値向上させるための提案ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識、・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する能力

■成績評価基準と方法

- | | |
|---------------|-----|
| ①授業内課題 | 30% |
| ②グループディスカッション | 20% |
| ③期末試験 | 50% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、レジュメや資料を配付する。

【参考文献】

- 『はじめての地域学』 地域学研究会編 ミネルヴァ書房
 『地域ブランドと魅力あるまちづくり』 佐々木一成 学芸出版社

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・必要に応じ手資料の指示や、課題を与える。
- ・課題の提出は、主に学修管理システムmanabaによる提出とする。

【必要な時間】

事前・事後にそれぞれ2時間程度の学習時間を要する。

科目名	地域探究 I
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

本演習では、函館市を訪問し函館西部地区の重要伝統的建造物群保存地区にみられる町並み景観や、函館山や五稜郭をはじめとする歴史・文化資源や観光施設などを観察する。あわせて函館市と関連が深い隣町の鹿部町にも訪問し、地場産業のあり方や観光資源の活用方法などについて観察する。現地では、事業者や地域活性に取り組む地域住民等に対してヒアリングを行い、地域資源の価値を認識し、その活用方法とその付加価値向上のための方策を、フィールドワークをとおして考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

地域学習 I で学習した知識をもとに、訪問前の事前学習と現地体験とを結合させることによりまちの観察力を養う。事前学習は講義に加え、毎回予備調査のテーマ分野ごとに調査内容を分担し、①リサーチ⇒②レジュメ作成⇒③プレゼンテーションの学習を繰り返し実施する。グループワークにより、情報収集力およびデータ整理力や資料作成の力を養うとともに、履修者同士による情報共有と協調性も醸成する。現地では、永年にわたり地域イベントを開催する市民団体との意見交換を行ない、その企画目的や実施意義を確認し、地域活性化の取り組み事例から資源価値の再認識やまちづくりにおける有効性や重要性について理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で補足解説を行い、参加者同士によるディスカッションを実施することにより、訪問地に対する理解を深めるとともに、情報共有を図り協調性を高める。

■授業計画

演習は、概ね以下のとおり実施する。

- ① ガイダンス（研修日程や趣旨に関する説明）
- ② 訪問先に関する事前調査1(歴史文化)
- ③ 訪問先に関する事前調査2(町並み景観)
- ④ 訪問先に関する事前調査3(食と観光)
- ⑤ 訪問先に関する事前調査4(地場産業)
- ⑥ 訪問先に関する事前調査5(交通網)
- ⑦ 訪問先に関する事前調査6(自然資源)
- ⑧ 現地活動計画書の作成
- ⑨ フィールドワーク：1日目
- ⑩ フィールドワーク：2日目
- ⑪ フィールドワーク：3日目
- ⑫ フィールドワーク：4日目
- ⑬ フィールドワークの振り返り
- ⑭ フィールドワークの取り纏め
- ⑮ フィールドワークの成果報告

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 地域が抱える諸課題を抽出し、その改善策を検討することができる。
- ② 地域資源の価値を理解し、さらに付加価値を高める提案などができる。
- ③ 地域力を高めるための思考法を身に付け、第三者へ発信することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識、・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- | | |
|--------------|-----|
| ① 事前課題の提出 | 25% |
| ② 現地演習での取り組み | 25% |
| ③ 成果報告 | 20% |
| ④ 事後レポート | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料など配付する。

【参考文献】

必要に応じて、適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

函館市および鹿部町の歴史、文化および産業に関して理解できるよう、関連資料の通読、新聞や雑誌掲載される記事、書籍およびテレビなどをおして、日頃から関心を持つこと。

【必要な時間】

事前学習として、演習先に関する予備調査では毎回2時間程度必要となる。授業実施後は確認作業を行うなど2時間程度が必要となる。

■その他

- ① 実施時期は、2024年2月下旬～3月上旬頃（3泊4日を予定）。
この演習に関する事前学習（予備調査）は、11月以降に開始します。
- ② 実習費等は、概ね5万2千円（交通費、宿泊費及び大学費用補助等含む）。
- ③ 詳細は別途指示するので、掲示に注意すること。

※他の授業科目も含め、無断欠席が多いなど、フィールドワーク参加に不適切な行動や態度が見られる学生は参加を認めないことがある。

科目名	日本語教育文法 I
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	細野 弥恵

■講義の目的および概要

本講義は日本語教育のための「音声学 (phonetics)」および「音韻論 (phonology)」について学びます。学習者の発音を音声学的に分析するための基礎的な知識を身に付け、日本語教育的にどう対応していくか理解することを目的とします。講義前半は、日本語の音声を発する仕組み（口の中をどのように動かすとどのような音が出るか）を学びます。講義後半は、日本語にはどのような音の区別やパターンや振る舞いがあるかを学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・主に講義形式で行いますが、必要に応じてペア、グループワークを行います。
- ・「音声」は自ら声を出さなければ理解できません。そのため、授業内で実際に声を出して練習してもらいます。履修者の積極的な参加を期待します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業内にて解説し、必要に応じてmanabaなどで資料を配付します。

■授業計画

「日本語教育のための日本語分析」「日本語教育のための音韻・音声体系」に関する基礎知識を学びます。

- ①ガイダンス
- ②日本語教育のための音声体系1 日本語の音声：国際音声記号・口腔断面図
- ③日本語教育のための音声体系2 発声のしくみ：口腔断面図・音声器官
- ④日本語教育のための音声体系3 発声のしくみ：調音点・調音法
- ⑤実践練習（1）
- ⑥実践練習（2）
- ⑦実践練習（3）
- ⑧日本語教育のための音韻体系1 音素と異音
- ⑨日本語教育のための音韻体系2 音のいろいろな現象
- ⑩日本語教育のための音韻体系3 拍・アクセント・イントネーションなど
- ⑪実践練習（4）
- ⑫実践練習（5）
- ⑬実践練習（6）
- ⑭実践練習（7）
- ⑮期末試験＋授業アンケート＋解説

- * 受講生および授業の進行状況によって内容を変更することがあります。
- * 実践練習では実際の学習者の発音のエラーが理解できるように練習します

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・日本語学習者の音声を分析するための基礎知識を身につける。
- ・日本語教育において学習者の発音習得に寄与できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ・課題に対する取組、授業への参加度（授業中の積極的な回答や発表など） 40%
- ・学習内容に関する小テスト 20%
- ・期末試験 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書はありません。教員が毎回配布する資料を使います。配布された資料は毎回使いますから、かならず「全部」持ってきてください。配布された資料はファイルなどに入れて、なくさないでください。

【参考文献】

- ・原沢伊都夫（2016）『日本語教師のための入門言語学：演習と解説』（スリーエーネットワーク）第2章「音声学」および第3章「音韻論」
- ・松崎寛、河野俊之（2018）『日本語教育 よくわかる音声』（アルク）

■授業外学習

【具体的な内容】

・第4回目の授業から第13回目の授業まで、毎回、小テストがあります。配布資料を復習して小テストに備えてください。

【必要な時間】

・事前、事後学習ともに1～2時間を目安とします。

■その他

- ・本講義は第15回目に授業内試験を実施します。試験時間は60分です。試験後に授業アンケートに答えていただきます。そのあと解説を行います。
- ・授業の中では常に自分で声を出して音を確認してください。

科目名	日本語教授法 I
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	宇留野 健太

■講義の目的および概要

本講義は、日本語教師課程の必修科目である。日本語教育における教授法について学ぶ。主に日本語初級の教え方、外国語教授法について取り上げ、日本語教師の役割を理解し、日本語初級の授業に必要な知識を養う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・ 講義形式、演習形式の両方で行う。
- ・ 主に日本語初級の教え方、外国語教授法について指導する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については次の授業時に説明し、必要に応じて補助資料を配布する。

■授業計画

日本語教師課程の「日本語教育プログラムの理解と実践、教室・言語環境の設定、教授法、教材分析・作成・開発、授業計画、目的・対象別日本語教育法、コミュニケーション教育」に対応した内容である。概ね以下の内容で授業を展開する予定である。

- ①ガイダンス/日本語教授法について
- ②日本語教師の役割 1
- ③日本語教師の役割 2
- ④日本語を教えるということ 1
- ⑤日本語を教えるということ 2
- ⑥初級の教え方 (1) 発音/会話 1
- ⑦初級の教え方 (1) 発音/会話 2
- ⑧初級の教え方 (1) 発音/会話 3
- ⑨初級の教え方 (2) 文字/読解 1
- ⑩初級の教え方 (2) 文字/読解 2
- ⑪初級の教え方 (2) 文字/読解 3
- ⑫いろいろな外国語教授法 1
- ⑬いろいろな外国語教授法 2
- ⑭いろいろな外国語教授法 3
- ⑮期末テスト/まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 日本語教授法の基礎的な知識を理解することができる。
- ・ 日本語初級の教え方、外国語教授法に関する知識を理解することができる。
- ・ パワーポイントを使って、フラッシュカード等の教材を作成することができる。
- ・ 授業で学んだことから、日本語初級クラスの授業の流れを把握することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

毎回の課題	…20%
授業に対する取り組み	…30%
授業内に実施する小テスト	…20%
授業内に実施する期末テスト	…30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『新・はじめての日本語教育2 [増補改訂版] 日本語教授法入門』 高見澤孟 アスク
出版

2023 (令和5)年4月1日

【参考文献】
授業内で適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】
・基礎的な知識を理解するために、予習・復習を行うことが求められる。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

・事前に「日本語教育概論」を履修していることが望ましい。

科目名	北海道ミュージアム
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	坂梨 夏代

■講義の目的および概要

本講義は北海道にある博物館、史跡、文化財などの文化資源を活用し、北海道の自然、歴史、文化、文学、芸術、産業など各地域が持っている地域資源についてより深く理解することを目的とする講義である。そのために学生が自ら地域について調査・発表し、さらに見学研修を企画することで自発的な態度、企画・調査・実行力を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

北海道内にある市町村には様々な種類の博物館がある。これらの博物館は地域の歴史文化を伝える学びの場として、また地域コミュニティの場として中心的な役割をもっている。こうした博物館について学生自身が調べ、フィールドワーク見学を行う。フィールドワークのルート、交通機関、ホテル、博物館などの予約などを学生自らが企画する。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループで行われた話し合いを毎回全員で振り返り、次回までに行うことを確認する調べたものを発表し、全員でディスカッションを行う。フィールドワーク終了後は振り返り(反省会)を行い、見学した内容をもとに発表を行う。

■授業計画

- ①ガイダンス：講義の目的、見学研修などについての説明
- ②見学地の決定：各地域の概要について講義。見学研修先のグループディスカッション
- ③見学研修の企画：見学研修のルートやホテル等の予約、しおり作成などのグループ活動
- ④博物館調査：見学を行う博物館、地域の調査
- ⑤発表：調査した博物館や地域についての発表
- ⑥見学研修（予定）：※10月末または11月中旬に1泊2日で見学予定。日程の調整次第で見学研修の企画、博物館調査、発表に変更。
- ⑦見学研修（予定）：同上
- ⑧見学研修（予定）：同上
- ⑨見学研修（予定）：同上
- ⑩見学研修（予定）：同上
- ⑪見学研修の振り返り：研修の反省会を実施する
- ⑫グループワーク：博物館の活用について考える。グループワークを行う
- ⑬発表準備：報告会での発表のための準備。グループワークを行う
- ⑭報告会・レポート：見学した博物館、史跡、文化財などについて発表を行う
- ⑮まとめ・全体の振り返り：講義全体を通しての振り返り、これからの地域の博物館、及び文化資源の活用のあり方について講義

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道に存在する文化資源の概要と価値を認識し、その活用について考え、地域とともに行動する能力を養うこと。また履修者自らが見学する博物館・史跡等を選定し、旅行日程を組み、比較調査できるレベルになることを目標とする。さらにフィールドワークを実施できる自発的な態度、企画・調査・実行力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- 見学研修 (30%)
- 調べもの・発表 (20%)
- グループ活動 (20%)
- 報告会・レポート (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。適宜プリントを配布する。

【参考文献】

『挑戦する博物館 今、博物館がオモシロイ??』2018 小川義和他編 ジダイ社

■授業外学習

【具体的な内容】

北海道の主要な博物館や注目すべき文化資源について知っておくことが望ましい。
授業外でもグループワークや博物館に関する調査を行うこと。

【必要な時間】

博物館などの調べで1～2時間。報告会に1～2時間程度。

■その他

※見学研修は貸切バスなどで1泊2日の旅行となる。参加費1～2万円程度を徴収し（
※人数・見学場所によっては3万程度）、通常は土、日で実施する。
※コロナの状況により授業内容等の変更等あり。

科目名	考古学
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	坂梨 夏代、越田 賢一郎

■講義の目的および概要

考古学とはどのような学問なのか、その基礎となる考え方はどのようなものかを理解してもらうことを目的とする。年代決定、時期区分、遺構の把握、遺物の取り扱い、文献資料との対比などについて実物資料に即しながら解説していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義の概要を記したテキストを配布するとともに、ビデオ、スライドなどの映像を活用して講義内容の理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義中に小レポートの提出を求め、講義内容の理解を確認することがある。

■授業計画

次の順序で進めていく。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ① 考古学とは？ | |
| ② 文献に残された考古資料 | 文献史学と考古学『風土記』と『蝦夷日誌』 |
| ③ 年代を決める 1 | 相対年代と土器編年 |
| ④ 年代を決める 2 | 絶対年代 |
| ⑤ 考古展示施設見学 | |
| ⑥ 旧石器時代 | 国宝誕生 最初の日本列島人と黒曜石 |
| ⑦ 土器と石器 | 自然環境と人類の知恵 |
| ⑧ 縄文時代とは | 世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」 |
| ⑨ 縄文人と弥生人 | 渡来系弥生人の存在 |
| ⑩ 三国志の世界 | 東アジア世界のなかの日本 邪馬壹国はどこか |
| ⑪ 女王卑弥呼の実像 | 「以って死す」の解釈 |
| ⑫ 弥生文化と北海道 | 続縄文文化 |
| ⑬ 日本国の成立と北海道 | 擦文文化とオホーツク文化（東北アジア世界） |
| ⑭ 中世・近世の考古学 | 北海道アイヌ考古学とは |
| ⑮ 考古学と現代 | 歴史が私たちに語り掛けるものは何か |

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

考古学的発掘調査で検出した遺構や遺物をもとに、どのように人々の歴史を描くことができるのかを理解する。併せて、博物館、郷土資料館などの役割を学ぶ。

【卒業認定・学位授与方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】 学芸員資格、考古調査士取得可能

■成績評価基準と方法

筆記試験 60、
講義中の小レポート 10%
外部施設見学レポート 15%
受講態度 15%。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義の際配布するプリントに参考文献等を記載する。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

高等学校の歴史程度の知識が必要となる。年号まではいらませんが、日本史の時代区分を世紀単位で把握しておいてほしい。また本州の時代区分と北海道の時代区分が異なるので、講義後に年代の確認が必要になる。

【必要な時間】各講義、前後30分程度

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

講義の1回分を外部施設見学とし、レポートの提出を求める。見学は週末に行い、現地集合・現地解散とするため、交通費が必要となる。

科目名	日本語教育実習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	宇留野 健太、細野 弥恵、金庭 香理

■講義の目的および概要

- ・初級学習者に対する日本語指導法を理解する。
- ・初級クラスにおける新出表現の導入・練習方法を理解し、教案および教材を作成する。
- ・初級クラスの模擬授業を行う。
- ・初級クラスの教壇実習の準備を行う。
- ・初級クラスの教壇実習を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

この授業は主に演習形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内での解説、振り返り、個別対応による。必要な場合には資料を配布する。

■授業計画

日本語教師課程の「日本語教師の資質・能力、コースデザイン、授業計画、教育実習、授業分析・自己点検能力」に対応した内容である。概ね以下の内容で授業を展開する予定である。

- 1 オリエンテーション
- 2 初級クラスの教え方①
- 3 初級クラスの教え方②
- 4 初級クラスの教え方③
- 5 初級クラスの教え方④
- 6 授業見学/振り返り
- 7 教案の書き方/教材の作り方①
- 8 教案の書き方/教材の作り方②
- 9 教案の書き方/教材の作り方③
- 10 教案の書き方/教材の作り方④
- 11 模擬授業/振り返り①
- 12 模擬授業/振り返り②
- 13 模擬授業/振り返り③
- 14 模擬授業/振り返り④
- 15 模擬授業/振り返り⑤
- 16 教壇実習準備①
- 17 教壇実習準備②
- 18 教壇実習準備③
- 19 教壇実習準備④
- 20 教壇実習準備⑤
- 21 教壇実習準備⑥
- 22 教壇実習準備⑦
- 23 教壇実習準備⑧
- 24 教壇実習準備⑨
- 25 教壇実習準備⑩
- 26 教壇実習/教壇実習全体の振り返り①
- 27 教壇実習/教壇実習全体の振り返り②
- 28 教壇実習/教壇実習全体の振り返り③
- 29 教壇実習/教壇実習全体の振り返り④
- 30 教壇実習/教壇実習全体の振り返り⑤

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・初級クラスの日本語指導法を理解することができる。
- ・初級クラスの新出表現の導入・練習方法を理解し、教案および教材を作成することができる。
- ・教壇実習および模擬授業をととして、日本語指導の実践力を身につける。
- ・教壇実習および模擬授業をととして、日本語教育現場に必要なことを体験的に知る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

- ・毎回の課題…70%
- ・教壇実習 …30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 本冊』スリーエーネットワーク編、発行

【参考文献】

授業内で適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・初級クラスの教え方、教案の書き方、教材の作り方について、十分に復習すること。
- ・教壇実習および模擬授業の準備を十分にすること。
- ・教壇実習および模擬授業の振り返りを行い、分析をすること。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

・当該科目を履修するためには、「日本語教育概論」「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「心理言語学」「日本語教育文法Ⅰ（音声）」「日本語教育文法Ⅱ（語彙と文法）」の単位を修得済み、もしくは授業を履修済みであることを要件とする。

科目名	博物館資料論
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	工藤 義衛

■講義の目的および概要

博物館資料の収集、保存・管理、展示、調査研究は博物館活動の基幹業務です。本講義ではまずこれらについて理念と方法を学び、博物館資料の概念を明確にし、博物館資料と博物館及び博物館活動の基本について理解を図ります。博物館資料に係る書業務は学芸員の関与なしには行われ得ないことから、博物館資料と学芸員の関りについて理解を深めます。

博物館活動なかでの博物館資料と学芸員の関りを学ぶことは学芸員業務だけでなく、社会人生活でも生かすことができるでしょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は地方自治体の効率博物館での勤務経験のある教員が、博物館資料の収集、保管、展示、研究に関する実務経験を踏まえて博物館資料の多様さや博物館資料にかかる業務や博物館資料の意義について理解を図る講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ① ガイダンス 博物館資料論の概要
- ② 博物館資料とは 定義と実物資料
- ③ 博物館の種類と博物館資料
- ④ 博物館資料の種類① 文書資料
- ⑤ 博物館資料の種類② 考古資料
- ⑥ 博物館資料の種類③ 民俗資料
- ⑦ 博物館資料の収集
- ⑧ 博物館資料の整理と保存
- ⑨ 博物館資料の修復
- ⑩ 博物館資料と研究
- ⑪ ①～⑩回まとめ・中間考査
- ⑫ 博物館資料の展示手法
- ⑬ 博物館資料と展示施設
- ⑭ 博物館資料と情報
- ⑮ 博物館資料と社会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

博物館資料の定義、種類について十分な理解をした上で、博物館資料の収集手法、展示手法、展示施設の種類と意義について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

授業中に実施する小テスト、中間テスト、期末テストの総合点で評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業ごとにプリントを配布します。

【参考文献】

『概説博物館学』 全国大学博物館協議会西日本部会編 2002

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で使用される専門用語について、ノートにまとめておいてください。授業の最初ないし最後に講義内容についての小テストを実施します。授業の要点ですからノートにじっくりまとめておいてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

できるだけ博物館や展示施設に足を運ぶこと。そして授業で学んだ知識をもとに展示されている博物館資料を見ること。また、商業施設の商品ディスプレイも展示のひとつです。かならずヒントになることがあります。日常生活のなかの資料の取り扱いに目を向けてください。

科目名	基礎演習 I [国教]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣、新谷 弥、杉江 聡子、武井 昭也、濱田 剛一、趙 恵真、遊佐 順和

■講義の目的および概要

本演習では、国際化に関する言語、文化、ビジネス等の体験型学習を通じて、多文化共生社会の理解を深め、コミュニケーション能力を向上させることを目指します。また、書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につけ、異なる言語、文化、価値観などを理解するために、情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につけることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

少人数のゼミナール形式で実施するが内容によっては学年合同で実施する場合もある。多文化共生社会に関連するテーマや項目にしたがい、グループワークによる制作やフィールドワークによる調査を実施し、ディスカッションやデータ分析を通し、成果をまとめ、プレゼンテーションなどの形で発表する。

・授業内容

ゼミ担当教員のもとで、広く多文化共生社会に関連するテーマ研究や調査を行う。テーマに関する知識と調査や活動に必要な手法を修得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業の中で前回までの復習や課題を踏まえて解説やコメントする。
- ・オンライン課題や授業中に出された疑問・質問に授業の中で回答補足する。
- ・オンライン課題のフィードバックは学習管理システムなどで各自に返信する。

■授業計画

- ①ガイダンス（学科合同）
- ②ガイダンス（ゼミ）
- ③テーマ設定
- ④調査分析
- ⑤分析 1
- ⑥分析 2・検討
- ⑦まとめ
- ⑧コースプロジェクト 1
- ⑨コースプロジェクト 2
- ⑩コースプロジェクト 3
- ⑪発表準備 1
- ⑫発表準備 2
- ⑬学祭（国際理解企画）
- ⑭成果発表と相互評価
- ⑮まとめとフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①多文化共生社会の理解を深める。
- ②コミュニケーション能力を向上させる。
- ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。
- ④情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力 (DP3) 課題を発見し、解決する力 (DP4) 多様性の理解と協働する力 (DP5) 能動的に学び続ける力 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業への取り組み（グループワークやディスカッションへの参加貢献） 40%
 課題（レジュメ、レポート）の提出と完成度 20%
 プレゼンテーションの発表と完成度 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて、授業内で適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・自らのグループのテーマに即し、文献の読解、情報やデータの収集、発表準備、課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

■その他

- ・社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。学祭での国際理解企画は演習の一環として全員参加とする。
- ・授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	基礎演習Ⅱ[国教]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣、新谷 弥、杉江 聡子、武井 昭也、濱田 剛一、趙 恵真、遊佐 順和

■講義の目的および概要

多文化共生に関するフィールドワークやセミナー等に参加し、異なる文化や価値観を理解するための情報や技術を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式で実施する。小グループワークで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、プレゼンテーションを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②テーマ設定
- ③調査分析
- ④共生社会の理解
- ⑤講演会（共生社会を考える）
- ⑥グループディスカッション（共生社会）
- ⑦フィールドワーク（準備）
- ⑧フィールドワーク 1
- ⑨フィールドワーク 2
- ⑩テーマ分析・まとめ
- ⑪発表準備 1
- ⑫発表準備 2
- ⑬発表準備 3
- ⑭成果発表
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①多文化共生社会の理解を深める。
- ②コミュニケーション能力を向上させる。
- ③書籍やインターネット、異文化体験の活動等を通じて学び、異文化に対する理解や寛容的な態度を身につける。
- ④情報共有や意思疎通をスムーズに行うためのスキルを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力 (DP3) 課題を発見し、解決する力 (DP4) 多様性の理解と協働する力 (DP5) 能動的に学び続ける力 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

グループワークの成果発表	50%
グループワークの振り返り	20%
授業内提出物	30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しない

■授業外学習

【具体的な内容】

受講者は自らのグループのテーマに即し、文章読解、データ取得、発表準備等を行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とし、約40時間。

■その他

- ・社会の動向に関心を向けながら、国際化、異文化理解、多文化共生に関するフォーラム、講演会、研究会などにも積極的に参加すること。
- ・授業の中でも段階的に使用するが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	社会言語学
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	宇留野 健太

■講義の目的および概要

社会言語学は、普段の社会生活の中で、どのように言語が使用されているのかを研究する学問である。本講義は、コミュニケーションツールとしての言語の役割を深く理解し、社会と言語との関係について考えることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で行うが、受講人数によりグループワークなどを実施することもある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については次の授業時に説明し、必要に応じて補助資料を配布する。

■授業計画

日本語教師課程の「世界と日本の日本語教育事情、社会言語学、言語政策とことば、コミュニケーションストラテジー、待遇・敬意表現、言語・非言語行動、異文化間教育、異文化コミュニケーション、コミュニケーション教育」に対応した内容である。

- ①ガイダンス/言語とは
- ②社会言語学とは (1)
- ③社会言語学とは (2)
- ④地域方言・社会方言・その他の方言 (1)
- ⑤地域方言・社会方言・その他の方言 (2)
- ⑥地域方言・社会方言・その他の方言 (3)
- ⑦待遇・敬意表現/ポライトネス (1)
- ⑧待遇・敬意表現/ポライトネス (2)
- ⑨やさしい日本語 (1)
- ⑩やさしい日本語 (2)
- ⑪日本語の人称表現
- ⑫言語の選択
- ⑬言語と文化
- ⑭異文化コミュニケーションと社会
- ⑮期末テスト/まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・社会的・文化的な観点を通して、言語のありかた、社会と言語との関係性について理解し、考えることができる。
- ・社会生活における円滑なコミュニケーションの実現について理解し、考えることができる。
- ・異文化コミュニケーション、コミュニケーションストラテジーについて理解し、考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・ 課題に対する取り組み 20%
- ・ 授業内に行う小テスト 20%
- ・ 課題レポート 30%
- ・ 授業内に行う期末テスト 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。授業内で資料を適宜配布する。

【参考文献】

- 庵功雄 (2016) 『やさしい日本語ー多文化共生社会へ』岩波書店
- 石黒圭 (2013) 『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社
- 加藤重広 (2007) 『学びのエクササイズ ことばの科学』ひつじ書房

■授業外学習

【具体的な内容】

基礎的な知識を理解するために、予習・復習を行うことが求められる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

「社会言語学」は日本語教師課程の選択科目であるが、当課程修了には必要な科目であるので、日本語教師課程修了希望者は必ず履修すること。

科目名	博物館資料保存論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	志賀 健司

■講義の目的および概要

博物館は、実物資料を取り扱う現場です。机上の理論だけではなく、“実物”に対する物理・化学的な視点や、経験が極めて重要になります。講義では、担当者の博物館学芸員としての実務経験に基づき、多数の実例を紹介し、可能な限り実物資料・標本も使用します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室内で、スライド（パワーポイント）を使い、必要に応じて配布資料を用いて講義します。回によっては、実物資料・標本等を用いた解説等も行います。毎回の最後には、講義内容に関する簡易なレポートを作成・提出していただきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

次の回に、前回レポートに対する解説や補足、質問への回答をします。

■授業計画

- ① ガイダンス／博物館資料の意義と保存の重要性
- ② 博物館資料の種類
- ③ 博物館資料と自然科学 1
- ④ 博物館資料と自然科学 2
- ⑤ 採集物が標本になるまで 1
- ⑥ 採集物が標本になるまで 2
- ⑦ 資料の保存と環境 1：温度
- ⑧ 資料の保存と環境 2：湿度・空気
- ⑨ 資料の保存と環境 3：光
- ⑩ 資料の保存と環境 4：生物
- ⑪ 資料の保存と環境 5：災害
- ⑫ 博物館の収蔵庫
- ⑬ 資料の研究と破壊
- ⑭ 資料の展示と劣化
- ⑮ まとめ／博物館資料を未来に残すために

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 博物館における資料・標本の保存の原則を理解する。
- ・ 博物館資料に限らず、モノを取り扱う際に必要な、物理・化学的視点を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

レポート（冬休み・期末の2回）：55%
毎回の簡易レポート：45%
単位の認定には、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要です。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは設定しませんが、必要に応じてプリント等を配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 毎回授業で講義内容に関する簡易なレポートを作成してもらいますので、日頃から予習・復習を心がけてください。
- ・ 資料保存という視点を持ち、近隣の複数の博物館等を見学してください。

【必要な時間】

1回の講義につき、予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

「博物館概論」および「博物館資料論」を履修していることを前提とします。事情により履修できていない場合は、それらに関連した図書等で十分に自主学習をしていること。

科目名	世界遺産[国教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	阿部 千春

■講義の目的および概要

いま、教育、観光、地域づくりの中でユネスコの世界遺産が注目されています。
①世界遺産とは何か、②世界遺産から何を学ぶのか。この二つの視点を通して文化や自然を通じた多様性の大切さを学び、国際社会における課題と解決方法に向き合うマインドを持った人材育成のための基礎を学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的にパワーポイント等を使った講義方式で行いますが、必要に応じてグループワークやディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配付します。

■授業計画

- ①世界遺産とは何か (1) /世界と日本の世界遺産とその種類
- ②世界遺産とは何か (2) /世界遺産条約と当時の社会背景
- ③世界遺産とは何か (3) /世界遺産になるためには
- ④世界遺産とは何か (4) /世界遺産の目的とは
- ⑤世界遺産とは何か (5) /北海道の世界遺産 (知床・縄文)
- ⑥世界遺産から学ぶ (1) /北海道・北東北の縄文遺跡群 (概要)
- ⑦世界遺産から学ぶ (2) /北海道の縄文から学ぶ① (垣ノ島遺跡)
- ⑧世界遺産から学ぶ (3) /北海道の縄文から学ぶ② (北黄金貝塚)
- ⑨世界遺産から学ぶ (4) /北海道の縄文から学ぶ③ (大船遺跡)
- ⑩世界遺産から学ぶ (5) /北海道の縄文から学ぶ④ (入江・高砂貝塚)
- ⑪世界遺産から学ぶ (6) /北海道の縄文から学ぶ⑤ (キウス周堤墓群)
- ⑫世界遺産から学ぶ (7) /世界遺産教育とは (持続可能な発展のための教育)
- ⑬世界遺産から学ぶ (8) /現代社会の課題と縄文から学ぶこと (グループワーク)
- ⑭世界遺産から学ぶ (9) /現代社会の課題と縄文から学ぶこと (レポート作成)
- ⑮全体まとめと振り返り/世界遺産の意義と活用について

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①世界遺産に関する基礎知識を身につける
- ②世界遺産の意義に関して知見を深める
- ③北海道の世界遺産について知識を身につける
- ④世界遺産教育について理解し、その活用を考える

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と共同する力

■成績評価基準と方法

課題1_世界遺産とは何か 課題2_世界遺産から学ぶ この2点について課題を設定し、記述を求めます。また、まとめに関して期末レポートとして提出してもらいます。

課題1・2それぞれ20% 期末レポート60% 計100%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回、講師が作成したパワーポイント資料をテキストとします。*配布を基本とします

【参考文献】

『世界遺産ガイド～世界遺産の基礎知識編～』

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】
ユネスコの活動と世界遺産の概要について、事前にインターネット等（日本ユネスコ協会連盟・外務省・文部科学省）から情報を収集してほしい。

【必要な時間】①世界遺産とは何か ②世界遺産から何を学ぶか 各最初の授業の前に1時間程度。

■その他

科目名	文化資源学
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	越田 賢一郎

■講義の目的および概要

「文化資源」とは何でしょうか？人類は自然環境の中で、環境に様々な働きかけをしながら生活してきました。その結果生み出されてきたのが文化であり、長い歴史を経て、現在を築き上げてきた基盤となります。現在、私たちが生活している場に残されたものの中から、文化財として保存されるものがある一方、知らずに失われていくものがあります。そこに目を向けて、私たちの未来の生活の中に生かそうと考える時、私たちの身の回りのものは「文化資源」となり、それが生かされていくときに文化遺産となっていきます。今私たちが目を向けていかなければいけないものは何かを考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式と現場フィールドワークを併用していく。
その結果を発表し、討論形式でのまとめを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義で学んだことをフィールドワークで体験してみる。実際に現場に出て、自らの感覚でとらえ、それを持ち帰って討議をする。さらにその活用計画を考え、出来る範囲で実行し、それを討議の中で相互に評価しあう。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②文化資源とは？
- ③市民遺産から世界遺産まで
- ④身の回りの文化資源を探そう (1)
- ⑤身の回りの文化資源を探そう (2) 札幌の北海道遺産
- ⑥札幌の文化資源を探そう (フィールドワーク)
- ⑦文化財保護法を読んでみよう (1) 様々な文化財と日本遺産
- ⑧文化財保護法を読んでみよう (2) 新しい文化財の創出
- ⑨縄文遺跡群の世界遺産登録 (1) 歴史的価値
- ⑩縄文遺跡群の世界遺産登録 (2) 地域と世界遺産
- ⑪縄文遺跡群の世界遺産登録 (3) 地域の活動と町おこし
- ⑫私の身近な文化資源 (発表) (1)
- ⑬私の身近な文化資源 (発表) (2)
- ⑭私の身近な文化資源 (発表) (3)
- ⑮まとめ (討論)

* フィールドワークは新型コロナ禍の状況を見ながら実施する。講義時間外で実施することになる可能性が高い (現地集合・現地解散：交通費がかかる) ので注意。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人類の文化とは何かを理解することを第1とする。文化資源の意味を理解し、身の回りの文化資源を探してみる。

第2にそれを生かすにはどのような方法があるのか、観光と町おこしの視点で考えることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発表 (40%)
討論内容 (20%)
フィールドワークレポート (20%)
小レポート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回プリントを配布する。また、見学地点のパンフレット、ホームページからの情報などを利用する。

【参考文献】

田中輝美2017『関係人口をつくる』木楽舎

■授業外学習

【具体的な内容】自分が生まれ育った地域の文化財をあらかじめ調べておくこと。2023（令和5）年4月1日
た今住んでいる場所の文化資源を実際に歩いて探すこと。

【必要な時間】

地域活動のコアとなるのが、博物館である場合が多い。休日等を利用しての博物館見学などが必要となる。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークは新型コロナ禍の状況を見ながら実施する。講義時間外で実施することになる可能性が強い（現地集合・現地解散：交通費がかかる）ので注意。
留学生は、自国のことについて発表することもありうる。

科目名	日本近現代史
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	篠崎 敦史

■講義の目的および概要

- ・本講義は、幕末から昭和の終わり(19世紀後半～20世紀後半)までの日本の歴史をてがかりに、それが「現代」の我々にどのような意味をもった出来事なのか、国際的視野から考えることを目的とする。
- ・特に本講義で強調したいのは、「外からの視点」である。明治維新などを日本国内だけの出来事にとらえず、これらを諸外国はどのようにとらえ、また、日本の行動が世界にどのような影響を与えたのかという、双方向的な視野から近現代の日本史を学んでいく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・講義形式。必要に応じ、アクティブラーニング。
- ・適宜、課題や記述による課題を授業中に実施する。

【ICT機器】

- ・プロジェクターを介した画像、映像などを使用。zoom(遠隔の場合のみ)。

【実務経験】・・・中学校の「社会」、高等学校の「日本史」、「世界史」での授業経験を一部使用。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・口頭ないし文書で、コメントをつけて返却する。

■授業計画

- ①ガイダンスー「近現代、とはなにか?
- ②明治維新
- ③西南戦争
- ④日清戦争
- ⑤日露戦争
- ⑥大正と昭和のライフスタイル その1ー大衆娯楽の成立
- ⑦大正と昭和のライフスタイル その2ー「伝統文化」の成立
- ⑧大正と昭和のライフスタイル その3ー現在との比較
- ⑨昭和という時代 その1ー1930年代
- ⑩昭和という時代 その2ー1940年代 その1
- ⑪昭和という時代 その3ー1940年代 その2
- ⑫高度経済成長と現在の日本 その1
- ⑬高度経済成長と現在の日本 その2
- ⑭高度経済成長の終わりと現在の日本
- ⑮まとめー「現代」の日本

※感染症の影響で、一部の講義内容を変更する可能性がある。ただし、その場合も到達目標は変えない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・大学生、社会人としてふさわしい日本史と世界に関する知識を身につける。
- ・身につけた知識をふまえ、自ら「考える」ことが出来るようになる。
- ・国際社会と日本が密接に関係し、現在も互いに影響を与えているという、双方向的な視座に大切さについて学ぶ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

・DP1・・・「各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

■成績評価基準と方法

- ・各授業中に実施する課題・・・50%
- ・定期試験or授業外で履修者がまとめてくるレポートなどの課題・・・50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・なし。講義中にプリントを配布。

【参考文献】

川北稔『世界システム論講義』（2016年、筑摩書房）

岩波新書『日本近現代史 1～10』（2010年、岩波書店）。

吉見俊哉『平成時代』（2019年、岩波書店）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・各回、4時間程度。講義中指定された課題や、予習・復習。
- 事前、事後学習に関わる講義中に指示した課題については、指定された期日までに仕上げる。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。
- ・授業外で実施することを示した課題については、履修者が責任をもって授業外で実施しておくこと。また、課題に関して図書館使用や文献を読む時間を考慮した時間割編成をしておくこと。

■その他

- ・私語やほかの受講者に迷惑がかかる行為、いわゆるコピーや剽窃、そのほか不正行為や授業担当者が必要と判断したことについては、厳正に対処する。
- ・感染症の状況による授業形態の変化に応じて、授業内容をシラバスから変更する場合があります。その場合も到達目標は変らない。

科目名	地域研究Ⅱ(米州の文化)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	中津川 雅宣

■講義の目的および概要

iPhone、ディズニーランド、Office、マクドナルド、私たちの周りにはアメリカの文化・経済に囲まれています。しかし、アメリカについて詳しく知っている人は少ないでしょう。本講義の目的は、(1) アメリカの文化・社会について学ぶこと、(2) 自分の国・地域のアイデンティティを再認識すること、(3) 特に多様性について、社会文化的な視点から理解を深めることです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども取り入れます。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

・授業内容

アメリカの多様な文化や社会について、事例を用いて学び、映像メディアの視聴・鑑賞や学生同士のディスカッションを通して、学びを深化していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・授業の冒頭で前回の復習を踏まえて宿題の解答・解説をする。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②アメリカの成り立ち
- ③アメリカの植民地
- ④黒人文化と奴隷制度
- ⑤資本主義とアメリカ
- ⑥アメリカとポップカルチャー
- ⑦マイノリティー
- ⑧ゲストレクチャー（在米米国領事館）
- ⑨リフレクション
- ⑩発表テーマ決定
- ⑪情報収集、まとめ
- ⑫情報収集、まとめ
- ⑬プレゼンテーション資料作成
- ⑭プレゼンテーション資料作成
- ⑮最終発表・プレゼンテーション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・1) アメリカの文化・社会について理解し、発信できる。
- (2) 自分の国・地域と比較することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

授業への取り組み、確認テスト 30%
 課題・レポートの提出、完成度 30%
 プレゼンテーションの発表、完成度 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業の中で適宜資料を配布する。

【参考文献】

特になし

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする

■その他

- ・新型コロナウイルス感染予防策のため、対面、遠隔、ハイブリッド型の授業を組み合わせる授業を行う。授業形態や評価方法などが変わる可能性がある。詳しくは授業の中で説明する。
- ・初回ガイダンスは特に、遠隔授業の受講環境（通信や端末の環境、連絡方法等）を確認するので、必ず出席すること。
- ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	地域研究Ⅲ(欧州の文化)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

本講義は外国生まれの様々な表現や習慣を紹介しながら文化的で歴史的なルーツに関して知識や理解を深めることを目的とします。外来語・和製英語として日本語の中で存在する言葉の意味は、本来の姿、意味、使い方などと異なることが少なくありません。この授業では他の文化からモディフィケーションされて、現在は日本でなじみのある英単語、コンセプト、名前のルーツについて学び、文化の奥深さに気づき、新しい知識を得ます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ①講義はパワーポイントとレクチャースタイル
- ②学生はノートを取り、コース終了の時ノートを提出
- ③学生によるペアーや個人のPPによる発表

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中の課題やクイズ学生が参加し、評価される

■授業計画

- ①オリエンテーション・授業の進め方と評価
- ②文化、社会、歴史と考えるパターン
- ③ヨーロッパ生まれの民衆主義と古代オリンピックス (古代と現在)
- ④レーディーファーストなぜ生まれたか (中世と現在)
- ⑤バージンロードを歩くのは誰か (中世と現在)
- ⑥言葉と歴史的な出来事・カレンダー・年明けはなぜ真冬の一月になったか (古代)
- ⑦コミュニケーションを取るとは何か・「学生によるプレゼンテーション」
- ⑧コミュニケーションを取るとは何か・「学生によるプレゼンテーション」
- ⑨English loanwords in Japanese 「学生によるプレゼンテーション」
- ⑩ことわざの中で賢明さが眠っているか「English proverbs」
- ⑪社会の動きを表す新しい表現「学生によるプレゼンテーション」
- ⑫言葉を大事にする理由「学生によるプレゼンテーション」
- ⑬サンタさんはフィンランド人か(古代、中世、現在)
- ⑭復習
- ⑮期末テストフィードバック

注意：以降の順番に変更が可能です。学生によるプレゼンテーションは遠隔授業の場合はパワーポイントのプレゼンテーションのみとなります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

様々なステレオタイプを確認し、言語と文化の強い結びつきに気づき、言葉に含まれている意味や由来に対して興味を持ち、人間のコミュニケーション手段として言語の重要性に気づくこと。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

自立した人間として、教養を持ち言葉を大事にすること。

DP1【専門知識・技能を活用する力】

DP2【コミュニケーション能力】

DP5【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

ノート作成40%

学生発表50%

参加・授業中の小テスト10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
なし、教員が資料を配布する

【参考文献】

オンラインの記事を授業中に紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習として、それぞれのトピックについて調べること。
授業中学んだことに関して疑問に思ったことを必ず自分なりに調べ、授業の中でクラス全体に報告し、意見・感想を求めること。授業中紹介された語彙の復習を行う。

【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中にアクティブ参加が望まれる。

科目名	SDGs特講
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	菅井 貴子

■講義の目的および概要

SDGsとは、世界全体で取り組む必要があります。様々な分野に関わりますが、本質はとてもシンプルかもしれません。本講義は、目標13の気候変動を中心に、北海道の天気や気候変化、異常気象を通して、人と地球システムの関わりや温暖化の基本的な仕組み、大気汚染・河川汚染・森林破壊・ゴミ問題・自然エネルギーなど、他の目標に広げながら、ディスカッションやプレゼンテーションを行うことで、SDGsへの意識を高め、持続可能な社会形成に貢献できるようになることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

スライドや以下のテキストを中心とした講義、課題発表のプレゼンテーション、感想レポート、授業まとめレポートなどを実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示、配布します。

■授業計画

授業はおおむね以下の通りに実施しますが、時事問題などを絡めるため、順序は前後することがあります。

- ①オリエンテーション 授業の説明
- ②SDGsとは
- ③北海道の天気と気候多様性
- ④生物季節の変化
- ⑤地球温暖化と温室効果ガス
- ⑥自然エネルギー
- ⑦自然災害と防災の基礎知識
- ⑧オゾン層・酸性雨・大気汚染・森林破壊の現状
- ⑨IPCC 第6次評価報告書と世界
- ⑩SDGs ワークショップ・1
- ⑪SDGs ワークショップ・2
- ⑫SDGs ワークショップ・3
- ⑬SDGs ワークショップ・4
- ⑭振り返りとまとめ
- ⑮確認テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

環境へのアカデミックスキルを身につけ、環境意識の向上と問題の現状や課題について理解を深める。
持続可能な社会形成に向けて自身の考えを持ち、自身の言葉で表現ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)
現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

(DP6)【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)
多文化共生社会の実現と発展に貢献するため、積極的に行動する意欲を有する。

■成績評価基準と方法

- ①課題提出 30%
- ②授業でのプレゼンテーション 30%
- ③授業内でのレポート 30%
- ④確認テスト 10%

■テキスト・参考文献

■授業外学習

【具体的な内容】

新聞、雑誌、テレビ、SNSが日々取り上げるSDGsニュース、話題を積極的に読み、自らがどう考えるかをまとめておいてください。なお、新聞各紙は大学図書館で閲覧できますので、積極的に活用の心掛けを習慣づけましょう。

(予習) 前講義で課題を与えますので、調べておいてください。

(復習) 講義内容をしっかりと整理し、自らの意見なども次の講義で述べられるように考えをまとめておいてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	地域産業論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

本講義の目的は、地場産業が立地するための基本要素や、数字をとおして企業を視る眼を養いつつ、地場産業の概況を理解できるチカラを身につけることにある。北海道の地場産業概況を学習し、道外で特長ある地場産業なども見つけ、産業の起業・発展するための成立要件などに関して学習する。授業を通じて産業活動の在り様とその地域性を見つめ、理解することにより、自身の将来の進路選択についても考えるきっかけとなるように展開する。

授業担当者は、大手メーカー、航空会社および宿泊業などにおいて、管理・企画・営業などの業務を経験した実務経験者である。地場産業の基本的な構造理解と、近年みられる新たな産業動向などについても解説する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、授業テーマに沿った内容に関してレジュメや資料を配布し、パワーポイントを用いて解説しながら学習する。講義により業界知識の習得するとともに、グループワーク、ディスカッションおよびプレゼンテーションなど能動的な学習も実施する。問題意識および参加意欲を高めるため、適宜、授業内課題や提出物を課す。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題やプレゼンテーションは、授業内での解説やmanabaを通じて適宜フィードバックする。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施する。

- ①ガイダンス
- ②地域産業立地の基本要素
- ③企業観察 企業会計の仕組みと理解
- ④北海道の地場産業（道内産業の概観）
- ⑤北海道の地場産業（農業と観光）
- ⑥北海道の地場産業（北海道コスメ）
- ⑦地域産業のケーススタディ（1）山形県鶴岡市
- ⑧地域産業のケーススタディ（2）徳島県神山町
- ⑨地域産業のケーススタディ（3）徳島県上勝町
- ⑩地域産業のケーススタディ（4）島根県海士町
- ⑪地域産業のケーススタディ（5）熊本県水俣市
- ⑫グループワーク ディスカッション
- ⑬グループワーク 発表資料の作成
- ⑭グループワーク プレゼンテーション
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

地域産業の基本的構造や現状、地域が有する課題や可能性などを理解するとともに、数値を通して企業を的確に読み解く思考力や判断力を身に付ける。

- ①資料を読みとることができるようになる。
- ②他者の話を、しっかりと聴くことができるようになる。
- ③自分の考えを、他者に的確に伝えることができるようになる。
- ④業界知識を身に付け、将来の就職活動で企業を視る力を備える。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- | | |
|----------------|-----|
| ①授業内課題 | 20% |
| ②授業内のプレゼンテーション | 30% |
| ③期末レポート | 50% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】
適宜、レジュメや資料を配付します。

【参考文献】
必要に応じて、適宜指示をする。

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習では毎回の授業テーマとなる業界などに関し、関連する文献資料等を読み、アンテナを張り新聞やテレビなどから時事情報も入手するようにする。事後学習は授業後に内容の振り返りによる理解と、さらに自ら関連事項を調べることを実施する。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	Reading SkillsⅢ
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

“Reading skills Ⅲ” course is designed for intermediate-level English proficiency students. It allows students to review their vocabulary and grammar while getting new expressions. Vocabulary building, comprehension, and literacy that extends beyond ability to read passages of text are the main objectives in this course. By supplementing in-class activities with extensive reading students will be able to achieve higher level of fluency in EFL reading. Students who took Reading Skills Ⅱ are already very familiar with this course, though students who are going to take it for the first time, will find it easy enough.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

Textbook-based, student-oriented course. The text in the course book is easy enough, but the unit components engage students in a substantial number of activities. There is a part titled: Discussion, in which all students are expected to participate. Some of the activities will take place in pairs and groups. Some will be conducted individually. The Dictation part may be a part of the homework.

【課題に対するフィードバックの方法】 The feedback will depend on the size of the class. Checking vocabulary & grammar tests, giving assignments, and discussing results with students individually will provide adequate feedback.

■授業計画

- ①Orientation, course objectives and procedure, sample reading/reading speed and comprehension test
- ②Unit 8 Careers
- ③Unit 9 European cultures
- ④Unit 10 Gifted children
- ⑤ short test Units 8 -10
- ⑥Unit 11 Restaurants
- ⑦Unit 12 Transportation
- ⑧Unit 13 Homes
- ⑨short test Units 11 - 13
- ⑩Unit 14 Space
- ⑪Unit 15 Personality
- ⑫Unit 16 Design and Fashion
- ⑬Unit 17 Asian Cultures
- ⑭Unit 18 Modern Life
- ⑮short test Units 14 - 17

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】 The objective of this course is to be able to read fluently at the pre-intermediate level with high degree of comprehension.

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

Students will be able to read short texts, announcements, maps, graphs, schedules, dialogs etc.

DP1【専門知識・技能を活用する力】

DP2【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

in-class activity 40%

short vocabulary, comprehension, and grammar tests 50%

homework/assignments 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】 Reading Links 2 by Andrew. E. Bennet, published by
NAN' UN-DO, 2021, ISBN 978-4-523-17923-8

【参考文献】 There will be authentic texts provided by the instructor.

■授業外学習

【具体的な内容】 Students need to preview and review the material in the textbook. They also should try to discover their own way to practice new expressions, like writing them in a hand-made dictionary, or e-mails.

【必要な時間】 Students are advised to spend about 2 hours on reading and reviewing.

■その他

Try to find the best way to expand your reading ability. You may spend time online, read the easy books from the library, read and translate songs etc.

科目名	English Communication III
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	中津川 雅宣、富田 敏明

■講義の目的および概要

「English Communication I・II」での学習内容を踏まえ、現代社会が抱える様々な課題に関して、自分の考え方や解決策を英語でプレゼンテーションする能力を育成する。また、日常的なトピックについて Impromptu Speech をする能力を育成する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

プレゼンテーションの学習と Impromptu Speech が毎回の授業の2つの柱となる。プレゼンテーションについては、目的に合わせた8つの型についてWEB動画及びテキスト読解により概要を学ぶ。それぞれの型を活用してミニプレゼンテーションのスク립トを作成し、グループで発表する。正式なプレゼンテーションは授業の5回目、10回目、15回目に全員が行う。Impromptu Speech については毎回2つのトピックが与えられ、選んだトピックについてグループにおいてスピーチを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

プレゼンテーションごとに、学生による相互評価、教員による評価をフルドバックし、プレゼンテーションの完成度を高めていく。

■授業計画

- ①Orientation (Presentation Skills)
- ②Presentation Type 1 (Listing)
- ③Presentation Type 1 (Listing)
- ④Presentation Type 2 (Classification)
- ⑤Presentation①
- ⑥Presentation Type 3 (Process)
- ⑦Presentation Type 4 (Investigation)
- ⑧Presentation Type 4 (Investigation)
- ⑨Presentation Type 5 (Persuasion)
- ⑩Presentation②
- ⑪Presentation Type 6 (Problem and Solution)
- ⑫Presentation Type 6 (Problem and Solution)
- ⑬Presentation Type 7 (Cause and Effect)
- ⑭Presentation Type 8 (Comparison and Contrast)
- ⑮Presentation③

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・現代社会の課題について概要及び自分の考えを英語でプレゼンテーションすることができる。
- ・日常的なトピックについて英語によるスピーチを即興ですることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

・プレゼンテーション	40%
・スピーチ	20%
・語彙・表現テスト	20%
・課題（スク립ト&スライド、英語日記）	20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・Winning Presentations (SEIBIDO)

【参考文献】

- 自学用サイト
- TED Talks, HNK NEWSLINE - NHK WORLD
- Japan Today, News on Japan

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキスト、動画などにより目的別のプレゼンテーションの型を復習する。
- ・3回のプレゼンテーションに向けて資料探索、スクリプトの構成、効果的なスライドの作成などを行う。
- ・毎日の出来事、考えたことなどについて英語で日記を書く。

【必要な時間】

- ・manabaを活用した課題を含め、上記の内容について、予習、復習を2時間程度行ってください。

■その他

- ・TED Talksの中で、自分の関心のある分野について定期的に視聴するようにしてください。

科目名	Academic Skills
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード

■講義の目的および概要

このコースでは、大学生が直面する最も困難な学問的問題のいくつかを英語で紹介し、将来の学問的キャリアを成功させるためのヒントを提供する。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング全てを学習するが、主な目的はディスカッションである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業の一般的なパターンは、プレリーディングのペアまたはグループディスカッションから始まり、それを基にした対話型の講義が行われる。その後、学生はプレゼンテーション、ロールプレイ、または問題解決のためのアクティビティを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

教師は授業の最後に良かった点を説明し、学生が授業についての感想や質問を自由に記す連絡帳に定期的に返信する。

■授業計画

- ①Orientation: Self-reflection
- ②Goal-setting & time management
- ③Avoiding procrastination and stress
- ④Understanding feedback and grades
- ⑤Better note-taking for lectures
- ⑥Using and adapting others' ideas
- ⑦Negotiating your own learning
- ⑧Editing and proofreading
- ⑨Evaluating the opinions of others
- ⑩中間課題（ライティング）
- ⑪Constructive disagreement
- ⑫Overcoming presentation nerves and the Q&A session
- ⑬リハーサル
- ⑭最終課題（プレゼンテーション）
- ⑮Feedback session and summary of class

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生徒がより自信を持ち自立した学習者となり、クラスメイトや講師とのやりとりの中で自分の意見を明確に表現できるようになることが期待される。また、より効果的な英語のリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングのためのストラテジーを練習する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）
多言語コミュニケーション、地域づくり、グローバルビジネスの各分野において、社会、文化、言語、歴史、産業についての知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）
他者の文化や価値観を尊重し、外国語や情報通信技術を適切に活用し対話することができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）
適切な情報収集と客観的な分析から課題を明らかにし、具体的な解決策を考え出すことができる。

(DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）
変化する社会に広く関心を持ち、新たな知識を意欲的に学び続けることができる。

■成績評価基準と方法

授業中のパフォーマンス 20%
継続的な連絡帳 10%
中間課題（ライティング） 30%
最終課題（プレゼンテーション） 40%
評価方法は全てクラスで説明される。

■テキスト・参考文献

教材は講師が配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

次週の授業のために、manabaで予習（リーディング）をしておく。

【必要な時間】

継続的にジャーナル（連絡帳）の評価を行うので、毎回の授業後に感想や授業外で出てきた質問も含めて書いておくこと。また、授業後にオプションでリスニングの教材がmanabaにアップされるので復習に役立ててください。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

英語で話す（人に話す、聞く）時間を増やせば増やすほど、英語は上達します。話すことが学びです。

科目名	Academic Writing
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード

■講義の目的および概要

Academic Writingは学生がライターとしての責任を持つことを奨励しながら、英語でアカデミックな文章を書くための確かな基礎を身につけることを目的とする。アカデミックな文体を紹介し、パラグラフからエッセイへと、どのように文章を構成、発展させていけばよいかを示す。リーディングとスピーキングも含まれる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は前回の復習から始まり、教科書の1章を終えるごとに小テストが行われる。一般的には、ペアワークやグループワークを行い、教師が定期的にフィードバックを行い、教材のライティングサンプルについて話し合う。

【課題に対するフィードバックの方法】

フィードバックは授業中に行われ、また継続的に行われる小テストでも定期的に行われる。学生は任意でライティングワークを講師に提出し、フィードバックを受けることが推奨される。

■授業計画

- ①Orientation: the writing process, explanation of assessment
- ②Chapter 3 A favourite place
- ③Chapter 3
- ④小テスト1, Chapter 4 An exceptional person
- ⑤Chapter 4
- ⑥小テスト2, Chapter 5 Trends and fads
- ⑦Chapter 5 Trends and fads
- ⑧小テスト3, Chapter 6 White lies
- ⑨Chapter 6 White lies
- ⑩小テスト4, Chapter 7 Explanations and excuses
- ⑪Chapter 7 Explanations and excuses
- ⑫小テスト5, Chapter 8 Problems
- ⑬Chapter 8 Problems
- ⑭Preparation and proofreading for final assignment
- ⑮最終課題 (エッセイ)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

このコースは、アカデミックな英語の基礎を使ってより効果的に文章を書けるようにすること、パラグラフ・ライティングの原則を確実に理解すること、将来的にエッセイを書くための準備ができることが目的である。また、自分のライティングを編集するなど、ライティングプロセスを自分で管理する方法を学ぶ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
多言語コミュニケーション、地域づくり、グローバルビジネスの各分野において、社会、文化、言語、歴史、産業についての知識・技能を修得し、活用することができる。

(DP3)【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)
適切な情報収集と客観的な分析から課題を明らかにし、具体的な解決策を考え出すことができる。

(DP5)【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)
変化する社会に広く関心を持ち、新たな知識を意欲的に学び続けることができる。

■成績評価基準と方法

授業中のパフォーマンス 20%
継続的な評価（小テスト） 30%
最終課題（エッセイ） 50%

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『Paragraph Writing: From Sentence to Paragraph』
著者：Dorothy Zemach & Carlos Islam
出版社：Macmillan

【参考文献】

『Longman Academic Writing Series 3: Paragraphs to Essays』
著者：Alice Oshima & Ann Hogue
出版社：Pearson

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に、前回の授業の復習と教科書の予習をすることが望ましい。

【必要な時間】

授業終了後、授業で紹介されたアカデミックなフレーズについて、語彙記録をつける。また、任意でライティングワークを講師に提出することも可能である。予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

ライティングは、他の英語スキルよりも難しく感じるかもしれませんが、やればやるほど簡単に感じられるという原則は同じです。

科目名	Gender Studies
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	齊藤 巧弥

■講義の目的および概要

This course introduces important issues and concepts in gender and sexuality studies, and an overview of the field. Everyone in this society is expected to be a “man” or a “woman”. We are also expected to behave and to be treated as such. But why is that? Why are men and women treated differently? Why do we have to be a man or a woman in the first place? Gender is a critical perspective to look at how our society is built on gender norms and how it excludes anyone who doesn't fit the binary. We will learn a variety of topics ranging from gender stereotypes to LGBTQ issues.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【Course format】

This course will combine lectures, discussions, group work, and presentations. The topics covered will include, but not limited to, the following in the schedule section.

【Feedback】

Comments for assignments (presentations, papers, etc.) are given in class.

■授業計画

- ① Course overview and introduction
- ② What is gender?
- ③ Language and communication
- ④ In/equality
- ⑤ Love/Marriage/Family
- ⑥ Body
- ⑦ Race/Class/Culture
- ⑧ Media representation
- ⑨ Film discussion
- ⑩ LGBTQ
- ⑪ Queer studies
- ⑫ History of homosexuality
- ⑬ History of transgender
- ⑭ Final presentation
- ⑮ Final exam

*Topics are subject to change according to students' interests.

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【Goals】

Students will be able to
 : understand basic concepts of gender and sexuality studies
 : critically analyze daily phenomena
 : explain national and international gender issues

【Relation to Diploma Policy】

- (DP 1) 【Ability to use knowledge and skills】
 (DP 2) 【Ability to communicate】
 (DP 3) 【Ability to find problems and solve them】
 (DP 4) 【Ability to understand diversity and cooperate】
 (DP 5) 【Ability to continue active learning】

■成績評価基準と方法

Short presentations: 40%
 Final presentation: 30%
 Final exam: 30%

■テキスト・参考文献

【Textbook】

No textbook. Readings will be provided by the instructor as handouts and also uploaded on manaba.

【Reference】

- Introduction to Women's and Gender Studies: An Interdisciplinary approach [2nd edition] (Melissa J. Gillis, Andrew T. Jacobs, Oxford University Press, 2019)
- Queer Theory Now: From Foundations to Futures (Hannah McCann and Whitney Monaghan, Red Globe Press, 2019)
- Gender and Popular Culture [2nd edition] (Katie Milestone and Anneke Meyer, Polity, 2020)
- Genders, Transgenders and Sexualities in Japan (Mark McLelland and Romit Dasgupta(eds.), Routledge, 2005)

■授業外学習

【Preparation and review】

Prior to each class, students are expected to complete assigned readings. Please come prepared to discuss the readings and participate in class.

【Time required】

About 2 hours of reading (before and after the class) is advised.

■その他

This class is taught entirely in English. Students will learn the subject and the ability of speaking/writing/reading/listening English. No prerequisites for the class.

科目名	中国文化概論
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	杉江 聡子

■講義の目的および概要

この授業では、中華文化に関する多様なテーマに基づき、中国の伝統的な風俗習慣や現代の社会文化を理解することを目指します。日本人と中華圏の留学生の対話や交流による比較の視点を通じて、異文化間の共通点や相違点を発見し、対日・対中感情の分析や関係の構築に必要な要素を検討し、身近なテーマを通じた文化外交による相互理解を深めましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。中国語の産業通訳、観光ガイド、企業インバウンド研修の実務経験を有する教員が、中華圏の社会、言語、文化の多様性や日本とのコミュニケーション様式の相違などに配慮した実践的なコミュニケーション方略を取り入れながら指導します。教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども取り入れます。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

・授業内容

テキストや参考文献を用いて中華文化の特徴的な側面を学びます。知識や概念を学んだうえで、留学生や地域に住む中華圏の人々を対象としたテーマを設定し、調べ学習、ディスカッション、インタビューなどを組み合わせたアクティブラーニングを通じて、学びを深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業の冒頭で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。
- ・授業中に提出された質問やコメントに授業内で回答します。
- ・オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をします。

■授業計画

- ①ガイダンス（自己紹介、中華圏への渡航経験、研究関心の共有）
- ②地図で知る中国
- ③現代中国の暮らし
- ④現代中国の暮らし
- ⑤現代中国の暮らし
- ⑥中国社会の基礎：共産党について
- ⑦中国社会の基礎：社会主義国家と経済成長
- ⑧中華帝国の歴史
- ⑨中華帝国の歴史
- ⑩日中関係の歴史
- ⑪日中関係の歴史
- ⑫テーマの設定と調査
- ⑬分析とまとめ
- ⑭成果発表の準備とプレゼンテーション資料の作成
- ⑮成果発表と相互評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・中華圏に特徴的な伝統文化や現代の社会文化について説明できる。
- ・中国と日本の文化、政策、言語の共通点や相違点について説明できる。
- ・中華圏の人々と言語・非言語コミュニケーション方略を用いて積極的に対話できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業への取り組みとグループワークの成果 30%
 課題の提出と完成度 30%
 発表やプレゼンテーションと完成度 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『図解でわかる14歳から知っておきたい中国』（インフォビジュアル研究所，2018，太田出版）

【参考文献】
『ようこそ中華世界へ』（川島真編，2022，昭和堂）

■授業外学習

【具体的な内容】
・テキストや文献を事前に読み、要点や問題意識について理解しておく。
・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

・中国語のピンインや漢字から辞書をひいて、わからない語句を独力で調べられること。中国語 I・II を履修していることが望ましい。
・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	中国語学概論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	杉江 聡子

■講義の目的および概要

この授業では、「中国語とはどのような言語か」について、音声、文字、語彙、文法、表現、思考方式、情報処理などの言語学的な側面から理解することを目指します。中国語と日本語や英語の比較を通じて、言語に基づく意味の構築やイメージの形成などについて、異文化間の共通点や相違点を発見し、言語・非言語コミュニケーションを通じた相互理解を深めましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「シラ」から指導します。教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども取り入れます。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

・授業内容

テキストや参考文献を用いて中国語の発音や構文の特徴を学びます。知識や概念を学んだうえで、留学生や地域に住む中華圏の人々を対象としたテーマを設定し、調べ学習、ディスカッション、フィールドワークなどを組み合わせたアクティブラーニングを通じて、学びを深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業の冒頭で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。
- ・授業中に与えられた質問やコメントに授業内で回答します。
- ・オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をします。

■授業計画

- ①ガイダンス（自己紹介、中国語学習歴、中華圏への渡航経験、研究関心の共有）
- ②中国語の仕組みを知ろう
- ③名詞と動詞
- ④疑問文
- ⑤モノの見え方と数え方
- ⑥修飾語と補語
- ⑦前置詞
- ⑧空間表現：モノとトコロ
- ⑨時間表現：トコロからトキへ
- ⑩調査テーマの設定
- ⑪調査（文献やオンライン情報の収集、簡単な聞き取り、アンケート等）
- ⑫分析とまとめ
- ⑬成果発表の準備とプレゼンテーション資料の作成
- ⑭成果発表と相互評価
- ⑮振り返りとフィードバック

※フィールドワーク・調査の時期や内容は、関係者との調整により変更する可能性があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・中国語の発音や構文の特徴を理解し、基礎的な語句を用いて、読む・聞く・話す・書くことができる。
- ・中国語で書かれた資料を探し、調べて、まとめることができる。
- ・紙の辞書やデジタルツールを活用し、わからない中国語を独力で調べることができる。
- ・中華圏の人々と言語・非言語コミュニケーション方略を用いて積極的に対話できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業への取り組みとグループワークの成果 30%
課題の提出と完成度 40%
発表やプレゼンテーションと完成度 30%

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『中国語の文法スーパーマニュアル』（古川裕，2008，アルク）

【参考文献】

『新感覚！イメージでスッキリわかる中国語文法』（古川裕，2009，アルク）

『中国語のエッセンス』（遠藤光暁，2006，白帝社）

『中国語のしくみ』（池田巧，2007，白水社）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストや文献を事前に読み、要点や問題意識について理解しておく。
- ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word，PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・中国語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい（中国語学習歴1年以上）。
- ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	韓国文化概論
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	趙 恵真

■講義の目的および概要

韓国の伝統・現代文化及び大衆文化を通して、韓国の風俗、思想、歴史、芸術などを理解することを目的とします。韓国文化についてコンテンツを用いて基礎知識を身につけます。その上、日本の文化との比較を通して日韓各国の特徴や文化の違いについて考察します。さらに、日韓交流史も踏まえながら、日韓両国の文化交流を理解し、将来日韓文化のかけ橋としての人材を育成することを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業の前半は概説する。後半は、「ディスカッション」および「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaを通してフィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②文化と異文化理解
- ③韓国についての基礎知識
- ④K-コンテンツ①
- ⑤K-コンテンツ②
- ⑥衣
- ⑦食
- ⑧住
- ⑨生活①
- ⑩生活②
- ⑪スポーツ
- ⑫観光地
- ⑬ソウルと地方
- ⑭韓国と日本
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

韓国の文化を理解し分析することを目標とします。これにより、韓国の歴史、哲学、宗教、芸術、文学などの様々な側面から、韓国文化の本質と特徴を把握し、他の文化と比較して理解することができます。また、韓国文化を理解するために必要な知識やツールを提供し、韓国と他の文化との相互理解や文化交流を促進します。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 【専門知識・技能を活用する力】
 DP2 【コミュニケーション能力】
 DP5 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- レポート20%
 ディスカッション20%
 授業への参加度10%
 期末試験50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

担当教員から配布。

【参考文献】

- 『韓国学ハンマダン』岩波書店
 『コツコツ知ろう 韓国の社会と文化』博英社
 『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』大月書店

■授業外学習

【具体的な内容】

予習の内容は「基本知識の学び」、復習の内容は「内容の振り替え」にします。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業の後半はディスカッションとグループワークを実施します。
積極的な参加をお願いします。

科目名	韓国語学概論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	趙 恵真

■講義の目的および概要

韓国語の構造を言語学的な観点から概論的に理解することを目的とします。韓国語の歴史をはじめ、多様な分野(文字、音韻、意味、文法、語用、敬語、方言など)に触れて韓国語に対する基礎知識を蓄えます。なお、韓国語と日本語との比較を通して日韓両言語の特徴がわかり、対照言語学的な立場で両言語を理解し、韓国語に関する知識をより深めさせます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本、基礎知識について概説する。授業の後半は、「ディスカッション」および「グループワーク」などのアクティブラーニングを取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたは、manabaを通してフィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション・概要
- ②韓国語についての基礎知識
- ③歴史
- ④文字
- ⑤音韻①
- ⑥音韻②
- ⑦意味①
- ⑧意味②
- ⑨文法①
- ⑩文法②
- ⑪語用①
- ⑫語用②
- ⑬敬語
- ⑭方言
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

韓国語の構造や特徴、使用方法、歴史や文化的背景などを理解することを目標とします。これにより、受講生は韓国語の発音、表記法、品詞、文法、語彙などに対する理解を高め、韓国語の特徴や文化背景を把握して、より正確かつ効果的に使用することができるようになります。

また、日本語と比較することで、日本語を理解し、日本語と韓国語の相違点や類似点を把握することができます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 【専門知識・技能を活用する力】
 DP2 【コミュニケーション能力】
 DP5 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

レポート20%
 ディスカッション20%
 授業への参加度10%
 期末試験50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

担当教員から配布

【参考文献】

『韓国語概説』大修館書店

■授業外学習

【具体的な内容】

予習の内容は「基本知識の学び」、復習の内容は「内容の振り替え」にします。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・韓国語の知識がなくても受講はできますが、少し難しい箇所があるかもしれません。
- ・各回の内容は変更する場合があります。

科目名	長期学外学修
開講期・単位	2年 秋学期・選択 4単位・演習
担当者	中津川 雅宣、杉江 聡子、趙 恵真

■講義の目的および概要

本授業は、本学の長期留学プログラムに参加することが前提条件となる。

事前授業・海外研修・事後授業から構成される6カ月間の学外学修に参加することになる。

事前授業では、学外学修に対する学習のほか、現地で実際に学ぶ内容を事前に学修することにより、学びの深化をはかる。

海外研修では、現地での語学学習に加えて、専門領域にかかわる内容の学習活動を専門家の指導のもとで学修する。

事後授業では、学習の振り返りを行い、成果を報告・共有することにより、専門領域の学びを深めることを目指す。

2023 (令和5) 年度の派遣先は、韓国・釜山外国語大学を予定している。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前・事後学習は、対面形式の講義、オンライン講義、グループワークなどの形式をとる。また、研修中は原則、対面授業に参加するが、社会的な状況に応じてオンライン講義なども取り入れる可能性がある。

【課題に対するフィードバック方法】

事前・事後学習では、本大学の学習管理システム「manaba」を通して課題の提出やフィードバックを行う。

研修中は、現地の教員のやり方に応じてコメントのフィードバックや成績表の配布が行われる予定である。

■授業計画

[事前授業]

- ①ガイダンス
- ②派遣先の国や地域の文化、生活、風俗習慣など

[海外研修]

- ③～⑭ 海外研修 (約6カ月間)
- 研修先:2023 (令和5) 年度は韓国・釜山外国語大学を予定

[事後学習]

- ⑮ 成果報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・派遣先の国や地域の生活について理解し、円滑な海外研修となるよう基本的な知識を得る。
- ・現地での生活を通し、円滑なコミュニケーションが可能な外国語能力を習得する。
- ・海外研修を通し、少なくとも大学での履修科目 (外国語や文化等) 以外に、自分の専門領域にかかわる課外活動等を4単位相当以上実施すること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

派遣先の大学の基準に即して調整する。

- ・事前学習、課題 20%
- ・事後学習、レポート 20%
- ・海外研修中の活動への取り組みと達成度 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて教材や資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指定する。

■授業外学習

【具体的な内容】

・事前学習
派遣先の国や地域への渡航に関する知識を学習する。

・事後授業
海外研修の振り返りと成果発表を行うための準備をする。

【必要な時間】

概ね数時間から数日程度の学習が必要となる。

■その他

・新型コロナその他の社会的な状況に応じて、渡航時期や滞在期間が変更になる可能性がある。国際課や教務課からの通知を必ず確認すること。

科目名	北海道の文化Ⅱ(食と生活)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

本講義は、北海道における郷土料理やその食材、北海道で育まれる地域独自の食文化などを紐解き、その背景にある生活、産業および地域性を理解することにある。歴史的背景も含めて食文化を理解し、北海道が育む食文化の基本的な知識を身につけ、豊かな大地や海山で育まれる恵みが有するブランド力、そのもとで展開されるフードビジネスに関しても視野を広げて理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業はテーマに沿ったレジュメや資料を配付し、パワーポイント等を使用して講義形式で行うが、学習内容への理解を深め、興味関心および問題意識を高めるため、演習形式でのグループワークやディスカッションなども取り入れて実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布する。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおりに実施します。

- ① ガイダンス
- ② 北海道の基本統計と自然
- ③ 北海道の農林畜産業
- ④ 北海道の水産業
- ⑤ 北海道の郷土料理（石狩鍋、和食文化）
- ⑥ 北海道の郷土料理（ジンギスカン）
- ⑦ 北海道の郷土料理（在来作物、ニシン漬）
- ⑧ 北海道の郷土料理（炭釜の飯）
- ⑨ 北海道が育む魅力ある加工食品（製菓）
- ⑩ 北海道が育む魅力ある加工食品（酒造）
- ⑪ 本州で注目される北海道ブランド
- ⑫ グループワークⅠ（ディスカッション）
- ⑬ グループワークⅡ（発表資料の作成）
- ⑭ グループワークⅢ（プレゼンテーション）
- ⑮ 振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①北海道の郷土料理、食材や食文化に関し、基本的な知識を身につける。
- ②食文化の理解を通じて、地域の歴史や生活環境を理解できるようになる。
- ③食が育む地域ブランドを理解し、フードビジネスにも視野を広げて理解することができるようになる。
- ④北海道が有する食の魅力を理解し、今後の課題や可能性なども考察することができ、自分の考えを第三者に伝えることができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP3) 課題を発見し、解決する能力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- | | |
|----------------|-----|
| ① 授業内課題 | 20% |
| ② グループディスカッション | 20% |
| ② 授業内プレゼンテーション | 30% |
| ④ 期末レポート | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を提示・配布します。

【参考文献】

『聞き書 北海道の食』
 「北海道の食生活全集 北海道」編集委員会、農山漁村文化協会

■授業外学習

【具体的な内容】

2023（令和5）年4月1日

<事前> 授業で取り扱う内容に関し、毎回事前に新聞やニュース番組などを利用して、自ら積極的に触れておくこと。

<事後> 各回の授業で取り扱った内容に関し、講義内容の復習を行いさらに図書館で関連書籍やインターネットなどの活用により関連事項を調べ、それぞれの内容をまとめておくこと。

【必要な時間】

事前学習、事後学習ともに2時間程度の必要となる。

■その他

科目名	北海道の文化Ⅲ(芸術と文学)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	武井 昭也

■講義の目的および概要

北海道の美術館、文学館、記念碑、建築物などを中心に芸術作品と文学に触れることから北海道の魅力を探ります。絵画、彫刻、モニュメント、作家の活動や生涯と作品文学作品も同様に北海道に関わる作家作品をとりあげます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

北海道の歴史と文化の概要を確認したのち、みなさんには各自の興味関心のある作家や作品、モニュメントについて調べたことを発表してもらいます。また、中島公園にある北海道文学館を各自訪問して展示方法や展示内容、特別展について報告してもらいます。

これらの内容を確認することで北海道の芸術や文学の魅力をより深く味わうことができます。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の分担を調査し、アレンジして発表する課題です。確認した内容をさらに補足します。

■授業計画

- ①ガイダンス 発表分担
- ②北海道の歴史 北方交流 アイヌの人々の生活
- ③ユーカラ、知里幸恵「アイヌ神謡集」
- ④北海道文学館概括
- ⑤北海道文学館・渡辺淳一文学館訪問
- ⑥「北の国から」の世界
- ⑦坂本直行・木田金次郎・三岸好太郎
- ⑧アルテピアッツア美唄・新冠ディマシオ美術館
- ⑨釧路 原田康子・桜木紫乃
- ⑩小樽 伊藤整・小林多喜二
- ⑪札幌ニセコ 有島武郎・渡辺淳一
- ⑫函館札幌釧路 石川啄木
- ⑬旭川 三浦綾子・井上靖
- ⑭絵本の世界 あべ弘士・加藤多一
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

文学や芸術作品に関して北海道の歴史の理解を深める。
アイヌの人々の歴史と生活についての理解を深める。
北海道ゆかりの作家や美術作品の理解を深める。
北海道の芸術と文学の魅力を体感し、言葉で伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
DP3【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)
DP5【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)

■成績評価基準と方法

分担調査報告	30%
発表	30%
レポート	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

分担調査報告と発表に関連して授業内で紹介

■授業外学習

【具体的な内容】

各自の発表分担について事前調査、発表するためにリハーサルして準備をすること。
他の発表について自身で確認して知識を深めること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

インターネットや書籍の写真等でも情報を得ることは可能ですが、実際に自分の眼で確認し体感することが大事です。

科目名	地域学習Ⅱ
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

本講義の目的は、地域学習Ⅰで学習する地域理解に関する内容を踏まえ、地域が有する特長ある地域資源のうち建造物や食材など身近な地域資源に着目し、各地にみられる資源の優位性や価値に関する理解を深める。さらに、これらの資源の活用により地域づくりに取り組む事例をとおして、諸課題の抽出方法や魅力の発信方法を考察し、問題の改善検討および魅力を発信するための有効な方法について学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、授業テーマに沿ったレジュメや資料を配付し、パワーポイント等を使用して講義形式による授業を実施する。実施テーマによりグループワーク、ディスカッションおよびプレゼンテーションなど、演習形式による能動的な学修も実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で実施する課題は、適宜フィードバックする。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施する。

- ①ガイダンス
- ②登録有形文化財とは
- ③登録有形文化財の多様性
- ④宿泊施設としての歴史的建造物
- ⑤地域ぐるみによる登録文化財の活用
- ⑥地域づくりの核としての建築物と人材育成
- ⑦グループワーク（ディスカッション）
- ⑧グループワーク（発表資料の作成）
- ⑨プレゼンテーション
- ⑩郷土料理の特徴理解
- ⑪伝統野菜にみられる地域性
- ⑫地理的表示保護法
- ⑬グループワーク（ディスカッション）
- ⑭プレゼンテーション
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①地域が有する独自の資源の魅力を抽出し、その価値を発信できるようになる。
- ②地域課題を解決するための方法を考え、説明することができるようになる。
- ③地域資源の価値を再認識し、付加価値向上させるための提案ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識、・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する能力

■成績評価基準と方法

- | | |
|---------------|-----|
| ①授業内課題 | 20% |
| ②グループディスカッション | 20% |
| ③プレゼンテーション | 30% |
| ④期末レポート | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、レジュメや資料を配付する。

【参考文献】

- 『登録有形文化財』 佐滝剛弘 勁草書房
 『地域人材を育てる手法』 中塚雅也・山浦陽一編 農文協

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・必要に応じて資料の指示や、課題を与える。
- ・課題の提出は、主に学修管理システムmanabaをとおして提出すること。

【必要な時間】

事前・事後にそれぞれ2時間程度の学習時間を要する。

■その他

科目名	地域探究Ⅱ
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

本演習では、日本の伝統文化を築く古都 京都市および奈良市を訪問し伝統的建造物により構成される町並み景観や、庭園鑑賞、伝統産業の見学と体験などから日本の伝統文化を理解する。世界遺産の登録寺院や純和風建築物の設え鑑賞などとおして、文化的側面から地域や産業を理解する視点を身につける。現地では伝統産業や工芸品の作成に従事する事業者に対するヒアリングを行い、フィールドワークをおして地域資源の価値を認識し、その具体的な活用法や資源に対する付加価値を向上させるための方策を現地で考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

地域学習Ⅱで学習した知識をもとに、訪問前の事前学習と現地体験とを結合させることによりまちの観察力を身につけ、日本の伝統文化に対する理解も深める。事前学習では講義に加え、毎回テーマ分野ごとに調査内容を分担し予備調査を行い、①リサーチ⇒②レジュメ作成⇒③プレゼンテーションによる学習を繰り返し実施する。グループワークをおして、情報収集力やデータ整理力および資料作成のスキルを養うとともに、履修者同士による情報共有とともに取組む協調性も醸成する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で補足解説を行い、参加者同士によるディスカッションを実施することにより、訪問地に対する理解を深めるとともに、情報共有を図ることにより協調性も高めていく。

■授業計画

演習は、概ね以下のとおり実施する。

- ① ガイダンス（研修日程や趣旨に関する説明）
- ② 訪問先に関する事前調査1（訪問予定先）
- ③ 訪問先に関する事前調査2（町並み景観、設計）
- ④ 訪問先に関する事前調査3（伝統的工芸品）
- ⑤ 訪問先に関する事前調査4（北海道産の昆布）
- ⑥ 訪問先に関する事前調査5（伝統的な地場食材）
- ⑦ 訪問先に関する事前調査6（食文化）
- ⑧ 現地活動計画書の作成
- ⑨ フィールドワーク：1日目
- ⑩ フィールドワーク：2日目
- ⑪ フィールドワーク：3日目
- ⑫ フィールドワーク：4日目
- ⑬ フィールドワークの振り返り
- ⑭ フィールドワークの取り纏め
- ⑮ フィールドワークの成果報告

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 地域が抱える諸課題を抽出し、その改善策を検討することができる。
- ② 地域資源の価値を理解し、さらに付加価値を高める提案などもできる。
- ③ 地域力を高めるための思考法を身に付け、第三者へ発信することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識、・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------|-----|
| ① 事前課題の提出 | 25% |
| ② 現地演習での取組み | 25% |
| ③ 成果報告 | 20% |
| ④ 事後レポート | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料など配付する。

【参考文献】

必要に応じて、適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

古都（京都・奈良）における歴史、文化および産業に関して理解できるように、関連資料の通読、新聞や雑誌掲載される記事、書籍およびテレビなどをとおして、日頃から関心を持つこと。

【必要な時間】

事前学習として、演習先に関する予備調査では毎回2時間程度必要となる。授業実施後は確認作業を行うなど2時間程度が必要となる。

■その他

- ① 実施時期は、2023年9月上旬～中旬頃（3泊4日）を予定している。
この演習に関する事前学習（予備調査）は、6月以降に開始する。
- ② 実習費等は、概ね8万円（交通費、宿泊費および大学費用補助等含む）。
- ③ 詳細は別途指示するので、掲示に注意すること。

※他の授業科目も含め、無断欠席が多いなど、フィールドワーク参加に不適切な行動や態度が見られる学生は参加を認めないことがある。

科目名	異文化コミュニケーション I
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	杉江 聡子

■講義の目的および概要

この授業は、国際化や多様化が進む社会と言語や文化の関係を考え、異なる言語・文化を背景とする相手とのコミュニケーションのあり方や方略について理解したうえで、言語・非言語を用いたコミュニケーション活動を通して、多様な人々との関係構築に役立てるための知識とスキルを身に付けることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。

対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。

遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

中国語の産業通訳、観光ガイド、企業インバウンド研修の実務経験を有する教員が、アジアの社会、言語、文化の多様性や日本とのコミュニケーション様式の相違などに配慮した実践的なコミュニケーション方略を取り入れながら指導します。

教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども取り入れます。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

・授業内容

多文化共生社会における、異なる文化・言語を持つ人々の思考、行動、解釈の相違や円滑なコミュニケーション方略について、コミュニケーション実践を通じて体験的に学びます。

言語・非言語コミュニケーションの効果、限界、可能性などについて、グラフィックファシリテーションの手法を取り入れながら学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・授業の冒頭で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。

・授業中に出席された質問やコメントに授業内で回答します。

・オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をします。

■授業計画

- ①ガイダンス（自己紹介、異文化コミュニケーション体験の共有等）
- ②異文化間ソーシャルスキル、寛容性
- ③アサーション・トレーニング、ビジネスでの異文化接触
- ④国籍・アイデンティティ、宗教観
- ⑤言語習得、やさしい日本語
- ⑥手話、英語
- ⑦複言語主義、言語バリエーション
- ⑧グラフィックファシリテーションの基本
- ⑨グラフィックファシリテーションの基本
- ⑩グラフィックファシリテーションの基本
- ⑪グラフィックファシリテーションの基本
- ⑫グラフィックファシリテーション実践（専門家によるワークショップ型授業）
- ⑬グラフィックファシリテーション実践（専門家によるワークショップ型授業）
- ⑭成果発表と相互評価（専門家によるワークショップ型授業）
- ⑮振り返りとフィードバック

※専門家によるゲストレクチャーは、7月中旬の週末（2日間）を予定しているが、スケジュール調整により実施時期を変更する可能性がある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・世界と日本の日本語教育事情の概要について説明できる。

・国際社会における文化、政策、言語との関係や社会文化の背景にある慣習を理解できる。

・多様な社会や集団における言語・非言語コミュニケーション方略を実践できる。

・異なる文化・言語を持つ人々と共存するうえで必要な相互理解や文化の多様性に対する尊重の態度を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP2) 【コミュニケーション能力】

(DP3) 【課題を発見し、解決する力】

(DP4) 【多様性の理解と協働する力】

(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

授業への取り組みとグループワークの成果 30%

課題の提出と完成度 40%

発表やプレゼンテーションと完成度 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業の中で適宜資料を配布する。

【参考文献】

『多文化社会で多様性を考えるワークブック』（研究社、2018）

『グローバル社会における異文化コミュニケーション—身近な「異」から考える』（池田理知子編、2019、三修社）

『Graphic Recorder —議論を可視化するグラフィックレコーディングの教科書』（清水淳子、2017、ビー・エヌ・エヌ新社）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word, PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・初回ガイダンスは特に、遠隔授業の受講環境（通信や端末の環境、連絡方法等）を確認するので、必ず出席すること。
- ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	異文化コミュニケーションⅡ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	杉江 聡子

■講義の目的および概要

この授業は、国際化や多様化が進む社会と言語や文化の関係を考え、異なる言語・文化を背景とする相手とのコミュニケーションのあり方や方略について理解したうえで、言語・非言語を用いたコミュニケーション活動を通して、多様な人々との関係構築に役立てるための知識とスキルを身に付けることを目指します。「異文化コミュニケーションⅠ」を基礎として、地域社会における、より実際の課題やテーマを扱います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・授業形態

講義形式を中心に、必要に応じて演習形式を組み合わせで行います。対面、遠隔、または両方を組み合わせたハイブリッド型の授業を行います。遠隔やハイブリッド型の授業では、遠隔会議システム「Zoom」、学習管理システム「manaba」、Microsoft365「Teams」などを使用します。

中国語の産業通訳、観光ガイド、企業インバウンド研修の実務経験を有する教員が、アジアの社会、言語、文化の多様性や日本とのコミュニケーション様式の相違などに配慮した実践的なコミュニケーション方略を取り入れながら指導します。教員からの講義と指導だけでなく、学生同士のディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなども取り入れます。学生の主体的かつ協調的な学びの態度が求められます。

・授業内容

多文化共生社会における、異なる文化・言語を持つ人々の思考、行動、解釈の相違や円滑なコミュニケーション方略について、コミュニケーション実践を通じて体験的に学びます。日本と海外、内と外など、異なる価値観を持つ人々の視点から地域の魅力や課題を発見するための多言語コミュニケーション活動を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・授業の冒頭で前回の課題や復習を踏まえて解説をします。
- ・授業中に出了された質問やコメントに授業内で回答します。
- ・オンライン課題については、学習管理システム「manaba」を通じて回答や返信をします。

■授業計画

- ①ガイダンス（シラバス確認、春学期の振り返り）
- ②マイクロ・アグレッション、マイノリティとマジョリティ
- ③ユニバーサルデザイン、沖縄米軍基地問題
- ④ステレオタイプ、ナショナリズム
- ⑤地元・地域と異文化コミュニケーションの課題解決学習
- ⑥地元・地域と異文化コミュニケーションの課題解決学習
- ⑦地元・地域と異文化コミュニケーションの課題解決学習
- ⑧AIを用いた多言語・多文化学習
- ⑨AIを用いた多言語・多文化学習
- ⑩AIを用いた多言語・多文化学習
- ⑪地域の魅力をマルチメディア・多言語で表現する：専門家によるワークショップ型授業
- ⑫地域の魅力をマルチメディア・多言語で表現する：専門家によるワークショップ型授業
- ⑬最終成果物の作成と発表準備
- ⑭成果発表と相互評価
- ⑮振り返りとフィードバック

※専門家によるゲストレクチャーは、12月中旬～下旬を予定しているが、スケジュール調整により実施時期を変更する可能性がある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・多様な社会や集団における言語・非言語コミュニケーション方略を実践できる。
- ・異なる文化・言語を持つ人々と共存するうえで必要な相互理解や文化の多様性に対する尊重の態度を身に着ける。
- ・地域の魅力や課題を発見し、言語・非言語コミュニケーションの手法を用いて表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

授業への取り組みとグループワークの成果 30%

課題の提出と完成度 40%

発表やプレゼンテーションと完成度 30%

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

授業の中で適宜資料を配布する。

【参考文献】

『多文化社会で多様性を考えるワークブック』（研究社、2018）

『グローバル社会における異文化コミュニケーション—身近な「異」から考える』（池田理知子編、2019、三修社）

■授業外学習**【具体的な内容】**

- ・必要に応じて発表準備や課題提出を行う。
- ・授業で課される課題はMicrosoft365（Word、PowerPoint等）で作成し、学習管理システム「manaba」から提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・授業でも段階的に取り入れるが、社会状況に応じて柔軟にさまざまなアプリやツールを使いこなす意欲を持つこと。

科目名	心理言語学
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	金庭 香理

■講義の目的および概要

本講義は言語教育の視点から、言語運用における心理過程などを明らかにしようとするものである。特に、外国語習得のメカニズムを明らかにする分野である第二言語習得論の基礎を学び、効果的な日本語教育について考える。また、記憶の仕組みや言語理解の過程について基礎的な事項を学び、日本語教育への応用を考える。

※日本語教育課程の指定科目です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で行いますが、講義理解を促すため、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れます。学生の能動的な学修が求められます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内にて解説し、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

日本語教師課程の「談話理解、言語学習、習得過程（第一言語・第二言語）、学習ストラテジー、異文化受容・適応、日本語の学習・教育の情意的側面、中間言語分析、受容・理解能力、言語運用能力、社会文化能力、対人関係能力、異文化調整能力」に対応した内容です。

概ね以下の内容で講義を展開する予定。

- ①ガイダンス
- ②ことばの発達－第一言語習得－
- ③第二言語習得研究とは
- ④中間言語の発達
- ⑤母語の影響
- ⑥習得順序
- ⑦インプット、アウトプット
- ⑧文法学習の効果
- ⑨誤りの訂正、フィードバック
- ⑩年齢の影響
- ⑪言語適性
- ⑫学習者要因
- ⑬記憶の仕組み
- ⑭まとめ
- ⑮テスト

※不測の事態のときは、オンライン授業となることがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・効果的な日本語教育を考えるために、学習者の言語情報の処理過程、学習の仕組み、学習の方法について理解する。
- ・学習者に合わせた日本語教育を考えるために、言語の習得過程、学習者要因、学習ストラテジーについて理解する。
- ・言語習得のメカニズムを踏まえた日本語の指導方法についての知識を得る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・課題に対する取り組み、授業への参加度 40%
- ・小テスト 30%
- ・期末試験 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『日本語を教えるための第二言語習得論入門』大関浩美著（くろしお出版）

【参考文献】
『ことばとところー入門 心理言語学』村杉恵子（みみずく舎）
『日本語教師のための新しい言語習得概論』小柳かおる（スリーエーネットワーク）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・次回の授業範囲について予習してください。
- ・専門用語調べたり、重要事項をノートにまとめてください。

【必要な時間】

事前・事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

日本語教師を志望する人もそうでない人も、興味がある方の受講を歓迎します。

科目名	言語学特論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	金庭 香理

■講義の目的および概要

言語学の目標の一つは言語における普遍的なものを見つけることである。この講義では、言語類型論の視点から「日本語という言語の特質」を理解した上で、異なる言語と比較して小野の特性を明らかにする。(対照言語学) 通言語的に各言語間の相違・共通性を考えることにより、日本語教育や日本語指導に結びつけるための基礎知識を習得する。

※日本語教育課程の指定科目です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

課題に応じて講義形式および演習形式（ペアワークやグループワーク）を組み合わせで行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内にて解説し、必要に応じてmanabaなどで資料を配付する。

■授業計画

日本語教育の基礎知識として、対照言語学、言語研究、著作権に関する基礎知識を学びます。

以下の予定ですが、変更もあります。

- ①ガイダンス
- ②比較言語学
- ③対照言語学
- ④言語類型
- ⑤日本語教育と対照研究（英語）
- ⑥対照研究—音声面
- ⑦対照研究—文の構造
- ⑧対照研究—動詞・助動詞
- ⑨対象研究—時
- ⑩個別発表
- ⑪個別発表
- ⑫個別発表
- ⑬著作権
- ⑭まとめ
- ⑮期末テスト

※不測の事態のときは、オンライン授業となることがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・日本語を典型的にとらえ、学習者の言語と日本語学習の関係を理解する。
- ・自身の興味のある言語における各文法現象の調査・分析ができるようになる。
- ・授業における著作権について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・ 課題、授業への参加度 40%
- ・ 発表 30%
- ・ 期末テスト 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
資料を配布する予定です。

【参考文献】
『日本語のかたち』東京大学出版会
『日本語教育への道しるべ 第4巻』凡人社
『日本語教師のための入門言語学：演習と解説』スリーエーネットワーク

■授業外学習

【具体的な内容】
・言語の文法書を確認し、文法用語などをおさえておくこと。
・日常的な言語使用において、比較・対照の視点を持つこと。
・配布資料を整理し、発表や試験等に活かすこと。

【必要な時間】
事前、事後学習ともに2時間が目安です。

■その他

科目名	日本語教育文法Ⅱ
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	細野 弥恵

■講義の目的および概要

本講義は日本語の構造や規則について学びます。日本語教育に必要な日本語の知識を養い、それらを実際の日本語教育における現場で実践できる能力にまで高めることを目的とします。講義前半では「日本語教育のための文字と表記」「日本語教育のための語彙・意味体系」について学びます。講義後半では「日本語教育のための形態・文法体系」について学びます。まず、日本語文の構造、品詞、活用等の基礎的な事項についての知識を学び、それから、主題化、ヴォイス、テンス、アスペクト、ムード、複文といった具体的な事項について見ていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

課題に応じて、講義形式および演習形式（ペアワークやグループワーク）を組み合わせで行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内にて解説し、必要に応じてmanabaなどで資料を配付します。

■授業計画

「日本語教育のための文字と表記」「日本語教育のための語彙・意味体系」「日本語教育のための形態・文法体系」に関する基礎知識を学びます。

- ① ガイダンス・世界の中の日本語「日本語について考えよう」
- ② 日本語教育のための文字と表記
教科書第4章：文字表記（教科書43～53ページ）
- ③ 日本語教育のための文字と表記
教科書第5章：漢字（教科書54～63ページ）
- ④ 日本語教育のための語彙・意味体系
教科書第6章：語彙・意味（1）（教科書64～72ページ）
- ⑤ 日本語教育のための語彙・意味体系
教科書第7章：語彙・意味（2）—1（教科書73～86ページ）
- ⑥ 日本語教育のための語彙・意味体系
教科書第7章：語彙・意味（2）—2（教科書73～86ページ）
- ⑦ 日本語教育のための形態・文法体系
教科書第8章：文法（1）：品詞1（教科書87～96ページ）
- ⑧ 日本語教育のための形態・文法体系
教科書第8章：文法（1）：品詞2（教科書87～96ページ）
- ⑨ 日本語教育のための形態・文法体系
教科書第9章：文法（2）格助詞（教科書97～106ページ）
- ⑩ 日本語教育のための形態・文法体系
教科書第9章：文法（2）「は」と「が」（教科書97～106ページ）
- ⑪ 日本語教育のための形態・文法体系
教科書第10章：文法（3）アスペクト、テンス（教科書107～119ページ）
- ⑫ 日本語教育のための形態・文法体系
教科書第11章：文法（4）ヴォイス、自他（教科書120～132ページ）
- ⑬ 日本語教育のための形態・文法体系
教科書第11章：文法（4）授受表現（教科書120～132ページ）
- ⑭ 日本語教育のための形態・文法体系
教科書第12章：文法（5）モダリティと複文（教科書133～140ページ）
- ⑮ 期末試験：試験時間50分+授業アンケート+解説

※ 受講生の状況によって内容は変更する場合があります

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日本語の文法を体系的に理解し、実際の日本語教育現場で実践できるスキルを身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ・授業への参加・課題に対する取り組み 40%
- ・学習内容に関する小テスト 20%
- ・期末試験 40%

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・太田陽子〔編著〕（2021）『超基礎・日本語教育のための日本語学』（くろしお出版）
- ・教員が配布する資料

【参考文献】

- ・荒川洋平（2009）『日本語という外国語』講談社現代新書2013（講談社）
- ・原沢伊都夫（2012）『日本人のための日本語文法入門』講談社現代新書2173（講談社）
- ・中西久実子ほか（2021）『場面とコミュニケーションでわかる日本語文法ハンドブック』（ひつじ書房）
- ・三省堂編修所（2021）『新しい国語表記ハンドブック』【第9版】（三省堂）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前学習として、教科書を読んで次回の内容を確認しておいてください。
- ・事後学習として、毎回配布されるレジュメを復習し、授業内で実施される小テストに備えてください。

【必要な時間】

- ・事前、事後学習ともに2時間を目安とします。

■その他

- ・本講義は第15回目に授業内試験を実施します。

科目名	日本語教授法Ⅱ
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	宇留野 健太

■講義の目的および概要

本講義は、日本語教師課程の必修科目である。日本語教授法の知識・スキルについて学ぶ。主に日本語中上級の教え方、評価と試験について取り上げ、日本語中上級の授業に必要な知識を養う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・講義形式、演習形式の両方で行う。
- ・主に日本語中上級の教え方、評価と試験について指導する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については次の授業時に説明し、必要に応じて補助資料を配布する。

■授業計画

日本語教師課程の「日本語教育プログラムの理解と実践、教室・言語環境の設定、コースデザイン、教授法、評価法、授業計画、目的・対象別日本語教育法、コミュニケーション教育、日本語教育とICT」に対応した内容である。概ね以下の内容で授業を展開する予定である。

- ①ガイダンス
- ②授業見学/振り返り
- ③中上級の教え方 (1) 会話/聴解 1
- ④中上級の教え方 (1) 会話/聴解 2
- ⑤中上級の教え方 (1) 会話/聴解 3
- ⑥中上級の教え方 (2) 読解/情報収集 1
- ⑦中上級の教え方 (2) 読解/情報収集 2
- ⑧中上級の教え方 (2) 読解/情報収集 3
- ⑨中上級の教え方 (3) その他のクラスの指導
- ⑩評価と試験 1
- ⑪評価と試験 2
- ⑫評価と試験 3
- ⑬教案とは/日本語教育とICT
- ⑭文型・動詞の活用などの導入・練習方法
- ⑮期末テスト/まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・日本語中上級の教え方に関する知識を理解することができる。
- ・授業で学んだことから、日本語中上級クラスの授業の流れを把握することができる。
- ・評価法の種類・特徴を理解し、小テストを作成することができる。
- ・教案の作り方を知る。
- ・文型や動詞の活用などの導入・練習方法を体験する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

毎回の課題	…20%
授業に対する取り組み	…30%
授業内に実施する小テスト	…20%
授業内に実施する期末テスト	…30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『新・はじめての日本語教育2〔増補改訂版〕日本語教授法入門』高見澤孟 アスク
出版

【参考文献】
授業内で適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】
・専門的な知識を理解するために、予習・復習を行うことが求められる。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

当該科目を履修するためには、「日本語教授法Ⅰ」の単位を修得済みであることを要件とする。

科目名	ガーデニング演習
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	吉崎 俊一郎

■講義の目的および概要

個別（または班別）に花壇を与え、デザインから設計（基礎）、定植、管理までの花壇づくりを体験させる。
 ガーデン設計・デザインに関する基本的知識・技術を深める。
 各種のコンテナガーデンの実際を学び、応用的知識・技術を修得させる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

花壇設計・施工管理等、講義及び庭園での実習を中心に授業を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習後に毎回実習記録の提出を求めます。

■授業計画

おおむね、以下の内容で授業を展開する。

- 1、オリエンテーション、生活と園芸の関わり
- 2、ガーデニングのプロジェクト計画
- 3、プロジェクト実施(育苗)
- 4、花壇準備①(植庭づくり・花壇設計)
- 5、苗のポット移植・花壇準備②
- 6、コンテナガーデニング(寄せ植え)の実際
- 7、ハンギングバスケットの実際
- 8、花壇植え付け(定植①)
- 9、花壇植え付け(定植②)
- 10、定植後の花壇管理①、繁殖の実際①
- 11、定植後の花壇管理②、繁殖の実際②、ハーブの定植
- 12、マリーゴールド・パンジーの播種・間引き・ポット鉢上げ・育苗管理
- 13、プロジェクト成果のまとめ
- 14、園芸療法的生産性から消費への体験実習
- 15、プロジェクトの反省・評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ガーデン設計の基礎・デザイン、ガーデン管理等に関する基礎的・応用的知識と技術を修得する。

- (DP2) コミュニケーション能力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

臨床心理学領域における基礎的知識、技能の修得およびそれを基にした専門知識、技能の修得や人文学領域に関する教養の修得。

自立して行動できる姿勢、課題を発見し解決する能力。

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

実習記録(20%)、課題レポート(30%)、振り返りシート(20%)、ガーデンデザイン設計(30%)による総合評価。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習課題に沿って、都度関連資料を配布する。

【参考文献】

図解 ガーデニング コツのコツプロが教える園芸秘伝・小学館、ガーデンニング基本大百科・集英社

■授業外学習

【具体的な内容】
授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用する

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

学生の食と生活に関わる内容の授業として材料費として500円別途徴収いたします。

植物や自然に触れながら楽しく学んでいきましょう！

動きやすいく、多少汚れてもい服装で授業に参加してください。
また、夏は気温も高くなる日が多いので熱中症対策や水分補給には十分注意しましょう。

科目名	フラワーアレンジメント[臨床]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	佐藤 義光

■講義の目的および概要

フラワーアレンジメントの基本的なことからクリスマス、お正月などにもお花を上手に飾るアイデア、技術、知識を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回生花・ドライフラワー・プリザーブドフラワーなど使い技術講習を行います。2週間で1つの作品を作るなどして大きなものの制作も時間をかけて行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説します。

■授業計画

- ①ガイダンスおよびアンケート
 - ②丸いアレンジその1
 - ③ガーデンスタイルその1
 - ④丸いアレンジその2
 - ⑤ガーデンスタイルその2
 - ⑥グルーピングスタイル
 - ⑦ラウンドブーケ
 - ⑧ウエディング コサージュ
 - ⑨クリスマスリース (前半)
 - ⑩クリスマスリース (後半)
 - ⑪クリスマスツリーアレンジ
 - ⑫クリスマスアレンジ
 - ⑬お正月用しめ飾り
 - ⑭フリースタイル (今までの習ったことを元に自由に作ります)
 - ⑮フリースタイル (今までの習ったことを元に自由に作ります)
- 授業内容に多少の変更がある場合がございます。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

15回の授業を通してアレンジのテクニックを学び自宅でも簡単なアレンジを楽しめるようにし又花の知識を身につける。就活などで趣味特技の欄に「フラワーアレンジメント」と書けるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

出席率を70%の評価とし重視します。毎回の制作したフラワーアレンジメントの評価を20%、授業への取り組みを10%の対象とします。完成作品の提出、作品内容、作品数、期限など条件の達成度70%、振り返りシート(小レポート)提出30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無し

【参考文献】

無し

■授業外学習

【具体的な内容】

予習：次回の授業について確認
復習：使用した花材で再度制作し、資料を見直す

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業の履修には21,000円税別(1,500円税別×14回)の実習費が必要です。授業には花バサミが必要ですので各自用意してください。

科目名	園芸療法論[臨床]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	吉崎 俊一郎

■講義の目的および概要

植物及び園芸活動を媒体に療法として行うために必要な基礎的・基本的な知識を学ぶ。
園芸療法実践実習（イネーブルガーデン実習）に向けての基礎的な知識を学ぶ。植物を媒体とした活動の多様性を知り、学生の個々の学びとどのように関連しているかを考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

15回にわたり講義を中心に展開するが、園芸療法の実習を体験する。グループワークを取り入れる。
本講義は、園芸療法の資格を有し多種多様な経験豊富な教員がその経験や知識を基礎になるテキストに組み込み行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

進行具合を把握するために小テストを数回予定しています。

■授業計画

おおむね、以下の通り実践する。

- 1、オリエンテーション、園芸療法とは
- 2、園芸療法の歴史
- 3、4、人と植物の関わり
- 5、6、療法としての構造と要素
- 7、8、9、療法における園芸の効用と役割
- 10、11、園芸療法の適応と対象
- 12、園芸療法グループ制作活動
- 13、園芸療法の評価とプログラム
- 14、園芸療法の実践及び配慮事項
- 15、期末試験・試験解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

園芸療法の基礎的・基本的な知識を習得し、園芸療法士として必要な能力と態度を学びそれを説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

臨床心理学領域における基礎的知識、技能の修得およびそれを基にした専門知識、技能の修得や人文学領域に関する教養の修得。
(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

定期試験（50％）、
確認テスト（20％）、
振り返りシート（15％）、
課題（15％）による総合評価

■テキスト・参考文献

【テキスト】

都度配布いたします。

【参考文献】

ひとと植物・環境、山根寛、澤田みどり、青海社

■授業外学習

【具体的な内容】

授業中のみならず日ごろから園芸・医療・福祉・教育・心理等に関心をよせることが園芸療法を理解するための近道になります。

【必要な時間】

授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用して予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	教育原理[子心]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	東 重満

■講義の目的および概要

教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学び、これまでの幼児教育も含めた教育 及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストや提示資料に基づき講義すると共に、本時のテーマを各自ないしグループワークで理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

小レポートや口頭発表を通して共通理解も図る。

■授業計画

- ①教育原理とは何か。オリエンテーション。
- ②「私の育ちを振り返る」保育園・幼稚園・小中高等学校、家庭、地域社会、国」…そして今から私は
- ③教育とは何か 幼稚園教育要領と発達支援の本質から。
- ④幼稚園教育要領の基盤をなす教育理論と実践。
- ⑤学制からの現代に至る時代および社会の変遷と日本の幼児教育。
- ⑥児童憲章や子どもの権利条約の今日的意味。
- ⑦児童中心主義の教育指導と実践1 ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、
- ⑧児童中心主義の教育指導と実践2 デューイ、モンテッソーリ
- ⑨倉橋惣三を中心とした日本の幼児教育思想と実践
- ⑩ユネスコやOECDが発信する提言と21世紀型学習
- ⑪保育先進国の幼児教育の潮流
- ⑫乳幼児期からの子どもへの教育と「生涯教育の樹」
- ⑬乳幼児期からの教育と保育所・認定こども園・幼稚園
- ⑭現代の教育病理・教育課題と課題に応える幼児期からの教育
- ⑮幼児期からの理想の教育のために。
- ⑯幼児期からの子どもの発達理解、教育理解のために。ピアジェ、エリクソン、ヴィゴツキーなど。
- ⑰まとめにかえて。「人間形成と教育、そしてあなたの自己実現」

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

教育の基本概念、歴史、思想の基礎を理解すると共に、近代から現代の社会の変容の中で、幼児教育・保育の基本を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教職に就くために、必須の要件であると共に、社会人として保育者として活躍するために習熟する必要がある。

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

小課題 (20%)、授業ノート提出 (30%)、期末レポート (50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「幼児教育の原理」(改訂版)「幼稚園教育要領解説」

【参考文献】

参考書は適宜紹介しながら、主たる思想家についてはプリントにて資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前（前の時間）に指定したテキストや参考資料を熟読し、講義ノートに要点を書き出す。
- ・授業後は講義ノートとテキスト、参考資料等を自分が重要だと考える個所にマーキングしながら読み返し、理解を深める。

【必要な時間】

- ・事前学習、事後学習それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	児童文化
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	藤田 春義

■講義の目的および概要

認定こども園教育・保育要領に示されている児童文化に関わる内容、特に絵本、わらべ唄、紙芝居について、乳幼児期に必要な理由と実践のための方法、絵本の読み方、わらべ唄のやり方、紙芝居の演じ方を具体的に示し、グループに分かれて実践をし、実習で子どもたちに伝えて一緒に楽しむことができるようになる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

絵本、わらべ唄、紙芝居について講義形式で意味を伝え、その後実践のためにグループワークをします。同じメンバーで繰り返し、読み合うこと、わらべ唄を1対1で取り組む事、紙芝居を演じることで、意味をより深く知ってもらいます。毎回講義の課題に関して講義時間内でレポートで提出があります。また、絵本、わらべ唄、紙芝居について各回の終わりにまとめのレポート提出があります。

【課題に対するフィードバックの方法】

絵本、わらべ唄、紙芝居の保育現場の実践の様子を動画で示して内容の理解を助けます。理解の程度を毎回レポートを提出してもらい確認します。また、レポートの中で受けた質問に講義で答えながら進めます。

■授業計画

- ①初めて出会った絵本について話そう。乳幼児期に出会って欲しい文化的な活動について紹介する。
- ②心を通わせる0歳児クラスの絵本活動
- ③0歳児クラスの絵本リスト作り グループワーク
- ④1, 2歳児クラスの子ども達が楽しむ絵本活動
- ⑤1, 2歳児クラスの絵本リスト作り グループワーク
- ⑥想像する楽しさを味わう幼児の絵本活動
- ⑦幼児のものがたり絵本リスト作り
- ⑧幼児の科学絵本のリスト作り 絵本活動についての理解を確認するレポート作成
- ⑨乳児のわらべ唄の基本を学ぶ
- ⑩乳児のわらべ唄の実践 グループワーク
- ⑪幼児のわらべ唄の基本を学ぶ
- ⑫幼児のわらべ唄の実践 わらべ唄についての理解を確認するレポート作成
- ⑬紙芝居の歴史と演じ方の基本
- ⑭乳児の紙芝居のリスト作り グループワーク
- ⑮幼児の紙芝居のリスト作り 紙芝居についての理解を確認するレポート作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

実習で子どもたちと絵本を楽しむ。わらべ唄を伝える。紙芝居を演じる。実践することにより子どもの文化をさらに深く知り、子ども達のために学んだことを役立てる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

児童文化を学ぶことにより、子どもや子どもの周辺にいる人々との繋がりを深め、自立して生きていくための幅広い教養、技能を身に付ける。

■成績評価基準と方法

毎回のレポート40%
3回の理解の確認レポート40%
グループワークでの実践20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適時、資料の配布をします。読むべき絵本のリスト作りを講義の中でします。

【参考文献】

『保育と絵本』瀧薫著 エイデル研究所 『わらべ唄で子育て入門編』『わらべ唄で子育て応用編』阿部ヤエ著 福音館書店 『紙芝居百科』紙芝居文化の会 童心社

■授業外学習

【具体的な内容】

予習として、幼いころに読んでもらった絵本に再び出会うこと。自分の家にあるもの、無ければ図書館で探すこと。
復習として、講義で紹介した絵本を図書館で読む事。家族や友だちと絵本の話をしたり絵本を楽しんだり、わらべ唄を一緒にすること。
授業外の学習で実施したことをレポートで報告して下さい。レポート評価に加えます。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	社会心理学概論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	赤城 由紀

■講義の目的および概要

社会の中にあつて人がどのような行動をとるか、それが、どのような心理によるものか、研究知見をもとに考察します。社会心理学の基礎知識を得ると共に、日常生活の中での社会行動を理解する視点を養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントスライドにより講義資料を提示します。広告代理店や調査会社でのマーケティング調査経験や消費生活アドバイザーとしての消費生活相談経験の中から消費者が陥りやすい心理について、具体的事例なども紹介します。毎回ワークシート等の提出を求めます。受講人数が少ない場合は、発表や意見交換の場を持ちたいと思っています。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたワークシート等の内容については、次回以降の講義の中で他の学生にも紹介し、必要に応じて意見交換の話題とします。

■授業計画

社会心理学には大きく分けて①社会の中における個人の心理、②個人と個人の対人認知、③集団の中の人間、④社会現象・社会問題という4つのカテゴリがあります。その中から、概ね以下の内容について講義で扱い、社会心理に関する用語解説等を行います。理解度やその時々話題性によって取り扱う順序やトピックには変更が生じます。

- ① 社会心理学とは
- ② 社会現象・社会問題 例 販売促進のテクニックと悪質商法
- ③ 社会現象・社会問題 例 血液型や占いにみる心理
- ④ 社会現象・社会問題 例 SNSの炎上
- ⑤ 社会現象・社会問題 例 集団心理 ハロウィンを例に
- ⑥ 社会現象・社会問題 例 あおり運転
- ⑦ 社会現象・社会問題 例 マスクに纏わる心理
- ⑧ ステレオタイプ・偏見・差別
- ⑨ 協力行動
- ⑩ 集団の中の人間 意思決定
- ⑪ 暴政をめぐって
- ⑫ 援助行動
- ⑬ 服従の心理
- ⑭ 講義の中で扱った用語等のまとめ
- ⑮ 試験と解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会心理学の基本的用語や理論を理解し、日常生活の中での人間の行動や社会問題について、社会心理学お観点から説明ができ、また、問題解決について考える力を身につけること。

社会心理学の研究を批判的に検討し、問題点や発展可能な点を自分の言葉で説明できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)

(DP5)【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)

(DP6)【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)

心理学領域及び臨床心理学領域の基礎的な知識・技能を修得し、活用することができる

■成績評価基準と方法

授業時作成の提出課題 50%

最終試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

授業内で紹介します。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

必要に応じて、授業内で指示します。毎回の授業の冒頭に、前回の授業内容の感想や質問を扱いますので、前回の授業内容の振り返っておいてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

受講を希望する人数が多い場合、履修制限をすることがあります。

科目名	心理学概論
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	岡田 顕宏

■講義の目的および概要

心理学の基礎的な知識を身につけるための基礎科目です。心理学とはどのような学問であるのか、心理学の歴史や方法論から、心理学の諸分野（感覚・知覚、記憶、学習、発達、感情、人格、対人関係、心理的障害）について概説を行います。心理学に関する基本的な知識を身につけることが、この講義の目的になります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に教科書に沿って講義を展開しています。教科書に書かれている内容を通して、心理学の基本的な考え方や知識を身につけてもらいます。必要に応じて、デモンストラーション的な実験や実習などを実施します。事前準備（宿題）と確認のための小テストが行われます。事前準備と復習が必要です（STUDY GUIDEに記載されているように、単位取得のためには授業時間以外の自主学習が必要です）。

【課題に対するフィードバックの方法】

本学LMSのmanaba上で提出された課題に対するフィードバックを行います。

■授業計画

- ①講義の概要説明 第1章「1. 心理学とは」
- ②第1章「2. 心理学の歴史」「3. 心理学の研究方法」
- ③第8章「1. 物理的世界と知覚的世界」「2. 感覚の水準での選択」「3. 知覚の統合作用」
- ④第8章「4. 知覚の恒常性」「5. 空間知覚」「6. 運動の知覚」「7. 知覚に及ぼす主体的要因」
- ⑤小テスト（1,8章）第3章「1. 生得的な適応行動様式」「2. 初期経験」
- ⑥第3章「3. 人間の生得的行動と初期経験」
- ⑦第4章「学習（1）」
- ⑧第5章「学習（2）」
- ⑨小テスト（3,4,5章）第6章「動機づけ」
- ⑩第7章「欲求不満・ストレス・情動」
- ⑪第2章「行動の生理的基礎」
- ⑫第9章「記憶」
- ⑬小テスト（7,2,9章）第11章「パーソナリティ」
- ⑭第12章「臨床心理学の基礎」
- ⑮小テスト（11,12章）、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

心理学を勉強していく上で必要となる、心理学的なものの考え方や方法論を理解するのに必要な基本的な知識を身につけることが目標となります。授業時間外に必要な学習を行い、小テストおよび期末テストで十分な得点が得られるくらいの知識を身につけることが到達目標になります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 必修科目ですので、卒業のために必ず単位を取得する必要があります。

■成績評価基準と方法

宿題・毎回の提出物（リアクションフォーム）・小テスト・期末試験の点数で評価します。それぞれの点数配分は以下の通りです。

毎回の宿題の得点（15%）、章毎の小テストの得点（15%）、毎回の提出物（25%）および期末試験の得点（45%）で評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

今田寛・宮田洋・賀集寛（著）（2016）. 心理学の基礎（四訂版）. 培風館.

【参考文献】

授業中に指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業に先だって、教科書の該当する箇所を読んでおくことが「必要」です。予習と復習に相当する宿題の作業を欠かさずに行い、毎回遅れずに提出することや、小テストの前に該当箇所を復習しておくことが、単位をとるために必要になります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。
認定心理士（日本心理学会認定心理士認定委員会）取得に必要です。

科目名	生活と園芸
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	吉崎 俊一郎

■講義の目的および概要

我々の生活に欠かす事のできない植物。なかでも、園芸作物は生活に潤いと安らぎをもたらせてくれる。園芸の基本的知識や、園芸作物の栽培・管理・繁殖法の基礎を学び、健康で心豊かな生活空間を創造することを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義資料を配布し、15回にわたり講義を中心に展開するが前半は屋外活動実習も数回実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習後に実習記録ノートの提出を求めます。
また、園芸の専門用語を学ぶためのテキストを配布してその修得具合をはかる。

■授業計画

おおむね、以下の内容で授業を展開する。

- 1、オリエンテーション
- 2、果樹
- 3、土再生
- 4、秋おこし
- 5、しいたけ
- 6、食と生活(屋外での調理体験など)
- 7、園芸植物の分類
- 8、草花の栽培
- 9、園芸の機能と役割
- 10、花卉園芸(1年草・2年草・宿根草)
- 11、花卉園芸(球根・観葉植物)
- 12、花卉園芸(多肉植物・ラン類)
- 13、病害虫と自然農薬
- 14、作物の分類
- 15、期末試験・試験解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

園芸作物の改良と発展により我々の生活が潤い、豊かである事を理解する。また、生活と園芸の関連性に触れ改めて園芸活動(行為)の恩恵を考える事ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

臨床心理学領域における基礎的知識、技能の修得およびそれを基にした専門知識、技能の修得や人文学領域に関する教養の修得。

(DP4)【多様性の理解と協働する力】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

定期試験(50%)、確認テスト・作業記録(20%)、振り返りシート(30%)の総合評価。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

都度、関係資料を配布する。

【参考文献】

特になし

■授業外学習

【具体的な内容】
身近にある植物がどのように生活と関連しているのかを常に意識しながら生活すること。

【必要な時間】
授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用して予習・復習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業前半は屋外に出ますので動きやすい服装で参加してください。

学生の食と生活に関わる内容の授業として材料費として500円別途徴収いたします。

科目名	臨床心理学概論
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	岡田 美恵子

■講義の目的および概要

臨床心理学の誕生とこれまでの歩みについての考察を深め、展望する。
主要理論と基礎的な専門用語、臨床心理学的思考の習得を目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントを主に使用する。講義内容によっては心理検査等を実施することがある。テキストを参照しながら進めるので指定テキストは必携すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で返却、解説をおこなう。

■授業計画

- ① 臨床心理学とは（講義のガイダンス）
- ② 臨床心理学の誕生とこれまでのあゆみ（起源と展開）
- ③ 理論的背景（問題行動とは。理論モデルについて）
- ④ 臨床査定について（心理検査・心理面接についての概要）
- ⑤ 査定面接のしかた
- ⑥ 行動観察法の方法
- ⑦ 心理検査（知的機能の査定）
- ⑧ 心理検査（人格と行動の査定）
- ⑨ 心理療法とは（心理療法についての概要）
- ⑩ 精神分析について
- ⑪ 行動療法について
- ⑫ 来談者中心療法について
- ⑬ プレイセラピーについて
- ⑭ アートセラピーについて
- ⑮ 試験

* 内容によっては順番が前後することがある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

臨床心理学の成り立ちと代表的な理論について理解を深め、知識を獲得すること。
臨床心理学的な視点での人間洞察を深めること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ・リモートの場合ー小テスト（60%）、期末定期試験（40%）で評価する。
- ・対面・ハイブリッドの場合ー小テスト（60%）、期末定期試験（40%）で評価する。

（期末定期試験を行う場合は15回目の講義内に実施する予定。）

* また、提出物の締切後の提出は減点になるので注意すること。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『臨床心理学概論』田中富士夫著 北樹出版

【参考文献】

授業中適宜に紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

テキストに一通り目を通し、興味のある箇所や疑問点をチェックしておくこと。
授業後の復習を行うこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令第23（令和5）年4月1日定められている。
公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要がある。

科目名	アロマセラピー[臨床]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	瀬川 桂子

■講義の目的および概要

植物療法の一つであるアロマセラピーを、自身や身近な人の心身の健康に役立てられるよう、基礎知識の習得を目指します。植物の香りが、人の精神、心理、頭脳、身体へ及ぼす作用やメカニズム、芳香成分である精油の特性や抽出法、精油の利用に伴う解剖生理と倫理、安全な利用法を理解した上で、感染症の拡大等の社会的課題への対策、また急速に進む少子高齢化において生活習慣病の予防と健康寿命を支える手立てとして、新たな時代の健康観の立脚し、実習では実際に感覚を得ながら理解を深め、企業や医療・福祉・教育・災害等、様々な場面での活用についても考察していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

植物の芳香成分を利用するアロマセラピーとはどのようなものか、座学にて貴重な精油に含まれる有機化学成分や生体への作用、利用に伴う解剖生理について理解を深めます。実習では実際に香りを感じ安全で効果的な活用方法を理解し、自分なりに使用した感覚を自らの感性で表現しながらプレゼンテーションし、講師、他の学生と共有します。またグループワークやディスカッションを通じてさらに考えを深め合います。毎回の講義終了前に疑問や質問を受ける時間を設けます。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習後には課題として小レポートを次の講義までにまとめて提出のこと。質問、意見等と併せメール等でも随時受け付け、返信することとします。

■授業計画

- ①健康に関する現状とこれから ホリスティックな生活習慣と健康観の立脚
- ②アロマセラピーとは、アロマセラピーの歴史(A.ハンガリーウォーター作成)
- ③植物の芳香成分である精油についてとその抽出方法(B.ラベンダーの蒸留と芳香蒸留水のポトリング)
- ④芳香性有機化学成分の分類と特徴
- ⑤精油の安全な使い方と禁忌について
- ⑥植物の香り成分の吸収と代謝経路
- ⑦香りと嗅覚、脳神経の関係性 脳・神経組織(C.芳香の違いによる感覚の比較)
- ⑧精油のフィジカルへの効用と循環器(D.バスソルト作成、芳香蒸気吸入・ハンドバス・フットバス)
- ⑨精油のメンタルへの効用 神経伝達とホルモン (E.アロマ軟膏製作)
- ⑩精油の肌への効用と皮膚組織 (F.アロマ軟膏製作)
- ⑪精油の呼吸器への効用 公衆衛生に役立てる(G.感染予防アロマスプレー製作)
- ⑫セルフケアの重要性 自分自身の点検とケア(H.トリートメントオイルの作成)
- ⑬様々な分野での有効活用を考える 企業・予防医療・福祉・高齢者
- ⑭アロマセラピーを用いたケーススタディー
- ⑮精油各論

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会を構成する一人として、人の心身の健康に関する既存の価値観や、個人的・社会的課題になぜという疑問や関心を持つことから、多様性を認め合い、健やかに生きる為の礎として、植物療法の一手段である芳香療法の基礎理論や倫理・安全に利用する方法を学び、理解を深めることで専門的視点を培う。またその上で必要性や選択、場面に応じた活用を考えられるようになる。さらに目には見えない植物の芳香を自らの感性で表現することによりコミュニケーション能力を養い、よりよく生きる為、自身や身近な人の心身のケアに上手に役立て、社会へ貢献できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

実習後の小レポート(8回)40%、講義のまとめを課題とする最終レポート(これからの健康観と植物の芳香活用)30%授業態度(発言内容、協調性、積極性等)30%を総合して評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

一番詳しくてわかりやすい!アロマセラピーの教科書
新星出版社 著者:和田文緒 ISBN978-4-405-09165-8

【参考文献】日本アロマコーディネーター協会テキストP. 7 図表他
医学書院 目でみるからだのメカニズム第2版P.18~19図

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：テキストを事前に読み、わからない専門用語を調べておく。
事後学習：実習の記録、学習したことや感じたことを図や言葉を用いて
クロッキー帳にまとめる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	グループワーク
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	品川 ひろみ、赤城 由紀

■講義の目的および概要

グループワークは、参加することによって参加メンバーが相互に影響を受け、個人が変化すると言われています。この講義では、グループワークを通して、自分自身の言葉で自分の思いを表現し、他者に伝えるスキルを学びます。その際には、他者の多様な意見を受容しながら、どのようにすれば課題解決が出来るか、グループ内における自分の役割を意識して臨みます。個人での課題解決とは異なる難しさ、喜びなども感じ取って欲しいと思います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

住民とのワークショップや企業のグループワークのファシリテーター経験を持つ教員が担当し、講義+演習形式で行います。受講者には適宜資料を配布します。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出をを求めるワークシートには、授業中に紹介したり教員のコメントを入れて返却します。

■授業計画

授業計画

概ね以下のテーマに沿ったグループワークを体験しながら展開します。グループワークの課題内容は状況や進捗状況に応じて変更が生じる可能性があります。

- ① オリエンテーション グループワークとは何か
- ② アイスブレイキングとは何か
- ③ 自分と向き合うワーク
- ④ 他者を理解するワーク
- ⑤ 共感を高めるワーク
- ⑥ 一方向・双方向のコミュニケーション体験ワーク
- ⑦ 肯定的な聞き方を学ぶワーク
- ⑧ ホスピタリティ・マインドを育むワーク（トラストワーク）
- ⑨ 自分の伝えたいことを上手に伝えるワーク
- ⑩ 合意形成の大切さに気付くワーク
- ⑪ リーダーシップを理解するワーク
- ⑫ チーム力を高めるワーク
- ⑬ 心の声を聴くワーク①
- ⑭ 心の声を聴くワーク②
- ⑮ まとめ（レポート作成）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自分の意見や思いを言葉で表現し、他者の意見や思いも尊重しながら、課題を解決していく力を身につけます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）
 心理学的な知識・技能に基づいて他者を理解し、相手や状況に応じて自らの考えを伝え、建設的な議論ができる。
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）
 様々な人の立場や背景を理解した上で円滑な関係を構築し、協働して物事に取り組むことができる。

■成績評価基準と方法

以下の2点で評価します。

授業中に作成するフィードバックレポート：50%

最終課題：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に使用しません。

【参考文献】

特にありません。

■授業外学習

【事前事後学習】

- ・議論を進めるための情報収集など必要に応じて授業時に連絡します。
- ・事後学習として、グループワークの記録を取り、自分自身や自身の対人関係上の傾向などの理解を深めてください。

【必要な時間】

事前学習、事後学習それぞれおよそ2時間を目安とします。

■その他

臨床心理専攻学生の必修科目です。

科目名	社会福祉論[臨床]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

少子高齢化、国際化、高度情報化の急速な進展、そして、コロナウイルス感染症の流行などが生活に様々な影響を与えています。誰もが安心して暮らせるようになるため、社会福祉の充実が望まれています。この授業では、現代社会の姿に目を向けながら、社会における社会福祉の意義とそのあり方を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行うことを基本としますが、必要に応じてグループディスカッションやビデオ資料視聴を行い、現代社会の福祉について学びを深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②社会福祉とは何か
- ③社会福祉の歴史①
- ④社会福祉の歴史②
- ⑤社会福祉の法と行財政
- ⑥ソーシャルワークの理解①
- ⑦ソーシャルワークの理解②
- ⑧最低生活保障と生活保護制度①
- ⑨最低生活保障と生活保護制度②
- ⑩児童家庭福祉と次世代育成の展開
- ⑪障害者の自立と福祉①
- ⑫障害者の自立と福祉②
- ⑬高齢者の生活と福祉
- ⑭地域福祉の展開
- ⑮テストとテスト解説・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会福祉の歴史や福祉に関する現代社会の現状と諸制度と仕組み、課題、その他基本的な事項についての理解ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

テスト 40% 課題提出 40%
授業のコメントシートの提出 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「新・社会福祉とは何か 第4版」大久保秀子著・中央法規

【参考文献】

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

復習として章ごとに課題を出題します。予習として、次回の授業範囲について、テキストを専門用語など予習ノートにまとめてください。また、日ごろからニュース、新聞などで、最近の社会福祉の動きや情報を入手してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	社会福祉論[子心]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

この授業では、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点を理解すること、また、福祉の制度、相談援助などの社会福祉の基本を学ぶことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行うことを基本としますが、必要に応じてグループディスカッションやグループ発表、ビデオ資料視聴を行ない現代の社会福祉の課題について学びを深めることを目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配布します。グループ発表に対しては、その都度、コメントします。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②社会福祉の理念と概念
- ③社会福祉の会福祉の歴史の変遷①
- ④社会福祉の会福祉の歴史の変遷②
- ⑤社会福祉の制度と法体系と行財政
- ⑥社会福祉施設と福祉専門職
- ⑦社会福祉における相談援助①
- ⑧社会福祉における相談援助②
- ⑨社会福祉における利用者と保護に関わるしくみ
- ⑩子ども家庭福祉と支援
- ⑪少子高齢化社会における社会福祉
- ⑫共生社会の実現と障害者福祉
- ⑬最低生活保障と生活保護制度
- ⑭地域福祉の展開とこれからの福祉・利用者の保護に関わるしくみ
- ⑮テストとテスト解説・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会福祉の歴史や現代の社会福祉の諸制度と仕組み、動向と課題について説明できる。社会福祉における相談援助について理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

テスト 40% 課題提出 40%
授業のコメントシートの提出 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「新・社会福祉とは何か 第4版」大久保秀子著・中央法規

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

章ごとに予習課題を出題します。テキストを用いて課題に取り組んでください、事後学習は、テキスト等を用いて専門用語などをまとめてください。また、日ごろからニュース、新聞などで、最近の社会福祉の動きや情報を入手してください。

【必要な時間】

事前、事後学習にはそれぞれ2時間必要となります。

科目名	心理学実験 I (基礎)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	岡田 顕宏、赤城 由紀、高橋 文代

■講義の目的および概要

心理学研究における古典的な実験の追試等を実施し、データの収集・集計・分析、考察を行ってレポートを作成する。それらの作業を通して、心理学実験研究の基本概念・方法、統計処理の基礎を学ぶとともに、実際の実験実施に伴う注意点等について理解を深め、簡単な実験の計画立案ができるようになることを目的としている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実験の実施、データの集計・分析、結果のまとめと考察、レポートの提出という実習を中心に展開する。適宜、心理学実験の基本概念・方法論に関する講義を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポート課題は、改善ポイントをコメントした上で返却する。十分な理解が得られていないレポートについては、再提出を求める。

■授業計画

概ね以下の内容で授業を展開するが、実験の順序や内容に変更が生じる場合がある。15回目に筆記試験を行う予定であるが、理解度が不十分な場合や不測の事態が発生した場合には、途中で講義・解説・レポート作成時間等を増やし、定期試験中に筆記試験を行う。

- ①心理学実験の基礎 心理学における実験の意義・役割
- ②実験レポートの書き方
- ③実験1「錯視」 実験の説明と実験実施
- ④実験1「錯視」 実験の解説とレポートの作成
- ⑤実験2「ストループ効果」 実験の説明と実験実施
- ⑥実験2「ストループ効果」 実験の実施とレポート作成
- ⑦実験3「視覚・運動学習の効果とその転移」 実験の説明と実験実施
- ⑧実験3「視覚・運動学習の効果とその転移」 実験の解説とレポート作成
- ⑨実験4「記憶」 実験の説明と実験実施
- ⑩実験4「記憶」 実験の解説とレポートの作成
- ⑪実験5「色彩と認知」 実験の説明と実験実施
- ⑫実験5「色彩と認知」 実験の解説とレポートの作成
- ⑬実験6「色彩と感情」 実験
- ⑭まとめ レポートの書き方、実験用語等に関する基礎的知識の確認
- ⑮筆記試験及び解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 実験の意義を理解し、実験用語及びレポートの書式に馴れること
2. 実験の手続きを正しく理解し、適切に追試できるようになること
3. 簡単な統計を処理できるようになること

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)
 心理学領域及び臨床心理学領域の基礎的な知識・技能を修得し、活用することができる。

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

予定している5つの実験のレポート提出を単位認定の基本条件とする。成績評価のウェイトは、課題レポート50%、期末筆記試験50%とする。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

講義時に紹介する。

■授業外学習

【必要な時間】

実験の事前学習として、授業で配布されたインストラクションペーパーや解説資料などを見直して、実験用語や実験の要点を理解しておくこと、より実験が理解しやすくなる。

実験レポートは基本的には授業内で作成するが、完成しなかった場合は、次週までの課題になることがある。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は認定心理士（日本心理学会認定心理士認定委員会）取得に必要な科目である。また、本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められており、公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要がある。

科目名	教職入門
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	東 重満

■講義の目的および概要

現代社会における教職（保育職）の重要性の高まりを背景に、教職（保育職）の意義、教職（保育職）の役割、資質能力及び職務内容等について理解し、教職（保育職）への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職（保育職）の在り方を理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストやスライド提示に基づき講義すると共に、本時のテーマを各自ないしグループで理解を深めると共に、短時間の演習やグループワークを通して保育者（教職）について実践的理解を図る。

【課題に対するフィードバックの方法】

往還的に授業ノートを活用する。

■授業計画

- ①保育職とは何か。ガイダンス。
- ②東日本大震災記録映画「いつもの幼稚園に戻ること」を視聴し保育職の本質的意味を考える。
- ③保育とは－養護と教育、保育の場－幼稚園・保育所・認定こども園・地域型保育
- ④保育者－幼稚園教諭・保育士・保育教諭、保育の場－生命の保持と情緒の安定（教員の地位に関する勧告と保育観）
- ⑤保育者にかかわる法規・身分保証（資格・要件）・服務・責務（倫理観・道徳観を踏まえて）
- ⑥保育者の専門性と「遊び」－なぜ遊びについて学ぶのか、遊びの多様性
- ⑦保育者の専門性と「環境」－「環境」の相互作用、計画的な「環境」構成（確かな知識と技術と判断に基づいて）
- ⑧教育（保育）課程による保育の展開と自己評価（確かな省察と改善の重要性）
- ⑨保育の専門性と「生活」－「生活」の意味、家庭・学校・社会での生活と教育・保育
- ⑩保育者の専門性と子育て支援－子育て（家族・家庭）支援の必要性、法制度と子育て支援
- ⑪保育実践を記録する力（保育改善に向けた評価を踏まえて）
- ⑫専門性を高めるために－養成校での学び、実習を通じた学び
- ⑬学び続ける保育者（ライフステージとキャリアステージに即した専門性の発達）
- ⑭現場の保育者から－付属幼稚園・保育園・施設の先輩保育者から学ぶ（地域・家庭・関係機関との連携と協働を踏まえて）
- ⑮まとめ（グループでの意見交換－発表）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①教職（保育職）の意義。我が国における今日の学校教育及び教職（保育職）の社会的意義や倫理を理解する。
- ②教職（保育職）の役割や動向を踏まえ、今日の教職（保育職）制度的な位置付けと共に求められる役割及び資質能力を理解する。
- ③教職（保育職）の専門性に基づいた職務内容の全体像及び教育公務員に課せられる服務上及び身分上の義務を理解する。
- ④教職（保育職）における職員間の協働と、キャリアステージを通じた専門職的成長の重要性を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教職に就くために、必須の要件であると共に、社会人として保育者として活躍するために習熟する必要がある。

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

小レポート…20%、授業ノート…30%、期末レポート…50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】「これからの保育者論」萌文書林、
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

【参考文献】「青い鳥」重松清（新潮文庫）、「奇跡の人」ヘレン・ケラー（新潮文庫）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前（前の時間）に指定したテキストや参考資料を熟読し、講義ノートに要点を書き出す。
- ・授業後は講義ノートとテキスト、参考資料等を自分が重要だと考える個所にマーキングしながら読み返し、理解を深める。
- ・日々、教職（保育）に関係する報道や論評に関心を寄せ、自分なりの考えや思いを講義ノートに記事等と共に簡単なメモとして残す

【必要な時間】

- ・事前学習、事後学習それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	子どもの図画工作(基礎)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	阿部 宏行

■講義の目的および概要

本授業は自分の発想や構想を基に制作に取り組むことで、保育者に求められる表現の力を養うと同時に、子どもの造形表現への理解を深めるものである。また保育現場で使用することを想定した課題制作を通し、保育者として必要な作品の制作並びに活用方法を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

造形表現に関する基本的な知識をもつことと、指導（保育）に必要な基本的な資質能力を高める。資料・参考作品を提示した課題説明を基に、制作・鑑賞する。また制作した作品と資料を綴じたファイルを作成することで実践を記録する。授業は演習も含め、実務経験を生かして、理論（知識や技能）を実際に生かせる実習にする。

【課題に対するフィードバックの方法】

提示された課題内容について学生が自己のイメージを基にアイデアを考え、提出資料、配布資料を基に制作計画を立て制作する。授業の終わりに今日の制作について振り返り、配布されたプリントに授業での取り組み状況、目標、質問などについて記入し、提出する。提出された「授業カード」の質問に回答したり、アドバイスしたりするなどフィードバックして返却する。

■授業計画

- ①オリエンテーション、講義：子どもの成長
- ②講義：造形の基本（材料・用具）、演習：かいてみよう（ローラー遊びなど）
- ③講義：造形の基本（接着・接合）、演習：つくってみよう（パペットづくり）
- ④講義：あそびと学び（幼児期の遊びのもつ意味）演習：行為あそび
- ⑤講義：発達と指導
- ⑥演習：指導（保育）の基本（描画材の理解：クレヨン）
- ⑦演習：指導（保育）の基本（共同製作の理解：絵の具）
- ⑧講義：幼児教育の基本
- ⑨演習：材料あそび（新聞紙・ダンボール等）
- ⑩演習：材料あそび（カラービニル・ペットボトル等）
- ⑪演習：行為あそび（光を使って）
- ⑫講義：豊かな感性（デンマーク・ドイツの幼児教育）
- ⑬演習：行為あそび（風・雪）
- ⑭講義：保育者としてのまなざし、ドキュメンテーション、子どもの評価
- ⑮ふりかえり：評価（小論文テスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・表現力と応用力を広げ、子どもの造形表現に必要な知識と技能を身に付けることができる。
- ・保育者として子どもが楽しめる作品の活用方法を学ぶことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- ・造形に関する基礎的な知識や技術を習得し子どもの造形表現の発達について知ること、子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付け、応用できる能力を高める。
 - ・道具、画材の特性や適切な使用方法を知り、子どもの発達にあった使用方法を考慮することで、子どもの安全を守るための適切な配慮ができる保育者の視点を身に付ける。
 - ・保育現場で使用することを想定した課題を制作することで、実習などの活動に積極的に参加し、保育者としての態度や能動的に学び続ける力を身に付ける。

■成績評価基準と方法

- ・完成作品の提出、内容、作品数、期限など条件の達成度：70%
- ・出席、「授業カード」、制作の振り返り及び小論文テストの提出：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】「なりたい〈せんせい〉になる 学びのABC」¥1,430
他、授業時に資料を配布、または参考作品を提示する。

【参考文献】

「育みのABC」「造形のABC」（日本文教出版）「教育雑学のABC」初回無料配布

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・制作に必要な資料やモチーフを準備する。
- ・配布される材料以外のものは各自用意する。

【必要な時間】

- ・日ごろから身に付けた技能を発展・応用できるようにする
- ・予習・復習の時間は、2時間を目安とします。

■その他

子どもの図画工作（基礎）受講時に購入した教材（造形セット）を使用する。本授業、その他の演習や実習で使用するための教材を受講年度初めに全員購入する。
造形セット（絵の具、はさみ、カッター、クレヨン、のり、定規、折り紙等：4,000円程度）

科目名	保育内容総論[子心]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

子どもの発達に必要な保育のねらい及び内容、計画、実践について、保育所保育指針の学習から理解を深める。その上で、子どもとはどのような存在であるか、また保育者は子どもを養育する立場としてどうあるべきかを考察する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が、保育所保育指針の内容と実際の子どもや保育の様子を関連づけながら講義を行う。保育の全体構造と子どもの姿、また保育者の子どもへの関わりについて、講義をもとにグループワーク等を通して理解を深める。また、保育参観や実習の準備として、保育の記録についてワーク形式で学ぶ。

【課題に対するフィードバックの方法】

個別課題についてはmanabaを通して必要に応じてコメントする。グループ課題については授業内で解説し、必要に応じて資料を配布する。

■授業計画

- ① 子どもを取り巻く社会の変化と保育内容の変遷
- ② 保育所保育指針の全体構造―役割・目標
- ③ 保育所保育の基本―子どもの発達を踏まえた保育
- ④ 保育所保育の特徴―養護及び教育が一体的に展開する保育
- ⑤ 子どもの主体性を尊重する保育
- ⑥ 環境を通して行う保育―人的環境と物的環境の重要性
- ⑦ 生活や遊びによる総合的な保育
- ⑧ 個と集団の発達を踏まえた保育―乳児保育の内容
- ⑨ 個と集団の発達を踏まえた保育―1歳以上3歳未満児の保育の内容
- ⑩ 個と集団の発達を踏まえた保育―3歳以上児の保育の内容
- ⑪ 家庭や地域、小学校の連携の必要性
- ⑫ 専門性の向上
- ⑬ 保育の多様な展開―長時間保育、特別な配慮、多文化共生
- ⑭ 保育の計画及び評価―観察と記録の重要性
- ⑮ まとめ、授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育所保育指針の内容を理解し、保育の全体構造のイメージが持てる。保育は養護と教育が一体となって行われることについて、保育所保育指針及び具体的な実践から理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

授業毎のコメントシート (20%)
授業内課題 (30%)
授業内試験 (50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

保育所保育指針解説 (2018) フレーベル館

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (2018) フレーベル館
幼稚園教育要領解説 (2018) フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲を確認し、テキストを熟読しておくこと。その際、専門用語や不明な単語の意味を調べ、ノートにまとめておくこと。授業後は授業内容の振り返りを行い、重要事項をノートに整理すること。

【必要な時間】

事前事後学習の時間は2時間程度を目安とする。

■その他

乳幼児に関わる者としての自覚と保育のおもしろさを感じるために、積極的に授業023（令和5）年4月1日参加することを期待します。

科目名	音楽 I (歌唱・理論基礎)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	須藤 宏志

■講義の目的および概要

本授業の目的は、子どもの歌に多く接し、生活や季節、行事などの歌を覚え、歌えるようになること、保育者として必要とされる基礎的な音楽理論や和声感を身につけること、簡単な伴奏を弾くための実技のベースを身に付けること、以上の三点です。理論の解説、子どものうたの歌唱、スケール、カデンツ奏などの実技により展開して行きます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回の授業は理論、歌唱、ピアノ実技、以上の三部構成で進めていきます。音楽理論は授業3回を一つのサイクルとし、このうち2回を使って解説を、3回目に復習テストを行います。子どもの歌の歌唱は保育施設等で多く使われる生活、季節、行事などのテーマから選曲し鑑賞、歌唱します。ピアノ実技ではスケール(音階)・カデンツ(和音)奏を行い、復習テストと同じ回の実技テストを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

単元ごとに行う復習テストに備え、前週に模擬テストを行います。これによって各自の理解が不十分な箇所が明確になるので、課外時間を使って、復習テストまでに質問、確認しに来て下さい。挨拶のうたは毎回歌唱します。その際に交代で1人ずつ伴奏を担当してもらいますので、課外時間に各自練習をして下さい。練習の成果や次の課題となる点については、演奏後にフィードバックし、また空き時間等を使って個別アドバイスをを行うことが可能です。

■授業計画

- ①楽譜の基礎／生活の歌／ハ長調のスケール・カデンツ奏
- ②音符と休符／生活の歌／ハ長調のスケール・カデンツ奏
- ③復習テスト1／スケール・カデンツ実技テスト
- ④拍子と拍子記号／行事の歌／ハ長調のスケール・カデンツ奏
- ⑤変化記号、強弱記号／生活の歌／ハ長調のスケール・カデンツ奏
- ⑥復習テスト2／スケール・カデンツ実技テスト
- ⑦音程1／生活の歌／ト長調のスケール・カデンツ奏
- ⑧音程2／生活の歌／ト長調のスケール・カデンツ奏
- ⑨復習テスト3／スケール・カデンツ実技テスト
- ⑩音階1／季節の歌／ハ長調のスケール・カデンツ奏
- ⑪音階2／季節の歌／ハ長調のスケール・カデンツ奏
- ⑫復習テスト4／スケール・カデンツ実技テスト
- ⑬調号1／季節の歌／ハ長調のスケール・カデンツ奏
- ⑭調号2／季節の歌／ハ長調のスケール・カデンツ奏
- ⑮復習テスト5／スケール・カデンツ実技テスト／まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

音符や休符の長さ、拍子、変化記号などを理解し、楽譜を読むことができる。
生活、季節、行事などに関わる子どもの歌を覚え、歌うことができる。
ピアノを用いてスケール(音階)・カデンツ(和音)を弾くことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

1. 授業内で行う復習テスト 80%
2. コードネームによる和音奏の実技 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

プリントを配付
こどものうた200 (チャイルド本社)
続こどものうた200 (チャイルド本社)

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外学習 スケール・カデンツ奏はメロディーに伴奏を付けたり、難しい伴奏を簡略化する場合などに役立ち、また音楽Ⅱ（ピアノ基礎）への導入としても有意義です。毎日練習し習得することが大切です。
また授業で取り上げる子どものうたを中心に、課外時間等を利用して歌や伴奏の練習を繰り返し、多くの楽曲を覚えることが重要です。
また理論はプリントを参考に復習しましょう。

【必要な時間】

2時間

■その他

科目名	人文学概論
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	塚本 智宏、小内 透、榎本 光邦

■講義の目的および概要

人文学の学問的構成および人文学部の学修内容を解説する。また、心理学、社会学、教育学を専門とする3名の教員が、それぞれの立場から、人文学とは何か、学問とは何かを語り、さらには人文学部では何が学べるか、どのように学んだらよいのかを考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

3名の教員が5回ずつ担当し、講義+ディスカッションにより展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については3名の教員がそれぞれ授業内で解説するとともに、manaba上で資料を公開する。

■授業計画

I 心理学入門 (榎本)

- ①心理学とは
- ②血液型の性格の関係
- ③「やる気」を考える
- ④対人関係と集団
- ⑤大学生の発達課題

II—学歴社会の構造 (小内)

- ⑥学歴社会とは何か
- ⑦学歴社会の実像
- ⑧学歴形成における属性の制約
- ⑨学歴格差の要因をめぐる議論
- ⑩学歴社会の克服の道

III—19～20世紀転換期のJ. コルチャックの人権思想 (塚本)

- ⑪思想をつくる Dr. Korczakの子ども=すでに人間という思想の形成
- ⑫思想を鍛える 子どもの権利・人権思想としての成熟
- ⑬思想を生む時代 世紀転換と子どもの権利思想
- ⑭思想と実践 孤児院と「最後の行進」を通じての思想の実践
- ⑮思想とその影響 子どもの権利条約・権利条例・まちづくり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人文学および人文学部の歴史と概要を知り、学ぶことの楽しさと考え方から、学科専門領域の学びに向かうことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する能力】

■成績評価基準と方法

榎本—レポート 30%
小内—レポート 30%
塚本—レポート 30%
感想・意見 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料・課題シートはmanaba上にアップして配付する。

【参考文献】

『コルチャックと「子どもの権利」の源流』子どもの未来社 2019年

■授業外学習

【具体的な内容】

図書館で関連文献を読むなどレポートのための準備(復習)をおこなってください。授業の最後で翌週のテーマに触れるので、インターネットや図書館で関連事項を予習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業の最後に感想記入やディスカッションをします。遠慮なく意見・質問をしまし2023（令和5）年4月1日
。

科目名	人文学概論
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	塚本 智宏、小内 透、榎本 光邦

■講義の目的および概要

人文学の学問的構成および人文学部の学修内容を解説する。また、心理学、社会学、教育学を専門とする3名の教員が、それぞれの立場から、人文学とは何か、学問とは何かを語り、さらには人文学部では何が学べるか、どのように学んだらよいのかを考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

3名の教員が5回ずつ担当し、講義＋ディスカッションにより展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については3名の教員がそれぞれ授業内で解説するとともに、manaba上で資料を公開する。

■授業計画

I 心理学入門（榎本）

- ①心理学とは
- ②血液型の性格の関係
- ③「やる気」を考える
- ④対人関係と集団
- ⑤大学生の発達課題

II—学歴社会の構造（小内）

- ⑥学歴社会とは何か
- ⑦学歴社会の実像
- ⑧学歴形成における属性の制約
- ⑨学歴格差の要因をめぐる議論
- ⑩学歴社会の克服の道

III—19～20世紀転換期のJ. コルチャックの人権思想（塚本）

- ⑪思想をつくる Dr. Korczakの子ども＝すでに人間という思想の形成
- ⑫思想を鍛える 子どもの権利・人権思想としての成熟
- ⑬思想を生む時代 世紀転換と子どもの権利思想
- ⑭思想と実践 孤児院と「最後の行進」を通じての思想の実践
- ⑮思想とその影響 子どもの権利条約・権利条例・まちづくり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人文学および人文学部の歴史と概要を知り、学ぶことの楽しさと考え方から、学科専門領域の学びに向かうことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する能力】

■成績評価基準と方法

榎本—レポート 30%
小内—レポート 30%
塚本—レポート 30%
感想・意見 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料・課題シートはmanaba上にアップして配付する。

【参考文献】

『コルチャックと「子どもの権利」の源流』子どもの未来社 2019年

■授業外学習

【具体的な内容】

図書館で関連文献を読むなどレポートのための準備（復習）をおこなってください。授業の最後で翌週のテーマに触れるので、インターネットや図書館で関連事項を予習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業の最後に感想記入やディスカッションをします。遠慮なく意見・質問をしまし2023（令和5）年4月1日
。

科目名	公認心理師の職責
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	橋本 久美

■講義の目的および概要

本講義では、臨床心理学領域における基礎的知識、技能の修得を目的とする。また、公認心理師の職種理解とその社会的責任、職業倫理について学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「公認心理師の職責」について知識の習得を目的とした講義を行う。知識理解のために板書・パワーポイントを用いた講義を行うが、小テストを適宜行い知識の定着を図る。また、後半には小グループによるディスカッションを含めた授業進行を図る。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題については適宜各自に返却し、各自が学習到達度の確認ができるようにする。また、5回目終了後、10回目終了後でのミニテストを行い、内容全体の理解度をフィードバックする。適宜、manabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

- ①公認心理師の役割の理解
- ②公認心理師の法的義務と倫理
- ③公認心理師の法的義務と倫理
- ④心理に関する支援を要する者等の安全の確保
- ⑤情報の適切な取り扱い
- ⑥チームや地域で連携して働く
- ⑦保健医療分野の業務
- ⑧福祉分野の業務
- ⑨教育分野の業務
- ⑩司法分野の業務
- ⑪産業分野の業務
- ⑫自己課題発見・解決能力
- ⑬心理支援に必要な技能
- ⑭心理支援の専門家として働くために
- ⑮まとめ 最終テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

公認心理師が広域にまたがる職種での社会的役割の基本的理解がなされ、国民の心の健康を向上させる仕事の意義やその責任及び職業倫理について自主的に考えることができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

小レポート 20% ディスカッションにおける発言・役割貢献度 20% 小テスト及び最終テスト 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】公認心理師の職責 下山晴彦他 監修編著 ミネルヴァ書房 必ず各自用意してください

【参考文献】必要に応じて紹介する

■授業外学習

毎回専門用語の意味などを復習プリントにまとめること。2時間以上をかけることが望ましい。返却された課題プリントは講義終了まで復習のためにとっておくこと。授業の終了前に次回の予告プリントを配布するので予習を行うこと。予習は2時間以上をかけることが望ましい。テキストの内容を予め読み込んでおくこと。

■その他

本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

科目名	人体の構造と機能及び疾病
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	樋口 善英

■講義の目的および概要

人体構造の基礎を体系的に理解することを目的とします。特に、身体運動に関わる神経筋骨格系、呼吸循環器系、消化泌尿生殖系の（解剖学的）構造と（生理学的）機能について基本的な知識を学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

医学部解剖学教室の研究員、大学病院の臨床現場、スポーツ指導の医科学スタッフとしての実務経験を豊富にもつ教員が、有資格者としての必要な知識と技術をスライドを用いて講義します。

やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

身近にある身体の不思議や疑問などを題材に、人体の構造と機能について理解できるよう工夫します。

■授業計画

- ①人体構造学概論（活動機能構造連関とは）
- ②機能解剖学Ⅰ（肩甲帯の機能解剖学と疾病）
- ③機能解剖学Ⅱ（上肢帯の機能解剖学と疾病）
- ④機能解剖学Ⅲ（骨盤帯の機能解剖学と疾病）
- ⑤機能解剖学Ⅳ（下肢帯の機能解剖学と疾病）
- ⑥機能解剖学Ⅴ（脳脊髄の機能解剖学と疾病）
- ⑦機能解剖学Ⅵ（機能解剖学のみまとめ）
- ⑧解剖生理学Ⅰ（細胞と組織の解剖生理学）
- ⑨解剖生理学Ⅱ（呼吸器系の解剖生理学と疾病）
- ⑩解剖生理学Ⅲ（循環器系の解剖生理学と疾病）
- ⑪解剖生理学Ⅳ（消化吸収系の解剖生理学と疾病）
- ⑫解剖生理学Ⅴ（泌尿生殖系の解剖生理学と疾病）
- ⑬解剖生理学Ⅵ（解剖生理学のみまとめ）
- ⑭人体構造学総論（まとめ）
- ⑮期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①人体の基礎的な構造と機能について説明できるようになる。
- ②特に形態に基づく動作の成り立ちにつながる知識を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

期末試験：60%

授業内容確認レポートなど提出：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

からだのしくみ事典 浅野伍朗 監修 成美堂出版

【参考文献】

その他、講義中に適時紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

医学の基礎的知識を必要とするので事前に医学用語等を学習する。事後は各系統別の構造と機能について復習する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。

公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

科目名	心理学研究法
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	岡田 顕宏

■講義の目的および概要

本講義の目的は、心理学に用いられる研究方法について理解し、実証的研究について理解することです。さらに、研究レビューのレポートをグループで作成することで、研究方法についての理解を深める。また、心理学的研究、特に臨床心理学的研究を実施するために必要となる研究倫理に関する理解を獲得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義を中心に進めるが、グループでのディスカッション等と組み合わせて進めていく。毎回リフレクションシートの提出も行う。また、講義で学んだ事をもとに、グループに分かれ研究レビューのレポートを提出してもらい、そのレポートについてのプレゼンテーションをパワーポイントを使って発表してもらう。本講義は様々な心理学の研究に関して実務経験のある教員が、心理学研究の種類、それぞれの手法の基礎と実際を解説し、学生が心理学の学術論文の内容をより理解できるように講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の初めに前回のリフレクションシートが採点の上返却され、フィードバックや質問等に講師が答える。レポート課題は、採点の上返却される。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②心理学研究法
- ③実験法の基礎
- ④実験法の実際
- ⑤質問紙調査法の基礎
- ⑥質問紙調査法の実際
- ⑦観察法の基礎と実際
- ⑧面接法の基礎と実際
- ⑨検査法と実践的研究法
- ⑩プレゼンテーションの準備 (1) グループ分けと文献探し
- ⑪プレゼンテーションの準備 (2) 文献講読
- ⑫プレゼンテーションの準備 (3) スライドとレポート作成
- ⑬授業内テスト
- ⑭プレゼンテーション発表会 (1)、グループでのスライドとレポート提出
- ⑮プレゼンテーション発表会 (2)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

心理学における実証的研究法(量的研究及び、質的研究)について概説できる。データを用いた実証的な思考法と研究における倫理を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

毎回のリフレクションシート：40%
グループで作成するレポートとプレゼンテーション：30%
授業内テスト：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しない。毎回の授業で講義資料を配布。

【参考文献】

『公認心理師の基礎と実践 第4巻 心理学研究法』村井潤一郎・藤川麗編 遠見書房

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で学んだ内容を復習し、様々な心理学研究法を理解してもらいます。グループに分かれ、研究レビューのレポートを提出してもらいます。また、そのレポートをもとにグループでのプレゼンテーションをしてもらいます。このレポートとプレゼンテーション作成は主に授業外の時間に行ってもらいます。

【必要な時間】

予習復習に要する時間は概ね2時間です。

■その他

※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

科目名	子どもの理解と援助
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	木村 彰子

■講義の目的および概要

本講義は、保育実践の中で、子ども一人一人の心身の発達や学びを理解する意義や、そのための基本的な考え方、保育者の援助や態度の基本について知ることが目的である。

「保育の心理学」で学んだことをベースに、子どもの実態に応じた理解や具体的な方法を保育の事例から学ぶ。さらに、保育場面の映像をもとに記録を作成する中で、子どもを理解するための具体的な方法や援助について体験的に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業の最初は講義形式で、幼稚園教諭及び臨床心理士として実務経験のある教員が事例を提示したり、テキストや動画を使い、子ども理解の視点を伝える。その後、「グループワーク」を行い、各自が感じたこと、考えたことについて交流する。また、子ども理解の視点を広げるために、保育場面での子どもの姿の静止画や動画を視聴し、感じたことや考えたことをグループで交流しあう。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題返却時の講義の中で解説をする。また、個別に対応が必要な場合は、課題にコメントを記入したり、授業前後で直接対話をして伝える。

■授業計画

- ① 子どもごろごろを感じてみよう
- ② 保育における子どもへのまなざし
- ③ 保育における子ども理解とは
- ④ 子どもを取り巻く環境の理解—発達と学習の視点から
- ⑤ 子ども理解における発達の視点
- ⑥ 関係論的発達観
- ⑦ 子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド
- ⑧ 実際の姿から何を読み取るのか—ビデオワーク
- ⑨ それぞれの記録をもちよった意見交流（グループワーク）
- ⑩ 多様な考え方と子どもをみる目の広がり
- ⑪ 保育における観察と記録
- ⑫ 記録に基づく保育カンファレンス
- ⑬ 保育における個と集団の関係への理解と援助
- ⑭ 特別なニーズのある子どもとの出会い
- ⑮ 授業内試験②と解説・子どもを理解するとは

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・子どもの実態や特性に応じた保育者の援助の基本を理解する。
 - ・子ども一人一人の気持ちに沿った援助の大切さや、他者の視点を交えて子どもを理解しようとする大切さがわかる。
- (保育士資格必修)

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・ 課題提出と内容 70%
- ・ 授業内試験 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ 「新しい保育講座3 子ども理解と援助」高嶋景子・砂上史編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

- ・ 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】事前学修ではテキストの次回使用する箇所を必ず読み、概要を把握すること。また、事後学修では各回の講義に関する提出課題を課す。

【必要な時間】

本科目は1単位であるため、授業の事前事後学修併せて2時間の学習を行う必要がある。

■その他

課題は期限厳守で必ず提出すること。未提出及び提出遅れは減点対象となる。
やむを得ず欠席した場合には必要に応じて教員に質問をし、その回の内容を自ら補うこと。

科目名	子ども心理フィールドワークⅠ
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	愛下 啓恵、東 重満、橋場 俊輔

■講義の目的および概要

保育や療育等の対人援助職就職を目指すための、実践を中心とした科目です。子どもが利用している施設で、ボランティアや実習を行う際のマナーと心構えを学び、付属認定こども園における保育参加を通して、子どもと触れあう経験を積んでいきます。参加後は活動を振り返りながら記録を記入し、本実習を見据え、観察の視点や記述方法を習得します。また実習等で使用する名札の製作も行い、製作スキルも身に付けるとともに、保育現場での自己紹介を想定し、それらを活用した模擬自己紹介のプレゼンも行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

付属認定こども園では2回の保育参加を行います。また活動後は毎回活動報告書を記入し提出します。製作活動では、実習で使用できる名札を製作します。最後には、まとめのレポートを作成します

【課題に対するフィードバックの方法】

授業で配布される記録用紙を、期日までに提出してください。担当教員が毎回チェックし、記録、感想、考察の書き方、誤字脱字、記録文としての語句の用法など、必要に応じてコメントを記入し返却します。

■授業計画

- ①オリエンテーション 個人票写真の説明
- ②ボランティアについて
- ③個人票と写真の個別指導
- ④学修ポートフォリオの記入
- ⑤フィールドワークの心構え
- 制作活動について 名札準備 (付属用)
- ⑥観察の視点 観察記録の書き方
- ⑦認定こども園の教育保育活動について
- ⑧A 保育参加、B 製作活動
- ⑨A制作活動、B 保育参加
- ⑩記録の振り返り
- ⑪A 保育参加、B 製作活動
- ⑫A制作活動、B 保育参加
- ⑬A 保育参加、B 製作活動
- ⑭A制作活動、B 保育参加
- ⑮記録の振り返り・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①子どもとの関わりを通して、様々な支援の在り方を知ることができる。
- ②観察記録や礼状としての適切な文章を書くことができる。
- ③保育現場で使用する名札の製作方法を習得できる。
- ④名札等のツールを用いて、保育現場等での自己紹介方法を体得できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
 (DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)

■成績評価基準と方法

付属認定こども園における活動記録・感想文 70%
 名札製作 30%
 毎回最後にコメント提出。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉」わかば社

【参考文献】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園 教育保育要領」「学校教育法」その他必要に応じて紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

コロナ禍においては、保育や療育施設等でのボランティア活動は制限が大きく、授業の取り組みとしてボランティアの参加を評価対象とすることはできませんが、保育、療育施設等からのボランティア参加依頼がある場合には、積極的に参加する姿勢を持ちましょう。

【必要な時間】

フィールドワークの参加準備、参加記録作成時間は2時間を目安とします。

■その他

学外での活動時は、受け入れ先の指示がない限り必ず指定ジャージやポロシャツを着用し、髪型も髪型や色など約束に従いましょう。

科目名	子ども心理フィールドワークⅡ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	愛下 啓恵、東 重満、橋場 俊輔

■講義の目的および概要

「子どもフィールドワークⅠ」の学修成果を踏まえて、農業体験、社会人としての基礎マナー講座、学外の福祉施設でのボランティアを通して、支援の必要な人々との関わり、仕事の意義、職業マナー、責任感を養うとともに、自己の能力、資質、可能性を自覚し、人への思いやりと責任ある行動、能動的に社会参加する基礎力を磨く。同時に、心理学科の学生として、やりとりの中で展開される心の働きについて、興味、関心を持てるようにする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

①農業体験を通してボランティアの理念を学ぶ。②地域の福祉施設に出向いて実際にボランティア活動の実習を行う。③社会人としての基礎マナーを学ぶ。④体験したボランティアを今後の学習、キャリア、人生どのように生かすのかグループ討論・発表を通して振り返る。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたボランティア日誌に対して、添削、個別指導を行う。

■授業計画

- ①厚真町ボランティア実習Ⅰ（春学期にオリエンテーション済）
- ②厚真町ボランティア実習Ⅱ
- ③厚真町ボランティア実習Ⅲ
- ④オリエンテーション・学修ポートフォリオ
- ⑤日誌の書き方（保育・幼稚園）
- ⑥社会人としてのマナー講座・自習に向けての再確認
- ⑦幼稚園・保育園・児童養護施設・高齢者施設ボランティアⅠ
- ⑧幼稚園・保育園・児童養護施設・高齢者施設ボランティアⅡ
- ⑨日誌添削面談・振り返り
- ⑩幼稚園・保育園・児童養護施設・高齢者施設ボランティアⅡ
- ⑪日誌添削面談・振り返り
- ⑫滝野青少年山の家フィールドワーク
- ⑬滝野青少年山の家フィールドワークⅡ
- ⑭1年間のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ボランティア活動の理論と方法、社会生活における意味を理解できる。
- ②仕事の意義、職業マナー、責任感を自己の能力、資質、可能性を自覚できる。
- ③支援の必要な人々と関わりを通して、心の働き、人への思いやりと責任ある行動を自覚できる。
- ④ 今回の体験を今後の実習に活かそうという展望を持てる。
- ⑤心理学領域及び幼児教育・保育領域に関する知識・技能を修得し、活用することができる。
- ⑥心理学を基盤とし、幼児教育や保育、福祉等の現場において、利用者や関係者の理解に努め、自らの考えを適切に伝えることができる。
- ⑦幼児教育・保育の場において、年齢、性別、国籍、障がいの有無などの多様性を理解し、適切な対応をすることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 子ども心理専攻のDP、「幼児教育・保育領域における基礎的知識、技能の習得及びそれを基にした専門知識、技能の修得」に基づいている。

■成績評価基準と方法

活動報告書（実習日誌）の記述内容 80%
 農業体験、実習に対する取り組み 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、配布をする。

■授業外学習

【具体的な内容】

ボランティア日誌などは期日までに必ず書き上げ、提出することが求められる。

【必要な時間】

ボランティア準備、日誌の作成などともに2時間ずつ必要となる。

■その他

9月28日（予備日30日）の夏季休業中に厚真町にボランティア実習に行く予定。

科目名	特別支援教育[子心]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	榎本 光邦

■講義の目的および概要

我が国では2007年4月1日から、それまでの障がい児教育の理念を広げた特別支援教育が展開されています。この講義では、障がい児教育の歴史を踏まえた上で、特別支援教育の理念を知り、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒への求められる指導・支援の実際を具体的に理解していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討、分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

本講義は、公立小学校や公立教育相談室において、教育相談や特別支援教育（障がい児教育）に関する教育相談の実務経験のある教員が、その経験を生かして、多様な子どもに対しての効果的な特別支援教育の進め方を心理学の理念と方法を取り入れ、具体的に講義します。

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義時に行います。

■授業計画

- ①特別支援教育の歴史
- ②特別支援教育の理念と制度
- ③特別支援教育の教育課程と教育課程編成上の留意事項
- ④視覚障害の理解と教育
- ⑤聴覚障害の理解と教育
- ⑥言語障害の理解と教育
- ⑦肢体不自由の理解と教育
- ⑧知的障害の理解と教育
- ⑨AD/HDの理解と教育
- ⑩SLDの理解と教育
- ⑪自閉スペクトラム症の理解と教育
- ⑫発達障害のある幼児児童生徒の園、学校での理解と指導
- ⑬特別支援教育に関わる、教師、保護者、専門機関の連携
- ⑭保育士・教員に求められる専門性
- ⑮特別支援教育を担うための自分自身の課題について

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①視覚、聴覚障害、言語、肢体不自由、知的障害、発達障害等を含む特別な教育ニーズを有する幼児、児童、生徒の障害特性に求められる支援を説明できる。
- ②特別な教育ニーズを有する子ども達を支援する教育計画や方法を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門的知識・技能を活用する力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

定期試験（レポート形式・50%）に、毎回の受講後に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「子どもの気持ち」と「先生のギモン」から考える 学校で困っている子どもへの支援と指導 日戸由刈（監修）、安居院みどり・萬木はるか（編集） 学苑社

【参考文献】

随時紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事後学修として、当日の授業内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。また、シラバスに提示されている次時の内容について大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートに予習として記載しておくこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心をもって下さい。

■その他

講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。

科目名	保育の心理学[子心]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、乳幼児の発達を捉える視点について理解する。保育における子どもの学びや育ちについて心理学的視点から捉え、保育者や仲間、及び環境との関わりの意義を理解し、子どもの発達に即した援助について考察する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義を通して心理学的知識を習得し、保育の中の子どもの発達について理解を深める。その際、保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が、具体的な子どもの姿や保育者の関わりの姿を手がかりとして示し、グループワークやディスカッションを通してながら、発達を捉え理解することの意義と重要性について考えていく。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説を行う。質問については全体で共有すべきものは授業内で解説し、それ以外のものについてはmanabaを通して個々に対応する。

■授業計画

- ① 子どもの発達を理解することの意義
- ② 発達の理論と子どもを捉える視点
- ③ 発達を過程としてみる視点
- ④ 発達と環境の重要性—文化的発達
- ⑤ 知覚と認知の発達
- ⑥ 情動の発達と自我
- ⑦ ことばの発達と社会性の発達
- ⑧ 基本的信頼感の獲得と他者との関わり
- ⑨ 身体的機能と運動機能の発達
- ⑩ 生活や遊びにおける乳幼児期の学びと発達の関連性
- ⑪ 乳幼児期の学び（発達）を支える保育
- ⑫ 保育における子ども理解
- ⑬ 0、1、2歳児の保育から捉える子どもの発達
- ⑭ 3歳以上児の保育から捉える子どもの発達—遊びと発達の関係性
- ⑮ まとめ—子どもの育ちにとって必要なもの

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

乳幼児期の発達や学びの過程についての心理学的知識を習得する。具体的な保育場面から子どもの発達の姿を捉え、保育者の関わりや援助について考察することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業毎のコメントシート (20%)
授業内課題 (30%)
授業内課題 (50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

発達と育ちの心理学 佐藤公治編著 萌文書林

【参考文献】

保育所保育指針解説 (2018) フレーベル館
認定こども園教育・保育要領解説 (2018) フレーベル館
幼稚園教育要領解説 (2018) フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

テキストの指定ページを熟読し、専門用語の意味を調べノートにまとめておくこと。
授業の冒頭に復習問題を出題することがあるため、授業後は授業内容をノートにまとめ、重要事項を整理しておくこと。
日頃から子どもの姿に関心を持ち、その言動の意味を考えてみること。

【必要な時間】

事前事後学習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

乳幼児に関わる者としての自覚と子どもについて知る楽しさを得るために、積極的に授業に参加することを期待します。

科目名	保育表現(身体・言葉)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	村中 幸子

■講義の目的および概要

音楽教育法「ダルクローズ・リトミック」の手法を学び、保育者として子どもの豊かな表現活動、音楽活動を援助するための知識や技術を習得する。また、子どもの授業展開に必要な「あそびうた・わらべ歌・童謡」を学習する中で、発声や伴奏法などの弾き歌いの技術を学ぶほか、絵本の読み聞かせや言葉のリズムを使った音楽遊び、そのストーリーを題材として活動を展開するなど、広い視野で素材を集め豊かな表現活動が実践できる力を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・「ダルクローズ・リトミック」による多彩な音楽表現活動を専門家である教員から学ぶことにより、音楽の基礎的な内容を理解し、子どもの指導に必要な技能を身に付ける。
・絵本の読み聞かせや年齢に応じた言葉遊び、わらべ歌など、現場で必要な様々な表現方法について学び、指導に生かせるようになる。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された指導案や各回の振り返りシート、発表や実技試験について授業内でコメントや講評を行なう。

■授業計画

- ①身体を使った音楽表現の基礎① 動きの要素
- ②身体を使った音楽表現の基礎② ニュアンス
- ③身体を使った音楽表現の基礎③ 拍子
- ④表現のための器楽活用法
- ⑤表現のためのピアノ技法
- ⑥子どもの歌：わらべ歌、手遊び①
- ⑦子どもの歌：わらべ歌、手遊び②
- ⑧子どもの歌：伴奏法
- ⑨子どもと絵本：五感のイメージと言葉遊び
- ⑩子どもと絵本：空想する力
- ⑪読み聞かせ①
- ⑫読み聞かせ②
- ⑬絵本を用いた表現活動：デザイン
- ⑭指導計画① 模擬授業
- ⑮指導計画② 模擬授業

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・「ダルクローズ・リトミック」による多彩な音楽表現活動を体験することにより、基礎的な内容を理解し、指導に必要な音楽技能を身に付ける。
・基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
・絵本についての理解を深め子どもの成長に応じた本の選択と読み聞かせの方法を学ぶ。
・ストーリーに合う効果音作りや、話をのものを題材として子どもがイメージを膨らませ、動きや声で表現する活動プランを作る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

授業内の発表・提出物 50%、実技試験 30%、レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「こどものうた 100」「続こどものうた 200」チャイルド本社

【参考文献】

幼稚園教育要領（平成29年3月）、同解説（新）

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外で準備する課題について、その都度指示する。持ち寄った課題をテーマにして授業を進めるので、必ず期限内に取り組んで用意すること。

【必要な時間】

予習・復習あわせて2時間を目安とする。

■その他

- ・動きやすい服装で（スカート、極端なワイドパンツ、短パン等やアクセサリ類不可）。
- ・テキストや筆記用具を忘れずに持参すること。

科目名	幼児と環境
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

乳幼児を取り巻く環境と乳幼児の発達の間について理解を深め、幼児が環境に主体的に関わることの意義を理解する。また、環境により子どもの発達は変化する可能性があることを意識し、自らも環境の一部であることの自覚を得るとともに、子どもにとって必要な環境について知識及び技能を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

具体的な保育実践場面を通して、乳幼児の周囲の環境と子どもの発達について理解を深める。また子どもにとって必要な環境とは何か考察していく。

本講義は保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実際の環境や子どもの姿を通して乳幼児にとっての環境の重要性について講義を行う。また必要に応じてグループワークやディスカッションを行い、保育者の視点で環境を考察することを試みる。

【課題に対するフィードバックの方法】

個別課題は必要に応じてmanabaからコメントする。全体で共有すべきことは次の授業の際に紹介する。グループ課題は授業内で解説を行い、必要に応じて資料を配布する。

■授業計画

- ① 乳幼児と人的環境である保育者との関わりにおける乳幼児の発達と、物的環境の準備の重要性について
- ② 環境との相互作用と乳幼児の発達との関連性—環境における現代的課題
- ③ 乳幼児の生活を取り巻く環境と子どもの発達を意識した環境の違い
- ④ 領域「環境」の理解と他領域との相互連関的発達
- ⑤ 乳幼児の主体的活動を生む室内環境—乳幼児と物的環境との関わり、および乳幼児の発達との関連性
- ⑥ 乳幼児の主体的活動と認知・思考の発達との関係性
- ⑦ 乳幼児と自然環境との関わり—乳幼児の戸外活動とその配慮
- ⑧ 幼児の戸外活動及び生物との関わり—思考・情動の発達との関係性
- ⑨ 幼児の周辺環境への理解と地域とのつながりの重要性—領域「環境」との関連
- ⑩ 日常生活にある身近な標識や文字—幼児の興味関心の持ち方（保育活動及び発達側の側面から）
- ⑪ 身近な標識や文字—保育活動に取り入れる意義と学びの連続性
- ⑫ 身近な地域環境—乳幼児の興味関心の持ち方（保育活動及び発達の側面から）
- ⑬ 身近な地域環境—保育活動に取り入れる意義と学びの連続性、および配慮点
- ⑭ 乳幼児の発達を意識した保育環境についての考察—保育実践の観察から
- ⑮ 保育環境案の作成と検討

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ 幼児を取り巻く環境について、乳幼児の発達との関連性からその意義を理解する
- ・ 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・情動の発達について理解する
- ・ 幼児の身近な環境との関わりにおける科学的概念、また日常生活にある標識・文字への興味関心について理解する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

授業毎のコメントシート（25%）

授業内課題（25%）

授業内試験（50%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『環境構成の理論と実践』 高山静子 郁洋舎

【参考文献】

『学びを支える保育環境づくり』 高山静子 小学館
『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育保育・要領』 内閣府 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

テキストの指定ページを熟読し、専門用語の意味を調べノートにまとめる。また授業後は授業内容をノートにまとめ、重要事項を整理する。日頃から周囲の環境に関心を持ち、保育の場に活かしたい環境や遊びをノートにまとめる。

【必要な時間】

事前事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

乳幼児に関わる者としての自覚を持ち、授業に参加すること。
自然探索など、外部講師によるフィールドワークを予定している。

科目名	幼児と健康
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	蔵満 保幸

■講義の目的および概要

子どもの個性的で活発な主体的活動を通じて、心身の健全な発達を実現するために、心身の発達の概観、保育者が留意すべきことやその役割について学びます。子どものこころや身体の発達、遊び、食、睡眠を中心とした生活習慣について理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で実施します。小グループでの話し合いや発表を通じ、積極的な発言、発表を求め、自分の意見をしっかりと述べる態度を養います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題についてな授業内で解説するとともに、グループワーク時にも自由に意見交換します。

■授業計画

- ①ガイダンス、自分の幼児期の振り返り
- ②幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「健康」のねらいと内容
- ③健康と体力について
- ④北海道の子どもの体力・運動能力の現状と課題
- ⑤身体活動（あそび）の必要性、重要性
- ⑥健康、体力、運動能力についての確認試験
- ⑦子どもを取り巻く健康や発達の諸問題 I
- ⑧ " " II
- ⑨子どもと運動あそび
- ⑩子どもと生活習慣
- ⑪子どもと食
- ⑫子どもトピックス（メディア、ゲーム）
- ⑬ " "（生活習慣）
- ⑭ " "（運動、食）
- ⑮振り返りと課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

幼児の発育発達と健康に影響する諸要因について理解を深める。
 幼児の成長や健康に関する理解を深め、意識を高くすることができる。
 保育者として幼児の健やかな発育発達を支えるために、自らも健康を維持増進する態度を養うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「幼児教育・保育領域における基礎知識、技能の習得およびそれを基にした専門知識、技能の習得」に基づき、子どもの健康諸問題の解決に対応しうる能力を身に付ける。

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP3) 【課題を発見し、解決する力】

(DP4) 【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

- ・ 確認試験 40%
- ・ まとめのレポート 40%
- ・ 提出物 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・ 随時資料を配布します

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

・ 配布資料の事前閲覧、課題作成など

【必要な時間】

・ 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	教育方法論[子心]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	東 重満

■講義の目的および概要

教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）は、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストやスライド提示の資料に基づき講義すると共に、本時のテーマを各自ないしグループでのアクティブラーニングにより理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

短時間の演習や継続的なグループワークを通して実践的理解と技術習得も図る。

■授業計画

- ①保育方法の基本 1) 保育方法の多様さと子ども 2) 保育の魅力と保育方法
- ②幼児理解と保育方法 1) 子ども理解と保育 2) 発達理解と保育
- ③環境と保育 主体は子ども
- ④環境と保育 1) 環境構成と保育の創造 2) 計画性と偶然性
- ⑤環境と保育 保育者という環境
- ⑥遊びを通しての総合的指導と幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）…遊びの意義と役割について理解を深める
- ⑦1) 季節にちなんだ遊びを通して「学びに向かう力・人間性等」の基本育て
- ⑧2) 季節にちなんだ遊びを通して「知識・技能の基礎」育て
- ⑨3) 季節にちなんだ遊びを通して「思考力・判断力・表現力等の基礎」育て 1)～3)を踏まえて子どもの育ちを引き出す遊びをデザインし研究発表会を行う。
- ⑩1) 学級経営と保育 集団「私たち」の育ち合いと「私」の育ち?
- ⑪2) 学級経営と保育 プロジェクト型の保育?
- ⑫3) 学級経営と保育 読み聞かせや紙芝居「語彙数と学力」を考える?
- ⑬認知能力と非認知能力 幼児期に育むべき非認知能力の育ちを引き出すために
- ⑭保育方法と情報機器の活用（9回目終了後の発表会を踏まえて）
- ⑮幼小連携と連携、内容方法等への願い（カリキュラムでの連携と小学生のアクティブラーニングへの理解）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①教育の方法論
これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。
- ②教育の技術
教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。
- ③情報機器及び教材の活用
情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教職とりわけ幼児教育・保育に保育者として従事する者には、指導や援助の基本となるものである。

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

小課題（20%）、教材研究と発表（制作教材提出30%・パワーポイントもしくは実技発表50%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】「保育方法の実践的理解」

「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説」

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・事前（前の時間）に指定したテキストや参考資料を熟読すると共に、実習などで観察した保育場面も思い出し講義ノートに要点を書き出す。
- ・授業後は講義ノートとテキスト、参考資料等を自分が重要だと考える個所にマーキングしながら読み返し、保育実践場面とのつながりの中で理解を深める

【必要な時間】

- ・事前予習、事後学習それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	発達心理学[臨床]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	榎本 光邦

■講義の目的および概要

発達心理学とは、年齢によって人の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の一分野である。20世紀の中ごろまでは、子どもと青年の研究が中心であったが、その後、急速な高齢化社会の出現に伴って、それが緊急の社会的な問題となった先進国で老年期研究が盛んに行われ、ついで青年期と老年期の中間にあって社会をささえている成人の研究へと拡大していった。

本講義では、人間の一生を発達段階に沿って説明できるようになるとともに、自己概念を理解し、自らの今後の目標を具体的に立てられるようになることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討、分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

本講義は、公立・私立保育園・幼稚園、公立小学校や公立教育相談室において、教育相談や特別支援教育（障がい児教育）に関する巡回相談の実務経験のある教員が、その経験を生かして、人間の発達について概説し、各発達段階の子どもへの支援について具体的に講義します。

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーへのフィードバックは、次の講義時に行います。

■授業計画

- ①発達心理学の歴史と方法
- ②胎児期・周産期
- ③感覚・運動の発達
- ④愛着の発達
- ⑤自己と感情の発達
- ⑥認知の発達
- ⑦言語の発達
- ⑧社会性・道徳性の発達
- ⑨遊び・仲間関係
- ⑩学習の理論
- ⑪障害と支援(1)～AD/HD, SLDへの支援
- ⑫障害と支援(2)～自閉スペクトラム症への支援, アセスメントについて
- ⑬心と行動の問題
- ⑭児童虐待
- ⑮エリクソンのライフサイクル論

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①人間の一生を発達段階に沿って説明できる。
- ②心理社会的危機について、具体例を用いて説明できる。
- ③発達障害について正しい知識および認識を持つ。
- ④自己概念を理解し、今後の目標を具体的に立てられる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門的知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験（レポート形式・50%）に、毎回の受講後に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次の講義の冒頭に行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
ベーシック発達心理学 関一夫・齋藤慈子編 東京大学出版会

2023（令和5）年4月1日

【参考文献】
随時紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事後学修として、当日の授業内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。また、シラバスに提示されている次時の内容について大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートに予習として記載しておくこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心をもって下さい。

■その他

講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。

科目名	発達心理学[子ども]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	榎本 光邦

■講義の目的および概要

心身の発達の理解は保育には欠かせない。この講義では、第一に、何歳頃になぜ何ができるようになるのか定型的な発達過程の理解、第二に、どのようにして子どもの心は築かれていくのかという発達の形成の理解、第三に、発達を説明する理論の理解、第四に、発達のつまずきについて、最後に、保育実践と発達理解との結びつきについて学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討、分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

本講義は、公立・私立保育園・幼稚園、公立小学校や公立教育相談室において、教育相談や特別支援教育（障がい児教育）に関する巡回相談の実務経験のある教員が、その経験を生かして、人間の発達について概説し、各発達段階の子どもへの支援について具体的に講義します。

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義時に行います。

■授業計画

- ①発達心理学の歴史と方法
- ②生きる力の発達：胎児・乳児期の発達
- ③関わる力とコミュニケーションの発達
- ④言語の発達
- ⑤認知の発達(1)～ピアジェの理論
- ⑥認知の発達(2)～心の理論とヴィゴツキー
- ⑦情動（感情）の発達と機能
- ⑧自己概念の発達
- ⑨気質の個人差と親子関係
- ⑩親子関係：アタッチメント
- ⑪アタッチメントの個人差と保育
- ⑫仲間関係
- ⑬遊びの発達と働き
- ⑭発達障害(1)～AD/HD, SLDIについて
- ⑮発達障害(2)～自閉スペクトラム症について

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①人間の一生を発達段階に沿って説明できる。
- ②心理社会的危機について、具体例を用いて説明できる。
- ③発達障害について正しい知識および認識を持つ。
- ④自己概念を理解し、今後の目標を具体的に立てられる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門的知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験（レポート形式・50%）に、毎回の受講後に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

まんがでわかる発達心理学 渡辺 弥生（監修）、鈴木 美咲（著） 講談社

【参考文献】

随時紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

事後学修として、当日の授業内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。また、シラバスに提示されている次時の内容について大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートに予習として記載しておくこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心をもって下さい。

■その他

講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。

科目名	保育原理[子心]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	木村 彰子

■講義の目的および概要

本講義では、子ども理解を基本とした保育の本質を、保育理論や歴史等から学ぶ中で、保育の意義や方法、計画・保育者の役割について理解を深め、保育者としての自己形成を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを使用しながら、保育現場において保育者としての実務経験のある教員が実践の中で得た事例を盛り込んだ講義形式で行う。また、映像資料やプリントを使用しながら、グループワークも行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題返却時の講義の中で解説をする。また、個別に対応が必要な場合は、課題にコメントを記入したり、授業前後で直接対話をして伝える。

■授業計画

- ① 子どもがケアする世界をケアする
- ② 子どもとは
- ③ 子ども観や保育観によって異なる保育者の在りよう
- ④ 子どもの発達を捉えるまなざし
- ⑤ こども理解から出発する保育
- ⑥ 保育の歴史
- ⑦ 環境を通して行う教育とは
- ⑧ 環境を通して行う教育の実際
- ⑨ 保育内容・方法の原理
- ⑩ 保育内容・方法の原理の実際
- ⑪ 保育の計画
- ⑫ 保育の計画と評価
- ⑬ 指導案と記録
- ⑭ 保育記録の意義
- ⑮ 保育記録の実際

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・子ども理解が保育の基本であることを自分の言葉で説明できる。
- ・保育の意義や原理を理解し、保育は「環境を通じた教育」であることを具体例を使って説明できる。
- ・保育記録の意味を理解し、短い保育場面の記録が書けるようになる。
- ・保育者の専門性が何かを考え、保育における現段階での自己課題を明確にし、それに対する今後の取り組みについて具体的に説明することができる。
(保育士資格必修)

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- 提出課題 50%
- 定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「新しい保育講座① 保育原理」 渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀
ミネルヴァ書房

【参考文献】

「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館、「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では、テキストや参考文献・資料の、次回までに読んでくる場所を提示するので必ず読み、内容の概要を把握すること。また、事前事後学習としての提出課題を課すので、期限厳守で必ず提出すること。

【必要な時間】

本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて4時間の学修が求められる。

■その他

授業開始時、前回までの内容理解の定着度合いや予習の状況を調べるプリント課題を課す場合もある。

テキストは毎回必ず持参すること。参考文献は授業内で、次回の持参の有無について連絡する。欠席した場合には、必ずその回の内容を各自で補うこと。

科目名	基礎演習 I [臨床]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	吉崎 俊一郎、松浦 秀太、澤田 信也、赤城 由紀、鈴木 憲治

■講義の目的および概要

「基礎演習」では、1年次に身につけたスタディスキルを基礎として、3年次「応用演習」での専門的研究に繋げることが目的である。2年生では特に「協働体験と地域支援」をテーマとする。春学期「基礎演習 I」では、学校祭での地域支援活動を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習の形式で行う。必要に応じてグループワークやディスカッションを取り入れる。能動的な学修を目指している。演習の際はグループになり、担当教員が提示する課題をこなす。資料は適宜配布する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説する。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って講義を展開する。進行状況によって、順序や内容は変更が生じる可能性がある。

- ① 個人面談(1)、面談シート作成、春学期の目標設定 【個別ゼミ】※
- ② 個人面談(2)、ワーク【個別ゼミ】※
- ③ グループワーク(1)【合同ゼミ】
- ④ グループワーク(2)【合同ゼミ】
- ⑤ グループ活動(1)テーマ決め【合同ゼミ】
- ⑥ グループ活動(2)計画①【合同ゼミ】
- ⑦ グループ活動(3)計画②【合同ゼミ】
- ⑧ グループ活動(4)計画③【合同ゼミ】
- ⑨ 中間発表【合同ゼミ】※
- ⑩ グループ活動(6)計画修正①【合同ゼミ】
- ⑪ グループ活動(7)計画修正②、準備【合同ゼミ】
- ⑫ グループ活動(8)最終準備【合同ゼミ】
- ⑬ 学校祭での地域支援活動【合同ゼミ】※
- ⑭ 振り返りのグループワーク【合同ゼミ】※
- ⑮ 春学期の振り返り【合同ゼミ】※

※印がある回は必ず出席すること。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

臨床心理学を学ぶための前提となるスタディスキルを身につけること、臨床心理学が対象とする領域を理解すること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

以下の3点によって評価をする。

- A) 中間発表：25%
- B) 地域支援活動への取り組み：30%
- C) 振り返りワーク：45%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考文献】

講義中に指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

個人やグループでの調べ学習や文献調査を行う必要がある。

【必要な時間】

上記の学習を事前事後に各々2時間以上必要となる。

■その他

- ・グループ活動を行うため、欠席しないようにしてください。
- ・清麗祭（7月1日と2日）の出席は必須となります。予定を空けておいてください。

科目名	基礎演習 I [子心]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	大村 勅夫、愛下 啓恵、榎本 光邦、青木 美和子

■講義の目的および概要

仲間と協力し合う大切さを理解し、仲間とともに作業をすすめながら、子どものあそびや子どもを取り巻く環境にも気付いていくことを目的とする。
グループで保育の場で使うことのできる遊具づくりを、仲間とともに行うことを中心とし、後半は、次年度の実習や秋学期の学外体験に向けた心構えやお礼状の書き方を学び、準備をすすめる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各ゼミ毎に、子どもが使える遊具を検討し、遊具（教材）の制作をする。
各ゼミ毎に、子どものあそびを検討し、準備をすすめる。
合同での発表などを通し、他のゼミとの関わりも深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は授業中、授業時間以外にも指導の時間を設ける。

■授業計画

- ① オリエンテーション・2年の春学期について、教職履修カルテについて
- ② 面談①・教職履修カルテ作成
- ③ 面談②・教職履修カルテ完成
- ④ 子どもが使える遊具づくり（内容検討）
- ⑤ 子どもが使える遊具づくり（計画）
- ⑥ 子どもが使える遊具づくり（計画）
- ⑦ 子どもが使える遊具づくり（作業）
- ⑧ 子どもが使える遊具づくり（作業）
- ⑨ 子どもが使える遊具づくり（作業）
- ⑩ 子どもが使える遊具づくり（修正し完成）
- ⑪ 遊具の紹介（ゼミ交流）
- ⑫ 遊具づくりの片付けと振り返り
- ⑬ 学外体験・次年度からの実習に向けて
- ⑭ 学外体験に向けて
- ⑮ まとめ・面談

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

幼児期に「遊び」が重要であることを理解できるようになる。
仲間と協力しながら、幼児が実際に使って楽しむことのできる遊具を作成する。
学外体験や次年度の実習に向けた心構えを持つことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

制作物の成果 60%
最終レポート 30%
グループでの準備や協力、後始末の状況 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「保育のマナーと言葉」長島和代編・石丸るみ他著、わかば社

【参考文献】

必要に応じて提示する

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時間以外にも、仲間と連絡を取り合い、必要な物などの準備を行う。
使用後の後始末も協力しながら、最後まで責任をもって行う。

【必要な時間】

本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて4時間の学修が求められる

■その他

科目名	基礎演習Ⅱ[臨床]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	吉崎 俊一郎、松浦 秀太、澤田 信也、赤城 由紀、鈴木 憲治

■講義の目的および概要

1年次の「基礎ゼミ」では基本的なスタディスキルを身につけた。「基礎演習Ⅱ」では、①1年次に学んだスタディスキルの具体的な活用法の学修、②ゼミやグループ単位で協働学習・作業の体験を通じたコミュニケーションスキルを向上、③3年次「応用演習」での専門的学習の準備、という3つを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本演習は演習の形式で行い、必要に応じてグループワークやディスカッション、グループ作業・活動を取り入れる。能動的な学修を目指している。資料は適宜配布する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説する。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って講義を展開する。進行状況によって、順序や内容は変更が生じる可能性がある。

- ① 個人面談（1）、春学期の振り返りと秋学期の目標設定 【個別ゼミ】※
- ② 個人面談（2）【個別ゼミ】※
- ③ 個人面談（3）【個別ゼミ】
- ④ グループワーク（健康と学び）【合同ゼミ】
- ⑤ 地域貢献活動（1）ガイダンス【合同ゼミ】
- ⑥ 地域貢献活動（2）キャンドル制作①【合同ゼミ】
- ⑦ 地域貢献活動（3）キャンドル制作②【合同ゼミ】
- ⑧ 地域貢献活動（3）キャンドル制作③【合同ゼミ】
- ⑨ 地域貢献活動（4）ワックスボウル制作①【合同ゼミ】※
- ⑩ 地域貢献活動（5）ワックスボウル制作②【合同ゼミ】※
- ⑪ 地域貢献活動（6）実施計画作成・打合せ①【合同ゼミ】
- ⑫ 地域貢献活動（6）実施計画作成・打合せ②【合同ゼミ】
- ⑬ 地域貢献活動（7）参加【合同ゼミ】※
- ⑭ 3年次に向けて【合同ゼミ】※
- ⑮ 秋学期のまとめ：秋学期および1年の振り返り【合同ゼミ】※

※印がある回は必ず出席すること。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①スタディスキルを確かなものにする。
- ②3年次からの臨床心理学研究に必要な前提知識や技術を身につける。
- ③協働体験を通してコミュニケーションを学ぶ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

以下の5点によって評価をする。

- A) 活動イベント（もしくはレクチャー）参加：30点
- B) 活動イベント感想文・体験記録：15点
- C) 制作体験感想文・体験記録：15点
- D) 全体感想文：35点
- E) 発表会 参加&感想：5点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考文献】

講義中に指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

個人やグループでの調べ学習や文献調査を行う必要がある。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・作業の都合で通常講義時以外に実施することがある。その際はmanabaで連絡する。
- ・教室変更の可能性がある。定期的にmanabaを確認してください。

科目名	基礎演習Ⅱ[子心]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	大村 勅夫、愛下 啓恵、榎本 光邦、青木 美和子

■講義の目的および概要

現職の先生の講演を聞いたり、保育の場や施設に出向き、直接体験や環境に触れる中で、「子ども」や「子どものあそび」、「保育・施設」、「保育職」への理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

幼稚園や施設などを見学し、子どもの姿や環境に触れる。
保育・福祉の場で働く方の講演を聞き、保育・施設の場や保育職への理解を深める。
次年度の実習に向けた心構えを持つことができる。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は授業中、授業時間以外にも指導の時間を設ける。

■授業計画

- ① オリエンテーション・面談①・教職履修カルテ記載
- ② 面談②・教職履修カルテ記載
- ③ 学外体験に向けたオリエンテーション・お礼状
- ④ 学外体験での着眼点と留意事項
- ⑤ 学外体験（幼稚園見学）
- ⑥ 学外体験（施設見学）
- ⑦ 学外体験（保育所見学）
- ⑧ 学外体験（施設見学）
- ⑨ 学外体験振り返り、お礼状の作成
- ⑩ 保育・福祉の場の理解（保育所）
- ⑪ 保育・福祉の場の理解（施設）
- ⑫ 保育実習Ⅰ・Ⅲの施設について
- ⑬ 実習報告会への参加
- ⑭ テーマ研究会への参加
- ⑮ 面談・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子どもが過ごす環境や保育職の理解を深める。
子どもを理解し、子どもたちと積極的にかかわることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

提出課題 60%
学外実習への取り組み 30%
お礼状の作成 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「保育のマナーと言葉」長島和代編・石丸のみ他著, わかば社

【参考文献】

必要に応じて提示する

■授業外学習

【具体的な内容】

保育・施設体験前には、それぞれの場をホームページなどで調べる。
体験後は、学びの体験レポートを記載する。

【必要な時間】

本授業は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて4時間の学修が求められる。

科目名	対人関係論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	水鳥 翔伍

■講義の目的および概要

対人関係にまつわる様々な現象に関して主に社会心理学の知見を学ぶとともに、それらを統合的に理解する視点として適応論の重要性があることを理解する。
この講義で得た知識・考え方の枠組みを、実際の対人関係やその他の問題解決に生かせるようになることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

プロジェクターとパワーポイントを使用する。重要な部分についてはノートを取りながら聞くこと。毎回の授業時間中に、設定した問について考える時間を設け、回答の提出を求める。また、講義の終わりに小課題を提示し、次の講義までの提出を求める場合がある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は同じ回またはその次の回に解説をする。必要に応じて課題の回答内容を匿名にてクラス全体にフィードバックする。

■授業計画

- ① ガイダンス：対人関係を扱う科学としての社会心理学
- ② 再現性危機：社会心理学との向き合い方について
- ③ 「人間の社会性」をどう捉えるか (1)：適応論の視点
- ④ 「人間の社会性」をどう捉えるか (2)：マイクロ-マクロの視点
- ⑤ 社会的影響過程 (1)：マクロからマイクロ
- ⑥ 社会的影響過程 (2)：マイクロからマクロ
- ⑦ 社会的交換 (1)：交換の適応的意義
- ⑧ 社会的交換 (2)：相互依存性
- ⑨ 社会的交換 (3)：交換とマイクロ-マクロプロセス
- ⑩ 集団としての協調行為 (1)：集団の効率性
- ⑪ 集団としての協調行為 (2)：集団の意思決定
- ⑫ 社会環境と適応行動
- ⑬ 社会的認知のメカニズム
- ⑭ 集団間認知とステレオタイプ (1)：外集団差別と内集団ひいき
- ⑮ 集団間認知とステレオタイプ (2)：外集団認知とステレオタイプ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

対人関係にまつわる様々な現象および、社会心理学においてその現象が何と呼ばれているか知る。

日常生活で見られる対人行動・心理に対しての科学的な問のたてかたを学び、様々な角度から現象を考察することができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末試験：50%

講義内課題(小テスト・レポート)：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

※購入は必須ではない

「複雑さに挑む社会心理学〔改訂版〕」 亀田達也・村田光二 有斐閣アルマ

「進化と感情から解き明かす 社会心理学」 北村英哉・大坪庸介 有斐閣アルマ

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習は求めない。

事後学習として、以下の3点を各自の状況に応じて行うこと。(1)講義内容をノートなどに自身で整理する、(2)興味をもった内容に関して自身でさらに調べて理解を深める、(3)日頃からニュースや日常の出来事をよく観察し、講義内容と関連付ける訓練をする。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	保育内容指導法
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	増山 由香里、愛下 啓恵、木村 彰子

■講義の目的および概要

講義の目的の一つ目は、保育記録の必要性や書き方を理解し、実際の保育に基づいて書くことができるようになることである。付属認定こども園での観察実習を行い、その後、記録を行う。もう一つの目的は、保育における指導案の意味や書き方の基本を理解し実際に書いてみることである。自分たちが書いた指導案を使い、グループで計画をたてて模擬保育を実施する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式、グループワーク、付属認定こども園での実習体験や模擬保育など、内容に応じて様々な方法で行う。

また、実際に保育の計画をたて、グループで検討、準備をし、模擬保育を行う。幼稚園・保育所での実務経験のある教員が、指導案、日誌の書き方等、具体的な内容について講義をしたり、教材研究、指導計画作成等に於いては適宜指導をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

指導案や日誌は、全体、あるいは個別に口頭や記述でフィードバックをする。

■授業計画

- ① ガイダンス・実習時のマナー・個人票作成
付属認定こども園実習の留意点（含：感染症対策について）
- ② 保育の観察のポイントと保育の記録（日誌）①
- ③ 保育の記録（日誌）②・付属認定こども園実習の確認
- ④ 子ども理解と保育内容の実際 1（付属認定こども園にて保育観察実習）
- ⑤ 子ども理解と保育内容の実際 2（付属認定こども園にて保育観察実習）
- ⑥ 指導案①
- ⑦ 指導案②
- ⑧ 前回の記録（日誌）について
- ⑨ 子どもの発達と保育内容の実際 1（付属認定こども園にて保育観察実習）
- ⑩ 子どもの発達と保育内容の実際 2（付属認定こども園にて保育観察実習）
- ⑪ 模擬保育準備
- ⑫ 模擬保育（4年生が子ども役）
- ⑬ 模擬保育の振り返り
- ⑭ 5分間の保育の実践発表 1
- ⑮ 5分間の保育の実践発表 2・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 子どもの気持ちを肯定的に受け止めながら関わるができる。
- ② 日誌の書き方の基礎を理解し保育現場の体験をもとに概ね書けるようになる。
- ③ 指導案の書き方の基礎を理解する。
- ④ 子どもの姿や発達理解が援助の基礎になることを理解した上で、保育内容についてのイメージを膨らませながら保育計画（指導案）をたてる。
- ⑤ 保育計画をグループで検討し、考えを出し合ったり協力し合ったりして準備する。
- ⑥ 計画に基づいて模擬保育を実施する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・ 個人票 10%
- ・ 子どもとの関わり 10%
- ・ 保育記録（日誌） 30%
- ・ 模擬保育に向けた指導案 10%
- ・ 模擬保育への取り組みと振り返り 20%
- ・ 5分間の指導案と発表 20%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

- ・「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館
- ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省編 フレーベル館
- ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 付属認定こども園で子どもと関わる。
- ・ 子どもとの関わりをもとに日誌を書く。
- ・ 指導案を作成し、グループで教材研究や教材作成、準備などを行う。
- ・ グループで協力して、模擬保育に向けた準備や実践、後始末を行う。
- ・ 5分間で行うことができる保育内容を計画し（指導案を書き）、実践する。

【必要な時間】

- ・ 2単位の授業であるため、授業外に4時間の準備や振り返りを行う必要がある。

■その他

3年次から始まる実習準備の要素が強い授業のため、すべての提出物の提出と期日厳守、全回出席が単位認定の前提となる。やむをえず欠席する場合は事前に申し出て補習課題を自ら求めること。また、髪の色や服装、態度なども含め、実習生としての自覚をもった取り組みを求める。

1. 2グループ合同で実施する場合は1時間目から実施したり、2時間連続で実施したりすることもあるため、1・2時間目両方とも空けておくこと。

科目名	心理学実験Ⅱ(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	岡田 顕宏、長内 清春

■講義の目的および概要

心理学研究の技法を習得するための研究法に関する実習科目です。授業では、心理学研究における古典的な実験などの追試を実施し、データの収集・集計・分析、考察を行ってレポートを作成します。それら一連の作業を通して、心理学における実験研究の基本概念・方法論および実際の作業に伴う問題点等について理解することを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

心理学実験の実施、分析方法・考察方法の解説、実験レポートの作成指導を中心に授業を展開します。適宜、心理学実験の基本概念・方法論に関する講義を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

実験レポートについては、教員が採点・返却し、再提出が求められます。実験レポートとして十分な内容のものが提出されるまで、このサイクルが繰り返され、実験レポートを作成する能力の向上を目指します。

■授業計画

概ね以下の内容で授業を展開する予定です（実験テーマは変更する可能性があります）。

- ① 授業の概要説明／心理検査の実施
- ② 実験法の解説／心理検査の返却と解説／検査レポート課題
- ③ 実験1「言語記憶実験」の実施・解説・課題／レポート返却・講評
- ④ 実験1レポートの返却&講評、再提出の指示
- ⑤ 実験2「画像記憶実験」の実施・解説・課題／レポート返却・講評
- ⑥ 実験2レポートの返却&講評、再提出の指示
- ⑦ 実験3「表情認知実験」の実施・解説・課題／レポート返却・講評
- ⑧ 実験3レポートの返却&講評、再提出の指示
- ⑨ 実験4「精緻化リハーサル」実施／レポート返却・講評
- ⑩ 実験4解説・課題
- ⑪ 実験4レポート返却&講評
- ⑫ 実験5「ストループ効果」実施／レポート返却・講評
- ⑬ 実験5解説・課題
- ⑭ 実験5レポート返却&講評
- ⑮ まとめ、期末テストの解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- (1) 心理学実験に関する知識・技術を習得すること
- (2) 心理学的研究に必要な「統計に関する基礎的な知識」を身につけること
- (3) 心理学的な仮説を検証するために適切な心理学の「実験の計画立案」ができるようになること
- (4) 卒業論文作成に必要な実験レポートの書式などを身につけること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

5回の実験のレポート（55%）および定期試験（45%）で評価します。5つの実験レポートは、全て評価「C」以上である必要があります（45分の配点）。レポートの評価が低い場合には再提出が不可欠になります。（15回の授業終了後にレポートを提出（再提出）してもレポートのフィードバックはありません。）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

B. フィンドレイ「心理学実験・研究レポート」の書き方 学生のための初歩から卒論まで」（北大路書房）

【参考文献】

授業中に指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業内では、実験の実施や実験内容の解説、分析方法やレポート作成方法の指示を行います。実験で取り扱ったテーマに関する文献を集めて、読むことや、データ分析の作業、レポート作成の作業は、授業時間外に行う必要があります。授業時間外の事前事後学習においてWordとExcelを使用できる環境が必要不可欠です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

心理学概論、心理学実験Ⅰ（基礎）、心理学統計法を既に修得していることが必要です。

認定心理士を取得する場合「領域c：心理学実験」に該当します。

※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

科目名	乳児保育 I [子心]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	藤戸 純子

■講義の目的および概要

0歳から3歳までの子どもの発達と生活の「育ち」を学ぶ。
乳児期の発達の特性に合わせた生活・遊びへの援助について学びを深める。
子どもの育ちを見通した保育計画、子育て支援を考え、子どもの健やかな育ちを支える保育活動を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに添い、映像(写真、動画)を参考にしながら、乳児期の成長、発達について基本的な学びを深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義ごとの学びをレポートにまとめる。
：実際の乳児保育の様子から学んだこと、感じたこと、疑問に思ったことをまとめる。

■授業計画

- ①はじめに
- ②乳児保育の目的と役割
- ③乳児保育の基本
- ④0・1・2歳児の発達
- ⑤乳児(0歳児)の保育内容
- ⑥1歳以上3歳未満児の保育内容
- ⑦乳児の生活と遊びの基本的事項
- ⑧乳児の生活の基本
- ⑨乳児の遊び
- ⑩乳児保育の環境構成
- ⑪乳児保育における全体的な計画
- ⑫乳児保育における子育て支援
- ⑬乳児保育における連携
- ⑭一人一人を健やかに育むために
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

発達から見た乳児期の特性を学ぶことで乳児保育の基本について考えます。乳児保育の学びを通して子どもの成長発達の豊かさと楽しさを感じる。

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

■成績評価基準と方法

試験60% 授業内レポート40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「講義で学ぶ乳児保育」わかば社 小山朝子編著 亀崎美紗子・善本真弓

【参考文献】

「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい 乳幼児保育研究所編著
「乳児保育の実践と子育て支援」ミネルヴァ書房 榎原洋一・今井和子

■授業外学習

【具体的な内容】

身近にいる乳児、また親子の様子に関心を持って観察する。
乳児期の子どもにあった絵本を知る、また見る。機会を作り読み聞かせる。

【必要な時間】 予習・復習を1時間を目安に学んでください。

科目名	乳児保育Ⅱ[子心]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	藤戸 純子

■講義の目的および概要

- ・ 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方的な考え方について理解する。
- ・ 養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児子どもの生活や遊びと保育の方法、環境について、具体的に理解する。
- ・ 乳児保育における配慮の実態について具体的に理解する。
- ・ 乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

配布資料を基に子どもの育ちと援助の方法を学ぶ。
子どもの生活や遊びの様子(写真や動画)から、具体的な援助の方法を考える。

【課題に対するフィードバックの方法】

実際の保育活動から具体的に保育環境や援助方法が理解できるようにする。

■授業計画

- ① はじめに 乳児保育の基本
- ② 乳児期の子どもの発育・発達
- ③ 乳児期の子どもの一日の流れと保育環境
- ④ 子どもの生活や遊びを支える環境の構成
- ⑤ 乳児期の食指的援助と環境
- ⑥ 乳児期の排泄の援助と環境
- ⑦ 乳児期の睡眠・休息の援助と環境
- ⑧ 乳児期の着脱に関する援助と環境
- ⑨ 乳児期の清潔に関する援助と環境
- ⑩ 乳児保育における配慮の実際
- ⑪ 0才児クラスの遊びの援助と環境
- ⑫ 1歳児クラスの遊びの援助と環境
- ⑬ 2歳児クラスの遊びの援助と環境
- ⑭ 乳児保育における計画の実際
- ⑮ 最後に 子どもの姿から学ぶ乳児保育

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育者が子どもの育ちにどのように寄り添うべきか、成長、発達の姿を具的に理解する。

子ども自身の主体的な育ちを援助するための具体的な保育内容を理解する。

(DP2) コミュニケーション能力

(DP5) 能動的に学び続ける力

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

■成績評価基準と方法

講義後の課題(60%) 期末課題レポート(40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「演習で学ぶ乳児保育」善本真弓編著 小山朝子 亀崎美沙子 わかば社

【参考文献】

「講義で学ぶ乳児保育」小山朝子編著 亀崎美沙子・善本真弓 わかば社

「発達がわかれば子どもがみえる」乳幼児保育研究所編著 株式会社ぎょうせい

■授業外学習

【具体的な内容】

乳児保育Ⅰから乳児期の子どもの育ちの学びを深めておくこと。

乳児保育のなかでの子どもの育ちを考える。

授業後のその回ごとのまとめを各自で行うこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科目名	子どもの図画工作(応用)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	阿部 宏行

■講義の目的および概要

本授業は自分の発想や構想を基に制作に取り組むことで、保育者に求められる表現の力を養うと同時に、子どもの造形表現への理解を深めるものである。また保育現場で使用することを想定した課題制作を通し、保育者として必要な作品の制作並びに活用方法を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

造形表現に関する基本的な知識をもつことと、指導（保育）に必要な基本的な資質能力を高める。資料・参考作品を提示した課題説明を基に、制作・鑑賞する。また制作した作品と資料を綴じたファイルを作成することで実践を記録する。授業は演習も含め、実務経験を活かして、理論（知識や技能）を実際に活かせる実習にする。

【課題に対するフィードバックの方法】

提示された課題内容について学生が自己のイメージを基にアイデアを考え、提出期限、配布資料を基に制作計画を立て制作する。授業の終わりに今日の制作について振り返り、配布されたプリントに授業での取り組み状況、目標、質問などについて記入し、提出する。提出された「授業カード」の質問に回答したり、アドバイスしたりするなどフィードバックして返却し、学生自身の学びに活かす。

■授業計画

- ①オリエンテーション、講義：子どもの成長
- ②講義：造形の基本（材料・用具）、演習：かいてみよう（小刀・鉛筆）
- ③講義：造形の基本（接着・接合）、演習：つくってみよう（ピーちゃんハウス）
- ④講義：あそびと学び（幼児期の遊びのもつ意味）、演習：折り紙ヘリコプター
- ⑤指導（保育）の基本（指導案の意味）
- ⑥指導（保育）の基本（教材研究の意味）、試作品づくり
- ⑦指導（保育）の基本（教師の働きかけ）、提案文づくり
- ⑧指導案交流（1）
- ⑨指導案交流（2）
- ⑩講義：日常執務の基本（1）：保護者との連携、演習：おたよりづくり（便箋）
- ⑪講義：日常執務の基本（2）：地域との連携、演習：おてがみづくり（絵封筒）
- ⑫講義：表現に関する執務：環境づくり、演習：壁面構成
- ⑬講義：保育者としての支援：保護者との共有、演習：連絡ノートなどのイラスト
- ⑭講義：保育者としてのまなざし、ドキュメンテーション、子どもの評価
- ⑮ふりかえり：評価（小論文テスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・表現力と応用力を広げ、子どもの造形表現に必要な知識と技能を発展的に学ぶことができる。
- ・保育者として子どもが楽しめる作品の活用方法を学ぶことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

- ・造形に関する基礎的な知識や技術を習得し子どもの造形表現の発達について知ることと、子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付け、応用できる能力を高める。
- ・道具、画材の特性や適切な使用方法を知り、子どもの発達にあった使用方法を考慮することで、子どもの安全を守るための適切な配慮ができる保育者の視点を身に付ける。
- ・保育現場で使用することを想定した課題を制作することで、実習などの活動に積極的に参加し保育者としての態度・能動的に学ぶ能力を高める。

■成績評価基準と方法

- ・完成作品の提出、内容、作品数、期限など条件の達成度：70%
- ・出席、「授業カード」、制作振り返り及び小論文テストの提出：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】「絵封筒のABC」¥1,320
授業時に資料を配布、または参考作品を提示する。

2023（令和5）年4月1日

【参考文献】
「育みのABC」「造形のABC」（日本文教出版）「学びのABC」「まどみちお
詩集」（私家版）—無料配布

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・制作に必要な資料やモチーフを準備する。
- ・配布される材料以外のものは各自用意する。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

図画工作（基礎）受講時に購入した教材（造形セット）を使用する。

科目名	運動 I
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	橋場 俊輔

■講義の目的および概要

自らの健康の維持・向上にとって適切な運動を実践実行できるようにする。体力低下や運動不足による健康問題について理解をし、有酸素性運動や筋力アップ、ストレッチなどを学び日常生活場面及び保育の現場で応用できるようにする。また運動を通して幼児教育・保育領域に関する知識・技能を修得し、活用することができる。幼児教育や保育、福祉等の現場において、利用者や関係者の理解に努め、運動を絡めた健康について自らの考えを適切に伝え、実行することができる。幼児教育・保育の運動及び健康についての現状を分析し、目的や課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的に運動についての課題解決に取り組むことができる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義やグループワークを交えながら実技を行う。自ら運動・健康に対しての課題を探求し解決していくグループワークを基本とした講義を行う。場所は教室、体育館、グラウンドなどで行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で随時、課題等に対してフィードバックを行う。

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②運動の定義
- ③幼児期と運動
- ④児童期、青年期と運動
- ⑤中、高年期と運動
- ⑥運動プログラムの計画する際の考え方
- ⑦運動プログラムの計画①
- ⑧運動プログラムの計画②
- ⑨運動プログラムの実践①
- ⑩運動プログラムの実践②
- ⑪運動プログラムの実践③
- ⑫運動プログラムの実践④
- ⑬運動プログラムの反省
- ⑭運動プログラムの再考
- ⑮授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ①幼児教育・保育領域に関する知識・技能を修得し、活用することができる。(DP1)
- ②幼児教育や保育、福祉等の現場において、利用者や関係者の理解に努め、自らの考えを適切に伝えることができる。(DP2)
- ③幼児教育・保育の現状を分析し、目的や課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的に課題解決に取り組むことができる。(DP3)

■成績評価基準と方法

- ①授業への理解度、提出物 (40%)
- ②授業内試験 (30%)
- ③課題レポート (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を配付する

■授業外学習

【具体的な内容】

運動や健康に興味を持ち、維持・向上の実践をすること。
他授業においての幼児教育・保育領域に関する知識・技能を活用し授業を行うので、
関連して習得した知識を活用できるようにすること。
積極的に授業に参加できるように、体調管理に留意すること

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	運動Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	橋場 俊輔

■講義の目的および概要

運動Ⅰの内容を受け、健康の維持・増進に重要な生理学、解剖学、運動力学などの知識を理解する。取得した知識・技術を日常生活で応用実践できるようにする。幼児教育や保育、福祉等の現場において、現状を分析し、授業内で学習したことを利用者や関係者の理解に努め、適切な手段で計画的に課題解決に取り組み自分の考えを適切に伝えることができる。教育・保育の分野において最新の情報を得る努力を怠らず、より良い教育・保育にとっての運動、健康時線の在り方を検討し、実践、評価、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実技を実施する場所は、体育館、アリーナ及びグラウンドである。対象者に合わせた健康づくりや運動方法をグループワークを中心として行い、課題を探求し、解決に取り組む。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に応じ、授業内で適宜行う。

■授業計画

- ①授業ガイダンス・幼児期運動指針について①
- ②幼児期運動指針について②
- ③幼児期運動指針について③
- ④幼児期運動指針について④
- ⑤幼児期の運動遊びの計画①
- ⑥幼児期の運動遊びの実践準備
- ⑦幼児期の運動遊びの計画②
- ⑧幼児期の運動遊び実践発表①
- ⑨幼児期の運動遊び実践発表②
- ⑩幼児期の運動遊び実践発表③
- ⑪幼児期の運動遊びの反省・修正
- ⑫幼児期の運動遊びの実践発表①
- ⑬幼児期の運動遊びの実践発表②
- ⑭幼児期の運動遊びの実践発表③
- ⑮授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。
- ②他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。
- ③自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ①幼児教育や保育、福祉等の現場において、利用者や関係者の理解に努め、自らの考えを適切に伝えることができる。(DP2)
- ②幼児教育・保育の現状を分析し、目的や課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的に課題解決に取り組むことができる。(DP3)
- ③教育・保育の分野において最新の情報を得る努力を怠らず、より良い教育・保育の在り方を検討し、実践、評価、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。(DP5)

■成績評価基準と方法

- ①運動プログラムの作成・実践 (50%)
- ②課題レポート (50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を配付する。

■授業外学習

【具体的な内容】

運動や健康に興味を持ち、維持・増進の実践をする。他授業においての幼児教育・保育領域に関する知識・技能を活用し授業を行うので、関連して習得した知識を活用できるようにすること。積極的に授業に参加が出来るように、体調管理に留意し、コミュニケーションを図ろうとする意欲が重要となる。

科目名	音楽Ⅱ(ピアノ基礎)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	新堀 聡子、澤田 昌子、須藤 宏志、高橋 幹子

■講義の目的および概要

この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行いますが、初心者の導入時はグループで行う場合もあります。

課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。

自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

■授業計画

- ①全体オリエンテーション、個人レッスン（ピアノ技量の確認）
- ②ピアノ演奏の基本、練習方法、ピアノテキストによる基礎作り
- ③ピアノテキストによる基礎作り
- ④ピアノテキストによる基礎作り、弾き歌いの導入
- ⑤ピアノテキストによる基礎作り、弾き歌いへの取り組み
- ⑥課題曲1の譜読み、自由曲への取り組み
- ⑦課題曲1の伴奏、自由曲への取り組み
- ⑧課題曲1の弾き歌いへの取り組み、自由曲への取り組み
- ⑨課題曲1のテスト、課題曲2の譜読み
- ⑩課題曲2の伴奏、自由曲への取り組み
- ⑪課題曲2の弾き歌いへの取り組み、自由曲への取り組み
- ⑫課題曲2のテスト、弾課題曲3の譜読み
- ⑬課題曲3の伴奏、自由曲への取り組み
- ⑭課題曲3の弾き歌いへの取り組み自由曲への取り組み
- ⑮課題曲3のテスト、自由曲への取り組み、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

大譜表（ピアノ譜）を読み、正しい音や拍子、リズムでピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、4曲以上の子どもの歌を、レパートリーとして持つことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

子どものうた 弾き歌い課題曲3曲のテスト：60%

子どものうた 弾き歌い自由曲テスト：25%（担当教員ごとに毎時授業の中で実施）

授業前に毎回提出する練習報告：15%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

こどものうた200（チャイルド本社）

続こどものうた200（チャイルド本社）

ピアノテキスト「ピアノ演奏の基礎づくり」（プリント配付）

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

子どものうたの弾き歌いでは、視覚を通して得た楽譜の情報を両手に伝達し、旋律と伴奏を同時にピアノで演奏し、正しい音程で歌うことが求められます。こうした技術の習得のために、課外時間を有効に使って毎日練習し、力を養っていくことが大切です。

【必要な時間】

2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

■その他

科目名	音楽Ⅱ(ピアノ応用)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	新堀 聡子、澤田 昌子、須藤 宏志、高橋 幹子

■講義の目的および概要

この授業の目的は、主に子どものうたの伴奏を通してピアノの基礎的な技術を体得し、保育者に求められる弾き歌いのレパートリーを多く作ることです。各学生の技量に合わせたマンツーマン形式です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各学生の技量に合わせたマンツーマン形式で行います。課題曲テストは、時間ごとに受講するグループ合同で実施します。自由曲は担当教員と相談して選曲し、任意の回に個別にテストを受けます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業後に、次回までの練習目標や課題が伝えられるので、主にその目標や課題に向けて各自練習を行います。1週間の練習の成果や課題を、翌授業の開始前までに担当教員へ報告して下さい。担当教員は報告の内容と練習の成果を見て、新たな課題へと進めていきます。

■授業計画

- ①全体オリエンテーション、課題曲1の譜読み
- ②課題曲1の伴奏、及び自由曲への取り組み
- ③課題曲1の弾き歌い、及び自由曲への取り組み
- ④課題曲1の弾き歌いへの取り組み、課題曲2の譜読み
- ⑤課題曲1のテスト、課題曲2の伴奏
- ⑥課題曲2の弾き歌い、及び自由曲への取り組み
- ⑦課題曲2の弾き歌い、及び自由曲への取り組み
- ⑧課題曲2の弾き歌い、課題曲3の譜読み
- ⑨課題曲2のテスト、課題曲3の伴奏
- ⑩課題曲3の弾き歌い、及び自由曲への取り組み
- ⑪課題曲3の弾き歌いへの取り組み、課題曲4の譜読み
- ⑫課題曲3のテスト、課題曲4の伴奏
- ⑬課題曲4の弾き歌い、及び自由曲への取り組み
- ⑭課題曲4の弾き歌い、及び自由曲への取り組み
- ⑮課題曲4のテスト、自由曲への取り組み、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

音の強弱や曲想、奏法に関する記号を理解し、適切な表現を付けてピアノを演奏しながら、子どもたちの手本として聞こえる声で歌うことができる。課題曲を含め、5曲以上の子どもの歌の弾き歌いレパートリーを持つことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

子どものうた 弾き歌い課題曲4曲のテスト：60%
 子どものうた 課題曲以外の弾き歌いテスト：25%
 毎回提出する練習報告：15%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

こどものうた200 (チャイルド本社)
 続こどものうた200 (チャイルド本社)
 適宜プリントを配付

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

保育を目指す者は、学生のうちに子どものうたの弾き歌いレパートリーを広げておくことは、決して無駄ではありません。課外時間を有効に使い、毎日練習を少しずつ積み重ねていくことが、実技では大切です。

【必要な時間】

2時間を目安に練習しましょう。ただし授業直前にまとめて練習するのではなく、できる限り毎日に分けて行うことが上達のポイントです。

科目名	障がい児保育 I
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	美馬 正和

■講義の目的および概要

本講義の目的は、保育所、幼稚園、認定こども園などで保育者が対峙するであろう「配慮が必要な子ども」をどのように理解し、それを踏まえどのように対応していくのかを思考するための力を養う事です。

そのためには、以下の5点について取り組んでいきます。

1. 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学ぶ。
2. 様々な障がいについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。
3. 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
4. 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解することに取り組む。
5. 障がいのある子どもなど配慮が必要な子どもへの保育における計画の作成や援助方法について理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で行いますが、ディスカッションやグループワークも取り入れながら能動的な学修を目指します。

本講義は発達支援センターでの実務経験のある教員が、実際にあった事例や保育所や幼稚園への巡回等で出会ったケースなどを紹介しながら、実際にどのような対応が考えられるかなどについて、保育者の視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

フィードバックとして授業内やmanabaを通じて解説を行います。

■授業計画

- ① 「障がい」の概念と障がい児保育の歴史の変遷について
- ② 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解
- ③ 肢体不自由児の理解と援助
- ④ 知的障がい児の理解と援助
- ⑤ 視覚・聴覚・言語障がい児の理解と援助
- ⑥ 発達障がい児の理解と援助
- ⑦ 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解
- ⑧ 指導計画及び個別支援計画の作成
- ⑨ 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い
- ⑩ 障がい児保育における子どもの健康と安全
- ⑪ 職員間連携・協働
- ⑫ 保護者に対する理解及び保護者間の交流や支え合いの意義と支援
- ⑬ 地域の専門機関、小学校との連携
- ⑭ 福祉・教育における現状と課題
- ⑮ まとめと解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 障がいや特別な配慮を必要とする子どもの特徴について説明ができる。
- ② 保育実践において障がいや特別な配慮を必要とする子どもへ配慮ができる。
- ③ 障がいや特別な配慮を必要とする子どもを含めた保育実践を計画することができる。
- ④ 障がいや特別な配慮を必要とする子どもへのかかわりについて工夫することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

小レポート：40%
 学期末レポート：60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『新基本保育シリーズ17 障がい児保育』公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀
、水田敏郎編集 中央法規

2023（令和5）年4月1日

【参考文献】
適宜お伝えします。

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習として、授業に対応しているテキスト該当箇所を熟読し、わからない言葉などを調べておいてください。事後学習として、関連する文献を読み、知識を深められるように心がけてください。

【必要な時間】
時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

授業中に発表や発言を求めたりします。授業に参加してください。

科目名	障がい児保育Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	愛下 啓恵

■講義の目的および概要

本講義では、特別な支援を必要とする子どもの理解を深め、実践的な支援方法を学ぶこと、保護者支援や関係機関の連携についての理解を深めることをめざします。また、特別な支援を要する子どもやその保護者の幼児教育・保育に関する歴史や現状、課題に関する知識を修得し、当事者の語りや事例なども含めた学びの中で、保育者として実践に必要な専門知識・支援のあり方を主体的に考える力を身につけて欲しいと思います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

障がい児保育や療育、発達相談の実務経験のある教員が実践内の事例を含めながら、講義形式で知識の確認やまとめを行います。加えてフィールドワークや当事者の語りの聴講など演習形式でより実践的な支援方法を学びます。初回に構成したグループでグループワークを行い、グループごとに発表をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の冒頭に課題に対する解説を行います。小テストは後日に、授業内で解答・解説を行います。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- 障がいの特性や援助・配慮の方法①（グループディスカッション）
- ② 障がいの特性や援助・配慮の方法②（グループ発表①）
- ③ 障がいの特性や援助・配慮の方法③（グループ発表②・まとめ①）
- ④ グループワークまとめ②
- ⑤ 発達と障がい（発達のみちすじ・障がいとは）
- ⑥ 保護者支援①（当事者の語り）
- ⑦ 保護者支援②
- ⑧ 支援方法①（特性に応じた支援）
- ⑨ 支援方法②（環境調整・周囲の連携による支援）
- ⑩ 障がい児保育の変遷、インクルーシブ保育
- ⑪ フィールドワーク
- ⑫ フィールドワーク
- ⑬ 保育・療育プログラム（他業種の視点からの学び）
- ⑭ 保育・療育プログラム（グループディスカッション）
- ⑮ 保育・療育プログラム（グループ発表）・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・特別な支援を要する子どもの幼児教育・保育に関する歴史や現状、課題について理解する。
- ・保護者支援や関係機関との連携に関心を持ち、必要な事柄であることを理解したうえで、具体的な支援方法や連携の仕方を自身で考え、適切に説明できる。
- ・特別な支援を必要とする子どもたちの知識や理解が高まり、支援方法や保育・療育プログラムを考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
 (DP2) 【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)

■成績評価基準と方法

試験50%、提出課題・レポート30%
 グループワークの活動および発表 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

「基本保育シリーズ17 障害児保育」西村重稀・水田敏郎編集，中央法規。
 「障害児保育ワークブック」星山麻木他，萌文書林

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・次回授業範囲に関連する内容を障がい児保育Ⅰで学んだことから復習しておいてください。
- ・事後学習（復習）は、授業内容を整理して書き留める、課題ワークを行うなどして理解を深めてください。
- ・グループ発表の準備は授業外に時間を調整してまとめ、期日までに完成してください。

【必要な時間】

- ・事前・事後学習はそれぞれ45分を目安とします。

■その他

- ・授業中に指名をして発言を求めることがあります。丁寧に考えること、言葉にすることを意識してください。

科目名	イネーブルガーデン実習[臨床]
開講期・単位	2年 通年・自由 2単位・実習
担当者	吉崎 俊一郎、津田 智恵子

■講義の目的および概要

園芸療法の実践に必要な知識・技術を身につける事が目的である。
様々な園芸療法プログラムの実践や園芸療法における対象者との接し方などを学ぶ。
自ら立案したプログラムを実践できるようになる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実習・演習形式で行う。実習において作業を機械的にこなすのではなく、意識しながら取り組む必要がある。また、実習・演習中にいつでもメモが取れる準備しておくように。フィールドワークを通年とおして行う。

本講義は、園芸療法の資格を有し多種多様な経験豊富な教員がその経験や知識を基礎となるテキストに組み込み行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

学内での実習後の実習記録。
フィールドワークの記録またフィールドワーク先での動画撮影を元に
学生の動きを把握し学びに繋げる。

■授業計画

1. ガイダンス(実習内容と進め方)、グループ編成
- 2-4. 園芸療法実践基礎とその演習①-③
5. 集団園芸療法におけるプレゼンテーション
6. フィールドワーク (FW) ①
7. FW①フィードバック・まとめ
8. 園芸療法プログラム①、②とその演習
9. 園芸療法プログラム③とその演習
10. FW②
11. FW②フィードバック・まとめ
12. 園芸療法プログラム④、⑤とその演習
13. FW③
14. FW③フィードバック・まとめ
15. 園芸療法プログラム⑥とその演習
16. ガイダンス(実習内容と進め方)、グループ編成
- 17-18. FW④、フィードバック・まとめ
- 19-20. FW⑤、フィードバック・まとめ
21. 園芸療法プログラム⑦、⑧とその演習
- 22-23. 施設実習中間報告会 ①
- 24-25. 施設実習中間報告会 ②
26. 園芸療法プログラム⑨-⑩とその演習
28. FW⑥
29. FW⑥のフィードバック・まとめ
30. 期末まとめ

※フィールドワーク実習6回を予定しております。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

基本的園芸療法プログラムを学び、それを施設実習で実践できるようになる。
実習先で緊張せずに一連の流れを平常心でできるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

プレゼンテーション(15%)
中間報告(15%)
施設実習の成果(30%)
提出物(実習記録、課題レポート)(20%)
振り返りシート(20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
都度配布する。

【参考文献】
園芸リハビリテーション 山根 寛著 菅 由美子企画 医歯薬出版株式会社、園芸療法実践入門ー心へのアプローチ ミッチェル・ヒューソン著、エンパワメント研究所 ほか2冊

■授業外学習

【具体的な内容】
普段から園芸・福祉・医療・心理学等の情報を収集すること。
施設実習へ参加する前には、グループ毎に準備にじっくり時間をかけ、必ず活動のシミュレーションをしてから望むようにしてください。

【必要な時間】
授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用して
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

施設実習費として1,000円（1回）×6回の合計6,000円を徴収致します。
内訳としては、1回の実習の事前練習材料費+当日の材料費に使用します。

科目名	色彩心理学
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	高橋 文代

■講義の目的および概要

本講義の目的は、実生活におけるカラーマネジメントの基礎知識と色の運用の基本的な実践力を身につけることです。講義では、色が見えるしくみを生理学的、物理学的、知覚心理学的に理解した上で、色や配色の心理的な効果に関する実習課題や簡単な実験を用いて、理論と実践から理解します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

電子プレゼンによる講義形式を主とします。講義では、理論に則した心理学実験や映像提示を行い、さらに、指定の配色カード(199a)や教科書を用いた演習課題を実施することによって、色の運用を理論のみならず体験的・感覚的に学びます。課題提出を数回実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題のフィードバックに際して、全体の傾向と回答例を講義中に示し、質疑応答を行う他、課題返却時にコメントにて個別の指導を行います。

■授業計画

- ①ガイダンスー色彩心理とは何かー
- ②視覚のしくみー視るとはどういうことかー
- ③色のはたらきと色が見えるしくみーCUDー
- ④色名と伝統色
- ⑤色の文化差と嗜好性
- ⑥色の3属性と表色システム
- ⑦色の視覚効果1ー心理的效果ー
- ⑧色の視覚効果2ー知覚的效果ー
- ⑨前半のおさらいと色の恒常性
- ⑩配色の効果1ー配色の基本ー
- ⑪配色の効果2ー技法と構成ー
- ⑫色彩と生活1ー色の応用ー
- ⑬色彩と生活2ーファンションとインテリア・エクステリアー
- ⑭色に関する心理学実験とおさらい
- ⑮全体の総括と試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・生理学的、物理学的、心理学的な観点から色が見えるしくみを理解する。
- ・実生活で、目的に応じた色の効果的な運用を行える基礎力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

■成績評価基準と方法

- ・試験70% (15回目に実施)
- ・提出課題30%

※出席点はありません。

※試験の受験資格：15回中10回以上出席した者とする。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『色彩検定公式テキスト文部科学省後援 3級編<2020年改訂版>』財団法人色彩検定協会
※講義内の演習課題では、『新配色カード199a』(日本色研)を使用するので、必ず準備すること。

【参考文献】

『色彩検定公式テキスト文部科学省後援 2級編<2020年改訂版>』財団法人色彩検定協会
『色の心理学』三星宗雄, マックローリン出版
『ヒルガードの心理学 第16版』Susan, N. H., 他, 金剛出版など

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：教科書の該当箇所を読む

事後学習：配布した資料や授業内で行う演習内容を復習する

課題提出：3回程度予定

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・授業内の演習や実験に積極的に取り組み、疑問点などは教員に積極的に問いかけるなど、インタラクティブなコミュニケーションを期待します。
- ・演習課題では『新配色カード199a（日本色研）』を用いて切り貼りを行いますので、ノリとハサミの準備が必要です。

科目名	認知行動療法
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	橋本 久美

■講義の目的および概要

本講義は臨床心理領域における基礎的知識、技能の習得を目的とする。認知行動療法(CBT)は、世界中の医療・教育・産業等の幅広い分野において科学的効果のある心理療法として認められており、グローバルスタンダード(世界標準)・エビデンスベース(科学的根拠に基づく)の治療法であるといえる。この講義では基本的な背景理論を理解するとともに、実践的応用法を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「認知行動療法の基礎と実践」について知識の習得を目的とした講義を行う。VTRなどの視聴覚教材を活用する。セルフモニタリングや実験などの実験的体験学習を取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題については適宜各自にコメント返し、各自が学習到達度の確認ができるようにする。また、5回目終了後、10回目終了後での課題提出状況を知らせ、内容全体の理解度をフィードバックする。また学習内容の理解度を各自が把握できるように、適宜小テストを行う。適宜、manabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

おおむね、以下の通り実施する予定である。(ただし、挙げてある項目の順番が変更になることもある)

- ①行動療法と認知療法における背景理論
- ②認知行動療法の主な種類(行動へのアプローチ法)
- ③認知行動療法の主な種類(認知へのアプローチ法)
- ④機能分析
- ⑤自分で行う認知行動療法(思考パターンを変える)
- ⑥自分で行う認知行動療法(行動パターンを変える)
- ⑦自分で行う認知行動療法(考え方のクセを修正する)
- ⑧疾患別の効果的治療法:気分障害(うつ病)
- ⑨疾患別の効果的治療法:不安症
- ⑩疾患別の効果的治療法:強迫症
- ⑪集団認知行動療法
- ⑫自律訓練法
- ⑬認知行動療法のケース検討1
- ⑭認知行動療法のケース検討2
- ⑮認知行動療法のケース検討3

進行上、内容の順番の変更があり得る

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

認知行動療法の基本的理論を理解し、臨床例への適応とそのメカニズムについて学ぶ。実践的技法の習得より考え方や生活習慣の改善など日常の生活に生かすヒントを得ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

授業内試験(筆記試験)60%、レポート課題25%、授業時の小レポート15%として総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】やさしくわかる認知行動療法 福井至・貝谷久宣 監修 ナツメ社

【参考文献】必要に応じて紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回専門用語の意味などを復習プリントにまとめること。認知行動療法に関する専門用語の意味を確認すること。返却された課題プリントは講義終了まで復習のためにとっておくこと。授業の終了前に次回の予告プリントを配布するので予習を行うこと。自宅で行う課題を出すことがある。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

心理実習指導ⅠⅡを受講する予定の学生は、並行して本講義を履修することが望ましい。

科目名	子ども音楽療育概論[子心]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	下出 理恵子

■講義の目的および概要

音楽教育、保育、発達臨床、音楽療法などの様々な関連分野から、保育音楽療育の専門性を、論理的に学習する。また、音楽を構成している要素と療育における音楽活動の関係を学び、音楽療育における音楽の役割を理解する

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

関連領域の文献や臨床のVTRを使い、必要に応じて演習を交えながら講義を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

■授業計画

- ①オリエンテーション／保育音楽療育とは
- ②対象者理解（成人、高齢者）
- ③対象者理解（乳幼児、児童、～WSの子どもたち～）
- ④音楽の特性
- ⑤歌唱(声)活動の目的とデザイン
- ⑥器楽（即興的な活動）の目的とデザイン
- ⑦器楽（既成曲を使った活動）の目的とデザイン
- ⑧動きを伴う活動の目的とデザイン
- ⑨音楽のコミュニケーション性
- ⑩音楽活動のサポートとは
- ⑪アセスメント・プログラム・評価
- ⑫音楽と人間形成 ～音楽心理学に学ぶ～
- ⑬関連領域に学ぶ対象理解
- ⑭WSプログラムの意義と目的
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・対象理解のための知識を備える。
- ・保育音楽療育における音・音楽の役割を理解する。
- ・保育音楽療育の意義と目的を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

毎回の授業後のコメントシート 50%

テスト、レポートなど、授業内で提示される課題を総合して50%で評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料配布

【参考文献】

障害児の成長と音楽 音楽の友社編 音楽の友社
 音楽療法の実践 加藤美知子 他 春秋社
 音楽療法の手引き 松井 紀和 牧野出版

■授業外学習

【具体的な内容】

2023（令和5）年4月1日

関係する領域は多岐にわたる。参考文献や講義内で紹介された著書などは必ず読んで、自ら学び、興味を広げていくことが、大切である。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	子ども音楽療育実習[子心]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・実習
担当者	村中 幸子

■講義の目的および概要

- ・「音楽療育ワークショップ」での実習を通して、音楽活動の多様性を知り、実践力をつける。
- ・障害についての理解を深め、音楽療育に関連する他の領域の理論と音楽活動を繋ぎ、子どもの心身の発達過程と音楽的発達の関係を体験的に理解する。
- ・特別講座では関連領域を学び、知識と実践力を広げる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・事前事後指導は講義形式で行う。
- ・ワークショップ実習は、実習の記録を使用して指導する。
- ・特別講座は、テーマや内容に従い講義、または演習形式で行なう。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回ワークショップ終了後に実習日誌を回収し、コメントによるフィードバックを行なう。

■授業計画

- ①事前指導 1：実習の心構え、日誌の書き方
- ②事前指導 2：ワークショップの構成とねらい
- ③事前指導 3：ワークショップの構成とねらい
- ④ワークショップ実習：グループごとのローテーションで観察・参加実習を行う
- ⑤ワークショップ実習
- ⑥ワークショップ実習
- ⑦ワークショップ実習
- ⑧ワークショップ実習
- ⑨ワークショップ実習
- ⑩ワークショップ実習
- ⑪ワークショップ実習
- ⑫音楽療育におけるシアターの意義
- ⑬音楽療育におけるシアター作り
- ⑭特別講座受講
- ⑮事後指導：実習のまとめと日誌ファイルの整理、提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・よりよい実践のために共同的な働きができる。
- ・子どもを発達の視点で理解し、子どもの活動をサポートすることができる。
- ・活動の立案、実践ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

記録 70%
レポート等の提出 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ワークショップの活動案
- ・配布資料

【参考文献】

「ユニバーサルデザインの音楽表現」星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林

■授業外学習

【具体的な内容】

自己の課題を持って次回実習へ参加するために、毎回のワークショップ記録を省察する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

この科目は「子ども音楽療育概論」と同時期に履修すること。
実習費 2,000円、資格申請費 5,700円が必要となる。(2022年度参考)

科目名	教育・学校心理学[臨床]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

心理学の主要領域である教育心理学・学校心理学に関する研究方法や研究成果を知り、子どもの学習や教育を捉えるため多様な視点を身につけること、今日、教育現場で生じている問題、学力、学校への不適応、発達障害について学修することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行います。必要に応じて、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

manabaなどを通して課題は、授業内で解説していきます。

■授業計画

- ①ガイダンス 学校心理学・教育心理学とは
- ②発達の考え方
- ③発達段階と発達課題（幼児期～児童期）
- ④発達段階と発達課題（青年期）
- ⑤多様な発達を受け止める①
- ⑥多様な発達を受け止める②
- ⑦認知過程と記憶
- ⑧学習する意欲を引き出す
- ⑨求められている学力と学習のメカニズム
- ⑧学習理論と授業の関係
- ⑨学習方法と評価
- ⑩学級集団（仲間づくりと教師の役割）
- ⑪教育現場における問題について（グループワーク）
- ⑫教育現場における心理社会的課題について（グループワーク）①
- ⑬教育現場における心理社会的課題について（グループ発表）②
- ⑭教育現場における必要な支援とは
- ⑮まとめテストとふり返し

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

教育現場において生じる問題およびその背景について理解し、説明することができる。
教育現場における心理社会的課題および必要な支援について理解し、説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

まとめテスト：40%
課題：50%
グループ発表：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

『教育心理学をきわめる10のテカラ』古川聡編 福村出版
『教育・学校心理学 子どもを学びを支え、学校の課題に向き合う』川畑直人ら監修
ミネルヴァ書房

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲についてキーワードや専門用語などを中心に予習ノートにまとめてください。授業後に授業内容の復習問題や発展問題をmanabaからダウンロードして期限内に提出してください。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心を持つようにしてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

科目名	教育・学校心理学[子心]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

心理学の主要領域である教育心理学・心理学に関する研究方法や研究成果を知り、子どもの学習や教育を捉えるため多様な視点を身につけること、今日、教育現場で生じている問題、学力、学校への不適応、発達障害について学修することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行います。必要に応じて、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

manabaなどを通して課題は、授業内で解説していきます。

■授業計画

- ①ガイダンス 学校心理学・教育心理学とは
- ②発達の考え方
- ③発達段階と発達課題（幼児期～児童期）
- ④発達段階と発達課題（青年期）
- ⑤多様な発達を受け止める①
- ⑥多様な発達を受け止める②
- ⑦認知過程と記憶
- ⑧学習する意欲を引き出す
- ⑨求められている学力と学習のメカニズム
- ⑩学習理論と授業の関係
- ⑪学習方法と評価
- ⑫学級集団（仲間づくりと教師の役割）
- ⑬教育現場における問題について（グループワーク）
- ⑭教育現場における心理社会的課題について（グループワーク）①
- ⑮教育現場における心理社会的課題について（グループ発表）②
- ⑯教育現場における必要な支援とは
- ⑰まとめテストとふり返し

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

教育現場において生じる問題およびその背景について理解し、説明することができる。
教育現場における心理社会的課題および必要な支援について理解し、説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

まとめテスト：40%
課題：50%
グループ発表：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

『教育心理学をきわめる10のテカラ』古川聡編 福村出版
『教育・学校心理学 子どもの学びを支え、学校の課題に向き合う』川畑直人ら監修 ミネルヴァ書房

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

次回の授業範囲についてキーワードや専門用語を中心に予習ノートにまとめてください。授業後に授業内容の復習問題や発展問題をmanabaからダウンロードして期限内に提出してください。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心を持つようにしてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	学習・言語心理学
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	佐藤 徹男

■講義の目的および概要

学習心理学と言語心理学は心理学の基礎教科です。基礎から応用までできるだけ広い範囲の理解を目的とします。
また、経験を通して人の行動がどの様に変化するかの過程を説明できる事と、言語の習得における機序についての概要を説明できる事を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義は、配布資料やビデオにより進めます。毎回の講義中にリフレクションシートを書いて提出してもらいます。また、グループワークを通してクラスメートと意見を交換し、自分の考えを内省できるように取り組みます。授業と平行して、学習心理学もしくは言語心理学に関する文献を読み、まとめと感想を書いたレポートを2つ提出してもらいます。

本講義は臨床現場でクライアントへの心理的介入の実務経験のある教員が、学習心理学と言語心理学の基礎を解説し、それらの臨床現場での応用までを学生が理解できるように講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の初めに前回のリフレクションシートが採点の上返却され、フィードバックや質問等に講師が答える。レポート課題は、採点の上返却される。

■授業計画

概ね以下の通り実施する。

- ①ガイダンスとレポート課題について説明
- ②学習心理学の領域
- ③レスポナント（古典的）条件づけ
- ④オペラント（道具的）条件づけ1
- ⑤オペラント（道具的）条件づけ2
- ⑥学習意欲
- ⑦心理臨床と学習心理学
- ⑧学習指導と学習心理学、レポートの提出1
- ⑨言語発達の生物学的基礎
- ⑩言語の発達と理解
- ⑪前言語期のコミュニケーション
- ⑫話し言葉と読み書きの発達
- ⑬言語発達の支援
- ⑭まとめ、レポートの提出2
- ⑮テスト

オンデマンドと遠隔授業（zoom）を合計7回まで実施する可能性がある。実施前には事前にmanaba等で連絡をする。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

学習・言語に関する基礎理論を理解し、説明できる。
学習・言語に関連する領域の概略を理解し、主要な概念を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

毎回のリフレクションシート：40%
レポート2つ：30%
テスト：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回の授業時に適宜な資料を配布する。

【参考文献】

中条和光（編）（2019）学習心理学 北大路書房
秦野悦子・高橋登（編）（2017）言語発達とその支援 ミネルヴァ書房

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回、授業の冒頭に前回の授業内容の確認をします。必ず前回の授業内容について復習をしてから授業に参加してください。
レポート課題2つに関しては、授業外で文献を見つけ、その文献のまとめと感想を書いて提出してもらいます。

【必要な時間】

概ね2時間程度の事前事後学習を行って下さい。

■その他

※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

科目名	感情・人格心理学
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	岡田 顕宏

■講義の目的および概要

心理学に関する知識を身につけるための基礎科目です。この講義では心理学における2つの異なる分野を扱います。一つは、人間の心の働きのうち、感情の働きに関する知識を身につけ、感情が行動に及ぼす影響や感情生起に関わる諸要因などについて理解することを目的としています。もう一つは、人間の心の働きの個人差に関するものである。性格やパーソナリティと呼ばれる概念や、その捉え方に関する知識を身につけることを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

配付資料を中心に、資料映像や小実験を交えながら、教室での講義を中心に展開する予定です。小テスト・課題がほぼ毎回行われるので、講義時間以外の復習が必要になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で実施する小テストでは、受講者が分からなかった箇所についての説明を授業内に行います。課題については、採点をした上で返却する予定です。

■授業計画

概ね以下の内容で講義を展開する予定です。

- ①感情とは何か
- ②感情生起のメカニズム (古典的理論)
- ③感情生起のメカニズム (基本的感情理論)
- ④感情の認知的評価理論
- ⑤感情の生物学的基礎
- ⑥感情と行動
- ⑦感情と認知
- ⑧感情のまとめと中間テスト (または中間レポート)
- ⑨人格の概念
- ⑩知的機能の個人差
- ⑪人格の測定
- ⑫人格の形成と変容
- ⑬人格の生物学的基礎
- ⑭人格の障害
- ⑮人格に関するまとめと期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 「感情に関する理論及び感情喚起の機序」に関する知識を身につけ、「感情が行動に及ぼす影響」について心理学的に理解すること。
2. 「人格の概念及び形成過程」や「人格の類型、特性等」のパーソナリティに関する心理学的な知識を身につけること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回の課題 (リアクションフォーム) の得点 (40%)、宿題・レポートの得点 (15%)、および期末試験の得点 (45%) で評価します。

課題・レポートは、理解の程度を確認するために実施します。期末試験は、知識が身についているかを確認するために実施します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書の指定はありません。

【参考文献】

講義中に指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】
授業中に指示した宿題・レポートを行うこと、配布した資料を使って復習を行うことが必要です。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

科目名	心理学統計法
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	岡田 顕宏

■講義の目的および概要

心理学研究の基本的な方法を理解し、心理学研究の技法を習得するための研究法に関する実習科目です。心理学では、主観や思い込み、そして客観的根拠のない理論的権威的説明に陥ることなく、客観的な判断を行うために、数量化し、客観的な評価を行えることが必要です。

(1)心理学の研究に必要な、統計学の基本的知識を身につけること、(2)Excelを使用したデータの集計と、心理学における基本的な統計分析の技術を身につけることが目的です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ExcelとSPSSを使用して、統計のための基本的な集計から、統計分析までの実習を行います。また、統計学の知識を獲得するための講義も同時に行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、統計に関する知識とExcel等を用いた統計処理を行う課題が出されます。講義の冒頭で、前回の課題の解説を行います。

■授業計画

1. データの集計の基礎
 - ①Excel操作の復習と統計学の基礎
 - ②尺度と代表値
 - ③度数分布とヒストグラム
 - ④分散と標準偏差
 - ⑤データ集計のまとめ
2. 統計分析理論
 - ⑥共分散と相関係数
 - ⑦正規分布と標準化
 - ⑧推測統計の基礎
 - ⑨Z検定
 - ⑩統計分析理論のまとめ
3. 統計分析手法
 - ⑪対応のある t 検定
 - ⑫対応のない t 検定
 - ⑬カイ 2 乗検定
 - ⑭一要因分散分析と多重比較
 - ⑮統計分析手法のまとめとテスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「統計に関する基礎的な知識」と技能を身につけ、「心理学で用いられる統計手法」を理解できるようになることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回の提出課題とレポート（50%）、期末試験（50%）によって評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

山内光哉「心理・教育のための統計法〈第3版〉サイエンス社

【参考文献】

講義内に指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の内容を確認し、知識や技能を定着するために、毎回の課題を授業後に遂行し、遅れずに提出することが必要です。Excelの作業をスムーズにできないと授業についていくことができません。苦手な場合には授業時間外に練習してマスターしておくことが必要です。事前事後学習においてもExcelとWordを使用できる環境が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

※本科目を履修するためには、「心理学概論」と「心理学実験Ⅰ（基礎）」の単位を既に修得済みであることが必要です。

※本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

※認定心理士（日本心理学会認定心理士認定委員会）の取得に必要です。

※心理学系の大学院への進学を考えている学生、卒業研究を履修する予定の学生は必ず履修してください。

科目名	障害者・障害児心理学[臨床]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

本講義の目的は、様々な発達段階で生じる身体的、知的、発達、及び、精神的な障害の種類と特徴についての理解を深めることです。また、障害の当事者、その家族の事例をもとに、障害の特性やその障害に起因する社会適応上の困難について理解し、心理学的視点から必要とされる支援について理解できるようにすることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式を基本としますが、必要に応じて、グループディスカッション、グループ発表も取り入れます。また、視聴覚教材も適宜用いて、障害に対する理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループ発表については、発表後、助言、指導をします。課題については、授業内で解説し、資料はmanabaを通じて配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②障害とは何か文献を通して
- ③障害とは何かグループディスカッション
- ④身体障害の理解とその支援
- ⑤精神障害の理解とその支援
- ⑥知的障害の定義・特性
- ⑦知的障害 発達上の課題
- ⑧知的障害 アセスメント・支援について
- ⑨自閉スペクトラム症 定義・特性1
- ⑩自閉スペクトラム症 定義・特性2
- ⑪自閉スペクトラム症 発達上の課題
- ⑫自閉スペクトラム症 アセスメント・支援について
- ⑬AD/HDについて
- ⑭学習障害について
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。
障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

課題提出70% 振り返りの提出30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて、プリントを配布する。

【参考文献】

太田信夫（監）柿澤敏文（編）（2017）障害者心理学 北大路書房
下山晴彦ら（監）本郷一夫ら（編）（2022）障害者・障害児心理学 ミネルヴァ書房

■授業外学習

【具体的な内容】

身体・精神障害については、事前学習として参考文献をお渡しします。また、発達障害を理解するには、人間の知的発達、言語発達、社会性発達、認知発達、情動の発達などを理解しなければなりません。予習は、次回の授業に関連するトピックなどを提示するので、発達心理学の授業テキストや参考文献などを使用しまとめてください。また、授業後は事例を読んでいただき、考察レポートの作成、提出を求めます。

【必要な時間】

概ね事前事後学習としてそれぞれ2時間を要します。

■その他

※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省²³（令和5）年4月1日定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

科目名	障害者・障害児心理学[子心]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

この授業は、発達段階で生じる障害について知識を深め、援助の方法について学ぶことを目的とします。また、発達障害の当事者、その家族の事例をもとに、障害の特性やその障害に起因する社会適応上の困難について理解し、心理学的視点から必要とされる支援について理解できるようにすることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式を基本としますが、必要に応じて、グループディスカッション、グループ発表も取り入れます。また、視聴覚教材も適宜用いて、障害に対する理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループ発表については、発表後、助言、指導をします。課題については、授業内で解説し、資料はmanabaを通じて配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②障害とは何か 文献を通して
- ③発達障害について1
- ④発達障害について2
- ⑤自立とは何か グループディスカッション
- ⑥知的障害 定義・特性
- ⑦知的障害 発達上の課題
- ⑧知的障害 アセスメント・支援について
- ⑨自閉スペクトラム症 定義・特性1
- ⑩自閉スペクトラム症 定義・特性2
- ⑪自閉スペクトラム症 発達上の課題
- ⑫自閉スペクトラム症 アセスメント・支援について
- ⑬AD/HDについて
- ⑭学習障害について
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①発達障害の特性を理解し、それぞれの障害に特有の発達上の課題、社会生活で生じてくる問題を説明することができる。
- ②発達障害者・児に対し、心理学的視点から必要とされる支援について考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

課題提出70% 振り返りの提出30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

発達障害を理解するには、人間の知的発達、言語発達、社会性発達、認知発達、情動の発達などを理解しなければなりません。予習は、次回の授業に関連するトピックなどを提示するので、保育の心理学や発達心理学の授業テキストを使用しまとめてください。また、授業後は事例を読んでいただき、考察レポートの作成、提出を求めます。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	心理学的支援法
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	高野 創子

■講義の目的および概要

本講義は、心理療法をはじめとする心理学的支援法について、その観点と理論、技術について学ぶことを目的としています。具体的には①カウンセリングの発想・技術・方法について②各種心理療法の概要について③心の発達などライフサイクルの過程で起こりうる様々な問題とその支援について、今日的な問題も含めて議論しながら学びを深めて行きます。臨床心理学にはどのような諸分野があるかを知ること、また心理療法の各種理論について理解し、理論の裏にある人間理解のあり方について自分なりに考えることができるようになることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で行われます。毎回のテーマに沿って、受講生と議論しながらその内容を深める形で授業を進めます。他者の視点を学ぶために、必要に応じてグループディスカッションやロールプレイを行います。毎回の講義の終了時に講義内で取り上げたテーマについて自分なりに考えたことを表現する小レポートを提出してもらいます。

本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラーとして実務経験のある教員が心理支援の発想と技術、各種心理療法の理論をもとにした人間理解の視点をクライアントに活かす視点を養う講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の講義で実施する小レポートで書かれた内容について紙面に掲載し、講義の冒頭で自分以外の受講生の視点を示すとともに、教員の視点を解説します。

■授業計画

- | | |
|--------------------|---------------|
| ① イントロダクション | 心とは何か |
| ② 臨床心理学の基本理論(1) | 相談とカウンセリングの違い |
| ③ 臨床心理学の基本理論(2) | カウンセリングの発想 |
| ④ 臨床心理学の基本理論(3) | カウンセリングの技術 |
| ⑤ 臨床心理学の基本理論(4) | カウンセリングの方法 |
| ⑥ ライフサイクルと心理的問題(1) | 生涯発達と発達課題 |
| ⑦ ライフサイクルと心理的問題(2) | 自己の発達について |
| ⑧ 心理療法の理論モデル(1) | 精神分析的な心理療法 |
| ⑨ 心理療法の理論モデル(2) | クライアント中心療法 |
| ⑩ 心理療法の理論モデル(3) | 認知・行動療法 |
| ⑪ 心理療法の介入技法(1) | 個人・集団へのアプローチ |
| ⑫ 心理療法の介入技法(2) | コミュニティ支援の歴史 |
| ⑬ 心理療法の介入技法(3) | コミュニティ支援の理論 |
| ⑭ 心理療法の介入技法(4) | スクールカウンセラーの実践 |
| ⑮ 全体のまとめと試験 | |

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

代表的な心理療法の理論や技法について学ぶこと、臨床心理学的な視点を学ぶことは大切であるが、それ以上に学ぶ過程で自分なりの考えや意見を持ち、表現できることを受講生に期待する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1「専門知識・技能を活用する力」
DP2「コミュニケーション能力」
DP5「能動的に学び続ける力」

■成績評価基準と方法

授業中に課する小レポート・中間筆記テスト(60%)、最終講義での筆記テスト(40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

下山晴彦・編 「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房
その他の参考文献については各回のテーマに沿って分けて、一覧にしたものを初回講義で配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

本講義は、継続展開の講義となります。講義で教えた内容を覚えていないと次回の講義で学ぶことにつながって理解することができません。そのため、毎回の講義の冒頭に、前回の講義に関する内容について確認するための復習を行います。前回のプリントを元に授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を確認して、まとめてください。また日ごろから新聞やテレビで心に関するニュースに関心を持ち、自分の考えを思いめぐらせてください。復習を行うことが次回の講義の予習となります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

* 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

- ・遅刻は認めません。ただし、公共交通機関の遅れなど、やむを得ない事情については考慮しますので、証明書などを持参して前の扉から入室してください。
- ・講義中の携帯電話の使用（メールのやり取りやゲーム）については、発見し次第、退室してもらいます。

科目名	精神疾患とその治療
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	鎌田 隼輔

■講義の目的および概要

現代社会において精神疾患は誰もがかり得る病気であると認識されるようになった。しかしながら、精神疾患は病態や治療法などいまだに不明なことも多く、時代や環境の影響を受けやすい。本講義では最新の知見に基づき、臨床精神医学の立場から精神疾患とその治療について広く学ぶことを目的とする。その学びを通して人間理解を深めるとともに自分自身について考えてもらいたい。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
講義形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内で解説を行う。

■授業計画

- ①精神医学とは何か
- ②脳科学と精神医学
- ③精神機能とその異常
- ④精神発達
- ⑤精神科治療学
- ⑥精神医療と社会
- ⑦発達障害と児童期の精神医学
- ⑧統合失調症
- ⑨うつ病／双極性障害
- ⑩不安症・解離症・身体症状症・強迫症
- ⑪心的外傷およびストレス因関連障害
- ⑫物質関連障害および嗜癖障害
- ⑬認知症／てんかん／高次脳機能障害
- ⑭パーソナリティ障害
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
心の健康を取り巻く社会環境の変化、および代表的な精神疾患とその治療と支援について説明できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

最終定期試験 (50%)
課題レポート提出とその評価 (30%)
受講態度 (20%)
これらを統合して評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
講義レジメを配布

【参考文献】
『標準精神医学第8版』医学書院 『公認心理師ベーシック講座 精神疾患とその治療』講談社

■授業外学習

【具体的な内容】
講義レジメによる予習・復習
小テスト
課題レポート

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

質問・意見を歓迎します。

科目名	司法・犯罪心理学
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	鈴木 憲治

■講義の目的および概要

本講義では、公認心理師のカリキュラムに則り、司法・犯罪分野における心理的支援に不可欠な枠組み（法規・制度）を関連他機関多職種に理解可能な説明ができるようになることを目的とします。

さらに、心理的支援の基礎理論及び各種技法に関する基礎的知識を習得し、公認心理師試験に必要とされる知識・技法を習得するとともに、公認心理師資格取得後、実務において研鑽を積む際に必要な基盤を作るために自立して専門知識・技能を身に付けることが出来るようになることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、司法領域で実務経験のある教員が、人間に対する深い理解、深い人間理解に根ざした支援を実践できるようにするため以下の方法をとります。

ア) 知識をパワーポイントによる講義形式で提供します。

イ) 両面的なテーマについてのグループディスカッションやレポートを実施して、知識を確かなものにします。

ウ) 実務家をゲストスピーカーとして招き、臨床現場の実際を聴くことで、知識に偏らない社会で役立つ知見とします

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回講義最後に実施する「理解度確認チェック」の解答を次回授業冒頭に行い、講義での定着が難しかった点について、教員が補足します。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って授業を展開します。

- ① 司法・犯罪心理学の概要
司法・犯罪分野の心理職
- 《刑事手続き分野》
- ② 犯罪加害者理解と支援
RNR原則とリスクアセスメント
- ③ 犯罪捜査における心理学的知見
プロファイリングとポリグラフ
- ④ 少年法と少年非行
- ⑤ 社会内処遇と施設内処遇 - 1
少年鑑別所と少年院
- ⑥ 社会内処遇と施設内処遇 - 2
刑務所
- ⑦ 社会内処遇と施設内処遇 - 3
保護観察
- ⑧ 障害のある非行少年・犯罪者への対応
- ⑨ 被害者の心理と犯罪被害者支援
- ⑩ 裁判員裁判（ゲストスピーカーの解説）
- 《民事手続き分野》
- ⑪ 家庭紛争（家事）事件の理解（ゲストスピーカーの解説）
- ⑫ 家庭内暴力の理解
DVと虐待
- ⑬ 親の紛争下における子の意思の把握と考慮
- ⑭ 面接手法
司法面接、動機づけ面接
- ⑮ まとめ（ふり返りテスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

本授業では、以下の事項について基礎的理解を得ていることが求められます。

《刑事手続き分野》

- 1) 少年法等基本法規が理解できる
- 2) 少年事件の審判手続きが理解できる
- 3) 少年非行の動向、特質、心理的背景が理解できる
- 4) 非行臨床で用いられるアプローチが習得できている
- 5) 司法・犯罪分野における心理社会的支援の課題が理解できる

《民事手続き分野》

- 1) 家族法等基本法規が理解できている
- 2) 司法手続きにおける子どもの権利について理解できる
- 3) 司法手続き下にある子どもの心理的背景が理解できる
- 4) 司法手続き下にある成人の心理的背景が理解できる
- 5) 司法手続き下における心理社会的支援の課題が理解できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3) 課題を発見し、解決する力

(DP5) 多様性の理解と協働する力

上記DPに基づき、司法・犯罪分野における心理的支援に不可欠な枠組を理解した上で、現在の枠組における課題を考察するとともに、多様化する社会の中での支援を実践するための多領域・多職種との協働が可能となるための理論及び各種技法に関する知識を習得します。

■成績評価基準と方法

以下の3点で評価します。

- 「ふり返りテスト」 : 20%
 ゲストスピーカーの授業も含め、全授業範囲から出題します。
 「理解度確認チェック」評価 : 70% 5%×14回
 毎時間講義最後に実施します。
 欠席の場合も、1週間以内の提出で加点します
 レポート
 参考文献等レポート : 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「入門 犯罪心理学」原田隆之 ちくま新書
 「犯罪心理学ビギナーズガイド 世界の捜査、裁判、矯正の現場から」R.ブル、C.カウ、R.ハッチャー、J.ウッドハム、C.ヒルバー、T.グラント 仲真紀子監訳 有斐閣
 以上のほかに、「① 司法・犯罪心理学の概要」時に「参考文献等リスト」を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の最後に、「理解度確認チェック」を実施し、次の授業冒頭で解答解説を行います。「理解度確認チェック」で不明だった点は、授業の復習をする中で必ず確認し、次回授業の解答解説までに確実な理解を得たうえで参加してください。

「参考文献等リスト」から、興味関心をもった書籍・映画・ドラマを《刑事手続き分野》または《民事手続き分野》から1点選び、⑭回講義終了時までに、レポート（1200字程度、書式は「参考文献等リスト」配布時に提示）として提出していただきます。

【必要な時間】

「理解度確認チェック」の復習は、目安として2時間を要します。
 参考文献等レポートの作成の目安は約4時間です。

常日ごろからニュース、新聞、インターネットなどで、社会的な事件についての情報を入手するように心掛けてください。

■その他

本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

履修に際しては、教養教育科目「心理学」を履修中、もしくは履修済みであるか、学科基礎科目である「心理学概論」が履修済みであることを推奨します。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、ゲストスピーカーの招聘を中止し、教員の講義に代えることがあります。

科目名	心理的アセスメント I (質問紙法)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	澤田 信也

■講義の目的および概要

心理アセスメントに関わる質問紙法について概要を講義したのち、実際に使用する心理検査について実習します。検査の内容や基本的な考え方について学び、有効性や限界をふまえて解釈法を理解することを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と実習、レポート作成を行います。少人数でのグループワークも取り入れます。本講義は実際に臨床心理士として実務経験豊富な教員が担当します。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポート作成の際には模範となるレポートを示して解説します。manabaを利用して資料を提供します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ★心理的アセスメントの目的及び倫理
- ★心理的アセスメントの観点及び展開
- ②★心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）
- ★適切な記録及び報告
- ③YG性格検査 1 実施と概要
- ④YG性格検査 2 採点と結果
- ⑤YG性格検査 3 解釈とレポート作成
- ⑥エゴグラムⅡ 実施と概要
- ⑦エゴグラムⅡ 採点と結果
- ⑧エゴグラムⅡ 解釈とレポート作成
- ⑨知能検査 1 ビネー式の概要
- ⑩知能検査 2 ビネー式の実施
- ⑪知能検査 3 ビネー式のレポート作成
- ⑫知能検査 4 ウェクスラー式の概要
- ⑬知能検査 5 ウェクスラー式の実施
- ⑭知能検査 6 ウェクスラー式のレポート作成
- ⑮まとめとレポート作成
- ★は公認心理師試験対応

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

心理検査や知能検査の成り立ちを理解し、実施法を習得します。さらにそれを活用した心理アセスメントと報告実務を経験し実際の心理臨床場面で利用できる水準を目指します。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP2)【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

授業参加（グループ討議、発表）	30%
小レポート	30%
まとめのレポート課題	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

随時プリントを配布します。

【参考文献】

必要時に紹介します。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

毎回配布される資料をよく読み、次回の講義の冒頭で行われる振り返りとともに活用し、理解を深めてください。また次の講義について概要を説明しますので、事前学習をしてください。

【必要な時間】

事前事後各々2時間程度を見込んでください。

■その他

科目名	産業・組織心理学
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	渡邊 良平

■講義の目的および概要

産業、組織に関する心理学について、体験的に学ぶことを目的とする。【集中講義】

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークを主にした講義になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

■授業計画

- ①職業選択（講義、個人ワーク）
- ②、③職業興味検査（個人ワーク）、仕事について（グループワーク）
- ④、⑤職業適性検査（個人ワーク）、小レポート
- ⑥リーダーシップについて（講義）
- ⑦リーダーシップ研修体験（グループワーク）
- ⑧評価、昇進について（講義）
- ⑨管理職としてのグループ管理、集団心理（映像視聴）
- ⑩目標設定（個人ワーク）
- ⑪、⑫メンタルヘルス対策協議①（グループワーク）
- ⑬障害者のキャリア（講義）
- ⑭振り返り
- ⑮期末テスト（ノートは持ち込み可、プリントは持ち込み不可）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

それぞれのキャリア、ポジションにおける実践を体験し、多面的に組織や個人を見られるようになり臨床場面で応用できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

産業・組織心理学の知識を習得し、実践の場で技能獲得することで、臨床場面で活用できるようになること。

■成績評価基準と方法

小レポート20点

期末テスト80点（テストはノートのみ持ち込み可、配布した資料やプリントの持ち込みは不可とする）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する。

【参考文献】

産業・組織エッセンシャルズ

■授業外学習

【具体的な内容】

産業心理学の基礎的な部分については個人で学習をすること。資料は配布する。

【必要な時間】

全体で25時間程度の学習を必要とする。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

科目名	カウンセリング演習
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	松浦 秀太

■講義の目的および概要

本演習では心理学的支援法のひとつであるカウンセリングに関する基礎的な理論及び技法を学ぶことを目的としています。具体的には「傾聴技法」や「ロジャーズの3条件」などのカウンセリングの基本思想、そしてカウンセリングのベーシックテクニックを学びます。その上でロールプレイを行い、それらの思想や技法の意義を体験的に理解することを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、臨床心理士資格を持ち、児童精神科やスクールカウンセラーとしてカウンセリングの実務経験のある教員が講義を行います。具体的には講義＋演習形式で展開します。演習ではロールプレイなどの体験学習を元に、基本的なカウンセリング概念の理解を深めます。また、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説します。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って講義を展開します。進行状況によって、順序や内容は変更が生じる可能性があります。

- ① ガイダンス＋カウンセリングとは何か？
- ② ロジャーズのカウンセリング
- ③ 無条件の肯定的関心と共感的理解
- ④ 共感の障害と自己一致
- ⑤ 「グロリアと3人のセラピスト」
- ⑥ フォーカシングを体験しよう
- ⑦ エンカウンターグループとは？
- ⑧ カウンセリング・ロールプレイ (1) 基本姿勢と信頼関係の構築
- ⑨ カウンセリング・ロールプレイ (2) ラポート形成の基本
- ⑩ カウンセリング・ロールプレイ (3) 共感、言い換え、繰り返し
- ⑪ カウンセリング・ロールプレイ (4) 明確化、感情の反映
- ⑫ カウンセリング・ロールプレイ (5) 要約＋まとめ
- ⑬ 実技試験(1)
- ⑭ 実技試験(2)
- ⑮ 実技試験(予備日)＋まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① カウンセリングの基本的な概念を理解し、技法を体得する。
- ② 傾聴の重要性を理解する。
- ③ カウンセリング過程の相互作用過程を体験する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

以下の4点で評価します。

- A) 課題：20%
 - B) レポート：19%
 - C) 実技試験：20%
 - D) 定期試験：41%
- ※A)～D)のカテゴリー全てに点数がついていることが単位取得最低条件とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に使用しません。

【参考文献】

適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前にカウンセリングに関する書籍を読み、カウンセリングのイメージを膨らませておいてください。また、事後学習として配布されたレジュメを見直し、関連する概念などを自身で調べ、理解を深めるようにしてください。

「臨床心理学概論」（1年次秋学期開講科目）や「心理学的支援法」（2年次春学期開講科目）などの講義を履修し、臨床心理学の概念や心理学的支援法について理解していることが望まれます。

【必要な時間】

上述のような事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・本科目はカウンセリング実務士取得のための必修科目です。
- ・授業中に学生同士でロールプレイを行います。積極的に参加してください。

科目名	レクリエーション理論(子ども)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	星 芳広

■講義の目的および概要

様々な課題を抱える現代社会において、レクリエーションの位置づけは個人及び集団におけるコミュニケーション能力を高めるための手段として、欠かすことの出来ないものとなっています。本講義の目的は、レクリエーションの意義、レクリエーション・インストラクターの役割やレクリエーション支援が必要とされる具体的な場面に理解し、実践力を身につけることです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式と実技体験が中心になりますが、グループワークやディスカッションの演習を取り入れ、グループでの発表も行い、能動的な学習を目指します。

基本形を重視しながらも、対象者や場面に合ったレクリエーション支援が展開できるようにアレンジする力を培います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- ①授業ガイダンス、レクリエーション概論（レクリエーションとレクリエーション・インストラクターとは）
- ②楽しさと心の元気づくりの理論①（心の元気づくりと対象者の心の元気）
- ③楽しさと心の元気づくりの理論②（対象者の心の元気づくりの課題、心の元気と地域のきずな）
- ④レクリエーション支援の理論①（信頼関係づくりの理論）
- ⑤レクリエーション支援の理論②（良好な集団づくりの理論）
- ⑥レクリエーション支援の理論③（自主的、主体的に楽しむ力を育む理論）
- ⑦レクリエーション支援の方法①（演習）
- ⑧レクリエーション支援の方法②（演習）
- ⑨レクリエーション支援の方法③（演習）
- ⑩プログラムの立案①（グループワーク）
- ⑪プログラムの構成①（グループワーク）
- ⑫プログラムの発表①（グループワーク）
- ⑬プログラムの立案②（グループワーク）
- ⑭プログラムの構成②（グループワーク）
- ⑮プログラムの発表②（グループワーク）、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①レクリエーションの意義やインストラクターとして必要な知識を理解することができる。
- ②レクリエーションの重要性を理解し、レクリエーション支援に関わる能力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DPI（専門知識・技能を活用する力）

■成績評価基準と方法

- ①演習発表 40%
- ②レクリエーションへの理解度、小テスト 30%
- ③課題レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』
公益財団法人 日本レクリエーション協会
『基本のアイスブレーキング・ゲームいつでも、どこでも、誰とでも楽しめるオス
メゲーム40選』
公益財団法人 日本レクリエーション協会

【参考文献】

『心が元気になるレクリエーションゲームBEST31』 公益財団法人 日本レクリエ
ーション協会
『レクリエーション支援の基礎』 公益財団法人 日本レクリエーション協会
『学級づくりに役立つレクリエーション・ゲーム50』 公益財団法人 日本レクリ
エーション協会

■授業外学習

【具体的な内容】

今回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習ノートにまとめてください。
毎回の授業で、その日行ったアクティビティの内容と感想について課題を出題します
ので、レポートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

この科目は、「レクリエーション・インストラクター」の資格取得をするための必
修科目です。日常的に笑顔であいさつが出来、誰とでも積極的にコミュニケーション
を図ろうとする姿勢を心がけ、実践をしてください。

科目名	子どもの健康と安全[子心]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	照井 レナ

■講義の目的および概要

本講義の目的は、保育における保健的視点を踏まえた保育環境や援助について理解し、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策・感染症対策について具体的な能力を身につけることとする。また、子どもの健康および安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画および評価について具体的に学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

1. 1回90分 15回の講義 予習あるいは復習を行う
2. 適宜視聴覚教材を活用して講義を行う
3. 疾病の予防および適切な対応は：問題解決思考を基盤とする
4. プログラム学習の活用：
 - ①良い聴き手を育てること
 - ②発表能力がつくことを目的として活用する。
 内容は、グループワークで話し合った看護アセスメント内容を全体で発表し、問答、討議を行う。また、各グループ間の内容を共有することで視点が広がり、考え方の多様性を学ぶことができる（第12回、第14回）。

【課題に対するフィードバックの方法】

1. 小テストは毎回、授業の最後の時間に行い、その場で解答する
2. 課題レポートは、以下の構成で記載する
 - ① A4版1枚 ② 35字×35行 ③ フォント10.5ポイント以上 ④ 起承転結
3. 第12回は事前課題を持参しそのレポートを用いてグループワークを行う
4. 第13回授業終了時に、個人レポートとして提出する。

■授業計画

- 導入 子どもの健康と安全を守るために（第1章）小テスト
- 第2回 保健的視点をふまえた保育環境および援助（第2章）小テスト
- 第3回 保育における健康および安全の管理①衛生管理（第3章）小テスト
- 第4回 保育における健康および安全の管理②事故防止・安全管理（第3章）小テスト
- 第5回 保育における健康および安全の管理③危機管理・災害対策（第3章）小テスト
- 第6回 子どもの体調不良に対する適切な対応①体調不良（第4章）小テスト
- 第7回 子どもの体調不良に対する適切な対応②緊急時の対応（第4章）小テスト
- 第8回 子どもの体調不良に対する適切な対応③救命蘇生法（第4章）小テスト
- 第9回 感染症対策（第5章）小テスト
- 第10回 障害のある子どもへの対応、医療行為（第6章）小テスト
- 第11回 健康および安全の管理の実施体制①
保健活動の計画及び評価（第7章）小テスト
- 第12回 保健活動の計画および評価 グループワーク
- 第13回 保健活動の計画および評価 全体発表
- 第14回 保健だよりの作成 グループワーク
- 第15回 健康および安全の管理の実施体制②連携・協働（第7章）まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 保育における保健的視点を踏まえた保育環境や援助について説明できる
2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に説明できる
3. 子どもの体調不良等の適切な対応について具体的に説明できる
4. 保育における感染症対策について、具体的に説明できる
5. 保育における保健的対応や基本的考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に説明できる
6. 子どもの健康および安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画および評価について具体的に学習する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

人文学部心理学科こども心理専攻の「幼児教育・保育領域における基礎的知識、技能の習得」に関わる科目（保育士資格必修）

■成績評価基準と方法

課題提出：10点×1回，20点×1回＝30点
定期試験：70点
合計：100点

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】

遠藤郁夫ほか（2019）：子どもの健康と安全，学建書院，東京。

【参考文献】

小林美由紀（2018）：子どもの健康と安全演習ノート，診断と治療社，東京。

高内正子ほか（2020）：保育の場で生きる　子どもの健康と安全，建帛社，東京。

■授業外学習

【具体的な内容および必要な時間】

- 第1回 【課題：「保育士として大切にしたいこと」（2時間）】
【復習：保育所保育指針「健康および安全」をまとめる（第1章）（2時間）】
- 第2回 【予習：集団健診の時期と健診内容をまとめる（第2章）（2時間）】
【復習：寝る、食べる、排泄の支援内容をまとめる（2時間）】
- 第3回 【予習：食中毒例（種類や発生時期）を調べてまとめる（第3章）（2時間）】
【復習：嘔吐物の処理方法について手順をまとめる（2時間）】
- 第4回 【予習：小児の事故、年齢別の死亡事故原因をまとめる（第3章）（2時間）】
【復習：誤飲、誤嚥、窒息事故の安全対策をまとめる（第3章）（2時間）】
- 第5回 【予習：災害時を想定して持ち出すものをまとめる（2時間）】
【課題：例題の絵を見て子どもの事故防止のポイントを考える（2時間）】
- 第6回 【予習：発熱、咳の症状時の対応をまとめる（第4章）（2時間）】
【復習：嘔吐、下痢の症状時の対応をまとめる（第4章）（2時間）】
- 第7回 【予習：アナフィラキシーショックの対応をまとめる（第4章）（2時間）】
【復習：けいれんや意識消失時の対応をまとめる（第4章）（2時間）】
- 第8回 【予習：心肺蘇生法の一次救命処置の手順をまとめる（第4章）（2時間）】
【復習：AEDの装着方法をまとめる（第4章）（2時間）】
- 第9回 【予習：予防接種の種類と実施時期をまとめる（第5章）（2時間）】
【復習：感染症の症状と対応をまとめる（第5章）（2時間）】
- 第10回 【予習：障害者手帳についてまとめる（第6章）（2時間）】
【課題：「障がいをもつ子どもと保護者へのサポートについて」（2時間）】
- 第11回 【予習：保健計画の作成の法的根拠、意義をまとめる（第7章）（2時間）】
【復習：3歳児の身体発育、生理学的機能をまとめる（2時間）】
- 第12回 【課題：「3歳児における年間の保健計画を作成する」（第7章）（2時間）】
【復習：保健計画の項目と根拠をそれぞれ記載する（2時間）】
- 第13回 【予習：保健計画の追加・修正を行う（2時間）】
【復習：保健計画の評価、分析の視点をまとめる（第7章）（2時間）】
- 第14回 【予習：使用する健康面、注意点、イラストなどのたよりの材料を調べる（2時間）】
【復習：保健だよりの追加・修正を行う（2時間）】
- 第15回 【予習：保育所の職員構成や配置基準をまとめる（第7章）（2時間）】
【復習：保健所における多職種の専門性や役割をまとめる（2時間）】

■その他

科目名	子どもの保健[子心]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	照井 レナ

■講義の目的および概要

本講義の目的は、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義や子どもの身体的な発育・発達と保健について理解することである。また、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について、子どもの疾病とその予防法および多職種間の連携・協働にもとでの適切な対応方法について学習する

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- 1) 1回90分 15回の講義 予習あるいは復習を行う
- 2) 適宜視聴覚教材を活用して講義を行う
- 3) 疾病の予防および適切な対応は：問題解決思考を基盤とする
- 4) プログラム学習の活用：①良い聴き手を育てること、②発表能力がつくことを目的として活用する。内容は、グループワークで話し合った看護アセスメント内容を全体で発表し、問答、討議を行う。また、各グループ間の内容を共有することで視点が広がり、考え方の多様性を学ぶことができる（第13回、第15回）。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ? 小テストは毎回、授業の最後の時間に行い、その場で解答する
 ? 課題レポートはA4版1枚 35字×35行、フォント10.5ポイント以上とし、起承転結の構成で記載すること
 ? 第13回、第15回は事前課題を持参しそのレポートを用いてグループワーク行う
 授業終了時に、個人レポートとして提出する。レポート課題は、後日コメントして返却する。

■授業計画

- ① 導入 子どもの心身の健康と保健の意義（第1章）小テスト
- ② 子どもの身体的発育・発達と保健（第2章）小テスト
- ③ 子どもの心身の健康状態とその把握（第3章）小テスト
- ④ 子どもの疾病の予防および適切な対応①免疫と感染症（第4章）小テスト
- ⑤ 子どもの疾病の予防および適切な対応②アレルギー疾患（第4章）小テスト
- ⑥ 子どもの疾病の予防および適切な対応③口と歯の健康（第4章）小テスト
- ⑦ 子どもの疾病の予防および適切な対応④未熟児（配布資料）、先天性疾患（第4章）小テスト
- ⑧ 子どもの疾病の予防および適切な対応⑤脳・神経の病気（第4章）小テスト
- ⑨ 子どもの疾病の予防および適切な対応⑥アトピー性皮膚炎（第4章）小テスト
- ⑩ 子どもの疾病の予防および適切な対応⑦生活習慣病（第4章）小テスト
- ⑪ 子どもの疾病の予防および適切な対応⑧事故・けが（配布資料）小テスト
- ⑫ 子どものこころとからだのこと「虐待」（第5章）小テスト
- ⑬ 「虐待」についてのグループワーク、全体発表
- ⑭ 健康診断と多職種との連携・協働（配布資料）小テスト
- ⑮ 「子育て支援」についてのグループワーク、全体発表 まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を説明できる
- 2) 子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる
- 3) 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる
- 4) 子どもの疾病とその予防法および多職種間の連携・協働にもとでの適切な対応方法について説明できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

人文学部心理学科こども心理専攻の「幼児教育・保育領域における基礎的知識、技能の習得」に関わる科目（保育士資格必修）

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP4)【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

課題提出：30点（10点×3回）

定期試験：70点

合計100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】
遠藤郁夫ほか（2019）：子どもの保健，学建書院，東京。

【参考文献】
小林美由紀（2018）：子どもの保健テキスト，診断と治療社，東京。

■授業外学習

【具体的な内容】

- 第1回 【課題：「子どもとの関わりの体験と保育に対する考え」（2時間）】
【復習：現代の子どもの健康に関する現状と課題をまとめる（2時間）】
- 第2回 【予習：子どもの身体発育と運動機能をまとめる（第2章）（2時間）】
【復習：子どもの生理機能の発達をまとめる（第2章）（2時間）】
- 第3回 【予習：子どもの心身発育をまとめる（第3章）（2時間）】
【復習：子どもの健康状態の把握する方法をまとめる（第3章）（2時間）】
- 第4回 【予習：免疫のしくみをまとめる（第4章）（2時間）】
【復習：感染症の経路と感染症の種類をまとめる（第4章）（2時間）】
- 第5回 【予習：食物アレルギーについてまとめる（第4章）（2時間）】
【復習：アナフィラキシー反応とその対応をまとめる（2時間）】
- 第6回 【予習：食べる機能の発達と食形態をまとめる（第4章）（2時間）】
【復習：虫歯の原因と予防法についてまとめる（第4章）（2時間）】
- 第7回 【予習：未熟児の定義と統計的動向をまとめる（配布資料）（2時間）】
【復習：小児の先天性疾患とその病状をまとめる（第4章）（2時間）】
- 第8回 【予習：脳炎、熱性けいれん、髄膜炎の病態をまとめる（2時間）】
【復習：脳に異常がある場合の対応をまとめる（第4章）（2時間）】
- 第9回 【予習：食物アレルギーについてまとめる（第4章）（2時間）】
【復習：アレルギー疾患の種類と対応をまとめる（第4章）（2時間）】
- 第10回 【予習：小児慢性特定疾患についてまとめる（第4章）（2時間）】
【復習：支援制度とプレバレーションをまとめる（第4章）（2時間）】
- 第11回 【予習：おこりやすい事故やけがをまとめる（配布資料）（2時間）】
【復習：急性疾患における救命対応をまとめる（配布資料）（2時間）】
- 第12回 【予習：虐待現状と分類についてまとめる（第5章）（2時間）】
【復習：虐待の要因や予防と支援方法をまとめる（第5章）（2時間）】
- 第13回 【課題：「虐待を受けた子ども、家族に対する支援」（第5章）（2時間）】
【復習：GWや全体会を通して、虐待の予防や支援についてまとめる（2時間）】
- 第14回 【予習：子どもの家族支援制度についてまとめる（配布資料）（2時間）】
【復習：子育て支援の必要性についてまとめる（配布資料）（2時間）】
- 第15回 【課題：「子育て支援として新たにどのような支援が必要と考えるか」（2時間）】
【復習：GWや全体会を通して子育て支援の在り方をまとめる（2時間）】

【必要な時間】

■その他

科目名	子ども家庭支援の心理学[子心]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

近年、子ども・子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化している。地域社会とのつながりが希薄化するとともに、子育ての悩みを抱える子育て家庭が増加し、この家庭の不安感や孤立感が高まりは、大きな社会問題ともなっている。
この授業では、社会の状況、人間発達の課題を確認するとともに、子育て家庭をどのように支援していくのかを学ぶことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行います。必要に応じて、演習課題、グループワークなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。毎回課題を出しますので、manabaを通じて提出してください。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、manabaを通して資料などを配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②生涯発達とは何か
- ③乳幼児時期から学童前期にかけての発達①
- ④乳幼児時期から学童前期にかけての発達②
- ⑤学童期後期から青年期にかけての発達①
- ⑥学童期後期から青年期にかけての発達②
- ⑦成人期・老年期における発達
- ⑧子育てを取り巻く社会的状況
- ⑨家族・家庭の意義と機能、親子・家族関係の理解
- ⑩子育ての経験と親としての育ち
- ⑪多様な家庭形態とその理解
- ⑫特別な配慮を必要とする家庭
- ⑬発達支援の必要な子どものいる家庭
- ⑭子どもの精神保健
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を学び、初期経験の重要性、発達課題などについて説明できる。
- ②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉えることができる。
- ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できる。
- ④子どもの精神保健とその課題について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

毎回の提出物70%
最終課題 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「子ども家庭支援の心理学」青木紀久代編 みらい

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業中に出される課題に取り組み、提出してください。また、次回の授業範囲についてテキストを読み、専門用語の意味などを予習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科目名	子ども家庭支援論[子心]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	品川 ひろみ

■講義の目的および概要

この科目では、「子育て支援」の背景や目的を、さまざまな視点から学習し、現代の子育て環境の実態と問題の視点を明確にします。
また子育て支援の担い手として、保護者の子育て不安、子育て困難の実態を知り、援助の方法について学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義形式ですすめませんが、内容に応じて各種の統計資料を読んだり、学習したことに基づいて文章をまとめたりします。また課題を提示して、グループで調べ議論し発表することも行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、次回の授業において全体共有するとともにLMSを通じてコメントします。課題の内容が不足している場合には再提出を求めることもあります。

■授業計画

- ①子ども家庭支援とは何か
- ②家庭生活の現在
- ③求められる保育、子ども家庭支援の内容
- ④保育の専門性を生かした子ども家庭支援のあり方とその意義
- ⑤子育て支援策と次世代育成支援施策の推進（オンデマンド）
- ⑥保育者に求められる基本的役割と姿勢
- ⑦子ども家庭支援の内容と対象
- ⑧子育て家庭の福祉を図るための社会資源（オンデマンド）
- ⑨子育て初期の子ども家庭支援
- ⑩保育所・こども園・幼稚園を利用する子ども家庭支援
- ⑪地域の子育て家庭への支援
- ⑫要保護児童と家庭に対する支援
- ⑬児童虐待防止に向けた支援
- ⑭子ども家庭支援者を支える関係としくみ
- ⑮子育て支援に関する課題と展望（最終試験）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

家庭支援は子育て支援であることを理解し、支援に必要な心構えや、家庭支援に欠かすことのできない各種の福祉施策を理解し、
家族に対応するための基本的なスキルを身につけることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本科目は子ども家庭支援に必要な専門知識を学び（DP1）、その子どもや家庭の多様性を踏まえた上で（DP4）他者と協働して課題を解決し（DP2・DP3）、保育機関内や他機関と連携し地域社会に貢献できる保育者を養成する（DP6）。

■成績評価基準と方法

リフレクションシート30%、授業内最終試験 70%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

太田光洋編著「保育ニュー・スタンダード 子ども家庭支援論」同文書院, 2022.

【参考文献】

子ども家庭省、札幌市HPなどが参考になります。詳しくは授業で具体的に提示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

学習前にテキストをよく読んでおくこと。単元ごとの課題は授業内で指示する。
授業後は学修した内容をノートなどにまとめ理解の定着をはかること。

【必要な時間】

事前学習として2時間を目安とする。事後学習についてもおよそ2時間程度が適当である。

■その他

授業は基本的に対面で行いますが、国の施策など知識の習得を目的とする回は、くり返し視聴することができるオンデマンドを使用します。

科目名	子ども家庭福祉[子心]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	品川 ひろみ

■講義の目的および概要

児童家庭福祉は保育士資格取得に必要な科目であり教育・保育の現場で必要とされる基礎的な知識や技能の習得を目指す。

子ども家庭福祉の歴史の変遷を理解しながら、現代の子どもや家族を取りまく課題の理解を深め、子どもと家族への支援の在り方を考えることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義形式ですすめるが、毎回一つのテーマを取り上げ、それについて考えたことを発表することや、グループでディスカッションすることで、より実践的な力をつけることを目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィードバックは個別の質問にはmanabaを通して、全体で共有する場合は次回の授業の冒頭に行う。

■授業計画

- ①子ども家庭福祉とは何か
- ②子どもの権利と子ども観
- ③子ども家庭福祉の歴史の変遷
- ④子ども家庭福祉の制度（オンデマンド）
- ⑤子ども家庭福祉の実施機関
- ⑥子ども家庭福祉の施設（オンデマンド）
- ⑦里親制度
- ⑧子ども家の庭福祉の援助の実際（外部講師）
- ⑨社会福祉の援助と子ども家庭福祉の特性
- ⑩施設に配置される職員（オンデマンド）
- ⑪スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー
- ⑫さまざまな状況にある子どもへの支援（課題の提示）
- ⑬さまざまな状況にある子どもへの支援（グループ討議）
- ⑭さまざまな状況にある子どもへの支援（グループ発表）
- ⑮授業のまとめと最終試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・子ども家庭福祉の意義、子どもの権利について理解し説明することができる。
- ・子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解し説明することができる。
- ・子ども家庭福祉を取り巻く諸問題について理解し説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本科目は子ども家庭福祉としての専門知識を学び（DP1）、その子どもや家庭の多様性を踏まえた上で（DP4）他者と協働して課題を解決し（DP2・DP3）、保育機関内や他機関と連携し地域社会に貢献できる保育者を養成する（DP6）。

■成績評価基準と方法

成績評価の基準は毎回のリアクションシート30%、グループ発表20%、最終試験50%とする。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

吉田幸恵/山縣文治『よくわかる 子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房

【参考文献】

参考文献についてはmanabaを通じて提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業終了時に次回の課題を提示する。テキストをよく読み必要に応じて図書館なども利用して課題に取り組むこと。

【必要な時間】

事前の学修は1時間、事後の学修は1時間程度とする。

■その他

授業のなかで知識の習得が必要な回については、くり返し視聴できるオンデマンドを利用する。

科目名	社会的養護 I [子心]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	今西 良輔

■講義の目的および概要

本授業の目的は、何らかの事情により社会的養護を必要とする子どもについて理解を深めることにあります。社会的養護を必要とする状況は、虐待、親の死亡などの問題、子どもの特性、障害などの問題があります。社会の中での社会的養護の役割を理解し、現代社会の子どもの現状を諸問題と結びつけて理解することが必要です。授業を通して、社会的養護の基礎的知識や現状と課題の学修から、子どもの将来について考える力を身につけることをねらいにしています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式での展開となります。講義内では、DVDなどの視聴覚教材を使いながら、分かりやすく理解できるものを活用し、毎回の振り返りレポートによる確認を行っていきます。本講義は、実務経験のある教員が担当します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対してコメントを付けて講義時に返却と解説を行います。

■授業計画

- ①社会的養護とは何か
- ②社会的養護の歴史の変遷
- ③子どもの人権擁護と社会的養護
- ④社会的養護に関する社会的状況
- ⑤社会的養護の基本原則
- ⑥社会的養護における保育士等の倫理と責務
- ⑦社会的養護の制度と法
- ⑧社会的養護の仕組みと実施体制
- ⑨社会的養護の対象と支援
- ⑩家庭養護と施設養護
- ⑪社会的養護とソーシャルワーク
- ⑫社会的養護に関わる専門職
- ⑬施設等の運営管理
- ⑭被措置児童等の虐待防止と権利擁護
- ⑮社会的養護と地域福祉

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・社会的養護とは何か理解し説明ができること
- ・日本の社会的養護の体系の学びから現状と今後の展開について説明することができること
- ・児童福祉施設や里親等について、法的根拠や社会的役割を学び、子どもに関わる専門職者を説明できること
- ・子どもの権利を踏まえて、児童養護の仕組みを学び、社会的養護の基本を理解すること

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この科目は、心理学科のDP1とDP4に対応しています。

■成績評価基準と方法

試験（レポート）60%、課題30%、平常点10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

鈴木幸雄・梶原敦・美馬正和（2022）『社会的養護 I — 「新しい社会的養育ビジョン」の理解に向けて—』同文書院。

【参考文献】

保育と虐待対応事例研究会（2019）『保育者のための子ども虐待対応の基本』ひとなる書房

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：授業前に教科書に目を通し、疑問点などをまとめておきましょう。ニュースなどから社会的養護に関するものを把握し、情報収集をしましょう。

事後学習：授業後の振り返りレポートに質問等を書いておきましょう。

【必要な時間】

2時間程度

科目名	幼児と言葉
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	大村 勅夫

■講義の目的および概要

保育に関する領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。視聴覚資料を用いながら講義し理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生分担による発表と補足、学生による作品紹介と補足、映像によるイメージの補足を繰り返し、領域「言葉」の理解を深め、遊びの環境を確認する。

【課題に対するフィードバックの方法】

担当部分の発表に補足し学生同士の意見交換で理解を深める。また繰り返し発表することで試行錯誤から理解の深化を図る

■授業計画

- ①科目の目標と展開の概要を説明し、発表分担を決定する。
- ②言葉とは何か、言葉が人間生活の中で果たす役割・機能、乳幼児の言葉の特色
- ③子どもの発達と言葉の発達
- ④言葉の発達と環境
- ⑤言葉の面にあらわれた問題の理解と園における対応
- ⑥幼稚園教育要領
- ⑦保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園・保育要領
- ⑧領域「言葉」の具体的な内容
- ⑨中間テスト
- ⑩言葉がけを中心とした援助とかかわりー0歳児・1歳児・2歳児・3歳児
- ⑪言葉がけを中心とした援助とかかわりー4歳児・5歳児
- ⑫児童文化財を通しての援助とかかわりーお話・絵本
- ⑬児童文化財を通しての援助とかかわりー紙芝居・パネルシアター・おもちゃ・テレビ
- ⑭言葉の育ち（言語発達）をとらえる視点
- ⑮本授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。②言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。③乳幼児にとっての児童文化財の意義を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1【専門知識・技能を活用する力】

DP3【課題を発見し、解決する力】

DP4【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

発表 20%
資料作成 20%
授業内試験 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

岡田明『新訂 子どもと言葉』萌文書林

【参考文献】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

■授業外学習

【具体的な内容】

各分担を事前に学び、パワーポイントの作成と発表練習、資料作成
小テストに向けた学修

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	幼児と人間関係
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

人は他者やモノとの関わりによって発達していく。この関係論的発達の観点から、乳幼児期における人との関わりやその重要性について理解を深める。また領域「人間関係」の理解を深め、幼児が家庭や園での生活における人との関係性の中で学び合うことや育ち合うことを知り、人間関係の基礎を培う乳幼児期の体験の重要性と身近な大人の援助について考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

関係論的発達の観点から乳幼児期における人との関わりと領域「人間関係」について、保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が講義形式で授業を行う。幼児が家庭や園での生活における人との関係性の中で学び合うことや育ち合うことを、保育実践等の具体的な事例から実感する。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループ課題については授業内で解説を行い、他学生からの意見を求める。個別課題については課題シート等を利用し、個別に返却する。

■授業計画

- ① 他者との関わりが発達に与える影響—関係論的発達の理解
- ② 人間関係における現代的課題—家族や仲間など自らの他者との関わり振り返り
- ③ 領域「人間関係」の理解と他領域との相互連関的発達
- ④ 乳幼児の他者との関わり的重要性—保育者の心構えについて
- ⑤ 遊びの発達論と乳幼児の人間関係の発達—関係論的発達の観点から理解する幼児期の遊びの重要性
- ⑥ 遊びにおけるクラスの共感的活動—人間関係の発達の側面から
- ⑦ 遊びにおける幼児同士のいざこざ—人間関係の発達の側面から
- ⑧ 遊び活動と幼児の人間関係の育ちの関係性—保育者の見守りや援助の重要性
- ⑨ 幼児同士がつながるクラス活動—対話や協同の重要性
- ⑩ 社会生活における望ましい習慣や態度
- ⑪ 園内の同僚との人間関係とクラスの幼児同士の仲間関係
- ⑫ 保護者との関係作りや保護者同士の関わり的重要性
- ⑬ 幼児の周辺地域における他者との関わりやつながりの重要性
- ⑭ 協同的活動の展開案の作成—人間関係の育ちについて
- ⑮ 協同的活動の展開案の検討—幼児の発達の側面から

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・乳幼児と身近な大人との関わりから生まれる人間関係の基礎について説明できる。
- ・人間関係の発達過程について理解し、遊び活動を通じた他者とのやり取りの重要性について説明できる。
- ・この時期に培われる人と関わる力の基礎が、幼児の人生を支える重要な力であることを理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- 授業毎のコメントシート (20%)
- 授業内課題 (30%)
- 最終課題 (50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」無藤隆、古賀松香 北大路書房

【参考文献】

- 保育所保育指針解説 (2018) フレーベル館
- 幼稚園教育要領解説 (2018) フレーベル館
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (2018) フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

保育所保育指針等の領域「人間関係」について熟読しておくこと。また次回の授業範囲となる箇所をテキストで確認し、専門用語の意味等についてノートにまとめておくこと。授業後は内容を振り返り、重要事項について整理しておくこと。ボランティア等で観察した“保育者と子どものかかわり”、及び“子ども同士のかかわり”についてまとめておくこと。

【必要な時間】

事前事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

自分自身が他者にとって影響を与える一人であることを自覚し、講義に臨むこと。

科目名	幼児と表現
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	村中 幸子

■講義の目的および概要

子どもが発する多様な表現の形やそれを促す要因、感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成など、専門事項についての知識・技能・表現力を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

音楽教育法「ダルクローズ・リトミック」を主軸として、身体・造形・音楽など表現に関する基礎的な知識や技能、子どもの表現の姿や発達について学び、他の4領域との関係を持つ授業展開を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された指導案や各回の振り返りシート、発表や試験について授業内でコメントや講評を行う。

■授業計画

- ①1年次の復習・オリエンテーション
- ②音楽表現の基礎① ビートとテンポ（理論と実践）
- ③音楽表現の基礎② ビートと分割、リズム（理論と実践）
- ④音楽表現の基礎③ 拍子（理論と実践）
- ⑤音楽教育法「ダルクローズ・リトミック」概論（講義）
- ⑥音楽表現の基礎④ フレーズとニュアンス（理論と実践）
- ⑦音楽表現の基礎⑤ リズムパターン（理論と実践）
- ⑧こどものうた① 歌唱法と歌を使った遊び
- ⑨こどものうた② 歌を使った遊びの構成
- ⑩楽器演奏① ミュージックベル
- ⑪楽器演奏② トーンチャイム
- ⑫リトミックの指導と幼稚園・保育園における音楽表現活動（ ）
- ⑬模擬授業とディスカッション、まとめ
- ⑭保育とシアター/ペープサート①
- ⑮保育とシアター/ペープサート②

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・「ダルクローズ・リトミック」による多彩な音楽表現活動を体験することにより、基礎的な理論を理解し、指導に必要な音楽技能を身に付ける。
- ・子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けや関連性について説明できる。
- ・「みる・聴く・感じる・体験する」ことで様々な表現方法に触れ、イメージを豊かにし、体験を通して学ぶことにより、指導に必要な技能を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と共同する力

■成績評価基準と方法

授業内の演習・発表 40%、各回の振り返りシート 30%、試験 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「こどものうた 100」「続こどものうた 200」チャイルド本社

【参考文献】

幼稚園教育要領（平成29年3月）、同解説（新）

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外で準備する課題について、その都度指示する。持ち寄った課題をテーマにして授業を進めるので、必ず期限内に取り組んで用意すること。

【必要な時間】

予習・復習は週2時間を目安とする。

■その他

- ・動きやすい服装で（スカート、極端なワイドパンツ、短パン等やアクセサリ類不可）。
- ・テキストや筆記用具を忘れずに持参すること。

科目名	心理実習指導 I
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	橋本 久美、鈴木 憲治

■講義の目的および概要

本講義では、3年次に展開される心理実習の事前学習として位置づけされる。基本的な実習のマナーや心得を学びつつ、具体的に実習施設での体験をイメージできるように、調べ学習、グループワークやディスカッション、各種集団療法の実習を通して、実習先でのスタッフや対象者との良好な関係づくりについて考え、身に付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、講義・集団討議・問題解決などの多様な方法で展開する。また、毎回修得した内容について、確実に理解を深めるために課題の提出を求める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内でレポートの返却を行い、教員が履修者全体及び個別に向けてのコメントをする。

■授業計画

- ①オリエンテーション 外部実習の基本知識
- ②履歴書・志望動機の書き方、実習先でのマナーについて
- ③実習先に想定される機関について1 (医療・保健領域)
- ④実習先に想定される機関について2 (福祉領域)
- ⑤実習先に想定される機関について3 (教育領域 他領域)
- ⑥実習先に想定される機関について 授業内発表1
- ⑦実習先に想定される機関について 授業内発表2
- ⑧ゲストスピーカーによる講話 実習前の準備について

毎回授業の初めには、グループでコミュニケーションゲームを行う。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 実習のマナーや心得を習得し、各専門領域領域実習機関について知識を得る。
2. 具体的な実習場面をイメージしたグループ学習を通して、実習機関での体験をイメージできるようになる。
3. グループワークやディスカッションを通じ、自己理解や他者理解を深め、実習先のスタッフや対象者と円滑なコミュニケーションとはどのようなものか考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP 2) コミュニケーション能力
 (DP 4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

授業での発言や態度 (30%)、課題提出 (30%)、発表プレゼン (40%) を総合して成績を評価する。出席を重視する。グループで行う内容が多いので、欠席・遅刻は、極力避けること。

■テキスト・参考文献

【テキスト】なし 必要に応じてプリント配布

【参考文献】必要に応じて提示する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、実習についてのキーワードを各自調べておく。書く・話すなどの自己表現スキル技能を高めるために就職用一般常識問題に取り組むことが望ましい。事後学習としては毎回の課題を確実に提出すること。

【必要な時間】

事前学習・事後学習とも2時間以上をあてることがのぞましい。

■その他

本科目は、公認心理師になるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められている心理実習Ⅰ・Ⅱを履修するために、本学独自に必修としている科目です。
心理実習Ⅰ・Ⅱの履修を希望する学生は、必ず2年次に履修してください。

授業内容により、外部実習をイメージした服装を着用してもらうこともあります。諸般の事情によっては外部講師が招聘されず、教員による講義となる場合があります。

科目名	心理実習指導Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	橋本 久美、鈴木 憲治

■講義の目的および概要

本講義の目的は、心理実習指導Ⅰに引き続き、精神障がいに関する知識や意識、実習施設の持つ役割・機能を理解し、公認心理師としての職務内容をイメージしながら外部実習に臨むために必要な基礎的な能力を養うことである。心理に関する支援を要する者等に関する以下の領域に関する知識及び技能の習得を目的とする。

1. 対人コミュニケーション
2. 心理面接
3. 地域支援

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、講義、集団および個別の形態、演習形式等を交えた、多様な方式で指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

教員は、毎回提出後の課題に対する個別及び全体へのコメントをし、学生はコメントの内容を自己評価シートに記載し、指摘された点について理解し内容の定着をはかる。履歴書と実習計画書については、講義内で修正・添削指導を基本とする。

■授業計画

- ①精神障がいについて-精神障がいの特性と実際
- ②精神障がいについて-歴史から学ぶ「障害」の概念と支援について
- ③福祉領域における公認心理師の役割
- ④精神障がい者の人文就労支援に関する法律
- ⑤他職種協働の中で公認心理師に期待されていること 外部講師の講話と討議
- ⑥公認心理師の職務の実際について 外部講師の講話と実技指導
- ⑦実習に関する必要書類（履歴書と実習計画書の書き方）
- ⑧実習に関する必要書類（修正と添削）と実習時の身なりについて

外部講師の講話は都合により日時が変更になることもある。また、諸般の事情によっては外部講師が招聘されず、教員による講義となる場合がある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

心理に関する支援を要する者等に関する以下の領域に関する知識及び技能の習得を目的とする。

1. 対人コミュニケーション
2. 心理面接
3. 地域支援

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業での発言や態度と課題提出（50%）と、履歴書と実習計画書（50%）を総合して成績を評価する。出席を重視する。グループで行う内容が多いので、欠席・遅刻は、極力避けること。

■テキスト・参考文献

【テキスト】なし 必要に応じてプリントを配布する

【参考文献】必要に応じて提示する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、実習についてのキーワードを各自調べておく。心理療法や心理アセスメントに関する知識をまとめておくことよい。事後学習としては毎回の課題を確実に提出すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は、公認心理師になるために必要な科目として文部科学省・厚生労働省で定められている心理実習Ⅰ・Ⅱを履修するために、本学独自に必修としている科目です。心理実習Ⅰ・Ⅱの履修を希望する学生は、必ず2年次に履修してください。

科目名	保育英語(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	デントン ルーカス

■講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、子どもと英語を通してコミュニケーションを取るための基本的な英語表現を身に付ける。英語の歌、絵本、ゲーム、クラフト等を通して自分が使いたい英語表現を発見し、活躍させる。英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができるように、基本的な英語表現を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワーク、グループワーク、ロールプレイを中心に学習する。
- ・小学校と英語学童で得た実務経験をもとに、英語の歌やゲーム等の演習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンス課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 挨拶、自己紹介
- ③ 一言コミュニケーション、ジェスチャー
- ④ 英語の歌 1
- ⑤ 英語の歌 2
- ⑥ 英語のゲーム 1
- ⑦ 英語のゲーム 2
- ⑧ 英語のゲーム 3
- ⑨ 確認テスト、フィードバック、復習
- ⑩ 英語の絵本 1
- ⑪ 英語の絵本 2
- ⑫ クラフト 1
- ⑬ クラフト 2
- ⑭ クラフト 3
- ⑮ 確認テスト、フィードバック、復習

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、子どもとコミュニケーションを取ることができる。
- ・英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。
- ・誰でも分かるように複雑な指示を簡単に説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ① 授業内の活動 30%
- ② 宿題、フレーズブックの提出 30%
- ② 確認テスト (各2回 20%、合計40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要な書類を授業内で配布する。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・学んだ英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・ロールプレイ等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

科目名	保育英語(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	デントン ルーカス

■講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語(基礎) I を踏まえ、子どもと英語を通してコミュニケーションを取るための基本的な英語表現を身に付ける。英語の歌、絵本、ゲーム、クラフト等を通して自分が使いたい英語表現を発見し、活躍させる。英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができるように、基本的な英語表現を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワーク、グループワーク、ロールプレイを中心に学習する。
- ・小学校と英語学童で得た実務経験をもとに、英語の歌やゲーム等の演習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 親との簡単な会話
- ③ 英語と安全
- ④ ショー・アンド・テル (Show and Tell)
- ⑤ 英語のゲーム 1
- ⑥ 英語のゲーム 2
- ⑦ 英語のゲーム 3
- ⑧ 確認テスト、フィードバック、復習
- ⑨ 英語の読解
- ⑩ 英語のライティング
- ⑪ 英語で理科
- ⑫ クラフト 1
- ⑬ クラフト 2
- ⑭ クラフト 3
- ⑮ 確認テスト、フィードバック、復習

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、子どもとコミュニケーションを取ることができる。
- ・英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。
- ・誰でも分かるように複雑な指示を簡単に説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ① 授業内の活動 30%
- ② 宿題、フレイズブックの提出 30%
- ② 確認テスト (各2回 20%、合計40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要な書類を授業内で配布する。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・学んだ英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

科目名	多文化保育論
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	品川 ひろみ

■講義の目的および概要

日本において今後の保育を考えると、外国人児童と日本人児童とともに保育することは不可欠である。日本と外国の児童への保育は単に言葉が通じればよいわけではない。日本人児童にも外国人児童にも望ましい保育のためには、保育者が多文化保育の理論を基礎に、保育で扱う内容や保育の環境に留意しなければならない。この講義では多文化保育について日本や諸外国の事例を用いながら学修をすすめる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義を中心として行うが、できるだけ学習者自身が考え、それについて発表するなど、アクティブラーニングを取り入れて行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回のリフレクションシートの提出に対し、個別の質問ではmanaバを通して返信をする。全体で共有すべき内容については、次の授業の冒頭でフィードバックする。

■授業計画

- ①多文化保育とは何か
- ②外国につながる子どもの状況
- ③外国につながる子どもの具体的課題
- ④多文化保育の現状と施策
- ⑤諸外国の現状（ブラジル）
- ⑥諸外国の現状（ノルウェー）
- ⑦諸外国の現状（スウェーデン）
- ⑧諸外国の現状（カナダ）
- ⑨諸外国の現状（ニュージーランド）
- ⑩違いをどの様に捉えるか
- ⑪多様性を大切にするためには
- ⑫多文化保育の対応 グループ討議 課題の提示（食・言葉・入園時）
- ⑬多文化保育の対応 グループでの議論
- ⑭多文化保育の対応 グループ発表
- ⑮授業のまとめと授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

多文化保育とは何か説明することができる。
保育の中で多様性を大切にするにはどのようなことが必要か考えることができる。
日本や諸外国における多文化保育の現状をわかり説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本科目は心理学科子ども心理専攻のディプロマポリシーの中でも「多様性の理解と協働する力」（DP4）を中心とし、「課題を発見し、解決する力」（DP3）「社会に貢献する姿勢」（DP6）「専門知識・技能を活用する力」（DP1）などの学位授与の方針に沿った教育を行う。

■成績評価基準と方法

成績評価の基準は以下の通りである。
manaバによる毎回のリフレクションシート 30%
小レポート（20%）
授業内試験（50%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に提示しない。

【参考文献】

必要な参考文献については、manaバを通じて提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習はmanaバを通じて提示する。事後学習は授業内に指示する。

【必要な時間】

必要な時間数は事前事後ともに2時間を目安とする。

科目名	保育フィールドワーク(海外研修)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

グローバル化の進展からニーズが高まっている英語力を身につけること、また多文化共生の観点に立った保育のあり方について実体験から学ぶ。オーストラリアのサザンクロス大学（予定）の講義やフィールドワークに参加することで学びを深め、国際的な視野を持つこと、また異文化コミュニケーションの力を養うことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

海外の大学での講義やホームステイなど、海外でフィールドワークを行う。幼稚園での交流やホストファミリーとの日常会話の実践など演習を通して、各自が設定した課題に取り組み、研修後に課題をまとめ報告を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の発表や報告について参加者間で検討するとともに、必要に応じて個別に解説を行う。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 各自の課題の設定
- ③ 海外の大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話の演習
- ④ 海外の大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話の演習
- ⑤ 海外の大学での講義、日常会話の演習
- ⑥ 海外の大学での講義、日常会話の演習
- ⑦ 海外の大学での講義、日常会話の演習
- ⑧ 海外の大学での講義、日常会話の演習
- ⑨ 幼稚園での交流、日常会話の演習
- ⑩ 海外の大学での講義、日常会話の演習
- ⑪ 幼稚園での交流、日常会話の演習
- ⑫ 海外の大学での講義、日常会話の演習
- ⑬ 課題のまとめ
- ⑭ 報告書の作成
- ⑮ 課題の報告

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・サザンクロス大学の教師やホストファミリーと英語でコミュニケーションを図ることができる
- ・幼稚園の訪問を通して、多文化共生の観点から保育を考えることができる
- ・自己課題を設定し、課題に向けて取り組むことができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- 事前準備 (20%)
- 海外の大学における取り組み (60%)
- 研修後の報告 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて紹介する

【参考文献】

必要に応じて紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

海外の大学での講義、訪問先の幼稚園やホームステイ先での場面を想定し、コミュニケーションを図ることができるよう英語表現を習得しておくこと。
訪問先の国や地域の保育の現状について調べること。
日本の文化や住んでいる地域の紹介、また自己紹介など、英語で伝えられるよう準備をすること。

【必要な時間】

事前事後学習の時間は2時間程度を目安とする。

■その他

保育英語(基礎)、保育英語(応用)、多文化保育論を事前に履修しておくことが望ましい。23 (令和5)年4月1日

科目名	保育実習Ⅱ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	増山 由香里、大村 勲夫、愛下 啓恵、木村 彰子、村中 幸子、東 重満、榎本 光邦、橋場 俊輔、蔵満 保幸、青木 美和子、須藤 宏志

■講義の目的および概要

「保育実習Ⅰ」を踏まえ、保育所において保育の全体に参加し、保育計画（指導計画）に基づく設定保育にも取り組むことによって、現場からの助言を受ける。そしてその助言に基づく実習時の課題をまとめ、以後の学習課題とすることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

保育所において12日間（90時間以上）の実習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習日ごとに実習日誌を書き、実習施設の担当職員に提出する。担当職員は実習日誌を読み、コメント欄にアドバイスや次の課題などを記入し、実習生へ返却する。また必要に応じ、口頭にてアドバイスや指導を伝える。実習担当教員からも、必要に応じてアドバイスや指導を行う。

■授業計画

- ① 保育施設の役割と機能について理解する
- ② 保育・養護の一日の流れを理解し、参加する
- ③ 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する
- ④ 保育計画、指導計画、援助計画を理解する
- ⑤ 生活や遊び、援助などの一部分を担当し、保育技術を習得する
- ⑥ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する
- ⑦ 記録や保護者とのコミュニケーションを通して家庭・地域社会との連携を理解する
- ⑧ 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ
- ⑨ 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ
- ⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する
- ⑪ 部分実習・完全実習において、指導案作成、実践、観察、記録、評価に取り組む
- ⑫ 実習のまとめ、および反省

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 保育所の役割や機能の具体的展開を理解することができる。
2. 観察に基づき保育の理解を深めることができる。
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携を学ぶことができる。
4. 責任実習において、指導計画の作成、実践、観察、記録、評価に取り組むことができる。
5. 保育士の業務と職業倫理について具体的に理解することができる。
6. 実践を振り返り、自己課題を明確化することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

実習園での評価：60%

実習日誌・レポート、事前事後の手続：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習ガイドブック

【参考文献】

保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館
 保育指導案大百科事典 開 仁志 一藝社

■授業外学習

【具体的な内容】

「保育実習指導Ⅱ」の内容を十分に理解し、実習準備を整えて実習に臨みますが、実習では日々新たな課題が生じ、その対応を適切に行っていく必要があります。そのためには、これまで学んできた保育士資格取得に関わる専門科目の内容を、実習での実践と関連づけながら学ぶことが大切です。

部分保育や設定保育などを行う場合には、実習時間外に指導案を考え、実習担当職員に提出し、また教材研究も行う必要がある。また実践後は各自準備から当日までを振り返り、実習担当職員に助言をいただきながら、今後の課題を明確化していく。

【必要な時間】

実習科目のため必要な時間は人によって異なる。

■その他

科目名	保育実習Ⅲ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	増山 由香里、大村 勲夫、愛下 啓恵、木村 彰子、村中 幸子、東 重満、榎本 光邦、橋場 俊輔、蔵満 保幸、青木 美和子、須藤 宏志

■講義の目的および概要

「保育実習Ⅰ」を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を實踐し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することと、利用者の特性に合わせた保育のあり方について、体験を重ねながら現場からの助言を受け、より専門的な学びを深めることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

児童福祉施設、あるいは社会福祉施設における実習を12日間（90時間以上）行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習日ごとに実習日誌を書き、実習施設の担当職員に提出する。担当職員は実習日誌を読み、コメント欄にアドバイスや次の課題などを記入し、実習生へ返却する。また必要に応じ、口頭にてアドバイスや指導を伝える。実習担当教員からも、必要に応じてアドバイスや指導を行う。

■授業計画

- ① 養護全般に参加し、養護技術を習得する
- ② 利用者の個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の課題や生活環境にともなう要求を理解し、その対応について学ぶ
- ③ 援助計画を立案し、実践する
- ④ 利用者の家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する
- ⑤ 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ
- ⑥ 利用者の最善の利益を具体化する方法について学ぶ
- ⑦ 保育士としての倫理を具体的に学ぶ
- ⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らして、自己の課題を明確にする
- ⑨ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する
- ⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する
- ⑪ 部分実習・完全実習において、指導案作成、実践、観察、記録、評価に取り組む
- ⑫ 実習のまとめ、および反省

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 施設において保育者として求められる専門知識の基本を確かめることができる。
2. 保育士の専門性と職業倫理について理解できる。
3. 保育実習Ⅰや既習の教科内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を養うことができる。
4. 自己の保育に対する課題や認識を明確化して保育実習の準備を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

実習園での評価：60%

実習日誌・レポート、事前事後の手続：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習ガイドブック

【参考文献】

保育指導案大百科事典 開 仁志 一藝社

■授業外学習

【具体的な内容】

「保育実習指導Ⅲ」の内容を十分に理解し、実習準備を整えて実習に臨みますが、実習では日々新たな課題が生じ、その対応を適切に行っていく必要があります。そのためには、これまで学んできた保育士資格取得に関わる専門科目の内容を、実習での実践と関連づけながら学ぶことが大切です。

部分保育や設定保育などを行う場合には、実習時間外に指導案を考え、実習担当職員に提出し、また教材研究も行う必要があります。また実践後は各自準備から当日までを振り返り、実習担当職員に助言をいただきながら、今後の課題を明確化していきます。

部分保育や設定保育などを行う場合には、実習時間外に指導案を考え、実習担当職員に提出し、また教材研究も行う必要がある。また実践後は各自準備から当日までを振り返り、実習担当職員に助言をいただきながら、今後の課題を明確化していく。

【必要な時間】

実習科目のため必要な時間は人によって異なる。

■その他

科目名	保育内容(環境)[子心]
開講期・単位	3年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

幼児と環境で学んだ知識を生かし、より実践的な理解を深めることを目的とする。実際の保育環境を検討したり、自ら観察した環境とそこで活動する子どもの姿を検討したりしながら、子どもの成長発達にとって良質な環境とはどのようなものか具体的に考えていく。その上で子どもにとって必要な環境を準備できる力をつける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

知識の確認やまとめは講義形式で、環境の検討や環境づくり、活動の計画はグループワークやディスカッションを基本に演習形式で行う。保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実際の環境や子どもの姿を事例として挙げながら講義や解説を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

個別課題は、必要に応じてmanabaからコメントする。全体で共有すべきことは次回の授業で解説を行う。グループ課題は授業内で他学生からの意見を求め、適宜解説を行う。また必要に応じて資料を配布する。

■授業計画

- ① 領域「環境」のねらい及び内容—乳幼児の発達の姿から
- ② 0、1歳児の発達を意識した保育環境—個人差に配慮した保育環境の意義と配慮
- ③ 0、1歳児の発達を意識した保育環境の作成
- ④ 0、1歳児の発達を意識した保育環境の検討
- ⑤ 1、2歳児の発達を意識した保育環境—発達過程と乳幼児の環境との関わり
- ⑥ 1、2歳児の発達を意識した保育環境の作成と検討
- ⑦ 発達及び学びを踏まえた園庭・自然・地域環境
- ⑧ 戸外遊びの実際と配慮（フィールドワーク）
- ⑨ 園庭環境の作成と検討
- ⑩ 幼児の発達を意識した自然環境活動の作成と検討
- ⑪ 3、4、5歳児の学びを支える保育環境—文字、数量
- ⑫ 3、4、5歳児の学びを支える保育環境—身体、思考力
- ⑬ 3、4、5歳児の発達及び小学校以降の学びを意識した保育環境案の作成と検討
- ⑭ 3、4、5歳児の発達を意識した異年齢混合活動の保育環境案の作成と検討
- ⑮ 保育実践の観察と振り返り—自身の課題についての考察（最終課題）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・子どもの発達は周囲の環境によって変化することを理解し、子どもの発達を捉えながら、各年齢に適切な生活環境、室内の遊び環境、戸外遊びの環境を準備することができる。

・身の回りの環境に注目し、保育とのつながりを考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

授業毎コメントシート(20%)
授業内課題(10%)
グループワークの取り組みと報告(20%)
最終課題(50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

環境構成の理論と実践 高山静子 郁洋舎

【参考文献】

学びを支える保育環境づくり 高山静子 小学館
保育とおもちゃ 瀧薫 エイデル研究所
保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館
幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育保育・要領 内閣府 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

幼児と環境で学んだことを復習しておくこと。また実習やボランティア等で観察した保育環境について環境図を作成しまとめておくこと。
自ら作成した環境図と他者のものを参考にしながら、子どもにとって良質な環境とは何かを授業後に再デザインすること。
子どもが使用する生活道具やおもちゃ等について、知識を広げること。

【必要な時間】

事前事後学習の時間は2時間を目安とする。

■その他

自然探索など外部講師によるフィールドワークを行う予定がある。

科目名	保育内容(健康)[子心]
開講期・単位	3年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	蔵満 保幸

■講義の目的および概要

子どもが生涯に渡る心身の健康の基礎を獲得するうえで、必要となる環境や活動について理解を深めます。その中で保育者の果たす役割の重要性を理解し、保育者がとるべき基本的姿勢と具体的援助のありかたについて学びます。領域「健康」における指導上の留意点など、その理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で実施。
グループワーク主体でテーマ研究を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、授業以外にも指導の時間を設けます。

■授業計画

- ①ガイダンス、保育実習の振り返り
- ②子どもと疾病
- ③子どもと環境 あそび環境とメディア
- ④子どもと環境 自然
- ⑤領域「健康」における指導上の課題と対応 子どもの体力
- ⑥領域「健康」における指導上の課題と対応 子どもの生活習慣
- ⑦領域「健康」における指導上の課題と対応 子どもの食
- ⑧テーマ研究Ⅰ テーマ設定、資料検索
- ⑨テーマ研究Ⅱ 資料収集 検討
- ⑩テーマ研究Ⅲ 資料収集 検討
- ⑪テーマ研究Ⅳ 発表資料作成 発表準備
- ⑫研究発表Ⅰ
- ⑬研究発表Ⅱ
- ⑭研究発表Ⅲ
- ⑮発表の振り返りまとめのレポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

乳幼児の発育発達と健康に影響を及ぼす要因について理解を深め、健全な成長と健康の維持増進に関する意識を高めることができる。
ヘルスプロモーションを理解し実践できる。心身の健康だけでなく自然環境や社会環境にも関心を持つことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「幼児教育・保育領域における基礎知識、技術の習得およびそれを基にした専門知識、技能の習得」に基づき、子どもの健康諸問題の解決に対応しうる能力を身に付ける。

■成績評価基準と方法

- | | |
|-----------|-----|
| ・提出物 | 20% |
| ・まとめのレポート | 20% |
| ・テーマ研究と発表 | 60% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

課題への取り組みやテーマ研究への検討等

【必要な時間】

事前事後共に1時間程度

科目名	保育内容(言葉)[子心]
開講期・単位	3年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	大村 勅夫

■講義の目的および概要

「言葉」の領域に関して、乳幼児の言葉の獲得の過程、読み聞かせに関する知識・技術、自分が把握し理解した事柄や、自分が感じたことをそのまま相手に伝えられる文章力や語彙力、幼児向け、保護者向け、職場の上司・同僚向けとさまざまな対象に向けた文章を作成するための文章作成法、語彙力を養うことを目的とする。

【当科目に含む事項：保育内容（言葉）の指導法】

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「幼児と言葉」で学んだ知識をもとに、応用的な話題に加え個人又はグループでの発表とディスカッションによりすすめる。

【当科目に含む事項：保育内容（言葉）の指導法】

【課題に対するフィードバックの方法】

個人・グループによる発表・プレゼンテーションとディスカッション

■授業計画

- ①オリエンテーションー展開・発表分担
- ②絵本の読み聞かせ実践
- ③絵本の読み聞かせ実践
- ④絵本の読み聞かせ実践
- ⑤絵本の読み聞かせ実践
- ⑥絵本とその読み聞かせに関する小テスト
- ⑦紙芝居実践
- ⑧紙芝居実践
- ⑨紙芝居実践
- ⑩紙芝居実践
- ⑪紙芝居とその実践に関する小テスト
- ⑫群読の実践
- ⑬群読の実践
- ⑭群読の実践
- ⑮群読をその実践に関する小テスト・全体のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①言葉の重要性をふまえて、その指導と援助について具体的に方法を考えることができる。
- ②年齢や興味関心に合わせて読み聞かせできる。
- ③日誌や実習記録記載のポイントを理解し、実習に向け準備を進めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

幼児教育・保育領域の基礎的知識、技能および専門知識、技能の修得

- (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

発表	20%
小テスト	50%
読み聞かせ	30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しない。授業時に資料等を配付する。

【参考文献】

参考文献は必要に応じて紹介する。

■授業外学習

- ①「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」学習内容を確認すること
- ②絵本の読み聞かせ、紙芝居披露の練習を繰り返すこと

これらのために、併せて30時間以上は必要となる

■その他

「幼児と言葉」で使用したテキスト、
岡田明『新訂 子どもと言葉』萌文書林
を持参することがのぞましい。

科目名	保育内容(人間関係)[子心]
開講期・単位	3年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

子どもは日々多様な人間関係を経験している。それらの経験が子どもの育ちにどのような影響を与えるのか事例等で検討し、人との関わりの意義について再認識する。その際、保育者は何をどのように援助しているのかにも注目し、子どもを観る視点や援助の方法について学ぶ。
また、他者とつながる活動の案を作成し、自らも協働的に他者と取り組む体験を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

知識の確認やまとめは、保育士と幼稚園教諭の実務経験のある教員が講義形式で行う。これまでの子どもとのかかわりの検討や活動案の作成から発表まで、グループワークやディスカッションを取り入れ検討を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループ課題については授業内で解説し、他学生の意見を求める。個別課題についてはコメントを記載し返却する。

■授業計画

- ① 領域「人間関係」のねらい及び内容について
- ② 乳幼児の活動の姿と人間関係の発達過程一適切な保育実践
- ③ 教師の見守りや援助の重要性
- ④ 乳幼児の活動の姿と学びの関連性一乳幼児期に身につけるべき内容と指導上の留意点
- ⑤ 幼児期と就学以降の学びの連続性
- ⑥ 乳幼児の発達理解と一人一人の個人差に配慮した保育活動の意義
- ⑦ 幼児同士の関わりを意識した保育活動の重要性とその構想
- ⑧ 乳幼児の発達及び学びを踏まえた教材研究の必要性
- ⑨ 0、1歳児の発達を意識した活動案の作成
- ⑩ 2、3歳児の発達を意識した活動案の作成
- ⑪ 3、4、5歳児の発達及び小学校以降の学びを意識した活動案の作成
- ⑫ 3、4、5歳児の発達を意識した異年齢混合活動の活動案の作成
- ⑬ 模擬保育と振り返り（教材研究・情報機器の活用・教師の援助など）
- ⑭ 異年齢混合活動の模擬保育と振り返り（教材研究・情報機器の活用・教師の援助など）
- ⑮ 保育実践の観察と模擬保育の振り返り一自身の課題についての考察

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・他者との多様な関わりの重要性とその実践を知り、実習等に生かす。
- ・人間関係の育ちを意識し、活動や援助について考え、実践することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 授業毎のコメントシート (20%)
- 授業内課題 (10%)
- グループワークの取り組み、発表 (20%)
- 最終課題 (50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」 無藤隆 古賀松香 北大路書房

【参考文献】

保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館
幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

幼児と人間関係で学んだことを復習しておくこと。また実習及びボランティアで観察した“保育者と子どものかかわり”、及び“子ども同士のかかわり”、“実習生と子どものかかわり”の事例について詳しく記録しておくこと。授業内で検討した事例について、授業後自ら振り返り、検討内容を整理すること。

【必要な時間】

事前事後学習の時間は2時間を目安とする。

■その他

グループワークの時間が多いため、主体的・協同的に参加すること。
異年齢混合の活動案と活動の実際について、外部講師による講義を予定している。

科目名	応用演習 I [臨床]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	岡田 顕宏

■講義の目的および概要

社会における心理学の活用方法について理解を深めるための研究実践に関する科目です。心理学研究の方法論を身につけるための基礎として、心理学の研究論文の講義を行います。論文を読むことを通して、論理構造、実証的な方法論、調査・実験計画、分析方法等について理解することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自が、実証的な心理学の研究論文を読んで発表を行い、論文の中で採用されている研究手法や結果の解釈などについてゼミ形式で議論し、心理学研究の方法や論文についての理解を深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の発表のなかで課題などに関するフィードバックを行います。

■授業計画

1. オリエンテーション
 - ①全体でのオリエンテーション
2. 文献講読A

心理学研究についての理解および書式のトレーニング

 - ②文献講読 I ③文献講読 II ④文献講読 III
 - ⑤文献講読 IV ⑥文献講読 V ⑦文献講読 VI
3. テーマ選択A ⑧各自の研究テーマの発表
4. 文献講読B

各自のテーマに関連した文献の講読・発表

 - ⑨文献講読 VII ⑩文献講読 VIII ⑪文献講読 IX
 - ⑫文献講読 X ⑬文献講読 XI
5. テーマ選択B ⑭各自の研究計画の発表
6. まとめ ⑮春学期の報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各自が、研究のためのテーマ設定、具体的な目的の設定、目的と合致した研究方法の組み立てを行い、具体的で実現可能な研究計画を作りあげることが目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回レジュメの事前提出が必要です。
 ゼミ内での発言・毎回の提出物 (30%)、発表 (40%)、レポート (30%)
 毎回の発表およびレポート (宿題) で成績を評価します。発表できなかった場合には評価に影響しますので注意してください。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストの指定はありません。

【参考文献】

心理学実験・研究レポートの書き方 (フィンドレイ著 北大路書房)
 研究論文で学ぶ臨床心理学 (串崎・中田 編 ナカニシヤ出版)
 対人社会心理学重要研究集 1～7 (誠信書房)

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回のレジュメの作成や発表の準備、自分の研究に関わる作業は授業時間外に行うこととなります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

この半期を通して、自分の研究計画書を具体的に作成することになるため、自分の興味に関係のある先行研究を中心に講読を進め、先行研究の知見を得るだけでなく、実験・調査手法や研究パラダイムについて理解することが必要です。

科目名	応用演習 I [臨床]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	高野 創子

■講義の目的および概要

応用演習 I・IIを通して、本ゼミでは積極的に話し合いや共同作業にかかわること、時と場に応じて、挨拶や服装、言葉遣いを意識して行動することを大きな目標としている。これを達成するために、下記の①理論と②実践、③ポスター発表における到達目標を設定する。

春学期は①②に取り組むが、②の実践においては、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて実施することとする。

- ①臨床心理学（精神分析）について理論的に学ぶことを通して、臨床現場のみならず、日常での対人関係において人間理解の手がかりとして活用することができるようになる。
- ②臨床心理学における地域支援について体験的に学び、様々な支援のあり方を説明することができる。またディスカッションを通して他者の視点を学び、自身の視点を練り直すことが出来る。
- ③ポスター作成において、1年間のゼミでの学びや実践についてまとめ、自分のアイディアを活かすことができる。共同作業において、自分のテーマの接点・相違点などを持ちながら加わり、適宜疑問点や感じたことを表現することができる。発表においては、「お礼」などの挨拶はもちろんのこと、相手の視点にたって誠実に応答することができる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ①臨床心理学の文献を用いて、子どもの発達に関わる課題や支援の視点を理解する上での基本的な概念を学ぶ。それぞれの講義のテーマに沿って講師が解説を行った後、課題を提示し、受講者全員でディスカッションを行ない、理解を深める。
- ②支援施設概要について調査し、グループディスカッションを通じて支援者の視点を深めた上で、実際に支援施設の運営を支援する。これらの体験を踏まえ、援助者として支援施設の利用者に対するボランティア活動に参加し、対人援助の関わりについて学ぶ。

本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラー、ボランティア活動などの地域支援の経験のある教員が心理支援の発想と技術をクライアントに活かす視点と対人コミュニケーション能力を養う演習を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の課題、グループワークでまとめた内容を紙面にて提出したものについて、講義内で内容の確認と添削指導を行う。

■授業計画

- ① 3年生合同オリエンテーション（ゼミ決め）
- ② イントロダクション
- ③ 地域支援とは
- ④ 地域支援の注意点
- ⑤ 支援施設運営ボランティア①
- ⑥ 支援施設運営ボランティア②
- ⑦ 子どもと遊び
- ⑧ 発達障害の特徴とその支援
- ⑨ 不登校の理解（1）
- ⑩ 不登校の理解（2）
- ⑪ 仲間関係の発達
- ⑫ 余市教育福祉村での子どもに関わるボランティア支援①
- ⑬ 余市教育福祉村での子どもに関わるボランティア支援②
- ⑭ 余市教育福祉村での子どもに関わるボランティア支援③
- ⑮ 地域支援の振り返り

* 学外での活動日によって講義の順番が変更になることがある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

積極的に話し合いや共同作業にかかわること、時と場に応じて、挨拶や服装、言葉遣いを意識して行動することを大きな目標とする。これを達成するために、下記の①理論と②実践、③における到達目標を設定している。応用演習Ⅰでは①②を、Ⅱでは①②③を具体的な到達目標とする。

- ① 臨床心理学における子どもの発達課題と問題について学ぶことを通して、臨床現場のみならず、日常での対人関係においてその発想を人間理解の手がかりとして活用することができるようになる。
- ② 臨床心理学における地域支援について体験的に学び、様々な支援のあり方を説明することができる。またディスカッションを通して他者の視点を学び、自身の視点を練り直すことができる。
- ③ ポスター作成において、1年間のゼミでの学びや実践についてまとめ、自分のアイデアを活かすことができる。共同作業において、自分のテーマの接点・相違点などを持ちながら加わり、適宜疑問点や感じたことを表現することができる。発表においては、「お礼」などの挨拶はもちろんのこと、相手の視点にたって誠実に応答することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP2「コミュニケーション能力」
DP3「課題を発見し、解決する力」
DP5「能動的に学び続ける力」

■成績評価基準と方法

- ① 毎回の課題提出75%
- ② 定期末の報告書提出25%

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考文献】

地域実践心理学—支えあいの臨床心理学へ向けて(2005)中田 行重 (著)ナカニシヤ出版

■授業外学習**【具体的な内容】**

日ごろから、ニュースや新聞などで心や福祉に関する情報を入手するよう心掛けること。テーマに関する議論で自分の意見が言えるように、テキストや配布された資料以外の文献も自主的に調べて学修をつむこと。

【必要な時間】

本演習は、講義時間外にも課題の実施などが必要となる。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・ 欠席による就学の遅れは、毎回のグループワークのディスカッションに支障をきたす。そのため毎回出席すること。
- 学外での活動は内容によって宿泊を伴うこともある。その際の交通費、宿泊費、食費は自己負担となる。
- ・ 施設支援、子ども支援活動は、週末の土日に開催されるため、各自日程の調整が必要となる。
- ・ 欠席による就学の遅れは、毎回のグループワークのディスカッションに支障をきたす。そのため毎回出席すること。
- ・ 特に学外での活動において、メールや電話での連絡応答が必要になる。日ごろから、メールを確認し、返信を忘れずにすること。
- ・ 自分が健康でないと支援を求める人に応えることはできない。施設見学、支援活動当日に向けて日ごろから自身の体調をよく管理すること。

科目名	応用演習 I [臨床]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	橋本 久美

■講義の目的および概要

臨床心理学領域における基礎的知識、技能の活用能力を高めることが本講義の目的である。各自の研究テーマの探索のために問題意識を明確にする。研究領域としては、身体と心、また脳と心の関連についてである。具体的には、社会不適応やゲーム依存など思春期における生活習慣を中心とした問題提起、ストレスとメンタルヘルスの関連、音響や色彩による心理的効果、脳波計を用いた問題解決等の学習を行う。また、臨床心理の実践を学ぶために各種実験も行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「依存の心理研究」について知識の習得を目的とした演習を行う。レポート、論文を探し、読解、研究への応用を学ぶ。データ集積、統計分析、データ解釈を行うことにより、具体的な研究手法を学ぶ。脳波計を使った実験が全員できるようにする。実験的イベントでは学んだことのまとめを行い、中間発表としてポスターにまとめる。フィールドワークを行い、臨床心理学の実践的学びとすることで、知識と実践の両面からのバランスの良い学習とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

先行研究のまとめに関して、グループディスカッションを行い、その記録をまとめたものにコメントをする。施設訪問では事前学習したうえで見学に臨み、事後学習を行う。適宜、manabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

おおむね以下のように進行する。訪問先の施設の都合によって、見学日が決まってくるため前後の学習内容の入れ替えもありうる。

- ① 関心のあるテーマについて考える。
- ② 文献検索オリエンテーション
- ③ 選んだ論文についての概要をまとめる。
- ④ ③で選んだ論文概要についての発表
- ⑤ グループ分けと個別研究の仮決定
- ⑥ 施設訪問事前学習
- ⑦ 施設訪問
- ⑧ 施設訪問事後学習
- ⑨ ポスター作製1
- ⑩ ポスター作製2
- ⑪ 研究の文献調査 (図書館)
- ⑫ 文献内容をまとめる
- ⑬ 文献レポートづくり
- ⑭ ゼミ内発表
- ⑮ 振り返り、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

関心のあるテーマについて適切な研究方法を選択し、研究計画を立てられるようになる。心理学研究の基本的知識を身につける。施設での見学を通じて心理学実践についての見識を深める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

①質疑応答に対するチェック 30% ②グループ発表内容の評価 40% ③最終レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】個人の研究内容に応じて指示する。

【参考文献】実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方 古谷野亘他 著
ワールドプランニング

■授業外学習

【具体的な内容】心理学研究法として心理統計や研究デザインについて自主的に学習³（令和5）年4月1日するのが望ましい。

【必要な時間】個別学習で予習として2時間以上をかけるのが望ましい。研究によっては各種器材を使用することがあるので、十分にこれらの機材に慣れてほしい。また、復習として授業中のディスカッションで得たアイデアや知識を広げるための文献理解に2時間以上かけることが望ましい。

■その他

ゼミナール合同で脳波測定実験を行うことがある。

科目名	応用演習 I [臨床]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	品川 ひろみ

■講義の目的および概要

この科目では、グループで共通のテーマを決め、そのテーマに沿って、調査・研究を行う。論文執筆の基本的なプロセスを経験することで、調べる・思考する・文章化する・他者と協働するなど、社会人として必要な教養や臨床心理学援助に必要なスキルを獲得することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義はゼミナールごとの少人数で行う。調べる、まとめる、発表する、議論する、などを行うほか、フィールドワークも行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業において課題を設定しそれに取り組み小レポートを提出する。提出されたレポート等についてはコメントを返却する。

■授業計画

- ①オリエンテーション テーマの設定について (合同授業)
- ②テーマの決定 各自の目標および計画の策定
- ③研究計画の発表と議論
- ④研究のすすめかた
- ⑤資料・文献収集
- ⑥資料・文献収集における発表と議論
- ⑦補足資料の収集と報告準備
- ⑧中間報告
- ⑨フィールドワークの対象の理解
- ⑩フィールドワークの準備 (課題の設定)
- ⑪フィールドワークの準備 (質問紙の作成)
- ⑫フィールドワークの実施
- ⑬フィールドワーク報告準備
- ⑭報告会
- ⑮春学期授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会の事象に関心をもち、それについて他者と協働して課題を解決することができる。グループにおいてそれぞれの役割を責任をもって果たすことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回のリフレクションシート50%

中間報告・最終報告50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは指定しない

【参考文献】

参考文献は必要に応じて提示する

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の前にはテーマに沿った資料収集や、参考文献のまとめをしておくこと。授業後には議論を踏まえてその回の授業のまとめを行うこと。

【必要な時間】

事前・事後それぞれ2時間程度とする。

■その他

⑧中間報告と、⑫フィールドワーク、⑭報告会、⑮春学期授業のまとめは必須要件とする。

科目名	応用演習 I [臨床]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	松浦 秀太

■講義の目的および概要

本年度の「応用演習 [松浦]」は「心理療法を考える」というテーマでゼミを行います。

日本の臨床心理学の歴史を振り返ると、心理療法の様々な流派が対話（いがみ合い？）を繰り返しながら進化（？）してきた側面があるように思います。それらのなかには意味ある対話があったことは否定しませんが、単に自分の流派の正当性を主張し、自分以外の流派を貶めるためだけの主張も少なくはありませんでした。私はそのような人たちの対話を遠くから、生暖かい目で眺めていましたが、決して気分がいいものではありませんでした。時は2022年ですし、もういい加減そういう流れから脱却したいんじゃないかと私は思いますが、皆さんはどう思いますか？というゼミを行います。端的に、具体的に、わかりやすく言うと様々な心理療法を学ぶゼミを行うということです。皆さんには様々なセラピーの価値を認め合う人になって欲しいということがこの演習を行う意図であり、目的です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本演習は、臨床心理士資格を有する教員が「心理療法とは何か」をテーマに展開します。まず、担当教員が概論的なレクチャーを行い、レクチャーに対するディスカッションを受講者全員で行います。グループワークやロールプレイを行うこともあります。演習終了後、受講者はリアクションペーパーを記入し、自分の体験を振り返ります。体験と内省による学習が基本となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

上述のように各回、ディスカッションやグループワークを行います。そこで出された意見について担当教員も適宜コメントを述べます。つまり、ディスカッションを通して、フィードバックが与えられることとなります。また、各回、リアクションペーパーに自身の意見や考えを記入してください。次の回に担当教員がそれにコメントすることがあります。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って講義を展開します。進行状況やディスカッションの流れ、理解度によって、順序や内容は変更が生じる可能性があります。その際は学生の皆さんに計画を再提示します。

- ① オリエンテーション（春学期）、ゼミ役割やルールの確認
- ② レクチャー&ディスカッション (1)
- ③ レクチャー&ディスカッション (2)
- ④ レクチャー&ディスカッション (3)
- ⑤ レクチャー&ディスカッション (4)
- ⑥ レクチャー&ディスカッション (5)
- ⑦ レクチャー&ディスカッション (6)
- ⑧ レクチャー&ディスカッション (7)
- ⑨ ロールプレイ (1)
- ⑩ ロールプレイ (2)
- ⑪ ロールプレイ (3)
- ⑫ ロールプレイ (4)
- ⑬ グループディスカッション
- ⑭ 体験発表会
- ⑮ 春学期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

様々な心理療法について知ることを目指します（知るということは、その心理療法ができるようになるということの意味している訳ではありません。何事も、まずは知ることが大事です）。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

以下の3点で評価します。

- A) ディスカッション&ロールプレイ：30%
- B) リアクションペーパー：30%
- C) 期末レポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特にありません。

【参考文献】
宮内泰介・上田昌文（2020）. 実践 自分で調べる技術. 岩波書店（岩波新書1853）.
山田ズーニー（2001）. 伝わる・揺さぶる! 文章を書く. PHP研究所（PHP新書180）.
上野千鶴子（2018）. 情報生産者になる. 筑摩書房（ちくま新書1352）.

その他、必要な資料は適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習として演習内で配布するレジュメや指定する文献をよく読んでおいてください。事後学習としては、授業時の体験を振り返り、リアクションペーパーにまとめてください。次の回で発表してもらいます。自身の考えが他者からどう受け取られたのか、理解してもらったことや理解してもらえなかったことなどを振り返り、その体験からどのような情緒が生じるのか、どのような新しい考えが生まれるのかを体験してください。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

様々な心理療法に興味を持ち、講義に臨んでほしいと思います。

科目名	応用演習 I [子心]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	橋場 俊輔

■講義の目的および概要

運動をすることで身体や脳の健康が保たれるという事は200万年前の祖先から我々が受け継いだ遺伝子に組み込まれています。しかしながら全国の小学生の怪我の発生率は1970年の2.5%から現在は6.0%近くまで増加している。本講義では、運動を絡めた遊びを通して、現代の子供たちの健康問題を様々な角度から探究し、解決策を探ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

現代の子供達の健康問題を探究し、個人にて研究発表を行います。いまある環境を再考し子どもたちの運動を楽しく行うためのプログラムを考えます。「自然の環境を活かした遊び」の現代にマッチした行い方を考えるためにフィールドワーク等も実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

個々それぞれの課題に対して授業中に解説します。また、授業以外にも指導の時間を設けます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②授業計画と課題設定について
- ③現代の子どもの健康という側面から見た運動能力の把握
- ④レクリエーション
- ⑤家庭における食生活・睡眠の現状
- ⑥子ども達を取り巻く「遊び」に関する実地調査
- ⑦子ども達を取り巻く「遊び」に関する実地調査Ⅱ
- ⑧個人課題探求テーマ検討
- ⑨資料収集
- ⑩資料分析・意見交換・課題発見
- ⑪発表資料作成
- ⑫個人探究課題発表
- ⑬個人探究課題発表Ⅱ
- ⑭発表の振り返り
- ⑮まとめ・応用演習Ⅱに向けて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

子どもの健康問題を探究し、現代にあった課題解決方法を見つけることが出来る。研究資料を収集、分析し発表資料を作成することが出来る。自らが習得した知識を実行する行動力を発揮することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
 (DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)
 (DP5)【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)

■成績評価基準と方法

子どもの健康問題を探究し、現代にあった課題解決方法を見つけることが出来る。研究資料を収集、分析し発表資料を作成することが出来る。自らが習得した知識を実行する行動力を発揮することができる。

■テキスト・参考文献

テキスト]
各自の興味のある内容に沿ったものを準備する。

【参考文献】

適宜、文献を紹介する。また、各自、自分の研究テーマに応じた資料収集を行なうこととする。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

自らの課題や授業中指示した課題等の資料を収集し、まとめていただきます。
授業中に自分の意見を述べる事が出来るように常日頃から子どもの運動問題、健康問題に関心を持って下さい。

【必要な時間】

予習・復習の時間は各2時間を要します。

■その他

様々な意見や考えを吸収し自分の考えに取り入れる事が出来るようして下さい。

科目名	応用演習 I [子心]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	村中 幸子

■講義の目的および概要

本講義は「音楽を用いた子どもの遊び」に関して、文献購読とデータ収集、遊びに必要な物の製作、音楽を用いるための基礎トレーニングを行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・各人の体験をもとに、また文献から遊びをリサーチする。
- ・一人がファシリテーターとなって展開したり、全員が子ども役になって展開するなど必要に応じて形を変えて活動する。

【課題に対するフィードバックの方法】

ゼミ生同士のディスカッションやゼミ担当教員からアドバイスを行う。

■授業計画

- ① オリエンテーション、個別面談
- ② 自分の子ども時代や遊びについての話し合い
- ③ 現在の子どもの実態や課題について話し合い
- ④ 音楽を使った遊びのリサーチ
- ⑤ わらべ歌（歌と遊び）1
- ⑥ わらべ歌（歌と遊び）2
- ⑦ こどもの歌と遊び1
- ⑧ こどもの歌と遊び2
- ⑨ 絵本の読み聞かせ1
- ⑩ 絵本の読み聞かせ2
- ⑪ 物語と音の素材1
- ⑫ 物語と音の素材2
- ⑬ 子どもの歌の特徴について話し合い
- ⑭ 先行研究をもとに話し合い
- ⑮ 応用演習Ⅱに向けた取り組みの確認

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①音楽を用いた子どもの遊びに関心を持ち、自分の既知の遊びを伝え未知の遊びを習得する。
- ②その遊びがなぜ面白いのか その中で音楽はどのような役割を果たしているのかを理論的に知る。
- ③授業内での体験をもとに、オリジナルの遊びを段階的に発展させることができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

リサーチと実践 50%
 ディスカッションでの発言20%
 製作内容 30%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

- ・適宜紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

・感想や学びを保育者と子ども両方の視点でまとめ、次回ゼミ内で提示できる資料を作成する。

【必要な時間】

- ・事前事後併せて4時間の学修を行う必要がある。

■その他

科目名	応用演習 I [子心]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	須藤 宏志

■講義の目的および概要

明治の学制発布以降に次々と創られてきた唱歌や童謡などの子どもの歌は、季節や気候、自然や風景、動植物、行事、生活習慣、子どもの心情などを歌っています。これは幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された五領域の複数領域に直接的、或いは間接的に関連しています。この演習では、前半に既存の子どもの歌を幅広く研究し、後半では実際の作詞や作曲の手法について学んでいきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は、既存の子どもの歌を、その作曲の背景やエピソードなどを含めて紹介します。こうした曲を、季節や気候、自然や風景、動植物など、テーマごとに分類し、調性や拍子、小節数などを調べて一覧を作成します。

またゼミ生は、各自にとって未知の楽曲の楽譜や音源等を発掘し、歌詞や音楽の特徴、作詞、作曲の背景などをまとめ、ゼミ内で楽曲紹介のプレゼンテーションを行います。

後半は作詞、作曲を行うための手法を学び、試作を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

楽曲の研究方法や、楽譜等の検索方法について適宜アドバイスを行っていきます。また作詞、作曲の試作は、個別指導により、各学生の課題となる点を中心にスキルアップを目指します。

■授業計画

- ① 教員によるゼミ紹介プレゼン（合同）
- ② オリエンテーション／面談
- ③ 唱歌、童謡、子どもの歌の歴史／面談
- ④ 「春」をテーマとした歌の紹介
- ⑤ 「夏」をテーマとした歌の紹介
- ⑥ 「秋」をテーマとした歌の紹介
- ⑦ 「冬」をテーマとした歌の紹介
- ⑧ 「生き物」「植物」をテーマとした歌の紹介
- ⑨ ゼミ生による楽曲紹介プレゼンテーション(1)
- ⑩ ゼミ生による楽曲紹介プレゼンテーション(2)
- ⑪ 基礎的な作曲技法(1) 歌詞とリズム、旋律の解説
- ⑫ 基礎的な作曲技法(2) 歌詞とリズムの実践／楽曲試作 1
- ⑬ 試作曲 1 のゼミ内プレゼンテーション
- ⑭ 基礎的な作曲技法(3) 旋律と和音／楽曲試作 2
- ⑮ 試作曲 2 のゼミ内プレゼンテーション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

唱歌や童謡など、子どものために作られてきた多くの歌に触れ、作曲年代やテーマなどから分類することができる。

学生各自の育ちの中で、馴染みのない子どもの歌を掘り起こし、魅力のある楽曲について、プレゼンテーションをとおして、その魅力を他者へ伝えることができる。

礎的な作曲技法を理解し作曲できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 馴染みのなかった曲の掘り起こし (Manabaレポート) 20%
- 私の選んだ楽曲紹介プレゼン 20%
- 楽曲の分類表作成 20%
- 楽曲試作 20%
- 試作曲のプレゼンテーション 10%
- 毎回提出するコメント 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
こどものうた200（チャイルド本社）
続こどものうた200（チャイルド本社）
その他、必要に応じて紹介する。

【参考文献】
研究室等所蔵の楽譜など

■授業外学習

【具体的な内容】
学生が育ちの中で歌い馴染んできた子どもの歌は、膨大な楽曲のごく一部に過ぎません。そのような歌を自ら発掘するため、楽譜を検索したり動画を検索するなどの作業が事前事後の課外時間に求められます。このほか楽曲の分類表作成作業、プレゼンの準備なども、課外時間を利用して行う必要があります。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習 I [子心]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

本講義は、臨床発達的基础を実践的に学ぶことを目的とする。前半は、発達のみならず、発達課題などを文献を通して学習するとともに、発達検査にも触れていく。後半は、臨床発達の場合でのフィールドワークを行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は発達に関する文献を読み、分担を決め、レジメ作成、発表を行う。また、発達検査についても学ぶ。後半は、臨床発達の場合でのフィールドワークを行い、実践的に臨床発達について学んでいく。

【課題に対するフィードバックの方法】

発表内容、作成したレジメに対して、助言、指導する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②文献購読の準備
- ③文献検索の方法
- ④文献の購読・レジメ作成と発表①
- ⑤文献の購読・レジメ作成と発表②
- ⑥文献の購読・レジメ作成と発表③
- ⑦文献の購読・レジメ作成と発表④
- ⑧発達検査について①
- ⑨発達検査について②
- ⑩発達検査について③
- ⑪フィールドワークの準備
- ⑫フィールドワーク①
- ⑬フィールドワーク②
- ⑭フィールドワーク③
- ⑮ふり返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

臨床発達に関する雑誌論文などの文献を講読することができる。
アセスメントの基礎を理解することができる。
発達臨床の場合において関わりながら観察することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

レジメ作成 (70%) フィールドワーク報告書 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

適宜、指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ゼミの展開に応じて、
- ①発達臨床に関する文献を講読し、レジメを作成してもらいます。
 - ②事後学習として事例を読んでいただきます。

【必要な時間】

事前、事後学習にはそれぞれ2時間必要となります。

■その他

学外で調査実施、実施日はフィールドの特性、他の授業に影響がない日に合わせるようになる。

科目名	応用演習 I [子心]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

“子ども”や“かかわり”、“つながり”をテーマに文献を読み進めながら、様々な場で様々な人とかかわる活動を計画し実践していく。その際、相手の心の動きのみならず、自分の心の動きにも敏感になり、対話や触れ合い、かかわりやつながりがもたらす影響について考察する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献購読を行い発表、ディスカッションを行う。フィールドワークを行い、記録と考察を積み重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

個人記録は添削を行い、個々に返却する。必要に応じて修正し再提出を行う。

■授業計画

- ① オリエンテーションー各自の関心テーマについて語り合う
- ② 文献購読・発表①
- ③ 文献購読・発表②
- ④ フィールドワーク①
- ⑤ フィールドワークの報告、討議
- ⑥ 文献購読・発表③
- ⑦ 文献購読・発表④
- ⑧ フィールドワーク②
- ⑨ フィールドワークの報告、討議
- ⑩ 文献購読・発表⑤
- ⑪ 文献購読・発表⑥
- ⑫ フィールドワーク③
- ⑬ フィールドワークの報告、討議
- ⑭ フィールドワーク④
- ⑮ 全体の振り返りと今後のテーマの検討

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

相手の心の動きに気づき、寄り添った関わりをしようとする。
本や玩具、言葉や行動など、関わりの中にある見えるモノだけでなく見えないモノにも意識を寄せ、その影響力を感じる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

文献発表・意見交換 (40%)
フィールドワークの報告資料 (20%)
課題 (40%) 課題内容は授業内で伝える。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

学生との話し合いにより決定する

【参考文献】

- 『はじまりは愛着から』佐々木正美 福音館書店
- 『発達がわかれば子どもが見える』乳幼児保育研究会 ぎょうせい
- 『読む力は生きる力』脇明子 岩波書店

■授業外学習

【具体的な内容】

学外で人と関わることもあるため、挨拶や礼儀などマナーを身にしておくこと。
事前に文献を読み、質問や意見等を準備する。文献内の専門用語等わからない単語は
意味を調べノートにまとめる。
フィールドワークの記録を丁寧に行う。提出後返却された記録を読み返し、必要に応
じて修正し再提出を行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

主張することと人の話を聞くことの両方を意識して臨むこと。
保育所・幼稚園・認定こども園でのフィールドワークを実施する予定がある。

科目名	応用演習Ⅱ[臨床]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	岡田 顕宏

■講義の目的および概要

現実社会における心理学の活用方法について理解を深めるための研究実践に関する科目です。心理学に関連したテーマに沿って、実験・調査などの実証的研究を実施し、それらの結果の分析、レポート執筆を行うことを通して、心理学研究の方法論について理解することを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自が、自分自身の興味のあるテーマに関する実証的な心理学の研究論文を読んで発表を行うとともに、調査の実施を想定して、自分自身の研究計画を立ててポスターの形にまとめます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の発表のなかで課題などに関するフィードバックを行います。

■授業計画

各自の研究計画に従って、実験・調査を実施し、データの分析、レポートの執筆、研究内容の発表を行います。以下のようなスケジュールで展開する予定です。

- ①研究計画発表
- ②ゼミ内予備調査Ⅰ
- ③ゼミ内予備調査Ⅱ
- ④研究計画の監視絵
- ⑤実験・調査実施の報告Ⅰ
- ⑥実験・調査実施の報告Ⅱ
- ⑦実験・調査実施の報告Ⅲ
- ⑧実験・調査結果の報告Ⅰ
- ⑨実験・調査結果の報告Ⅱ
- ⑩実験・調査結果の報告Ⅲ
- ⑪レポート執筆指導Ⅰ
- ⑫レポート執筆指導Ⅱ
- ⑬ポスター発表準備Ⅰ
- ⑭ポスター発表準備Ⅱ
- ⑮ポスター発表練習と秋学期の反省

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各自の研究計画に従って、実験・調査を実施し、データの分析・レポートの執筆・発表を行うことを通して、自分自身の研究テーマについて、他者具体的に説明できるようになることが目標になります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

ゼミ内での発言および毎回の提出物 (30%)、実験・調査の実施状況 (20%)、最終レポート (20%)、ポスター発表 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストの指定はありません。

【参考文献】

心理学実験・研究レポートの書き方 (フィンドレイ著 北大路書房)
 研究論文で学ぶ臨床心理学 (串崎・中田 編 ナカニシヤ出版)
 対人社会心理学重要研究集 1～7 (誠信書房)

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回のレジュメの作成や発表の準備、自分の研究に関わる作業は授業時間外に行うこととなります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

この半期を通して、自分の研究計画書を具体的に作成することになるため、自分の興味に関係のある先行研究を中心に講読を進め、先行研究の知見を得るだけでなく、実験・調査手法や研究パラダイムについて理解することが必要です。

科目名	応用演習Ⅱ[臨床]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	高野 創子

■講義の目的および概要

応用演習Ⅰ・Ⅱを通して、本ゼミでは積極的に話し合いや共同作業にかかわること、時と場に応じて、挨拶や服装、言葉遣いを意識して行動することを大きな目標としている。これを達成するために、下記の①理論と②実践、③ポスター発表における到達目標を設定する。
春学期は①②に取り組むが、②の実践においては、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて実施することとする。

- ①臨床心理学（精神分析）について理論的に学ぶことを通して、臨床現場のみならず、日常での対人関係において人間理解の手がかりとして活用することができるようになる。
- ②臨床心理学における地域支援について体験的に学び、様々な支援のあり方を説明することができる。またディスカッションを通して他者の視点を学び、自身の視点を練り直すことが出来る。
- ③ポスター作成において、1年間のゼミでの学びや実践についてまとめ、自分のアイディアを活かすことができる。共同作業において、自分のテーマの接点・相違点などを持ちながら加わり、適宜疑問点や感じたことを表現することができる。発表においては、「お礼」などの挨拶はもちろんのこと、相手の視点にたって誠実に応答することができる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

臨床心理学の文献を用いて、子どもの発達に関わる課題や支援の視点を理解する上での基本的な概念を学ぶ。それぞれの講義のテーマに沿って講師が解説を行った後、課題を提示し、受講者全員でディスカッションを行ない、理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説する。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 施設の概要と支援内容について（1）
- ③ ことばの教室に通う子どもへの支援（1） 余市教育福祉村
- ④ ことばの教室に通う子どもへの支援（2）
- ⑤ ことばの教室に通う子どもへの支援（3）
- ⑥ 各自の研究テーマに向けて①「研究とは何か」
- ⑦ 文献検索
- ⑧ 文献整理とまとめ
- ⑨ ゼミ内発表会①
- ⑩ ゼミ内発表会②
- ⑪ ゼミ内発表会③
- ⑫ ゼミ内発表会④
- ⑬ ポスター制作①
- ⑭ ポスター制作②
- ⑮ ポスター発表練習

* 定期課題として、秋学期補講日に合同ポスター発表会を開催する。詳細は秋学期オリエンテーションにて説明する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

本ゼミでは、積極的に話し合いや共同作業にかかわること、時と場に応じて、挨拶や服装、言葉遣いを意識して行動することを大きな目標としている。これを達成するために、応用演習Ⅰでは①理論を、応用演習Ⅱでは②実践、③ポスター発表における具体的な目標を設定する。

- ①心理療法の大まかなプロセスについて説明することができるとともに、プロセスで生じる様々な現象を人間理解の手がかりとして考えることができるようになる。
- ②臨床心理学における地域支援について体験的に学び、様々な支援のあり方を説明することができる。またディスカッションを通して他者の視点を学び、自身の視点を練り直すことができる。
- ③ポスター作成において、1年間のゼミでの学びや実践についてまとめ、自分のアイディアを活かすことができる。共同作業において、自分のテーマの接点・相違点などを持ちながら加わり、適宜疑問点や感じたことを表現することができる。発表においては、「お礼」などの挨拶はもちろんのこと、相手の視点にたって誠実に応答することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP2「コミュニケーション能力」
DP3「課題を発見し、解決する力」
DP5「能動的に学び続ける力」

■成績評価基準と方法

毎回のゼミの課題提出	60%
中間課題（レジュメ発表）	20%
最終課題提出（ポスター制作・発表）	20%

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考文献】

- ①『地域実践心理学—支えあいの臨床心理学へ向けて』（2005）中田 行重（著）ナカニシヤ出版
- ②「ライブ講義 質的研究とは何か」西條剛央著、新曜社
- ③「心理学論文の書き方」松井豊著、河出書房新社

■授業外学習**【具体的な内容】**

日ごろから、ニュースや新聞などで心や福祉に関する情報を入手するよう心掛けること。テーマに関する議論で自分の意見が言えるように、テキストや配布された資料以外の文献も自主的に調べて学修をつむこと。

【必要な時間】

本演習は、講義時間外にも課題の実施などが必要となる。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・欠席による就学の遅れは、毎回のグループワークのディスカッションに支障をきたす。そのため毎回出席すること。
- 学外での活動は内容によって宿泊を伴うこともある。その際の交通費、宿泊費、食費は自己負担となる。
- ・施設支援、子ども支援活動は、週末の土日に開催されるため、各自日程の調整が必要となる。
- ・特に学外での活動において、メールや電話での連絡応答が必要になる。日ごろから、メールを確認し、返信を忘れずに行うこと。
- ・自分が健康でないと支援を求める人に応えることはできない。施設見学、支援活動当日に向けて日ごろから自身の体調をよく管理すること。

科目名	応用演習Ⅱ[臨床]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	橋本 久美

■講義の目的および概要

本講義は臨床心理学領域における習得した知識、技能の活用能力を高めることを目的とする。応用演習Ⅰで学んだ内容を発展させ、各人のテーマを見つける。先行研究のまとめ、予備調査を行い、ゼミナール発表の形にまとめる。また、フィールドワークとして調査活動に参加する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「課題を発見し、解決する力」を養うことを目的とした演習を行う。それぞれのテーマによる内容のプレゼンテーション、質疑応答を行い、研究計画を確定させる。予備調査や予備実験を行い、研究の実現可能性を確認し、討議する。

【課題に対するフィードバックの方法】

研究計画発表内容をまとめたものに対して担当教員がコメントをする。参考となる資料については紹介をする。適宜、manabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

おおむね以下の通り進行する

- ① 各自の研究テーマをいくつか考える
- ② ①についての発表、意見交換
- ③ 論文検索法
- ④ 仮テーマによるプレゼンテーション (先行研究まとめを含む)
- ⑤ 仮テーマによるプレゼンテーション (先行研究まとめを含む)
- ⑥ 予備実験 予備調査実施
- ⑦ 予備実験 予備調査の報告
- ⑧ 研究テーマ決定に際しての討論
- ⑨ フィールドワーク計画づくり
- ⑩ フィールドワーク (就活について)
- ⑪ フィールドワーク振り返り まとめレポート
- ⑫ 個別研究レジュメ準備
- ⑬ 個別研究レジュメ完成
- ⑭ 発表会
- ⑮ まとめ、今後の研究実施について

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自分なりの研究テーマを絞り込み、先行研究を十分調査した上で、オリジナリティのある研究計画をたてる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

① 質疑応答に対するチェックシート評価 30% ② 発表でのレジュメ評価 40% ③ 学年全体での成果発表の総合評価 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】各人の研究計画に基づき必要に応じて紹介する

【参考文献】数学が苦手な人のための多変量解析ガイド 調査データのまとめかた
古谷野 著 川島書店

■授業外学習

【具体的な内容】論文検索法を身につけ、それを使えるようになること、PCの基本操作、PP作成、エクセル統計、SPSS統計などに慣れることが必要となる。

【必要な時間】

予習として講義前には2時間程度を充てることが望ましい。使用する機材の扱いには慣れておくこと。また、講義におけるディスカッションで得た知見を広げるための文献探索・文献理解を復習として2時間以上を充てることが望ましい。

■その他

ゼミナール合同で脳波実験を行うことがある。

科目名	応用演習Ⅱ[臨床]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	品川 ひろみ

■講義の目的および概要

この科目では、グループで共通のテーマを決め、そのテーマに沿って、調査・研究を行う。論文執筆の基本的なプロセスを経験することで、調べる・思考する・文章化する・他者と協働するなど、社会人として必要な教養や臨床心理学援助に必要なスキルを獲得することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義はグループでの活動を中心とする。グループごとに役割を決め、調べ、まとめ、議論することで、課題（テーマ）にそった結果を明らかにする。また授業の後半では本授業のまとめとして、ポスターを作成し発表会を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回記載するワークシートにはコメントを添えて返却する。共通の課題については、次回の授業冒頭で解説する。

■授業計画

- ①秋学期の授業計画
- ②グループ別テーマの整理
- ③課題の策定
- ④文献収集と課題の整理
- ⑤課題に対する議論
- ⑥フィールドワークのまとめ
- ⑦フィールドワークの内容の議論
- ⑧フィールドワークの報告
- ⑨論点の整理と議論
- ⑩ポスター内容の資料収集
- ⑪ポスター内容の議論
- ⑫ポスター作成（内容の決定）
- ⑬ポスター作成（配置やデザイン・シナリオ）
- ⑭ゼミ内ポスター発表会
- ⑮授業のまとめとレポート（ポスター発表会の参加）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会の事象に関心をもち、それについて他者と協働して課題を解決することができる。グループにおいてそれぞれの役割を責任をもって果たすことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

リフレクションシート20%、フィールドワーク報告20%、ポスター発表30%

ポスター発表会の感想30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは指定しない

【参考文献】

参考文献は必要に応じて提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の前にはテーマに沿った資料収集や、参考文献のまとめをしておくこと。授業後には議論を踏まえてその回の授業のまとめを行うこと。

【必要な時間】

事前・事後それぞれ2時間程度とする。

■その他

ワークシートの提出、中間報告の参加、ポスター発表の参加、最終回の授業およびまとめのレポート提出は必須要件とする。

科目名	応用演習Ⅱ[臨床]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	松浦 秀太

■講義の目的および概要

本年度の「応用演習 [松浦]」は「心理療法を考える」というテーマでゼミを行います。

この世界には様々な心理療法があり、どれもそれなりに効果があるというのが事実のようです。しかし、そういう事実は横において「〇〇療法こそ効果がある」とか「△△療法は世界のスタンダード」という発言をして、心理ワールドを分断させ、混乱に陥れようとする臨床家が後を絶ちません。それらの行為そのものが臨床心理学や心理療法を貶め、延いては自らの信頼をも落としているのに気づかないのでしょうか。もういい加減、分断と混乱を煽る流れから脱却してもいいのではないかと特に、これから臨床現場に出るかもしれない若い皆さんには対立的に心理療法を理解するのではなく、長所と短所を認め合いながら、クライアントと関わることが求められると思いますし、そういうセラピストになって欲しいと思います。つまりこのゼミは様々な心理療法を学ぶゼミを行うということです。皆さんには様々なセラピーの価値を認め合う人になって欲しいということがこの演習を行う意図であり、目的です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本演習は、臨床心理士資格を有する教員が「心理療法とは何か」をテーマに展開します。まず、担当教員が概論的なレクチャーを行い、レクチャーに対するディスカッションを受講者全員で行います。グループワークやロールプレイを行うこともあります。演習終了後、受講者はリアクションペーパーを記入し、自分の体験を振り返ります。体験と内省による学習が基本となります。そして最終的には自分が興味ある分野を見定めていくこととなります。

【課題に対するフィードバックの方法】

上述のように各回、ディスカッションやグループワークを行います。そこで出された意見について担当教員も適宜コメントを述べます。つまり、ディスカッションを通して、フィードバックが与えられることとなります。また、各回、リアクションペーパーに自身の意見や考えを記入してください。次の回に担当教員がそれにコメントすることがあります。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って講義を展開します。進行状況やディスカッションの流れ、理解度によって、順序や内容は変更が生じる可能性があります。その際は学生の皆さんに計画を再提示します。

- ① オリエンテーション（秋学期）、ゼミ役割やルールの確認
- ② レクチャー&ディスカッション（1）
- ③ レクチャー&ディスカッション（2）
- ④ レクチャー&ディスカッション（3）
- ⑤ レクチャー&ディスカッション（4）
- ⑥ ロールプレイ（1）
- ⑦ ロールプレイ（2）
- ⑧ 事例検討（1）
- ⑨ 事例検討（2）
- ⑩ 研究テーマの絞り込み、発表準備（1）
- ⑪ 研究テーマの絞り込み、発表準備（2）
- ⑫ 研究テーマの絞り込み、発表準備（3）
- ⑬ 発表会（1）
- ⑭ 発表会（2）
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

様々な心理療法について知ることを目指します（知るということは、その心理療法ができるようになるということの意味している訳ではありません。何事も、まずは知ることが大事です）。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

以下の3点で評価します。

2023（令和5）年4月1日

- A) ディスカッション&ロールプレイ：30%
- B) リアクションペーパー：30%
- C) 発表会&レポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特にありません。

【参考文献】
宮内泰介・上田昌文（2020）. 実践 自分で調べる技術. 岩波書店（岩波新書1853）.
山田ズーニー（2001）. 伝わる・揺さぶる！文章を書く. PHP研究所（PHP新書180）.
上野千鶴子（2018）. 情報生産者になる. 筑摩書房（ちくま新書1352）.

その他、必要な資料は適宜紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習として演習内で配布するレジュメや指定する文献をよく読んでおいてください。事後学習としては、授業時の体験を振り返り、リアクションペーパーにまとめてください。次の回で発表してもらいます。自身の考えが他者からどう受け取られたのか、理解してもらったことや理解してもらえなかったことなどを振り返り、その体験からどのような情緒が生じるのか、どのような新しい考えが生まれるのかを体験してください。

【必要な時間】
各々2時間以上の学習時間を必要とします。

■その他

様々な心理療法に興味を持ち、講義に臨んでほしいと思います。

科目名	応用演習Ⅱ[子心]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	橋場 俊輔

■講義の目的および概要

応用演習Ⅰの内容を受けて、自らが探求した課題をさらに深掘りしていく。次年度のテーマ研究に向けて、研究課題の設定、先行研究のまとめなどを行い、研究計画を作成することを目的とする

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

現代の子供達の健康問題を探究し、グループにて研究発表を行います。
いまある環境を再考し子どもたちの運動を楽しく行うためのプログラムを考えます。
「自然の環境を活かした遊び」の現代にマッチした行い方を考えるためにフィールドワークやプレゼンテーション等も実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループそれぞれの課題に対して授業中に解説します。
また、授業以外にも指導の時間を設けます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②実習報告、実習から感じたことの共有
- ③現代の子どもの健康問題の把握し課題を探求する
- ④現代の子どもの健康問題の把握し課題を探求するⅡ
- ⑤現代の子どもの健康問題の把握し課題を探求するⅢ
- ⑥レクリエーション
- ⑦グループ内課題探求Ⅰ(検討した様々な健康問題から課題を設定する。)
- ⑧グループ内課題探求Ⅱ(資料収集)
- ⑨グループ内課題探求Ⅲ(資料検討・再収集)
- ⑩グループ内課題探求Ⅳ(資料分析・再収集)
- ⑪グループ内課題探求Ⅴ(発表準備)
- ⑫グループ発表
- ⑬発表振り返り
- ⑭子ども心理テーマ研究構想発表会①
- ⑮子ども心理テーマ研究構想発表会②

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子どもの健康問題を探究し、現代にあった課題解決方法を見つけることが出来る。
研究資料を収集、分析し発表資料を作成することが出来る。
自らが習得した知識をグループ内で発表しまとめることが出来る。
様々な意見を取り入れ調和することが出来る。4年「子ども心理テーマ研究」に向けて、研究テーマを設定し、研究計画を作成、発表ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】
心理学的観点を踏まえて現状を客観的に分析し、課題を明らかにした上で、見通しを立ててその解決に取り組むことができる。

■成績評価基準と方法

- ・ 演習での発言・提出物 40%
- ・ グループ発表 40%
- ・ まとめレポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、配布致します。

【参考文献】

文部科学省 幼児期運動指針 等
適宜、文献を紹介する。また、各自、自分の研究テーマに応じた資料収集を行なうこととする

■授業外学習

【具体的な内容】

グループ課題や授業中指示した課題等の資料を収集し、まとめていただきます。
授業中に自分の意見を述べる事が出来るように常日頃から子どもの運動問題、健康問題に関心を持って下さい。

【必要な時間】

予習・復習の時間は各2時間を要します。

■その他

様々な意見や考えを吸収し自分の考えに取り入れることが出来るようして下さい。

科目名	応用演習Ⅱ[子心]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	須藤 宏志

■講義の目的および概要

唱歌や童謡などの子どもの歌は、季節や気候、自然や風景、動植物、行事、生活習慣、子どもの心情などを歌っています。これは幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された五領域の複数領域に直接的、或いは間接的に関連しています。この演習では応用演習Ⅰで広げた知識や作詞、作曲の技法に基づき、新たな子どもの歌を作詞・作曲し、発表することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

応用演習Ⅰで見聞を広げた子どもの歌について、歌詞や音楽的構造などを更に深く研究し、現代の子どもに受け入れられる歌の創作を行います。完成した曲は楽譜アプリを用いて清書し、楽譜販売サイトに楽譜を登録します。さらに生録、もしくはDTM等を使って音源を作成し、楽曲に適したイラストなどの動画素材を用意し、動画サイトに公開発表します。完成した動画を用いて、ゼミ内で自作曲のプレゼンテーションを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

作品作りの工程では作曲上のルールなど適宜アドバイスしますが、できる限りゼミ生個々の感性を大切にしたいと考えます。楽譜作成、音源作成は専門的なアプリケーションが必要なため、研究室の機材を用います。

■授業計画

- ①オリエンテーション、面談
- ②「秋」をテーマとした詞の題材収集
- ③「秋」をテーマとした歌の作詞・作曲(1)
- ④「秋」をテーマとした歌の作詞・作曲(2)
- ⑤実習報告会
- ⑥「秋」をテーマとした歌の作詞・作曲(3)
- ⑦楽譜販売の設定、手続きについて／楽譜清書
- ⑧音源制作、動画題材の制作
- ⑨「秋」をテーマとした歌の発表／「冬」をテーマとした詞の題材収集
- ⑩「冬」をテーマとした作詞の題材収集
- ⑪「冬」をテーマとした歌の作詞・作曲(1)
- ⑫「冬」をテーマとした歌の作詞・作曲(2)
- ⑬楽譜清書／音源制作／動画題材の制作
- ⑭「冬」をテーマとした自作曲のゼミ内プレゼンテーション
- ⑮4年生のテーマ研究発表会への参加、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

基礎的な作曲技法を理解し作曲できる。
歌詞のテーマを選出し、歌詞として適切なリズムの詞を書くことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

秋をテーマとした歌の作詞・作曲：30%
冬をテーマとした歌の作詞・作曲：30%
ゼミ内プレゼンテーション：20%
毎回提出する作業進捗状況報告：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

研究室所蔵等の楽譜

■授業外学習

【具体的な内容】

作詞、作曲等の創作作業は、静かで落ち着いた環境の中で行う必要があります。また時間を要する作業でもありますから、事前事後の課外活動が欠かせません。音源作成にあたっては、生演奏の録音に時間を要するため、課外に時間を設けて行うこともあります。

【必要な時間】

4時間

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[子心]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

本講義の目的は、心理学の研究法の基礎を学ぶとともに、来年度作成する「テーマ研究」に向けての準備を行う。そのため、調査演習、文献購読、発表などを行っていく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループで実際に調査（フィールドワーク）を行い、そのまとめ（レポート作成）と報告をする。後半は、各自興味のある研究分野の文献購読を行い、レジメ作成するとともに発表する。

【課題に対するフィードバックの方法】

調査計画、調査報告、レジメ作成、発表に対する助言、指導を行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②調査準備
- ③調査計画の作成
- ④調査の実施①
- ⑤調査の実施②
- ⑥調査の実施③
- ⑦調査報告作成
- ⑧調査報告
- ⑨文献の探索
- ⑩文献購読・レジメ作成と発表①
- ⑪文献購読・レジメ作成と発表②
- ⑫文献購読・レジメ作成と発表③
- ⑬文献購読・レジメ作成と発表④
- ⑭実習報告会
- ⑮テーマ研究発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

4年「子ども心理テーマ研究」に向けて、調査方法を理解するとともに先行文献を検索し、購読することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

調査の準備・計画（20%）調査報告（20%）、レジメ作成と発表（60%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

適宜、指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

ゼミの展開に応じて

- ①調査の準備、調査計画の作成、②文献の検索、講読、レジメ作成を行ってもらいます。

【必要な時間】

事前、事後学習にはそれぞれ2時間必要となります。

科目名	応用演習Ⅱ[子心]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

応用演習Ⅰに引き続き、“子ども”や“関わり”、“つながり”を大きなテーマとして活動を進めていく。個々の学生が自らの具体的なテーマを設定し、それについてメンバー間で語り合う。さらにはその具体的なテーマを意識してフィールドに出かけ実践を行い、4年目のテーマ研究の準備を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の具体的なテーマに沿った文献を読み、ディスカッションを行う。フィールドワークを行い、実践を通して思考すること、記録し考察することを積み重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

発表資料の作成、フィールドワークの記録等を添削し、個別に返却する。必要に応じて修正し再提出を行う。

■授業計画

- ① 各自の関心テーマについて語り合う
- ② フィールドワーク①
- ③ 先行研究の要約・発表①
- ④ 先行研究の要約・発表②
- ⑤ フィールドワーク②
- ⑥ 先行研究の要約・発表③
- ⑦ 先行研究の要約・発表④
- ⑧ 図書館絵本コーナーの展示・装飾
- ⑨ フィールドワーク③
- ⑩ 先行研究の要約・発表⑤
- ⑪ 先行研究の要約・発表⑥
- ⑫ フィールドワーク④
- ⑬ フィールドワークの振り返り
- ⑭ テーマ研究の検討
- ⑮ テーマ研究の検討—課題の明確化

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

見る、聞く、感じる、考えることを意識し、自らの言動に生かす。また自分の言動について、意味付けができる。

“子ども”や“関わり”を観る視点を養い、論理的に考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

発表資料の作成 (30%)

意見交換 (30%)

フィールドワークの記録、振り返り (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

学生との話し合いにより決定する

【参考文献】

適宜紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

各自のテーマに関する文献や先行研究を整理し、発表資料を作成する。授業での質問や意見を参考に各自の関心テーマについて、再度文献等を調べる。フィールドワークの記録を丁寧に行う。提出後返却された記録は読み返し、必要に応じて修正し再提出を行う。

【必要な時間】

授業時間外に4時間程度の振り返りや準備が必要

■その他

主体的に、また他者と協力しながら活動をしていくことを期待する。
保育所・幼稚園・認定こども園でのフィールドワークを実施する予定がある。

科目名	応用演習Ⅱ[子心]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	村中 幸子

■講義の目的および概要

前半は春学期に続き「音楽を用いた子どもの遊び」をテーマに進める。「子どもと一緒に遊ぶ」から「子どもの前で演じる」に課題をシフトし、製作、演技や歌などの技能を高める。後半は次年度のテーマ研究に向けて各人が関心のある分野について文献収集・講読を行ない、レジメの作成や発表を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は各自の興味に応じて、音楽を用いたペープサートやパネルシアターなどを製作して練習し、発表し合う。後半は次年度のテーマ研究に向けて各学生が自分で課題を見つけ、先行研究や関連の文献を読み、レジメにまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

演技や演奏に関してはゼミ生同士のディスカッションや担当教員からのアドバイスを受ける。後半のテーマ研究課題のリサーチやレジメ作成について、学生自身が選んだ課題について担当教員が助言を行い、指導する。

■授業計画

- ①オリエンテーションと個別面談
- ②各自製作のリサーチと選定
- ③各自が選んだシアター物の製作①
- ④各自が選んだシアター物の製作②
- ⑤各自が選んだシアター物の製作③
- ⑥各自が選んだシアター物の製作④
- ⑦実演練習
- ⑧発表
- ⑨研究の方法について（資料をもとにした学習）
- ⑩資料の調べ方、集め方
- ⑪先行研究の調べ方
- ⑫研究テーマの設定
- ⑬研究計画の作成
- ⑭研究計画についての発表と意見交流
- ⑮テーマ研究に向けた方向性の確認

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・声による表現、演奏表現の質を上げる。
- ・論文など文献の検索をすることができる。
- ・グループ内で必要な意見の交換ができ、協力して作業を進めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

製作と演技 50%
 ディスカッションでの発言 20%
 研究計画の作成 30%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

- ・必要に応じて適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・製作などが授業内で終わらない場合は個々に持ち帰り仕上げる。
- ・自分の関心がある分野に関する文献を読み、要約をまとめる。
- ・研究計画を作成する。

【必要な時間】

- ・事前事後に併せて4時間の学修を行う必要がある。

■その他

科目名	社会学概論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	小内 透

■講義の目的および概要

本講義では人間の社会と生活のあり方の基本を社会学の主要な領域に即して明らかにします。その際、「社会の基礎」である家族、地域社会、教育、「社会の構造」を形づくる階級・階層、ジェンダー、エスニシティ、「社会の変動」をもたらす高齢化、情報化、国際化についてとりあげます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントのスライドを使用して講義をします。授業内で講義内容に関わるアンケートやクイズなども取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回、授業の感想・意見・質問などをリアクションペーパーに記入してもらいます。感想・意見および質問と回答は次回の授業内でフィードバックします。
- ・提出されたレポートは授業内で全体の講評を行うとともに、代表的なレポート例を紹介しします。

■授業計画

- ①「社会の基礎」：家族の社会的機能（1）—家族の歴史
- ②「社会の基礎」：家族の社会的機能（2）—家族の現状と課題
- ③「社会の基礎」：地域社会の社会的意義（1）—地域社会の原型
- ④「社会の基礎」：地域社会の社会的意義（2）—地域政策の展開と地域社会の変貌
- ⑤「社会の基礎」：社会における教育の役割（1）—教育制度の変遷と教育の特質
- ⑥「社会の基礎」：社会における教育の役割（2）—学歴社会の形成と展開
- ⑦「社会の構造」：階級・階層の形成と展開（1）—現実と概念
- ⑧「社会の構造」：階級・階層の形成と展開（2）—階級・階層的な不平等の再生産
- ⑨「社会の構造」：ジェンダーとセクシャリティ（1）—概念と歴史
- ⑩「社会の構造」：ジェンダーとセクシャリティ（2）—教育におけるジェンダーの形成と再生産
- ⑪「社会の構造」：エスニシティと人種・民族（1）—概念と歴史
- ⑫「社会の構造」：エスニシティと人種・民族（2）—アイヌの民族的復権と課題
- ⑬「社会の変動」：超高齢社会の課題
- ⑭「社会の変動」：情報化社会の光と影
- ⑮「社会の変動」：グローバリゼーション（国際化）の未来

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

家族、地域社会や教育は人々の生活とどのように関係するか、階級、ジェンダー、エスニシティは社会をどのように構造化するのか、また近年の高齢化、情報化、国際化は社会にどのような影響をもたらすのかなどについて理解ができることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

最終レポート、小レポートと授業参加態度により評価します。評価の配分は、最終レポート60%、小レポート20%、授業参加態度20%とします。なお、最終レポートは出席回数が3分の2以上であることを提出条件とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使いません。講義のレジュメをmanabaを通じて配布します。

【参考文献】

長谷川公一他『新版 社会学』有斐閣、2019年
 筒井淳也・前田泰樹『社会学入門』有斐閣、2017年
 小内透『戦後日本の地域社会変動と地域社会類型』東信堂、1996年
 平沢和司『格差の社会学入門〔第2版〕』北海道大学出版会、2021年
 小内透『教育と不平等の社会学理論』東信堂、2005年
 小内透『再生産論を読む』東信堂、1995年
 笹谷春美・小内透・吉崎祥司編著『階級・ジェンダー・エスニシティ』中央法規出版、2001年
 小内透編著『講座 トランスナショナルな移動と定住』（全3巻）、御茶の水書房、2010年
 小内透編著『講座 先住民族の社会学』（全2巻）、東信堂、2018年

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

授業時の最後に次週の学習について予告するので、配付資料の該当箇所の事前学習を行うとともに、授業内容で理解しきれなかったことや興味をもったことについて、提供資料、参考文献等をもとに復習したり、発展的な学習をしたりしてください。

【必要な時間】

事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	教育課程論 I
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	木村 彰子

■講義の目的および概要

本講義の目的は、幼稚園教育要領・保育所保育指針を基準として編成される「教育課程」及び「全体的な計画」について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各園の実情に合わせてカリキュラムを編成することの意義を理解することである。また、「教育課程」及び「全体的な計画」や長期の指導計画をもとにした短期の指導計画作成を行い、自身が編成主体であることを自覚する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストの内容に沿ったパワーポイントでポイントになる部分を解説をする。実際の保育現場や幼児の姿を思い起こしながら検討できるよう、ビデオ映像を使用したり、幼稚園教諭であった実務経験のある教員が幼児の事例を伝えたりしながらすすめていく。グループワークで互いの考えを交流し合うこともある。授業途中や授業後にプリントやmanaba等で課題に取り組むこともある。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業最後の課題については、次の回の最初にフィードバックを行う。

■授業計画

- ① 幼児教育の原点
- ② 幼児教育で重要な非認知能力
- ③ 教育課程・全体的な計画とは
- ④ カリキュラムマネジメント
- ⑤ 短期の指導計画作成の基本の確認
- ⑥ 指導案作成—保育者の援助、配慮について
- ⑦ 実践から考える教育課程
- ⑧ 教育課程・全体的な計画編成で重要なこと
- ⑨ 子どもの育ちと保育—幼児期の終わりまでに育ってほしい姿1
- ⑩ 子どもの育ちと保育—幼児期の終わりまでに育ってほしい姿2
- ⑪ 子ども主体の保育と指導計画
- ⑫ 指導計画と幼児期にふさわしい生活
- ⑬ 長期の指導計画で活動を限定しない方が良い理由
- ⑭ 「教育課程・全体的な計画」編成の実際
- ⑮ 「教育課程・全体的な計画」から保育の実際まで

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育における「教育課程」「全体的な計画」の役割や意義を説明することができる。
 - ・「教育課程」「全体的な計画」編成の基本原理及び教育・保育実践に即した編成の方法を理解する。
 - ・「幼児期にふさわしい生活」をもとにした「教育課程」はどうあるべきか、説明することができる。
 - ・短期の指導計画において、様々な環境やねらいに応じた援助を考えることができる。
- (幼稚園免許・保育士資格必修)

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- 提出課題 50%
- 定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「教育課程・保育の計画と評価 書いて学べる指導計画」岩崎淳子、及川留美、粕谷亘正 萌文書林

【参考文献】

- 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館
- 「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
- 「保育指導案大百科事典」開仁志 一藝社

■授業外学習

【具体的な内容】

授業内・授業後にはmanaba等で課題を提示する。
授業内で伝えたテキストのページを読み理解しておくこと。

【必要な時間】

本科目は2単位であるため、授業の事前事後を目安とする。学修併せて2時間

■その他

提出課題については期限厳守を求める。
テキストは必ず毎回持参すること。
参考文献が必要な場合は授業で伝える。

科目名	文献講読演習 I
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	佐藤 徹男

■講義の目的および概要

心理学的知見に関する適切な知識を獲得するためには、最新の論文を含む、英語で書かれた原典を読解することが不可欠になります。本講義の目的は、英語論文の翻訳作業を行いながら、心理学の知識、心理学論文における英語表現の理解などを身につけることです。また、英語で書かれた論文を理解するために必要な日本とは異なる教育や社会の制度、文化について講師が説明します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は、基本的な英文法の理解、心理学用語（英語）の確認、論文の読み方の指導を行います。後半では、受講者の興味を基に英語論文を決定し、各自割り当てを決め英語論文を翻訳してもらいます。授業の最後には各自、自分の割り当てられた箇所のプレゼンテーションをし翻訳も提出してもらいます。米国で心理学の研究や臨床を長年行ってきた講師が、英語の論文を理解するために必要なバックグラウンドも含め解説していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中の英語の翻訳には、随時講師がフィードバックを行います。プレゼンテーションへも口頭でフィードバックをします。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 英文法の理解1
- ③ 英文法の理解2
- ④ 英文法の理解3
- ⑤ 英文法の理解4
- ⑥ 英文法の理解5
- ⑦ 心理学文献講読1
- ⑧ 心理学文献講読2
- ⑨ 心理学文献講読3
- ⑩ 心理学文献講読4
- ⑪ 心理学文献講読5
- ⑫ 心理学文献講読6
- ⑬ 心理学文献講読7
- ⑭ 授業内テスト
- ⑮ プレゼンテーションと翻訳の提出

オンデマンドと遠隔授業（zoom）を合計7回まで実施する可能性がある。実施前には事前にmanaba等で連絡をする。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

心理学領域の英語論文を読めるようになる。
心理学的な概論書を英文で理解できるようになることが目標です。
心理学に関する専門領域の文献を読むことができる。

ただし、元々の個人の英語力は違うため、それぞれの英語力が向上し英文を以前より読めるようになること、英文を読むということに抵抗を少なくすることも目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

授業内の取り組み／態度：40%
テスト：30%
プレゼンテーションと翻訳：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
英文法の理解に関しては、毎回プリントを配布します。

【参考文献】
山崎 有紀子（2017）心理英語 読解&文法マスター ナツメ社
Psychology Today, Sussex Publishers

■授業外学習

【具体的な内容】
授業で学んだ心理学に関する語彙や文法はしっかり復習してください。授業中に終わらなかつた翻訳は、宿題とするので次回の授業までに終わらせておくこと。
プレゼンテーションは各自パワーポイントで制作してもらうので、授業外の時間に取り組むこと。

【必要な時間】
事前事後学習として2時間を目安とする。

■その他

英語の授業を既に修得し、英語の基本的な文法を身につけていることが必要です。

心理学系の大学院に進学予定の人は、履修する事を勧めます。

科目名	子ども理解の理論と方法
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	榎本 光邦

■講義の目的および概要

幼児の心身の発達過程とその説明理論を学びとること、及び、それらの理論に基づく、保育方法を理解できること、また、幼児理解のための査定方法を理解することを目標とする。具体的には、以下の点を目的とする。

- ① 幼児理解の意義を理解できる
- ② 発達や教育の理論を保育に応用できる
- ③ 観察、記録に基づき、具体的な子どもの特徴を考察できる
- ④ 子ども困った行動に対して、適切に対応できる力を育む。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討、分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

本講義は、公立・私立保育園・幼稚園、公立小学校や公立教育相談室において、教育相談や特別支援教育（障がい児教育）に関する巡回相談の実務経験のある教員が、その経験を生かして、各発達段階の子どもの理解を促し、子どもを理解する理論や方法について具体的に講義します

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義時に行います。

■授業計画

- ① 幼児教育と幼児理解
- ② 「理解する」とは
- ③ 子どもの発達や学びの理解—理論と方法
- ④ 遊びと幼児理解
- ⑤ 幼児理解を深める保育者の基本的姿勢
- ⑥ 保幼小をつなぐ理解—幼児理解と児童理解
- ⑦ 幼児理解の目的と方法
- ⑧ 保育の実践のための記録
- ⑨ クラス集団の理解と指導
- ⑩ 保育者の自己理解と保育の改善
- ⑪ 幼児のつまずきの理解とその対応
- ⑫ 幼児理解を磨く場としての園内研修
- ⑬ 保護者との連携と理解
- ⑭ 事例を通して幼児理解とその対応を学ぶ
- ⑮ 映像教材を活用した授業の展開

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

幼児理解は、幼児教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園・保育園等における幼児の生活及び遊びの実態に即して、幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理及び対応の方法を考えることができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験（レポート形式・50%）に、毎回の受講後に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

幼児理解の理論と方法 神長美津子・岩立京子・岡上直子・結城孝治 編著／松野洋子・市川舞・中野圭祐・森下葉子・稲川知美・菅綾・町田理恵・塩谷香 共著 光生館

【参考文献】

随時紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事後学修として、当日の授業内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。また、シラバスに提示されている次時の内容について大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートに予習として記載しておくこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心をもって下さい。

■その他

講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。

科目名	保育内容(表現)[子心]
開講期・単位	3年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	村中 幸子

■講義の目的および概要

1年次の「保育表現」2年次の「幼児と表現」で習得した内容を応用し、幼児期に相応しい音楽表現の指導法を、幼児の発達や生活と関連付けて理論的・実践的に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・保育の場で実践される歌や楽器演奏などの音楽表現を体験し、幼稚園における音楽指導の実務経験のある教員から、その構成と指導法について学ぶ。
・絵本の読み聞かせやパネルシアターなど指導現場で必要なツールを用い、音楽以外の表現方法について学ぶ。

【課題に対するフィードバックの方法】

・各回の振り返りに書かれた内容に対する解説、試験後の講評を授業内で行なう。

■授業計画

- ①5領域の一つである「表現」の狙いと内容及びは領域との関わりや、小学校で学ぶ教科とのつながりについて
- ②表現指導に必要な音楽技法①
- ③表現指導に必要な音楽技法②
- ④音楽を用いた子どもの遊び：歌唱全般
- ⑤音楽を用いた子どもの遊び：手遊び、わらべ歌
- ⑥音楽を用いた子どもの遊び：身体表現
- ⑦楽器の分類と活用法
- ⑧サウンドスケープ：環境の中の音探しと創作
- ⑨音楽つき絵本の読み聞かせ：場面にあった音作り
- ⑩音楽つき絵本の読み聞かせ：練習と発表
- ⑪パネルシアター①
- ⑫パネルシアター②
- ⑬表現遊びの指導案作りと評価の方法
- ⑭表現遊びの計画と模擬授業①
- ⑮表現遊びの計画と模擬授業②

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・年齢に相応しい教材の選択と指導ができる。
・歌やピアノ、視覚教材の製作など、学習者の得意な分野を表現の指導に活かすことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

発表や制作・提出物 50%、各回の振り返りシート 30%、レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

こどものうた200、続こどものうた200 小林美実 編 チャイルド本社

【参考文献】

幼稚園教育要領（平成29年3月）、同解説（新）

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外で準備する課題について、その都度指示する。持ち寄った課題をテーマにして授業を進めるので、必ず期限内に取り組んで用意すること。

【必要な時間】

予習・復習は週2時間を目安とする。

■その他

・動きやすい服装で（スカート、極端なワイドパンツ、短パン等やアクセサリ類は不可）。
・テキストや筆記用具を忘れずに持参すること。

科目名	経済学概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	金盛 直茂

■講義の目的および概要

経済学は初めての方が多くと思います。経済学は、今を生きるために必要な道具です。決して学者や官僚の方々だけが知っていれば良いものではありません。この企業に入社すべきなのか？この人と結婚すべきなのか？いま、家は建てるべきなのか？人生の重大な選択の際、経済学はあなたに示唆を与えてくれます。

本授業で経済学を学ぶことによって、現実の様々な問題（身近な日常の問題から世界の問題まで）を、経済学的思考で、考えることができるようになるでしょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

最初の1/3は、経済の仕組みについて授業を行い、経済学の基礎を身につけます。真ん中の1/3は、経済学の知識をもとに、日本の財政、労働、社会保障、金融についてみていきましょう。最後の1/3は、グローバル経済について考えます。教科書は特に利用しません。プリント資料を配布します。毎回、授業の中で問題演習を行います。また、授業の最後に、小テストを行い、授業時間以外では、課題を提示するのでそれを行ってください。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テスト・課題については、次回の授業中に解説を行う。

■授業計画

受講者の理解度に応じて調整は行いが、以下の15回を予定している。

1. ガイダンス：経済学とはどのような学問かを理解する。
2. 経済学の考え方① トレードオフと費用
3. 経済学の考え方② 経済循環図
4. 経済学の考え方③ 需要と供給から市場を理解
5. 経済学の考え方④ 需要と供給を使って、様々な市場に応用
6. 経済学の考え方⑤ 市場の失敗と政府の役割を理解する。
7. 日本経済の仕組み① GDP
8. 日本経済の仕組み② 日本の財政・金融政策
9. 日本経済の仕組み③ 労働力減少と社会保障
10. 日本経済の仕組み④ 公的年金制度・医療保険制度
11. 日本経済の仕組み⑤ 生活保護制度
12. 世界経済の仕組み① グローバル化の功罪
13. 世界経済の仕組み② 国際金融
14. 世界経済の仕組み③ TPP, FTA
15. まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

本授業の目標は、次の3つです。1つは、経済学（主に、ミクロ経済学とマクロ経済学）の基礎を学び、ニュースや新聞の記事を経済的視点で考えることができることです。2つ目は、日本のさまざまな制度や、その問題点を経済学の視点で考えることができるようになることです。3つ目は、国際経済学の基本を学び、世界経済の仕組みを理解することです。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

小テスト40%、
定期試験60%で評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は特に指定しません。プリントを配布します。

【参考書】

- ① 『マンキュー入門経済学 第3版』マンキュー 東洋経済新報社
- ② 『1からの経済学』 中谷 武, 中村 保 碩学舎

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回課題を提示しますので、それについて考えてください。また、授業内容の発表の機会を設けます。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

高校で学んだ政治経済の知識はなくても構いません。しかし、経済学を学びたいという強い意欲は、必ず持って授業を受けてください。よって、当たり前ですが、授業中の私語は厳禁です。

科目名	子どもの食と栄養(基礎)[子心]
開講期・単位	3年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	山本 たか子

■講義の目的および概要

子育て、子育てを支援していく中で、「食べる」行為から形成される人間関係など「食」が乳幼児期の心身の好ましい発達に影響を及ぼすことを理解し、味覚や食嗜好の基礎形成等が生涯を通じた健康維持につながることを理解します。また、保育に係る上で多角的な視野を持ち、食生活を通して生涯にわたり良好な健康状態を維持する手法を学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で進めます。習得した内容に基づき小レポート、小テスト、振り返りシート、グループワーク、実習や個人発表を行い能動的な学習を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

小レポートや振り返りシートなどにより、講義内容の定着を図ります。

■授業計画

- ①オリエンテーション 自己紹介 講義概要と授業計画 「子どもの食と栄養」を学ぶ目的
- ②子どもの心身の健康と食生活、現状と課題について
- ③子どもの発育・発達と食生活 ～機能発達と消化吸収機能の発達～
- ④栄養に関する基礎知識 (1) (糖質・脂質・タンパク質)
- ⑤栄養に関する基礎知識 (2) (ビタミン、ミネラルなど) エネルギー代謝について
- ⑥献立作成 調理の基本
- ⑦妊娠期(胎児期)における食生活
- ⑧乳児期の心身の特徴と食生活の関係 乳汁栄養
- ⑨離乳の意義とその実践 乳児期の栄養上の問題と健康への対応
- ⑩調理実習「離乳食」「幼児食」レポート提出
- ⑪幼児期の心身の発達の特徴と食生活の関係 実践
- ⑫幼児期の間食の意義とその実践
- ⑬幼児期のお弁当について
- ⑭幼児期の食生活上の問題と健康への対応
- ⑮定期試験 春季の振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子どもの食生活がどれだけ心身の健康や発達に影響を及ぼしているか、「食」の意義は大人と異なることの重要性を認識し、年代ごとの食生活の特徴を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

<DP1>専門知識(ここでは栄養に関して)、技能を修得し、活用することができる。

<DP4>多様性の理解と、協働する力の形成

■成績評価基準と方法

定期試験 60% 振り返りシートや小レポート 小テスト 20%
課題 10% 調理実習 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養
堤ちはる・土井正子 編著 萌文書林 本体2400円+税

【参考文献】

新食品成分表foods2022 とうほう

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

日頃から「食」に関する事柄に目を向けてください。自身の食生活、保育園児の食に係る情報、新聞掲載の記事、乳幼児の健康に関する内容に関してアンテナを張り関心を向けて見ておいてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、2時間を目安とする。

■その他

調理実習を実施するので、実習材料費用として500円程度徴収します。

科目名	子どもの食と栄養(応用)[子心]
開講期・単位	3年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	山本 たか子

■講義の目的および概要

春季で学んだ基礎的な栄養に係る項目や、乳幼児期においてそれぞれの年代での食生活の違いを確認したうえで、食育とは何か、施設での食事と栄養、疾病や食物アレルギー、障害を持つ子供への対応を理解し、効果的な食育教材の作成を通して、保育士として今後活用できる「食」への応用力を修得していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で進めます。習得した内容により、小レポート、小テスト、振り返りシート、グループワーク、教材作成、個人発表を行い能動的な学習を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストや振り返りシートなどにより、講義内容の定着を図ります。

■授業計画

- ① 応用オリエンテーション 講義概要と授業計画 学童期・思春期の食生活
- ② 学童期・思春期の食生活の問題と健康への対応 学校での食育
- ③ 成人期・高齢期の食生活と健康への対応 (乳幼児期からの関わり)
- ④ 食育の意義・目的と考え方、推進方法
- ⑤ 食育の計画と評価
- ⑥ 食育教材作成(1)～食育かるた、紙芝居など～グループワーク
- ⑦ 食育教材作成(2)～食育かるた、紙芝居など～グループワーク
- ⑧ 食育教材のグループごとの発表、考察、職種間の連携、食生活指導
- ⑨ 家庭、児童福祉施設、児童養護施設における食事と栄養
- ⑩ 保育所給食の概要と実際
- ⑪ 疾病、体調不良時の症状と食生活
- ⑫ 食物アレルギーの対応について
- ⑬ 食物アレルギーの治療、エピペンの使用について
- ⑭ 摂食・嚥下機能障害児の食生活の実際
- ⑮ 定期試験、子どもの食と栄養のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

食育の重要性を理解し、国の施策に基づいた食育を保育所などで実践する力、家庭や地域との連携を考慮する力を形成する。施設内で安全な食事を提供する知識や、特別な配慮を必要とする児への対応を修得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

<DP3> 課題を発見し、解決する力
<DP5> 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

定期試験60% 振り返りシートや小レポート 小テスト 20% 課題 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

春季と同じく子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養 萌文書林 本体2400円+税

【参考文献】

新食品成分表foods2022 とうほう
厚生労働省「保育所におけるアレルギーガイドライン」

■授業外学習

【具体的な内容】

子どもの生活と食事の関りを理解し、自身の食生活の振り返り、良好な状態の維持のためにどのような事柄が大切なのか、健康と食に関する情報を見聞してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、2時間を目安とする。

■その他

食育教材は、ぜひ保育園や幼稚園でも活用する機会を見つけてほしいと思います。

科目名	保育実習 I [子心]
開講期・単位	3年 春学期・選択 4単位・実習
担当者	増山 由香里、大村 勲夫、愛下 啓恵、木村 彰子、村中 幸子、東 重満、榎本 光邦、橋場 俊輔、蔵満 保幸、青木 美和子、須藤 宏志

■講義の目的および概要

保育所の園児や施設の利用者と触れ合い、保育者や施設職員の職務の実際を目の当たりにしながら、その役割や環境構成を理解し、実習保育所・施設の全体像の理解を図ることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

保育所12日間（90時間以上）と児童福祉施設、あるいは社会福祉施設における実習12日間（90時間以上）を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎日実習日誌を書き、実習施設の担当職員に提出する。担当職員は実習日誌を読み、コメント欄にアドバイスや次の課題などを記入し実習生へ返却する。巡回担当教員から、必要に応じて助言を行う。

■授業計画

- ① 保育施設・実習施設について理解する
- ② 保育・養護の一日の流れを理解し、参加する
- ③ 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する
- ④ 保育計画、指導計画、援助計画を理解する
- ⑤ 生活や遊び、援助などの一部分を担当し、保育技術を習得する
- ⑥ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する
- ⑦ 記録や保護者とのコミュニケーションを通して家庭・地域社会を理解する
- ⑧ 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ
- ⑨ 保育士としての倫理を具体的に学ぶ
- ⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する
- ⑪～⑬ 部分実習・完全実習(指導・援助・介助)
- ⑭ 実習のまとめ、および反省
- ⑮ 課題レポートの提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。
2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深めることができる。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について理解することができる。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解することができる。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

実習園での評価：60%
 実習日誌・レポート、事前事後の手続き：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習ガイドブック

【参考文献】

保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館
 保育指導案大百科事典 開 仁志 一藝社

■授業外学習

【具体的な内容】

3年春学期「保育実習指導Ⅰ」の内容を十分に理解し、実習準備を整えて実習に臨む。
実習中は日々新たな課題が生じ、その対応を適切に行っていく必要があるため、保育士資格取得に関わる専門科目の内容などこれまでの学びと実習での実践とを関連づけながら学ぶ。
部分保育や設定保育などを行う場合には、実習時間外に指導案を考え、実習担当職員に提出し、また教材研究も行う必要がある。

【必要な時間】

実習科目のため必要な時間は人によって異なる。

■その他

資格取得に必要な単位を概ね修得済であり、3年春学期の「保育実習指導Ⅰ」の審査を通過し、必要な実習準備が整っていることが、保育実習Ⅰを行う条件となる。

科目名	保育実習指導 I [子心]
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	増山 由香里、愛下 啓恵、橋場 俊輔、須藤 宏志

■講義の目的および概要

保育所・各種福祉施設での実習を意義あるものとするために、事前に必須の事項について学習する。主たる内容は、保育所理解、各種施設理解、実習の目的や意義の理解、実習の心構え、実習日誌の書き方、先輩からのアドバイス、保育所・施設職員からのアドバイス等によって展開する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実習に向けてのガイダンスや保育所・施設職員からのアドバイスなどは講義形式で行う。また、学外実習や部分実習のための遊びや表現については、グループ演習の形態で指導を行う。

幼稚園・保育所での実務経験のある教員が、指導案や日誌の作成など、具体的な内容について適宜指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、必要に応じて教員が赤入れをして返却し、訂正したものを改めて提出する。また弾き歌いなどの実技を伴う課題は、課題通過が難しいと見込まれる場合、個人の技量に合わせたアドバイスを行う。

■授業計画

- 1 実習の目的と意義、心構えについて
- 2 先輩学生からのアドバイス
- 3 実習に向けて①保育所
- 4 保育所実習の日誌の書き方
- 5-6 観察実習
- 7 子どもの興味関心を引き出す視点
- 8 子どもと活動を共にするポイント
- 9 造形ワークショップ
- 10 実習までの手続き
- 11 実習課題の立て方
- 12 実習に向けて②児童発達支援
- 13 実習に向けて③児童養護施設
- 14 指導案作成のポイントと設定保育に向けた準備
- 15 書類の準備
- 16 施設実習の日誌の書き方
- 17 オリエンテーションの手続きと実際
- 18-25 グループ授業【1設定保育の準備 2実習(設定保育) 3弾き歌い 4あそび】
- 26-28 グループ授業【実習前課題の確認：1演じるもの 2手遊び・わらべうた 3絵本】
- 29 実習ファイル等の準備実習前課題の確認
- 30 まとめ(実習と事後について)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

実習を円滑に行うための準備を行ったり、実習先の特徴やそれに応じた知識を学び、学外の実習に対応できるようになる。また、社会人としてのマナーを身に付け、ふさわしい言動を行えるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 観察演習の日誌 (20%)
- 提出物 (20%)
- 実習に向けた準備・審査 (40%)
- 授業への取り組みコメントシート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
実習ガイドブック
適時プリントを配付する

【参考文献】
保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館
保育指導案大百科事典 開 仁志 一藝社

■授業外学習

【具体的な内容】
実習に向けた調べ学習や資料収集、教材研究等の準備や、子どもの歌の弾き歌い、シアター系の演技の練習を行う。
また実習ガイドブックに目を通し、保育実習の内容を深く理解しておくこと。

【必要な時間】
課外時間等を利用して2時間を目安に自ら行うこと。

■その他

国家資格取得に関わる授業であるため、原則として欠席は認めない。やむを得ない理由で欠席する場合は事前に申し出て、それを補う課題提出や必要に応じた補講を求めらる。また欠席した場合は、その回の内容把握に自ら努めること。

学外での実習やワークショップを予定している。

科目名	音楽 I (歌唱・理論応用)
開講期・単位	3年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	須藤 宏志

■講義の目的および概要

本授業では、音楽 I (歌唱・理論基礎)で習得した音楽理論をベースに、保育現場の実践で役立つ伴奏付けのための知識や技術を養うこと、子どもの歌に多く触れ、季節や行事等に合わせた適切な歌を選んで歌えるようになること、以上の二点を目的としています。

理論の解説、子どもの歌の歌唱、コードネームによる和音演奏などの実技により展開していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回の授業は理論、歌唱、ピアノ実技、以上の三部構成で進めていきます。音楽理論は授業3回を一つのサイクルとし、このうち2回を使って解説を、3回目に復習テストを行います。

子どもの歌の歌唱は、季節、行事などのテーマから選曲し鑑賞、歌唱します。実技では、子どもの歌によく用いられるコード記号を理解して弾きます。復習テストと同じ回にコード奏の実技テストを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

挨拶のうたは毎回歌唱します。その際に交代で1人ずつ伴奏を担当するため、課外時間に各自練習をして下さい。練習の成果や次の課題となる点については、演奏後にフィードバックし、また空き時間等を使って個別にアドバイスを行うことが可能です。

■授業計画

- ①和音1：和音の構造、種類、転回形、和音記号／季節の歌
- ②和音2：三和音、四和音／子どもの歌
- ③復習テスト1／コード実技テスト1
- ④和音伴奏付け1／季節の歌
- ⑤音伴奏付け2／子どもの歌
- ⑥復習テスト2／コード実技テスト2
- ⑦コードネーム（三和音1）／子どもの歌
- ⑧コードネーム（三和音2）／季節の歌
- ⑨復習テスト3／コード実技テスト3
- ⑩コードネーム（4和音1）／子どもの歌
- ⑪コードネーム（4和音2）／子どもの歌
- ⑫復習テスト4／コード実技テスト4
- ⑬その他のコード記号／コードネームによる伴奏付け1／季節の歌
- ⑭コードネームによる伴奏付け2／季節の歌
- ⑮復習テスト5／コード実技テスト5

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

基本的な和音の構造や種類を理解できる。
コード記号を理解し、子どもの歌への使用頻度の高いコードを演奏することができる。
保育現場で歌われる子どもの歌を覚え、歌うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

1. 授業内で行う復習テスト 80%
2. コードネームによる和音奏の実技 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

プリントを配付します。
こどものうた200 (チャイルド本社)
続こどものうた200 (チャイルド本社)

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

音楽Ⅰ（歌唱・理論基礎）で習得したカデンツ奏は、コードネームを使用した伴奏付けの基礎となるため、各自時間外で引き続き練習を続けてください。子どもの歌については、授業で取り上げる子どもの歌を中心に、課外時間等を利用して歌や伴奏の練習を繰り返し、多くの楽曲を覚えることが重要です。

【必要な時間】

2時間

■その他

科目名	保育実習指導Ⅱ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	増山 由香里、愛下 啓恵、橋場 俊輔、須藤 宏志

■講義の目的および概要

保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
「保育実習Ⅰ」の学びや実習評価などを踏まえ、保育に対する課題や認識を明確にして「保育実習Ⅱ」の準備を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
演習、講義とグループワークを組み合わせて行う。必要に応じて各実習巡回担当者と、重要事項や手続きの方法の確認などを行う。
幼稚園・保育所での実務経験のある教員が、指導案や模擬保育など具体的な内容について適宜指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】
各自の振り返りシートをもとに、個別面談を行い課題の明確化を行う。指導案は必要に応じて添削を行い、より綿密に案を立てられるよう準備を行う。

■授業計画

- ① オリエンテーション
保育所実習振り返り各自およびグループワーク（報告書・シート記入）
- ② 施設実習振り返り各自およびグループワーク（報告書・シート記入）
- ③ 自己課題の明確化
- ④ 課題研究—模擬保育の実施と検討①
- ⑤ 課題研究—模擬保育の実施と検討②
- ⑥ 実習前課題への取り組み—発表と検討
- ⑦ 実習前の諸注意と最終確認
- ⑧ 事後指導（実習の総括と自己評価）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
保育者として求められる専門知識の基本を確かめることができる。
保育士の専門性と職業倫理について理解できる。
保育実習Ⅰや既習の教科内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を養うことができる。
自己の保育に対する課題や認識を明確化して保育実習の準備を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

保育実習Ⅰの振り返りと自己課題への取り組み（30%）
模擬保育の実施と検討（50%）
実習に向けた準備（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】
実習ガイドブック

【参考文献】
保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館
保育指導案大百科事典 開 仁志 一藝社

■授業外学習

【具体的な内容】
保育実習Ⅰを振り返り、その成果と今後の課題について自分なりに整理しておくこと。
授業内で作成した自己課題シートをもとに、保育実習Ⅱまで各自必要な準備を進めること。
授業内で使用する模擬保育等の指導案の作成を行うこと、また実践後は内容案の検討や修正を行い実習までの準備を行うこと。

【必要な時間】
事前事後学習の時間は2時間を目安とする。

■その他

国家資格取得に関わる授業であるため、原則として欠席は認めない。やむを得ない理由で欠席する場合は、それを補う課題提出や必要に応じた補講を求める。また、欠席した場合は、その回の内容把握に自ら努めること。

科目名	保育実習指導Ⅲ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	増山 由香里、愛下 啓恵、橋場 俊輔、須藤 宏志

■講義の目的および概要

保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
「保育実習Ⅰ」の学びや実習評価などを踏まえ、保育に対する課題や認識を明確にして「保育実習Ⅲ」の準備を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習、講義とグループワークを組み合わせて行う。必要に応じて各実習巡回担当者と、重要事項、手続きの方法の確認などを行う。
幼稚園・保育所での実務経験のある教員が、指導案や模擬保育など具体的な内容について適宜指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の振り返りシートをもとに、個別面談を行い課題の明確化を行う。指導案は必要に応じて添削を行い、より綿密に案を立てられるよう準備を行う。

■授業計画

- ① オリエンテーション
保育所実習振り返り各自およびグループワーク（報告書・シート記入）
- ② 施設実習振り返り各自およびグループワーク（報告書・シート記入）
- ③ 自己課題の明確化
- ④ 課題研究—模擬保育の実施と検討①
- ⑤ 課題研究—模擬保育の実施と検討②
- ⑥ 実習前課題への取り組み—発表と検討
- ⑦ 実習前の諸注意と最終確認
- ⑧ 事後指導（実習の総括と自己評価）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

施設保育士として求められる専門知識の基本を確かめることができる。
保育士の専門性と職業倫理について理解できる。
保育実習Ⅰや既習の教科内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を養うことができる。
自己の保育に対する課題や認識を明確化して保育実習の準備を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

保育実習Ⅰの振り返りと自己課題への取り組み（30%）
模擬保育の実施と検討（50%）
実習に向けた準備（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習ガイドブック

【参考文献】

保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館
保育指導案大百科事典 開 仁志 一藝社

■授業外学習

【具体的な内容】

保育実習Ⅰを振り返り、その成果と今後の課題について自分なりに整理しておくこと。
授業内で作成した自己課題シートをもとに、保育実習Ⅲまで各自必要な準備を進めること。
授業内で使用する模擬保育等の指導案の作成を行うこと、また実践後は内容案の検討や修正を行い実習までの準備を行うこと。

【必要な時間】

事前事後学習の時間は2時間を目安とする。

■その他

国家資格取得に関わる授業であるため、原則として欠席は認めない。やむを得ない理由で欠席する場合は事前に申し出て、それを補う課題提出や必要に応じた補講を求める。また、欠席した場合は、その回の内容把握に自ら努めること。

科目名	宗教学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	鈴木 廣隆

■講義の目的および概要

宗教は人間を幸せに導こうとする。しかしその宗教が争いを生み、不幸をもたらすこともある。それはなぜか。
この講義は古代インドに始まった仏教が世界に広がって行く過程に着目し、人々は宗教によってどう変わるのか、また宗教は人々によってどう変容するのかを考察しながら、現代を生きる我々と宗教の関係を解明するために行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

仏教が人々にどう受け入れられ、どのように変容したのかを文献学的研究、考古学的研究にもとづいて考察する。

具体的には資料プリント、ビデオ、スライドなどを使って講義を進めるが、寺院住職としての実務経験に基づいて宗教的な現象を解説し、小レポートやアンケートによって学生一人一人の宗教的な問題を共有しながら講義を進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義中に小レポートやアンケートを提出させて、それにコメントする形で質疑応答の場を設ける。

■授業計画

- ① 仏教の源流：古代インドの宗教世界 —大いなる異文化—
- ② ブッダの生涯（1）：若き日 —誕生の地ルンビニー—
- ③ ブッダの生涯（2）：出家 —なぜ家や家族を捨てたか—
- ④ ブッダの生涯（3）：苦行 —なぜ苦行したのか—
- ⑤ ブッダの生涯（4）：ブッダとなる —「悟り」とは—
- ⑥ 仏教の始まり：ブッダの教え —原始仏教経典に触れる—
- ⑦ 仏教の展開：ブッダ亡き後の弟子たち —悟りを求めて—
- ⑧ 仏教の大衆化：大乘仏教の成立 —救済を求めて—
- ⑨ 大乘仏教（1）：ブッダと菩薩 —新たな信仰対象—
- ⑩ 大乘仏教（2）：ガンダーラ —仏教飛翔の地—
- ⑪ 大乘仏教（3）：空と浄土 —大乘仏教の思想—
- ⑫ 仏教の伝播（1）：インドから中国へ —訳経僧の活躍—
- ⑬ 仏教の伝播（2）：ネパール仏教 —異教との共存—
- ⑭ 仏教の伝播（3）：日本の仏教 —ありのまま—
- ⑮ 現代日本の宗教：「宗教なんかこわくない」

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人間にとって宗教とは何なのかを考えることによって、自分と世界との関わりをしっかりと考察すること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

講義中に毎回アンケートを提出してもらい、全講義終了後には最終レポートを提出してもらい、評価の配分は最終レポートが6割、アンケート提出を含めた受講態度が4割である

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、その都度プリントを配付する

【参考文献】

前田専学『ブッダを語る』（NHK出版）、藤田宏達『ジャータカ全集Ⅰ』（春秋社）、田中公明・吉崎一美『ネパール仏教』（春秋社）、内規理『ガンダーラ彫刻と仏教』（京都大学学術出版会）、立川武蔵編『講座仏教の受容と変容3 チベット・ネパール編』（佼成出版社）、立川武蔵『日本仏教の思想』（講談社現代新書）、橋本治『宗教なんか怖くない』（ちくま文庫）、森岡正博『宗教なき時代を生きるために』（法蔵館）など

■授業外学習

【具体的な内容】

ブツダの伝記を事前に調べておくことが望ましい。参考文献の『ブツダを語る』以外にも、映画『リトルブツダ』（DVD）、手塚治虫『ブツダ』などは親しみやすい。また、講義全体のまとめには橋本治『宗教なんかこわくない』（ちくま文庫）、森岡正博『宗教なき時代を生きるために』（法蔵館）が役に立つ。仏教用語については中村元『広説仏教語大辞典』（東京書籍）にあたるとよい。

【必要な時間】

予習・復習として、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

講義中のアンケートを提出しない場合、きちんと講義を受けたとは見なし難いので、必ず回答すること。わからない場合は「わからない」と回答すること。

科目名	子ども音楽療育演習[子心]
開講期・単位	3年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	下出 理恵子、村中 幸子

■講義の目的および概要

対象児を理解し、その対象と目的に相応しい音楽活動を立案し、指導する力を養う

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループでセッションを立案し練習を行なう。また数回、音楽療育ワークショップの場で子どもに対する実践を行なう。

【課題に対するフィードバックの方法】

学習者が自身の音楽技術やアイデアを活かし、音楽療育活動を立案して模擬セッションを行う。セッションを振り返りながら、対象者理解を深め、音楽療育の意義と役割を問う。

■授業計画

- ①オリエンテーション/ミニシアター計画
- ②ミニシアター練習
- ③ミニシアター発表
- ④てあそび・からだあそび 1 (微細運動)
- ⑤てあそび・からだあそび 2 (微細運動)
- ⑥からだあそび・表現 1 (粗大運動)
- ⑦からだあそび/表現 2 (粗大運動)
- ⑧歌と表現 1
- ⑨歌と表現 2
- ⑩楽器を使う活動 1 (幼児)
- ⑪楽器を使う活動 2 (障がい別・形態別)
- ⑫身近なものを使って 1
- ⑬身近なものを使って 2
- ⑭ペットマラカスを使って
- ⑮特別講義

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

対象や目的に応じた音楽療育活動を立案し、実践することが出来る。また、対象児、者の姿を発達的に理解することが出来る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

各回のコメントシート50%、発表、提出物（事前指導案、事後レポート）など50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料配布

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

音楽の基礎的な理論や「保育音楽療育概論」を復習しておくこと。

【必要な時間】

予習・復習併せて2時間の学習を必要とする。

■その他

動きやすい服装と靴（実習に準ずる）

演習授業であることから参加し活動することを必要とする。

この科目は子ども音楽療育実習、または子ども音楽療育概論の単位を取得している人のみ履修可能。

科目名	哲学概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	水野 浩二

■講義の目的および概要

【哲学の基礎を学びます。基本的な哲学的問題について解説します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、授業の冒頭で前回の授業の確認を行います。次にその日の授業の概要を話したのち、本題に入ります。本題は講義中心になりますが、適宜学生側に質問をしますので、答えてください。最後に、翌週の内容について簡単に触れますので予習に役立ててください。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニレポートを提出してもらいます。課題はmanabaに入っていますので、そこに回答してください。翌週の授業で解説を行います。

■授業計画

- ①哲学の樹のたとえ
- ②家を建てるためには何が必要か（形相と質料）
- ③物はどのように変化するか（潜勢態と顕勢態）
- ④何かを知るとはどういうことか
- ⑤客観的に妥当する認識（知識）とは何か
- ⑥心と身体とはどのようにかかわっているか（心身問題）
- ⑦われわれはどこまで自由か（自由論）
- ⑧真理とは何か（真理論）
- ⑨論理とは何か（論理学入門）
- ⑩意識の私秘性と言語の公共性
- ⑪主体性とは何か
- ⑫懐疑論
- ⑬知覚と想像
- ⑭イメージの哲学とプラトン主義批判
- ⑮ホンモノとニセモノの見分け方

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

哲学の基本用語を理解し、現実生活において応用できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

期末レポート（60%）＋ミニレポート（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

manabaのコンテンツに授業の資料が入っていますので、各自で予めプリントアウトしておいてください。

【参考文献】

山本信『哲学の基礎』北樹出版。J=P. サルトル（水野浩二他訳）『主体性とは何か？』白水社。F. ダゴニエ（水野浩二訳）『イメージの哲学』法政大学出版局。J=P. サルトル（水野浩二他訳）『イメージナル』講談社学術文庫。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業資料及び各自のノートを使って復習をしっかりと行ってください。また、わからない点を書き出し、自分で調べてみましょう。次回の講義資料にもしっかりと目を通しておきましょう。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業中に指名されたら、わかる範囲で十分ですので、しっかり答えてください。

科目名	感情・人格心理学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	岡田 顕宏

■講義の目的および概要

心理学に関する知識を身につけるための基礎科目です。この講義では心理学における2つの異なる分野を扱います。一つは、人間の心の働きのうち、感情の働きに関する知識を身につけ、感情が行動に及ぼす影響や感情生起に関わる諸要因などについて理解することを目的としています。もう一つは、人間の心の働きの個人差に関するものである。性格やパーソナリティと呼ばれる概念や、その捉え方に関する知識を身につけることを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

配付資料を中心に、資料映像や小実験を交えながら、教室での講義を中心に展開する予定です。小テスト・課題がほぼ毎回行われるので、講義時間以外の復習が必要になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で実施する小テストでは、受講者が分からなかった箇所についての説明を授業内に行います。課題については、採点をした上で返却する予定です。

■授業計画

概ね以下の内容で講義を展開する予定です。

- ①感情とは何か
- ②感情生起のメカニズム (古典的理論)
- ③感情生起のメカニズム (基本的感情理論)
- ④感情の認知的評価理論
- ⑤感情の生物学的基礎
- ⑥感情と行動
- ⑦感情と認知
- ⑧感情のまとめと中間テスト (または中間レポート)
- ⑨人格の概念
- ⑩知的機能の個人差
- ⑪人格の測定
- ⑫人格の形成と変容
- ⑬人格の生物学的基礎
- ⑭人格の障害
- ⑮人格に関するまとめと期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 「感情に関する理論及び感情喚起の機序」に関する知識を身につけ、「感情が行動に及ぼす影響」について心理学的に理解すること。
2. 「人格の概念及び形成過程」や「人格の類型、特性等」のパーソナリティに関する心理学的な知識を身につけること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回の課題 (リアクションフォーム) の得点 (40%)、宿題・レポートの得点 (15%)、および期末試験の得点 (45%) で評価します。

課題・レポートは、理解の程度を確認するために実施します。期末試験は、知識が身についているかを確認するために実施します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書の指定はありません。

【参考文献】

講義中に指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業中に指示した宿題・レポートを行うこと、配布した資料を使って復習を行うことが必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

科目名	健康・医療心理学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	山田 威仁

■講義の目的および概要

今日、健康保健・医療分野において心理職に対し、多様なニーズへの対応が求められるようになってきています。今後、心理職がより社会に貢献していくためには健康心理学、医療心理学の基礎知識の獲得が必要です。本授業では健康保健、医療分野において心理職に求められる役割、技術、知識について理論と現場での実際をすり合わせながら学んでいきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、医療機関で臨床心理士、公認心理師としての実務経験のある教員が担当します。理論を現場で活用していくイメージがしやすいよう、各回では介入に実際使われている方法を適宜、個別ワーク、グループワーク形式で取り入れていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説します。

■授業計画

- ①健康心理学とは
- ②医療心理学とは
- ③心身相関・健康とパーソナリティ
- ④健康心理学におけるアセスメントと支援
- ⑤睡眠障害
- ⑥心理支援法の実際「抑うつへの介入」
- ⑦心理支援法の実際「不安／恐怖への介入」
- ⑧心理支援法の実際「統合失調症の症状への介入Ⅰ」
- ⑨心理支援法の実際「統合失調症の症状への介入Ⅱ」
- ⑩緩和医療
- ⑪精神科デイケア
- ⑫マインドフルネス
- ⑬対人援助とコミュニケーション
- ⑭災害心理学
- ⑮まとめと最終評価のレポート課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

健康心理学、医療心理学の特徴と実際について理解する。医療機関での心理職の役割を理解する。ストレスと心身の疾病の関係を理解する。医療機関で心理職が実践する主なアセスメントの特徴と実際を理解する。各種疾患に対する介入法の実際を理解する。災害により引き起こされる諸問題、災害時に必要な心理に関する支援を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

講義内での小レポート＋最終レポートを基本点とし、授業態度（出欠席の回数も含む）を総合して評価する。単位の取得には100点満点中60点以上が必要である。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

指定しない。毎回、プリントを配布します。

【参考文献】

適宜、お伝えします。

■授業外学習

【具体的な内容】

講義の時間内で伝えられる知識や内容はどうしても限られてしまいます。配布されたレジュメ等を読み、予習復習を行ってください。また、日頃から意識して、ニュースや新聞等で健康や医療の情報に目を向けてるよう心掛けてください。

【必要な時間】

事前事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

普段は病院に勤務しているため、質問等を受けられる機会が限られます。講義時間内³（令和5）年4月1日
あるいは講義終了時にお受けいたしますので何でもお聞きください。出欠登録の際の
Responの各回の講義の感想欄を活用していただいてもよいです。

科目名	社会・集団・家族心理学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	鈴木 憲治

■講義の目的および概要

本講義では、家族、集団及び社会が個人に及ぼす影響を学びます。また、家族という視点から、対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心の過程や人の態度及び行動について学びます。

社会の変化とともに、家族の在り方も大きく変化していますが、子どもの権利を中心に、家庭内で生じる紛争について、家族法や家族社会学、生涯発達心理学などの知見、紛争の渦中にある当事者の方々への心理的援助法を学びます。

授業は、家庭裁判所調査官など関連機関の実務家から臨床現場の実際を聴き、家庭・家族への支援の実情が理解できるよう構成されています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、司法領域で実務経験のある教員が、人間に対する深い理解、深い人間理解に根ざした支援を実践できるようにするため以下の方法をとります

- ア) 知識をパワーポイントによる講義形式で提供します
- イ) 両価的なテーマについてのグループディスカッションやグループワーク等を実施して、知識を確かなものにします
- ウ) 実務家をゲストスピーカーとして招き、臨床現場の実際を聴くことで、知識に偏らない社会で役立つ知見とします

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回講義最後に実施する「理解度確認チェック」の解答を次回授業冒頭に行い、講義での定着が難しかった点について、教員が補足します

■授業計画

概ね以下の予定に沿って授業を展開します。

- ① 社会・集団・家族心理学の概要
社会・集団の中の家族の位置づけ
- ② 社会・集団と自分
対人認知、態度と行動、ステレオタイプと偏見
対人関係の形成と発展
- ③ 社会・集団の中の自分
向社会的行動と反社会的行動
社会的促進と社会的抑制
- ④ 身近な社会集団と自分
社会的相互作用
社会的影響、集団過程
- ⑤ 集団としての家族（1）
家族とは何か？どうとらえるか？
家族をどう見立てるか？
- ⑥ 集団としての家族（2）
結婚前期
- ⑦ 集団としての家族（3）
結婚による家族の成立期
- ⑧ 集団としての家族（4）
乳幼児を育てる段階
- ⑨ 集団としての家族（5）
家族の中のコミュニケーション
- ⑩ 集団としての家族（6）
夫婦関係の危機と援助（ゲストスピーカーの解説）
- ⑪ 集団としての家族（7）
子育てをめぐる問題と援助（ゲストスピーカーの解説）
- ⑫ 集団としての家族（8）
若者世代とその家族・老年期の家族
- ⑬ 集団としての家族（9）
家族への臨床的アプローチ
- ⑭ 社会・集団・家族の課題
ソーシャルサポート・文化と社会心理
- ⑮ まとめ（ふり返りテスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

本授業では、以下の事項について基礎的理解を得ていることが求められます。

- 1) 現代社会における家族の課題が理解できる
- 2) 家族という集団内における個人の心理的視点について理解できる
- 3) 家庭・家族への援助の基礎的手法について理解できる
- 4) 家庭・家族の支援を行う現場の実際が理解できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

以上のDPに基づき、家族という視点を中心にして、対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心の過程や人の態度及び行動についての基礎的な理解を深め、家庭内で生じている紛争によって、生き難さを感じている当事者の方々への心理的援助法を習得し、将来にわたって提起されている家族を基礎とした対人関係の課題を考え続ける力を身につけます。

■成績評価基準と方法

以下の3点で評価します。

ふり返りテスト	: 20%
「理解度確認チェック」評価	: 70% 5%×14回
毎時間講義最後に実施します。	
欠席の場合も、1週間以内の提出で加点します	
レポート	
参考文献等レポート	: 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「社会・集団・家族心理学」竹村和久 遠見書房

以上のほかに、「① 社会・集団・家族心理学の概要」時に「参考文献等リスト」を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の最後に、「理解度確認チェック」を実施し、次の授業冒頭で解答解説を行います。「理解度確認チェック」で不明だった点は、授業の復習をする中で必ず確認し、次回授業の解答解説までに確実な理解を得たうえで参加してください。

「参考文献等リスト」から、興味関心をもった書籍・映画・ドラマを選び、⑭回講義終了時までに、レポート（1200字程度、書式は「参考文献等リスト」配布時に提示）として提出していただきます。

【必要な時間】

「理解度確認チェック」の復習は、目安として2時間を要します。

参考文献等レポートの作成の目安は各2時間です。

常日ごろからニュース、新聞、インターネットなどで、社会的な事件についての情報を入手するように心掛けてください。

■その他

本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

履修にあたっては、心理学科においては学科基礎科目「心理学概論」を、他学科においては教養教育科目「心理学」が履修済みであることを推奨します。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、ゲストスピーカーの招聘を中止して、教員の講義に代えることがあります。

科目名	心理調査概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	岡田 顕宏

■講義の目的および概要

心理学研究の技法について理解するための実習を交えた講義科目です。主に社会心理学に関連するトピックについて、量的な調査研究の方法を学習します。特に、質問紙を用いた調査法に焦点を当て、質問紙尺度の作成、信頼性・妥当性の検討、調査の実施・分析、解釈といった一連の作業の流れについて解説し、実際の作業を通して、知識・技術を習得することを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

理論・方法に関する講義と、質問紙の実施、分析、解釈などの実践的な実習を行います。データの分析には、ExcelとSPSSを用います。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の冒頭で毎回の課題に対する解説を行います。最終レポートは、心理調査レポートとして十分な内容になるまで、採点・返却・再提出のサイクルを繰り返します。

■授業計画

- ①ガイダンス～社会心理学の研究方法について
- ②調査・分析に必要な統計の基礎Ⅰ～データ集計
- ③調査・分析に必要な統計の基礎Ⅱ～データ分析
- ④質問紙データの分析Ⅰ（データの集約）
- ⑤質問紙データの分析Ⅱ（信頼性・妥当性について）
- ⑥質問紙データの分析Ⅲ（再検査信頼性について）
- ⑦質問紙データの分析のまとめ
- ⑧質問紙の作成Ⅰ（書式・記載内容・項目を考える）
作業はグループで行い、作成する質問紙に関する各自のプレゼンテーションを行った上で、ディスカッションを行い、グループで作成する質問紙を決定します。
- ⑨質問紙の作成Ⅱ（予備調査：質問内容を検討する）
質問紙の作成にあたっては、質問内容について、ディベートを行い、よりよい質問紙項目の作成を進めます。
- ⑩質問紙の作成Ⅲ（信頼性を検討する）
質問紙調査の実施やデータの入力、データの分析に関しては、グループ内で作業を分担したり、協力しながら進めることになります。
- ⑪質問紙調査の実施Ⅰ
- ⑫質問紙調査の実施Ⅱ（集計）
- ⑬質問紙調査の実施Ⅲ（分析）
- ⑭質問紙調査のまとめ
- ⑮レポート講評と模擬試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

心理学研究で用いられる質問紙調査に関する知識・技術を習得し、自ら意味のある適切な調査研究を行うための基本的能力を身に付けることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回の課題（25%）、最終レポート（30%）および定期試験（45%）で評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「心理学マニュアル・質問紙法」 鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤（著）
北大路書房

【参考文献】

授業中に指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回、データの分析やレポートなどの課題が出る。次の授業を実施するために必要な作業になるため、必ず実施し、授業前に終わらせておく必要があります。事前事後学習において、WordとExcelを使用できる環境が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

※「心理学統計法」「心理学実験Ⅱ（応用）」「心理的アセスメントⅠ（質問紙法）」を履修・修得していることが必要です。これらの科目を未修得でも本科目を履修することは可能ですが、これらの科目の内容を各自で自習しておく必要があります。

※卒業研究で、調査などの実証研究を行う場合、また、大学院への進学を考えている者は履修しておいてください。

科目名	福祉心理学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	榎本 光邦

■講義の目的および概要

本講義は「福祉心理支援総論」と「福祉領域における心理支援の実践を学ぶ」を二つの柱として構成される。各論として、児童虐待、親子、高齢者、ひきこもり、自殺予防、精神障害者、家族や職員への支援に加えて、多職種連携について実践につながるように具体的に解説する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討、分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

本講義は、児童相談所において、子どもやその保護者のカウンセリング、療育手帳の判定業務、学校へのコンサルテーション等や更生相談所において、知的障がいや精神障がいを持つ方に対する支援の実務経験のある教員が、その経験を生かして、多様な子どもやその保護者に対しての効果的な支援の進め方を心理学の理念と方法を取り入れ、具体的に講義します。

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーへのフィードバックは、次の講義時に行います。

■授業計画

- ①福祉心理学の歴史と方法
- ②社会福祉の展開と支援
- ③生活を支える心理支援
- ④暴力被害者と加害者への心理支援
- ⑤高齢者への心理支援
- ⑥障害・疾病のある人への心理的支援
- ⑦生活困窮・貧困者への心理支援
- ⑧児童虐待への心理支援の実践
- ⑨子どもと親への心理支援の実践
- ⑩認知症高齢者と心理支援の実践
- ⑪ひきこもり・自殺予防の心理支援の実践
- ⑫精神障害者への心理支援の実践
- ⑬家族・職員への心理支援の実践
- ⑭福祉・介護分野における多職種協働
- ⑮多職種協働の実践事例とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- ①福祉現場において生じる問題及びその背景を理解して、説明できる。
- ②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
- ③虐待についての基本的知識を学び、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門的知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験（レポート形式・50%）に、毎回の受講後に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次の講義の冒頭に行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

公認心理師の基礎と実践17 福祉心理学 （編）中島健一 （監修）野島一彦・繁樹算男 遠見書房

【参考文献】

福祉心理学（公認心理師スタンダードテキストシリーズ17） （監修）下山晴彦 ミネルヴァ書房

■授業外学習

【具体的な内容】

事後学修として、当日の授業内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。また、シラバスに提示されている次時の内容について大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートに予習として記載しておくこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心をもって下さい。

■その他

講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。

科目名	力動的心理学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	松浦 秀太

■講義の目的および概要

2年次「心理学的支援法」では多様な心理学的支援法を学びました。本講義「力動的心理学」では、数ある心理学的支援法のなかから精神分析を学んでいきます。具体的には、精神分析の創始者であるジークムント・フロイトの人生を概観しながら、彼が生み出した理論や概念、それらが生まれてきた背景についての理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は臨床心理士の資格を持った実務経験のある教員が担当します。講義の多くは講義形式で行います。教科書およびパワーポイントを使用します。受講者には適宜資料を配布します。また、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説します。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って講義を展開します。進行状況によって、順序や内容は変更が生じる可能性があります。

- ① Orientation、心理療法とは何か
- ② 精神分析とは何か
- ③ 精神分析の場所
- ④ 精神分析の経過 (1)
- ⑤ 精神分析の経過 (2)
- ⑥ 5回目までのまとめ
- ⑦ フロイトの人生と仕事 (1) 「精神分析に向かって」
- ⑧ フロイトの人生と仕事 (2) 「精神分析の成立」
- ⑨ DVD鑑賞
- ⑩ フロイトの人生と仕事 (3) 「性愛理論」
- ⑪ フロイトの人生と仕事 (4) 「ドラ、技法の発展」
- ⑫ フロイトの人生と仕事 (5) 「古典理論の確立」
- ⑬ フロイトの人生と仕事 (6) 「後期理論」
- ⑭ 事例検討 (グループワーク)
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 精神分析の創始者であるジークムント・フロイトの生涯を概観し、精神分析理論が生まれてきた背景を理解する。
- ② 精神分析の理論や基本的な概念について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

以下の3点で評価します。

- A) 課題：20%
- B) レポート：39%
- C) 期末試験：41%

※A)～C)のカテゴリー全てに点数がついていることが単位取得最低条件とします。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・藤山直樹 (2008). 集中講義・精神分析<上>—精神分析とは何か フロイトの仕事. 岩崎学術出版社.

【参考文献】

・松木邦裕・藤山直樹 (2015). 精神分析の本質と方法. 創元社.

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後に指定されたテキストをよく読み、予習復習を行ってください。また、参考文献に挙げた書籍など精神分析に関する書籍を読んでおく必要があります。

【必要な時間】

上述のような事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・資料はmanabaで配布し、講義時に紙媒体を配布します。各自で印刷する必要はありません。
- ・提出物（課題、レポートなど）は、公欠などの特別な事情がない限り遅刻提出は認めません。遅刻提出する場合、大学で指定された公欠届と一緒に提出してください。
- ・「心理学的支援法」を履修していなくても受講することは可能です。

科目名	心理的アセスメントⅡ(投映法)
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	澤田 信也

■講義の目的および概要

心理アセスメントに関する心理検査の中で、投影法と呼ばれるものについて概要を講義し、実際に取り扱うことで理解を深めます。相談実務の現場でどのようにアプローチし、アセスメントしながら理解、援助するのか、重要な点について学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と実習、レポート作成を組み合わせて行います。臨床心理士としての実務経験豊富な教員が指導を担当します。グループワークも取り入れ理解が深まるようにしていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポート作成の際には模範となるレポートを提示します。manabaを利用して資料を提供します。

■授業計画

- ① 投影法の概要
- ② SCT 1
- ③ SCT 2
- ④ SCT 3
- ⑤ PFスタディー 1
- ⑥ PFスタディー 2
- ⑦ PFスタディー 3
- ⑧ ロールシャットハテスト 1
- ⑨ ロールシャットハテスト 2
- ⑩ ロールシャットハテスト 3
- ⑪ 描画法
- ⑫ 風景構成法
- ⑬ テストバッテリー
- ⑭ 事例検討
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人を理解するために投影法をどう役立てるか、可能性と限界を見極め、積極的に活用しながら学びを深める基礎的な力をつけることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2) 【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

小課題	30%
小レポート	30%
まとめのレポート	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

指定はありません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

指定はありません。

■授業外学習

【具体的な内容】

講義で配布する資料を事後よく読んでください。また次回の講義について予告しますので、各自事前学習してください。

【必要な時間】

事前事後共におおむね2時間程度。

科目名	心理実習Ⅲ(遊戯・芸術療法)
開講期・単位	3年 春学期・選択 1単位・実習
担当者	松浦 秀太

■講義の目的および概要

子どもにセラピーを行う際、言語的なアプローチではなく、非言語的なアプローチを選択することがあります。プレイセラピーや表現療法はそのひとつです。本実習の目的は、体験を通してプレイセラピーと表現療法について学ぶことです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本実習は臨床心理士や認定描画療法士の資格を持ち、児童精神科でプレイセラピーや表現療法などの実務経験のある教員が担当します。講義は演習・実習形式で行います。パワーポイントを使用します。受講者には適宜資料を配布します。グループワークやディスカッションを多く取り入れ、能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説します。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って展開します。進行状況によって、順序や内容は変更が生じる可能性があります。

- ① オリエンテーション、プレイセラピーとは？表現療法とは？
- ② イメージを伝える
- ③ 交互色彩分割法
- ④ カンバセーションドローイング
- ⑤ フィンガーペインティング
- ⑥ カットイングコラージュ
- ⑦ 箱庭療法（1）
- ⑧ 箱庭療法（2）
- ⑨ 箱庭療法（3）
- ⑩ 箱庭療法（4）
- ⑪ 雨中人物画
- ⑫ 動的家族画
- ⑬ プレイセラピー模擬事例検討（1）
- ⑭ プレイセラピー模擬事例検討（2）
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

描画体験や模擬事例検討を通して、プレイセラピーや表現療法を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

以下の3点で評価する。

- A) 各回の感想レポート：30%
- B) 事例検討会でのグループワーク：40%
- C) 箱庭療法のレポート：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありません。

【参考文献】

適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として次の回に扱う事柄について調べておくこと。また、事後学習として講義の際に扱った事柄の感想をまとめておくことが必要となる。

【必要な時間】

事前事後各々2時間以上の学習が必要となる。

■その他

- ・本科目は公認心理師の指定科目ではありません。
- ・絵の具や水を使用する回があります。汚れてもいい服装で受講してください。

2023（令和5）年4月1日

科目名	心理実習 I (施設実習)
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・実習
担当者	澤田 信也、高野 創子

■講義の目的および概要

学内外での実習・演習を行う。具体的な講義の目的及び概要は以下の通りである。
 ①精神に関する障がいのある方々を取り巻く社会的状況について、メディアや文献、学外の実習指導者から臨床現場について学ぶ。
 ②施設の概要と役割について学ぶ。
 ③対人援助職（公認心理師や他の専門職を含む）に必要な知識と技能を知る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は医療や教育、福祉などの臨床現場で実務経験のある教員が担当する。主に、学内の実習指導者と学外の実習指導者によって、40時間以上の学内実習、または学外実習を行う。

<学内実習指導者 担当内容>

①精神障がいに関する基礎知識
 ②障がいのある方々を取り巻く社会的状況に関する知識
 ③履歴書の書き方やお礼状の書き方など実習の際のルール、マナーを確認するための学習、実技

<学外実習指導者 担当内容>

①施設の紹介と役割について
 ②障がいのある方々を取り巻く社会的状況に関する知識
 ③対人援助職（公認心理師や他の専門職を含む）に必要な知識と技能について

【課題に対するフィードバックの方法】

課題および実習先からの評価については、講義内でフィードバックを行う。

■授業計画

1、6～8、14、15を学内実習指導者が担当し、2～5、9～13を学外実習担当者が担当する。

1. オリエンテーションと講義計画 実習のマナーとガイドラインについて
2. 外部実習担当者講義①
3. 外部実習担当者講義②
4. 外部実習担当者講義③
5. 外部実習担当者講義④
6. 「履歴書」と「実習計画書」の修正と送付
7. 「実習日誌の書き方」について
8. お礼状と実習報告書について
9. 外部実習①
10. 外部実習②
11. 外部実習③
12. 外部実習④
13. 外部実習⑤
14. 実習の振り返り
15. 実習報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①精神に関する障がいのある方々を取り巻く社会的状況について、メディアや文献、学外の実習指導者から臨床現場について学ぶ。
 ② 施設の役割について学ぶ。
 ③ 対人援助職（公認心理師や他の専門職を含む）に必要な知識と技能を知る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP2「コミュニケーション能力」
 DP4「多様性の理解と協働する力」
 DP6「社会に貢献する姿勢」

■成績評価基準と方法

以下の3点で評価する

- A) 学内実習指導者による実習課題20%
- B) 学外実習指導者による実習課題50%
- C) 定期課題（実習計画書と実習日誌・報告書）30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じ適宜指示する。

【参考文献】
必要に応じ適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】
これまで学んできた公認心理師取得に関わる専門科目の内容を教科書や配布されたレジュメなどを通して再確認してください。また、実習中は知識と実践とを関連づけながら学んでください。

【必要な時間】
事前事後各々2時間以上の学習が必要となります。

■その他

*実習費として、2,000円を徴収する。
※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。

【実習時間】 40時間以上
【実習分野】 学外実習（福祉施設、医療機関、司法施設）
【実習種別】 施設見学等

演習・学内実習（予習復習時間も含めて）40時間確保されないと実習として認められないため、欠席、課題の遅延はないようにしてください。

科目名	心理実習Ⅱ(施設実習)
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	松浦 秀太、鈴木 憲治

■講義の目的および概要

春学期開講の「心理実習Ⅰ(施設実習)」では、福祉分野での実習を通して精神障害のある方々への心理的支援の実際、社会的状況、施設の概要や役割を学んだ。「心理実習Ⅱ(施設実習)」では、精神科病院などの医療保健分野の見学実習と司法犯罪分野の施設見学実習を行い、公認心理師に必要な知識と技能を身につけることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は医療保健、教育、福祉、司法犯罪に関わる臨床現場で実務経験のある教員が担当する。

講義は主に学内でのレクチャーと学外施設での実習のふたつに大別される。内容は以下の通りである。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題および実習先からの評価については、講義内でフィードバックを行う。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って講義を展開する。施設の受け入れ状況などにより、順序や内容は変更が生じる可能性がある。

- ① オリエンテーション「心理実習Ⅰ(施設実習)」を振り返る
- ② 【医療保健分野】外部施設実習指導者によるレクチャー(1)
- ③ 【医療保健分野】外部施設実習指導者によるレクチャー(2)
- ④ 【医療保健分野】外部施設実習指導者によるレクチャー(3)
- ⑤ 【司法犯罪分野】外部施設実習指導者によるレクチャー(1)
- ⑥ 【司法犯罪分野】外部施設実習指導者によるレクチャー(2)
- ⑦ 関連法規・倫理などに関するレクチャー
- ⑧ 実習前準備
- ⑨ 外部実習(1)
- ⑩ 外部実習(2)
- ⑪ 外部実習(3)
- ⑫ 外部実習(4)
- ⑬ 外部実習(5)
- ⑭ 事後学習
- ⑮ 実習報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 施設の役割について学ぶ。
- ② 対人援助職(公認心理師や他の専門職を含む)に必要な知識と技能を知る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

以下の3点で評価する。

- A) 実習先からの評価：40%
- B) 事前学習のレポートや必要書類の提出：30%
- C) 実習日誌や実習報告書：30%

※ A)～C) 全てに点数がついていることを単位取得最低条件とする。

※ 所定の実習時間(40時間)が期日内に満たせない場合、評価は不可となる。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じ適宜指示する。

【参考文献】

必要に応じ適宜指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

これまで学んできた公認心理師取得に関わる専門科目の内容を教科書や配布されたレジュメなどを通して再確認してください。また、実習中は知識と実践とを関連づけながら学んでください。

【必要な時間】

事前事後各々2時間以上の学習が必要となります。

■その他

本実習を履修するにあたり、以下の注意事項をよく読み、理解しておくこと。

【注意事項】

- 本科目は本年度春学期に「心理実習Ⅰ（施設実習）」を履修し、可以上の成績を得た者に対して開講する。
- 公欠・病欠以外の欠席は認められない。病欠ややむを得ない理由で欠席もしくは遅刻しなくてはならない場合、担当教員や施設側指導者に事前に連絡をしなければならない（事前連絡が難しい場合は、事後直ちに連絡することが必要となる）。
- 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があります。
- 本科目には履修人数の制限（30名）と履修条件があります。
- 夏休み中に講義の一部を実施する可能性があります。

【実習時間】 40時間以上

【実習分野】 学外実習（福祉施設、医療機関、司法施設）

【実習種別】 施設見学等

演習・学内実習（予習復習時間も含めて）40時間確保されないと実習として認められないため、欠席、課題の遅延はないようにしてください。

科目名	関係行政論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	佐藤 千裕

■講義の目的および概要

本講義は、公認心理師の仕事の領域である①保健医療、②福祉、③教育、④司法・犯罪、⑤産業・労働の5つの分野について、心理的支援の対象となる課題や問題の実情、主要な法規及び制度の概要、関係機関の役割と機能などを理解することを目的としています。また、これらの分野で心理系の専門職が果たしている役割や職責についても具体的にイメージできるようにします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教員は、公認心理師です。家庭裁判所調査官として長く実務に関わってきました。この実務経験を踏まえて、①保健医療、②福祉、③教育、④司法・犯罪、⑤産業・労働の各分野について、心理的支援の対象となる課題や問題、行政の基盤となる主要な法規及び制度の概要、関係機関の役割と機能、心理職に求められる仕事の内容などについて、実務の視点や立場から解説します。授業は、基本的に講義形式で行いますが、必要に応じてディスカッションなどを取り入れます。また、事例を紹介するなどして、各分野の実情をよりよく理解できるようにしたいと思います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じてmanabaを通じて資料を配付します。

■授業計画

- ① はじめに～臨床心理に関連する5つの分野、行政とは何か
- ② 保健医療①（一般医療、地域保健）
- ③ 保健医療②（精神科医療、精神保健、チーム医療と心理職の役割）
- ④ 福祉①（児童の福祉；児童相談所の役割と機能、児童虐待の防止）
- ⑤ 福祉②（障害者の福祉；身体障害、知的障害、精神障害、発達障害と支援制度）
- ⑥ 福祉③（高齢者の福祉；高齢者の介護と福祉、高齢者虐待の防止）
- ⑦ 教育①（学校教育に関する法律と制度、教育行政の特徴）
- ⑧ 教育②（不登校、いじめへの対応と支援）
- ⑨ 教育③（子どもの発達障害と支援、チーム学校、スクールカウンセラー）
- ⑩ 司法・犯罪①（家庭裁判所の役割と機能、夫婦の別居・離婚と子どもの福祉）
- ⑪ 司法・犯罪②（少年非行と少年審判）
- ⑫ 司法・犯罪③（犯罪被害者への支援制度など）
- ⑬ 産業・労働①（働く人のメンタルヘルス）
- ⑭ 産業・労働②（休業者の職場復帰、職場のハラスメント対策、障害者の就労支援）
- ⑮ 講義全体のまとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①保健医療、②福祉、③教育、④司法・犯罪、⑤産業・労働の各分野について、心理的支援の対象となる問題、行政の基盤となる主要な法規及び制度、関係機関の役割と機能、心理職が果たしている役割や職責について、その概要を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門的知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 授業期間内の小テスト 50%
定期試験又は授業期間内のテスト 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用しません。毎回の講義の際に講義資料（レジュメ）を配付し、これを踏まえて授業を進めます。

【参考文献】

必要に応じて授業において紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

精神保健、児童虐待、障害者の福祉、不登校やいじめ、夫婦の別居・離婚と子どもの福祉、少年非行、働く人のメンタルヘルスなどについて、日ごろから関心を持ち、ニュース・新聞などで情報を得るなどして、授業に備えてください。また、授業後は、重要事項をノートに整理するなどして復習してください。毎回、授業の冒頭に前回の授業の重要ポイントについて振り返ります。

【必要な時間】

予習・復習に合計2時間程度

■その他

科目名	神経・生理心理学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	橋本 久美

■講義の目的および概要

現代社会において、脳神経の生理学的機序について解明が進んでいる。一方で、臨床現場での課題解決が求められるが、基礎領域での研究からは、その原因や対策について十分な説明ができていない。本講義では、エビデンスベースドを重んじながらも、課題解決が望まれる領域にも踏み込み、将来様々な分野での支援者となるであろう学習者が、必要な基礎知識を習得し、必要な情報の検索方法を身につけることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「神経・生理心理学」について知識の習得を目的とした講義を行う。プレゼンテーション、VTRなど視聴覚教材を使用する。毎回資料を配布する。一部、実験やアセスメント等の実習も含む。

【課題に対するフィードバックの方法】

2～3回に一度、知識確認プリントを配布、翌週提出とする。また、実習で得たデータをもとに解釈レポートを課す。提出された課題やレポートには評価とコメントを返却する。適宜、manabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

概ね次の内容で展開するが、変更もありうる。臨床現場で必要と考えられる内容を特に優先し講義する。

- ①脳神経系の構造と大まかな機能
- ②大脳皮質の機能局在
- ③脳活動の生理学 ところの計測
- ④感覚・知覚と脳神経系の関わり
- ⑤学習と脳神経系の関わり
- ⑥記憶・言語と脳神経系の関わり
- ⑦行動・注意と脳神経系の関わり
- ⑧記憶・学習1 脳波測定実習1
- ⑨記憶、学習2 脳波測定実習2
- ⑩自己・他者・社会性と脳神経系の関わり
- ⑪情動・ストレスと脳神経系の関わり
- ⑫動機づけ・摂食行動・性行動・睡眠と概日リズム
- ⑬発達障害・精神障害・神経疾患と脳神経系の関わり
- ⑭脳波計測と問題解決
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

神経・生理心理学に関する理論や技法を理解し、臨床現場での問題解決のために必要な基礎知識と技能を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

定期試験(筆記試験)60%、授業小レポート20%、実験レポート10%、アセスメントレポート10%で総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

公認心理師 ベーシック講座 神経・生理心理学 早川友恵/田邊宏樹 著 講談社

【参考文献】 適宜紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】 毎回専門用語の意味など、テキストで確認すること。マナバでの課題を必ず行ってから参加すること。

【必要な時間】 予習及び復習は2時間以上をかけることが望ましい。実験レポートやアセスメントレポートには4時間程度作成にかかる。

■その他

特に実習回出席は単位取得の際には必須となる。特別の場合を除き、欠席しても補講³（令和5）年4月1日
は行わない。
本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で
定められています。
公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要があり
ます。

科目名	集団心理療法
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	山本 創

■講義の目的および概要

本講義では集団力動的な集団精神療法について、その歴史、理論、現場での実践状況を学ぶ。またシナリオロールプレイやグループワークを通して、集団力動を体験的に学ぶ。これらを通して集団力動的視点の基礎を獲得することを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

精神科病院、学校臨床現場などで集団力動的な視点を持った心理援助についての実務経験のある教員による講義を基本としつつ、映像による現場の実状理解、シナリオロールプレイによる知的・情的な追体験、グループワークによる体験的な相互学習などを行う予定。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義中の小レポートに対するコメントなどを通して行う。

■授業計画

- ①イントロダクション 集団力動的視点とは何だろうか?
- ②集団精神療法の歴史
- ③グループワーク1・ふり返り小レポート1
- ④集団精神療法の理論1
- ⑤集団精神療法の実践1
- ⑥グループワーク2・ふり返り小レポート2
- ⑦集団精神療法の理論2
- ⑧集団精神療法の実践2
- ⑨グループワーク3・ふり返り小レポート3
- ⑩集団力動的視点とは何だろうか?2
- ⑪シナリオロールプレイ1
- ⑫グループワーク4・ふり返り小レポート4
- ⑬集団力動的視点とは何だろうか?3
- ⑭シナリオロールプレイ2
- ⑮グループワーク5

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- (1) 集団精神療法に関する基本的な知識を獲得する。
- (2) 体験的な学習を通して自己理解、他者理解を深める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業期間内のふり返り小レポート(計4回:20%)と終了後の総合レポート作成(80%)の提出による。

■テキスト・参考文献

テキスト】

・なし

【参考文献】

・毎回の講義に関連する参考文献・引用文献については、その都度紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

その都度授業内でお知らせする。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

グループワークという学習形態の特質上、全回出席を基本的な前提とする。

科目名	子育て支援[子心]
開講期・単位	3年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	木村 彰子

■講義の目的および概要

講義の目的は、保護者が置かれている現状を理解するとともに、保育者の子育て支援の意味や重要性について理解することである。子どもの最善の利益を保障するための子育て支援についての理論や方法を理解するとともに、具体的な事例をもとに望ましい子育て支援のあり方を検討する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義と演習を織り交ぜながら、パワーポイントや配布資料を使用する。幼稚園教諭・臨床心理士として実務経験のある教員が、実践の中で出会った具体的な事例について提示し、考えるきっかけづくりを行う。ロールプレイなども行い、できるだけ実際にイメージしながら保護者支援に必要なことが何かについて考えられるようにする。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題をもとに話し合い、さらに深まりをもって検討できるきっかけづくりを行う。

■授業計画

- ① オリエンテーション、保護者の気持ちの理解
- ② 保育における「子育て支援」とは
- ③ 「相談機関の支援」と「保育現場における子育て支援」の違い
- ④ 子育て相談の技法
- ⑤ 家庭の育児の状況
- ⑥ 保護者の立場になってみよう（ロールプレイ①）
- ⑦ 保護者支援の現状と課題
- ⑧ 虐待と保護者の心情
- ⑨ 虐待と予防
- ⑩ 子育て支援が奏功するためには（ロールプレイ②）
- ⑪ 特別な支援が必要な子どもの保護者の心情
- ⑫ 特別な支援が必要な子どもの保護者の心情の実際
- ⑬ 関係機関との連携
- ⑭ 子育て支援のための「保育者自身」の在りよう
- ⑮ これからの子育て支援に向けた取り組み

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・子育て支援は子どもの最善の利益に基づいて行うことが基本であることを理解し、なぜそれが必要なのか説明できる。
 ・様々な事情のある子どもをもつ保護者や、様々なケースの保護者の心情を理解した上での支援が重要であるということについて、事例を使い説明することができる。
 （保育士資格必修）

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 （保育士資格必修）

■成績評価基準と方法

提出課題 70%
 最終レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用せず、必要に応じて資料を提示する。

【参考文献】

「新しい保育講座 1 保育原理」渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀 編
 著 ミネルヴァ書房
 「新しい保育講座 3 子ども理解と援助」高嶋景子・砂上史編著 ミネルヴァ書房
 「保育所保育指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館
 「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館
 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・毎回の授業の最後に提示した内容について、次回までにまとめ、発表ができる準備をする。

【必要な時間】

本授業は1単位であるため、予習と復習を併せて2時間の学修が必要となる。

■その他

- ・課題は期日を厳守すること。
- ・欠席した場合には必ずその回の内容を各自で補う。必要に応じて教員にも確認をし、提出課題がある場合は早めに提出すること。

科目名	社会的養護Ⅱ[子心]
開講期・単位	3年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	西村 忍

■講義の目的および概要

児童虐待をはじめとし、子どもの貧困 ヤングケアラー問題など子どもを取り巻く社会的問題は複雑多様化の様相を呈してきており、社会に求められる役割も大きく幅広くなってきている。本講義では社会的養護を必要としている子どもたちの現状を把握し、その支援制度 虐待を受けた子どもの心理や行動に関する理解を深めるとともに、子どもたちの支援に必要な知識 技術 視点をさまざまな角度から考え学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業計画に沿って、教科書を中心に講義を進めていく。さらに内容を深めるために資料を配布する。また、児童養護施設の児童指導員実務経験からの事例を紹介し、実践的な授業を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対し、支援の視点 ポイントを教示し社会的養護の理解 考え方を深めていく。

■授業計画

- ①ガイダンス 社会的養護の歩み 赤ちゃんポスト 特別養子縁組
- ②アドミッションケア① 一時保護 権利ノート
- ③アドミッションケア② 施設入所 子どもの受け入れ
- ④インケア ① 日常生活支援
- ⑤インケア ② 治療的支援 被虐待児の心理 行動 支援
- ⑥インケア ③ 治療的支援 発達障害 理解と支援
- ⑦リービングケア ① 自立支援 家庭復帰
- ⑧リービングケア ② 自立支援 社会自立
- ⑨アフターケア 施設退所後の支援 支援を支える法制度
- ⑩ソーシャルワーク ① ソーシャルワークの体系
- ⑪ソーシャルワーク ② ケースワーカーに必要な姿勢と視点
- ⑫ソーシャルワーク ③ 自己覚知 他者理解 コミュニケーションスキル
- ⑬ソーシャルワーク ④ 援助者としての専門性
- ⑭記録と評価 記録の種類 ケース理解を深める
- ⑮まとめとテスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会的養護を必要としている子どもたちの生活状況 施設での生活を理解する。また、虐待を受けた子どもの心理 行動の理解。発達障害といわれる子どもたちの特徴を理解するとともにそれぞれに対しての具体的な支援の方法や知識を取得する。社会的養護に関連する法制度 社会資源 技術の知識を身に着ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (PD3) 課題を発見し、解決する能力
(PD5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

試験 70% 授業内レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ 遍著 杉山宗尚 原田 旬哉 萌文書林
【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

2023（令和5）年4月1日

新聞やスマホニュースで子どもに関係する出来事には関心を持って幅広く目を通して
おく。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	レクリエーション実技(子ども)
開講期・単位	3年 通年・選択 2単位・演習
担当者	新井 貢

■講義の目的および概要

様々な課題を抱える現代社会において、レクリエーションの位置づけは個人及び集団におけるコミュニケーション能力を高めるための手段として、欠かすことの出来ないものとなっています。本講義は、レクリエーションを通じて、ホスピタリティやコミュニケーション能力の向上を目指し、目的や対象者にあわせたアクティビティを展開、指導できるような技能を身につけることが目的です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

目的や対象者にあわせた活動や展開方法など理論で学んだ知識を活かし、小グループに分かれてで実技の指導体験を行います、また、学外でのフィールドワークも行います。

本講義は、社会教育主事、社会教育施設職員として、子どもの自然体験活動等の実務経験のある教員が、レクリエーション支援者の視点から実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

1. 授業ガイダンス
2. レクリエーション活動の習得Ⅰ(ゲーム)
3. レクリエーション活動の習得Ⅱ(フィールドワーク①)
4. レクリエーション支援の方法Ⅰ(ホスピタリティ①)
5. レクリエーション支援の方法Ⅱ(ホスピタリティ②)
6. レクリエーション活動の習得Ⅲ(ニュースポーツ)
7. レクリエーション支援の習得Ⅳ(様々な活動)
8. レクリエーション支援の方法Ⅲ(アイスブレイキング①)
9. レクリエーション支援の方法Ⅳ(アイスブレイキング②)
10. レクリエーション支援の方法Ⅴ(アイスブレイキング③)
11. レクリエーション支援の方法Ⅵ(ハードルの設定)
12. レクリエーション支援の方法Ⅶ(CSSプロセス)
13. 安全管理の基礎① スポーツ行政の仕組みと実際
14. 安全管理の基礎② スポーツ・レクリエーション継続のための場づくり
15. 春学期のまとめ、中間レポート
16. 秋学期ガイダンス・動機づけの支援技術①
17. 動機づけの支援技術②
18. レクリエーション支援の方法Ⅷ(アレンジの基本と応用)
19. レクリエーション活動の習得Ⅴ(歌などを利用した身体活動)
20. レクリエーション活動の習得Ⅵ(フィールドワーク①)
21. レクリエーション活動の習得Ⅶ(フィールドワーク②)
22. レクリエーション活動の習得Ⅷ(ゲーム)
23. レクリエーション活動の習得Ⅸ(ニュースポーツ)
24. レクリエーション活動の習得Ⅹ(ニュースポーツ)
25. レクリエーション支援の実施Ⅰ(プログラム計画①)
26. レクリエーション支援の実施Ⅱ(プログラム計画②)
27. レクリエーション支援の実施Ⅲ(プログラム計画③)
28. レクリエーション支援の実施Ⅳ(プログラム発表①)
29. レクリエーション支援の実施Ⅴ(プログラム発表②)
30. 授業のまとめ、最終レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①個人及び集団でのコミュニケーション能力を高める
- ②レクリエーションの重要性を理解し積極的に関わる姿勢を身につける
- ③目的や対象者にあわせたレクリエーション活動を展開、指導/支援することができる
- ④スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

- ①授業の理解度、小テスト（40%）
- ②レクリエーション活動の展開、支援法（40%）
- ③課題レポート・実技ノート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』公益財団法人 日本レクリエーション協会

【参考文献】

『スポレク活動で健康寿命を延伸』公益財団法人 日本レクリエーション協会
『レクリエーション支援の技術』公益財団法人 日本レクリエーション協会

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、専門用語の意味などを理解してください。毎回の授業で、行ったレクリエーション活動の内容と感想をまとめるとともに、第3者に伝えてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

この科目は、「レクリエーション・インストラクター」の資格取得をするための必修科目です。
日常的に笑顔であいさつが出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ、実践をしてください。

フィールドワーク形式の授業への参加の際に交通費として1回あたり3,000円程度かかる場合があります。

科目名	教育行財政[子心]
開講期・単位	4年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	東 重満

■講義の目的および概要

本講義の目的は、現代の学校教育（とりわけ幼児教育関連分野）に関する社会的、制度的または経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身につけ、関係する課題を理解する。また、学校（幼稚園ならびにこども園）と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識も身につけることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義を基本としながらも、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなど、アクティブラーニング型授業展開で進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は講義の振り返り、調べ学習やレポートの作成等、より実践的な学びを通して理解を深める過程の中でフィードバックする

■授業計画

- ① ガイダンス、幼稚園等をめぐる近年の様々な状況の変化について
- ② 東日本大震災記録映画「いつもの幼稚園にもどること」視聴して教育行財政の本質的意味を考える
- ③ 近年の教育行政の動向について
- ④ 公教育の原理・理念について
- ⑤ 公教育制度と関連法令について
- ⑥ 教育行政の理念と仕組みについて
- ⑦ 教育行政をめぐる諸課題について
- ⑧ 就学前教育と小学校教育について
- ⑨ いじめ問題や児童虐待等について
- ⑩ 幼稚園等の経営の推進・評価・充実について
- ⑪ 学校以外の関係者・関係機関との連携、協働のあり方について
- ⑫ 学校と地域の連携、協働のあり方について
- ⑬ 開かれた学校づくりの推進について
- ⑭ 学校管理下での事件・事故・災害等への対応について
- ⑮ 学校を取り巻く安全上の諸課題への対応について

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 教育（とりわけ幼児教育について）に関する社会的、制度的、経営的事項について

理解する。

- ② 学校（幼児教育・保育施設）と地域との連携のあり方について理解する。
- ③ 学校安全への対応について、具体的な取組を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

小課題（20%）、9回目終了後レポート提出（30%）、期末レポート（50%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、プリントやスライドにて提示する。

【参考文献】

「教育小六法」学陽社 「解説教育六法」三省堂（いずれも最新版）

■授業外学習

【具体的な内容】

事前に提示した関係事項について調べ、内容を整理し課題を明確にする。
ふり返りとして、講義内容の復習や関係課題の報道や著作、エッセイなどにアクセスし実践における知見を広め、理解を深める。

【必要な時間】

事前学習 60分
事後学習 120分

■その他

科目名	卒業研究[臨床]
開講期・単位	4年 通年・選択 4単位・演習
担当者	品川 ひろみ、岡田 顕宏、松浦 秀太、橋本 久美、高野 創子

■講義の目的および概要

履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定する。原則として春学期15回・秋学期15回の指導時間を確保する。

【課題に対するフィードバックの方法】

卒業論文を作成するために必要な作業を行い、作業内容等に関する報告に対して、指導教員から個別指導を通してフィードバックが行われる。

■授業計画

課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字以上を目安とする。映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート（8,000字以上）を添付する。

エントリーから審査までの流れ

1. エントリー（4月中旬）

研究計画書（所定のA4書式1枚に、テーマ、研究のねらい、研究計画、関連分野、参考資料などを2,000字程度で記入）を教務課へ提出する。

- (1) 研究計画等に関する指導（1）
- (2) 研究計画等に関する指導（2）
- (3) 研究計画等に関する指導（3）

2. 第1回経過報告（7月下旬）

編目構成・参考文献一覧を主査へ提出

- (4) 調査研究など実施に関する指導（1）
- (5) 調査研究など実施に関する指導（2）
- (6) 調査研究など実施に関する指導（3）
- (7) 調査研究など実施に関する指導（4）
- (8) 調査研究など実施に関する指導（5）
- (9) 調査研究など実施に関する指導（6）
- (10) 調査研究など実施に関する指導（7）
- (11) 調査研究など実施に関する指導（8）
- (12) 調査研究など実施に関する指導（9）
- (13) 調査研究など実施に関する指導（10）
- (14) 経過報告に関する指導（1）
- (15) 経過報告に関する指導（2）

3. 第2回経過報告（11月下旬）草稿を主査へ提出

- (16) 調査研究などの分析に関する指導
- (17) 調査研究などの分析に関する指導
- (18) 調査研究などの分析に関する指導
- (19) 調査研究などの分析に関する指導

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テーマ研究Ⅰ・Ⅱの課題とは別に、心理学分野における学術的な論文を作成することが到達目標です。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

心理学領域における知識と技術、修得した知識・技術の活用、課題を発見し解決する能力に関する科目になります。

■成績評価基準と方法

卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価。
卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題（論文、レポートなど）とは別のものでは
なければならない。
卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】
研究内容に応じて個別に指示されます。

【参考文献】
研究内容に応じて個別に指示されます。

■授業外学習

【具体的な内容】
研究作業や執筆作業は、論文指導のための時間以外に各自で行うことになります。

【必要な時間】
事前及び事後学習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

提出物が期日までに提出されない場合はその時点で失格となります。また、提出物の
内容が不十分な場合は、再提出を求められることがあります。
大学院に進学を考えている場合には、履修することを推奨します。

科目名	卒業研究[子心]
開講期・単位	4年 通年・選択 4単位・演習
担当者	増山 由香里、大村 勲夫、木村 彰子、村中 幸子、橋場 俊輔、 青木 美和子、須藤 宏志

■講義の目的および概要

履修者が指導教員と相談した上で決定した課題研究に取り組み、指導教員による個別指導を受け、卒業課題を期日までに完成させる。提出された卒業課題を主査と副査が審査し、合格することで単位を取得できる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テーマ研究Ⅰ・Ⅱの担当者が主査となって研究を指導する。個別指導の時間は主査と履修者が相談の上、テーマ研究Ⅰ・Ⅱ以外の時間に設定するが、原則として春学期15回・秋学期15回の指導時間を確保する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の実施内容の確認は、毎回授業の中で行う。

■授業計画

●課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字以上を目安とする。映像表現物などの場合は、その製作意図や製作過程などを記したレポート(8,000字以上)を添付する。

●春期 エントリーから審査、研究方法の習得までの流れ

①② エントリー(4月中旬)

研究計画書(所定のA4書式1枚に、テーマ、研究のねらい、研究計画、関連分野、参考資料などを2,000字程度で記入)を教務課へ提出。その助言を行う。

③④ 研究計画に基づき、学生に研究の進め方を指導する。

⑤⑥ 第1回経過報告(7月下旬)

⑦⑧ 編目構成・参考文献一覧の書き方についても指導し、主査に提出させる。

⑨⑩ 研究を推進させ、必要なデータの収集を指導する。

⑪⑫ 第2回経過報告

⑬～⑮ データの収集を行わせる。

●秋期 取得したデータ分析と考察、及び新たな課題を発見し、論文形式にまとめさせるまでの指導。

①～③ 取得したデータを分析する。

④～⑥ データ分析の結果を解析する。

⑦～⑨ データ解析の結果を論文として文章化する指導を行う。

⑩⑪ 下書きさせた文章を検討し、清書に向ける指導を行う。

⑫⑬ テーマ研究草稿を書き上げ、主査へ提出する。その内容について指導を行う。

⑭ 卒業課題として、教務学生課へ提出

⑮ 主査と副査が審査し、必要な指導を行うと友に、成績の評価を行う。

* 卒業課題の返却・修正を行い、2月上旬に製本用原稿を提出する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テーマ研究Ⅰ・Ⅱの他に、4年間の学習成果を集大成して論文あるいは作品にまとめることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP2)【コミュニケーション能力】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

(DP4)【多様性の理解と協働する力】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

「自立して生きていくための専門知識、技能を身に付けている学生に学位を授与する」に基づき、学習上又は研究推進上の困難を理解し、個別の教育的研究的ニーズに対応するために必要な知識や研究方法を学び、自らも自立できる能力を身につける。

■成績評価基準と方法

卒業課題の審査結果と研究への取り組みをもとに評価。

卒業課題の条件＝テーマ研究Ⅱの最終課題(論文、レポートなど)とは別のものではない。

卒業課題の審査基準＝構想力・論証力・独創性・基礎力

■テキスト・参考文献

【テキスト】
研究内容に応じて、個別に指示する。

【参考文献】
研究内容に応じて、個別に指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】
今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておくこと。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるよう準備して望むこと。

【必要な時間】
授業時の指導を生かして、主体的な研究を推進し、そのための十分な時間を確保すること。事前事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

科目名	幼稚園実習
開講期・単位	4年 春学期・選択 4単位・実習
担当者	増山 由香里、大村 勲夫、愛下 啓恵、木村 彰子、村中 幸子、東 重満、榎本 光邦、橋場 俊輔、蔵満 保幸、青木 美和子、須藤 宏志

■講義の目的および概要

幼稚園教諭1種の免許状を取得するための必修科目である。既に学習した講義、演習等の専門教育科目を総合的に整理し、幼稚園教育現場で幼児および教職員等とのかわり実践活動を通して、幼稚園の保育を実践的かつ継続的に体験し、幼稚園教育の意義や幼稚園教諭の職務内容を知る。

また、幼児に肯定的なまなざしで関わる中で幼児の興味・関心や実態を知り、それに即した指導計画の立案や実践はどうあればよいか、実践を通して学ぶ。

さらに幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学外の幼稚園で20日間（4週間）継続した実習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎日実習日誌を書き、幼稚園の実習担当教諭に提出をする。それに対して担当教諭から指導助言のコメントをいただく。

また、指導担当教諭からは日誌へのコメント記載だけではなく直接指導も受ける。

巡回教員からも、必要に応じてアドバイスをする。

■授業計画

① 実習の目的・課題を明確にもつ。

【オリエンテーション】

② 実習園の建学の精神や教育課程、指導計画を含めた教育方針などを理解する。また、職員構成、学級、幼児数なども理解し、必要な準備の確認をする。

【実習】

③ 実習園の1日の流れを理解する。

④ 幼児との関わりの中で、幼児を肯定的に捉えたり、幼児の興味関心を知る。

⑤ 幼稚園教諭と子どもの関わりを観察し、教諭の役割について学ぶ。

⑥ 環境を通じた教育であることを体験的に学ぶ。

⑦ 実習日誌を記載し反省を活かしながら次の実習に臨む。

⑧ 幼児の興味関心や幼児の実態をもとに、指導計画を立案する。

⑨ 指導計画に基づき、教材研究を行ったり環境の構成について考えたりする。

⑩ 部分実習を実施し、反省をする。

⑪ 幼児との関わり以外にも、幼稚園教諭の仕事を経験する。

⑫ 職員間の役割分担とチームワークの必要性について学ぶ。

⑬ 実習のまとめや反省をする。

【実習事後】

⑭ 実践を振り返り、心を込めてお礼状を書く。

⑮ 実習日誌、課題レポート等を提出する。

⑯ 評価を閲覧し、次の課題を見出す。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・自身の課題を明確にもち、探究心・研究心をもちながら意欲的に課題を追求することができる。

・幼稚園教諭を目指す学生として、意欲的・継続的に実習をやり遂げる。

・自己の幼児教育に対する課題を明確にもった上で保育実践力を養う。

・幼児の実態を考慮した指導計画立案や教材研究の後に実践し、新たな自己課題を見出すことができる。

・日々の保育の後の日誌記載や反省では、幼児の姿や保育者の援助、自分と幼児との関わりなどを通して考察することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP2) コミュニケーション能力

(DP3) 課題を発見し、解決する力

(DP4) 多様性の理解と協働する力

(DP5) 能動的に学び続ける力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

実習園からの評価 60%

事前、事後の諸手続き・実習日誌記載内容・提出書類内容や提出状況 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト・参考文献】

「実習ガイドブック」

「幼稚園教育要領解説」文部科学省編 フレーベル館

「保育指導案大百科事典」 開 仁志 一藝社

これまでの資格に必要な科目で使用したテキストやプリントなど

■授業外学習

【具体的な内容】

実習開始前には、実習に必要な知識や技術を習得する。また、事務的な作業も決められた期日内で行う。

幼稚園の実習時間では行うことができなかった日誌記載や指導計画作成、教材準備等は、実習時間外にも行う。

終了後は実習の振り返りを行い、次の課題を導き出す。また、報告や諸提出物を期日内に行う。

■その他

資格取得に必要な単位を概ね修得済であり、4年春学期の「幼稚園実習指導」の事前準備が完了していることが、幼稚園実習を行う条件となる。

実習費として6月頃、25,000円を徴収する。

科目名	テーマ研究 I [臨床]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	松浦 秀太

■講義の目的および概要

3年次「応用演習 I」、「同 II」での学習成果を発展させ、臨床心理学的なテーマでレポートを執筆し、自身の考えをまとめることを目指します。まず、各自が興味のある心理学的テーマに沿って文献講読や調査・実験を行います。その経過や成果を講義内で発表・討議し、臨床心理学的なレポートとしてまとめていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は児童精神科の臨床心理士やスクールカウンセラーとして実務経験のある教員が担当します。各自が定めた臨床心理学的な研究テーマに沿って文献講読や調査などを進めます。その成果を講義内で発表し、ディスカッションを重ね、研究を修正していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説します。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って演習を展開します。進行状況によって、順序や内容は変更が生じる可能性があります。

- ① オリエンテーション、個別面談(1)、研究テーマの設定(1)
- ② 個別面談(2)、研究テーマの設定(2)
- ③ 研究テーマの設定(3)、研究テーマの発表
- ④ 文献調査、レポート執筆(1)
- ⑤ 文献調査、レポート執筆(2)
- ⑥ 文献調査、レポート執筆(3)
- ⑦ 2000字レポート提出、修正作業
- ⑧ 2500字レポート提出、修正作業
- ⑨ 3000字レポート提出、修正作業
- ⑩ 3500字レポート提出、修正作業
- ⑪ 4000字レポート提出、修正作業
- ⑫ 5000字レポート提出、修正作業
- ⑬ 6000字レポート提出、修正作業
- ⑭ 7000字レポート提出、修正作業
- ⑮ 8000字レポート提出、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自分の研究するテーマを定め、主体的に研究に取り組むことを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

以下の3点で成績を評価します。

- A) 2000字レポート (30%)
- B) 修正されたレポート×7回 (30%)
- C) 8000字レポート (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

- 宮内泰介・上田昌文 (2020). 実践 自分で調べる技術. 岩波書店 (岩波新書1853).
- 山田ズーニー (2001). 伝わる・揺さぶる! 文章を書く. PHP研究所 (PHP新書180).
- 上野千鶴子 (2018). 情報生産者になる. 筑摩書房 (ちくま新書1352).

■授業外学習

【具体的な内容】

事前、事後に自身の研究と関連のある文献をよく読んでください。

【必要な時間】

各々2時間以上の学習時間を必要とします。

■その他

- ・レポートの締め切りは厳守。締切後に提出されたレポートの評価は0点となります。

科目名	テーマ研究 I [臨床]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	岡田 顕宏

■講義の目的および概要

現実社会における心理学の活用方法について理解を深めるための研究実践に関する科目です。テーマ研究論文の作成に必要な文献の講読と、3年次に行った実験・調査研究の方法の見直しを行い、実験調査計画を完成させることが目的です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の研究の進展状況の発表と文献講読発表を中心に演習形式で行います。単に個人ごとの指導があるだけでなく、ゼミ内でディスカッションを行い、お互いの研究に対する理解と取組を深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の発表のなかで課題などに関するフィードバックを行います。

■授業計画

各自の研究に関連した文献（書籍・学術論文）の講読・発表を行いながら、これまでの自分の研究の見直しとテーマ研究論文の作成の準備を行う。以下のスケジュールで展開する予定です。

- ① 3年次研究の発表と問題点の見直し～1
- ② 3年次研究の発表と問題点の見直し～2
- ③ 論文講読および研究計画報告（1）
- ④ 論文講読および研究計画報告（2）
- ⑤ 論文講読および研究計画報告（3）
- ⑥ 論文講読および研究計画報告（4）
- ⑦ テーマ研究の実験調査計画の発表（1）
- ⑧ テーマ研究の実験調査計画の発表（2）
- ⑨ テーマ研究の実験調査計画の発表（3）
- ⑩ 予備調査およびテーマ研究中間報告の準備（1）
- ⑪ 予備調査およびテーマ研究中間報告の準備（2）
- ⑫ テーマ研究経過報告（1）
- ⑬ テーマ研究経過報告（2）
- ⑭ テーマ研究経過報告（3）
- ⑮ 春学期研究成果報告および反省会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テーマ研究論文作成に必要な準備を完了することが到達目標です。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

講読発表した学術論文の数、予備調査にもとづく中間発表の内容で評価します。
 ゼミ発表（30%）・中間報告の内容（25%）・レポート（45%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストの指定はありません。

【参考文献】

心理学 実験・研究レポートの書き方 学生のための初歩から卒論まで B. フィンドレイ著 北大路書房
 その他、個別に指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

レジュメの作成や発表の準備、自分の研究に関わる作業は授業時間外に行うことになります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究 I [臨床]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	橋本 久美

■講義の目的および概要

この講義では臨床心理学領域における習得した知識、技能の活用能力を高めることを目的とする。3年次（応用演習ⅠⅡ）でたてた研究計画をもとに、文献をさらに集め、データ収集・分析を進め、結果をとりまとめる。担当教員の助言を受けながら、研究を完成させる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、臨床心理学研究について知識の習得を目的とした講義を行う。各自の研究についての途中経過報告を中心とし、具体的な研究の方向性について互いに論議する。また、中間ポスター発表に向け、データ分析の結果をまとめる。必要に応じて、データ解析法や研究手法について理解するための個別指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

進行状況の発表を通じて、アドバイスをを行う。適宜、manabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

卒業研究に向けて互いに助言や援助を行いながら、ポスターによる中間発表の形にまとめていく。

- ①オリエンテーション 春学期スケジュール作り
- ②研究経過発表とゼミ内ディスカッション
- ③研究経過発表とゼミ内ディスカッション
- ④実験計画づくり
- ⑤予備実験
- ⑥実験結果の報告とまとめ
- ⑦研究経過発表とゼミ内ディスカッション 報告書作成
- ⑧研究経過発表とゼミ内ディスカッション 報告書作成
- ⑨研究経過発表とゼミ内ディスカッション 報告書作成
- ⑩研究経過発表とゼミ内ディスカッション 報告書作成
- ⑪中間ポスター発表準備1
- ⑫中間ポスター発表準備2
- ⑬中間ポスター発表準備3
- ⑭中間発表の振り返り
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究テーマを確定し、研究計画を立て調査研究を自分で進めることができるようになる。中間発表としてポスターで研究成果のアピールを行う。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

各自の研究計画に沿った進捗度チェック結果（30%）、授業での発言及び提出課題（20%）、中間ポスター発表の完成度の評価（50%）

■テキスト・参考文献

テキストは指定しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

【参考文献】

実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方 古谷野互他 著 ワールドプランニング

■授業外学習

【具体的な内容】心理学研究法や心理統計に関する文献を読んでおく。各自の研究に必要な部分をまとめ、授業で発表できるようにレジュメを作成する。

【必要な時間】調査結果をPCソフトウェアを使った統計分析する実践を復習と考え、2時間以上を充てることが望ましい。

■その他

科目名	テーマ研究 I [臨床]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	高野 創子

■講義の目的および概要

本演習は、日常生活や臨床場面における臨床心理学の活用として、研究実践を行うことを目的としています。臨床心理学の研究手法を学ぶとともに、先行研究の検索、講読、まとめの作業を行い、自身の研究テーマ、計画を立案することが到達目標となります。また、これらの作業は、グループディスカッションを通じて行われるため、仲間と協働できるようになることも目標としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

研究手法について、講師よりレクチャーを行った後、それぞれの興味と関心に沿った先行研究について調べます。その結果をもとに毎回のグループディスカッションを通して仮説、研究計画を立案します。自身の研究だけではなく、お互いの研究に対して理解を深め、研究がより良いものになるようにお互いに積極的な助言を出し合うことを歓迎します。

本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラー、地域支援の経験のある教員が研究倫理とマナーを身に付け、心理支援の発想を研究に生かす視点を養う演習を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回のゼミ発表のなかで課題や進捗状況などに関するフィードバックを行います。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 臨床心理学の研究①
- ③ 臨床心理学の研究②
- ④ 先行研究の講読と報告(1)
- ⑤ 先行研究の講読と報告(2)
- ⑥ 先行研究の講読と報告(3)
- ⑦ 先行研究の講読と報告(4)
- ⑧ 研究計画立案とディスカッション(1)
- ⑨ 研究計画立案とディスカッション(2)
- ⑩ 研究計画立案とディスカッション(3)
- ⑪ 研究計画立案とディスカッション(4)
- ⑫ テーマ研究の前期発表(1)
- ⑬ テーマ研究の前期発表(2)
- ⑭ テーマ研究の前期発表(3)
- ⑮ 振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

臨床心理学の研究手法を学ぶとともに、先行研究の検索、講読、まとめの作業を行い、自身の研究テーマ、計画を立案することが到達目標となります。また、これらの作業は、グループディスカッションを通じて行われるため、仲間と協働できるようになることも目標としています。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1「専門知識・技能を活用する力」
DP3「課題を発見し、解決する力」
DP5「能動的に学び続ける力」

■成績評価基準と方法

毎回の提出物(75%)、研究計画書の作成と提出(25%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
また適宜、それぞれのテーマに沿った文献を必要に応じて指示する。

【参考文献】
「質問紙調査の手順」小塩真司ら著、ナカニシヤ出版
「ライブ講義 質的研究とは何か」西條剛央著、新曜社
「心理学論文の書き方」松井豊著、河出書房新社

■授業外学習

【具体的な内容】
本演習は、毎回の講義で進捗状況の報告とグループディスカッションが行われる。そのため、講義時間外に文献・論文講読、報告書のまとめが必要となる。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業時間外に、自身で計画的に課題をこなさなければ、研究が進みません。課題への取り組みについては自己管理に努めてください。

科目名	テーマ研究 I [臨床]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	品川 ひろみ

■講義の目的および概要

この科目では、それぞれの関心からテーマを設定し、そのテーマに沿って、課題の設定を行い、それにそって調査・研究を行う。最終的には、秋学期に提出するテーマ研究のレポート執筆およびプレゼンテーションにつながる前段階の学びとなる。また授業では全体討議を通して、議論することや他者の評価を受け自分のレポートをよりよいものにする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義はゼミナールごとの少人数で行う。調べる、まとめる、発表する、議論する、などを行うほか、フィールドワークも行う。毎回の授業では必ず自分のレポートの進捗状況を報告する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業において、それぞれにコメントする。また提出されたレポート等についてもコメントを付記し返却する。

■授業計画

- ①オリエンテーション テーマの設定について
- ②テーマの決定 各自の目標および計画の策定
- ③研究計画の発表と議論
- ④研究のすすめかた
- ⑤資料・文献収集
- ⑥資料・文献収集における発表と議論
- ⑦補足資料の収集と報告準備
- ⑧中間報告
- ⑨調査の設営
- ⑩調査項目の設定
- ⑪調査項目についての議論
- ⑫調査（フィールドワーク①）
- ⑬調査（フィールドワーク②）
- ⑭調査データのまとめ
- ⑮報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自らの問題意識を明確にし、それにそって調べ論理的な思考の基づき、レポートを執筆することができる。執筆したレポートをもとに、プレゼンテーションとして発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回の課題レポート50%

中間報告・最終報告50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは指定しない

【参考文献】

参考文献は必要に応じて提示する

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の前にはテーマに沿った資料収集や、参考文献のまとめをしておくこと。授業後には議論を踏まえてその回の授業のまとめを行うこと。

【必要な時間】

事前・事後それぞれ2時間程度とする。

■その他

- ⑧中間報告と、⑮報告会は必須要件とする。

科目名	テーマ研究 I [子心]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	大村 勅夫

■講義の目的および概要

本講義の目的は、「テーマ研究」（レポート）の研究テーマを設定して、①研究計画書を作成すること。②各々の研究テーマに関する文献検討うとともに調査・研究をすすめる、中間発表ができるようにすることである。
ただし、保育や子どもに関するテーマとすること。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の研究経過報告および文献講読、レジメ作成・報告を行っていきます。教員の助言と指導のもとにグループ討議を重ねながら研究成果をまとめていきます。
また、フィールドワークを通じて、研究方法について実践的に学びを深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された研究報告に対して、助言と指導をします。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②研究テーマを設定する①
- ③研究テーマを設定する②
- ④先行文献の整理①
- ⑤先行文献の整理②
- ⑥先行文献の整理③
- ⑦中間発表レジメ制作①
- ⑧中間発表レジメ制作②
- ⑨中間発表
- ⑩中間発表の振り返りと今後にむけてのまとめ
- ⑪フィールドワーク体験①
- ⑫フィールドワーク体験②
- ⑬研究経過発表とディスカッション①
- ⑭研究経過発表とディスカッション②
- ⑮研究経過発表とディスカッション③

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究計画書を作成することができる。研究テーマに関連した先行文献を読み、レジメの作成報告ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

研究計画書の作成 (20%)
研究経過報告 (80%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

各自自分の研究に必要な引用文献、参考文献を収集すること。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ①研究テーマを設定するために、参考となる研究を探し熟読してください。
- ②研究計画を作成してください。
- ③先行文献を読み、レジメを作成してください。

【必要な時間】

授業準備、復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

科目名	テーマ研究 I [子心]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

本講義の目的は、「テーマ研究」（レポート）の研究テーマを設定して、①研究計画書を作成すること。②各々の研究テーマに関する文献検討するとともに調査・研究をすすめ、中間発表ができるようにすることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の研究経過報告および文献講読、レジメ作成・報告を行っていきます。教員の助言と指導のもとにグループ討議を重ねながら研究成果をまとめていきます。また、フィールドワークを通じて、研究方法について実践的に学びを深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された研究報告に対して、助言と指導をします。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②研究テーマを設定する①
- ③研究テーマを設定する②
- ④先行文献の整理①
- ⑤先行文献の整理②
- ⑥先行文献の整理③
- ⑦中間発表レジメ制作①
- ⑧中間発表レジメ制作②
- ⑨中間発表
- ⑩中間発表の振り返りと今後に向けてのまとめ
- ⑪フィールドワーク体験①
- ⑫フィールドワーク体験②
- ⑬研究経過発表とディスカッション①
- ⑭研究経過発表とディスカッション②
- ⑮研究経過発表とディスカッション③

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究計画書を作成することができる。研究テーマに関連した先行文献を読み、レジメの作成報告ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

研究計画書の作成（20%） 中間発表の内容（30%） レジメの作成（30%） 研究経過報告（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

各自自分の研究に必要な引用文献、参考文献を収集すること。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ①研究テーマを設定するために、参考となる研究を探し熟読してください。
- ②研究計画を作成してください。
- ③先行文献を読み、レジメを作成してください。

【必要な時間】

授業準備、復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

科目名	テーマ研究 I [子心]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	橋場 俊輔

■講義の目的および概要

本講義の目的は、「テーマ研究」（レポート）の研究テーマを設定して、研究計画書を作成すること。各々の研究テーマに関する文献検討を行うと同時に実際にフィールドを調査・研究をすすめる、中間発表ができるようにすることである。3年次に引き続き、フィールドワークを通して、学生が自らの具体的な研究テーマを設定し、それについてメンバー間でディスカッションを行い研究を深めていく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の準備とともに他者とのディスカッションを通して、テーマ研究の準備を進める。教員の助言と指導をもとにグループ討議を重ねながら研究成果をまとめていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

ディスカッションによる学生からの助言や教員からの助言を得る。作成した資料に関しては個別に添削し返却します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②レクリエーション
- ③研究テーマの設定・計画の作成
- ④先行文献・先行研究の整理①
- ⑤先行文献・先行研究の整理②
- ⑥先行研究の要約・発表・ディスカッション①
- ⑦先行研究の要約・発表・ディスカッション②
- ⑧研究内容の再検討
- ⑨フィールド調査①
- ⑩フィールド調査②
- ⑪研究に対する個別指導・中間発表準備①
- ⑫研究に対する個別指導・中間発表準備②
- ⑬中間発表①
- ⑭中間発表②
- ⑮テーマ研究発表会までの計画作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究計画を立て、それをもとに先行研究の整理や調査研究を進める。資料をまとめ、他者に研究状況を報告する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
 (DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)
 (DP5)【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)

■成績評価基準と方法

研究計画書 (30%)
 発表、報告資料 (30%)
 中間発表の内容 (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、配布致します。

【参考文献】

文部科学省 幼児期運動指針 等
 各自のテーマ研究に沿った文献の取集を行うこと。

■授業外学習

【具体的な内容】

自らの課題や授業中指示した課題等の資料を収集し、まとめていただきます。
授業中に自分の意見を述べる事が出来るように常日頃から子どもの運動問題、健康問題に関心を持って下さい。

【必要な時間】

予習・復習の時間は各2時間を要します。

■その他

論文や文献などから様々な考えや意見を吸収し自分の考えに取り入れることが出来るようして下さい。

科目名	テーマ研究 I [子心]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	木村 彰子

■講義の目的および概要

3年次の応用演習での様々な体験をもとに、研究計画を作成し、研究テーマを設定する。テーマに応じて保育現場にボランティアとして参加したり、文献検討やデータ収集をすすめ、中間発表を行えるようになることをめざす。また、それぞれが検討した内容についてディスカッションをして確かめ合う時間も設ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

討議内容や教員の助言と指導をもとに研究成果をまとめ、中間報告・中間発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の経過報告や先行研究の読み取りに対し、必要に応じて助言する。

■授業計画

- ① 研究内容について（資料・文献の収集、方法検討）
- ② 研究計画（内容決定、研究計画立案）
- ③ 各自の方法に沿った研究①
- ④ 各自の方法に沿った研究②
- ⑤ 各自の方法に沿った研究③
- ⑥ 研究の中間報告とディスカッション
- ⑦ 遊びの体験
- ⑧ 各自の方法に沿った研究④
- ⑨ 各自の方法に沿った研究⑤
- ⑩ フィールドワーク
- ⑪ フィールドワークの報告会
- ⑫ 中間発表準備
- ⑬ 中間発表
- ⑭ それぞれの研究に対する意見交流
- ⑮ 秋学期に向けた内容検討

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究計画に基づき、フィールドワークをすすめ、まとめる。中間発表を行う。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

研究計画に沿った研究の推進	50%
報告書とディスカッション内容	20%
中間発表	30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無し

【参考文献】

その時に応じて必要な文献を適宜紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

各自の研究に沿った取り組みを意欲的に行う。

【必要な時間】

本科目は2単位であるため、授業の予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

テーマ研究の進捗状況により、必要に応じて時間外にも個別指導をする。

科目名	テーマ研究 I [子心]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

3年次に引き続き、“子ども”や“関わり”、“つながり”を大きなテーマとしてフィールドワークを進めていく。またこれまでの学びから個々の学生が自らの具体的な研究テーマを設定し、それについてメンバー間で語り合う。さらにはそのテーマを意識してフィールドに出かけ調査および研究を行い、テーマ研究の中間発表の準備を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の準備とともに他者とのディスカッションを通して、テーマ研究の準備を進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

発表報告に対しては他学生や教員から助言を得る。作成資料は添削し、個別に返却する。

■授業計画

- ① 研究計画の作成、図書館絵本コーナーの展示・装飾
- ② フィールドワーク①
- ③ 先行研究の要約・発表①
- ④ 先行研究の要約・発表②
- ⑤ 先行研究の要約・発表③
- ⑥ フィールドワーク②
- ⑦ 調査データのまとめと報告①
- ⑧ 調査データのまとめと報告②
- ⑨ 調査データのまとめと報告③
- ⑩ フィールドワーク③
- ⑪ 研究経過報告とディスカッション①
- ⑫ 研究経過報告とディスカッション②
- ⑬ 研究経過報告とディスカッション③
- ⑭ フィールドワーク④
- ⑮ まとめ一振り返りと課題設定

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究計画を立て、それをもとに先行研究の整理や調査研究を進める。資料をまとめ、他者に研究状況を報告する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

研究計画書 (30%)
発表、報告資料 (30%)
中間発表の内容 (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用する場合は必要に応じて伝える

【参考文献】

各自、必要な文献の収集を行うこと

■授業外学習

【具体的な内容】

発表報告資料を作成し、人数分の印刷を事前に行う。
必要な文献の収集と整理を行う。
各自作成する研究レポートを読み返し、随時修正する。

【必要な時間】

授業時間外に予習・復習の時間は、2時間程度を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究 I [子心]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	須藤 宏志

■講義の目的および概要

この演習は応用演習 I、II で広げた知識や作詞、作曲の技法に基づき、新たな子ども向けの歌を創作し、発表することに加え、これまでの創作作業をとおして得られた各自の課題からテーマを絞り、テーマ研究 II で行うレポート作成、および発表に向けた準備に取りかかることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

応用演習 I、II で身に付けた知識や作詞・作曲の技法を用いて、引き続き現代の子どもに受け入れられる歌の創作を行います。完成した曲は楽譜アプリを用いて清書し、楽譜販売サイトに楽譜を登録します。さらに生録、もしくはDTM等を使って音源を作成し、楽曲に適したイラストなどの動画素材を用意し、動画サイトに公開発表します。完成した動画を用いて、ゼミ内で自作曲のプレゼンテーションを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

作品作りの工程では作曲上のルールなど適宜アドバイスしますが、できる限りゼミ生個々の感性を大切にしたいと考えます。楽譜作成、音源作成は専門的なアプリケーションが必要なため、研究室の機材を用います。

■授業計画

- ①オリエンテーション、「春」をテーマとする作詞の題材収集、面談
- ②「春」をテーマとした歌の作詞・作曲(1)面談
- ③「春」をテーマとした歌の作詞・作曲(2)
- ④「春」をテーマとした歌の楽譜作成
- ⑤「春」をテーマとした曲の録音
- ⑥「春」をテーマとした曲の動画制作
- ⑦「春」をテーマとした自作曲のゼミ内プレゼンテーション
- ⑧「夏」をテーマとする作詞の題材収集、各自の研究テーマ検討(面談)
- ⑨「夏」をテーマとした歌の作詞・作曲(1)
- ⑩「夏」をテーマとした歌の作詞・作曲(2)
- ⑪「夏」をテーマとした歌の楽譜作成
- ⑫「夏」をテーマとした曲の録音
- ⑬「夏」をテーマとした曲の動画制作
- ⑭「夏」をテーマとした自作曲のゼミ内プレゼンテーション
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

作曲技法を踏まえ、子ども声域や言葉のイントネーションなどを考慮したメロディーを作曲できる。
春や夏をテーマに、子どもが歌うのに適した内容を考え、適切なリズムの詞を書くことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 春をテーマとした歌の作詞・作曲：30%
- 夏をテーマとした歌の作詞・作曲：30%
- ゼミ内プレゼンテーション：20%
- 毎回提出する作業状況の報告：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

研究室等所蔵の楽譜など

■授業外学習

【具体的な内容】

作詞、作曲等の創作作業は、静かで落ち着いた環境の中で行う必要があります。また時間を要する作業でもあるため、事前事後の課外活動が欠かせません。音源制作にあたっては、生演奏の録音に時間を要するため、課外に時間を設けて行うこともあります。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究 I [子心]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	村中 幸子

■講義の目的および概要

各自が研究テーマを設定し、「テーマ研究（レポート）」の作成に必要な作業手順を明確にする。関連する文献の検討やリサーチを進め、中間発表を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の研究経過報告と先行研究などの文献購読をもとに、ディスカッションを行う。担当教員の助言や指導をもとに、研究成果をまとめて中間発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自がまとめた研究経過報告に対して、教員が助言や指導を行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②研究テーマ設定についてのディスカッション
- ③研究テーマを設定する①
- ④研究テーマを設定する②
- ⑤参考文献や先行研究の整理①
- ⑥参考文献や先行研究の整理②
- ⑦参考文献や先行研究の整理③
- ⑧中間発表レジュメの作成①
- ⑨中間発表レジュメの作成②
- ⑩中間発表
- ⑪中間発表のまとめ
- ⑫研究経過報告とディスカッション①
- ⑬研究経過報告とディスカッション②
- ⑭研究経過報告とディスカッション③
- ⑮研究経過報告とディスカッション④

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各自が研究テーマを決め、研究計画を作成し、それにそって研究を進めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

研究計画に沿った準備・提出物 50%
中間発表の内容 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

各自で自分の研究に必要な参考文献を収集すること。

■授業外学習

【具体的な内容】

文献の整理、研究の進捗状況や内容については、各自でノートにまとめて持参すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ週2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[臨床]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	松浦 秀太

■講義の目的および概要

春学期「テーマ研究Ⅰ」で提出した8,000字レポートに修正を加え、完成版のレポートと発表用のパワーポイントを提出することが目的です。レポートを元に自身の研究について発表し、ゼミ内でディスカッションを行います。それを受けて、レポートに修正を加え、完成を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は児童精神科の臨床心理士やスクールカウンセラーとして実務経験のある教員が担当します。講義では、各自が定めた臨床心理学的研究テーマに沿って調査を進めます。調査結果についてはゼミ内でディスカッションを重ね、レポート(8,000字以上)を完成させます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説します。

■授業計画

概ね以下の予定に沿って演習を展開します。進行状況によって、順序や内容は変更が生じる可能性があります。

- ① 研究テーマ設定
- ② 「テーマ研究Ⅰ」レポート発表、ディスカッション(1)
- ③ 「テーマ研究Ⅰ」レポート発表、ディスカッション(2)
- ④ 「テーマ研究Ⅰ」レポート発表、ディスカッション(3)
- ⑤ 「テーマ研究Ⅰ」レポート発表、ディスカッション(4)
- ⑥ 修正作業、発表準備(1)
- ⑦ 修正作業、発表準備(2)
- ⑧ 修正作業、発表準備(3)
- ⑨ 修正作業、発表準備(4)
- ⑩ 修正作業、発表準備(5)
- ⑪ 修正作業、発表準備(6)
- ⑫ 修正作業、発表会準備(7)
- ⑬ 修正作業、発表会準備(8)
- ⑭ 全体発表会
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自分の研究するテーマを定め、主体的に研究に取り組むことを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

以下の3点で成績を評価します。

- A) 研究テーマについての発表 (30%)
- B) 発表会での発表及びレジュメ (20%)
- C) 最終レポート (50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

- 宮内泰介・上田昌文(2020). 実践 自分で調べる技術. 岩波書店(岩波新書1853).
- 山田ズーニー(2001). 伝わる・揺さぶる! 文章を書く. PHP研究所(PHP新書180).
- 上野千鶴子(2018). 情報生産者になる. 筑摩書房(ちくま新書1352).

■授業外学習

【具体的な内容】

事前、事後に指定したテキストをよく読んでください。

【必要な時間】

各々2時間以上の学習を必要とします。

■その他

・レポートやパワーポイントの締め切りは厳守。締切後に提出されたレポートの評価は0点となります

科目名	テーマ研究Ⅱ[臨床]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	岡田 顕宏

■講義の目的および概要

現実社会における心理学の活用方法について理解を深めるための研究実践に関する科目です。テーマ研究論文の作成のための作業を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テーマ研究論文の作成作業の経過報告を中心として、データの分析や解釈に関する問題点の解決等について議論します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の発表のなかで課題などに関するフィードバックを行います。

■授業計画

各自の研究に関連した文献（書籍・学術論文）の講読・発表を行いながら、これまでの自分の研究の見直しと卒業論文の作成の準備を行う。以下のスケジュールで展開する予定。

- ①実験調査の実施と報告 1
- ②実験調査の実施と報告 2
- ③実験調査の実施と報告 3
- ④実験調査の実施と報告 4
- ⑤実験調査データの分析と結果報告 1
- ⑥実験調査データの分析と結果報告 2
- ⑦実験調査データの分析と結果報告 3
- ⑧テーマ研究レポートの執筆と提出 1
- ⑨テーマ研究レポートの執筆と提出 2
- ⑩テーマ研究レポートの執筆と提出 3
- ⑪テーマ研究レポートの修正指導 1
- ⑫テーマ研究レポートの修正指導 2
- ⑬テーマ研究レポートの修正指導 3
- ⑭テーマ研究発表（準備）等（1）
- ⑮テーマ研究発表（準備）等（2）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究論文に相当する研究レポートを完成させることがこの演習の目標になります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

実験調査の実施と報告（30%）・最終レポート（発表を含む）（70%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストの指定はありません。

【参考文献】

心理学 実験・研究レポートの書き方 学生のための初歩から卒論まで B. フィンドレイ著 北大路書房

■授業外学習

具体的な内容】

レポートの執筆・作成や発表の準備、自分の研究に関わる作業は授業時間外に行うこととなります。

授業時間とは別に研究発表会を実施する場合があります。発表は単位取得に必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ [臨床]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	橋本 久美

■講義の目的および概要

この講義では心理学及び臨床心理学領域における習得した知識、技能の活用能力を高めることを目的とする。テーマ研究Ⅱでは春学期に引き続き、予め決定したテーマでの研究を深める。最終的に8,000字以上の論文の形にまとめ、成果発表をする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、公認心理師・臨床心理士資格を持ち、教育領域におけるスクールカウンセラーや産業領域でのカウンセリングなど実務経験のある教員が、「能動的に学び続ける力」について知識の習得を目的とした講義を行う。担当教員の助言指導のもとに、研究論文を完成させる。研究法やまとめについてディスカッションをしながら修正、完成度を高め、各自が8,000字以上のレポートにまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

ディスカッションのレポートに対して、コメントを加える。ディスカッションにおいてゼミ員の反応も記録して集積しておく。よりよい論文成果が得られるよう、授業外でも個別に指導を行うことがある。適宜、manabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

卒業研究の経過発表に対し、指導教員の助言のもと学生同士の討議及び指導教員による助言をうける。

- ①春学期のふりかえり スケジュール作り
- ②研究経過報告
- ③研究経過報告
- ④研究経過報告
- ⑤研究経過報告
- ⑥テーマ研究執筆に向けて草稿作り 論議
- ⑦テーマ研究執筆に向けて草稿作り 論議
- ⑧テーマ研究執筆に向けて草稿作り 論議
- ⑨テーマ研究執筆に向けて草稿作り 論議
- ⑩テーマ研究執筆に向けて草稿作り 論議
- ⑪研究発表会の準備
- ⑫研究発表会の準備
- ⑬テーマ研究発表会およびテーマ研究レポート修正指導
- ⑭テーマ研究発表会およびテーマ研究レポート修正指導
- ⑮まとめ 卒業に向けて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各自の研究テーマに沿った内容かつ仮説の検証ができる論文をめざす。学生生活集大成であることから、成果発表会での個別発表も必須とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

大学生生活の集大成としてのテーマ研究レポート評価（40%）、テーマ研究抄録の評価（30%）、発表会での質疑応答評価と振り返りシート（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは指定しない。

【参考文献】

参考文献は授業中に適宜紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

文献検索や統計分析については各自で何度も繰り返して習熟しておくことが望ましい。

【必要な時間】一回当たりの授業に対して2時間以上かけることが望ましい。また、ディスカッションした内容を記録したものから、参考文献を探して読解に2時間以上充てることが望ましい。必要に応じて個別指導を行う。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[臨床]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	高野 創子

■講義の目的および概要

本演習は、日常生活や臨床場面における臨床心理学の活用として、研究実践を行うことを目的としています。テーマ研究Ⅰで立案した研究計画書をもとに研究論文を作成します。これらの作業は、グループディスカッションを通じて行われるため、仲間と協働できるようになることも目標としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テーマ研究Ⅰで立案した研究計画書をもとにデータの収集、分析を行います。データの分析方法やそこから導き出される結果について、ディスカッションを通じて様々な視点からの考察を行います。研究結果は論文として整理しまとめ、定期末にはPPTを用いたプレゼンテーションにて成果を発表します。

本講義は、心療内科精神科の心理士、またスクールカウンセラー、地域支援の経験のある教員が研究倫理とマナーを身に着け、心理支援の発想を研究に生かす視点を養う演習を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

論文課題の作成文章について、講義内での分析、内容確認、添削指導を行いません。

■授業計画

- ① オリエンテーション 前期の支援内容について振り返り
- ② 研究論文の書き方（研究目的・手続き）
- ③ 研究論文の書き方（結果・考察のまとめ方）
- ④ データ収集の方法について
- ⑤ データ収集と整理（1）
- ⑥ データ収集と整理（2）
- ⑦ データの分析（1）
- ⑧ データの分析（2）
- ⑨ 結果の整理と考察
- ⑩ 論文作成（1）
- ⑪ 論文作成（2）
- ⑫ 論文作成（3）
- ⑬ プレゼンテーション発表資料の作成
- ⑭ フォーラム発表会
- ⑮ フォーラム発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究するにあたって研究倫理を理解し、守ることができること。またデータ分析では共同作業でテーマを具体化するとき、自分のテーマの接点・相違点などをもちながら作業に加わり、適宜疑問点や感じたことを表現できること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1「専門知識・技能を活用する力」
DP3「課題を発見し、解決する力」
DP5「能動的に学び続ける力」

■成績評価基準と方法

毎回のゼミの課題提出(40%)、フォーラム発表会でのプレゼン・PPT資料の提出(30%)、最終レポート(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、それぞれのテーマに沿った文献を必要に応じて指示する。

【参考文献】

「質問紙調査の手順」小塩真司ら著、ナカニシヤ出版
「ライブ講義 質的研究とは何か」西條剛央著、新曜社
「心理学論文の書き方」松井豊著、河出書房新社

■授業外学習

【具体的な内容】

本講義内で指導された論文の書き方をもとに、論文を作成する。次回の演習までに各自が行うことをはっきりさせ、取り組み、報告書としてまとめておくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

研究に関わるデータは各自USBに保存、バックアップをとってなくさないようにすること。また、毎回の報告、成果物はmanabaにて提出すること。

科目名	テーマ研究Ⅱ[臨床]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	品川 ひろみ

■講義の目的および概要

この科目では、それぞれの関心からテーマを設定し、そのテーマに沿って、課題の設定を行い、それにそって調査・研究を行う。最終的には、秋学期に提出するテーマ研究のレポート執筆およびプレゼンテーションにつながる前段階の学びとなる。また授業では全体討議を通して、議論することや他者の評価を受け自分のレポートをよりよいものにする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義はゼミナールごとの少人数で行う。調べる、まとめる、発表する、議論する、などを行うほか、フィールドワークも行う。毎回の授業では必ず自分のレポートの進捗状況を報告する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業において、それぞれにコメントする。また提出されたレポート等についてもコメントを付記し返却する。

■授業計画

- ①秋学期の授業計画（個別発表）
- ②課題の提示と文献検索
- ③文献のまとめ 文献リストの整理
- ④課題の設定
- ⑤課題の検討
- ⑥補足調査 1
- ⑦補足調査 2
- ⑧中間報告
- ⑨レポート執筆 プロット作成
- ⑩レポート執筆 章ごとの論点整理
- ⑪レポート執筆 結論に対する議論
- ⑫レポート提出
- ⑬スライド制作
- ⑭プレゼンテーション準備
- ⑮報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自らの問題意識を明確にし、それにそって調べ論理的な思考の基づき、レポートを執筆することができる。執筆したレポートをもとに、プレゼンテーションとして発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回の授業で記入する小レポート 30%
8,000字論文 40%
最終のプレゼンテーション 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

参考文献は適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の前にはテーマに沿った資料収集や、参考文献のまとめをしておくこと。授業後には議論を踏まえてその回の授業のまとめを行うこと。

【必要な時間】

事前・事後それぞれ2時間程度とする。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[子心]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	大村 勅夫

■講義の目的および概要

この授業の目的は、子ども心理テーマ研究Ⅰで取り組んできた各自の研究をより深め、テーマ研究としてレポート作成・発表することができるようにすることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テーマ研究完成に向けて、調査・データ分析を行い、研究経過報告を行う。教員の助言のもとに、グループ討議を経ながら進め作業を進めてレポートを完成させる。

【課題に対するフィードバックの方法】

経過報告や提出されたレポートに対して、助言、指導を行い返却する。

■授業計画

- ①研究経過報告① (課題の明確化)
- ②研究経過報告②
- ③研究経過報告③
- ④研究経過報告④
- ⑤研究経過報告⑤
- ⑥テーマ研究レポート執筆と経過報告①
- ⑦テーマ研究レポート執筆と経過報告②
- ⑧テーマ研究レポート執筆と経過報告③
- ⑨テーマ研究レポート執筆と経過報告④
- ⑩テーマ研究レポート執筆と経過報告⑤
- ⑪テーマ研究レポート完成に向けて①
- ⑫テーマ研究レポート完成に向けて②
- ⑬テーマ研究会発表準備①
- ⑭テーマ研究会発表準備②
- ⑮テーマ研究発表・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テーマ研究を完成させるとともに、研究発表（プレゼンテーション）を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

テーマ研究レポートの内容 (50%)
発表会のプレゼンテーションの内容 (50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

各自、自分の研究テーマに沿った必要な文献を収集すること。

■授業外学習

【具体的な内容】

9月までに先行文献の整理、10月までに調査を終えておくことが求められる。また、研究経過報告、レポート経過報告の際には、必ず、レジュメ、作成途中のレポートを印刷、持参すること。

【必要な時間】

事前、事後学習にはそれぞれ2時間必要となります。

科目名	テーマ研究Ⅱ[子心]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	青木 美和子

■講義の目的および概要

この授業の目的は、子ども心理テーマ研究Ⅰで取り組んできた各自の研究をより深め、テーマ研究としてレポート作成・発表することができるようにすることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テーマ研究完成に向けて、調査・データ分析を行い、研究経過報告を行う。教員の助言のもとに、グループ討議を経ながら進め作業を進めてレポートを完成させる。

【課題に対するフィードバックの方法】

経過報告や提出されたレポートに対して、助言、指導を行い返却する。

■授業計画

- ①研究経過報告①（課題の明確化）
- ②研究経過報告②
- ③研究経過報告③
- ④研究経過報告④
- ⑤研究経過報告⑤
- ⑥テーマ研究レポート執筆と経過報告①
- ⑦テーマ研究レポート執筆と経過報告②
- ⑧テーマ研究レポート執筆と経過報告③
- ⑨テーマ研究レポート執筆と経過報告④
- ⑩テーマ研究レポート執筆と経過報告⑤
- ⑪テーマ研究レポート完成に向けて①
- ⑫テーマ研究レポート完成に向けて②
- ⑬テーマ研究会発表準備①
- ⑭テーマ研究会発表準備②
- ⑮テーマ研究発表・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テーマ研究を完成させるとともに、研究発表（プレゼンテーション）を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

研究計画に沿った進行（20%）、テーマ研究レポートの内容（50%）、発表会のプレゼンテーションの内容（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

各自、自分の研究テーマに沿った必要な文献を収集すること。

■授業外学習

【具体的な内容】

9月までに先行文献の整理、10月までに調査を終えておくことが求められる。また、研究経過報告、レポート経過報告の際には、必ず、レジメ、作成途中のレポートを印刷、持参すること。

【必要な時間】

事前、事後学習にはそれぞれ2時間必要となります。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[子心]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	橋場 俊輔

■講義の目的および概要

子ども心理テーマ研究Ⅰで取り組んできた各自の研究をより深め、必要に応じてフィールド調査を行い、テーマ研究としてまとめ、レポート作成・発表することができるようにすることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自のテーマ研究に向けて、調査・データ分析を行い研究経過報告を行う。教員の補助のもとに、ゼミ内発表会を行い、テーマ研究の準備を進め研究を完成させる。

【課題に対するフィードバックの方法】

発表報告に対しては他学生や教員からの助言を得る。作成資料は添削し、個別に返却する。

■授業計画

- ①テーマ研究再検討
- ②テーマ研究レポート執筆 個別指導①
- ③テーマ研究レポート執筆 個別指導②
- ④レクリエーション
- ⑤フィールド調査①
- ⑥フィールド調査②
- ⑦研究経過報告、ディスカッション①
- ⑧研究経過報告、ディスカッション②
- ⑨研究経過報告、ディスカッション③
- ⑩テーマ研究レポート完成に向けて①
- ⑪テーマ研究レポート完成に向けて②
- ⑫テーマ研究レポート完成に向けて③
- ⑬テーマ研究会発表準備① (PPT完成)
- ⑭テーマ研究会発表準備②
- ⑮テーマ研究発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究計画に沿って、先行研究の整理や調査研究を進める。資料をまとめ、他者に研究状況を報告する。テーマ研究を完成させ、発表する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)
 (DP2)【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)
 (DP5)【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)

■成績評価基準と方法

- 発表、報告資料 (20%)
 テーマ研究の内容 (50%)
 テーマ研究発表の準備と内容 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用する場合は授業内で伝える

【参考文献】

必要な資料を継続して収集すること

■授業外学習

【具体的な内容】

自らの課題や授業中指示した課題等の資料を収集し、まとめていただきます。授業中に自分の意見を述べる事が出来るように常日頃から子どもの運動問題、健康問題に関心を持って下さい。

【必要な時間】

予習・復習の時間は各2時間を要します。

科目名	テーマ研究Ⅱ[子心]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	木村 彰子

■講義の目的および概要

テーマ研究Ⅰからの研究計画に基づき、各自のテーマ研究を完成・発表することが目的である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

それぞれが準備した研究経過報告や課題をもとにグループディスカッションを行う。教員の助言と指導をもとに、各回の課題を解決し、研究を進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の経過報告や先行研究の読み取りに対し、必要に応じて助言する。

■授業計画

- ① 研究経過報告①
- ② 研究に基づくフィールドワーク①
- ③ 研究経過報告②
- ④ 研究に基づくフィールドワーク②
- ⑤ 研究経過報告③
- ⑥ テーマ研究論文執筆の方向性確認
- ⑦ テーマ研究論文個別相談①
- ⑧ テーマ研究論文個別相談②
- ⑨ テーマ研究論文執筆（個別相談）
- ⑩ テーマ研究論文提出と発表準備
- ⑪ テーマ研究論文個別指導と修正
- ⑫ テーマ研究ゼミ内発表・修正①
- ⑬ テーマ研究ゼミ内発表・修正②
- ⑭ テーマ研究全体発表会準備
- ⑮ テーマ研究発表会での発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子ども心理テーマ研究論文を完成する。
テーマ研究の発表を行う。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

テーマ研究論文の内容 60%
テーマ研究発表内容 20%
各回の報告書 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・10月下旬までに、計画に沿って研究をすすめる。
- ・11月以降は、論文執筆や発表準備を行い、12月のゼミ内発表に向けて準備する。
- ・必要に応じて時間外の個別指導を受ける。

【必要な時間】

本科目は2単位であるため、授業の事前事後学修併せて最低4時間の学修を行う必要がある。

■その他

必要に応じて授業の時間以外にも、学生と担当教員の都合を合わせ、個別指導を実施する。

科目名	テーマ研究Ⅱ[子心]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	増山 由香里

■講義の目的および概要

テーマ研究Ⅰの各自の取り組みをより深め、テーマ研究としてまとめ発表する。引き続きフィールドワークを行い、“子ども”や“関わり”、“つながり”について各自の思いをまとめる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の準備とともに他者とのディスカッションを通して、テーマ研究の準備を進め研究を完成させる。

【課題に対するフィードバックの方法】

発表報告に対しては他学生や教員からの助言を得る。作成資料は添削し、個別に返却する。

■授業計画

- ① 研究経過報告とディスカッション①
- ② 研究経過報告とディスカッション②
- ③ 研究経過報告とディスカッション③
- ④ フィールドワーク①
- ⑤ テーマ研究 個別指導①
- ⑥ フィールドワーク②
- ⑦ テーマ研究 個別指導②
- ⑧ フィールドワーク③
- ⑨ テーマ研究 個別指導③
- ⑩ フィールドワーク④
- ⑪ テーマ研究報告・検討①
- ⑫ テーマ研究報告・検討②
- ⑬ テーマ研究報告・検討③
- ⑭ テーマ研究発表準備
- ⑮ テーマ研究発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究計画に沿って、先行研究の整理や調査研究を進める。資料をまとめ、他者に研究状況を報告する。テーマ研究を完成させ、発表する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 発表、報告資料 (20%)
- 意見交換 (10%)
- テーマ研究の内容 (50%)
- テーマ研究発表の準備と内容 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用する場合は授業内で伝える

【参考文献】

必要な資料を継続して収集すること

■授業外学習

【具体的な内容】

発表報告資料を作成し、事前にmanabaに提出する。
必要な文献の収集と整理を怠らない。
各自作成する研究レポートを読み返し、随時修正する。
他者の報告資料に事前に目を通しておく。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[子心]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	須藤 宏志

■講義の目的および概要

この演習は、これまでのゼミ活動で得た知識や、作詞、作曲の技法に基づき、引き続き新たな子ども向けの歌を創作し発表することを目的とします。
また、各自の研究テーマに基づいてレポート作成し、テーマ研究発表会に向けた準備を進めることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テーマ研究Ⅰに引き続き、現代の子どもに受け入れられるような歌の創作を行い、完成した曲を動画サイトに公開発表するとともに、楽譜販売サイトに楽譜を登録します。

また、創作活動と平行して、各自の研究テーマに基づくレポート作成と、テーマ研究発表会の準備を進めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

作品作りの工程では作曲上のルールなど適宜アドバイスしますが、できる限りゼミ生個々の感性を大切にしたいと考えます。楽譜作成、音源作成は専門的なアプリケーションが必要なため、研究室の機材を用います。

レポートについては、Manabaを介して何度も提出と添削を繰り返しながら、時間をかけて完成させます。Wordのコメント機能を使い、修正箇所やアドバイスを付けて返却するので、修正し、少しずつ書き進めて下さい。

■授業計画

- ①オリエンテーション、「冬」をテーマとする作詞の題材収集、(面談)
- ②「冬」をテーマとした歌の作曲(1)
- ③「冬」をテーマとした歌の作曲(2)
- ④「冬」をテーマとした曲の録音、レポート指導
- ⑤実習報告会(合同)
- ⑥「冬」をテーマとした曲の動画制作、録音
- ⑦「冬」をテーマとした自作曲のゼミ内プレゼンテーション
- ⑧各自の研究の進捗状況確認、レポート指導
- ⑨自由曲の作曲(1)、レポート指導
- ⑩自由曲の作曲(2)、レポート指導
- ⑪自由曲の録音、レポート指導
- ⑫各自の研究レポート進捗状況確認、自由曲の動画制作
- ⑬自作自由曲のゼミ内プレゼンテーション、レポート指導
- ⑭テーマ研究発表会に向けたゼミ内発表会練習(プレゼンテーション)、準備
- ⑮テーマ研究発表会(合同)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子どもが歌うことを想定した歌を作詞・作曲することができる。
各自の研究テーマに沿った研究を進め、レポート作成することができる。
各自の研究テーマに沿った研究を、発表会の場で、限られた時間内に適切にプレゼン発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

冬をテーマとした歌の作詞・作曲：15%
自由曲の作詞・作曲：15%
ゼミ内プレゼンテーション10%
毎回提出する作業状況の報告：10%
テーマ研究レポート：30%
テーマ研究発表会プレゼンテーション：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じて紹介する。

【参考文献】
研究室等所蔵の楽譜など

■授業外学習

【具体的な内容】
作詞、作曲等の創作作業と平行して、各自の研究テーマに沿ったレポート作成作業を進めるために、課外時間での作業が必要となります。

【必要な時間】
4時間

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[子心]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	村中 幸子

■講義の目的および概要

テーマ研究Ⅰで取り組んできた研究計画に基づき内容を深め、各自のテーマ研究を完成させ、発表を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の研究経過報告をもとにグループディスカッションを行い、課題を明確にしなが
ら解決をし、研究を進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の研究テーマに沿って、授業内または必要に応じて個別に教員が助言し指導を行
なう。

■授業計画

- ①研究経過報告
- ②研究経過報告
- ③研究経過報告
- ④研究経過報告
- ⑤研究経過報告
- ⑥研究経過報告
- ⑦研究経過報告
- ⑧テーマ研究レポート提出と発表準備
- ⑨テーマ研究レポート提出と発表準備
- ⑩テーマ研究レポートゼミ内発表と修正①
- ⑪テーマ研究レポートゼミ内発表と修正②
- ⑫テーマ研究レポート修正
- ⑬テーマ研究会発表準備①
- ⑭テーマ研究会発表準備②
- ⑮テーマ研究会発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テーマ研究を完成させる。研究発表を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

テーマ研究レポートの内容 50%
テーマ研究発表会の内容 30%
各回の報告書 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

各自で自分の研究に必要な参考文献を収集すること。

■授業外学習

【具体的な内容】

ディスカッションやフィードバックにより得た事柄を整理してレポートを書き、修正
していくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ週2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[認定心理士(心理調査)]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	品川 ひろみ、増山 由香里、大村 勅夫、岡田 顕宏、木村 彰子、 村中 幸子、松浦 秀太、橋本 久美、橋場 俊輔、青木 美和子、 須藤 宏志、高野 創子

■講義の目的および概要

本講義では、各自の決定したテーマについて、研究計画の策定・データ収集・分析から結果報告に至るまでの一連の流れを経験することにより、実社会に生かすための心理学の研究法を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各ゼミナールでは、各人の研究について進捗状況の報告を行い、議論を重ね、完成を目指す。ゼミ担当教員は、必要に応じて研究法に関する知識の教授や問題点の解決に向けての示唆を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

研究完成に向けて、授業以外にも個別指導の時間を設けます。

■授業計画

心理学の研究方法は、実験・質問紙調査・面接・観察などがあり、分析法も統計分析や質的分析など様々な手法が存在する。本演習では、各自の研究テーマに沿った研究方法を選択するのが望ましい。

本講義は認定心理士（心理調査）資格カリキュラムに含まれることから、以下の内容に沿った計画を行う。

調査・実験・観察・面接・尺度構成・検査などの方法を用いて、自ら計画し、データの採取、処理、解析を行い、報告を行う。最終的に、「問題と目的」「方法」「結果」「考察と展望」の形式での本論文及び抄録を提出する。

- ① 研究テーマの策定と研究計画とスケジュール
- ② 構想発表
- ③ 先行研究レビュー
- ④ 調査の実施と報告(1)
- ⑤ 調査の実施と報告(2)
- ⑥ 調査の実施と報告(3)
- ⑦ 調査の実施と報告(4)
- ⑧ 中間報告会
- ⑨ データ分析報告(1)
- ⑩ データ分析報告(2)
- ⑪ 研究論文草稿執筆 報告(1)
- ⑫ 研究論文草稿執筆 報告(2)
- ⑬ 研究論文完成 提出
- ⑭ 論文抄録 提出
- ⑮ 研究成果報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1つのオリジナル研究を完成する過程において、心理学の知識と研究実践についての総合的な力を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

<臨床心理専攻>

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

<子ども心理専攻>

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 授業内課題の提出物 20%
- 中間報告会での評価 20%
- 論文 40%
- 研究成果報告会での評価 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じて紹介する。

【参考文献】
必要に応じて紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・データ分析に使用するソフトウェアや実験機器など使用機材の使い方には慣れておくこと。
- ・新聞記事や心理学系専門誌に、目を通し、切り抜きやコピー等して、研究資料の収集を図る。
- ・授業での課題を次回授業時に提出する。

【必要な時間】

予習、復習の時間は各2時間程度を目安とする。

■その他

受講の前には、テーマに応じた研究方法（調査・実験・観察・面接・尺度構成・検査など）に関わる科目を履修済みであることが望ましい。例）心理統計学・社会心理調査法・心理学実験Ⅰ・Ⅱ・社会観察法・心理アセスメントⅠ・Ⅱなど

個人での研究を原則とするが、2人に限り、「方法」と「結果」は共有することを認める。その場合は、「タイトル」「問題と目的」と「考察と展望」は個別にまとめる。

※ 認定心理士（心理調査）の資格取得のためには本科目の修得が必須となる。

科目名	テーマ研究Ⅱ[臨床・再履修]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	鈴木 憲治

■講義の目的および概要

講義の目的および概要

「応用演習Ⅰ・Ⅱ」で習得した知見をもとに、各自の研究テーマを定め、教員から提示されるテーマに沿った最新情報をもとに、ゼミ生同士でのグループディスカッションを通じて、より深い理解と展開を志向します。既存の知見だけでなく、オリジナリティーのあるテーマ研究論文を目指します。

研究テーマにそった文献講読、フィールド調査、実験等を行い、進捗状況を随時ゼミ生間で検討し合い、客観的で妥当なテーマ研究論文の作成のための作業を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は、司法福祉領域で実務経験があり、教育領域での実践を行っている教員が、人間に対する深い理解に根ざした支援を実践できるようにするため以下の方法をとります。

- ア) 司法、福祉、教育の各領域で研究テーマのヒントになると考えられる講義を行う。
- イ) 両価的なテーマについてのグループディスカッションを実施して、人間が直面する心理学的課題を検討することで、多面的な見方や考え方を身に付けます。
- ウ) 実務家ゲストスピーカーを招いて臨床現場の実際を聴いたり、臨床の現場を見学したりすることで、知識に偏らない社会で役立つ知見を身につけます。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義、グループディスカッション、ゲストスピーカーの講義聴取レポート夫々で、解説を行います。

■授業計画

各自の研究のヒントとなると考えられる講義を行いながら、自分の研究の見直し（検討）と卒業論文の作成の準備（研究テーマ発表）を繰り返し行います。

- ①オリエンテーション
研究テーマの再確認
- ②司法・福祉領域の紹介（高齢者福祉）
- ③司法・福祉領域の検討（認知症の家族を抱えた家庭への支援）
- ④研究テーマ発表Ⅴ
- ⑤司法・福祉領域の紹介（障がい者の社会とのかかわり方）
- ⑥司法・福祉領域の検討（インクルーシブな社会）
- ⑦研究テーマ発表Ⅵ
- ⑧教育領域の紹介（生徒指導）
- ⑨教育領域の検討（対話による問題解決）
- ⑩研究テーマ発表Ⅶ
- ⑪テーマ研究発表準備
- ⑫テーマ研究発表 1
- ⑬テーマ研究発表 2
- ⑭テーマ研究発表 3
- ⑮テーマ研究発表の振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テーマ研究論文作成に必要な準備について、工程表にもとづいて計画的に進められること、成果物としてのテーマ研究論文が、医療、福祉、教育、司法、産業等の現場で、専門的対人援助が行える基礎力を有する人材であると認められる内容にまで完成度を高められることが目標となります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 多様性の理解と協働する力

上記DPに基づいて、研究テーマについて、豊かな人間性を基盤に、心理学の基礎理論と臨床心理学的援助に関する知識と技能の修得が、日常生活、実務の実践に活かせることを必要とします。

■成績評価基準と方法

以下の3点で評価します

- ③, ⑥, ⑨の検討シートの内容 : 30%
- ④, ⑦, ⑩の研究テーマ発表の内容 : 30%
- ⑫, ⑬, ⑭での成果物の内容 : 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

司法・犯罪心理学 岡本吉生編 遠見書房
社会福祉概論 その基礎学習のために 西村昇, 日開野博, 山下正國＝編著 中央法規
スクールソーシャルワーカーの学校理解 子ども福祉の発展を目指して 鈴木庸裕編著
ミネルヴァ書房

■授業外学習

【具体的な内容】

研究テーマ発表を各自①～④, ⑤～⑦, ⑧～⑩の事前事後に準備します。
障害者施設, 高齢者施設, 小・中学校のスクールカウンセラー等の関係機関見学の
実施を予定しています。

【必要な時間】

研究テーマ発表の準備は, 各4～8時間が目安です。
関係機関見学に必要な時間は各6時間が目安です。詳細は, 受講者と相談の上決定
します。

■その他

関係機関見学時の現地までの交通費は各人の負担となります。
なお, 新型コロナウイルスの感染拡大の影響等により, 関係機関の見学やゲストス
ピーカーの招聘に変更・中止となる場合があります。

科目名	生命と倫理
開講期・単位	4年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	水野 浩二

■講義の目的および概要

生命科学は近年目覚ましい発展を遂げています。その一方で、急速な発展に伴う弊害も出てきています。問題の解決を専門家だけに任せるわけにはいきません。多くの方がともに考えてみなければなりません。なぜなら、生命科学の問題は、最終的には社会的・倫理的問題だからです。そうした問題を考えるためには基礎知識が必要です。本講義では、主として医療にかかわる問題を取り上げます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、授業の冒頭で前回の授業の確認を行います。次にその日の授業の概要を話したのち、本題に入ります。本題は講義中心になりますが、適宜学生側に質問をしますので、答えてください。最後に、翌週の内容について簡単に触れますので予習に役立ててください。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニレポートを提出してもらいます。課題はmanabaに入っていますので、そこに回答してください。翌週の授業で解説を行います。

■授業計画

- ①生命倫理（学）とは何か
- ②「ヒポクラテスの誓い」とは何か
- ③心臓移植の歴史
- ④脳死と臓器移植
- ⑤脳死再定義
- ⑥インフォームド・コンセント
- ⑦パターンリズム
- ⑧尊厳死
- ⑨安楽死
- ⑩QOLとSOL
- ⑪ターミナルケアとキューブラー・ロス
- ⑫ソフテノン訴訟
- ⑬死刑制度
- ⑭脳倫理
- ⑮生物と無生物

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生命倫理の基本用語を理解し、現実生活において応用できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

期末レポート（60%）＋ミニレポート（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

manabaのコンテンツに授業の資料が入っていますので、各自で予めプリントアウトしておいてください。

【参考文献】

『文系のための生命倫理』羊土社。『生命倫理Q&A』太陽出版。水野浩二『倫理と歴史』月曜社。M. ガザニガ『脳の中の倫理』紀伊國屋書店。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業資料及び各自のノートを使って復習をしっかりと行ってください。また、わからない点を書き出し、自分で調べてみましょう。次回の講義資料にもしっかりと目を通しておきましょう。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業中に指名されたら、わかる範囲で十分ですので、しっかり答えてください。

科目名	発達心理診断法
開講期・単位	4年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	澤田 信也

■講義の目的および概要

子どもの発達支援においては詳細なアセスメントが不可欠です。本講義ではまず子どもの発達とその障害について学び、心理検査や発達検査を取り上げてその基本的な知識や技術を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は児童精神科領域で臨床心理士として豊富な実務経験のある教員が指導します。パワーポイントを使用した講義が主体ですが、グループワークなどを通じた積極的な参加を求めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

事例の検討や発表について詳細に指導し、実務レベルを体験してもらいます。manabaを利用して資料を提供します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②子供の発達 1
- ③子供の発達 2
- ④発達の障害
- ⑤心理・発達検査の概要
- ⑥遠城寺式乳幼児分析的発達検査法 1
- ⑦遠城寺式乳幼児分析的発達検査法 2 (グループワーク)
- ⑧振り返りとまとめ
- ⑨ビネー式知能検査 1
- ⑩ビネー式知能検査 2
- ⑪WISCIV 1
- ⑫WISCIV 2
- ⑬実技とグループワーク
- ⑭事例検討
- ⑮振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子どもの領域の発達や検査についての基礎知識を身につけ、検査の実際を体験し学びを深めることをねらいとします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

実技やグループワークでの検討、報告	30%
小レポート	30%
まとめのレポート	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

指定はありません。資料を配布します。

【参考文献】

必要時紹介します。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】
配布資料をよく読み、事後学習してください。次回の講義について予告しますので、各自事前学習してください。

【必要な時間】
事前事後ともにおおむね2時間程度。

■その他

科目名	教育課程論Ⅱ[子心]
開講期・単位	4年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	東 重満

■講義の目的および概要

幼稚園要領を基準として各幼稚園等において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園等の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。教育課程論Ⅰの学習成果を踏まえ、理論理解の深化と実践事例の研究・評価更に、編成力を培う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストや配布資料に基づいて講義すると共に、個人の振りかえりやグループワークを通して、課題を自ら明らかにし実践的アプローチも試み具体的成果としてプレゼンテーションする。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループ演習におけるディスカッションや小レポートを通して行う。

■授業計画

- ①教育課程論Ⅰの学習内容を振り返り幼稚園教育要領を元に、各園が独自に作成する教育課程についての基本的理解を確かめ合う（講義と応答による）
- ②教育要領について、児童の実態や社会的背景も踏まえながら解説し、今日求められている幼児教育とその方向性について解説する。
- ③「環境を通して行う教育」そして更に「豊かな遊びの組織化」を軸に展開される教育課程において「主体的・対話的で深い学び」の基本育てが行われることに気づかせる。
- ④幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿の意味、5領域とのかかわり、そしてそれが到達目標ではないことの解説と幼小の連携について学びを深めさせる。
- ⑤日本における幼稚園教育要領の歴史と各時代の教育要領の特色について
- ⑥日本における「幼児教育の父」と言われる倉橋惣三の「保育の心」を考える。
- ⑦幼児教育課程の代表的な理論としての「系統主義」や「児童中心主義」について学びを深める。
- ⑧編成主体である保育者の役割とカリキュラムマネジメントについて解説。
- ⑨編成主体である保育者の役割とカリキュラムマネジメントの実践事例の解説。
- ⑩カリキュラムマネジメントと学校評価との関係について解説。
- ⑪グループに分かれて理想の教育課程を考え教育課程を編成する。そのための計画づくりと幼稚園訪問計画の作成。（市内・近郊で評価の高い園を時間外に見学する。
- ⑫訪問した幼稚園の教育課程と実践の特色についてパワーポイントで発表し合う。各園園長や教務担当者からの教育課程作成に伴う工夫や苦勞についても併せて発表する。
- ⑬グループごとに時間外も利用して編成を進めている教育課程について中間報告を行いながら授業担当者からの助言を受ける。
- ⑭新教育要領を踏まえた、卒園までの長期的視野に立つ、学生として考える理想の「幼稚園教育課程」をパワーポイントを中心に発表し合う。
- ⑮教育課程論Ⅰの学習を踏まえ、理論学習を深化し、付属幼稚園だけでなく優れた現場の事例に学んだ、カリキュラムマネジメントを含めた教育課程の学習についてまとめる。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①教育課程の意義
学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。
- ②教育課程の編成の方法
教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
- ③カリキュラム・マネジメント
教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教職において基礎となる教育課程の実践的理解を深め、将来、教育実践の現場においてマネージメントを担える人材育成に寄与するものである。

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

小課題（10%）フィールドワークないしゲストスピーカーレポート（30%）期末レポート（60%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教育課程論Ⅰと同じ「教育・保育課程論 書いて学べる指導計画」（萌文書林）。
「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、その他については授業時スライド等で提示予定。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・教育課程論Ⅰの理論的な理解に基づき、各時間の教育課程の編成や、指導計画の立案の構想を練り、講義ノートに書き出す。
- ・授業後は講義ノートと指導案等の成果物を整理し、自分が重要だと考える箇所を抽出しながら次回以降の授業に繋げる。
- ・ふり返りとまとめの繰り返しを丁寧に実行する。

■その他

後半でグループに分かれて市内・近郊で評価の高い園を時間外に見学ないしゲストスピーカーを招き実践的理解を深め、理想の教育課程を考え教育課程を編成する。

科目名	幼稚園実習指導[子心]
開講期・単位	4年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	愛下 啓恵、木村 彰子、村中 幸子、榎本 光邦

■講義の目的および概要

8月からの学外幼稚園実習の事前指導の科目である。幼稚園実習に必要な知識や技能、実践力における各自の課題を明確にし、幼稚園教諭1種免許を取得するための幼稚園実習で求められる力をつけることが目的である。
絵本、シアター、ピアノ引き歌い、指導案の準備や日誌の記載・エピソード記述、教材研究を行うと共に、実習生としてのマナーも身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・付属認定こども園にて、一人2回実習を行い、日誌を記載する。
- ・実習に向けた心構えや確認事項、個人票などの事務手続きを行う。
- ・絵本やシアター発表準備、弾き歌い、指導案作成、エピソード記述、教材研究などを行う。
- ・授業の後半、学びの成果をもとに、学外実習に向けた準備が整っていることを確認するための事前確認を実施する。
- ・幼稚園教諭及び音楽指導の実務経験等がある教員4名が、それぞれの専門性を生かしながら適宜指導にあたる。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出したものは、全体、あるいは必要に応じて個別にコメントし、必要があれば修正を促す。

■授業計画

- ① 授業ガイダンス・実習課題検討・個人票作成について
- ② 課題に向けた取り組み方法・日誌の書き方について
- ③ 指導案・エピソード記述について
- ④ 付属認定こども園実習
- ⑤ 付属認定こども園実習・絵本、弾き歌い、指導案、教材研究等①
- ⑥ 付属認定こども園実習・絵本、弾き歌い、指導案、教材研究等②
- ⑦ 付属認定こども園実習・絵本、弾き歌い、指導案、教材研究等③
- ⑧ 付属認定こども園実習・絵本、弾き歌い、指導案、教材研究等④
- ⑨ オリエンテーションに向けた心構え
- ⑩ 絵本、弾き歌い、指導案、教材研究等⑤
- ⑪ 絵本、弾き歌い、指導案、教材研究等⑥
- ⑫ 絵本、弾き歌い、指導案、教材研究等⑦
- ⑬ 絵本、弾き歌い、指導案、教材研究等⑧
- ⑭ 準備確認1
- ⑮ 準備確認2、実習に向けた最終確認

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

8月からの幼稚園実習に向けて、幼児理解や保育環境に関する理解、ピアノや読み聞かせ等の技術・指導案作成・教材研究等について、実習生として期待される水準に到達し、準備確認を通過する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

事務作業 20%
課題への取り組み 80%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

- ・「保育指導案大百科事典」 開仁志 一藝社
- ・「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館
- ・子どもの歌の楽譜（これまで配布されたものなど）
- ・これまで保育実習や幼稚園免許取得科目で使用したテキストや資料

■授業外学習

【事前・事後学習】

- ・実習に向かうための自己課題に対する取り組みを行う。
- ・実習後の日誌やエピソード記述の記載、指導案作成、教材研究を実施する。
- ・弾き歌いの練習や、絵本・紙芝居の読み聞かせ、手遊び、わらべうた等の練習をする。

【必要な時間】

- ・本授業は2単位で、1回2コマの授業を展開するため、事前事後学修は週2時間を目安として学修する必要がある。

■その他

- ・提出物等がある場合は、授業開始前に必ず準備しておくこと。
- ・本授業は実習に対する構えの形成も目的とするため、技術的な準備だけではなく、日常から、大人としての自覚をもった生活を心がけることを求める。また、原則として欠席は認めない。やむをえない理由で遅刻および欠席する場合は必ず担当者に連絡をし、その回の内容把握に努め、自ら補習課題を求めること。
- ・新型コロナウイルスの状況や付属認定こども園の状況等により、計画の変更もあり得る。その都度授業内で伝えるので、聞き逃さず把握すること。

科目名	教育相談[子心]
開講期・単位	4年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	榎本 光邦

■講義の目的および概要

教育相談は、幼児・児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討、分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

本講義は、公立小学校や公立教育相談室において、教育相談や特別支援教育（障がい児教育）に関する教育相談の実務経験のある教員が、その経験を生かして、多様な子どもに対しての効果的な教育相談の進め方を心理学の理念と方法を取り入れ、具体的に講義します。

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義時に行います。

■授業計画

- ①ガイダンス／学校教育と教育相談
- ②教育現場の実態
- ③教育相談の理論
- ④C. R. ロジャースの生涯と仕事(1) ～ロジャースの理論について
- ⑤C. R. ロジャースの生涯と仕事(2) ～カウンセリング演習
- ⑥教育相談の技法
- ⑦学級経営に活かす教育相談
- ⑧学校や園で使えるアセスメント
- ⑨保護者への理解と支援
- ⑩校内・園内および関係機関との連携
- ⑪スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用
- ⑫発達障害の理解と支援(1) ～AD/HD, SLDについて
- ⑬発達障害の理解と支援(2) ～自閉スペクトラム症について
- ⑭精神障害の理解と支援
- ⑮学級で使える心理ワーク演習

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門的知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

定期試験（レポート形式・50%）に、毎回の受講後に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教師のたまごのための教育相談(改訂版) 会沢信彦・安齊順子 北樹出版

【参考文献】

生徒指導提要 文部科学省

■授業外学習

【具体的な内容】

事後学修として、当日の授業内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。また、シラバスに提示されている次時の内容について大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートに予習として記載しておくこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心をもって下さい。

■その他

講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)[子心]
開講期・単位	4年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	木村 彰子、東 重満、須藤 宏志

■講義の目的および概要

本講義の目的のひとつは、これまで身に付けてきた保育者としての資質、能力について自己評価し、自らの課題を捉えることです。また二つめとしては、課題について実践的に取り組むことをとおし、資質、能力の向上を図るとともに、保育者としての使命と責任を自覚し、目指す保育者像を明確にすることです。従って、この科目の受講対象者は幼稚園教諭一種免許、保育士資格の両方、もしくはそのどちらか一方の取得を目指す者に限ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自己課題を明確にし、それを解決できるようなグループワークを中心に行いますが、実践力向上のために、講義形式も組み合わせます。具体的には、模擬保育の内容を検討し実施するほか、2年生が行う模擬保育に子ども役として参加し、先輩としてのアドバイスを行います。さらに、保育や子どもに関わる社会的課題について任意のテーマを選出し、グループ内で研究をまとめ、プレゼンテーションを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

模擬保育及び、社会的課題のプレゼンテーション発表会終了後、学生が相互にディスカッションするとともに、担当教員からのコメントをとおして、次の課題に向かうきっかけづくりを行います。

■授業計画

- ① 自己課題の明確化／グループ役割分担検討／エピソード記述
- ② 幼稚園実習情報交流／保育士資格申請説明
- ③ 保育士資格申請提出／教職に向けた現場からの提言／教職履修カルテへの記載
- ④ 保育現場からの提言
- ⑤ 他国の幼児教育事情／模擬保育検討
- ⑥ 発達心理の視点から保育に向けたメッセージ／模擬保育準備
- ⑦ 模擬保育 1
- ⑧ 模擬保育 2
- ⑨ 模擬保育の評価反省
- ⑩ 子どもを取り巻く社会的課題の現状／グループ課題の検討
- ⑪ 社会的課題の調査 1／幼稚園教諭免許申請
- ⑫ 社会的課題の調査 2／プレゼンテーション発表会の準備／レポート作成
- ⑬ 2年生の模擬保育への参加／2年生へのアドバイス
- ⑭ 社会的課題プレゼンテーション発表会 1
- ⑮ 社会的課題プレゼンテーション発表会 2／教職に向けた課題への取り組みの自己評価／まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育・教職に向けた自らの課題を明確に持つことができる。
- ・グループ全体の動きの中で自己の役割を自覚し、他者と協力しながら責任を持って課題に取り組むことができる。
- ・保育に関する様々な知識を得て、幅広く視野を広げることができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ① 自己課題に向けた取り組み：20%
- ② グループでの課題に向けた取り組み：20%
- ③ 提出課題(学んだこと・エピソード記述他)：40%
- ④ 保育者の視点でのコメント：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じて資料配付。特定のテキストはありません。

【参考文献】

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
今までの教職に関わる授業で使用したテキスト

■授業外学習

【具体的な内容】

・日頃から新聞等により教育・保育に関する様々な社会状況に関心を持つこと。
・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読んで理解し、保育者として自己形成に努める気持ちで最後の大学生活を過ごすこと。

【必要な時間】

本授業は2単位で、1回2コマの授業を展開するため、事前事後学修として週2時間を目安として行うことを求める。設定された課題に向けて、授業外の時間も利用しながら誠実に協力して取り組むこと。

■その他

欠席は原則として認めません。ただしやむを得ない理由により欠席する場合は、欠席を補充するための課題を課しますので、欠席理由とともに自ら課題を受け取り、提出してください。

科目名	心理演習
開講期・単位	4年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	岡田 顕宏、松浦 秀太

■講義の目的および概要

本演習では、公認心理師が心理に関する業務を行っていく上で必要な基本的知識や技術の修得を目的としている。具体的には、事例検討や小グループでの体験的学習を通して、心理的アセスメントや心理学的支援法、支援計画作成法を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は医療保健分野や福祉分野、教育分野、私設相談機関などにおいて心理職としての実務経験のある教員2名が担当する。形式は講義と演習形式である。担当教員による概論的レクチャーの後に、小グループでのロールプレイングや事例検討等を行う。その後、受講者全体でディスカッションを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義内でフィードバックを行う。

■授業計画

概ね以下のように行う。

- ① オリエンテーション、公認心理師について
- ② 心理的支援に関する事例検討
- ③ 心理支援面接演習(1)イントロダクション
- ④ 心理支援面接演習(2)ロールプレイ①
- ⑤ 心理支援面接演習(3)ロールプレイ②
- ⑥ 心理支援面接演習(4)ロールプレイ③
- ⑦ 心理的アセスメント演習(1)イントロダクション
- ⑧ 心理的アセスメント演習(2)ロールプレイ①
- ⑨ 心理的アセスメント演習(3)ロールプレイ②
- ⑩ 心理的アセスメント演習(4)ロールプレイ③
- ⑪ 支援計画演習(1)所見作成
- ⑫ 支援計画演習(2)フィードバックロールプレイ
- ⑬ 事例検討：多職種連携、チームアプローチ、地域連携
- ⑭ 発表準備
- ⑮ 最終発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

本演習では以下の(ア)～(エ)の修得を目指す。

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得

- (1) コミュニケーション
- (2) 心理検査
- (3) 心理面接
- (4) 地域支援 等

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成

(ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ

(エ) 多職種連携及び地域連携

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3) 課題を発見し、解決する力

(DP4) 多様性の理解と協働する力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

以下の3点で評価する。

- A) 課題(所見) : 30%
- B) ロールプレイング : 30%
- C) 発表会 : 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献】

森田美弥子・金子一史(編)(2004). 臨床心理学実践の基礎 その1—基本的姿勢からインターク面接まで. ナカニシヤ出版.

その他、参考となる文献は適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

これまで学んできた公認心理師に関わる専門科目の内容を教科書や配布されたレジュメなどを通して再確認しておくこと。また、授業中は知識と実践とを関連づけることを意識すること。

【必要な時間】

事前事後各々2時間以上の学習が必要となる。

■その他

※ 本科目は、公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定められています。公認心理師試験を受験するためには、大学においてこの科目を修得しておく必要がある。

※ 本科目は受講時までに3年次開講科目「心理実習Ⅰ（施設実習）」と「心理実習Ⅱ（施設実習）」「集団心理療法」の単位を修得している者のみ受講できる。受講条件を満たしているかどうかについては、各自で確認しておくこと。なお、本演習の受講定員は30名である。

※ 課題、レポートについては公欠などの特別な事情がない限り遅刻提出は認めない。

※ 主にグループ学習となるため、遅刻・欠席はしないこと。欠席した場合、次の回までに課題に取り組む必要がある。

科目名	レクリエーション実習(子ども)
開講期・単位	4年 秋学期・選択 1単位・実習
担当者	橋場 俊輔

■講義の目的および概要

本講義は、レクリエーション理論と実技で身につけた技能を活かすことが出来るよう体験的に学習し、レクリエーション関係団体等が主催する事業に参加、あるいはスタッフとして協力し、現場で実習することを通して指導者としてふさわしい知識と技能を身につけることを目標とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講生自らが企画考案した事業を実際に学外に出向き、展開する。レクリエーションに参加した時間を授業に振り替え、終了後の報告レポートを果たし単位を認定する。本講義は、幼児教育の領域から高齢者までの現場で活かされる支援者としての技術を修得できる授業を実施する。本科目ほか、本学が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するほか、個別に時間を割いて対応する。

■授業計画

1. ガイダンス
2. レクリエーション理論・実技の確認
3. 指導実習①計画立案
4. 指導実習① I
5. 指導実習① II
6. 指導実習①評価反省
7. 指導実習②計画立案
8. 指導実習② I
9. 指導実習② II
10. 指導実習②評価反省
11. 指導実習③計画立案
12. 指導実習③ I
13. 指導実習③ II
14. 指導実習③評価反省
15. 授業のまとめ (課題レポート)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

授業での個別指導を通して身に付けた、レクリエーション・インストラクターとしての技能や資質を、実際に現場で実習することを通して展開できる。
幼児教育・保育領域の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①指導演習の企画、準備、展開 (30%)
- ②事業への参加状況 (40%)
- ③報告、課題レポート (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、配布を行う。

【参考文献】

- 『スポレク活動で健康寿命を延伸』公益財団法人 日本レクリエーション協会
『レクリエーション支援の技術』公益財団法人 日本レクリエーション協会

■授業外学習

【具体的な内容】

日常的に笑顔で挨拶が出来、誰とも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ実践する。
指導演習に向けて各個人での事業計画等の準備が必要となる。目的にあわせたアクティビティが展開できるよう、今までに学習してきた理論や実技の技法を再確認しておく。
科目に関連する学部学科行事を実施した際、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

■その他

科目名	ホスピタリティ論
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	中里 のぞみ

■講義の目的および概要

経済のサービス化が進む現代において顧客満足を高めていくためにはホスピタリティは不可欠である。あらゆる企業がサービス競争下におかれているため、ホスピタリティやホスピタリティ経営は必要である。企業存続のための顧客創造と維持のキーワードのひとつがホスピタリティであるといえよう。観光を学ぶ上でも重要であるホスピタリティへの理解を深め、企業の実践事例などを活用しつつ、具体的かつ総合的に学ぶことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを使用しながらホスピタリティの歴史・ホスピタリティマインドとスキル・ホスピタリティマネジメントを学んでいく。
CAとしての実務経験に基づき、社会人となった時に有益であるような事例を用いて事例検討する。
ホスピタリティ経営についてグループディスカッションし、プレゼンテーションによって共有化を図る。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションについては、随時、授業内でフィードバック。レポートなどの課題については精査後フィードバックする。

■授業計画

- ①ホスピタリティとは
- ②ホスピタリティが求められる背景
- ③経済のサービス化
- ④サービスとホスピタリティ
- ⑤ホスピタリティのマインドとスキル
- ⑥ホテルの事例から学ぶスキル
- ⑦サービスとコミュニケーション
- ⑧顧客満足と社員満足
- ⑨病院経営から学ぶ働く環境と社員満足
- ⑩クレーム対応とリカバリー
- ⑪顧客満足に繋がる具体策の検討
- ⑫顧客満足に繋がる具体策の提案
- ⑬発表と共有化
- ⑭サービスプロフィットチェーン
- ⑮総括とテスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光業界に求められるホスピタリティの概念とその実践的意味を理解できるようになる。
将来的には組織において顧客満足のマネジメントに活用できるようになる。
ホスピタリティ実践に不可欠なコミュニケーション能力を高め、TPOにあわせて多様な表現力と傾聴力を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

対面授業の場合はテスト60% グループワーク・プレゼンテーション30%
小レポート10%
オンライン授業となった場合はテスト50% レポート50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」
中里のぞみ・紺野猷邦著 株式会社パレード

【参考文献】
「コミュニケーション学」末田清子・福田浩子 株式会社松柏社
「対話でみがくことばの力」宇都宮裕章 カニシヤ出版
「人間尊重の心理学」カール・ロジャーズ 創元社
「ワークショップ心理学」藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子
橋本尚子・東正訓 カニシヤ出版

■授業外学習

【具体的な内容】

授業ではしっかり自分でメモをとり、事後学習として見直しする。
事前学習としてはホスピタリティに関連するニュースなど必要な情報を収集する。
特にグループディスカッションの時は各自責任をもって手分けして情報収集する。

【必要な時間】

事前事後学習には各講義前後にそれぞれ2時間程度を費やすようにする。

■その他

対面授業の場合は私語を慎み、オンライン授業となった場合は自律性をもって授業に参加すること。

科目名	観光概論
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	田村 こずえ、藤崎 達也、青木 哲朗

■講義の目的および概要

本講義は、観光学部で観光学を学ぶためのベースとなる科目で、観光という事象を多面的・体系的に理解し、基礎知識を得ると同時に今後の観光学習への関心を喚起することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式での授業ですが、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れます。テキストだけでなく、教員からの補足資料、視聴覚教材などを使用し、理解度を高めます。なお、本講義は、教員の3名の研究分野や実務経験を活かし、オムニバス方式で授業を進めます。①～⑤は田村、⑥～⑩は藤崎、⑪～⑮は青木が担当。

【課題に対するフィードバックの方法】

確認テストやレポートに対するフィードバックは、授業内で実施します。

■授業計画

- ①オリエンテーション 第1部 観光「観光とは」
(第1章) 「観光の現代的意義」(第2章)
 - ②第1部 観光「観光の現代的意義」(第2章)、「観光の歴史」(1)(第3章)
 - ③第1部 観光「観光の歴史」(2)(第3章)
 - ④第1部 観光「わが国における観光の現状」(1)(第4章)
 - ⑤第1部 観光「わが国における観光の現状」(2)(第4章)
授業①～⑤の振り返り、確認テスト
 - ⑥第2部 観光地「観光対象と観光資源」(第1章)
 - ⑦第2部 観光地「観光地」(第2章)
 - ⑧第2部 観光地「観光振興」(第3章)
 - ⑨第4部 「観光政策と観光行政」(1)
 - ⑩第4部 「観光政策と観光行政」(2)、授業⑥～⑩の振り返り、確認テスト
 - ⑪第3部 観光関連産業 「観光関連産業とは」(第1章)、「運輸機関」(1)(第2章)
 - ⑫第3部 観光関連産業 「運輸機関」(2)(第2章)「宿泊施設」(1)(第3章)
 - ⑬第3部 観光関連産業 「宿泊施設」(2)(第3章)
 - ⑭第3部 観光関連産業 「旅行業」(1)(第4章)
 - ⑮第3部 観光関連産業 「旅行業」(2)(第4章)、
テーマパーク(第5章)、授業⑪～⑮の振り返り、確認テスト
- ※授業計画の順番・内容は一部変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・「観光」という事象への多面的広がり概念について説明ができる。
- ・身近な観光(社会)とこの科目の学修を結びつけて考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内確認テスト3回の評価 60%
授業内課題・レポートによる評価 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】「観光概論」JTB総合研究所
※必要に応じてプリント配布。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
テキスト、プリントで予習復習を欠かさないこと。

【必要な時間】
予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

※座席を指定する場合があります。

科目名	観光地理
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義は、観光地理学をベースにし、観光地域の形成と現状を紹介するものである。

各観光地域を地理学的な「空間」（「地域」）として把握し、観光資源がどのように立地され、形成されているのかを認識し、観光学の基礎的知識とすることを目的としている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

さまざまな地図、画像、統計資料などを用いた講義形式で行う。それぞれのテーマに応じた、地図読解や資料解析などによる毎時の課題（manabaの「小テスト」）を提出してもらう。具体的には各観光地域の特徴や問題点の把握、解決法の提案などを「立地」という観点から行ってもらう。

また、終盤に簡単な札幌市内での観光施設の立地調査（フィールドワーク）も実施予定である。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時の課題については、次時の講義で毎時解説するが、詳細はmanabaを通じてコメントし、フィードバックとする。

■授業計画

- ①ガイダンス・地理学的視点
- ②ツーリズムと地理学、読図の方法
- ③温泉観光地域1（形成・現状・課題）
- ④温泉観光地域2（事例：国内と海外）
- ⑤自然観光地域1（形成・現状・課題）
- ⑥自然観光地域2（事例：国内と海外）
- ⑦農山村観光地域1（形成・現状・課題）
- ⑧農山村観光地域2（事例：国内と海外）
- ⑨歴史文化観光地域1（形成・現状・課題）
- ⑩歴史文化観光地域2（事例：国内と海外）
- ⑪都市観光地域1（形成・現状・課題）
- ⑫都市観光地域2（事例：国内と海外）
- ⑬札幌市内観光施設の立地調査（フィールドワーク1）
- ⑭札幌市内観光施設の立地調査（フィールドワーク2）
- ⑮観光資源と立地、フィールドワークのまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①各観光地域を1つの「空間」として認識しながら、その中における現状と課題を総合的にとらえることができる。
- ②観光地域の多様性と個々に内在する課題を理解し、「地域振興」を意識した課題の解決法を自分なりに表現することができる。
- ③観光施設の立地調査から札幌市中心部の空間としての特徴を認識できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①毎時の課題（manabaの「小テスト」） 30%
※毎時の平均点
- ②フィールドワークの状況とまとめ 20%
- ③定期テスト 50%（レジュメ等の持ち込み可）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・毎時のレジュメ 配布

【参考文献】

- ・山村順次『観光地理学 観光地域の形成と課題』同文館出版
- ・寺阪昭信『大学テキスト 観光地理学 世界と日本の都市と観光』古今書店

■授業外学習

【具体的な内容】

予習として、前時の授業内容の意味を確認し、毎時の課題に活かす。
日頃から地図帳をみて、世界の諸地域、諸国家の位置を確認しておく。位置確認は、事後学習として当然行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安としている。

■その他

欠席時の資料等は、manabaで確認すること。定期テストがあるので必要となる。
地理的な概念をきちんと理解すること。
中学や高校で利用した地図帳があれば便利なので持参すること。
フィールドワークは7月の土曜日に予定するので、予定しておくこと。出られなければ成績は不利となる。

科目名	観光文化論
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

国際化の進展によって異文化理解の必要性が高まっている中、観光とは国内・海外問わず常に異文化の接触を伴う現象であると言えます。本講義では、観光を考えていく上での基礎となる「観光文化」領域の基本的枠組みについて学び、観光と文化の結びつきに対する理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で板書を中心に授業を進めます。本講義専用の授業ノートを作成してもらいます。必要に応じてスライドや配布資料、動画等の視聴覚教材を活用します。授業の最後に期末レポートの作成と復習テストの実施を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

ノートやレポートをチェックし、返却の際にコメントを付けてフィードバックします。内容の一部を授業で公表し、他の受講生にも共有しながら適宜解説を行います。

■授業計画

- ①ガイダンス、観光文化論とは
- ②文化財の観光活用
- ③地域文化を伝える観光
- ④日本の観光文化の歴史の変遷
- ⑤自然と文化を守り続けるサステイナブルツーリズム
- ⑥観光と文化とSDGs
- ⑦札幌の文化と観光の魅力を発信する
- ⑧観光文化とエコツーリズム
- ⑨旅行先の社会と文化を学ぶスタディツーリズム
- ⑩健康文化を観光に取り込むヘルスツーリズム
- ⑪人文観光資源
- ⑫伝統文化と観光
- ⑬外国人観光客からみる日本の文化
- ⑭最終成果報告1：期末レポート
- ⑮最終成果報告2：復習テスト

※以上の内容で行う予定ですが、受講生の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光における異文化理解に関する基礎知識を習得する。
- ・観光文化と文化観光について理解し、北海道や日本、外国を事例にしながら検証することができる。
- ・文化を観光に用いることのメリット・デメリットについて考え、自分の言葉で説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・授業ノート：30%
- ・最終成果報告（期末レポート、復習テスト）：70%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・島川崇『新しい時代の観光学概論－持続可能な観光振興を目指して』ミネルヴァ書房、2020年
- ・前田勇編『新現代観光総論』学文社、2015年
- ・山下晋司編『観光学キーワード』有斐閣、2011年
- ・増淵敏之『物語を旅するひとびと－コンテンツ・ツーリズムとは何か』彩流社、2010年

■授業外学習

【具体的な内容】

最終成果報告では、講義内容のまとめ・復習作業と、授業ノートの見直し、さらに授業内容に関連する文献資料を自分で調べて報告する準備作業に取り組んでもらいます。

【必要な時間】

予習と復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

板書が中心の講義となっており、復習テストも板書（授業ノート）の内容の中から出題します。したがって、無遅刻無欠席の志で臨まない授業についていくことは難しいと思われます。意欲的な講義への参加（出席、発言、授業ノートの丁寧な作成、充実したレポート内容）が求められます。

科目名	世界の観光地
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、ヨーロッパの主要観光地を毎時1事例ずつ紹介するものである。そして、それぞれ特有な問題点を探ることである。

事例としては、歴史文化観光地が多くなるが、それ以外を観光資源としている観光地も取り扱う。また、広がり意識した観光地域を取り扱うこともある。

将来的に観光業従事者となった際に、それぞれの観光地における観光資源を知識として意識した上で、アウトバウンドに活かしてもらうことも想定している。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

写真、地図、映像、統計資料などを用いた講義形式となる。それぞれの観光地における観光資源を紹介し、その中でも特に代表する観光都市において、観光資源、観光施設の立地に関する観光者視点の問題点を探し当てる作業を行う。それは毎時における課題（manabaの「小テスト」）として提出してもらう。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、次時の講義で毎時解説するが、詳細はmanabaを通じてコメントし、フィードバックとする。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②イギリス1（バース）
- ③イギリス2（湖水地方）
- ④フランス1（パリ）
- ⑤フランス2（プロヴァンス地方）
- ⑥ベネルクス（ブリュージュ）
- ⑦イタリア1（ローマ）
- ⑧イタリア2（フィレンツェ）
- ⑨イタリア3（ヴェネツィア）
- ⑩ドイツ1（ケルン）
- ⑪ドイツ2（ロマンチック街道）
- ⑫チェコ（カルロヴィヴァリ）
- ⑬スイス（ツェルマット）
- ⑭ギリシア（アテネ）
- ⑮まとめ、最終レポートについて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ヨーロッパ各国にある観光資源を知り、説明できる。
- ②各地の観光地に潜む問題点を観光者の視点で考察し、地理的特徴と関係させながら説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①毎時の課題（manabaの「小テスト」） 50%
※毎時の平均点
- ②最終レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎時のレジュメ 配布

【参考文献】

- ・JTB総合研究所『旅行業務シリーズ7海外旅行実務 海外観光資源2022』
- ・JTB総合研究所『海外旅行地理プラクティカル』
- ・勝岡只『海外観光資源ハンドブック』中央書院

■授業外学習

【具体的な内容】

前時の授業を確認し、その中から観光資源として開発しきれていない部分、観光地の問題点等を見つけ出すことを日ごろから考えること。
manaba上の毎時の課題を期限内に行うこと。

【必要な時間】

日常での意識、課題実施で約2時間

■その他

ヨーロッパの地図が頭に入っていない場合は、地図帳を持ってくることを勧める。
アジアの観光地を学習したい場合は、「アジア観光論」の履修を勧める。

科目名	観光論特別講義
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	河本 洋一、荒木 智、藤崎 達也

■講義の目的および概要

本講義では、観光を取り巻く多様なテーマを取り上げ、観光産業やその関連産業、さらに地域社会との関わりについて、経済・地域振興・文化などの視点から課題を掘り下げる。担当教員の講義とゲストスピーカーの講話をとおして、観光の視点から地域の多様な関係者とともに地域課題に取り組む、専門性を持つ観光人材の育成を目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本授業は講義形式で行う。各教員が担当する授業のなかで観光関連分野等で活躍されているゲストスピーカーを招聘し、観光関連産業就業者、地域中核人材、あるいは関連産業の経営層から、実績を踏まえた講話を聴く機会を設ける。なお、授業と講話を聴いて学生が得た知識をもとに、理解を深め自らの考え方を論理的に表現する能力を獲得することを目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題についての解説は、授業のなかで行う。

■授業計画

以下の3人の先生方が5回ずつ講義を担当するオムニバス方式である。

【①-⑤:河本、⑥-⑩:藤崎、⑪-⑮:荒木】

- ①ミニマム・コミュニティとツーリズム
- ②清田区の観光資源事例Vol.1 (食材)
- ③清田区の観光資源事例Vol.2 (スイーツ)
- ④ゲストスピーカー (清田区地域振興課・清田スイーツ協議会)
- ⑤ミニマム・コミュニティの観光でお金を回すことの意義
- ⑥観光とイノベーション
- ⑦北海道観光とシェアリングエコノミー
- ⑧ゲストスピーカー
- ⑨ゲスト講義の振り返り
- ⑩北海道観光とイノベーションにおける課題
- ⑪アドベンチャートラベルとは①
- ⑫アドベンチャートラベルとは②
- ⑬ゲストスピーカー
- ⑭ゲスト講義の振り返り
- ⑮アドベンチャートラベル今後の展望

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光産業とその関連産業についての理解を、個別のテーマをもとに多角的に理解し、将来、多様な立場の人々とともに、観光の視点を持って産業の振興と地域の活性化に柔軟に対応できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

各担当教員のレポート課題

河本 34%
 藤崎 33%
 荒木 33%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・なし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

各回のテーマについて新聞をはじめとする報道に関心を持ち、自ら調べて講義に参加することを期待する。予習・復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とするが、常に疑問を持ち探究しようとする学習態度を心がけること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、概ねそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

観光とその関連産業分野で活躍する多忙なゲストスピーカーを招聘する際には、貴重な機会であることを意識し、礼儀正しい学習態度で臨むこと。

科目名	添乗演習
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	横田 久貴、藤川 美樹

■講義の目的および概要

旅行業における添乗業務の全般を学び、実際の添乗訓練を通じて添乗実務に関する実践的な技術・資格を身につける。
 なお、この講義は旅程管理者資格の所定研修に準じて行われ、優秀な成績で単位を修得した者は旅程管理者(ツアーコンダクター)に認定される。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ①e-ラーニング(10時間相当)
- ②講義(2日間)*講義の中で試験を実施
- ③実車訓練 1日

【課題に対するフィードバックの方法】

e-ラーニング(10時間相当)は、最後まで取り組むと「振り返り」で知識が確認される。
 講義の中で試験が課される。
 実車訓練では、実践的な態度・行動が求められる。

■授業計画

- ①旅行業法(1)
- ②旅行業法(2)
- ③旅行業法(3)
- ④約款(1)
- ⑤約款(2)
- ⑥約款(3)
- ⑦添乗実務(1)
- ⑧添乗実務(2)
- ⑨添乗実務(3)
- ⑩ケーススタディ(1)
- ⑪ケーススタディ(2)
- ⑫ケーススタディ(3)
- ⑬e-ラーニング
- ⑭e-ラーニング
- ⑮修了試験・解説、実車訓練

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

添乗業務の実践的な知識・技能を身につける。
 単位修得者(試験修了者)は企画旅行の主任添乗員になるための旅程管理の資格を取得し、現場で活躍することができるレベルにまで知識技能を備える。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

修了試験(2回)	70%
e-ラーニングチェック	20%
実車訓練中における技能試験	10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

関連書籍(講義前に配布)
 e-ラーニング(各自)

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容と必要な時間】

- ① 授業時の事前事後学修は、それぞれ2時間を目安とする
- ② 実車訓練 8時間相当

■その他

科目名	観光交通
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

観光行動は必ず空間的移動を伴うことから、交通手段の発達と観光の進展は密接かつ不可欠な関係である。観光における交通業界の担う役割・現状・課題について基礎的な知識を修得することを目標とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で展開し、特徴的な項目を幾つか取り上げてグループワークによるディスカッションを取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内確認テストまたは課題については、採点后、解説付きでフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス 観光の発展と交通機関
- ②観光交通サービスの特性・役割と観光交通ビジネスの展開
- ③観光政策の変遷と観光交通ビジネス
- ④航空ビジネスと観光(1)
- ⑤航空ビジネスと観光(2)
- ⑥空港ビジネスと観光
- ⑦鉄道ビジネスと観光
- ⑧その他の交通ビジネスと観光-貸切バス、タクシー、レンタカー、レンタサイクルなど
- ⑨地域の活性化・まちづくりと観光・交通
- ⑩観光と環境の中の観光交通-エコツーリズム、サステナブルツーリズムの視点から
- ⑪都市ツーリズムと農村ツーリズムにおける観光交通
- ⑫コンテンツツーリズム(鉄道資源)としての観光交通
- ⑬インバウンドと観光交通
- ⑭観光交通の新たな取り組み MaaS等
- ⑮まとめ 授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光と交通との関連を理解する。各観光交通についての基礎的知識の修得と特性、現状の課題と将来の可能性を考える力を養う。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

授業内試験 50%
授業内課題(確認テスト、小論文) 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】『観光交通ビジネス』塩見英治・堀雅通・島川嵩・小島克己編著、成山堂

■授業外学習

【具体的な内容】

事前にmanabaに掲載されるプリントを確認して授業に臨んでください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、2時間を目安とする。

■その他

科目名	国内観光資源
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

本講義の目的は以下の4点。①観光を学ぶ者にとって基本的で、必須の観光資源の知識を身につける。②個々の観光資源を客観的に評価できるようにする。③観光資源から日本の歴史、文化、風習、芸術等の関連知識に興味を持ち、さらに深く知るための学びの契機とする。④「旅行業務取扱管理者」の試験科目である「国内観光資源」の基礎知識を習得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界で実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員による基本的にパワーポイントを利用した講義形式。また、動画を視聴し、内容を確認する。授業内課題を授業終了後にその都度提出のこと。一部の県はmanabaの自習課題とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題、授業内試験実施後、特に注意が必要と思われる点について授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①旅行業務管理者試験の概要と合格の意義 地域別観光資源 北海道(1)
- ②地域別観光資源 北海道(2)
- ③地域別観光資源 東北(1)
- ④地域別観光資源 東北(2)
- ⑤地域別観光資源 関東(1)
- ⑥地域別観光資源 関東(2)
- ⑦授業内試験第1回、地域別観光資源 関東(3) 中部(1)
- ⑧地域別観光資源 中部(2)
- ⑨地域別観光資源 関西(1)
- ⑩地域別観光資源 関西(2)
- ⑪地域別観光資源 関西(3)
- ⑫地域別観光資源 中国・四国(1)
- ⑬地域別観光資源 中国・四国(2) 九州・沖縄(1)
- ⑭授業内試験第2回 地域別観光資源 九州・沖縄(2)
- ⑮地域別観光資源 九州・沖縄(3)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの国内観光資源の知識を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し解決する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内課題（提出物）による評価	25%
授業内試験による評価	25%
定期試験による評価	50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「国内観光資源」 JTB総合研究所

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

テキスト、プリントで予習復習を欠かさない。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

※授業の課題が多いので、覚悟を持って受講すること。国内旅行業務取扱管理者試験³（令和5）年4月1日
他の試験対応三科目「国内旅行実務」「国内運賃料金（1,2年生は対策講座）」「
旅行業法・約款」も受講のこと。※定期試験期間に試験を実施する。

科目名	観光経済論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	河本 光弘

■講義の目的および概要

本講義では、我が国全体や北海道を含めた地方でもますます重要視されている観光の経済活動について、幅広く合理的かつ体系的に教示する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキスト等を中心とした授業内容で、カレントなトピックに触れながら講義を進めていく。事前の予習が望ましい。

本講義は、経済主体のシンクタンクで自治体等から委託された観光経済や観光に係る調査研究の実務経験のある教員がその実績に基づき授業を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

各講の課題に関しては、授業内で質疑回答し解説講義するとともに資料を配布します。

■授業計画

概ね、以下の内容で講義を行います。なお状況により遠隔授業を実施する。それ以降は、事前に授業内で説明する。

- ①観光と経済学
- ②観光商品
- ③観光と旅行に対する需要（基本）
- ④観光と旅行に対する需要（応用）
- ⑤観光と旅行についてのまとめ
- ⑥観光の魅力
- ⑦観光と旅行商品の供給（基本）
- ⑧観光と旅行商品の供給（応用）
- ⑨観光地に行く方法
- ⑩国際観光旅行に対する障壁
- ⑪観光の受入経済に占める位置
- ⑫観光受入社会の便益と費用
- ⑬観光課税
- ⑭観光と自然環境
- ⑮観光経済のまとめ+テスト

遠隔授業の場合、上記を変更する場合もある。その場合には前週等に次週予定内容について説明する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光経済学の基礎知識を習得し、経済学の基本的な考え方を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 期末テスト(授業内試験) 45%
- 中間テスト・レポート 45%
- 授業での小テスト・授業参加態度等 10%

評価については、実態を鑑み変更を加える場合もある。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

観光経済学入門（ジェームズ・マック、日本評論社）
 新版：観光経済の原理と応用（河村誠治、九州大学出版会）

■授業外学習

【具体的な内容】

新聞等における観光経済に関連する記事を毎日読むこと（事前学習）。
そして、毎回配付・作成したレジュメについて不明点を自分で図書館やネット等を活用し調べ理解に努めること（事後学習）。

【必要な時間】

事前・事後授業は、各2時間を目安とします。加えて、観光経済に関して新聞やTV、ネット等を活用し友人や家族等と討議することが望ましい。

■その他

観光について経済的側面で、日々の観光事象をとらえられるように努力すること。
なお、上記の内容はコロナや諸般の環境変化により、適宜変更する場合がある。

科目名	観光サービス論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

観光に関わる様々な観光サービスについて、『全体像を俯瞰し、個々の観光サービス産業の現状と課題、未来のあるべき姿を思い描くことができる』ようになることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界で実務経験のある教員による講義形式の授業。具体的事例を紹介し、併せて授業内課題で理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題・レポートについて、特徴的な回答例をもとに授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス 観光を概観する
- ②宿泊業と観光(1) フィールドワーク 登別温泉にて旅館施設関係者による講演聴講「旅館の提供している観光サービス「おもてなし」を中心に」および日帰り入浴体験(昼食付き) 10/15実施予定
- ③宿泊業と観光(2)
- ④宿泊業と観光(3)
- ⑤交通機関と観光(1)
- ⑥交通機関と観光(2)
- ⑦交通機関と観光(3)
- ⑧旅行業と観光(1)
- ⑨旅行業と観光(2)
- ⑩インバウンド(訪日外国人旅行)(1)
- ⑪インバウンド(訪日外国人旅行)(2)
- ⑫「着地型観光」と「日本版DMO」
- ⑬観光対象としての観光資源/観光情報とメディア
- ⑭ニューツーリズム
- ⑮まとめ 授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

様々な観光サービスを理解し、その可能性や課題に対する見識を持つ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内試験50%、課題レポート25%、授業内課題25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

著者/編集：谷口知司、福井弘幸『これからの観光を考える』（晃洋書房）

■授業外学習

【具体的な内容】

・WEBでの情報収集のみならず、観光に関する報道などに関心を持ち、自発的に各回の学びを深めること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

※登別温泉のフィールドワークでは、講演聴講、日帰り入浴体験費用として5,000円程度が必要です。※フィールドワーク実施日は変更になる場合があります。※授業内課題を必ず提出すること。

科目名	観光ビジネス論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	荒木 智、藤崎 達也

■講義の目的および概要

日本では、これまでに旅行業、宿泊業、運輸業が観光産業の中核を担ってきた。しかし、とくに1990年後半以降において、インターネット革命などの影響によって観光のあり方そのものが変化する中で、観光関連産業の裾野が広がっている。農林水産業系やものづくり系や各種のサービス業、さらにNPOやNGOなどと関わりつつ、観光関連産業は重要な地域産業として発展しつつある。この授業では、これまでに観光とビジネスがどのように繋がり、今後はどのように展開していくのかについて展望することを指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式での授業に加えて、グループワーク、フィールドワーク、道内の企業経営者の特別講演等を取り入れます。
本講義は、航空会社で長年にわたり実務経験を有する教員と、「観光ガイド」「ネイチャーガイド」会社の経営経験を持つ教員の2名により授業を進めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- 第1回 導入：授業の計画、進め方、評価方法などを説明
- 第2回 観光ビジネスの概要 (1) 様々な観光ビジネス
- 第3回 観光ビジネスの概要 (2) 様々な観光ビジネス
- 第4回 観光ビジネスの概要 (3) 観光地域づくりと観光ビジネス
- 第5回 観光ビジネスの概要 (4) ゲスト講師
- 第6回 観光ビジネスの概要 (5) 北海道のアウトドアビジネスと観光
- 第7回 観光ビジネスの概要 (6) 観光ビジネスの課題
- 第8回 観光ビジネスの概要 (7) まとめレポート作成
- 第9回 観光ビジネスの実践 (ガイダンス)
- 第10回 観光ビジネスの実践 (1) 取組み事例の紹介1
- 第11回 観光ビジネスの実践 (2) 取組み事例の紹介2
- 第12回 観光ビジネスの実践 (3) 取組み事例の紹介3
- 第13回 観光ビジネスの実践 ゲスト講師
- 第14回 観光ビジネスの実践 (4) 取組み事例の紹介4
- 第15回 観光ビジネスの実践 まとめレポート作成

第1回～第8回 担当：藤崎

第9回～第15回 担当：荒木

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

この授業を受講した学生は以下の項目を身につけることを到達目標とする。

1. 観光ビジネスに関する多様な考え方や手法、アプローチを理解できる。
2. 観光ビジネスが成立した背景や経緯を理解し、説明できる。
3. 観光ビジネスの現状を知り、課題を明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

受講・発表態度 (グループワーク等) 60%

まとめレポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・特に指定しないが、必要な資料を配布する。

【参考文献】

・特に指定しないが、必要な資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

観光に関する情報、ニュースに常に興味を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設などのホームページにもアクセスし、実際に起きている事象を認知し、問題意識を持ち授業に臨むこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

北海道内の観光施設の取組み事例見学を目的としてフィールドワークを行う可能性があるが、その際は交通費等の費用が一人2,000円程度必要になります。

科目名	旅行業法・約款
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

本講義の目的は、旅行業のみならず旅行関連産業においても重要性が増している「旅行業務取扱管理者」資格取得を目指し、試験科目である「旅行業法」の基礎知識を習得することを目指し、合わせて旅行業法を通じて、旅行業ビジネスの理解を深めることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】旅行業界で実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員によるパワーポイントを利用した講義形式。併せて授業内課題で理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】授業内課題、授業内試験実施後、特に注意が必要と思われる点について授業内でフィードバックを行う。

■授業計画

- ①国内旅行業務取扱管理者試験の概要と合格の意義 旅行業法とは 第1章 目的
- ②第2章 旅行業等 定義 (1)
- ③第2章 旅行業等 定義 (2) 登録 (1)
- ④第2章 旅行業等 登録 (2)
- ⑤第1回 授業内試験、第2章 旅行業等 登録 (3)
- ⑥第2章 営業保証金 (1)
- ⑦第2章 営業保証金 (2)、旅行業務取扱管理者
- ⑧第2章 料金の提示、旅行業約款、取引条件の説明・書面の交付
- ⑨第2章 外務員証、広告・標識、旅程管理 (1)
- ⑩第2章 旅程管理 (2)、禁止行為
- ⑪第2章 企画旅行を実施する旅行業者の代理、旅行業者代理業者の旅行業務、事業の廃止等・業務改善命令・登録の取り消し等
- ⑫第3章 旅行業協会 (1) ※7月1日は月曜の授業
- ⑬第3章 旅行業協会 (2)
- ⑭第2回 授業内試験、旅行業協会 (3)
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの旅行業法の知識を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験による評価50%、
授業内試験 (2回) による評価 25%、
授業内課題による評価 25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「旅行業法及びこれに基づく命令」 JTB総合研究所

■授業外学習

【具体的な内容】
テキスト、プリントで予習復習を欠かさない。

【必要な時間】
予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

※ (重要) 講義名称は「旅行業法・約款」であるが旅行業約款は別途講義科目「国内旅行実務」において学習する。 ※定期試験期間に試験を実施する。
※国内旅行業務取扱管理者試験の他の試験対応三科目「国内旅行実務」「国内運賃料金」「国内観光資源」も受講のこと。※「国内運賃料金 (対策講座)」「国内観光資源」は秋学期授業。

科目名	国内旅行実務
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	菊池 志保

■講義の目的および概要

科目名は「国内旅行実務」となっているが、本講義の目的は、旅行業のみならず旅行関連産業においても重要性が増している国家資格「旅行業務取扱管理者」の取得を目指し、試験科目の一つである「旅行業約款 運送・宿泊約款」の基礎知識を習得することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界での実務経験があり総合旅行業務取扱管理者資格を持つ教員による講義形式。「旅行業約款 運送・宿泊約款」の基本を解説する。併せて、練習問題を解き理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題・試験の後には、特に大切な点について授業内でフィードバックを行う。

■授業計画

- ① 約款とは 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(1)
- ② 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(2)
- ③ 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(3)
- ④ 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(4)
- ⑤ 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(5)
- ⑥ 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(6)
- ⑦ 授業内試験第1回、標準旅行業約款 特別補償規定(1)
- ⑧ 標準旅行業約款 特別補償規定(2)
- ⑨ 標準旅行業約款 受注型企画旅行契約(1)
- ⑩ 標準旅行業約款 受注型企画旅行契約(2)
- ⑪ 手配旅行契約・その他の契約
- ⑫ 手配旅行契約・その他の契約
- ⑬ (航空)国内旅客運送約款(1)
- ⑭ 授業内試験第2回、(航空)国内旅客運送約款(2)
- ⑮ (航空)国内旅客運送約款(3)一般貸切旅客自動車運送事業 標準運送約款

※当講義科目名は「国内旅行実務」であるが、実際の講義は「旅行業約款 運送・宿泊約款」を学ぶ。
※定期試験を試験期間中に実施する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの「標準旅行業約款とその他約款」に関する知識を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3) 課題を発見し解決する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験による評価 50%
2回の授業内試験による評価 25%
授業内課題による評価 25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「旅行業実務シリーズ② 2023旅行業約款 運送・宿泊約款」 (株)JTB総合研究所 発行

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

テキスト条文の内容を確認し、課題で出題傾向を知り、予習復習で知識を定着させる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

「国内旅行業務取扱管理者試験」出題科目に対応している他の3講義「旅行業法・約款」「国内運賃料金」「国内観光資源」も履修・受講すること。

科目名	リゾート概論[1年]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	斉藤 巧弥、田村 こずえ

■講義の目的および概要

観光の魅力の一つがリゾートである。世界各国にはリゾートと呼ばれる施設、地域が点在しており、地域や企業の特徴を活用した事業が展開されている。本講義では2名の教員により、特徴のあるリゾートの事例を中心に学習し、観光とリゾートについて理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

リゾートを理解するため、事例を活用した講義を行なう。また、教員の有するリゾートに関する実践的な知見も活用し、事例を分析する。授業では、アクティブラーニングを取り入れ、受講生による発表、レジュメの作成、グループワーク等も適宜行なう。なお、学習効果向上の観点からフィールドワークも実施する場合がある。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業を通じて適宜フィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②リゾートの基礎知識1 (主に夏季または通年リゾート)
- ③リゾートの基礎知識2 (主に夏季または通年リゾート)
- ④リゾートの事例分析1 (主に夏季または通年リゾート)
- ⑤リゾートの事例分析2 (主に夏季または通年リゾート)
- ⑥リゾートの基礎知識1 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑦リゾートの基礎知識2 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑧リゾートの事例分析1 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑨リゾートの事例分析2 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑩国内のリゾート1 (テーマパーク他)
- ⑪国内のリゾート2 (テーマパーク他)
- ⑫国内のリゾート3 (テーマパーク他)
- ⑬グループワーク (リゾートの事例調査報告)
- ⑭グループワーク (リゾートの事例調査報告)
- ⑮グループワークの発表

* 状況に応じて、リゾートの現場でのフィールドワークを実施する。その場合は、授業計画について、適宜変更することとする。

* ゲスト講師を招聘し、事例紹介を予定している。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光とリゾートの基礎知識を習得し、観光ビジネスや地域社会におけるリゾートの影響や課題を理解する。また、グループワークを通じて課題解決能力や分析能力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業の参加度・積極性 30%

グループワーク 40%

課題提出 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃から観光現場を意識し、観光客の目線でどのようなリゾートがあるのか関心を持つこと。また、自ら機会を見つけリゾート地への訪問も推奨する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

状況に応じて、リゾートの現場でのフィールドワークを実施する。その場合は、授業計画について、適宜変更することとなる（交通費等は各自が実費負担）。また、フィールドワークは土日等の可能性もあり、各自柔軟にスケジュールを調整のこと。

科目名	インバウンド概論
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

日本政府が2003年に観光立国を宣言して以来、訪日外国人数は順調に伸び、2019年には3,188万人に達した。新型コロナウイルス感染症により、2020年以降、訪日外国人数は大きく落ち込んでいるが、あらためてインバウンド（訪日外国人旅行）の重要性が認識されている。この講義ではインバウンドの歴史、現状、特徴、意義、課題などを多面的に取り上げて、観光人材としてインバウンドに対する必須の知識を習得し、見識を高めることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界で実務経験のある教員による講義形式の授業。具体的事例を紹介し、併せて授業内課題で理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題・レポートについて、特徴的な回答例をもとに授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①オリエンテーション（インバウンド観光の意義と世界のインバウンド市場）
- ②世界のインバウンド市場、訪日外国人旅行者誘致の歴史(1)
- ③訪日外国人旅行者誘致の歴史(2)
- ④訪日外国人旅行者の動向とその特徴(1)
- ⑤訪日外国人旅行者の動向とその特徴(2)、旅行消費額とは
- ⑥MICEとは、送客市場の動向
- ⑦留学生発表（アジアの国々の長期休暇）〈予定〉
- ⑧インバウンド観光振興のしくみ 法・政策・体制(1)
- ⑨インバウンド観光振興のしくみ 法・政策・体制(2)
- ⑩インバウンド観光振興のしくみ 法・政策・体制(3)
- ⑪インバウンド観光の実際(1) プロモーション・商品
- ⑫インバウンド観光の実際(2) 訪日アクセス・滞在中の活動・安全管理
- ⑬インバウンド観光の実際(3)、インバウンド観光・地域の取組(1)
- ⑭インバウンド観光・地域の取組(2)、インバウンド観光の課題
- ⑮授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

インバウンドを理解し、その可能性や課題に対する見識を持つ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し解決する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

期末の授業内試験による評価	50%
授業内課題（小テスト、レポート）による評価	50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じてプリント配布およびmanabaアップ

【参考文献】

矢ヶ崎紀子著『インバウンド観光入門』〈晃洋書房〉、
『インバウンド概論』JTB総合旅行研究所

■授業外学習

【具体的な内容】

・配布プリント、参考文献にて予習・復習を行うこと。

【必要な時間】

・予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

※日頃からインバウンド関連のニュースに留意すること。

科目名	旅人学
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	呉 泰均、河本 洋一、藤崎 達也

■講義の目的および概要

人は古来より旅を続けている。かつては一部の聖職者や為政者による国交などの重要な役割を担っていた旅が、時とともにその行動の意義は捉えなおされ続けている。今日では旅は観光を支える観光行動の一つと位置付けられており、旅を理解することは観光学を学ぶ上で重要となっている。さらに、地方創生や観光まちづくりが各地で進められ、観光による地域振興が見直されている。そこでは、旅で得られた経験が地域振興に寄与することが重視され、国の施策でも地域おこし協力隊など旅人の要素を積極的に取り入れる傾向にある。

この講義では、全国各地で様々な分野で活躍する旅人に登壇いただき、上記のような実例を紹介いただきながら、学生自身が旅をすることを通して地域振興に寄与することを目標とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自身も様々な体験をしてきている3人の教員によるオムニバス講義。さらにそれぞれの講師がゲストをお迎えし特徴ある旅人の人生がどのように地域や観光産業と関わっているか概観する。さらに各講師の話を中心に学生自らが自身の旅をデザインし夏季休暇等を利用して実際に旅に出ることを条件とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

実際に各自が旅をし、その様子をSNSでの発信等何らかの発表を行うことにより、教員や地域の関係者がコメントをするなど、インタラクティブなフィードバックとする。

■授業計画

- ①ガイダンス・授業の進め方
- ②旅とは
- ③旅と移住
- ④ゲスト講師1
- ⑤音楽と防災
- ⑥防災と観光
- ⑦ゲスト講師2
- ⑧旅と趣味
- ⑨旅とデジタルメディア
- ⑩ゲスト講師3
- ⑪「旅」のプランニング「旅」とお金（探究的思考）
- ⑫各自の旅のプラン作成
- ⑬各自の旅のプラン発表
- ⑭各自フィールドワーク（実際に「旅」に出ましょう）
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光学を学ぶベースとして旅をする経験を持つ。
個人の旅や観光と社会との関係について知る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

各担当教員のレポート課題等

- 藤崎 34%
- 河本 33%
- 呉 33%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じてハンドアウトを配布する。

【参考文献】

必要に応じて授業の中で紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

各回のテーマについて新聞をはじめとする報道に関心を持ち、自ら調べて講義に参加することを期待する。予習・復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とするが、常に疑問を持ち探究しようとする学習態度を心がけること。

【必要な時間】

予習・復習はそれぞれ概ね2時間とする。

■その他

観光とその関連産業分野で活躍する多忙なゲストスピーカーを招聘する際には、貴重な機会であることを意識し、礼儀正しい学習態度で臨むこと。

科目名	観光英語
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

近年海外へ旅行する人もポストパンデミックインバウンド観光客の増加も予想しており、観光英語に精通する人材が求められている現状を踏まえ、観光英語の習得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光の場面ごとに単語やフレーズを紹介し、会話練習やロールプレイ等を通して実際に使えるよう練習を重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で学生がロールプレイを発表し、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。また定期的に小テストも行い、学習効果を確認します。

■授業計画

- ① Orientation
- ② Unit 1 Travel
- ③ Unit 2 Jobs & People
- ④ Unit 3 Getting on the Plane
- ⑤ Unit 4 At the Immigration and Customs
- ⑥ Unit 1 - 4 Review and Evaluation Test 1
- ⑦ Unit 5 At the Airport
- ⑧ Unit 6 Hotel (Accommodations)
- ⑨ Unit 7 Restaurant
- ⑩ Unit 8 Sightseeing
- ⑪ Unit 5 - 8 Review and Evaluation Test 2
- ⑫ Unit 9 Shopping
- ⑬ Unit 10 Transportation
- ⑭ Additional Unit Traveling in Japan
- ⑮ Unit 9 - A.U. Review and Evaluation Test 3

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

それぞれの場面で使う観光英語を学習し、実際に旅行中や仕事で使えるようになる。また観光英語検定試験3級合格を目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

Evaluation Test 1 (20%)
Evaluation Test 2 (20%)
Evaluation Test 3 (20%)
Homework Assignment (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

English for Tourism (Basic) ベーシック観光英語
観光英検センター編

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で使用する教材の予習・復習をしてください。

【必要な時間】

Manabaにあるリスニングの宿題やリーディングも含め、予習・復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

■その他

観光英語検定試験3級の受験を勧めます。

科目名	観光事業論
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	呉 泰均、斉藤 巧弥、青木 哲朗

■講義の目的および概要

本講義は、1年次必修科目「観光概論」の知識をもとに、観光に関わる概念、観光の仕組みなどを学び、すそ野の広いさまざまな観光事業を概観し、観光学の視点からそれぞれの事業の現状の課題と将来の可能性について、理解することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
教科書に基づく講義形式。併せて授業内課題で理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】
授業内課題についての回答例を紹介。教員が解説、フィードバックする。

■授業計画

- ①観光を学ぶ意味と観光の様々な効果
- ②観光に関わる言葉
- ③観光のしくみ
- ④観光資源と観光対象
- ⑤観光産業の特徴
- ⑥様々な観光ビジネス—旅行業
- ⑦様々な観光ビジネス—宿泊産業
- ⑧様々な観光ビジネス—交通運輸業
- ⑨様々な観光ビジネス—テーマパーク、式場、スキー場、観賞施設、土産品業
- ⑩観光と情報
- ⑪観光政策と観光行政
- ⑫観光のマーケティング
- ⑬旅の歴史とこれからの旅行
- ⑭観光と国際経済・社会・文化 インバウンドと異文化理解
- ⑮まとめ・授業内試験

※3人の教員が分担して担当するオムニバススタイルである。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
今日の観光事業が直面する課題と方向性に関する基本的状況を理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内課題：25%
レポート：25%
試験：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「観光学基礎」／JTB総合研究所

【参考文献】
適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
WEBでの情報収集のみならず、観光に関する報道などに関心をもち、自発的に各回の学びを深めること。

【必要な時間】
予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

※講義の進行順はクラスにより異なります（初回の講義で説明）。
※座席指定で実施します。

科目名	ビジネスコミュニケーション
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

大学生になり社会との関わり合いが増えます。本講義ではアルバイト、ボランティア活動、フィールドワーク、インターンシップ、就職活動など、その延長戦上で企業人として周りから認められ、評価されるために必要な意識、知識、知恵について学ぶとともに実践できるコミュニケーションスキルを習得することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

民間企業で長く実務経験を有し、かつ現役の社会保険労務士でもある教員が、これまでの実体験や企業コンサルティングの経験をベースに、講義を行います。前半は社会人として知っておくべきコミュニケーションマナーについて説明します。後半はケーススタディも交えて理論と実践でコミュニケーションスキルを体得します。原則として毎回の講義終了時に知識確認の為の小テストを実施するとともに、課題・レポートについても提出（学期内最低1回）を求めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストについては次回の授業の冒頭で振り返りとフィードバックを行います。

■授業計画

- ①ガイダンス ～ビジネスコミュニケーションとは～
- ②コミュニケーションの基本とは？
- ③コミュニケーションを実践する際に知っておくべきこと
- ④組織内でのコミュニケーションについて
- ⑤一対一のコミュニケーションを考える
- ⑥自分の意見をしっかりと伝えよう
- ⑦効果的なプレゼンテーションをしよう
- ⑧ビジネス会話の基本とは
- ⑨電話、メールの基本マナーについて
- ⑩仕事の基本「ハウレンソウ」を極めよう
- ⑪社内での話し方「ワザありのひと言でポイントアップ!」
- ⑫社外での話し方「好印象を残すには」
- ⑬ピンチの時!とっさのひと言
- ⑭仕事場以外にもマナーあり
- ⑮まとめ/期末試験

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

周りの人から好印象を持たれ、「一緒に仕事をしたい」と思われるようなコミュニケーションスキル（人間力）が身につく。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

小テスト 50%
 期末テスト 30%
 課題・レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布します。manabaにも掲載します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

講義で使用する資料は事前にmanabaのコンテンツに掲載します。事前に一読して授業に臨んでください。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

ビジネスコミュニケーションの基本は挨拶と時間厳守です。

科目名	ホテルビジネス実務
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

ホテル業界では近年、人材の多職能化が求められています。幅広い知識、接客技術とともにお客様を心からおもてなしをするための人財育成が不可欠です。本授業では、ホテルビジネスにおける基本的な業務内容を体系的に理解する事と併せ、その知識習得に焦点をあてた検定試験（基礎編）の基礎について学習します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

下記の3段階で講義を実施します。

1. プリントや関連資料の利用による説明と必要に応じてディスカッションを行う。
2. 小テスト
3. 解説

この講義は、ホテル業界で営業や人材教育の実務経験のある教員が担当し、授業ではホテリエとして求められる姿勢や、実際にあったお客様とのエピソードなどを織り交ぜながら授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説を行い、参考資料などを適宜指示・配布します。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施します。

- ①. ガイダンス
- ②. ホテルの基礎 (1)
- ③. ホテルの基礎 (2)
- ④. ホテルの基礎 (3)
- ⑤. 宿泊部門の基本と実務 (1)
- ⑥. 宿泊部門の基本と実務 (2)、小テスト
- ⑦. セールス部門の基本と実務
- ⑧. ゲストスピーカー (学生生活の学びを通じたホテリエへの道)
- ⑨. 料飲部門の基本と実務 (1)
- ⑩. 料飲部門の基本と実務 (2)、小テスト
- ⑪. 宴会部門の基本と実務
- ⑫. 調理部門の基本と実務
- ⑬. 管理部門の基本と実務、小テスト
- ⑭. ホテル業界の現状と今後
- ⑮. 授業内試験とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ホテルの各部門ごとの役割や業務概要を理解し、その知識を基に体系的に説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP6) 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------|-----|
| ① 授業内試験 | 50% |
| ② 授業中の小テスト | 30% |
| ③ 授業期間内レポート | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】
テキスト：適宜、必要資料を提示、配布する。

- 【参考文献】
- ・『ホテルビジネス基礎編』
財団法人日本ホテル教育センター 価格：5,000円（消費税別）
 - ・『ホテルビジネス基礎編・管理編 練習過去問題集700選』
財団法人日本ホテル教育センター 価格：1,000円（消費税別）

■授業外学習

【具体的な内容】
授業前は書籍やインターネットの利用により、関連内容の情報収集を行うこと。
ホテルビジネス実務検定（H検）受験希望者は、教科書として【参考文献】掲載のテキスト購入が望ましい。
授業内で購読に関して別途案内する。

【必要な時間】
予習・復習は合わせて2時間を目安とします。

■その他

科目名	ホテル演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

秋学期「ホテル演習」では、阪神淡路大震災の創造的復興プロジェクトを成し遂げ、近年 文化・芸術・食・健康・教育・SDGs・国際会議・エンタメなど独自の地方創成事業を一体的に展開、「夢のある新産業を創造」する国内で今注目されている兵庫県淡路島を訪問、ここではラグジュアリホテル、ウエルネスホテル、オーベルジュ、心の癒しホテル、グランピングなど目的を持った多種のホテルが存在している中で、視察・体験・研修でホテルビジネスの魅力と地域に果たす役割を学び業界への理解を深めていきます。

また、このエリアは2025年大阪・関西万博、IR（カジノ統合型リゾート）の誘致地大阪に近距離にあります。

事前学習では、ホテル業界や関連産業との関わり、地域資源をいかに経営資源としてホテルビジネスに活用しているか等に関し、小グループでテーマを決め協力して調べ学びます。大きな観光産業という傘のなかの宿泊産業を中心に就職意識の向上を図ることを目的としています。

※ 新型コロナの影響や諸般の事情で訪問地を変更する可能性もあります
その場合あらためてお知らせします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習の進め方は、①演習説明会、②ホテル業及び関連産業に関する事前学習、③現地ホテルなどでの実地研修、④事後学習で構成します。

②事前学習では、グループで分担を決め訪問先に関するリサーチ→レジュメ作成→プレゼンテーションなどを繰り返し、予備知識をつけるとともに、参加者全体での情報共有を図ります。

③実地研修での滞り中は、施設の利用、視察、研修をとおしてお客様が求めるニーズやウオッツ、ホスピタリティのあり方なども学びます。お客様を持って成す産業で求められる気配り心配りを様々な業態ホテルの日常を通して、ハードとソフトの両側面から研究をします。

この演習は、ホテルの経営・運営・開発に長年実務経験を持つ教員が担当し、演習を通して広い視野に立って観察・研究できる貴重な機会となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

事前研究課題については授業内で解説を行い、実地研修では現場で五感を生かした体験から学ぶことの大切さを解説します。

■授業計画

地方創成事業の中でホテルビジネスを学ぶ科目です、将来ホテル業界を選択肢として考える学生、他の業界を目指す学生でも業界に興味があり宿泊業界に関する理解を深めたいという意欲的な履修は大いに歓迎します。（単なる観光旅行ではありません）

冬季休暇期間中に3泊4日程度の演習を予定しており、下記の内容で授業を進めます

1. 演習説明会
2. ホテル業界の理解・関心に関するディスカッション
3. ホテル業界の理解・関心に関するディスカッション
4. 研修1日目の訪問先に関する事前学習（プレゼンテーション）
5. 研修2日目の訪問先に関する事前学習（プレゼンテーション）
6. 研修3日目の訪問先に関する事前学習（プレゼンテーション）
7. 実地研修向けの資料作成
8. 実地研修1日目（1）（施設見学、利用者としての接遇体験）
9. 実地研修1日目（2）（1日目：学修の振り返り）
10. 実地研修2日目（1）（施設見学、利用者としての接遇体験）
11. 実地研修2日目（2）（2日目：学修の振り返り）
12. 実地研修3日目（1）（施設見学、利用者としての接遇体験）
13. 実地研修3日目（2）（3日目：学修の振り返り）
14. 事後学習（研修全体の振り返り）
15. 研修レポートの提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ホテルビジネスへの理解を深める。
- ②ホテル業、観光関連業界の理解を深める。
- ③ホテル業をはじめ観光業界への就業意識を高める。
- ④ホスピタリティマインドを醸成する
- ⑤地域再生手法の知識を深める

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

ホテルの実地研修参加が必須であり、以下要領で評価します。

- ①研修前の事前課題 30%
- ②現地の研修シート 30%
- ③研修レポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要な資料等を適宜提示・配布します。

【参考文献】

適宜紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】

サービス業とはお客様に「心」を直にお届する仕事であり、気配り、目配り及び、気働きと思いやりが求められます。本演習参加に備え、ホテルで実践されるサービスやホスピタリティに関する書籍等を事前に読み込み、何が大切で、何が求められるかを心得えた上で、事前研究や実地研修に臨んでください。

【必要な時間】

事前・事後でそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ①実地研修費用は、自己負担（概ね 70,000円～90,000円程度）。
- ②一部大学からの補助があります。
- ③詳細スケジュールなどは別途お知らせします。

科目名	航空ビジネス実務
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本講義は、主には将来航空業界への就職を目指している方、もしくは航空業界との繋がりのある業界等に就職を目指している方を対象に、航空ビジネスに関する幅広い基礎知識と実務感覚の習得を目指します。航空業界の歴史を理解することで将来の業界の絵姿についても考察していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

航空会社で長年の実務経験を有する教員が、航空業界全体のこれまでの歴史および現状について分かり易く解説しながら講義を行います。また「ホットな航空関連ニュース」も取り上げます。原則として毎回の講義終了時に知識確認の為の小テストを実施するとともに、課題・レポートについても提出（学期内最低1回）を求めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストについては次回の授業の冒頭で振り返りとフィードバックを行います。

■授業計画

- ①ガイダンス 航空業界とは
- ②航空業界の歴史
- ③航空会社の業務1（運航業務）
- ④航空会社の業務2（オペレーションマネジメント）
- ⑤航空会社の業務3（空港業務①）
- ⑥航空会社の業務4（空港業務②）
- ⑦航空会社の業務5（経営管理・スタッフ業務）
- ⑧航空会社の経営1（ネットワーク戦略）
- ⑨航空会社の経営2（アライアンス戦略）
- ⑩航空会社の経営3（レベニューマネジメント航空運賃の仕組み）
- ⑪航空会社の経営4（マーケティングと商品・販売戦略）
- ⑫航空会社の経営5（グループ経営・LCCビジネス）
- ⑬航空会社の安全とリスクマネジメント
- ⑭アフターコロナの展望
- ⑮全体まとめ/期末テスト

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

航空業界を取り巻く環境変化や動向を正確に理解することで、「航空業界人」としてのビジネス感覚が身につく。今後の自身のキャリア形成に活かすことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

小テスト 50%
 期末テスト 30%
 課題・レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布します。manabaにも掲載します。

【参考文献】

- ①エアライン・ビジネス入門 第2版 稲本恵子 2,000円（税別）
- ②エアライン・マネジメント ～戦略と実践～ 日本航空株式会社 2,400円
- ③こんなに違うJALとANA 杉浦一樹 800円（税別）

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

日頃から、TVニュース、インターネット、新聞等で、航空業界の動きに関心を持ち、最新情報を入手して授業に臨むこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	航空演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	横田 久貴、近藤 英夫

■講義の目的および概要

本講義は、「航空ビジネス論」履修者を対象として、将来航空業界で働きたいと考えている皆さんや、観光業界においても航空業界とのつながりの為に知識を持ちたいと考えている皆さんに、興味と関心を持ってもらい、実際の現場に赴いて、実態の把握や働く人たちとコミュニケーションを通じてより業界や企業の研究を深化してもらうことを目的としています。新千歳空港に就航している異なる3つの航空会社の戦略や実際の仕事、空港の縁の下を支える企業、お客様に快適な空間を提供する企業などを5感で学んでいただく構成となっています。求める人材についても卒業生の話が聞けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

フィールドワークをメインとする集中講義です。事前研究ではグループディスカッションを取り入れます。協力していただける企業の皆さんとコミュニケーションがとれる準備など、就活、社会人としてのマナーについても習得していただきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

事前課題に対するフィードバックは実際に働く人たちからフィードバックされます。また研修後にレポート提出があり、フィードバックが担当教員からされます。

■授業計画

7月(初旬):募集開始・事前説明会 →選考→受講者(履修者)発表
 8月(上中旬):オリエンテーション&事前研究
 9月(上旬):新千歳空港視察(日帰り3日間)

(実施プラン例)

1日目 A航空会社(企業ポリシー、ハンドリング、先輩講話と意見交換、見学)
 B航空会社(企業ポリシー、今後の戦略について、トピックス紹介、求める人材)

2日目 北海道エアポート(事業の概要、地域活性化、求める人材)
 空港内ホテル視察
 機内食製作の現場(説明と視察)
 C航空会社(企業ポリシー、先輩講話と意見交換)

3日目 航空自衛隊千歳基地予定(予定)
 基地機能の説明・先輩講話
 救難業務、空港完成業務(説明と視察)
 政府専用機(説明と視察)

※昼食は1,2日目は機内食、3日目は隊内食堂(予定)での食事となります。

※受講条件

- ①「航空ビジネス実務」履修者、または履修済みの学生限定。
- ②事前説明会、事前学習会、研修3日間すべてに出席できる方。
- ③保安上の観点から履修上限は15名となります。(応募者多数の場合は選考)
- ④研修費用は各自5,000円程度の負担を予定しています。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「航空ビジネス」履修者が、実際の現場に赴いて、現場スタッフと意見交換をしながら、業界研究を深化させるとともに、最新の業界を取り巻く現状環境や動向を正しく理解する。また今後のキャリア形成に向けての糧になると同時に、就活上求められる社会人基礎力を涵養し、企業研究を自主的に行える。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

《DP1》専門知識・技能を活用する力
 《DP5》能動的に学び続ける力
 《DP6》社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

事前学習課題 40%
 レポート 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】 2023（令和5）年4月1日
『空港の解体新書』、ManabaコンテンツにUPします。また必要に応じてプリントを配布
します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
航空各社の統合報告書、航空関連ニュースは熟読しておくとう理解が進みます。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

費用は説明会時に提示いたします。

科目名	旅行ビジネス実務
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

観光の重要性が強く認識されている中で、観光サービス業の中での旅行業のビジネスの概要を把握し、海外旅行業務、国内旅行業務の基礎知識を習得することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界でに実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員による講義形式の授業。具体的事例を紹介し、併せて授業内課題で理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題、授業内試験について、特徴的な回答例をもとに授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス コロナ感染症下の旅行業、旅行業とは
- ②旅行業の歴史(1)
- ③旅行業の歴史(2)
- ④旅行業の歴史(3)
- ⑤商品と旅行業務
- ⑥国内旅行業務の基礎知識(1)
- ⑦国内旅行業務の基礎知識(2)
- ⑧国内旅行業務の基礎知識(3)
- ⑨国内旅行業務の基礎知識(4)
- ⑩海外旅行業務の基礎知識(1)
- ⑪海外旅行業務の基礎知識(2)
- ⑫海外旅行業務の基礎知識(3)
- ⑬海外営業拠点の業務 JTBホノルル支店長(予定)の講演と質疑応答
- ⑭海外旅行業務の基礎知識(4)
- ⑮まとめ 試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

旅行業の基本業務についての理解を深め、旅行業に必要な基本的な知識の習得を目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢。

■成績評価基準と方法

定期試験 50%、
課題レポート 25%、
授業内課題 25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・配布プリントにて予習・復習を行うこと。
- ・旅行会社店舗訪問、パンフレット収集、OTAサイト比較などを日常的に行うこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

科目名	観光調査法入門
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	斉藤 巧弥

■講義の目的および概要

本講義では、観光をめぐる様々な現象を分析するための社会調査法について、基礎的な知識を獲得することを目的とします。多様な調査法の中でも代表的なものを取り上げ、今後の研究調査のためのアイデアを獲得します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式とします。授業内容の確認のための小テストを3回実施します。本講義は、学術的研究教育の実務経験のある教員が具体的な実例と共に調査法について解説をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テスト後には授業内で確認の解説を実施します。必要に応じて授業内容に関する質疑等も授業内やメール等で受け付け、個別あるいは授業内で回答します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②社会調査の基礎知識：調査とは何か
- ③社会調査の基礎知識：問いの立て方
- ④社会調査の基礎知識：調査デザイン・様々な概念
- ⑤社会調査の基礎知識：文献の収集法・読み方
- ⑥社会調査の基礎知識：サンプリング
- ⑦社会調査の基礎知識：データの考えかた
- ⑧質問紙調査①：基礎知識
- ⑨質問紙調査②：観光調査の実例
- ⑩インタビュー①：基礎知識
- ⑪インタビュー②：観光調査の実例
- ⑫フィールドワーク①：基礎知識
- ⑬フィールドワーク②：観光調査の実例
- ⑭資料分析①：基礎知識
- ⑮資料分析②：観光調査の例

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光調査の基礎知識について説明ができる。また、自ら問いと課題を設定し、必要な手続きを理解し、実際に調査を進めるための準備と計画ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

小テスト：60% (20%×3回)
期末レポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】(すべて図書館に有)

- 『社会調査の考え方 上・下』(佐藤郁哉、東京大学出版会)
『新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』(大谷信介[他]編著、ミネルヴァ書房)
『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』(野村康、名古屋大学出版会)
『質問紙デザインの技法』(鈴木淳子、ナカニシヤ出版)
『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』(佐藤郁哉、新曜社)

■授業外学習

【具体的な内容】

本講義は入門であるため、調査法の理解をより深めるためには各自が参考文献を読む必要があります。参考文献以外の様々な文献にもあたって予習・復習をしてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科目名	海外旅行実務
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

本演習の目的は、旅行業のみならず旅行関連産業においても重要性が増している「総合旅行業務取扱管理者」資格取得を目指し、試験科目である「海外旅行実務」の基礎知識を習得することである。観光資源については最も重要なヨーロッパを重点的に取り上げる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界でに実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員によるパワーポイントを利用した講義形式。併せて授業内課題を解いて理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題、授業内試験を採点后、特に注意が必要と思われる点について授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①総合旅行業務取扱管理者試験の概要と合格の意義
時刻表読み取り・時差・所要時間・最低乗り継ぎ時間(1)
- ②時刻表読み取り・時差・所要時間・最低乗り継ぎ時間(2)
- ③時刻表読み取り・時差・所要時間・最低乗り継ぎ時間(3)
- ④OAG、航空会社・都市・空港コード(1)
- ⑤OAG、航空会社・都市・空港コード(2)
- ⑥ホテル・クルーズ・鉄道・海外旅行保険 海外観光資源(ヨーロッパ)
- ⑦海外観光資源(ヨーロッパ)
- ⑧授業内試験第1回 海外観光資源(ヨーロッパ)
- ⑨海外観光資源(ヨーロッパ)
- ⑩海外観光資源(スペイン・ポルトガル)
- ⑪海外観光資源(ドイツ)
- ⑫海外観光資源(中欧・イギリス) ※7月1日は月曜の授業
- ⑬海外観光資源(アイルランド・ベネルクス・北欧)
- ⑭海外観光資源(ハワイ・アメリカ)
- ⑮授業内試験第2回 まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「総合旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの海外旅行実務の知識を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し解決する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内試験評価 60%
授業内課題による評価 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「海外旅行実務 出入国法令と実務 旅行実務」 JTB総合研究所
※必要に応じてプリント配布。

【参考文献】「海外観光資源」 JTB総合研究所

■授業外学習

【具体的な内容】

テキスト、プリントで予習復習を欠かさない。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

総合旅行業務取扱管理者試験範囲は広範囲に及ぶため、具体的に講義で取り上げるのは「時差、OAGなど海外旅行実務」「海外観光資源」とする。他の試験科目「出入国法令」「国際航空運賃・料金」などは対策講座（授業外）にて実施する。国家試験合格を目指す場合は他の受験科目も合わせて学習すること。

科目名	キャビンアテンダント実務
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	中里 のぞみ

■講義の目的および概要

キャビンアテンダントの実務について学び、実際のサービスフローとエアラインにおけるホスピタリティについて学ぶことを目的とする。
本講義はエアラインにおけるホスピタリティのマインドとスキルを具体的に学び、それらを基盤として、どのような業種に就いたとしても顧客満足につながられるように学びを深化させることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

資料、パワーポイント、DVDを活用した講義はもとより、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションも実施する。
キャビンアテンダントとしての実務経験に基づき、より具体的なケーススタディからエアラインサービスへの理解を深めていく。
航空会社が所有するようなモックアップ体験は授業内ではできない分、事例検討などで考察し、判断力・思考力・表現力を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションについては、随時、授業内でフィードバック。レポートなどの課題については精査後フィードバックする

■授業計画

- ①キャビンアテンダント実務を学ぶにあたって
- ②航空業界の現状とエアラインサービスの時代的变化
- ③CA実務の流れ（DVD参考）
- ④プリフライトチェックから始まる機内サービスのフロー
- ⑤保安要員としての役割
- ⑥クレーム対応・イレギュラリティ対応
- ⑦エアライン業界における顧客満足
- ⑧エアラインにおけるサービス品質管理と様々な部署の関連性
- ⑨エアラインが提供するサービス
- ⑩他業種が提供するサービスとの比較
- ⑪エアラインの新しいサービス提案
- ⑫発表とフィードバック
- ⑬事例検討
- ⑭LCとLCCのサービス
- ⑮総括・テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

キャビンアテンダントの実務について学び、コミュニケーション能力を高め、どのようなお客様に対しても多様な対応ができるようになる。
エアラインに求められるホスピタリティマインドとスキルを体現できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

テスト50%・レポート10%・ディスカッション・プレゼンテーション40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しない。適宜資料を配付します。

【参考文献】

「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」
中里のぞみ・紺野猷邦 株式会社パレード
「グランドスタッフ入門」 野田勝昭 イカロス出版 ※廃版となっているので授業内で説明します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として日頃から航空業界、広くは観光業界のタイムリーなニュースは敏感にキャッチしておくこと。
事後学習としては、授業で配布したレジュメは見返すようにする。

【必要な時間】

事前・事後学習には各講義前後に2時間程度を費やすようにする。

■その他

提出物は提出期限厳守とし、期限を過ぎたものは受け付けない。

科目名	観光まちづくり論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	中根 宏樹

■講義の目的および概要

近年、様々な地域でそこで暮らす市民によって、観光資源を搾取するのではなく地域を豊かにすることを目指す「観光まちづくり」の動きがみられる。本講義では、市民が協働して地域に変革をもたらすまちづくりについて「観光」を起点に、利益を地域に還元する仕組みや、観光資源を地域の価値へと変換する手法や視座について理解することを目的とする。まちづくり、観光計画に関わる基本的な知識をはじめ、特に持続可能な観光の実践に向けて、パンデミックやオーバーツーリズムなどに対するリスク管理や、環境や社会への影響を抑えつつ、社会的、文化的、経済的利益をもたらす方法について具体的な事例を通して考察する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式とグループワークによるディスカッションの組み合わせによって、能動的な学修を目指す。

本講義は、観光分野の民間企業において自治体と協働したプロジェクトなどの実務経験のある教員が担当する。まちづくりに関連する様々な学問領域の理論的枠組みを援用しながら、民間での知見を活かして講義を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

適時提出を課すミニレポートをもとに、学生の興味関心に基づく講義内容の振り返りを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②まちづくりの意義と目的
- ③まちづくりの系譜
- ④まちづくりの実践と仕組み
- ⑤観光まちづくりの実践と仕組み
- ⑥観光まちづくりのマネジメント
- ⑦観光まちづくりの評価方法
- ⑧観光まちづくりの課題
- ⑨観光まちづくりのリスク管理
- ⑩持続可能な観光とまちづくり
- ⑪持続可能な観光の指標
- ⑫事例研究1
- ⑬事例研究2
- ⑭事例研究3
- ⑮総括・課題レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

到達目標】

- ・まちづくりの基本的な枠組みを理解する。
- ・観光まちづくりの動きや諸地域での事例に関する知識を得る。
- ・観光まちづくりの実例を応用できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

講義中に実施する課題 30%
 授業への積極的な参加度 20%
 課題レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義内容に合わせて適宜資料を配布する。

【参考文献】

講義内容に合わせて適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

日常的に観光まちづくりに関心を持ち、新聞やインターネットなどを通して具体的な動向を把握する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	観光まちづくり演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	田村 こずえ

■講義の目的および概要

本演習では、人口減少・高齢社会における地域社会の持続可能な地域づくりに向けて、地域を主体として観光まちづくりの観点から地域社会の歴史や文化などの活用や交流人口や関係人口の拡大などの実践的な取り組みから、地域住民の生活の質さらには地域の魅力の向上に向けた展開を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査だけではなく、フィールドワーク等を行い地域の現状を把握して、地域の課題を理解するようなアクティブラーニングとする。また、各自が問題意識を持ちながら、グループワークや学生との討論を重視して講義を進めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対して、講義の中でフィードバックします。最終的には、発表の機会を設け、プレゼンテーションやテーマ研究の作成を目指した取り組みとする。

■授業計画

- ①地域社会の現状 (1)
- ②地域社会の現状 (2)
- ③持続可能な地域づくり (1)
- ④持続可能な地域づくり (2)
- ⑤地域の歴史や文化 (1)
- ⑥地域の歴史や文化 (2)
- ⑦交流人口と関係人口 (1)
- ⑧交流人口と関係人口 (2)
- ⑨観光まちづくり (1)
- ⑩観光まちづくり (2)
- ⑪実践的な観光まちづくり (1)
- ⑫実践的な観光まちづくり (2)
- ⑬実践的な観光まちづくり (3)
- ⑭実践的な観光まちづくり (4)
- ⑮発表・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

地域社会の歴史や文化、現状から課題を発見する基礎的な能力を修得します。地域社会に関して関心を持ち、フィールドワーク等を通じて主体的に取り組む姿勢や地域社会へ寄与する姿勢を身に付けます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業の参加度・積極性 30%
グループワーク 40%
課題提出 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します
必要に応じてテキストや文献を紹介します

【参考文献】

必要に応じて参考文献を紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・地域社会に関心を持ち、常日頃からニュース・新聞・文献・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集するように心掛けてください。
- ・地域の事前・事後調査や配布した資料を読み、講義の内容の理解に務める。
- ・演習の課題や発表資料作成及び準備等を行う。

【必要な時間】

毎回講義に出席した上で、講義内容に基づいて、事前学修と事後学修を行うことが必要となります。それぞれ2時間を目安とします。

■その他

状況に応じて、地域に出向いてフィールドワークを実施する。その場合は、授業計画について、適宜変更することとなる（交通費等は各自が実費負担）。
また、フィールドワークは土日等の可能性もあり、各自柔軟にスケジュールを調整のこと。

科目名	観光ビジネスマナー
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本講座は、二部構成で進めます。前半はコミュニケーションスキル向上を図り、就活でもアピール記載可能な「サービス接客検定2級」の検定資格合格を目指す講義を展開します。

後半は、観光業界人として業務を進めていくための必要な知識を取得するとともに、「企業人」として知っておくべき労働法令や社会保険の仕組み等についての理解を深めることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は6月11日(日)に本学で実施される「サービス接客検定2級」対策を中心とした学習となります。後半は、講義を中心に社会人としての幅広いビジネスマナーの体得を図ります。民間企業で長く実務経験を有し、かつ現役の社会保険労務士でもある教員が、これまでの実体験や企業コンサルティングの経験をベースに、労働社会保険諸法令等を含め、わかりやすく具体事例も紹介しながら講義を行います。いずれも毎回講義の最後に小テストを実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストについては次回の授業の冒頭で振り返りとフィードバックを行います。

■授業計画

- ①ガイダンス～サービス接客検定と、就活、社会人に求められるビジネスマナーとは～
- ②敬語&言葉づかい
- ③検定対策講座(サービススタッフの資質)
- ④検定対策講座(専門知識)
- ⑤検定対策講座(一般知識)
- ⑥検定試験対策講座(対人知識)
- ⑦検定試験対策講座(実務技能)
- ⑧社会人としての自覚とは?
- ⑨プロ意識について考える
- ⑩人は見た目が・・・
- ⑪THE常識
- ⑫就職の為にリーガルリテラシー1(労働法令編)
- ⑬就職の為にリーガルリテラシー2(労働災害・雇用保険編)
- ⑭就職の為にリーガルリテラシー3(社会保険編)
- ⑮まとめ/期末試験

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

周囲から好印象をもたれ、観光に携わる者としての必要なコミュニケーションスキルと接客力を取得する。企業に就職するにあたって「従業員」として知っておくべき基本的な法律知識(リーガルリテラシー)が身につく。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

毎回の小テスト 60%
 期末テスト 30%
 資格試験(受験実績+合格実績) 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

サービス接客検定2級公式テキスト ￥1,300(税別)

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

講義で使用する資料は事前にmanabaのコンテンツに掲載します。事前の一読して授業に臨んでください。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

サービス接遇検定では過去出題問題が出る場合が多いので、manabaに掲載する過去問を繰り返しやるのが合格への近道です。尚、受験には事前に検定料¥3,900（予定）が必要となります。教務課にて受験申込を受け付ける予定です。（募集案内については学内ポータルサイトにてお知らせします）

科目名	観光統計
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	斉藤 巧弥

■講義の目的および概要

本講義では統計の基礎を学び、主に観光関連の統計を読み解くための能力を身につけます。具体的な統計データの仕組み、データの計算、統計資料の考察を通して、観光現象の理解ができるようになることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

おもに講義形式で授業をします。授業内で簡単なタスクや練習問題を課すこともあります。前半では統計の基礎について学習し、後半では観光統計の実際のデータや、統計を用いた研究調査について考察をします。この講義は、学術的研究教育の実務経験のある教員が担当をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内タスクについては、事業内でフィードバックと解答をおこないます。テストの解答やレポートの評価に関しては授業内、または授業後にフィードバックをします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②統計の基本：データの基礎
- ③統計の基本：平均・分散
- ④統計の基本：標準偏差・正規分布
- ⑤統計の基本：クロス表
- ⑥統計の基本：相関
- ⑦統計の基本：多重クロス表
- ⑧統計の基本：母集団・サンプリング・データ収集法
- ⑨統計から読み解く観光：観光統計資料の種類
- ⑩統計から読み解く観光：観光庁の統計
- ⑪統計から読み解く観光：観光白書I
- ⑫統計から読み解く観光：観光白書II
- ⑬統計から読み解く観光：札幌の観光
- ⑭統計から読み解く観光：研究調査
- ⑮まとめ・授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

統計学の基礎について理解・説明ができる。観光統計の種類について理解し、それを読み解くことができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

小テスト：30%
 期末テスト：30%
 レポート：40%

※期末テストは授業最終回で実施

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献】（すべて図書館に有）

『完全独習 統計学入門』（小島寛之、ダイヤモンド社）
 『社会調査のための統計学：生きた実例で理解する』（神林博史・三輪哲、技術評論社）
 『ニュースの数字をどう読むか：統計にだまされないための22章』（トム・チヴァース／デイヴィッド・チヴァース、筑摩書房）

■授業外学習

【具体的な内容】

ごく簡単な計算にしか触れませんが、必要に応じて数学の基礎についての学習をしてください。また国連世界観光機関、観光庁、北海道経済部観光局などの観光関連ウェブサイトを読み、どのような観光統計があるのか把握しておいてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

小テストと期末テストでは電卓を用いる予定です（スマホ不可。数百円から千円程度の、最低限の計算ができるもので構いません。ですが、ルート計算機能があるものを選んでください）

科目名	リスクマネジメント
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	戸根谷 法雄

■講義の目的および概要

「リスク」＝「危険・危ないこと」ではありません。損失をもたらす以前にリスクを認識、分析して対策を講じることを一般的に「リスクマネジメント」といいます。コロナ禍やウクライナ侵攻などで観光ビジネス界も痛手を受ける中、適切なリスクマネジメントで業績を大きく増進している企業も多数存在しています。この授業では、「リスクとは何か？」から始まり、リスクマネジメントの必要性と基礎知識を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワポ資料での講義と、具体的なテーマによるグループワークやプレゼンテーションなどで「リスクマネジメント」の体験を予定しています。講義の中で、大手企業40年の実務経験と危機管理対応やリスクマネジメント専門家としての講師経験から具体的な事例やエピソードを紹介します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業ごとに小テストやアンケートを実施し、翌週授業で解説と要点を説明します。グループワークでの課題やプレゼンの評価は、授業内でフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス、リスクマネジメントの概要
- ②リスクマネジメントの必要性(1)
- ③リスクマネジメントの必要性(2)
- ④リスクマネジメントの基本(1)
- ⑤リスクマネジメントの基本(2)
- ⑥リスクマネジメントの事例紹介～観光リスク、地域社会リスクなど
- ⑦ワークショップ用・動画鑑賞(1)
- ⑧ワークショップ用・動画鑑賞(2)
- ⑨ワークショップ(1)～リスクの洗い出し
- ⑩ワークショップ(2)～リスクの評価・分析
- ⑪ワークショップ(3)～リスクの対応策
- ⑫ワークショップ(4)～プレゼンテーション
- ⑬ワークショップ(5)～モニタリングとPDCA
- ⑭リスクマネジメントの要点まとめと振り返り
- ⑮重要事項の説明、試験実施

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

リスクマネジメントの必要性と基本的知識を説明でき、観光ビジネスをはじめ様々な領域や地域社会における諸活動に潜むリスクを適切に認識できる「リスク感性」を醸成できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1) 知識・技能を活用する力
- (DP 3) 課題を発見し、解決する力
- (DP 5) 能動的に学び続ける力
- (DP 6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

毎回の小テスト：30%
グループワーク・プレゼンテーションの発表、完成度：25%
授業⑮での試験：45%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
適宜パワーポイント資料を配布します。

【参考文献】
『リスクの認識力を高めるリスクマネジメント基礎講座』一般財団法人リスクマネジメント協会

■授業外学習

【具体的な内容】
授業計画①から⑤では前回授業のキーワードの復習と、関連する事項を日常のニュースから情報を収集するよう心がけてください。⑥から⑬ではワークショップの内容を充実させ、プレゼンテーションの発表資料を作成してください。⑭、⑮ではリスクマネジメントの基本知識、専門用語の理解と復習をしてください。

【必要な時間】
事前事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。
授業時間外でのプレゼンテーション発表資料作成に伴うグループワークには、空き時間に応じて適時指導対応します。

■その他

授業内で学んだリスクマネジメント知識を客観的に評価する「リスク検定」があります。一般財団法人リスクマネジメント協会が認定する試験で一般企業の社員が中心的に受験していますが、『取得資格』として就活にも有効とされています。本学で受験希望者が一定数ある場合、大学内団体受験が可能となります。受験料とテキストは自己負担ですが、特別割引料金となります。詳しくはガイダンスで一部紹介します。

科目名	グランドスタッフ実務
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	伊橋 真由、空保 佳奈、横田 久貴

■講義の目的および概要

空港で働くグランドスタッフ・オペレーションスタッフにスポットを当て、航空会社にとって大切な「安全」を基盤とし、お仕事の魅力に触れていただきながら接客スキルや専門用語などの基礎知識を学ぶ。また、社会人として必要な資質や考え方を学び、人間力の向上を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

パワーポイント資料をもとに、空港業務・旅客ハンドリング業務・オペレーション業務を理解してもらう。

また接客に必要なサービスマインドを身に着けるべく、ロールプレイを用いて、より現場に近い形式で実施する。

さらにゲストスピーカーとして、現役のスタッフをによる講義も実施し、講義全体を通して航空会社や空港で働くことへの興味をもってもらおう。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の講義後、確認小テストを実施する。次回の講義前に振り返り・フィードバックを実施する。

■授業計画

- ①ガイダンス～航空業界とは～
- ②新千歳空港
- ③JALフィロソフィ
- ④グランドスタッフの業務と役割
- ⑤接客五原則①
- ⑥接客五原則②
- ⑦カウンター・ロビー業務
- ⑧ゲート&到着業務
- ⑨お手伝いを希望されるお客さま①
- ⑩お手伝いを希望されるお客さま②
- ⑪専門用語・コミュニケーション系
- ⑫オペレーション業務紹介、航空業界基礎知識
- ⑬時間管理、航空力学基礎、重量管理
- ⑭航空管制用語、管制の流れ・気象
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

旅客ハンドリング業務・オペレーション業務について理解し、航空業界の基礎知識、マナーを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 〈DP1〉 専門知識・技能を活用する力
- 〈DP2〉 コミュニケーション能力
- 〈DP3〉 課題を発見し、解決する力
- 〈DP4〉 多様性の理解と協働する力
- 〈DP5〉 能動的に学び続ける力
- 〈DP6〉 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①毎回の小テスト 70%
- ②レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用なし。必要に応じてハンドアウトを配布します。

【参考文献】

『エアライン・マネジメント -戦略と実践-』
日本航空株式会社著 株式会社インプレス出版

■授業外学習

【具体的な内容】

前回の講義の内容を復習。小テストは前回の復習することを推奨する。予習は基本的に不要。必要な場合は講義の中で指示をする。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

航空業界関連の情報はアンテナを高く張るよう心掛けてください。
Aviation wireというサイトは航空業界のニュースがまとまっているため推奨します。
。

科目名	旅行演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

皆さんが参加する実際の研修旅行を題材に、顧客満足度の高いツアー企画を学びます。事前学習として受注から出発までの進行管理、現地施設への手配確認、最終日程表作成に必要な素材の収集など、現地では事前の手配内容の検証、課題の発見、ツアーアンケートから改善方法を模索するなどリアルに実務を学習します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前学習ではスライドや動画等の視聴覚教材を活用し、さらにフレームワークの為にプリントを配布し授業のポイントを分かり易く解説します。また『搭乗者名簿』『ルーミングリスト』『最終日程表』作成など、PC作業も取入れ能動的な学修を目指します。

本演習は、旅行企画の実務経験のある教員が、企業での営業活動や業務マネジメントの経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

現地で遭遇する事象は都度講評し、レポートは事後授業でフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 研修旅行日程の概要、進行管理データの作成
- ③ 役割分担、役割毎の業務について解説
- ④ 役割毎の業務その2、担当毎の作業
- ⑤ 最終日程表の作成
- ⑥ 各担当から準備結果発表
- ⑦ 研修旅行1日目(往路団体航空手配)
- ⑧ 研修旅行1日目(バス手配)
- ⑨ 研修旅行1日目(団体ホテル手配)
- ⑩ 研修旅行2日目(観光施設視察)
- ⑪ 研修旅行2日目(団体ホテル手配)
- ⑫ 研修旅行3日目(観光施設視察)
- ⑬ 研修旅行3日目(団体ホテル手配)
- ⑭ 研修旅行4日目(復路団体航空手配)
- ⑮ アンケート結果分析

※研修旅行は、2月中旬3泊4日、方面は沖縄を予定しています。

※研修旅行参加費用は実費負担となります(一部学校からの補助有り)、事前学習は12月1月2月に実施予定、詳細は11月実施のオリエンテーションで説明します。

※研修旅行は添乗員実務論との合同実施となります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・企画旅行の用語や出発までの業務フロー、手配の確認作業など習得し実践力を身に付ける。
- ・一つ一つの業務の必要性や、形の無い商品である旅行の顧客の満足とは何か?を模索し、課題解決力を養う。
- ・ビジネスパートナーと積極的にコミュニケーションにすることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・事前課題作成内容：30%
- ・研修旅行参加姿勢：40%
- ・最終レポート：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【必要な時間】

- ・ それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	観光英会話
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

近年インバウンド観光客の増加も予想しており、様々な観光場面で英語会話に精通する人材が求められている現状を踏まえ、より詳細に説明や対応ができるよう、やや難易度の高い観光英語の習得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光の場面ごとに観光英会話用の単語やフレーズを紹介し、ロールプレイ等を通して実際に使えるよう練習を重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で学生が様々な文章を読解し、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。また定期的に小テストも行い、学習効果を確認します。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② Unit 1 Transportation
- ③ Unit 2 At a Check-in Counter
- ④ Unit 3 Facilities and Services
- ⑤ Review Unit1.2.3 / Evaluation Test 1
- ⑥ Unit 5 Recommending a Trip
- ⑦ Unit 6 Dining in Japan ①
- ⑧ Unit 7 Dining in Japan ②
- ⑨ Review Unit 5.6.7 / Evaluation Test 2
- ⑩ Unit 9 Staying at a Ryokan
- ⑪ Unit 10.11 Culture Experience in Japan ①②
- ⑫ Unit 12 Japanese souvenirs
- ⑬ Review Unit 9.10.11.12 / Evaluation Test 3
- ⑭ Fieldwork
- ⑮ Fieldwork Presentation & Report

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

それぞれの場面で使う観光英語を学習し、実際に仕事や旅行中で使えるようになる。また観光英語検定試験3級合格を目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- Evaluation Test 1 (10%)
- Evaluation Test 2 (10%)
- Evaluation Test 3 (10%)
- Presentation & Report (30%)
- Homework Assignment (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『HOSPITALITY ON THE SCENE』 (上杉恵美ほか [著]、金星堂)

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
授業で使用する教材の予習・復習をしてください。

【必要な時間】
Manabaにあるリスニング宿題やリーディングも含め、予習・復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

■その他

観光英語検定試験3級の受験を勧めます。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

ヒューマンビートボックス、ボイパ（アカペラ）系音楽やオペラ、ミュージカル、キャラクターショーの可能性と、それらの音楽と観光が結びついた事例を知ってもらいます。そして、その裏方仕事、必要経費、アーティストの生活事情など、様々な立場の人々がどのようなコロニーを形成しているかを春学期から秋学期にわたって学生の皆さんに知ってもらいます。特にミニマム・コミュニティ（生活圏）での音楽イベントが、どのような仕組みで運営され収益化されていくかについて、知ることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式のPBL型（プロジェクト型・課題解決型）の授業を目指します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていく基盤を醸成します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。「基礎」（春学期）は学生が主体となって進めていくゼミナール形式の基盤づくりに対するフィードバックを中心に、特に個に応じた支援を大切に行います。

■授業計画

①イニシャル・トーク：『ワクワク感が対価を生む仕掛けに目を向けよう』

【Season1】音楽で生きる人たちを知る

- ②『音楽で生きる人たち』その1：ヒューマンビートボックスやボイパの可能性
- ③『音楽で生きる人たち』その2：オペラやキャラクターショーの可能性
- ④『音楽で生きる人たち』その3：音楽と社会の繋がり
- ⑤Season1のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season2】音楽イベントの実情を知る：『音楽イベント“あいうえお”』

- ⑥その1「あ」：赤字が出て困らない！北海道は自立できない補助金王国!?
- ⑦その2「い」：色々あるぞ裏方仕事、価格＝経費じゃない
- ⑧その3「う」：「売れていない」のは「売っていない」と同じこと
- ⑨その4「え」：絵は形を切り取り、音楽は時間を切り取る
- ⑩その5「お」：音楽と食は“ベストカップル”
- ⑪Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season3】音楽と観光の接点を知る

- ⑫その1：音楽と観光の共通点を探せ！、キーワードは「時間」
- ⑬その2：事例から学ぶ音楽の観光化と観光の音楽化
- ⑭その3：音楽×観光＝[] この括弧を埋めよ
- ⑮Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ミニマム・コミュニティでの音楽イベントの意義や実施の仕組みまた、観光との接点について、自分なりの考えを表すことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A: 各回の最後のコメントシート（①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭）12回×5点＝60点
 評価の観点：理解度について評価する。
- B: 各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
 Season1：10点、Season2：10点、Season3：10点 合計30点
 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C: ラーニング・アーカイブ（ネタ帳）：10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体は何でもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。（Evernoteを推奨）

【参考文献】

和野内崇弘『北海道の宿題』ISBN4-901336-10 ※本学図書館に所蔵

■授業外学習

【具体的な内容】

◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修：授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

◆授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。

◆グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	黄 旭暉

■講義の目的および概要

国際理解を通して得られた情報と知識を踏まえ、自らの考えに基づくアジア圏観光客に対する観光プログラム作成の試み。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アジア圏の人々に日本、中でも北海道観光をより魅力的に感じてもらうため、どのような特色ある観光プログラムが作成できるのか、その可能性を探ります。自・他国の文化などを理解し、更にアジア観光客が海外旅行においてどういったアクティビティを好み、特に北海道観光に対しては如何なるアクティビティを求めているのかを知り、それを基に北海道観光プログラムの作成を試みる。

【課題に対するフィードバックの方法】

アジア観光客へのガイド時の心得を知り、その実践に向けてどのような言動が必要になるかを検討します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②漢字圏（特に台湾人）の観光の習性を紹介する。
- ③漢字圏（特に中国人）の観光の習性を紹介する。
- ④漢字圏（特に香港人やシンガポール人）の観光の習性を紹介する。
- ⑤漢字圏（特にマレーシア人）の観光の習性を紹介する。
- ⑥韓国人の観光の習性を紹介する。
- ⑦その他
- ⑧今までの演習内容のまとめ
- ⑨異文化交流について
- ⑩異文化交流の実施
- ⑪異文化交流の問題提起など
- ⑫観光ビジネスの必要性
- ⑬観光ビジネスの将来性
- ⑭観光ビジネスとコロナ禍
- ⑮今期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

アジア圏に関する知識や情報を通して如何に異文化交流の大切さを理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 1、出席率 30%
- 2、授業での積極性 30%
- 3、レポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無

【参考文献】

無

■授業外学習

【具体的な内容】

問題意識を提示し、履修者自身に考えさせる。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

出張等により上記の授業計画が変更する場合もある。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの基礎編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験がある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーションの発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ1：ワインツーリズムによる地域振興
 - ③ ケーススタディ1：募集ツアーの企画造成、販売促進
 - ④ フィールドワーク1：ワイナリーボランティア活動と地域課題調査
 - ⑤ ケーススタディ2：インバウンド向けNPSアップの検証
 - ⑥ ケーススタディ2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ3：SNSを活用したツアーの販売促進
 - ⑨ ケーススタディ3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？
 - ⑫ ケーススタディ4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 中間発表、講評、
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または(土)(日)、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・ グループワークから、実社会で使える共同作業能力やコミュニケーション能力の習得
- ・ プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 授業レポート提出内容：30%
- ・ フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・ プレゼンテーション（個別研究発表、中間成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

- ・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員で演習を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習では航空の重要なインフラの一つである空港にターゲットをあて、日本国内における空港民営化の展開状況を踏まえ、空港民営化がもたらす地元への経済波及効果等について分析・研究を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

わが国の「空港民営化」の展開状況およびその目的・効果等について、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から分析・研究を行っていく。中間および最後に研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①ガイダンス メンバー紹介&ゼミの進め方について
- ②国内各地で進む空港の民営化（上下一体運営）とは
- ③民営化空港の現状分析1（関西3空港）
- ④民営化空港の現状分析2（仙台空港、高松空港、静岡空港）
- ⑤民営化空港の現状分析3（福岡空港、熊本空港）
- ⑥民営化空港の現状分析4（北海道7空港①）
- ⑦民営化空港の現状分析4（北海道7空港②）
- ⑧民営化空港の現状分析5（広島空港、他）
- ⑨中間発表会
- ⑩空港民営化における世界の動き
- ⑪わが国の空港民営化に向けた今後の動向
- ⑫わが国の空港民営化がもたらす経済効果と課題
- ⑬最終発表会に向けたワーク
- ⑭最終発表会
- ⑮秋学期に向けての打ち合わせ

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

わが国が進めている空港民営化の背景、目的及び現状を理解し、今後のあるべき空港民営化のあり方等について、自身の見解を持ち他者に対し論理的に説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 30%
発表会の内容（中間および最終） 50%
課題・レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	金庭 香理

■講義の目的および概要

持続可能な社会づくりが進むなか、観光は地域振興のリソースのひとつとして位置づけられています。このゼミでは「観光」と「言語」の関わりに着目し、観光地や公共空間にある言語標識、多言語対応、言語接触などをとおして観光現象について考えます。

前期は、テキストを用いて、現状を整理し、自分の興味のある分野を探ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献・資料の輪読などの事前学習を行います。

学生が主体となり、フィールドワーク、グループワーク、レジュメ作成などを行います。相互に意見交換をし、助け合いながら、それぞれの研究課題を見つけます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。

■授業計画

概ね以下の内容で展開する予定。

- ①ガイダンス
- ②言語景観
- ③観光地等における言語対応
- ④観光地等における言語対応
- ⑤観光接触場面における日本語
- ⑥観光接触場面における日本語
- ⑦調査 1
- ⑧調査 2
- ⑨調査 3
- ⑩観光と地域変容
- ⑪観光と地域変容
- ⑫観光政策（地域デザイン）と言語
- ⑬言語のバリアフリー
- ⑭研究計画
- ⑮研究計画

※調査地、内容については、ゼミ内で協議し、決定します。

※不測の事態のときは、オンライン授業となることがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光地における言語景観について基礎知識を身につける
- ・言語と観光地との関係性を認識し課題意識を身につける
- ・テーマに関する資料やデータを収集し、理解できるようにする
- ・論理的思考のもと、課題解決へ向けた主体的な学修姿勢を身につける

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

レジュメや資料の作成と発表 40%
毎回の取り組みや課題の提出 40%
研究計画書 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業内で指示します。

【参考文献】

『観光言語を考える』山川和彦（くろしお出版）

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

日頃から、ニュースや新聞、インターネットで関心領域について情報収集するよう心がけてください。多様な文化背景を持つ人と積極的に交流し、観光における言語の役割を考えてください。

【必要な時間】

予習復習にそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

調査やフィールドワークにかかる際の交通費は自費です。
外国語や多言語表示に関心のある方、異文化交流が好きな方、歓迎します。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「韓国」というテーマを大きな軸として「異文化コミュニケーション」及び「国際観光」についてみなさんと一緒に研究・発表・討論などを行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice: 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 国際観光探求基礎 (韓国) 1
- ③ 国際観光探求基礎 (韓国) 2
- ④ 国際観光探求基礎 (韓国) 3
- ⑤ 国際観光探求基礎 (韓国) 4
- ⑥ 研究テーマ設定中間発表
- ⑦ 国際観光探求基礎 (韓国) 5
- ⑧ 国際観光探求基礎 (韓国) 6
- ⑨ 研究テーマの設定および研究計画報告
- ⑩ グループワーク1
- ⑪ グループワーク2
- ⑫ グループワーク3
- ⑬ プレゼンテーション1
- ⑭ プレゼンテーション2
- ⑮ プレゼンテーション3、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は用いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初中級以上の韓国語能力（韓国語Ⅰと韓国語Ⅱの履修）を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」及び「韓国語Ⅱ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

ニセコ地区の観光について研究
世界的な成長をみせているニセコ地区（ひらふ、東山、アンヌプリ）を主要な研究対象と定め、それぞれの成立過程と要因、発展、現状について考察します。
また、ニセコガイド検定を用いて、ニセコ地区の基礎的な自然・施設、温泉などの知識を習得します。これらを通じて、ニセコ観光の動向について深く理解し、研究をすすめます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学習…課題は各自積極的に取り組み、他の学生により影響を与えること。
考察…ニセコ各地域の特徴を踏まえ、独自の視点をもてるよう深く考察すること
フィールドワーク…ニセコ高校と連携し、高校生に模範となるよう研鑽を積むこと

【課題に対するフィードバックの方法】

講義内で課題に対するフィールドバックを行います。

■授業計画

I ニセコに関する基本的知識習得（ニセコガイド検定）

- ①ニセコの自然1
- ②ニセコの自然2
- ③ニセコの地域
- ④ニセコの施設、温泉

II ニセコ地域別考察・グループ別研究分析

- ⑤ニセコひらふ地区
- ⑥ニセコ東山地区
- ⑦ニセコアンヌプリ地区

III フィールドワーク

- ⑧フィールドワーク1（事前準備）ニセコ高校訪問準備
- ⑨フィールドワーク2 ひらふ地区
- ⑩フィールドワーク3 東山地区
- ⑪フィールドワーク4 アンヌプリ地区
- ⑫フィールドワーク5 倶知安町、ニセコ町の観光振興

IV 研究のまとめ

- ⑬研究のまとめと考察
- ⑭発表
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ニセコ観光をつうじて、観光の基本的知識を身につけ、フィールドワークを通じて地域振興について考察することができたか。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 《DP4》多様性の理解と協働する力
- 《DP5》能動的に学び続ける力
- 《DP6》社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①ニセコガイド検定試験 20%
- ②地域別考察 40%
- ③研究のまとめと発表 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「ぐるっと羊蹄まちしるべ」（非売品）ニセコガイド検定試験問題 … 教員より提供

【参考文献】

別途指示します。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】
ゼミは自主的な研究と期日を守ってレジュメをまとめ発表することが必須です。
ゼミに所属する自覚と役割分担を責任をもって果たすことが求められます。

【必要な時間】
事前事後（特に事前）それぞれ2時間

■その他

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

観光情報の収集や発信方法を学び、英語で紹介できる能力を身につける。授業内のグループディスカッションやアクティブラーニングを通じ、英語の実践的運用能力を高める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ディスカッションやプレゼンテーションを中心に授業を進め、学生の主体的な学びが求められます。北海道内の観光地へのフィールドワークがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義内で課題に対するフィードバックを行います。パンフレット等の課題もコメントをして返却します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②ディスカッション：観光地で使われているリーフレットについて
- ③大学リーフレット1作成
- ④大学リーフレット1 成果発表
- ⑤フィールドワーク1
- ⑥フィールドワーク1
- ⑦フィールドワーク1 成果発表（リーフレット2）
- ⑧ディスカッション：プレゼンテーション作成について
- ⑨フィールドワーク2
- ⑩フィールドワーク2
- ⑪フィールドワーク1 成果発表（英語プレゼンテーション1）
- ⑫フィールドワーク3
- ⑬フィールドワーク3
- ⑭フィールドワーク3 成果発表（英語プレゼンテーション2）
- ⑮学習成果確認とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

学生一人一人が観光客の立場に立ち、北海道の観光地で使われている英語の現状を把握し、問題点を改善することができるようになる。また、パンフレットやメニューの作成を通して、実践的な観光英語を身に着ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- リーフレット1 25%
- リーフレット2 25%
- プレゼンテーション1 25%
- プレゼンテーション2 25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じ、授業内でプリント適宜配布予定

【参考文献】

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

毎回の授業に対してはインターネット等を使用して、北海道の観光地の情報を収集し、課題の準備も含め2時間程度行ってください。その他グループディスカッションとファイナルプレゼンテーションは基本的に英語と日本語で行います。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ2時間程度

■その他

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

春学期に知ってもらったヒューマンビートボックス・ボイパ（アカペラ）系音楽やオペラ・キャラクターショーの可能性と意義及び、観光との接点について仮想実践を行います。特に、ミニマム・コミュニティ（生活圏）の中で、どのように企画運営されると観光との接点生まれ収益化されていくかについて、多岐多様な因子（ファクター）を考えることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式でPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）を進めます。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくこと方法を確実な能力として定着させていきます。そのためにバーチャルゲームのような方法を取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

「応用」（秋学期）は学生が主体となって勤めていくゼミナール形式の基盤づくりを、PDCAサイクルや、ルーブリックを使った評価法によってフィードバックしていきます。

■授業計画

【Season4】ミニマム・コミュニティにおける音楽と観光の接点と課題

- ①基調対談：ミニマム・コミュニティとは何だろうか（一部YouTube使用）
- ②グループ・ワーク第1回：ミニマム・コミュニティでの音楽イベントの利点
- ③グループ・ワーク第2回：ミニマム・コミュニティで起こりそうなトラブル
- ④グループ・ワーク第3回：ミニマム・コミュニティにおける音楽と観光の接点
- ⑤発表：第1回から第3回のグループワークのまとめを発表する（※1）

【Season5】グループ・ワークによるプランニング

- ⑥グループ・ワーク第1回：収益化できるイベントを企画する。
ヒューマンビートボックスやボイパあるいは、それ以外の音楽やキャラクターショーなどを絡めた収益化が見込めるイベントを企画する。単にアイデアを出し合うだけでなく、必要な経費についても試算する。
- ⑦グループ・ワーク第2回：収益化できるイベントを企画する。
- ⑧グループ・ワーク第3回：収益化できるイベントを企画する。
- ⑨グループ・ワーク第4回：収益化できるイベントを企画する。
- ⑩発表：企画したイベントを発表する（※2）

【Final Season】仮想実践で顧客の反応を確かめる

- ⑪グループ・ワーク第1回：YouTuberからのメッセージとSeason5の企画の修正
 - ⑫グループ・ワーク第2回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成（※3）
 - ⑬グループ・ワーク第3回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
 - ⑭グループ・ワーク第4回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
 - ⑮まとめ：YouTube動画へのダイレクトコメントの紹介、PDCAやルーブリックといった評価方法の紹介、授業評価
- ※1：発表の媒体は、紙媒体（レジュメ）、パワーポイント（スライドショー）、YouTube（動画）などが想定されるがどれを採用するかは自由とします。
 ※2：発表した内容については相互評価（ピア・レビュー）を行います。
 ※3：作成した動画は河本洋一研究室のWebサイトで公開し、学外から投票やコメントを聴取します。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ミニマム・コミュニティでの音楽イベントを仮想的に立ち上げ、その意義や実施の仕組み観光との接点など、音楽イベントを多岐多様な因子から捉えられるようになることを目指します。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A:各回の最後のコメントシート(①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭) 12回×5点=60点 2023(令和5)年4月1日
評価の観点:グループ・ワークへの貢献度を評価する。
- B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season4:10点、Season5:10点、Final Season:10点 合計30点
評価の観点:自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C:ラーニング・アーカイブ(ネタ帳):10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ(通称:ネタ帳)として残るようにする。

【参考文献】

和野内崇弘『北海道の宿題』ISBN4-901336-10 ※本学図書館に所蔵

■授業外学習

【具体的な内容】

◇事前学修:授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修:授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

◆授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式のため、授業を進めていく中で、学生と共にシラバスに修正を加えることも想定しています。

◆グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。グループで一つではありませんので注意してください。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	黄 旭暉

■講義の目的および概要

講義の目的：異文化交流を通して観光（特に漢字圏）のプログラム方法等の習得、特に観光案内時に必要と思われるガイド内容を中心に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パソコンやインターネットなどを用いることによってより効果的な授業内容にし、多様性のある講義形式を取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中に問題意識を持たせた履修者に質問や意見を提出させ、そのフィードバックで講義を進行する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②世界言語の分布及び特徴を紹介する。
- ③アジア（韓国）観光紹介1。
- ④アジア（中国）観光紹介2。
- ⑤アジア（台湾）観光紹介3。
- ⑥アジア（香港）観光紹介4。
- ⑦アジア（シンガポール）観光紹介5。
- ⑧今までの演習内容のまとめ及びグループ分け。
- ⑨グループAのプレゼンテーション。
- ⑩グループBのプレゼンテーション。
- ⑪グループCのプレゼンテーション。
- ⑫グループDのプレゼンテーション。
- ⑬グループEのプレゼンテーション。
- ⑭グループFのプレゼンテーション。
- ⑮学科全体の発表会。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光ガイド時に必要となる異文化についての知識の習得

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 1、出席率 30%
- 2、授業での積極性 30%
- 3、プレゼンテーション 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無

【参考文献】

無

■授業外学習

【具体的な内容】

問題意識を提示し、履修者自身に考えさせる。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

出張等により上記の授業計画が変更する場合もある。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの応用編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験がある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーションの発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ1：ワインツーリズムによる地域振興（後編）
 - ③ フィールドワーク1：ワイナリーツアーの実施参加
 - ④ フィールドワーク1：ワイナリーツアーの実施参加
 - ⑤ ケーススタディ2：インバウンド向けNPSアップの検証（後編）
 - ⑥ ケーススタディ2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ3：SNSを活用したツアーの販売促進（後編）
 - ⑨ ケーススタディ3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？（後編）
 - ⑫ ケーススタディ4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 合同成果発表会
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・ グループワークから、実社会で使える共同作業能力やコミュニケーション能力の習得
- ・ プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 授業レポート提出内容：30%
- ・ フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・ プレゼンテーション（個別研究発表、最終成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

- 【テキスト】
- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

- 【参考文献】
- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

- ・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習では、春学期で履修した「空港民営化」の調査・研究を踏まえつつ、実際に北海道7空港を運営している北海道エアポート株式会社（HAP）に焦点をあて、当該社の経営戦略や目指すべき将来展望について調査・研究を行う。更に北海道7空港軸にした経済効果や地域活性化に向けた考察について深掘りしていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

北海道エアポート株式会社（HAP）の経営戦略や目指すべき将来展望を通じ、地元にもたらす経済効果や地域活性化に向けた効果等について、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から調査・研究を行っていく。中間および最後に研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①演習（基礎）の振り返り、今後の進め方
- ②北海道エアポート株式会社（HAP）設立の経緯とこれまでの推移
- ③マスタープラン分析1（全体）
- ④マスタープラン分析2（新千歳空港）
- ⑤マスタープラン分析3（函館空港、旭川空港）
- ⑥マスタープラン分析4（稚内空港、釧路空港、女満別空港）
- ⑦北海道エアポート株式会社（HAP）の現状分析（コロナ禍の影響等）
- ⑧中間発表会
- ⑨中間報告会の振り返りと最終報告会までの進め方
- ⑩個別施策分析とフィールドワークに向けた準備
- ⑪フィールドワーク1
- ⑫フィールドワーク2
- ⑬最終発表会に向けたワーク
- ⑭最終発表会
- ⑮これまでの振り返りと成果のフィードバック

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

今後の北海道エアポート株式会社（HAP）実施する各種施策が、人流や地元経済、地域活性化等にどのような効果を生み出すことに繋がっていくことになるのか、自身の見解を持ち論理的視点で発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 30%
発表会の内容（中間および最終） 50%
課題・レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークの実施に伴い、交通費（新千歳空港予定）及び諸費用としてー2023（令和5）年4月1日
3,000円～5,000円程度必要となります。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	金庭 香理

■講義の目的および概要

持続可能な社会づくりが進むなか、観光は地域振興のリソースのひとつとして位置づけられています。このゼミでは「観光」と「言語」の関わりに着目し、観光地や公共空間にある言語標識、多言語対応、言語接触などをとおして観光現象について考えます。

前期は、テキストを用いて、現状を整理し、自分の興味のある分野を探ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

献調査や輪読、資料収集、フィールドワークなどから知識を深め、レジュメ作成や口頭発表を通じて発信力を高めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。

■授業計画

概ねこのような予定です。前期の実施内容によって変更があります。

- ①ガイダンス
- ②街中の言語
- ③街中の言語
- ④多文化共生と言語対応
- ⑤言語景観から考える観光
- ⑥言語景観から考える観光
- ⑦調査1-フィールドワーク
- ⑧調査2-フィールドワーク
- ⑨調査3-フィールドワーク
- ⑩調査4-分析
- ⑪調査5-分析
- ⑫中間発表
- ⑬追加調査1
- ⑭追加調査2
- ⑮最終報告会

※調査地等については、ゼミ内で協議し決定します。

※不測の事態のときは、オンライン授業となることがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光地における言語景観について基礎知識を身につける
- ・言語と観光地との関係性を認識し課題意識を身につける
- ・テーマに関する資料やデータを収集し、理解できるようにする
- ・論理的思考のもと、課題解決へ向けた主体的な学修姿勢を身につける

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- レジュメや資料の作成と発表 40%
- 毎回の取り組みや課題の提出 40%
- 研究計画書 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業内で指示します。

【参考文献】

- 『言語景観から学ぶ日本語』（大修館書店）
- 『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』（ハヤカワ文庫NF）
- 『言語景観から考える日本の言語環境——方言・多言語・日本語教育』（春風社）

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

日頃から、ニュースや新聞、インターネットで関心領域について情報収集するよう心がけてください。多様な文化背景を持つ人と積極的に交流し、観光における言語の役割を考えてください。

【必要な時間】

予習復習にそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

調査やフィールドワークにかかる際の交通費は自費です。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「2年演習(基礎)」で習得した知識を踏まえて「韓国における言語・文化」および「韓国における観光事情」に関する知見を深めていきます。なお、関心のあたるテーマにどのような課題があるか情報収集を行い、ゼミのメンバーと協力し合いながら発表・議論を行うことで専門性・協調性・自主性を育てていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice: 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 国際観光探求応用 (韓国) 1
- ③ 国際観光探求応用 (韓国) 2
- ④ 国際観光探求応用 (韓国) 3
- ⑤ 国際観光探求応用 (韓国) 4
- ⑥ 研究テーマ設定中間発表
- ⑦ 国際観光探求応用 (韓国) 5
- ⑧ 国際観光探求応用 (韓国) 6
- ⑨ グループワーク1
- ⑩ グループワーク2
- ⑪ プレゼンテーション1
- ⑫ プレゼンテーション2
- ⑬ 異文化体験
- ⑭ 成果発表の準備および予行演習
- ⑮ 2年演習成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は使いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初中級以上の韓国語能力（韓国語Ⅰと韓国語Ⅱの履修）を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」及び「韓国語Ⅱ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

ニセコ地区の観光について研究
世界的な成長をみせているニセコ地区（ひらふ、東山、アンヌプリ）を主要な研究対象と定め、それぞれの成立過程と要因、発展、現状について考察します。
また、一部にとちか検定の問題作成を含めた「とちか」に関する研究もあわせて行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学習…課題は各自積極的に取り組み、他の学生により影響を与えること。
とちかに関する知識を身につけ、検定試験問題作成に取り組むこと
考察…ニセコ各地域の特徴を踏まえ、独自の視点をもてるよう深く考察すること
フィールドワーク…ニセコ高校と連携し、高校生に模範となるよう研鑽を積むこと

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィールドバックを授業内で行います。

■授業計画

I とちか検定に関する基本的知識習得と問題作成（とちか文化検定）

- ①とちかの自然・歴史
- ②とちかの産業・文化
- ③とちか検定問題作成
- ④とちか検定問題作成

II ニセコ地域別考察・グループ別研究分析

- ⑤じゃらん バックナンバー研究1
- ⑥じゃらん バックナンバー研究2
- ⑦じゃらん バックナンバー研究3

III フィールドワーク

- ⑧フィールドワーク1（事前準備）ニセコ高校訪問準備
- ⑨フィールドワーク2 企業訪問（ホテル、ワイナリーなど）
- ⑩フィールドワーク3 自治体訪問（ニセコ町ほか）
- ⑪フィールドワーク4 道の駅訪問（ニセコビュープラザ、倶知安町の駅ほか）
- ⑫フィールドワーク5 その他

IV 研究のまとめ

- ⑬研究のまとめと考察
- ⑭発表
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ニセコ観光をつうじて、観光の基本的知識を身につけ、フィールドワークを通じて地域振興について考察することができたか。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 《DP4》多様性の理解と協働する力
- 《DP5》能動的に学び続ける力
- 《DP6》社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①とちか検定試験 20%
- ②地域別考察 40%
- ③研究のまとめと発表 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「ぐるっと羊蹄まちしるべ」（非売品）ニセコガイド検定試験問題 … 教員より提供
「地域学とちか ガイドブック」…教員より提供
「じゃらん」バックナンバー

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

ゼミは自主的な研究と期日を守ってレジュメをまとめ発表することが必須です。
ゼミに所属する自覚と役割分担を責任をもって果たすことが求められます。

【必要な時間】

事前事後（特に事前）それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

SNSを中心とした観光情報の収集や発信方法を学び、英語で紹介できる能力を身につける。授業内のグループディスカッションやアクティブラーニングを通じ、英語の実践的運用能力を高める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ディスカッションやプレゼンテーションを中心に授業を進め、学生の主体的な学びが求められます。反転学習を通して学生自身が協力して取り組む、課題解決型学習となります。北海道内の観光地の情報発信調査とフィールドワークがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義内で課題に対するフィードバックを行います。レポート課題とSNS発信記事についてもコメントをして返却します。

■授業計画

- ①オリエンテーションと北海道の観光地とSNSの活用について
- ②ディスカッション: ウェブサイト構築について
- ③ディスカッション: YouTubeの動画制作について
- ④フィールドワーク1
- ⑤フィールドワーク1 成果発表:課題1 YouTubeの動画(英語)
- ⑥フィールドワーク2
- ⑦フィールドワーク2
- ⑧フィールドワーク2 成果発表:課題2 Facebookの観光情報発信(英語)
- ⑨フィールドワーク3
- ⑩フィールドワーク3
- ⑪フィールドワーク3 成果発表:課題3 Instagramの観光情報発信(英語)
- ⑫ウェブサイト構築確認
- ⑬成果発表: 課題4 ウェブサイト観光情報発信(英語)
- ⑭学習成果確認とゼミ学習発表会の準備
- ⑮観光学部2年ゼミ学習発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①北海道の観光についてインバウンド観光客が求める情報内容を理解し、わかりやすい英語で発信できる力を身につける。
- ②北海道の観光に関わるディスカッションやプレゼンテーション及びライティングを英語で行うことを通じ、実践的な英語コミュニケーション能力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 課題1 25%
 課題2 25%
 課題3 25%
 課題4 25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じ、授業内でプリント適宜配布予定

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業に対してはインターネット等を使用して、学習に関する情報を収集し、課題の準備も含め2時間程度行ってください。その他グループディスカッションとファイナルプレゼンテーションは基本的に英語と日本語で行います。

【必要な時間】

事前・事後合わせて2時間を目安とします。

科目名	観光企業研究
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	河本 洋一、荒木 智、青木 哲朗

■講義の目的および概要

現在、観光に関わる多くの企業（観光企業）は、コロナ感染症により大きな影響を受けています。しかし、実はコロナ感染症流行前から、観光企業はIT化、グローバル化、ライフスタイルの変化、少子高齢化などの影響により、大きな変革期にありました。コロナ感染症が終息したとしても、観光企業はこれらの変化に対応すべく、さらなる変革が求められています。本講義では変化の激しい、業界動向を踏まえ、「宿泊、旅行、航空、観光関連産業」の4ジャンル毎に企業研究を行い、それぞれの企業の特徴や課題等について分析できる能力の習得を目的とします。観光産業への就職を考える上で有効な講義を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式が基本です。観光業界で長く実務経験を積んだ教員を中心に、観光産業の実状を分かり易く解説しながら進めます。「観光関連ニュース」も随時、取り上げます。また、社会人として知っておくべき実践的な「知識」や「心構え」も触れていきます。なお、学内で7月に開催される合同企業説明会に参加することが必須条件となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は授業内で解説、説明します。

■授業計画

“以下3人の教員が分担して担当するオムニバススタイルです。

【担当】①、⑫～⑮は河本、②～⑥は青木、⑦～⑪は荒木が担当する。”

- ①ガイダンス 観光産業とは（特色、具体例）、コロナ禍の観光産業
 - ②企業分析の手法、旅行業(1)
 - ③旅行業(2)
 - ④旅行業(3)、宿泊産業(1)
 - ⑤宿泊産業(2)
 - ⑥宿泊産業(3)
 - ⑦航空産業(1)
 - ⑧航空産業(2)
 - ⑨航空産業(3)
 - ⑩航空関連産業(1)
 - ⑪航空関連産業(2)
 - ⑫観光関連産業(1)
 - ⑬観光関連産業(2) MICE ゲストスピーカー
 - ⑭就活における企業選びのポイント
 - ⑮学内合同企業説明会（レポート提出必須）
- ※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

講義、企業説明会等を通じ、観光企業の特徴や課題等について分析できる能力の習得し、観光企業の将来性を見究める基本的手法を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

“授業内課題(小テスト、小論文) 70%
合同企業説明会レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じてプリントを配布します。manabaにも掲載します。
(宿泊産業) 星野リゾートの事件簿、星野リゾートの事件簿2

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

日頃から、TVニュース、インターネット、新聞等で、観光業界の動きに関心を持ち、最新情報を入手して授業に臨むこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	観光実践演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 4単位・演習
担当者	呉 泰均、山田 芳之、田村 こずえ

■講義の目的および概要

鶴雅グループと本学との共同事業として開講される授業である。本授業の目的は、実際の観光地で事業を展開している事業所に身を置きながら、観光に関わる実践的な知識と経験、態度を習得することにある。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本授業は、実務経験のある教員による一部に講義と実習を織り交ぜた演習形式で行なわれる。また実際の観光地において現場を体感するアクティブラーニングである。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ①本学での事前・事後学習
- ②阿寒湖温泉および近隣地域での「観光人材養成講座」への参加
上記二部構成で行われ、それぞれ、鶴雅グループ担当者、教員からフィードバックを行う。

■授業計画

【事前学習：本学観光学部教員】

- ・道東の地理と観光地、国立公園と阿寒湖温泉
- ・鶴雅グループについて
- ・ビジネスマナー
- ・宿泊業における衛生管理の現状
- ・調査研究に向けてのグループワーク

【「観光人材養成講座」：鶴雅グループ役員および特別招聘講師】

- ・場所 阿寒湖畔および近隣地区
- ・予定期間 2月中旬から3月上旬
- ・履修者全員による合宿形式(他大学も参加予定)

★予定されている内容

- ①行政的視点からの北海道の観光の現状と課題
- ②旅館マネジメント総論とその実践、営業戦略、おもてなし論
(旅館のおもてなし、航空会社の接遇、お客様対応実習)
- ④近隣観光地の連携の必要性
(まちづくりと旅館、阿寒の自然、近隣観光実習)
- ⑤アイヌ文化とその体験
- ⑥上記の総決算としてのグループワークによる調査研究など。

【事後学習：本学観光学部教員】

帰学後以降に、これまでの授業を振り返り、成果と反省を全体で報告する「まとめ」の授業を行う。

※履修者は原則としてすべての日程に参加できなければならない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光に関する実践的な知識と経験、態度を習得する。
- ・グループワーク集団生活を通じて、他者との協働(チームワーク)の必要性を理解し、以降も積極的に実践する意欲を養う。
- ・自らの言葉でこれらを表現し、他者に伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 《DP2》コミュニケーション能力
- 《DP3》課題を発見し、解決する力
- 《DP4》多様性の理解と協働する力
- 《DP5》能動的に学び続ける力
- 《DP6》社会に貢献できる姿勢

■成績評価基準と方法

- 大学側：50%
- ・事前・事後学習における授業内提出物・・・20%
- ・人材養成講座参加日誌・報告書など・・・30%
- 観光人材養成講座における鶴雅グループ側の評価・・・50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
オリジナル教材を配布します。

【参考文献】
必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ビジネスマナーを身に付けるための授業を受講しておくことが望ましい。
- これまで学んだ観光についての知識と態度を振り返っておくこと。
- 選考に向けて、以下のことを調べておくこと。
 - ・鶴雅グループについて（歴史・大西社長について）
 - ・展開している事業の種類と規模など
 - ・阿寒湖温泉と近隣諸地域について（釧路やオホーツク海沿岸の地理と観光地など）

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

【履修条件について】

- ①本学を代表するという自覚を持ち、その振る舞いが品行方正な者
 - ②二段階の選考（学内と鶴雅グループ役員面接）に合格した者
- 注）4年生のみ：本授業を含まずに卒業要件を満たす見込みである者

・詳細については事前説明会にて案内するので、履修希望者は必ず参加すること。
（説明会不参加者は次のステージには進めません）
・なお、本来は履修者負担となる「観光人材養成講座」費用については大半が、鶴雅グループの寄付により賄われる。

科目名	北海道観光[2年]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

道内の主要観光地の概略を学び知識を得ることによって、今後の北海道観光の展開について考える基礎的な素地を養い、北海道観光マスター検定の合格を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で展開し、特徴的な項目を幾つか取り上げてグループワークによるディスカッション等を取り入れ、能動的な学修を目指す。
本講義は、地域づくりの基盤となる観光対象とは何かについて、知識を習得していくことを基本とします。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎講義で、学生の興味関心に沿って講義内容の振り返りや質疑応答（Respon使用）を行います。

■授業計画

【Season1】北海道の基礎情報

- ①ガイダンス（北海道観光の全体概況と課題・可能性の概説、模擬問題の提示
- ②北海道の基礎
一般情報、産業・経済の統計情報

【Season2】北海道の観光地

- ③道央圏
- ④道北圏
- ⑤道南圏
- ⑥オホーツク圏
- ⑦釧路・根室圏
- ⑧十勝圏

【Season3】北海道の祭り

- ⑨北海道の伝統的な祭り
- ⑩北海道三大行灯祭り
- ⑪雪と氷の祭り
- ⑫食、花をテーマにした祭り
- ⑬花火大会
- ⑭音楽・演劇その他の祭り

- ⑮まとめレポート『私の出身地の観光資源』、授業評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の代表的な観光資源の現況を理解し、今後の北海道観光の展開方向について考えるための基礎的な知識が身についている。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ◇定期試験（北海道観光マスター検定模擬問題）70%
 - ◇授業内での15回目のレポート 30%
- 評価については、遠隔授業になった場合も考慮し上記を基本としますが、実態を鑑み変更を加える場合もあります。
※検定に合格した場合は、定期試験を免除し評価を「優+」とします。ただし、3分の2以上の出席要件を満たしていることが条件です。受験した場合は、1コマ分の出席扱いとなります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『北海道観光ハンドブック』一般社団法人 北海道商工会議所連合会発行
秋学期に販売します。

【参考文献】

特にありません。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ◇事前学修：次回の講義範囲について、テキストを読み模擬問題を自ら作成し授業内で発表するという反転授業を基本とする。
- ◇事後学修：授業内で取り組んだ模擬問題を分野別に整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

毎年実施される、北海道観光マスター検定の受検を前提とした講義です。原則として受講生全員に受検義務があります。受検料5,000円が必要になります。この検定に合格すると観光関連産業への就職の際、有利な資格として記述することができます。検定の実施日は11月23日（前年度実績）

科目名	観光政策行政
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	平出 渉、朝倉 俊一

■講義の目的および概要

地域の産業振興や雇用の創出など地方創生にとって観光が果たす役割はますます重要になっています。本講義では、地方自治体や国における観光政策の必要性や概要を理解した上で、観光政策の種類、近年の動向、具体的な政策事例などについて理解を深めることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は集中講義方式で実施する。観光政策の概要や地域にとっての必要性については、実際に地域政策や施設マネジメントの実務を経験している担当教員が具体的な事例を紹介しながら講義を行う。なお、一部授業については、受講生によるグループワークなどアクティブラーニングの要素も適宜取り入れながら実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポート発表時など授業を通じて適宜フィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション（観光政策の概要）
- ②観光の経済的効果
- ③観光市場の動向
- ④観光プロモーション
- ⑤まちづくりと観光
- ⑥観光移動と公共交通
- ⑦交通産業と行政
- ⑧官民連携による観光施設づくり
- ⑨宿泊産業と行政
- ⑩ファムツアー
- ⑪サイクルツーリズムについて
- ⑫サイクルツーリズムの事例（その1）
- ⑬サイクルツーリズムの事例（その2）
- ⑭これからの観光と地域
- ⑮テストとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光政策の主体と種類を理解する
- ・観光政策の重要性を理解した上で地域の中の観光行政のあり方について理解する。
- ・観光行政の課題と将来像について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 授業内の態度・積極性 50%
- 課題レポート 30%
- 授業内試験 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて授業時に配布

■授業外学習

【具体的な内容】

道の駅や公営温泉など地方自治体による観光施設の訪問経験など、自分の身近な分野で観光行政に関連するエピソードを発表してもらいます。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークを行う場合があり、その場合、交通費等は自己負担。

科目名	観光マーケティング
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

企業活動の中核を担うマーケティングについて学ぶ。一般企業にとどまらず、昨今は自治体経営や社会的な課題を解決する小さなコミュニティビジネスにおいてもマーケティング的な思考が重要となっている。特に昨今取りざたされるDMOを通して観光地経営を研究する際にマーケティングは必須の知識である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では学問としてのマーケティングの基本を抑えながら、経営者・実務経験のある教員の実体験を交えマーケティングの基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

特に社会的企業・起業のケーススタディを元に、社会的な課題解決に向けマーケティングを活用する可能性を探る。

■授業計画

- ①イントロダクション マーケティングの概略
- ②ビジネスにおける戦略的な思考
- ③ビジネスプランとマーケティングプラン
- ④マーケティングの4P
- ⑤商品 4つのPのひとつ「商品」について学ぶ
- ⑥流通 4つのPのひとつ「流通」について学ぶ
- ⑦広告・広報 4つのPのひとつ「広告・広報」について学ぶ
- ⑧価格 4つのPのひとつ「価格」について学ぶ
- ⑨商品ライフスタイル
- ⑩セグメンテーション
- ⑪マーケティング活動の実際
- ⑫マーケティングプランの作成 (1)
- ⑬マーケティングプランの作成 (2)
- ⑭マーケティングプランの発表
- ⑮ふりかえり 授業内テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

マーケティング研究は大企業を対象としたものが多いが、中小零細企業が中心の観光地においてマーケティング的手法を活かしていくにはどうすれば良いかを理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート 30%
課題 40%
授業内試験 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・なし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃から世の中のマーケティングに関心を持つこと。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	観光情報
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	五十嵐 誠

■講義の目的および概要

今後の観光産業発展に向けては情報の利活用は不可欠である。最新のICT技術を用いた情報の取得方法、観光産業分野における情報の利活用方法、実際の事例を学ぶことで、観光産業分野の発展に向けた関心を喚起させることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

最新のICT技術を用いた情報の取得方法、観光産業分野における情報の利活用方法について、大手通信企業、ITベンチャー上場企業役員としての実務経験のある教員の体験を交えた講義を行う。また、能動的な学習に向けて、アンケート、ディスカッションを活用した講義とする。講義後は、毎回レポートを作成し、講義内容の振り返りを行う。最終講義後に、最も興味を持った分野における最終レポートを提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

全体に関係することは授業冒頭にて、個人に対する課題については、授業内で解説するとともに、必要があれば、追ってmanabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

- ①講義ガイダンス・オリエンテーション
- ②観光業界を取り巻くICT、社会情勢について
- ③情報化時代の観光産業分野におけるマーケティング活動について
- ④消費者行動プロセスについて（AIDMAモデル、AICEASモデル、ULSSASモデル）
- ⑤消費者行動プロセス毎のプロモーション媒体について
- ⑥消費者行動プロセスにおける「共有」について
- ⑦消費者行動プロセスの「記憶」について
- ⑧消費者行動プロセスの「体験」について
- ⑨消費者行動プロセスと観光産業分野におけるマーケティング活動との関連性について
- ⑩企業における観光情報を活用した活動（CRM、LTVについて）
- ⑪企業における観光情報を活用した活動事例について（1）
- ⑫企業における観光情報を活用した活動事例について（2）
- ⑬企業における観光情報を活用した活動事例について（3）
- ⑭企業における観光情報を活用した活動事例について（4）
- ⑮振り返り（最終レポートに向けた企業における観光情報を活用した活動について）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光情報の概要、必要とされる時代背景、利活用事例を理解し、観光産業の様々な分野において、観光情報を活用する観点を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 講義時におけるワーク（ディスカッション、アンケート、クイズ等）：20%
- ・ 講義毎の事後課題：40%
- ・ 最終レポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜必要な資料を配布する。

【参考文献】

論文等必要な文献は、その都度適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

常に、自分を含めた周囲の観光行動について分析し、観光情報として取り扱う習慣をつける。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

受講生の状況を踏まえて、難しいICT、マーケティング用語の解説をしながら講義を進めていく。

受講生のニーズを踏まえて 内容を変更することがある。

科目名	観光とMICE
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本講義では、地域に大きな経済効果をもたらす可能性があるMICEの基本を理解し、さらに授業内でMICEの模擬コンペを実施し、『勝てる企画提案!』のポイント、グループワークやプレゼンテーションなどの実践を通じて学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義ではスライドや動画等の視聴覚教材を活用し、さらにフレームワークの為にプリントを配布し課題分析など授業のポイントを分かり易く解説します。またグループワークやプレゼンテーションなどを取り入れ能動的な学修を目指します。

本講義は、MICEの実務経験のある教員が、企業のしくみや営業活動の知識を活かしてビジネスワーカーの視点から理解し易い講義を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる授業になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

プレゼンテーション発表やレポートに対して授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② MICEの基礎
- ③ M (Meeting) の模擬コンペ (企業の表彰パーティーを企画提案)
- ④ Mの模擬コンペその2
- ⑤ Mのプレゼン発表
- ⑥ I (Incentive) の模擬コンペ (企業のインセンティブツアーを企画提案)
- ⑦ Iの模擬コンペその2
- ⑧ Iのプレゼン発表
- ⑨ C (Convention) の事例研究 (継続カンファレンスの課題分析と企画提案)
- ⑩ Cの事例研究その2
- ⑪ Cのプレゼン発表
- ⑫ E (Event) の事例研究 (継続イベントの課題分析と企画提案)
- ⑬ Eの事例研究その2
- ⑭ Eのプレゼン発表
- ⑮ プレゼンの講評と、まとめとメッセージ

※講義の順番は適宜変更する事があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・MICEのケーススタディを通して、課題の深堀、本質の分析、根拠のある提案などロジカルな思考が出来る。
- ・実社会でも使える伝わる提案書の作成力、プレゼンの実践力を身に付ける。
- ・共同作業するコミュニケーション能力を習得し、グループワークに積極的に取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・平常点 (グループワーク参加姿勢、授業レポート) : 40%
- ・成果報告 (中間・最終) : 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

Webでの情報収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事。

【予習と復習の時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	添乗員実務論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

皆さんが参加する実際の研修旅行を題材に、顧客満足度の高い添乗業務を学びます。事前学習では添乗用語から旅行形態別（道内、航空機使い、海外）の添乗業務などの基礎を学び、さらに実際の航空機を利用した研修を題材に、『団体航空券のチェックイン』『旅程管理』『インシデント対応』『ツアーの演出』など、航空機を利用したツアーならではの一連の添乗業務をリアルに学習します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前学習ではスライドや動画等の視聴覚教材を活用し、フレームワークの為のプリント配布し実務のポイントを分かり易く解説します。研修旅行では出発前の『ツアーの引継』旅行中の『旅程管理』帰着後の『携行現金の清算』まで、航空機を利用したツアーの一連の業務をリアルに学習します。

本講義は、添乗の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。

【課題に対するフィードバック方法】

現地で遭遇する様々な事象に対しては都度講評し、事後レポートに対して授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 添乗用語、形態別の添乗業務
- ③ 海外旅行添乗業務
- ④ 現地経費（携行現金）の取扱い
- ⑤ ツアーの引継、手配内容の確認
- ⑥ お客様対応、事前電話対応
- ⑦ 添乗実習1日目（往路団体航空チェックインから出発）
- ⑧ 添乗実習1日目（途中乗継現地到着からバス乗車まで）
- ⑨ 添乗実習1日目（団体ホテルチェックインから夕食まで）
- ⑩ 添乗実習2日目（2日目行程管理、観光施設入場）
- ⑪ 添乗実習2日目（団体ホテルチェックインから夕食まで）
- ⑫ 添乗実習3日目（3日目行程管理、観光施設視察）
- ⑬ 添乗実習3日目（団体ホテルチェックインから夕食まで）
- ⑭ 添乗実習4日目（復路団体航空チェックインから乗り継ぎ到着まで）
- ⑮ アンケート結果分析、携行現金精算書作成、

※添乗実習旅行は、2月中旬3泊4日、方面は沖縄を予定しています。

※参加費用は実費負担となります（一部学校からの補助有り）、事前学習は12月1月2月に実施予定、詳細は11月実施のオリエンテーションで説明します。

※添乗実習旅行は旅行演習との合同実施となります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・添乗業務に必要な用語や出発までの業務フローを理解したうえで、最終日程表に準じた旅程管理など、航空機を利用したツアーの添乗業務の基礎を学習する。
 ・旅行中に実際に発生したインシデントをケーススタディとし課題解決力を養う
 ・お客様の顧客満足度を高める演出効果や、ビジネスパートナーとの円滑な打合せなど、積極的にコミュニケーションが出来る。

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力、
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・事前課題作成内容：30%
- ・研修旅行参加姿勢：40%
- ・最終レポート：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【必要な時間】

それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	観光中国語
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	陳 堯柏、黄 旭暉

■講義の目的および概要

【講義の目的および概要】

近年インバウンド中華圏観光客の増加に伴い、中国語を話せる人材が求められている。その現状を踏まえ、実用的な中国語会話の習得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光の場面ごとに単語やフレーズを紹介し、会話練習やロールプレイ等を通して実際に使えるよう練習を重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で学生がロールプレイを発表し、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②第一課 楊麗さんですか。
- ③第二課 荷物は多いですか。
- ④小クイズ1。アクティビティ1 (ロールプレイ)
- ⑤第三課 明日はどこへ行きますか。
- ⑥第四課 ケーキをたべたいですか。
- ⑦小クイズ2。アクティビティ2 (ロールプレイ)
- ⑧第一課～第四課復習と会話の練習
- ⑨第五課 これはいくらですか。
- ⑩第六課 電子辞書を持っていますか。
- ⑪小クイズ3。アクティビティ3 (ロールプレイ)
- ⑫第七課 京劇のチケットを買いました。
- ⑬第八課 ファストフード店がありますか。
- ⑭小クイズ4。アクティビティ4 (ロールプレイ)
- ⑮第五課～第八課復習と会話の練習

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

それぞれの場面で使う表現を学習し、実際に会話の中で使えるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

小クイズ1-4 (40%)
アクティビティ1-4 (40%)
課題 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

1冊めの中国語～会話クラス～ 劉 穎, 喜多山 幸子, 松田 かの子 著

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で使用する教材の予習・復習をしてください。

【必要な時間】

リスニングの課題とロールプレイの練習も含め、予習・復習をそれぞれ2時間程度行ってください

■その他

HSK中国語検定試験2級の受験を勧めます。

科目名	観光韓国語
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

最近では、さまざまな場面で日本人と韓国観光客との接触機会が増えてきており、韓国ビジネスに対する関心や韓国語の学習の需要が高まりました。withコロナ時代と言われる今、日本のインバウンド需要の回復の動きが強まってきており、とりわけ韓国からの観光客が著しく増加しました。ポストコロナに向けてインバウンド需要のさらなる増加が予想されるということで、本授業では以下の3点に重点を置いて観光韓国語力を身につけていきます。

1. 訪日韓国観光客に北海道の人気スポットを韓国語で案内するためのフレーズや関連文法を習得しながら韓国語の会話力を高める。
2. 旅先(韓国)で使えるフレーズや関連文法を習得しながら韓国語の会話力を高める。
3. 韓国観光の基本情報をはじめ、グルメ、ショッピング、若者文化など、韓国旅行に関する最新情報を取得するとともに、韓国の社会・文化に関する知見を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的に教科書に基づく座学ですが、必要に応じて適宜グループディスカッションを行うことがあります。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。履修者の数やニーズに応じて、進め方の調整を行う可能性があります。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム(manaba)などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice: 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② かなのハングル表記 (日本の地名・人名)
- ③ 韓国と北海道の基礎知識、観光韓国語1
- ④ 韓国と北海道の観光地1、観光韓国語2
- ⑤ 韓国と北海道の観光地2、観光韓国語3
- ⑥ 韓国と北海道の土産比較、観光韓国語4
- ⑦ 韓国の主要都市と各エリアの案内、観光韓国語5
- ⑧ 中間発表・ディスカッション
- ⑨ 韓国と北海道の空港の旅、観光韓国語6
- ⑩ 韓国と北海道の交通、観光韓国語7
- ⑪ 韓国と北海道の温泉・宿、観光韓国語8
- ⑫ 韓国の韓流・エンタメスポット、観光韓国語9
- ⑬ 韓国と北海道のグルメ旅、観光韓国語10
- ⑭ 観光韓国語 11 (買い物・病院・困ったときのフレーズなど)
- ⑮ プレゼンテーション、全体のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識(観光社会・国際観光・異文化理解・外国語など)を理解し、グローバルコミュニケーション力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを自ら経験し、国際的視野を広げ、グローバル観光に欠かせない国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「学期末試験50%」+「グループプレゼンテーション30%」によりますが、出席・授業への参加度および参加態度など(20%)も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『韓国語PERAPERA北海道』、趙恵真・小川紗世著、ISBN978-4-86721-093-2

【参考文献】
必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、指定された問題を考えること、テキストの新しい語句や文法内容を確認すること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する語彙及び文法内容や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】
前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初中級以上の韓国語能力（韓国語Ⅰと韓国語Ⅱの履修）を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」及び「韓国語Ⅱ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。

- ①毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。
- ②なお、授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

科目名	観光クリエイティブ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

企業には企業理念があり、その企業理念の下で様々な社会貢献を通じて利益を追求していくことが企業の社会的存在価値の一つです。とにかく「稼ぐ」ということのみに行きがちな学生の関心を、まずは社会貢献という方向へ向けることを目指します。具体的には、この科目の受講生全体を一つの観光プロモーション会社に見立て、擬似的に企業理念を立案したり、観光コンテンツの開発や収益性のシミュレーション、コンテンツのプロモーション（フライヤーや動画の制作等）などを演習を通して学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講生全員で擬似的な観光プロモーション会社を立ち上げ、擬似的企業の社員として担当部署に所属してもらいます。擬似的企業活動が軌道に乗り出したら、毎回の授業では冒頭で全社員（学生）によるブリーフィングを実施し、授業時間内を擬似的観光プロモーション会社の活動に充ててもらいます。授業の終盤ではこのような擬似的活動から見いだされた課題について整理しレポートとしてまとめていきます。

また、受講前に5分程度の動画を視聴しておき、次回の授業準備をしてから受講するという反転授業方式を採用します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業で実施するコメントシートへの返答や、最終レポートへの寸評などをおして、学修成果の評価を学生にフィードバックします。

■授業計画

- ① (10/10) オリエンテーション：この新設科目のねらい、反転授業について
- ② (10/17) 企業理念の構築
- ③ (10/24) 担当部署の確定、開業資金の調達の方法の検討
- ④ (10/31) 各部署の業務内容の検討
- ⑤ (11/7) 各部署の活動①（仮想商品の開発、フライヤー、動画などの制作）
- ⑥ (11/14) 各部署の活動②（情報収集、市場調査など、同上）
- ⑦ (11/21) 各部署の活動③（同上）
- ⑧ (11/28) 各部署の活動④（同上）
- ⑨ (12/5) 各部署の活動⑤（同上）
- ⑩ (12/12) ローンチ（launch※）へ向けた準備 ※新事業の周知各部署の活動
- ⑪ (12/19) 仮想商品の仮想販売
- ⑫ (12/26) 仮想商品の販売実績報告会、収益計算、活動報告の準備
- ⑬ (1/9) 擬似的企業活動の決算報告、各部署の活動報告、ピアレビュー
- ⑭ (1/16) 授業内レポート試験
- ⑮ (1/23) レポート試験のまとめ、授業評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

学生が主体的に活動し、課題解決ではなく観光に関する多くの「問い」を発見することができることを到達目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

下記のディプロマ・ポリシーに関連した科目です。

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

定期試験は実施せず、下記の評価項目で成績を算出します。

- (A) 各回の授業のコメントシートの提出
- (B) グループワーク（各部署）でのピアレビュー
- (C) 授業内レポート試験

上記の内容を（A：3点×15回＝45点）（B：15点）（C：40点）＝100点で算出します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に使用するテキストはありません。その都度情報収集で学生が適宜使用してください。

【参考文献】

授業内でそのつど紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

一部に反転授業を取り入れた授業形態のため、事前の準備学修が必要です。また、受講後は次回へ向けた準備の学修が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

2022年度入学生からの新設科目のため、3年生以上の学生は選択することができませんのでご了承ください。

科目名	宿泊経営概論
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

春学期講義では観光サービス産業の基幹産業である宿泊産業について、日本で永い歴史のある「日本旅館」の変遷、明治維新後近代社会に寄与したホテルの役割、経済環境が移り変わり経営の変化、「観光立国」により加速した観光政策、国際的ホテルの参入増加、新業態ホテルの登場による多様化など宿泊産業の成り立ちから昨今の業界動向、施設分類、所有形態、経営形態、収益構造、関係する法律を体系的に考察し宿泊産業の基礎知識を習得することを目的とします。

秋学期に実施される「ホテル演習」に知識が役立ちますので頑張りましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- 基本講義形式（パワポテキスト投影）を中心に授業を進めます。
毎授業冒頭には前回のキーポイントの復習振り返りを行う。
- 講義テキストPDF、最新業界情報を「manabaコースコンテンツ」に事前公開と開示予習復習、情報収集に役立て下さい。

【課題に対するフィードバックの方法】

- 課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- | | |
|----------------|---------------------------------------|
| ① 第1部：授業ガイダンス | ～ 授業内容説明、成績評価、目的と目標 |
| 第2部：おもてなし文化 | ～ 宿泊施設 おもてなしの本質、おもてなし、サービス、ホスピタリティの違い |
| ② 宿泊施設の歩み | ～ 歴史考察 |
| ③ 宿泊施設の相違 | ～ 施設定義、産業構造上の定義、法律上の定義
経営特性、商品機能 |
| ④ 宿泊施設の分類 | ～ 分類の前提を知る |
| ⑤ ホテルと旅館の違い | ～ 機能・サービス様式・デザインの違い |
| ⑥ 観光と宿泊産業 | ～ 観光立国と時代背景、現状と将来、施設推移 |
| ⑦ 特別講義 | : 外部講師による講話 |
| 春学期前半評価課題 | : 聴講レポート |
| ⑧ 経営形態 | ～ 施設の所有・経営・運営の関係 |
| ⑨ 収益構造 | ～ 利益構造と利益率、収益特性、収益管理 |
| ⑩ 会計基準 | ～ 会計基準、財務会計、管理会計 |
| ⑪ 情報システム | ～ 基幹システム、ネットワーク構成 |
| ⑫ 宿泊施設の社会的使命 | ～ 社会的責任、CSR概念、災害時対応 |
| 宿泊業に求められるCSR | ～ Case study、背景、地域社会を支える |
| ⑬ 春学期小テスト（ドリル） | : 授業内復習テスト（授業全体より出題） |
| ⑭ 春学期後半評価課題 | : 課題レポート（授業内作成） |
| ⑮ まとめ | : 宿泊経営概論 全体の振り返り |

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 宿泊ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- 施設の所有・経営・運営に必要なとされる専門知識を習得する
- 国際的視野を醸成して海外経験に挑戦する人材になる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) : 専門知識・技能を活用する能力
(DP6) : 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

3つの評価項目総合点（100点満点）により単位認定評価を行う。

- ⑦ 春学期前半評価対象 レポート : 配分40%（40点）
- ⑭ 春学期後半評価対象 レポート : 配分40%（40点）
- 出席状況・授業態度 : 配分20%（20点）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・講義はパワーポイントの投影を中心に授業を進めます。（テキスト購入は無し）
- ・講義テキストPDF、最新業界情報など「manabaコースコンテンツ」に公開（保存）、予習・復習・情報収集に役立て下さい。

【参考文献】

- ・資料配布や参考書、最新業界ニュース情報などを適宜紹介。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・講義テキストは各々プリント又はデータ保管を行い予習復習は必須
- ・日々の行動においてホテルへの訪問、考察、具体的なサービスの手法などに触れ興味を持ち視察・利用・情報収集にて知識を広げる。

【必要な時間】

- ・予習/復習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・宿泊業界を進路選択肢の一つに入れている学生、業界に興味がある学生は大歓迎。
- ・専門的基礎知識を養い将来ホテル・リゾート・旅館など宿泊業界で活躍する人材になってくれることを期待しております。
- ・「ホテルビジネス実務」講義を履修すると理解しやすくなるので推奨します。
- ・3年次にはホテルマネジメント技能 国家検定に是非挑戦してください。

科目名	インバウンド演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

インバウンドのツアーオペレーター業務や、宿泊や観光施設の受入れ態勢強化を題材に、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。特にフィールドワークでは、施設でのオペレーションや宿泊プランの企画、コンテンツ発信などをビジネスパートナーとのリアルなコミュニケーションから実務を学習します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前学習では各国の旅行習慣の違いの理解や、『Rooming list』『itinerary (最終手配行程)』『宿泊プラン』作成など、PC作業も取入れ能動的な学修を目指します。本演習は、インバウンド業務の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。

【課題に対するフィードバック方法】

現地で遭遇する事象に対しては都度講評し、事後レポートに対して授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② ケース1：インバウンド向けグリーンアクティビティのオペレーション実習
- ③ フィールドワーク1：市内近郊グリーンアクティビティ施設にて
- ④ フィールドワーク1：その2
- ⑤ ケーススタディ2：インバウンド客受け斡旋、発斡旋の実習
- ⑥ フィールドワーク2：千歳空港国際線ターミナルにて
- ⑦ フィールドワーク2：その2
- ⑧ ケーススタディ3：インバウンド向け宿泊プランの企画
- ⑨ フィールドワーク3：定山溪のホテルにて
- ⑩ フィールドワーク3：その2
- ⑪ ケース4：インバウンド向けウィンターアクティビティのコンテンツ発信
- ⑫ フィールドワーク4：市内近郊スノーアクティビティ施設にて
- ⑬ フィールドワーク4：その2
- ⑭ レポート作成
- ⑮ 講評、まとめ

※ビジネスパートナーとの日程調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施は、授業日または(土)(日)、冬休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料、など実費負担の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・インバウンドのツアーオペレーターとして、用語や受入れまでの業務フロー、手配の確認作業など習得し実践力を身に付ける。
- ・一つ一つの業務の必要性や、クライアント旅行会社の満足とは何か？を模索し、課題解決力を養う。
- ・ビジネスパートナーと積極的にコミュニケーションにできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力、
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力、
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・事前課題作成内容：30%
- ・フィールドワーク参加姿勢：40%
- ・事後レポート内容：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【必要な時間】

・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	観光英語
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

近年海外へ旅行する人もポストパンデミックインバウンド観光客の増加も予想しており、観光英語に精通する人材が求められている現状を踏まえ、観光英語の習得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光の場面ごとに単語やフレーズを紹介し、会話練習やロールプレイ等を通して実際に使えるよう練習を重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で学生がロールプレイを発表し、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。また定期的に小テストも行い、学習効果を確認します。

■授業計画

- ① Orientation
- ② Unit 1 Travel
- ③ Unit 2 Jobs & People
- ④ Unit 3 Getting on the Plane
- ⑤ Unit 4 At the Immigration and Customs
- ⑥ Unit 1 - 4 Review and Evaluation Test 1
- ⑦ Unit 5 At the Airport
- ⑧ Unit 6 Hotel (Accommodations)
- ⑨ Unit 7 Restaurant
- ⑩ Unit 8 Sightseeing
- ⑪ Unit 5 - 8 Review and Evaluation Test 2
- ⑫ Unit 9 Shopping
- ⑬ Unit 10 Transportation
- ⑭ Additional Unit Traveling in Japan
- ⑮ Unit 9 - A.U. Review and Evaluation Test 3

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

それぞれの場面で使う観光英語を学習し、実際に旅行中や仕事で使えるようになる。また観光英語検定試験3級合格を目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

Evaluation Test 1 (20%)
Evaluation Test 2 (20%)
Evaluation Test 3 (20%)
Homework Assignment (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

English for Tourism (Basic) ベーシック観光英語
観光英検センター編

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で使用する教材の予習・復習をしてください。

【必要な時間】

Manabaにあるリスニングの宿題やリーディングも含め、予習・復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

■その他

観光英語検定試験3級の受験を勧めます。

科目名	ホテル商品企画
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

ホテルに関する基本的知識を学び、北海道の宿泊産業のうち、特にホテルの現状を正しく理解する。
そして、実際に売れているホテルの人気商品を調査研究分析し、更に売れる商品の企画立案できることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ホテル業界で長く実務経験のある教員が、ホテル業界全体や、北海道の宿泊産業の現状を解説しながら、テキストに沿って、ホテルの基本的知識を講義する。
札幌市内の実際に販売されているホテル商品を研究教材として取り上げ、グループワークを取り入れ、調査分析する。
経験豊富なホテル責任者・総支配人経験者等をゲストスピーカーとして招き、ホテルの現状と宿泊業界の将来展望を直接聴く機会を設定する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は、授業内で解説、説明します。

■授業計画

- ①ガイダンス（講義目的・内容も解説）
 - ②ホテルのA B C
 - ③ホテルの現状と経営特性
 - ④ホテルの実務に必要な基礎知識①
 - ⑤ホテルの実務に必要な基礎知識②+小テスト①
 - ⑥ホテル宿泊部門①
 - ⑦ホテル宿泊部門②
 - ⑧ホテル料飲部門・調理部門①
 - ⑨ホテル料飲部門・調理部門②+小テスト②
 - ⑩ゲストスピーカー（ホテル総支配人等を予定）特別講義
 - ⑪札幌市内のホテル商品の調査研究（グループワーク）
 - ⑫札幌市内ホテルフィールドワーク+商品企画責任者による特別講義
 - ⑬新商品立案書作成（グループワーク）
 - ⑭立案内容発表①
 - ⑮立案内容発表②+まとめ
- ※授業の順番や内容を、変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. ホテルに関する基本的知識とホテル業界の現状を説明できる。
2. 売れる可能性の高いホテル商品を判断し、企画・立案できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

レポートによる評価	(30%)
受講態度（グループワーク等での発表）	(30%)
ホテルに関する基礎知識の小テスト	(40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ホテル概論（J T B 総合研究所） 2,750円（税込み）

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、教科書で予習すること。前回の授業の復習も必須です。日頃から、ホテル等の宿泊施設に関心を持ち、人気商品に関する情報入手を心掛けること。札幌市内ホテルに、直接出掛け「人気商品」を実際に見てくること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

ホテル業界はじめ、宿泊産業に関心が高く、就職希望の学生をお待ちしています。教科書購入は必須とします。授業は、座席を指定して行います。フィールドワーク費用（交通費、ホテル食事代）として3,000円～4,000円前後必要です。

科目名	キャビンアテンダント実務
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	中里 のぞみ

■講義の目的および概要

キャビンアテンダントの実務について学び、実際のサービスフローとエアラインにおけるホスピタリティについて学ぶことを目的とする。
本講義はエアラインにおけるホスピタリティのマインドとスキルを具体的に学び、それらを基盤として、どのような業種に就いたとしても顧客満足につながられるように学びを深化させることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

資料、パワーポイント、DVDを活用した講義はもとより、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションも実施する。
キャビンアテンダントとしての実務経験に基づき、より具体的なケーススタディからエアラインサービスへの理解を深めていく。
航空会社が所有するようなモックアップ体験は授業内ではできない分、事例検討などで考察し、判断力・思考力・表現力を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションについては、随時、授業内でフィードバック。レポートなどの課題については精査後フィードバックする

■授業計画

- ①キャビンアテンダント実務を学ぶにあたって
- ②航空業界の現状とエアラインサービスの時代的变化
- ③CA実務の流れ（DVD参考）
- ④プリフライトチェックから始まる機内サービスのフロー
- ⑤保安要員としての役割
- ⑥クレーム対応・イレギュラリティ対応
- ⑦エアライン業界における顧客満足
- ⑧エアラインにおけるサービス品質管理と様々な部署の関連性
- ⑨エアラインが提供するサービス
- ⑩他業種が提供するサービスとの比較
- ⑪エアラインの新しいサービス提案
- ⑫発表とフィードバック
- ⑬事例検討
- ⑭LCとLCCのサービス
- ⑮総括・テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

キャビンアテンダントの実務について学び、コミュニケーション能力を高め、どのようなお客様に対しても多様な対応ができるようになる。
エアラインに求められるホスピタリティマインドとスキルを体現できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

テスト50%・レポート10%・ディスカッション・プレゼンテーション40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しない。適宜資料を配付します。

【参考文献】

「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」
中里のぞみ・紺野猷邦 株式会社パレード
「グランドスタッフ入門」 野田勝昭 イカロス出版 ※廃版となっているので授業内で説明します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として日頃から航空業界、広くは観光業界のタイムリーなニュースは敏感にキャッチしておくこと。
事後学習としては、授業で配布したレジュメは見返すようにする。

【必要な時間】

事前・事後学習には各講義前後に2時間程度を費やすようにする。

■その他

提出物は提出期限厳守とし、期限を過ぎたものは受け付けない。

科目名	世界遺産[観光]
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	呉 泰均、横田 久貴、河本 洋一

■講義の目的および概要

ユネスコ世界遺産条約により、かけがえのない、保護すべき遺産として登録された「世界遺産」について、その意義や保護の仕組みを理解し、個別の事例についてエリア別に系統立って学んでいきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各教員が各回のテーマに沿って開設する講義形式。配布する資料やDVDなどの教材を活用し、世界遺産に関して歴史的意義や重要性、保全と活用、後世に何をどう継承していくのか、多面的な視点で理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

本講義は、旅行・観光・文化関連の調査研究実績のある教員が、その旅行観光文化関連実務の実績や経験を活かしオムニバス方式で授業を実施します。各講義の課題に関しては、授業内で解説講義等するとともに関連資料等を配布します。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 世界遺産とは
- ③ 世界遺産と観光、エリアの保護・保全と登録プロセス
- ④ 世界遺産事例
- ⑤ 世界遺産事例 +小テスト実施

- ⑥ アジアの世界遺産 (その1)
- ⑦ アジアの世界遺産 (その2)
- ⑧ アジアの世界遺産 (その3)
- ⑨ アジアの世界遺産 (その4)
- ⑩ アジアの世界遺産 (その5) +小テスト実施

- ⑪ 世界遺産 (その1)
- ⑫ 世界遺産 (その2)
- ⑬ 世界遺産 (その3)
- ⑭ 世界遺産 (その4)
- ⑮ 世界遺産 (その5) +小テスト実施

※授業計画の順番や内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

世界遺産に関する分類、意義、保護の仕組み、遺産の状況や課題、今後のあり方（保全と活用）について理解するとともに、世界遺産や関連する仕組みについて知見や問題意識を高め、学生自らが主体として学びを深めていく力をつけることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

各教員のテストまたはレポート33点（総括責任者34点）×3（人）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

多くの世界遺産に関する書籍や資料、DVD等がある。それらを読むとともに、新聞記事やネット等から最新の情報に接すること。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業中以外でも授業の前や授業後に「世界遺産」に関する情報や知識、新聞記事について、メモに記録する。必ず、前回の授業内容を整理しポイントや重要事項を復習ノートに記載しておくこと。予習復習の時間は各2時間を目安とします。加えて、常日頃からTVニュースや番組、ネットなどで最新の世界遺産の動向や情報について、入手するように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、概ね2時間とする。

■その他

進行その他詳細は、各担当教員の判断により実情に即して対応する。

科目名	観光産業と起業
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

現代観光産業は大きく分けて宿泊・運輸・旅行代理業を中心として発展してきた。その歴史はまだ浅いことから、参入障壁は比較的に低いと言われているが、特に我が国では新たな参入が少ない。観光産業における起業が増え、周辺ビジネスが充実すればそれだけ観光体験も充実し、観光地域にとってメリットも多いことが予想される。

この講義では、起業に向けた課題と可能性を中心に概観し、特に北海道のような地方での起業について考える機会とし、自身で立ち上げのプランに落とし込めることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式での授業ですが、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れます。テキストだけでなく、教員からの補足資料、視聴覚教材などを使用し、理解力を高めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

確認テストやレポートに対するフィードバックは、授業内で実施する。

■授業計画

- 1回目：観光業界と起業家精神の導入
- 2回目：観光業界の概要と成長のトレンド
- 3回目：観光産業におけるマーケティングの重要性と戦略
- 4回目：観光産業における消費者の行動とニーズの理解
- 5回目：起業家に求められるビジネスアイデアの創出方法
- 6回目：市場調査と競合分析の手法
- 7回目：ビジネスモデルの作成方法と収益性の確保
- 8回目：起業家に必要なリーダーシップと組織の構築
- 9回目：観光産業におけるサービス品質の向上と顧客満足度の獲得
- 10回目：起業家に必要な資金調達とビジネスプランの作成
- 11回目：起業家に必要な法務知識と契約書の作成
- 12回目：デジタルマーケティングの戦略と活用方法
- 13回目：インバウンド・アウトバウンド・ドムエスティックの観光市場分析
- 14回目：起業家のための事業拡大戦略とグローバル展開
- 15回目：観光業界の課題と解決策、そして今後の展望

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光産業の現状を理解し、起業を前提とした観光産業の未来を描くことが出来る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
ビジネスプラン等の作成40%
テスト30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「観光ガイド事業入門：立ち上げ、経営から「まちづくり」まで」学芸出版社

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

各回のテーマについて新聞をはじめとする報道に関心を持ち、自ら調べて講義に参加することを期待する。予習・復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とするが、常に疑問を持ち探究しようとする学習態度を心がけること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、概ねそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	有澤 恒夫

■講義の目的および概要

私たちは変化の激しい時代を生きています。コロナ禍は変化のスピードを否応なく加速しました。学生の皆さんが職業や働くことを考えるにあたり、変化はもはや前提条件です。変化の時代をバイタリティを持って生きるには、二つのことが大切です。それは、「強みを築く」と「変化に対するマインドセット」です。春学期（基礎）は、皆誰でも持っている才能を自覚し、才能を育み「強みとして築く」ための考え方、行動のあり方を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

担当教員は、企業で人材開発・教育を担当してきた実務家教員です。この演習では、自分の才能を自覚し強みとして築くための方法を理解するために次の通り進めます。

1. 一人ひとりが自分の「才能」を明らかにすることから始める。簡単なワークを体験しながら自己認識を深める。
2. それを踏まえて、「目的の力」が私たちにどんなことをもたらしてくれるのかを、実在人物の事例（DVD等の視覚教材視聴）をとおして学ぶ。
3. 学んだことを実践する第一歩としてまとめ・発表する。

【課題に対するフィードバックの方法】

オフィスアワーや授業後の対話、メールによるフィードバック

■授業計画

1. はじめに
2. 才能と強み
3. 才能の理解と発見①
4. 才能の理解と発見②
5. 才能の理解と発見③
6. 発表①
7. 発表②
8. 目的の力①
9. 目的の力②
10. 目的の力③
11. 発表③
12. 発表④
13. 価値観と環境
14. ビジョン
15. キャリアバイタリティ 授業内試験

注：授業計画は変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 自分の才能を確認し、強みとして築くための考え方、行動の仕方を理解する。
2. 変化の時代をバイタリティを持って、自分らしく生きていくための準備ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発言・ディスカッション等授業への参画（50%）、発表の評価（20%）、レポート（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「さあ、才能に目覚めよう」トム・ラス著 日本経済新聞社

【参考文献】

授業で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
事前配布資料とレジュメ、参考図書による学習

【必要な時間】
毎回予習は2時間・復習は2時間程度

■その他

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

「観光」というコトバから想起されるイメージは、主に形のあるモノであったり風景であったりする場合が多いのではないのでしょうか。実は、観光資源には「音・音楽」といった”消えモノ”も含まれるのです。例えば、その場所へ行かないと聞くことができない音、ある期間しか聞くことができない音楽などがそれに該当します。このような音・音楽と観光との結びつきを音風景（サウンドスケープ）やサウンド&ミュージック・ツーリズムという概念から捉え、新しい時代の観光プランの創発を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回のテーマに沿って対話するゼミナール形式で実施します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくことを実践的に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。「基礎」（春学期）から学生が主体となって進めていくゼミナール形式を中心に、実践的な場面を想定した支援を行います。

■授業計画

①イニシャルトーク

『目に見えないモノを観光資源にする』（一部YouTube使用）

【Season1】音・音楽という概念を広げる

②音・音楽を語る切り口

マリー・シェーファーの「音風景」や、いわゆるASMR（Autonomous Sensory Meridian Response）含む思い出のあの歌あの音あの風景を語り合う

③スマホを持って街へ出かけよう（※1）

心地良い音やそれに付随する風景の収録またはネット検索

④音・音楽を演奏、記録再生する装置の今

“ハコモノ”（本学シアター）、バイノーラル・マイク収録による立体音源の試聴、音の可視化（スペクトルアナライザ）や触覚化の体験、VOCALOIDの今昔物語など

⑤Season1のまとめ

学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season2】サウンド&ミュージック・ツーリズムの事例を知る

⑥リンツ（オーストリア）で開催されたサウンド・クラウドという屋外イベント

究極の二次創作！富田勲のシンセサイザー作品（1984年）をライン川の河辺で演奏

⑦CASH BOX（神戸）というライブハウスを中心に育つ音楽コロニー

⑧菓子店か？音楽ホールか？ 六花亭の小田豊さんの考え（帯広・中札内・札幌※1）

⑨いわみざわJOIN ALIVE：NPO法人という立ち位置（※1）

⑩アルテ・ピアッツァ美唄：木造校舎がリノベーションでアート空間に（※1）

⑪Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season3】サウンド&ミュージック・ツーリズムの事例検討（※2）

⑫学生が集めた事例発表と検討会その1

⑬学生が集めた事例発表と検討会その2

⑭学生が集めた事例発表と検討会その3

⑮Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価

※1：実際に現地に行ける場合は、授業時間内外でフィールドワークとして実施する場合があります。原則として大学のバスを使用します。

※2：情報収集に便利なツール（アプリ）やサイトも合わせて紹介します。事例発表の媒体は紙、パワポ、動画何でも構いません。大切なのは相手に伝わることです。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ミュージック・ツーリズムについて、自分なりの考えを示すことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP4) 多様性の理解と協働する力

(DP5) 能動的に学び続ける力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A:各回の最後のコメントシート（①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭）12回×5点＝60点
評価の観点：理解度について評価する。
- B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season1：10点、Season2：10点、Season3：10点 合計30点
評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C:⑫⑬⑭の発表とピアレビュー：10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『凡人のための地域再生入門』ISBN978-4478103906

■授業外学習

◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修：授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

◆授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。

◆グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習ではわが国の主要な空港におけるこれまでのアクセス整備や新幹線等他交通機関と航空との競争の経緯や現状について詳細に分析し、将来の空港アクセスと理想の交通分担の絵姿を追求していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

全国の空港アクセス整備の経緯と現状について考察し、時代の移り変わりとともに変化する他交通機関との競合の視点も取り入れつつ、それぞれの交通の役割分担について、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から分析・研究を行っていく。中間および最後に研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①ガイダンス メンバー紹介&ゼミの進め方について
- ②空港アクセス整備の経緯と現状1 (全体)
- ③空港アクセス整備の経緯と現状2 (羽田空港)
- ④空港アクセス整備の経緯と現状3 (成田空港)
- ⑤空港アクセス整備の経緯と現状4 (伊丹空港、関西空港、神戸空港)
- ⑥空港アクセス整備の経緯と現状5 (福岡空港、中部空港、那覇空港)
- ⑦空港アクセス整備の経緯と現状6 (仙台空港、宮崎空港、その他)
- ⑧空港アクセス整備の経緯と現状7 (海外空港)
- ⑨中間発表会
- ⑩都市間移動における航空と他交通機関との競合の経緯と現状1
- ⑪都市間移動における航空と他交通機関との競合の経緯と現状2
- ⑫都市間移動における航空と他交通機関との競合の経緯と現状2
- ⑬最終発表会に向けたワーク
- ⑭最終発表会
- ⑮秋学期に向けての打ち合わせ

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

空港アクセスにおいて各交通機関が持っているそれぞれの役割やポテンシャルについて分析し、今後更に各交通機関が役割を果たしていく為の施策について、独自の発想と視点を持って論理的に自論として説明でき

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 30%
発表会の内容 (中間および最終) 50%
課題・レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

- ①進む航空と鉄道のコラボ 杉浦 一機 800円 (税別)

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

春学期演習「ホテル・マネジメントゼミ」は、将来マネジメントの観点からホテルの構造を見れる人材になることを目的としています。
 ホテル・マネジメントとは、①収益管理能力 ②企画力 ③課題解決力 ④管理運営力 ⑤専門知識 の5つの専門能力に対し、本演習では「作業監督者（係長、主任、リーダー等）」にあたる3級ホテル・マネジメント技能士の能力を有する人材を養成していきます。現在の宿泊業界ではサービス実務知識だけではなく、経営数値の理解や分析など管理能力を有する人材が求められています、ホテル・マネジメント技能国家検定試験は毎年9月学科試験、12月実技試験が実施されるのに合わせ、就職活動が始まる3年から4年次で採用に有益な資格取得を目指します。

※ゼミ生は春学期に開講される「ホテル経営概論」講義を基礎知識の幅を広げるために履修することを勧めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・基本的に講義形式で行いますが、グループワークやフィールドワーク（視察研究）も取り入れ能動的な演習を目指します。
 また、宿泊産業界で長く経営・運営・開発業務で研鑽を積んだ教員が担当し、ホテル旅館でのインターンシップ参加前に最低限必要な「基本的なマナー・礼儀・身だしなみ・言葉遣い」等の基礎的のレクチャーもおこないます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内またはメール返信、掲示板コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

マネジメント技能検定問題は、主に◆5つの大項目範囲で出題されていきます。学習と同時に検定対策のドリルをおこないます。

- ① 演習ガイダンス : 演習内容説明、授業の進め方、成績評価
- ◆ 経営戦略・経営管理
- ② マネジメント概論 : 宿泊産業動向、種類、経営形態、所有形態
- ③ 経営戦略、経営管理 : 経営戦略の体系、経営KPI
- ◆ 会計概論、財務会計・管理会計
- ④ 会計概論 : 簿記に関する知識、ホテル会計に関する知識
- ⑤ 財務会計 : 貸借対照表、損益計算書
- ⑥ 管理会計・予算管理 : 主要業績指標（KPI）
- ⑦ 模擬テスト（過去問による模擬テスト）
- ◆ サービス管理
- ⑧ サービス品質管理、顧客ロイヤリティ
- ◆ 業務運営管理
- ⑨ 業務管理、リスク管理、法規と法務
- ◆ 組織・人材マネジメント
- ⑩ 組織とマネジメント : 組織機能、環境対策活動、地域社会貢献活動
- ⑪ 人的資源管理、リーダーシップ : 人材育成、労務管理、コミュニケーション
- ⑫ フィールドワーク（ホテル旅館視察・調査1）
- ⑬ フィールドワーク（ホテル旅館視察・調査2）
- ⑭ 春学期評価課題レポート : ホテル旅館 視察・調査レポート
- ⑮ まとめ : ホテル・マネジメントについて総括

※授業の順番や内容を変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 宿泊ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② 施設の所有・経営・運営に必要なとされる専門知識を習得する
- ③ ホテル・マネジメント技能 3級知識を習得する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 2つの評価項目総合点（100点満点）により単位認定を行う
- ・ 授業態度・フィールドワーク参加度・積極性 : 配分60%（60点）
 - ・ 春学期評価課題レポート : 配分40%（40点）

■テキスト・参考文献

- 【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】
- ・ 必要に応じ適宜お知らせします。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 観光に関する情報、ニュースに常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。

- ・ 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・ 宿泊施設を対象に、フィールドワークを行います。
- ・ 交通費、食事代等の費用が一人3,000円/毎程度必要になります。
- ・ 訪問施設の状況により土・日の実施がありえるのでアルバイト等の日程調整は必須。
- ・ FW実施日に他の履修講義に遅刻や欠席となる場合は事前にお知らせください。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

ニセコ地区の観光について研究
世界的な成長をみせているニセコ地区（ひらふ、東山、アンヌプリ）を主要な研究対象と定め、それぞれの成立過程と要因、発展、現状について考察します。
また、ニセコガイド検定を用いて、ニセコ地区の基礎的な自然・施設、温泉などの知識を習得します。これらを通じて、ニセコ観光の動向について深く理解し、研究をすすめます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学習…課題は各自積極的に取り組み、他の学生により影響を与えること。
考察…ニセコ各地域の特徴を踏まえ、独自の視点をもてるよう深く考察すること。
フィールドワーク…ニセコ高校と連携し、高校生に模範となるよう研鑽を積むこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィードバックは授業内で行います。

■授業計画

I ニセコに関する基本的知識習得（ニセコガイド検定）

- ①ニセコの自然1
- ②ニセコの自然2
- ③ニセコの地域
- ④ニセコの施設、温泉

II ニセコ地域別考察・グループ別研究分析

- ⑤ニセコひらふ地区
- ⑥ニセコ東山地区
- ⑦ニセコアンヌプリ地区

III フィールドワーク

- ⑧フィールドワーク1（事前準備）ニセコ高校訪問準備
- ⑨フィールドワーク2 ひらふ地区
- ⑩フィールドワーク3 東山地区
- ⑪フィールドワーク4 アンヌプリ地区
- ⑫フィールドワーク5 倶知安町、ニセコ町の観光振興

IV 研究のまとめ

- ⑬研究のまとめと考察
- ⑭発表
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ニセコ観光をつうじて、観光の基本的知識を身につけ、フィールドワークを通じて地域振興について考察することができたか。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 《DP1》専門知識・技能を活用する力
- 《DP4》多様性の理解と協働する力
- 《DP5》能動的に学び続ける力
- 《DP6》社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①ニセコガイド検定試験 20%
- ②地域別考察 40%
- ③研究のまとめと発表 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「ぐるっと羊蹄まちしるべ」（非売品）ニセコガイド検定試験問題 … 教員より提供

【参考文献】

別途指示します。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】
ゼミは自主的な研究と期日を守ってレジュメをまとめ発表することが必須です。
ゼミに所属する自覚と役割分担を責任をもって果たすことが求められます。

【必要な時間】
事前事後（特に事前）それぞれ2時間

■その他

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

ホテル業界の中の、ブライダルマーケットの研究およびブライダルの基礎的な知識として、挙式・披露宴・衣裳・慣習・マナーなどについて幅広く学習します。ウェディング・プランナーやホテルエに興味のある学生には基礎学習になります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ウェディング・プランナーやホテルエとして実務経験豊富な教員が、ブライダルについて判りやすい講義形式で進めます。実際の結婚式や披露宴のVTRを見て学ぶことが出来ます。

毎回テーマを与え、ディスカッションを行い能動的な授業を目指します。

また、フィールドワークにより、ホテルのチャペルや披露宴会場を視察し、学習の理解度を深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で実例を豊富にあげ、判り易く解説します。

■授業計画

概ね、下記の通り進めます。

- ①ガイダンス
- ②ブライダルマーケットと結婚式のスケジュール
- ③挙式
- ④熨斗、水引、六輝
- ⑤会費制と招待制
- ⑥結納
- ⑦料理、小テスト
- ⑧衣裳
- ⑨披露宴 (1)
- ⑩披露宴 (2)
- ⑪ゲストとしての心構えとマナー、小テスト
- ⑫フィールドワーク 札幌市内ホテル視察
- ⑬フィールドワーク 札幌市内ホテル視察
- ⑭約款
- ⑮授業内試験 春学期まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ウェディング・プランナーやホテルエとして必要なブライダルに関する基礎知識を習得し、ブライダルビジネスを行う上で必要な事項を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

小テスト2回30%、授業内試験50%、レポート20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は用いず、配布するプリントを用います。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

SNSやニュースなどでブライダルの話題に興味・関心を持つ。

毎回の授業でプリントを配布しますので、授業後、重要なポイントは復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習、復習時間としてそれぞれ2時間程度。

■その他

フィールドワーク時の交通費、ホテルでの昼食（テーブルマナー）代として合計
3,000円～5,000円程度の費用が掛かります。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「韓国」というテーマを大きな軸として「異文化コミュニケーション」及び「国際観光」についてみなさんと一緒に研究・発表・討論などを行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice : 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 研究テーマ設定に際するミーティング, 概説
- ③ 国際観光探求1
- ④ 国際観光探求2
- ⑤ 国際観光探求3
- ⑥ 研究テーマ設定中間発表
- ⑦ 国際観光探求4
- ⑧ 国際観光探求5
- ⑨ 研究テーマの設定および研究計画報告
- ⑩ グループワーク1
- ⑪ グループワーク2
- ⑫ グループワーク3
- ⑬ プレゼンテーション1
- ⑭ プレゼンテーション2
- ⑮ プレゼンテーション3

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は使いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初級以上の韓国語能力を要します。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの基礎編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーション発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ1：ワインツーリズムによる地域振興
 - ③ ケーススタディ1：募集ツアーの企画造成、販売促進
 - ④ フィールドワーク1：ワイナリーボランティア活動と地域課題調査
 - ⑤ ケーススタディ2：インバウンド向けNPSアップの検証
 - ⑥ ケーススタディ2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ3：SNSを活用したツアーの販売促進
 - ⑨ ケーススタディ3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？
 - ⑫ ケーススタディ4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 中間発表、講評、
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・グループワークから、実社会で使える共同作業する能力やコミュニケーション能力の習得
- ・プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力、
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・授業レポート提出内容：30%
- ・フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・プレゼンテーション（個別研究発表、中間成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

- ・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。そこで日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光系ベンチャー事業者のケーススタディをフィールドワークなどを通して起業の基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型のアクティブラーニングとする。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②起業、起業家、アントレプレナーシップとは
- ③日本の起業家・起業活動の実態
- ④アメリカの起業家・起業活動の実態
- ⑤中国の起業家・起業活動の実態
- ⑥ケーススタディ (1)
- ⑦ケーススタディ (2)
- ⑧ケーススタディ (3)
- ⑨事業計画作成 (1)
- ⑩事業計画作成 (2)
- ⑪事業計画作成 (3)
- ⑫事業計画作成 (4)
- ⑬事業計画発表
- ⑭グループ討議
- ⑮ふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
フィールドワークへの関与40%
授業内試験30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて配布・指示する

■授業外学習

【具体的な内容】

事業化が現実的なものは、外部講師等と連携をして実際に立ち上げて行くことも視野に入れる。各自のキャリアの一環として真剣に取り組むこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間目安とします。

■その他

北海道内観光地におけるフィールドワークを行う（休み期間中を予定）。宿泊・保険等は共同研究先の予算で賄う予定だが2万円程度を準備のこと。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

北海道や日本にいる私たちが外国を訪れて、または外国人が北海道や日本を訪れて、自国と異なる文化や歴史、自然環境、衣食住などを知り、学ぶことができる観光は、国際交流を通じた異文化理解さらには国際平和につながる貴重なツールです。世界各地で抱えている環境問題や経済・社会・政治的な諸問題に、観光分野が活躍できる場は大いにあります。本演習では「北海道から発信する観光と国際協力」をテーマに、グローバルな思考力と社会貢献に活かせる実践力を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査、レジュメの作成・発表、ディスカッションを行います。また、グループワークやペアワークを通じて、学生自身によるテーマ設定、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回提出してもらった授業レポートを添削し、各学生に返却します。また授業内で学生全員にも内容を共有し、コメントと解説を行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②観光と国際協力・国際平和
- ③世界の観光地における諸問題1 (途上国)
- ④世界の観光地における諸問題2 (新興国)
- ⑤世界の観光地における諸問題3 (先進国)
- ⑥観光と国際協力に関する日本の取り組み
- ⑦観光と国際協力に関する北海道の取り組み
- ⑧中間まとめ
- ⑨グループワーク1: 個別テーマ設定、研究計画
- ⑩グループワーク2: 情報収集、文献資料調査
- ⑪フィールドワーク
- ⑫グループワーク3: 調査結果の分析・整理
- ⑬グループワーク4: 発表準備
- ⑭発表会
- ⑮最終まとめ

※以上の構成で進める予定ですが、履修者の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光を取り巻く国際的な諸問題についての幅広い知識を習得し、自身の意見も含めて口頭や文章で説明することができる。
- ・観光と国際協力に関する世界各国・地域の事例から現状と課題を理解し、自身の考えを提案することができる。
- ・グループワークに積極的に取り組み、共同作業する能力やコミュニケーション能力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業レポート: 30%
発表資料・プレゼンテーション: 40%
フィールドワーク: 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します。

【参考文献】

- 島川崇『新しい時代の観光学概論ー持続可能な観光振興を目指して』ミネルヴァ書房, 2020年.
Martha Honey (高梨洋一郎・真板昭夫監修)『エコツーリズムと持続可能な開発』くんぷる, 2016年.
山下晋司編『観光学キーワード』有斐閣, 2011年.

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習としては、文献資料の収集・熟読と、発表資料の作成およびプレゼンテーションに向けた準備作業を行います。事後学習としては、授業外の時間を使ってグループワークやペアワークに取り組み、調査した内容の整理とまとめの作業を行います。また学内外で実施するフィールドワークやボランティア活動にも参加します。

【必要な時間】

事前・事後学習ともに2時間を目安とします。

■その他

本演習では、世界の諸問題は決して他人事ではなく、日本または自分自身と無関係ではないという考え方・基本姿勢が必要です。個人の知識やスキルの向上だけでなく、集団（＝ゼミ）の一員として互いに学び合い・協力し合うチームワークの構築も目指します。

フィールドワークやボランティア活動にかかる交通費は原則自費ですが、一部補助の場合もあります。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地地図製作とそこから観光空間分析を地理学的に行う。
4年生で行う卒業論文制作に必要な基本を習得することが目的である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

小樽を調査対象とし、日帰りでのフィールドワークを中心とした授業が行われる。街中を地図片手に歩くことを春学期は2度実施する予定である。
それに必要な講義が前後に行われる。調査後の分析活動も学生が中心に実施する。時間があればGIS操作も行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

地図製作作業の中でその課題を少しずつ見つけ出す。完成に近づけていく中で調査した観光地の地理的特徴と問題点を知り、それを各地の観光状況に重ね合わせて考えて、議論に活かす。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②フィールドワーク準備1 (小樽学習:「旅するパズル」作成)
- ③フィールドワーク準備2 (小樽学習)
- ④フィールドワーク準備3 (小樽学習)
- ⑤フィールドワーク1
- ⑥フィールドワーク2
- ⑦地図製作
- ⑧データ分析1
- ⑨データ分析2
- ⑩フィールドワークにむけて
- ⑪フィールドワーク1
- ⑫フィールドワーク2
- ⑬フィールドワーク3
- ⑭地図製作①
- ⑮研究のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①精密な現地調査ができる。
- ②協力して現地調査ができる。
- ③協力して地図製作することができる。
- ④地図やデータから分析することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|----------------------|-----|
| ①現地調査(フィールドワーク)の精度 | 20% |
| ②現地調査(フィールドワーク)の協働状況 | 20% |
| ③地図製作状況 | 30% |
| ④データ分析・発表討論の状況 | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。必要な資料を配布予定。

【参考文献】

特になし。

■授業外学習

【具体的な内容】

事後として、現地調査後のデータ整理など、まとめる活動が必要となる。

【必要な時間】

分析作業・整理の時間に数時間は必要となる。

ゼミ長中心の作業となる。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークは2時間以上歩くことがあるため、自信がない場合は、履修に不向きである。

4年生でのゼミまで継続履修することになる。観光地理学の卒業論文を書く意欲を持っている者が履修すること。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	田村 こずえ

■講義の目的および概要

本演習では、「住んでよし訪れてよし」の地域の創造を目指し、ユニバーサルな対応や実践的な学びや地域社会の歴史や文化、現状から課題発見をして、解決へのアプローチ方法に関しての基礎を学修していきます。また、各自が問題意識を持ちながら、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行い、協働しながら主体的に取り組む姿勢を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査だけではなく、フィールドワークや実習等を行い地域の現状を把握して、地域の課題を理解するようなアクティブラーニングとする。また、グループワークや学生との討論を重視して講義を進めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対して、講義の中でフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②観光と地域の基礎 (1)
- ③観光と地域の基礎 (2)
- ④観光と地域の事例 (1)
- ⑤観光と地域の事例 (2)
- ⑥観光と福祉：ユニバーサル対応 (1)
- ⑦観光と福祉：ユニバーサル対応 (2)
- ⑧観光と福祉の実践 (1)
- ⑨観光と福祉の実践 (2)
- ⑩地域社会：持続可能な観光 (1)
- ⑪地域社会：持続可能な観光 (2)
- ⑫地域社会の事例 (1)
- ⑬地域社会の事例 (2)
- ⑭地域社会の見方 (1)
- ⑮地域社会の見方 (2)
- ⑯まとめ 総括

※以上の構成で進める予定ですが、受講生の人数やフィールドワーク等の諸事情により変更になる場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

地域社会の歴史や文化、現状から課題を発見する基礎的な能力を修得します。地域社会に関して関心を持ち、フィールドワーク等を通じて主体的に取り組む姿勢や地域社会へ寄与する姿勢を身に付けます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

課題レポート：40%
 ディスカッション・発表：30%
 最終課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します
 必要に応じてテキストや文献を紹介します

【参考文献】

必要に応じて参考文献を紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・地域社会に関心を持ち、常日頃からニュース・新聞・文献・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集するように心掛けてください。
- ・地域の事前・事後調査や配布した資料を読み、講義の内容の理解に務める。
- ・演習の課題や発表資料作成及び準備等を行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・救命救急に関する受講を予定しています。
- ・フィールドワークや実習等の費用は、基本的に自己負担ですが、一部助成があります。

科目名	3年演習(基礎)[秋学期]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

「観光」というコトバから想起されるイメージは、主に形のあるモノであったり風景であったりする場合が多いのではないのでしょうか。実は、観光資源には「音・音楽」といった”消えモノ”も含まれるのです。例えば、その場所へ行かないと聞くことができない音、ある期間しか聞くことができない音楽などがそれに該当します。このような音・音楽と観光との結びつきを音風景（サウンドスケープ）やサウンド&ミュージック・ツーリズムという概念から捉え、新しい時代の観光プランの創発を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回のテーマに沿って対話するゼミナール形式で実施します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくことを実践的に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。「基礎」（春学期）から学生が主体となって進めていくゼミナール形式を中心に、実践的な場面を想定した支援を行います。

■授業計画

①イニシャルトーク

『目に見えないモノを観光資源にする』（一部YouTube使用）

【Season1】音・音楽という概念を広げる

②音・音楽を語る切り口

マリー・シェーファーの「音風景」や、いわゆるASMR（Autonomous Sensory Meridian Response）含む思い出のあの歌あの音あの風景を語り合う

③スマホを持って街へ出かけよう（※1）

心地良い音やそれに付随する風景の収録またはネット検索

④音・音楽を演奏、記録再生する装置の今

“ハコモノ”（本学シアター）、バイノーラル・マイク収録による立体音源の試聴、音の可視化（スペクトルアナライザ）や触覚化の体験、VOCALOIDの今昔物語など

⑤Season1のまとめ

学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season2】サウンド&ミュージック・ツーリズムの事例を知る

⑥リンツ（オーストリア）で開催されたサウンド・クラウドという屋外イベント

究極の二次創作！富田勲のシンセサイザー作品（1984年）をライン川の河辺で演奏

⑦CASH BOX（神戸）というライブハウスを中心に育つ音楽コロニー

⑧菓子店か？音楽ホールか？ 六花亭の小田豊さんの考え（帯広・中札内・札幌※1）

⑨いわみざわJOIN ALIVE：NPO法人という立ち位置（※1）

⑩アルテ・ピアッツァ美唄：木造校舎がリノベーションでアート空間に（※1）

⑪Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season3】サウンド&ミュージック・ツーリズムの事例検討（※2）

⑫学生が集めた事例発表と検討会その1

⑬学生が集めた事例発表と検討会その2

⑭学生が集めた事例発表と検討会その3

⑮Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価

※1：実際に現地に行ける場合は、授業時間内外でフィールドワークとして実施する場合があります。原則として大学のバスを使用します。

※2：情報収集に便利なツール（アプリ）やサイトも合わせて紹介します。事例発表の媒体は紙、パワポ、動画何でも構いません。大切なのは相手に伝わることです。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ミュージック・ツーリズムについて、自分なりの考えを示すことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A:各回の最後のコメントシート (①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭) 12回×5点=60点 2023 (令和5)年4月1日
評価の観点: 理解度について評価する。
- B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season1: 10点、Season2: 10点、Season3: 10点 合計30点
評価の観点: 自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C:⑫⑬⑭の発表とピアレビュー: 10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ(通称:ネタ帳)として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『凡人のための地域再生入門』ISBN978-4478103906

■授業外学習

◇事前学修: 授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修: 授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

◆授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。

◆グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	有澤 恒夫

■講義の目的および概要

観光業は、人材（人的資本）の質が決定的に重要な産業です。将来、観光ビジネス（企業、NPO、公的機関等）で活躍する人材は、優れたマネジメントのあり方を学び、組織とそこで働く人々が成果をあげるために、何を考え行動しなければならないかを理解しておく必要があります。秋学期のテーマは、「ドラッカーに学ぶ生きたマネジメント」です。マネジメントを身近にわかり易く学ぶために、「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」（岩崎夏海著）をテキストに使用します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを読み進めながら、ストーリーの進行ごとに登場するマネジメントに関する重要テーマを取りあげて、その意味と目的について学びます。受講者自身の過去の経験をもとにした対話やディスカッションも重視し、活用できる生きた知識としてマネジメントを理解します。

担当教員は、企業で人事管理とマネジメントを長く経験した実務家教員です。

【課題に対するフィードバックの方法】

オフィスアワーや授業後の対話、メールによるフィードバック

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②マネジメントとは
- ③顧客は誰か
- ④マーケティング
- ⑤専門家
- ⑥強みを生かす
- ⑦仕事の生産性
- ⑧目標による管理
- ⑨イノベーション
- ⑩トップ・マネジメント
- ⑪リーダーシップ
- ⑫人事システム
- ⑬経営戦略／経営管理
- ⑭真摯さ／社会貢献
- ⑮仕事の哲学

注：授業計画は変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 優れたマネジメント（経営）は仕事の生産性を高め、組織とそこで働く人々に成果をもたらすということが理解できる。
2. 組織とそこで働く人々が成果を上げるためには、具体的に何を考え行動しなければならないかを理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発言・ディスカッション等授業への参画（60％）、レポート（40％）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」岩崎夏海著。ダイヤモンド社

【参考文献】

「マネジメント【エッセンシャル版】」P.Fドラッカー著 ダイヤモンド社【テキスト】

■授業外学習

【具体的な内容】
事前配布資料とレジュメ、参考図書による学習

【必要な時間】
予習と復習各2時間程度

■その他

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

春学期に理解を深めた音・音楽と観光との結びつきを音風景（サウンドスケープ）やサウンド&ミュージック・ツーリズムという視点から捉え直し、ミニマム・コミュニティにおける観光プランの創発を立案します。仮想的に収益を上げることを想定したプランを立て、サウンド&ミュージック・ツーリズムのPDCAサイクルの回し方、及び今日的課題を体験的に学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式のPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）で実施します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくことを実践的に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。「応用」（秋学期）は学生が主体となって進めていくゼミナール形式の基盤づくりに対するフィードバックを中心に、実践的な場面を想定した支援を行います。

■授業計画

【Season4】サウンド&ミュージック・ツーリズム企画の基本

- ①基調対談：サウンド&ミュージック・ツーリズムとは何だろうか（一部YouTube）
- ②グループ・ワーク第1回：音・音楽を商品化するために必要なこと
- ③グループ・ワーク第2回：観光商品化のキャッシュフロー
- ④グループ・ワーク第3回：ローンチ（launch）・カスタマーの獲得と回帰客の創出
- ⑤発表：グループワークのまとめを発表する（※1）

【Season5】グループ・ワークによるプランニング

- ⑥グループ・ワーク第1回：収益化できる観光商品を企画する
サウンド&ミュージック・ツーリズムで収益化が見込める観光商品を企画する。単にアイデアを出し合うだけでなく、必要な経費についても試算する。
- ⑦グループ・ワーク第2回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑧グループ・ワーク第3回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑨グループ・ワーク第4回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑩発表：企画した観光商品を発表する（※2）

【Final Season】仮想実践で顧客の反応を確かめる

- ⑪グループ・ワーク第1回：YouTuberからのメッセージとSeason5の企画の修正
- ⑫グループ・ワーク第2回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成（※3）
- ⑬グループ・ワーク第3回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
- ⑭グループ・ワーク第4回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
- ⑮まとめ：YouTube動画へのダイレクトコメントの紹介、PDCAやルーブリックといった評価方法の紹介、授業評価

※1：発表の媒体は、紙媒体（レジュメ）、パワーポイント（スライドショー）、YouTube（動画）などが想定されるがどれを採用するかは各グループの自由とします。

※2：発表した内容については相互評価（ピア・レビュー）を行います。

※3：作成した動画は河本洋一研究室のWebサイトで公開し、学外から投票やコメントを聴取し、実現の可能性について検証するための情報を得ます。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

グループ・ワークで学生同士の意見交流を図りながら、一人一つのサウンド&ミュージック・ツーリズムの仮想的商品を開発することを目指します。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力課題
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A:各回の最後のコメントシート(①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭) 12回×5点=60点 2023(令和5)年4月1日
評価の観点:グループ・ワークへの貢献度を評価する。
- B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season4:10点、Season5:10点、Final Season:10点 合計30点
評価の観点:自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C:ラーニング・アーカイブ(ネタ帳):10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ(通称:ネタ帳)として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『凡人のための地域再生入門』ISBN978-4478103906

■授業外学習

【具体的な内容】

◇事前学修:授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修:授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

◆授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。

◆グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習では道内最大規模を誇る新千歳空港におけるこれまでのアクセス整備の経緯と現状について、各交通機関別に詳細に分析し、将来の空港アクセスと理想とする各交通の果たす絵姿について追求していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

主には新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状について考察し、航空と他交通機関とのこれまでの共存関係を確認していく。そして北海道新幹線の札幌延伸が航空に及ぼす影響等も含めた航空の将来展望についての考察に向け、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から分析・研究を行っていく。最後に研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①演習（基礎）の振り返り、今後の進め方
- ②新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状1（全体確認）
- ③フィールドワーク1（新千歳空港）
- ④フィールドワーク2（新千歳空港）
- ⑤新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状2（JR）
- ⑥新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状3（乗合バス）
- ⑦新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状4（観光バス）
- ⑧新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状5（タクシー・レンタカー）
- ⑨新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状6（自家用車・新交通）
- ⑩道内各空港（新千歳空港以外）における空港アクセス整備の経緯と現状
- ⑪道内都市間移動における航空と他交通機関との役割分析
- ⑫新千歳空港における空港アクセスの将来展望（北海道新幹線札幌延伸の影響等）
- ⑬最終発表会に向けたワーク
- ⑭最終発表会
- ⑮最終発表会の振り返りと1年間の成果の確認

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

新千歳空港をはじめとした道内空港の特性を正確に理解し、それら空港アクセスの更なる向上に向けた事業者／利用者双方の目線に立った現実的な施策について、独自の発想と視点を持って論理的に自論として説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 30%
最終発表会の内容 50%
課題・レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

- ①進む航空と鉄道のコラボ 杉浦 一機 800円（税別）

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークの実施に伴い、交通費（新千歳空港予定）及び諸費用としてー2023（令和5）年4月1日
3,000円～5,000円程度必要となります。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

秋学期演習「ホテル・マネジメントゼミ」では、ホテルビジネスを体系的に理解し各々が思い描くホテルを考え、事業収支計画を立案することを目的とします。授業では札幌市内にホテル計画をすることを前提に授業を進めていきます。

※ゼミ生は秋学期に開講される「ホテル開発概論」を同時に履修してホテル事業開発の建設計画から開業までの開発プロセスを学び基礎知識の幅を広げることを勧めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、ディスカッションやグループワークを取り入れ、能動的な演習を目指します。本演習はホテルビジネスに重要な事業計画をグループワークにて様々な議論をおこない作成を進めます。シュミレートされた計画書をもとにグループでの成果発表をおこなう。

【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- ① 演習ガイダンス : 演習内容説明、授業の進め方、成績評価
- ② 立地調査分析 : 札幌市の地域評価(客層、交通ルート、宿泊目的、地域特性)
- ③ マーケット調査 : 位置条件、競合ホテル、需要と供給の推定、潜在需要
- ④ 仮定設定条件 : ホテル形態、立地エリア、客室規模、交通利便性
- ⑤ 施設規模の設定 : マーケット調査を基に規模を設定
⇒客室数、料飲業態、宴会場の有無、その他施設有無
- ⑥ 稼働見込の設定 : 客室稼働率、飲食業態別稼働、宴会場稼働、その他施設
組織・人員設定 : 各部門の組織、各部門人員計画
- ⑦ 採算性検討Ⅰ : 宿泊部門収入予想 (稼働率、単価、経費率、原価率…)
- ⑧ 採算性検討Ⅱ : 料飲部門収入予想 (機能構成、客席、平均単価、席回転)
- ⑨ 採算性検討Ⅲ : 宴会部門収入予想 (宴会、結婚披露宴、件数、単価、人数)
- ⑩ 採算性検討Ⅳ : 部門経費、人件費・固定費の検証、販管費・変動費
- ⑪ ディスカッション : 計画されたホテルがビジネスとして成立するか検証
- ⑫ ホテル事業計画作成 (パワーポイント作成)
- ⑬ ホテル事業計画発表 (パワーポイント作成)
- ⑭ 事業計画の発表 : グループプレゼン
- ⑮ まとめ : ホテル事業計画について総括、全体ディスカッション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① ホテルビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② 施設の所有・経営・運営に必要とされる専門知識を習得する
- ③ ホテルの事業計画についてプレゼン能力、収支計画の基礎知識を習得する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) : 専門知識・技能を活用する能力
 (DP4) : 多様性の理解と協働する力
 (DP5) : 能動的に学び続ける力
 (DP6) : 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

2つの評価項目総合点(100点満点)により単位認定をおこなう
 ・授業態度・グループワーク参加・積極性 : 配分40%(40点)
 ・成果物完成度、プレゼン参加 : 配分60%(60点)

■テキスト・参考文献

【テキスト・参考書】

- ・テキスト購入は必要ありません。
- ・必要に応じ資料を適宜配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

参考にするホテルへの訪問、利用、公式HP・OTA、旅行雑誌等の調査など
ホテル基本知識の習得に努める。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

・専門知識を養い将来ホテル・リゾート・旅館など宿泊業界で活躍する人材になって
くれることを期待しております。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

ニセコ地区の観光について研究
世界的な成長をみせているニセコ地区（ひらふ、東山、アンヌプリ）を主要な研究対象と定め、それぞれの成立過程と要因、発展、現状について考察します。
また、一部にとかち検定の問題作成を含めた「とかち」に関する研究もあわせて行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学習…課題は各自積極的に取り組み、他の学生により影響を与えること。
とかちに関する知識を身につけ、検定試験問題作成に取り組むこと。
考察…ニセコ各地域の特徴を踏まえ、独自の視点をもてるよう深く考察すること。
フィールドワーク…ニセコ高校と連携し、高校生に模範となるよう研鑽を積むこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィードバックは授業内で行います。

■授業計画

I とかち検定関する基本的知識習得と問題作成（とかち文化検定）

- ①とかちの自然・歴史
- ②とかちの産業・文化
- ③とかち検定問題作成
- ④とかち検定問題作成

II ニセコ地域別考察・グループ別研究分析

- ⑤じゃらん バックナンバー研究1
- ⑥じゃらん バックナンバー研究2
- ⑦じゃらん バックナンバー研究3

III フィールドワーク

- ⑧フィールドワーク1（事前準備）ニセコ高校訪問準備
- ⑨フィールドワーク2 企業訪問（ホテル、ワイナリーなど）
- ⑩フィールドワーク3 自治体訪問（ニセコ町ほか）
- ⑪フィールドワーク4 道の駅訪問（ニセコビュープラザ、倶知安町の駅ほか）
- ⑫フィールドワーク5 その他

IV 研究のまとめ

- ⑬研究のまとめと考察
- ⑭発表
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ニセコ観光をつうじて、観光の基本的知識を身につけ、フィールドワークを通じて地域振興について考察することができたか。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 《DP1》専門知識・技能を活用する力
- 《DP4》多様性の理解と協働する力
- 《DP5》能動的に学び続ける力
- 《DP6》社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①とかち検定試験 20%
- ②地域別考察 40%
- ③研究のまとめと発表 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「ぐるっと羊蹄まちしるべ」（非売品）ニセコガイド検定試験問題 … 教員より提供
「地域学とかち ガイドブック」…教員より提供
「じゃらん」バックナンバー

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

ゼミは自主的な研究と期日を守ってレジュメをまとめ発表することが必須です。
ゼミに所属する自覚と役割分担を責任をもって果たすことが求められます。

【必要な時間】

事前事後（特に事前）それぞれ2時間

■その他

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

ブライダルビジネスを体系的に理解するため、先ず実際のブライダル商品について学習します。その後、グループ毎に自由なテーマを掲げバーチャルで1件の披露宴をプランニングします。出来上がったプランをグループ毎にプレゼンテーションを行います。また、ホテル内でのブライダルの役割や宿泊部門、レストラン部門等との関連性についてフィールドワークを行い学習します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半はウェディング・プランナーやホテルエとして実務経験豊富な教員が、ブライダル商品について判りやすい講義形式で進めます。

その後、グループワークにより披露宴のプランニングを行って頂きます。プログラム、会場コーディネート、衣裳、ウェディングケーキ、ペーパーアイテム、使用するBGM等をまとめ、各グループ毎にプレゼンテーションを行って頂きます。また、ホテルでのフィールドワークにより、学習の理解度を深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で実例を豊富にあげ、判り易く解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②ブライダル商品 (1) 実例
- ③ブライダル商品 (2) ブレイクダウン
- ④ブライダルプロデュースの基礎知識 (1) 披露宴の意義とプログラム
- ⑤ブライダルプロデュースの基礎知識 (2) 披露宴VTR
- ⑥ブライダルプロデュースの基礎知識 (3) コーディネートと演出
- ⑦グループ毎にプランニング (1)
- ⑧グループ毎にプランニング (2)
- ⑨グループ毎にプランニング (3)
- ⑩グループ毎にプレゼンテーション
- ⑪プレゼンテーションの順位発表
- ⑫フィールドワーク 札幌市内ホテル視察
- ⑬フィールドワーク 札幌市内ホテル視察
- ⑭ホテルにおけるブライダルの役割と、宿泊部門、レストラン部門等との関連性、まとめ
- ⑮ゼミ全体発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

メンバー全員が課題を理解し、積極的にディスカッションと連携をしていく中で、1件の披露宴を創りあげることにより、披露宴の内容や意義などを説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

ホテル視察レポート20%、プランニングに関するレポート30%、グループ内での課題に対する取り組み意欲50%。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は用いず、配布するプリントを用います。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

SNSやニュースなどでブライダル話題に興味・関心を持つ。
毎回の授業でプリントを配布しますので、授業後、重要なポイントは復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習、復習時間としてそれぞれ2時間程度。

■その他

フィールドワーク時の交通費、ホテルでの昼食（テーブルマナー）代として合計3,000円～5,000円程度の費用が掛かります。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

観光地では「言語のバリア」がしばしば問題点として指摘されることがあります。たとえば、飲食店のメニューや案内表示などに表記されている外国語が機械翻訳の乱用によって正しく記載されていない、また、カメラ翻訳アプリを使用する際、使われている文字のフォントが特殊で読み取れないなど、多言語対応においてさまざまな問題を抱えています。特に食べ物の場合、アレルギー表示やイスラム圏の観光客のためのハラール食品に関する情報提示がされなかったりすると大きな問題になりかねません。

そこで本講義では「言語景観から考える北海道観光と多言語対応」をテーマに、異文化コミュニケーションを学びながら観光地における「言語のバリアフリー」を目指して観光地の外国語、特に韓国語表記を見直すための活動に取り組んでいきます。

また、関心のあるテーマにどのような課題があるか情報収集を行い、ゼミのメンバーと協力し合いながら発表・議論を行うことで専門性・協調性・自主性を育てていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせ実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice : 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 国際観光探求 (言語景観) 1
- ③ 国際観光探求 (言語景観) 2
- ④ 国際観光探求 (言語景観) 3
- ⑤ 国際観光探求 (言語景観) 4
- ⑥ 研究テーマ設定中間発表
- ⑦ 国際観光探求 (言語景観) 5
- ⑧ 国際観光探求 (言語景観) 6
- ⑨ グループワーク1
- ⑩ グループワーク2
- ⑪ プレゼンテーション1
- ⑫ プレゼンテーション2
- ⑬ 異文化体験
- ⑭ 成果発表の準備および予行演習
- ⑮ 3年演習成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりですが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特定の教科書は用いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】
必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】
前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初級以上の韓国語能力を要します。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの応用編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーションの発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ1：ワインツーリズムによる地域振興（後編）
 - ③ フィールドワーク1：ワイナリーボランティアツアー参加
 - ④ フィールドワーク1：ワイナリーボランティアツアー参加
 - ⑤ ケーススタディ2：インバウンド向けNPSアップの検証（後編）
 - ⑥ ケーススタディ2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ3：SNSを活用したツアーの販売促進（後編）
 - ⑨ ケーススタディ3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？（後編）
 - ⑫ ケーススタディ4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 最終成果発表
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・グループワークから、実社会で使える共同作業する能力やコミュニケーション能力の習得
- ・プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力、
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

- ・授業レポート提出内容：30%
- ・フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・プレゼンテーション（個別研究発表、最終成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

- 【テキスト】
- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。
- 【参考文献】
- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

- ・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。そこで日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光系ベンチャー事業者のケーススタディをフィールドワークを通して起業の基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型・アクティブラーニング授業とする。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②グループディスカッション事業計画書ブラッシュアップ1
- ③グループディスカッション事業計画書ブラッシュアップ2
- ④グループディスカッション経営計画1
- ⑤グループディスカッション経営計画2
- ⑥グループディスカッション財務戦略1
- ⑦グループディスカッション財務戦略2
- ⑧就職活動状況確認
- ⑨事業計画・経営計画・財務戦略の決定
- ⑩発表用資料作成1
- ⑪発表用資料作成2
- ⑫発表用資料作成3
- ⑬グループディスカッション 個別指導
- ⑭グループディスカッション 個別指導
- ⑮ゼミ成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
 フィールドワーク40%
 授業内試験30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事業化が現実的なものは、外部講師等と連携をして実際に立ち上げて行くことも視野に入れる。各自のキャリアの一環として真剣に取り組むこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

本演習では「北海道から発信する観光と国際協力」というテーマの応用編として、世界、日本、北海道における様々なケーススタディ（事例研究）を基に実例から学び、理解を深めます。環境保護、開発協力、地域活性化、国際相互理解などを通して、観光分野が世界の諸問題の解決・改善に貢献できる多彩な可能性について探究します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査、研究発表、ディスカッションを行います。また、グループワークやペアワークを通じて、学生自身によるテーマ設定、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回提出してもらった授業レポートを添削し、各学生に返却します。また授業内で学生全員にも内容を共有し、コメントと解説を行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション、授業計画
- ②ケーススタディ1：世界の観光事情と環境問題
- ③ケーススタディ2：観光を通じた国際交流・異文化理解
- ④ケーススタディ3：貧困層・社会的弱者のための観光ビジネス
- ⑤第1回フィールドワーク
- ⑥ケーススタディ4：観光と国際協力を通じた地域活性化
- ⑦ケーススタディ5：北海道の観光分野における国際貢献
- ⑧ケーススタディ6：北海道での国際観光ボランティアの取り組み
- ⑨第2回フィールドワーク
- ⑩ケーススタディ7：国際協力による観光開発
- ⑪ケーススタディ8：海外と日本のサステナブル・ツーリズム
- ⑫ケーススタディ9：観光による国家の経済発展と平和
- ⑬第3回フィールドワーク
- ⑭最終成果発表会準備
- ⑮最終成果発表会

※以上の構成で進める予定ですが、履修者の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・世界各国のケーススタディを通して、グローバルな思考力と社会貢献に活かせる実践力を身に付ける。
- ・観光分野と国際協力における現状と課題を理解し、問題解決に向けた自身の考えも含めて口頭や文章で分かり易く説明することができる。
- ・共同作業する能力やコミュニケーション能力を習得し、グループワークに積極的に取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 授業レポート：30%
- プレゼンテーション（個別研究発表、最終成果発表）：40%
- フィールドワーク：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します。

【参考文献】

- 藤稿亜矢子『サステナブルツーリズム：地球の持続可能性の視点から』晃洋書房、2018年。
- 橋本和也・佐藤幸男編『観光開発と文化：南からの問いかけ』世界思想社、2003年。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習としては、文献資料の収集・熟読と、発表資料の作成およびプレゼンテーションに向けた準備作業を行います。事後学習としては、授業外の時間を使ってグループワークやペアワークに取り組み、調査した内容の整理とまとめの作業を行います。授業内容に関連するニュースや記事、映画、ドキュメンタリー番組なども意識的に見るようにしましょう。

【必要な時間】

事前・事後学習ともに2時間を目安とします。

■その他

本演習では、学内外でのイベントやアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むバイタリティが必要です。国際協力ボランティアにも参加します。フィールドワークやボランティア活動にかかる交通費は原則自費ですが、一部補助の場合もあります。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地地図製作とそこからの観光空間分析を地理学的に行う。

そして、そこから4年生で行う卒業論文にむけた内容を決定し、各自でそれにむけた活動を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

道央圏を調査対象とし、日帰りでのフィールドワークを中心とした授業が行われる。街中を地図片手に歩くことを春学期に続いて実施する予定である。

それに必要な講義が前後に行われる。調査後の分析活動も学生が中心に実施する。後半には、各自で卒業論文に向けた概要レジュメを作成し、研究計画書を作成する。そして、それを発表用の資料に仕上げるようにする。

【課題に対するフィードバックの方法】

地図製作作業の中でその課題を少しずつ見つけ出す。完成に近づけていく中で調査した観光地の地理的特徴と問題点を知り、それを各地の観光状況に重ね合わせて考え、議論に活かす。

自らの研究テーマの作成と概要レジュメに関して、適宜指導を受ける。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②フィールドワーク準備
- ③フィールドワーク 1
- ④フィールドワーク 2
- ⑤フィールドワーク 3
- ⑥地図製作 1
- ⑦地図製作 2
- ⑧データ分析 1
- ⑨データ分析 2
- ⑩卒業論文にむけた概要発表 1
- ⑪卒業論文にむけた概要発表 2
- ⑫成果発表にむけたまとめ 1
- ⑬成果発表にむけたまとめ 2
- ⑭成果発表にむけたまとめ 3
- ⑮成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①精密な現地調査ができる。
- ②協力して現地調査ができる。
- ③協力して地図製作することができる。
- ④地図やデータを分析することができる。
- ⑤卒業研究に対する明確な計画を建てることことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|----------------------|-----|
| ①現地調査（フィールドワーク）の精度 | 20% |
| ②現地調査（フィールドワーク）の協働状況 | 20% |
| ③地図製作状況 | 20% |
| ④データ分析状況 | 20% |
| ⑤卒業研究計画・レジュメ発表・全体発表 | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。必要な資料を配布予定。

【参考文献】

特になし。

■授業外学習

【具体的な内容】

事後として、現地調査後のデータ整理、レジュメ発表のためのまとめる活動が必要となる。

後半は卒業研究計画の作成、それにむけたレジュメ制作・発表などが必要となる。

【必要な時間】

分析作業・整理の時間、卒業論文にむけたレジュメ制作、発表用のスライド資料制作などには数時間は必要となる。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間が目安となる。

■その他

フィールドワークは2時間以上歩くことがあるため、自信がない場合は、履修に不向きである。

4年生でのゼミまで継続履修し、観光地理学の卒業論文を書くことが前提となる。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	田村 こずえ

■講義の目的および概要

本演習では、「住んでよし訪れてよし」の地域の創造を目指し、ユニバーサルな対応や実践的な学びや地域社会の歴史や文化、現状から課題発見をして、解決へのアプローチ方法に関する基礎を学修していきます。また、各自が問題意識を持ちながら、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行い、協働しながら主体的に取り組む姿勢を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査だけでなく、フィールドワークや実習等を行い地域の現状を把握して、地域の課題を理解するようなアクティブラーニングとする。また、グループワークや学生との討論を重視して講義を進めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対して、講義の中でフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②観光と地域の応用 (1) : 学ぶ姿勢
- ③観光と地域の応用 (2) : 観光とは
- ④観光と地域の応用 (3) : 地域とは
- ⑤観光と地域の応用 (4) : 地域づくりとは
- ⑥フィールドワークにおける地域課題調査 (1)
- ⑦フィールドワークにおける地域課題調査 (2)
- ⑧フィールドワークにおける地域課題調査 (3)
- ⑨フィールドワークにおける地域課題調査 (4)
- ⑩フィールドワークの振り返りと報告
- ⑪演習発表の資料作成 (1)
- ⑫演習発表の資料作成 (2)
- ⑬演習発表の資料作成 (3)
- ⑭演習発表
- ⑮演習報告会

※以上の構成で進める予定ですが、受講生の人数やフィールドワーク等の諸事情により変更になる場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

地域社会の歴史や文化、現状から課題を発見する基礎的な能力を修得します。地域社会に関して関心を持ち、フィールドワーク等を通じて主体的に取り組む姿勢や地域社会へ寄与する姿勢を身に付けます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・課題レポート : 40%
- ・ディスカッション・発表 : 30%
- ・最終課題 : 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します
必要に応じてテキストや文献を紹介します

【参考文献】

必要に応じて参考文献を紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・地域社会に関心を持ち、常日頃からニュース・新聞・文献・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集するように心掛けてください。
- ・地域の事前・事後調査や配布した資料を読み、講義の内容の理解に務める。
- ・演習の課題や発表資料作成及び準備等を行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークや実習等の費用は、基本的に自己負担ですが、一部助成があります。

科目名	グランドスタッフ実務
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	伊橋 真由、空保 佳奈、横田 久貴

■講義の目的および概要

空港で働くグランドスタッフ・オペレーションスタッフにスポットを当て、航空会社にとって大切な「安全」を基盤とし、お仕事の魅力に触れていただきながら接客スキルや専門用語などの基礎知識を学ぶ。また、社会人として必要な資質や考え方を学び、人間力の向上を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

パワーポイント資料をもとに、空港業務・旅客ハンドリング業務・オペレーション業務を理解してもらう。
また接客に必要なサービスマインドを身に着けるべく、ロールプレイを用いて、より現場に近い形式で実施する。
さらにゲストスピーカーとして、現役のスタッフをによる講義も実施し、講義全体を通して航空会社や空港で働くことへの興味をもってもらおう。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の講義後、確認小テストを実施する。次回の講義前に振り返り・フィードバックを実施する。

■授業計画

- ①ガイダンス～航空業界とは～
- ②新千歳空港
- ③JALフィロソフィ
- ④グランドスタッフの業務と役割
- ⑤接客五原則①
- ⑥接客五原則②
- ⑦カウンター・ロビー業務
- ⑧ゲート&到着業務
- ⑨お手伝いを希望されるお客さま①
- ⑩お手伝いを希望されるお客さま②
- ⑪専門用語・コミュニケーション系
- ⑫オペレーション業務紹介、航空業界基礎知識
- ⑬時間管理、航空力学基礎、重量管理
- ⑭航空管制用語、管制の流れ・気象
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

旅客ハンドリング業務・オペレーション業務について理解し、航空業界の基礎知識、マナーを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 〈DP1〉 専門知識・技能を活用する力
- 〈DP2〉 コミュニケーション能力
- 〈DP3〉 課題を発見し、解決する力
- 〈DP4〉 多様性の理解と協働する力
- 〈DP5〉 能動的に学び続ける力
- 〈DP6〉 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①毎回の小テスト 70%
- ②レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用なし。必要に応じてハンドアウトを配布します。

【参考文献】

『エアライン・マネジメント -戦略と実践-』
日本航空株式会社著 株式会社インプレス出版

■授業外学習

【具体的な内容】

前回の講義の内容を復習。小テストは前回の復習することを推奨する。
予習は基本的に不要。必要な場合は講義の中で指示をする。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

航空業界関連の情報はアンテナを高く張るよう心掛けてください。
Aviation wireというサイトは航空業界のニュースがまとまっているため推奨します
。

科目名	観光ビジネス論
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	荒木 智、藤崎 達也

■講義の目的および概要

日本では、これまでに旅行業、宿泊業、運輸業が観光産業の中核を担ってきた。しかし、とくに1990年後半以降において、インターネット革命などの影響によって観光のあり方そのものが変化の中で、観光関連産業の裾野が広がっている。農林水産業系やものづくり系や各種のサービス業、さらにNPOやNGOなどと関わりつつ、観光関連産業は重要な地域産業として発展しつつある。この授業では、これまでに観光とビジネスがどのように繋がり、今後はどのように展開していくのかについて展望することを指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式での授業に加えて、グループワーク、フィールドワーク、道内の企業経営者の特別講演等を取り入れます。
本講義は、航空会社で長年にわたり実務経験を有する教員と、「観光ガイド」「ネイチャーガイド」会社の経営経験を持つ教員の2名により授業を進めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- 第1回 導入：授業の計画、進め方、評価方法などを説明
- 第2回 観光ビジネスの概要 (1) 様々な観光ビジネス
- 第3回 観光ビジネスの概要 (2) 様々な観光ビジネス
- 第4回 観光ビジネスの概要 (3) 観光地域づくりと観光ビジネス
- 第5回 観光ビジネスの概要 (4) ゲスト講師
- 第6回 観光ビジネスの概要 (5) 北海道のアウトドアビジネスと観光
- 第7回 観光ビジネスの概要 (6) 観光ビジネスの課題
- 第8回 観光ビジネスの概要 (7) まとめレポート作成
- 第9回 観光ビジネスの実践 (ガイダンス)
- 第10回 観光ビジネスの実践 (1) 取組み事例の紹介1
- 第11回 観光ビジネスの実践 (2) 取組み事例の紹介2
- 第12回 観光ビジネスの実践 (3) 取組み事例の紹介3
- 第13回 観光ビジネスの実践 ゲスト講師
- 第14回 観光ビジネスの実践 (4) 取組み事例の紹介4
- 第15回 観光ビジネスの実践 まとめレポート作成

第1回～第8回 担当：藤崎

第9回～第15回 担当：荒木

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

この授業を受講した学生は以下の項目を身につけることを到達目標とする。

1. 観光ビジネスに関する多様な考え方や手法、アプローチを理解できる。
2. 観光ビジネスが成立した背景や経緯を理解し、説明できる。
3. 観光ビジネスの現状を知り、課題を明確にできる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

受講・発表態度 (グループワーク等) 60%

まとめレポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・特に指定しないが、必要な資料を配布する。

【参考文献】

・特に指定しないが、必要な資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

観光に関する情報、ニュースに常に興味を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設などのホームページにもアクセスし、実際に起きている事象を認知し、問題意識を持ち授業に臨むこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

北海道内の観光施設の取組み事例見学を目的としてフィールドワークを行う可能性があるが、その際は交通費等の費用が一人2,000円程度必要になります。

科目名	観光企業研究
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	河本 洋一、荒木 智、青木 哲朗

■講義の目的および概要

現在、観光に関わる多くの企業（観光企業）は、コロナ感染症により大きな影響を受けています。しかし、実はコロナ感染症流行前から、観光企業はIT化、グローバル化、ライフスタイルの変化、少子高齢化などの影響により、大きな変革期にありました。コロナ感染症が終息したとしても、観光企業はこれらの変化に対応すべく、さらなる変革が求められています。本講義では変化の激しい、業界動向を踏まえ、「宿泊、旅行、航空、観光関連産業」の4ジャンル毎に企業研究を行い、それぞれの企業の特徴や課題等について分析できる能力の習得を目的とします。観光産業への就職を考える上で有効な講義を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式が基本です。観光業界で長く実務経験を積んだ教員を中心に、観光産業の実状を分かり易く解説しながら進めます。「観光関連ニュース」も随時、取り上げます。また、社会人として知っておくべき実践的な「知識」や「心構え」も触れていきます。なお、学内で7月に開催される合同企業説明会に参加することが必須条件となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は授業内で解説、説明します。

■授業計画

“以下3人の教員が分担して担当するオムニバススタイルです。

【担当】①、⑫～⑮は河本、②～⑥は青木、⑦～⑪は荒木が担当する。”

- ①ガイダンス 観光産業とは（特色、具体例）、コロナ禍の観光産業
 - ②企業分析の手法、旅行業(1)
 - ③旅行業(2)
 - ④旅行業(3)、宿泊産業(1)
 - ⑤宿泊産業(2)
 - ⑥宿泊産業(3)
 - ⑦航空産業(1)
 - ⑧航空産業(2)
 - ⑨航空産業(3)
 - ⑩航空関連産業(1)
 - ⑪航空関連産業(2)
 - ⑫観光関連産業(1)
 - ⑬観光関連産業(2) MICE ゲストスピーカー
 - ⑭就活における企業選びのポイント
 - ⑮学内合同企業説明会（レポート提出必須）
- ※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

講義、企業説明会等を通じ、観光企業の特徴や課題等について分析できる能力の習得し、観光企業の将来性を見究める基本的手法を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

“授業内課題(小テスト、小論文) 70%
合同企業説明会レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じてプリントを配布します。manabaにも掲載します。
(宿泊産業) 星野リゾートの事件簿、星野リゾートの事件簿2

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

日頃から、TVニュース、インターネット、新聞等で、観光業界の動きに関心を持ち、最新情報を入手して授業に臨むこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	職業倫理
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

将来社会人として活躍する上で必要なビジネスに関する心構えや基本的な知識を身に着ける。あわせて職業人として自分の将来をデザインする力を養うことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】民間企業で長く実務経験を有する教員が、実体験をベースに、具体事例も紹介しながら講義を行います。基本的には講義形式ですが、マナーに関してはロールプレイも取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィードバックは、基本的に授業内で実施します。

■授業計画

●授業内容

- ①ガイダンス、働くときのマナーの基礎知識(1) 話し方、聞き方のマナー
 - ②働くときのマナーの基礎知識(2) 挨拶、身だしなみ、態度、訪問する時、商談する時のマナー
 - ③働くときのマナーの基礎知識(3) 電話・メールのマナー
 - ④働くときのマナーの基礎知識(4) 情報伝達のマナー
 - ⑤働くときのマナーの基礎知識(5) 人間関係のマナー
 - ⑥働くときのルールの基礎知識(1) 会議のルール
 - ⑦働くときのルールの基礎知識(2) ビジネス文書のルール
 - ⑧働くときのルールの基礎知識(3) 研修とサービスのルール
 - ⑨働くときのルールの基礎知識(4) コピー、ファックス、パソコンのルール
 - ⑩働くときのルールの基礎知識(5) 仕事の環境、資料と情報管理のルール
 - ⑪働くときのルールの基礎知識(6) 就業規則、退職・転職のルール
 - ⑫働くときの法律の基礎知識(1) トラブルに備える パワハラ、セクハラ、ブラック企業問題等
 - ⑬働くときの法律の基礎知識(2) 労基法等の基礎知識
 - ⑭働くときの法律の基礎知識(3) 労基法等の基礎知識、労働協約、その他の法律と制度
 - ⑮まとめ 授業内試験
- ※授業計画の順番・内容は一部変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会人としての必要なビジネスマナーが身につく。企業・団体への就職する際に求められる基本的なルール、法律知識、コンプライアンスへの理解が図られる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内試験50%、授業内課題(小テスト、レポート、ロールプレイ) 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】※必要に応じてプリント配布。

【参考文献】 『働くときのA・B・C 働く前に、これだけは知っておきたい マナー・ルール・法律』公益社団法人 全国労働基準関係団体連合会
2022年度版 労働関係法のポイント 労働調査会出版局 編

■授業外学習

【具体的な内容】

講義で使用する資料は事前にmanabaのコンテンツに掲載します。事前の一読して授業に臨んでください。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	観光ICT
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	五十嵐 誠

■講義の目的および概要

最新のICT技術の概要、活用事例と併せて、Society5.0、SDGs等の中長期的な社会背景とICTとの関連性を学び、柔軟な発想で観光産業分野における最新のICT技術を活用したビジネスプランを企画することで、観光産業分野の発展に向けた関心を喚起させることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

最新のICT技術、中長期的な社会背景について、大手通信企業、ITベンチャー上場企業役員としての実務経験のある教員の実体験を交えた講義を行う。また、能動的な学習のため、アンケート、ディスカッションを活用して講義を進める。講義後は、毎回レポートを作成し、講義内容の振り返りを行う。
13回目、14回目の講義にて、一番興味を持ったICT技術を活用したビジネスプランの発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要があれば、追ってmanabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

- ①講義ガイダンス・オリエンテーション
- ②最新のICT技術動向、中長期的な社会背景 (Society5.0、SDGs等)
- ③最新のICT技術 (IoT等)
- ④最新のICT技術 (5G等)
- ⑤最新のICT技術 (プラットフォーム、クラウドアプリケーション等)
- ⑥最新のICT技術 (MaaS、CaaS、自動運転等)
- ⑦最新のICT技術 (AI等)
- ⑧最新のICT技術 (AR、VR、SR等)
- ⑨最新のICT技術 (スマートシティ等)
- ⑩観光情報の利活用事例の紹介 (1)
- ⑪観光情報の利活用事例の紹介 (2)
- ⑫観光情報の利活用事例の紹介 (3)
- ⑬観光情報の利活用事例の紹介 (4)
- ⑭観光情報の利活用事例の紹介 (5)
- ⑮ビジネスプランの発表 (1)
- ⑯ビジネスプランの発表 (2)
- ⑰振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

中長期的な社会背景、最新のICT技術の概要を理解し、柔軟な発想で観光産業分野におけるビジネスプランを策定するスキルを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 講義時におけるワーク (ディスカッション、アンケート、クイズ等) : 20%
- ・ 講義毎の事後課題 : 40%
- ・ ビジネスプランの発表 : 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜必要な資料を配布する。

【参考文献】

論文等必要な文献は、その都度適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】
ICTに関連する報道等に常に注意を向け、観光産業と結びつけて考える習慣をつける。

【必要な時間】
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

受講生の状況を踏まえて、難しいICT、マーケティング用語の解説をしながら講義を進めていく。
受講生のニーズを踏まえて 内容を変更することがある。

科目名	観光と心のケア
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	中里 のぞみ

■講義の目的および概要

ストレスの多い社会において、近年、メンタルヘルスケアは重要視されている。また、旅と心の健康の維持・向上との関連性やその可能性も注目されている。メンタルヘルスケアのひとつとしての観光のあり方について学ぶことを目的とする。本講義では、自身のコミュニケーションパターンに気づき、他者との関係性構築に役立て、社会で生きていくための各自の心の免疫性を高め、エンプロイアビリティを身につけることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイント・資料などを用いて、メンタルヘルスと観光との関連性を学ぶ。知識を学ぶだけでなく、心理ワークなどを体験し、気づきを得て理解を深める。学んだことをもとに各自で考察し、outputすることで共有化を図る。航空業界での実務経験と産業カウンセラーとしての現場経験から、観光と心のケアについて、事例検討をし、ワークシートを用いて自己理解を深め、他者との関わり・コミュニケーションについて心理学的に学び、さらに旅の効用とメンタルヘルスケアについて理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

体験ワークやプレゼンテーションについては、随時、授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①観光と心のケアの関係性
- ②旅が心に与える効果
- ③現代人の抱えるストレスとメンタルヘルスケア①
- ④現代人の抱えるストレスとメンタルヘルスケア②
- ⑤ストレスをため込まないコミュニケーション
- ⑥心のケア癒やしを求める現代人～
- ⑦メンタルヘルスツーリズム
- ⑧旅行者の心理
- ⑨おもてなしと癒やし
- ⑩国民的気質とストレスの関係性
- ⑪ツアーの提案
- ⑫ツアーの効果
- ⑬ツアー企画の発表
- ⑭発表のフィードバックと睡眠とメンタルヘルス
- ⑮総括とテスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ストレスフルな社会を生き抜くための、自立的かつ自律的な姿勢を修得する。組織における様々な人との人間関係の基盤であるコミュニケーション能力を高め、協働性を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

テスト 50%
観光と心のケアのツアー提案パワーポイント提出と発表 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しない。適宜資料を配付する。

【参考文献】

「観光の社会心理学」前田勇・佐々木土師二監修 北大路書房
「観光とサービスの心理学」前田勇 学分社
「人間尊重の心理学」カール・ロジャーズ 創元社
「ワークショップ心理学」藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子・橋本尚子・東正訓
ナカニシヤ出版

■授業外学習

【具体的な内容】

各自で授業内ではメモを取り、授業後には見直しをすること。
事前学習としては、授業に関連する情報などを収集しておくこと。

【必要な時間】

事前・事後学習には各講義前後に2時間程度を費やすようにすること。

■その他

観光に関する基礎知識があることを前提とします。
提出物は期限厳守とし、期限を過ぎたものは受け付けない。
対面授業の場合は私語を慎み、オンライン授業では自律的に授業に参加すること。

科目名	北海道観光[3年]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

道内の主要観光地の概略を学び知識を得ることによって、今後の北海道観光の展開について考える基礎的な素地を養い、「北海道観光マスター検定」の合格を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で展開し、特徴的な項目を幾つか取り上げてグループワークによるディスカッション等を取り入れ、能動的な学修を目指す。
本講義は、地域づくりの基盤となる観光対象とは何かについて、知識を習得していくことを基本とします。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎講義で、学生の興味関心に沿って講義内容の振り返りや質疑応答（Respon使用）を行います。

■授業計画

【Season1】北海道の基礎情報

- ①ガイダンス（北海道観光の全体概況と課題・可能性の概説、模擬問題の提示）
- ②北海道の基礎
 - 一般情報、産業・経済の統計情報

【Season2】北海道の観光地

- ③道央圏
- ④道北圏
- ⑤道南圏
- ⑥オホーツク圏
- ⑦釧路・根室圏
- ⑧十勝圏

【Season3】北海道の祭り

- ⑨北海道の伝統的な祭り
- ⑩北海道三大行灯祭り
- ⑪雪と氷の祭り
- ⑫食、花をテーマにした祭り
- ⑬花火大会
- ⑭音楽・演劇その他の祭り

- ⑮まとめレポート『私の出身地の観光資源』、授業評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の代表的な観光資源の現況を理解し、今後の北海道観光の展開方向について考えるための基礎的な知識が身についている。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ◇定期試験（北海道観光マスター検定模擬問題）70%
 - ◇授業内での15回目のレポート 30%
- ※検定に合格した場合は、定期試験を免除し評価を「優+」とします。ただし、3分の2以上の出席要件を満たしていることが条件です。検定を受検した場合は、1コマ分の出席扱いとなります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『北海道観光ハンドブック』一般社団法人 北海道商工会議所連合会発行
秋学期に販売します。

【参考文献】

特にありません。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ◇事前学修：次回の講義範囲について、テキストを読み模擬問題を自ら作成し授業内で発表するという反転授業を基本とする。
- ◇事後学修：授業内で取り組んだ模擬問題を分野別に整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

卒業必修科目です。毎年実施される、北海道観光マスター検定の受検を前提とした講義です。原則として受講生全員の検定受検を推奨します。受検料5,000円 実施日は11月23日（前年度実績）

科目名	観光政策行政
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	平出 渉、朝倉 俊一

■講義の目的および概要

地域の産業振興や雇用の創出など地方創生にとって観光が果たす役割はますます重要になっています。本講義では、地方自治体や国における観光政策の必要性や概要を理解した上で、観光政策の種類、近年の動向、具体的な政策事例などについて理解を深めることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は集中講義方式で実施する。観光政策の概要や地域にとっての必要性については、実際に地域政策や施設マネジメントの実務を経験している担当教員が具体的な事例を紹介しながら講義を行う。なお、一部授業については、受講生によるグループワークなどアクティブラーニングの要素も適宜取り入れながら実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポート発表時など授業を通じて適宜フィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション（観光政策の概要）
- ②観光の経済的効果
- ③観光市場の動向
- ④観光プロモーション
- ⑤まちづくりと観光
- ⑥観光移動と公共交通
- ⑦交通産業と行政
- ⑧官民連携による観光施設づくり
- ⑨宿泊産業と行政
- ⑩ファムツアー
- ⑪サイクルツーリズムについて
- ⑫サイクルツーリズムの事例（その1）
- ⑬サイクルツーリズムの事例（その2）
- ⑭これからの観光と地域
- ⑮テストとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光政策の主体と種類を理解する
- ・観光政策の重要性を理解した上で地域の中の観光行政のあり方について理解する。
- ・観光行政の課題と将来像について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 授業内の態度・積極性 50%
- 課題レポート 30%
- 授業内試験 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて授業時に配布

■授業外学習

【具体的な内容】

道の駅や公営温泉など地方自治体による観光施設の訪問経験など、自分の身近な分野で観光行政に関連するエピソードを発表してもらいます。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークを行う場合があり、その場合、交通費等は自己負担。

科目名	観光と歴史文化
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、各地域において、観光資源とされている歴史的遺産の代表例を紹介するものである。

そして、代表的な観光資源が、主にどのような時代に関連しているのかを理解した上で、それぞれの地域における観光上の特色を理解してもらうことにある。また、そのような観光資源が地理的空間内にどのように位置づけられているのか、空間事例から観光空間としての立地の特徴や観光施設の立地の工夫状況などを考察してもらうこととしている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

写真、地図などを用いた講義形式となる。それぞれの地域・空間における歴史文化に関する観光資源を地図上で示しながら実施する。

なお、ほぼ毎時課題（manabaの「小テスト」）を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、次時の講義で毎時解説するが、詳細はmanabaを通じてコメントし、フィードバックとする。

■授業計画

- ①ガイダンス、ツーリズムと歴史文化
- ②西ヨーロッパ1・総論
- ③西ヨーロッパ2・イングランド
- ④西ヨーロッパ3・フランス
- ⑤西ヨーロッパ4・イタリア
- ⑥東ヨーロッパ1・総論
- ⑦東ヨーロッパ2・ロシア
- ⑧東ヨーロッパ3・ギリシア
- ⑨イスラーム圏1・総論
- ⑩イスラーム圏2・エジプト
- ⑪イスラーム圏3・トルコ
- ⑫南北アメリカ1・総論
- ⑬南北アメリカ2・合衆国
- ⑭オセアニア1・総論
- ⑮オセアニア2・オーストラリア、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①歴史文化に関する観光資源が各地の観光にとって重要な位置を占めていることを理解できる。
- ②歴史文化に関する観光資源、観光施設が観光空間においてどのような位置に立地されているのかを事例から判断できる。
- ③歴史文化に関する観光資源が、過去の時間軸上のどのような位置に多く存在しているのかを理解することで、それぞれの観光地における特色を理解することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①毎時の課題（manabaの「小テスト」） 50%
※毎時の平均点
- ②最終レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・毎時のレジュメ 配布

【参考文献】

- ・JTB総合研究所『旅行業務シリーズ7海外旅行実務 海外観光資源2022』
- ・JTB総合研究所『海外旅行地理プラクティカル』
- ・勝岡只『海外観光資源ハンドブック』中央書院

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・大まかな世界地図、該当する地域の地図を事前に頭に入れて参加すること。
- ・毎時の課題解説後は、アドバイスに従いもう一度考察してみることに。

【必要な時間】

- ・日常での意識、課題実施等、予習・復習でそれぞれ2時間。

■その他

- ・世界地図が頭に入っていない場合は、地図帳を持ってくることを勧める。
- ・東アジア、東南アジア、南アジアに関しては、「アジア観光論」など他の講義でも実施しているので本講義では扱わない。

科目名	上級観光英語
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

近年海外へ旅行する人やポストパンデミックのインバウンド観光客の増加も予想しており、観光英語に精通する人材が求められている現状を踏まえ、より詳細に説明や対応ができるよう、やや難易度の高い観光英語の習得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光の場面ごとに単語やフレーズを紹介し、リーディング等を通して実際に使えるよう練習を重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で学生が様々な文章を読解し、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。また定期的に小テストも行い、学習効果を確認します。

■授業計画

- ① Orientation
- ② Unit 1 Travel Information
- ③ Unit 2 At the Airport
- ④ Unit 3 Hotel
- ⑤ Unit 4 Dining
- ⑥ Unit 1.2.3.4 Review / Evaluation Test 1
- ⑦ Unit 6 Buses and Trains
- ⑧ Unit 7 Mailing and Money Exchange
- ⑨ Unit 8 Sightseeing (1)
- ⑩ Unit 10 Problems and Complaints
- ⑪ Unit 6.7.8.10 Review / Evaluation Test 2
- ⑫ Tourism Topic 1
- ⑬ Tourism Topic 2
- ⑭ Presentation
- ⑮ Presentation

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

それぞれの場面で使う観光英語を学習し、実際に旅行中や仕事で使えるようになる。また観光英語検定試験2級合格を目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

Evaluation Test 1 (20%)
Evaluation Test 2 (20%)
Presentation (20%)
Homework Assignment (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

English for Tourism (Intermediate)
ステップアップ観光英語
観光英検センター編

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で使用する教材の予習・復習をしてください。

【必要な時間】

Manabaにあるリスニング宿題やリーディングも含め、予習・復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

■その他

観光英語検定試験2級の受験を勧めます。

科目名	温泉学概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小野寺 淳子

■講義の目的および概要

狭い国土に世界一の数の温泉地があり、日常の楽しみに、特別な日のごほうびにと、世代を超えて多くの人々が温泉に親しむ日本。ところが温泉宿や入浴施設の情報は氾濫していても、「温泉はなぜ湧く?」「温泉効果は本当にあるの?」といった温泉の本質はほぼ語られず、一般に知られていないのが現状です。温泉の学びは地学(温泉の成因等)や医科学(人体への作用等)など自然科学のフィールドに始まり、民族学(国ごとの起源と発展等)や経済学(観光経済、エネルギー経済等)にも及ぶ広範なものです。これらを総合的に理解し、時には深く掘り下げることで特別な知識と独自の視点を獲得し、やがて観光の分野などで羽ばたくための実践的な力を得ることを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

その回のテーマに応じた具体的事例を、北海道内の温泉をはじめ日本全国、海外の温泉での豊富な写真資料等を用いながら視覚的に解説し、記憶に残る講義を展開します。

講義テキストは毎回(ゲストスピーカー講義を除く)、全体の20%から30%ほどが空白の書き込み式テキストをWeb(またはプリント)で配布しますので、それぞれ授業を聞きながら空白部分に自由に記入し、授業終盤に提出するかたちで、自分だけの「オリジナルテキスト」を完成させて下さい。

【課題に対するフィードバックの方法】

テキスト提出に際して、課題がある場合はその回答、さらに講義内容についての質問も自由に記入してもらい、授業内、または個別にフィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス 温泉とはなにか
 - ②温泉はなぜ生まれるか 一天与の恵みのメカニズム
 - ③北海道の温泉概論・その1 地理的条件に基づく北海道各地の温泉湧出の傾向
 - ④「温泉効果」を探る・その1 一そもそも温泉は体に「効く」の? 「温泉分析書」の見方を学ぶ
 - ⑤「温泉効果」を探る・その2 一薬理的作用・「源泉掛け流し」はなぜ選ばれるのか
 - ⑥「温泉効果」を探る・その3 一物理的作用とその他の作用・美容健康づくりのはたらき
 - ⑦北海道の温泉概論・その2 一温泉療養には最高の北海道?! 道内各地のユニークな温泉・誇るべき温泉
 - ⑧日本の温泉・その1 一温泉利用の歴史といま。これからの展望と課題
 - ⑨日本の温泉その2 一日本各地の名湯・珍湯
 - ⑩世界の温泉・ヨーロッパ編その1 一日本にはない「療養温泉」その歴史と現在
 - ⑪世界の温泉・ヨーロッパ編その2 一日本にはない「驚きの温泉」その歴史と現在
 - ⑫世界の温泉・アジア編その1 一日本人は「テルマエ・ロマエ」のローマ人と同じだった?!
 - ⑬世界の温泉・アジア編その2 一入浴文化からみるお国柄
 - ⑭「資源としての温泉」を考える 一電力、農業、雪害対策、家庭利用・観光に留まらない温泉の持つ力
 - ⑮話題の温泉・ゲストスピーカー
- ※ゲストスピーカーの都合等により講義順は変更となる場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

身近なものでありながら、正しく知る機会の少ない「温泉」。それを理解するプロセスの中で、歴史や文化、療養、自然エネルギーなど多角的な視点から、ものごとの本質に迫る力を身につけましょう。やがては様々な観光ビジネスやまちづくりなど幅広い社会的活動において、また個々の健康管理など日常のシーンにおいて、日本が有する数少ない天然資源である温泉を正しく活用し、より豊かな未来を築いて頂くことを願います。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

成績の評価方法は「期末テスト」50%、「オリジナルテキストの完成」30%、「授業内課題」で20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義テキストは毎回（ゲストスピーカー講義を除く）、全体の20%から30%ほど空白の書き込み式テキストをWeb（またはプリント）で配布しますので、それぞれ授業を聞きながら空白部分に自由に記入し、授業終盤に提出するかたちで、自分だけの「オリジナルテキスト」を完成させて下さい。

【参考文献】

参考資料：『世界温泉文化史』（ウラディミール・クリテック著/国文社）、『温泉の百科事典』（編集代表委員阿岸祐幸/丸善出版）、『温泉のはなし』（白水晴雄著/技報堂出版）等。またゲストの著書なども折々に伝えます。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で取り上げた国内外や北海道内の温泉地、温泉施設等については、さらに個々で調べるなどして、オリジナルテキストをより充実させ、知識を深めてください。同時に、次回のテーマに関する情報を積極的に調べておきましょう。

また日常において温泉に関するニュースをWebや放送番組、新聞・雑誌などからチェックしておきましょう。気になるニュースについては質問を寄せて下さい。時には各回のテーマにとらわれず、学習に組み込む場合があります。

さらに温泉の情報番組などに関しては、「この表現は適切か」なども疑い、自分ならどうするかを考え、温泉について考察する目を養いましょう。

【必要な時間】

予習に1時間ほど、復習に3時間ほどかけるように心がけましょう。

特に復習は大事です。自身で作上げたオリジナルテキストを見返し、新たに調べた情報を加えてみましょう。

予習・復習の中で抱いた疑問については、いつでも担当教員にご連絡ください。後日の授業で、または個別にフィードバックします。

■その他

※受講は観光学部生とします。

科目名	地理学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

本講義は、現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的技能及び地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養うことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行うが、「主体的で対話的な深い学び」が行われるよう教育方法を工夫して実践する。

【課題に対するフィードバックの方法】

manabaによる授業前後の予習、ふりかえりを毎回行う。
また、manabaにしたがい自ら学修の評価（自己評価）を行う。

■授業計画

- ①世界の地形（営力、大地形の分布や成因）
- ②世界の地形（小地形、その他の地形の分布や成因）
- ③世界の気候（気候要素、気候因子）
- ④世界の気候（気候要素、大気の大循環）
- ⑤世界の気候（ケッペンの気候区分）
- ⑥世界の農林水産業（農業立地論）
- ⑦世界の農林水産業（農業分布と自然環境、グローバル化）
- ⑧地図の読解
- ⑨中間試験
- ⑩世界の工業（工業立地論）
- ⑪世界の工業地域（工業の現状と課題）
- ⑫村落と都市（村落の立地、発達・機能）
- ⑬村落と都市（都市の立地、発達・機能）
- ⑭地図の読解
- ⑮期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 現代世界の地理的認識を深める
2. 系統地理的、地誌的な探求の方法を学ぶ学習を通して、地理的な見方や考え方を、地理的技能を身につける
3. 1・2の学習の成果に立って、現代世界の諸課題について主体的に考え、行動する自覚と態度を養う

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

manaba「小テスト、レポート」… 20% (毎回の予習、ふりかえりを含む)
定期試験 … 50%
課題レポート（地図の作図・描画） … 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

図説地理資料 世界の諸地域NOW（帝国書院） : 978-4-8071-6371-7
※受講者は購入必須

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習 テキストの巻末課題を提出します。
事後学習 manabaにて小テスト、ふりかえりを実施します。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	リゾート概論[3年]
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	斉藤 巧弥、田村 こずえ

■講義の目的および概要

観光の魅力の一つがリゾートである。世界各国にはリゾートと呼ばれる施設、地域が点在しており、地域や企業の特徴を活用した事業が展開されている。本講義では2名の教員により、特徴のあるリゾートの事例を中心に学習し、観光とリゾートについて理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

リゾートを理解するため、事例を活用した講義を行なう。また、教員の有するリゾートに関する実践的な知見も活用し、事例を分析する。授業では、アクティブラーニングを取り入れ、受講生による発表、レジュメの作成、グループワーク等も適宜行なう。なお、学習効果向上の観点からフィールドワークも実施する場合がある。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業を通じて適宜フィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②リゾートの基礎知識1 (主に夏季または通年リゾート)
- ③リゾートの基礎知識2 (主に夏季または通年リゾート)
- ④リゾートの事例分析1 (主に夏季または通年リゾート)
- ⑤リゾートの事例分析2 (主に夏季または通年リゾート)
- ⑥リゾートの基礎知識1 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑦リゾートの基礎知識2 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑧リゾートの事例分析1 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑨リゾートの事例分析2 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑩国内のリゾート1 (テーマパーク他)
- ⑪国内のリゾート2 (テーマパーク他)
- ⑫国内のリゾート3 (テーマパーク他)
- ⑬グループワーク (リゾートの事例調査報告)
- ⑭グループワーク (リゾートの事例調査報告)
- ⑮グループワークの発表

* 状況に応じて、リゾートの現場でのフィールドワークを実施する。その場合は、授業計画について、適宜変更することとする。

* ゲスト講師を招聘し、事例紹介を予定している。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光とリゾートの基礎知識を習得し、観光ビジネスや地域社会におけるリゾートの影響や課題を理解する。また、グループワークを通じて課題解決能力や分析能力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業の参加度・積極性 30%
グループワーク 40%
課題提出 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃から観光現場を意識し、観光客の目線でどのようなリゾートがあるのか関心を持つこと。また、自ら機会を見つけリゾート地への訪問も推奨する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

状況に応じて、リゾートの現場でのフィールドワークを実施する。その場合は、授業計画について、適宜変更することとなる（交通費等は各自が実費負担）。
また、フィールドワークは土日等の可能性もあり、各自柔軟にスケジュールを調整のこと。

科目名	観光ガイド
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

観光地域において観光資源を見つけ出し、その魅力を引き出し、分かりやすく解説する活動が盛んとなっている。特に自然資源においてはインタープリテーションと呼ばれ、ガイド技術は世界的にも日々発展している。それらを概観すると同時に、ガイド事業を創業し経営してきた実務家教員が事業化のノウハウを教授し、将来観光関係の様々な活動に活かすことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

様々な観光産業の成り立ちを理解している前提で、さらに観光ガイド事業を地域等に定着させるにはどうすれば良いのかを探究し、実際に観光イベントなどにおいてツアーを実施する。小グループで数回を担当し、改善点などをフィードバックしながらPDCAサイクルを回し観光ガイド事業運営を体験する。

【課題に対するフィードバックの方法】

小グループによるワークショップにて観光資源の発掘から活用、そして管理に至るまでのプランニングを行う。実際に客を案内するツアーを行いアンケートなどを通して、新たな課題等を抽出・解決の検討を進める。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②観光とガイド事業
- ③観光まちづくりとガイド事業
- ④観光資源の保護保全とガイド事業
- ⑤観光ガイドプログラムの開発 (1) 資源の掘り起こし
- ⑥観光ガイドプログラムの開発 (2) ストーリー・シナリオの作成
- ⑦観光ガイドプログラムの開発 (3) 実装に向けての準備
- ⑧観光ガイドプログラムの提供実習 (1) ガイドツアーの実施
- ⑨観光ガイドプログラムの提供実習 (2) ガイドツアーの実施
- ⑩観光ガイドプログラムの点検・効果の測定 (1) アンケートの回収・集計・分析
- ⑪観光ガイドプログラムの点検・効果の測定 (2) アンケートの回収・集計・分析
- ⑫プログラムの記録・継続に向けての資料作成
- ⑬観光イベントでのガイド1
- ⑭観光イベントでのガイド2
- ⑮ふりかえり (テスト・レポート)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・地域や施設などの魅力を効果的に来訪者に伝えることができるよう、観光ガイドとしての基本的なスキルを身につける。
・観光ガイドプログラム導入の際の準備や関係機関との交渉の概要を知る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

課題 20%
実習 60%
レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・なし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

札幌市内の街歩きツアーの開発を行い実施をする。5月、8月に行われる観光イベントにガイドとして参加すること。講義の時間内だけでは完結しないので、リハーサルやアンケート回収を受けてのプログラム修正などは随時対応すること。

【必要な時間】

事前・事後、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

実際に観光客の案内を行うため、これまで学んだホスピタリティを最大限に発揮²²³（令和5）年4月1日
ことが求められる。札幌市内の実行委員などとの協働となるため、お客様の前に出せ
ないと判断した学生はフィールドワークへの参加を断る可能性がある。

科目名	インストラクター実習 I
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・実習
担当者	安田 純輝、藤崎 達也

■講義の目的および概要

観光地において必要不可欠なインストラクターとして活躍するための知識と技能を身につける。特にこの講義ではカヌーやラフティングを始め、海水浴場の安全管理など水辺での救急救命法を習得し日本ライフセービング協会公認の「Water Safety」の資格取得を目指す。観光資源維持のために様々な主体が関わり、同時に多くの課題を抱えていることを実体験を通し学ぶことにより、将来さまざまな形で観光を支える意識を持つことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

夏季集中講義。数回の座学とプールや湖、海水浴場でのアクティブラーニングが中心となる。夏休み中などに実際に業務にも携わる予定。

【課題に対するフィードバックの方法】

実際にインストラクターを目指す講義となるため、さまざまな実習への真摯な取り組みを求める。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②観光地とインストラクター 1
- ③観光地とインストラクター 2
- ④海水浴場概要
- ⑤プール実習 1
- ⑥プール実習 2
- ⑦海水浴場の現状と安全管理
- ⑧ライフセービング座学 1
- ⑨ライフセービング座学 2
- ⑩BLS (CPR+AED) 1
- ⑪BLS (CPR+AED) 2
- ⑫BLS (CPR+AED) 3
- ⑬BLS (CPR+AED) 4
- ⑭振り返り発表
- ⑮テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日本ライフセービング協会公認のライフセーバーの資格を受けるための「Water Safety」の資格取得を目指す。この資格を活用して、アウトドアアクティビティのインストラクターとなるための基礎的なスキルを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
 実習への取り組み40%
 資格の取得30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

日本ライフセービング協会指定テキスト他

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

プールや海での実習を行うため、25m以上泳げる泳力を有していること。不安なものではプール実習までに各自練習をすること。講義終了時には日本ライフセービング協会公認「Water Safety」と「BLS(CPR+AED)」の資格が認定され、さらに上級の「Basic Surf Lifesaver」の資格を受ける権利を得ることができる。

■その他

テキスト代、受講料、その他として概ね15,000円程度を申し受けます。5月に説明会を開催する。

科目名	インストラクター実習Ⅱ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

観光地において必要不可欠なインストラクターとして活躍するための知識と技能を身につける。

この講義では①SIJ公認インストラクター (SUP) ②PADI公認スノーケルガイド (スノーケル) ③日本ライフセービング協会公認Basic Surf Lifesaver (ライフセーバー)の資格取得を目指す。インストラクターⅠで「Water Safety」と「BLS(CPR+AED)」の資格を取得済みであることを推奨 (③Basic Surf Lifesaverを目指すものは必須)。観光資源維持のために様々な主体が関わり、同時に多くの課題を抱えていることを実体験を通し学ぶことにより、将来さまざまな形で観光を支える意識を持つことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

数回の座学とプールや湖、海水浴場でのアクティブラーニングが中心となる。夏休み中や休日実際に業務にも携わる予定。

【課題に対するフィードバックの方法】

実際にインストラクターを目指す講義となるため、さまざまな実習への真摯な取り組みを求める。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②海水浴場・湖沼における実習 (1)
- ③海水浴場・湖沼における実習 (2)
- ④海水浴場・湖沼における実習 (3)
- ⑤海水浴場・湖沼における実習 (4)
- ⑥海水浴場・湖沼における実習 (5)
- ⑦プール実習
- ⑧海水浴場・湖沼における実習 (6)
- ⑨海水浴場・湖沼における実習 (7)
- ⑩海水浴場・湖沼における実習 (8)
- ⑪海水浴場・湖沼における実習 (9)
- ⑫海水浴場・湖沼における実習 (10)
- ⑬観光地の安全管理の課題
- ⑭観光地の安全管理の課題についての発表
- ⑮振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①SIJ公認インストラクター (SUP) ②PADI公認スノーケルガイド (スノーケル) ③日本ライフセービング協会公認の「Basic Surf Lifesaver」のいずれかの資格取得を目指す。この資格を活用して、アウトドアアクティビティのインストラクターとなるための実践的なスキルを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
実習への取り組み40%
資格の取得30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ①SIJ公認インストラクター (SUP)
- ②PADI公認スノーケルガイド (スノーケル)
- ③日本ライフセービング協会

それぞれの指定テキスト他

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

○受講の条件

「Basic Surf Lifesaver」の資格取得に向けては、泳力 400m→9分以内、50m→40秒以内、潜行20m以上、立ち泳ぎ5分以上を要するため各自トレーニングをすること。

■その他

テキスト代、受講料、その他として概ね30,000円程度を申し受けます。
詳しくは8月、9月ごろに説明会を行う。

科目名	国内旅行運賃・料金
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

本講義の目的は、旅行業のみならず旅行関連産業においても重要性が増している「旅行業務取扱管理者」資格取得を目指し、試験科目である「国内旅行運賃・料金」の基礎知識を習得することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界で実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員によるパワーポイントを利用した講義形式。併せて、毎回、授業内課題を解いて理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題、授業内試験実施後、特に注意が必要と思われる点について授業内で、フィードバックする。

■授業計画

- ①JR運賃 (1)
- ②JR運賃 (2)
- ③JR運賃 (3)
- ④JR運賃 (4)
- ⑤JR運賃 (5)
- ⑥授業内試験第1回 JR運賃 (6)
- ⑦JR料金 (2)
- ⑧JR料金 (3)
- ⑨JR料金 (4)
- ⑩JR料金 (4)
- ⑪JR料金 (5)
- ⑫JR変更・取消・払戻
- ⑬授業内試験第2回 JR団体乗車券・特別企画乗車券
- ⑭航空運賃・料金 (1)
- ⑮航空運賃・料金 (2) まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの国内旅行運賃・料金の知識を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3) 課題を発見し解決する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

期末の定期試験による評価	50%
授業内試験(2回)による評価	25%
授業内課題による評価	25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「国内運賃・料金」 JTB総合研究所
※テキストなしでこの講義を受講することはできません。

■授業外学習

【具体的な内容】

テキスト、プリントで予習復習を欠かさない。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

テキストなしでこの講義は受講できません。国内旅行業務取扱管理者試験の他の試験対応三科目「旅行業法・約款」「国内旅行実務」「国内観光資源」も受講のこと。

科目名	オンライントラベル概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

旅行業界の変化の中で昨今めざましい発展を遂げるICT技術を使った旅行商品の流通について概観する。特に「OTA（オンライントラベルエージェント）」と呼ばれる新しい旅行会社の企業概要、業務の内容等について、既存の窓口型の旅行会社との比較も交えながら理解する事を目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では学問としての観光学の基本を抑えながら、経営者・実務経験のある教員の体験を交えオンライントラベルの基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

特にケーススタディを元にした実践的な学びを中心とすることにより、実際に観光の現場に出る際に役立つものである。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②旅行会社の歴史
- ③ICTの概要と歴史
- ④ICTがもたらす社会変化(1)
- ⑤ICTがもたらす社会変化(2)
- ⑥OTAの概要
- ⑧店舗型旅行会社によるオンライン販売
- ⑨オンライン商品の造成(1)
- ⑩オンライン商品の造成(2)
- ⑪OTAと観光主要産業(運輸・宿泊)
- ⑫OTAと観光施設
- ⑬OTAと地域
- ⑭ICTが観光業にもたらす可能性
- ⑮ふりかえり 授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

旅行業全体やICTが観光にもたらす効果についての理解と、オンライントラベルエージェントの特徴や社会的影響等について理解し、実際に観光業界で活躍する際に活かせるようにする事を目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート等 30%
課題 40%
授業内試験 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・なし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

自分から興味を持ちOTAなどのサイトで旅行計画を立てるなど積極的な姿勢が求められる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	オンライントラベル実習
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	武内 源太、藤崎 達也

■講義の目的および概要

インターネットの出現によって旅行業界でのビジネスも大きく変わりつつあります。中でも宿泊予約分野においてはオンライントラベルエージェントの成長は著しいものがあります。本講義では「楽天トラベル」予約サイトでの”売れる”宿泊プランの構造を理解し、実際にプランの作成を通してオンライントラベルエージェントのビジネススキームを学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「楽天トラベル」での実務経験をもとにインターネットビジネスでのテーマごとにタスク提示し、それを課題ワークやディスカッションによって作成した成果物をプレゼンテーションしてもらうといった参加型の講義方法を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

ダイバシティ的な考え方を醸成するためにも、課題ワークの成果物に対しては、教員からはもちろんのこと、参加している生徒や本講義に協力連携頂く宿泊施設運営者など多方面からのフィードバックを目指します。

■授業計画

- ① イントロダクション インターネットプラットフォームとは？（楽天のケース）
- ② 旅行・宿泊業界について（オンライントラベルエージェントの位置づけ）
- ③ 売上公式 因数分解の考え方
- ④ 宿泊予約サイト予約の流れ（楽天トラベルのケース）
- ⑤ マーケティング的に「宿泊プラン」を考える（誰に？編）
- ⑥ マーケティング的に「宿泊プラン」を考える（なにを？編）
- ⑦ マーケティング的に「宿泊プラン」を考える（どう売るか？編）
- ⑧ 売れる「宿泊プラン」を作る
- ⑨ 「宿泊プラン」内容の改善
- ⑩ 「宿泊プラン」発表
- ⑪ 宿泊予約サイト「施設TOPページ」のポイント
- ⑫ 「施設TOPページ」の作成と発表
- ⑬ メールマーケティング
- ⑭ 「口コミ」チェックポイント
- ⑮ 全体まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

インターネット宿泊予約サイト分析や宿泊プラン作成作業を通してオンライントラベルエージェントのビジネス構造を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート 30%
 宿泊プラン評価 20%
 定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布

【参考文献】

トラベルボイス (<https://www.travelvoice.jp/>)
 観光経済新聞 (<https://www.kankokeizai.com/>)

■授業外学習

なるべく多くの旅行商材、販売方法に触れることが講義の理解度を深めるので、講義³（令和5）年4月1日外においてもオンライントラベルエージェント（楽天トラベル、じゃらん、一休、ブッキングドットコム、エクスペディア）の予約サイトを使い倒してサイト構造やそれぞれの特徴を自分なりに感じ取って下さい。加えてリアルエージェント（JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行）の店舗カウンターでパンフレットの旅行商材も集めてインターネットの旅行商材との違いも見てみて下さい。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

参加型の授業になるので積極的な発言を期待しています。

科目名	観光とMICE
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本講義では、地域に大きな経済効果をもたらす可能性があるMICEの基本を理解し、さらに授業内でMICEの模擬コンペを実施し、『勝てる企画提案!』のポイント、グループワークやプレゼンテーションなどの実践を通じて学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義ではスライドや動画等の視聴覚教材を活用し、さらにフレームワークの為にプリントを配布し課題分析など授業のポイントを分かり易く解説します。またグループワークやプレゼンテーションなどを取り入れ能動的な学修を目指します。

本講義は、MICEの実務経験のある教員が、企業のしくみや営業活動の知識を活かしてビジネスワーカーの視点から理解し易い講義を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる授業になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

プレゼンテーション発表やレポートに対して授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② MICEの基礎
- ③ M (Meeting) の模擬コンペ (企業の表彰パーティーを企画提案)
- ④ Mの模擬コンペその2
- ⑤ Mのプレゼン発表
- ⑥ I (Incentive) の模擬コンペ (企業のインセンティブツアーを企画提案)
- ⑦ Iの模擬コンペその2
- ⑧ Iのプレゼン発表
- ⑨ C (Convention) の事例研究 (継続カンファレンスの課題分析と企画提案)
- ⑩ Cの事例研究その2
- ⑪ Cのプレゼン発表
- ⑫ E (Event) の事例研究 (継続イベントの課題分析と企画提案)
- ⑬ Eの事例研究その2
- ⑭ Eのプレゼン発表
- ⑮ プレゼンの講評と、まとめとメッセージ

※講義の順番は適宜変更する事があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・MICEのケーススタディを通して、課題の深堀、本質の分析、根拠のある提案などロジカルな思考が出来る。
- ・実社会でも使える伝わる提案書の作成力、プレゼンの実践力を身に付ける。
- ・共同作業するコミュニケーション能力を習得し、グループワークに積極的に取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・平常点 (グループワーク参加姿勢、授業レポート) : 40%
- ・成果報告 (中間・最終) : 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

Webでの情報収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事。

【予習と復習の時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	ホテル経営概論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

春学期講義では観光サービス産業の基幹産業である宿泊産業について、明治維新後、近代社会に寄与した役割、経済背景による危機、観光立国を目指し国家的イベント計画の推進による新業態ホテルの登場などホテル産業の成り立ちから昨今の業界動向、組織や業務の特徴、経営形態、重要関連法令、観光とホテルの関係性、コロナ禍での経営危機管理を体系的に学習し将来ホテルマネジメントに必要とされる基礎知識の習得を目的とします、

その後秋学期のホテル開発概論へ運動していきます。

ホテル・マネジメント技能国家検定試験は毎年9月学科試験、12月実技試験が実施されるのに合わせ、就職活動が始まる3年から4年次で採用に有益な資格取得を目指し挑戦して下さい。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本講義形式（パワポテキスト投影）を中心に授業を進めます。
毎授業冒頭には前回のキーポイントの復習振り返りを行う。
- ・講義テキストPDF、最新業界情報を「manabaコースコンテンツ」に事前公開と開示予習復習、情報収集に役立て下さい。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- | | |
|---------------------|--|
| ① 第1部：授業ガイダンス | ～ 授業内容説明、成績評価、目的と目標 |
| 第2部：ホテルにおける将来像 | ～ 概念、キャリア形成、求められる能力 |
| ② 宿泊産業「ホテルとは」 | ～ 各種定義、経営特性、商品機能、提供価値 |
| ③ 観光とホテル産業 | ～ 観光立国と時代背景、現状と将来、施設推移 |
| ④ 宿泊産業の歴史変遷 | ～ 欧米と日本、インターナショナル、国内Hグループ |
| ⑤ ホテルの各種分類 | ～ サービスレベル、価格帯、格付け、立地 |
| ⑥ ホテルの経営形態 | ～ ホテルの所有・経営・運営の関係 |
| ⑦ ホテルの収益構造 | ～ 利益構造と利益率、収益特性、収益管理 |
| ⑧ ホテル会計基準
情報システム | ～ ホテル会計基準、財務会計と管理会計
～ ホテルの基幹システム、ネットワーク構成 |
| ⑨ 特別授業
春学期前半評価課題 | : 外部講師による講義
: 聴講レポート |
| ⑩ 部門別組織と役割 -1 | ～ 運営総責任者の役割、宿泊部門 Rooms |
| ⑪ 部門別組織と役割 -2 | ～ 料飲部門 Food & Beverage |
| ⑫ 部門別組織と役割 -3 | ～ Marketing & Sales、Revenue Management |
| ⑬ 部門別組織と役割 -4 | ～ 管理部門 Cost Center |
| ⑭ 春学期後半評価テスト | : 授業内テスト（春学期授業全体より出題） |
| ⑮ 全体まとめ | : ホテル経営概論 全体の振り返り |

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① ホテルビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② ホテルの所有・経営・運営に必要とされる専門知識を習得する
- ④ 国際的視野を醸成する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) : 専門知識・技能を活用する能力
(DP5) : 能動的に学び続ける力
(DP6) : 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

3つの評価項目総合点（100点満点）により単位認定評価を行う。

- ・⑨ 春学期前半評価対象 レポート : 配分40%（40点）
- ・⑭ 春学期後半評価対象 テスト : 配分40%（40点）
- ・○ 出席状況・授業態度 : 配分20%（20点）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・講義はパワポテキストの投影を中心に授業を進めます。（テキスト購入は無し）
- ・講義テキストPDF、最新業界情報など「manabaコースコンテンツ」に公開（保存）、予習・復習・情報収集に役立て下さい。

【参考文献】

- ・資料配布や参考書、最新業界ニュース情報などを適宜紹介。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・講義テキストは各々プリント又はデータ保管を行い予習復習は必須
- ・日々の行動においてホテルへの訪問、考察、具体的なサービスの手法などに触れ興味を持ち視察・利用・情報収集にて知識を広げる。

【必要な時間】

- ・予習/復習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・宿泊業界を就活選択肢の一つに入れている学生、業界に興味がある学生は大歓迎。
- ・専門知識を養い将来ホテル・リゾート・旅館など宿泊業界で活躍する人材になってくれることを期待しております。

科目名	ホテル開発概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

【本講義の目的と概要】

観光立国を目指す日本では世界遺産登録やオリンピック計画、大阪万博、I Rの推進、リニア建設など国家的イベントの計画推進により観光客の増加が背景となりホテル建設市場が全国的に活発化、新規開発や大規模再開発の施設数が増加傾向となるなかホテル事業開発の発意・建設計画から開業までの開発プロセスを体系的に学びホテル開発全体の専門知識と経営知識を習得することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本講義形式（パワポ テキスト投影）を中心に授業を進めます。毎授業冒頭には前回のキーポイントの復習振り返りを行う。
- ・講義テキストPDF、最新業界情報のクリッピングを「manabaコースコンテンツ」に事前公開（保存）、予習復習、情報収集に役立て下さい。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- ① ホテル開発概論ガイダンス ～ 授業内容説明、授業の進め方、目標と目的
- ② ホテル開発の歴史的経緯 ～ ホテル事業モデルの変遷
- ③ ホテルビジネスの仕組み ～ 参入動機の種類・ホテル投資の視点
- ④ ホテル開発の基礎用語 ～ 経営・運営・企画・設計で用いる用語と解説
- ⑤ ホテル経営分析指標 ～ 財務諸表と経営指標
- ⑥ 前半評価テストのドリル (模擬テストと解説)
- ⑦ 秋学期前半評価テスト (授業内テスト)
- ⑧ ホテル開発のプロセス (Ⅰ) ～ ホテル開発のスケジュール化
- ⑨ ホテル開発のプロセス (Ⅱ) ～ 事業化検討・運営者の選定
- ⑩ ホテル開発のプロセス (Ⅲ) ～ ホテル設計・デザイン 1
- ⑪ ホテル開発のプロセス (Ⅳ) ～ ホテル設計・デザイン 2
- ⑫ ホテル開発のプロセス (Ⅴ) ～ 建築・竣工・開業準備・ホテル開業
- ⑬ 後半評価テストのドリル (模擬テストと解説)
- ⑭ 秋学期最終評価テスト (授業内テスト)
- ⑮ まとめ：自身の将来設計：ホテル業界の将来性、キャリア形成、雇用問題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① ホテルビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② ホテルの所有・経営・運営に必要とされる専門知識を習得する
- ③ ホテル開発に必要とされる専門知識を習得する
- ④ 国際的視野を醸成する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)：専門知識・技能を活用する能力
- (DP6)：社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

3つの評価項目総合点（100点満点）により単位認定評価を行う。

- ・⑦ 秋学期前半評価対象 テスト：配分40%（40点）
- ・⑭ 秋学期後半評価対象 テスト：配分40%（40点）
- ・○ 出席状況・授業態度：配分20%（20点）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・講義はパワポテキストの投影を中心に授業を進めます。（テキスト購入は無し）
- ・講義テキストPDF、最新業界情報のクリッピング等「manabaコースコンテンツ」に公開（保存）、予習・復習・情報収集に役立て下さい。

【参考文献】

- ・資料配布や参考書、最新業界ニュース情報などを適宜紹介。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・授業テキストは各々プリント又はデータ保管を行い予習復習は必須
- ・日々の行動においてホテルに対する考察と具体的なサービスの手法などに触れ興味を持ち視察・利用・情報収集にて知識を広げる。

【必要な時間】

- ・予習/復習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・宿泊業界を就活選択肢の一つに入れている学生、業界に興味がある学生は大歓迎。
- ・専門知識を養い将来ホテル・リゾート・旅館など宿泊業界で活躍する人材になってくれることを期待しております。
- ・ホテルマネジメント技能 国家検定に是非挑戦してください。

科目名	旅館経営概論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

春学期講義は、日本の伝統的な宿泊施設である「日本旅館」について永い歴史の変遷をたどり、環境の移り変わりとともに現在までどのように経営が変化してきたかを体系的に考察していきます。歴史変遷、日本のおもてなし文化、旅館とホテルの違い、温泉地旅館と地域の連携、宿泊施設の社会的責任などを学習し旅館経営に関する基礎知識の習得を目的とします。

また、環境変化に伴う経営危機管理を学び、秋学期には旅館事業再生の視点から旅館経営開発の授業へ連動していきます。

ホテル・マネジメント技能国家検定試験は毎年9月学科試験、12月実技試験が実施されるのに合わせ、就職活動が始まる3年から4年次で採用に有益な資格取得を目指し挑戦して下さい。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本講義形式（パワポテキスト投影）を中心に授業を進めます。
- ・毎授業冒頭には前回のキーポイントの復習振り返りを行う。
- ・講義テキストPDF、最新業界情報のクリッピングを「manabaコースコンテンツ」に保存し公開、予習復習、情報収集に役立て下さい。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内回答または事後メール、コースニュース、掲示板等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| ① 第1部：ガイダンス | ～ 内容説明、進め方、成績評価など |
| 第2部：おもてなし文化 | ～ おもてなしの基本を知る ～ |
| ② 日本旅館の変遷 | ～ 時代考察、日本旅館の役割を知る |
| ③ 宿泊産業における「日本旅館」 | ～ 定義・分類・特徴、都市型と温泉地の旅館 |
| ④ 旅館とホテルの違い | ～ 機能・サービス様式・デザインの違い |
| ⑤ 旅館経営の現状と課題 | ～ 市場環境の変化、経営不振の要因 |
| ⑥ 旅館の将来 | ～ 旅館事業の再構築、生産性、地域との関連 |
| ⑦ 伝統旅館と新興旅館 | ～ 経営の仕組み、経営手法、経営者の役割 |
| ⑧ 特別授業
春学期前半評価課題 | : 外部講師による講話
聴講レポート |
| ⑨ 旅館業の経営アプローチ | ～ 事業環境の変化、製造業との違い、組織力 |
| ⑩ 旅館の競争力構築 | ～ Case study、独自性・適合性・多様化 |
| ⑪ 宿泊施設の社会的使命 | ～ 社会的責任、CSR概念、災害時対応 |
| ⑫ 宿泊業に求められるCSR | ～ Case study、背景、地域社会を支える |
| ⑬ 春学期小テスト（ドリル） | : 授業内復習テスト（授業全体より出題） |
| ⑭ 春学期後半評価課題 | : 課題レポート |
| ⑮ まとめ | : 旅館経営概論 全体の振り返り、秋学期授業の案内 |

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 旅館ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② 宿泊産業の中の旅館経営について専門知識を習得する
- ③ 日本旅館を通して日本文化を理解する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) : 専門知識・技能を活用する能力
(DP6) : 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

3つの評価項目総合点（100点満点）により単位認定評価を行う。

- ・⑧春学期前半評価対象 聴講レポート : 配分40%（40点）
- ・⑭春学期後半評価対象 課題レポート : 配分40%（40点）
- ・○出席状況・授業態度 : 配分20%（20点）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・講義はパワーポイントの投影を中心に授業を進めます。（テキスト購入は無し）
- ・講義テキストPDF、最新業界情報のクリッピングを「manabaコースコンテンツ」に公開します、予習や情報収集に役立て下さい。

【参考文献】

- ・資料配布や参考書、最新業界ニュース情報などを適宜紹介。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・各自の行動において可能な限り各地の温泉旅館を訪ね旅館的サービスのありかたなど施設体験を基に知識を深める。

【必要な時間】

- ・予習/復習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・宿泊業界を志す学生、日本旅館・リゾート・ホテルに興味ある学生は歓迎します。
- ・宿泊産業界を目指す学生は、先ずは社会人の基本である「マナー」「エチケット」＝挨拶・礼儀・作法・身だしなみを3年生のうちに身に付ける必要があります。自主的に学び就活前には身に付けるよう努力してください。
- ・宿泊業界で活躍する人材になってくれることを期待しております。

科目名	旅館経営開発
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

秋学期講義は、観光立国を目指す日本において日本の宿泊産業のなかで、旅館経営の環境変化に伴う経営の悪化、衰退、地元観光地との関わり、コロナ禍における経営危機管理、コロナ後への布石を学び、旅館事業再生の視点から旅館経営開発の専門知識を習得することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本講義形式（パワポテキスト投影）を中心に授業を進めます。毎授業冒頭には前回のキーポイントの復習振り返りを行う。
- ・講義テキストPDF、最新業界情報のクリッピングを「manabaコースコンテンツ」に保存し公開、予習復習、情報収集に役立て下さい。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内回答または事後メール、コースニュース、掲示板等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- | | |
|----------------------------|--|
| ① 旅館経営開発ガイダンス | ～ 内容説明、授業の進め方、評価方法 など |
| ② 旅館事業環境の変化 | ～ マクロ側面からの考察 |
| ③ 旅館経営の現状と問題点 | ～ 経営不振の外部要因と内部要因、家業の弊害 |
| ④ マーケティングの重要性Ⅰ | ～ 旅館のマーケティングについて |
| ⑤ マーケティングの重要性Ⅱ | ～ 宿泊業のWebマーケティング |
| ⑥ 旅館事業の再構築 | ～ 経営分析、業務プロセスの改革と財務の再構築 |
| ⑦ 旅館ビジネスの未来予測 | ～ マーケット環境、旅館ビジネスの未来 |
| ⑧ 都市型旅館の視察・調査
秋学期前半評価課題 | ： フィールドワーク、支配人とのトークセッション
： 視察・調査・セッションを基にしたレポート作成 |
| ⑨ 旅館経営者の役割 | ～ 経営者の任務、ビジネスの安定と基礎づくり |
| ⑩ 旅館女将の役割 | ～ 顧客の開拓とビジネスの拡大、社員教育 |
| ⑪ 女将が伝えるサービス経営 | ～ 経営学的ケーススタディ |
| ⑫ 秋学期後半評価（ドリル） | ： 模擬テスト、解答説明 |
| ⑬ 秋学期後半評価テスト | ： 本番（秋学期授業全体より出題） |
| ⑭ 旅館での働き方設計 | ～ 業界の将来性、必要能力、雇用環境、労務管理 |
| ⑮ まとめ | ～ 旅館経営開発 全体の振り返り |

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 旅館ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② 宿泊産業の中の旅館経営について事業再生の専門知識を習得する
- ③ 日本旅館を通して日本文化を理解する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- （DP1）： 専門知識・技能を活用する能力
（DP6）： 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

3つの評価項目総合点（100点満点）により単位認定評価を行う。

- ・⑧秋学期前半評価対象 課題レポート : 配分40%（40点）
- ・⑬春学期後半評価対象 テスト : 配分40%（40点）
- ・○出席状況・授業態度 : 配分20%（20点）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・講義はパワポテキストの投影を中心に授業を進めます。（テキスト購入は無し）
- ・講義テキストPDF、最新業界情報のクリッピングを「manabaコースコンテンツ」に公開します、予習や情報収集に役立て下さい。

【参考文献】

- ・資料配布や参考書、最新業界ニュース情報などを適宜紹介。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 各自の行動において可能な限り各地の温泉旅館を訪ね旅館的サービスの
あらかたなど施設体験を基に知識を深める努力。

【必要な時間】

- ・ 予習/復習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・ 宿泊産業界を目指す学生は、まずは社会人の基本である「マナー」「エチケット」
＝ 挨拶・礼儀・作法・身だしなみを3年生のうちに身に付ける必要があります。
自主的に学び就活前には身に付けるよう努力してください。
- ・ 宿泊業界で活躍する人材になってくれることを期待しております。

科目名	卒業研究[観光]
開講期・単位	4年 通年・選択 4単位・演習
担当者	呉 泰均、山田 芳之、斉藤 巧弥、有澤 恒夫、池見 真由、河本 洋一、田中 洋一郎、荒木 智、藤崎 達也、黄 旭暉、齋藤 修

■講義の目的および概要

大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で適切な方法に基づいて研究・調査を実践する。そして最終的に論文としてまとめ、完成させることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

担当指導教員のゼミナール方式である。研究方法の基礎を学ぶとともに、受講生各自が選択したテーマについて論文作成作業の経過報告を中心に討議し、個別指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

受講生が取り組む課題（研究計画書、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、教員はその都度コメントや添削を行うことでフィードバックを行う。

■授業計画

■春学期

- ①ガイダンス、春学期研究計画
- ②論文作成の基本的作法について(1)
- ③論文作成の基本的作法について(2)
- ④研究テーマの検討(1)
- ⑤研究テーマの検討(2)
- ⑥問題の所在・研究目的の文章化(1)
- ⑦問題の所在・研究目的の文章化(2)
- ⑧先行研究・情報収集(1)
- ⑨先行研究・情報収集(2)
- ⑩先行研究・情報収集(3)
- ⑪先行研究・情報収集(4)
- ⑫研究方法の検討(1)
- ⑬研究方法の検討(2)
- ⑭調査(1)
- ⑮調査(2)

■秋学期

- ①ガイダンス、秋学期研究計画
- ②論文アウトラインの検討(1)
- ③論文アウトラインの検討(2)
- ④論文執筆作業(1)
- ⑤論文執筆作業(2)
- ⑥論文執筆作業(3)
- ⑦論文執筆作業(4)
- ⑧論文執筆作業(5)
- ⑨論文執筆作業(6)
- ⑩論文執筆作業(7)
- ⑪論文執筆作業(8)
- ⑫論文執筆作業(9)
- ⑬論文執筆作業(10) 仮提出
- ⑭仮提出論文の修正
- ⑮論文の完成・最終提出

※以上の授業計画は大まかな流れで、実際の進め方は各指導教員の方針に従って行われる。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

春学期：論文の基本的作成方法を理解し、適切な研究方法に則った研究・調査を行うことができる。

秋学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

*成績評価にあたっては、担当指導教員が主査、それ以外で関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で決定する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
各指導教員より指示します。

【参考文献】
白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2013年。

■授業外学習

【具体的な内容】
卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、多くの時間を割いて論文作成に努めること。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	有澤 恒夫

■講義の目的および概要

春学期の演習は、「対人能力の向上」がテーマです。対人関係やコミュニケーション能力を高めるための考え方や概念を紹介します。その上で、これから色々な人と交流を持つ必要がある学生の皆さんが、組織のなかで他者と自分が生産的な人間関係を築き、仕事を成功させるうえで欠かせない対人対応能力を修得する手がかりをつかむことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講者は単に学習するだけでなく、学んだことを実践的に使える状態(=スキル)にしなければなりません。そのために、演習、ロールプレイ、対話を頻繁に活用しますので、受講者の積極的な授業参加を前提としています。
担当教員は、企業で人事労務管理を担当した実務家教員です。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回考えたことや質問を自由にmanaba等に記述してください。担当教員がそれに対するコメントを記入して返します。

■授業計画

1. はじめに
 2. コミュニケーション能力
 3. 人と習慣
 4. ソーシャル・スタイル
 5. 相手のスタイルを知るスキル
 6. 相手のスタイルを知る
 7. 共感性
 8. 共感を高めるスキル
 9. 柔軟性
 10. 柔軟性を高めるスキル
 11. 防衛的コミュニケーション
 12. 緊張とコミュニケーション
 13. 緊張緩和のスキル
 14. アナログコミュニケーション
 15. デジタルコミュニケーション
- (注) 授業計画は変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 人の言動の特徴とその違いを理解できる。
2. 柔軟にコミュニケーションができる。
3. 苦手なタイプの人とでも生産的な対人関係がつかれる。
4. 多数の人前で効果的に交流できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発言・ディスカッション等授業への参画(30%)、研究発表(30%)レポート(40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料を配布します。

【参考文献】

演習で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前配布資料とレジュメ、参考図書による学習

【必要な時間】

予習、復習各2時間程度

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

北海道、日本、そして世界各国における人びとの暮らしや生活、社会、経済について「観光と文化のつながり」という観点から探究することは、多国籍・多文化の国際観光を学ぶ上で必要な視座であると考えます。本演習では、こうした観点から国際観光による国境を越えた相互理解と異文化交流に対する知見を深め、実践的に学ぶことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査、ディスカッション、レポート作成に取り組みます。またグループワークを通じて、学生自身によるテーマ設定、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

受講生に毎回提出してもらった授業レポートを添削し、返却します。また、授業内で受講生全員にも内容を共有し、ディスカッションした上でコメントと解説を行います。

■授業計画

- ①概要説明、授業計画
- ②北海道の伝統文化と国際交流
- ③北海道の観光資源と海外発信
- ④北海道観光と国際協力
- ⑤第1回フィールドワーク
- ⑥海外の文化観光と観光文化
- ⑦日本の文化観光と観光文化
- ⑧北海道の文化観光と観光文化
- ⑨第2回フィールドワーク
- ⑩グループワーク1：個別テーマ設定、研究計画
- ⑪グループワーク2：情報収集、文献資料調査
- ⑫グループワーク3：調査結果の分析・整理
- ⑬第3回フィールドワーク
- ⑭グループワーク4：発表準備
- ⑮プレゼンテーション

※以上の構成で進める予定ですが、受講生の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光と文化のつながりに関するグローバルな知識を習得する。
- ・観光と人間の生活、社会、経済との関係性を理解し、自分の言葉で説明することができる。
- ・グループワークやフィールドワークに積極的に取り組み、共同作業する能力やコミュニケーション能力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業レポート：30%
 プレゼンテーション：30%
 グループワーク・フィールドワーク：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します。

【参考文献】

UNWTO『International Tourism Highlights 2019』UNWTO, 2019年.
 山下晋司『観光人類学の挑戦』講談社, 2009年.
 Edward M. Bruner (安村克己・遠藤英樹他訳)『観光と文化』学文社, 2007年.

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習としては、文献資料の熟読、発表資料の作成、プレゼンテーションの準備作業が必要になります。事後学習としては、授業時間外に集まってグループワークを行い、学習内容の振り返り・まとめの作業に取り組みます。さらに授業内容に関連するニュースや映画、ドキュメンタリー番組なども意識的に見るようにしましょう。

【必要な時間】

事前・事後学習ともに2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークにかかる費用は原則自己負担ですが、一部補助があります。北海道の観光を通じた国際理解と異文化交流に強い関心をもって実践すること。皆で協力し合いながら、チームワークを大切に、難しいことも大変な作業も意欲的に取り組む姿勢で本演習に臨んでください。一緒に楽しく頑張りましょう。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習では本邦エアラインを4つのカテゴリー（FSC、準FSC、地域航空、LCC）に分類し、それぞれの特性およびビジネスモデルについて分析しつつ、今後のあるべき役割・立ち位置等について追求していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各本邦エアラインの特性と役割について考察し、多様化する旅客ニーズに対応していく為のそれぞれの役割分担について、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から分析・研究を行っていく。中間および最後に研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①ガイダンス メンバー紹介&ゼミの進め方について
- ②本邦キャリアの歴史と現状
- ③大手フルサービスキャリア（FSC）の現状分析（ANA、JAL）
- ④非LCC大手系列キャリアの現状分析（AKX、AJX、HAG、JTA、JLJ、JAC）
- ⑤非LCC独立系キャリアの現状分析（ADO、SNJ、SFJ、SKY、IBE、FDA他）
- ⑥非LCC地域型キャリアの現状分析（AHX、ORC、RAC他）
- ⑦ローコストキャリア（LCC）の現状分析（APJ、TZP、SOJ、JJP他）
- ⑧中間発表会
- ⑨中間発表会の振り返りと今後の進め方
- ⑩各キャリアにおけるカテゴリー別「強みと弱み」分析1
- ⑪各キャリアにおけるカテゴリー別「強みと弱み」分析2
- ⑫各個別キャリアに対する施策提言
- ⑬最終発表会に向けたワーク
- ⑭最終発表会
- ⑮秋学期に向けての打ち合わせ

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各本邦キャリアが持っているそれぞれの役割やポテンシャルについて分析し、今後更に発展していく為の施策について、独自の発想と視点を持って論理的に提言できるレベルになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 20%
発表会の内容（中間および最終） 30%
課題・レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

- ①エアライン・ビジネス入門 第2版 稲本恵子 2,000円（税別）
- ②エアライン・マネジメント ～戦略と実践～ 日本航空株式会社 2,400円
- ③こんなに違うJALとANA 杉浦一機 800円（税別）
- ④ANA苦闘の1000日 高尾泰朗 1,800円（税別）

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	黄 旭暉

■講義の目的および概要

現在、そして、未来においても様々な文化を持つ人と接し、また、共生することが日常となる中で、誰もが大なり小なり感じるものがカルチャーショックであろう。全く異なる環境の中で育った者同士がある日を境に共に生活するというのは容易なことではない。その際に、できる限り他との摩擦が生じないようにするためには、他文化を知り、自文化を再認識し、そして、他文化を理解することである。そうするためには、まず、これまでどのようなことに対してカルチャーショックを感じたのか、なぜそう感じたのかについて掘り下げてみるのが重要となる。ゼミ生全員で感じたカルチャーショックを出し合い、他文化を知るとともに自文化にも意識を向け、自他文化を理解する思考をトレーニングし、また、具体的なカルチャーショックの事例に沿って、文化摩擦を避ける方法について検討する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パソコンやインターネットなどを用いることによってより効果的な授業内容にし、多様性のある講義形式を取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中に問題意識を持たせ、履修者に質問や意見を提出させ、そのフィードバックで講義を進行する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②漢字圏（特に台湾人）の文化紹介
- ③漢字圏（特に香港人）の文化紹介
- ④漢字圏（特に中国人）の文化紹介
- ⑤漢字圏（特にシンガポール人）の文化紹介
- ⑥漢字圏（特にマレーシア人）の文化紹介
- ⑦韓国人の文化紹介
- ⑧これまでの授業内容のまとめと発表の仕方及びグループ分け
- ⑨A組発表および討論
- ⑩B組発表および討論
- ⑪C組発表および討論
- ⑫D組発表および討論
- ⑬E組発表および討論
- ⑭F組発表および討論
- ⑮今期授業内容のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

異文化の相違点及び共通点を知る

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 1、出席率 30%
- 2、授業での積極性 30%
- 3、プレゼンテーション 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無

【参考文献】

無

■授業外学習

具体的な内容】
問題意識を提示し、ゼミ生自身が積極的に取り組むようにする。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

出張等により上記の授業計画が変更する場合もある。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの基礎編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーションの発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ1：ワインツーリズムによる地域振興
 - ③ ケーススタディ1：募集ツアーの企画作成、販売促進
 - ④ フィールドワーク1：ワイナリーボランティア活動と地域課題調査
 - ⑤ ケーススタディ2：インバウンド向けNPSアップの検証
 - ⑥ ケーススタディ2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ3：SNSを活用したツアーの販売促進
 - ⑨ ケーススタディ3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？
 - ⑫ ケーススタディ4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 中間発表、講評、
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または(土)(日)、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・ グループワークから、実社会で使える共同作業する能力やコミュニケーション能力の習得
- ・ プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力、
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

- ・ 授業レポート提出内容：30%
- ・ フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・ プレゼンテーション（個別研究発表、中間成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ 特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・ なし

■授業外学習

【具体的な内容】

・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。それは日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光系ベンチャー事業者のケーススタディを中心に起業の基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型のアクティブラーニングとする。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②研究計画発表(1)
- ③研究計画発表(2)
- ④研究計画の修正
- ⑤個人研究(1)
- ⑥個人研究(2)
- ⑦個人研究(3)
- ⑧個人研究(4)
- ⑨個人研究(5)
- ⑩個人研究(6)
- ⑪個人研究(7)
- ⑫個人研究(8)
- ⑬個人研究前期発表(1)
- ⑭個人研究前期発表(2)
- ⑮ふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
課題40%
試験30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無

【参考文献】

無

■授業外学習

【具体的な内容】

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地地図製作とそこからの観光空間分析を地理学的に行う。

各自の興味関心に基づいてテーマを設定し、観光空間の詳細を調べ、卒業論文またはゼミ論文にする。その概要については、秋学期に行う「4年演習（応用）」で発表する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分なりのテーマに基づいて計画を立て、各自でフィールドワークをしつつそれを地図化する。そして、それを全員で討論をしながら問題点を指摘しあい、次の発表につなげる。

【課題に対するフィードバックの方法】

ゼミ生全員からの意見をもとに次の発表に活かす。
データ等が足りないと判断した場合は各自で文献調査、現地調査を実施し、よりよい発表を目指す。

■授業計画

- ①ガイダンス1、論文の書き方指導
- ②論文の格子（もくじ）の発表と卒論指導
- ③レジュメ発表1
- ④レジュメ発表2
- ⑤レジュメ発表3
- ⑥レジュメ発表4
- ⑦レジュメ発表5
- ⑧レジュメ発表6
- ⑨レジュメ発表7
- ⑩レジュメ発表8
- ⑪レジュメ発表9
- ⑫レジュメ発表10
- ⑬レジュメ発表11
- ⑭レジュメ発表12
- ⑮パワーポイントによる研究中間発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自ら定めたテーマに基づき論理的にまとめることができる。
- ②他者の発表に対して批判的な見方をし、指摘することができる。
- ③レジュメ発表を通じて、自らの研究を深めることができる。
- ④発表用パワーポイントを作成し、成果発表で自分の研究を論理的に表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|------------------|-----|
| ①卒業論文、テーマ研究の概要表現 | 25% |
| ②他者の発表に対する様子 | 25% |
| ③自らの研究の深化 | 25% |
| ④口頭試問での対応 | 25% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の研究テーマに必要なもの

【参考文献】

各自の研究テーマに必要なもの

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・授業時までに必ずレジユメを用意してくる。
- ・卒論予定者はレジユメ発表後に文章化し、提出する。
- ・必要な現地調査は自分で判断し実施する。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

大学院（札幌国際大学観光学研究科）に進学希望の学生は、必ず「卒業研究」を履修し、卒業論文にすること。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

卒業研究を念頭に置き、音・音楽による「まちおこし」や、それを支える「ひとづくり」について具体的に立案し、音・音楽と観光産業との結びつきについて、具体的な提案をできる基礎を作ります。そのために、音・音楽が人々に与える効用を最終的にはお金に換えて世の中を回していく仕組みを中心にフィールドワークを中心に分析し、アントレプレナー（起業家精神）を育成するために繋げていくことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

卒業研究との連携を図りながらフィールドワークを中心としたゼミナール形式のPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）で実施します。必要に応じて、卒業論文作成の技法を補足しながら学生と教員がコラボレーションして議論や実践に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。学生が主体となって進めていくゼミナールに対するフィードバックを中心に、実践的な場面を想定した助言を行います。また、可能な限り卒業論文の作成へ繋がるような支援を行います。

■授業計画

①イニシャルトーク

『音・音楽によるまちおこしとは何か』（一部YouTube使用）

【Season1】事例検討：音・音楽によるまちおこし（公共的事業）

- ②地元アーティストによる“きよフェス”（札幌市清田区）
- ③アルテ・ピアッツァ美瑛：木造校舎がリノベーションでアート空間に
- ④いわみざわJOIN ALIVE：NPO法人という立ち位置
- ⑤Season1のまとめ

学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season2】事例研究の目線：音・音楽によるまちおこしの見方（民間事業）

- ⑥防災×音楽が観光にもなる？ 防災音楽ユニットBloom Works（神戸）
- ⑦菓子店が音楽ホールに！六花亭の不思議店舗（帯広・中札内・札幌）
- ⑧音・音楽を売るのか、音・音楽で売るのが
- ⑨収益が必要とされる場合とされない場合
- ⑩音・音楽＋[]＝〇〇〇、音・音楽×[]＝□□□
- ⑪Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season3】音・音楽によるまちおこしの事例を集める

- ⑫学生が集めた事例発表と検討会その1
- ⑬学生が集めた事例発表と検討会その2
- ⑭学生が集めた事例発表と検討会その3
- ⑮Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

音・音楽による「まちおこし」や「ひとづくり」について、自分なりの考えをもち、それを人に伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A: 各回の最後のコメントシート（①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭）12回×5点＝60点
評価の観点：理解度について評価する。
- B: 各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season1：10点、Season2：10点、Season3：10点 合計30点
評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C: ⑫⑬⑭の事例発表と検討会の報告書：10点 A+B+C＝100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『まちづくり幻想』ISBN9784815609122 ※本学図書館に所蔵

■授業外学習

【具体的な内容】

◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修：卒業研究（卒論）作成を視野に入れながら、授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。また、卒業研究（卒論）と連携した授業内容とするため、個別に授業の方法を変える場合があります。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「韓国」というテーマを大きな軸として「異文化コミュニケーション」及び「国際観光」についてみなさんと一緒に研究・発表・討論などを行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム（manaba）などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice：受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス（授業目標・計画・評価等について）
- ② 国際観光探求（韓国）1
- ③ 国際観光探求（韓国）2
- ④ 国際観光探求（韓国）3
- ⑤ 国際観光探求（韓国）4
- ⑥ 研究テーマ設定中間発表
- ⑦ 国際観光探求（韓国）5
- ⑧ 国際観光探求（韓国）6
- ⑨ 研究テーマの設定および研究計画報告
- ⑩ グループワーク1
- ⑪ グループワーク2
- ⑫ グループワーク3
- ⑬ プレゼンテーション1
- ⑭ プレゼンテーション2
- ⑮ プレゼンテーション3

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識（観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など）を理解し、積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション（40%）＋学期末課題（40%）」になりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など（20%）も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は使いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初中級以上の韓国語能力を要します。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

ホテル業界、ブライダル業界共に今日まで様々な歴史や変遷、トピックスがありました。また現在は、コロナの影響を受けながら、多少、回復に向かう業界の姿があります。その中で、以前にはない多方面からの商品造成やサービスの在り方などを模索していますが、今、更に何をしなければならぬか、課題を見出し、解決策を考え、将来に繋げていかななくてはなりません。本演習は、ホテル業界またはブライダル業界の様々なテーマに対し、グループワークにより調査・研究を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各テーマに対し、教員より概略説明を行います。グループワークによりそのテーマを調査・研究・発表を行っていただきます。発表された内容に対し全体でディスカッションをしながら内容をブラッシュアップしていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
(以下、前年のテーマ例)
- ②ブライダルの歴史
- ③ブライダルの歴史調査1
- ④ブライダルの歴史調査2
- ⑤ブライダルの歴史調査3
- ⑥ブライダルの歴史調査4
- ⑦ブライダルの歴史まとめ1
- ⑧ブライダルの歴史まとめ2
- ⑨発表とディスカッション
- ⑩ブライダル業界の現状
- ⑪ブライダル業界の課題の抽出1
- ⑫ブライダル業界の課題の抽出2
- ⑬ブライダル業界の課題と解決策1
- ⑭ブライダル業界の課題と解決策2
- ⑮発表とディスカッション、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日本における婚礼の歴史や業界が抱える課題や現状について調査・分析等を行う事で理解を深め、説明ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|-----------------|-----|
| ①グループワークの取組み姿勢 | 50% |
| ②ディスカッションの取組み姿勢 | 50% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありません。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
SNSやニュースなどでホテル業界やブライダル業界の話題に興味・関心を持つ。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	斉藤 巧弥

■講義の目的および概要

本演習では、社会学の視点からさまざまな観光現象について考えるための知識を学習します。観光をめぐる私たちの行動パターンや規範、規則などに着目することで、観光現象について「あたりまえ」だと思っていたことを解きほぐしていきます。秋学期の演習に向けた準備として、受講者による発表を主な活動として進めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講者による調査・報告を中心的な活動とします。一般的な社会調査の手順に従って授業を進めていきます。受講者は興味のあるテーマを設定し、文献を読んだりすることで先行研究についてまとめ、発表します。

本演習では、社会学を専門に研究教育の実務経験のある教員と共に学習をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

報告・ディスカッションに対して、授業内でフィードバックをします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②社会調査について
- ③テーマ設定
- ④先行研究の収集
- ⑤先行研究のまとめI
- ⑥先行研究のまとめII
- ⑦先行研究のまとめIII
- ⑧先行研究のまとめIV
- ⑨発表・ディスカッション
- ⑩テーマ推敲
- ⑪先行研究のまとめI
- ⑫先行研究のまとめII
- ⑬先行研究のまとめIII
- ⑭先行研究のまとめIV
- ⑮発表・ディスカッション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会学の視点から観光現象について理解できる。社会調査を用いて身の回りの出来事を調査できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発表：60%

最終レポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ありません

【参考文献】

適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃からニュース・新聞・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集し、基礎知識の理解を深めると同時に、興味のある文献を探求してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

3年次の演習では日本の観光産業の現状や展望、北海道観光関連施設や関連業種の事例分析を研究してきたことと思います。

この4年次の基礎演習では、関連して観光サービス産業の大きな傘の中でも基幹産業に位置づけられる宿泊施設に焦点をあて研究を進めます。北海道内の宿泊施設は都市型ホテル・山岳リゾート・温泉地ホテル旅館・ライフスタイル系、スポーツ系、民泊・農泊・ゲストハウスなど多くのカテゴリーが存在する中から、特徴あるコンセプトを持つ宿泊施設をチョイスして研究を進めます。施設訪問・調査・課題・問題点抽出などフィールドワークを通して実際に見て体験し知識を蓄え業界の将来展望を考察します。最後には今後の宿泊施設の継続的な発展に向けた課題・問題点を抽出・研究し、解決策をまとめ提案することを目的とします。特に観光関連産業を選択肢としている学生には、訪れた施設の責任者から生の話を聞くことにより、進路選択に有効な演習を目指します。授業は秋学期の応用演習に連動していきます。

ホテル・マネジメント技能国家検定試験は、毎年9月学科試験、12月実技試験が実施されます、将来マネジメントに有益な資格取得に是非挑戦して下さい。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・宿泊産業界で長く経営・運営・開発業務で研鑽を積む教員が、宿泊産業の実状や展望について分かり易く解説します。また、社会人として巣立つ学生が身につけておくべき「基本的な姿勢」「礼儀・身だしなみ・心構え」をレクチャーします。
・教員が持つネットワークを活用し北海道内の特徴がある宿泊施設を訪問するフィールドワークを積極的に取り入れ思考や知識の幅を広げるサポートをおこないます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- ① 演習ガイダンス : 演習の概要説明、目的・目標の解説、評価方法等
- ② 宿泊施設の各種分類と経営形態 : フィールドワークに必要な基礎編復習
- ③ グループワークの課題提示
- ④ 【A】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ⑤ フィールドワークの実施
- ⑥ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑦ 【B】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ⑧ フィールドワーク実施
- ⑨ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑩ 【C】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ⑪ フィールドワークの実施
- ⑫ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑬ フィールドワークの成果発表 課題解決にむけての提案①
- ⑭ フィールドワークの成果発表 課題解決にむけての提案②
- ⑮ 総括・評価対象レポート作成

※授業の順番や内容を変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 宿泊ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② 施設の所有・経営・運営に必要なとされる専門知識を習得する
- ③ 施設開発に必要なとされる専門知識を習得する
- ④ 国際的視野を醸成する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) : 専門知識・技能を活用する能力
(DP4) : 多様性の理解と協働する力
(DP5) : 能動的に学び続ける力
(DP6) : 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

2つの評価項目総合点(100点満点)により単位認定をおこなう

- ・授業態度・発表の参加度・積極性 : 配分40%(40点)
- ・春学期評価対象レポート : 配分60%(60点)

■テキスト・参考文献

【テキスト・参考書・業界情報】

- ・テキスト購入は必要ありません。
- ・必要に応じ資料・業界情報をを適宜お知らせします。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・観光に関する情報、ニュースに常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。
- ・日々より関連情報にアンテナを張り収集に努める。

■その他

- ・宿泊施設を対象に、フィールドワークを行います。
- ・交通費、食事代等の費用が一人3,000円/毎程度必要になります。
- ・訪問施設の状況により土・日の実施がありえるのでアルバイト等の日程調整は必須。
- ・FW実施日に他の履修講義に遅刻や欠席となる場合は事前にお知らせください。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	有澤 恒夫

■講義の目的および概要

ビジネスにプレゼンテーションは欠かせないものになりました。これから働く場にもAI（人工知能）がどんどん進出するでしょう。AI時代に人間が行うプレゼンテーションの意義は一体何でしょうか。

聴き手が人間であるかぎり、人間の真のニーズや期待を理解し、機転を利かせて臨機応変に対応できるプレゼンテーションがより重要になっています。効果的なプレゼンテーションの方法を知識とスキルの両面から体系的に学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

プレゼンテーション能力を高めるための考え方や方法を紹介します。受講者は単に学習するだけでなく、学んだことを実践的に使える状態（＝スキル）にならなければなりません。そのために、演習、ロールプレイ、対話を頻繁に活用しますので、受講者の積極的な参加を前提としています。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎思考えたことや質問を自由にmanaba等に記述してください。担当教員がそれに対するコメントを記入して返します。

■授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 プレゼンの意義
- 3 プレゼンの効果的な実施
- 4 プレゼンを成功させる
- 5 望ましいプレゼン
- 6 プレゼン演習①
- 7 プレゼン演習②
- 8 計画と準備
- 9 関心を呼ぶ
- 10 展開する
- 11 訴求する
- 12 終了する
- 13 効果的なスキル
- 14 演習・フィードバック①
- 15 演習・フィードバック②

(注) 授業計画は変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

効果的なプレゼンテーションの方法を知識とスキルの両面から体系的に学ぶことができる。簡潔、明瞭、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発言・ディスカッション等演習への参画（30%）、研究発表（30%）レポート（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料を配布します。

【参考文献】

授業で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
事前配布資料とレジュメ、参考図書による学習

【必要な時間】
予習、復習各2時間程度

■その他

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

本演習では「観光と文化のつながり」というテーマの応用編として、北海道を舞台に自然や文化、人々の暮らしや交流に対する観光行動についてさらに知見を深めます。国際的な観光文化領域の研究を通して、特に北海道の観光資源や魅力を国内・海外に発信することの可能性を探求し、国際協力やボランティア活動に参加しながら実践することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査、レポートの作成、ディスカッションを行います。また、グループワークを通じて、学生自身によるテーマ設定、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

受講生から毎回提出してもらった授業レポートを添削し、返却します。また、授業内で受講生全員にも内容を共有し、ディスカッションをした上でコメントや解説を行います。

■授業計画

- ①概要説明、授業計画
- ②暮らしと交流に対する観光行動
- ③国際観光の社会的・文化的効果
- ④自然と文化の保全・共存をめざす観光
- ⑤第1回フィールドワーク
- ⑥北海道での異文化交流と国際理解
- ⑦北海道の文化と観光の持続可能性
- ⑧第2回フィールドワーク
- ⑨国際観光と北海道の地域活性化
- ⑩北海道の国際観光による教育効果
- ⑪グループワーク1：テーマ設定、研究計画
- ⑫グループワーク2：情報収集、文献資料調査
- ⑬グループワーク3：調査結果の分析・整理
- ⑭最終成果発表会準備
- ⑮最終成果発表会

※以上の内容を進める予定ですが、受講生の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・北海道から発信する国際観光に必要な多国間の相互理解と異文化交流に関する知識を習得する。
- ・「観光と文化のつながり」という観点から、観光を取り巻く人間の行動や生活環境との関連性について説明することができる。
- ・グループワークやフィールドワークに主体的に取り組み、リーダーシップと協調性を備えたコミュニケーション能力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 授業レポート：30%
- フィールドワーク：30%
- 個別研究発表・最終成果発表：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します。

【参考文献】

橋本和也『地域文化観光論：新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版、2018年。
機関誌『観光文化』日本交通公社、1976-

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習としては、文献資料の熟読、発表資料の作成、プレゼンテーションの準備作業を行います。事後学習としては、授業内容の振り返り・まとめについてのレポート作成に取り組みます。さらに演習テーマに関連するボランティア活動にも授業外学習として参加します。

【必要な時間】

事前・事後学習ともに2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークにかかる費用は原則自己負担ですが、一部補助があります。本演習では、北海道の観光文化を活かした地域活性化と国際協力に関心を持って、自分に何が出来るかを考えながら取り組む姿勢が求められます。共に頑張りましょう。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習の前半はわが国の航空を取り巻く課題について多角度から整理・分析を試みる。後半は各々が個別の課題を選定し、それぞれの課題を前進させるための解決策について考察していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

わが国の航空を取り巻く課題について、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から分析・考察を行っていく。最後にそれぞれの課題に応じた解決策について研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①演習（基礎）の振り返り、今後の進め方
- ②わが国の航空を取り巻く環境と課題①（総論）
- ③わが国の航空を取り巻く環境と課題②（発着枠制限）
- ④わが国の航空を取り巻く環境と課題③（空港立地と空港アクセス）
- ⑤わが国の航空を取り巻く環境と課題④（公租公課と空港使用料）
- ⑥わが国の航空を取り巻く環境と課題⑤（空港運用時間）
- ⑦わが国の航空を取り巻く環境と課題⑥（JR等其他交通手段との競争）
- ⑧わが国の航空を取り巻く環境と課題⑦（外航との競争、その他）
- ⑨これまでのまとめと各人の課題テーマの選定
- ⑩フィールドワークに向けた準備
- ⑪フィールドワーク1（関係航空会社訪問）
- ⑫フィールドワーク2（関係航空会社訪問）
- ⑬フィールドワークの振り返りと最終発表会に向けたワーク
- ⑭発表会
- ⑮発表会の振り返りと1年間の成果の確認

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

わが国の航空を取り巻く環境や課題について正確に分析し、航空業界を更に発展させていく為の具体的施策について、独自の発想と視点を持って他者に論理的に提言できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 20%
最終発表会の内容 30%
課題・レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

- ①エアライン・ビジネス入門 第2版 稲本恵子 2,000円（税別）
- ②エアライン・マネジメント ～戦略と実践～ 日本航空株式会社 2,400円
- ③こんなに違うJALとANA 杉浦一機 800円（税別）
- ④ANA苦闘の1000日 高尾泰朗 1,800円（税別）

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークの実施に伴い、交通費（新千歳空港予定）及び諸費用として一人3,000円～5,000円程度必要となります。訪問航空会社は別途調整。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	黄 旭暉

■講義の目的および概要

日本人観光客がアジア圏内を観光する際、遭遇した異文化に如何に対応するかについて学ぶとともに、それを通して自文化についても理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パソコンやインターネットなどを用いることによってより効果的な授業内容にし、多様性のある講義形式を取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中に問題意識を持たせ、履修者に質問や意見を提出させ、そのフィードバックで講義を進行する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②観光地が中国の場合
- ③観光地が台湾の場合
- ④観光地が香港、マカオの場合
- ⑤観光地がシンガポールの場合
- ⑥観光地がマレーシアの場合
- ⑦観光地が韓国の場合
- ⑧これまでの授業内容のまとめと発表の仕方について
- ⑨A組発表および討論
- ⑩B組発表および討論
- ⑪C組発表および討論
- ⑫D組発表および討論
- ⑬E組発表および討論
- ⑭F組発表および討論
- ⑮学科全体の発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日本人観光客の自他文化の把握

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 1、出席率 30%
- 2、授業での積極性 30%
- 3、テスト 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無

【参考文献】

無

■授業外学習

【具体的な内容】

問題意識を提示し、履修生自身が積極的に取り組むようにする。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

出張等により上記の授業計画が変更する場合もある。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの応用編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーションの発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ 1：ワインツーリズムによる地域振興（後編）
 - ③ フィールドワーク 1：ワイナリーボランティアツアー参加
 - ④ フィールドワーク 1：ワイナリーボランティアツアー参加
 - ⑤ ケーススタディ 2：インバウンド向けNPSアップの検証（後編）
 - ⑥ ケーススタディ 2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク 2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ 3：SNSを活用したツアーの販売促進（後編）
 - ⑨ ケーススタディ 3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク 3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ 4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？（後編）
 - ⑫ ケーススタディ 4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク 4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 最終成果発表
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・グループワークから、実社会で使える共同作業する能力やコミュニケーション能力の習得
- ・プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

- ・授業レポート提出内容：30%
- ・フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・プレゼンテーション（個別研究発表、中間成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。それは日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関連している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光系ベンチャー事業者のケーススタディとを中心に起業の基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型・アクティブラーニング授業とする。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②個人研究 (1)
- ③個人研究 (2)
- ④個人研究 (3)
- ⑤個人研究 (4)
- ⑥個人研究 (5)
- ⑦個人研究 (6)
- ⑧中間発表
- ⑨中間発表
- ⑩発表用資料作成 1
- ⑪発表用資料作成 2
- ⑫発表用資料作成 3
- ⑬グループディスカッション 個別指導
- ⑭グループディスカッション 個別指導
- ⑮ゼミ成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
課題40%
授業内試験30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無し

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事業化が現実的なものは、外部講師等と連携をして実際に立ち上げて行くことも視野に入れる。各自のキャリアの一環として真剣に取り組むこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地地図製作とそこからの観光空間分析を地理学的に行う。

各自の興味関心に基づいてテーマを設定し、観光空間の詳細を調べ、卒業論文またはゼミ論文にする。その概要については、発表会で披露する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分なりのテーマに基づいた内容をレジュメやパワーポイントで発表し、批判を受けながら内容を深化させる。そして、それを文章化し、論文にまとめあげる。

【課題に対するフィードバックの方法】

ゼミ生全員からの意見をもとに次の発表に活かす。
データ等が足りないと感じた場合は各自で文献調査、現地調査を実施し、よりよい論文を目指す。

■授業計画

- ①研究状況の確認
- ②レジュメ発表 1
- ③レジュメ発表 2
- ④レジュメ発表 3
- ⑤レジュメ発表 4
- ⑥レジュメ発表 5
- ⑦レジュメ発表 6
- ⑧レジュメ発表 7
- ⑨研究発表会にむけて 1
- ⑩研究発表会にむけて 2
- ⑪研究発表会にむけて 3
- ⑫研究発表会にむけて 4
- ⑬研究発表会にむけて 5
- ⑭パワーポイントによる研究発表会
- ⑮口頭試問、論文作成・成果発表会へむけて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自ら定めたテーマに基づき論理的な論文にまとめることができる。
- ②発表を通じて、自らの研究を深めることができる。
- ③他者の発表に対して批判的な見方をし、指摘することができる。
- ④成果発表、口頭試問で自分の研究を論理的に表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------------|-----|
| ①卒業研究活動の完成度 | 25% |
| ②卒業研究活動の深化 | 25% |
| ③他者の発表に対する様子 | 25% |
| ④成果発表の様子、口頭試問での対応 | 25% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の論文テーマによるもの

【参考文献】

各自の論文テーマによるもの

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・授業時までには必ずレジюмеやパワーポイントを用意してくること。
- ・レジюме発表後に文章化し、提出すること。
- ・必要な現地調査は各自で判断し実施すること。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

大学院（札幌国際大学観光学研究科）に進学希望の学生は、必ず「卒業研究」を履修し、卒業論文にすること。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

春学期の学びを踏まえ、音・音楽による「まちおこし」の仮想的観光商品を企画します。また、その企画から具現化が可能なものを仮想実践または実際に試行し、それらの分析結果から、音・音楽によるまちづくり・ひとづくりのノウハウをまとめ、可能な限り卒業論文の作成へと繋げます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

卒業研究との連携を図りながらゼミナール形式のPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）で実施します。必要に応じて、卒業論文作成の技法を補足をしながら学生と教員がコラボレーションして議論や実践に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。学生が主体となって進めていくゼミナールに対するフィードバックを中心に、実践的な場面を想定した支援を行います。

■授業計画

【Season4】春学期に収集した事例の分析

- ①基調対談：音・音楽による「まちおこし」の現場から（一部YouTube）
- ②グループ・ワーク第1回：音・音楽を商品化するために必要なこと
- ③グループ・ワーク第2回：観光商品化のキャッシュフロー
- ④グループ・ワーク第3回：ローンチ（launch）・カスタマーの獲得と回帰
- ⑤発表：グループワークのまとめを発表する（※1）

【Season5】グループ・ワークによるプランニング

- ⑥グループ・ワーク第1回：収益化できる観光商品を企画する
音・音楽による「まちおこし」で収益化が見込める観光商品を企画する。単にアイデアを出し合うだけでなく、必要な経費についても試算する。
- ⑦グループ・ワーク第2回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑧グループ・ワーク第3回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑨グループ・ワーク第4回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑩発表：企画した観光商品を発表する（※2）

【Final Season】仮想実践で顧客の反応を確かめる

- ⑪グループ・ワーク第1回：YouTuberからのメッセージとSeason5の企画の修正
 - ⑫グループ・ワーク第2回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成（※3）
 - ⑬グループ・ワーク第3回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
 - ⑭グループ・ワーク第4回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
 - ⑮まとめ：YouTube動画へのダイレクトコメントの紹介、PDCAやルーブリックといった評価方法の紹介、授業評価
- ※1：発表の媒体は、紙媒体（レジュメ）、パワーポイント（スライドショー）、YouTube（動画）などが想定されるがどれを採用するかは各グループの自由とします。

※2：発表した内容については相互評価（ピア・レビュー）を行います。
 ※3：作成した動画は河本洋一研究室のWebサイトで公開し、学外から投票やコメントを聴取します。また、試行可能と判断した企画は実際に実践することもあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

グループ・ワークで学生同士の意見交流を図りながら、音・音楽によるまちづくりの商品開発（仮想）し、その成果を評価することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A: 各回の最後のコメントシート（①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭）12回×5点＝60点
 評価の観点：グループ・ワークへの貢献度を評価する。
- B: 各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
 Season4：10点、Season5：10点、Final Season：10点 合計30点
 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C: 仮想企画評価：10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『まちづくり幻想』ISBN9784815609122 ※本学図書館に所蔵

■授業外学習

【具体的な内容】

◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修：卒業研究（卒論）作成を視野に入れながら、授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。また、卒業研究（卒論）と連携した授業内容とするため、授業計画や方法に変更を加える場合があります。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「4年演習(基礎)」で習得した知識を踏まえて「韓国における言語・文化」および「韓国における観光事情」に関する知見を深めていきます。なお、関心のあるテーマにどのような課題があるか情報収集を行い、ゼミのメンバーと協力し合いながら発表・議論を行うことで専門性・協調性・自主性を育てていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice: 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 研究テーマ設定に際するミーティング, 概説1
- ③ 研究テーマの確定, 概説2
- ④ 発表順の確定, 概説3
- ⑤ プレゼンテーションの準備方法
- ⑥ 研究発表1
- ⑦ 研究発表2
- ⑧ 研究発表3
- ⑨ 研究発表4
- ⑩ 研究発表5
- ⑪ 研究発表6
- ⑫ 研究発表7
- ⑬ 研究発表8
- ⑭ 研究発表9
- ⑮ 4年演習成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は用いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初中級以上の韓国語能力を要します。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

春学期に引き続き、ホテル業界またはブライダル業界の様々なテーマに対し、グループワークにより調査・研究を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各テーマに対し、教員より概略説明を行います。グループワークによりそのテーマを調査・研究・発表を行っていただきます。発表された内容に対し全体でディスカッションをしながら内容をブラッシュアップしていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②グループごとにテーマ検討
- ③～⑥調査、分析、課題と解決策
- ⑦発表とディスカッション
- ⑧フィールドワーク
- ⑨フィールドワーク
- ⑩フィールドワーク
- ⑪ホテル業界、ブライダル業界でのクレームの調査
- ⑫ホテル業界、ブライダル業界でのクレームの調査
- ⑬ホテル業界、ブライダル業界でのクレームの対応と今後の対策
- ⑭発表とディスカッション
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

業界が抱える課題や現状について調査・分析等を行う事で理解を深め、説明ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|-----------------|-----|
| ①グループワークの取組み姿勢 | 40% |
| ②ディスカッションの取組み姿勢 | 40% |
| ③レポート | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありません。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

SNSやニュースなどでホテル業界やブライダル業界の話題に興味・関心を持つ。

【必要な時間】

事前・事後の学修時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワーク時の交通費、ホテルでの昼食（テーブルマナー）代として合計3,000円～5,000円程度の費用が掛かります。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	斉藤 巧弥

■講義の目的および概要

本演習では、社会学の視点からさまざまな観光現象について調査を進めます。春学期でまとめた先行研究を土台として、具体的なテーマを確定させ、調査を進めていきます。観光をめぐる私たちの行動パターンや規範、規則などを自らの調査によって明らかにしていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講者による調査・報告を中心的な活動とします。受講者は自身で設定したテーマにしたがって調査を行い、それを授業で発表してもらいます。本演習では、社会学を専門に研究教育の実務経験のある教員と共に学習をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

報告・ディスカッションに対して、授業内でフィードバックをします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②テーマの検討
- ③調査I
- ④調査II
- ⑤調査III
- ⑥調査IV
- ⑦分析I
- ⑧分析II
- ⑨分析III
- ⑩分析IV
- ⑪発表・ディスカッション
- ⑫発表準備I
- ⑬発表準備II
- ⑭発表準備III
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会学の視点から観光現象について理解できる。社会調査を用いて身の回りの出来事を調査できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発表：60%
 最終レポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ありません。

【参考文献】

適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃からニュース・新聞・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集し、基礎知識の理解を深めると同時に、興味のある文献を探求してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

春学期の基礎演習に引き続き応用演習は、観光サービス産業の中でも基幹産業に位置づけられる宿泊施設に焦点をあて研究を続けます。
 北海道内の宿泊施設は都市型ホテル・山岳リゾート・温泉地ホテル旅館・ライフスタイル系、スポーツ系、民泊・農泊・ゲストハウスなど多くのカテゴリーが存在する中から、特徴あるコンセプトを持つ宿泊施設をチョイスして研究を進めます。
 視察可能であれば建設中の宿泊施設や観光施設も対象にします。
 施設訪問・調査・課題・問題点抽出などフィールドワークの学びを通して実際に見て体験し知識を蓄え業界の将来展望を考察します。最後には今後の宿泊産業の継続的な発展に向けた課題・問題点を抽出・研究し、解決策をまとめ提案することを目的とします。
 特に観光関連産業を進路先とした学生には、訪れた施設の有益な話を聴き自身の将来に役に立つ演習を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・宿泊産業界で長く経営・運営・開発業務で研鑽を積む教員が、宿泊産業の実状や展望について分かり易く解説します。また、社会人として巣立つ学生が身につけておくべき「基本的な姿勢」「礼儀・身だしなみ・心構え」をレクチャーします。
 ・教員が持つネットワークを活用し北海道内の特徴がある宿泊施設を訪問するフィールドワークを積極的に取り入れ思考や知識の幅を広げるサポートをおこないます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- ① 秋学期応用演習ガイダンス : 演習の概要説明、目的・目標の解説、評価方法等
- ② グループワークの課題提示
- ③ 【D】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ④ フィールドワークの実施
- ⑤ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑥ 【E】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ⑦ フィールドワーク実施
- ⑧ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑨ 【F】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ⑩ フィールドワークの実施
- ⑪ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑫ フィールドワークの成果発表 課題解決にむけての提案①
- ⑬ フィールドワークの成果発表 課題解決にむけての提案②
- ⑭ 秋学期評価対象 課題レポート作成(授業内作成)
- ⑮ まとめ: 4年次演習総括

※授業の順番や内容を変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 宿泊ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② 施設の所有・経営・運営に必要なとされる専門知識を習得する
- ③ 施設開発に必要なとされる専門知識を習得する
- ④ 国際的視野を醸成する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) : 専門知識・技能を活用する能力
 (DP4) : 多様性の理解と協働する力
 (DP5) : 能動的に学び続ける力
 (DP6) : 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

2つの評価項目総合点(100点満点)により単位認定をおこなう

- ・授業態度・発表の参加度・積極性 : 配分40%(40点)
- ・春学期評価対象レポート : 配分60%(60点)

■テキスト・参考文献

【 テキスト・参考書・業界情報 】

- ・テキスト購入は必要ありません。
- ・必要に応じ資料・業界情報を適宜お知らせします

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・観光に関する情報、ニュースに常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。
- ・日々より関連情報にアンテナを張り収集に努める。
- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・宿泊施設を対象に、フィールドワークを行います。
- ・交通費、食事代等の費用が一人6,000円/毎程度必要になります。
- ・訪問施設の状況により土・日の実施がありえるのでアルバイト等の日程等の事前調整は必須。
- ・FW実施日に他の履修講義に遅刻や欠席となる場合は事前にお知らせください。

科目名	ホスピタリティ論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	中里 のぞみ

■講義の目的および概要

経済のサービス化が進む現代において顧客満足を高めていくためにはホスピタリティは不可欠である。あらゆる企業がサービス競争下におかれているため、ホスピタリティやホスピタリティ経営は必要である。企業存続のための顧客創造と維持のキーワードのひとつがホスピタリティであるといえよう。観光を学ぶ上でも重要であるホスピタリティへの理解を深め、企業の実践事例などを活用しつつ、具体的かつ総合的に学ぶことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを使用しながらホスピタリティの歴史・ホスピタリティマインドとスキル・ホスピタリティマネジメントを学んでいく。
CAとしての実務経験に基づき、社会人となった時に有益であるような事例を用いて事例検討する。
ホスピタリティ経営についてグループディスカッションし、プレゼンテーションによって共有化を図る。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションについては、随時、授業内でフィードバック。レポートなどの課題については精査後フィードバックする。

■授業計画

- ①ホスピタリティとは
- ②ホスピタリティが求められる背景
- ③経済のサービス化
- ④サービスとホスピタリティ
- ⑤ホスピタリティのマインドとスキル
- ⑥ホテルの事例から学ぶスキル
- ⑦サービスとコミュニケーション
- ⑧顧客満足と社員満足
- ⑨病院経営から学ぶ働く環境と社員満足
- ⑩クレーム対応とリカバリー
- ⑪顧客満足に繋がる具体策の検討
- ⑫顧客満足に繋がる具体策の提案
- ⑬発表と共有化
- ⑭サービスプロフィットチェーン
- ⑮総括とテスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光業界に求められるホスピタリティの概念とその実践的意味を理解できるようになる。
将来的には組織において顧客満足のマネジメントに活用できるようになる。
ホスピタリティ実践に不可欠なコミュニケーション能力を高め、TPOにあわせて多様な表現力と傾聴力を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

対面授業の場合はテスト60% グループワーク・プレゼンテーション30%
小レポート10%
オンライン授業となった場合はテスト50% レポート50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」
中里のぞみ・紺野猷邦著 株式会社パレード

【参考文献】
「コミュニケーション学」末田清子・福田浩子 株式会社松柏社
「対話でみがくことばの力」宇都宮裕章 カニシヤ出版
「人間尊重の心理学」カール・ロジャーズ 創元社
「ワークショップ心理学」藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子
橋本尚子・東正訓 カニシヤ出版

■授業外学習

【具体的な内容】

授業ではしっかり自分でメモをとり、事後学習として見直しする。
事前学習としてはホスピタリティに関連するニュースなど必要な情報を収集する。
特にグループディスカッションの時は各自責任をもって手分けして情報収集する。

【必要な時間】

事前事後学習には各講義前後にそれぞれ2時間程度を費やすようにする。

■その他

対面授業の場合は私語を慎み、オンライン授業となった場合は自律性をもって授業に参加すること。

科目名	観光英語
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

近年海外へ旅行する人もポストパンデミックインバウンド観光客の増加も予想しており、観光英語に精通する人材が求められている現状を踏まえ、観光英語の習得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光の場面ごとに単語やフレーズを紹介し、会話練習やロールプレイ等を通して実際に使えるよう練習を重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で学生がロールプレイを発表し、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。また定期的に小テストも行い、学習効果を確認します。

■授業計画

- ① Orientation
- ② Unit 1 Travel
- ③ Unit 2 Jobs & People
- ④ Unit 3 Getting on the Plane
- ⑤ Unit 4 At the Immigration and Customs
- ⑥ Unit 1 - 4 Review and Evaluation Test 1
- ⑦ Unit 5 At the Airport
- ⑧ Unit 6 Hotel (Accommodations)
- ⑨ Unit 7 Restaurant
- ⑩ Unit 8 Sightseeing
- ⑪ Unit 5 - 8 Review and Evaluation Test 2
- ⑫ Unit 9 Shopping
- ⑬ Unit 10 Transportation
- ⑭ Additional Unit Traveling in Japan
- ⑮ Unit 9 - A.U. Review and Evaluation Test 3

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

それぞれの場面で使う観光英語を学習し、実際に旅行中や仕事で使えるようになる。また観光英語検定試験3級合格を目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

Evaluation Test 1 (20%)
Evaluation Test 2 (20%)
Evaluation Test 3 (20%)
Homework Assignment (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

English for Tourism (Basic) ベーシック観光英語
観光英検センター編

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で使用する教材の予習・復習をしてください。

【必要な時間】

Manabaにあるリスニングの宿題やリーディングも含め、予習・復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

■その他

観光英語検定試験3級の受験を勧めます。

科目名	観光概論
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	田村 こずえ、藤崎 達也、青木 哲朗

■講義の目的および概要

本講義は、観光学部で観光学を学ぶためのベースとなる科目で、観光という事象を多面的・体系的に理解し、基礎知識を得ると同時に今後の観光学習への関心を喚起することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式での授業ですが、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れます。テキストだけでなく、教員からの補足資料、視聴覚教材などを使用し、理解度を高めます。なお、本講義は、教員の3名の研究分野や実務経験を活かし、オムニバス方式で授業を進めます。①～⑤は田村、⑥～⑩は藤崎、⑪～⑮は青木が担当。

【課題に対するフィードバックの方法】

確認テストやレポートに対するフィードバックは、授業内で実施します。

■授業計画

- ①オリエンテーション 第1部 観光「観光とは」
(第1章) 「観光の現代的意義」(第2章)
 - ②第1部 観光「観光の現代的意義」(第2章)、「観光の歴史」(1)(第3章)
 - ③第1部 観光「観光の歴史」(2)(第3章)
 - ④第1部 観光「わが国における観光の現状」(1)(第4章)
 - ⑤第1部 観光「わが国における観光の現状」(2)(第4章)
授業①～⑤の振り返り、確認テスト
 - ⑥第2部 観光地「観光対象と観光資源」(第1章)
 - ⑦第2部 観光地「観光地」(第2章)
 - ⑧第2部 観光地「観光振興」(第3章)
 - ⑨第4部 「観光政策と観光行政」(1)
 - ⑩第4部 「観光政策と観光行政」(2)、授業⑥～⑩の振り返り、確認テスト
 - ⑪第3部 観光関連産業 「観光関連産業とは」(第1章)、「運輸機関」(1)(第2章)
 - ⑫第3部 観光関連産業 「運輸機関」(2)(第2章)「宿泊施設」(1)(第3章)
 - ⑬第3部 観光関連産業 「宿泊施設」(2)(第3章)
 - ⑭第3部 観光関連産業 「旅行業」(1)(第4章)
 - ⑮第3部 観光関連産業 「旅行業」(2)(第4章)、
テーマパーク(第5章)、授業⑪～⑮の振り返り、確認テスト
- ※授業計画の順番・内容は一部変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・「観光」という事象への多面的広がり概念について説明ができる。
- ・身近な観光(社会)とこの科目の学修を結びつけて考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内確認テスト3回の評価 60%
授業内課題・レポートによる評価 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】「観光概論」JTB総合研究所
※必要に応じてプリント配布。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
テキスト、プリントで予習復習を欠かさないこと。

【必要な時間】
予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

※座席を指定する場合があります。

科目名	観光事業論
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	呉 泰均、斉藤 巧弥、青木 哲朗

■講義の目的および概要

本講義は、1年次必修科目「観光概論」の知識をもとに、観光に関わる概念、観光の仕組みなどを学び、すそ野の広いさまざまな観光事業を概観し、観光学の視点からそれぞれの事業の現状の課題と将来の可能性について、理解することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教科書に基づく講義形式。併せて授業内課題で理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題についての回答例を紹介。教員が解説、フィードバックする。

■授業計画

- ①観光を学ぶ意味と観光の様々な効果
- ②観光に関わる言葉
- ③観光のしくみ
- ④観光資源と観光対象
- ⑤観光産業の特徴
- ⑥様々な観光ビジネス—旅行業
- ⑦様々な観光ビジネス—宿泊産業
- ⑧様々な観光ビジネス—交通運輸業
- ⑨様々な観光ビジネス—テーマパーク、式場、スキー場、観賞施設、土産品業
- ⑩観光と情報
- ⑪観光政策と観光行政
- ⑫観光のマーケティング
- ⑬旅の歴史とこれからの旅行
- ⑭観光と国際経済・社会・文化 インバウンドと異文化理解
- ⑮まとめ・授業内試験

※3人の教員が分担して担当するオムニバススタイルである。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

今日の観光事業が直面する課題と方向性に関する基本的状況を理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内課題：25%
レポート：25%
試験：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「観光学基礎」／JTB総合研究所

【参考文献】

適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

WEBでの情報収集のみならず、観光に関する報道などに関心をもち、自発的に各回の学びを深めること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

※講義の進行順はクラスにより異なります（初回の講義で説明）。
※座席指定で実施します。

科目名	観光文化論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

国際化の進展によって異文化理解の必要性が高まっている中、観光とは国内・海外問わず常に異文化の接触を伴う現象であると言えます。本講義では、観光を考えていく上での基礎となる「観光文化」領域の基本的枠組みについて学び、観光と文化の結びつきに対する理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で板書を中心に授業を進めます。本講義専用の授業ノートを作成してもらいます。必要に応じてスライドや配布資料、動画等の視聴覚教材を活用します。授業の最後に期末レポートの作成と復習テストの実施を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

ノートやレポートをチェックし、返却の際にコメントを付けてフィードバックします。内容の一部を授業で公表し、他の受講生にも共有しながら適宜解説を行います。

■授業計画

- ①ガイダンス、観光文化論とは
- ②文化財の観光活用
- ③地域文化を伝える観光
- ④日本の観光文化の歴史の変遷
- ⑤自然と文化を守り続けるサステイナブルツーリズム
- ⑥観光と文化とSDGs
- ⑦札幌の文化と観光の魅力を発信する
- ⑧観光文化とエコツーリズム
- ⑨旅行先の社会と文化を学ぶスタディツーリズム
- ⑩健康文化を観光に取り込むヘルスツーリズム
- ⑪人文観光資源
- ⑫伝統文化と観光
- ⑬外国人観光客からみる日本の文化
- ⑭最終成果報告1：期末レポート
- ⑮最終成果報告2：復習テスト

※以上の内容で行う予定ですが、受講生の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光における異文化理解に関する基礎知識を習得する。
- ・観光文化と文化観光について理解し、北海道や日本、外国を事例にしながら検証することができる。
- ・文化を観光に用いることのメリット・デメリットについて考え、自分の言葉で説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・授業ノート：30%
- ・最終成果報告（期末レポート、復習テスト）：70%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・島川崇『新しい時代の観光学概論－持続可能な観光振興を目指して』ミネルヴァ書房、2020年
- ・前田勇編『新現代観光総論』学文社、2015年
- ・山下晋司編『観光学キーワード』有斐閣、2011年
- ・増淵敏之『物語を旅するひとびと－コンテンツ・ツーリズムとは何か』彩流社、2010年

■授業外学習

【具体的な内容】

最終成果報告では、講義内容のまとめ・復習作業と、授業ノートの見直し、さらに授業内容に関連する文献資料を自分で調べて報告する準備作業に取り組んでもらいます。

【必要な時間】

予習と復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

板書が中心の講義となっており、復習テストも板書（授業ノート）の内容の中から出題します。したがって、無遅刻無欠席の志で臨まないと授業についていくことは難しいと思われます。意欲的な講義への参加（出席、発言、授業ノートの丁寧な作成、充実したレポート内容）が求められます。

科目名	国際観光論
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	河本 光弘

■講義の目的および概要

国際観光による人間の移動が地球規模で始まり、今や観光が世界経済の1つの柱にまで成長している。
こうした国際観光の動向を踏まえ人々が、どこへ、なぜ、どのように旅行しているか各国別のデータをベースで明らかにし、その詳細、背景、要因を考察することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストや最新資料・データを基に授業をすすめる。また、受講者が外国の国々の観光に興味と知見、親近感を得られるように、受講者の発表等実施する。
本講義は、調査研究機関で観光ビジネスに関する企業支援や調査等を行っていた実務経験のある教員が担当し、観光ビジネスの実務経験を活かし授業を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業での課題や質問については、適宜、回答または討議し、次回の授業を含め速やかなフィードバックに努める。

■授業計画

以下の内容で、概ね展開する。
なお、遠隔授業の場合は、各種状況を考慮し授業のなかで指示をする。

- ① ガイダンス～国際観光の時代へ
- ② 国際観光をめぐる目的と意義
- ③ 国際観光客到着数の規模と特徴 (基本)
- ④ " (応用)
- ⑤ 国際観光市場 (アジア州) (東アジア1)
- ⑥ " (東アジア2)
- ⑦ " (東南アジア)
- ⑧ " (その他アジア1)
- ⑨ " (その他アジア2)
- ⑩ 国際観光市場 (欧州・米州) (欧州1)
- ⑪ " (欧州2)
- ⑫ " (北・中南米州)
- ⑬ 国際観光市場 (アフリカ・オセアニア州) (アフリカ)
- ⑭ " (オーストラリア、ニュージーランド)
- ⑮ まとめ、期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

世界(各国)や日本の国際観光の現状や基礎知識を理解した上で、北海道の国際観光における課題を考えられる基礎力を得る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

期末テスト(授業内試験)	45%
レポート・プレゼンテーション	45%
授業参加・討議等	10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適時、授業内で紹介する

【参考文献】

適時、授業内で紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

新聞や関係TV番組を毎日見て観光に関する基礎知識を把握すること（事前学習）。
学習した各国際観光市場に係る資料をより深く調べ、整理すること。また、実際に休
暇時に訪問することが望ましい（事後学習）。

【必要な時間】

概ね、換算で各回2時間を想定する。

■その他

できれば、大学休暇期間等に海外へ旅行し生の現地観光状況を学ぶことや留学生との
交流を積極的に図ることが望ましい。
受講者は、基本、観光学部生を対象とする。
なお、各種学習環境の変化により、上記内容を変化させる場合もある。

科目名	世界の観光地
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、ヨーロッパの主要観光地を毎時1事例ずつ紹介するものである。そして、それぞれ特有な問題点を探ることである。

事例としては、歴史文化観光地が多くなるが、それ以外を観光資源としている観光地も取り扱う。また、広がりを意識した観光地域を取り扱うこともある。

将来的に観光業従事者となった際に、それぞれの観光地における観光資源を知識として意識した上で、アウトバウンドに活かしてもらうことも想定している。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

写真、地図、映像、統計資料などを用いた講義形式となる。それぞれの観光地における観光資源を紹介し、その中でも特に代表する観光都市において、観光資源、観光施設の立地に関する観光者視点の問題点を探し当てる作業を行う。それは毎時における課題（manabaの「小テスト」）として提出してもらう。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、次時の講義で毎時解説するが、詳細はmanabaを通じてコメントし、フィードバックとする。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②イギリス1（バース）
- ③イギリス2（湖水地方）
- ④フランス1（パリ）
- ⑤フランス2（プロヴァンス地方）
- ⑥ベネルクス（ブリュージュ）
- ⑦イタリア1（ローマ）
- ⑧イタリア2（フィレンツェ）
- ⑨イタリア3（ヴェネツィア）
- ⑩ドイツ1（ケルン）
- ⑪ドイツ2（ロマンチック街道）
- ⑫チェコ（カルロヴィヴァリ）
- ⑬スイス（ツェルマット）
- ⑭ギリシア（アテネ）
- ⑮まとめ、最終レポートについて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ヨーロッパ各国にある観光資源を知り、説明できる。
- ②各地の観光地に潜む問題点を観光者の視点で考察し、地理的特徴と関係させながら説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①毎時の課題（manabaの「小テスト」） 50%
※毎時の平均点
- ②最終レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎時のレジュメ 配布

【参考文献】

- ・JTB総合研究所『旅行業務シリーズ7海外旅行実務 海外観光資源2022』
- ・JTB総合研究所『海外旅行地理プラクティカル』
- ・勝岡只『海外観光資源ハンドブック』中央書院

■授業外学習

【具体的な内容】

前時の授業を確認し、その中から観光資源として開発しきれていない部分、観光地の問題点等を見つけ出すことを日ごろから考えること。
manaba上の毎時の課題を期限内に行うこと。

【必要な時間】

日常での意識、課題実施で約2時間

■その他

ヨーロッパの地図が頭に入っていない場合は、地図帳を持ってくることを勧める。
アジアの観光地を学習したい場合は、「アジア観光論」の履修を勧める。

科目名	観光論特別講義
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	河本 洋一、荒木 智、藤崎 達也

■講義の目的および概要

本講義では、観光を取り巻く多様なテーマを取り上げ、観光産業やその関連産業、さらに地域社会との関わりについて、経済・地域振興・文化などの視点から課題を掘り下げる。担当教員の講義とゲストスピーカーの講話をとおして、観光の視点から地域の多様な関係者とともに地域課題に取り組む、専門性を持つ観光人材の育成を目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本授業は講義形式で行う。各教員が担当する授業のなかで観光関連分野等で活躍されているゲストスピーカーを招聘し、観光関連産業就業者、地域中核人材、あるいは関連産業の経営層から、実績を踏まえた講話を聴く機会を設ける。なお、授業と講話を聴いて学生が得た知識をもとに、理解を深め自らの考え方を論理的に表現する能力を獲得することを目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題についての解説は、授業のなかで行う。

■授業計画

以下の3人の先生方が5回ずつ講義を担当するオムニバス方式である。

【①-⑤:河本、⑥-⑩:藤崎、⑪-⑮:荒木】

- ①ミニマム・コミュニティとツーリズム
- ②清田区の観光資源事例Vol.1 (食材)
- ③清田区の観光資源事例Vol.2 (スイーツ)
- ④ゲストスピーカー (清田区地域振興課・清田スイーツ協議会)
- ⑤ミニマム・コミュニティの観光でお金を回すことの意義
- ⑥観光とイノベーション
- ⑦北海道観光とシェアリングエコノミー
- ⑧ゲストスピーカー
- ⑨ゲスト講義の振り返り
- ⑩北海道観光とイノベーションにおける課題
- ⑪アドベンチャートラベルとは①
- ⑫アドベンチャートラベルとは②
- ⑬ゲストスピーカー
- ⑭ゲスト講義の振り返り
- ⑮アドベンチャートラベル今後の展望

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光産業とその関連産業についての理解を、個別のテーマをもとに多角的に理解し、将来、多様な立場の人々とともに、観光の視点を持って産業の振興と地域の活性化に柔軟に対応できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

各担当教員のレポート課題

河本 34%
藤崎 33%
荒木 33%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・なし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

各回のテーマについて新聞をはじめとする報道に関心を持ち、自ら調べて講義に参加することを期待する。予習・復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とするが、常に疑問を持ち探究しようとする学習態度を心がけること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、概ねそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

観光とその関連産業分野で活躍する多忙なゲストスピーカーを招聘する際には、貴重な機会であることを意識し、礼儀正しい学習態度で臨むこと。

科目名	国際観光ビジネス
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	斉藤 巧弥

■講義の目的および概要

本講義では、街中にあふれるさまざまな案内標識・看板をよりよくするための技法を学習します。グローバルな世界においては、多様な人々への新たな配慮が必要になってきています。ですが、街中や施設の案内標識は観光する人にとって大切な道標であるにもかかわらず、理解しづらいものが実はたくさんあります。よって本科目では、レイアウト・配色・正しい英語などの視点から、実際に存在する案内標識・看板の問題点を検討し、より良いものを作成する能力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は集中講義形式で実施します。講義、グループワーク、調査、発表によって構成されます。教員による基礎講義のあと、グループに分かれテーマを決め、街中でのフィールドワークを通して看板を調査し、発表をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

各レポートと発表に対して授業内・授業後にフィードバックをします。

■授業計画

- ①講義 (1) 誰もが見やすい標識：ユニバーサルデザイン
- ②講義 (2) 誰もが見やすい標識：配色・レイアウト
- ③講義 (3) 誰もが見やすい標識：さまざまな施設の標識
- ④講義 (4) 誰もが見やすい標識：英語の看板
- ⑤グループ分け・テーマ決め
- ⑥調査準備 (1)
- ⑦調査準備 (2)
- ⑧調査 (1)
- ⑨調査 (2)
- ⑩調査 (3)
- ⑪調査 (4)
- ⑫調査 (5)
- ⑬発表準備 (1)
- ⑭発表準備 (2)
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ユニバーサルデザインについて理解できる。
- ・インバウンドや多様な人々に配慮した標識のデザインができる。
- ・基礎的な英語表現ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

授業内の態度・積極性 40%
 事前レポート：10%
 発表：30%
 最終レポート：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】(図書館に有)

『ユニバーサルデザインの教科書[第3版]』(中川聡, 日経BP社, 2015年)
 『「おかしな英語」で学ぶ生きた英文法』(唐澤一友・福田一貴著, 亜紀書房, 2020年)

■授業外学習

【具体的な内容】

グループや各自で情報収集をする必要があります。日本語だけではなく、英語での情報収集をすることでより豊かな情報を得ることができます。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

※フィールドワークの交通費などは全て自費です。

科目名	観光調査法入門
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	斉藤 巧弥

■講義の目的および概要

本講義では、観光をめぐる様々な現象を分析するための社会調査法について、基礎的な知識を獲得することを目的とします。多様な調査法の中でも代表的なものを取り上げ、今後の研究調査のためのアイデアを獲得します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式とします。授業内容の確認のための小テストを3回実施します。本講義は、学術的研究教育の実務経験のある教員が具体的な実例と共に調査法について解説をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テスト後には授業内で確認の解説を実施します。必要に応じて授業内容に関する質疑等も授業内やメール等で受け付け、個別あるいは授業内で回答します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②社会調査の基礎知識：調査とは何か
- ③社会調査の基礎知識：問いの立て方
- ④社会調査の基礎知識：調査デザイン・様々な概念
- ⑤社会調査の基礎知識：文献の収集法・読み方
- ⑥社会調査の基礎知識：サンプリング
- ⑦社会調査の基礎知識：データの考えかた
- ⑧質問紙調査①：基礎知識
- ⑨質問紙調査②：観光調査の実例
- ⑩インタビュー①：基礎知識
- ⑪インタビュー②：観光調査の実例
- ⑫フィールドワーク①：基礎知識
- ⑬フィールドワーク②：観光調査の実例
- ⑭資料分析①：基礎知識
- ⑮資料分析②：観光調査の例

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光調査の基礎知識について説明ができる。また、自ら問いと課題を設定し、必要な手続きを理解し、実際に調査を進めるための準備と計画ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

小テスト：60% (20%×3回)
期末レポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】 (すべて図書館に有)

- 『社会調査の考え方 上・下』(佐藤郁哉、東京大学出版会)
『新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』(大谷信介[他]編著、ミネルヴァ書房)
『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』(野村康、名古屋大学出版会)
『質問紙デザインの技法』(鈴木淳子、ナカニシヤ出版)
『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』(佐藤郁哉、新曜社)

■授業外学習

【具体的な内容】

本講義は入門であるため、調査法の理解をより深めるためには各自が参考文献を読む必要があります。参考文献以外の様々な文献にもあたって予習・復習をしてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科目名	観光交通
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

観光行動は必ず空間的移動を伴うことから、交通手段の発達と観光の進展は密接かつ不可欠な関係である。観光における交通業界の担う役割・現状・課題について基礎的な知識を修得することを目標とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で展開し、特徴的な項目を幾つか取り上げてグループワークによるディスカッションを取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内確認テストまたは課題については、採点后、解説付きでフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス 観光の発展と交通機関
- ②観光交通サービスの特性・役割と観光交通ビジネスの展開
- ③観光政策の変遷と観光交通ビジネス
- ④航空ビジネスと観光(1)
- ⑤航空ビジネスと観光(2)
- ⑥空港ビジネスと観光
- ⑦鉄道ビジネスと観光
- ⑧その他の交通ビジネスと観光-貸切バス、タクシー、レンタカー、レンタサイクルなど
- ⑨地域の活性化・まちづくりと観光・交通
- ⑩観光と環境の中の観光交通-エコツーリズム、サステナブルツーリズムの視点から
- ⑪都市ツーリズムと農村ツーリズムにおける観光交通
- ⑫コンテンツツーリズム(鉄道資源)としての観光交通
- ⑬インバウンドと観光交通
- ⑭観光交通の新たな取り組み MaaS等
- ⑮まとめ 授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光と交通との関連を理解する。各観光交通についての基礎的知識の修得と特性、現状の課題と将来の可能性を考える力を養う。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

授業内試験 50%
 授業内課題(確認テスト、小論文) 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】『観光交通ビジネス』塩見英治・堀雅通・島川嵩・小島克己編著、成山堂

■授業外学習

【具体的な内容】

事前にmanabaに掲載されるプリントを確認して授業に臨んでください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、2時間を目安とする。

■その他

科目名	国内観光資源
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

本講義の目的は以下の4点。①観光を学ぶ者にとって基本的で、必須の観光資源の知識を身につける。②個々の観光資源を客観的に評価できるようにする。③観光資源から日本の歴史、文化、風習、芸術等の関連知識に興味を持ち、さらに深く知るための学びの契機とする。④「旅行業務取扱管理者」の試験科目である「国内観光資源」の基礎知識を習得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界で実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員による基本的にパワーポイントを利用した講義形式。また、動画を視聴し、内容を確認する。授業内課題を授業終了後にその都度提出のこと。一部の県はmanabaの自習課題とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題、授業内試験実施後、特に注意が必要と思われる点について授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①旅行業務管理者試験の概要と合格の意義 地域別観光資源 北海道(1)
- ②地域別観光資源 北海道(2)
- ③地域別観光資源 東北(1)
- ④地域別観光資源 東北(2)
- ⑤地域別観光資源 関東(1)
- ⑥地域別観光資源 関東(2)
- ⑦授業内試験第1回、地域別観光資源 関東(3) 中部(1)
- ⑧地域別観光資源 中部(2)
- ⑨地域別観光資源 関西(1)
- ⑩地域別観光資源 関西(2)
- ⑪地域別観光資源 関西(3)
- ⑫地域別観光資源 中国・四国(1)
- ⑬地域別観光資源 中国・四国(2) 九州・沖縄(1)
- ⑭授業内試験第2回 地域別観光資源 九州・沖縄(2)
- ⑮地域別観光資源 九州・沖縄(3)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの国内観光資源の知識を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し解決する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内課題（提出物）による評価 25%
授業内試験による評価 25%
定期試験による評価 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「国内観光資源」 JTB総合研究所

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

テキスト、プリントで予習復習を欠かさない。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

※授業の課題が多いので、覚悟を持って受講すること。国内旅行業務取扱管理者試験³（令和5）年4月1日
他の試験対応三科目「国内旅行実務」「国内運賃料金（1,2年生は対策講座）」「
旅行業法・約款」も受講のこと。※定期試験期間に試験を実施する。

科目名	海外旅行実務
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

本演習の目的は、旅行業のみならず旅行関連産業においても重要性が増している「総合旅行業務取扱管理者」資格取得を目指し、試験科目である「海外旅行実務」の基礎知識を習得することである。観光資源については最も重要なヨーロッパを重点的に取り上げる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界でに実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員によるパワーポイントを利用した講義形式。併せて授業内課題を解いて理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題、授業内試験を採点后、特に注意が必要と思われる点について授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①総合旅行業務取扱管理者試験の概要と合格の意義
時刻表読み取り・時差・所要時間・最低乗り継ぎ時間(1)
- ②時刻表読み取り・時差・所要時間・最低乗り継ぎ時間(2)
- ③時刻表読み取り・時差・所要時間・最低乗り継ぎ時間(3)
- ④OAG、航空会社・都市・空港コード(1)
- ⑤OAG、航空会社・都市・空港コード(2)
- ⑥ホテル・クルーズ・鉄道・海外旅行保険 海外観光資源(ヨーロッパ)
- ⑦海外観光資源(ヨーロッパ)
- ⑧授業内試験第1回 海外観光資源(ヨーロッパ)
- ⑨海外観光資源(ヨーロッパ)
- ⑩海外観光資源(スペイン・ポルトガル)
- ⑪海外観光資源(ドイツ)
- ⑫海外観光資源(中欧・イギリス) ※7月1日は月曜の授業
- ⑬海外観光資源(アイルランド・ベネルクス・北欧)
- ⑭海外観光資源(ハワイ・アメリカ)
- ⑮授業内試験第2回 まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「総合旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの海外旅行実務の知識を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し解決する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内試験評価 60%
授業内課題による評価 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「海外旅行実務 出入国法令と実務 旅行実務」 JTB総合研究所
※必要に応じてプリント配布。

【参考文献】「海外観光資源」 JTB総合研究所

■授業外学習

【具体的な内容】

テキスト、プリントで予習復習を欠かさない。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

総合旅行業務取扱管理者試験範囲は広範囲に及ぶため、具体的に講義で取り上げるのは「時差、OAGなど海外旅行実務」「海外観光資源」とする。他の試験科目「出入国法令」「国際航空運賃・料金」などは対策講座（授業外）にて実施する。国家試験合格を目指す場合は他の受験科目も合わせて学習すること。

科目名	観光まちづくり論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	中根 宏樹

■講義の目的および概要

近年、様々な地域でそこで暮らす市民によって、観光資源を搾取するのではなく地域を豊かにすることを目指す「観光まちづくり」の動きがみられる。本講義では、市民が協働して地域に変革をもたらすまちづくりについて「観光」を起点に、利益を地域に還元する仕組みや、観光資源を地域の価値へと変換する手法や視座について理解することを目的とする。まちづくり、観光計画に関わる基本的な知識をはじめ、特に持続可能な観光の実践に向けて、パンデミックやオーバーツーリズムなどに対するリスク管理や、環境や社会への影響を抑えつつ、社会的、文化的、経済的利益をもたらす方法について具体的な事例を通して考察する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式とグループワークによるディスカッションの組み合わせによって、能動的な学修を目指す。

本講義は、観光分野の民間企業において自治体と協働したプロジェクトなどの実務経験のある教員が担当する。まちづくりに関連する様々な学問領域の理論的枠組みを援用しながら、民間での知見を活かして講義を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

適時提出を課すミニレポートをもとに、学生の興味関心に基づく講義内容の振り返りを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②まちづくりの意義と目的
- ③まちづくりの系譜
- ④まちづくりの実践と仕組み
- ⑤観光まちづくりの実践と仕組み
- ⑥観光まちづくりのマネジメント
- ⑦観光まちづくりの評価方法
- ⑧観光まちづくりの課題
- ⑨観光まちづくりのリスク管理
- ⑩持続可能な観光とまちづくり
- ⑪持続可能な観光の指標
- ⑫事例研究1
- ⑬事例研究2
- ⑭事例研究3
- ⑮総括・課題レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

到達目標】

- ・まちづくりの基本的な枠組みを理解する。
- ・観光まちづくりの動きや諸地域での事例に関する知識を得る。
- ・観光まちづくりの実例を応用できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

講義中に実施する課題 30%
 授業への積極的な参加度 20%
 課題レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義内容に合わせて適宜資料を配布する。

【参考文献】

講義内容に合わせて適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

日常的に観光まちづくりに関心を持ち、新聞やインターネットなどを通して具体的な動向を把握する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	世界遺産[観光]
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	呉 泰均、横田 久貴、河本 洋一

■講義の目的および概要

ユネスコ世界遺産条約により、かけがえのない、保護すべき遺産として登録された「世界遺産」について、その意義や保護の仕組みを理解し、個別の事例についてエリア別に系統立って学んでいきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各教員が各回のテーマに沿って開設する講義形式。配布する資料やDVDなどの教材を活用し、世界遺産に関して歴史的意義や重要性、保全と活用、後世に何をどう継承していくのか、多面的な視点で理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

本講義は、旅行・観光・文化関連の調査研究実績のある教員が、その旅行観光文化関連実務の実績や経験を活かしオムニバス方式で授業を実施します。各講義の課題に関しては、授業内で解説講義等するとともに関連資料等を配布します。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 世界遺産とは
- ③ 世界遺産と観光、エリアの保護・保全と登録プロセス
- ④ 世界遺産事例
- ⑤ 世界遺産事例 +小テスト実施

- ⑥ アジアの世界遺産 (その1)
- ⑦ アジアの世界遺産 (その2)
- ⑧ アジアの世界遺産 (その3)
- ⑨ アジアの世界遺産 (その4)
- ⑩ アジアの世界遺産 (その5) +小テスト実施

- ⑪ 世界遺産 (その1)
- ⑫ 世界遺産 (その2)
- ⑬ 世界遺産 (その3)
- ⑭ 世界遺産 (その4)
- ⑮ 世界遺産 (その5) +小テスト実施

※授業計画の順番や内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

世界遺産に関する分類、意義、保護の仕組み、遺産の状況や課題、今後のあり方（保全と活用）について理解するとともに、世界遺産や関連する仕組みについて知見や問題意識を高め、学生自らが主体として学びを深めていく力をつけることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

各教員のテストまたはレポート33点（総括責任者34点）×3（人）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

多くの世界遺産に関する書籍や資料、DVD等がある。それらを読むとともに、新聞記事やネット等から最新の情報に接すること。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業中以外でも授業の前や授業後に「世界遺産」に関する情報や知識、新聞記事について、メモに記録する。必ず、前回の授業内容を整理しポイントや重要事項を復習ノートに記載しておくこと。予習復習の時間は各2時間を目安とします。加えて、常日頃からTVニュースや番組、ネットなどで最新の世界遺産の動向や情報について、入手するように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、概ね2時間とする。

■その他

進行その他詳細は、各担当教員の判断により実情に即して対応する。

科目名	観光経済論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	河本 光弘

■講義の目的および概要

本講義では、我が国全体や北海道を含めた地方でもますます重要視されている観光の経済活動について、幅広く合理的かつ体系的に教示する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキスト等を中心とした授業内容で、カレントなトピックに触れながら講義を進めていく。事前の予習が望ましい。

本講義は、経済主体のシンクタンクで自治体等から委託された観光経済や観光に係る調査研究の実務経験のある教員がその実績に基づき授業を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

各講の課題に関しては、授業内で質疑回答し解説講義するとともに資料を配布します。

■授業計画

概ね、以下の内容で講義を行います。なお状況により遠隔授業を実施する。それ以降は、事前に授業内で説明する。

- ①観光と経済学
- ②観光商品
- ③観光と旅行に対する需要（基本）
- ④観光と旅行に対する需要（応用）
- ⑤観光と旅行についてのまとめ
- ⑥観光の魅力
- ⑦観光と旅行商品の供給（基本）
- ⑧観光と旅行商品の供給（応用）
- ⑨観光地に行く方法
- ⑩国際観光旅行に対する障壁
- ⑪観光の受入経済に占める位置
- ⑫観光受入社会の便益と費用
- ⑬観光課税
- ⑭観光と自然環境
- ⑮観光経済のまとめ+テスト

遠隔授業の場合、上記を変更する場合もある。その場合には前週等に次週予定内容について説明する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光経済学の基礎知識を習得し、経済学の基本的な考え方を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 期末テスト(授業内試験) 45%
- 中間テスト・レポート 45%
- 授業での小テスト・授業参加態度等 10%

評価については、実態を鑑み変更を加える場合もある。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

観光経済学入門（ジェームズ・マック、日本評論社）
 新版：観光経済の原理と応用（河村誠治、九州大学出版会）

■授業外学習

【具体的な内容】

新聞等における観光経済に関連する記事を毎日読むこと（事前学習）。
そして、毎回配付・作成したレジュメについて不明点を自分で図書館やネット等を活用し調べ理解に努めること（事後学習）。

【必要な時間】

事前・事後授業は、各2時間を目安とします。加えて、観光経済に関して新聞やTV、ネット等を活用し友人や家族等と討議することが望ましい。

■その他

観光について経済的側面で、日々の観光事象をとらえられるように努力すること。
なお、上記の内容はコロナや諸般の環境変化により、適宜変更する場合がある。

科目名	観光統計
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	齊藤 巧弥

■講義の目的および概要

本講義では統計の基礎を学び、主に観光関連の統計を読み解くための能力を身につけます。具体的な統計データの仕組み、データの計算、統計資料の考察を通して、観光現象の理解ができるようになることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

おもに講義形式で授業をします。授業内で簡単なタスクや練習問題を課すこともあります。前半では統計の基礎について学習し、後半では観光統計の実際のデータや、統計を用いた研究調査について考察をします。この講義は、学術的研究教育の実務経験のある教員が担当をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内タスクについては、事業内でフィードバックと解答をおこないます。テストの解答やレポートの評価に関しては授業内、または授業後にフィードバックをします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②統計の基本：データの基礎
- ③統計の基本：平均・分散
- ④統計の基本：標準偏差・正規分布
- ⑤統計の基本：クロス表
- ⑥統計の基本：相関
- ⑦統計の基本：多重クロス表
- ⑧統計の基本：母集団・サンプリング・データ収集法
- ⑨統計から読み解く観光：観光統計資料の種類
- ⑩統計から読み解く観光：観光庁の統計
- ⑪統計から読み解く観光：観光白書I
- ⑫統計から読み解く観光：観光白書II
- ⑬統計から読み解く観光：札幌の観光
- ⑭統計から読み解く観光：研究調査
- ⑮まとめ・授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

統計学の基礎について理解・説明ができる。観光統計の種類について理解し、それを読み解くことができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

小テスト：30%
 期末テスト：30%
 レポート：40%

※期末テストは授業最終回で実施

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献】（すべて図書館に有）

『完全独習 統計学入門』（小島寛之、ダイヤモンド社）
 『社会調査のための統計学：生きた事例で理解する』（神林博史・三輪哲、技術評論社）
 『ニュースの数字をどう読むか：統計にだまされないための22章』（トム・チヴァース／デイヴィッド・チヴァース、筑摩書房）

■授業外学習

【具体的な内容】

ごく簡単な計算にしか触れませんが、必要に応じて数学の基礎についての学習をしてください。また国連世界観光機関、観光庁、北海道経済部観光局などの観光関連ウェブサイトを読み、どのような観光統計があるのか把握しておいてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

小テストと期末テストでは電卓を用いる予定です（スマホ不可。数百円から千円程度の、最低限の計算ができるもので構いません。ですが、ルート計算機能があるものを選んでください）

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	有澤 恒夫

■講義の目的および概要

私たちは変化の激しい時代を生きています。コロナ禍は変化のスピードを否応なく加速しました。学生の皆さんが職業や働くことを考えるにあたり、変化はもはや前提条件です。変化の時代をバイタリティを持って生きるには、二つのことが大切です。それは、「強みを築く」と「変化に対するマインドセット」です。春学期（基礎）は、皆誰でも持っている才能を自覚し、才能を育み「強みとして築く」ための考え方、行動のあり方を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

担当教員は、企業で人材開発・教育を担当してきた実務家教員です。この演習では、自分の才能を自覚し強みとして築くための方法を理解するために次の通り進めます。

1. 一人ひとりが自分の「才能」を明らかにすることから始める。簡単なワークを体験しながら自己認識を深める。
2. それを踏まえて、「目的の力」が私たちにどんなことをもたらしてくれるのかを、実在人物の事例（DVD等の視覚教材視聴）をとおして学ぶ。
3. 学んだことを実践する第一歩としてまとめ・発表する。

【課題に対するフィードバックの方法】

オフィスアワーや授業後の対話、メールによるフィードバック

■授業計画

1. はじめに
2. 才能と強み
3. 才能の理解と発見①
4. 才能の理解と発見②
5. 才能の理解と発見③
6. 発表①
7. 発表②
8. 目的の力①
9. 目的の力②
10. 目的の力③
11. 発表③
12. 発表④
13. 価値観と環境
14. ビジョン
15. キャリアバイタリティ 授業内試験

注：授業計画は変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 自分の才能を確認し、強みとして築くための考え方、行動の仕方を理解する。
2. 変化の時代をバイタリティを持って、自分らしく生きていくための準備ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発言・ディスカッション等授業への参画（50%）、発表の評価（20%）、レポート（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「さあ、才能に目覚めよう」トム・ラス著 日本経済新聞社

【参考文献】

授業で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
事前配布資料とレジュメ、参考図書による学習

【必要な時間】
毎回予習は2時間・復習は2時間程度

■その他

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

「観光」というコトバから想起されるイメージは、主に形のあるモノであったり風景であったりする場合が多いのではないのでしょうか。実は、観光資源には「音・音楽」といった”消えモノ”も含まれるのです。例えば、その場所へ行かないと聞くことができない音、ある期間しか聞くことができない音楽などがそれに該当します。このような音・音楽と観光との結びつきを音風景（サウンドスケープ）やサウンド&ミュージック・ツーリズムという概念から捉え、新しい時代の観光プランの創発を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回のテーマに沿って対話するゼミナール形式で実施します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくことを実践的に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。「基礎」（春学期）から学生が主体となって進めていくゼミナール形式を中心に、実践的な場面を想定した支援を行います。

■授業計画

①イニシャルトーク

『目に見えないモノを観光資源にする』（一部YouTube使用）

【Season1】音・音楽という概念を広げる

②音・音楽を語る切り口

マリー・シェーファーの「音風景」や、いわゆるASMR（Autonomous Sensory Meridian Response）含む思い出のあの歌あの音あの風景を語り合う

③スマホを持って街へ出かけよう（※1）

心地良い音やそれに付随する風景の収録またはネット検索

④音・音楽を演奏、記録再生する装置の今

“ハコモノ”（本学シアター）、バイノーラル・マイク収録による立体音源の試聴、音の可視化（スペクトルアナライザ）や触覚化の体験、VOCALOIDの今昔物語など

⑤Season1のまとめ

学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season2】サウンド&ミュージック・ツーリズムの事例を知る

⑥リンツ（オーストリア）で開催されたサウンド・クラウドという屋外イベント

究極の二次創作！富田勲のシンセサイザー作品（1984年）をライン川の河辺で演奏

⑦CASH BOX（神戸）というライブハウスを中心に育つ音楽コロニー

⑧菓子店か？音楽ホールか？ 六花亭の小田豊さんの考え（帯広・中札内・札幌※1）

⑨いわみざわJOIN ALIVE：NPO法人という立ち位置（※1）

⑩アルテ・ピアッツァ美唄：木造校舎がリノベーションでアート空間に（※1）

⑪Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season3】サウンド&ミュージック・ツーリズムの事例検討（※2）

⑫学生が集めた事例発表と検討会その1

⑬学生が集めた事例発表と検討会その2

⑭学生が集めた事例発表と検討会その3

⑮Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価

※1：実際に現地に行ける場合は、授業時間内外でフィールドワークとして実施する場合があります。原則として大学のバスを使用します。

※2：情報収集に便利なツール（アプリ）やサイトも合わせて紹介します。事例発表の媒体は紙、パワポ、動画何でも構いません。大切なのは相手に伝わることです。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ミュージック・ツーリズムについて、自分なりの考えを示すことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP4) 多様性の理解と協働する力

(DP5) 能動的に学び続ける力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A:各回の最後のコメントシート（①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭）12回×5点＝60点
評価の観点：理解度について評価する。
- B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season1：10点、Season2：10点、Season3：10点 合計30点
評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C:⑫⑬⑭の発表とピアレビュー：10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『凡人のための地域再生入門』ISBN978-4478103906

■授業外学習

◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修：授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

◆授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。

◆グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習ではわが国の主要な空港におけるこれまでのアクセス整備や新幹線等他交通機関と航空との競争の経緯や現状について詳細に分析し、将来の空港アクセスと理想の交通分担の絵姿を追求していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

全国の空港アクセス整備の経緯と現状について考察し、時代の移り変わりとともに変化する他交通機関との競合の視点も取り入れつつ、それぞれの交通の役割分担について、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から分析・研究を行っていく。中間および最後に研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①ガイダンス メンバー紹介&ゼミの進め方について
- ②空港アクセス整備の経緯と現状1 (全体)
- ③空港アクセス整備の経緯と現状2 (羽田空港)
- ④空港アクセス整備の経緯と現状3 (成田空港)
- ⑤空港アクセス整備の経緯と現状4 (伊丹空港、関西空港、神戸空港)
- ⑥空港アクセス整備の経緯と現状5 (福岡空港、中部空港、那覇空港)
- ⑦空港アクセス整備の経緯と現状6 (仙台空港、宮崎空港、その他)
- ⑧空港アクセス整備の経緯と現状7 (海外空港)
- ⑨中間発表会
- ⑩都市間移動における航空と他交通機関との競合の経緯と現状1
- ⑪都市間移動における航空と他交通機関との競合の経緯と現状2
- ⑫都市間移動における航空と他交通機関との競合の経緯と現状2
- ⑬最終発表会に向けたワーク
- ⑭最終発表会
- ⑮秋学期に向けての打ち合わせ

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

空港アクセスにおいて各交通機関が持っているそれぞれの役割やポテンシャルについて分析し、今後更に各交通機関が役割を果たしていく為の施策について、独自の発想と視点を持って論理的に自論として説明でき

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 30%
発表会の内容 (中間および最終) 50%
課題・レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

- ①進む航空と鉄道のコラボ 杉浦 一機 800円 (税別)

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

春学期演習「ホテル・マネジメントゼミ」は、将来マネジメントの観点からホテルの構造を見れる人材になることを目的としています。
 ホテル・マネジメントとは、①収益管理能力 ②企画力 ③課題解決力 ④管理運営力 ⑤専門知識 の5つの専門能力に対し、本演習では「作業監督者（係長、主任、リーダー等）」にあたる3級ホテル・マネジメント技能士の能力を有する人材を養成していきます。現在の宿泊業界ではサービス実務知識だけではなく、経営数値の理解や分析など管理能力を有する人材が求められています、ホテル・マネジメント技能国家検定試験は毎年9月学科試験、12月実技試験が実施されるのに合わせ、就職活動が始まる3年から4年次で採用に有益な資格取得を目指します。

※ゼミ生は春学期に開講される「ホテル経営概論」講義を基礎知識の幅を広げるために履修することを勧めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・基本的に講義形式で行いますが、グループワークやフィールドワーク（視察研究）も取り入れ能動的な演習を目指します。
 また、宿泊産業界で長く経営・運営・開発業務で研鑽を積んだ教員が担当し、ホテル旅館でのインターンシップ参加前に最低限必要な「基本的なマナー・礼儀・身だしなみ・言葉遣い」等の基礎的のレクチャーもおこないます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内またはメール返信、掲示板コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

マネジメント技能検定問題は、主に◆5つの大項目範囲で出題されていきます。学習と同時に検定対策のドリルをおこないます。

- ① 演習ガイダンス : 演習内容説明、授業の進め方、成績評価
- ◆ 経営戦略・経営管理
- ② マネジメント概論 : 宿泊産業動向、種類、経営形態、所有形態
- ③ 経営戦略、経営管理 : 経営戦略の体系、経営KPI
- ◆ 会計概論、財務会計・管理会計
- ④ 会計概論 : 簿記に関する知識、ホテル会計に関する知識
- ⑤ 財務会計 : 貸借対照表、損益計算書
- ⑥ 管理会計・予算管理 : 主要業績指標（KPI）
- ⑦ 模擬テスト（過去問による模擬テスト）
- ◆ サービス管理
- ⑧ サービス品質管理、顧客ロイヤリティ
- ◆ 業務運営管理
- ⑨ 業務管理、リスク管理、法規と法務
- ◆ 組織・人材マネジメント
- ⑩ 組織とマネジメント : 組織機能、環境対策活動、地域社会貢献活動
- ⑪ 人的資源管理、リーダーシップ : 人材育成、労務管理、コミュニケーション
- ⑫ フィールドワーク（ホテル旅館視察・調査1）
- ⑬ フィールドワーク（ホテル旅館視察・調査2）
- ⑭ 春学期評価課題レポート : ホテル旅館 視察・調査レポート
- ⑮ まとめ : ホテル・マネジメントについて総括

※授業の順番や内容を変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 宿泊ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② 施設の所有・経営・運営に必要なとされる専門知識を習得する
- ③ ホテル・マネジメント技能 3級知識を習得する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 2つの評価項目総合点（100点満点）により単位認定を行う
- ・ 授業態度・フィールドワーク参加度・積極性 : 配分60%（60点）
 - ・ 春学期評価課題レポート : 配分40%（40点）

■テキスト・参考文献

- 【テキスト・参考書・過去問・業界新情報】
- ・ 必要に応じ適宜お知らせします。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 観光に関する情報、ニュースに常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。

- ・ 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・ 宿泊施設を対象に、フィールドワークを行います。
- ・ 交通費、食事代等の費用が一人3,000円/毎程度必要になります。
- ・ 訪問施設の状況により土・日の実施がありえるのでアルバイト等の日程調整は必須。
- ・ FW実施日に他の履修講義に遅刻や欠席となる場合は事前にお知らせください。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

ニセコ地区の観光について研究
世界的な成長をみせているニセコ地区（ひらふ、東山、アンヌプリ）を主要な研究対象と定め、それぞれの成立過程と要因、発展、現状について考察します。
また、ニセコガイド検定を用いて、ニセコ地区の基礎的な自然・施設、温泉などの知識を習得します。これらを通じて、ニセコ観光の動向について深く理解し、研究をすすめます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学習…課題は各自積極的に取り組み、他の学生により影響を与えること。
考察…ニセコ各地域の特徴を踏まえ、独自の視点をもてるよう深く考察すること。
フィールドワーク…ニセコ高校と連携し、高校生に模範となるよう研鑽を積むこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィードバックは授業内で行います。

■授業計画

I ニセコに関する基本的知識習得（ニセコガイド検定）

- ①ニセコの自然1
- ②ニセコの自然2
- ③ニセコの地域
- ④ニセコの施設、温泉

II ニセコ地域別考察・グループ別研究分析

- ⑤ニセコひらふ地区
- ⑥ニセコ東山地区
- ⑦ニセコアンヌプリ地区

III フィールドワーク

- ⑧フィールドワーク1（事前準備）ニセコ高校訪問準備
- ⑨フィールドワーク2 ひらふ地区
- ⑩フィールドワーク3 東山地区
- ⑪フィールドワーク4 アンヌプリ地区
- ⑫フィールドワーク5 倶知安町、ニセコ町の観光振興

IV 研究のまとめ

- ⑬研究のまとめと考察
- ⑭発表
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ニセコ観光をつうじて、観光の基本的知識を身につけ、フィールドワークを通じて地域振興について考察することができたか。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 《DP1》専門知識・技能を活用する力
- 《DP4》多様性の理解と協働する力
- 《DP5》能動的に学び続ける力
- 《DP6》社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①ニセコガイド検定試験 20%
- ②地域別考察 40%
- ③研究のまとめと発表 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「ぐるっと羊蹄まちしるべ」（非売品）ニセコガイド検定試験問題 … 教員より提供

【参考文献】

別途指示します。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】
ゼミは自主的な研究と期日を守ってレジュメをまとめ発表することが必須です。
ゼミに所属する自覚と役割分担を責任をもって果たすことが求められます。

【必要な時間】
事前事後（特に事前）それぞれ2時間

■その他

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

ホテル業界の中の、ブライダルマーケットの研究およびブライダルの基礎的な知識として、挙式・披露宴・衣裳・慣習・マナーなどについて幅広く学習します。ウェディング・プランナーやホテルエに興味のある学生には基礎学習になります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ウェディング・プランナーやホテルエとして実務経験豊富な教員が、ブライダルについて判りやすい講義形式で進めます。実際の結婚式や披露宴のVTRを見て学ぶことが出来ます。

毎回テーマを与え、ディスカッションを行い能動的な授業を目指します。

また、フィールドワークにより、ホテルのチャペルや披露宴会場を視察し、学習の理解度を深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で実例を豊富にあげ、判り易く解説します。

■授業計画

概ね、下記の通り進めます。

- ①ガイダンス
- ②ブライダルマーケットと結婚式のスケジュール
- ③挙式
- ④熨斗、水引、六輝
- ⑤会費制と招待制
- ⑥結納
- ⑦料理、小テスト
- ⑧衣裳
- ⑨披露宴 (1)
- ⑩披露宴 (2)
- ⑪ゲストとしての心構えとマナー、小テスト
- ⑫フィールドワーク 札幌市内ホテル視察
- ⑬フィールドワーク 札幌市内ホテル視察
- ⑭約款
- ⑮授業内試験 春学期まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ウェディング・プランナーやホテルエとして必要なブライダルに関する基礎知識を習得し、ブライダルビジネスを行う上で必要な事項を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

小テスト2回30%、授業内試験50%、レポート20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は用いず、配布するプリントを用います。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

SNSやニュースなどでブライダルの話題に興味・関心を持つ。

毎回の授業でプリントを配布しますので、授業後、重要なポイントは復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習、復習時間としてそれぞれ2時間程度。

■その他

フィールドワーク時の交通費、ホテルでの昼食（テーブルマナー）代として合計
3,000円～5,000円程度の費用が掛かります。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「韓国」というテーマを大きな軸として「異文化コミュニケーション」及び「国際観光」についてみなさんと一緒に研究・発表・討論などを行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice: 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 研究テーマ設定に際するミーティング, 概説
- ③ 国際観光探求1
- ④ 国際観光探求2
- ⑤ 国際観光探求3
- ⑥ 研究テーマ設定中間発表
- ⑦ 国際観光探求4
- ⑧ 国際観光探求5
- ⑨ 研究テーマの設定および研究計画報告
- ⑩ グループワーク1
- ⑪ グループワーク2
- ⑫ グループワーク3
- ⑬ プレゼンテーション1
- ⑭ プレゼンテーション2
- ⑮ プレゼンテーション3

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は使いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初級以上の韓国語能力を要します。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの基礎編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーション発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ1：ワインツーリズムによる地域振興
 - ③ ケーススタディ1：募集ツアーの企画造成、販売促進
 - ④ フィールドワーク1：ワイナリーボランティア活動と地域課題調査
 - ⑤ ケーススタディ2：インバウンド向けNPSアップの検証
 - ⑥ ケーススタディ2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ3：SNSを活用したツアーの販売促進
 - ⑨ ケーススタディ3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？
 - ⑫ ケーススタディ4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 中間発表、講評、
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・グループワークから、実社会で使える共同作業する能力やコミュニケーション能力の習得
- ・プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力、
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・授業レポート提出内容：30%
- ・フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・プレゼンテーション（個別研究発表、中間成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

- ・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。そこで日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光系ベンチャー事業者のケーススタディをフィールドワークなどを通して起業の基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型のアクティブラーニングとする。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②起業、起業家、アントレプレナーシップとは
- ③日本の起業家・起業活動の実態
- ④アメリカの起業家・起業活動の実態
- ⑤中国の起業家・起業活動の実態
- ⑥ケーススタディ (1)
- ⑦ケーススタディ (2)
- ⑧ケーススタディ (3)
- ⑨事業計画作成 (1)
- ⑩事業計画作成 (2)
- ⑪事業計画作成 (3)
- ⑫事業計画作成 (4)
- ⑬事業計画発表
- ⑭グループ討議
- ⑮ふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
フィールドワークへの関与40%
授業内試験30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて配布・指示する

■授業外学習

【具体的な内容】

事業化が現実的なものは、外部講師等と連携をして実際に立ち上げて行くことも視野に入れる。各自のキャリアの一環として真剣に取り組むこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間目安とします。

■その他

北海道内観光地におけるフィールドワークを行う（休み期間中を予定）。宿泊・保険等は共同研究先の予算で賄う予定だが2万円程度を準備のこと。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

北海道や日本にいる私たちが外国を訪れて、または外国人が北海道や日本を訪れて、自国と異なる文化や歴史、自然環境、衣食住などを知り、学ぶことができる観光は、国際交流を通じた異文化理解さらには国際平和につながる貴重なツールです。世界各地で抱えている環境問題や経済・社会・政治的な諸問題に、観光分野が活躍できる場は大いにあります。本演習では「北海道から発信する観光と国際協力」をテーマに、グローバルな思考力と社会貢献に活かせる実践力を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査、レジュメの作成・発表、ディスカッションを行います。また、グループワークやペアワークを通じて、学生自身によるテーマ設定、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回提出してもらった授業レポートを添削し、各学生に返却します。また授業内で学生全員にも内容を共有し、コメントと解説を行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②観光と国際協力・国際平和
- ③世界の観光地における諸問題1 (途上国)
- ④世界の観光地における諸問題2 (新興国)
- ⑤世界の観光地における諸問題3 (先進国)
- ⑥観光と国際協力に関する日本の取り組み
- ⑦観光と国際協力に関する北海道の取り組み
- ⑧中間まとめ
- ⑨グループワーク1: 個別テーマ設定、研究計画
- ⑩グループワーク2: 情報収集、文献資料調査
- ⑪フィールドワーク
- ⑫グループワーク3: 調査結果の分析・整理
- ⑬グループワーク4: 発表準備
- ⑭発表会
- ⑮最終まとめ

※以上の構成で進める予定ですが、履修者の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光を取り巻く国際的な諸問題についての幅広い知識を習得し、自身の意見も含めて口頭や文章で説明することができる。
- ・観光と国際協力に関する世界各国・地域の事例から現状と課題を理解し、自身の考えを提案することができる。
- ・グループワークに積極的に取り組み、共同作業する能力やコミュニケーション能力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業レポート: 30%
発表資料・プレゼンテーション: 40%
フィールドワーク: 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します。

【参考文献】

- 島川崇『新しい時代の観光学概論ー持続可能な観光振興を目指して』ミネルヴァ書房, 2020年.
Martha Honey (高梨洋一郎・真板昭夫監修)『エコツーリズムと持続可能な開発』くんぷる, 2016年.
山下晋司編『観光学キーワード』有斐閣, 2011年.

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習としては、文献資料の収集・熟読と、発表資料の作成およびプレゼンテーションに向けた準備作業を行います。事後学習としては、授業外の時間を使ってグループワークやペアワークに取り組み、調査した内容の整理とまとめの作業を行います。また学内外で実施するフィールドワークやボランティア活動にも参加します。

【必要な時間】

事前・事後学習ともに2時間を目安とします。

■その他

本演習では、世界の諸問題は決して他人事ではなく、日本または自分自身と無関係ではないという考え方・基本姿勢が必要です。個人の知識やスキルの向上だけでなく、集団（＝ゼミ）の一員として互いに学び合い・協力し合うチームワークの構築も目指します。

フィールドワークやボランティア活動にかかる交通費は原則自費ですが、一部補助の場合もあります。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地地図製作とそこから観光空間分析を地理学的に行う。

4年生で行う卒業論文制作に必要な基本を習得することが目的である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

小樽を調査対象とし、日帰りでのフィールドワークを中心とした授業が行われる。街中を地図片手に歩くことを春学期は2度実施する予定である。

それに必要な講義が前後に行われる。調査後の分析活動も学生が中心に実施する。時間があればGIS操作も行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

地図製作作業の中でその課題を少しずつ見つけ出す。完成に近づけていく中で調査した観光地の地理的特徴と問題点を知り、それを各地の観光状況に重ね合わせて考えて、議論に活かす。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②フィールドワーク準備1 (小樽学習:「旅するパズル」作成)
- ③フィールドワーク準備2 (小樽学習)
- ④フィールドワーク準備3 (小樽学習)
- ⑤フィールドワーク1
- ⑥フィールドワーク2
- ⑦地図製作
- ⑧データ分析1
- ⑨データ分析2
- ⑩フィールドワークにむけて
- ⑪フィールドワーク1
- ⑫フィールドワーク2
- ⑬フィールドワーク3
- ⑭地図製作①
- ⑮研究のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①精密な現地調査ができる。
- ②協力して現地調査ができる。
- ③協力して地図製作することができる。
- ④地図やデータから分析することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|----------------------|-----|
| ①現地調査(フィールドワーク)の精度 | 20% |
| ②現地調査(フィールドワーク)の協働状況 | 20% |
| ③地図製作状況 | 30% |
| ④データ分析・発表討論の状況 | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。必要な資料を配布予定。

【参考文献】

特になし。

■授業外学習

【具体的な内容】

事後として、現地調査後のデータ整理など、まとめる活動が必要となる。

【必要な時間】

分析作業・整理の時間に数時間は必要となる。

ゼミ長中心の作業となる。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークは2時間以上歩くことがあるため、自信がない場合は、履修に不向きである。

4年生でのゼミまで継続履修することになる。観光地理学の卒業論文を書く意欲を持っている者が履修すること。

科目名	3年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	田村 こずえ

■講義の目的および概要

本演習では、「住んでよし訪れてよし」の地域の創造を目指し、ユニバーサルな対応や実践的な学びや地域社会の歴史や文化、現状から課題発見をして、解決へのアプローチ方法に関しての基礎を学修していきます。また、各自が問題意識を持ちながら、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行い、協働しながら主体的に取り組む姿勢を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査だけではなく、フィールドワークや実習等を行い地域の現状を把握して、地域の課題を理解するようなアクティブラーニングとする。また、グループワークや学生との討論を重視して講義を進めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対して、講義の中でフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②観光と地域の基礎 (1)
- ③観光と地域の基礎 (2)
- ④観光と地域の事例 (1)
- ⑤観光と地域の事例 (2)
- ⑥観光と福祉：ユニバーサル対応 (1)
- ⑦観光と福祉：ユニバーサル対応 (2)
- ⑧観光と福祉の実践 (1)
- ⑨観光と福祉の実践 (2)
- ⑩地域社会：持続可能な観光 (1)
- ⑪地域社会：持続可能な観光 (2)
- ⑫地域社会の事例 (1)
- ⑬地域社会の事例 (2)
- ⑭地域社会の見方 (1)
- ⑮地域社会の見方 (2)
- ⑯まとめ 総括

※以上の構成で進める予定ですが、受講生の人数やフィールドワーク等の諸事情により変更になる場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

地域社会の歴史や文化、現状から課題を発見する基礎的な能力を修得します。地域社会に関して関心を持ち、フィールドワーク等を通じて主体的に取り組む姿勢や地域社会へ寄与する姿勢を身に付けます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

課題レポート：40%
ディスカッション・発表：30%
最終課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します
必要に応じてテキストや文献を紹介します

【参考文献】

必要に応じて参考文献を紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・地域社会に関心を持ち、常日頃からニュース・新聞・文献・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集するように心掛けてください。
- ・地域の事前・事後調査や配布した資料を読み、講義の内容の理解に務める。
- ・演習の課題や発表資料作成及び準備等を行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・救命救急に関する受講を予定しています。
- ・フィールドワークや実習等の費用は、基本的に自己負担ですが、一部助成があります。

科目名	3年演習(基礎)[秋学期]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

「観光」というコトバから想起されるイメージは、主に形のあるモノであったり風景であったりする場合が多いのではないのでしょうか。実は、観光資源には「音・音楽」といった”消えモノ”も含まれるのです。例えば、その場所へ行かないと聞くことができない音、ある期間しか聞くことができない音楽などがそれに該当します。このような音・音楽と観光との結びつきを音風景（サウンドスケープ）やサウンド&ミュージック・ツーリズムという概念から捉え、新しい時代の観光プランの創発を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回のテーマに沿って対話するゼミナール形式で実施します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくことを実践的に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。「基礎」（春学期）から学生が主体となって進めていくゼミナール形式を中心に、実践的な場面を想定した支援を行います。

■授業計画

①イニシャルトーク

『目に見えないモノを観光資源にする』（一部YouTube使用）

【Season1】音・音楽という概念を広げる

②音・音楽を語る切り口

マリー・シェーファーの「音風景」や、いわゆるASMR（Autonomous Sensory Meridian Response）含む思い出のあの歌あの音あの風景を語り合う

③スマホを持って街へ出かけよう（※1）

心地良い音やそれに付随する風景の収録またはネット検索

④音・音楽を演奏、記録再生する装置の今

“ハコモノ”（本学シアター）、バイノーラル・マイク収録による立体音源の試聴、音の可視化（スペクトルアナライザ）や触覚化の体験、VOCALOIDの今昔物語など

⑤Season1のまとめ

学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season2】サウンド&ミュージック・ツーリズムの事例を知る

⑥リンツ（オーストリア）で開催されたサウンド・クラウドという屋外イベント

究極の二次創作！富田勲のシンセサイザー作品（1984年）をライン川の河辺で演奏

⑦CASH BOX（神戸）というライブハウスを中心に育つ音楽コロニー

⑧菓子店か？音楽ホールか？ 六花亭の小田豊さんの考え（帯広・中札内・札幌※1）

⑨いわみざわJOIN ALIVE：NPO法人という立ち位置（※1）

⑩アルテ・ピアッツァ美唄：木造校舎がリノベーションでアート空間に（※1）

⑪Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season3】サウンド&ミュージック・ツーリズムの事例検討（※2）

⑫学生が集めた事例発表と検討会その1

⑬学生が集めた事例発表と検討会その2

⑭学生が集めた事例発表と検討会その3

⑮Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価

※1：実際に現地に行ける場合は、授業時間内外でフィールドワークとして実施する場合があります。原則として大学のバスを使用します。

※2：情報収集に便利なツール（アプリ）やサイトも合わせて紹介します。事例発表の媒体は紙、パワポ、動画何でも構いません。大切なのは相手に伝わることです。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ミュージック・ツーリズムについて、自分なりの考えを示すことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A:各回の最後のコメントシート (①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭) 12回×5点=60点 2023 (令和5)年4月1日
評価の観点:理解度について評価する。
- B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season1:10点、Season2:10点、Season3:10点 合計30点
評価の観点:自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C:⑫⑬⑭の発表とピアレビュー:10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ(通称:ネタ帳)として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『凡人のための地域再生入門』ISBN978-4478103906

■授業外学習

◇事前学修:授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修:授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

◆授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。

◆グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	有澤 恒夫

■講義の目的および概要

観光業は、人材（人的資本）の質が決定的に重要な産業です。将来、観光ビジネス（企業、NPO、公的機関等）で活躍する人材は、優れたマネジメントのあり方を学び、組織とそこで働く人々が成果をあげるために、何を考え行動しなければならないかを理解しておく必要があります。秋学期のテーマは、「ドラッカーに学ぶ生きたマネジメント」です。マネジメントを身近にわかり易く学ぶために、「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」（岩崎夏海著）をテキストに使用します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを読み進めながら、ストーリーの進行ごとに登場するマネジメントに関する重要テーマを取りあげて、その意味と目的について学びます。受講者自身の過去の経験をもとにした対話やディスカッションも重視し、活用できる生きた知識としてマネジメントを理解します。

担当教員は、企業で人事管理とマネジメントを長く経験した実務家教員です。

【課題に対するフィードバックの方法】

オフィスアワーや授業後の対話、メールによるフィードバック

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②マネジメントとは
- ③顧客は誰か
- ④マーケティング
- ⑤専門家
- ⑥強みを生かす
- ⑦仕事の生産性
- ⑧目標による管理
- ⑨イノベーション
- ⑩トップ・マネジメント
- ⑪リーダーシップ
- ⑫人事システム
- ⑬経営戦略／経営管理
- ⑭真摯さ／社会貢献
- ⑮仕事の哲学

注：授業計画は変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 優れたマネジメント（経営）は仕事の生産性を高め、組織とそこで働く人々に成果をもたらすということが理解できる。
2. 組織とそこで働く人々が成果を上げるためには、具体的に何を考え行動しなければならないかを理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発言・ディスカッション等授業への参画（60％）、レポート（40％）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」岩崎夏海著。ダイヤモンド社

【参考文献】

「マネジメント【エッセンシャル版】」P.Fドラッカー著 ダイヤモンド社【テキスト】

■授業外学習

【具体的な内容】
事前配布資料とレジュメ、参考図書による学習

【必要な時間】
予習と復習各2時間程度

■その他

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

春学期に理解を深めた音・音楽と観光との結びつきを音風景（サウンドスケープ）やサウンド&ミュージック・ツーリズムという視点から捉え直し、ミニマム・コミュニティにおける観光プランの創発を立案します。仮想的に収益を上げることを想定したプランを立て、サウンド&ミュージック・ツーリズムのPDCAサイクルの回し方、及び今日的課題を体験的に学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式のPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）で実施します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくことを実践的に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。「応用」（秋学期）は学生が主体となって進めていくゼミナール形式の基盤づくりに対するフィードバックを中心に、実践的な場面を想定した支援を行います。

■授業計画

【Season4】サウンド&ミュージック・ツーリズム企画の基本

- ①基調対談：サウンド&ミュージック・ツーリズムとは何だろうか（一部YouTube）
- ②グループ・ワーク第1回：音・音楽を商品化するために必要なこと
- ③グループ・ワーク第2回：観光商品化のキャッシュフロー
- ④グループ・ワーク第3回：ローンチ（launch）・カスタマーの獲得と回帰客の創出
- ⑤発表：グループワークのまとめを発表する（※1）

【Season5】グループ・ワークによるプランニング

- ⑥グループ・ワーク第1回：収益化できる観光商品を企画する
サウンド&ミュージック・ツーリズムで収益化が見込める観光商品を企画する。単にアイデアを出し合うだけでなく、必要な経費についても試算する。
- ⑦グループ・ワーク第2回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑧グループ・ワーク第3回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑨グループ・ワーク第4回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑩発表：企画した観光商品を発表する（※2）

【Final Season】仮想実践で顧客の反応を確かめる

- ⑪グループ・ワーク第1回：YouTuberからのメッセージとSeason5の企画の修正
- ⑫グループ・ワーク第2回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成（※3）
- ⑬グループ・ワーク第3回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
- ⑭グループ・ワーク第4回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
- ⑮まとめ：YouTube動画へのダイレクトコメントの紹介、PDCAやルーブリックといった評価方法の紹介、授業評価

※1：発表の媒体は、紙媒体（レジュメ）、パワーポイント（スライドショー）、YouTube（動画）などが想定されるがどれを採用するかは各グループの自由とします。

※2：発表した内容については相互評価（ピア・レビュー）を行います。

※3：作成した動画は河本洋一研究室のWebサイトで公開し、学外から投票やコメントを聴取し、実現の可能性について検証するための情報を得ます。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

グループ・ワークで学生同士の意見交流を図りながら、一人一つのサウンド&ミュージック・ツーリズムの仮想的商品を開発することを目指します。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力課題
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A:各回の最後のコメントシート(①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭) 12回×5点=60点 2023(令和5)年4月1日
評価の観点:グループ・ワークへの貢献度を評価する。
- B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season4:10点、Season5:10点、Final Season:10点 合計30点
評価の観点:自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C:ラーニング・アーカイブ(ネタ帳):10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ(通称:ネタ帳)として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『凡人のための地域再生入門』ISBN978-4478103906

■授業外学習

【具体的な内容】

◇事前学修:授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修:授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

◆授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。

◆グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習では道内最大規模を誇る新千歳空港におけるこれまでのアクセス整備の経緯と現状について、各交通機関別に詳細に分析し、将来の空港アクセスと理想とする各交通の果たす絵姿について追求していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

主には新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状について考察し、航空と他交通機関とのこれまでの共存関係を確認していく。そして北海道新幹線の札幌延伸が航空に及ぼす影響等も含めた航空の将来展望についての考察に向け、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から分析・研究を行っていく。最後に研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①演習（基礎）の振り返り、今後の進め方
- ②新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状1（全体確認）
- ③フィールドワーク1（新千歳空港）
- ④フィールドワーク2（新千歳空港）
- ⑤新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状2（JR）
- ⑥新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状3（乗合バス）
- ⑦新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状4（観光バス）
- ⑧新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状5（タクシー・レンタカー）
- ⑨新千歳空港における空港アクセス整備の経緯と現状6（自家用車・新交通）
- ⑩道内各空港（新千歳空港以外）における空港アクセス整備の経緯と現状
- ⑪道内都市間移動における航空と他交通機関との役割分析
- ⑫新千歳空港における空港アクセスの将来展望（北海道新幹線札幌延伸の影響等）
- ⑬最終発表会に向けたワーク
- ⑭最終発表会
- ⑮最終発表会の振り返りと1年間の成果の確認

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

新千歳空港をはじめとした道内空港の特性を正確に理解し、それら空港アクセスの更なる向上に向けた事業者／利用者双方の目線に立った現実的な施策について、独自の発想と視点を持って論理的に自論として説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 30%
最終発表会の内容 50%
課題・レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

- ①進む航空と鉄道のコラボ 杉浦 一機 800円（税別）

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークの実施に伴い、交通費（新千歳空港予定）及び諸費用としてー2023（令和5）年4月1日
3,000円～5,000円程度必要となります。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

秋学期演習「ホテル・マネジメントゼミ」では、ホテルビジネスを体系的に理解し各々が思い描くホテルを考え、事業収支計画を立案することを目的とします。授業では札幌市内にホテル計画をすることを前提に授業を進めていきます。

※ゼミ生は秋学期に開講される「ホテル開発概論」を同時に履修してホテル事業開発の建設計画から開業までの開発プロセスを学び基礎知識の幅を広げることを勧めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、ディスカッションやグループワークを取り入れ、能動的な演習を目指します。本演習はホテルビジネスに重要な事業計画をグループワークにて様々な議論をおこない作成を進めます。シュミレートされた計画書をもとにグループでの成果発表をおこなう。

【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- ① 演習ガイダンス : 演習内容説明、授業の進め方、成績評価
- ② 立地調査分析 : 札幌市の地域評価(客層、交通ルート、宿泊目的、地域特性)
- ③ マーケット調査 : 位置条件、競合ホテル、需要と供給の推定、潜在需要
- ④ 仮定設定条件 : ホテル形態、立地エリア、客室規模、交通利便性
- ⑤ 施設規模の設定 : マーケット調査を基に規模を設定
⇒客室数、料飲業態、宴会場の有無、その他施設有無
- ⑥ 稼働見込の設定 : 客室稼働率、飲食業態別稼働、宴会場稼働、その他施設
組織・人員設定 : 各部門の組織、各部門人員計画
- ⑦ 採算性検討Ⅰ : 宿泊部門収入予想 (稼働率、単価、経費率、原価率…)
- ⑧ 採算性検討Ⅱ : 料飲部門収入予想 (機能構成、客席、平均単価、席回転)
- ⑨ 採算性検討Ⅲ : 宴会部門収入予想 (宴会、結婚披露宴、件数、単価、人数)
- ⑩ 採算性検討Ⅳ : 部門経費、人件費・固定費の検証、販管費・変動費
- ⑪ ディスカッション : 計画されたホテルがビジネスとして成立するか検証
- ⑫ ホテル事業計画作成 (パワーポイント作成)
- ⑬ ホテル事業計画発表 (グループプレゼン)
- ⑭ 事業計画の発表 : グループプレゼン
- ⑮ まとめ : ホテル事業計画について総括、全体ディスカッション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① ホテルビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② 施設の所有・経営・運営に必要なとされる専門知識を習得する
- ③ ホテルの事業計画についてプレゼン能力、収支計画の基礎知識を習得する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) : 専門知識・技能を活用する能力
(DP4) : 多様性の理解と協働する力
(DP5) : 能動的に学び続ける力
(DP6) : 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

2つの評価項目総合点(100点満点)により単位認定をおこなう
・授業態度・グループワーク参加・積極性 : 配分40%(40点)
・成果物完成度、プレゼン参加 : 配分60%(60点)

■テキスト・参考文献

【テキスト・参考書】

- ・テキスト購入は必要ありません。
- ・必要に応じ資料を適宜配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

参考にするホテルへの訪問、利用、公式HP・OTA、旅行雑誌等の調査など
ホテル基本知識の習得に努める。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

・専門知識を養い将来ホテル・リゾート・旅館など宿泊業界で活躍する人材になって
くれることを期待しております。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

ニセコ地区の観光について研究

世界的な成長をみせているニセコ地区（ひらふ、東山、アンヌプリ）を主要な研究対象と定め、それぞれの成立過程と要因、発展、現状について考察します。また、一部にとかち検定の問題作成を含めた「とかち」に関する研究もあわせて行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学習…課題は各自積極的に取り組み、他の学生により影響を与えること。

とかちに関する知識を身につけ、検定試験問題作成に取り組むこと。

考察…ニセコ各地域の特徴を踏まえ、独自の視点をもてるよう深く考察すること。

フィールドワーク…ニセコ高校と連携し、高校生に模範となるよう研鑽を積むこと。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィードバックは授業内で行います。

■授業計画

I とかち検定関する基本的知識習得と問題作成（とかち文化検定）

- ①とかちの自然・歴史
- ②とかちの産業・文化
- ③とかち検定問題作成
- ④とかち検定問題作成

II ニセコ地域別考察・グループ別研究分析

- ⑤じゃらん バックナンバー研究1
- ⑥じゃらん バックナンバー研究2
- ⑦じゃらん バックナンバー研究3

III フィールドワーク

- ⑧フィールドワーク1（事前準備）ニセコ高校訪問準備
- ⑨フィールドワーク2 企業訪問（ホテル、ワイナリーなど）
- ⑩フィールドワーク3 自治体訪問（ニセコ町ほか）
- ⑪フィールドワーク4 道の駅訪問（ニセコビュープラザ、倶知安町の駅ほか）
- ⑫フィールドワーク5 その他

IV 研究のまとめ

- ⑬研究のまとめと考察
- ⑭発表
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ニセコ観光をつうじて、観光の基本的知識を身につけ、フィールドワークを通じて地域振興について考察することができたか。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 《DP1》専門知識・技能を活用する力
- 《DP4》多様性の理解と協働する力
- 《DP5》能動的に学び続ける力
- 《DP6》社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①とかち検定試験 20%
- ②地域別考察 40%
- ③研究のまとめと発表 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「ぐるっと羊蹄まちしるべ」（非売品）ニセコガイド検定試験問題 … 教員より提供

「地域学とかち ガイドブック」…教員より提供

「じゃらん」バックナンバー

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

ゼミは自主的な研究と期日を守ってレジュメをまとめ発表することが必須です。
ゼミに所属する自覚と役割分担を責任をもって果たすことが求められます。

【必要な時間】

事前事後（特に事前）それぞれ2時間

■その他

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

ブライダルビジネスを体系的に理解するため、先ず実際のブライダル商品について学習します。その後、グループ毎に自由なテーマを掲げバーチャルで1件の披露宴をプランニングします。出来上がったプランをグループ毎にプレゼンテーションを行います。また、ホテル内でのブライダルの役割や宿泊部門、レストラン部門等との関連性についてフィールドワークを行い学習します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半はウェディング・プランナーやホテルエとして実務経験豊富な教員が、ブライダル商品について判りやすい講義形式で進めます。
その後、グループワークにより披露宴のプランニングを行って頂きます。プログラム、会場コーディネート、衣裳、ウェディングケーキ、ペーパーアイテム、使用するBGM等をまとめ、各グループ毎にプレゼンテーションを行って頂きます。
また、ホテルでのフィールドワークにより、学習の理解度を深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で実例を豊富にあげ、判り易く解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②ブライダル商品 (1) 実例
- ③ブライダル商品 (2) ブレイクダウン
- ④ブライダルプロデュースの基礎知識 (1) 披露宴の意義とプログラム
- ⑤ブライダルプロデュースの基礎知識 (2) 披露宴VTR
- ⑥ブライダルプロデュースの基礎知識 (3) コーディネートと演出
- ⑦グループ毎にプランニング (1)
- ⑧グループ毎にプランニング (2)
- ⑨グループ毎にプランニング (3)
- ⑩グループ毎にプレゼンテーション
- ⑪プレゼンテーションの順位発表
- ⑫フィールドワーク 札幌市内ホテル視察
- ⑬フィールドワーク 札幌市内ホテル視察
- ⑭ホテルにおけるブライダルの役割と、宿泊部門、レストラン部門等との関連性、まとめ
- ⑮ゼミ全体発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

メンバー全員が課題を理解し、積極的にディスカッションと連携をしていく中で、1件の披露宴を創りあげることにより、披露宴の内容や意義などを説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

ホテル視察レポート20%、プランニングに関するレポート30%、グループ内での課題に対する取り組み意欲50%。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は用いず、配布するプリントを用います。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

SNSやニュースなどでブライダル話題に興味・関心を持つ。
毎回の授業でプリントを配布しますので、授業後、重要なポイントは復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習、復習時間としてそれぞれ2時間程度。

■その他

フィールドワーク時の交通費、ホテルでの昼食（テーブルマナー）代として合計3,000円～5,000円程度の費用が掛かります。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

観光地では「言語のバリア」がしばしば問題点として指摘されることがあります。たとえば、飲食店のメニューや案内表示などに表記されている外国語が機械翻訳の乱用によって正しく記載されていない、また、カメラ翻訳アプリを使用する際、使われている文字のフォントが特殊で読み取れないなど、多言語対応においてさまざまな問題を抱えています。特に食べ物の場合、アレルギー表示やイスラム圏の観光客のためのハラール食品に関する情報提示がされなかったりすると大きな問題になりかねません。

そこで本講義では「言語景観から考える北海道観光と多言語対応」をテーマに、異文化コミュニケーションを学びながら観光地における「言語のバリアフリー」を目指して観光地の外国語、特に韓国語表記を見直すための活動に取り組んでいきます。

また、関心のあるテーマにどのような課題があるか情報収集を行い、ゼミのメンバーと協力し合いながら発表・議論を行うことで専門性・協調性・自主性を育てていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせ実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice: 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 国際観光探求 (言語景観) 1
- ③ 国際観光探求 (言語景観) 2
- ④ 国際観光探求 (言語景観) 3
- ⑤ 国際観光探求 (言語景観) 4
- ⑥ 研究テーマ設定中間発表
- ⑦ 国際観光探求 (言語景観) 5
- ⑧ 国際観光探求 (言語景観) 6
- ⑨ グループワーク1
- ⑩ グループワーク2
- ⑪ プレゼンテーション1
- ⑫ プレゼンテーション2
- ⑬ 異文化体験
- ⑭ 成果発表の準備および予行演習
- ⑮ 3年演習成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特定の教科書は用いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】
必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べることを、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】
前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初級以上の韓国語能力を要します。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの応用編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーションの発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ 1：ワインツーリズムによる地域振興（後編）
 - ③ フィールドワーク 1：ワイナリーボランティアツアー参加
 - ④ フィールドワーク 1：ワイナリーボランティアツアー参加
 - ⑤ ケーススタディ 2：インバウンド向けNPSアップの検証（後編）
 - ⑥ ケーススタディ 2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク 2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ 3：SNSを活用したツアーの販売促進（後編）
 - ⑨ ケーススタディ 3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク 3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ 4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？（後編）
 - ⑫ ケーススタディ 4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク 4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 最終成果発表
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・グループワークから、実社会で使える共同作業する能力やコミュニケーション能力の習得
- ・プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力、
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

- ・授業レポート提出内容：30%
- ・フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・プレゼンテーション（個別研究発表、最終成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

- 【テキスト】
- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。
- 【参考文献】
- ・なし

■授業外学習

- 【具体的な内容】
- ・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事
- 【予習と復習の時間】
- ・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。そこで日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光系ベンチャー事業者のケーススタディをフィールドワークを通して起業の基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型・アクティブラーニング授業とする。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②グループディスカッション事業計画書ブラッシュアップ1
- ③グループディスカッション事業計画書ブラッシュアップ2
- ④グループディスカッション経営計画1
- ⑤グループディスカッション経営計画2
- ⑥グループディスカッション財務戦略1
- ⑦グループディスカッション財務戦略2
- ⑧就職活動状況確認
- ⑨事業計画・経営計画・財務戦略の決定
- ⑩発表用資料作成1
- ⑪発表用資料作成2
- ⑫発表用資料作成3
- ⑬グループディスカッション 個別指導
- ⑭グループディスカッション 個別指導
- ⑮ゼミ成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
 フィールドワーク40%
 授業内試験30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事業化が現実的なものは、外部講師等と連携をして実際に立ち上げて行くことも視野に入れる。各自のキャリアの一環として真剣に取り組むこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

本演習では「北海道から発信する観光と国際協力」というテーマの応用編として、世界、日本、北海道における様々なケーススタディ（事例研究）を基に実例から学び、理解を深めます。環境保護、開発協力、地域活性化、国際相互理解などを通して、観光分野が世界の諸問題の解決・改善に貢献できる多彩な可能性について探究します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査、研究発表、ディスカッションを行います。また、グループワークやペアワークを通じて、学生自身によるテーマ設定、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回提出してもらった授業レポートを添削し、各学生に返却します。また授業内で学生全員にも内容を共有し、コメントと解説を行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション、授業計画
- ②ケーススタディ1：世界の観光事情と環境問題
- ③ケーススタディ2：観光を通じた国際交流・異文化理解
- ④ケーススタディ3：貧困層・社会的弱者のための観光ビジネス
- ⑤第1回フィールドワーク
- ⑥ケーススタディ4：観光と国際協力を通じた地域活性化
- ⑦ケーススタディ5：北海道の観光分野における国際貢献
- ⑧ケーススタディ6：北海道での国際観光ボランティアの取り組み
- ⑨第2回フィールドワーク
- ⑩ケーススタディ7：国際協力による観光開発
- ⑪ケーススタディ8：海外と日本のサステナブル・ツーリズム
- ⑫ケーススタディ9：観光による国家の経済発展と平和
- ⑬第3回フィールドワーク
- ⑭最終成果発表会準備
- ⑮最終成果発表会

※以上の構成で進める予定ですが、履修者の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・世界各国のケーススタディを通して、グローバルな思考力と社会貢献に活かせる実践力を身に付ける。
- ・観光分野と国際協力における現状と課題を理解し、問題解決に向けた自身の考えも含めて口頭や文章で分かり易く説明することができる。
- ・共同作業する能力やコミュニケーション能力を習得し、グループワークに積極的に取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業レポート：30%
 プレゼンテーション（個別研究発表、最終成果発表）：40%
 フィールドワーク：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します。

【参考文献】

藤稿亜矢子『サステナブルツーリズム：地球の持続可能性の視点から』晃洋書房、2018年。
 橋本和也・佐藤幸男編『観光開発と文化：南からの問いかけ』世界思想社、2003年。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習としては、文献資料の収集・熟読と、発表資料の作成およびプレゼンテーションに向けた準備作業を行います。事後学習としては、授業外の時間を使ってグループワークやペアワークに取り組み、調査した内容の整理とまとめの作業を行います。授業内容に関連するニュースや記事、映画、ドキュメンタリー番組なども意識的に見るようにしましょう。

【必要な時間】

事前・事後学習ともに2時間を目安とします。

■その他

本演習では、学内外でのイベントやアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むバイタリティが必要です。国際協力ボランティアにも参加します。フィールドワークやボランティア活動にかかる交通費は原則自費ですが、一部補助の場合もあります。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地地図製作とそこからの観光空間分析を地理学的に行う。

そして、そこから4年生で行う卒業論文にむけた内容を決定し、各自でそれにむけた活動を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

道央圏を調査対象とし、日帰りでのフィールドワークを中心とした授業が行われる。街中を地図片手に歩くことを春学期に続いて実施する予定である。

それに必要な講義が前後に行われる。調査後の分析活動も学生が中心に実施する。後半には、各自で卒業論文に向けた概要レジュメを作成し、研究計画書を作成する。そして、それを発表用の資料に仕上げるようにする。

【課題に対するフィードバックの方法】

地図製作作業の中でその課題を少しずつ見つけ出す。完成に近づけていく中で調査した観光地の地理的特徴と問題点を知り、それを各地の観光状況に重ね合わせて考え、議論に活かす。

自らの研究テーマの作成と概要レジュメに関して、適宜指導を受ける。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②フィールドワーク準備
- ③フィールドワーク 1
- ④フィールドワーク 2
- ⑤フィールドワーク 3
- ⑥地図製作 1
- ⑦地図製作 2
- ⑧データ分析 1
- ⑨データ分析 2
- ⑩卒業論文にむけた概要発表 1
- ⑪卒業論文にむけた概要発表 2
- ⑫成果発表にむけたまとめ 1
- ⑬成果発表にむけたまとめ 2
- ⑭成果発表にむけたまとめ 3
- ⑮成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①精密な現地調査ができる。
- ②協力して現地調査ができる。
- ③協力して地図製作することができる。
- ④地図やデータを分析することができる。
- ⑤卒業研究に対する明確な計画を建てることことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|----------------------|-----|
| ①現地調査（フィールドワーク）の精度 | 20% |
| ②現地調査（フィールドワーク）の協働状況 | 20% |
| ③地図製作状況 | 20% |
| ④データ分析状況 | 20% |
| ⑤卒業研究計画・レジュメ発表・全体発表 | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。必要な資料を配布予定。

【参考文献】

特になし。

■授業外学習

【具体的な内容】

事後として、現地調査後のデータ整理、レジュメ発表のためのまとめる活動が必要となる。

後半は卒業研究計画の作成、それにむけたレジュメ制作・発表などが必要となる。

【必要な時間】

分析作業・整理の時間、卒業論文にむけたレジュメ制作、発表用のスライド資料制作などには数時間は必要となる。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間が目安となる。

■その他

フィールドワークは2時間以上歩くことがあるため、自信がない場合は、履修に不向きである。

4年生でのゼミまで継続履修し、観光地理学の卒業論文を書くことが前提となる。

科目名	3年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	田村 こずえ

■講義の目的および概要

本演習では、「住んでよし訪れてよし」の地域の創造を目指し、ユニバーサルな対応や実践的な学びや地域社会の歴史や文化、現状から課題発見をして、解決へのアプローチ方法に関する基礎を学修していきます。また、各自が問題意識を持ちながら、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行い、協働しながら主体的に取り組む姿勢を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査だけでなく、フィールドワークや実習等を行い地域の現状を把握して、地域の課題を理解するようなアクティブラーニングとする。また、グループワークや学生との討論を重視して講義を進めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対して、講義の中でフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②観光と地域の応用 (1) : 学ぶ姿勢
- ③観光と地域の応用 (2) : 観光とは
- ④観光と地域の応用 (3) : 地域とは
- ⑤観光と地域の応用 (4) : 地域づくりとは
- ⑥フィールドワークにおける地域課題調査 (1)
- ⑦フィールドワークにおける地域課題調査 (2)
- ⑧フィールドワークにおける地域課題調査 (3)
- ⑨フィールドワークにおける地域課題調査 (4)
- ⑩フィールドワークの振り返りと報告
- ⑪演習発表の資料作成 (1)
- ⑫演習発表の資料作成 (2)
- ⑬演習発表の資料作成 (3)
- ⑭演習発表
- ⑮演習報告会

※以上の構成で進める予定ですが、受講生の人数やフィールドワーク等の諸事情により変更になる場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

地域社会の歴史や文化、現状から課題を発見する基礎的な能力を修得します。地域社会に関して関心を持ち、フィールドワーク等を通じて主体的に取り組む姿勢や地域社会へ寄与する姿勢を身に付けます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・課題レポート : 40%
- ・ディスカッション・発表 : 30%
- ・最終課題 : 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します
必要に応じてテキストや文献を紹介します

【参考文献】

必要に応じて参考文献を紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・地域社会に関心を持ち、常日頃からニュース・新聞・文献・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集するように心掛けてください。
- ・地域の事前・事後調査や配布した資料を読み、講義の内容の理解に務める。
- ・演習の課題や発表資料作成及び準備等を行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークや実習等の費用は、基本的に自己負担ですが、一部助成があります。

科目名	観光地形成
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	河本 光弘

■講義の目的および概要

魅力ある観光地、持続可能な観光地形成における課題は広範に亘るが、本講では地域資源およびその活用方針に着目し、タイプ別等に事例をまじえ、観光施策、現場におけるマネジメントの視点から地域経営（ヒト、モノ、カネ、情報）を主眼に学習することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

国内外事例を対象としたケーススタディを中心とした講義を行います。また主要なテーマについては課題解決型のグループ学習や発表を通して、自ら考える力を醸成していけるようにします。

本講義はコンサルタント会社において調査業務の実務経験のある教員が、具体的な調査例を踏まえた実践的な授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、プレゼンテーションに対しては講評および教員・学生間での意見交換等を行います。

■授業計画

下記の内容で授業を実施する予定である。

①ガイダンス～観光地を形成するもの

【観光資源に着目した観光地形成】

- ②自然資源を活かした観光地形成
- ③歴史資源を活かした観光地形成
- ④観光地形成における景観の役割
- ⑤都市と観光地形成
- ⑥リゾートとしての観光地形成
- ⑦農山漁村を活かした観光地形成
- ⑧ものづくりを活かした観光地形成
- ⑨リゾートとしての観光地形成
- ⑩イベント等を活かした観光地形成

【観光基盤・需要に着目した観光地形成】

- ⑪広域連携による観光地形成
- ⑫交通と観光地形成
- ⑬国際化に対応した観光地形成
- ⑭情報受信と観光地形成
- ⑮まとめとテスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光地形成を進めていく上で、施策・制度活用や観光地運営を担っていくための基本スキルを身につけることができることをめざします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

課題（テスト）	= 45点
プレゼンテーション	= 45点
授業参加（発言・討議等）	= 10点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありませんが、必要に応じてプリントの配布や参考文献を提示します。

【参考文献】

観光白書、北海道観光の現況（いずれもウェブサイトからダウンロード可）

■授業外学習

【具体的な内容】

観光庁や北海道経済部観光局ホームページを読み、どのような観光統計があるのか把握しておくこと。また、新聞やTVなどで観光地に関する情報について、調べておくこと。

【必要な時間】

2時間／項目ごとの予習・復習

■その他

コロナやその他学習環境の変化により、上記内容を変更する場合がある。また、ゲスト講師による講義等を状況により実施する。

科目名	観光サービス論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

観光に関わる様々な観光サービスについて、『全体像を俯瞰し、個々の観光サービス産業の現状と課題、未来のあるべき姿を思い描くことができる』ようになることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界でに実務経験のある教員による講義形式の授業。具体的事例を紹介し、併せて授業内課題で理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題・レポートについて、特徴的な回答例をもとに授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイドンス 観光を概観する
- ②宿泊業と観光(1) フィールドワーク 登別温泉にて旅館施設関係者による講演聴講「旅館の提供している観光サービス「おもてなし」を中心に」および日帰り入浴体験(昼食付き) 10/15実施予定
- ③宿泊業と観光(2)
- ④宿泊業と観光(3)
- ⑤交通機関と観光(1)
- ⑥交通機関と観光(2)
- ⑦交通機関と観光(3)
- ⑧旅行業と観光(1)
- ⑨旅行業と観光(2)
- ⑩インバウンド(訪日外国人旅行)(1)
- ⑪インバウンド(訪日外国人旅行)(2)
- ⑫「着地型観光」と「日本版DMO」
- ⑬観光対象としての観光資源/観光情報とメディア
- ⑭ニューツーリズム
- ⑮まとめ 授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

様々な観光サービスを理解し、その可能性や課題に対する見識を持つ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内試験50%、課題レポート25%、授業内課題25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

著者/編集：谷口知司、福井弘幸『これからの観光を考える』（晃洋書房）

■授業外学習

【具体的な内容】

・WEBでの情報収集のみならず、観光に関する報道などに関心を持ち、自発的に各回の学びを深めること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

※登別温泉のフィールドワークでは、講演聴講、日帰り入浴体験費用として5,000円程度が必要です。※フィールドワーク実施日は変更になる場合があります。※授業内課題を必ず提出すること。

科目名	観光英会話
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

近年インバウンド観光客の増加も予想しており、様々な観光場面で英語会話に精通する人材が求められている現状を踏まえ、より詳細に説明や対応ができるよう、やや難易度の高い観光英語の習得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光の場面ごとに観光英会話用の単語やフレーズを紹介し、ロールプレイ等を通して実際に使えるよう練習を重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で学生が様々な文章を読解し、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。また定期的に小テストも行い、学習効果を確認します。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② Unit 1 Transportation
- ③ Unit 2 At a Check-in Counter
- ④ Unit 3 Facilities and Services
- ⑤ Review Unit1.2.3 / Evaluation Test 1
- ⑥ Unit 5 Recommending a Trip
- ⑦ Unit 6 Dining in Japan ①
- ⑧ Unit 7 Dining in Japan ②
- ⑨ Review Unit 5.6.7 / Evaluation Test 2
- ⑩ Unit 9 Staying at a Ryokan
- ⑪ Unit 10.11 Culture Experience in Japan ①②
- ⑫ Unit 12 Japanese souvenirs
- ⑬ Review Unit 9.10.11.12 / Evaluation Test 3
- ⑭ Fieldwork
- ⑮ Fieldwork Presentation & Report

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

それぞれの場面で使う観光英語を学習し、実際に仕事や旅行中で使えるようになる。また観光英語検定試験3級合格を目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- Evaluation Test 1 (10%)
- Evaluation Test 2 (10%)
- Evaluation Test 3 (10%)
- Presentation & Report (30%)
- Homework Assignment (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『HOSPITALITY ON THE SCENE』 (上杉恵美ほか [著]、金星堂)

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
授業で使用する教材の予習・復習をしてください。

【必要な時間】
Manabaにあるリスニング宿題やリーディングも含め、予習・復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

■その他

観光英語検定試験3級の受験を勧めます。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

ヒューマンビートボックス、ボイパ（アカペラ）系音楽やオペラ、ミュージカル、キャラクターショーの可能性と、それらの音楽と観光が結びついた事例を知ってもらいます。そして、その裏方仕事、必要経費、アーティストの生活事情など、様々な立場の人々がどのようなコロニーを形成しているかを春学期から秋学期にわたって学生の皆さんに知ってもらいます。特にミニマム・コミュニティ（生活圏）での音楽イベントが、どのような仕組みで運営され収益化されていくかについて、知ることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式のPBL型（プロジェクト型・課題解決型）の授業を目指します。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていく基盤を醸成します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。「基礎」（春学期）は学生が主体となって進めていくゼミナール形式の基盤づくりに対するフィードバックを中心に、特に個に応じた支援を大切に行います。

■授業計画

①イニシャル・トーク：『ワクワク感が対価を生む仕掛けに目を向けよう』

【Season1】音楽で生きる人たちを知る

- ②『音楽で生きる人たち』その1：ヒューマンビートボックスやボイパの可能性
- ③『音楽で生きる人たち』その2：オペラやキャラクターショーの可能性
- ④『音楽で生きる人たち』その3：音楽と社会の繋がり
- ⑤Season1のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season2】音楽イベントの実情を知る：『音楽イベント“あいうえお”』

- ⑥その1「あ」：赤字が出て困らない！ 北海道は自立できない補助金王国!?
- ⑦その2「い」：色々あるぞ裏方仕事、価格＝経費じゃない
- ⑧その3「う」：「売れていない」のは「売っていない」と同じこと
- ⑨その4「え」：絵は形を切り取り、音楽は時間を切り取る
- ⑩その5「お」：音楽と食は“ベストカップル”
- ⑪Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season3】音楽と観光の接点を知る

- ⑫その1：音楽と観光の共通点を探せ！、キーワードは「時間」
- ⑬その2：事例から学ぶ音楽の観光化と観光の音楽化
- ⑭その3：音楽×観光＝[] この括弧を埋めよ
- ⑮Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ミニマム・コミュニティでの音楽イベントの意義や実施の仕組みまた、観光との接点について、自分なりの考えを表すことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A: 各回の最後のコメントシート（①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭）12回×5点＝60点
 評価の観点：理解度について評価する。
- B: 各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
 Season1：10点、Season2：10点、Season3：10点 合計30点
 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C: ラーニング・アーカイブ（ネタ帳）：10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体は何でもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。（Evernoteを推奨）

【参考文献】

和野内崇弘『北海道の宿題』ISBN4-901336-10 ※本学図書館に所蔵

■授業外学習

【具体的な内容】

◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修：授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

◆授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。

◆グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。一人一つの発表です。グループで一つではありませんので注意してください。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	黄 旭暉

■講義の目的および概要

国際理解を通して得られた情報と知識を踏まえ、自らの考えに基づくアジア圏観光客に対する観光プログラム作成の試み。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アジア圏の人々に日本、中でも北海道観光をより魅力的に感じてもらうため、どのような特色ある観光プログラムが作成できるのか、その可能性を探ります。自・他国の文化などを理解し、更にアジア観光客が海外旅行においてどういったアクティビティを好み、特に北海道観光に対しては如何なるアクティビティを求めているのかを知り、それを基に北海道観光プログラムの作成を試みる。

【課題に対するフィードバックの方法】

アジア観光客へのガイド時の心得を知り、その実践に向けてどのような言動が必要になるかを検討します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②漢字圏（特に台湾人）の観光の習性を紹介する。
- ③漢字圏（特に中国人）の観光の習性を紹介する。
- ④漢字圏（特に香港人やシンガポール人）の観光の習性を紹介する。
- ⑤漢字圏（特にマレーシア人）の観光の習性を紹介する。
- ⑥韓国人の観光の習性を紹介する。
- ⑦その他
- ⑧今までの演習内容のまとめ
- ⑨異文化交流について
- ⑩異文化交流の実施
- ⑪異文化交流の問題提起など
- ⑫観光ビジネスの必要性
- ⑬観光ビジネスの将来性
- ⑭観光ビジネスとコロナ禍
- ⑮今期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

アジア圏に関する知識や情報を通して如何に異文化交流の大切さを理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP4)多様性の理解と協働する力
(DP5)能動的に学び続ける力
(DP6)社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 1、出席率 30%
- 2、授業での積極性 30%
- 3、レポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無

【参考文献】

無

■授業外学習

【具体的な内容】

問題意識を提示し、履修者自身に考えさせる。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

出張等により上記の授業計画が変更する場合もある。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの基礎編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験がある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーションの発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ 1：ワインツーリズムによる地域振興
 - ③ ケーススタディ 1：募集ツアーの企画造成、販売促進
 - ④ フィールドワーク 1：ワイナリーボランティア活動と地域課題調査
 - ⑤ ケーススタディ 2：インバウンド向けNPSアップの検証
 - ⑥ ケーススタディ 2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク 2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ 3：SNSを活用したツアーの販売促進
 - ⑨ ケーススタディ 3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク 3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ 4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？
 - ⑫ ケーススタディ 4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク 4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 中間発表、講評、
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・ グループワークから、実社会で使える共同作業能力やコミュニケーション能力の習得
- ・ プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 授業レポート提出内容：30%
- ・ フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・ プレゼンテーション（個別研究発表、中間成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

- ・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員で演習を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習では航空の重要なインフラの一つである空港にターゲットをあて、日本国内における空港民営化の展開状況を踏まえ、空港民営化がもたらす地元への経済波及効果等について分析・研究を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

わが国の「空港民営化」の展開状況およびその目的・効果等について、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から分析・研究を行っていく。中間および最後に研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①ガイダンス メンバー紹介&ゼミの進め方について
- ②国内各地で進む空港の民営化（上下一体運営）とは
- ③民営化空港の現状分析1（関西3空港）
- ④民営化空港の現状分析2（仙台空港、高松空港、静岡空港）
- ⑤民営化空港の現状分析3（福岡空港、熊本空港）
- ⑥民営化空港の現状分析4（北海道7空港①）
- ⑦民営化空港の現状分析4（北海道7空港②）
- ⑧民営化空港の現状分析5（広島空港、他）
- ⑨中間発表会
- ⑩空港民営化における世界の動き
- ⑪わが国の空港民営化に向けた今後の動向
- ⑫わが国の空港民営化がもたらす経済効果と課題
- ⑬最終発表会に向けたワーク
- ⑭最終発表会
- ⑮秋学期に向けての打ち合わせ

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

わが国が進めている空港民営化の背景、目的及び現状を理解し、今後のあるべき空港民営化のあり方等について、自身の見解を持ち他者に対し論理的に説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 30%
発表会の内容（中間および最終） 50%
課題・レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	金庭 香理

■講義の目的および概要

持続可能な社会づくりが進むなか、観光は地域振興のリソースのひとつとして位置づけられています。このゼミでは「観光」と「言語」の関わりに着目し、観光地や公共空間にある言語標識、多言語対応、言語接触などをとおして観光現象について考えます。

前期は、テキストを用いて、現状を整理し、自分の興味のある分野を探ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献・資料の輪読などの事前学習を行います。

学生が主体となり、フィールドワーク、グループワーク、レジュメ作成などを行います。相互に意見交換をし、助け合いながら、それぞれの研究課題を見つけます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。

■授業計画

概ね以下の内容で展開する予定。

- ①ガイダンス
- ②言語景観
- ③観光地等における言語対応
- ④観光地等における言語対応
- ⑤観光接触場面における日本語
- ⑥観光接触場面における日本語
- ⑦調査 1
- ⑧調査 2
- ⑨調査 3
- ⑩観光と地域変容
- ⑪観光と地域変容
- ⑫観光政策（地域デザイン）と言語
- ⑬言語のバリアフリー
- ⑭研究計画
- ⑮研究計画

※調査地、内容については、ゼミ内で協議し、決定します。

※不測の事態のときは、オンライン授業となることがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光地における言語景観について基礎知識を身につける
- ・言語と観光地との関係性を認識し課題意識を身につける
- ・テーマに関する資料やデータを収集し、理解できるようにする
- ・論理的思考のもと、課題解決へ向けた主体的な学修姿勢を身につける

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

レジュメや資料の作成と発表 40%
毎回の取り組みや課題の提出 40%
研究計画書 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業内で指示します。

【参考文献】

『観光言語を考える』山川和彦（くろしお出版）

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

日頃から、ニュースや新聞、インターネットで関心領域について情報収集するよう心がけてください。多様な文化背景を持つ人と積極的に交流し、観光における言語の役割を考えてください。

【必要な時間】

予習復習にそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

調査やフィールドワークにかかる際の交通費は自費です。
外国語や多言語表示に関心のある方、異文化交流が好きな方、歓迎します。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「韓国」というテーマを大きな軸として「異文化コミュニケーション」及び「国際観光」についてみなさんと一緒に研究・発表・討論などを行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice : 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 国際観光探求基礎 (韓国) 1
- ③ 国際観光探求基礎 (韓国) 2
- ④ 国際観光探求基礎 (韓国) 3
- ⑤ 国際観光探求基礎 (韓国) 4
- ⑥ 研究テーマ設定中間発表
- ⑦ 国際観光探求基礎 (韓国) 5
- ⑧ 国際観光探求基礎 (韓国) 6
- ⑨ 研究テーマの設定および研究計画報告
- ⑩ グループワーク1
- ⑪ グループワーク2
- ⑫ グループワーク3
- ⑬ プレゼンテーション1
- ⑭ プレゼンテーション2
- ⑮ プレゼンテーション3、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は用いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初中級以上の韓国語能力（韓国語Ⅰと韓国語Ⅱの履修）を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」及び「韓国語Ⅱ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

ニセコ地区の観光について研究
世界的な成長をみせているニセコ地区（ひらふ、東山、アンヌプリ）を主要な研究対象と定め、それぞれの成立過程と要因、発展、現状について考察します。
また、ニセコガイド検定を用いて、ニセコ地区の基礎的な自然・施設、温泉などの知識を習得します。これらを通じて、ニセコ観光の動向について深く理解し、研究をすすめます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学習…課題は各自積極的に取り組み、他の学生により影響を与えること。
考察…ニセコ各地域の特徴を踏まえ、独自の視点をもてるよう深く考察すること
フィールドワーク…ニセコ高校と連携し、高校生に模範となるよう研鑽を積むこと

【課題に対するフィードバックの方法】

講義内で課題に対するフィールドバックを行います。

■授業計画

I ニセコに関する基本的知識習得（ニセコガイド検定）

- ①ニセコの自然1
- ②ニセコの自然2
- ③ニセコの地域
- ④ニセコの施設、温泉

II ニセコ地域別考察・グループ別研究分析

- ⑤ニセコひらふ地区
- ⑥ニセコ東山地区
- ⑦ニセコアンヌプリ地区

III フィールドワーク

- ⑧フィールドワーク1（事前準備）ニセコ高校訪問準備
- ⑨フィールドワーク2 ひらふ地区
- ⑩フィールドワーク3 東山地区
- ⑪フィールドワーク4 アンヌプリ地区
- ⑫フィールドワーク5 倶知安町、ニセコ町の観光振興

IV 研究のまとめ

- ⑬研究のまとめと考察
- ⑭発表
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ニセコ観光をつうじて、観光の基本的知識を身につけ、フィールドワークを通じて地域振興について考察することができたか。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 《DP4》多様性の理解と協働する力
- 《DP5》能動的に学び続ける力
- 《DP6》社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①ニセコガイド検定試験 20%
- ②地域別考察 40%
- ③研究のまとめと発表 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「ぐるっと羊蹄まちしるべ」（非売品）ニセコガイド検定試験問題 … 教員より提供

【参考文献】

別途指示します。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】
ゼミは自主的な研究と期日を守ってレジュメをまとめ発表することが必須です。
ゼミに所属する自覚と役割分担を責任をもって果たすことが求められます。

【必要な時間】
事前事後（特に事前）それぞれ2時間

■その他

科目名	2年演習(基礎)
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

観光情報の収集や発信方法を学び、英語で紹介できる能力を身につける。授業内のグループディスカッションやアクティブラーニングを通じ、英語の実践的運用能力を高める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ディスカッションやプレゼンテーションを中心に授業を進め、学生の主体的な学びが求められます。北海道内の観光地へのフィールドワークがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義内で課題に対するフィードバックを行います。パンフレット等の課題もコメントをして返却します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②ディスカッション：観光地で使われているリーフレットについて
- ③大学リーフレット1作成
- ④大学リーフレット1 成果発表
- ⑤フィールドワーク1
- ⑥フィールドワーク1
- ⑦フィールドワーク1 成果発表（リーフレット2）
- ⑧ディスカッション：プレゼンテーション作成について
- ⑨フィールドワーク2
- ⑩フィールドワーク2
- ⑪フィールドワーク1 成果発表（英語プレゼンテーション1）
- ⑫フィールドワーク3
- ⑬フィールドワーク3
- ⑭フィールドワーク3 成果発表（英語プレゼンテーション2）
- ⑮学習成果確認とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

学生一人一人が観光客の立場に立ち、北海道の観光地で使われている英語の現状を把握し、問題点を改善することができるようになる。また、パンフレットやメニューの作成を通して、実践的な観光英語を身に着ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- リーフレット1 25%
- リーフレット2 25%
- プレゼンテーション1 25%
- プレゼンテーション2 25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じ、授業内でプリント適宜配布予定

【参考文献】

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

毎回の授業に対してはインターネット等を使用して、北海道の観光地の情報を収集し、課題の準備も含め2時間程度行ってください。その他グループディスカッションとファイナルプレゼンテーションは基本的に英語と日本語で行います。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ2時間程度

■その他

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

春学期に知ってもらったヒューマンビートボックス・ボイパ（アカペラ）系音楽やオペラ・キャラクターショーの可能性と意義及び、観光との接点について仮想実践を行います。特に、ミニマム・コミュニティ（生活圏）の中で、どのように企画運営されると観光との接点生まれ収益化されていくかについて、多岐多様な因子（ファクター）を考えることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式でPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）を進めます。必要に応じて、PBLに関する技法（フィールドワーク、地域活動、グループワーク、レジュメ作成等）に関する技法の補足をしながら学生が中心となって進めていくこと方法を確実な能力として定着させていきます。そのためにバーチャルゲームのような方法を取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

「応用」（秋学期）は学生が主体となって勤めていくゼミナール形式の基盤づくりを、PDCAサイクルや、ルーブリックを使った評価法によってフィードバックしていきます。

■授業計画

【Season4】ミニマム・コミュニティにおける音楽と観光の接点と課題

- ①基調対談：ミニマム・コミュニティとは何だろうか（一部YouTube使用）
- ②グループ・ワーク第1回：ミニマム・コミュニティでの音楽イベントの利点
- ③グループ・ワーク第2回：ミニマム・コミュニティで起こりそうなトラブル
- ④グループ・ワーク第3回：ミニマム・コミュニティにおける音楽と観光の接点
- ⑤発表：第1回から第3回のグループワークのまとめを発表する（※1）

【Season5】グループ・ワークによるプランニング

- ⑥グループ・ワーク第1回：収益化できるイベントを企画する。
ヒューマンビートボックスやボイパあるいは、それ以外の音楽やキャラクターショーなどを絡めた収益化が見込めるイベントを企画する。単にアイデアを出し合うだけでなく、必要な経費についても試算する。
- ⑦グループ・ワーク第2回：収益化できるイベントを企画する。
- ⑧グループ・ワーク第3回：収益化できるイベントを企画する。
- ⑨グループ・ワーク第4回：収益化できるイベントを企画する。
- ⑩発表：企画したイベントを発表する（※2）

【Final Season】仮想実践で顧客の反応を確かめる

- ⑪グループ・ワーク第1回：YouTuberからのメッセージとSeason5の企画の修正
- ⑫グループ・ワーク第2回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成（※3）
- ⑬グループ・ワーク第3回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
- ⑭グループ・ワーク第4回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
- ⑮まとめ：YouTube動画へのダイレクトコメントの紹介、PDCAやルーブリックといった評価方法の紹介、授業評価

※1：発表の媒体は、紙媒体（レジュメ）、パワーポイント（スライドショー）、YouTube（動画）などが想定されるがどれを採用するかは自由とします。

※2：発表した内容については相互評価（ピア・レビュー）を行います。

※3：作成した動画は河本洋一研究室のWebサイトで公開し、学外から投票やコメントを聴取します。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ミニマム・コミュニティでの音楽イベントを仮想的に立ち上げ、その意義や実施の仕組み観光との接点など、音楽イベントを多岐多様な因子から捉えられるようになることを目指します。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A:各回の最後のコメントシート(①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭) 12回×5点=60点 2023(令和5)年4月1日
評価の観点:グループ・ワークへの貢献度を評価する。
- B:各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season4:10点、Season5:10点、Final Season:10点 合計30点
評価の観点:自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C:ラーニング・アーカイブ(ネタ帳):10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ(通称:ネタ帳)として残るようにする。

【参考文献】

和野内崇弘『北海道の宿題』ISBN4-901336-10 ※本学図書館に所蔵

■授業外学習

【具体的な内容】

◇事前学修:授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修:授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

◆授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式のため、授業を進めていく中で、学生と共にシラバスに修正を加えることも想定しています。

◆グループ・ワークを取り入れますが、発表は個人単位です。グループで一つではありませんので注意してください。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	黄 旭暉

■講義の目的および概要

講義の目的：異文化交流を通して観光（特に漢字圏）のプログラム方法等の習得、特に観光案内時に必要と思われるガイド内容を中心に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パソコンやインターネットなどを用いることによってより効果的な授業内容にし、多様性のある講義形式を取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中に問題意識を持たせた履修者に質問や意見を提出させ、そのフィードバックで講義を進行する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②世界言語の分布及び特徴を紹介する。
- ③アジア（韓国）観光紹介1。
- ④アジア（中国）観光紹介2。
- ⑤アジア（台湾）観光紹介3。
- ⑥アジア（香港）観光紹介4。
- ⑦アジア（シンガポール）観光紹介5。
- ⑧今までの演習内容のまとめ及びグループ分け。
- ⑨グループAのプレゼンテーション。
- ⑩グループBのプレゼンテーション。
- ⑪グループCのプレゼンテーション。
- ⑫グループDのプレゼンテーション。
- ⑬グループEのプレゼンテーション。
- ⑭グループFのプレゼンテーション。
- ⑮学科全体の発表会。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光ガイド時に必要となる異文化についての知識の習得

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 1、出席率 30%
- 2、授業での積極性 30%
- 3、プレゼンテーション 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無

【参考文献】

無

■授業外学習

【具体的な内容】

問題意識を提示し、履修者自身に考えさせる。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

出張等により上記の授業計画が変更する場合もある。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの応用編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験がある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーションの発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ1：ワインツーリズムによる地域振興（後編）
 - ③ フィールドワーク1：ワイナリーツアーの実施参加
 - ④ フィールドワーク1：ワイナリーツアーの実施参加
 - ⑤ ケーススタディ2：インバウンド向けNPSアップの検証（後編）
 - ⑥ ケーススタディ2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ3：SNSを活用したツアーの販売促進（後編）
 - ⑨ ケーススタディ3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？（後編）
 - ⑫ ケーススタディ4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 合同成果発表会
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・ グループワークから、実社会で使える共同作業能力やコミュニケーション能力の習得
- ・ プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 授業レポート提出内容：30%
- ・ フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・ プレゼンテーション（個別研究発表、最終成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

- 【テキスト】
- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

- 【参考文献】
- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

- ・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習では、春学期で履修した「空港民営化」の調査・研究を踏まえつつ、実際に北海道7空港を運営している北海道エアポート株式会社（HAP）に焦点をあて、当該社の経営戦略や目指すべき将来展望について調査・研究を行う。更に北海道7空港軸にした経済効果や地域活性化に向けた考察について深掘りしていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

北海道エアポート株式会社（HAP）の経営戦略や目指すべき将来展望を通じ、地元にもたらす経済効果や地域活性化に向けた効果等について、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から調査・研究を行っていく。中間および最後に研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①演習（基礎）の振り返り、今後の進め方
- ②北海道エアポート株式会社（HAP）設立の経緯とこれまでの推移
- ③マスタープラン分析1（全体）
- ④マスタープラン分析2（新千歳空港）
- ⑤マスタープラン分析3（函館空港、旭川空港）
- ⑥マスタープラン分析4（稚内空港、釧路空港、女満別空港）
- ⑦北海道エアポート株式会社（HAP）の現状分析（コロナ禍の影響等）
- ⑧中間発表会
- ⑨中間報告会の振り返りと最終報告会までの進め方
- ⑩個別施策分析とフィールドワークに向けた準備
- ⑪フィールドワーク1
- ⑫フィールドワーク2
- ⑬最終発表会に向けたワーク
- ⑭最終発表会
- ⑮これまでの振り返りと成果のフィードバック

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

今後の北海道エアポート株式会社（HAP）実施する各種施策が、人流や地元経済、地域活性化等にどのような効果を生み出すことに繋がっていくことになるのか、自身の見解を持ち論理的視点で発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 30%
発表会の内容（中間および最終） 50%
課題・レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークの実施に伴い、交通費（新千歳空港予定）及び諸費用としてー2023（令和5）年4月1日
3,000円～5,000円程度必要となります。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	金庭 香理

■講義の目的および概要

持続可能な社会づくりが進むなか、観光は地域振興のリソースのひとつとして位置づけられています。このゼミでは「観光」と「言語」の関わりに着目し、観光地や公共空間にある言語標識、多言語対応、言語接触などをおして観光現象について考えます。

前期は、テキストを用いて、現状を整理し、自分の興味のある分野を探ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

献調査や輪読、資料収集、フィールドワークなどから知識を深め、レジュメ作成や口頭発表を通じて発信力を高めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。

■授業計画

概ねこのような予定です。前期の実施内容によって変更があります。

- ①ガイダンス
- ②街中の言語
- ③街中の言語
- ④多文化共生と言語対応
- ⑤言語景観から考える観光
- ⑥言語景観から考える観光
- ⑦調査1-フィールドワーク
- ⑧調査2-フィールドワーク
- ⑨調査3-フィールドワーク
- ⑩調査4-分析
- ⑪調査5-分析
- ⑫中間発表
- ⑬追加調査1
- ⑭追加調査2
- ⑮最終報告会

※調査地等については、ゼミ内で協議し決定します。

※不測の事態のときは、オンライン授業となることがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光地における言語景観について基礎知識を身につける
- ・言語と観光地との関係性を認識し課題意識を身につける
- ・テーマに関する資料やデータを収集し、理解できるようにする
- ・論理的思考のもと、課題解決へ向けた主体的な学修姿勢を身につける

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- レジュメや資料の作成と発表 40%
- 毎回の取り組みや課題の提出 40%
- 研究計画書 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業内で指示します。

【参考文献】

- 『言語景観から学ぶ日本語』（大修館書店）
- 『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』（ハヤカワ文庫NF）
- 『言語景観から考える日本の言語環境——方言・多言語・日本語教育』（春風社）

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

日頃から、ニュースや新聞、インターネットで関心領域について情報収集するよう心がけてください。多様な文化背景を持つ人と積極的に交流し、観光における言語の役割を考えてください。

【必要な時間】

予習復習にそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

調査やフィールドワークにかかる際の交通費は自費です。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「2年演習(基礎)」で習得した知識を踏まえて「韓国における言語・文化」および「韓国における観光事情」に関する知見を深めていきます。なお、関心のあるテーマにどのような課題があるか情報収集を行い、ゼミのメンバーと協力し合いながら発表・議論を行うことで専門性・協調性・自主性を育てていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice: 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 国際観光探求応用 (韓国) 1
- ③ 国際観光探求応用 (韓国) 2
- ④ 国際観光探求応用 (韓国) 3
- ⑤ 国際観光探求応用 (韓国) 4
- ⑥ 研究テーマ設定中間発表
- ⑦ 国際観光探求応用 (韓国) 5
- ⑧ 国際観光探求応用 (韓国) 6
- ⑨ グループワーク1
- ⑩ グループワーク2
- ⑪ プレゼンテーション1
- ⑫ プレゼンテーション2
- ⑬ 異文化体験
- ⑭ 成果発表の準備および予行演習
- ⑮ 2年演習成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は使いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初中級以上の韓国語能力（韓国語Ⅰと韓国語Ⅱの履修）を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」及び「韓国語Ⅱ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

ニセコ地区の観光について研究
世界的な成長をみせているニセコ地区（ひらふ、東山、アンヌプリ）を主要な研究対象と定め、それぞれの成立過程と要因、発展、現状について考察します。
また、一部にとちか検定の問題作成を含めた「とちか」に関する研究もあわせて行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学習…課題は各自積極的に取り組み、他の学生により影響を与えること。
とちかに関する知識を身につけ、検定試験問題作成に取り組むこと
考察…ニセコ各地域の特徴を踏まえ、独自の視点をもてるよう深く考察すること
フィールドワーク…ニセコ高校と連携し、高校生に模範となるよう研鑽を積むこと

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対するフィールドバックを授業内で行います。

■授業計画

I とちか検定に関する基本的知識習得と問題作成（とちか文化検定）

- ①とちかの自然・歴史
- ②とちかの産業・文化
- ③とちか検定問題作成
- ④とちか検定問題作成

II ニセコ地域別考察・グループ別研究分析

- ⑤じゃらん バックナンバー研究1
- ⑥じゃらん バックナンバー研究2
- ⑦じゃらん バックナンバー研究3

III フィールドワーク

- ⑧フィールドワーク1（事前準備）ニセコ高校訪問準備
- ⑨フィールドワーク2 企業訪問（ホテル、ワイナリーなど）
- ⑩フィールドワーク3 自治体訪問（ニセコ町ほか）
- ⑪フィールドワーク4 道の駅訪問（ニセコビュープラザ、倶知安町の駅ほか）
- ⑫フィールドワーク5 その他

IV 研究のまとめ

- ⑬研究のまとめと考察
- ⑭発表
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ニセコ観光をつうじて、観光の基本的知識を身につけ、フィールドワークを通じて地域振興について考察することができたか。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 《DP4》多様性の理解と協働する力
- 《DP5》能動的に学び続ける力
- 《DP6》社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①とちか検定試験 20%
- ②地域別考察 40%
- ③研究のまとめと発表 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「ぐるっと羊蹄まちしるべ」（非売品）ニセコガイド検定試験問題 … 教員より提供
「地域学とちか ガイドブック」…教員より提供
「じゃらん」バックナンバー

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

ゼミは自主的な研究と期日を守ってレジュメをまとめ発表することが必須です。
ゼミに所属する自覚と役割分担を責任をもって果たすことが求められます。

【必要な時間】

事前事後（特に事前）それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	2年演習(応用)
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

SNSを中心とした観光情報の収集や発信方法を学び、英語で紹介できる能力を身につける。授業内のグループディスカッションやアクティブラーニングを通じ、英語の実践的運用能力を高める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ディスカッションやプレゼンテーションを中心に授業を進め、学生の主体的な学びが求められます。反転学習を通して学生自身が協力して取り組む、課題解決型学習となります。北海道内の観光地の情報発信調査とフィールドワークがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義内で課題に対するフィードバックを行います。レポート課題とSNS発信記事についてもコメントをして返却します。

■授業計画

- ①オリエンテーションと北海道の観光地とSNSの活用について
- ②ディスカッション：ウェブサイト構築について
- ③ディスカッション：YouTubeの動画制作について
- ④フィールドワーク1
- ⑤フィールドワーク1 成果発表：課題1 YouTubeの動画（英語）
- ⑥フィールドワーク2
- ⑦フィールドワーク2
- ⑧フィールドワーク2 成果発表：課題2 Facebookの観光情報発信（英語）
- ⑨フィールドワーク3
- ⑩フィールドワーク3
- ⑪フィールドワーク3 成果発表：課題3 Instagramの観光情報発信（英語）
- ⑫ウェブサイト構築確認
- ⑬成果発表：課題4 ウェブサイト観光情報発信（英語）
- ⑭学習成果確認とゼミ学習発表会の準備
- ⑮観光学部2年ゼミ学習発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①北海道の観光についてインバウンド観光客が求める情報内容を理解し、わかりやすい英語で発信できる力を身に着ける。
- ②北海道の観光に関わるディスカッションやプレゼンテーション及びライティングを英語で行うことを通じ、実践的な英語コミュニケーション能力を身に着ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 課題1 25%
 課題2 25%
 課題3 25%
 課題4 25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じ、授業内でプリント適宜配布予定

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業に対してはインターネット等を使用して、学習に関する情報を収集し、課題の準備も含め2時間程度行ってください。その他グループディスカッションとファイナルプレゼンテーションは基本的に英語と日本語で行います。

【必要な時間】

事前・事後合わせて2時間を目安とします。

科目名	旅行業法・約款
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

本講義の目的は、旅行業のみならず旅行関連産業においても重要性が増している「旅行業務取扱管理者」資格取得を目指し、試験科目である「旅行業法」の基礎知識を習得することを目指し、合わせて旅行業法を通じて、旅行業ビジネスの理解を深めることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】旅行業界で実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員によるパワーポイントを利用した講義形式。併せて授業内課題で理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】授業内課題、授業内試験実施後、特に注意が必要と思われる点について授業内でフィードバックを行う。

■授業計画

- ①国内旅行業務取扱管理者試験の概要と合格の意義 旅行業法とは 第1章 目的
- ②第2章 旅行業等 定義 (1)
- ③第2章 旅行業等 定義 (2) 登録 (1)
- ④第2章 旅行業等 登録 (2)
- ⑤第1回 授業内試験、第2章 旅行業等 登録 (3)
- ⑥第2章 営業保証金 (1)
- ⑦第2章 営業保証金 (2)、旅行業務取扱管理者
- ⑧第2章 料金の提示、旅行業約款、取引条件の説明・書面の交付
- ⑨第2章 外務員証、広告・標識、旅程管理 (1)
- ⑩第2章 旅程管理 (2)、禁止行為
- ⑪第2章 企画旅行を実施する旅行業者の代理、旅行業者代理業者の旅行業務、事業の廃止等・業務改善命令・登録の取り消し等
- ⑫第3章 旅行業協会 (1) ※7月1日は月曜の授業
- ⑬第3章 旅行業協会 (2)
- ⑭第2回 授業内試験、旅行業協会 (3)
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの旅行業法の知識を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験による評価50%、
授業内試験 (2回) による評価 25%、
授業内課題による評価 25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「旅行業法及びこれに基づく命令」 JTB総合研究所

■授業外学習

【具体的な内容】

テキスト、プリントで予習復習を欠かさない。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

※ (重要) 講義名称は「旅行業法・約款」であるが旅行業約款は別途講義科目「国内旅行実務」において学習する。 ※定期試験期間に試験を実施する。
※国内旅行業務取扱管理者試験の他の試験対応三科目「国内旅行実務」「国内運賃料金」「国内観光資源」も受講のこと。※「国内運賃料金 (対策講座)」「国内観光資源」は秋学期授業。

科目名	国内旅行実務
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	菊池 志保

■講義の目的および概要

科目名は「国内旅行実務」となっているが、本講義の目的は、旅行業のみならず旅行関連産業においても重要性が増している国家資格「旅行業務取扱管理者」の取得を目指し、試験科目の一つである「旅行業約款 運送・宿泊約款」の基礎知識を習得することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界での実務経験があり総合旅行業務取扱管理者資格を持つ教員による講義形式。「旅行業約款 運送・宿泊約款」の基本を解説する。併せて、練習問題を解き理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題・試験の後には、特に大切な点について授業内でフィードバックを行う。

■授業計画

- ① 約款とは 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(1)
- ② 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(2)
- ③ 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(3)
- ④ 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(4)
- ⑤ 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(5)
- ⑥ 標準旅行業約款 募集型企画旅行契約(6)
- ⑦ 授業内試験第1回、標準旅行業約款 特別補償規定(1)
- ⑧ 標準旅行業約款 特別補償規定(2)
- ⑨ 標準旅行業約款 受注型企画旅行契約(1)
- ⑩ 標準旅行業約款 受注型企画旅行契約(2)
- ⑪ 手配旅行契約・その他の契約
- ⑫ 手配旅行契約・その他の契約
- ⑬ (航空)国内旅客運送約款(1)
- ⑭ 授業内試験第2回、(航空)国内旅客運送約款(2)
- ⑮ (航空)国内旅客運送約款(3)一般貸切旅客自動車運送事業 標準運送約款

※当講義科目名は「国内旅行実務」であるが、実際の講義は「旅行業約款 運送・宿泊約款」を学ぶ。
※定期試験を試験期間中に実施する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの「標準旅行業約款とその他約款」に関する知識を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3) 課題を発見し解決する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験による評価 50%
2回の授業内試験による評価 25%
授業内課題による評価 25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「旅行業実務シリーズ② 2023旅行業約款 運送・宿泊約款」 (株)JTB総合研究所 発行

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

テキスト条文の内容を確認し、課題で出題傾向を知り、予習復習で知識を定着させる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

「国内旅行業務取扱管理者試験」出題科目に対応している他の3講義「旅行業法・約款」「国内運賃料金」「国内観光資源」も履修・受講すること。

科目名	観光ICT
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	五十嵐 誠

■講義の目的および概要

最新のICT技術の概要、活用事例と併せて、Society5.0、SDGs等の中長期的な社会背景とICTとの関連性を学び、柔軟な発想で観光産業分野における最新のICT技術を活用したビジネスプランを企画することで、観光産業分野の発展に向けた関心を喚起させることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

最新のICT技術、中長期的な社会背景について、大手通信企業、ITベンチャー上場企業役員としての実務経験のある教員の実体験を交えた講義を行う。また、能動的な学習のため、アンケート、ディスカッションを活用して講義を進める。講義後は、毎回レポートを作成し、講義内容の振り返りを行う。
13回目、14回目の講義にて、一番興味を持ったICT技術を活用したビジネスプランの発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要があれば、追ってmanabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

- ①講義ガイダンス・オリエンテーション
- ②最新のICT技術動向、中長期的な社会背景 (Society5.0、SDGs等)
- ③最新のICT技術 (IoT等)
- ④最新のICT技術 (5G等)
- ⑤最新のICT技術 (プラットフォーム、クラウドアプリケーション等)
- ⑥最新のICT技術 (MaaS、CaaS、自動運転等)
- ⑦最新のICT技術 (AI等)
- ⑧最新のICT技術 (AR、VR、SR等)
- ⑨最新のICT技術 (スマートシティ等)
- ⑩観光情報の利活用事例の紹介 (1)
- ⑪観光情報の利活用事例の紹介 (2)
- ⑫観光情報の利活用事例の紹介 (3)
- ⑬観光情報の利活用事例の紹介 (4)
- ⑭観光情報の利活用事例の紹介 (5)
- ⑮ビジネスプランの発表 (1)
- ⑯ビジネスプランの発表 (2)
- ⑰振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

中長期的な社会背景、最新のICT技術の概要を理解し、柔軟な発想で観光産業分野におけるビジネスプランを策定するスキルを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・講義時におけるワーク (ディスカッション、アンケート、クイズ等) : 20%
- ・講義毎の事後課題 : 40%
- ・ビジネスプランの発表 : 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜必要な資料を配布する。

【参考文献】

論文等必要な文献は、その都度適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】
ICTに関連する報道等に常に注意を向け、観光産業と結びつけて考える習慣をつける。

【必要な時間】
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

受講生の状況を踏まえて、難しいICT、マーケティング用語の解説をしながら講義を進めていく。
受講生のニーズを踏まえて 内容を変更することがある。

科目名	観光ボランティア
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

本講義では、そもそも「ボランティア」とは何かを理解した上で、「観光ボランティア」とはどのような立場の存在なのかを理解してもらいます。営利目的でもない、役所のような行政組織でもない、第三の立場としての「ボランティア」が観光と結びついたときに、どのような活動の可能性があるかをフィールドワークを交えながら学ぶことを目的とします。講義科目ではありますが、講義を大自然の中で聴いたり、食を体験したりするなど観光資源と講義が結びついている観光学部ならではのボランティアに関する授業です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークを活用した講義形式の授業の他、翻訳作業やフィールドワーク参加などの演習・実習形式を積極的に取り入れた授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で実施するワークシート作成やプレゼンテーションおよびグループディスカッションの中で課題内容をチェックし、適宜コメントしたり解説を行うことでフィードバックします。

■授業計画

①ガイダンス：「ボランティア」や「観光ボランティア」とは何か、授業の進め方

【Season1】 ミニマム・コミュニティを知る

- ②清田区の観光資源とボランティアが果たす役割：スイーツ編Vol.1
- ③清田区の観光資源とボランティアが果たす役割：スイーツ編Vol.2
- ④清田区の観光資源とボランティアが果たす役割：たべもの編Vol.1
- ⑤清田区の観光資源とボランティアが果たす役割：たべもの編Vol.2
- ⑥Season1のまとめと発表、グループ・ディスカッション

【Season2】 ボランティアリズムと観光：Win-Winの関係は何か

- ⑦清田まるごと博物館（エコ・ミュージアム）に果たしたボランティアの役割
- ⑧清田区における観光資源とボランティアが果たした役割：清田ふるさと遺産Vol.1
- ⑨清田区における観光資源とボランティアが果たした役割：清田ふるさと遺産Vol.2
- ⑩清田観光資源マップ作成へ向けたグループ・ワーク
- ⑪Season2のまとめと発表

【Season3】 歩いて作るOoogole Map

- ⑫歩いて探そう観光資源：私が見つけたあの店あの場所あの風景Vol.1
- ⑬歩いて探そう観光資源：私が見つけたあの店あの場所あの風景Vol.2
- ⑭歩いて探そう観光資源：私が見つけたあの店あの場所あの風景Vol.3
- ⑮「観光ボランティアとは何か」に関する修了レポート、授業評価

※以上の内容で行う予定ですが、受講生の数や授業の進行具合、イベント日程によって適宜変更することがあります。

到

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・観光におけるボランティアの重要性と注意点を理解し、文章や口頭で説明することができる。
・観光ボランティアの活動を通じて、ホスピタリティや異文化交流を実践し、共同作業する能力とコミュニケーション能力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP5) 能動的に学び続ける力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A: 各回の最後のコメントシート (①②③④⑤⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭) 12回×5点=60点
評価の観点：グループ・ワークへの貢献度を評価する。
B: 各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season1：10点、Season2：10点、Season3：10点 合計30点
評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
C: ラーニング・アーカイブ（ネタ帳）：10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『地方創生大全』ISBN：9784492212257

■授業外学習

【事前学習】

講義テーマに関する情報をSNSを使って収集しておき、グループ・ワークの際に話題とすべきネタを必ず用意しておく。

【事後学習】個の能力に応じて、多言語への翻訳やボランティアの組織化や企画書の作成などをまとめます。また、各Seasonの最後にはまとめと発表がありますので、各自で「通称：ネタ帳」を作成しておく必要があります。。

【必要な時間】

以上の授業外学習は、事前・事後を含めて各2時間程度を目安とします。

■その他

- ◆コロナ禍の状況によっては受講受入人数を増減する場合があります。バス移動を伴う活動があるため、今のところ受講人数の上限を25名程度とします。
- ◆フィールドワーク参加にかかる交通費（バス代など）は原則として無料ですが、飲食物など個人の栄養となるものは、一部自己負担が発生します。

科目名	観光実践演習
開講期・単位	3年 秋学期・選択 4単位・演習
担当者	呉 泰均、山田 芳之、田村 こずえ

■講義の目的および概要

鶴雅グループと本学との共同事業として開講される授業である。本授業の目的は、実際の観光地で事業を展開している事業所に身を置きながら、観光に関わる実践的な知識と経験、態度を習得することにある。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本授業は、実務経験のある教員による一部に講義と実習を織り交ぜた演習形式で行なわれる。また実際の観光地において現場を体感するアクティブラーニングである。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ①本学での事前・事後学習
- ②阿寒湖温泉および近隣地域での「観光人材養成講座」への参加
上記二部構成で行われ、それぞれ、鶴雅グループ担当者、教員からフィードバックを行う。

■授業計画

【事前学習：本学観光学部教員】

- ・道東の地理と観光地、国立公園と阿寒湖温泉
- ・鶴雅グループについて
- ・ビジネスマナー
- ・宿泊業における衛生管理の現状
- ・調査研究に向けてのグループワーク

【「観光人材養成講座」：鶴雅グループ役員および特別招聘講師】

- ・場所 阿寒湖畔および近隣地区
- ・予定期間 2月中旬から3月上旬
- ・履修者全員による合宿形式(他大学も参加予定)

★予定されている内容

- ①行政的視点からの北海道の観光の現状と課題
- ②旅館マネジメント総論とその実践、営業戦略、おもてなし論
(旅館のおもてなし、航空会社の接遇、お客様対応実習)
- ④近隣観光地の連携の必要性
(まちづくりと旅館、阿寒の自然、近隣観光実習)
- ⑤アイヌ文化とその体験
- ⑥上記の総決算としてのグループワークによる調査研究など。

【事後学習：本学観光学部教員】

帰学後以降に、これまでの授業を振り返り、成果と反省を全体で報告する「まとめ」の授業を行う。

※履修者は原則としてすべての日程に参加できなければならない。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光に関する実践的な知識と経験、態度を習得する。
- ・グループワーク集団生活を通じて、他者との協働(チームワーク)の必要性を理解し、以降も積極的に実践する意欲を養う。
- ・自らの言葉でこれらを表現し、他者に伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- 《DP2》コミュニケーション能力
- 《DP3》課題を発見し、解決する力
- 《DP4》多様性の理解と協働する力
- 《DP5》能動的に学び続ける力
- 《DP6》社会に貢献できる姿勢

■成績評価基準と方法

- 大学側：50%
- ・事前・事後学習における授業内提出物・・・20%
- ・人材養成講座参加日誌・報告書など・・・30%
- 観光人材養成講座における鶴雅グループ側の評価・・・50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
オリジナル教材を配布します。

【参考文献】
必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ビジネスマナーを身に付けるための授業を受講しておくことが望ましい。
- これまで学んだ観光についての知識と態度を振り返っておくこと。
- 選考に向けて、以下のことを調べておくこと。
 - ・鶴雅グループについて（歴史・大西社長について）
 - ・展開している事業の種類と規模など
 - ・阿寒湖温泉と近隣諸地域について（釧路やオホーツク海沿岸の地理と観光地など）

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

【履修条件について】

- ①本学を代表するという自覚を持ち、その振る舞いが品行方正な者
 - ②二段階の選考（学内と鶴雅グループ役員面接）に合格した者
- 注）4年生のみ：本授業を含まずに卒業要件を満たす見込みである者

・詳細については事前説明会にて案内するので、履修希望者は必ず参加すること。
（説明会不参加者は次のステージには進めません）
・なお、本来は履修者負担となる「観光人材養成講座」費用については大半が、鶴雅グループの寄付により賄われる。

科目名	観光と心のケア
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	中里 のぞみ

■講義の目的および概要

ストレスの多い社会において、近年、メンタルヘルスケアは重要視されている。また、旅と心の健康の維持・向上との関連性やその可能性も注目されている。メンタルヘルスケアのひとつとしての観光のあり方について学ぶことを目的とする。本講義では、自身のコミュニケーションパターンに気づき、他者との関係性構築に役立て、社会で生きていくための各自の心の免疫性を高め、エンプロイアビリティを身につけることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイント・資料などを用いて、メンタルヘルスと観光との関連性を学ぶ。知識を学ぶだけでなく、心理ワークなどを体験し、気づきを得て理解を深める。学んだことをもとに各自で考察し、outputすることで共有化を図る。航空業界での実務経験と産業カウンセラーとしての現場経験から、観光と心のケアについて、事例検討をし、ワークシートを用いて自己理解を深め、他者との関わり・コミュニケーションについて心理学的に学び、さらに旅の効用とメンタルヘルスケアについて理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

体験ワークやプレゼンテーションについては、随時、授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①観光と心のケアの関係性
- ②旅が心に与える効果
- ③現代人の抱えるストレスとメンタルヘルスケア①
- ④現代人の抱えるストレスとメンタルヘルスケア②
- ⑤ストレスをため込まないコミュニケーション
- ⑥心のケア癒やしを求める現代人～
- ⑦メンタルヘルスツーリズム
- ⑧旅行者の心理
- ⑨おもてなしと癒やし
- ⑩国民的気質とストレスの関係性
- ⑪ツアーの提案
- ⑫ツアーの効果
- ⑬ツアー企画の発表
- ⑭発表のフィードバックと睡眠とメンタルヘルス
- ⑮総括とテスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ストレスフルな社会を生き抜くための、自立的かつ自律的な姿勢を修得する。組織における様々な人との人間関係の基盤であるコミュニケーション能力を高め、協働性を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

テスト 50%
観光と心のケアのツアー提案パワーポイント提出と発表 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しない。適宜資料を配付する。

【参考文献】

- 「観光の社会心理学」前田勇・佐々木土師二監修 北大路書房
「観光とサービスの心理学」前田勇 学分社
「人間尊重の心理学」カール・ロジャーズ 創元社
「ワークショップ心理学」藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子・橋本尚子・東正訓
ナカニシヤ出版

■授業外学習

【具体的な内容】

各自で授業内ではメモを取り、授業後には見直しをすること。
事前学習としては、授業に関連する情報などを収集しておくこと。

【必要な時間】

事前・事後学習には各講義前後に2時間程度を費やすようにすること。

■その他

観光に関する基礎知識があることを前提とします。
提出物は期限厳守とし、期限を過ぎたものは受け付けない。
対面授業の場合は私語を慎み、オンライン授業では自律的に授業に参加すること。

科目名	北海道観光[3年]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

道内の主要観光地の概略を学び知識を得ることによって、今後の北海道観光の展開について考える基礎的な素地を養い、「北海道観光マスター検定」の合格を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で展開し、特徴的な項目を幾つか取り上げてグループワークによるディスカッション等を取り入れ、能動的な学修を目指す。本講義は、地域づくりの基盤となる観光対象とは何かについて、知識を習得していくことを基本とします。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎講義で、学生の興味関心に沿って講義内容の振り返りや質疑応答（Respon使用）を行います。

■授業計画

【Season1】北海道の基礎情報

- ①ガイダンス（北海道観光の全体概況と課題・可能性の概説、模擬問題の提示
- ②北海道の基礎
 - 一般情報、産業・経済の統計情報

【Season2】北海道の観光地

- ③道央圏
- ④道北圏
- ⑤道南圏
- ⑥オホーツク圏
- ⑦釧路・根室圏
- ⑧十勝圏

【Season3】北海道の祭り

- ⑨北海道の伝統的な祭り
- ⑩北海道三大行灯祭り
- ⑪雪と氷の祭り
- ⑫食、花をテーマにした祭り
- ⑬花火大会
- ⑭音楽・演劇その他の祭り

- ⑮まとめレポート『私の出身地の観光資源』、授業評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の代表的な観光資源の現況を理解し、今後の北海道観光の展開方向について考えるための基礎的な知識が身についている。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ◇定期試験（北海道観光マスター検定模擬問題）70%
 - ◇授業内での15回目のレポート 30%
- ※検定に合格した場合は、定期試験を免除し評価を「優+」とします。ただし、3分の2以上の出席要件を満たしていることが条件です。検定を受検した場合は、1コマ分の出席扱いとなります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『北海道観光ハンドブック』一般社団法人 北海道商工会議所連合会発行
秋学期に販売します。

【参考文献】

特にありません。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ◇事前学修：次回の講義範囲について、テキストを読み模擬問題を自ら作成し授業内で発表するという反転授業を基本とする。
- ◇事後学修：授業内で取り組んだ模擬問題を分野別に整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

卒業必修科目です。毎年実施される、北海道観光マスター検定の受検を前提とした講義です。原則として受講生全員の検定受検を推奨します。受検料5,000円 実施日は11月23日（前年度実績）

科目名	観光政策行政
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	平出 渉、朝倉 俊一

■講義の目的および概要

地域の産業振興や雇用の創出など地方創生にとって観光が果たす役割はますます重要になっています。本講義では、地方自治体や国における観光政策の必要性や概要を理解した上で、観光政策の種類、近年の動向、具体的な政策事例などについて理解を深めることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は集中講義方式で実施する。観光政策の概要や地域にとっての必要性については、実際に地域政策や施設マネジメントの実務を経験している担当教員が具体的な事例を紹介しながら講義を行う。なお、一部授業については、受講生によるグループワークなどアクティブラーニングの要素も適宜取り入れながら実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポート発表時など授業を通じて適宜フィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション（観光政策の概要）
- ②観光の経済的効果
- ③観光市場の動向
- ④観光プロモーション
- ⑤まちづくりと観光
- ⑥観光移動と公共交通
- ⑦交通産業と行政
- ⑧官民連携による観光施設づくり
- ⑨宿泊産業と行政
- ⑩ファムツアー
- ⑪サイクルツーリズムについて
- ⑫サイクルツーリズムの事例（その1）
- ⑬サイクルツーリズムの事例（その2）
- ⑭これからの観光と地域
- ⑮テストとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光政策の主体と種類を理解する
- ・観光政策の重要性を理解した上で地域の中の観光行政のあり方について理解する。
- ・観光行政の課題と将来像について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 授業内の態度・積極性 50%
- 課題レポート 30%
- 授業内試験 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて授業時に配布

■授業外学習

【具体的な内容】

道の駅や公営温泉など地方自治体による観光施設の訪問経験など、自分の身近な分野で観光行政に関連するエピソードを発表してもらいます。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

フィールドワークを行う場合があり、その場合、交通費等は自己負担。

科目名	観光マーケティング
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

企業活動の中核を担うマーケティングについて学ぶ。一般企業にとどまらず、昨今は自治体経営や社会的な課題を解決する小さなコミュニティビジネスにおいてもマーケティング的な思考が重要となっている。特に昨今取りざたされるDMOを通して観光地経営を研究する際にマーケティングは必須の知識である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では学問としてのマーケティングの基本を抑えながら、経営者・実務経験のある教員の実体験を交えマーケティングの基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

特に社会的企業・起業のケーススタディを元に、社会的な課題解決に向けマーケティングを活用する可能性を探る。

■授業計画

- ①イントロダクション マーケティングの概略
- ②ビジネスにおける戦略的な思考
- ③ビジネスプランとマーケティングプラン
- ④マーケティングの4P
- ⑤商品 4つのPのひとつ「商品」について学ぶ
- ⑥流通 4つのPのひとつ「流通」について学ぶ
- ⑦広告・広報 4つのPのひとつ「広告・広報」について学ぶ
- ⑧価格 4つのPのひとつ「価格」について学ぶ
- ⑨商品ライフスタイル
- ⑩セグメンテーション
- ⑪マーケティング活動の実際
- ⑫マーケティングプランの作成 (1)
- ⑬マーケティングプランの作成 (2)
- ⑭マーケティングプランの発表
- ⑮ふりかえり 授業内テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

マーケティング研究は大企業を対象としたものが多いが、中小零細企業が中心の観光地においてマーケティング的手法を活かしていくにはどうすれば良いかを理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート 30%
課題 40%
授業内試験 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・なし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃から世の中のマーケティングに関心を持つこと。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	観光と歴史文化
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、各地域において、観光資源とされている歴史的遺産の代表例を紹介するものである。

そして、代表的な観光資源が、主にどのような時代に関連しているのかを理解した上で、それぞれの地域における観光上の特色を理解してもらうことにある。また、そのような観光資源が地理的空間内にどのように位置づけられているのか、空間事例から観光空間としての立地の特徴や観光施設の立地の工夫状況などを考察してもらうこととしている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

写真、地図などを用いた講義形式となる。それぞれの地域・空間における歴史文化に関する観光資源を地図上で示しながら実施する。

なお、ほぼ毎時課題（manabaの「小テスト」）を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、次時の講義で毎時解説するが、詳細はmanabaを通じてコメントし、フィードバックとする。

■授業計画

- ①ガイダンス、ツーリズムと歴史文化
- ②西ヨーロッパ1・総論
- ③西ヨーロッパ2・イングランド
- ④西ヨーロッパ3・フランス
- ⑤西ヨーロッパ4・イタリア
- ⑥東ヨーロッパ1・総論
- ⑦東ヨーロッパ2・ロシア
- ⑧東ヨーロッパ3・ギリシア
- ⑨イスラーム圏1・総論
- ⑩イスラーム圏2・エジプト
- ⑪イスラーム圏3・トルコ
- ⑫南北アメリカ1・総論
- ⑬南北アメリカ2・合衆国
- ⑭オセアニア1・総論
- ⑮オセアニア2・オーストラリア、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①歴史文化に関する観光資源が各地の観光にとって重要な位置を占めていることを理解できる。
- ②歴史文化に関する観光資源、観光施設が観光空間においてどのような位置に立地されているのかを事例から判断できる。
- ③歴史文化に関する観光資源が、過去の時間軸上のどのような位置に多く存在しているのかを理解することで、それぞれの観光地における特色を理解することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①毎時の課題（manabaの「小テスト」） 50%
※毎時の平均点
- ②最終レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・毎時のレジュメ 配布

【参考文献】

- ・JTB総合研究所『旅行業務シリーズ7海外旅行実務 海外観光資源2022』
- ・JTB総合研究所『海外旅行地理プラクティカル』
- ・勝岡只『海外観光資源ハンドブック』中央書院

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・大まかな世界地図、該当する地域の地図を事前に頭に入れて参加すること。
- ・毎時の課題解説後は、アドバイスに従いもう一度考察してみることに。

【必要な時間】

- ・日常での意識、課題実施等、予習・復習でそれぞれ2時間。

■その他

- ・世界地図が頭に入っていない場合は、地図帳を持ってくることを勧める。
- ・東アジア、東南アジア、南アジアに関しては、「アジア観光論」など他の講義でも実施しているので本講義では扱わない。

科目名	上級観光英語
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	陳 堯柏

■講義の目的および概要

近年海外へ旅行する人やポストパンデミックのインバウンド観光客の増加も予想しており、観光英語に精通する人材が求められている現状を踏まえ、より詳細に説明や対応ができるよう、やや難易度の高い観光英語の習得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光の場面ごとに単語やフレーズを紹介し、リーディング等を通して実際に使えるよう練習を重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で学生が様々な文章を読解し、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。また定期的に小テストも行い、学習効果を確認します。

■授業計画

- ① Orientation
- ② Unit 1 Travel Information
- ③ Unit 2 At the Airport
- ④ Unit 3 Hotel
- ⑤ Unit 4 Dining
- ⑥ Unit 1.2.3.4 Review / Evaluation Test 1
- ⑦ Unit 6 Buses and Trains
- ⑧ Unit 7 Mailing and Money Exchange
- ⑨ Unit 8 Sightseeing (1)
- ⑩ Unit 10 Problems and Complaints
- ⑪ Unit 6.7.8.10 Review / Evaluation Test 2
- ⑫ Tourism Topic 1
- ⑬ Tourism Topic 2
- ⑭ Presentation
- ⑮ Presentation

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

それぞれの場面で使う観光英語を学習し、実際に旅行中や仕事で使えるようになる。また観光英語検定試験2級合格を目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

Evaluation Test 1 (20%)
Evaluation Test 2 (20%)
Presentation (20%)
Homework Assignment (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

English for Tourism (Intermediate)
ステップアップ観光英語
観光英検センター編

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で使用する教材の予習・復習をしてください。

【必要な時間】

Manabaにあるリスニング宿題やリーディングも含め、予習・復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

■その他

観光英語検定試験2級の受験を勧めます。

科目名	温泉学概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小野寺 淳子

■講義の目的および概要

狭い国土に世界一の数の温泉地があり、日常の楽しみに、特別な日のごほうびにと、世代を超えて多くの人々が温泉に親しむ日本。ところが温泉宿や入浴施設の情報は氾濫していても、「温泉はなぜ湧く?」「温泉効果は本当にあるの?」といった温泉の本質はほぼ語られず、一般に知られていないのが現状です。温泉の学びは地学(温泉の成因等)や医科学(人体への作用等)など自然科学のフィールドに始まり、民族学(国ごとの起源と発展等)や経済学(観光経済、エネルギー経済等)にも及ぶ広範なものです。これらを総合的に理解し、時には深く掘り下げることで特別な知識と独自の視点を獲得し、やがて観光の分野などで羽ばたくための実践的な力を得ることを目的としています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

その回のテーマに応じた具体的事例を、北海道内の温泉をはじめ日本全国、海外の温泉での豊富な写真資料等を用いながら視覚的に解説し、記憶に残る講義を展開します。

講義テキストは毎回(ゲストスピーカー講義を除く)、全体の20%から30%ほどが空白の書き込み式テキストをWeb(またはプリント)で配布しますので、それぞれ授業を聞きながら空白部分に自由に記入し、授業終盤に提出するかたちで、自分だけの「オリジナルテキスト」を完成させて下さい。

【課題に対するフィードバックの方法】

テキスト提出に際して、課題がある場合はその回答、さらに講義内容についての質問も自由に記入してもらい、授業内、または個別にフィードバックしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス 温泉とはなにか
 - ②温泉はなぜ生まれるか 一天与の恵みのメカニズム
 - ③北海道の温泉概論・その1 地理的条件に基づく北海道各地の温泉湧出の傾向
 - ④「温泉効果」を探る・その1 一そもそも温泉は体に「効く」の? 「温泉分析書」の見た方を学ぶ
 - ⑤「温泉効果」を探る・その2 一薬理的作用・「源泉掛け流し」はなぜ選ばれるのか
 - ⑥「温泉効果」を探る・その3 一物理的作用とその他の作用・美容健康づくりのはたらき
 - ⑦北海道の温泉概論・その2 一温泉療養には最高の北海道?! 道内各地のユニークな温泉・誇るべき温泉
 - ⑧日本の温泉・その1 一温泉利用の歴史といま。これからの展望と課題
 - ⑨日本の温泉その2 一日本各地の名湯・珍湯
 - ⑩世界の温泉・ヨーロッパ編その1 一日本にはない「療養温泉」その歴史と現在
 - ⑪世界の温泉・ヨーロッパ編その2 一日本にはない「驚きの温泉」その歴史と現在
 - ⑫世界の温泉・アジア編その1 一日本人は「テルマエ・ロマエ」のローマ人と同じだった?!
 - ⑬世界の温泉・アジア編その2 一入浴文化からみるお国柄
 - ⑭「資源としての温泉」を考える 一電力、農業、雪害対策、家庭利用・観光に留まらない温泉の持つ力
 - ⑮話題の温泉・ゲストスピーカー
- ※ゲストスピーカーの都合等により講義順は変更となる場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

身近なものでありながら、正しく知る機会の少ない「温泉」。それを理解するプロセスの中で、歴史や文化、療養、自然エネルギーなど多角的な視点から、ものごとの本質に迫る力を身につけましょう。やがては様々な観光ビジネスやまちづくりなど幅広い社会的活動において、また個々の健康管理など日常のシーンにおいて、日本が有する数少ない天然資源である温泉を正しく活用し、より豊かな未来を築いて頂くことを願います。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

成績の評価方法は「期末テスト」50%、「オリジナルテキストの完成」30%、「授業内課題」で20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義テキストは毎回（ゲストスピーカー講義を除く）、全体の20%から30%ほど空白の書き込み式テキストをWeb（またはプリント）で配布しますので、それぞれ授業を聞きながら空白部分に自由に記入し、授業終盤に提出するかたちで、自分だけの「オリジナルテキスト」を完成させて下さい。

【参考文献】

参考資料：『世界温泉文化史』（ウラディミール・クリテック著/国文社）、『温泉の百科事典』（編集代表委員阿岸祐幸/丸善出版）、『温泉のはなし』（白水晴雄著/技報堂出版）等。またゲストの著書なども折々に伝えます。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で取り上げた国内外や北海道内の温泉地、温泉施設等については、さらに個々で調べるなどして、オリジナルテキストをより充実させ、知識を深めてください。同時に、次回のテーマに関する情報を積極的に調べておきましょう。

また日常において温泉に関するニュースをWebや放送番組、新聞・雑誌などからチェックしておきましょう。気になるニュースについては質問を寄せて下さい。時には各回のテーマにとらわれず、学習に組み込む場合があります。

さらに温泉の情報番組などに関しては、「この表現は適切か」なども疑い、自分ならどうするかを考え、温泉について考察する目を養いましょう。

【必要な時間】

予習に1時間ほど、復習に3時間ほどかけるように心がけましょう。

特に復習は大事です。自身で作上げたオリジナルテキストを見返し、新たに調べた情報を加えてみましょう。

予習・復習の中で抱いた疑問については、いつでも担当教員にご連絡ください。後日の授業で、または個別にフィードバックします。

■その他

※受講は観光学部生とします。

科目名	地理学
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

本講義は、現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的技能及び地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養うことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行うが、「主体的で対話的な深い学び」が行われるよう教育方法を工夫して実践する。

【課題に対するフィードバックの方法】

manabaによる授業前後の予習、ふりかえりを毎回行う。
また、manabaにしたがい自ら学修の評価（自己評価）を行う。

■授業計画

- ①世界の地形（営力、大地形の分布や成因）
- ②世界の地形（小地形、その他の地形の分布や成因）
- ③世界の気候（気候要素、気候因子）
- ④世界の気候（気候要素、大気の大循環）
- ⑤世界の気候（ケッペンの気候区分）
- ⑥世界の農林水産業（農業立地論）
- ⑦世界の農林水産業（農業分布と自然環境、グローバル化）
- ⑧地図の読解
- ⑨中間試験
- ⑩世界の工業（工業立地論）
- ⑪世界の工業地域（工業の現状と課題）
- ⑫村落と都市（村落の立地、発達・機能）
- ⑬村落と都市（都市の立地、発達・機能）
- ⑭地図の読解
- ⑮期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 現代世界の地理的認識を深める
2. 系統地理的、地誌的な探求の方法を学ぶ学習を通して、地理的な見方や考え方を、地理的技能を身につける
3. 1・2の学習の成果に立って、現代世界の諸課題について主体的に考え、行動する自覚と態度を養う

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

manaba「小テスト、レポート」… 20% (毎回の予習、ふりかえりを含む)
定期試験 … 50%
課題レポート（地図の作図・描画） … 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

図説地理資料 世界の諸地域NOW（帝国書院） : 978-4-8071-6371-7
※受講者は購入必須

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習 テキストの巻末課題を提出します。
事後学習 manabaにて小テスト、ふりかえりを実施します。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	リゾート概論[3年]
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	斉藤 巧弥、田村 こずえ

■講義の目的および概要

観光の魅力の一つがリゾートである。世界各国にはリゾートと呼ばれる施設、地域が点在しており、地域や企業の特徴を活用した事業が展開されている。本講義では2名の教員により、特徴のあるリゾートの事例を中心に学習し、観光とリゾートについて理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

リゾートを理解するため、事例を活用した講義を行なう。また、教員の有するリゾートに関する実践的な知見も活用し、事例を分析する。授業では、アクティブラーニングを取り入れ、受講生による発表、レジュメの作成、グループワーク等も適宜行なう。なお、学習効果向上の観点からフィールドワークも実施する場合がある。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業を通じて適宜フィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②リゾートの基礎知識1 (主に夏季または通年リゾート)
- ③リゾートの基礎知識2 (主に夏季または通年リゾート)
- ④リゾートの事例分析1 (主に夏季または通年リゾート)
- ⑤リゾートの事例分析2 (主に夏季または通年リゾート)
- ⑥リゾートの基礎知識1 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑦リゾートの基礎知識2 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑧リゾートの事例分析1 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑨リゾートの事例分析2 (主に冬季または通年リゾート)
- ⑩国内のリゾート1 (テーマパーク他)
- ⑪国内のリゾート2 (テーマパーク他)
- ⑫国内のリゾート3 (テーマパーク他)
- ⑬グループワーク (リゾートの事例調査報告)
- ⑭グループワーク (リゾートの事例調査報告)
- ⑮グループワークの発表

* 状況に応じて、リゾートの現場でのフィールドワークを実施する。その場合は、授業計画について、適宜変更することとする。

* ゲスト講師を招聘し、事例紹介を予定している。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光とリゾートの基礎知識を習得し、観光ビジネスや地域社会におけるリゾートの影響や課題を理解する。また、グループワークを通じて課題解決能力や分析能力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業の参加度・積極性 30%
グループワーク 40%
課題提出 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃から観光現場を意識し、観光客の目線でどのようなリゾートがあるのか関心を持つこと。また、自ら機会を見つけリゾート地への訪問も推奨する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

状況に応じて、リゾートの現場でのフィールドワークを実施する。その場合は、授業計画について、適宜変更することとなる（交通費等は各自が実費負担）。また、フィールドワークは土日等の可能性もあり、各自柔軟にスケジュールを調整のこと。

科目名	観光ガイド
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

観光地域において観光資源を見つけ出し、その魅力を引き出し、分かりやすく解説する活動が盛んとなっている。特に自然資源においてはインタープリテーションと呼ばれ、ガイド技術は世界的にも日々発展している。それらを概観すると同時に、ガイド事業を創業し経営してきた実務家教員が事業化のノウハウを教授し、将来観光関係の様々な活動に活かすことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

様々な観光産業の成り立ちを理解している前提で、さらに観光ガイド事業を地域等に定着させるにはどうすれば良いのかを探究し、実際に観光イベントなどにおいてツアーを実施する。小グループで数回を担当し、改善点などをフィードバックしながらPDCAサイクルを回し観光ガイド事業運営を体験する。

【課題に対するフィードバックの方法】

小グループによるワークショップにて観光資源の発掘から活用、そして管理に至るまでのプランニングを行う。実際に客を案内するツアーを行いアンケートなどを通して、新たな課題等を抽出・解決の検討を進める。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②観光とガイド事業
- ③観光まちづくりとガイド事業
- ④観光資源の保護保全とガイド事業
- ⑤観光ガイドプログラムの開発 (1) 資源の掘り起こし
- ⑥観光ガイドプログラムの開発 (2) ストーリー・シナリオの作成
- ⑦観光ガイドプログラムの開発 (3) 実装に向けての準備
- ⑧観光ガイドプログラムの提供実習 (1) ガイドツアーの実施
- ⑨観光ガイドプログラムの提供実習 (2) ガイドツアーの実施
- ⑩観光ガイドプログラムの点検・効果の測定 (1) アンケートの回収・集計・分析
- ⑪観光ガイドプログラムの点検・効果の測定 (2) アンケートの回収・集計・分析
- ⑫プログラムの記録・継続に向けての資料作成
- ⑬観光イベントでのガイド1
- ⑭観光イベントでのガイド2
- ⑮ふりかえり (テスト・レポート)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・地域や施設などの魅力を効果的に来訪者に伝えることができるよう、観光ガイドとしての基本的なスキルを身につける。
・観光ガイドプログラム導入の際の準備や関係機関との交渉の概要を知る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

課題 20%
実習 60%
レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・なし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

札幌市内の街歩きツアーの開発を行い実施をする。5月、8月に行われる観光イベントにガイドとして参加すること。講義の時間内だけでは完結しないので、リハーサルやアンケート回収を受けてのプログラム修正などは随時対応すること。

【必要な時間】

事前・事後、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

実際に観光客の案内を行うため、これまで学んだホスピタリティを最大限に発揮²²³（令和5）年4月1日
ことが求められる。札幌市内の実行委員などとの協働となるため、お客様の前に出せ
ないと判断した学生はフィールドワークへの参加を断る可能性がある。

科目名	インストラクター実習 I
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・実習
担当者	安田 純輝、藤崎 達也

■講義の目的および概要

観光地において必要不可欠なインストラクターとして活躍するための知識と技能を身につける。特にこの講義ではカヌーやラフティングを始め、海水浴場の安全管理など水辺での救急救命法を習得し日本ライフセービング協会公認の「Water Safety」の資格取得を目指す。観光資源維持のために様々な主体が関わり、同時に多くの課題を抱えていることを実体験を通し学ぶことにより、将来さまざまな形で観光を支える意識を持つことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

夏季集中講義。数回の座学とプールや湖、海水浴場でのアクティブラーニングが中心となる。夏休み中などに実際に業務にも携わる予定。

【課題に対するフィードバックの方法】

実際にインストラクターを目指す講義となるため、さまざまな実習への真摯な取り組みを求める。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②観光地とインストラクター 1
- ③観光地とインストラクター 2
- ④海水浴場概要
- ⑤プール実習 1
- ⑥プール実習 2
- ⑦海水浴場の現状と安全管理
- ⑧ライフセービング座学 1
- ⑨ライフセービング座学 2
- ⑩BLS (CPR+AED) 1
- ⑪BLS (CPR+AED) 2
- ⑫BLS (CPR+AED) 3
- ⑬BLS (CPR+AED) 4
- ⑭振り返り発表
- ⑮テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日本ライフセービング協会公認のライフセーバーの資格を受けるための「Water Safety」の資格取得を目指す。この資格を活用して、アウトドアアクティビティのインストラクターとなるための基礎的なスキルを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
 実習への取り組み40%
 資格の取得30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

日本ライフセービング協会指定テキスト他

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

プールや海での実習を行うため、25m以上泳げる泳力を有していること。不安なものではプール実習までに各自練習をすること。講義終了時には日本ライフセービング協会公認「Water Safety」と「BLS(CPR+AED)」の資格が認定され、さらに上級の「Basic Surf Lifesaver」の資格を受ける権利を得ることができる。

■その他

テキスト代、受講料、その他として概ね15,000円程度を申し受けます。5月に説明会を開催する。

科目名	インストラクター実習Ⅱ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

観光地において必要不可欠なインストラクターとして活躍するための知識と技能を身につける。

この講義では①SIJ公認インストラクター (SUP) ②PADI公認スノーケルガイド (スノーケル) ③日本ライフセービング協会公認Basic Surf Lifesaver (ライフセーバー)の資格取得を目指す。インストラクターⅠで「Water Safety」と「BLS(CPR+AED)」の資格を取得済みであることを推奨 (③Basic Surf Lifesaverを目指すものは必須)。観光資源維持のために様々な主体が関わり、同時に多くの課題を抱えていることを実体験を通し学ぶことにより、将来さまざまな形で観光を支える意識を持つことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

数回の座学とプールや湖、海水浴場でのアクティブラーニングが中心となる。夏休み中や休日実際に業務にも携わる予定。

【課題に対するフィードバックの方法】

実際にインストラクターを目指す講義となるため、さまざまな実習への真摯な取り組みを求める。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②海水浴場・湖沼における実習 (1)
- ③海水浴場・湖沼における実習 (2)
- ④海水浴場・湖沼における実習 (3)
- ⑤海水浴場・湖沼における実習 (4)
- ⑥海水浴場・湖沼における実習 (5)
- ⑦プール実習
- ⑧海水浴場・湖沼における実習 (6)
- ⑨海水浴場・湖沼における実習 (7)
- ⑩海水浴場・湖沼における実習 (8)
- ⑪海水浴場・湖沼における実習 (9)
- ⑫海水浴場・湖沼における実習 (10)
- ⑬観光地の安全管理の課題
- ⑭観光地の安全管理の課題についての発表
- ⑮振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①SIJ公認インストラクター (SUP) ②PADI公認スノーケルガイド (スノーケル) ③日本ライフセービング協会公認の「Basic Surf Lifesaver」のいずれかの資格取得を目指す。この資格を活用して、アウトドアアクティビティのインストラクターとなるための実践的なスキルを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3) 【課題を発見し、解決する力】
(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
実習への取り組み40%
資格の取得30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ①SIJ公認インストラクター (SUP)
- ②PADI公認スノーケルガイド (スノーケル)
- ③日本ライフセービング協会

それぞれの指定テキスト他

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

○受講の条件

「Basic Surf Lifesaver」の資格取得に向けては、泳力 400m→9分以内、50m→40秒以内、潜行20m以上、立ち泳ぎ5分以上を要するため各自トレーニングをすること。

■その他

テキスト代、受講料、その他として概ね30,000円程度を申し受けます。
詳しくは8月、9月ごろに説明会を行う。

科目名	国内旅行運賃・料金
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

本講義の目的は、旅行業のみならず旅行関連産業においても重要性が増している「旅行業務取扱管理者」資格取得を目指し、試験科目である「国内旅行運賃・料金」の基礎知識を習得することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界で実務経験・旅行業務取扱管理者資格のある教員によるパワーポイントを利用した講義形式。併せて、毎回、授業内課題を解いて理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題、授業内試験実施後、特に注意が必要と思われる点について授業内で、フィードバックする。

■授業計画

- ①JR運賃 (1)
- ②JR運賃 (2)
- ③JR運賃 (3)
- ④JR運賃 (4)
- ⑤JR運賃 (5)
- ⑥授業内試験第1回 JR運賃 (6)
- ⑦JR料金 (2)
- ⑧JR料金 (3)
- ⑨JR料金 (4)
- ⑩JR料金 (4)
- ⑪JR料金 (5)
- ⑫JR変更・取消・払戻
- ⑬授業内試験第2回 JR団体乗車券・特別企画乗車券
- ⑭航空運賃・料金 (1)
- ⑮航空運賃・料金 (2) まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格ライン到達レベルの国内旅行運賃・料金の知識を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3) 課題を発見し解決する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

期末の定期試験による評価	50%
授業内試験(2回)による評価	25%
授業内課題による評価	25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「国内運賃・料金」 JTB総合研究所
※テキストなしでこの講義を受講することはできません。

■授業外学習

【具体的な内容】

テキスト、プリントで予習復習を欠かさない。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

テキストなしでこの講義は受講できません。国内旅行業務取扱管理者試験の他の試験対応三科目「旅行業法・約款」「国内旅行実務」「国内観光資源」も受講のこと。

科目名	観光情報
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	五十嵐 誠

■講義の目的および概要

今後の観光産業発展に向けては情報の利活用は不可欠である。最新のICT技術を用いた情報の取得方法、観光産業分野における情報の利活用方法、実際の事例を学ぶことで、観光産業分野の発展に向けた関心を喚起させることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

最新のICT技術を用いた情報の取得方法、観光産業分野における情報の利活用方法について、大手通信企業、ITベンチャー上場企業役員としての実務経験のある教員の体験を交えた講義を行う。また、能動的な学習に向けて、アンケート、ディスカッションを活用した講義とする。講義後は、毎回レポートを作成し、講義内容の振り返りを行う。最終講義後に、最も興味を持った分野における最終レポートを提出する。

【課題に対するフィードバックの方法】

全体に関係することは授業冒頭にて、個人に対する課題については、授業内で解説するとともに、必要があれば、追ってmanabaを通じて資料を配布する。

■授業計画

- ①講義ガイダンス・オリエンテーション
- ②観光業界を取り巻くICT、社会情勢について
- ③情報化時代の観光産業分野におけるマーケティング活動について
- ④消費者行動プロセスについて（AIDMAモデル、AICEASモデル、ULSSASモデル）
- ⑤消費者行動プロセス毎のプロモーション媒体について
- ⑥消費者行動プロセスにおける「共有」について
- ⑦消費者行動プロセスの「記憶」について
- ⑧消費者行動プロセスの「体験」について
- ⑨消費者行動プロセスと観光産業分野におけるマーケティング活動との関連性について
- ⑩企業における観光情報を活用した活動（CRM、LTVについて）
- ⑪企業における観光情報を活用した活動事例について（1）
- ⑫企業における観光情報を活用した活動事例について（2）
- ⑬企業における観光情報を活用した活動事例について（3）
- ⑭企業における観光情報を活用した活動事例について（4）
- ⑮振り返り（最終レポートに向けた企業における観光情報を活用した活動について）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

観光情報の概要、必要とされる時代背景、利活用事例を理解し、観光産業の様々な分野において、観光情報を活用する観点を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ 講義時におけるワーク（ディスカッション、アンケート、クイズ等）：20%
- ・ 講義毎の事後課題：40%
- ・ 最終レポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜必要な資料を配布する。

【参考文献】

論文等必要な文献は、その都度適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

常に、自分を含めた周囲の観光行動について分析し、観光情報として取り扱う習慣をつける。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

受講生の状況を踏まえて、難しいICT、マーケティング用語の解説をしながら講義を進めていく。

受講生のニーズを踏まえて 内容を変更することがある。

科目名	オンライントラベル概論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

旅行業界の変化の中で昨今めざましい発展を遂げるICT技術を使った旅行商品の流通について概観する。特に「OTA（オンライントラベルエージェント）」と呼ばれる新しい旅行会社の企業概要、業務の内容等について、既存の窓口型の旅行会社との比較も交えながら理解する事を目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では学問としての観光学の基本を抑えながら、経営者・実務経験のある教員の体験を交えオンライントラベルの基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

特にケーススタディを元にした実践的な学びを中心とすることにより、実際に観光の現場に出る際に役立つものである。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②旅行会社の歴史
- ③ICTの概要と歴史
- ④ICTがもたらす社会変化(1)
- ⑤ICTがもたらす社会変化(2)
- ⑥OTAの概要
- ⑧店舗型旅行会社によるオンライン販売
- ⑨オンライン商品の造成(1)
- ⑩オンライン商品の造成(2)
- ⑪OTAと観光主要産業(運輸・宿泊)
- ⑫OTAと観光施設
- ⑬OTAと地域
- ⑭ICTが観光業にもたらす可能性
- ⑮ふりかえり 授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

旅行業全体やICTが観光にもたらす効果についての理解と、オンライントラベルエージェントの特徴や社会的影響等について理解し、実際に観光業界で活躍する際に活かせるようにする事を目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート等 30%
課題 40%
授業内試験 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・なし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

自分から興味を持ちOTAなどのサイトで旅行計画を立てるなど積極的な姿勢が求められる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	オンライントラベル実習
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・実習
担当者	武内 源太、藤崎 達也

■講義の目的および概要

インターネットの出現によって旅行業界でのビジネスも大きく変わりつつあります。中でも宿泊予約分野においてはオンライントラベルエージェントの成長は著しいものがあります。本講義では「楽天トラベル」予約サイトでの”売れる”宿泊プランの構造を理解し、実際にプランの作成を通してオンライントラベルエージェントのビジネススキームを学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「楽天トラベル」での実務経験をもとにインターネットビジネスでのテーマごとにタスク提示し、それを課題ワークやディスカッションによって作成した成果物をプレゼンテーションしてもらうといった参加型の講義方法を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

ダイバシティ的な考え方を醸成するためにも、課題ワークの成果物に対しては、教員からはもちろんのこと、参加している生徒や本講義に協力連携頂く宿泊施設運営者など多方面からのフィードバックを目指します。

■授業計画

- ① イントロダクション インターネットプラットフォームとは？（楽天のケース）
- ② 旅行・宿泊業界について（オンライントラベルエージェントの位置づけ）
- ③ 売上の公式 因数分解の考え方
- ④ 宿泊予約サイト予約の流れ（楽天トラベルのケース）
- ⑤ マーケティング的に「宿泊プラン」を考える（誰に？編）
- ⑥ マーケティング的に「宿泊プラン」を考える（なにを？編）
- ⑦ マーケティング的に「宿泊プラン」を考える（どう売るか？編）
- ⑧ 売れる「宿泊プラン」を作る
- ⑨ 「宿泊プラン」内容の改善
- ⑩ 「宿泊プラン」発表
- ⑪ 宿泊予約サイト「施設TOPページ」のポイント
- ⑫ 「施設TOPページ」の作成と発表
- ⑬ メールマーケティング
- ⑭ 「口コミ」チェックポイント
- ⑮ 全体まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

インターネット宿泊予約サイト分析や宿泊プラン作成作業を通してオンライントラベルエージェントのビジネス構造を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート 30%
 宿泊プラン評価 20%
 定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布

【参考文献】

トラベルボイス (<https://www.travelvoice.jp/>)
 観光経済新聞 (<https://www.kankokeizai.com/>)

■授業外学習

なるべく多くの旅行商材、販売方法に触れることが講義の理解度を深めるので、講義³（令和5）年4月1日外においてもオンライントラベルエージェント（楽天トラベル、じゃらん、一休、ブッキングドットコム、エクスペディア）の予約サイトを使い倒してサイト構造やそれぞれの特徴を自分なりに感じ取って下さい。加えてリアルエージェント（JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行）の店舗カウンターでパンフレットの旅行商材も集めてインターネットの旅行商材との違いも見てみて下さい。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

参加型の授業になるので積極的な発言を期待しています。

科目名	観光とMICE
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本講義では、地域に大きな経済効果をもたらす可能性があるMICEの基本を理解し、さらに授業内でMICEの模擬コンペを実施し、『勝てる企画提案!』のポイント、グループワークやプレゼンテーションなどの実践を通じて学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義ではスライドや動画等の視聴覚教材を活用し、さらにフレームワークの為にプリントを配布し課題分析など授業のポイントを分かり易く解説します。またグループワークやプレゼンテーションなどを取り入れ能動的な学修を目指します。

本講義は、MICEの実務経験のある教員が、企業のしくみや営業活動の知識を活かしてビジネスワーカーの視点から理解し易い講義を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる授業になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

プレゼンテーション発表やレポートに対して授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② MICEの基礎
- ③ M (Meeting) の模擬コンペ (企業の表彰パーティーを企画提案)
- ④ Mの模擬コンペその2
- ⑤ Mのプレゼン発表
- ⑥ I (Incentive) の模擬コンペ (企業のインセンティブツアーを企画提案)
- ⑦ Iの模擬コンペその2
- ⑧ Iのプレゼン発表
- ⑨ C (Convention) の事例研究 (継続カンファレンスの課題分析と企画提案)
- ⑩ Cの事例研究その2
- ⑪ Cのプレゼン発表
- ⑫ E (Event) の事例研究 (継続イベントの課題分析と企画提案)
- ⑬ Eの事例研究その2
- ⑭ Eのプレゼン発表
- ⑮ プレゼンの講評と、まとめとメッセージ

※講義の順番は適宜変更する事があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・MICEのケーススタディを通して、課題の深堀、本質の分析、根拠のある提案などロジカルな思考が出来る。
- ・実社会でも使える伝わる提案書の作成力、プレゼンの実践力を身に付ける。
- ・共同作業するコミュニケーション能力を習得し、グループワークに積極的に取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・平常点 (グループワーク参加姿勢、授業レポート) : 40%
- ・成果報告 (中間・最終) : 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

Webでの情報収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事。

【予習と復習の時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	北海道観光の歴史
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	古田 和吉

■講義の目的および概要

北海道観光の発展の歴史・経緯を学び、今後の北海道観光を展望することを目的とします。
「アジアインバウンド」を中心に好調に推移してきた北海道観光が、突然のコロナ禍で大苦戦を強いられた要因を分析し、アフターコロナの北海道観光を復活するには、何が求められ、何が有効かを過去の歴史から学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、集中講義形式で実施（8月～9月の夏季休暇期間中4日間程度）します。観光業界で長く実務経験のある教員が、実体験したことも含めて解説しながら講義をします。教員の講義の他に、グループワーク、調査、発表なども取り入れ進めます。北海道内の有名観光地・温泉地等を訪問し、その地域の歴史を知る地元有識者の講演を聴く機会も予定します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説、説明します。

■授業計画

- ①ガイダンス（講義の概要と目的の解説）
- ②北海道観光の現在①（インバウンドの歴史と現状）
- ③北海道観光の現在②（MICE・カジノの将来）
- ④北海道観光の現在③（新型コロナウイルスの影響と今後）
- ⑤北海道観光の変遷（職場旅行・修学旅行・メディア商品の歴史）
- ⑥北海道観光の未来①（北海道新幹線札幌延伸・冬季札幌オリンピック誘致）
- ⑦北海道観光の未来②（アドベンチャーツーリズム・マイクロツーリズム等）
- ⑧グループ分け・テーマ決め
- ⑨調査①
- ⑩調査②
- ⑪調査③
- ⑫フィールドワーク①
- ⑬フィールドワーク②
- ⑭発表①
- ⑮発表②+まとめ

※授業の順番や内容を変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道観光の歴史と変遷を学び理解し、北海道観光の将来像を正しく説明できること。
今後の北海道観光の成長・発展に必要な課題等を認識し、自分の考えを説明できること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (Dp5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内の態度・積極性	50%
発表	30%
最終レポート	20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。日々の観光に関する新聞報道、TVニュース、インターネット情報等を教材にします。

【参考文献】

特に指定しません。

■授業外学習

【具体的な内容】

観光に関する、新聞・ニュースの報道、インターネット情報等に関心を持つこと。
北海道の代表的な観光地を訪れ、問題意識と関心を持ち、注意深く観察してくること。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワーク費用（交通費等）として、3,000円程度が必要になります。

科目名	北海道観光政策
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	田村 こずえ

■講義の目的および概要

本講義では、北海道の観光振興に向け、どのような観点から政策を展開しているのか、関係者の連携のあり方や国や自治体の観光政策の動向などを理解した上で、北海道観光に関する政策の基礎的な知識を学修していきます。北海道観光の現状と課題から北海道観光の可能性と地域への効果について観光政策の観点から捉えることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で行いますが、国や自治体の観光政策の資料を用いて、実践的な講義を行います。

新聞やインターネットなどを活用し、観光に関する最近の動向も勘案しながら、学生との討論を重視して講義を進めていきます。講義の中で、グループワークや観光政策を実践しているゲストスピーカーの招聘も予定しています。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対して、講義の中でフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②北海道観光の現状と課題1
- ③北海道観光の現状と課題2
- ④北海道観光の現状と課題3
- ⑤北海道における観光政策の位置付け1
- ⑥北海道における観光政策の位置付け2
- ⑦北海道における観光政策の位置付け3
- ⑧観光政策における国と地方の関係
- ⑨北海道の観光政策の事例1
- ⑩北海道の観光政策の事例2
- ⑪北海道の観光政策の事例3
- ⑫北海道の観光計画の見方1：テーマ設定
- ⑬北海道の観光計画の見方2：リサーチ・ディスカッション
- ⑭北海道の観光計画の見方3：資料作成・発表
- ⑮まとめ 総括

※以上の内容にて進める予定ですが、受講生の人数や進捗状況などにより適宜変更になる場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の観光政策を国や自治体の観光政策と関連付けて理解し、北海道観光の現状と課題や北海道観光の可能性と地域への効果等、観光に関する政策の基礎的な知識を、自分の言葉で説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

課題レポート：40%

講義への積極的な態度、ディスカッション・発表：30%

最終課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布します

【参考文献】

必要に応じて参考文献を紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 常日頃から国や自治体の観光の資料をはじめ、ニュース・新聞・文献・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集するように心掛けてください。
- ・ 講義ではしっかり傾聴してメモをとり、事後学習として講義の内容の理解に努める。
- ・ 講義の課題や発表資料の作成及び準備等を行う。

【必要な時間】

毎回講義に出席した上で、講義内容に基づいて、事前学修と事後学修を行うことが必要となります。それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	北海道観光資源
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	中根 宏樹

■講義の目的および概要

世界に誇るパウダースノーや豊かな食文化、独自のアイヌ文化など、北海道観光の魅力は尽きない。本講義では、北海道における地域の観光資源について基礎的な知識及び活用事例を学ぶ。自然、歴史、文化が織り成す観光資源に触れ、多様な観点から見つめ直すことで、学生自らが北海道観光の魅力を再考する契機としたい。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式とグループワークによるディスカッションの組み合わせによって、能動的な学修を目指す。

本講義は、観光分野の民間企業において自治体と協働したプロジェクトなどの実務経験のある教員が担当する。北海道における観光資源の様々な活用事例を通して、講義を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

適時提出を課すミニレポートをもとに、学生の興味関心に基づく講義内容の振り返りを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②北海道の観光
- ③観光資源とは何か
- ④北海道の自然観光資源
- ⑤北海道の人文観光資源
- ⑥北海道の複合観光資源
- ⑦北海道の無形観光資源
- ⑧北海道のその他観光資源
- ⑨観光資源のマネジメント
- ⑩観光資源のブランディング
- ⑪観光資源の持続可能性
- ⑫北海道の観光資源活用事例①
- ⑬北海道の観光資源活用事例②
- ⑭北海道の観光資源活用事例③
- ⑮総括・課題レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・北海道の観光資源について基礎的な知識を得る。
- ・事例に基づき観光資源を有効活用する方法を学ぶ。
- ・観光資源の持続可能性について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

講義中に実施する課題 30%
 授業への積極的な参加度 20%
 課題レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義内容に合わせて適宜資料を配布する。

【参考文献】

講義内容に合わせて適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

日常的に北海道の観光に関わる情報に関心を持ち、新聞やインターネットなどを通して具体的な情報を収集する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

科目名	海外観光研修
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	河本 光弘

■講義の目的および概要

近年、グローバル化が進む世界において、各国で様々な観光関連ビジネスが展開されている。そこで、本科目は経済成長著しい東南アジアをフィールドにこうした国際観光ビジネスについて、現地の自然、風土、文化、ビジネスの現状について視察や現地でも働く方々と交流することを目的としている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学内で実施する事前・事後学習、および現地でのフィールドワーク等の全てにおいて、講義、グループワーク、グループディスカッション等で構成する。

本講義は、調査研究機関（シンクタンク）で国際観光ビジネスに関する企業支援や調査等を行っていた実務経験のある教員が担当し、国際観光ビジネスの実務経験を活かし授業を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

各講義の課題に関しては、授業内、フィールドワーク先で解説講義するとともに資料を配布し、適宜それらに対応する。

■授業計画

11月：説明会、受講者募集。12月より授業開始。2月中旬現地研修、終了後学内で事後研修。

◆事前授業

- ①ガイダンス、ASEAN事情
- ②海外で成功した観光産業の新しいビジネスモデル
- ③日本の企業のビジネスイノベーション
- ④北海道観光振興機構や先行研究データよりタイ人等の観光行動について読み解く
- ⑤現地調査前の調査内容の設定・立案
- ⑥現地調査前の調査内容プレゼン・準備

◆現地実習

- ⑦-⑫現地実習

◆事後授業

- ⑬-⑮事後研修（現地調査内容と結果をチームごとにまとめる）

※（望ましい）参加資格条件

- ①英語の勉強に対し努力がみられる学生であること
- ②「観光英会話」履修済み
- ③団体行動ができること
- ④海外渡航において保護者、アドバイザーの許可があること
- ⑤主体的に行動できること

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

地理的、経済的視点からみたASEANの魅力について、視察先の国の概況について、幅広い観光ビジネスのあり様について理解し、自らの言葉で表現できる。

また、海外からみた北海道のポテンシャルについて理解し、自らの言葉で表現できる。グローバル化社会に必要な能力について理解し、自らの言葉で表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- 事前学習におけるテストまたはレポート課題 40%
- フィールドワーク中のグループワーク 30%
- 事後学習におけるレポート、ポスターなど作成、発表 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

- 『観光のビジネスモデル』(2013)石井淳蔵他著
- 『最新海外市場ビジュアルデータブック』(2015)中島教雄他著
- 『ASEANを読み解く』(2015)みずほ総合研究所著

■授業外学習

【具体的な内容】

現地での説明等は、ほとんど英語で聞くことが多くなります。日頃より英会話でのコミュニケーションが取れるよう予習・復習すること。事後報告会などでのポスターは、すべてPCで作成してもらいます。PC操作の予習・復習をしておくこと。

【必要な時間】

目安として最低各2時間とします。常日頃から視察対象国についてニュースや新聞、雑誌など最新の動向に気を配ってください。

■その他

持病やアレルギー等もっている学生は、事前に隠さず相談してください。

参加学生は全員共通の海外保険等に加入することとなります。

コロナ前まで料金は15万円程度でしたが、この数年料金は増加中です。この料金には保険代金、パスポート取得料、土産代等は除いたものです。なお、タイを研修地として想定していますが、諸般の事情により、変更する可能性もあります。

なお、コロナや諸般の環境変化により、その他の上記記述を変更する場合があります。受講生は、観光学部生を基本、対象とする。

科目名	インバウンド概論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	青木 哲朗

■講義の目的および概要

日本政府が2003年に観光立国を宣言して以来、訪日外国人数は順調に伸び、2019年には3,188万人に達した。新型コロナウイルス感染症により、2020年以降、訪日外国人数は大きく落ち込んでいるが、あらためてインバウンド（訪日外国人旅行）の重要性が認識されている。この講義ではインバウンドの歴史、現状、特徴、意義、課題などを多面的に取り上げて、観光人材としてインバウンドに対する必須の知識を習得し、見識を高めることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

旅行業界で実務経験のある教員による講義形式の授業。具体的事例を紹介し、併せて授業内課題で理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内課題・レポートについて、特徴的な回答例をもとに授業内でフィードバックする。

■授業計画

- ①オリエンテーション（インバウンド観光の意義と世界のインバウンド市場）
- ②世界のインバウンド市場、訪日外国人旅行者誘致の歴史(1)
- ③訪日外国人旅行者誘致の歴史(2)
- ④訪日外国人旅行者の動向とその特徴(1)
- ⑤訪日外国人旅行者の動向とその特徴(2)、旅行消費額とは
- ⑥MICEとは、送客市場の動向
- ⑦留学生発表（アジアの国々の長期休暇）〈予定〉
- ⑧インバウンド観光振興のしくみ 法・政策・体制(1)
- ⑨インバウンド観光振興のしくみ 法・政策・体制(2)
- ⑩インバウンド観光振興のしくみ 法・政策・体制(3)
- ⑪インバウンド観光の実際(1) プロモーション・商品
- ⑫インバウンド観光の実際(2) 訪日アクセス・滞在中の活動・安全管理
- ⑬インバウンド観光の実際(3)、インバウンド観光・地域の取組(1)
- ⑭インバウンド観光・地域の取組(2)、インバウンド観光の課題
- ⑮授業内試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

インバウンドを理解し、その可能性や課題に対する見識を持つ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し解決する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

期末の授業内試験による評価	50%
授業内課題（小テスト、レポート）による評価	50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じてプリント配布およびmanabaアップ

【参考文献】

矢ヶ崎紀子著『インバウンド観光入門』〈晃洋書房〉、
『インバウンド概論』JTB総合旅行研究所

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・配布プリント、参考文献にて予習・復習を行うこと。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は2時間を目安とする。

■その他

※日頃からインバウンド関連のニュースに留意すること。

科目名	インバウンド政策
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本講義では、行政が実施しているインバウンド政策について、公募案件の入札から事業の実施、報告書の作成までの業務フローの理解と、実際の公募案件に関わり、調査事業や調査報告書の作成など実践を通じて学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義ではスライドや動画等の視聴覚教材を活用し、さらにフレームワークの為のプリントを配布し授業のポイントを分かり易く解説します。またグループワークやプレゼンテーションなどを取り入れ能動的な学修を目指します。

本講義はインバウンドの実務経験のある教員が、企業の営業活動、業務マネジメントの知識を活かしてビジネスワーカーの視点から講義を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる授業になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

プレゼンテーション発表やレポートに対して授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② インバウンド政策の用語と事業の流れ
- ③ 事例研究（過去の公募案件を題材）
- ④ 模擬入札（公募案件の入札に参加）
- ⑤ 模擬入札その2
- ⑥ プレゼン発表
- ⑦ 調査事業の概要
- ⑧ 調査日程作成
- ⑨ 他施設の成功事例調査、あるべき姿
- ⑩ 調査項目、アンケート作成、
- ⑪ フィールドワーク※調査先未定
- ⑫ フィールドワーク（その2）
- ⑬ 調査レポート
- ⑭ 調査結果から報告書作成
- ⑮ 報告書のプレゼン発表、講評、

※講義の順番は適宜変更になる場合があります

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・インバウンド政策のケーススタディを通して、課題の深堀、本質の分析、根拠のある提案などロジカルな思考が出来る。
- ・実社会でも使える伝わる提案書の作成力、プレゼンの実践力を身に付ける。
- ・共同作業するコミュニケーション能力を習得し、グループワークに積極的に取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・平常点（グループワーク参加姿勢、授業レポート）：40%
- ・成果報告（中間・最終）：60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・Webでの情報収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

- ・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	アジア観光論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、将来的に観光業従事者となった際に必要な知識を増やすためにある。そのために講義内容としては、次の2点を取り扱う。
東アジア観光者の現状と彼らが抱くまなざしとは何か。
アジア諸地域の観光資源にはどのようなものがあるのか。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

写真、地図、映像、統計資料などを用いた講義形式である。
前半は「観光資源」という言葉をキーワードにして、「観光者のまなざし」という視点で両者の関係を理解することを目的としていく。そのため、その確認のための課題を行ってもらおう。
後半は、それぞれの地域における「観光資源」を紹介し、その中でも特に代表する観光都市から、観光資源、観光施設の立地の問題点を見つける作業を課題として行ってもらおう。
課題については毎時実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時の課題については、次時の講義で毎時解説するが、詳細はmanabaを通じてコメントし、フィードバックとする。

■授業計画

- ①ガイダンス、アジアとは、観光資源とは、
- ②訪日アジア観光者のまなざし
- ③中国人観光者の状況
- ④中国、韓国への観光者のまなざしと現状
- ⑤戦場観光資源
- ⑥JTB観光ツアーからみる東アジアの観光対象の特徴
- ⑦東アジアの観光資源 1
- ⑧東アジアの観光資源 2
- ⑨東アジアの観光資源 3
- ⑩東アジアの観光資源 4
- ⑪東南アジアの観光資源 1
- ⑫東南アジアの観光資源 2
- ⑬東南アジアの観光資源 3
- ⑭南アジアの観光資源
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①観光者のまなざしと観光資源の関係を理解できる。
- ②各地の観光資源を知り、説明できる。
- ③各地の観光地に潜む問題点を考察し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎時の課題 50%
- ②最終レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎時のレジュメ、課題レポート 配布

【参考文献】

- ・金成 岡本亮輔, 周倩 編『東アジア観光学 まなざし・場所集団』垂紀書房
- ・JTB総合研究所『旅行業務シリーズ7海外旅行実務 海外観光資源2022』
- ・JTB総合研究所『海外旅行地理プラクティカル』
- ・勝岡只『海外観光資源ハンドブック』中央書院

■授業外学習

【具体的な内容】

前時の授業を確認し、その中から観光資源として開発しきれていない部分、観光地の問題点等を日ごろから考えること。

manabaの課題は、事後学習となっている。提出期限内で行うこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

アジアの地図が頭に入っていない場合は、地図帳を持ってくることを勧める。

科目名	通訳案内士 I
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	成田 雅昭、飛ヶ谷 園子

■講義の目的および概要

世界的にコロナウイルス感染症によって人々の移動が制限されてきましたが、観光立国を目指す我が国にとって観光は重要産業の一つであり、今後は新たな対応とともに訪日外国人数が回復し、通訳案内士（通訳ガイド）の需要が増していくものと考えられます。観光以外にも会議や商談、イベントなど様々な場面でも通訳資格所有者に対する需要が増えています。この授業では、通訳案内士の基礎・基本を学ぶとともに、日本の観光地や文化、人々の生活などについて、できるだけ平易な表現でまとまった説明ができる能力を身に付けることを目指し学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

1. 英語の基礎基本を確かなものとするため、基本文例や観光英語の基本単語・表現を確認する。
 2. 札幌や北海道、日本に関することから手短かに英語で表現し説明する力を身に付ける。
 3. グループワークを通して、英会話や英語によるプレゼンテーションがスムーズに実施できるよう練習する。
- 本講義は、通訳案内士として実務経験のある教員が、実践的な通訳ガイドの基礎基本について講義・演習を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、評価してフィードバックすることにより、全国通訳案内士への興味関心を高める。

■授業計画

- ①オリエンテーション・日本の観光地案内・富士山、清水寺
- ②英文の観光パンフレット（札幌時計台）について、日本の観光地案内・浅草
- ③日本の観光地案内・北海道（知床、札幌雪祭り、富良野）
- ④日本の観光地案内・東京（皇居、東京スカイツリー、東京ディズニーランド）
- ⑤日本の観光地案内・京都・奈良（金閣寺、東大寺、伏見稲荷）
- ⑥日本の文化（年中行事）
- ⑦日本の観光地案内・九州地方・沖縄地方（別府温泉、屋久島、首里城）
シャドーイングについて
- ⑧日本の観光地案内・東北地方（中尊寺、松島、奥入瀬渓流）
- ⑨日本の文化（書道、茶道、華道、歌舞伎、能、狂言など）
- ⑩日本の観光地案内・名古屋・紀州（伊勢神宮、白川郷合掌造り、熊野古道）
- ⑪日本の観光地案内・中部地方・四国地方（厳島神社、広島平和公園、道後温泉）
- ⑫日本のスポーツ・アクティビティ（武道、野外活動、レクリエーションなど）
- ⑬観光英語検定・通訳検定等について、ダイアローグ（寺・神社・温泉など）
- ⑭通訳研修について、日本の観光地案内・豊洲、大阪城、秋葉原
- ⑮まとめ、日本の観光地案内・六本木ヒルズ・阿寒湖・グラバー園、期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

通訳案内士の基礎基本を学び、札幌や北海道、日本の様々なことからを要領よく平易な表現でガイドできる力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

1. アクティビティ・授業の振り返り（manabaアンケートによる）：30%
2. 宿題・レポート（2回）：40%（20%×2回）
3. 期末テスト：30%
（プレゼンテーション発表に替える場合があります。）

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「英語で説明する日本の観光名所100選」 植田一三編（語研）

【参考文献】
「英語でホッカイドー PERA PERA トーク500」遠藤昌子（北海道新聞社）
「通訳案内士試験にでる 「日本の事象英文説明300選」」植山源一郎（ハロー出版）

■授業外学習

【具体的な内容】
予習については、教科書の単語・表現を下調べしてください。
復習については、授業で学んだ表現を確かなものとするため、音読に努めるとともに、観光英語の文章の多読に努めてください。

【必要な時間】
1回の授業に対して、予習2時間、復習2時間を目安とします。

■その他

観光英語検定3級・2級及び全国通訳案内士試験の資格取得を目指します。
テキストは、日本各地の観光名所を題材としており、授業で扱えなかった部分についても積極的に取り組み、通訳ガイドとして観光を楽しむ気持ちを大切にしながら、自らの英語力向上に努めましょう。

科目名	通訳案内士Ⅱ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	原田 晋、成田 雅昭

■講義の目的および概要

世界的にコロナウイルス感染症によって人々の移動が制限されてきましたが、観光立国を目指す我が国にとって観光は重要産業の一つであり、今後は新たな対応とともに訪日外国人数が回復し、通訳案内士（通訳ガイド）の需要が増していくものと考えられます。観光以外にも会議や商談、イベントなどの場面でも通訳資格所有者に対する需要が増えています。この授業では全国通訳案内士試験の筆記試験に必要な英語読解力、世界遺産や日本事象について英語で説明できる能力の向上を目指し学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では英語全国通訳案内士として実務経験のある教員が、実践的な通訳ガイドの基礎基本に基づき講義・演習を実施します。毎回振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行います。必要に応じてグループワークを行い、英会話や英語によるプレゼンテーションの練習を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業の冒頭に前回授業の復習問題を解説するとともに、manabaを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ① オリエンテーション、全国通訳案内士・観光英語検定・通訳検定について
Unit 1: What is Guiding?
- ② Unit 2: Guiding Expressions, 世界遺産（北海道、北東北の縄文遺跡群）
- ③ Unit 3: World Tourism, 世界遺産（法隆寺地域の仏教建造物）
- ④ Unit 4: Shopping Tourism, 世界遺産（日光の社寺）
- ⑤ Unit 5: Japanese Cuisine, 通訳案内士試験問題（1）
- ⑥ Unit 6: Japanese Drinks, 通訳案内士試験問題（2）
- ⑦ Unit 7: Onsens (Hot springs), 通訳案内士試験問題（3）
- ⑧ Unit 8: Development of Hokkaido, 世界遺産（岩見銀山遺跡とその文化的景観）
- ⑨ Unit 9: Hokkaido Jingu Shrine, 世界遺産（富岡製糸場と絹産業遺産群）
- ⑩ Unit 10: Odori Park, 世界遺産（白神山地）
- ⑪ Unit 11: Irankarapte!, 世界遺産（明治日本の産業革命遺産）
- ⑫ Unit 12: Ainu Survival and Revival, 通訳案内士試験問題（4）
- ⑬ Unit 13: Shiretoko, 通訳案内士試験問題（5）
- ⑭ Unit 14: Hokkaido Wildlife, 通訳案内士試験問題（6）
- ⑮ Unit 15: Volcanic lake near the airport: Lake Shikotsu, 全体のまとめと筆記試験

※②～⑭のいずれかの回について、フィールドワークに切り替える場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

通訳案内士の基礎基本に関心を持った上で、日本事象についての英文を要領よく読み書きできる力を身につけ、様々な国・地域からの訪日外国人の文化を理解するとともに、日本の観光資源について説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

1. 毎回の授業の復習・振り返り (manabaアンケートによる) : 30%
2. レポート (2回) : 40% (20%×2)
3. 授業期間内筆記試験 : 30%
(プレゼンテーション発表に替える場合があります)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし
適宜プリントを配布します。

【参考文献】

Introduction to Tour Guiding in English: Hokkaido 田中直子・ハイディ・トムソン（東京図書出版）
「英語で説明する日本の観光名所100選」 植田一三編（語研）
「通訳案内士試験にでる「日本的事象英文説明300選」」植山源一郎著（ハロー出版）
「英語で伝えたい 日本の世界遺産」 ジャパンタイムズ編（The Japan Times）

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新出単語や知らない表現などを予め調べてノートにまとめてください。
毎回の授業後、授業の復習問題をフォームで出題するので必ず提出し、重要事項を確認してください。
復習は、授業で学習した内容を音読し、ノートに書き写すなど、観光英語に必要な表現の定着を図るよう努めてください。なお、常日頃からニュース・新聞などで訪日観光に関連する情報を入手するように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

観光英語検定3級・2級及び全国通訳案内士試験の資格取得を目指します。
フィールドワークを実施する際は、交通費等で1000円程度必要となる場合があります。

科目名	通訳案内士Ⅲ
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	成田 雅昭、飛ヶ谷 園子

■講義の目的および概要

世界的にコロナウイルス感染症によって人々の移動が制限されてきましたが、観光立国を目指す我が国にとって観光は重要産業の一つであり、今後は新たな対応とともに訪日外国人数が回復し、通訳案内士（通訳ガイド）の需要が増していくものと考えられます。観光以外にも会議や商談、イベントなど様々な場面でも通訳資格所有者の需要が増えています。この授業では、全国通訳案内士としての知識・技術の向上を図るとともに、通訳案内士の実務や地理・歴史・一般知識について、日本語及び英語を用いて学ぶことにより、通訳案内士の実践的な力を身に付けることを目指し学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

1. 通訳案内士に必要な実務（制度、旅程管理、地理・歴史・一般知識）などの基本を学ぶ。
 2. 英語を用いた観光案内を日本各地で行う時に必要で魅力ある観光英語の表現を身に付ける。
 3. グループワークを通して、英会話や英語によるプレゼンテーションがスムーズに実施できるよう練習する。
- 本講義は、通訳案内士として実務経験のある教員が、実践的な通訳ガイドの基礎基本について講義・演習を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、評価してフィードバックすることにより、通訳案内士への興味関心を高める。

■授業計画

- ①オリエンテーション、Lesson 1:Tokyo Station、通訳ガイドについて
- ②Lesson 2:Exploring Metropolitan Tokyo、通訳案内士の実務
- ③Lesson 3:Restaurant at Ginza
- ④Lesson 4:Kakunodate: A Town of Samurai and Cherry Blossoms
- ⑤Lesson 5:Old Private Houses in Takayama、日本の地理（1）
- ⑥Lesson 6:Hatcho Miso in Okazaki、日本の地理（2）
- ⑦Lesson 7:Toyota Automobile Museum
- ⑧Lesson 8:Cormorant Fishing、日本の歴史（1）
- ⑨Lesson 9:Uji Byodoin、日本の歴史（2）
- ⑩Lesson 10:Kyoto Studio Park、日本の歴史（3）
- ⑪Lesson 11:International Phone Calls
- ⑫Lesson 12:Bakery Shops in Kobe、通訳案内士試験（一般知識）
- ⑬Lesson 13:White Heron Castle、外国人の生活・文化
- ⑭Lesson 14:Ritsurin Park、全国通訳案内士の状況
- ⑮Lesson 15:Charms of Miyazaki、まとめ、期末テスト
(期末テストは、プレゼンテーション発表に替える場合があります。)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

通訳案内士の実務に必要な基礎基本を学び、札幌や北海道、日本の様々なことがらを要領よく平易な表現でガイドできる力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

1. アクティビティ・授業の振り返り（manabaアンケートによる）：30%
2. 宿題・レポート（2回）：40%（20%×2回）
3. 期末テスト：30%
(期末テストは、プレゼンテーション発表に替える場合があります。)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「DISCOVERING JAPAN THROUGH TOURISM ENGLISH 観光英語で日本発見！」河原俊昭ほか（英宝社）。
その他、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】
「全国通訳案内士試験「実務」合格！対策」新日本通訳案内士協会監修（三修社）
「全国通訳案内士試験「地理」合格！対策」新日本通訳案内士協会監修（三修社）
「全国通訳案内士試験「歴史」合格！対策」新日本通訳案内士協会監修（三修社）
観光庁研修テキスト（第1版）国土交通省観光庁観光地域振興部観光資源課
「通訳ガイド用語事典?日本の地理・歴史を理解するために?」岸貴介編著（法学書院）

■授業外学習

【具体的な内容】
予習は、教科書の下調べ及び予告したテーマについて調べてください。
復習は、音読やノートをまとめるなど、授業で扱った内容の確認・定着に努めてください。

【必要な時間】
1回の授業に対して、予習2時間、復習2時間を目安とします。

■その他

観光英語検定3級・2級及び全国通訳案内士試験の資格取得を目指します。

科目名	通訳案内士Ⅳ
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	原田 晋、成田 雅昭

■講義の目的および概要

世界的にコロナウイルス感染症によって人々の移動が制限されてきましたが、観光立国を目指す我が国にとって観光は従業産業の一つであり、今後は新たな対応とともに訪日外国人数が回復し、通訳案内士（通訳ガイド）の需要は増していくと考えられます。観光以外にも会議や商談、イベントなどにおいて通訳資格所有者の需要も増えています。この授業では通訳案内士の応用を学ぶとともに、医療英語やイベント、MICE、商談などの場面で必要な英語通訳技術の向上を目指し学修していきます。また、フィールドワークを通して、北海道の観光・文化について実践的に学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では通訳案内士として実務経験のある教員が、実践的な通訳ガイドの基礎基本について講義・演習を実施します。毎回振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行います。必要に応じてグループワークを行い、観光英語の知識・技能に加え、医療、イベント、MICE、商談、DMOなど様々な場面で必要な知識の習得に加え通訳練習を行うなど能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業の冒頭に前回授業の復習問題を解説するとともに、manabaを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ① オリエンテーション、日本地図・日本歴史、通訳案内士の業務とは
総合旅行業務管理取扱管理者試験の問題解説（1）
 - ② 通訳案内における危機対応・危機管理について
総合旅行業務管理取扱管理者試験の問題解説（2）
 - ③ 医療英語の基本的な表現について
 - ④ 様々な料理・レストランに係る英語について
 - ⑤ MICEに必要な英語表現について
 - ⑥ イベント・学会などにおける英語表現について
 - ⑦ スポーツ・アウトドアアクティビティに関する英語表現について
 - ⑧ 北海道の歴史・文化と北海道の道 ①縄文文化、アイヌ文化、和人の文化（道南、道東、道北の道） ビジネス英語 1
 - ⑨ 北海道の歴史・文化と北海道の道 ②戊辰戦争、産業の発展（道央の道） ビジネス英語 2
 - ⑩ 北海道の料理、コンテンツツーリズム（北海道の料理、北海道を舞台としたマンガ、アニメ、映画などから北海道を考える） ビジネス英語 3
 - ⑪ 日本文化と「道」を英語で考える ①おもてなしの心、茶道、華道 ビジネス英語 4
 - ⑫ 日本文化と「道」を英語で考える ②仏道、武道 ビジネス英語 5
 - ⑬ 歴史、文化、芸術、スポーツ等に関する英語
 - ⑭ 旅行、ホテルに関する英語、電話での英語、EMAILの基本
 - ⑮ 科学技術に関する英語表現について、期末テスト（レポートに替える場合があります。）
- ※②～⑭のいずれかの回について、フィールドワークに切り替える場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

通訳案内士の基礎基本に関心を持った上で、日本事象を要領よく平易な英語表現でガイドできる力を身につけ、様々な国・地域からの訪日外国人の文化を理解するとともに、日本の観光資源や事象についてより広範囲に英語で説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

1. 毎回の授業の復習・振り返り(manabaアンケートによる) : 30%
2. プレゼンテーション : 30%
3. フィールドワークの取組 : 10%
4. 授業期間内筆記試験 : 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし
適宜、必要な資料・プリントを配布します。

【参考文献】

「的確に伝わる！ホテルの英会話」 ホテルオークラ東京監修
「国際会議・研究発表・学術イベント」書くための英語表現」石井隆之ほか
「東大病院発 医療スタッフのための英会話」東京大学医学部付属病院
「英文契約書ハンドブック」宮田正樹
「知識と教養の英会話」柴田真一
「ビジネス・コミュニケーション」高橋則雄、小林猛久（実教出版）
「英語で道を語る」大橋理枝、斎藤兆史（放送大学）
「A Journey into the History and Culture of Hokkaido 北海道の歴史文化を巡る旅」
」（国土交通省）
「街道を行く 15 北海道の諸道」 司馬遼太郎（朝日文庫）
「街道を行く 38 オホーツク街道」 司馬遼太郎（朝日文庫）

■授業外学習

【具体的な内容】

次回授業に指示したテーマについて、専門用語の英語を下調べし予習ノートにまとめてください。

毎回授業後、授業の復習問題をフォームで出題するので、必ず提出し、重要事項を確認してください。

復習は、授業で配布した資料・プリントについて理解を深めスキルを定着させるため、重要事項を音読しノートに整理してください。

なお、常日頃からニュース・新聞などで訪日観光に関連する情報を入手するように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間とする。

■その他

観光英語検定3級・2級及び全国通訳案内士試験、日本医学英語検定試験4級・3級などの資格取得を目指します。

また、総合旅行業務管理取扱管理者試験の問題解説も行います。

フィールドワークについて、入館料等が1,000円程度必要となります。

科目名	観光中国語
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	陳 堯柏、黄 旭暉

■講義の目的および概要

【講義の目的および概要】

近年インバウンド中華圏観光客の増加に伴い、中国語を話せる人材が求められている。その現状を踏まえ、実用的な中国語会話の習得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光の場面ごとに単語やフレーズを紹介し、会話練習やロールプレイ等を通して実際に使えるよう練習を重ねる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で学生がロールプレイを発表し、教員と見ている学生達が良かった点や改善すべき点などについてフィードバックをする。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②第一課 楊麗さんですか。
- ③第二課 荷物は多いですか。
- ④小クイズ1。アクティビティ1 (ロールプレイ)
- ⑤第三課 明日はどこへ行きますか。
- ⑥第四課 ケーキをたべたいですか。
- ⑦小クイズ2。アクティビティ2 (ロールプレイ)
- ⑧第一課～第四課復習と会話の練習
- ⑨第五課 これはいくらですか。
- ⑩第六課 電子辞書を持っていますか。
- ⑪小クイズ3。アクティビティ3 (ロールプレイ)
- ⑫第七課 京劇のチケットを買いました。
- ⑬第八課 ファストフード店がありますか。
- ⑭小クイズ4。アクティビティ4 (ロールプレイ)
- ⑮第五課～第八課復習と会話の練習

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

それぞれの場面で使う表現を学習し、実際に会話の中で使えるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

小クイズ 1-4 (40%)
アクティビティ 1-4 (40%)
課題 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

1冊めの中国語～会話クラス～ 劉 穎, 喜多山 幸子, 松田 かの子 著

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で使用する教材の予習・復習をしてください。

【必要な時間】

リスニングの課題とロールプレイの練習も含め、予習・復習をそれぞれ2時間程度行ってください

■その他

HSK中国語検定試験2級の受験を勧めます。

科目名	観光韓国語
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

最近では、さまざまな場面で日本人と韓国観光客との接触機会が増えてきており、韓国ビジネスに対する関心や韓国語の学習の需要が高まりました。withコロナ時代と言われる今、日本のインバウンド需要の回復の動きが強まってきており、とりわけ韓国からの観光客が著しく増加しました。ポストコロナに向けてインバウンド需要のさらなる増加が予想されるということで、本授業では以下の3点に重点を置いて観光韓国語力を身につけていきます。

1. 訪日韓国人観光客に北海道の人気スポットを韓国語で案内するためのフレーズや関連文法を習得しながら韓国語の会話力を高める。
2. 旅先（韓国）で使えるフレーズや関連文法を習得しながら韓国語の会話力を高める。
3. 韓国観光の基本情報をはじめ、グルメ、ショッピング、若者文化など、韓国旅行に関する最新情報を取得するとともに、韓国の社会・文化に関する知見を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的に教科書に基づく座学ですが、必要に応じて適宜グループディスカッションを行うことがあります。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。履修者の数やニーズに応じて、進め方の調整を行う可能性があります。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム（manaba）などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice：受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス（授業目標・計画・評価等について）
- ② かなのハングル表記（日本の地名・人名）
- ③ 韓国と北海道の基礎知識、観光韓国語1
- ④ 韓国と北海道の観光地1、観光韓国語2
- ⑤ 韓国と北海道の観光地2、観光韓国語3
- ⑥ 韓国と北海道の土産比較、観光韓国語4
- ⑦ 韓国の主要都市と各エリアの案内、観光韓国語5
- ⑧ 中間発表・ディスカッション
- ⑨ 韓国と北海道の空港の旅、観光韓国語6
- ⑩ 韓国と北海道の交通、観光韓国語7
- ⑪ 韓国と北海道の温泉・宿、観光韓国語8
- ⑫ 韓国の韓流・エンタメスポット、観光韓国語9
- ⑬ 韓国と北海道のグルメ旅、観光韓国語10
- ⑭ 観光韓国語 11（買い物・病院・困ったときのフレーズなど）
- ⑮ プレゼンテーション、全体のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識（観光社会・国際観光・異文化理解・外国語など）を理解し、グローバルコミュニケーション力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを自ら経験し、国際的視野を広げ、グローバル観光に欠かせない国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「学期末試験50%」+「グループプレゼンテーション30%」によりますが、出席・授業への参加度および参加態度など（20%）も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『韓国語PERAPERA北海道』、趙恵真・小川紗世著、ISBN978-4-86721-093-2

【参考文献】
必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、指定された問題を考えること、テキストの新しい語句や文法内容を確認すること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する語彙及び文法内容や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】
前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初中級以上の韓国語能力（韓国語Ⅰと韓国語Ⅱの履修）を要するため、本学の全学共通教育科目「韓国語Ⅰ」及び「韓国語Ⅱ」を履修していること、またはこれに準ずる韓国語能力を有することが望ましいです。該当しない方は事前にご相談願います。

- ①毎回、テキストを必ず持参し、積極的な授業への参加が望ましい。
- ②なお、授業中の私語など、他人に迷惑となる行為は控えていただきたい。

科目名	卒業研究[観光]
開講期・単位	4年 通年・選択 4単位・演習
担当者	呉 泰均、山田 芳之、斉藤 巧弥、有澤 恒夫、池見 真由、河本 洋一、田中 洋一郎、荒木 智、藤崎 達也、黄 旭暉、齋藤 修

■講義の目的および概要

大学4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、演習担当教員の指導の下で適切な方法に基づいて研究・調査を実践する。そして最終的に論文としてまとめ、完成させることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

担当指導教員のゼミナール方式である。研究方法の基礎を学ぶとともに、受講生各自が選択したテーマについて論文作成作業の経過報告を中心に討議し、個別指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

受講生が取り組む課題（研究計画書、調査資料、研究進捗報告、論文草稿）に対し、教員はその都度コメントや添削を行うことでフィードバックを行う。

■授業計画

■春学期

- ①ガイダンス、春学期研究計画
- ②論文作成の基本的作法について(1)
- ③論文作成の基本的作法について(2)
- ④研究テーマの検討(1)
- ⑤研究テーマの検討(2)
- ⑥問題の所在・研究目的の文章化(1)
- ⑦問題の所在・研究目的の文章化(2)
- ⑧先行研究・情報収集(1)
- ⑨先行研究・情報収集(2)
- ⑩先行研究・情報収集(3)
- ⑪先行研究・情報収集(4)
- ⑫研究方法の検討(1)
- ⑬研究方法の検討(2)
- ⑭調査(1)
- ⑮調査(2)

■秋学期

- ①ガイダンス、秋学期研究計画
- ②論文アウトラインの検討(1)
- ③論文アウトラインの検討(2)
- ④論文執筆作業(1)
- ⑤論文執筆作業(2)
- ⑥論文執筆作業(3)
- ⑦論文執筆作業(4)
- ⑧論文執筆作業(5)
- ⑨論文執筆作業(6)
- ⑩論文執筆作業(7)
- ⑪論文執筆作業(8)
- ⑫論文執筆作業(9)
- ⑬論文執筆作業(10) 仮提出
- ⑭仮提出論文の修正
- ⑮論文の完成・最終提出

※以上の授業計画は大まかな流れで、実際の進め方は各指導教員の方針に従って行われる。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

春学期：論文の基本的作成方法を理解し、適切な研究方法に則った研究・調査を行うことができる。

秋学期：研究内容をまとめ、文章で論述する能力を身に付け、成果物としての論文を完成することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

*成績評価にあたっては、担当指導教員が主査、それ以外で関連する学術領域を専門とする教員が副査となり、合議の上で決定する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
各指導教員より指示します。

【参考文献】
白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2013年。

■授業外学習

【具体的な内容】
卒業研究は、授業時間外による研究・調査が極めて重要となるため、多くの時間を割いて論文作成に努めること。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	有澤 恒夫

■講義の目的および概要

春学期の演習は、「対人能力の向上」がテーマです。対人関係やコミュニケーション能力を高めるための考え方や概念を紹介します。その上で、これから色々な人と交流を持つ必要がある学生の皆さんが、組織のなかで他者と自分が生産的な人間関係を築き、仕事を成功させるうえで欠かせない対人対応能力を修得する手がかりをつかむことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講者は単に学習するだけでなく、学んだことを実践的に使える状態(=スキル)にしなければなりません。そのために、演習、ロールプレイ、対話を頻繁に活用しますので、受講者の積極的な授業参加を前提としています。
担当教員は、企業で人事労務管理を担当した実務家教員です。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回考えたことや質問を自由にmanaba等に記述してください。担当教員がそれに対するコメントを記入して返します。

■授業計画

1. はじめに
 2. コミュニケーション能力
 3. 人と習慣
 4. ソーシャル・スタイル
 5. 相手のスタイルを知るスキル
 6. 相手のスタイルを知る
 7. 共感性
 8. 共感を高めるスキル
 9. 柔軟性
 10. 柔軟性を高めるスキル
 11. 防衛的コミュニケーション
 12. 緊張とコミュニケーション
 13. 緊張緩和のスキル
 14. アナログコミュニケーション
 15. デジタルコミュニケーション
- (注) 授業計画は変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 人の言動の特徴とその違いを理解できる。
2. 柔軟にコミュニケーションができる。
3. 苦手なタイプの人とでも生産的な対人関係がつかれる。
4. 多数の人前で効果的に交流できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発言・ディスカッション等授業への参画(30%)、研究発表(30%)レポート(40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料を配布します。

【参考文献】

演習で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前配布資料とレジュメ、参考図書による学習

【必要な時間】

予習、復習各2時間程度

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

北海道、日本、そして世界各国における人びとの暮らしや生活、社会、経済について「観光と文化のつながり」という観点から探究することは、多国籍・多文化の国際観光を学ぶ上で必要な視座であると考えます。本演習では、こうした観点から国際観光による国境を越えた相互理解と異文化交流に対する知見を深め、実践的に学ぶことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査、ディスカッション、レポート作成に取り組みます。またグループワークを通じて、学生自身によるテーマ設定、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

受講生に毎回提出してもらった授業レポートを添削し、返却します。また、授業内で受講生全員にも内容を共有し、ディスカッションした上でコメントと解説を行います。

■授業計画

- ①概要説明、授業計画
- ②北海道の伝統文化と国際交流
- ③北海道の観光資源と海外発信
- ④北海道観光と国際協力
- ⑤第1回フィールドワーク
- ⑥海外の文化観光と観光文化
- ⑦日本の文化観光と観光文化
- ⑧北海道の文化観光と観光文化
- ⑨第2回フィールドワーク
- ⑩グループワーク1：個別テーマ設定、研究計画
- ⑪グループワーク2：情報収集、文献資料調査
- ⑫グループワーク3：調査結果の分析・整理
- ⑬第3回フィールドワーク
- ⑭グループワーク4：発表準備
- ⑮プレゼンテーション

※以上の構成で進める予定ですが、受講生の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・観光と文化のつながりに関するグローバルな知識を習得する。
- ・観光と人間の生活、社会、経済との関係性を理解し、自分の言葉で説明することができる。
- ・グループワークやフィールドワークに積極的に取り組み、共同作業する能力やコミュニケーション能力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業レポート：30%
 プレゼンテーション：30%
 グループワーク・フィールドワーク：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します。

【参考文献】

UNWTO『International Tourism Highlights 2019』UNWTO, 2019年.
 山下晋司『観光人類学の挑戦』講談社, 2009年.
 Edward M. Bruner (安村克己・遠藤英樹他訳)『観光と文化』学文社, 2007年.

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習としては、文献資料の熟読、発表資料の作成、プレゼンテーションの準備作業が必要になります。事後学習としては、授業時間外に集まってグループワークを行い、学習内容の振り返り・まとめの作業に取り組みます。さらに授業内容に関連するニュースや映画、ドキュメンタリー番組なども意識的に見るようにしましょう。

【必要な時間】

事前・事後学習ともに2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークにかかる費用は原則自己負担ですが、一部補助があります。北海道の観光を通じた国際理解と異文化交流に強い関心をもって実践すること。皆で協力し合いながら、チームワークを大切に、難しいことも大変な作業も意欲的に取り組む姿勢で本演習に臨んでください。一緒に楽しく頑張りましょう。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習では本邦エアラインを4つのカテゴリー（FSC、準FSC、地域航空、LCC）に分類し、それぞれの特性およびビジネスモデルについて分析しつつ、今後のあるべき役割・立ち位置等について追求していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各本邦エアラインの特性と役割について考察し、多様化する旅客ニーズに対応していく為のそれぞれの役割分担について、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から分析・研究を行っていく。中間および最後に研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①ガイダンス メンバー紹介&ゼミの進め方について
- ②本邦キャリアの歴史と現状
- ③大手フルサービスキャリア（FSC）の現状分析（ANA、JAL）
- ④非LCC大手系系列キャリアの現状分析（AKX、AJX、HAG、JTA、JLJ、JAC）
- ⑤非LCC独立系キャリアの現状分析（ADO、SNJ、SFJ、SKY、IBE、FDA他）
- ⑥非LCC地域型キャリアの現状分析（AHX、ORC、RAC他）
- ⑦ローコストキャリア（LCC）の現状分析（APJ、TZP、SOJ、JJP他）
- ⑧中間発表会
- ⑨中間発表会の振り返りと今後の進め方
- ⑩各キャリアにおけるカテゴリー別「強みと弱み」分析1
- ⑪各キャリアにおけるカテゴリー別「強みと弱み」分析2
- ⑫各個別キャリアに対する施策提言
- ⑬最終発表会に向けたワーク
- ⑭最終発表会
- ⑮秋学期に向けての打ち合わせ

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各本邦キャリアが持っているそれぞれの役割やポテンシャルについて分析し、今後更に発展していく為の施策について、独自の発想と視点を持って論理的に提言できるレベルになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 20%
発表会の内容（中間および最終） 30%
課題・レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

- ①エアライン・ビジネス入門 第2版 稲本恵子 2,000円（税別）
- ②エアライン・マネジメント ～戦略と実践～ 日本航空株式会社 2,400円
- ③こんなに違うJALとANA 杉浦一機 800円（税別）
- ④ANA苦闘の1000日 高尾泰朗 1,800円（税別）

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	黄 旭暉

■講義の目的および概要

現在、そして、未来においても様々な文化を持つ人と接し、また、共生することが日常となる中で、誰もが大きなり小なり感じるものがカルチャーショックであろう。全く異なる環境の中で育った者同士がある日を境に共に生活するというのは容易なことではない。その際に、できる限り他との摩擦が生じないようにするためには、他文化を知り、自文化を再認識し、そして、他文化を理解することである。そうするためには、まず、これまでどのようなことに対してカルチャーショックを感じたのか、なぜそう感じたのかについて掘り下げてみるのが重要となる。ゼミ生全員で感じたカルチャーショックを出し合い、他文化を知るとともに自文化にも意識を向け、自他文化を理解する思考をトレーニングし、また、具体的なカルチャーショックの事例に沿って、文化摩擦を避ける方法について検討する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パソコンやインターネットなどを用いることによってより効果的な授業内容にし、多様性のある講義形式を取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中に問題意識を持たせ、履修者に質問や意見を提出させ、そのフィードバックで講義を進行する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②漢字圏（特に台湾人）の文化紹介
- ③漢字圏（特に香港人）の文化紹介
- ④漢字圏（特に中国人）の文化紹介
- ⑤漢字圏（特にシンガポール人）の文化紹介
- ⑥漢字圏（特にマレーシア人）の文化紹介
- ⑦韓国人の文化紹介
- ⑧これまでの授業内容のまとめと発表の仕方及びグループ分け
- ⑨A組発表および討論
- ⑩B組発表および討論
- ⑪C組発表および討論
- ⑫D組発表および討論
- ⑬E組発表および討論
- ⑭F組発表および討論
- ⑮今期授業内容のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

異文化の相違点及び共通点を知る

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 1、出席率 30%
- 2、授業での積極性 30%
- 3、プレゼンテーション 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無

【参考文献】

無

■授業外学習

具体的な内容】
問題意識を提示し、ゼミ生自身が積極的に取り組むようにする。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

出張等により上記の授業計画が変更する場合もある。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの基礎編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーションの発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ1：ワインツーリズムによる地域振興
 - ③ ケーススタディ1：募集ツアーの企画作成、販売促進
 - ④ フィールドワーク1：ワイナリーボランティア活動と地域課題調査
 - ⑤ ケーススタディ2：インバウンド向けNPSアップの検証
 - ⑥ ケーススタディ2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ3：SNSを活用したツアーの販売促進
 - ⑨ ケーススタディ3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？
 - ⑫ ケーススタディ4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 中間発表、講評、
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または(土)(日)、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・ グループワークから、実社会で使える共同作業する能力やコミュニケーション能力の習得
- ・ プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力、
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

- ・ 授業レポート提出内容：30%
- ・ フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・ プレゼンテーション（個別研究発表、中間成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・ 特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・ なし

■授業外学習

【具体的な内容】

・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。それは日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光系ベンチャー事業者のケーススタディを中心に起業の基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型のアクティブラーニングとする。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②研究計画発表(1)
- ③研究計画発表(2)
- ④研究計画の修正
- ⑤個人研究(1)
- ⑥個人研究(2)
- ⑦個人研究(3)
- ⑧個人研究(4)
- ⑨個人研究(5)
- ⑩個人研究(6)
- ⑪個人研究(7)
- ⑫個人研究(8)
- ⑬個人研究前期発表(1)
- ⑭個人研究前期発表(2)
- ⑮ふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
課題40%
試験30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無

【参考文献】

無

■授業外学習

【具体的な内容】

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地地図製作とそこからの観光空間分析を地理学的に行う。

各自の興味関心に基づいてテーマを設定し、観光空間の詳細を調べ、卒業論文またはゼミ論文にする。その概要については、秋学期に行う「4年演習（応用）」で発表する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分なりのテーマに基づいて計画を立て、各自でフィールドワークをしつつそれを地図化する。そして、それを全員で討論をしながら問題点を指摘しあい、次の発表につなげる。

【課題に対するフィードバックの方法】

ゼミ生全員からの意見をもとに次の発表に活かす。
データ等が足りないと思われる場合は各自で文献調査、現地調査を実施し、よりよい発表を目指す。

■授業計画

- ①ガイダンス1、論文の書き方指導
- ②論文の格子（もくじ）の発表と卒論指導
- ③レジュメ発表1
- ④レジュメ発表2
- ⑤レジュメ発表3
- ⑥レジュメ発表4
- ⑦レジュメ発表5
- ⑧レジュメ発表6
- ⑨レジュメ発表7
- ⑩レジュメ発表8
- ⑪レジュメ発表9
- ⑫レジュメ発表10
- ⑬レジュメ発表11
- ⑭レジュメ発表12
- ⑮パワーポイントによる研究中間発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自ら定めたテーマに基づき論理的にまとめることができる。
- ②他者の発表に対して批判的な見方をし、指摘することができる。
- ③レジュメ発表を通じて、自らの研究を深めることができる。
- ④発表用パワーポイントを作成し、成果発表で自分の研究を論理的に表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|------------------|-----|
| ①卒業論文、テーマ研究の概要表現 | 25% |
| ②他者の発表に対する様子 | 25% |
| ③自らの研究の深化 | 25% |
| ④口頭試問での対応 | 25% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の研究テーマに必要なもの

【参考文献】

各自の研究テーマに必要なもの

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・授業時までに必ずレジユメを用意してくる。
- ・卒論予定者はレジユメ発表後に文章化し、提出する。
- ・必要な現地調査は自分で判断し実施する。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

大学院（札幌国際大学観光学研究科）に進学希望の学生は、必ず「卒業研究」を履修し、卒業論文にすること。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

卒業研究を念頭に置き、音・音楽による「まちおこし」や、それを支える「ひとづくり」について具体的に立案し、音・音楽と観光産業との結びつきについて、具体的な提案をできる基礎を作ります。そのために、音・音楽が人々に与える効用を最終的にはお金に換えて世の中を回していく仕組みを中心にフィールドワークを中心に分析し、アントレプレナー（起業家精神）を育成するために繋げていくことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

卒業研究との連携を図りながらフィールドワークを中心としたゼミナール形式のPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）で実施します。必要に応じて、卒業論文作成の技法を補足しながら学生と教員がコラボレーションして議論や実践に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。学生が主体となって進めていくゼミナールに対するフィードバックを中心に、実践的な場面を想定した助言を行います。また、可能な限り卒業論文の作成へ繋がるような支援を行います。

■授業計画

①イニシャルトーク

『音・音楽によるまちおこしとは何か』（一部YouTube使用）

【Season1】事例検討：音・音楽によるまちおこし（公共的事業）

- ②地元アーティストによる“きよフェス”（札幌市清田区）
- ③アルテ・ピアッツァ美瑛：木造校舎がリノベーションでアート空間に
- ④いわみざわJOIN ALIVE：NPO法人という立ち位置
- ⑤Season1のまとめ

学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season2】事例研究の目線：音・音楽によるまちおこしの見方（民間事業）

- ⑥防災×音楽が観光にもなる？ 防災音楽ユニットBloom Works（神戸）
- ⑦菓子店が音楽ホールに！六花亭の不思議店舗（帯広・中札内・札幌）
- ⑧音・音楽を売るのか、音・音楽で売るのが
- ⑨収益が必要とされる場合とされない場合
- ⑩音・音楽＋[]＝〇〇〇、音・音楽×[]＝□□□
- ⑪Season2のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション

【Season3】音・音楽によるまちおこしの事例を集める

- ⑫学生が集めた事例発表と検討会その1
- ⑬学生が集めた事例発表と検討会その2
- ⑭学生が集めた事例発表と検討会その3
- ⑮Season3のまとめ：学生と学生、学生と教員のフリーディスカッション、授業評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

音・音楽による「まちおこし」や「ひとづくり」について、自分なりの考えをもち、それを人に伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A: 各回の最後のコメントシート（①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭）12回×5点＝60点
評価の観点：理解度について評価する。
- B: 各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
Season1：10点、Season2：10点、Season3：10点 合計30点
評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C: ⑫⑬⑭の事例発表と検討会の報告書：10点 A+B+C＝100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『まちづくり幻想』ISBN9784815609122 ※本学図書館に所蔵

■授業外学習

【具体的な内容】

◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修：卒業研究（卒論）作成を視野に入れながら、授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。また、卒業研究（卒論）と連携した授業内容とするため、個別に授業の方法を変える場合があります。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「韓国」というテーマを大きな軸として「異文化コミュニケーション」及び「国際観光」についてみなさんと一緒に研究・発表・討論を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice : 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 国際観光探求 (韓国) 1
- ③ 国際観光探求 (韓国) 2
- ④ 国際観光探求 (韓国) 3
- ⑤ 国際観光探求 (韓国) 4
- ⑥ 研究テーマ設定中間発表
- ⑦ 国際観光探求 (韓国) 5
- ⑧ 国際観光探求 (韓国) 6
- ⑨ 研究テーマの設定および研究計画報告
- ⑩ グループワーク1
- ⑪ グループワーク2
- ⑫ グループワーク3
- ⑬ プレゼンテーション1
- ⑭ プレゼンテーション2
- ⑮ プレゼンテーション3

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極的かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は使いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間をを要します。

■その他

※注意：初中級以上の韓国語能力を要します。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

ホテル業界、ブライダル業界共に今日まで様々な歴史や変遷、トピックスがありました。また現在は、コロナの影響を受けながら、多少、回復に向かう業界の姿があります。その中で、以前にはない多方面からの商品造成やサービスの在り方などを模索していますが、今、更に何をしなければならぬか、課題を見出し、解決策を考え、将来に繋げていかななくてはなりません。本演習は、ホテル業界またはブライダル業界の様々なテーマに対し、グループワークにより調査・研究を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各テーマに対し、教員より概略説明を行います。グループワークによりそのテーマを調査・研究・発表を行っていただきます。発表された内容に対し全体でディスカッションをしながら内容をブラッシュアップしていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
(以下、前年のテーマ例)
- ②ブライダルの歴史
- ③ブライダルの歴史調査1
- ④ブライダルの歴史調査2
- ⑤ブライダルの歴史調査3
- ⑥ブライダルの歴史調査4
- ⑦ブライダルの歴史まとめ1
- ⑧ブライダルの歴史まとめ2
- ⑨発表とディスカッション
- ⑩ブライダル業界の現状
- ⑪ブライダル業界の課題の抽出1
- ⑫ブライダル業界の課題の抽出2
- ⑬ブライダル業界の課題と解決策1
- ⑭ブライダル業界の課題と解決策2
- ⑮発表とディスカッション、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日本における婚礼の歴史や業界が抱える課題や現状について調査・分析等を行う事で理解を深め、説明ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|-----------------|-----|
| ①グループワークの取組み姿勢 | 50% |
| ②ディスカッションの取組み姿勢 | 50% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありません。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
SNSやニュースなどでホテル業界やブライダル業界の話題に興味・関心を持つ。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	斉藤 巧弥

■講義の目的および概要

本演習では、社会学の視点からさまざまな観光現象について考えるための知識を学習します。観光をめぐる私たちの行動パターンや規範、規則などに着目することで、観光現象について「あたりまえ」だと思っていたことを解きほぐしていきます。秋学期の演習に向けた準備として、受講者による発表を主な活動として進めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講者による調査・報告を中心的な活動とします。一般的な社会調査の手順に従って授業を進めていきます。受講者は興味のあるテーマを設定し、文献を読んだりすることで先行研究についてまとめ、発表します。

本演習では、社会学を専門に研究教育の実務経験のある教員と共に学習をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

報告・ディスカッションに対して、授業内でフィードバックをします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②社会調査について
- ③テーマ設定
- ④先行研究の収集
- ⑤先行研究のまとめI
- ⑥先行研究のまとめII
- ⑦先行研究のまとめIII
- ⑧先行研究のまとめIV
- ⑨発表・ディスカッション
- ⑩テーマ推敲
- ⑪先行研究のまとめI
- ⑫先行研究のまとめII
- ⑬先行研究のまとめIII
- ⑭先行研究のまとめIV
- ⑮発表・ディスカッション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会学の視点から観光現象について理解できる。社会調査を用いて身の回りの出来事を調査できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発表：60%
 最終レポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ありません

【参考文献】

適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃からニュース・新聞・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集し、基礎知識の理解を深めると同時に、興味のある文献を探求してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	4年演習(基礎)
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

3年次の演習では日本の観光産業の現状や展望、北海道観光関連施設や関連業種の事例分析を研究してきたことと思います。

この4年次の基礎演習では、関連して観光サービス産業の大きな傘の中でも基幹産業に位置づけられる宿泊施設に焦点をあて研究を進めます。北海道内の宿泊施設は都市型ホテル・山岳リゾート・温泉地ホテル旅館・ライフスタイル系、スポーツ系、民泊・農泊・ゲストハウスなど多くのカテゴリーが存在する中から、特徴あるコンセプトを持つ宿泊施設をチョイスして研究を進めます。施設訪問・調査・課題・問題点抽出などフィールドワークを通して実際に見て体験し知識を蓄え業界の将来展望を考察します。最後には今後の宿泊施設の継続的な発展に向けた課題・問題点を抽出・研究し、解決策をまとめ提案することを目的とします。特に観光関連産業を選択肢としている学生には、訪れた施設の責任者から生の話を聞くことにより、進路選択に有効な演習を目指します。授業は秋学期の応用演習に連動していきます。

ホテル・マネジメント技能国家検定試験は、毎年9月学科試験、12月実技試験が実施されます、将来マネジメントに有益な資格取得に是非挑戦して下さい。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・宿泊産業界で長く経営・運営・開発業務で研鑽を積む教員が、宿泊産業の実状や展望について分かり易く解説します。また、社会人として巣立つ学生が身につけておくべき「基本的な姿勢」「礼儀・身だしなみ・心構え」をレクチャーします。
・教員が持つネットワークを活用し北海道内の特徴がある宿泊施設を訪問するフィールドワークを積極的に取り入れ思考や知識の幅を広げるサポートをおこないます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- ① 演習ガイダンス : 演習の概要説明、目的・目標の解説、評価方法等
- ② 宿泊施設の各種分類と経営形態 : フィールドワークに必要な基礎編復習
- ③ グループワークの課題提示
- ④ 【A】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ⑤ フィールドワークの実施
- ⑥ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑦ 【B】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ⑧ フィールドワーク実施
- ⑨ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑩ 【C】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ⑪ フィールドワークの実施
- ⑫ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑬ フィールドワークの成果発表 課題解決にむけての提案①
- ⑭ フィールドワークの成果発表 課題解決にむけての提案②
- ⑮ 総括・評価対象レポート作成

※授業の順番や内容を変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 宿泊ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② 施設の所有・経営・運営に必要なとされる専門知識を習得する
- ③ 施設開発に必要なとされる専門知識を習得する
- ④ 国際的視野を醸成する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) : 専門知識・技能を活用する能力
(DP4) : 多様性の理解と協働する力
(DP5) : 能動的に学び続ける力
(DP6) : 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

2つの評価項目総合点(100点満点)により単位認定をおこなう

- ・授業態度・発表の参加度・積極性 : 配分40%(40点)
- ・春学期評価対象レポート : 配分60%(60点)

■テキスト・参考文献

【 テキスト・参考書・業界情報 】

- ・テキスト購入は必要ありません。
- ・必要に応じ資料・業界情報をを適宜お知らせします。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・観光に関する情報、ニュースに常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。
- ・日々より関連情報にアンテナを張り収集に努める。

■その他

- ・宿泊施設を対象に、フィールドワークを行います。
- ・交通費、食事代等の費用が一人3,000円/毎 程度必要になります。
- ・訪問施設の状況により土・日の実施がありえるのでアルバイト等の日程調整は必須
- ・FW実施日に他の履修講義に遅刻や欠席となる場合は事前にお知らせください。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	有澤 恒夫

■講義の目的および概要

ビジネスにプレゼンテーションは欠かせないものになりました。これから働く場にもAI（人工知能）がどんどん進出するでしょう。AI時代に人間が行うプレゼンテーションの意義は一体何でしょうか。

聴き手が人間であるかぎり、人間の真のニーズや期待を理解し、機転を利かせて臨機応変に対応できるプレゼンテーションがより重要になっています。効果的なプレゼンテーションの方法を知識とスキルの両面から体系的に学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

プレゼンテーション能力を高めるための考え方や方法を紹介します。受講者は単に学習するだけでなく、学んだことを実践的に使える状態（＝スキル）にならなければなりません。そのために、演習、ロールプレイ、対話を頻繁に活用しますので、受講者の積極的な参加を前提としています。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回考えたことや質問を自由にmanaba等に記述してください。担当教員がそれに対するコメントを記入して返します。

■授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 プレゼンの意義
- 3 プレゼンの効果的な実施
- 4 プレゼンを成功させる
- 5 望ましいプレゼン
- 6 プレゼン演習①
- 7 プレゼン演習②
- 8 計画と準備
- 9 関心を呼ぶ
- 10 展開する
- 11 訴求する
- 12 終了する
- 13 効果的なスキル
- 14 演習・フィードバック①
- 15 演習・フィードバック②

(注) 授業計画は変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

効果的なプレゼンテーションの方法を知識とスキルの両面から体系的に学ぶことができる。簡潔、明瞭、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発言・ディスカッション等演習への参画（30%）、研究発表（30%）レポート（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料を配布します。

【参考文献】

授業で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
事前配布資料とレジュメ、参考図書による学習

【必要な時間】
予習、復習各2時間程度

■その他

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	池見 真由

■講義の目的および概要

本演習では「観光と文化のつながり」というテーマの応用編として、北海道を舞台に自然や文化、人々の暮らしや交流に対する観光行動についてさらに知見を深めます。国際的な観光文化領域の研究を通して、特に北海道の観光資源や魅力を国内・海外に発信することの可能性を探求し、国際協力やボランティア活動に参加しながら実践することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

文献調査、レポートの作成、ディスカッションを行います。また、グループワークを通じて、学生自身によるテーマ設定、資料収集、フィールドワーク、調査・分析・整理、プレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

受講生から毎回提出してもらった授業レポートを添削し、返却します。また、授業内で受講生全員にも内容を共有し、ディスカッションをした上でコメントや解説を行います。

■授業計画

- ①概要説明、授業計画
- ②暮らしと交流に対する観光行動
- ③国際観光の社会的・文化的効果
- ④自然と文化の保全・共存をめざす観光
- ⑤第1回フィールドワーク
- ⑥北海道での異文化交流と国際理解
- ⑦北海道の文化と観光の持続可能性
- ⑧第2回フィールドワーク
- ⑨国際観光と北海道の地域活性化
- ⑩北海道の国際観光による教育効果
- ⑪グループワーク1：テーマ設定、研究計画
- ⑫グループワーク2：情報収集、文献資料調査
- ⑬グループワーク3：調査結果の分析・整理
- ⑭最終成果発表会準備
- ⑮最終成果発表会

※以上の内容を進める予定ですが、受講生の数や授業の進行具合によって適宜変更することがあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・北海道から発信する国際観光に必要な多国間の相互理解と異文化交流に関する知識を習得する。
- ・「観光と文化のつながり」という観点から、観光を取り巻く人間の行動や生活環境との関連性について説明することができる。
- ・グループワークやフィールドワークに主体的に取り組み、リーダーシップと協調性を備えたコミュニケーション能力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 授業レポート：30%
- フィールドワーク：30%
- 個別研究発表・最終成果発表：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布します。

【参考文献】

橋本和也『地域文化観光論：新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版、2018年。
機関誌『観光文化』日本交通公社、1976-

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習としては、文献資料の熟読、発表資料の作成、プレゼンテーションの準備作業を行います。事後学習としては、授業内容の振り返り・まとめについてのレポート作成に取り組みます。さらに演習テーマに関連するボランティア活動にも授業外学習として参加します。

【必要な時間】

事前・事後学習ともに2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークにかかる費用は原則自己負担ですが、一部補助があります。本演習では、北海道の観光文化を活かした地域活性化と国際協力に関心を持って、自分に何が出来るかを考えながら取り組む姿勢が求められます。共に頑張りましょう。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	荒木 智

■講義の目的および概要

本演習の前半はわが国の航空を取り巻く課題について多角度から整理・分析を試みる。後半は各々が個別の課題を選定し、それぞれの課題を前進させるための解決策について考察していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

わが国の航空を取り巻く課題について、講義とグループワーク等を織り交ぜ多角度から分析・考察を行っていく。最後にそれぞれの課題に応じた解決策について研究発表を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

都度グループワーク等の進捗状況等を報告してもらい、担当教員、関係者からのフィードバックを受ける。

■授業計画

- ①演習（基礎）の振り返り、今後の進め方
- ②わが国の航空を取り巻く環境と課題①（総論）
- ③わが国の航空を取り巻く環境と課題②（発着枠制限）
- ④わが国の航空を取り巻く環境と課題③（空港立地と空港アクセス）
- ⑤わが国の航空を取り巻く環境と課題④（公租公課と空港使用料）
- ⑥わが国の航空を取り巻く環境と課題⑤（空港運用時間）
- ⑦わが国の航空を取り巻く環境と課題⑥（JR等他交通手段との競争）
- ⑧わが国の航空を取り巻く環境と課題⑦（外航との競争、その他）
- ⑨これまでのまとめと各人の課題テーマの選定
- ⑩フィールドワークに向けた準備
- ⑪フィールドワーク1（関係航空会社訪問）
- ⑫フィールドワーク2（関係航空会社訪問）
- ⑬フィールドワークの振り返りと最終発表会に向けたワーク
- ⑭発表会
- ⑮発表会の振り返りと1年間の成果の確認

※授業計画の順番・内容は変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

わが国の航空を取り巻く環境や課題について正確に分析し、航空業界を更に発展させていく為の具体的施策について、独自の発想と視点を持って他者に論理的に提言できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

都度のグループワーク等における報告内容 20%
最終発表会の内容 30%
課題・レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考文献】

- ①エアライン・ビジネス入門 第2版 稲本恵子 2,000円（税別）
- ②エアライン・マネジメント ～戦略と実践～ 日本航空株式会社 2,400円
- ③こんなに違うJALとANA 杉浦一機 800円（税別）
- ④ANA苦闘の1000日 高尾泰朗 1,800円（税別）

■授業外学習

【具体的な内容】

グループワークが多くなりますので、チーム内で協力しつつシナリオ、ストーリーの組み立て作成などをして下さい。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークの実施に伴い、交通費（新千歳空港予定）及び諸費用として一人3,000円～5,000円程度必要となります。訪問航空会社は別途調整。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	黄 旭暉

■講義の目的および概要

日本人観光客がアジア圏内を観光する際、遭遇した異文化に如何に対応するかについて学ぶとともに、それを通して自文化についても理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パソコンやインターネットなどを用いることによってより効果的な授業内容にし、多様性のある講義形式を取り入れる。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業中に問題意識を持たせ、履修者に質問や意見を提出させ、そのフィードバックで講義を進行する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②観光地が中国の場合
- ③観光地が台湾の場合
- ④観光地が香港、マカオの場合
- ⑤観光地がシンガポールの場合
- ⑥観光地がマレーシアの場合
- ⑦観光地が韓国の場合
- ⑧これまでの授業内容のまとめと発表の仕方について
- ⑨A組発表および討論
- ⑩B組発表および討論
- ⑪C組発表および討論
- ⑫D組発表および討論
- ⑬E組発表および討論
- ⑭F組発表および討論
- ⑮学科全体の発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日本人観光客の自他文化の把握

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 1、出席率 30%
- 2、授業での積極性 30%
- 3、テスト 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無

【参考文献】

無

■授業外学習

【具体的な内容】

問題意識を提示し、履修生自身が積極的に取り組むようにする。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

出張等により上記の授業計画が変更する場合もある。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	田中 洋一郎

■講義の目的および概要

本演習では「北海道の未来に貢献する観光人材！」というテーマの応用編として、協定等に基づくビジネスパートナーと連携した課題解決型授業となります。アウトバウンド、インバウンド、観光振興の実例を通じて観光への興味を醸成し、実務社会に通用する課題解決力やアウトプット力などガクチカを養います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査、ディスカッション、研究発表を行います。学生自身によるテーマ設定、フィールドワークやボランティアを通じた調査、フレームワークを活用した課題分析、グループワークを通じた学生同士の話し合い、そして課題分析と仮説の設計からプレゼンテーションという一連の作業に取り組みます。

本演習は、旅行業の実務経験のある教員が、企業での経験を活かして皆さんの好奇心を刺激し、キャリア意識が高まる演習を実施します。ビジネスと聞くと少し難しく感じるかもしれませんが、皆さんの若いアイデアが生かされる演習になります。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートやプレゼンテーションの発表に対して、授業内で講評しフィードバックします。

■授業計画

- ① ガイダンス
 - ② ケーススタディ 1：ワインツーリズムによる地域振興（後編）
 - ③ フィールドワーク 1：ワイナリーボランティアツアー参加
 - ④ フィールドワーク 1：ワイナリーボランティアツアー参加
 - ⑤ ケーススタディ 2：インバウンド向けNPSアップの検証（後編）
 - ⑥ ケーススタディ 2：インバウンド向けプランの企画
 - ⑦ フィールドワーク 2：インバウンド向けサービス現地調査
 - ⑧ ケーススタディ 3：SNSを活用したツアーの販売促進（後編）
 - ⑨ ケーススタディ 3：SNS活用術の事例研究
 - ⑩ フィールドワーク 3：現地取材、撮影、編集、投稿、
 - ⑪ ケーススタディ 4：スモールツーリズム『何処の街にもある人気の地元食』は観光資源になるか？（後編）
 - ⑫ ケーススタディ 4：全道179市町村にある人気の地元食を調査・分析
 - ⑬ フィールドワーク 4：現地取材、撮影、編集、寄稿、
 - ⑭ プレゼン準備
 - ⑮ 最終成果発表
- ※ビジネスパートナーとの日程の調整によって講義順を変更することがあります。
 ※フィールドワークの実施日は、授業日または（土）（日）、夏休みに実施します。
 ※フィールドワークの交通費、入場料など、実費負担の場合があります。
 ※フィールドワークは他学年と合同実施の場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・エントリーシートに書ける課題解決力やデジタルを活用した発信力、フィールドワークによる社会貢献を実践する
- ・グループワークから、実社会で使える共同作業する能力やコミュニケーション能力の習得
- ・プレゼンテーションから課題の分析力、ロジカルな思考力、伝わるアウトプット力の習得

【卒業認定・学位授与の方針と関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

【成績評価基準と方法】

- ・授業レポート提出内容：30%
- ・フィールドワーク参加姿勢：30%
- ・プレゼンテーション（個別研究発表、中間成果報告）：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- ・なし

■授業外学習

【具体的な内容】

・Webでの現地訪問先情報の収集や観光に関する報道に関心を持ち、自発的に各回の学びを深める事

【予習と復習の時間】

・それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

クラス全員による参加型の授業を一緒に作り上げていきましょう。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	藤崎 達也

■講義の目的および概要

先進国の中で日本は起業への関心が最も低い国とされている。それは日本におけるさまざまな社会問題や障壁と密接に関係している様子を概観する。その上で、国内外での起業をケーススタディとして学び、社会人として活躍する際に経営的視点を持った活動ができる大人となることを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

観光系ベンチャー事業者のケーススタディとを中心に起業の基本を習得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

起業や経営的視点を持って社会活動を行う上での、障壁を意識することを目標とするため、実際の現場での課題解決型・アクティブラーニング授業とする。

■授業計画

- ①イントロダクション
- ②個人研究 (1)
- ③個人研究 (2)
- ④個人研究 (3)
- ⑤個人研究 (4)
- ⑥個人研究 (5)
- ⑦個人研究 (6)
- ⑧中間発表
- ⑨中間発表
- ⑩発表用資料作成 1
- ⑪発表用資料作成 2
- ⑫発表用資料作成 3
- ⑬グループディスカッション 個別指導
- ⑭グループディスカッション 個別指導
- ⑮ゼミ成果発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

北海道の人口減少や財政難、後継者不足などといった社会問題をビジネスで解決していく必要を理解し基礎を実践できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

講義ごとの確認シート30%
課題40%
授業内試験30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無し

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事業化が現実的なものは、外部講師等と連携をして実際に立ち上げて行くことも視野に入れる。各自のキャリアの一環として真剣に取り組むこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義では、「演習」いわゆる「ゼミ」として、観光施設などの立地地図製作とそこからの観光空間分析を地理学的に行う。

各自の興味関心に基づいてテーマを設定し、観光空間の詳細を調べ、卒業論文またはゼミ論文にする。その概要については、発表会で披露する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

自分なりのテーマに基づいた内容をレジュメやパワーポイントで発表し、批判を受けながら内容を深化させる。そして、それを文章化し、論文にまとめあげる。

【課題に対するフィードバックの方法】

ゼミ生全員からの意見をもとに次の発表に活かす。
データ等が足りないと感じた場合は各自で文献調査、現地調査を実施し、よりよい論文を目指す。

■授業計画

- ①研究状況の確認
- ②レジュメ発表 1
- ③レジュメ発表 2
- ④レジュメ発表 3
- ⑤レジュメ発表 4
- ⑥レジュメ発表 5
- ⑦レジュメ発表 6
- ⑧レジュメ発表 7
- ⑨研究発表会にむけて 1
- ⑩研究発表会にむけて 2
- ⑪研究発表会にむけて 3
- ⑫研究発表会にむけて 4
- ⑬研究発表会にむけて 5
- ⑭パワーポイントによる研究発表会
- ⑮口頭試問、論文作成・成果発表会へむけて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自ら定めたテーマに基づき論理的な論文にまとめることができる。
- ②発表を通じて、自らの研究を深めることができる。
- ③他者の発表に対して批判的な見方をし、指摘することができる。
- ④成果発表、口頭試問で自分の研究を論理的に表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------------|-----|
| ①卒業研究活動の完成度 | 25% |
| ②卒業研究活動の深化 | 25% |
| ③他者の発表に対する様子 | 25% |
| ④成果発表の様子、口頭試問での対応 | 25% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の論文テーマによるもの

【参考文献】

各自の論文テーマによるもの

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・授業時までには必ずレジюмеやパワーポイントを用意してくること。
- ・レジюме発表後に文章化し、提出すること。
- ・必要な現地調査は各自で判断し実施すること。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

大学院（札幌国際大学観光学研究科）に進学希望の学生は、必ず「卒業研究」を履修し、卒業論文にすること。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	河本 洋一

■講義の目的および概要

春学期の学びを踏まえ、音・音楽による「まちおこし」の仮想的観光商品を企画します。また、その企画から具現化が可能なものを仮想実践または実際に試行し、それらの分析結果から、音・音楽によるまちづくり・ひとづくりのノウハウをまとめ、可能な限り卒業論文の作成へと繋げます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

卒業研究との連携を図りながらゼミナール形式のPBL（プロジェクト型・課題解決型の学び）で実施します。必要に応じて、卒業論文作成の技法を補足をしながら学生と教員がコラボレーションして議論や実践に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。学生が主体となって進めていくゼミナールに対するフィードバックを中心に、実践的な場面を想定した支援を行います。

■授業計画

【Season4】春学期に収集した事例の分析

- ①基調対談：音・音楽による「まちおこし」の現場から（一部YouTube）
- ②グループ・ワーク第1回：音・音楽を商品化するために必要なこと
- ③グループ・ワーク第2回：観光商品化のキャッシュフロー
- ④グループ・ワーク第3回：ローンチ（launch）・カスタマーの獲得と回帰
- ⑤発表：グループワークのまとめを発表する（※1）

【Season5】グループ・ワークによるプランニング

- ⑥グループ・ワーク第1回：収益化できる観光商品を企画する
音・音楽による「まちおこし」で収益化が見込める観光商品を企画する。単にアイデアを出し合うだけでなく、必要な経費についても試算する。
- ⑦グループ・ワーク第2回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑧グループ・ワーク第3回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑨グループ・ワーク第4回：収益化できる観光商品を企画する
- ⑩発表：企画した観光商品を発表する（※2）

【Final Season】仮想実践で顧客の反応を確かめる

- ⑪グループ・ワーク第1回：YouTuberからのメッセージとSeason5の企画の修正
 - ⑫グループ・ワーク第2回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成（※3）
 - ⑬グループ・ワーク第3回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
 - ⑭グループ・ワーク第4回：仮想企画のプレゼン用YouTube動画作成
 - ⑮まとめ：YouTube動画へのダイレクトコメントの紹介、PDCAやルーブリックといった評価方法の紹介、授業評価
- ※1：発表の媒体は、紙媒体（レジュメ）、パワーポイント（スライドショー）、YouTube（動画）などが想定されるがどれを採用するかは各グループの自由とします。

※2：発表した内容については相互評価（ピア・レビュー）を行います。
 ※3：作成した動画は河本洋一研究室のWebサイトで公開し、学外から投票やコメントを聴取します。また、試行可能と判断した企画は実際に実践することもあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

グループ・ワークで学生同士の意見交流を図りながら、音・音楽によるまちづくりの商品開発（仮想）し、その成果を評価することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- A: 各回の最後のコメントシート（①②③④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭）12回×5点＝60点
 評価の観点：グループ・ワークへの貢献度を評価する。
- B: 各Season最後の回に実施するフリーディスカッションのまとめレポート
 Season4：10点、Season5：10点、Final Season：10点 合計30点
 評価の観点：自分なりの考えが示されているかどうかを評価する。
- C: 仮想企画評価：10点 A+B+C=100点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは特に用いないが、毎回の授業で学んだことを記録として残しておく。媒体はノートでもよいが、無料のクラウドサービスなどを活用し、自分だけのテキストがラーニング・アーカイブ（通称：ネタ帳）として残るようにする。

【参考文献】

木下斉『まちづくり幻想』ISBN9784815609122 ※本学図書館に所蔵

■授業外学習

【具体的な内容】

◇事前学修：授業内で発表するという反転授業を一部取り入れるため、次回の授業のテーマについて事前に予備知識を収集しておく。

◇事後学修：卒業研究（卒論）作成を視野に入れながら、授業内で取り組んだ内容について、ラーニング・アーカイブに整理する。

【必要な時間】

各事前・事後の学修時間は、各2時間を目安とする。

■その他

授業計画はあくまでも教員側から提案した目安です。ゼミナール形式を目指すため、授業を進めていく中で、学生と共に修正を加えることも想定しています。また、卒業研究（卒論）と連携した授業内容とするため、授業計画や方法に変更を加える場合があります。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	呉 泰均

■講義の目的および概要

国境や文化圏を越えるグローバル観光においては、言語や異文化との接触を避けることが不可能です。異文化コミュニケーションは、グローバル観光において重要な役割を果たしており、観光に携わる人材にとっては欠かせないものであるといえます。本講義では「4年演習(基礎)」で習得した知識を踏まえて「韓国における言語・文化」および「韓国における観光事情」に関する知見を深めていきます。なお、関心のあるテーマにどのような課題があるか情報収集を行い、ゼミのメンバーと協力し合いながら発表・議論を行うことで専門性・協調性・自主性を育てていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・基本的には「演習形式」の授業ですが、必要に応じて関連分野の基礎知識について説明する「講義形式」の授業も組み合わせて実施します。
- ・初回授業時に授業の進め方などについてガイダンスを行います。参加者の数や学習ニーズに応じて、進め方を調整します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・毎回授業の冒頭に課題の解説およびフィードバックを行うとともに、前回の授業内容及び課題に関する質問や意見などを受け付けます。
- ・授業外学習の際は、電子メールや学習管理システム (manaba) などを活用してフィードバックを行います。

■授業計画

※Notice: 受講生の数や学習ニーズに応じて、内容や進め方を変更することがあります。

- ① ガイダンス (授業目標・計画・評価等について)
- ② 研究テーマ設定に際するミーティング, 概説1
- ③ 研究テーマの確定, 概説2
- ④ 発表順の確定, 概説3
- ⑤ プレゼンテーションの準備方法
- ⑥ 研究発表1
- ⑦ 研究発表2
- ⑧ 研究発表3
- ⑨ 研究発表4
- ⑩ 研究発表5
- ⑪ 研究発表6
- ⑫ 研究発表7
- ⑬ 研究発表8
- ⑭ 研究発表9
- ⑮ 4年演習成果発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

種々の専門知識 (観光社会・グローバル観光・異文化理解・外国語など) を理解し、積極かつ批判的な分析やディスカッションを通して、課題を解決していく力やコミュニケーション能力を身につけていきます。また、異文化に触れることの楽しさを経験することを自ら経験し、国際的視野を広げ、国際感覚を身につけていきます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績評価は、主として「プレゼンテーション (40%) + 学期末課題 (40%)」によりますが、出席・授業への貢献度および参加態度など (20%) も加えて総合的に評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特定の教科書は用いません。毎回ハンドアウトを配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習については、必要に応じて、指定されたテーマについて調べること、指定された関連文献を読むこと、配布する資料を読むこと、指定された問題を考えること、などを事前に指示します。復習については、毎回授業中に説明する用語や学習ポイントなどを理解しておくことが重要です。なお、授業用ノートを用意し、各回で学んだことをまとめるようにしてください。

【必要な時間】

前回の授業内容の復習は2時間、次回の授業内容の予習は2時間を要します。

■その他

※注意：初中級以上の韓国語能力を要します。該当しない方は事前にご相談願います。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	竹島 鉄也

■講義の目的および概要

春学期に引き続き、ホテル業界またはブライダル業界の様々なテーマに対し、グループワークにより調査・研究を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各テーマに対し、教員より概略説明を行います。グループワークによりそのテーマを調査・研究・発表を行っていただきます。発表された内容に対し全体でディスカッションをしながら内容をブラッシュアップしていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜フィードバックを行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②グループごとにテーマ検討
- ③～⑥調査、分析、課題と解決策
- ⑦発表とディスカッション
- ⑧フィールドワーク
- ⑨フィールドワーク
- ⑩フィールドワーク
- ⑪ホテル業界、ブライダル業界でのクレームの調査
- ⑫ホテル業界、ブライダル業界でのクレームの調査
- ⑬ホテル業界、ブライダル業界でのクレームの対応と今後の対策
- ⑭発表とディスカッション
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

業界が抱える課題や現状について調査・分析等を行う事で理解を深め、説明ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|-----------------|-----|
| ①グループワークの取組み姿勢 | 40% |
| ②ディスカッションの取組み姿勢 | 40% |
| ③レポート | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありません。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

SNSやニュースなどでホテル業界やブライダル業界の話題に興味・関心を持つ。

【必要な時間】

事前・事後の学修時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワーク時の交通費、ホテルでの昼食（テーブルマナー）代として合計3,000円～5,000円程度の費用が掛かります。

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	斉藤 巧弥

■講義の目的および概要

本演習では、社会学の視点からさまざまな観光現象について調査を進めます。春学期でまとめた先行研究を土台として、具体的なテーマを確定させ、調査を進めていきます。観光をめぐる私たちの行動パターンや規範、規則などを自らの調査によって明らかにしていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講者による調査・報告を中心的な活動とします。受講者は自身で設定したテーマにしたがって調査を行い、それを授業で発表してもらいます。本演習では、社会学を専門に研究教育の実務経験のある教員と共に学習をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

報告・ディスカッションに対して、授業内でフィードバックをします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②テーマの検討
- ③調査I
- ④調査II
- ⑤調査III
- ⑥調査IV
- ⑦分析I
- ⑧分析II
- ⑨分析III
- ⑩分析IV
- ⑪発表・ディスカッション
- ⑫発表準備I
- ⑬発表準備II
- ⑭発表準備III
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会学の視点から観光現象について理解できる。社会調査を用いて身の回りの出来事を調査できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

発表：60%
 最終レポート：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ありません。

【参考文献】

適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃からニュース・新聞・雑誌等から講義内容に関連する情報を収集し、基礎知識の理解を深めると同時に、興味のある文献を探求してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	4年演習(応用)
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	山田 芳之

■講義の目的および概要

春学期の基礎演習に引き続き応用演習は、観光サービス産業の中でも基幹産業に位置づけられる宿泊施設に焦点をあて研究を続けます。
 北海道内の宿泊施設は都市型ホテル・山岳リゾート・温泉地ホテル旅館・ライフスタイル系、スポーツ系、民泊・農泊・ゲストハウスなど多くのカテゴリーが存在する中から、特徴あるコンセプトを持つ宿泊施設をチョイスして研究を進めます。
 視察可能であれば建設中の宿泊施設や観光施設も対象にします。
 施設訪問・調査・課題・問題点抽出などフィールドワークの学びを通して実際に見て体験し知識を蓄え業界の将来展望を考察します。最後には今後の宿泊産業の継続的な発展に向けた課題・問題点を抽出・研究し、解決策をまとめ提案することを目的とします。
 特に観光関連産業を進路先とした学生には、訪れた施設の有益な話を聴き自身の将来に役に立つ演習を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

・宿泊産業界で長く経営・運営・開発業務で研鑽を積む教員が、宿泊産業の実状や展望について分かり易く解説します。また、社会人として巣立つ学生が身につけておくべき「基本的な姿勢」「礼儀・身だしなみ・心構え」をレクチャーします。
 ・教員が持つネットワークを活用し北海道内の特徴がある宿泊施設を訪問するフィールドワークを積極的に取り入れ思考や知識の幅を広げるサポートをおこないます。

【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の通知、授業内容不明点の質問などに対し、授業内または事後メール、掲示板、コースニュース等にて教員の経験を交え解説と返答をします。

■授業計画

- ① 秋学期応用演習ガイダンス : 演習の概要説明、目的・目標の解説、評価方法等
- ② グループワークの課題提示
- ③ 【D】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ④ フィールドワークの実施
- ⑤ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑥ 【E】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ⑦ フィールドワーク実施
- ⑧ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑨ 【F】フィールドワークの準備 : 訪問先の事前調査
- ⑩ フィールドワークの実施
- ⑪ グループセッション(活動取りまとめ)
- ⑫ フィールドワークの成果発表 課題解決にむけての提案①
- ⑬ フィールドワークの成果発表 課題解決にむけての提案②
- ⑭ 秋学期評価対象 課題レポート作成(授業内作成)
- ⑮ まとめ: 4年次演習総括

※授業の順番や内容を変更する場合があります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 宿泊ビジネスの内容や仕組みを体系的に理解する
- ② 施設の所有・経営・運営に必要なとされる専門知識を習得する
- ③ 施設開発に必要なとされる専門知識を習得する
- ④ 国際的視野を醸成する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) : 専門知識・技能を活用する能力
 (DP4) : 多様性の理解と協働する力
 (DP5) : 能動的に学び続ける力
 (DP6) : 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

2つの評価項目総合点(100点満点)により単位認定をおこなう

- ・授業態度・発表の参加度・積極性 : 配分40%(40点)
- ・春学期評価対象レポート : 配分60%(60点)

■テキスト・参考文献

【 テキスト・参考書・業界情報 】

- ・テキスト購入は必要ありません。
- ・必要に応じ資料・業界情報を適宜お知らせします

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・観光に関する情報、ニュースに常に関心を持ち、観光庁・各自治体・各観光施設・観光経済新聞、ホテル専門誌などを参照し実際に起きている事象を認知、問題意識を持ち授業に臨むこと。
- ・日々より関連情報にアンテナを張り収集に努める。
- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ・宿泊施設を対象に、フィールドワークを行います。
- ・交通費、食事代等の費用が一人6,000円/毎程度必要になります。
- ・訪問施設の状況により土・日の実施がありえるのでアルバイト等の日程等の事前調整は必須。
- ・FW実施日に他の履修講義に遅刻や欠席となる場合は事前にお知らせください。

科目名	スポーツ社会学
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	新井 貢

■講義の目的および概要

「生涯スポーツ社会」の実現を目指し、実践するための具体的方策を理解する。社会における体育・スポーツの意義と現状を把握し、体育・スポーツに関する様々な問題を社会的に検討し解決する方策を探る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

対面での講義が主となるが、グループワークやディスカッションなど演習形式の授業も取り入れる。毎時間、レポートの提出を課し、質問や疑問点については直接またはレポートを通して受け付ける。

社会教育主事として実務経験のある教員が、スポーツが社会に及ぼす影響を具体的に解説する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の質問には個々に回答し、次の時間に返却するとともに、前時の振り返りとして全体に解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②社会における体育・スポーツの意義と現状
- ③スポーツ政策と我が国の現状
- ④スポーツとヘルスプロモーション
- ⑤地域社会とスポーツイベント
- ⑥スポーツボランティア
- ⑦女性・青少年のスポーツ参加
- ⑧高齢者・障がい者のスポーツ参加
- ⑨スポーツクラブの現状と課題
- ⑩スポーツと指導者資格
- ⑪スポーツ施設の現状と課題
- ⑫スポーツの発展とプロモーション
- ⑬グループワーク1 (今後のスポーツ施策の検討)
- ⑭グループワーク2 (新たなスポーツイベント展開、発表)
- ⑮まとめ (確認テスト、課題レポート)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①現代社会における体育・スポーツの現状と課題を理解できる
- ②スポーツに関する情報に関心を示し、ボランティア等に積極的な参加できる
- ③実現可能なスポーツ施策(イベント)を提案できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①スポーツに関する理解度(提出物、小レポート、確認テスト) 50%
- ②グループワークの積極的参加と貢献度 30%
- ③イベントへの参加、ボランティア、実践 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて資料を配布する

■授業外学習

【事前事後指導】

事前学習として、日常的にスポーツに関心を持ち、スポーツに関するニュース、新聞などの話題に関心を示し、その内容を把握しておくこと

事後学習として、積極的にボランティア等に参加し、身につけた知識を現場で発揮できるようにすること

【必要な時間】

事前事後学習はそれぞれ2時間を目安とする

■その他

授業中にスポーツに関するニュースや話題などを質問するので、答えることができるようにしておく。
班ごとのグループディスカッション等の様子を、発表できるようにする。

科目名	体カトレーニング論
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	阿南 浩司

■講義の目的および概要

本講義では、「①体力およびトレーニングに関する概念的理解、②スポーツ・トレーニングにおける体カトレーニングの位置づけ、③体カトレーニングの分類、④トレーニング計画立案およびトレーニング手段の考案」について学修し、実践現場でトレーニング指導を行う知識の修得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義を行う。定期的に振り返りシートを課し、講義内容の振り返りを行う。能動的な学修を目指し、必要に応じて、グループワークを実施する。本講義は、運動生理学およびバイオメカニクスの研究を行う実績および競技指導経験を有する教員が、運動生理学およびバイオメカニクスの学問分野に加え、コーチングおよびトレーニング理論をふまえながら、「体カトレーニング」の基礎理論について理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①トレーニング概論
- ②基礎1：青少年期の成長発育とトレーニング
- ③基礎2：女性の体力・運動能力の特徴とトレーニング
- ④基礎3：加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング
- ⑤基礎4：障害者の運動能力の特徴とトレーニング
- ⑥トレーニング分類1：基本的トレーニング手段の分類：一般的運動
- ⑦トレーニング分類2：試合運動/シーズンの特徴を眺める
- ⑧授業前半の振り返りレポート
- ⑨トレーニング分類3：種目別トレーニング手段の分類：専門的運動・試合的運動
- ⑩トレーニング内容1：全身運動によるエアロビクトレーニング
- ⑪トレーニング内容2：筋力養成法
(筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果)
- ⑫トレーニング内容3：「スピード」能力の特質とタイプ/スピードトレーニング
- ⑬トレーニング内容4：「持久力」の特質とタイプ/筋パワーと持久カトレーニングの条件とその効果
- ⑭課題レポートの作成
- ⑮授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①スポーツ・トレーニングにおける体カトレーニングの位置づけ②体カトレーニングの分類について理解を深め、③スポーツ・トレーニングの計画立案およびトレーニング手段の考案を実践する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①授業内レポート 30%
- ②最終課題レポート 50%
- ③トレーニングシート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

参考資料を適宜配布する。

【参考文献】

藤原勝夫・外山寛：身体活動と体カトレーニング. 日本出版サービス
 村木征人：スポーツ・トレーニング理論. ブックハウスHD
 中村隆一 斎藤宏 長崎宏：基礎運動学. 医歯薬出版株式会社

■授業外学習

【具体的な内容】

事前および事後学習として、①体育・スポーツに関する基礎知識の習得、②「体力」および「トレーニング」に関する情報収集（メディア・文献等）を推奨する。毎時間、小レポートを課す。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は下記の免許および資格の対象科目です。

- ・ 教員免許（教科に関する科目）
- ・ 健康運動指導士
- ・ トレーニング指導者（JATI）
- ・ CSCS（NSCA）
- ・ 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格（スポーツリーダー・ジュニアスポーツ指導員・アシスタントマネージャー）

状況によってはオンラインでの授業を実施することもある。

科目名	生涯スポーツ論
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

本講義は、生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる生涯スポーツについての基本的な理解を図り、我が国のスポーツに関する現状と課題について学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントやVTR等を活用しながら講義形式での授業展開を基本とします。また、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。

青少年のスポーツ指導に実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②「スポーツ」とは
- ③「生涯スポーツ」とは
- ④スポーツ基本法とスポーツ基本計画
- ⑤日本の生涯スポーツ振興施策
- ⑥青少年のスポーツ参加
- ⑦高齢者のスポーツ参加 授業内試験①
- ⑧障害者のスポーツ参加
- ⑨女性のスポーツ参加
- ⑩生涯スポーツとボランティア
- ⑪生涯スポーツとビジネス
- ⑫総合型地域スポーツクラブ
- ⑬スポーツイベント
- ⑭スポーツ施設とスポーツ指導者 授業内試験②
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生涯スポーツについての基本的な考え方や我が国のスポーツに関する現状と課題について理解し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

授業内での2回の試験(40%×2回) 80%
毎回の提出物(振り返りシート) 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

生涯スポーツ実践論、川西正志・野川春夫編著、市村出版

■授業外学習

【具体的な内容】

新聞やネット等によってスポーツイベントや行事についてのニュース記事をチェックし、日常的に現状理解に努めてください。また、自らもスポーツやスポーツボランティア活動に積極的に取り組むことを期待します。本講義では、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくための事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくための事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の本学開設科目です。また、授業中に、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。

科目名	栄養学[スビ]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小松 信隆

■講義の目的および概要

栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義、演習およびグループワーク

【課題に対するフィードバックの方法】

講義終了時に提出する小レポートによるフィードバック

■授業計画

- ①ガイダンス／五大栄養素
- ②三大栄養素
- ③三大栄養素の消化・吸収
- ④炭水化物と食事
- ⑤脂質と食事
- ⑥たんぱく質と食事
- ⑦ビタミンと食事
- ⑧ミネラルと食事
- ⑨大栄養素のエネルギー代謝
- ⑩各栄養素のバランスと食事①
- ⑪各栄養素のバランスと食事②
- ⑫食事摂取のタイミング
- ⑬ホルモンと食事摂取
- ⑭水分摂取のタイミング
- ⑮スポーツ栄養学のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツにおける食事の重要性を理解し、スポーツ種目それぞれにおける食事の内容やタイミングをイメージできるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

記述式による試験、定期試験70%および講義毎に提出する小レポート30%により評価

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用せず

【参考文献】

新版生涯スポーツと運動の科学、侘美 靖・花井篤子編, 市村出版

■授業外学習

【具体的な内容】

必ず前回の授業内容を復習してから出席してください。また、常日頃からニュース・新聞などで、最近の社会や企業の動き・情報を入手するように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	発育発達論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	佐藤 文亮

■講義の目的および概要

ヒトは、生物界の種々の生体システムを継承して、直立二足歩行に適した身体を獲得した。この身体システムは、成人までの発育・発達の過程を通じて形成される。本講義の目的は、ヒトにいたるまでの進化の変遷について概観するとともに、成人までの発育・発達の過程について学修することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業形態は、教室での講義形式とし、パワーポイントやプリントを用いるなどして資料を視覚的に提示する。定期的に発育・発達に関するディスカッションを行うことを通じて、能動的学修を目指す。本講義は、運動生理学的視点から、ヒトの発育・発達の過程について研究を遂行してきた実績のある教員が担当する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説する。

■授業計画

- ①ヒトにいたるまでの進化の変遷
- ②発育、成熟および発達の定義
- ③形態の発育
- ④身体機能の発達
- ⑤運動発達
- ⑥運動学習
- ⑦運動スキル1（乳児期～幼児期）
- ⑧運動スキル2（少年期）
- ⑨発育発達期の心理的特徴
- ⑩発育発達期に多いケガや病気
- ⑪発育発達期の運動プログラム
- ⑫遊びの意義
- ⑬身体機能の発達および運動発達に関する測定法
- ⑭スポーツの活用
- ⑮講義のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

進化、発育、成熟や発達に関する内容を明確に理解し、ヒトの発育・発達における遊びやスポーツの意義を深く理解できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業ごとの小テスト	(20%)
レポート評価	(20%)
定期試験	(60%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

- ・高石昌弘著:からだの発達. 大修館書店, 東京.
- ・高橋たまき著:遊びの発達学. 培風館, 東京.
- ・藤原勝夫編著:運動機能解剖学. 北國新聞社, 石川.

■授業外学習

【具体的な内容】

事前および事後学習として、テキストや関連図書等を読んでおくこと。

【必要な時間】

事前および事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は下記の資格の対象科目です。

- ・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格（公認コーチングアシスタント・ジュニアスポーツ指導員・アシスタントマネージャー）

科目名	オリンピック論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	新井 貢

■講義の目的および概要

オリンピックはスポーツの祭典としてだけではなく、世界的なイベントとして注目されている。特に「東京オリンピック2020」の開催により、オリンピックはより身近に感じられるようになった。本講義では、オリンピック開催の意義について、これまでの歴史から学ぶとともに、オリンピックに携わった方々からの講話を通して、スポーツの持つ可能性を探る。また、パラリンピックについても学ぶことで、障がい者スポーツについても理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室での講義形式を基本とするが、グループワークを通して自分の考えと他の考えを客観的に判断し、今後のスポーツとの関わり方を身に付ける。本講義は、過去にスピードスケートで日本代表の経験を有し、現在はカーリングの指導者としてオリンピック出場を目指している教科担当が指導するほか、オリンピックに関わる外部講師による講話から実践的な学びを提供する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業レポートの質問、疑問点を、次の授業で全体に解説する。

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②古代オリンピックから近代オリンピックへ
- ③外部講師による講話①(オリンピック出場選手)
- ④オリンピックの歴史①
- ⑤オリンピックの歴史②
- ⑥外部講師による講話②(オリンピック出場指導者)
- ⑦オリンピックレガシーと経済効果
- ⑧札幌オリンピック1972の開催と2030誘致活動
- ⑨外部講師による講話③(札幌オリンピック関係者)
- ⑩オリンピックとスポーツボランティア
- ⑪パラリンピックの歴史
- ⑫外部講師による講話④(パラリンピック関係者)
- ⑬冬季オリンピックミュージアムでの体験学習①
- ⑭冬季オリンピックミュージアムでの体験学習②
- ⑮授業のまとめ、課題レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

到達目標】

- ① オリンピックの意義を理解する
- ② オリンピックが様々な影響を与えていることを理解する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ① 授業の理解度、授業内小テスト(40%)
- ② グループワークでの説教的発言、発表(30%)
- ③ 課題レポート及びまとめのレポート(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に無し

【参考文献】

必要に応じて配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、オリンピックにおける名場面を把握し、発表できるようにしておく。
事後学習として、授業で学んだ知識を実生活で発揮する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする

■その他

フィールドワークとして、札幌市ウインタースポーツミュージアムでの体験学習を授業時間以外で実施する。

科目名	北海道とスポーツ I
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	平澤 芳明、横山 克人、栗野 祐弥

■講義の目的および概要

本講義は、北海道のスポーツをテーマとしたスポーツビジネス学科の専門的な初年次教育科目のひとつです。この授業では、スポーツビジネスの現場に触れることを通じて、4年間の学びへの動機づけと意欲の喚起を図るとともに学生ならではの視点からスポーツとビジネスを想像（創造）することをめざします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、学生の主体的且つ、能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を引き出すような講義を展開します。

また、実際の現場で実務経験を有するゲストを迎えた聴講学習を行い、現場重視の実践的な授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②北海道のスポーツを知る I（講演：レバンガ北海道）
- ③北海道のスポーツを見る I（バスケットボール観戦）
- ④北海道のスポーツを学ぶ I（GW：Bリーグの演出やビジネス）
- ⑤北海道のスポーツを知る II（講演：北海道コンサドーレ札幌）
- ⑥北海道のスポーツを見る II（サッカー観戦）
- ⑦北海道のスポーツを学ぶ II（GW：Jリーグの演出やビジネス）
- ⑧北海道のスポーツを知る III（講演：北海道日本ハムファイターズ）
- ⑨北海道のスポーツを見る III（野球観戦）
- ⑩北海道のスポーツを学ぶ III（GW：NPBの演出やビジネス）
- ⑪ビジネスの仕組み（利益とコラボ）
- ⑫もしも、札幌国際大学のブースを出展するなら I
- ⑬もしも、札幌国際大学のブースを出展するなら II
- ⑭もしも、札幌国際大学のブースを出展するなら III
- ⑮プレゼン発表会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツビジネスに関心を持った上で、今日の北海道におけるスポーツビジネスの社会的、経済的な現状を理解することができる。また、それらの現状を鑑み、学生の視点から新たなスポーツビジネスの可能性を考える力を身に付けます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する力】

■成績評価基準と方法

課題（63%）（知る・見る・学ぶ I / II / III 各7点×9回）
発表（37%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で、適時紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

本講義では、北海道のプロスポーツを中心に取扱うため、平日頃からニュース、新聞などで、最近の情報を入手するよう心がけてください。

授業後に課題を提示することがあります。授業内容を振り返り、次回の授業までにまとめてください。

【必要な時間】

予習では情報収集を行い、復習では授業内容の振り返りをしてください。それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークは休日を利用して実施します。先方との日程調整が必要になるため、実施日は流動的になります。

本講義の学習効果の向上には、同期に開講の全学共通科目「社会と経営」との同時履修による現場と理論の往還的な学修をすすめます。

科目名	北海道とスポーツⅡ
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	平澤 芳明、横山 克人、栗野 祐弥

■講義の目的および概要

本講義は、北海道のスポーツをテーマとしたスポーツビジネス学科の専門的な初年次教育科目のひとつであり、春学期の「北海道とスポーツⅠ」の継承科目として位置づく科目です。この授業では、スポーツビジネスの現場に触れることを通して、4年間の学びへの動機づけと意欲の喚起を図るとともに学生ならではの視点からスポーツとビジネスを想像（創造）することをめざします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、グループワーク、フィールドワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、学生の主体的且つ、能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を引き出すような講義を展開します。

また、実際の現場で実務経験を有するゲストを迎えた聴講学習を行い、現場重視の実践的な授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②ブース出展準備Ⅰ
- ③ブース出展準備Ⅱ
- ④ブース出展準備Ⅲ
- ⑤ブース出展準備Ⅳ
- ⑥ブース出展準備Ⅴ
- ⑦ブース出展Ⅰ（11/11 土 or 12/3 日）
- ⑧ブース出展Ⅱ
- ⑨ブース出展Ⅲ
- ⑩ブース出展振り返りⅠ
- ⑪ブース出展振り返りⅡ
- ⑫ブース出展振り返りⅢ
- ⑬ブース出展発表Ⅰ
- ⑭ブース出展発表Ⅱ
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

到達目標】

スポーツビジネスに関心を持った上で、今日の北海道におけるスポーツビジネスの社会的、経済的な現状を理解することができる。また、それらの現状を鑑み、学生の視点から新たなスポーツビジネスの可能性を考える力を身に付けます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する力】

■成績評価基準と方法

成果物提出（30%）

発表（50%）

レポート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で、適時紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

本講義では、北海道のスポーツメディア、施設、発祥スポーツを中心に扱うため、常日頃からニュース、新聞などで、最近の情報を入手するよう心がけてください。

授業後に課題を提示することがあります。授業内容を振り返り、次回の授業までにまとめてください。

【必要な時間】

予習では情報収集を行い、復習では授業内容の振り返りをしてください。それぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークは休日を利用して実施します。先方との日程調整が必要になるため、実施日は流動的になります。

本講義の学習効果の向上には、同期に開講の全学共通科目「社会と経済」との同時履修による現場と理論の往還的な学修をすすめます。

科目名	スポーツビジネス論 I
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	平澤 芳明

■講義の目的および概要

本講義ではスポーツビジネスをさまざまな角度から検証し、根差している専門分野の基本的な理解を得ることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義はスポーツ新聞記者歴33年の教員が担当します。「日本ハムファイターズ」が北海道移転を表明した2002年から道内のメディアとしては初の球団番記者、さらに高校野球や一般スポーツ、ウィンタースポーツなどの取材経験を生かした内容を学びに紐づけ、研究テーマとして掘り下げていきます。スポーツビジネスⅡにつなげる講義やフィールドワークを展開していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

個人やグループによる研究を通して、随時行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②スポーツビジネスあれこれ
- ③日本ハムファイターズ球団の組織を考える
- ④日本ハム球団職員の仕事～働く歴史を考える
- ⑤プロ野球、アスリートにおけるセカンドキャリア、デュアルキャリア
- ⑥NPBドラフト会議、スカウトの仕事
- ⑦札幌ドーム考察～FWに向けたグループワーク
- ⑧札幌ドームフィールドワーク
- ⑨札幌ドームのビジネスを考える
- ⑩現役大学生CEO/バレーボール・サフィルヴァ三木社長特別講義
- ⑪三木氏の講義を受けグループワーク①（まとめ）
- ⑫三木氏の講義を受けグループワーク②（発表）
- ⑬スポーツメーカーを考える
- ⑭日本ハムファイターズ屋内練習場フィールドワーク
- ⑮スポーツビジネス論まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツビジネスを幅広く理解し、どんなビジネスがあり、そのように成り立っているかを学びます。知識を得るために情報を収集、整理し、テーマに対して意欲を持って取り組むことを望みます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・講義に対する意欲、出席＝30%
- ・講義内テスト&レポート＝40%
- ・フィールドワーク、グループワーク＝30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて随時配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

プロ、アマを問わずスポーツを見る機会が多いと思います。生観戦やテレビ放映などを通して感じたものを自らストックし、情報を得てください。講義などに活かせる題材などがあると感じます。

【必要な時間】

予習・復習はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

フィールドワークなど実費がかかることがあります。

科目名	スポーツフィールドワークⅠ
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

株式会社楽天野球団との共同展開授業です。本学卒業生が球団職員として働いている同球団に出向き、プロスポーツチームの運営に関わる実践的な知識と経験を修得し、仕事としてのプロスポーツを考察します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本授業は実務経験のある教員の指導による講義と株式会社楽天野球団の職員による講義および実習を織り交ぜた演習形式で行われます。また実際の現場にて体感をするアクティブラーニングです。授業前半は講義、授業後半はグループワークになります。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ①本学での事前・事後学習
 - ②楽天生命パーク宮城視察および試合観戦
- 上記二部構成で行われ、それぞれ楽天野球団職員、教員からフィードバックをします。

■授業計画

夏季休暇期間中に仙台へ行きますので、春学期授業期間中より準備に取り掛かります。

【事前学習：本学教員、楽天野球団職員（オンライン） 計12回】

- ①ガイダンス（昨年度の資料や動画をもとに、授業内容・展開の説明ほか）
- ②フィールドワークとは？
- ③（訪問にあたり）コンプライアンスとビジネスマナー
- ④楽天グループ株式会社について
- ⑤東北、宮城県、仙台市について
- ⑥航空券予約
- ⑦球団職員からの課題提示（オンライン）
- ⑧企画立案、企画書作成の流れ
- ⑨課題解決ワークⅠ
- ⑩中間発表
- ⑪課題解決ワークⅡ
- ⑫発表（オンラインで球団職員も参加）
- ⑬フィールドワーク
- ⑭フィールドワーク
- ⑮フィールドワーク

【フィールドワーク（予定）】

- I 8月18日（金）～20日（日）千葉ロッテマリーンズ戦
- II 8月29日（火）～31日（木）埼玉西武ライオンズ戦
- III 9月5日（火）～6日（水）北海道日本ハムファイターズ戦

いずれか1試合を観戦しますが、それが決まり次第、詳細を決めていきます。

昨年は1泊2日で下記のプログラムでした。

- 8月24日（水）
 - 1日目：午前移動、午後楽天生命パーク宮城視察および試合観戦
- 8月25日（木）
 - 2日目：午前仙台市役所スポーツ振興課にて課題発表
午後ユアテックスタジアム仙台視察

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・プロスポーツビジネスおよびスポーツ関連業界への理解を深めてもらいます。
- ・プロスポーツビジネスおよびスポーツ関連業界への就業意欲を高めてもらいます。
- ・仕事の仕組み「お客様を呼ぶ（営業力、企画力）」「お客様をお迎えする（興行運営）」についての知識を修得してもらいます。
- ・以上のことを踏まえプロスポーツビジネスおよびスポーツ関連業界が求めている人材像を明確化してもらいます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
- DP2 コミュニケーション能力
- DP3 課題を発見し、解決する力
- DP4 多様性の理解と協働する力
- DP5 能動的に学び続ける力
- DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

楽天生命パーク宮城視察および試合観戦が必須であり、以下の要領で評価します。

- ①事前学習における課題（50%）
- ②事後学習におけるレポート作成（50%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】
必要に応じ適宜配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

就職先としてのプロスポーツビジネスおよびスポーツ関連業界は狭き門です。それでも採用される人はいます。しかし「スポーツが好き」なだけでは採用されません。プラスアルファが必要です。日頃からメディアに目を通し、世の中で起きていることを他人事ではなく自分事として捉える習慣をつけてください。本授業は観光旅行ではありません。調査研究です。事前のリサーチはきちんとしておいてください。

【必要な時間】

事前・事後の学修時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ①自己負担額は概ね30,000円～40,000円程度です（一部大学から補助があります）。
- ②詳細スケジュールなどは別途指示します。
- ③集団で行動しますので、単独での行動は認められません。

科目名	レクリエーション実技
開講期・単位	2年 通年・選択 2単位・演習
担当者	本多 理紗

■講義の目的および概要

様々な課題を抱える現代社会において、レクリエーションの位置づけは個人及び集団におけるコミュニケーション能力を高めるための手段として、欠かすことの出来ないものとなっています。本講義は、レクリエーションを通じて、ホスピタリティやコミュニケーション能力の向上を目指し、目的や対象者に合わせたレクリエーション活動を展開、指導/支援できるような技能を身につけることが目的です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実技体験が主となりますが、単に体験するだけではなく、目的や対象にあわせた活動や展開方法を学ぶグループワークを行います。また、フィールドワークとして事業に参加することもあります。

本講義は、子どもから高齢者までの運動教室や介護予防等でレクリエーションを実施している実務経験のある教員が、目的や対象者に合わせたレクリエーション活動を展開し、アレンジできるようになる講義を実施します。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

1. 授業ガイダンス
2. レクリエーション活動の習得Ⅰ(ゲーム)
3. レクリエーション活動の習得Ⅱ(フィールドワーク①)
4. レクリエーション支援の方法Ⅰ(ホスピタリティ①)
5. レクリエーション支援の方法Ⅱ(ホスピタリティ②)
6. レクリエーション活動の習得Ⅲ(ニュースポーツ)
7. レクリエーション支援の習得Ⅳ(様々な活動)
8. レクリエーション支援の方法Ⅲ(アイスブレイキング①)
9. レクリエーション支援の方法Ⅳ(アイスブレイキング②)
10. レクリエーション支援の方法Ⅴ(アイスブレイキング③)
11. レクリエーション支援の方法Ⅵ(ハードルの設定)
12. レクリエーション支援の方法Ⅶ(CSSプロセス)
13. 安全管理の基礎① スポーツ行政の仕組みと実際
14. 安全管理の基礎② スポーツ・レクリエーション継続のための場づくり
15. 春学期のまとめ
16. 秋学期ガイダンス・動機づけの支援技術①
17. 動機づけの支援技術②
18. レクリエーション支援の方法Ⅷ(アレンジの基本と応用)
19. レクリエーション活動の習得Ⅴ(歌などを利用した身体活動)
20. レクリエーション活動の習得Ⅵ(フィールドワーク①)
21. レクリエーション活動の習得Ⅶ(フィールドワーク②)
22. レクリエーション活動の習得Ⅷ(ゲーム)
23. レクリエーション活動の習得Ⅸ(ニュースポーツ)
24. レクリエーション活動の習得Ⅹ(ニュースポーツ)
25. レクリエーション支援の実施Ⅰ(プログラム計画①)
26. レクリエーション支援の実施Ⅱ(プログラム計画②)
27. レクリエーション支援の実施Ⅲ(プログラム計画③)
28. レクリエーション支援の実施Ⅳ(プログラム発表①)
29. レクリエーション支援の実施Ⅴ(プログラム発表②)
30. レクリエーション支援の実施Ⅵ(プログラム発表③まとめ)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①個人及び集団でのコミュニケーション能力を高める。
- ②レクリエーションの重要性を理解し積極的に関わる姿勢を身につける。
- ③目的や対象にあわせたレクリエーション活動を展開、指導/支援することができる。
- ④スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①授業の理解度、小テスト（40%）
- ②レクリエーション活動の展開、支援法（40%）
- ③課題レポート・実技ノート（20%）

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』公益財団法人 日本レクリエーション協会

【参考文献】

『スポレク活動で健康寿命を延伸』公益財団法人 日本レクリエーション協会
『レクリエーション支援の技術』公益財団法人 日本レクリエーション協会

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習ノートにまとめてください。毎回の授業で、その日行ったレクリエーション活動の内容と感想を実技ノートにまとめてください。

日常的に笑顔であいさつが出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ、実践をしてください。

また、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

この科目は、「レクリエーション・インストラクター」「スポーツ・レクリエーション指導者」「ジュニアスポーツ指導員」の資格取得をするための必修科目です。レクリエーション・インストラクター等資格取得希望者履修とします。積極的にコミュニケーションを図るよう心がけてください。

科目名	レクリエーション理論
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	本多 理紗

■講義の目的および概要

本講義の目的は、レクリエーションの意義、レクリエーションインストラクターの役割やレクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解することです。さらに、楽しさを原動力としたレクリエーション事業についても学習をし、主体的に計画を立てて積極的に活動できる能力を身につけることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回講義形式とグループワークやディスカッション等を行います。また、グループでの発表も行い、能動的な学習を目指します。
本講義は、子どもから高齢者までの運動教室や介護予防等でレクリエーションを実施している実務経験のある教員が、レクリエーションとは何かをレクリエーション支援者の視点から理解できる講義を実施します。
本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②レクリエーション概論（レクリエーション支援や役割）
- ③スポーツ・レクリエーション概論（スポレクとは）
- ④楽しさと心の元気づくりの理論①（楽しさを通した心の元気づくりと対象者の元気づくり）
- ⑤楽しさと心の元気づくりの理論②（心の元気と地域のきずな）
- ⑥レクリエーション支援の理論①（コミュニケーションと信頼関係づくりの理論）
- ⑦レクリエーション支援の理論②（良好な集団づくりの理論）
- ⑧レクリエーション支援の理論③（自主的、主体的に楽しむ力を育む理論）
- ⑨スポーツ未実施者参加促進法（スポーツ未実施者の現状など）
- ⑩スポーツ・レクリエーション生理学（高齢期の身体的特徴と運動効果を上げるポイント等）
- ⑪スポーツ・レクリエーション心理学（高齢期の心理的特徴とスポレクの心理的効果等）
- ⑫レクリエーション支援のプログラム（リスクマネジメントの方法）
- ⑬プログラムの立案（グループワーク①）
- ⑭プログラムの立案（グループワーク②）
- ⑮プログラムの発表・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①レクリエーションの意義やインストラクターとして必要な知識を理解することができる。
- ②レクリエーションの重要性を理解し、積極的に関わる能力を身につける。
- ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
(DP3) 【課題を発見し、解決する力】
(DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①提出物、発表 30%
- ②レクリエーションへの理解度、小テスト 40%
- ③課題レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』公益財団法人 日本レクリエーション協会

【参考文献】

『スポレク活動で健康寿命を延伸』公益財団法人 日本レクリエーション協会
『レクリエーション支援の基礎』公益財団法人 日本レクリエーション協会
『福祉レクリエーション総論』公益財団法人 日本レクリエーション協会

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習ノートにまとめてください。毎回の授業で、前回の授業内容の復習問題や各都道府県において行われているレクリエーションの事業や気になるイベント等を調べる課題を出題しますので、ノートにまとめてください。

日常的に笑顔であいさつが出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ、実践をしてください。

また、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします

■その他

この科目は、「レクリエーション・インストラクター」「スポーツ・レクリエーション指導者」資格を取得するための必修科目です。レクリエーション・インストラクター一等資格取得希望者履修とします。

学科関係なく多くの学生とコミュニケーションをとりますので、積極的に参加するよう心がけてください。

科目名	基礎演習 I [スポビ]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	原 一将、吉沢 直、田部井 祐介

■講義の目的および概要

本演習では、1年次の「学びの技法」で学んだスキルを発展、応用させることを目標とする。スポーツを通して、ビジネスに重要とされる広報戦略・地域貢献・顧客獲得について学ぶことを目的とする。資料を探す力、課題を発見する力、レポートを作成する力、人に説明する力を「ディスカッション」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」と通じて学習する。必要に応じて「フィールドワーク」を実施する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションする。本講義は、学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域における経験や知識をふまえ、効果的な課題解決方法へのアドバイスをしながら学修をサポートする形式で実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションによる発表に対する質疑応答の場を設け、学生どうしのフィードバックも実施する。

■授業計画

- ① 全体的なガイダンス(履修登録と今後の予定)
- ② スポーツビジネスとは
- ③ スポーツビジネスと広報戦略 (企画)
- ④ スポーツビジネスと広報戦略 (準備)
- ⑤ スポーツビジネスと広報戦略 (運営)
- ⑥ スポーツビジネスと地域貢献 (企画)
- ⑦ スポーツビジネスと地域貢献 (準備)
- ⑧ スポーツビジネスと地域貢献 (運営)
- ⑨ スポーツビジネスと顧客獲得 (企画)
- ⑩ スポーツビジネスと顧客獲得 (準備)
- ⑪ スポーツビジネスと顧客獲得 (運営)
- ⑫ プレゼンテーション資料作成
- ⑬ 学科内発表会
- ⑭ まとめのレポート
- ⑮ 学科合同集会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を身につけ、応用できるようにする。
- ② 人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
 DP2 コミュニケーション能力
 DP3 課題を発見し、解決する力
 DP4 多様性の理解と協働する力
 DP5 能動的に学び続ける力
 DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

プレゼンテーション(30%)
 課題などの提出(40%)
 最終レポート(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業内適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	基礎演習Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	原 一将、吉沢 直、田部井 祐介

■講義の目的および概要

本演習では、基礎演習Ⅰで修得したスキルをさらに深めていく。また、それらに応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて「企画する力」、「運営する力」といった基礎的な能力のブラッシュアップを図る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式で演習を実施する。グループワークを実施し、その成果をレポートにまとめる。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身につけさせることで能動的学修を目指す。学術的な領域における研究の実績を有する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。また、プレゼンテーションに対する質疑応答の場を設け、学生どうしによるフィードバックも実施する。

■授業計画

- ① 全体的なガイダンス(履修登録と今後の予定)
- ② スポーツビジネスとは
- ③ スポーツビジネスと広報戦略(企画)
- ④ スポーツビジネスと広報戦略(準備)
- ⑤ スポーツビジネスと広報戦略(運営)
- ⑥ スポーツビジネスと地域貢献(企画)
- ⑦ スポーツビジネスと地域貢献(準備)
- ⑧ スポーツビジネスと地域貢献(運営)
- ⑨ スポーツビジネスと顧客獲得(企画)
- ⑩ スポーツビジネスと顧客獲得(準備)
- ⑪ スポーツビジネスと顧客獲得(運営)
- ⑫ プレゼンテーション資料作成
- ⑬ 学科内発表会
- ⑭ まとめのレポート
- ⑮ 学科合同集会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 学習スキル(調べる、読む、考える、書く、話す)の基礎を発展させ、それを応用できるようにする。
- ② 人前で自分の意見の根拠を示して述べるができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
 DP2 コミュニケーション能力
 DP3 課題を発見し、解決する力
 DP4 多様性の理解と協働する力
 DP5 能動的に学び続ける力
 DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

プレゼンテーション(30%)
 課題などの提出(40%)
 最終レポート(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、「スポーツビジネス分野の基礎的知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で、取り組んだ内容、進捗状況および課題を述べさせ、課題の解決に向けた今後の展望を考えさせる。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	コーチング論[スピ]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	横山 克人

■講義の目的および概要

本講義は、「競技スポーツ」における指導現場に必要なコーチングおよびトレーニングを題材にします。競技力向上のための合目的なトレーニング計画を作成し、スポーツ中に見られる動き・技術・戦術の特徴と指導法の理解を深め、指導対象や習熟段階を想定した指導方法を学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、講義形式で行いますが、一方的な説明ではなく、発言を求めたり、設問に対して考える時間を設けています。

本講義は、日本スポーツ協会公認ハンドボールコーチ3の資格を有する教員が担当します。これまでの指導経験と実際の指導現場での具体例を活用し、指導対象や習熟段階を想定したコーチングについて講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の理解度を把握するため授業内課題を配布し、時間内に課題の解説および課題の回収を行います。また、毎時間の振り返りとして、manabaやResponにて、質問・意見・感想を書いてもらいます。質問に関しては、翌時間の冒頭に回答し、併せて、前時の復習を行います。

■授業計画

- ①コーチングの成立、発展、展望
- ②トレーニングの計画Ⅰ（目標設定・競技特性の把握）
- ③トレーニングの計画Ⅱ（期分け・評価・課題設定）
- ④動きの観察Ⅰ（自己観察・他者観察・自己の他者観察）
- ⑤動きの観察Ⅱ（習熟位相・運動修正）
- ⑥動きの理解Ⅰ（運動の局面構造）
- ⑦動きの理解Ⅱ（運動リズム・運動伝導・運動流動）
- ⑧動きの理解Ⅲ（運動の先取り・運動弾性・運動調和・運動正確性）
- ⑨動きの指導（運動説明・運動表現）
- ⑩戦術の理解Ⅰ（戦略と戦術）
- ⑪戦術の理解Ⅱ（チーム戦術と個人戦術）
- ⑫戦術的な指導Ⅰ（情報の活用・伝達方法）
- ⑬戦術的な指導Ⅱ（戦術指導のポイント）
- ⑭スポーツマンシップとスポーツインテグリティ
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

コーチングを理解し、「教える」と「導く」の違いを説明できる。また、トレーニングを行う目的やタイミング、競技特性について理解し、トレーニング計画を作成できる。そして、指導対象者の動きの特徴、局面構造を理解し、指導対象および習熟段階に応じた指導方法を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- 授業内課題（40%）
- 定期試験（60%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- 「コーチングへの招待」日本コーチング学会 編集 大修館書店
- 「球技のコーチング学」日本コーチング学会 編集 大修館書店
- 「運動学講義」金子明友・朝岡正雄 編著 大修館書店
- 「スポーツの戦術入門」ヤーン・ケルン 著 朝岡正雄・水上一・中川昭 監訳 大修館書店

■授業外学習

【具体的な内容】

本講義では、多種多様なスポーツを事例として取り扱います。そのため、日頃から新聞、ニュース、インターネット等で様々なスポーツについての情報収集を心がけて下さい。なお、事例として取り扱ったスポーツに関しては、授業後に経験してみることが望ましい。

【必要な時間】

事前学習、事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

定期試験は、持込不可のため、毎時間のノートテイクが大切になります。なお、授業中は、講義の内容について随時指名して発言を求めます。積極的に授業に参加して下さい。

科目名	野外活動理論・演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	吉沢 直、新井 貢

■講義の目的および概要

自然と親しみながら野外で楽しく活動するための知識、技術、態度を身につける。また、子どもたちの「生きる力」を育むために有効とされる、自然体験学習を理解するとともに、自然に親しみ、大切にすることを養うなど環境教育に対する意識も高める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半の8回は講義と演習を主として学内での通常授業を行い、野外活動の意義や安全対策など理論を身に付けるとともに、実習に向けての準備を行う。後半7回は集中講義における実習とし、小グループで課題を解決するためのグループワークやディスカッションを行い、与えられた課題であるイグルーを完成させる。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて課題を果たし、授業内において解説する。また、授業後にも時間を割いて個別指導を行う。

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②野外活動の教育的位置づけと現状
- ③野外活動の事例紹介と事業計画における留意点
- ④野外活動におけるリスクと安全対策
- ⑤事業計画Ⅰ（グループワーク）
- ⑥事業計画Ⅱ（発表）
- ⑦演習Ⅰ（学内において実施可能なプログラム）
- ⑧演習Ⅱ（学内において実施可能なプログラム）
- ⑨～⑮
集中講義（2日間）
授業のまとめ及び課題のレポートも含む

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①野外活動における基本的な知識、技能、態度を身につけることができる。
- ②自然体験活動の重要性を理解するとともに、環境に対する意識も高めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①野外活動に対する理解及び確認テスト（40%）
- ②実習での実践（40%）
- ③課題レポート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、自然に親しみ野外活動に参加するなど、積極的に体験する。
 事後学習として、授業で身につけた知識、技術をボランティアとして指導実践する。

【必要な時間】

事前事後学習は、2時間を目安とする。

■その他

前半の授業で3分の2以上の出席が満たされない者、及び理論を理解できない者の実習参加は認めない。
 実習費として1,000円程度の自己負担がある。

科目名	スポーツ傷害と予防
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	後藤 ゆり

■講義の目的および概要

本講義では、スポーツ活動に関連して起こりうる傷害について、その発生要因や症状、性・年齢・競技種目などによる特徴について理解する。また、スポーツ傷害予防の観点から、スポーツ指導者として身につけておくべき知識や対応の仕方を習得する。さらに、対象者に安全な運動プログラムを作成・提供するために必要な知識と理論を学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

主として教室で講義を展開し、スポーツ傷害について、発生要因や症状、性・年齢・競技種目による特徴および予防の観点から解説する。また、スポーツ傷害についてより深い理解を得るためにディスカッションやグループワークを行う。さらに、スポーツテーピングなどの実習を行い実践的な知識・技術を修得できるような講義を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題やレポートについては、学生の意見を講義の中で紹介し意見交換を行うなどして学生にフィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション（運動器の障害の基本像）
- ②内科的障害
- ③頭部・頸部の傷害
- ④肩関節の傷害
- ⑤肘・手関節の傷害
- ⑥体幹の傷害
- ⑦骨盤・股関節の傷害
- ⑧大腿の傷害
- ⑨膝関節の傷害
- ⑩足関節・足部の傷害
- ⑪スポーツテーピングの実際（1）
- ⑫スポーツテーピングの実際（2）
- ⑬運動プログラム作成の理論（1）
- ⑭運動プログラム作成の理論（2）
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツ傷害について、発生要因や症状、性・年齢・競技種目などによる特徴について説明できる。また、スポーツ傷害の予防について具体例を示しながら論述することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

期末レポート 40%
 講義後の感想レポート 30%
 講義内での課題 30%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

- ・「基礎から学ぶ！スポーツ障害」 鳥居俊 著 ベースボール・マガジン社
- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下）
- ・その他適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・毎回の講義で扱う範囲に基づき基礎的な人体解剖の知識について予習する。
- ・毎回の講義内容について各自のスポーツ活動に当てはめて事例を用意し、次回講義でのディスカッションやグループワークなどに活用する。
- ・各自の興味のあるスポーツでの傷害予防について情報収集を行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は下記の資格の対象科目である。

- ・トレーニング指導者(JATI)
- ・健康運動指導士

科目名	テニス[スポビ]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	橋場 俊輔

■講義の目的および概要

本講義の目的は、生涯・競技スポーツとしてのテニスを実践する上で必要な知識と技術を、運動生理学、健康科学およびコーチング等の観点から修得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、テニスコートと教室である。授業冒頭の10分程度を用いて、テニスを実施・指導する上で必要な知識や技術についての講義を行い、その後、テニスの実践を多く行う。個々それぞれに技術指導を行うが、必要に応じてグループワークを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、テニス指導の実績を有する教員が担当する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、テニスに関する知識や技術を基にした課題レポートを課す。課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説を行う。

■授業計画

- ① テニスの基本的ルールと動作について
- ② ラケットの握り方と、場面に応じた握り方の違い
- ③ フォアハンドストローク
- ④ バックハンドストローク
- ⑤ グランドストローク
- ⑥ ボレー（基本編）
- ⑦ ボレー（実践編）
- ⑧ スマッシュ
- ⑨ サーブ&レシーブ（基本編）
- ⑩ サーブ&レシーブ（実践編）
- ⑪ シングルスゲームのルール
- ⑫ ダブルスゲームのルール
- ⑬ 指導計画の立案
- ⑭ 指導計画の実践
- ⑮ 技能テストとふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テニスの実施・指導を行う上で必要な知識と技術を修得する。さらに、修得した技術を洗練させ、個々に適した返球技術を身につけることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ① 授業への参加レポート 40%
- ② 技能の向上 20%
- ③ 課題レポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する。

【参考文献】

- ・テニス教本:公益社団法人日本プロテニス協会、日本スポーツ企画出版社

■授業外学習

【具体的な内容】

テニスに関する文献研究、および文献購読を事前・事後学習とする。

【必要な時間】

事前・事後学習は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業時は、トレーニングウェアまたはユニフォーム、スポーツシューズを着用すること。テニスラケットやシューズを所有している学生は、持参してもよい。

科目名	野球・ソフトボール
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	平澤 芳明、阿南 浩司、阿井 英二郎

■講義の目的および概要

本講義の目的は、以下の2点である、①コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技能（投、捕、打）を向上させる。②野球・ソフトボールにおける技術の上達のコツを探る中で、その指導方法も併せて学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実技、演習および講義を行う。毎回、振り返りシートを記入し、授業内容の振り返りを行う。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、野球における運動学習法の研究の実績を有する教員、および指導現場での実務経験のある教員が、コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技能を向上させる手法について理解できる講義を実施する。実技を実施する場所は、野球場および第二体育館とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①導入：（ガイダンスおよび野球・ソフトボールに関する導入講義）
- ②グループワーク1：（チーム決定）
- ③グループワーク2：（チーム目標・活動内容・役割分担についてのディスカッション）
- ④グループワーク3：（練習内容・ポジションについてのディスカッション）
- ⑤実技1：ピッチング理論・解説（投球動作の学習）
- ⑥実技2：チーム練習1（屋外と屋内に分かれた展開）
- ⑦実技3：バッティング理論・解説（打撃動作の学習）
- ⑧実技4：チーム練習2（屋外での展開）
- ⑨グループワーク4：（前半の振り返りと後半のゲームに向けた打ち合わせ）
- ⑩グループワーク5：（ゲームの展開方法のディスカッション）
- ⑪ゲーム1：（テーマ：ソフトボール：打つ・投げるの基本技術ができる、チームで協調したプレーができる）
- ⑫ゲーム2：（テーマ：野球の入門編：打つ・投げるの基本技術ができる）
- ⑬ゲーム3：（テーマ：野球の応用編1：状況に応じたプレーができる）
- ⑭ゲーム4：（テーマ：野球の応用編2：チームで協調したプレーができる）
- ⑮グループワーク6：（まとめ：授業の振り返り：レポート作成とプレゼンテーション）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技術（投、捕、打）の理解を深め、実践現場での指導方法を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業内活動レポート	40%
チームレポート	20%
実技・発表	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】
適宜プリントを配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業の範囲について、野球・ソフトボールに関する文献および書籍を通じて調べ学修を行ってください。また、授業後には、学修した内容を復習してください。定期的に、授業後に小レポートを実施しますので、事前学習および事後学習の内容を記入して提出してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

トレーニングウェアまたはユニフォームを着用すること。グラブを所有している学生は持参すること。

状況によってはオンラインでの授業を実施することもある。

科目名	卓球
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	国田 賢治

■講義の目的および概要

本講義の目的は、生涯・競技スポーツとしての卓球を実践する上で必要な知識と技術を生理学、解剖学、力学およびコーチング等の観点からふまえて解説するとともに、実践を通じて習得することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業のはじめに、知識と技術を解説し、その後、卓球の実践を多く行う。個々それぞれに指導する。習得した技術を用いてゲームを多く体験する。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学習を目指す。本講義は、卓球の競技経験と指導の実績を有し、運動生理学を研究する教員が担当する。科学的観点から卓球の運動技能を向上させる手法について理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①伸張反射、弾性エネルギーとラケット動作
- ②上肢（上腕・前腕・手）の構造とラケット操作
- ③ラケット操作法および肩・肘・手首の連関運動の個人差
- ④個々に適した速いスマッシュ法の習得
- ⑤シングルスゲームのルール
- ⑥ダブルスゲームのルール
- ⑦片足立ちの安定性の左右差とフットワーク
- ⑧リズム運動の自動化と他動作挿入によるリズムへの干渉
- ⑨レシーブ時の身構え姿勢と反応動作
- ⑩認知・判断にもとづくレシーブの遂行とフェイント
- ⑪回転あるボールの軌跡・はねかえりとレシーブ
- ⑫ボールの回転を変えるドライブ打法とそれを支える姿勢調節
- ⑬サーブの種類と球への回転の加え方
- ⑭リーグ戦・トーナメント戦の運営
- ⑮技能テストとふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

卓球の実施・指導を行うのに必要な知識と技術を習得する。さらに、個々に適した返球ができること、あるいは返球における洗練した技術を習得することのいずれかを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「スポーツ健康分野の基礎的知識、技能の習得およびそれを基にした専門知識、技能の習得」に基づき、卓球の技能および専門知識の修得を通じて、地域や学校教育に貢献できる指導技法を身につける。学位授与方針「スポーツ健康分野に関する基礎的知識と技能の科学的視点からの理解およびそれを基にした専門知識、技能の修得」および「スポーツ健康分野の課題分析力の修得」に繋がるスポーツ健康分野の現状を認識する。

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①振り返りシート 40%
- ②技能の向上 20%
- ②課題レポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回、授業の最後10分程度を用いて、卓球を実施・指導する上で必要な知識と技術についてのレポート課題を述べる。このため、前回および次回の授業の範囲について、卓球に関する文献および書籍を通じて調べ学習を行うこと。

【必要な時間】

事前および事後学習の目安は、それぞれ2時間とする。

科目名	健康運動論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	栗野 祐弥

■講義の目的および概要

本講義では、運動と健康に関するトピックを幅広く扱い、生涯にわたって自らの健康の維持増進を考えるための基本的な知識を身につけることを目標にする。講義の中では、健康と運動やそれに関連した分野の研究報告なども紹介し、知識のアップデートを図る。必要に応じてグループワーク等も取り入れ、理論を学ぶだけでなく、より実践的な学修を促進する機会を設ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義の前半は、健康と運動に関する科学的な知見を研究報告などを参考に学修する。講義の後半では、学修した知識を生活の場面でどのように取り入れながら実践できるか等について幅広く考える。また、必要に応じて健康運動に関する専門家を招き、より現実に沿った解決策を模索する機会を設ける。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②健康や運動に関する考え方についての近年の動向
- ③健康運動に関する基礎講義①(我が国の健康増進に関する取り組み)
- ④健康運動に関する基礎講義②(加齢と健康)
- ⑤健康運動に関する基礎講義③(ヒトの身体と健康)
- ⑥健康運動に関する基礎講義④(健康の維持増進と運動)
- ⑦健康運動に関する基礎講義⑤(健康の維持増進とレジスタンストレーニング)
- ⑧健康運動に関する基礎講義⑥(健康の維持増進と加圧トレーニング)
- ⑨健康運動に関する発展講義①(特別講義・講師招聘等)
- ⑩健康運動に関する発展講義②(特別講義・講師招聘等)
- ⑪健康運動に関する発展講義③(特別講義・講師招聘等)
- ⑫グループディスカッション①(発表計画)
- ⑬グループディスカッション②(発表資料作成)
- ⑭グループディスカッション③(発表)
- ⑮まとめレポートの作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①健康運動に関する基礎的知識の獲得
- ②健康運動に関する情報収集方法やアプリ・ツールの効果的活用方法の習得
- ③健康運動に関する課題解決に向けたノウハウを身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

課題提出と取り組み状況 (40%)
 グループ発表・課題等 (30%)
 最終レポート (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業内適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前および事後学習として、「専門領域において高度な専門知識」に関する情報収集を推奨する。毎回の授業内で課題解決に関する情報収集に関する課題を課す。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	スキー
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	吉沢 直、田部井 祐介

■講義の目的および概要

本授業では、冬季スポーツの競技特性を理解し、実習にてスキー技術のスキルアップ、安全管理、基本理論等を習得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

集中講義での開催となりますので3日間の実習（宿泊を伴う可能性有）となり、スキー場にて講義、実習を行います。
スキーレベルに応じた講習を基本としますが人数により多少変動する事もあります。
各レベルに応じたインストラクターの配置もあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習中に指導員からアドバイス

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②理論講習 ウィンタースポーツ基礎知識
- ③実技実習 班編成
- ④実技実習 環境とスキーに慣れる
- ⑤実技実習 ポジション確認
- ⑥実技実習 安全な転び方
- ⑦実技実習 ブルークボーゲン
- ⑧実技実習 ブルークターン
- ⑨実技実習 シュテムターン
- ⑩実技実習 パラレルターン
- ⑪実技実習 大回りターン
- ⑫実技実習 小回りターン
- ⑬実技実習 斜面や自然環境の変化
- ⑭実技実習 仮検定
- ⑮実技実習 振り返り（レポート作成）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スキー理論を理解し、個々の目標設定を行い、目標到達に向け安全で楽しいスキー技能と資質を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

目標設定と到達、技能の習得と仮検定、集中講義中の取り組み 70%
 レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

日本スキー教程 公益財団法人全日本スキー連盟（著）

■授業外学習

【具体的な内容】

実習前後は各自でストレッチ等のケアを行ってください。
 冬季間運動不足になりますので、実習前は各自でトレーニングを行なってください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

2023（令和5）年4月1日

- * 講習場所、日程に関しては秋学期に発表します。
- * この集中講義は実習費が発生します。（秋学期発表）
- * 集中講義（宿泊を伴う可能性有）になりますので、履修届と一緒に参加費を徴収します。
- * 履修取り消しがあった場合は参加費のキャンセル料が発生する場合があります。
- * スキー技術習得が目的ですので、各自で用具は用意してください。（レンタルあり）

科目名	スノーボード
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	吉沢 直、田部井 祐介

■講義の目的および概要

本授業では、冬季スポーツの競技特性を理解し、実習にてスノーボード技術のスキルアップ、安全管理、基本理論等を習得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

集中講義での開催となりますので3日間（宿泊を伴う可能性有）での実習となり、札幌近郊のスキー場にて講義、実習を行います。
スノーボードレベルに応じた講習を基本としますが人数により多少変動する事もあります。
各レベルに応じたインストラクターの配置もあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習中に指導員からアドバイス

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②理論講習 ウィンタースポーツ基礎知識
- ③実技実習 班編成
- ④実技実習 環境とスノーボードになれる
- ⑤実技実習 ゲレンデの移動と待機の基本
- ⑥実技実習 安全の確保
- ⑦実技実習 フロントサイドターン
- ⑧実技実習 バックサイドターン
- ⑨実技実習 サイドスリップ
- ⑩実技実習 安全な転び方
- ⑪実技実習 ベンジュラム
- ⑫実技実習 ロングターンとショートターン
- ⑬実技実習 カービングターン
- ⑭実技実習 仮検定
- ⑮実技実習 振り返り（レポート作成）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スノーボード理論を理解し、個々の目標設定を行い、目標到達に向け安全で楽しいスノーボード技能と資質を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
DP 2 コミュニケーション能力
DP 3 課題を発見し、解決する力
DP 5 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

目標設定と到達、技能の習得と仮検定、集中講義中の取り組み 70%
レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

実習前後は各自でストレッチ等のケアを行ってください。
冬季間運動不足になりますので、実習前は各自でトレーニングを行なってください。

【必要な時間】

事前事後各2時間

■その他

- * 講習場所、日程に関しては秋学期に発表します。
- * この集中講義は参加費が発生します。（秋学期発表）
- * 集中講義（宿泊を伴う可能性有）になりますので、履修届と一緒に参加費を徴収します。
- * 履修取り消しがあった場合は参加費のキャンセル料が発生する場合があります。
- * スノーボード技術習得が目的ですので、各自で用具は用意してください。（レンタルあり）

科目名	リーダー演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	新井 貢、横山 克人

■講義の目的および概要

本講義では、リーダーとして柔軟な思考力や対応力を身に付けることを目指します。個人として、地域貢献活動や学内外のイベント等に参加し、異業種交流や多様な価値観を持った集団の中で、考え方やコミュニケーション能力を学びます。また、課題解決（プロジェクト）に向けたグループワークを行い、実践的な活動を通じて、リーダーシップとフォロワーシップの関係性を実践的に学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、演習形式としグループワーク中心に行います。本講義では、グループ毎に活動目標および計画に基づき、準備、実行、振り返り、セットとした能動的な学習を目指します。また、それぞれの活動に応じて、必要であれば個人あるいはグループ単位でのフィールドワークを行い、調査してきた内容や疑問点を発表し、情報共有や意見交換を行います。

なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

本講義は、社会教育主事として行政で実務経験のある教員が社会教育施設と連携して授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行います。

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②リーダー（リーダーシップ）とは？
- ③リーダー養成の実際（社会教育施設より外部講師を予定）
- ④グループワークⅠ（これからの社会で求められるリーダーについて）
- ⑤リーダー研修への参加①（学内外での研修参加実績を授業時数にカウント）
- ⑥リーダー研修への参加②（学内外での研修参加実績を授業時数にカウント）
- ⑦リーダー研修への参加③（学内外での研修参加実績を授業時数にカウント）
- ⑧研修参加報告会
- ⑨リーダーシップとフォロワーシップ
- ⑩リーダーとしてのコミュニケーションスキル
- ⑪グループワークⅡ（事業計画① 学外調査実践を含む）
- ⑫グループワークⅢ（事業計画② 学外調査実践を含む）
- ⑬グループワークⅣ（事業計画③ 学外調査実践を含む）
- ⑭事業計画（調査実践）の発表
- ⑮授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

活動目標に対して、適切な計画、準備ができ、適宜コミュニケーションを取りながら、総意のもと実行に移す力を身に付ける。また、個人あるいはチームでの活動を通じて、リーダーとして先導すること、またはフォロワーとして建設的に支えることが理解できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①リーダーとしての理解度（30%）
- ②グループワーク（30%）
- ③学内外で研修参加実績（30%）
- ④まとめのレポート（10%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

個々のテーマに関連する分野に応じて、参考文献を紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

個人あるいはグループの活動計画により、準備期間や実践時間が異なります。そのため、事前事後学習として、活動に見合った学習時間を確保することが必要になります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

地域貢献活動や学内外のイベント、フィールドワーク等の参加は、授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

また、上記の活動に参加する場合は、参加費が発生する場合があります。その費用は自己負担となるため、予めご了承ください。

科目名	スポーツビジネス論Ⅱ
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	平澤 芳明

■講義の目的および概要

本講義ではスポーツビジネスⅠで学んだスポーツに関するさまざまな仕事や役割、支えることをさらに追及していきます。身の回りにある出来事や事項に興味を持ち、「見て触れて聞いて学ぶ」ことをテーマに授業を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

担当教員はスポーツ新聞で長く現場記者として携わったキャリアを授業の中で提供し、学生とともに1つのことにこだわって展開していきます。外部講師やフィールドワーク、グループワークによる研究の深掘りを履修生に求めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

個人やグループ学習を通して随時行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②スポーツビジネスとは
- ③なぜスポーツビジネスが成り立つのか
- ④札幌ドームのビジネス①（開業から2022年）
- ⑤札幌ドームのビジネス②（2023年以降）
- ⑥日本ハムファイターズのビジネス①（北海道移転に見る変化）
- ⑦日本ハムファイターズのビジネス②（多角化してきた組織図）
- ⑧講義前半振り返り（グループワーク）
- ⑨ラグビーW杯を考える
- ⑩ラグビーW杯フィールドワーク①
- ⑪ラグビーW杯フィールドワーク②
- ⑫障害者スポーツビジネス①（外部講師特別講義）
- ⑬障害者スポーツビジネス②（外部講師特別ディスカッション）
- ⑭グループワーク発表
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツビジネスを幅広く理解し、そのビジネス一つ一つに対しての成り立ちや応用を常に考えられる思考を鍛えます。テーマごとの情報収集や整理することで知識は高まります。すべてに意欲的に取り組んでください。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・ 講義に対する意欲、出席＝30%
- ・ 講義内テスト、レポート＝40%
- ・ フィールドワーク、グループワーク＝30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて随時配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

スポーツを見たり触れたりする機会は多いと思います。また、W杯など国際大会もあります。そこから発信されるものを自分自身の中で受け入れ、講義などの学びにぜひ活かしてください。

【必要な時間】

予習、復習はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

フィールドワークなどで実費がかかることがあります。

科目名	スポーツマーケティング
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	吉沢 直

■講義の目的および概要

本授業では、スポーツマーケティングの基本的な知識や思考方法について、スキー観光の事例を中心に理解を深める。その際、日本に留まらず、ヨーロッパを中心に国際的なスキー観光についても理解を深め、国際的視点に立ち日本の状況を理解する力を養う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は基本的に講義形式にて行うが、必要に応じてグループワークおよびディスカッションなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。本講義は、スキー観光を専門とし研究実績を有する教員が理論と実践の視点からスポーツマーケティングを理解できるよう実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説する。

■授業計画

- ① ガイダンス (みなさんのスキー観光経験)
- ② 日本のスキー観光の発展プロセス I
- ③ 日本のスキー観光の発展プロセス II
- ④ 国際観光時代における日本のスキー観光 I
- ⑤ 国際観光時代における日本のスキー観光 II
- ⑥ 世界のスキー観光の動向
- ⑦ 欧州のスキー観光の発展プロセス
- ⑧ 欧州のスキー観光の現代的課題
- ⑨ リゾートマネジメントの基礎理論
- ⑩ スキー場のマーケティング戦略
- ⑪ 日本のスキー場経営の最新動向 I
- ⑫ 日本のスキー場経営の最新動向 II
- ⑬ 日本のスキー場経営の最新動向 III
- ⑭ 日本のスキー場経営の最新動向の振り返り
- ⑮ テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツマーケティングの基礎知識やスキー観光の日本国内および国際的動向を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①定期試験 (50%) ②授業内課題 (50%) を総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料をオンラインにて配布する。

【参考文献】

- 「スキーリゾートの発展プロセス」 二宮書店
- 「2022 International Report on Snow & Mountain Tourism」 Laurent Van-at

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として授業内で提示される領域について調べておくこと。事後学習として配布資料を振り返ること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

可能な限りペーパーレス授業を目指します。ノートPC持ち込み可です。

科目名	スポーツコマース
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	吉沢 直

■講義の目的および概要

本授業では、スポーツコマース(商業)の基本的知識について、アウトドアスポーツの事例をもとに理解を深める。授業後半では、スポーツ産業で活躍されている方をゲストとして迎え、最新動向について学修する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は基本的に講義形式にて行うが、必要に応じてグループワークおよびディスカッションなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説する。

■授業計画

- ① ガイダンス (みなさんのアウトドア経験)
- ② 北海道のアウトドアアクティビティ
- ③ 日本における登山の発展プロセス
- ④ 登山・アウトドア用品市場の概要
- ⑤ 登山・アウトドア用品メーカーの経営戦略①
- ⑥ 登山・アウトドア用品メーカーの経営戦略②
- ⑦ キャンプの発展プロセス
- ⑧ キャンプ用品メーカーの経営戦略
- ⑨ アドベンチャーツーリズム
- ⑩ バックカントリースキーの発展
- ⑪ アウトドア業界の最新動向Ⅰ
- ⑫ アウトドア業界の最新動向Ⅱ
- ⑬ アウトドア業界の最新動向Ⅲ
- ⑭ アウトドア業界の最新動向の振り返り
- ⑮ テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツコマースを幅広く理解し、それがどのように成立しているかを学ぶ。知識を得るために情報を収集、整理し、テーマに対して意欲的に取り組むことを期待する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①定期試験 (50%) ②授業内課題 (50%) を総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料をオンラインにて配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として授業内で提示される領域について調べておくこと。事後学習として配布資料を振り返ること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

可能な限りペーパーレス授業を目指します。ノートPC持ち込み可です。

科目名	スポーツフィールドワークⅡ
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	田部井 祐介

■講義の目的および概要

本授業は、長期休業中を利用し、海外でのスポーツビジネス関連組織等におけるフィールドワークを体験して、スポーツビジネス現場の理解を深める。スポーツビジネスの観点から、国外における様々な事例について、実践的な場面に触れることで、スポーツビジネスにおける全般的な学習の促進を図る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前授業

シンガポールの歴史・スポーツ文化や社会問題などについて調べる。

学外学修

シンガポールでのフィールドワーク4泊予定

事後授業

研修についての発表

■授業計画

- ①事前説明会
- ②事前授業
- ③～⑭ シンガポールでの学外学修
※担当教員が同行します。
- ⑮ 研修成果報告プレゼンテーション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・インターネットやオンラインリソース、書籍などから現地の情報を収集できる。
- ・シンガポールの歴史・スポーツ文化や社会問題を理解することができる。
- ・現地のスポーツビジネスを理解し、日本のものと比較することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
 DP 2 コミュニケーション能力
 DP 3 課題を発見し、解決する力
 DP 4 多様性の理解と協働する力
 DP 5 能動的に学び続ける力
 DP 6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

事前学習、課題 20%
 事後学習、レポート 20%
 海外研修中の活動への取り組みと達成度 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

渡航前の事前学習により、現地の情報を可能な限り入手すること。
 ・語学力の向上にも努め、現地での活動に備えること。例えば、自己紹介や自分の住む国・地域（日本・北海道・札幌、その他の都道府県など）について、英語で説明できるように準備すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・入国に伴い、シンガポール政府より新型コロナワクチンの接種を要請されています(令和5)年4月1日
- ・接種が済んでいない人は、早急に接種すること。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響でスケジュールが変更になる可能性があります
- ・大学からの通知・連絡を見逃さないよう注意すること。

科目名	応用演習 I [スポビ]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	横山 克人

■講義の目的および概要

本講義では、学びの技法や基礎演習で修得したスキルをさらに深め、応用できる能力を身に付けることを目的とします。少人数で講義を展開し、「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」「フィールドワーク」形式の演習を通じて、社会人基礎力として必要とされるコミュニケーションスキルの修得をめざします。また、テーマ研究や卒業論文の作成に必要な「論文読解」や「アンケート調査」についても学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的な講義方法は、少人数の演習形式で行います。本講義では、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、学生の主体的且つ、能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を引き出すような講義を展開します。

なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①学科合同ガイダンス
- ②ゼミ内ガイダンス（3・4合同）
- ③交流企画（3・4合同）
- ④書籍選定
- ⑤書籍プレゼン
- ⑥論文読解 I
- ⑦論文読解 II
- ⑧論文読解 III
- ⑨ゼミOB/OGを訪ねる（3・4合同）
- ⑩自己分析（3・4合同）
- ⑪アンケート調査（仮説）
- ⑫アンケート調査（質問項目の検討）
- ⑬アンケート調査（作成）
- ⑭ゼミ内発表会（3・4合同）
- ⑮学科合同中間報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

情報を多角的に収集するとともに、資料からの確に情報を読み取ることができるようになる。また、アンケート調査については、目的を理解し、適切な質問項目を設定することができ、計画的に遂行することができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

個人発表（30%）
グループ発表（30%）
論文読解（40%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で、適時紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

論文読解の資料準備、発表会資料の作成については、基本的に授業時間外の事前・事後の学習で行います。授業スケジュールを逆算し、計画的に進めて下さい。秋学期の応用演習Ⅱに向けて、15回分の授業の復習を夏季休暇期間に行ってください。

なお、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

事前学習、事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

突発的にスポーツイベントや講演、プロジェクト等に関わる場合があります。実施日は休日になる可能性が高く、スケジュールの調整が必要になります。

夏季休暇期間中には、応用演習Ⅱについての課題を提示します。

科目名	応用演習 I [スポビ]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

皆さんが人生の大半を過ごす「企業」について徹底的に研究します。特に「組織で活躍している人」の行動分析ではプロスポーツ選手に置き換えて考察し、自身の仕事観、人生観の形成を培ってまいります。そのうえで進路についても多様な価値観を尊重しますが、他ゼミよりも進路にこだわった展開をしていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「演習」ですから学外へ出向くことはありますが、基礎的な知識を身につけていなければ学外へ出て功を奏しません。そのため応用演習 I の前半は基礎的な知識を身につける座学、後半は輪読会を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、毎回、レポートを書いてもらい、振り返りの作業を行います。

■授業計画

- ①ガイダンス（ゼミの方針説明、役割分担決定）
- ②「優秀なアスリートと優秀なビジネスパーソン」について
- ③「成功しているイベント」「売れている商品」「人を楽しませるコンテンツ」について
- ④アイデアをビジネスへ発展させる方法について
- ⑤仲間との協働、リーダーとしての資質について
- ⑥説得力のあるプレゼンテーションについて
- ⑦コミュニケーション能力、調査力、発想力、人を楽しませるコンテンツについて
- ⑧マーケティング能力、広告やプロモーション、流行の仕組み、ビジネスセンスについて
- ⑨～⑬輪読会
- ⑭中間発表会
- ⑮振り返り

※中間報告会の準備は随時行っていきます。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツ業界にとどまらず、どこの業界でも通用する普遍的な能力、知識の習得、すなわち社会人としての基礎的な力を身につけます。特に自ら動く「主体性」と仲間と動く「協調性」を養い、発揮できるようになります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
 DP2 コミュニケーション能力
 DP3 課題を発見し、解決する力
 DP4 多様性の理解と協働する力
 DP5 能動的に学び続ける力
 DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

毎回のレポート（50%）、中間報告会（50%）です。「演習」ですから、ただ出席していればよいという受け身の姿勢では困ります。「読む」「書く」「聴く」「話す」は当然ですが常に考える習慣を持ち、自分から発信することが求められます。

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】

ほぼ毎回、オリジナル資料を配布します。時事問題はもちろん、スポーツ～芸能に至るまでの幅広い資料です。コミュニケーション能力のひとつに雑談力と質問力があります。この力をつけるための知識を増やすのが目的です。資料をもとにしたディスカッションも頻繁に行います。

■授業外学習

【具体的な内容】

人生は日々勉強です。常にアンテナを張り、新聞やニュース、ネットなどの情報は見逃さず、自分なりの見解を持つことが大事です。大学生として世間に疎くならないよう気を付けてください。また、最低限のパソコンスキルは身につけてください。

【必要な時間】

事前・事後の学修時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

少数精鋭のゼミ展開を想定しています。様々な経験を積んでもらいますが、態度の悪い学生、指示待ちで受け身の学生はご遠慮ください。東京などへのフィールドワークや懇親会（会食や釣り&温泉など）もありますので、協調性のない人もご遠慮ください。

科目名	応用演習 I [スポビ]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	平澤 芳明

■講義の目的および概要

本講義では1、2年で学んできた「スポーツビジネス」の基礎を基に新たな題材を設定し掘り下げ、研究能力を身につけることを目的とします。担当教員が長く取材活動をしてきたプロ野球、日本ハムファイターズを中心に研究します。スポーツビジネスの観点から「人物」「役割」に焦点をあて、グループワークやフィールドワークを含めた講義を進めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義はテーマに沿って、スポーツ新聞記者歴33年の教員が講義内で解説をし、そこからグループワークを積極的に行ってもらいます。自らが「記者」の気持ちになって、テーマを掘り下げていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題などに関して講義内で解説していきます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②スポーツ報道、スポーツマスコミとは
- ③スポーツ報道、スポーツマスコミの現状
- ④北海道のプロスポーツを考える
- ⑤日本ハムファイターズを考える①（テーマ設定）
- ⑥日本ハムファイターズを考える②（今後の展開）
- ⑦日本ハムファイターズを考える③（具体的な調査）
- ⑧テーマ（人物や団体）への実践研修①
- ⑨グループワーク
- ⑩人物考①（セカンドキャリア調査）
- ⑪人物考②（柱になる人物の特定）
- ⑫テーマ（人物や団体）の発表まとめ
- ⑬グループワーク（PP作成～発表内容作成）
- ⑭ゼミ内発表リハーサル
- ⑮3年応用演習中間発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツビジネスに関わる専門的な思考力、判断力、協働性および応用力を身につけ、継続的な意欲を持って学ぶ力を修得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・グループ、フィールドワーク50%
- ・レポート25%
- ・理解力、意欲25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テーマ毎、貪欲な好奇心を持って臨んで欲しいと思います
- ・各自でPCなどに事前事後情報などを整理してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	応用演習 I [スポビ]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	栗野 祐弥

■講義の目的および概要

講義の目的および概要 本演習では、1・2年次に修得した学習スキルをさらに発展させること、およびそれらを応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」「グループワーク」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて、研究や卒業論文の作成や発表に必要とされる「文章を読む」、「文章を書く」、「学習内容を要約し、整理する」「学習内容を人に伝える」といった基礎的な力を養う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式で演習を実施する。文献の調査および要約を行い学術的な論文や書籍の内容を理解し、要約できる力を身につける。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身につける。学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科で指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

■授業計画

- ①ゼミ活動についての全体的なガイダンス
- ②卒業論文に向けた情報収集1(研究分野について調査)
- ③卒業論文に向けた情報収集2(関連分野について調査)
- ④関連分野に関する文献調査3(文献の検索方法)
- ⑤関連分野に関する文献調査4(文献の構成と読み方)
- ⑥関連分野に関する文献調査5(文献の要約と理解)
- ⑦関連分野に関する文献調査6(文献の批判的考察)
- ⑧中間報告会資料の作成1(中間報告会発表資料のアウトライン作成)
- ⑨中間報告会資料の作成2(中間報告会発表資料の作成)
- ⑩中間報告会資料の作成3(追加資料の収集)
- ⑪中間報告会資料の作成4(発表練習)
- ⑫中間報告会資料の作成5(発表練習と課題の抽出)
- ⑬中間報告会資料の作成6(資料の見直しと修正)
- ⑭学科合同ゼミ中間報告会(中間報告、質疑応答)
- ⑮春学期のまとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自らの専門分野、あるいは興味・関心のある領域に関する文献や参考資料を読み、内容を理解し、要約する力を身に受ける。
- ②上記学習にて修得した知識を整理し、他人にプレゼンできる力を身につける。
- ③文献検索方法や、関連資料の入手方法など基本的な学習ソースのアクセス方法を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

個人発表(30%)
課題提出状況(40%)
中間発表報告会(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

授業内適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②興味関心のある分野に関連した専門的知識」に関する情報収集を推奨する。授業ごとに前述に関連した課題を課す。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習 I [スポビ]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	吉沢 直

■講義の目的および概要

本講義はスポーツツーリズム領域(特にアウトドアスポーツ)に焦点をあて、1・2年次に学んだことを応用しながら、研究に必要とされる知識や技能を学ぶことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、ゼミナール形式で演習を実施する。その中でフィールドワークを主体とした調査、データ整理、結果の示し方を学ぶ。能動的な学習を促すためにディスカッションを多用し、グループおよび個人への指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に関しては授業内で解説する。

■授業計画

- ①合同ガイダンス
- ②ゼミ内ガイダンス
- ③問題関心の整理・テーマ設定
- ④文献調査の方法1(文献の探し方)
- ⑤文献調査の方法2(文献の読み方)
- ⑥フィールドに行ってみようⅠ(準備)
- ⑦フィールドに行ってみようⅡ(調査)
- ⑧フィールドに行ってみようⅢ(データ分析)
- ⑨データ整理
- ⑩発表の準備(発表内容の計画)
- ⑪発表の準備(パワーポイントの作成)
- ⑫発表の準備(発表練習)
- ⑬ゼミ内発表会
- ⑭学科合同ゼミでの発表
- ⑮振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究に必要な基礎的な知識を習得し、文献を検索、読む、理解することができる。自分で収集した情報をプレゼンテーションできる能力を身につけられるようになる。スポーツ観光の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
 DP 2 コミュニケーション能力
 DP 3 課題を発見し、解決する力
 DP 4 多様性の理解と協働する力
 DP 5 能動的に学び続ける力
 DP 6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

①合同ゼミでの発表(50%)、②各授業への取り組み(50%)を総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

資料を適宜オンラインにて配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として授業内で提示される領域について調べておくこと。

【必要な時間】

事後学習として配布資料を振り返ること。予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

可能な限りペーパーレス授業を目指します。ノートPC持ち込み可です。

科目名	応用演習 I [スポビ]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	田部井 祐介

■講義の目的および概要

本講義はスポーツにおける「情報戦略」領域に焦点をあて、1・2年次で学んだ基礎を基に研究に必要とされる学習スキルを発展、応用できる能力を身につけることを目的とする。加えて、次年度に向けて研究テーマを設定しレポート作成とプレゼンテーション能力を身につけることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、ゼミナール形式で演習を実施する。能動的な学習を促すためにディスカッションを多用し、グループおよび個人への指導を行う。必要に応じてフィールドワークも実施する。また、本科目のほか学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

本講義は、スポーツにおける情報戦略に関する研究実績を有し、競技指導現場での経験がある教員が担当する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に関しては授業内で解説する。

■授業計画

- ①合同ガイダンス
- ②ゼミ内ガイダンス（研究にとりかかる）
- ③テーマ設定1（情報収集）
- ④テーマ設定2（研究目的）
- ⑤文献調査1（文献の探し方）
- ⑥文献調査2（文献の読み方）
- ⑦文献の要約
- ⑧緒言について
- ⑨方法について
- ⑩結果・考察について
- ⑪発表の準備（パワーポイント）
- ⑫発表の準備（発表内容の作成）
- ⑬ゼミ内発表会
- ⑭学科合同ゼミでの発表
- ⑮振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

【到達目標】

- ①研究に必要な基礎的な知識を習得し、文献を検索、読む、要約、発表することができる
- ②研究成果をプレゼンテーションできる能力を身につけられるようになる。
- ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
 DP 2 コミュニケーション能力
 DP 3 課題を発見し、解決する力
 DP 4 多様性の理解と協働する力
 DP 5 能動的に学び続ける力
 DP 6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 合同ゼミでの発表 40%
 講義での態度・発言 40%
 授業内課題 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じてプリントを配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、スポーツにおける「情報戦略」領域の研究分野に関する情報収集を推奨する。また、合同ゼミでの発表準備などは授業時間外に行う場合がある。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	横山 克人

■講義の目的および概要

本講義では、学びの技法や基礎演習で修得したスキルをさらに深め、応用できる能力を身に付けることを目的とします。少人数で講義を展開し、「グループワーク」「ディスカッション」「プレゼンテーション」「フィールドワーク」形式の演習を通じて、社会人基礎力として必要とされるコミュニケーションスキルの修得をめざします。また、テーマ研究や卒業論文の作成に必要な「情報の要約や抜粋」、「数値のデータ化」についても学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的な講義方法は、少人数の演習形式で行います。本講義では、グループワークやディスカッション、フィールドワークを積極的に取り入れ、学生の主体的且つ、能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を引き出すような講義を展開します。

なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ゼミ内ガイダンス（3・4年合同）
- ②交流企画Ⅰ（3・4年合同）
- ③交流企画Ⅱ（3・4年合同）
- ④抄読会Ⅰ
- ⑤抄読会Ⅱ
- ⑥抄読会Ⅲ
- ⑦アンケート調査（結果）
- ⑧アンケート調査（分析）
- ⑨アンケート調査（考察）
- ⑩アンケート調査（視覚化）
- ⑪4年生による社会人講座（3・4年合同）
- ⑫書籍購入
- ⑬書籍紹介
- ⑭ゼミ内発表会（3・4年合同）
- ⑮学科合同報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テーマに関する資料やデータからの確に情報を読み取り、要点をまとめて文章化することができるようになる。また、アンケート調査の目的を理解し、結果から要因を検討・考察することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

抄読会資料（40%）
抄読会発表（40%）
グループ発表（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で、適時紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

抄読会資料の準備は夏季休暇期間中の課題とします。また、スポーツイベントの準備、発表会資料の作成については、基本的に授業時間外の事前学習で行います。授業スケジュールを逆算し、計画的に進めて下さい。4年生のテーマ研究Ⅰに向けて、15回分の授業の復習を春季休暇期間に行ってください。

なお、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

事前学習、事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

突発的にスポーツイベントや講演、プロジェクト等に関わる場合があります。実施日は休日になる可能性が高く、スケジュールの調整が必要になります。

春季休暇期間中には、テーマ研究Ⅰについての課題を提示します。

科目名	応用演習Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

皆さんが人生の大半を過ごす「企業」について徹底的に研究します。特に「組織で活躍している人」の行動分析ではプロスポーツ選手に置き換えて考察し、自身の仕事観、人生観の形成を培ってもらいます。そのうえで進路についても多様な価値観を尊重しますが、他ゼミよりも進路にこだわった展開をしていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

応用演習Ⅰをブラッシュアップさせ、応用演習Ⅱではほとんどの回でフィールドワーク(会社見学会)を行います。夏休みも使い日本全国を横断する予定ですが、行き先や行程、費用の概算など全て君たちに企画してもらいます(協働)。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、毎回、レポートを書いてもらい、振り返りの作業を行います。

■授業計画

- ①ガイダンス(応用演習Ⅰとの違い説明)
- ②アスリートのマナーについて探求
- ③アスリートのマナーについて各自発表
- ④会社見学会に向けてビジネスマナー探求
- ⑤ビジネスマナーについて各自発表
- ⑥会社見学会(不動産)
- ⑦会社見学会(流通・小売り)
- ⑧会社見学会(商社)
- ⑨会社見学会(食品メーカー)
- ⑩会社見学会(IT)
- ⑪会社見学会(教育)
- ⑫会社見学会(住宅)
- ⑬アスリートとビジネスパーソンのマナーについて探求
- ⑭全体発表準備Ⅰ
- ⑮全体発表準備Ⅱ

「全員でひとつのプロジェクトをやり遂げる」ため、授業計画は柔軟に対応していきます。また、全体発表の準備は随時していきます。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

Iの内容にプラスして、関心がある仕事、業界、会社など、「自分の関心」を具体化し、人生設計、理想の将来像について考えることができるようになります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
- DP2 コミュニケーション能力
- DP3 課題を発見し、解決する力
- DP4 多様性の理解と協働する力
- DP5 能動的に学び続ける力
- DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

毎回の課題(50%)、最終報告会(50%)です。「演習」ですから、ただ出席していればいいという受け身の姿勢では困ります。「読む」「書く」「聴く」「話す」は当然ですが常に考える習慣を持ち、自分から発信することが求められます。

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】

ほぼ毎回、オリジナル資料を配布します。時事問題はもちろん、スポーツ～芸能に至るまでの幅広い資料です。コミュニケーション能力のひとつに雑談力と質問力があります。この力をつけるための知識を増やすのが目的です。資料をもとにしたディスカッションも頻繁に行います。

■授業外学習

【具体的な内容】

人生は日々勉強です。常にアンテナを張り、新聞やニュース、ネットなどの情報は見逃さず、自分なりの見解を持つことが大事です。大学生として世間に疎くならないよう気を付けてください。また、最低限のパソコンスキルは身につけてください。

【必要な時間】

事前・事後の学修時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

あらゆる場面で社会人と話す機会が多くなります。しかし、学生は社会人と話すことで、己の未熟さを知り、社会への関心が高まるのです。それを考えると、就職するしないに関わらず、将来の進路選択がどうであれ、人としての常識を身につけることは決して人生のマイナスになりません。そして3年次が終わる頃には劇的な変貌を遂げている君たちがそこにいるはずですよ。

科目名	応用演習Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	平澤 芳明

■講義の目的および概要

本講義では1、2年で学んできた「スポーツビジネス」の基礎を基に題材を設定し、研究能力を身につけることを目的とします。担当教員が担当し、長く取材活動してきたプロ野球、日本ハムファイターズを中心に研究します。スポーツビジネスの観点から「組織」「人物」「役割」に焦点をあて、グループワーク、フィールドワークを含めた研究を進めていきます。同時に4年次での「テーマ研究」に向けた準備作業をこなしていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義はテーマに沿って、スポーツ新聞記者歴33年の教員が講義内で解説をし、そこからグループワークを積極的に行ってもらいます。自らが「記者」の気持ちを持って、テーマを掘り下げていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題などに関して講義内で解説していきます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②テーマ設定の確認～詳細内容及び日程調整
- ③決定テーマに向けての研究①
- ④決定テーマに向けての研究②
- ⑤決定テーマに向けての研究③
- ⑥決定テーマに向けての研究④
- ⑦決定テーマに向けての研究⑤
- ⑧決定テーマに向けての研究⑥
- ⑨決定テーマに向けての研究⑦
- ⑩研究発表に向けての準備① (PP作成)
- ⑪研究発表に向けての準備② (PP完成)
- ⑫研究発表に向けての準備③ (発表内容決定)
- ⑬研究発表に向けての準備④ (最終調整)
- ⑭ゼミ発表に向けてのリハーサル
- ⑮応用演習ゼミ発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツビジネスに関わる専門的な思考力、判断力、協働性および応用力を身につけ、継続的な意欲を持って学ぶ力を得る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・グループ、フィールドワーク50%
- ・レポート25%
- ・理解力、意欲25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・貪欲な好奇心と積極性を持って臨んで欲しいと思います
- ・各自ノートやでPCなどに事前事後情報などを整理してください。

【必要な時間】

事前・事後の学修時間は、それぞれ1時間を目安とします。

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	栗野 祐弥

■講義の目的および概要

本演習では、応用演習Ⅰで修得したスキルをさらに発展させ、より高度な研究およびプレゼンテーションができるようにすることを目的とする。また、「ディスカッション」、「グループワーク」「プレゼンテーション」形式の演習を通じて、研究や卒業論文の作成や発表に必要とされる「文章を読む」、「文章を書く」、「学習内容を要約し、整理する」、「学習内容を人に伝える」といった基礎的な力のブラッシュアップを図る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式での演習を実施する。応用演習Ⅰで修得した文献の調査および要約する力に加え、学術的な論文や書籍の内容に対して批判的思考を持ち、内容について議論できるようにする。また、それらの内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身につけることで、能動的学修を目指す。学術的な領域の研究における実績のある教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

■授業計画

- ①ゼミ活動についての全体的なガイダンス
- ②各自テーマの再検討1(今後の展望)
- ③各自テーマの再検討2(研究分野の調査)
- ④各自テーマの再検討3(関連分野の調査)
- ⑤研究分野の情報収集
- ⑥各自の研究テーマ発表1(プレゼンテーション)
- ⑦各自の研究テーマ発表2(ディスカッション)
- ⑧合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成(1アウトライン作成)
- ⑨合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成2(追加情報の取得)
- ⑩合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成3(プレゼン内容の確認)
- ⑪合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成4(プレゼン内容の修正)
- ⑫合同ゼミプレゼンテーションに向けた資料作成5(プレゼン内容の最終確認)
- ⑬ゼミ内でのプレ発表会1(流れの確認)
- ⑭ゼミ内でのプレ発表会2(前回の課題修正)
- ⑮合同ゼミによるプレゼンテーション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自らの専門分野、あるいは興味・関心のある領域に関する文献や参考資料を読み、内容を理解し、要約する力に加え、さらに深く考えることができるようにする。
- ②上記学習にて修得した知識を整理し、他人に明確なプレゼンテーションができるようにする。
- ③文献検索方法や、関連資料の入手方法など基本的な学修手段を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】
 (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

個人発表(30%)
 課題提出状況(40%)
 年度末発表(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特になし。

【参考文献】
授業内適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】
事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②興味関心のある分野に関連した専門的知識」に関する情報収集を推奨する。授業ごとに前述に関連した課題を課す。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】
上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	吉沢 直

■講義の目的および概要

本講義はスポーツツーリズム領域(特にアウトドアスポーツ)に焦点をあて、応用演習Ⅰにて学んだ知識や技能をさらに高度なものへと発展させることを目的とする。その中で、次年度に向けて研究テーマを設定する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

応用演習Ⅰとの最も大きな違いは学生が個人の興味・関心に基づいて、学生が主体的に学習を進める点にある。本講義は、ゼミナール形式で演習を実施する。その中でフィールドワークを主体とした調査、データ整理、結果の示し方を学ぶ。能動的な学習を促すためにディスカッションを多用し、グループおよび個人への指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に関しては授業内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②研究テーマの検討Ⅰ(研究課題の検討)
- ③研究テーマの検討Ⅱ(先行研究の整理)
- ④研究テーマの検討Ⅲ(フィールドの選定)
- ⑤選定したフィールドに行ってみようⅠ
- ⑥選定したフィールドに行ってみようⅡ
- ⑦調査・分析方法の検討Ⅰ
- ⑧調査・分析方法の検討Ⅱ
- ⑨関連文献の精読とゼミ内発表Ⅰ
- ⑩関連文献の精読とゼミ内発表Ⅱ
- ⑪関連文献の精読とゼミ内発表Ⅲ
- ⑫合同発表会プレゼン作成Ⅰ
- ⑬合同発表会プレゼン作成Ⅱ
- ⑭ゼミ内発表会
- ⑮学科合同ゼミでの発表
- ⑯振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自分の興味関心に基づいて、研究に必要となる基礎的な知識を習得し、文献を検索、読む、理解することができる。自分で収集した情報をプレゼンテーションできる能力を身につけられるようになる。スポーツ観光の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
 DP 2 コミュニケーション能力
 DP 3 課題を発見し、解決する力
 DP 4 多様性の理解と協働する力
 DP 5 能動的に学び続ける力
 DP 6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①合同ゼミでの発表(50%)、②各講義への取り組み(50%)を総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

資料を適宜オンラインにて配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として授業内で提示される領域について調べておくこと。事後学習として配布資料を振り返ること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

可能な限りペーパーレス授業を目指します。ノートPC持ち込み可です。

2023（令和5）年4月1日

科目名	応用演習Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	田部井 祐介

■講義の目的および概要

本講義はスポーツにおける「情報戦略」領域に焦点をあて、1・2年次で学んだ基礎を基に研究に必要とされる学習スキルを発展、応用できる能力を身につけることを目的とする。加えて、次年度に向けて研究テーマを設定しレポート作成とプレゼンテーション能力を身につけることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、ゼミナール形式で演習を実施する。能動的な学習を促すためにディスカッションを多用し、グループおよび個人への指導を行う。必要に応じてフィールドワークも実施する。また、本科目のほか学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

本講義は、スポーツにおける情報戦略に関する研究実績を有し、競技指導現場での経験がある教員が担当する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス（今後の展望）
- ②応用演習Ⅰの振り返り
- ③テーマの再検討
- ④研究分野の情報収集1（現状）
- ⑤研究分野の情報収集2（課題）
- ⑥論文の書き方1（書式）
- ⑦論文の書き方2（図表）
- ⑧論文の書き方3（論理的な文章）
- ⑨統計処理
- ⑩研究テーマ発表
- ⑪発表の準備1
- ⑫発表の準備2
- ⑬ゼミ内発表会
- ⑭学科合同ゼミでの発表
- ⑮振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①研究に必要な基礎的な知識を習得し、文献を検索、読む、要約、発表することができる
- ②研究成果をプレゼンテーションできる能力を身につけられるようになる。
- ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
 DP 2 コミュニケーション能力
 DP 3 課題を発見し、解決する力
 DP 4 多様性の理解と協働する力
 DP 5 能動的に学び続ける力
 DP 6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 合同ゼミでの発表 40%
 講義での態度・発言 40%
 授業内課題 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じてプリントを配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、スポーツにおける「情報戦略」領域の研究分野に関する情報収集を推奨する。また、合同ゼミでの発表準備などは授業時間外に行う場合がある。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

事前・事後の学修時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	レクリエーション実習
開講期・単位	3年 通年・選択 2単位・実習
担当者	本多 理紗

■講義の目的および概要

本講義は、レクリエーション理論と実技で身につけた技能を活かすことが出来るよう体験的に学習し、レクリエーション関係団体等が主催する事業に参加、あるいはスタッフとして協力し、現場で実習することを通して指導者としてふさわしい知識と技能を身につけることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講生自らが企画した事業を実際に展開します。また、レクリエーション関係団体等が主催する事業に参加した時間を授業に振り替え、終了後の報告レポートを果たし単位を認定します。

本講義は、スポーツや福祉領域で子どもから高齢者までのレクリエーションを実施している実務経験のある教員が、現場で活かされる支援者としての技術を修得できる授業を実施します。

本科目ほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- 1、授業のガイダンス
- 2、レクリエーション理論・実技の確認
- 3、指導演習Ⅰ（個人による指導実習）
- 4、指導演習Ⅱ（同上）
- 5、指導演習Ⅲ（同上）
- 6、指導演習Ⅳ（同上）
- 7、指導演習Ⅴ
- 8、指導演習Ⅵ
- 9、指導演習Ⅶ
- 10、指導演習Ⅷ
- 11、指導演習Ⅷ
- 12、指導演習Ⅹ
- 13、自主企画事業の立案
- 14、自主企画事業の決定
- 15、授業のまとめ（課題レポート）
- 16、実習に関するガイダンス
- 17、～29、
 - 下記の事業から選択し最低3事業以上参加することで授業に振替え
 - ・ 札幌国際大学が主催する事業
 - ・ レクリエーション課程認定校学生交流会
 - ・ レクリエーション関係団体が主催する事業
 - ・ 教育関係団体が主催する事業
 - ・ その他事前に認められた事業
- 30、実習の確認（まとめのレポート）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①授業での個別指導を通して身に付けた、レクリエーション・インストラクターとしての技能や資質を、実際に現場で実習することを通して展開することができる。
- ②スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①指導演習の企画、準備、展開（30%）
- ②事業への参加状況（40%）
- ③報告、課題レポート（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』公益財団法人 日本レクリエーション協会（既に2年次購入済み）

【参考文献】
『スポレク活動で健康寿命を延伸』公益財団法人 日本レクリエーション協会
『レクリエーション支援の技術』公益財団法人 日本レクリエーション協会

■授業外学習

【具体的な内容】

日常的に笑顔で挨拶が出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ実践をしてください。
指導演習に向けて各個人での事業計画等の準備が必要となります。対象者や目的にあわせたレクリエーション活動が展開できるよう、今までに学習してきた理論や実技の技法を再確認しておいてください。
科目に関連する学部学科行事を実施した際、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

この科目は、「レクリエーション・インストラクター」「スポーツ・レクリエーション指導者」「ジュニアスポーツ指導員」の資格取得のための必修科目です。
既に「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」の単位を修得していることが必要です。
実習費として500円徴収する場合があります。（カップ大会参加費）

科目名	経営管理論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	吉沢 直

■講義の目的および概要

本授業では、スポーツ観光に関わる現象を主題とし、その経営や管理についての理解を深める。前半では観光学の基礎的知識を学び、後半ではスポーツ観光のマネジメントについて学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義は基本的に講義形式にて行うが、必要に応じてグループワークおよびディスカッションなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。本講義は、観光学を専門とし研究実績を有する教員が観光マネジメントを理論と現場の視点から理解できるよう実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説する。

■授業計画

- ① ガイダンス(みなさんの観光経験)
- ② 観光を学ぶ意味と観光の様々な効果
- ③ 観光のしくみと用語
- ④ 観光資源と観光対象
- ⑤ 観光産業の構成と特徴
- ⑥ 観光ビジネスの多様性Ⅰ
- ⑦ 観光ビジネスの多様性Ⅱ
- ⑧ 観光ビジネスの多様性Ⅲ
- ⑨ 観光政策と情報戦略
- ⑩ インバウンドと異文化理解
- ⑪ スポーツツーリズムの基礎知識
- ⑫ スポーツイベントの仕組み
- ⑬ スポーツツアーの仕組み
- ⑭ スポーツ合宿の仕組み
- ⑮ テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツ観光の経営と管理を幅広く理解し、それがどのように成立しているかを学ぶ。知識を得るために情報を収集、整理し、テーマに対して意欲的に取り組むことを期待する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①定期試験(50%) ②授業内課題(50%)を総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料をオンラインにて配布する。

【参考文献】

「観光学基礎」JTB総合研究所
日本スポーツツーリズム推進機構編「スポーツツーリズムハンドブック」学芸出版社

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として授業内で提示される領域について調べておくこと。事後学習として配布資料を振り返ること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

可能な限りペーパーレス授業を目指します。ノートPC持ち込み可です。

科目名	ベンチャービジネス演習
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	濱田 剛一

■講義の目的および概要

自ら独立して起業する場合はもちろんのこと、企業内において新規事業の企画立案を行う場合にもビジネスプランの策定能力が必要である。本講義では、起業やビジネスプランの策定に関する基礎知識を理解したうえでビジネスプランの策定演習を行い、その応用力を身に付けることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に授業時間の30%を講義形式でケーススタディによる基礎知識を学修します。70%はテーマごとのビジネスプラン策定の「ディスカッション」「グループワーク」の実施により「プレゼンテーション」に結び付け、講義全体を通して能動的な学修を目指します。また毎回授業では書き込み資料を配布し、記入するとともに、講義内容の反復振り返りと演習による確認を行っていきます。本講義は銀行において、中小企業・大企業の融資業務ならびに起業支援に関わった実務経験のある教員がビジネス現場に即した実践的な講義・演習を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

ケーススタディ、課題演習等については授業内で解説するとともに、manabaを活用します。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール等でのフィードバックも行います。

■授業計画

- ① ガイダンス～ベンチャービジネスとは、
- ② ビジネスモデルとビジネスプラン
- ③ 事業主体と資金計画
- ④ 運転資金と設備資金
- ⑤ 資金調達
- ⑥ 収益計画・人員計画
- ⑦ 資金繰り
- ⑧ 中間発表～中間振り返り
- ⑨ 市場分析
- ⑩ 市場競争力
- ⑪ プロモーション
- ⑫ プレゼンテーション資料作成演習(1)
- ⑬ プレゼンテーション資料作成演習(2)
- ⑭ プレゼンテーション資料作成演習(3)
- ⑮ 期末発表～期末振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

事業計画の立案において競争相手を明確にし、そこに対してどのような差別化を図るか、またバックキャスト思考によりその実現性を明確に説明できるようになる。併せて企業の事例研究と演習により、ビジネス感覚に基づく課題認識、課題解決力とプレゼンテーション力の重要性を学修し、それを応用する力を身に付けることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP 2) コミュニケーション能力
- (DP 3) 課題を発見し、解決する力
- (DP 4) 多様性の理解と協働する力
- (DP 5) 能動的に学び続ける力
- (DP 6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内提出物	30%
中間発表	30%
期末発表	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しません。資料を適宜配布します。

【参考文献】

「ベンチャー企業」松田修一(著)日本経済新聞出版社
「中小企業・ベンチャー企業論」植田浩史・桑原武志・本田哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治(著)有斐閣コンパクト

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の演習内容についてキーワードを提示しますので、意味などを調べると共に演習の準備をしてください。毎回授業の冒頭に前回の授業内容を復習し、問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の授業内容を振り返り、重要事項と演習内容をノートに整理してください。併せて発表資料などは役割分担の中で責任をもって作成する必要があります。

また、ニュース・新聞などで最近の社会や企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。

【必要な時間】

予習復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。

科目名	スポーツ心理学[スポビ]
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	田部井 祐介

■講義の目的および概要

本講義は、競技パフォーマンス発揮における心理的影響についての専門的知識およびスポーツ場面への介入となるメンタルトレーニングについて理解し、実践への応用方法を修得することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は基本的に講義形式にて行うが、必要に応じてグループワークおよびディスカッションなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。
本講義は、スポーツ心理学を専門とし、研究実績を有する教員がスポーツ心理学とは何かを理論とスポーツ現場の視点から理解できるよう実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②スポーツ心理学とは
- ③目標設定
- ④運動の学習と指導
- ⑤集中力と動機づけ
- ⑥確認テストⅠ
- ⑦スポーツの社会心理
- ⑧運動の心理的効果
- ⑨競技心理
- ⑩確認テストⅡ
- ⑪メンタルトレーニング基礎
- ⑫メンタルトレーニング応用
- ⑬スポーツ臨床
- ⑭スポーツ心理学の実践
- ⑮振り返りと最終テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①スポーツ心理学の基礎的知識を理解することができる。
- ②スポーツ場面での活用に向けて、メンタルトレーニング等の知識を活用することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
DP 3 課題を発見し、解決する力
DP 5 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 授業内課題 30%
レポート 30%
授業内テスト 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

「よくわかるスポーツ心理学」, 中込四郎・山本裕二・伊藤豊彦 ミネルヴァ書房

■授業外学習

【具体的な内容】

事後学習として配布資料を振り返り、事前学習として授業内で提示される領域について調べておくこと。

【必要な時間】

事前と事後それぞれ2時間を目安とする。

科目名	ハンドボール
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	横山 克人

■講義の目的および概要

本講義は、ゴール型集団球技であるハンドボール競技を専門的に学びます。ハンドボール競技の個人技術（パス、キャッチ、シュート、フェイント）、グループ戦術（状況判断、攻防）、チーム戦術（組織的な攻撃・防御）を段階的に学び、技術や戦術の修得を目指します。また、単に技術の修得だけでなく、ハンドボール競技の歴史的背景や競技規則についても理解を深めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、実技形式で行います。必要に応じて、映像やプリントを活用した講義形式での学習も行います。

本講義は、日本スポーツ協会公認ハンドボールコーチ3の資格を有する教員が行います。実技形式の授業では、ハンドボールの競技特性、競技規則を解説するとともに、具体的なプレーを模範し、課題に則した段階的な授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時間、manabaやResponで質問・意見・感想を書いてもらいます。質問に関しては、翌時間の冒頭に回答します。また、回答と併せて、前時の復習を行います。さらに、毎授業では、技術・戦術の課題を提示し、板書と実技を交えて解説をします。

■授業計画

- ①ガイダンス（歴史、競技規則の概要）
- ②個人技術の基礎（パス、キャッチ、シュート、フェイント）
- ③個人技術の発展（動きながらのプレー）
- ④個人技術の応用（状況に応じたプレー）
- ⑤グループ戦術の基礎（スペース・ボール・相手・味方）
- ⑥グループ戦術の発展（攻撃・守備の目的）
- ⑦グループ戦術の応用（状況判断を伴うプレー）
- ⑧チーム戦術の基礎（ゴール型球技の4局面）
- ⑨チーム戦術の発展（組織的な防御・攻撃）
- ⑩チーム戦術の応用（ゲーム展開を考える）
- ⑪ゲーム
- ⑫ゲーム
- ⑬筆記テスト
- ⑭実技テスト
- ⑮ゲーム

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ハンドボール競技における個人技術（パス、キャッチ、シュート）を身に付け、それらの動きのポイントについて説明できる。また、ゲームを通じてハンドボール競技の戦術を理解し、競技規則について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- 取り組み意欲・態度（20%）
- レポート課題（20%）
- 実技テスト（30%）
- 筆記テスト（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- 「ハンドボール指導教本」財団法人日本ハンドボール協会 大修館書店
- 「ハンドボールの基本と戦術」酒巻清治 実業之日本社
- 「確実に上達するハンドボール」酒巻清治 実業之日本社

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では、インターネット等でハンドボールの試合映像を見て、競技規則の理解やプレーのイメージ作りをし、ハンドボールに関する知識を深めて下さい。

なお、本講義では、激しい運動が伴うため、日頃から体を動かす時間を作り、体力づくりを行うことを意識して下さい。また、傷害予防のために、授業の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。

【必要な時間】

日常的且つ、継続的な学習活動を心がけ、1日40分（6日で4時間）を目安とします。

■その他

ハンドボールは非常に危険なスポーツであるため、必ず担当教員の指示に従って下さい。また、安全面を考慮し、装飾品の一切を外して下さい。

受講希望者が多い場合は、履修人数に制限をかけることがありますので、ご了承ください。

科目名	サッカー
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	田部井 祐介

■講義の目的および概要

本講義では、サッカーの「止める」、「蹴る」、「運ぶ」といった技術と戦術の基本を理解し、それらをゲームのどのような場面で使用するのが効果的なかを学ぶ。また、サッカーの歴史、文化的背景やサッカーの競技特性を理解し、サッカーを理論と実践で学ぶことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、実技と講義形式で行い、実技ではサッカーの基礎的技術、講義では専門的知識を得ることを目指す。

本講義は、サッカー協会公認の指導者ライセンスを有する教員が競技特性および競技規則を解説し、段階的な技術・戦術指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②サッカーの歴史・ルールの理解（講義）
- ③ボールに慣れよう
- ④ゲームをしよう・技能テスト
- ⑤パスをしよう（ボールコントロール）
- ⑥パスをしよう（多数ゴールゲーム）
- ⑦サッカーのコーチングⅠ（講義）
- ⑧シュートをしよう（ストップボール）
- ⑨シュートをしよう（シュートゲーム）
- ⑩ボールを運ぼう（ボールキープ）
- ⑪ボールを運ぼう（ラインゴールゲーム）
- ⑫サッカーのコーチングⅡ（講義）
- ⑬ゲームをしよう（ハーフコート）
- ⑭ゲームをしよう（フルコート）
- ⑮技能テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①チームワークを高め、仲間とともに課題や目標に挑戦できる。
- ②運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深めることができる。
- ③サッカーの競技特性を理解し、基礎技術を実践できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

技能テスト 40%
 レポート 30%
 授業内課題 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

「理論と実践で学ぶサッカーコーチング」中山雅雄編著 大修館書店

■授業外学習

【具体的な内容】

サッカーについての基礎知識、ルール等を理解しておく。
 怪我の予防において、基礎運動を継続しておく。

【必要な時間】

事前と事後それぞれ2時間を目安とする。

■その他

スポーツに適した服装、屋内シューズ（フットサルシューズが好ましい）と屋外シューズ（トレーニングシューズ・スパイクが好ましい）を用意すること。
4月中および荒天時には体育館で実施することがあります。

科目名	バレーボール [スポビ]
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	石川 みゆき

■講義の目的および概要

本講義ではバレーボールの基本技術や戦術、ルールを身につけ、チームで協力しながらラリーの続くゲームが楽しめるようになることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ルールや技術ポイント等の説明を交えながら、技術練習やゲームなどチームごとの活動を主体にバレーボールの実技を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で課題を共有、意見交換や解説を交えながら解決を図ります。

■授業計画

- 基本編①ガイダンス、身体慣らしとパスの基本
 ②バレーボールの来歴と特性、基本的なトレーニングとパス
 ③パスに関するルールと技術ポイント、ボールをつなぐためのパス練習
 ④実技テスト1 (基本編)、ラリーゲーム
 応用編⑤サーブとレセプションに関するルールと技術ポイント
 ⑥攻撃と守備に関するルールとフォーメーション、スパイク練習
 ⑦レセプションから攻撃の組み立て練習
 ⑧スパイクとブロック、ディグから攻撃の組み立て練習
 ⑨実技テスト2 (応用編)、ラリーゲーム
 ⑩練習ゲーム1…チャンスボールから三段攻撃へ
 ⑪練習ゲーム2…レセプションから三段攻撃へ
 ⑫実技テスト3 (応用編)
 ⑬審判法、ゲーム
 ⑭ゲーム
 ⑮ゲーム、まとめ、レポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①バレーボールのルールや技術の基本を身につけ、ゲームの運営ができる。
- ②戦術を理解し、協力しあって技術の向上を目指すことができる。
- ③チームプレーに必要な自律した行動やリーダーシップが取れる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- | | |
|--------------|-----|
| ①積極性、マナー、提出物 | 40% |
| ②実技テスト | 30% |
| ③レポート | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布します。

【参考文献】

コーチング バレーボール(日本バレーボール協会 大修館書店)

■授業外学習

【具体的な内容】
ルール等の基本的な知識を得ておくとの取り組みやすいと思います。

【必要な時間】

■その他

バレーボール上達のポイントは基本技術の習得です。実技テストで習熟度を見極めたうえで応用編に進みますので、基本編は必ず出席すること。また初回から実技ができるよう、ジャージ・シューズを準備して来てください。

科目名	バスケットボール
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	後藤 ゆり、(未定)

■講義の目的および概要

バスケットボールの歴史、ルール、競技特性を理解し、個人技術やチーム戦術を身につける。また、地域や学校で対象者の特性に応じた指導ができるよう、指導法、指導計画の立案・実践、審判法について学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

体育館での学習・実技を中心に展開する。本講義は、バスケットボール指導の実務経験のある教員が担当し、授業の前半で知識と技術を解説し、その後、バスケットボールの諸技術について実践を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で適宜解説を行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②バスケットボールについて（歴史、ルール、特性について）
- ③シュートとリバウンド技術
- ④パス技術
- ⑤ドリブル技術
- ⑥ディフェンス技術(フットワークとボディコントロール)
- ⑦個人および集団戦術1（1対1を中心に）
- ⑧個人および集団戦術2（2対2を中心に）
- ⑨個人および集団戦術3（3対2を中心に）
- ⑩リーグ戦を通してのチーム戦術の考案1（トランジションプレー）
- ⑪リーグ戦を通してのチーム戦術の考案2（スクリーンプレー）
- ⑫リーグ戦を通してのチーム戦術の考案3（ディレイオフェンス）
- ⑬リーグ戦を通してのオフィシャルの練習（審判方法含む）
- ⑭実技テスト、ゲーム（審判方法含む）
- ⑮指導計画の立案・実践

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①バスケットボールの歴史、ルール、競技特性を説明できる。
- ②バスケットボールの基本的な技術や戦術を実践できる。
- ③バスケットボール指導を対象者の特性を考慮して計画し、作成した指導計画書により実践できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- | | |
|---------------|-----|
| ①技術練習の進行度、達成度 | 30% |
| ②実技テスト | 40% |
| ③レポート（指導計画含む） | 30% |

■テキスト・参考文献

【参考文献】

- ・保健体育科学習指導要領
- ・その他適宜資料を配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

- 事前学習：動画などから、バスケットボールの興味のあるプレーや練習方法などについて情報を得ておくこと。
 事後学習：講義内容についての小レポートや小テストへ準備学習が必要である。

【必要な時間】

事前および事後学習では、2時間程度の時間を要する。

■その他

実技科目であるので、身体を動かせるように体調管理や服装などの準備をしておくこと。なお、教員免許の取得を目指している学生は、保健体育科の学習指導要領を熟読のこと。
 本科目は、保健体育科教員免許（教科に関する科目）の対象科目である。

科目名	生涯スポーツ演習
開講期・単位	3年 通年・選択 2単位・演習
担当者	佐久間 章、新井 貢

■講義の目的および概要

生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる生涯スポーツについて理解するとともに、学内外で開催されるスポーツに関わるイベントなどにボランティアスタッフとして参加し体験的に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室での講義、グループワークを踏まえ、実習体験として学内外で開催されるスポーツイベントにボランティア参加する。

本科目のほか、学部ボランティアするフィールドワーク等実践的場に参加することがある。

社会教育主事として生涯スポーツの推進に関わった実績を踏まえ、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を習得する

【課題に対するフィードバックの方】

必要に応じて課題、質問を果たし、授業内で解説する。また、授業後も時間を割いて、個別に対応する。

■授業計画

1. ガイダンス
2. 生涯スポーツの位置づけ
3. 生涯スポーツの現状と課題
4. ライフスタイルとスポーツ
5. グループワークⅠ「スポーツ実施率の向上戦略」
6. グループワークⅡ「スポーツを通じた地域の活性化」
7. グループワークⅢ「スポーツイベントの企画」
8. ボランティア実習の参加について
- 9～14 スポーツボランティア実習 2回（6時間分）を振替
15. 春学期の授業のまとめ、課題レポート
16. 秋学期ガイダンス
17. ボランティア実習中華発表
18. 実習参加について（中間確認）
- 19～28 スポーツボランティア実習3回（9時間分）を振替
29. 簿案ティア実習最終発表（実習最終確認）
30. 授業のまとめ、レポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①生涯スポーツの重要性を理解し、事業を企画立案することができる。
- ②自ら身に付けた知識、技能を実践的に展開することができる。
- ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①グループワークでの発表、提出物 30%
- ②実習への参加状況（主催団体からの報告を含む） 40%
- ③提出課題、レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、スポーツに関わる新聞、ニュース、テレビ報道などを積極的に観て、幅広い知識と現状を理解する。
事後学習として、授業で身につけた知識、教養を、スポーツに関する事業やイベントにボランティア参加することで実践する。
科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

事前事後学習として、2時間を目安とする。

■その他

この科目は「実践キャリア実務士」の選択科目である。
事業参加に伴う交通費等については自己負担を原則とし、主催団体の指示に従うこと
。

科目名	スポーツビジネス論
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	平澤 芳明

■講義の目的および概要

本講義ではスポーツビジネスをさまざまな角度から検証し、根差している専門分野の基本的な理解を得ることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義はスポーツ新聞記者歴33年の教員が担当します。「日本ハムファイターズ」が北海道移転を表明した2002年から道内のメディアとしては初の球団番記者、さらに高校野球や一般スポーツ、ウィンタースポーツなどの取材経験を生かした内容を学びに紐づけ、研究テーマとして掘り下げていきます。スポーツビジネスⅡにつなげる講義やフィールドワークを展開していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

個人やグループによる研究を通して、随時行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②スポーツビジネスあれこれ
- ③日本ハムファイターズ球団の組織を考える
- ④日本ハム球団職員の仕事～働く歴史を考える
- ⑤プロ野球、アスリートにおけるセカンドキャリア、デュアルキャリア
- ⑥NPBドラフト会議、スカウトの仕事
- ⑦札幌ドーム考察～FWIに向けたグループワーク
- ⑧札幌ドームフィールドワーク
- ⑨札幌ドームのビジネスを考える
- ⑩現役大学生CEO/バレーボール・サフィルヴァ三木社長特別講義
- ⑪三木氏の講義を受けグループワーク①（まとめ）
- ⑫三木氏の講義を受けグループワーク②（発表）
- ⑬スポーツメーカーを考える
- ⑭日本ハムファイターズ屋内練習場フィールドワーク
- ⑮スポーツビジネス論まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツビジネスを幅広く理解し、どんなビジネスがあり、そのように成り立っているかを学びます。知識を得るために情報を収集、整理し、テーマに対して意欲を持って取り組むことを望みます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・講義に対する意欲、出席＝30%
- ・講義内テスト&レポート＝40%
- ・フィールドワーク、グループワーク＝30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて随時配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

プロ、アマを問わずスポーツを見る機会が多いと思います。生観戦やテレビ放映などを通して感じたものを自らストックし、情報を得てください。講義などに活かせる題材などがあると感じます。

【必要な時間】

予習・復習はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

フィールドワークなど実費がかかることがあります。

科目名	流通論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	吉沢 直

■講義の目的および概要

本授業では、スポーツ商業(特に流通)の基本的知識について、アウトドアスポーツの事例をもとに理解を深める。授業後半では、スポーツ産業で活躍されている方をゲストとして迎え、最新動向について学修する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は基本的に講義形式にて行うが、必要に応じてグループワークおよびディスカッションなどを取り入れ、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、講義内で解説する。

■授業計画

- ① ガイダンス (みなさんのアウトドア経験)
- ② 北海道のアウトドア・アクティビティ
- ③ 日本における登山の発展プロセス
- ④ 登山・アウトドア用品市場の概要
- ⑤ 登山・アウトドア用品メーカーの経営戦略①
- ⑥ 登山・アウトドア用品メーカーの経営戦略②
- ⑦ キャンプの発展プロセス
- ⑧ キャンプ用品メーカーの経営戦略
- ⑨ アドベンチャーツーリズム
- ⑩ バックカントリースキーの発展
- ⑪ アウトドア業界の最新動向Ⅰ
- ⑫ アウトドア業界の最新動向Ⅱ
- ⑬ アウトドア業界の最新動向Ⅲ
- ⑭ アウトドア業界の最新動向の振り返り
- ⑮ テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツ商業を幅広く理解し、それがどのように成立しているかを学ぶ。知識を得るために情報を収集、整理し、テーマに対して意欲的に取り組むことを期待する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①定期試験 (50%) ②授業内課題 (50%) を総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料をオンラインにて配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として授業内で提示される領域について調べておくこと。事後学習として配布資料を振り返ること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

可能な限りペーパーレス授業を目指します。ノートPC持ち込み可です。

科目名	プロスポーツ経営論
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	平澤 芳明

■講義の目的および概要

本講義は2004年に北海道に移転を果たした「日本ハムファイターズ」の経営と組織づくりをはじめ、80年以上の歴史を誇る「プロ野球」への理解を深め、その中に血脈として受け継がれてきたスポーツビジネスを学びます。また今季から開業する北広島ボールパークを考察し、その中で生み出されるビジネスを研究します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は33年間、スポーツ新聞記者として歩んできた教員が実際に現場で見聞き、感じてきた「プロスポーツ」をさらに掘り下げ、いかに「経営」に結びつけているのかを探ります。講義内で特別講師を招き、その内容に好奇心や興味を見出し、個人またはグループワークによる学びを追求する。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループワークでの実践あり。その都度、助言などをしていきます。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②プロスポーツとは
- ③北海道におけるプロスポーツ
- ④ファイターズの移転における北海道の変化
- ⑤ファイターズの移転を考える（東京→札幌→北広島）
- ⑥札幌ドーム考察と球場ビジネス
- ⑦前半講義まとめ（グループワーク）
- ⑧選手育成とスカウティング①（チーム強化、GM制導入などに見る強化）
- ⑨選手育成とスカウティング②（ドラフトから一流選手育成へ、スカウトの仕事）
- ⑩新ボールパーク（BP）を探る
- ⑪北広島BPを考える①（外部講師講座）
- ⑫北広島BPを考える②（グループワーク）
- ⑬北広島BPを考える③（グループワーク発表）
- ⑭授業内総括テスト
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

「プロ野球」におけるスポーツビジネスを理解する。また地域などに及ぼす影響を掘り下げ、プロの球団やクラブが根付く意義を明確にしていく。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・講義においての意欲、出席率=30%
- ・フィールドワーク、グループワーク=30%
- ・講義内テストおよびレポート=40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて資料などを配布

■授業外学習

【具体的な内容】

ファイターズやプロ野球の情報、歴史を各自で収集。さらに新ボールパークに関する情報や考えなどをまとめておいてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ各1時間を目安とします。

■その他

科目名	ヘルスプロモーション演習
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	赤川 智保

■講義の目的および概要

本講義では、今の時代に沿ったヘルスプロモーションの定義や概念のもと、健康の重要性について理解を深め、健康増進と向上のため、自己の身体の課題を踏まえた上でコントロールする方法や工夫する力を育みます。それぞれの立場やジェネレーションに沿った健康を増進のための多様な運動について理論と方法を学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

運動生理学に基づいたダンスサイドのトレーニングを基本に実践します。日頃の日常生活や、専門のスポーツで偏りや歪んだ身体を自覚し、自らの身体の課題へ向け、改善のためにアライメントの調整を行い、改善していく身体を自覚します。また、グループワークによる発表を行い、他者と関わりながらコミュニケーション能力を高め心と体の運動を知覚し、健康への理解を深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で学習に関する振り返りシートに記入します。口頭による質疑応答でのフィードバックを行います。

■授業計画

- ① ガイダンス ヘルスプロモーションについて
- ② 基本のストレッチ（ケガをしない身体づくりと呼吸法）の説明
- ③ エクササイズⅠ（モダンダンス・ヨガ・ピラティス他）
- ④ エクササイズⅡ（歩くからステップへのバリエーション）
- ⑤ エクササイズⅢ（日常の動きのバリエーション）
- ⑥ エクササイズⅣ（課題曲を踊る）
- ⑦ ダンス・セラピーⅠ（様々なゲーム）
- ⑧ ダンス・セラピーⅡ（椅子を使って）
- ⑨ ダンス・セラピーⅢ（手具を使って）
- ⑩ グループワークⅠ（説明・グループ分け）
- ⑪ グループワークⅡ（リハーサル）
- ⑫ グループワークⅢ（リハーサル）
- ⑬ グループワークⅣ（リハーサル）
- ⑭ 発表
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 健康であることの重要性を理解し、生活習慣の改善に努める
- ② 運動と健康との関連性を理解し、積極的に身体を動かす習慣を持ち、スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ① 発表 40%
- ② 提出物 30%
- ③ まとめのレポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありません。

【参考文献】

必要に応じて資料を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

習得したトレーニング方法を日常生活の中で振り返って実行してください。日々の生活の中で新聞やニュースなどで目にした健康づくりの情報の収集を行ってください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

マスク（不織布）着用。運動に相応しい服装（ジャージなど）で上履きのシューズ、タオル、筆記用具、飲料水を用意し、髪が長い場合は結んでください。裸足で行う場合があるので裸足になる準備をして臨んでください。運動に相応しくない服装の場合は見学になることがあります。

科目名	フィットネス演習
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	横山 克人

■講義の目的および概要

本講義は、フィットネスクラブ・マネジメント技能検定3級の資格取得をめざします。

本講義では、フィットネス市場の基本となる総合業態に関する基礎的な知識の獲得と実技を通じて健康づくりとトレーニングの実践方法を学修していきます。また、フィットネスクラブの設備、運営、実務業務、顧客対応など、マネジメントに関する知識の獲得を目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義では、講義形式と実技形式で行います。

講義形式では、フィットネス産業の概要やクラブを運営するための運営業務、フロント実務、顧客対応などの知識の獲得をめざします。

実技形式では、講義形式で獲得した知識を基に、カーディオ機器やトレーニング器具の使い方、運営業務、フロント実務など、実践的な学びをめざします。

本講義は、フィットネスクラブマネジメント技能士3級の資格を有する教員が専門テキストを用いて、授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎講義の振り返りとして、授業内容に沿った過去問を出題し、授業の理解度を図ります。また、manabaやResponを活用し、質問・意見・感想を書いてもらいます。質問に関しては、翌時間の冒頭に回答します。また、回答と併せて、前時の復習を行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②フィットネス産業概論
- ③健康づくり
- ④運動、トレーニングの基礎
- ⑤トレーニング器具の使い方（実技）
- ⑥運営業務
- ⑦フロント実務
- ⑧顧客対応、コミュニケーション
- ⑨運営業務、フロント実務、顧客対応の実践（実技）
- ⑩施設・設備の安全確保
- ⑪安全衛生
- ⑫資格試験対策Ⅰ
- ⑬資格試験対策Ⅱ
- ⑭資格試験対策Ⅲ
- ⑮まとめ（筆記テスト）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

フィットネス産業の概要とフィットネスクラブの運営に必要な基礎的な知識を身に付ける。また、実技を通して、トレーニング器具の正しい使い方を理解し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- 筆記テスト (50%)
- 授業内課題 (30%)
- 振り返りシート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『フィットネスクラブマネジメント公式テキスト基礎 ベーシック』一般社団法人日本フィットネス産業協会 定価：3,500円＋税
(履修者には、必ずテキストの購入をしていただきます。)

【参考文献】

適宜プリントを配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では、次回の授業範囲について、テキストを一読してきて下さい。授業の内容がスムーズに理解できます。

事後学習では、資格試験に向けて、授業内容の復習をして下さい。また、資格試験前には、過去問を配布します。

【必要な時間】

事前学習に1時間、事後学習に3時間を目安とします。

■その他

履修者は、フィットネスクラブ・マネジメント技能検定3級の試験を受験することが必須条件となります。そのため、受験料の一部を自己負担することになりますので、ご承知おき下さい。

履修希望者は、必ず初回の授業に出席してください。初回の授業参加者のみ履修登録を認めます。何らかの事情で初回の授業を欠席する場合は、必ず事前に科目担当者に連絡してください。

科目名	健康産業論
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	赤川 智保

■講義の目的および概要

超少子・高齢化が進む中で、健康維持・増進には大きな関心が寄せられています。健康寿命の延伸のため、高齢者を対象とする健康産業の領域は多様な業種へ広がりをみせています。自分の身近に見えてくる健康に関する産業を調査し、新型コロナウイルス感染拡大防止で浮き彫りとなった健康産業の変遷や、今後の課題を踏まえてあらたな産業のあり方について考察してゆきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、必要に応じてテーマを設定し調査のためのフィールドワークでの活動やグループワークでの発表など、能動的な学修を目指します。外部講師による講話を通して健康産業に関する理解を深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、振り返りシートで理解度を確認し助言します。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 健康について（基本的な考え方 健康の概念、年代や立場による相違）
- ③ 行政の取り組み（健康に関するわが国の政策と北海道の現状）
- ④ 外部講師による講話 「健康の考え方」
- ⑤ 講話の振り返り グループワーク 意見交換
- ⑥ 多様化する健康ビジネス（サプリメント・健康食品・健康維持商品）
- ⑦ フィールドワークⅠ（調査）
- ⑧ 多様化する健康ビジネス（健康機器・衣料品・コスメ・健康関連商品）
- ⑨ フィールドワークⅡ（調査）
- ⑩ 多様化する健康ビジネス（フィットネス・ジム・各教室・リハビリ 他）
- ⑪ グループワークⅠ テーマ設定
- ⑫ グループワークⅡ 調査
- ⑬ グループワークⅢ 発表準備
- ⑭ グループワークⅣ 発表
- ⑮ まとめ（課題レポート）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 健康産業の現状と課題を理解する
- ② 健康産業に関心を持ち、積極的に関わる姿勢を身につける
- ③ 今後の健康産業の行方を予想し対応できるようになる
スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- | | |
|-----------|-----|
| ① 発表 | 40% |
| ② 提出物 | 30% |
| ③ まとめレポート | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特にありません。

【参考文献】
必要に応じて配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】
常日頃からニュースや新聞などで最近の社会や企業の動き、健康・スポーツ産業に関する情報に目を向け入手し、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】
予習予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

健康食品の調査やグループワーク時に実費がかかる場合があります。

科目名	スポーツ・健康ビジネス特講
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	赤川 智保

■講義の目的および概要

本講義ではスポーツビジネス業界の第一線で活躍している方々を講師に迎えて講話を伺います。スポーツビジネス関連のそれぞれの立場から会社の理念、仕事や活動内容などを具体的に伺ったり、実際に演習を体験しながら現場の知識を深めます。また、グループワークではスポーツや健康関連の産業を起業することをテーマに立案し実践へ向けて具体的に討議し発表します。今後、益々多様化するであろうスポーツや健康関連のビジネスの領域や可能性を学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

集中講義形式で行います。グループワークやディスカッションなどを取り入れ、能動的な学修を目指します。外部講師による特別講話を聴講します。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義の後に振り返りシートに記入し提出してもらいます。課題については授業内で解説し理解を深めているか質疑応答を通して助言を行いレポートを提出してもらいます。

■授業計画

- ① ガイダンス (日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格について)
- ② 多様化するスポーツビジネスⅠ
- ③ 多様化するスポーツビジネスⅡ
- ⑤ 外部講師による講話 (サッカーコーチ・(株)リーフラス 予定)
- ⑥ 外部講師による講話 (セミプロスポーツGM エスポラダ北海道 予定)
- ⑦ 外部講師による講話 (スポーツトレーナー・チームマネージメント 予定)
- ⑧ 外部講師による講話 (健康関連 鍼灸師・薬剤師 治療院経営 予定)
- ⑨ グループワークⅠ スポーツ・健康関連産業の運営
- ⑩ グループワークⅡ 調査
- ⑪ グループワークⅣ 調査
- ⑫ グループワークⅣ 調査のまとめ
- ⑬ グループワークⅤ 資料作成・発表準備
- ⑭ グループワークⅥ 発表
- ⑮ まとめのレポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 地域スポーツの振興の意義や課題を理解する力を養う
- ② スポーツビジネスや健康産業が社会に及ぼす影響や可能性を説明できるようになる
- ③ スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|------------|-----|
| ① 発表 | 40% |
| ② まとめのレポート | 40% |
| ③ 提出物 | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】
適宜プリントを配布します。

【参考文献】
その都度適切な文献を紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
常日頃からニュース、新聞、近隣の関連施設など健康・スポーツビジネスに関する情報に目を向け入手するように心がける。

【必要な時間】
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

外部講師による特別講話は、講師の都合により日程が前後する場合があります。日本スポーツ公認スポーツ指導者の資格に関わる科目です。

科目名	スポーツマネジメント論
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	平澤 芳明

■講義の目的および概要

本講義はプロ・アマを問わず、その競技や団体を支えるマネジメントについての理解を深めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義はスポーツ新聞記者歴33年の教員が担当します。「日本ハムファイターズ」が北海道移転を表明した2002年から番記者、さらに高校野球や一般スポーツ、ウィンタースポーツなどの取材経験を生かした内容で研究テーマを掘り下げていきます。グループワークなどディスカッション形式を盛り込み、意欲ある発言や考えを求めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて講義内などでフィードバックします。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②スポーツマネジメントとは
- ③北海道のスポーツマネジメントを考える
- ④プロとアマのマネジメントの違い
- ⑤SIU学生と本学ならではのマネジメントを考える
- ⑥ある大学野球部の組織（QCS導入）の考察
- ⑦札幌ドームを考える
- ⑧札幌ドーム（フィールドワーク）
- ⑨札幌ドームのマネジメントについて①（2022年まで）
- ⑩札幌ドームのマネジメントについて②（2023年以降）
- ⑪スポーツメーカーを考える①（国外メーカー）
- ⑫スポーツメーカーを考える②（国内メーカー）
- ⑬スポーツメーカーを考える③（ミズノ考察）
- ⑭カーリング王国・常呂に見るマネジメント
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツビジネスに関するさまざまな知識を身につけ、スポーツ産業の在り方やプロアマスポーツ、地域や関係する人々の取り組みを理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・グループワーク、フィールドワーク＝30%
- ・レポートおよび講義内テスト＝50%
- ・講義に対する取り組み意欲、出席＝20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じてその都度、配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

スポーツ全般に興味を持ち、やる・見るだけの枠から「自ら手掛けるスポーツ」など常に想像、妄想を積極的にしてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安にします。

■その他

フィールドワークなど実費がかかることがあります。

科目名	スポーツマネジメント演習
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	平澤 芳明

■講義の目的および概要

スポーツを幅広く伝える「メディア」とは？ スポーツビジネスがいかに成り立つかに注目し、スポーツマネジメント（スポーツ産業）の一角担う「スポーツ報道」に焦点を当て、講義演習を行っていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義はスポーツ新聞記者歴33年を経験してきた教員が担当します。北海道移転を表明した2002年から番記者として張り付いてきた日本ハム、さらに高校野球や一般スポーツ、北海道ならではのウインタースポーツの取材経験を持つ教員が現場で培ったキャリアを基に履修生を「新聞記者」として扱い、注目の現場などのフィールドワークを含め、展開していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

個人、グループワークなどを通して随時行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②報道とは？スポーツ報道とは？
- ③プロスポーツとアマチュアスポーツの違い
- ④スポーツ報道の歴史
- ⑤新聞記者、スポーツ記者の仕事や動きなど
- ⑥中間総括～テスト
- ⑦新聞制作における記者職いろいろ（取材・整理・写真）
- ⑧写真記者とは（外部講師講座）
- ⑨写真記者演習（撮影フィールドワーク）
- ⑩新ボールパーク考察①（新たな歴史を迎えた北広島）
- ⑪新ボールパーク考察②（Fビレッジいろいろ）
- ⑫北広島ボールパーク・フィールドワーク
- ⑬グループワーク（取材まとめ）
- ⑭グループワーク（発表）
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツメディア、報道を理解し、知識を得る。大学生の好奇心を全面に押し出し、取材のノウハウなどを学び実行してみる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ グループワーク、フィールドワークの取り組み＝40%
- ・ 授業内テストおよびレポート＝40%
- ・ 授業、演習への意欲、出席＝20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

随時、必要に応じて配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

スポーツに関する新聞記事や雑誌などに日頃から親しみ、情報に対しての意欲を持って吸収していきましょう。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつを目安とします。

■その他

フィールドワークなど実費がかかることがあります。

科目名	卒業研究[スポビ]
開講期・単位	4年 通年・選択 4単位・演習
担当者	佐久間 章、原 一将、平澤 芳明、横山 克人、田部井 祐介、粟野 祐弥、赤川 智保

■講義の目的および概要

4年間の学びの集大成として、3年次までの研究課題を再確認し、それについて適切な方法にもとづいて調査・研究を実践します。そして、最終的に論文としてまとめ、その成果を発表する等のスキルを身に付けることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、担当指導教員のゼミナール方式です。研究方法の基礎を学ぶとともに、各自の選択したテーマについての論文作成作業の経過報告を中心にグループ討議、個別の論文作成指導を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行います。

■授業計画

■春学期

- ①オリエンテーション
- ②論文作成の基本的作法について (1)
- ③論文作成の基本的作法について (2)
- ④研究テーマの検討・決定 (1)
- ⑤研究テーマの検討・決定 (2)
- ⑥研究テーマの検討・決定 (3)
- ⑦「問題の所在」「研究目的」の文章化 (1)
- ⑧「問題の所在」「研究目的」の文章化 (2)
- ⑨研究方法の検討 (個人) (1)
- ⑩研究方法の検討 (個人) (2)
- ⑪研究方法の検討 (ゼミ) (1)
- ⑫研究方法の検討 (ゼミ) (2)
- ⑬調査 (1) (※夏季休業期間にも実施する)
- ⑭調査 (2)
- ⑮調査 (3)

■秋学期

- ①中間報告会
- ②研究論文のアウトラインの検討 (1)
- ③研究論文のアウトラインの検討 (2)
- ④研究論文のアウトラインの検討 (3)
- ⑤研究論文の作成・充実 (1)
- ⑥研究論文の作成・充実 (2)
- ⑦研究論文の作成・充実 (3)
- ⑧研究論文の作成・充実 (4)
- ⑨研究論文の作成・充実 (5)
- ⑩研究論文の作成・充実 (6)
- ⑪研究論文の作成・充実 (7)
- ⑫研究論文の作成・充実 (8)
- ⑬仮提出された研究論文の修正
- ⑭最終報告会への準備
- ⑮最終報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

春学期：論文の基本的作成方法を理解し、適切な研究方法にしたがって研究（調査）することができる。

秋学期：研究論文を完成させ、その成果について分かりやすく説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP 3) 課題を発見し、解決する力
- (DP 5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 最終論文 (50%)
- 最終成果報告 (10%)
- 定期的な提出物 (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
適宜プリントを配布します。

【参考文献】
『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房

■授業外学習

【具体的な内容】
ゼミナール方式で行いますが、重要なことは、指導教員との“協働”です。指導教員のオフィスワークを積極的に活用しながら、授業時間外による調査・論究がきわめて重要となります。多くの時間を割いて論文作成に努めてください。

【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	テーマ研究 I [スポビ]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	横山 克人

■講義の目的および概要

本講義では、応用演習 I・II で修得したスキルをさらに深め、応用できる能力を身に付けることを目的とします。各自でテーマを設定し、テーマ研究の論文を執筆します。執筆する過程において、論理的思考力と文書作成能力を身に付けることをめざします。また、定期的なゼミ内で、各自の調査・研究内容について報告会を開催し、プレゼンテーション能力を磨き、意見交換のなかで批判的思考力を身に付けることをめざします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、演習形式とディスカッション形式で行います。本講義では、各自で作成した年間計画書に基づき、テーマの目的、方法、結果、考察を自ら検討する能動的な学修をめざします。また、個々の研究に応じて、必要であればフィールドワークを行い、調査してきた内容や疑問点をディスカッションし、情報共有や意見交換を行います。

なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行います。

■授業計画

- ①研究テーマ発表・年間計画
- ②ゼミ内ガイダンス (3・4 合同)
- ③交流企画 (3・4 合同)
- ④テーマ研究 (目的仮設定)
- ⑤テーマ研究 (情報収集 I)
- ⑥テーマ研究 (情報収集 II)
- ⑦テーマ研究 (情報収集 II)
- ⑧テーマ研究 (目的設定)
- ⑨ゼミOB/OGを訪ねる (3・4 合同)
- ⑩自己分析 (3・4 合同)
- ⑪テーマ研究 (方法検討)
- ⑫テーマ研究 (方法検討)
- ⑬テーマ研究 (方法検討)
- ⑭ゼミ内発表会 (3・4 合同)
- ⑮学科合同中間報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

年間計画書を作成し、計画的且つ、予測的に行動する能力を身に付ける。また、個々のテーマに基づき、研究目的と研究方法を明確に説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- 論文読解 (20%)
- 論文発表 (40%)
- 論文提出 (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

個々のテーマに関連する分野に応じて、参考文献を紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

論文の執筆と発表資料の作成は、春・秋学期30回の講義だけでは間に合わないため、事前事後の学習および夏季休暇、冬季休暇の時間を活用して下さい。基本的には、個々が作成した年間計画書に沿って研究を進めて下さい。毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックします。

なお、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

個々の年間計画によりませんが、基本的には、1週間で4時間以上の学習時間を目安とします。

■その他

個々のテーマや研究方法によっては、アンケートやインタビュー、実地調査があるため、それに応じて活動費用や交通費が発生する可能性があります。また、テーマに関する資料収集では、参考図書を購入してもらう可能性もありますので、予めご了承ください。

夏季休暇期間中には、計画書に沿って論文執筆の作業を進めください。

科目名	テーマ研究 I [スポビ]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

本講義は、文献等の読解力や文章作成能力及びプレゼンテーションの力を身につけることを目的とします。各自で設定したテーマについて、調査・研究をすすめて、レポートを作成します。また、定期的にゼミ全体で、各自の調査・研究についての報告会を開催し意見交換を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

個々のテーマに則した個別指導を基本とします。また、適時グループワークやディスカッション形式での能動的な授業も行います。スポーツ指導や行政組織において経験のある教員が、具体的事例等を示しながら進めます。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②テーマ設定に関わる資料収集（文献）
- ③テーマ設定に関わる資料収集（インターネット）
- ④テーマの設定および報告・意見交換
- ⑤調査研究計画の作成
- ⑥調査研究計画の報告・意見交換
- ⑦調査研究計画のリデザイン
- ⑧テーマ関連資料の収集（文献）
- ⑨テーマ関連資料の収集（インターネット）
- ⑩中間報告レポートの作成（アウトラインの構想）
- ⑪中間報告レポートの作成（アウトラインの作成）
- ⑫中間報告レポートの作成（アウトラインの検討）
- ⑬中間報告発表資料の作成
- ⑭中間報告会と意見交換
- ⑮春学期のまとめと秋学期のスケジュール確認

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

設定したテーマに基づき、資料の収集を行い、収集資料を多角的に分析し、レポートを作成し、発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

毎回の提出物（振り返りシート）（40%）
発表（30%）
レポート（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜資料を配布します。

【参考文献】

授業の中で、適時紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】パソコンでのレポート作成およびパワーポイントでのプレゼンテーションを行うので、パソコンスキルの向上に日ごろから努めてください。また、各自のテーマについて取り組み状況を、毎回発表し、協議をしますので、各回、事前・事後学習によって準備すると共に、協議内容のふりかえりとノート整理をしてもらいます。

【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	テーマ研究 I [スポビ]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

3年次の応用演習Ⅰ、応用演習Ⅱを踏まえ、各自でテーマを設定してもらいます。課題発見能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力などを伸ばしていきますが、特に重視しているのはプレゼンテーション能力です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式と個別指導形式の両輪で動きます。ゼミナールでは活発な討議や意見交換を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともにフィードバックについても授業内で行います。

■授業計画

概ね以下のとおりです。

※予告なく内容が変わる場合もあります。

- ①ガイダンス
- ②活動方針の検討～決定
- ③テーマ設定に関わる情報収集（文献、インターネット）
- ④同上
- ⑤テーマ設定に基づいた計画書の作成
- ⑥テーマ設定に基づいた計画書提出・意見交換
- ⑦～⑩テーマ設定に基づいた研究活動（文献、インターネット、フィールドワークなど）
- ⑪～⑬中間報告レポートの作成
- ⑭中間報告会
- ⑮春期振り返り、秋学期スケジュール確認

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各自でテーマを設定し、テーマ研究を通して、調べる力、まとめる力、発表する力を身につけます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
 DP2 コミュニケーション能力
 DP3 課題を発見し、解決する力
 DP4 多様性の理解と協働する力
 DP5 能動的に学び続ける力
 DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

「圧倒的な努力」と「圧倒的な結果」は比例します。成績評価は①毎回の課題（50%）②中間報告会50%です。

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】

必要に応じて資料を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃からインターネットや新聞、テレビのニュース番組で時事問題に触れていると研究の視野も広がります。大学は自ら学ぶところです。わからないことは放置せず、まずは「自分で調べる」習慣をつけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

最低限のパソコンスキルは社会に出ても求められますので、この機会に是非習得³（令和5）年4月1日
してください。また、テーマ研究は大学生活の集大成です。インスタントに片付ける
ことなく、例えば企業と連携した活動であれば、授業外の時間も積極的に活用してく
ださい。

科目名	テーマ研究 I [スポビ]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	赤川 智保

■講義の目的および概要

本講義は卒業ゼミ論文の作成を前提とした演習です。各自で設定したテーマに沿って具体的な調査・研究を深めて論文にまとめて行く過程で生じる問題について個別に指導を行い、定期的にゼミ内で各自の調査・研究内容について報告会を開催し、中間発表へ向けてプレゼンテーション能力を高めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に個別指導で行いますが、グループワークによるディスカッション等で能動的に展開する場合があります。論文作成では、授業時間以外の個別指導も行い、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

個別指導やグループワークの際の質疑応答で適確に理解できているか確認し、助言を行います。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② テーマ研究の基本的作法について
- ③ 研究テーマの検討
- ④ テーマ設定に関わる資料収集：文献
- ⑤ 研究計画書の作成：目的と方法
- ⑥ 研究計画書の報告と意見交換
- ⑦ 研究計画書の修正
- ⑧ 調査活動
- ⑨ 調査活動
- ⑩ 中間報告のレジュメ作成
- ⑪ 中間報告会発表資料の作成
- ⑫ 中間報告会発表資料の作成
- ⑬ ゼミ内中間報告会と意見交換
- ⑭ 中間報告会と意見交換
- ⑮ 振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

【到達目標】

- ① 設定したテーマに基づき、基本的作成方法を理解する
- ② 収集した資料を多角的に分析し、資料を作成する
- ③ 発表用資料を作成し、人前でわかりやすく発表する
- ④ スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ① 論文 (30%)
- ② 発表資料 (30%)
- ③ 発表 (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特にありません。

【参考文献】
必要に応じて資料等を配布、紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】
研究計画書、レジュメ、中間報告会資料の作成や発表準備については、進捗状況によって授業時間外に行う必要があります。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】
予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

調査活動に際し、交通費や書籍の購入が実費で発生する場合があります。また提出の期日は厳守してください。

科目名	テーマ研究 I [スポビ]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	田部井 祐介

■講義の目的および概要

本講義は、応用演習 I・II で修得した知識やスキルを基にテーマを設定し、研究の遂行と論文執筆を行う。また、研究プロセスをを自主的に学習することで研究の科学的アプローチを理解し、科学的知識を生産することができる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、ゼミナル形式で演習を実施する。能動的な学習を促すためにディスカッションを多用し、グループおよび個人への指導を行う。必要に応じてフィールドワークも実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

本講義は、コーチング、スポーツにおける情報戦略・心理学に関する研究実績を有し、競技指導現場での経験がある教員が担当する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に関しては授業内で解説する。

■授業計画

- ①ゼミ活動に関するガイダンス
- ②年間計画書の作成
- ③文献収集
- ④課題設定
- ⑤課題解決方法の選定
- ⑥統計処理
- ⑦引用の仕方
- ⑧論文執筆について 1 (諸言)
- ⑨論文執筆について 2 (方法)
- ⑩論文執筆について 3 (結果)
- ⑪論文執筆について 4 (考察)
- ⑫発表会資料の作成
- ⑬ゼミ内発表会
- ⑭学科合同ゼミ中間報告会
- ⑮前期の振り返りと計画書の推敲

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①研究に必要な基礎的な知識を習得し、文献を検索、読む、要約、発表することができる
- ②研究成果をプレゼンテーションできる能力を身につけられるようになる。
- ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
 DP 2 コミュニケーション能力
 DP 3 課題を発見し、解決する力
 DP 4 多様性の理解と協働する力
 DP 5 能動的に学び続ける力
 DP 6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

合同ゼミでの発表 40%
 講義での態度・発言 40%
 授業内課題 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じてプリントを配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、「コーチング」、「情報戦略」および「スポーツ心理学」領域の研究分野に関する情報収集を推奨する。また、合同ゼミでの発表準備などは授業時間外に行う場合がある。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究 I [スポビ]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	栗野 祐弥

■講義の目的および概要

テーマ研究では、応用演習で調査した資料を参考に、各自のテーマを設定し、論文を執筆する。執筆する過程において、より発展的な知識、論理的思考、および文書作成能力の獲得を目指す。また、進捗報告会を通してプレゼンテーション能力を磨き、意見交換のなかで自己のテーマについて、より深く考えていく。したがって、本演習では、3年次までに修得した基礎的知識や学修スキルをさらに発展させ、応用できる能力を身につけていくことを目的とする。「ディスカッション」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」等の学修形態を通じて、文章を「読む」、「書く」、「要約し、整理する」、そして「人に伝える」といった力をさらに伸ばす。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義はゼミナール形式で演習を実施する。文献の調査および要約を行い、学術的な論文や書籍の内容を理解し、整理できる力を身に付ける。また、その内容を人にわかりやすくプレゼンテーションできる能力を身に付ける。学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

■授業計画

- ①ゼミ活動についての全体的なガイダンス
- ②テーマ研究に関連する情報収集1(研究分野について方向性の検討)
- ③テーマ研究に関連する情報収集2(研究分野について具体的な計画の検討)
- ④テーマ研究に関連する文献調査1(文献の検索)
- ⑤テーマ研究に関連する文献調査2(文献の取得)
- ⑥関連分野に関する文献調査1(文献の検索)
- ⑦関連分野に関する文献調査2(文献の取得)
- ⑧中間報告会資料の作成1(中間報告会発表資料のアウトライン作成)
- ⑨中間報告会資料の作成2(中間報告会発表資料の作成)
- ⑩中間報告会資料の作成3(追加資料の収集)
- ⑪中間報告会資料の作成4(発表練習)
- ⑫中間報告会資料の作成5(発表練習と課題の提出)
- ⑬中間報告会資料の作成6(資料の見直しと修正)
- ⑭学科合同ゼミ中間報告会(中間報告、質疑応答)
- ⑮春学期のまとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①自らの専門分野、あるいは興味・関心のある領域に関する文献や参考資料を読み、内容を理解し、要約する力を身に付ける。また、それに対し、自らの考えを述べることができるようになることを目指す。②これまでに修得した知識を整理し、他人にプレゼンテーションできる力を身に付ける。③文献検索方法や、関連資料の入手方法など、基本的な学習方法を身に付け、使いこなせるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

個人発表(30%)
 課題提出状況(40%)
 中間発表報告会(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業内適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②興味関心のある分野に関連した専門的知識」に関する情報収集を推奨する。また、PCや図書館を使用した情報収集を行うので、それぞれ活用することに慣れておくこと。授業ごとに前述の内容に関連した課題を課す。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究 I [スポビ]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	平澤 芳明

■講義の目的および概要

3年次の応用演習 I、同 II を踏まえ、各自でテーマを設定し、課題の発見、レポート作成、プレゼンテーションなどの各能力を高めていきます。テーマ研究最終発表をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を磨きましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミ形式と個別指導形式で進んでいきますが、ゼミ内での意見交換も行っています。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別解説や解決方法を探り、フィードバックを行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②テーマ設定①
- ③テーマ設定②
- ④テーマ設定に基づいた情報収集① (PCを活用した具体的調査)
- ⑤テーマ設定に基づいた情報収集② (PCによる文面作成)
- ⑥テーマ設定に基づいた情報収集③ (PCによるデータ調査)
- ⑦テーマ設定に基づいた計画書作成① (個人での調査開始)
- ⑧テーマ設定に基づいた計画書作成② (主要箇所へのアポ取り)
- ⑨テーマ設定に基づいた計画書作成③ (主要箇所へのインタビュー)
- ⑩テーマ設定に基づいた研究活動① (PCを活用してのまとめ①)
- ⑪テーマ設定に基づいた研究活動② (PCを活用してのまとめ②)
- ⑫中間報告レポートの作成① (PP作成)
- ⑬中間報告レポートの作成② (PPゼミ内発表最終準備)
- ⑭中間報告レポートの作成③ (PPゼミ内発表)
- ⑮テーマ研究中間報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各自のテーマ設定に基づき、その研究を通して、調べる、まとめる、整え発表する力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・ テーマ設定～計画書作成30%
- ・ 研究、情報収集30%
- ・ 中間レポート作成～発表40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

自ら選んだ「テーマ」です。自らの理解はもちろんですが、人に伝えるという事を大切に考えながら、前に進みましょう。「テーマ研究」に必要な情報の収集に対し、意欲的にたくさんのアンテナを張ってください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

パソコンを使用し、テーマ記述や情報収集を行います。

科目名	テーマ研究Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

本講義は、文献等の読解力や文章作成能力及びプレゼンテーションの力を身につけることを目的とします。春学期の「テーマ研究Ⅰ」の調査研究を継続して、各自で設定したテーマの調査・研究をすすめ、レポートを作成します。また、定期的にゼミ全体で、各自の調査・研究についての報告会を開催し意見交換を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

個々のテーマに則した個別指導を基本とします。また、適時グループワークやディスカッション形式での能動的な授業も行います。スポーツ指導や行政組織において経験のある教員が、具体的事例等を示しながら進めます。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②進捗状況の確認と秋学期の計画
- ③テーマにかかわる背景の検討
- ④テーマにかかわる研究目的の検討
- ⑤発表レポートの作成（目次）
- ⑥発表レポートの作成（序論）
- ⑦発表レポートの作成（本論）
- ⑧発表レポートの作成（考察・まとめ）
- ⑨発表レポートの作成（図表・参考文献等）
- ⑩発表レポートの作成（全体の点検）
- ⑪プレゼン資料の作成
- ⑫プレ発表会
- ⑬発表レポート・プレゼン資料の修正
- ⑭発表会
- ⑮ふりかえりとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

設定したテーマに基づき、資料の収集を行い、収集資料を多角的に分析し、レポート作成に積極的に取り組むとともに、効果的なプレゼン資料を作成し、わかりやすく発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

レポート（10,000字目安） 40%
 プレゼンテーション 30%
 毎回の提出物（振り返りシート） 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜資料を配布します。

【参考文献】

授業の中で、適時紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】パソコンでのレポート作成およびパワーポイントでのプレゼンテーションを行うので、パソコンスキルの向上に日ごろから努めてください。また、各自のテーマについて取り組み状況を、毎回発表し、協議をしますので、各回、事前・事後学習によって準備すると共に、協議内容のふりかえりとノート整理をしてもらいます。

【必要な時間】予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	原 一将

■講義の目的および概要

3年次の応用演習Ⅰ、応用演習Ⅱ、春学期のテーマ研究Ⅰを踏まえ、引き続き調査研究を継続し、レポートを作成します。春学期の反省点を踏まえ、課題発見能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力などをさらに伸ばしていきますが、最終発表に向け、特に読解力と文章作成能力の向上は重視しています。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミナール形式と個別指導形式の両輪で動きます。ゼミナールでは活発な討議や意見交換を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、フィードバックについても授業内で直接行います。

■授業計画

概ね以下のとおりです。

※予告なく内容が変わる場合もあります。

- ①ガイダンス
- ②進捗状況の確認、秋学期活動方針の検討
- ③秋学期活動方針の決定
- ④最終レポート作成に向けた計画書作成
- ⑤最終レポート作成に向けた計画書提出・意見交換
- ⑥～⑫最終レポート作成（コンテンツ構成、序論、本論、考察、まとめ、図表、参考文献等）
- ⑬ブレ発表会
- ⑭最終報告会
- ⑮秋学期振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各自でテーマを設定し、テーマ研究を通して、調べる力、まとめる力、発表する力を身につけます。特に最終発表では、プレゼンテーション能力が問われるため、発表資料、内容を万人にわかりやすく伝えることができるようになります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
 DP2 コミュニケーション能力
 DP3 課題を発見し、解決する力
 DP4 多様性の理解と協働する力
 DP5 能動的に学び続ける力
 DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

「圧倒的な努力」と「圧倒的な結果」は比例します。成績評価は①毎回の課題（50%）②最終報告会（50%）です。

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】

必要に応じて資料を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃からインターネットや新聞、テレビのニュース番組で時事問題に触れていると研究の視野も広がります。大学は自ら学ぶところです。わからないことは放置せず、まずは「自分で調べる」習慣をつけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

最低限のパソコンスキルは社会に出ても求められますので、この機会に是非習得³（令和5）年4月1日
してください。また、テーマ研究は大学生活の集大成です。インスタントに片付ける
ことなく、例えば企業と連携した活動であれば、授業外の時間も積極的に活用してく
ださい。

科目名	テーマ研究Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	赤川 智保

■講義の目的および概要

本講義は4年間の学びの集大成として、春学期に設定した研究課題を再確認し、それについて適切な方法にもとづいて調査・研究を実践し、最終的にテーマ研究論文（10,000字以上）としてまとめ、その成果を発表する力を養成します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

調査・研究の個別指導が中心ですが、グループワークによるディスカッション等も行います。レポート作成にあたっては、授業時間以外の個別指導も行います。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

個別指導やグループワークの際の質疑応答で適確に理解できているか確認し助言を行います。

■授業計画

- ① ガイダンス 秋学期計画表の作成
- ② テーマ設定の確認
- ③ テーマ研究論文の作成
- ④ テーマ研究論文の作成
- ⑤ テーマ研究論文の作成
- ⑥ テーマ研究論文の作成
- ⑦ テーマ研究論文の作成
- ⑧ テーマ研究論文の作成
- ⑨ テーマ研究論文の作成（まとめ）
- ⑩ テーマ研究論文の作成（参考文献・抄録）
- ⑪ テーマ研究論文の完成・提出
- ⑫ グループワーク ゼミ内発表会と意見交換
- ⑬ 発表資料の準備
- ⑭ テーマ研究合同報告会
- ⑮ 振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① テーマ研究論文を完成させる
- ② 発表用資料を作成し、人前でわかりやすく発表する
- ③ スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ① テーマ研究論文 (40%)
- ② プレゼンテーション資料 (30%)
- ③ テーマ研究発表 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありません。

【参考文献】

必要に応じて資料等は配布し、文献の紹介をします。

■授業外学習

【具体的な内容】

調査・研究に関する資料作成、レジュメ、発表会の資料作成や発表準備については、進捗状況によって授業時間外に行います。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

研究に必要な調査活動に際して、交通費が実費で発生する可能性があります。提出物の期日は厳守してください。

科目名	テーマ研究Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	田部井 祐介

■講義の目的および概要

本講義は、応用演習Ⅰ・Ⅱとテーマ研究Ⅰで修得した知識やスキルを基に研究の遂行と論文執筆を行う。また、研究プロセスをを自主的に学習することで研究の科学的アプローチを理解し、科学的知識を生産することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、ゼミナール形式で演習を実施する。能動的な学習を促すためにディスカッションを多用し、グループおよび個人への指導を行う。必要に応じてフィールドワークも実施する。また、本科目のほか学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

本講義は、コーチング、スポーツにおける情報戦略・心理学に関する研究実績を有し、競技指導現場での経験がある教員が担当する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②夏季の研究報告と今後の研究計画
- ③論文執筆指導Ⅰ（緒言）
- ④論文執筆指導Ⅱ（方法）
- ⑤論文執筆指導Ⅲ（結果・考察）
- ⑥論文についての発表とディスカッションⅠ（研究の背景）
- ⑦論文についての発表とディスカッションⅡ（課題の解決）
- ⑧論文についての発表とディスカッションⅢ（方法）
- ⑨論文についての発表とディスカッションⅣ（データ分析）
- ⑩論文についての発表とディスカッションⅤ（結果）
- ⑪論文についての発表とディスカッションⅥ（考察）
- ⑫発表会資料の作成
- ⑬ゼミ内最終発表会
- ⑭学科合同発表会
- ⑮振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①研究に必要な基礎的な知識を習得し、文献を検索、読む、要約、発表することができる。
- ②研究成果をプレゼンテーションできる能力を身につけられるようになる。
- ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
 DP 2 コミュニケーション能力
 DP 3 課題を発見し、解決する力
 DP 4 多様性の理解と協働する力
 DP 5 能動的に学び続ける力
 DP 6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

最終発表 30%
 講義での態度・発言 40%
 論文提出 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じてプリントを配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、「コーチング」、「情報戦略」および「スポーツ心理学」領域の研究分野に関する情報収集を推奨する。また、合同ゼミでの発表準備などは授業時間外に行う場合がある。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	栗野 祐弥

■講義の目的および概要

本講義では、テーマ研究における論文執筆へ向けた集大成として、その準備を中心に行う。したがって、応用演習、テーマ研究での学修を通して獲得した基礎的なスキルや、それを応用できる力に基づいて、調査内容の取捨選択、文章の吟味、プレゼンテーションや意見交換をより高いレベルで実施する。これらを通して、高い識字能力の獲得と、それらを使用して自らの考えを表現できる力の獲得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義はゼミナール形式で演習を実施する。テーマ研究Ⅰに継続する形で、文献のより詳細な検討および吟味を行い、学術的な論文や書籍の内容を理解し、整理できる力を身に付ける。また、その内容を人にわかりやすく説明し、自らの考えを伝えられる能力を身に付ける。学術的な領域における研究に従事する教員が自己の専門的学問領域に加え、その周辺領域を中心に講義の目的に沿った演習を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを授業内で適宜行う。

■授業計画

- ①ゼミ活動についての全体的なガイダンス
- ②各自テーマの再検討1(研究分野の吟味)
- ③各自テーマの再検討2(論文執筆へ向けた計画の検討)
- ④研究分野の情報収集1(文献の追加検索)
- ⑤研究分野の情報収集2(文献の追加取得)
- ⑥各自の研究テーマ発表1(プレゼンテーション)
- ⑦各自の研究テーマ発表2(ディスカッション)
- ⑧最終発表会に向けた資料作成(1アウトライン作成)
- ⑨最終発表会に向けた資料作成2(追加情報の取得)
- ⑩最終発表会に向けた資料作成3(プレゼン内容の確認)
- ⑪最終発表会に向けた資料作成4(プレゼン内容の修正)
- ⑫最終発表会に向けた資料作成5(プレゼン内容の最終確認)
- ⑬ゼミ内でのプレ発表会1(流れの確認)
- ⑭ゼミ内でのプレ発表会2(前回の課題修正)
- ⑮まとめ(抄録の作成、資料の準備、整理等)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自らの専門分野、あるいは興味・関心のある領域に関する文献や参考資料を読み、内容を理解し、要約する力を身に付ける。また、自らの研究テーマについての内容を整理し、プレゼンできるようにする。
- ②これまでに修得した知識を整理し、系統立てて論文にまとめる。
- ③ゼミ内でディスカッションを行い、他の学生が書いた文章や、プレゼンテーションした内容を理解し、アドバイスできる力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

個人発表(30%)
 課題提出状況(40%)
 最終発表(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業内適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②興味関心のある分野に関連した専門的知識」に関する情報収集を推奨する。授業ごとに前述に関連した課題を課す。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	テーマ研究Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	平澤 芳明

■講義の目的および概要

3年次の応用演習Ⅰ、同Ⅱ、春学期のテーマ研究Ⅰを踏まえ、引き続き調査、レポート作成を行っていきます。春学期に培い、見つけた部分を掘り下げ、課題発見、レポート作成、プレゼンテーション能力をさらに伸ばしていきます。最終形であるテーマ研究発表に向け、より充実した内容の構築と向上を計ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ゼミ形式と個別指導形式で進んでいきますが、ゼミ内での積極的な意見交換を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別解説や解決方法を探り、フィードバックを行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②秋学期活動方針の検討
- ③秋学期活動方針の決定
- ④最終テーマ研究に向けた計画書の作成①
- ⑤最終テーマ研究に向けた計画書の作成②～提出
- ⑥最終テーマ研究作成①（構成）
- ⑦最終テーマ研究作成②（序論）
- ⑧最終テーマ研究作成③（本論）
- ⑨最終テーマ研究作成④（考察）
- ⑩最終テーマ研究作成⑤（まとめ）
- ⑪最終テーマ研究作成⑥（参考文献まとめ）
- ⑫最終テーマ研究作成⑦（テーマ研究論文仕上げ）
- ⑬テーマ研究抄録、PP提出
- ⑭4年次ゼミ講演会
- ⑮テーマ研究発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各自のテーマ設定に基づいた研究を通して、調べる、まとめる、整え発表する力を身に付ける。最終発表に向けてプレゼンテーション能力の向上を計る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ・研究および情報収集20%
- ・テーマ研究作成50%
- ・最終プレゼンテーション力30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

自ら選んだ「テーマ」です。自らの理解はもちろんですが、人に伝えるという事を大切に考えながら、前に進みましょう。「テーマ研究」に必要な情報の収集に対して、意欲的にたくさんのアンテナを張ってください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ1時間を目安とします。

■その他

パソコンを使用し、テーマ記述や情報収集を行います。

科目名	テーマ研究Ⅱ[スポビ]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	横山 克人

■講義の目的および概要

本講義では、応用演習Ⅰ・Ⅱ、テーマ研究Ⅰで修得したスキルをさらに深め、応用できる能力を身に付けることを目的とします。各自のテーマを追究し、テーマ研究の論文執筆と成果発表を行います。執筆過程において、論理的思考力と文書作成能力を身に付け、成果発表では、視覚的資料の作成能力とプレゼンテーション能力を身に付けることをめざします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、演習形式とディスカッション形式で行います。本講義では、各自で作成した年間計画書に基づき、テーマの目的、方法、結果、考察を自ら検討する能動的な学修を目指します。また、個々の研究に応じて、必要であればフィールドワークを行い、調査してきた内容や疑問点をディスカッションし、情報共有や意見交換を行います。

なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行います。

■授業計画

- ①ゼミ内ガイダンス (3・4 合同)
- ②交流企画Ⅰ (3・4 合同)
- ③交流企画Ⅱ (3・4 合同)
- ④テーマ研究 (結果Ⅰ)
- ⑤テーマ研究 (結果Ⅱ)
- ⑥テーマ研究 (考察Ⅰ)
- ⑦テーマ研究 (考察Ⅱ)
- ⑧テーマ研究 (考察Ⅲ)
- ⑨テーマ研究 (結論Ⅰ)
- ⑩テーマ研究 (結論Ⅱ)
- ⑪3年生に向けた社会人講座 (3・4 合同)
- ⑫報告会資料作成Ⅰ
- ⑬報告会資料作成Ⅱ
- ⑭ゼミ内発表会 (3・4 合同)
- ⑮学科合同報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

年間計画と進捗状況を確認し、計画の修正および、予測的に行動する能力を身に付ける。また、個々のテーマに基づき、研究結果と考察、結論を明確に説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- 論文発表 (40%)
- 論文提出 (60%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

個々のテーマに関連する分野に応じて、参考文献を紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

論文の執筆と発表資料の作成は、春・秋学期30回の講義だけでは間に合わないため、事前事後の学習および夏季休暇、冬季休暇の時間を必ず活用して下さい。基本的には、個々が作成した年間計画書に沿って研究を進めて下さい。毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックします。

なお、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

個々の年間計画によりませんが、基本的には、1週間で4時間以上の学習時間を目安とします。

■その他

個々のテーマや研究方法によっては、アンケートやインタビュー、実地調査があるため、それに応じて活動費用や交通費が発生する可能性があります。また、テーマに関する資料収集では、参考図書を購入してもらう可能性もありますので、予めご了承下さい。

秋学期の授業では、夏季休暇期間中の成果を報告してもらいます。計画的に論文執筆と発表資料の作成を進めください。

科目名	スポーツ政策・行政論
開講期・単位	4年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

本講義は、スポーツに関する法体系・行政計画及び各種スポーツ政策についての理解を図るとともに、スポーツ政策・施策・事業等の現状について学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式での授業展開を基本としますが、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。また、次年度のスポーツ庁の予算要求資料を教材として、プレゼンテーションやグループディスカッション等により具体的な政策についての意見交換を行います。行政組織での実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②行政とは、国家行政組織と地方行政組織
- ③スポーツに関する法体系
- ④スポーツに関する行政計画
- ⑤スポーツ基本法とスポーツ基本計画
- ⑥スポーツ庁の組織と役割
- ⑦青少年のスポーツ政策
- ⑧高齢者のスポーツ政策
- ⑨障害者のスポーツ政策
- ⑩女性のスポーツ政策
- ⑪プロスポーツ政策
- ⑫総合型地域スポーツクラブ
- ⑬スポーツ政策の立案と審議会
- ⑭日本におけるスポーツ関連予算
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツ行政の仕組みや行政組織について理解し、スポーツ政策・施策・事業等の現状等について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

レポート 50%
 課題 30%
 毎回の提出物（振り返りシート）20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「スポーツ政策の現代的課題」諏訪伸夫、井上洋一、齋藤健司、出雲輝彦 編、日本評論社

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外学習として新聞やネット等によってスポーツイベントや行事についてのニュース記事をチェックし、日常的に現状理解に努めてください。また、自らもスポーツやスポーツボランティア活動に積極的に取り組むことを期待します。本講義では、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくための事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくための事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の本学開設科目です。また、授業中に、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。

科目名	スポーツビジネスフィールドワーク
開講期・単位	4年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	田部井 祐介

■講義の目的および概要

本授業は、長期休業中を利用し、海外でのスポーツビジネス関連組織等におけるフィールドワークを体験して、スポーツビジネス現場の理解を深める。スポーツビジネスの観点から、国外における様々な事例について、実践的な場面に触れることで、スポーツビジネスにおける全般的な学習の促進を図る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前授業

シンガポールの歴史・スポーツ文化や社会問題などについて調べる。

学外学修

シンガポールでのフィールドワーク4泊予定

事後授業

研修についての発表

■授業計画

- ①事前説明会
- ②事前授業
- ③～⑭ シンガポールでの学外学修
※担当教員が同行します。
- ⑮研修成果報告プレゼンテーション

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・インターネットやオンラインリソース、書籍などから現地の情報を収集できる。
- ・シンガポールの歴史・スポーツ文化や社会問題を理解することができる。
- ・現地のスポーツビジネスを理解し、日本のものと比較することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
 DP 2 コミュニケーション能力
 DP 3 課題を発見し、解決する力
 DP 4 多様性の理解と協働する力
 DP 5 能動的に学び続ける力
 DP 6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

事前学習、課題 20%
 事後学習、レポート 20%
 海外研修中の活動への取り組みと達成度 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

渡航前の事前学習により、現地の情報を可能な限り入手すること。
 ・語学力の向上にも努め、現地での活動に備えること。例えば、自己紹介や自分の住む国・地域（日本・北海道・札幌、その他の都道府県など）について、英語で説明できるように準備すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・入国に伴い、シンガポール政府より新型コロナワクチンの接種を要請されています。23（令和5）年4月1日
- ・接種が済んでいない人は、早急に接種すること。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響でスケジュールが変更になる可能性があります
- ・大学からの通知・連絡を見逃さないよう注意すること。

科目名	スポーツ社会学
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	新井 貢

■講義の目的および概要

「生涯スポーツ社会」の実現を目指し、実践するための具体的方策を理解する。社会における体育・スポーツの意義と現状を把握し、体育・スポーツに関する様々な問題を社会的に検討し解決する方策を探る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

対面での講義が主となるが、グループワークやディスカッションなど演習形式の授業も取り入れる。毎時間、レポートの提出を課し、質問や疑問点については直接またはレポートを通して受け付ける。

社会教育主事として実務経験のある教員が、スポーツが社会に及ぼす影響を具体的に解説する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の質問には個々に回答し、次の時間に返却するとともに、前時の振り返りとして全体に解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②社会における体育・スポーツの意義と現状
- ③スポーツ政策と我が国の現状
- ④スポーツとヘルスプロモーション
- ⑤地域社会とスポーツイベント
- ⑥スポーツボランティア
- ⑦女性・青少年のスポーツ参加
- ⑧高齢者・障がい者のスポーツ参加
- ⑨スポーツクラブの現状と課題
- ⑩スポーツと指導者資格
- ⑪スポーツ施設の現状と課題
- ⑫スポーツの発展とプロモーション
- ⑬グループワーク1 (今後のスポーツ施策の検討)
- ⑭グループワーク2 (新たなスポーツイベント展開、発表)
- ⑮まとめ (確認テスト、課題レポート)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①現代社会における体育・スポーツの現状と課題を理解できる
- ②スポーツに関する情報に関心を示し、ボランティア等に積極的な参加できる
- ③実現可能なスポーツ施策(イベント)を提案できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①スポーツに関する理解度(提出物、小レポート、確認テスト) 50%
- ②グループワークの積極的参加と貢献度 30%
- ③イベントへの参加、ボランティア、実践 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて資料を配布する

■授業外学習

【事前事後指導】

事前学習として、日常的にスポーツに関心を持ち、スポーツに関するニュース、新聞などの話題に関心を示し、その内容を把握しておくこと

事後学習として、積極的にボランティア等に参加し、身につけた知識を現場で発揮できるようにすること

【必要な時間】

事前事後学習はそれぞれ2時間を目安とする

■その他

授業中にスポーツに関するニュースや話題などを質問するので、答えることができるようにしておく。
班ごとのグループディスカッション等の様子を、発表できるようにする。

科目名	体カトレーニング論
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	阿南 浩司

■講義の目的および概要

本講義では、「①体力およびトレーニングに関する概念的理解、②スポーツ・トレーニングにおける体カトレーニングの位置づけ、③体カトレーニングの分類、④トレーニング計画立案およびトレーニング手段の考案」について学修し、実践現場でトレーニング指導を行う知識の修得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義を行う。定期的に振り返りシートを課し、講義内容の振り返りを行う。能動的な学修を目指し、必要に応じて、グループワークを実施する。本講義は、運動生理学およびバイオメカニクスの研究を行う実績および競技指導経験を有する教員が、運動生理学およびバイオメカニクスの学問分野に加え、コーチングおよびトレーニング理論をふまえながら、「体カトレーニング」の基礎理論について理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①トレーニング概論
- ②基礎1：青少年期の成長発育とトレーニング
- ③基礎2：女性の体力・運動能力の特徴とトレーニング
- ④基礎3：加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング
- ⑤基礎4：障害者の運動能力の特徴とトレーニング
- ⑥トレーニング分類1：基本的トレーニング手段の分類：一般的運動
- ⑦トレーニング分類2：試合運動/シーズンの特徴を眺める
- ⑧授業前半の振り返りレポート
- ⑨トレーニング分類3：種目別トレーニング手段の分類：専門的運動・試合的運動
- ⑩トレーニング内容1：全身運動によるエアロビクトレーニング
- ⑪トレーニング内容2：筋力養成法
(筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果)
- ⑫トレーニング内容3：「スピード」能力の特質とタイプ/スピードトレーニング
- ⑬トレーニング内容4：「持久力」の特質とタイプ/筋パワーと持久カトレーニングの条件とその効果
- ⑭課題レポートの作成
- ⑮授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①スポーツ・トレーニングにおける体カトレーニングの位置づけ②体カトレーニングの分類について理解を深め、③スポーツ・トレーニングの計画立案およびトレーニング手段の考案を実践する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①授業内レポート 30%
- ②最終課題レポート 50%
- ③トレーニングシート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

参考資料を適宜配布する。

【参考文献】

藤原勝夫・外山寛：身体活動と体カトレーニング. 日本出版サービス
村木征人：スポーツ・トレーニング理論. ブックハウスHD
中村隆一 斎藤宏 長崎宏：基礎運動学. 医歯薬出版株式会社

■授業外学習

【具体的な内容】

事前および事後学習として、①体育・スポーツに関する基礎知識の習得、②「体力」および「トレーニング」に関する情報収集（メディア・文献等）を推奨する。毎時間、小レポートを課す。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は下記の免許および資格の対象科目です。

- ・ 教員免許（教科に関する科目）
- ・ 健康運動指導士
- ・ トレーニング指導者（JATI）
- ・ CSCS（NSCA）
- ・ 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格（スポーツリーダー・ジュニアスポーツ指導員・アシスタントマネージャー）

状況によってはオンラインでの授業を実施することもある。

科目名	人体構造基礎
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	樋口 善英

■講義の目的および概要

人体構造の基礎を体系的に理解することを目的とします。特に、身体運動に関わる神経筋骨格系、呼吸循環器系、消化泌尿生殖系の（解剖学的）構造と（生理学的）機能について基本的な知識を学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

医学部解剖学教室の研究者、大学病院の臨床現場、スポーツ指導の医科学スタッフとしての実務経験を豊富にもつ教員が、有資格者としての必要な知識と技術をスライドを用いて講義します。やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

身近にある身体の不思議や疑問などを題材に、人体の構造と機能について理解できるよう工夫します。

■授業計画

- ①人体構造学概論（活動機能構造連関とは）
- ②機能解剖学Ⅰ（肩甲帯の機能解剖学）
- ③機能解剖学Ⅱ（上肢帯の機能解剖学）
- ④機能解剖学Ⅲ（骨盤帯の機能解剖学）
- ⑤機能解剖学Ⅳ（下肢帯の機能解剖学）
- ⑥機能解剖学Ⅴ（脳脊髄の機能解剖学）
- ⑦機能解剖学Ⅵ（機能解剖学のみとめ）
- ⑧解剖生理学Ⅰ（細胞と組織の解剖生理学）
- ⑨解剖生理学Ⅱ（呼吸器系の解剖生理学）
- ⑩解剖生理学Ⅲ（循環器系の解剖生理学）
- ⑪解剖生理学Ⅳ（消化吸収系の解剖生理学）
- ⑫解剖生理学Ⅴ（泌尿生殖系の解剖生理学）
- ⑬解剖生理学Ⅵ（解剖生理学のみとめ）
- ⑭人体構造学総論（まとめ）
- ⑮期末試験

機能解剖学：感覚・神経・筋肉・骨格・関節系

解剖生理学：呼吸循環・消化吸収・泌尿生殖・内分泌系

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①人体の基礎的な構造と機能について説明できるようになる。
- ②特に形態に基づく動作の成り立ちにつながる知識を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

期末試験：60%

授業内容確認レポートなど提出：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

Reference Book 公益財団法人日本スポーツ協会（JSP0）
 からだのしくみ事典 浅野伍朗 監修 成美堂出版

【参考文献】

その他、講義中に適時紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

医学の基礎的知識を必要とするので事前に医学用語等を学習する。
 事後は各系統別の構造と機能について復習する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は下記の免許および資格の対象科目です。

2023（令和5）年4月1日

- ・教員免許（教科に関する科目）
- ・トレーニング指導者（JATI）
- ・CSCS（NSCA）

科目名	運動機能と救急処置
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担当者	樋口 善英

■講義の目的および概要

スポーツ活動中の怪我や病気をいかにして防ぐかということは大変重要であり、そのためには、まず身体機能や怪我の仕組みを理解することが重要です。どのような兆候や状態にある時に、どんな救急処置を行うべきかの知識や処置について学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

医学部解剖学教室の研究者、大学病院の臨床現場、スポーツ指導の医科学スタッフとしての実務経験を豊富にもつ教員が、有資格者（スポーツ指導者）としての必要な医学的知識と技術をスライドを用いて講義します。やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

普通救命講習会を行い、心肺蘇生法、AED使用法などの一次救命処置（BLS）の実習を行います。

■授業計画

- ① 身体活動と健康
- ② スポーツ指導者に必要な医学的知識 (1) スポーツと健康
- ③ スポーツ指導者に必要な医学的知識 (2) 内科
- ④ スポーツ指導者に必要な医学的知識 (3) 外科
- ⑤ 運動機能と解剖 (1) 筋肉
- ⑥ 運動機能と解剖 (2) 骨格
- ⑦ 健康・スポーツと安全
- ⑧ 生活習慣病と運動
- ⑨ 救急処置 (1) RICEについて
- ⑩ 救急処置 (2) 外科的異常
- ⑪ 救急処置 (3) 部位別異常
- ⑫ 救急処置 (4) 内科的異常
- ⑬ 普通応急手当講習 (1)
- ⑭ 普通応急手当講習 (2)
- ⑮ 期末試験および解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 一次救命処置における心肺蘇生法およびAED使用法の手順を理解して、実践できるようになる。
- ② 応急処置の基本となる「RICE」と傷の処置の方法を理解し、実践できるようになる。
- ③ スポーツ中の怪我と予防について説明できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

期末試験：60%
 授業内容確認レポートなど提出：40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

Reference Book 公益財団法人日本スポーツ協会（JSP0）

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前に人体の構造と機能について学習する。事後には、人のからだのしくみと怪我の予防について学習する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- ①他学科からの履修希望者は、本科目に関連する資格取得を目指す者のみ履修を認める。その場合、春学期に開講される「人体構造基礎」の単位を取得済であること。
- ②普通応急手当講習は、2コマ(3時間)で、定員は84名です。希望者多数の場合は、必修科目履修者を優先とし、選択科目での履修者は、出席状況、授業態度等により受講者を決定する。
- ②本科目は下記の免許および資格の対象科目です。
 - 教員免許（教科に関する科目）
 - スポーツ指導者（日本スポーツ協会）
 - トレーニング指導者（JATI）
 - CSCS（NSCA）

科目名	生涯スポーツ論
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

本講義は、生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる生涯スポーツについての基本的な理解を図り、我が国のスポーツに関する現状と課題について学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントやVTR等を活用しながら講義形式での授業展開を基本とします。また、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。

青少年のスポーツ指導に実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②「スポーツ」とは
- ③「生涯スポーツ」とは
- ④スポーツ基本法とスポーツ基本計画
- ⑤日本の生涯スポーツ振興施策
- ⑥青少年のスポーツ参加
- ⑦高齢者のスポーツ参加 授業内試験①
- ⑧障害者のスポーツ参加
- ⑨女性のスポーツ参加
- ⑩生涯スポーツとボランティア
- ⑪生涯スポーツとビジネス
- ⑫総合型地域スポーツクラブ
- ⑬スポーツイベント
- ⑭スポーツ施設とスポーツ指導者 授業内試験②
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生涯スポーツについての基本的な考え方や我が国のスポーツに関する現状と課題について理解し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

(DP3) 課題を発見し、解決する力

(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

授業内での2回の試験(40%×2回) 80%

毎回の提出物(振り返りシート) 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

生涯スポーツ実践論、川西正志・野川春夫編著、市村出版

■授業外学習

【具体的な内容】

新聞やネット等によってスポーツイベントや行事についてのニュース記事をチェックし、日常的に現状理解に努めてください。また、自らもスポーツやスポーツボランティア活動に積極的に取り組むことを期待します。本講義では、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくための事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくための事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の本学開設科目です。また、授業中に、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。

科目名	スポーツ理論
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	小林 秀紹

■講義の目的および概要

スポーツに関する基本的な考え方や基礎知識を理解し、指導者に必要な資質を身につけるとともに、目的に応じた適切な運動プログラムを作成し、効果的な指導を実践するための技術や能力を身につける。また、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
講義形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】
Eラーニングで提示する。

■授業計画

保健体育教員、日本スポーツ協会：スポーツ指導者、NSCA：パーソナルトレーナー・ストレングスコーチ、トレーニング指導者協会：トレーニング指導者等に必要内容の基礎を講義する。

毎時間課題を提出する（止むを得ず欠席した場合（公欠を含む）でも自ら課題の内容を確認し提出すること）。

- ①スポーツ理論の概要・健康とスポーツ
- ②スポーツの概念・スポーツ史
- ③スポーツ指導者・関連資格
- ④体力の構造
- ⑤運動の仕組み
- ⑥トレーニング理論
- ⑦トレーニングプログラム
- ⑧競技スポーツのトレーニング
- ⑨発育発達期のトレーニング
- ⑩体力テストの実際
- ⑪パフォーマンスの測定評価
- ⑫パーソナルトレーニング・チームトレーニング
- ⑬栄養とスポーツ
- ⑭コンディショニング
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
①スポーツに関する基本的な考え方や基礎知識を有する。
②体力・運動能力の構成要素を示すことができる。
③運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識やトレーニング方法を提示できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①課題・レポート（40%）
- ②試験（60%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】
基礎から学ぶスポーツ概論（大修館書店）

【参考文献】
NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識（ブックハウスHD）、ストレングストレーニング&コンディショニング（ブックハウスHD）

■授業外学習

【具体的な内容】
高校時に使用した保健体育の教科書を準備し、内容を確認する

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

保健体育教員免許のほか、NSCA認定パーソナルトレーナー、CSCS（NSCA）、トレーニング指導者（日本トレーニング指導者協会）、健康運動指導士の基礎科目である。

科目名	栄養学[ス指]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小松 信隆

■講義の目的および概要

栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義、演習およびグループワーク

【課題に対するフィードバックの方法】

講義終了時に提出する小レポートによるフィードバック

■授業計画

- ①ガイダンス／五大栄養素
- ②三大栄養素
- ③三大栄養素の消化・吸収
- ④炭水化物と食事
- ⑤脂質と食事
- ⑥たんぱく質と食事
- ⑦ビタミンと食事
- ⑧ミネラルと食事
- ⑨大栄養素のエネルギー代謝
- ⑩各栄養素のバランスと食事①
- ⑪各栄養素のバランスと食事②
- ⑫食事摂取のタイミング
- ⑬ホルモンと食事摂取
- ⑭水分摂取のタイミング
- ⑮スポーツ栄養学のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツにおける食事の重要性を理解し、スポーツ種目それぞれにおける食事の内容やタイミングをイメージできるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

記述式による試験、定期試験70%および講義毎に提出する小レポート30%により評価

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教科書は使用せず

【参考文献】

新版生涯スポーツと運動の科学、佗美 靖・花井篤子編, 市村出版

■授業外学習

【具体的な内容】

必ず前回の授業内容を復習してから出席してください。また、常日頃からニュース・新聞などで、最近の社会や企業の動き・情報を入手するように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	発育発達論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	佐藤 文亮

■講義の目的および概要

ヒトは、生物界の種々の生体システムを継承して、直立二足歩行に適した身体を獲得した。この身体システムは、成人までの発育・発達の過程を通じて形成される。本講義の目的は、ヒトにいたるまでの進化の変遷について概観するとともに、成人までの発育・発達の過程について学修することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業形態は、教室での講義形式とし、パワーポイントやプリントを用いるなどして資料を視覚的に提示する。定期的に発育・発達に関するディスカッションを行うことを通じて、能動的学修を目指す。本講義は、運動生理学的視点から、ヒトの発育・発達の過程について研究を遂行してきた実績のある教員が担当する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説する。

■授業計画

- ①ヒトにいたるまでの進化の変遷
- ②発育、成熟および発達の定義
- ③形態の発育
- ④身体機能の発達
- ⑤運動発達
- ⑥運動学習
- ⑦運動スキル1 (乳児期～幼児期)
- ⑧運動スキル2 (少年期)
- ⑨発育発達期の心理的特徴
- ⑩発育発達期に多いケガや病気
- ⑪発育発達期の運動プログラム
- ⑫遊びの意義
- ⑬身体機能の発達および運動発達に関する測定法
- ⑭スポーツの活用
- ⑮講義のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

進化、発育、成熟や発達に関する内容を明確に理解し、ヒトの発育・発達における遊びやスポーツの意義を深く理解できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業ごとの小テスト (20%)	
レポート評価 (20%)	
定期試験 (60%)	

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

- ・高石昌弘著:からだの発達. 大修館書店, 東京.
- ・高橋たまき著:遊びの発達学. 培風館, 東京.
- ・藤原勝夫編著:運動機能解剖学. 北國新聞社, 石川.

■授業外学習

【具体的な内容】

事前および事後学習として、テキストや関連図書等を読んでおくこと。

【必要な時間】

事前および事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は下記の資格の対象科目です。

- ・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格 (公認コーチングアシスタント・ジュニアスポーツ指導員・アシスタントマネージャー)

科目名	人のからだと健康
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	大塚 吉則、尾崎 威文、樋口 善英

■講義の目的および概要

本講義では、健康の概念、生活習慣病などについて理解する。また、生活習慣病や介護予防について、身体活動が人のからだにどのような変化をおよぼすのかを学習し、その変化と人の健康との関連について理解する。また、ライフステージごとの運動やスポーツへの関わりを考え、その効果に関する理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パソコンによるスライドの映写と説明を主とする。
本講義は、内科医として診療している教員が、医療現場での臨床ケースを踏まえた実践的な授業を展開する。
やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。
本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに内容について発言を求める。

■授業計画

- ①健康の概念と制度
- ②介護予防概論
- ③生活習慣病（NCD）概論と特定健診・保健指導
- ④肥満症とメタボ
- ⑤高血圧
- ⑥脂質異常症
- ⑦糖尿病
- ⑧虚血性心疾患とリハビリテーション
- ⑨サルコペニア フレイル ロコモティブシンドローム
- ⑩運動に関連した内科的疾患 急性
- ⑪運動に関連した内科的疾患 慢性
- ⑫生体リズムと睡眠・健康
- ⑬気候療法
- ⑭温泉療法と健康増進
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
健康作りに対する運動の位置づけと理解することができる。
現代に多い疾病と傷害を理解し公的機関による政策や内容を知っている。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

毎回授業終了時の課題 (60%)
15回の授業終了後の最終課題 (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

manaba で授業内容のスライドを公開する。

■授業外学習

【具体的な内容】

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

課題提出期限を厳守すること。

科目名	バイオメカニクス
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	阿南 浩司

■講義の目的および概要

バイオメカニクスは、身体構造や力学などの知見をもとに、生理学などの関連知見もふまえて身体運動の仕組みを説明することを目指す学問である。本講義では、身体構造、運動力学および身体動作について理解することを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業形態は、主として教室での講義形式とする。パワーポイントやプリントを用いるなどして資料を視覚的に提示する。講義は、運動生理学およびバイオメカニクスの研究の実績を有する教員が実施する。関連する学問領域の先行研究および最新知見をふまえた内容を提示し、学生が、①身体構造および運動力学、②さらにその知識にもとづく身体動作について、理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①ヒトにいたるまでの進化の変遷
- ②身体構造と運動の力学的要因
- ③姿勢保持と日常生活動作
- ④姿勢および動作に関わる身体各部位の筋と骨格筋の収縮特性
- ⑤頭頸部の運動
- ⑥上肢の運動
- ⑦体幹、骨盤と下肢の運動
- ⑧前半の振り返りレポート
- ⑨歩行と走行
- ⑩跳動作
- ⑪投動作
- ⑫打動作
- ⑬蹴動作
- ⑭授業内試験
- ⑮まとめ 振り返りレポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

身体構造および運動力学を理解し、さらにその知識にもとづく身体動作を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

授業内小テスト・レポート (20%)
 レポート課題 (20%)
 授業内試験 (60%)

■テキスト・参考文献

【参考文献】

中村隆一、齊藤 宏、長崎 浩：基礎運動学。医歯薬出版、東京。
 監訳代表 嘉数侑昇、横井浩史：バイオメカニクス 生体力学の原理と応用。NTS
 ギャレット/カーケンダル：スポーツ運動科学—バイオメカニクスと生理学—。西村書店（総監訳 宮永豊）

■授業外学習

【事前学習】授業までに、該当する参考書内ページを熟読しておくこと。

【事後学習】授業後に、配布資料を読み返し、必要に応じて調べ学習を行うこと。また、関連する資格のテキストについて、該当する分野のページを学習すること。上記をふまえ、事前および事後学習には、それぞれ120分程度を要する。

■その他

本科目は下記の免許および資格の対象科目です。

- ・健康運動指導士
- ・トレーニング指導者(JATI)
- ・CSCS (NSCA)

状況によってはオンラインでの授業を実施することもある。

科目名	オリンピック論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	新井 貢

■講義の目的および概要

オリンピックはスポーツの祭典としてだけではなく、世界的なイベントとして注目されている。特に「東京オリンピック2020」の開催により、オリンピックはより身近に感じられるようになった。本講義では、オリンピック開催の意義について、これまでの歴史から学ぶとともに、オリンピックに携わった方々からの講話を通して、スポーツの持つ可能性を探る。また、パラリンピックについても学ぶことで、障がい者スポーツについても理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室での講義形式を基本とするが、グループワークを通して自分の考えと他の考えを客観的に判断し、今後のスポーツとの関わり方を身に付ける。本講義は、過去にスピードスケートで日本代表の経験を有し、現在はカーリングの指導者としてオリンピック出場を目指している教科担当が指導するほか、オリンピックに関わる外部講師による講話から実践的な学びを提供する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業レポートの質問、疑問点を、次の授業で全体に解説する。

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②古代オリンピックから近代オリンピックへ
- ③外部講師による講話①(オリンピック出場選手)
- ④オリンピックの歴史①
- ⑤オリンピックの歴史②
- ⑥外部講師による講話②(オリンピック出場指導者)
- ⑦オリンピックレガシーと経済効果
- ⑧札幌オリンピック1972の開催と2030誘致活動
- ⑨外部講師による講話③(札幌オリンピック関係者)
- ⑩オリンピックとスポーツボランティア
- ⑪パラリンピックの歴史
- ⑫外部講師による講話④(パラリンピック関係者)
- ⑬冬季オリンピックミュージアムでの体験学習①
- ⑭冬季オリンピックミュージアムでの体験学習②
- ⑮授業のまとめ、課題レポート

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

到達目標】

- ① オリンピックの意義を理解する
- ② オリンピックが様々な影響を与えていることを理解する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ① 授業の理解度、授業内小テスト(40%)
- ② グループワークでの説教的発言、発表(30%)
- ③ 課題レポート及びまとめのレポート(30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に無し

【参考文献】

必要に応じて配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、オリンピックにおける名場面を把握し、発表できるようにしておく。
事後学習として、授業で学んだ知識を実生活で発揮する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする

■その他

フィールドワークとして、札幌市ウインタースポーツミュージアムでの体験学習を授業時間以外で実施する。

科目名	レクリエーション実技
開講期・単位	2年 通年・選択 2単位・演習
担当者	本多 理紗

■講義の目的および概要

様々な課題を抱える現代社会において、レクリエーションの位置づけは個人及び集団におけるコミュニケーション能力を高めるための手段として、欠かすことの出来ないものとなっています。本講義は、レクリエーションを通じて、ホスピタリティやコミュニケーション能力の向上を目指し、目的や対象者にあわせたレクリエーション活動を展開、指導/支援できるような技能を身につけることが目的です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実技体験が主となりますが、単に体験するだけではなく、目的や対象にあわせた活動や展開方法を学ぶグループワークを行います。また、フィールドワークとして事業に参加することもあります。

本講義は、子どもから高齢者までの運動教室や介護予防等でレクリエーションを実施している実務経験のある教員が、目的や対象者に合わせたレクリエーション活動を展開し、アレンジできるようになる講義を実施します。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

1. 授業ガイダンス
2. レクリエーション活動の習得Ⅰ(ゲーム)
3. レクリエーション活動の習得Ⅱ(フィールドワーク①)
4. レクリエーション支援の方法Ⅰ(ホスピタリティ①)
5. レクリエーション支援の方法Ⅱ(ホスピタリティ②)
6. レクリエーション活動の習得Ⅲ(ニュースポーツ)
7. レクリエーション支援の習得Ⅳ(様々な活動)
8. レクリエーション支援の方法Ⅲ(アイスブレイキング①)
9. レクリエーション支援の方法Ⅳ(アイスブレイキング②)
10. レクリエーション支援の方法Ⅴ(アイスブレイキング③)
11. レクリエーション支援の方法Ⅵ(ハードルの設定)
12. レクリエーション支援の方法Ⅶ(CSSプロセス)
13. 安全管理の基礎① スポーツ行政の仕組みと実際
14. 安全管理の基礎② スポーツ・レクリエーション継続のための場づくり
15. 春学期のまとめ
16. 秋学期ガイダンス・動機づけの支援技術①
17. 動機づけの支援技術②
18. レクリエーション支援の方法Ⅷ(アレンジの基本と応用)
19. レクリエーション活動の習得Ⅴ(歌などを利用した身体活動)
20. レクリエーション活動の習得Ⅵ(フィールドワーク①)
21. レクリエーション活動の習得Ⅶ(フィールドワーク②)
22. レクリエーション活動の習得Ⅷ(ゲーム)
23. レクリエーション活動の習得Ⅸ(ニュースポーツ)
24. レクリエーション活動の習得Ⅹ(ニュースポーツ)
25. レクリエーション支援の実施Ⅰ(プログラム計画①)
26. レクリエーション支援の実施Ⅱ(プログラム計画②)
27. レクリエーション支援の実施Ⅲ(プログラム計画③)
28. レクリエーション支援の実施Ⅳ(プログラム発表①)
29. レクリエーション支援の実施Ⅴ(プログラム発表②)
30. レクリエーション支援の実施Ⅵ(プログラム発表③まとめ)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①個人及び集団でのコミュニケーション能力を高める。
- ②レクリエーションの重要性を理解し積極的に関わる姿勢を身につける。
- ③目的や対象にあわせたレクリエーション活動を展開、指導/支援することができる。
- ④スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①授業の理解度、小テスト（40%）
- ②レクリエーション活動の展開、支援法（40%）
- ③課題レポート・実技ノート（20%）

2023（令和5）年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』公益財団法人 日本レクリエーション協会

【参考文献】

『スポレク活動で健康寿命を延伸』公益財団法人 日本レクリエーション協会
『レクリエーション支援の技術』公益財団法人 日本レクリエーション協会

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習ノートにまとめてください。毎回の授業で、その日行ったレクリエーション活動の内容と感想を実技ノートにまとめてください。

日常的に笑顔であいさつが出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ、実践をしてください。

また、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

この科目は、「レクリエーション・インストラクター」「スポーツ・レクリエーション指導者」「ジュニアスポーツ指導員」の資格取得をするための必修科目です。レクリエーション・インストラクター等資格取得希望者履修とします。積極的にコミュニケーションを図るよう心がけてください。

科目名	レクリエーション理論
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	本多 理紗

■講義の目的および概要

本講義の目的は、レクリエーションの意義、レクリエーションインストラクターの役割やレクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解することです。さらに、楽しさを原動力としたレクリエーション事業についても学習をし、主体的に計画を立てて積極的に活動できる能力を身につけることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回講義形式とグループワークやディスカッション等を行います。また、グループでの発表も行い、能動的な学習を目指します。本講義は、子どもから高齢者までの運動教室や介護予防等でレクリエーションを実施している実務経験のある教員が、レクリエーションとは何かをレクリエーション支援者の視点から理解できる講義を実施します。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②レクリエーション概論（レクリエーション支援や役割）
- ③スポーツ・レクリエーション概論（スポレクとは）
- ④楽しさと心の元気づくりの理論①（楽しさを通した心の元気づくりと対象者の元気づくり）
- ⑤楽しさと心の元気づくりの理論②（心の元気と地域のきずな）
- ⑥レクリエーション支援の理論①（コミュニケーションと信頼関係づくりの理論）
- ⑦レクリエーション支援の理論②（良好な集団づくりの理論）
- ⑧レクリエーション支援の理論③（自主的、主体的に楽しむ力を育む理論）
- ⑨スポーツ未実施者参加促進法（スポーツ未実施者の現状など）
- ⑩スポーツ・レクリエーション生理学（高齢期の身体的特徴と運動効果を上げるポイント等）
- ⑪スポーツ・レクリエーション心理学（高齢期の心理的特徴とスポレクの心理的効果等）
- ⑫レクリエーション支援のプログラム（リスクマネジメントの方法）
- ⑬プログラムの立案（グループワーク①）
- ⑭プログラムの立案（グループワーク②）
- ⑮プログラムの発表・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①レクリエーションの意義やインストラクターとして必要な知識を理解することができる。
- ②レクリエーションの重要性を理解し、積極的に関わる能力を身につける。
- ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①提出物、発表 30%
- ②レクリエーションへの理解度、小テスト 40%
- ③課題レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』公益財団法人 日本レクリエーション協会

【参考文献】

『スポレク活動で健康寿命を延伸』公益財団法人 日本レクリエーション協会
 『レクリエーション支援の基礎』公益財団法人 日本レクリエーション協会
 『福祉レクリエーション総論』公益財団法人 日本レクリエーション協会

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、専門用語の意味などを予習ノートにまとめてください。毎回の授業で、前回の授業内容の復習問題や各都道府県において行われているレクリエーションの事業や気になるイベント等を調べる課題を出題しますので、ノートにまとめてください。

日常的に笑顔であいさつが出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ、実践をしてください。

また、科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします

■その他

この科目は、「レクリエーション・インストラクター」「スポーツ・レクリエーション指導者」資格を取得するための必修科目です。レクリエーション・インストラクター一等資格取得希望者履修とします。

学科関係なく多くの学生とコミュニケーションをとりますので、積極的に参加するよう心がけてください。

科目名	基礎演習 I [スポ指]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	佐藤 文亮、安田 純輝、林 満章、樋口 善英、阿井 英二郎

■講義の目的および概要

本授業の目的は、北海道にあるプロスポーツを、フィールドワークを通して、スポーツの果たす役割とその影響について調査、研究するために行う。
春学期2回プロスポーツを見学する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室での講義のほか、小グループで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、パワーポイントを使用しグループ全員でプレゼンテーションを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②スポーツの位置づけ（「スポーツ基本法」等）
- ③日常生活とスポーツの関係
- ④グループ研究の進め方（調査グループ分け）
- ⑤調査項目の設定Ⅰ（調査内容の検討）
- ⑥調査項目の設定Ⅱ（調査計画の設定）
- ⑦調査Ⅰ（スポーツ観戦を含む）
- ⑧調査結果の分析・考察Ⅰ
- ⑨調査項目の再確認、設定（グループワーク）
- ⑩調査Ⅱ（必要によりスポーツ観戦を含む）
- ⑪調査結果の分析・考察Ⅱ
- ⑫調査結果のまとめ、発表準備Ⅰ
- ⑬調査結果のまとめ、発表準備Ⅱ
- ⑭グループ研究発表
- ⑮授業のまとめ（課題レポート）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツの理解を深め、フィールドワークを通して、グループごとで課題を発見し、調査、分析、まとめ、発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①毎回の振り返りシート (40%)
- ②スポーツ観戦を通じた調査、分析、発表 (40%)
- ③課題レポート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて資料配布

■授業外学習

グループごとの予習、復習として、「スポーツ健康分野の基礎的知識」に関する情報収集・ニュースや新聞などを用いた最近の社会情勢の把握を推奨する。これらをふまえて、事前学習、事後学習は、それぞれ120分程度の時間を目安とする。

■その他

スポーツ指導学科以外の学生の受講は認めない。
 スポーツ観戦については入場料の一部個人負担がある。
 (1回 1,000円程度)

科目名	基礎演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	2年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	佐藤 文亮、安田 純輝、林 満章、樋口 善英、阿井 英二郎

■講義の目的および概要

本授業の目的は、北海道にあるプロスポーツを、フィールドワークを通して、スポーツの果たす役割とその影響について調査、研究するために行う。
秋学期2回プロスポーツを見学する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室での講義のほか、小グループで研究テーマや調査項目等を設定し、フィールドワークを実施する。その後、グループごとにディスカッションを通し、成果をまとめ、パワーポイントを使用しグループ全員でプレゼンテーションを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時間ごとに各グループから課題等の発表を行い、次週に向けての取り組み内容を確認する。

■授業計画

- ①授業ガイダンス（春学期の反省と秋学期の確認）
- ②北海道のスポーツ
- ③冬季スポーツの位置づけと現状
- ④グループ研究の進め方（グループの再編成）
- ⑤調査項目の設定Ⅰ（調査内容の検討）
- ⑥調査項目の設定Ⅱ（調査計画の立案）
- ⑦調査Ⅰ（スポーツ観戦を含む）
- ⑧調査結果の分析・考察Ⅰ
- ⑨調査項目の再確認、設定（グループワーク）
- ⑩調査Ⅱ（必要によりスポーツ観戦を含む）
- ⑪調査結果の分析・考察Ⅱ
- ⑫調査結果のまとめ、発表準備Ⅰ
- ⑬調査結果のまとめ、発表準備Ⅱ
- ⑭グループ研究発表
- ⑮授業のまとめ（課題レポート）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツの理解を深め、フィールドワークを通して課題を発見し解決能力や調査、分析、まとめ、発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①毎回の振り返りシート (40%)
- ②スポーツ観戦を通じた調査、分析、発表 (40%)
- ③課題レポート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて資料を配布する

■授業外学習

グループごとの予習、復習として、「スポーツ健康分野の基礎的知識」に関する情報収集・ニュースや新聞などを用いた最近の社会情勢の把握を推奨する。これらをふまえて、事前学習、事後学習は、それぞれ120分程度の時間を目安とする

■その他

スポーツ指導学科以外の学生の受講は認めない。
 スポーツ観戦については入場料の一部個人負担がある。
 (1回 1,000円程度)

科目名	コーチング論[ス指]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	阿井 英二郎

■講義の目的および概要

本講義の目的は、スポーツコーチングの基本理念について、以下の6つを学修し、スポーツ指導現場のみならず日常生活にも活かすことができる応用力を修得することを目指す。それらは、①優れたコーチ・指導者になるために必要とされる諸要因、②選手を強力に導くリーダーシップと適切な人間関係を結ぶ能力、③スポーツ現場において発生する諸問題を合理的に解決するための問題解決方略のスキル、④勝利へ導くマインドセット、⑤チームや組織をまとめるチーム・組織力、⑥選手を取り巻く様々な内外的および外的な環境要因をマネジメントする能力である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で行う。テーマごとにレポートを課し、講義内容の振り返りを行い、能動的な学習を目指し、必要に応じてグループワークを実施する。本講義は、スポーツコーチング現場での競技指導および実務経験を有する教員が、スポーツ心理学の学問分野をふまえながら、コーチングの基礎理論について理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス(本講義の概説と講義の進め方)
- ②コーチングの領域・意義
- ③コーチの行動・言動の領域(コーチに求められるもの)
- ④コーチング・ティーチング(ボトムアップ型・トップダウン型)
- ⑤セルフリーダーシップ論(1):基礎
- ⑥セルフリーダーシップ論(2):実践
- ⑦目的・目標設定の意義(1):目的の意義
- ⑧目的・目標設定の意義(2):目標設定の方法・目標設定実践
- ⑨ダブルゴールコーチング
- ⑩チームマネジメント
- ⑪コミュニケーションスキル(1):基礎
- ⑫コミュニケーションスキル(2):問題解決・実践
- ⑬コーチングにおける感情コントロール(アンガーマネジメント)
- ⑭コーチングにおけるセルフコントロール(メタ認知)
- ⑮授業内筆記試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツコーチングの本質を理解し、トップアスリートから初心者まで様々な競技者の意欲や自主的な活動を促すことと指導者が与える心理面、言葉の効果と影響を十分に理解し、現場における指導者として問題解決能力とその指導法を説明できること、身につけることを目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業参加レポート・提出物:30%
 筆記試験:70%

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】
 適宜プリントを配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】【必要な時間】

事前及び事後学習は、授業内容に関する文献及び書籍を通じて調べ学習を行うこと。事前および事後学習には、それぞれ120分程度を要する。

■その他

科目名	運動生理学
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・講義
担当者	国田 賢治

■講義の目的および概要

運動生理学は、生体またはその一部である器官・細胞などにおける、身体運動と関連する機能を対象とした学問である。本授業では、運動生理学の知識を身につけさせるとともに、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法を習得させることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業形態は、主として教室での講義形式とする。パワーポイントやプリントを用いるなどして資料を視覚的に提示する。定期的に振り返りシートを課し、学生自ら講義内容の振り返りやディスカッションを行うことを通じて、能動的学習を目指す。本講義は、運動生理学的研究の実績を有する教員が、運動生理学の知識を身につけさせるとともに、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法を理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②運動と神経機能 I 反射運動
- ③運動と神経機能 II 随意運動
- ④運動と筋
- ⑤運動とエネルギー代謝
- ⑥運動と呼吸機能
- ⑦運動と循環機能
- ⑧運動と体温調節
- ⑨運動発達と運動学習理論
- ⑩身体機能の老化と運動実践
- ⑪神経機能測定法・分析法 I 先行研究の紹介
- ⑫神経機能測定法・分析法 II 最新知見の紹介
- ⑬呼吸機能測定法・分析法
- ⑭循環機能測定法・分析法
- ⑮ふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

運動生理学の知識および、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「スポーツ健康分野に関する基礎的知識と技能の科学的視点からの理解およびそれを基にした専門知識、技能の修得」に基づき、生体またはその一部である器官・細胞などにおける、身体運動と関連する機能を理解し、さらにその知識にもとづく身体機能の測定および分析法を修得する。その学びを通じて、地域や学校教育に貢献できる指導技法を身につける。学位授与方針「スポーツ健康分野に関する基礎的知識と技能の科学的視点からの理解およびそれを基にした専門知識、技能の修得」および「スポーツ健康分野の課題分析力の修得」に繋がるスポーツ健康分野の現状を認識する。

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

振り返りシート (20%)

レポート課題 (20%)

定期試験 (60%)

■テキスト・参考文献

【参考文献】

藤原勝夫編著：運動機能解剖学。北国新聞社。

■授業外学習

【具体的な内容】

運動生理学の知識および、その知識にもとづいた身体機能の測定法・分析法をメインテーマとして授業を実施する。関係する資料検索・收拾を行い、学習の準備をすること。毎時間ごとに、自身の作成したノートを振り返り、調べ学習を行うこと。

【必要な時間】

事前および事後学習は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	スポーツ統計学
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	小林 秀紹

■講義の目的および概要

スポーツ科学研究やトレーニングの現場で必要となる統計処理の基礎知識およびデータの集計や統計解析技術の基礎を身につけることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

統計についての講義およびMicrosoft Excelを用いた演習を実施します。主に情報教育センターでコンピューターを利用し、e-ラーニングシステムを使用して授業を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

e-ラーニングシステムでフィードバックします。

■授業計画

- ①統計の基本的考え方
- ②尺度について
- ③評価方法
- ④割合・比率
- ⑤代表値
- ⑥散布度
- ⑦表計算
- ⑧関数
- ⑨標準得点
- ⑩グラフ表現
- ⑪相対評価
- ⑫記述統計
- ⑬相関
- ⑭予測
- ⑮統計解析法まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①測定内容および目的に応じたデータの処理ができるようになる。記述統計の各統計量を計算できる。
 1. 尺度の水準を理解できる。
 2. 代表値（平均、中央値、最頻値）および分散（平均偏差、標準偏差）を計算できる。
 3. 条件をソートし、グループごとの集計をし、頻度、分割表を作成できる。
- ②統計の基本的な概念を理解し、記述統計および推測統計の関係を理解する。
 1. 偏差値を算出し、その意味を理解できる。
 2. 散布図の作成、相関係数の算出、回帰分析を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

授業時テスト（100%）によって評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外学習 e-ラーニングで学習してください。Microsoft Excelを使用します。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	野外活動理論・演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	吉沢 直、新井 貢

■講義の目的および概要

自然と親しみながら野外で楽しく活動するための知識、技術、態度を身につける。また、子どもたちの「生きる力」を育むために有効とされる、自然体験学習を理解するとともに、自然に親しみ、大切にすることを養うなど環境教育に対する意識も高める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半の8回は講義と演習を主として学内での通常授業を行い、野外活動の意義や安全対策など理論を身に付けるとともに、実習に向けての準備を行う。後半7回は集中講義における実習とし、小グループで課題を解決するためのグループワークやディスカッションを行い、与えられた課題であるイグルーを完成させる。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて課題を果たし、授業内において解説する。また、授業後にも時間を割いて個別指導を行う。

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②野外活動の教育的位置づけと現状
- ③野外活動の事例紹介と事業計画における留意点
- ④野外活動におけるリスクと安全対策
- ⑤事業計画Ⅰ（グループワーク）
- ⑥事業計画Ⅱ（発表）
- ⑦演習Ⅰ（学内において実施可能なプログラム）
- ⑧演習Ⅱ（学内において実施可能なプログラム）
- ⑨～⑮
集中講義（2日間）
授業のまとめ及び課題のレポートも含む

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①野外活動における基本的な知識、技能、態度を身につけることができる。
- ②自然体験活動の重要性を理解するとともに、環境に対する意識も高めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①野外活動に対する理解及び確認テスト（40%）
- ②実習での実践（40%）
- ③課題レポート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、自然に親しみ野外活動に参加するなど、積極的に体験する。
 事後学習として、授業で身につけた知識、技術をボランティアとして指導実践する。

【必要な時間】

事前事後学習は、2時間を目安とする。

■その他

前半の授業で3分の2以上の出席が満たされない者、及び理論を理解できない者の実習参加は認めない。
 実習費として1,000円程度の自己負担がある。

科目名	スポーツ傷害と予防
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	後藤 ゆり

■講義の目的および概要

本講義では、スポーツ活動に関連して起こりうる傷害について、その発生要因や症状、性・年齢・競技種目などによる特徴について理解する。また、スポーツ傷害予防の観点から、スポーツ指導者として身につけておくべき知識や対応の仕方を習得する。さらに、対象者に安全な運動プログラムを作成・提供するために必要な知識と理論を学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

主として教室で講義を展開し、スポーツ傷害について、発生要因や症状、性・年齢・競技種目による特徴および予防の観点から解説する。また、スポーツ傷害についてより深い理解を得るためにディスカッションやグループワークを行う。さらに、スポーツテーピングなどの実習を行い実践的な知識・技術を修得できるような講義を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題やレポートについては、学生の意見を講義の中で紹介し意見交換を行うなどして学生にフィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション（運動器の障害の基本像）
- ②内科的障害
- ③頭部・頸部の傷害
- ④肩関節の傷害
- ⑤肘・手関節の傷害
- ⑥体幹の傷害
- ⑦骨盤・股関節の傷害
- ⑧大腿の傷害
- ⑨膝関節の傷害
- ⑩足関節・足部の傷害
- ⑪スポーツテーピングの実際（1）
- ⑫スポーツテーピングの実際（2）
- ⑬運動プログラム作成の理論（1）
- ⑭運動プログラム作成の理論（2）
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツ傷害について、発生要因や症状、性・年齢・競技種目などによる特徴について説明できる。また、スポーツ傷害の予防について具体例を示しながら論述することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

期末レポート 40%
 講義後の感想レポート 30%
 講義内での課題 30%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

- ・「基礎から学ぶ！スポーツ障害」 鳥居俊 著 ベースボール・マガジン社
- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下）
- ・その他適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・毎回の講義で扱う範囲に基づき基礎的な人体解剖の知識について予習する。
- ・毎回の講義内容について各自のスポーツ活動に当てはめて事例を用意し、次回講義でのディスカッションやグループワークなどに活用する。
- ・各自の興味のあるスポーツでの傷害予防について情報収集を行う。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は下記の資格の対象科目である。

- ・トレーニング指導者(JATI)
- ・健康運動指導士

科目名	衛生学及び公衆衛生学
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	後藤 ゆり

■講義の目的および概要

本講義では、病気の予防、健康の保持・増進のため、環境と生体の反応について、科学的根拠の解説や事例検討などをとおして理解を深める。また、地域集団の健康に関わる課題が、経済・政治・文化・社会などと密接に関わっていることを確認する。疾病予防と身体活動・運動の関連についても学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

主として教室で講義を展開する。パワーポイントによるプレゼンテーション、ビデオなども活用する。また、公衆衛生分野の課題に対してグループワークやディスカッション、実習を行いより深い理解を得る。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題やレポートについては、学生の意見を講義の中で紹介したり、グループワークのテーマとしたりして、学生にフィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②衛生学・公衆衛生学とは
- ③健康づくり施策
- ④運動基準・運動指針
- ⑤疫学Ⅰ（疫学の歴史と手法）
- ⑥生活習慣病と運動疫学
- ⑦疫学Ⅱ（事例検討）
- ⑧感染症Ⅰ（感染症とは）
- ⑨感染症Ⅱ（事例検討）
- ⑩食品衛生
- ⑪環境保健
- ⑫産業保健
- ⑬高齢者保健・障害者保健
- ⑭国際保健・母子保健
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

衛生学・公衆衛生学の成り立ちや役割を説明できる。また、地域集団の健康課題について、関連要因を具体的に示しながら論述することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

期末レポート 40%
 講義後の感想レポート 30%
 講義内課題 30%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（上）
- ・その他適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・毎回の講義で扱う範囲に基づき事例などについて予習する。
- ・毎回の講義内容について関連する課題を用意し、次回講義でのディスカッションやグループワークに活用する。
- ・健康や疾病予防に関する身近な出来事に興味関心を持ち、関連する情報を収集し理解すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は下記の免許および資格の対象科目である。

2023（令和5）年4月1日

- ・保健体育科教員免許（教科に関する科目）
- ・健康運動指導士

科目名	測定と評価
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	小林 秀紹

■講義の目的および概要

体格、体力および運動能力について適切な測定と評価ができるようになる。体力・運動能力の構成要素について理解し、それぞれの適切な測定法と評価法を習得する。新体力テストの適切な測定方法を理解し、評価の仕方を学ぶ。対象特性に応じた適切な測定項目を選択し、評価し、効果的なフィードバックの仕方を理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習形式および現場での実習（小学校や外部スポーツ団体）を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

Eラーニングで行います。

■授業計画

- ①体力と運動能力（構成要素）・体力構成要素の測定法
- ②新体力テストの測定法
- ③身体組成の測定理論および測定法
- ④フィールドテスト（屋外）の実習
- ⑤フィールドテスト（屋内）の実習
- ⑥フィールドテスト（評価）の実習
- ⑦筋力、筋パワー等の測定法（1）
- ⑧筋力、筋パワー等の測定法（2）
- ⑨全身持久力、筋持久力の測定法（運動負荷試験）（1）
- ⑩全身持久力、筋持久力の測定法（運動負荷試験）（2）
- ⑪幼児およびジュニアの体力測定法
- ⑫高齢者の体力測定法
- ⑬介護予防に関する体力測定法とその評価
- ⑭データの処理法、フィードバックの仕方
- ⑮まとめ（授業内試験）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①新体力テストを適切に測定および評価することができる。
- ②年齢段階に応じた注意点を理解する。
- ③競技スポーツにおける特異性を考慮したパフォーマンスの測定評価が適切に実施できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

指定した実習への参加を前提に評価します。
 取組（20%）、授業内試験（80%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜提示します。

【参考文献】

健康運動指導士養成講習会テキスト、NSCAストレングス&コンディショニング、JATIテキスト

■授業外学習

【具体的な内容】

本科目の内容についてスポーツ統計学で関連学修を行います。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

NSCAのCSCSおよびJATIのトレーニング指導者、健康運動指導士各資格の対象科目です。
 外部実習があるので科目の時間割前後に移動の時間を要します。

科目名	ダンス
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	赤川 智保

■講義の目的および概要

当該教科は学習指導要領（中学校・高等学校の保健体育）に基づいた学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点を当て、「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」と示されている多様なダンスを学びます。ダンスには「踊る」「創る」「観る」の三つの要素があり、それらを通してそれぞれの楽しさを体験すると共に技能を高め、学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業計画を行う方法を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回、ストレッチを行ってから実技を行います。グループでの創作ダンスの発表を行った後、グループによる模擬授業を行います。また、ダンス作品を鑑賞しレポートを提出します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、振り返りシートに記入し、理解度を確認して助言します。

■授業計画

- ① ガイダンス（ダンスのいま）
- ② ダンス基礎Ⅰ（呼吸法 様々なステップのバリエーション）
- ③ ダンス基礎Ⅱ（様々なジャンプ、ターンのバリエーション）
- ④ フォークダンス（課題曲）
- ⑤ 現代的なリズムのダンス（課題曲）
- ⑥ 日常の動きを使って（小道具を使って）
- ⑦ ダンスの指導法Ⅰ（空間形成・フォーメーション・カウントの取り方・構成・演出・選曲・指導上の留意点）
- ⑧ 創作ダンスⅠ（グループワーク）
- ⑨ 創作ダンスⅡ（グループワーク）
- ⑩ 創作ダンスⅢ（グループワーク）
- ⑪ ダンス作品発表 実技試験・衣裳着用
- ⑫ 模擬授業Ⅰ 指導案の書き方・教授法
- ⑬ 模擬授業Ⅱ 発表と振り返り
- ⑭ 模擬授業Ⅲ 発表と振り返り
- ⑮ ダンス関連の作品映像の鑑賞 レポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① ダンスの基本となる体作りとテクニックを身につける。
- ② 多様な表現方法を通して課題に応じた動きを工夫し、小作品を構成して踊ることができるようになる。
- ③ 他者と関わることでコミュニケーション能力を高め互いに協力し健康や安全を保持することができるようになる。
- ④ スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- | | |
|------------|--------------|
| ① 実技発表 | 60%（発表・模擬授業） |
| ② 取り組み・達成度 | 20% |
| ③ レポート | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

その都度、必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

小学校指導要領、中学校指導要領体育編（平成29年6月文部科学省）高等学校指導要領体育編（平成29年3月）同解説（平成29年6月文部科学省）

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で習得したストレッチやステップなどのエクササイズ、カウントの取り方などは、各自で必ず復習してから臨んでください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

指導者になる心構えをもって受講して下さい。

マスク（不織布）の着用、ジャージなどの運動にふさわしい服装で参加してください。筆記用具、タオル、水分補給の用意をしてください。裸足かソックスで行います。髪の毛が長い場合は結び、運動にふさわしくない服装では受講できない場合があります。

科目名	テニス[スポ指]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	佐藤 文亮

■講義の目的および概要

本講義の目的は、生涯・競技スポーツとしてのテニスを実践する上で必要な知識と技術を、運動生理学、健康科学およびコーチング等の観点から修得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、テニスコートと教室である。授業冒頭の10分程度を用いて、テニスを実施・指導する上で必要な知識や技術についての講義を行い、その後、テニスの実践を多く行う。個々それぞれに技術指導を行うが、必要に応じてグループワークを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、テニス指導の実績を有する教員が担当する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、テニスに関する知識や技術を基にした課題レポートを課す。課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説を行う。

■授業計画

- ①テニスの基本的ルールと動作について
- ②ラケットの握り方と、場面に応じた握り方の違い
- ③フォアハンドストローク
- ④バックハンドストローク
- ⑤グラウンドストローク
- ⑥ボレー (基本編)
- ⑦ボレー (実践編)
- ⑧スマッシュ
- ⑨サーブ&レシーブ (基本編)
- ⑩サーブ&レシーブ (実践編)
- ⑪シングルスゲームのルール
- ⑫ダブルスゲームのルール
- ⑬指導計画の立案
- ⑭指導計画の実践
- ⑮技能テストとふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

テニスの実施・指導を行う上で必要な知識と技術を修得する。さらに、修得した技術を洗練させ、個々に適した返球技術を身につけることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①授業への参加レポート 40%
- ②技能の向上 20%
- ③課題レポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する。

【参考文献】

・テニス教本:公益社団法人日本プロテニス協会、日本スポーツ企画出版社

■授業外学習

【具体的な内容】

テニスに関する文献研究、および文献購読を事前・事後学習とする。

【必要な時間】

事前・事後学習は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業時は、トレーニングウェアまたはユニフォーム、スポーツシューズを着用すること。テニスラケットやシューズを所有している学生は、持参してもよい。

科目名	冬季スポーツ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	小林 秀紹、新井 貢

■講義の目的および概要

北海道における冬季スポーツの位置づけ及び競技特性を理解し、基本的な技能を習得するとともに、指導者としての資質、能力を高める。また、安全に楽しく親しめるような指導法を身につける。この授業ではスケートを中心に展開し、スノーボードの体験も行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

課題に対するフィードバックの方法 集中講義として公共のスケートリンクへ移動しての授業展開となる。スケートの基本技能を習得するとともに、指導法についても理解する。また、スキー場でのスノーボード体験学習も行う。スケートを専門とする担当教員が、競技の特性および専門的知識を含め、質の高い授業を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて課題を果たし、授業内で解説する。

■授業計画

- ①授業ガイダンス（ポータルにて日程を確認すること）
- ②講義Ⅰ（スケートの現状と課題）
- ③講義Ⅱ（スケートの指導法と評価基準）
- ④スケートの基本技能Ⅰ（安全な滑り方）
- ⑤スケートの基本技能Ⅱ（ストレート滑走）
- ⑥スケートの基本技能Ⅲ（コナーワーク）
- ⑦スケートの応用技能Ⅰ（総合滑走）
- ⑧スケートの応用滑走Ⅱ（実技テスト）
- ⑨スケートの応用滑走Ⅲ（アイスホッケー体験）
- ⑩講義Ⅲ（スノーボード体験のガイダンス）
- ⑪スノーボードの基本Ⅰ（安全な滑り方）
- ⑫スノーボードの基本Ⅱ（基本ターン）
- ⑬スノーボードの応用Ⅰ（連続ターン）
- ⑭スノーボードの応用Ⅱ（総合滑走）
- ⑮授業のまとめ（課題レポート）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①北海道における冬季スポーツの位置づけと現状を理解できる
- ②スケートに親しむ態度、技術、指導法を身につけることができる
- ③スノーボードの特性、安全に楽しむ態度を身につけることができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ① 技能の習得と実技テスト（50%）
- ② 競技特性、指導法の理解（30%）
- ③ 課題レポート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、冬季スポーツに関する新聞、ニュース等で関心を深める
事後指導として、授業で身に付けた知識、技術を、実際に施設を利用し実践する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

受講学生が多い場合は、教職履修学生を優先する。
スケート、スノーボードの用具を借りる場合は実費負担となる。
スケート500円×2回、スノーボード2,200円（昨年度実績）

科目名	野球・ソフトボール
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	平澤 芳明、阿南 浩司、阿井 英二郎

■講義の目的および概要

本講義の目的は、以下の2点である、①コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技能（投、捕、打）を向上させる。②野球・ソフトボールにおける技術の上達のコツを探る中で、その指導方法も併せて学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実技、演習および講義を行う。毎回、振り返りシートを記入し、授業内容の振り返りを行う。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、野球における運動学習法の研究の実績を有する教員、および指導現場での実務経験のある教員が、コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技能を向上させる手法について理解できる講義を実施する。実技を実施する場所は、野球場および第二体育館とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①導入：（ガイダンスおよび野球・ソフトボールに関する導入講義）
- ②グループワーク1：（チーム決定）
- ③グループワーク2：（チーム目標・活動内容・役割分担についてのディスカッション）
- ④グループワーク3：（練習内容・ポジションについてのディスカッション）
- ⑤実技1：ピッチング理論・解説（投球動作の学習）
- ⑥実技2：チーム練習1（屋外と屋内に分かれた展開）
- ⑦実技3：バッティング理論・解説（打撃動作の学習）
- ⑧実技4：チーム練習2（屋外での展開）
- ⑨グループワーク4：（前半の振り返りと後半のゲームに向けた打ち合わせ）
- ⑩グループワーク5：（ゲームの展開方法のディスカッション）
- ⑪ゲーム1：（テーマ：ソフトボール：打つ・投げるの基本技術ができる、チームで協調したプレーができる）
- ⑫ゲーム2：（テーマ：野球の入門編：打つ・投げるの基本技術ができる）
- ⑬ゲーム3：（テーマ：野球の応用編1：状況に応じたプレーができる）
- ⑭ゲーム4：（テーマ：野球の応用編2：チームで協調したプレーができる）
- ⑮グループワーク6：（まとめ：授業の振り返り：レポート作成とプレゼンテーション）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

コーチング、運動生理学およびバイオメカニクスの観点から野球・ソフトボールの運動技術（投、捕、打）の理解を深め、実践現場での指導方法を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業内活動レポート	40%
チームレポート	20%
実技・発表	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】
適宜プリントを配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業の範囲について、野球・ソフトボールに関する文献および書籍を通じて調べ学修を行ってください。また、授業後には、学修した内容を復習してください。定期的に、授業後に小レポートを実施しますので、事前学習および事後学習の内容を記入して提出してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

トレーニングウェアまたはユニフォームを着用すること。グラブを所有している学生は持参すること。

状況によってはオンラインでの授業を実施することもある。

科目名	卓球
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	国田 賢治

■講義の目的および概要

本講義の目的は、生涯・競技スポーツとしての卓球を実践する上で必要な知識と技術を生理学、解剖学、力学およびコーチング等の観点からふまえて解説するとともに、実践を通じて習得することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業のはじめに、知識と技術を解説し、その後、卓球の実践を多く行う。個々それぞれに指導する。習得した技術を用いてゲームを多く体験する。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学習を目指す。本講義は、卓球の競技経験と指導の実績を有し、運動生理学を研究する教員が担当する。科学的観点から卓球の運動技能を向上させる手法について理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①伸張反射、弾性エネルギーとラケット動作
- ②上肢（上腕・前腕・手）の構造とラケット操作
- ③ラケット操作法および肩・肘・手首の連関運動の個人差
- ④個々に適した速いスマッシュ法の習得
- ⑤シングルスゲームのルール
- ⑥ダブルスゲームのルール
- ⑦片足立ちの安定性の左右差とフットワーク
- ⑧リズム運動の自動化と他動作挿入によるリズムへの干渉
- ⑨レシーブ時の身構え姿勢と反応動作
- ⑩認知・判断にもとづくレシーブの遂行とフェイント
- ⑪回転あるボールの軌跡・はねかえりとレシーブ
- ⑫ボールの回転を変えるドライブ打法とそれを支える姿勢調節
- ⑬サーブの種類と球への回転の加え方
- ⑭リーグ戦・トーナメント戦の運営
- ⑮技能テストとふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

卓球の実施・指導を行うのに必要な知識と技術を習得する。さらに、個々に適した返球ができること、あるいは返球における洗練した技術を習得することのいずれかを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「スポーツ健康分野の基礎的知識、技能の習得およびそれを基にした専門知識、技能の習得」に基づき、卓球の技能および専門知識の修得を通じて、地域や学校教育に貢献できる指導技法を身につける。学位授与方針「スポーツ健康分野に関する基礎的知識と技能の科学的視点からの理解およびそれを基にした専門知識、技能の修得」および「スポーツ健康分野の課題分析力の修得」に繋がるスポーツ健康分野の現状を認識する。

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①振り返りシート 40%
- ②技能の向上 20%
- ②課題レポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回、授業の最後10分程度を用いて、卓球を実施・指導する上で必要な知識と技術についてのレポート課題を述べる。このため、前回および次回の授業の範囲について、卓球に関する文献および書籍を通じて調べ学習を行うこと。

【必要な時間】

事前および事後学習の目安は、それぞれ2時間とする。

科目名	ストレングス・コンディショニング
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	小林 秀紹、橋本 文音

■講義の目的および概要

本講義は、スポーツ現場において安全でかつ効果的なウエイトトレーニングの理論から指導実践までを学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と実技を交えて行います。
グループワークも取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

本講義は、健康運動指導士、NSCA (CSCS, CPT) ・ JATI-ATIの資格対象科目です。毎講義で提示する課題レポートの提出が必要となります。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②ウエイトトレーニングの基礎/ウォーミングアップの理論と実践
- ③下肢エクササイズの理論と実践I
- ④下肢エクササイズの理論と実践II
- ⑤上肢エクササイズの理論と実践I
- ⑥上肢エクササイズの理論と実践II
- ⑦ピリオダイゼーションとプログラムデザインI
- ⑧パワーエクササイズの理論と実践I
- ⑨パワーエクササイズの理論と実践II
- ⑩パワーエクササイズの理論と実践III
- ⑪ピリオダイゼーションとプログラムデザインII
- ⑫エクササイズまとめI
- ⑬エクササイズまとめII
- ⑭筆記/実技テスト
- ⑮筆記/実技テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

指導現場において理論に基づいたトレーニング指導が実践できることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

課題レポート：40%
 実技テスト：40%
 筆記テスト：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜配布します。

【参考文献】

『ストレングス&コンディショニング』Book House HD 2018
 『トレーニング指導者テキスト』理論編/実践編 日本トレーニング指導者協会
 『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』公益財団法人 健康・体力づくり事業財団

■授業外学習

【具体的な内容】

課題レポートの作成
 週2回程度の実技の復習

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本講義は、ウェイトトレーニングルームで行いますので、室内シューズと運動できる3（令和5）年4月1日
服装を用意してください。

科目名	体カトレーニング演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	阿南 浩司

■講義の目的および概要

本講義では、体カトレーニング理論を中心に学び、修得した技法を実践現場で活用できるようにすることを目的とする。授業の2/3を演習形式とし、トレーニングに関連した基礎知識、トレーニング現場での最新のトピックスを紹介し、学生間で討議する。代表的なトレーニング法を演習形式で学修しながら、最終的には自分自身でトレーニング・プログラムを作成できるようにする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習および講義形式で行う。毎回、振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行う。必要に応じて、グループワークやプレゼンテーションを実施し、能動的学修を目指す。本講義は、運動生理学およびバイオメカニクスを専門とする研究の実績を有する教員が実施する。競技経験および運動学習法の研究をふまえ、アスリートのパフォーマンスを向上させるトレーニング方法について理解できる演習および講義を実施する。実技を実施する場所は、教室、トレーニングルームおよび体育館とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- 1: 体カトレーニング概論
- 2: ストレッチングと柔軟体操の実践
- 3: ウォーミングアップとクーリングダウン
- 4: ウォーキングとジョギング(1) 歩行と走行の違い
- 5: ウォーキングとジョギング(2) トレーニング
- 6: フリーウェイトトレーニング(1) 最大反復法
- 7: フリーウェイトトレーニング(2) 最大筋力養成法
- 8: マシントレーニング
- 9: スピード・トレーニング
- 10: 持久的トレーニング
- 11: 種目別トレーニングの実践例 (1)個人種目・記録競技
- 12: 種目別トレーニングの実践例 (2)球技
- 13: トレーニングプログラム(1) 計画の作成
- 14: トレーニングプログラム(2) 計画の発表
- 15: まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

体カトレーニングの位置づけ・分類についての理解を深め、実践でのトレーニング方法について学修する。また、トレーニング計画の立案能力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び、続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①授業内レポート 20%
- ②演習課題 20%
- ③トレーニング計画表レポート 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

藤原勝夫・外山寛：身体活動と体カトレーニング. 日本出版サービス
 藤原勝夫：運動機能解剖学. 北國新聞社
 村木征人：スポーツ・トレーニング理論. ブックハウスHD
 中村隆一 斎藤宏 長崎宏：基礎運動学. 医歯薬出版株式会社
 健康運動指導士養成講習会テキスト（健康・体づくり事業財団）、その他随時資料を配布する。

■授業外学習

【事前学習】体カトレーニング論で学修した内容を復習する。

2023（令和5）年4月1日

【事後学習】

健康運動指導士、トレーニング指導者（JATI）、CSCS（NSCA）の資格関連テキストを熟読する。上記の内容をふまえ、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする

■その他

演習時において、運動着、運動靴を準備すること。また、毎回、筆記用具を持参すること。雨天時に備えた準備を行うこと。

本科目は下記の免許および資格の対象科目です。

- ・健康運動指導士
- ・トレーニング指導者（JATI）
- ・CSCS（NSCA）

状況によってはオンラインでの授業を実施することもある。

科目名	運動生理学演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	佐藤 文亮、国田 賢治

■講義の目的および概要

本講義の目的は、身体機能の神経一筋系および呼吸循環系の測定法と分析法を演習形式で理解させることである。フィールドワーク等実践的学習の場に参加することができる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で授業を行う。毎回、振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行う。必要に応じて、グループワークを実施し、能動的学習を目指す。本演習は、運動生理学関連の研究を遂行してきた実績を有する教員が、身体機能の神経一筋系および呼吸循環系の測定法と分析法について理解できる講義を実施する。実習を行う場所は、教室および測定室とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で資料を配布し、適宜解説する。

■授業計画

身体機能の測定法と分析法を概説する。その後、小グループに分かれて測定・分析を行う。

- ①オリエンテーション
- ②筋電図の測定
- ③筋電図の分析
- ④眼球運動反応時間の測定・分析
- ⑤脳波（感覚誘発電位と事象関連電位）の測定・分析
- ⑥運動機能に影響を与える形態の計測
- ⑦脊髄反射（H波）の測定・分析
- ⑧磁気刺激時の運動誘発電位の測定・分析
- ⑨安静立位姿勢保持機能の測定・分析
- ⑩随意運動時の予測的姿勢調節の測定
- ⑪随意運動時の予測的姿勢調節の評価
- ⑫運動時の心拍数の測定・分析
- ⑬運動時の酸素摂取量の測定・分析
- ⑭運動時の心拍出量の測定・分析
- ⑮ふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

身体機能の神経一筋系および呼吸循環系の測定法と分析法を習得する。これをふまえ、スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「スポーツ健康分野に関する基礎的知識と技能の科学的観点からの理解およびそれを基にした専門知識、技能の修得」に基づき、身体機能の神経一筋系および呼吸循環系の測定法と分析法の修得を通じて、地域や学校教育に貢献できる指導技法を身につける。学位授与方針「スポーツ健康分野に関する基礎的知識と技能の科学的視点からの理解およびそれを基にした専門知識、技能の修得」および「スポーツ健康分野の課題分析力の修得」に繋がるスポーツ健康分野の現状を認識する。

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業レポート（40%）と最終レポート課題（60%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する。

【参考文献】

- ・藤原勝夫・外山寛著：身体活動と体カトレーニング. 日本出版サービス
- ・宮下充正・石井喜八編著：新訂 運動生理学概論. 大修館書店

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時間の授業前までには少なくとも、該当する身体機能の測定法ならびに分析法について、関連図書などを読んで事前学習しておくこと。また、授業後には、自身の作成したノートおよび配布資料の振り返りを行うこと。

【必要な時間】

事前および事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを実施する場合がある。

■その他

授業で行った内容について、毎回レポートを課す。

科目名	スキー
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	吉沢 直、田部井 祐介

■講義の目的および概要

本授業では、冬季スポーツの競技特性を理解し、実習にてスキー技術のスキルアップ、安全管理、基本理論等を習得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

集中講義での開催となりますので3日間の実習（宿泊を伴う可能性有）となり、スキー場にて講義、実習を行います。
スキーレベルに応じた講習を基本としますが人数により多少変動する事もあります。
各レベルに応じたインストラクターの配置もあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習中に指導員からアドバイス

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②理論講習 ウィンタースポーツ基礎知識
- ③実技実習 班編成
- ④実技実習 環境とスキーに慣れる
- ⑤実技実習 ポジション確認
- ⑥実技実習 安全な転び方
- ⑦実技実習 ブルークボーゲン
- ⑧実技実習 ブルークターン
- ⑨実技実習 シュテムターン
- ⑩実技実習 パラレルターン
- ⑪実技実習 大回りターン
- ⑫実技実習 小回りターン
- ⑬実技実習 斜面や自然環境の変化
- ⑭実技実習 仮検定
- ⑮実技実習 振り返り（レポート作成）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スキー理論を理解し、個々の目標設定を行い、目標到達に向け安全で楽しいスキー技能と資質を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

目標設定と到達、技能の習得と仮検定、集中講義中の取り組み 70%
 レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

日本スキー教程 公益財団法人全日本スキー連盟（著）

■授業外学習

【具体的な内容】

実習前後は各自でストレッチ等のケアを行ってください。
 冬季間運動不足になりますので、実習前は各自でトレーニングを行なってください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

2023（令和5）年4月1日

- * 講習場所、日程に関しては秋学期に発表します。
- * この集中講義は実習費が発生します。（秋学期発表）
- * 集中講義（宿泊を伴う可能性有）になりますので、履修届と一緒に参加費を徴収します。
- * 履修取り消しがあった場合は参加費のキャンセル料が発生する場合があります。
- * スキー技術習得が目的ですので、各自で用具は用意してください。（レンタルあり）

科目名	スノーボード
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	吉沢 直、田部井 祐介

■講義の目的および概要

本授業では、冬季スポーツの競技特性を理解し、実習にてスノーボード技術のスキルアップ、安全管理、基本理論等を習得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

集中講義での開催となりますので3日間（宿泊を伴う可能性有）での実習となり、札幌近郊のスキー場にて講義、実習を行います。
スノーボードレベルに応じた講習を基本としますが人数により多少変動する事もあります。
各レベルに応じたインストラクターの配置もあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習中に指導員からアドバイス

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②理論講習 ウィンタースポーツ基礎知識
- ③実技実習 班編成
- ④実技実習 環境とスノーボードになれる
- ⑤実技実習 ゲレンデの移動と待機の基本
- ⑥実技実習 安全の確保
- ⑦実技実習 フロントサイドターン
- ⑧実技実習 バックサイドターン
- ⑨実技実習 サイドスリップ
- ⑩実技実習 安全な転び方
- ⑪実技実習 ベンジュラム
- ⑫実技実習 ロングターンとショートターン
- ⑬実技実習 カービングターン
- ⑭実技実習 仮検定
- ⑮実技実習 振り返り（レポート作成）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スノーボード理論を理解し、個々の目標設定を行い、目標到達に向け安全で楽しいスノーボード技能と資質を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP 1 専門知識・技能を活用する力
DP 2 コミュニケーション能力
DP 3 課題を発見し、解決する力
DP 5 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

目標設定と到達、技能の習得と仮検定、集中講義中の取り組み 70%
レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

実習前後は各自でストレッチ等のケアを行ってください。
冬季間運動不足になりますので、実習前は各自でトレーニングを行なってください。

【必要な時間】

事前事後各2時間

■その他

- * 講習場所、日程に関しては秋学期に発表します。
- * この集中講義は参加費が発生します。（秋学期発表）
- * 集中講義（宿泊を伴う可能性有）になりますので、履修届と一緒に参加費を徴収します。
- * 履修取り消しがあった場合は参加費のキャンセル料が発生する場合があります。
- * スノーボード技術習得が目的ですので、各自で用具は用意してください。（レンタルあり）

科目名	リーダー演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	新井 貢、横山 克人

■講義の目的および概要

本講義では、リーダーとして柔軟な思考力や対応力を身に付けることを目指します。個人として、地域貢献活動や学内外のイベント等に参加し、異業種交流や多様な価値観を持った集団の中で、考え方やコミュニケーション能力を学びます。また、課題解決（プロジェクト）に向けたグループワークを行い、実践的な活動を通じて、リーダーシップとフォロワーシップの関係性を実践的に学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、演習形式としグループワーク中心に行います。本講義では、グループ毎に活動目標および計画に基づき、準備、実行、振り返り、セットとした能動的な学習を目指します。また、それぞれの活動に応じて、必要であれば個人あるいはグループ単位でのフィールドワークを行い、調査してきた内容や疑問点を発表し、情報共有や意見交換を行います。

なお、本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

本講義は、社会教育主事として行政で実務経験のある教員が社会教育施設と連携して授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業では、1週間の進捗状況をチェックし、適宜フィードバックを行います。

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②リーダー（リーダーシップ）とは？
- ③リーダー養成の実際（社会教育施設より外部講師を予定）
- ④グループワークⅠ（これからの社会で求められるリーダーについて）
- ⑤リーダー研修への参加①（学内外での研修参加実績を授業時数にカウント）
- ⑥リーダー研修への参加②（学内外での研修参加実績を授業時数にカウント）
- ⑦リーダー研修への参加③（学内外での研修参加実績を授業時数にカウント）
- ⑧研修参加報告会
- ⑨リーダーシップとフォロワーシップ
- ⑩リーダーとしてのコミュニケーションスキル
- ⑪グループワークⅡ（事業計画① 学外調査実践を含む）
- ⑫グループワークⅢ（事業計画② 学外調査実践を含む）
- ⑬グループワークⅣ（事業計画③ 学外調査実践を含む）
- ⑭事業計画（調査実践）の発表
- ⑮授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

活動目標に対して、適切な計画、準備ができ、適宜コミュニケーションを取りながら、総意のもと実行に移す力を身に付ける。また、個人あるいはチームでの活動を通じて、リーダーとして先導すること、またはフォロワーとして建設的に支えることが理解できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①リーダーとしての理解度（30%）
- ②グループワーク（30%）
- ③学内外で研修参加実績（30%）
- ④まとめのレポート（10%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

個々のテーマに関連する分野に応じて、参考文献を紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

個人あるいはグループの活動計画により、準備期間や実践時間が異なります。そのため、事前事後学習として、活動に見合った学習時間を確保することが必要になります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

地域貢献活動や学内外のイベント、フィールドワーク等の参加は、授業時間外で実施することがあり、振替授業としてカウントすることがあります。予め、各自でスケジュール調整をお願いします。

また、上記の活動に参加する場合は、参加費が発生する場合があります。その費用は自己負担となるため、予めご了承ください。

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	阿南 浩司

■講義の目的および概要

本講義では、身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、野球における技術および動作について理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表することを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、教室、研究室、グラウンド、および測定室である。能動的な学修を図るために状況に応じて、ディスカッションおよびプレゼンテーション手法を採用し、グループまたは個人ごとに指導を行う。講義の場所と時間については、指導教員と履修者が相談の上、決定する。本講義は、運動生理学およびバイオメカニクスの視点から、野球における運動学習法の研究の実績を有する教員が担当する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス・・・ゼミの進め方・運営方針の説明
- ②身体活動の基礎的知識・・・情報収集と文献検索
- ③動作の仕組みと制御・・・文献講読とディスカッション (投球および捕球)
- ④動作の仕組みと制御・・・文献講読とディスカッション (走行および打撃)
- ⑤実践現場での活動の振り返り・・・パフォーマンス課題の抽出 (守備)
- ⑥実践現場での活動の振り返り・・・パフォーマンス課題の抽出 (攻撃)
- ⑦野球の動作の動画の記録・・・動画記録の方法
- ⑧野球の動作の動画の記録・・・動画記録とディスカッション
- ⑨野球の動作の動画の分析・・・動画の分析方法
- ⑩野球の動作の動画の分析・・・動画の分析とディスカッション
- ⑪文献講読・・・運動生理学およびバイオメカニクスの観点で学習 (投球動作)
- ⑫文献講読・・・運動生理学およびバイオメカニクスの観点で学習 (打撃動作)
- ⑬文献講読・・・運動生理学およびバイオメカニクスの観点で学習 (総合)
- ⑭テーマの抽出・・・ディスカッションと報告書の作成
- ⑮春学期の振り返りと夏休みの課題・・・春学期を振り返り秋学期の目標を設定する

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①次年度の卒業研究あるいはテーマ研究を作成するために必要な知識とスキルを獲得する。
- ②野球の動作や技術に関する研究方法やデータの分析方法などの理解を深める。
- ③グループでの活動によって共に議論をし、相互に知識を深めて課題解決・自己表現の力量を高めていく。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び、続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①授業への取り組み、課題提出状況 40%
- ②報告に向けての準備、内容 40%
- ③報告、発表状況 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】

テキスト・参考文献は適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、野球における技術および動作をメインテーマとして授業を実施する。野球に関係する資料検索・收拾を行い、学修の準備をすること。毎時間、小レポート課題を課す。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

野球の実践現場やトレーニング実習へフィールドワークに行く場合がある。

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	新井 貢

■講義の目的および概要

本講義では、スポーツ指導者としての資質向上とコミュニケーション能力を高める方法を理解するとともに、次年度に向けて、研究テーマの設定、調査、分析、まとめ、発表の応用ができるような知識を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回グループワークのテーマを設定し、そのことについて自分の考え、意見を発表し、その後ディスカッションを行う。また、次年度のテーマ研究を見据え、小グループでテーマを設定し、調査、分析を行い、中間発表ができるよう取り組む。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的場に参加することがある。高校教員、社会教育主事としての経験を基に、実例を交えた具体的な事例を解説する。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて課題を与え、授業内で解説する。また、個人面談を実施し、個別の課題にも対応する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②指導者としての基本的姿勢
- ③指導者としての資質 1 (人の話を聴く)
- ④指導者としての資質 2 (自分の考えを伝える)
- ⑤指導者としての資質 3 (質問力を鍛える)
- ⑥指導者としての資質 4 (現状の課題と対策)
- ⑦過去の論文検索 1
- ⑧過去の論文検索 2
- ⑨グループワーク 1 (テーマの設定)
- ⑩グループワーク 2 (調査 1)
- ⑪グループワーク 3 (調査 2)
- ⑫グループワーク 4 (分析 1)
- ⑬グループワーク 5 (発表準備)
- ⑭中間発表
- ⑮春学期のまとめ (レポート)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①指導者としての相応しい知識、技術、態度を身につけ活用できる。
- ②テーマを設定し調査、分析結果を発表することができる。
- ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------------|-----|
| ① 授業への取り組み、課題提出状況 | 40% |
| ② 報告会に向けての準備、内容 | 40% |
| ③ 報告、発表状況 | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、指導者の資質を身につけるため、関係する書籍や過去の論文を読み、理想的な指導者像をイメージする。
事後学習として、授業を通して身に付けた指導力を実際に活用できるよう、教育分野の事業にボランティアとして積極的に参加する。
科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

事前事後学習としてそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

夏季休業中に、宿泊を伴うフィールドワークを予定している。

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	国田 賢治

■講義の目的および概要

本講義では、運動生理学的、バイオメカニクス的手法による運動制御機構の検討を行い、身体運動のからくりを理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告・発表することを目指す。フィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数での演習形式で授業を行う。実施場所は、教室、研究室、および測定室である。能動的な学習を図るためにグループワーク、状況に応じて個人ごとの指導を行う。本演習は、運動生理学を専門とする研究者が、運動生理学的、バイオメカニクス的手法による運動制御機構の検討を行ってきた実績をもとに、身体運動のからくりを理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②身体運動の運動生理学的検討についての説明 (1) 身体運動の生理学に関する基礎知識
- ③身体運動の運動生理学的検討についての説明 (2) 身体運動の生理学に関する最新知見
- ④身体運動のバイオメカニクスの検討についての説明 (1) 身体運動のバイオメカニクスに関する基礎知識
- ⑤身体運動のバイオメカニクスの検討についての説明 (2) 身体運動のバイオメカニクスに関する最新知見
- ⑥演習テーマに関する討論 (1) 各自のテーマの検討
- ⑦演習テーマに関する討論 (2) 各自のテーマ候補の発表
- ⑧演習テーマに関する文献収集 (1) 文献収集方法の説明
- ⑨演習テーマに関する文献収集 (2) 文献収集の実践
- ⑩演習テーマに関する文献抄読会や予備実験 (1) 姿勢制御関連の予備実験
- ⑪演習テーマに関する文献抄読会や予備実験 (2) 姿勢制御関連の分析
- ⑫演習テーマに関する文献抄読会や予備実験 (3) 眼球運動関連の予備実験
- ⑬演習テーマに関する文献抄読会や予備実験 (4) 眼球運動関連の分析
- ⑭演習テーマに関する中間報告会の準備 (1) プレゼンテーションの方法
- ⑮演習テーマに関する中間報告会の準備 (2) 発表の予行練習
- ⑯演習テーマに関する中間報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

運動生理学的、バイオメカニクス的手法による運動制御機構の検討法を理解できる。これをふまえ、スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「スポーツ健康分野の課題分析力の修得」に基づき、運動生理学およびバイオメカニクスの視点から課題を発見し、解決できる能力を養う。学位授与方針「スポーツ健康分野に関する基礎的知識と技能の科学的視点からの理解およびそれを基にした専門知識、技能の修得」および「スポーツ健康分野の課題分析力の修得」に繋がるスポーツ健康分野の現状を認識する。

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①授業への取り組み、課題提出状況；40 %
- ②報告会に向けての準備、内容；40 %
- ③報告、発表状況；20 %

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、運動生理学的、バイオメカニクス的手法による運動制御機構の検討法をメインテーマとして授業を実施する。関係する資料検索・収集を行い、学習の準備をすること。

【必要な時間】

事前および事後学習は、それぞれ2時間を目安とする。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを実施する場合がある。

■その他

実践してきたスポーツ種目に関わらず、身体運動のからくりに興味ある者

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	小林 秀紹

■講義の目的および概要

これまで学んだことを踏まえ、科学的知見を導出する手続きに則り、実際の測定、実験・調査を行い、得られたデータを適切な数値解析プログラミングを施し、結果をまとめ、研究報告を行う。

これによって、健康スポーツのみならず、様々な問題に対する解決能力を養う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で論文抄読、テーマ発表、実験等を行う。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートに対して口頭および文章で行う。

■授業計画

- ①中間発表の確認
- ②研究テーマの計画に関するディスカッション
- ③測定実習
- ④プログラミング
- ⑤研究テーマの発表、論文抄読 1
- ⑥測定結果の発表 1
- ⑦研究テーマの発表、論文抄読 2
- ⑧測定結果の発表 2
- ⑨研究テーマの発表、論文抄読 3
- ⑩測定結果の発表 3
- ⑪研究テーマの発表、論文抄読 4
- ⑫測定結果の発表 4
- ⑬研究テーマの発表、論文抄読 5
- ⑭研究テーマの中間発表（3年時最終発表）
- ⑮4年生研究発表の準備とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①健康・スポーツに関する事象を数値化することができる。
- ②得られたデータを適切に分析することができる。
- ③分析結果を文章としてまとめ、口頭で適切に発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

取り組み（40%）、中間報告の準備（40%）、発表内容（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜提示

【参考文献】

出村慎一「健康・スポーツ科学のための研究方法－研究計画の立て方とデータ処理方法－」（杏林書院）
 小林秀紹他「Excelによる健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門」（大修館書店）

■授業外学習

【具体的な内容】

自身の研究テーマに関する文献収集、測定、実験、調査、学会参加あるいは発表、FORTRAN、R、Python等のプログラミング

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	後藤 ゆり

■講義の目的および概要

研究を行う際に必要な基本的な方法（文献を検索する、文献を読む、内容をまとめる、まとめた内容を発表する）を、文献購読を行うことにより身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

健康やスポーツに関連する文献について、検索・購読・内容の要約・発表を演習形式で行う。
本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の課題をテーマにディスカッション・事例検討などを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②文献検索の方法について
- ③文献検索の実際（本学図書館）
- ④各自の興味・関心に基づく文献検索
- ⑤文献の読み方について
- ⑥題名について
- ⑦研究目的について
- ⑧研究方法について
- ⑨研究結果について
- ⑩考察について
- ⑪文献の要約について
- ⑫発表の準備（各自の発表内容の作成）
- ⑬発表の準備（各自のパワーポイントの作成）
- ⑭発表
- ⑮まとめのレポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

文献を検索する、文献を読む、内容をまとめる、まとめた内容を発表するという、研究を行う際に必要な基本的な作業ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

講義内の提出物・議論への参加	40%
発表	30%
レポート	30%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：各自の興味・関心に基づき、文献などを講読し発表の準備をする。
事後学習：毎回のテーマに関して小レポートを作成する。また、各自の発表内容・授業内容の振り返りを併せて行うこと。

【必要な時間】

事前および事後学習には2時間程度の時間を要する。

■その他

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	本多 理紗

■講義の目的および概要

本講義では、市町村で行われている体力測定や健康教室等のフィールドワークを通して、幅広い年齢層の方々の健康づくりや介護予防、レクリエーション活動について理解をし、運動指導者としてのコミュニケーション能力や実践力を身に付けることが目的です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

健康やスポーツに関連することについて、グループワークやディスカッション、主にフィールドワークを行います。
フィールドワークの事前準備では、1・2年次に修得した知識を活用し、応用できるような健康運動指導士としての多くの市町村で運動教室を行った実務経験を基に具体的な事例等を示しながら進めます。
本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、必要に応じて授業以外にも時間を設けます。

■授業計画

- ①オリエンテーション 授業計画と課題設定について
- ②健康づくりに関して (1) (レクリエーションの実際)
- ③健康づくりに関して (2) (生活習慣病・高齢化について)
- ④健康づくりに関して (3) (介護予防・体力測定について)
- ⑤フィールドワークの準備 (1)
- ⑥フィールドワークの準備 (2)
- ⑦フィールドワークの実施
- ⑧フィールドワークのまとめ
- ⑨資料の収集・分析
- ⑩フィールドワークの企画・準備 (1)
- ⑪フィールドワークの企画・準備 (2)
- ⑫フィールドワークの準備
- ⑬フィールドワークの実施
- ⑭フィールドワークのまとめ
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①健康諸問題について関心を持ち、幅広い知識を習得し、自分の意見や考えを話すことができる。
- ②スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
- ③テーマに関わる文献等を読解し、適切な情報を収集するとともにフィールドワークの実施計画や立案をし、実践することで運動指導者としての必要な能力を身に付けることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|------------------|-----|
| ①授業への取り組み、課題提出状況 | 40% |
| ②報告会へ向けての準備、内容 | 40% |
| ③報告、発表状況 | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

適宜指示をします。

■授業外学習

【具体的な内容】

文献や論文を読み、文章を読む習慣を心がけてください。
また、身に付けた指導力を活用・応用できるよう幅広い分野でのボランティアに積極的に参加してください。
科目に関連する学部学科行事を実施した場合は、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は各2時間程度を目安とします。

■その他

フィールドワークは主に恵庭市や今金町、月形町を中心に行います。
場合によっては、この他に北海道内の市町村でのフィールドワークを行うことがあります。また、フィールドワークの開催日が休日の場合もありますので、スケジュールを調整してください。

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	佐藤 文亮

■講義の目的および概要

本講義では、運動生理学やバイオメカニクスなどの知見を基礎として、発育・発達における遊びやスポーツの意義・指導法などについて理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表することを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、教室、研究室、測定室、および体育館である。少人数での演習形式で授業を行い、必要に応じてグループワークやディスカッションなど、能動的な学修を目指す。本講義は、運動生理学および発育発達学的視点から、遊びやスポーツの意義について研究を行ってきた実績を有する教員が担当する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で配布し、適宜解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②身体運動調節の運動生理学的検討についての説明（1）；運動調節に関する基礎知識の修得
- ③身体運動調節の運動生理学的検討についての説明（2）；運動調節に関する先行研究の紹介
- ④身体運動調節の発育・発達学的検討についての説明（1）；ヒトの発育・発達に関する基礎知識の修得
- ⑤身体運動調節の発育・発達学的検討についての説明（2）；ヒトの発育・発達に関する先行研究の紹介
- ⑥演習テーマに関する討論（1）；各自のテーマの検討
- ⑦演習テーマに関する討論（2）；各自のテーマ候補の発表
- ⑧演習テーマに関する文献収集（1）；文献収集方法の説明
- ⑨演習テーマに関する文献収集（2）；文献収集の実践
- ⑩演習テーマに関する文献抄読会や予備実験（1）；姿勢制御関連の予備実験
- ⑪演習テーマに関する文献抄読会や予備実験（2）；姿勢制御関連の分析
- ⑫演習テーマに関する文献抄読会や予備実験（3）；発育発達学関連の予備実験
- ⑬演習テーマに関する文献抄読会や予備実験（4）；発育発達学関連の分析
- ⑭演習テーマに関する中間報告会の準備（1）；プレゼンテーションの方法
- ⑮演習テーマに関する中間報告会

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ヒトの発育・発達における遊びやスポーツの意義について理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ① 授業への取り組み、課題提出状況；40%
- ② 報告会に向けての準備、内容；40%
- ③ 報告、発表状況；20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する。

【参考文献】

- ・藤原 勝夫編著:姿勢制御の神経生理機構. 杏林書院.
- ・高石昌弘著:からだの発達. 大修館書店, 東京.

■授業外学習

【具体的な内容】

ヒトの発育・発達およびスポーツ技能に関する知見について、文献研究をすることを事前・事後学習とする。事前・事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

実践してきたスポーツ種目に関わらず、身体運動のからくりに興味ある者

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	樋口 善英

■講義の目的および概要

本演習では、スポーツツーリズム及びヘルスツーリズムについて学ぶ。特に、スポーツと温泉をテーマにフィールドワークを行う。また、将来のスポーツトレーナーとしてのアナリスト能力の育成のためにドローンパイロット技術を体験する。身体機能の状態を簡便に把握するのに必要な知識と技術とを学び、機能解剖学に基づく思考力を用い課題の解決策を論じていけるようにする。そのために必要な文献検索能力・論文読解力・レポート作成・プレゼンテーション能力等を培っていく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

医学部解剖学教室の研究員、大学病院の臨床現場、スポーツ指導の医科学スタッフとしての実務経験を豊富にもつ教員が、有資格者としての必要な知識と技術をスライドを用いて講義します。また、関連する論文を精読し、その内容の発表を行ってもらいます。

やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがあります。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

少人数での演習形式で授業を行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②温泉学概論
- ③ヘルスツーリズム
- ④スポーツツーリズム
- ⑤ドローンパイロット技術体験 1
- ⑥ドローンパイロット技術体験 2
- ⑦ドローンパイロット技術体験 3
- ⑧フィールドワーク 1
- ⑨フィールドワーク 2
- ⑩文献検索の方法と各自の興味関心に基づく文献検索
- ⑪文献の読み方について（背景と目的、対象と方法、結果と考察）
- ⑫各自の演習テーマに基づく文献検索
- ⑬各自の演習テーマに基づく討論準備
- ⑭発表
- ⑮まとめのレポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

身体機能を把握するための手立てを知り、自身の興味関心のある演習テーマを設定して、文献検索から、新たな知見を得ることができるようになり、それを発表することができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------------|-----|
| ① 授業への取り組み、課題提出状況 | 40% |
| ② 発表会に向けての準備と内容 | 40% |
| ③ 発表状況とレポート | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】 【参考文献】

適宜配布または指示する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：各自の興味関心に基づき文献検索など
事後学習：発表に向けての準備や技術習得

【必要な時間】

自身の課題に関する文献収集や技術習得などにそれぞれ2時間程度

■その他

機能解剖学に基づくスポーツリハビリテーションに興味関心がある者

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	阿井 英二郎

■講義の目的および概要

本講義では、「スポーツコーチング、スポーツ心理学の意義、基本的理念」について理解するとともに、スポーツでよく使われる「心・技・体」という言葉の「心」の重要性と「技」「体」の繋がりを理解し、心身の発達と自身のスポーツ活動およびスポーツ指導のあり方を学び、実技演習するとともに次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表するなど能動的な学修を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数での演習形式で授業を行う。実施場所は、教室および研究室である。能動的な学習を図るために状況に応じて、ディスカッションおよびプレゼンテーション手法を採用し、グループまたは個人ごとに指導を行う。テーマに応じて、フィールドワークも実施する。講義の場所と時間については、指導教員と履修者が相談の上、決定する。本講義は、コーチングやスポーツ心理学的研究、および競技指導現場での経験のある教員が担当する。スポーツ心理学の学問分野をふまえながら、「コーチング」の理論について理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

演習の中で課題に対するフィードバックを逐次行う。

■授業計画

- ①ガイダンス・・・本演習の進め方の説明
- ②スポーツコーチングの意義についての説明
- ③スポーツ心理学の意義についての説明
- ④スポーツコーチングの基本理念についての説明
- ⑤スポーツ心理学の基本理念についての説明
- ⑥セルフリーダーシップ論(1)：自己認識力
- ⑦セルフリーダーシップ論(2)：意志決定力
- ⑧セルフリーダーシップ論(3)：コミュニケーション力
- ⑨コーチングに必要なスキル(1)：コーチの役割・コーチに求められる資質能力
- ⑩コーチングに必要なスキル(2)：チームマネジメント
- ⑪メンタル・コンディショニング(1)：二次元気分尺度とは
- ⑫メンタル・コンディショニング(2)：二次元気分尺度/実技演習
- ⑬メンタル・コンディショニング(3)：マインドフルネスとは
- ⑭メンタル・コンディショニング(4)：マインドフルネス/実技演習
- ⑮メンタル・コンディショニング(5)：まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツコーチングとスポーツ心理学の意義と基本的理念を理解させ、さらにコーチの役割および使命と、コーチに求められる資質能力を習得し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

授業への取り組み、課題提出状況：40%
 報告会に向けての準備、内容：40%
 報告、発表状況：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】
 適宜プリントを配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】【必要な時間】

スポーツコーチングおよびスポーツ心理学をメインテーマとして授業を実施する。関係する資料検索・收拾を行い、学習の準備をすること。毎時間、小レポート課題を課す。これらをふまえ、事前および事後学習には、それぞれ、120分程度の時間を要する。

■その他

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	安田 純輝

■講義の目的および概要

本科目は、体育科教育に関連する研究を進めていく上で必要な文献検索やデータの収集・分析方法、考察の行い方に関する基礎的知識を身に付ける。主に、体育科・保健体育科の目標やカリキュラム、学習内容、教材・教具づくり、学習指導、評価などについて、体育・スポーツに関連する文献を購読し、ディスカッションを重ねていく。また、学校教育ならびに学校体育における諸課題についても焦点を当て、その解決の方向性について検討していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は、演習形式によって展開する。体育科教育における内容や方法に関連する文献や資料を活用し、グループワークやディスカッションを随時取り入れながらその理解を深めていく。

やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

本科目の他、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

本科目の課題は、eラーニングシステム (manaba) を活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、授業外での本科目に関する質問は、個別対応とする。

■授業計画

- ①オリエンテーション：演習の概要と進め方
- ②研究テーマの設定
- ③文献検索の方法1：書籍がもつ性質の差（雑誌、専門書、学術誌の違い）
- ④文献検索の方法2：本学図書館の活用
- ⑤文献検索の方法3：文献検索サイトの活用
- ⑥リサーチ・クエスチョン (RQ) の立て方
- ⑦先行研究の検討と参考文献の引用方法
- ⑧研究の進め方1：目的の設定
- ⑨研究の進め方2：方法の検討（データの収集ならびに分析方法）
- ⑩研究の進め方3：結果の整理（データの示し方、図表の作成）
- ⑪研究の進め方4：考察の方法（エビデンスベースの解釈）
- ⑫中間発表の準備1：発表内容の整理
- ⑬中間発表の準備2：発表スライドの作成（パワーポイントの活用）
- ⑭中間発表
- ⑮まとめ：評価と振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

体育科教育に関する基礎的知識を学習指導要領や関連資料の購読を通して身に付けるとともに、その基本的性格や目標・内容について説明をすることができる。

研究を行う際に必要な基礎的知識を身に付け、各自が興味のある研究テーマを設定し、関連する文献の検索・購読・要約ならびに発表をすることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①平常点評価：40%
発問に対する応答やディスカッションへの参加状況など授業の取り組みに対する積極性を評価する。
- ②レポート：40%
進捗状況に応じて適宜課題を提示する。
課題については、演習での討議内容と関連付けながら深く考察しているかを評価する。
- ③発表内容：20%
研究テーマのオリジナリティや目的・方法・結果・考察に一貫性が伴っているかを評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版）．大修館書店．
その他，必要に応じて適宜資料を配布する．

【参考文献】
文部科学省（2018a）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編．東山書房．
文部科学省（2018b）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：体育編．東洋館出版社．
文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編．東山書房．

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習では，事前に示されたテーマについて教科書・文献・資料等を熟読し，その内容や専門用語について予め調査しておくこと．また，事後学習では，各自の興味・関心に基づいて関連する文献や資料を参照し，その内容や自身の考えを整理して，次回以降の学習へ活かせるようにすること．
科目に関連する学部学科行事を実施した際は，到達目標に関するレポートを行う場合がある．

【必要な時間】
予習・復習の時間は，それぞれ2時間を目安とする．

■その他

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	林 満章

■講義の目的および概要

大学1・2年次で修得した学習スキルをさらに発展、応用させ、ゼミ活動を通じて、研究・調査に必要な知識を得て課題設定やまとめ、発表する能力を身につけることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、指定教室・研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは、個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内外研究発表を行うことがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

■授業計画

- ①ガイダンス 面談
- ②調べ学習1 (文献検索等)
- ③調べ学習2 (テーマ研究・未来の自分)
- ④調べ学習3 (魅力ある大学・スポーツ関連)
- ⑤調べ学習4 (武道の魅力)
- ⑥各自の研究テーマにおける目的の検討
- ⑦各自の研究テーマにおける方法の検討
- ⑧各自の研究テーマにおける考察の検討・面談
- ⑨研究テーマにおける方法、考察1
- ⑩研究テーマにおける方法、考察2
- ⑪発表レポートの作成
- ⑫プレゼンテーションの作成
- ⑬プレゼンテーションの作成
- ⑭プレゼンテーションの実施
- ⑮プレゼンテーションの実施とレポートの提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 1 課題探求能力、問題解決能力を身につける。
- 2 研究テーマの設定・考察・まとめ・発表する能力を身につける。
- 3 プレゼンテーションできる力を身につける。
- 4 スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

成績評価基準と方法

- | | |
|-------------------|-----|
| 1 授業への参加意欲・態度 | 20% |
| 2 プレゼンテーションの作成・発表 | 50% |
| 3 レポート等の提出 | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜配付する

【参考文献】

適宜指示する

■授業外学習

【具体的な内容】【必要な時間】

今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認すること。個別指導は、研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておくこと。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合もある。事前事後合わせて目安は120分程度とする。

■その他

提出物の期限厳守。期限を守れなければ不認定とする。

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	平田 嘉宏

■講義の目的および概要

今日の学校教育に関する文献や資料、又は、教育に関係があり自分が興味・関心のある分野に関する文献や資料を調べ、テーマを設定し、レポートにまとめてその内容が聞き手に伝わるよう発表することで、これまで大学で修得してきたスキルを一層高め、4年次のテーマ研究につながる基礎的な力を身に付ける。
また、電子黒板の活用方法について研究する。特に教員免許取得希望者については、ロイロノートを用いて活用方法を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

一人一人が学校教育に関する文献や資料、又は、教育に関係があり自分が興味・関心のある分野（例えばスポーツ、リーダーシップ、教えるということ、ICTの教育への活用）に関する文献や資料を調べ、テーマを設定し、考察、フィールドワーク等を経てレポートにまとめ、発表やプレゼンテーションを行う。

必要に応じてグループ・ディスカッション、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングの方法を取り入れて行う。

場合によっては簡便な無料の統計ソフトウェアを用いて分析する。

高等学校や教育研究所における調査研究などの実務経験のある教員が担当する。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

電子黒板の活用については、企業または学校での活用と分けて想定し、どのように活用するのがよいのかを研究しその操作に習熟する。特に教員免許取得希望者については、ロイロノートを用いて生徒役のPCと電子黒板をつないだ際の効果的な使用方法について研究する。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて課題を設け、講義の中で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②文献検索の実習（図書館）
- ③文献や資料の検索・収集
- ④文献や資料の内容理解及びテーマの検討
- ⑤テーマの設定と考察・調査などすべき事柄の検討、設定テーマの発表と修正
- ⑥考察・調査などすべき事柄の明確化
- ⑦レポートの構成の検討と作成
- ⑧レポートの作成
- ⑨レポートの作成
- ⑩レポートの完成と発表の準備
- ⑪レポートによる発表、グループ・ディスカッション、今後の修正点の確認
- ⑫プレゼンテーションの準備
- ⑬プレゼンテーションの準備
- ⑭プレゼンテーション、修正点の確認
- ⑮発表資料の提出

場合によってはオンライン・オンデマンド授業の可能性はある。その際は、事前にmanaba等で連絡する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 4年次のテーマ研究につながる基礎的な力を身に付けられる。
- ② テーマを設定し、考察し、まとめて形にすることができる。
- ③ 自分の主張が伝わるように人前で発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

毎回の授業内容確認シート提出	30%
テーマ、レポート、プレゼンの発表状況	40%
レポート、プレゼン等の成果物	30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じて配布する。

【参考文献】
『ロイロノートのICT“超かんたん”スキル』時事通信社

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：授業計画を確認し、現時点で可能な範囲まで作業を進めておく。

事後学習：授業計画を確認し、現時点で可能なところまで検討・作成・準備を進めておく。

【必要な時間】

事前事後学習にはそれぞれ2時間を要する。

■その他

簡便な無料の統計ソフトウェアとは、College Analysisのことである。

科目名	応用演習 I [スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	大鐘 秀峰

■講義の目的および概要

今日の学校をめぐる教育問題について、さまざまな実際の事例を調べ、その実態を知るとともに、問題点を発見し、その解決策を検討し、レポートにまとめるという研究態度と研究方法を修得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ① 新聞切り抜きにより、今日の学校教育をめぐる事例を学び、そこから問題点を発見していく。そのため講義とグループディスカッションを重ねていながら、自分の研究テーマを見いだしていく。
 - ② 自分の研究テーマに関する資料を集めて、適切な引用をしながら、考察を加えて、問題点の解決策を根拠とともに考えていく。
- 本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、個別に授業の中で解説するとともに、必要に応じて報告書にまとめる過程や中間発表などをおしてフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス…シラバスの説明・授業の方法・評価基準等
- ②レポートとは何か
- ③教育問題とは何か
- ④資料・論文の読解①
- ⑤資料・論文の読解②
- ⑥研究方法・「引用」について
- ⑦学校教育問題事例研究①
- ⑧学校教育問題事例研究②
- ⑨学校教育問題事例研究③
- ⑩レポートテーマ探求
- ⑪レポート作成①
- ⑫レポート作成②
- ⑬レポート作成③
- ⑭中間発表
- ⑮まとめのレポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①教育問題への視点を身に付けることができる。
- ②課題を発見し、それについて資料を探索することができる。
- ③教育問題に対して、考察を加えて自分の主張ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|------------------|-----|
| ①授業への取り組み・課題提出 | 40% |
| ②中間発表に向けての準備、内容等 | 30% |
| ③報告、発表状況 | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜新聞切り抜きを配付する。配布プリントはファイルに保存すること。

【参考文献】

適宜指示・紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習としては、事前に配付された資料について読解した上で、内容を把握し、論点を整理してくる。復習としては、授業内容を踏まえて、既習事項を整理する。

【必要な時間】

予習、復習の時間としては、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

なし

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	阿南 浩司

■講義の目的および概要

本講義では、身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、野球における技術および動作について理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表することを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、教室、研究室、グラウンド、および測定室である。能動的な学修を目指すために状況に応じて、ディスカッションおよびプレゼンテーション手法を採用し、グループまたは個人ごとに指導を行う。講義の場所と時間については、指導教員と履修者が相談の上、決定する。本講義は、運動生理学およびバイオメカニクスの視点から、野球における運動学習法の研究の実績を有する教員が担当する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス・・・ゼミの進め方・運営方針の説明
- ②春学期の振り返り・・・学習内容のディスカッション
- ③実践現場での活動の振り返り・・・パフォーマンス課題の整理
- ④文献講読・・・運動生理学およびバイオメカニクスの観点で学習（投球動作）
- ⑤文献講読・・・運動生理学およびバイオメカニクスの観点で学習（打撃動作）
- ⑥野球の動作の動画および筋電図の記録・・・記録法の学習（打撃動作）
- ⑦野球の動作の動画および筋電図の記録・・・記録法の学習（投球動作）
- ⑧野球の動作の動画および筋電図の分析・・・分析方法の学習（投球動作）
- ⑨野球の動作の動画および筋電図の分析・・・分析方法の学習（打撃動作）
- ⑩野球の動作の動画および筋電図の分析・・・分析方法の学習（まとめ）
- ⑪研究計画・テーマ選択・・・報告書の作成とディスカッション（アウトライン）
- ⑫研究計画・テーマ選択・・・報告書の作成とディスカッション（構成・詳細）
- ⑬研究計画・テーマ選択・・・報告書の作成とディスカッション（発表練習）
- ⑭テーマの発表・・・発表とディスカッション
- ⑮秋学期の振り返りと春休みの課題・・・秋学期を振り返り次年度の目標を設定する

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①次年度の卒業研究あるいはテーマ研究を作成するために必要な知識とスキルを獲得する。
- ②野球の動作や技術に関する研究方法やデータの分析方法などの理解を深める。
- ③グループでの活動によって共に議論をし、相互に知識を深めて課題解決・自己表現の力量を高めていく。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び、続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①授業への取り組み、課題提出状況 40%
- ②報告に向けての準備、内容 40%
- ③報告、発表状況 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】

テキスト・参考文献は適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、野球における技術および動作をメインテーマとして授業を実施する。野球に関係する資料検索・收拾を行い、学修の準備をすること。毎時間、小レポートを課す。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習には、それぞれ、120分程度の時間を要する。

■その他

野球の実践現場やトレーニング実習ヘフィールドワークに行く場合がある。

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	新井 貢

■講義の目的および概要

本講義では、スポーツ指導者としての資質向上とコミュニケーション能力を高める方法を理解するとともに、次年度に向けて、研究テーマの設定、調査、分析、まとめ、発表の応用ができるような知識を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

講義方法】

毎回グループワークのテーマを設定し、そのことについて自分の考え、意見を発表し、その後ディスカッションを行う。また、次年度のテーマ研究を見据え、春学期で行った調査、分析をさらに深め、結果をまとめるとともに発表ができるよう取り組む。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的場に参加することができる。高校教員、社会教育主事としての経験を基に、実例を交えた具体的な事例を解説する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することができる。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて課題を与え、授業内で解説する。また、個人面談を実施し、個別の課題にも対応する。

■授業計画

- ①春学期振り返りと秋学期ガイダンス
- ②グループワーク1 (再調査1)
- ③グループワーク2 (再調査2)
- ④グループワーク3 (分析1)
- ⑤グループワーク4 (分析2)
- ⑥4年生の中間発表見学
- ⑦グループワーク5 (結果、まとめ1)
- ⑧グループワーク6 (結果、まとめ2)
- ⑨グループワーク7 (発表準備1)
- ⑩グループワーク8 (発表準備2)
- ⑪発表
- ⑫グループワーク9 (修正1)
- ⑬発表
- ⑭4年生の発表見学
- ⑮1年間のまとめ (レポート)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①指導者としての相応しい知識、技術、態度を身につけ活用できる。
- ②テーマを設定し調査、分析結果を発表することができる。
- ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------------|-----|
| ① 授業への取り組み、課題提出状況 | 40% |
| ② 報告会に向けての準備、内容 | 40% |
| ③ 報告、発表状況 | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、指導者の資質を身につけるため、関係する書籍や過去の論文を読み、理想的な指導者像をイメージする。
事後学習として、授業を通して身に付けた指導力を実際に活用できるよう、教育分野の事業にボランティアとして積極的に参加する。
科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

事前学習、事後学習ともに2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	国田 賢治

■講義の目的および概要

本講義では、運動生理学的、バイオメカニクス的手法による運動制御機構について理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告・発表することを目的とする。フィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数での演習形式で授業を行う。実施場所は、教室、研究室、および測定室である。能動的な学習を図るためにグループワーク、状況に応じて個人ごとの指導を行う。本演習は、運動生理学を専門とする研究者が、運動生理学的、バイオメカニクス的手法による運動制御機構の検討を行ってきた実績をもとに、身体運動のからくりを理解できる講義を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ① 応用演習Ⅰの中間報告会のふりかえりと演習テーマの計画
- ② 演習テーマに関する討論 (1) 各自のテーマの検討
- ③ 演習テーマに関する討論 (2) 各自のテーマ候補の発表
- ④ 演習テーマに関する文献抄読会や実験 (1) 姿勢制御関連の予備実験
- ⑤ 演習テーマに関する文献抄読会や実験 (2) 眼球運動関連の予備実験
- ⑥ 演習テーマに関する文献抄読会や実験 (3) 姿勢制御と眼球運動関連の本実験
- ⑦ 演習テーマに関する文献抄読会や実験 (4) 運動技能関連の予備実験
- ⑧ 演習テーマに関する文献抄読会や実験 (5) 運動技能関連の本実験
- ⑨ 演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析 (1) 姿勢制御関連のデータ解析
- ⑩ 演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析 (2) 眼球運動関連のデータ解析
- ⑪ 演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析 (3) 運動技能関連のデータ解析
- ⑫ 演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析 (4) 結果のとりまとめ
- ⑬ 演習テーマに関する報告会の準備 (1) 発表スライド作成
- ⑭ 演習テーマに関する報告会の準備 (2) 発表の予行練習
- ⑮ 演習テーマに関する報告会
- ⑯ ふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

抄読会、実験およびデータ解析、発表を通じて、運動生理学的、バイオメカニクス的手法による運動制御機構の検討法を理解できる。さらに、この過程を通じて、過去を知ること、問題や仮説の設定および、課題遂行や検証の重要性が理解できる。これをふまえ、スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「スポーツ健康分野の課題分析力の修得」に基づき、運動生理学およびバイオメカニクスの視点から、過去を知ること、問題や仮説の設定および、課題遂行や検証の重要性が理解できる能力を養う。学位授与方針「スポーツ健康分野に関する基礎的知識と技能の科学的視点からの理解およびそれを基にした専門知識、技能の修得」および「スポーツ健康分野の課題分析力の修得」に繋がるスポーツ健康分野の現状を認識する。

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ① 授業への取り組み、課題提出状況；40 %
- ② 報告会に向けての準備、内容；40 %
- ③ 報告、発表状況；20 %

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

身体活動およびスポーツ関連の諸領域の中でも、運動生理学的、バイオメカニクス的手法による運動制御機構の検討法をメインテーマとして授業を実施する。関係する資料検索・収集を行い、学習の準備をすること。

【必要な時間】

事前および事後学習には、それぞれ2時間を目安とする。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを実施する場合がある。

■その他

応用演習Iを受講した者

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	小林 秀紹

■講義の目的および概要

応用演習Ⅰで学んだことを踏まえ、科学的知見を導出する手続きに則り、実際の測定、実験・調査を行い、得られたデータを適切な数値解析プログラミングを施し、結果をまとめ、研究報告を行う。
これによって、健康スポーツのみならず、様々な問題に対する解決能力を養う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で論文抄読、テーマ発表、実験等を行う
本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートに対して口頭および文章で行う。

■授業計画

- ①中間発表の確認
- ②研究テーマの計画に関するディスカッション
- ③測定実習
- ④プログラミング
- ⑤研究テーマの発表，論文抄読 1
- ⑥測定結果の発表 1
- ⑦研究テーマの発表，論文抄読 2
- ⑧測定結果の発表 2
- ⑨研究テーマの発表，論文抄読 3
- ⑩測定結果の発表 3
- ⑪研究テーマの発表，論文抄読 4
- ⑫測定結果の発表 4
- ⑬研究テーマの発表，論文抄読 5
- ⑭研究テーマの中間発表（3年時最終発表）
- ⑮4年生研究発表の準備とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

健康・スポーツに関する事象を数値化することができる。
得られたデータを適切に分析することができる。
分析結果を文章としてまとめ、口頭で適切に発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP5)【能動的に学び続ける力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- 取り組み (40%)
中間報告の準備 (40%)
発表内容 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜提示

【参考文献】

出村慎一「健康・スポーツ科学のための研究方法－研究計画の立て方とデータ処理方法－」（杏林書院）
小林秀紹他「Excelによる健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門」（大修館書店）

■授業外学習

【具体的な内容】

自身の研究テーマに関する文献収集，測定，実験，調査，学会参加あるいは発表，
FORTRAN, R, Python等のプログラミング

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	後藤 ゆり

■講義の目的および概要

応用演習Ⅰで学習した内容を深め、研究を行う際に必要な基本的能力（課題の設定、データの収集方法、データの分析方法、考察の方法）を、文献購読を行うことにより身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

健康やスポーツに関連する文献について、検索・購読・内容の要約・発表を演習形式で行う。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の課題をテーマにディスカッション・事例検討などを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②応用演習Ⅰの内容についての検討
- ③課題の設定について
- ④各自の興味・関心に基づく文献検索
- ⑤テーマについての検討
- ⑥研究目的について
- ⑦研究方法について
- ⑧データの収集方法について
- ⑨データの分析方法について
- ⑩考察について
- ⑪文献の要約について
- ⑫発表の準備（各自の発表内容の作成）
- ⑬発表の準備（各自のパワーポイントの作成）
- ⑭発表
- ⑮まとめのレポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

研究論文を購読し、課題の設定、データの収集方法、データの分析方法、考察という、研究を行う際に必要な基本的な考え方ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

講義内での提出物・議論への参加	40%
発表	30%
レポート	30%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

各学生の興味・関心に基づき、資料・文献などを適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：各自の興味・関心に基づき、文献などを購読し発表の準備をする。
事後学習：毎回のテーマに関して小レポートを作成する。また、各自の発表内容・授業内容の振り返りを併せて行うこと。

【必要な時間】

事前および事後学習には2時間程度の時間を要する。

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	本多 理紗

■講義の目的および概要

本講義では、市町村で行われている健康教室等のフィールドワークを通して、子どもから高齢者等の幅広い年齢層の方々の健康づくりやレクリエーション活動について理解をし、運動指導者としてのコミュニケーション能力や実践力を身に付けることが目的です。

また、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表することができることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

健康やスポーツに関連するグループワークやディスカッション、プレゼンテーションやフィールドワークを行います。

フィールドワークでは、応用演習Ⅰで学んだことを活用できるよう健康運動指導士としての多くの市町村で運動教室を行った実務経験を基に具体的な事例等を示しながら進めます。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがあります

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、必要に応じて授業以外にも時間を設けます。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②フィールドワークに関わる資料の収集
- ③フィールドワークの企画 (1)
- ④フィールドワークの企画 (2)
- ⑤フィールドワークの準備 (1)
- ⑥フィールドワークの準備 (2)
- ⑦フィールドワークの実施
- ⑧フィールドワークの振り返り
- ⑨各自の興味・関心に基づく文献検索
- ⑩資料収集、検討
- ⑪発表の準備 (各自の発表内容の作成)
- ⑫発表の準備 (各自のパワーポイントの作成)
- ⑬発表 (1)
- ⑭発表 (2)
- ⑮まとめのレポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①運動指導者としての相応な知識や技術を身に付け、活用できる。
- ②スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。
- ③研究論文を購読し、課題の設定、分析・考察等の研究を行う際に必要な基本的な考え方ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①授業への取り組み、課題提出状況 40%
- ②報告会に向けての準備、内容 40%
- ③報告、発表状況 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

適宜指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

各自の興味・関心に基づき、著書・文献などを随時購読をし、ノート等にまとめてください。
また、身に付けた指導力を活用・応用できるよう幅広い分野でのボランティアに積極的に参加してください。
科目に関する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合があります

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

フィールドワークは主に恵庭市や今金町、月形町を中心に行います。
場合によっては、この他に北海道内の市町村でのフィールドワークを行うことがあります。また、フィールドワークの開催日が休日の場合もありますので、スケジュールを調整してください。

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	佐藤 文亮

■講義の目的および概要

本講義では、発育・発達における遊びやスポーツの意義について理解するとともに、次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表することを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、教室、研究室、測定室、および体育館である。少人数での演習形式で授業を行い、必要に応じてグループワークやディスカッションなど、能動的な学修を目指す。本講義は、運動生理学および発育発達学的視点から、遊びやスポーツの意義について研究を行ってきた実績を有する教員が担当する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で配布し、適宜解説する。

■授業計画

- ① 応用演習Ⅰの中間報告会のふりかえりと演習テーマの計画
- ② 演習テーマに関する討論(1)；各自のテーマの検討
- ③ 演習テーマに関する討論(2)；各自のテーマ候補の発表
- ④ 演習テーマに関する文献抄読会や実験(1)；姿勢制御関連の文献抄読会
- ⑤ 演習テーマに関する文献抄読会や実験(2)；発育発達学関連の文献抄読会
- ⑥ 演習テーマに関する文献抄読会や実験(3)；姿勢制御関連の本実験
- ⑦ 演習テーマに関する文献抄読会や実験(4)；発育発達学関連の本実験
- ⑧ 演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析(1)；姿勢制御関連のデータ分析
- ⑨ 演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析(2)；発育発達学関連のデータ分析
- ⑩ 演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析(3)；実験結果のとりまとめ
- ⑪ 演習テーマに関する文献抄読会やデータ解析(4)；実験結果の解釈
- ⑫ 演習テーマに関する報告会の準備(1)；発表スライド作成
- ⑬ 演習テーマに関する報告会の準備(2)；発表の予行練習
- ⑭ 演習テーマに関する報告会
- ⑮ ふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

抄読会、実験およびデータ解析、発表を通じて、ヒトの発育・発達における遊びやスポーツの意義について理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ① 授業への取り組み、課題提出状況；40%
- ② 報告会に向けての準備、内容；40%
- ③ 報告、発表状況；20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する。

【参考文献】

- ・藤原 勝夫編著：姿勢制御の神経生理機構。杏林書院。
- ・高石昌弘著：からだの発達。大修館書店、東京。

■授業外学習

ヒトの発育・発達およびスポーツ技能に関する知見について、文献研究をすることを事前・事後学習とする。事前・事後学習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

実践してきたスポーツ種目に関わらず、身体運動のからくりに興味ある者

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	樋口 善英

■講義の目的および概要

身体機能の維持向上もしくは早期回復に努めるには自分自身の身体の状態を正しく把握をする必要がある。本演習では日常生活における身近な健康づくり（疲労回復効果促進）について温泉入浴や森林浴・海気浴などの自然環境を活用しながら身体調整を行っていく知識と技術とを学び解剖生理学に基づく思考力を用い課題の解決策を論じていけるようにする。また次年度へ向けて応用できるように必要な文献検索能力・論文読解力・レポート作成・プレゼンテーション能力等を培っていく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

医学部解剖学教室の研究員、大学病院の臨床現場、スポーツ指導の医科学スタッフとしての実務経験を豊富にもつ教員が、有資格者としての必要な知識と技術をスライドを用いて講義します。また、関連する論文を精読し、企画立案調査検討した内容の発表を行ってまいります。
やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

少人数での演習形式で授業を行います。
本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することもあります。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②温熱生理と健康科学
- ③水治療法と温泉療法
- ④形態計測と体力測定
- ⑤自然環境を用いた健康づくり
- ⑥リハビリテーションと温泉
- ⑦年齢や健康状態に配慮した水中運動処方
- ⑧温泉入浴プログラム作成体験
- ⑨スポーツと温泉（ピーキングとリカバリー）
- ⑩各自の演習テーマに関する企画立案
- ⑪各自の演習テーマに関する調査検討
- ⑫各自の演習テーマに関する内容吟味
- ⑬各自の演習テーマに関する報告準備
- ⑭発表
- ⑮まとめのレポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

日常生活の中の健康づくりについて知識を得て、自身の興味関心のある演習テーマを設定して、文献検索から、新たな知見を得ることができるようになり、それを発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------------|-----|
| ① 授業への取り組み、課題提出状況 | 40% |
| ② 発表会に向けての準備と内容 | 40% |
| ③ 発表状況とレポート | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】 【参考文献】

適宜配布または指示する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：各自の興味関心に基づき文献検索など
事後学習：発表に向けての準備や技術習得

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

解剖生理学に基づくスポーツリハビリテーションに興味関心がある者

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	阿井 英二郎

■講義の目的および概要

本講義では、「スポーツコーチング、スポーツ心理学の意義、基本的理念」について理解するとともに、スポーツでよく使われる「心・技・体」という言葉の「心」の重要性と「技」「体」の繋がりを理解し、心身の発達と自身のスポーツ活動およびスポーツ指導のあり方を学び、実技演習するとともに次年度に向けて応用できるような知識を身につけ、報告、発表するなど能動的な学修を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

少人数での演習形式で授業を行う。実施場所は、教室および研究室である。能動的な学習を図るために状況に応じて、ディスカッションおよびプレゼンテーション手法を採用し、グループまたは個人ごとに指導を行う。テーマに応じて、フィールドワークも実施する。講義の場所と時間については、指導教員と履修者が相談の上、決定する。本講義は、コーチングやスポーツ心理学的研究、および競技指導現場での経験のある教員が担当する。スポーツ心理学の学問分野をふまえながら、「コーチング」の理論について理解できる講義を実施する。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

演習の中で課題に対するフィードバックを逐次行う。

■授業計画

- ①ガイダンス・・・本演習の進め方の説明
- ②スポーツコーチング・心理学におけるコミュニケーションの重要性と能力の向上の説明
- ③演習テーマに関する討論：コミュニケーションの重要性と能力の向上
- ④ミーティング法と実施の留意点についての説明
- ⑤演習テーマに関する討論：ミーティング法と実施の留意点
- ⑥リーダーシップについての説明
- ⑦演習テーマに関する討論：リーダーシップ
- ⑧アンガーマネジメントについての説明
- ⑨演習テーマに関する討論：アンガーマネジメント
- ⑩演習テーマに関する文献収集：コミュニケーション・ミーティング
- ⑪演習テーマに関する文献抄読会1：コミュニケーション
- ⑫演習テーマに関する文献抄読会2：ミーティング
- ⑬演習テーマに関する文献収集：リーダーシップ・アンガーマネジメント
- ⑭演習テーマに関する文献抄読会1：リーダーシップ
- ⑮演習テーマに関する文献抄読会2：affect

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツコーチング、スポーツ心理学におけるコミュニケーション能力の向上やリーダーシップ発揮などの実践方法について習得し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

授業への取り組み、課題提出状況：40%
 報告会に向けての準備、内容：40%
 報告、発表状況：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】
 適宜プリントを配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】【必要な時間】

スポーツコーチングおよびスポーツ心理学をメインテーマとして授業を実施する。関係する資料検索・收拾を行い、学習の準備をすること。毎時間、小レポート課題を課す。これらをふまえ、事前および事後学習には、それぞれ、120分程度の時間を要する。

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	安田 純輝

■講義の目的および概要

本科目では、応用演習Ⅰで習得した体育科教育に関連する基礎的知識を踏まえ、研究を進めていく上で必要な文献検索やデータの収集・分析方法、考察の行い方に関する基本的能力を身に付ける。主に、体育科の目標やカリキュラム、学習内容、教材・教具づくり、学習指導、評価などについて、体育・スポーツに関連する文献を購読し、ディスカッションを重ねていく。また、学校教育ならびに学校体育における諸課題についても焦点を当て、その解決の方向性について検討していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は、演習形式によって展開する。体育科教育における内容や方法に関連する文献や資料を活用し、グループワークやディスカッションを随時取り入れながらその理解を深めていく。

やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

本科目の他、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

本科目の課題は、eラーニングシステム (manaba) を活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、授業外での本科目に関する質問は、個別対応とする。

■授業計画

- ①オリエンテーション：演習の概要と進め方
- ②応用演習Ⅰの内容及び中間発表の確認
- ③参考文献の要約及び研究テーマの再設定
- ④研究テーマに関するディスカッション1：問題の所在
- ⑤研究テーマに関するディスカッション2：先行研究の検討
- ⑥研究テーマに関するディスカッション3：先行研究の批判的検討
- ⑦研究テーマに関するディスカッション4：研究の目的
- ⑧研究テーマに関するディスカッション5：研究の方法
- ⑨研究テーマに関するディスカッション6：データの収集及び分析方法
- ⑩研究テーマに関するディスカッション7：結果の整理
- ⑪研究テーマに関するディスカッション8：考察
- ⑫中間発表の準備1：発表内容の整理
- ⑬中間発表の準備2：発表スライドの作成（パワーポイントの活用）
- ⑭中間発表
- ⑮まとめ：評価と振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

体育科教育に関する基本的能力を学習指導要領や関連資料の購読を通して身につけるとともに、その問題の所在や課題点について指摘をすることができる。

各自、研究テーマを設定し、体育科教育に関する基本的能力を活用しながら、各自の研究テーマに関連する文献の検索・購読・要約ならびに発表をすることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①平常点評価：40%
発問に対する応答やディスカッションへの参加状況など授業の取り組みに対する積極性を評価する。
- ②レポート：40%
進捗状況に応じて適宜課題を提示する。課題については、演習での討議内容と関連付けながら深く考察しているかを評価する。
- ③発表内容：20%
研究テーマのオリジナリティや目的・方法・結果・考察に一貫性が伴っているかを評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
岡出美則ほか編（2021）体育科教育学入門（三訂版）．大修館書店．
その他，必要に応じて適宜資料を配布する．

【参考文献】
文部科学省（2018a）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編．東山書房．
文部科学省（2018b）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：体育編．東洋館出版社．
文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編．東山書房．

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習では，事前に示されたテーマについて教科書・文献・資料等を熟読し，その内容や専門用語について予め調査しておくこと．また，事後学習では，各自の興味・関心に基づいて関連する文献や資料を参照し，その内容や自身の考えを整理して，次回以降の学習へ活かせるようにすること．
科目に関連する学部学科行事を実施した際は，到達目標に関するレポートを行う場合がある．

【必要な時間】
予習・復習の時間は，それぞれ2時間を目安とする．

■その他

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	林 満章

■講義の目的および概要

応用演習Ⅰで習得したスキルをさらに発展、応用させる。ゼミ活動を通じて研究・調査に必要な知識を得て課題設定し、その結果をレポートにまとめる。また、各自の課題設定におけるプレゼン発表会を実施する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、指定教室・研究室とする。

状況によって、グループまたは、個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内外研究発表を行うことがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

■授業計画

- ①ガイダンス・面談
- ②春学期プレゼンテーションの問題点の検討
- ③職業研究 1
- ④職業研究 2
- ⑤自己分析・面談
- ⑥テーマ研究 1
- ⑦テーマ研究 2
- ⑧各自の研究テーマ・設定について
- ⑨各自の研究テーマ・設定・方法・考察について
- ⑩プレゼン骨子についての準備
- ⑪プレゼンテーションの作成 1
- ⑫プレゼンテーションの作成 2
- ⑬プレゼンテーションの作成 3
- ⑭プレゼンテーションの実施
- ⑮研究成果の提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 1 課題探求能力、問題解決能力を身につける。
- 2 研究テーマの設定・考察・まとめ・発表する能力を身につける。
- 3 プレゼンテーションできる力を身につける。
- 4 スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------------|-----|
| 1 授業への参加意欲・態度 | 20% |
| 2 プレゼンテーションの作成・発表 | 50% |
| 3 レポート等の提出 | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜配付する

【参考文献】

適宜指示する

■授業外学習

【具体的な内容】【必要な時間】

今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認すること。個別指導は、研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておくこと。科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合もある。

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

提出物の期限厳守。期限を守れなければ不認定とする。

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	平田 嘉宏

■講義の目的および概要

今日の学校教育に関する文献や資料、又は、教育に関係があり自分が興味・関心のある分野に関する文献や資料を調べ、テーマを設定し、レポートにまとめてその内容が聞き手に伝わるよう発表することで、これまで大学で修得してきたスキルを一層高め、4年次のテーマ研究につながる基礎的な力を身に付ける。
また、電子黒板の活用方法について研究する。特に教員免許取得希望者については、ロイロノートを用いて活用方法を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

一人一人が学校教育に関する文献や資料、又は、教育に関係があり自分が興味・関心のある分野（例えばスポーツ、リーダーシップ、教えるということ、ICTの教育への活用）に関する文献や資料を調べ、テーマを設定し、考察、フィールドワーク等を経てレポートにまとめ、発表やプレゼンテーションを行う。

必要に応じてグループ・ディスカッション、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングの方法を取り入れて行う。

場合によっては簡便な無料の統計ソフトウェアを用いて分析する。

高等学校や教育研究所における調査研究などの実務経験のある教員が担当する。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等、実務的学習の場に参加することがある。

電子黒板の活用については、企業または学校での活用と分けて想定し、どのように活用するのがよいのかを研究しその操作に習熟する。特に教員免許取得希望者については、ロイロノートを用いて生徒役のPCと電子黒板をつないだ際の効果的な使用方法について研究する。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて課題を設け、講義の中で解説する。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 春学期の応用演習Ⅰの振り返りと応用演習Ⅱにおいて改善すべき点の明確化
- ③ 文献や資料の検索・収集
- ④ 文献や資料の内容理解及びテーマの検討
- ⑤ テーマの設定と考察・調査などすべき事柄の検討、設定テーマの発表と修正
- ⑥ 考察・調査などすべき事柄の明確化
- ⑦ レポートの構成の検討と作成
- ⑧ レポートの作成
- ⑨ レポートの作成
- ⑩ レポートの完成と発表の準備
- ⑪ レポートによる発表、グループ・ディスカッション、今後の修正点の確認
- ⑫ プレゼンテーションの準備
- ⑬ プレゼンテーションの準備
- ⑭ プレゼンテーション、修正点の確認
- ⑮ 発表資料の提出

場合によってはオンライン・オンデマンド授業の可能性がある。その際は、事前にmanaba等で連絡する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 4年次のテーマ研究につながる基礎的な力を身に付けられる。
- ② テーマを設定し、考察し、まとめて形にすることができる。
- ③ 自分の主張が伝わるように人前で発表することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

毎回の授業内容確認シート提出	30%
テーマ、レポート、プレゼンの発表状況	40%
レポート、プレゼン等の成果物	30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じて配布する。

【参考文献】
『ロイロノートのICT“超かんたん”スキル』時事通信社

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：授業計画を確認し、現時点で可能な範囲まで作業を進めておく。
事後学習：授業計画を確認し、現時点で可能なところまで検討・作成・準備を進めておく。

【必要な時間】

事前事後学習にはそれぞれ2時間を要する。

■その他

簡便な無料の統計ソフトウェアとは、College Analysisのことである。

科目名	応用演習Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	大鐘 秀峰

■講義の目的および概要

今日の学校をめぐる教育問題について、さまざまな実際の事例を自ら調べ、その実態を知るとともに、問題点を発見し、その解決策を検討し、レポートにまとめるという研究態度と研究方法を修得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

①さまざまな媒体から今日の学校教育をめぐる事例を調べ、そこから問題点を発見していく。そのため講義とグループディスカッションを重ねていながら、自分の研究テーマを見いだしていく。

②自分の研究テーマに関する資料を集めて、適切な引用をしながら、考察を加えて、問題点の解決策を根拠とともに述べ、レポートにまとめていく。

本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等の実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、個別に授業の中で解説するとともに、必要に応じて報告書にまとめる過程や中間発表などをおしてフィードバックする。

■授業計画

- ①ガイダンス…シラバスの説明・授業の方法・評価基準等
- ②レポートとは何か
- ③教育問題とは何か
- ④資料・論文の読解①
- ⑤資料・論文の読解②
- ⑥学校教育問題事例研究①
- ⑦学校教育問題事例研究②
- ⑧研究テーマ探究①
- ⑨研究テーマ探究②
- ⑩中間発表
- ⑪レポート作成①
- ⑫レポート作成②
- ⑬レポート作成③
- ⑭レポート作成④
- ⑮まとめのレポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①教育問題への視点を身に付けることができる。
- ②課題を発見し、それについて資料を探索することができる。
- ③教育問題に対して、自分の考えを説得力を持って主張することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|------------------|-----|
| ①授業への取り組み・課題提出 | 40% |
| ②中間発表に向けての準備、内容等 | 30% |
| ③報告、発表状況 | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜新聞切り抜きを配付する。配付されたプリントはファイルに保存すること。

【参考文献】

適宜指示・紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

予習としては、事前に配付された資料について読解した上で、内容を把握し、論点を整理してくる。復習としては、授業内容を踏まえて、既習事項を整理する。

【必要な時間】

予習、復習の時間としては、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

なし

科目名	レクリエーション実習
開講期・単位	3年 通年・選択 2単位・実習
担当者	本多 理紗

■講義の目的および概要

本講義は、レクリエーション理論と実技で身につけた技能を活かすことが出来るよう体験的に学習し、レクリエーション関係団体等が主催する事業に参加、あるいはスタッフとして協力し、現場で実習することを通して指導者としてふさわしい知識と技能を身につけることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

受講生自らが企画した事業を実際に展開します。また、レクリエーション関係団体等が主催する事業に参加した時間を授業に振り替え、終了後の報告レポートを果し単位を認定します。

本講義は、スポーツや福祉領域で子どもから高齢者までのレクリエーションを実施している実務経験のある教員が、現場で活かされる支援者としての技術を修得できる授業を実施します。

本科目ほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- 1、授業のガイダンス
- 2、レクリエーション理論・実技の確認
- 3、指導演習Ⅰ（個人による指導実習）
- 4、指導演習Ⅱ（同上）
- 5、指導演習Ⅲ（同上）
- 6、指導演習Ⅳ（同上）
- 7、指導演習Ⅴ
- 8、指導演習Ⅵ
- 9、指導演習Ⅶ
- 10、指導演習Ⅷ
- 11、指導演習Ⅷ
- 12、指導演習Ⅹ
- 13、自主企画事業の立案
- 14、自主企画事業の決定
- 15、授業のまとめ（課題レポート）
- 16、実習に関するガイダンス
- 17、～29、
 - 下記の事業から選択し最低3事業以上参加することで授業に振替え
 - ・ 札幌国際大学が主催する事業
 - ・ レクリエーション課程認定校学生交流会
 - ・ レクリエーション関係団体が主催する事業
 - ・ 教育関係団体が主催する事業
 - ・ その他事前に認められた事業
- 30、実習の確認（まとめのレポート）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①授業での個別指導を通して身に付けた、レクリエーション・インストラクターとしての技能や資質を、実際に現場で実習することを通して展開することができる。
- ②スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①指導演習の企画、準備、展開（30%）
- ②事業への参加状況（40%）
- ③報告、課題レポート（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』公益財団法人 日本レクリエーション協会（既に2年次購入済み）

【参考文献】
『スポレク活動で健康寿命を延伸』公益財団法人 日本レクリエーション協会
『レクリエーション支援の技術』公益財団法人 日本レクリエーション協会

■授業外学習

【具体的な内容】

日常的に笑顔で挨拶が出来、誰とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を心がけ実践をしてください。
指導演習に向けて各個人での事業計画等の準備が必要となります。対象者や目的にあわせたレクリエーション活動が展開できるよう、今までに学習してきた理論や実技の技法を再確認しておいてください。
科目に関連する学部学科行事を実施した際、到達目標に関するレポートを行う場合があります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

この科目は、「レクリエーション・インストラクター」「スポーツ・レクリエーション指導者」「ジュニアスポーツ指導員」の資格取得のための必修科目です。
既に「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」の単位を修得していることが必要です。
実習費として500円徴収する場合があります。（カップ大会参加費）

科目名	スポーツ心理学[スポ指]
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	阿井 英二郎

■講義の目的および概要

本講義の目的は、スポーツでよく使われる「心・技・体」という言葉について、「心」の重要性と「技」「体」の繋がりを理解し、心身の発達と自身のスポーツ活動およびスポーツ指導のあり方を学ぶことである。さらに、以下の2点について具体的に修得することを目指す。①メンタルトレーニングやコーチング等の専門知識を学び、競技力向上や日常生活、今後の人生に役立つパフォーマンス（学業や仕事等）の向上など、実際に活かすことのできる心理学や行動変容に関わる方法を修得すること。②スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて理解し、スポーツ場面での実践に活かせるようになること。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

スポーツ心理学の実践的なテーマについて、能動的学修を目指し、講義形式に加えて、心理検査・実技などの体験学習をグループワーク形式で実施する。さらに、レポートを課し、講義内容の振り返りを行う。本講義は、スポーツ心理学を専門とし、かつスポーツコーチング現場での競技指導および実務経験を有する教員が、スポーツの実践現場の事例を紹介することを通じて、「スポーツ心理学」の基礎理論について理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス(本講義の内容を概説と授業の進め方)
- ②スポーツ心理学の領域・歴史(1)
- ③スポーツ心理学の発展・未来(2)
- ④スポーツとパーソナリティ/心(マインド)・技術(スキル)・身体(フィットネス)
- ⑤メンタル・コンディショニング(自律訓練法とマインドフルネス)
- ⑥自律訓練法(1):理論
- ⑦自律訓練法(2):技法・実践
- ⑧マインドフルネス(1):理論
- ⑨マインドフルネス(2):技法
- ⑩マインドフルネス(3):実践
- ⑪スポーツとコミュニケーション(1):プロセス
- ⑫スポーツとコミュニケーション(2):応用
- ⑬スポーツ心理学における目的の意義・目標設定の方法
- ⑭スポーツ心理学による競技者へのaffect
- ⑮授業内筆記試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツにおける心理学的な影響について知識を深め、基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、説明することができ、自分自身の日常生活で応用できることを目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業参加レポート・提出物：30%
 試験：70%

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】
 適宜プリントを配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】【必要な時間】
 事前及び事後学習は、授業内容に関する文献及び書籍を通じて調べ学習を行うこと。
 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	学校保健
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	林 満章

■講義の目的および概要

学校での保健指導、保健教育、保健管理、安全管理などについての知識を身につけるとともに、教員として携わる学校保健活動などについて学ぶ。また、現在の学校保健に関わる事例についても解説する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室での講義形式を主とする。より深い理解を得るためにグループワークを実施することもある。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。manabaを通じて資料を配付する。

■授業計画

- ①オリエンテーション・学校保健の目的
- ②歴史・行政と制度
- ③組織活動と職員の実際
- ④保健計画・安全計画・保健学習について
- ⑤保健指導について
- ⑥学校における性教育
- ⑦喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
- ⑧児童生徒の健康把握と評価
- ⑨児童生徒の発育発達・健康障害とその指導
- ⑩精神の健康
- ⑪障がいのある児童生徒とその指導
- ⑫学校環境衛生
- ⑬学校安全
- ⑭危機管理と緊急時対応
- ⑮学校保健のまとめ（含：試験）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 1 学校保健活動・学校安全などについて知識を身につける。
- 2 教員として保健・安全活動を実践できる力を身につける。
- 3 スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|---------------|-----|
| 1 試験 | 50% |
| 2 授業への参加意欲・態度 | 20% |
| 3 提出物 | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜配付する。

【参考文献】

『学校保健ハンドブック』 教員養成系大学保健協会 ぎょうせい

■授業外学習

【具体的な内容・必要な時間】

次回の講義資料をmanabaにて事前に配付する。
 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

- 1 分類は選択科目であるが教職単位であり、教師を目指す学生の受講を強く希望する。
- 2 毎時間レポートを提出する。提出により出席扱いとする。未提出は欠席扱いとする。
- 3 オリエンテーションの参加を必須とする。特別な事情がある場合は事前に申し出ること。

科目名	ハンドボール
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	横山 克人

■講義の目的および概要

本講義は、ゴール型集団球技であるハンドボール競技を専門的に学びます。ハンドボール競技の個人技術（パス、キャッチ、シュート、フェイント）、グループ戦術（状況判断、攻防）、チーム戦術（組織的な攻撃・防御）を段階的に学び、技術や戦術の修得を目指します。また、単に技術の修得だけでなく、ハンドボール競技の歴史的背景や競技規則についても理解を深めていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、実技形式で行います。必要に応じて、映像やプリントを活用した講義形式での学習も行います。

本講義は、日本スポーツ協会公認ハンドボールコーチ3の資格を有する教員が行います。実技形式の授業では、ハンドボールの競技特性、競技規則を解説するとともに、具体的なプレーを模範し、課題に則した段階的な授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時間、manabaやResponで質問・意見・感想を書いてもらいます。質問に関しては、翌時間の冒頭に回答します。また、回答と併せて、前時の復習を行います。さらに、毎授業では、技術・戦術の課題を提示し、板書と実技を交えて解説をします。

■授業計画

- ①ガイダンス（歴史、競技規則の概要）
- ②個人技術の基礎（パス、キャッチ、シュート、フェイント）
- ③個人技術の発展（動きながらのプレー）
- ④個人技術の応用（状況に応じたプレー）
- ⑤グループ戦術の基礎（スペース・ボール・相手・味方）
- ⑥グループ戦術の発展（攻撃・守備の目的）
- ⑦グループ戦術の応用（状況判断を伴うプレー）
- ⑧チーム戦術の基礎（ゴール型球技の4局面）
- ⑨チーム戦術の発展（組織的な防御・攻撃）
- ⑩チーム戦術の応用（ゲーム展開を考える）
- ⑪ゲーム
- ⑫ゲーム
- ⑬筆記テスト
- ⑭実技テスト
- ⑮ゲーム

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ハンドボール競技における個人技術（パス、キャッチ、シュート）を身に付け、それらの動きのポイントについて説明できる。また、ゲームを通じてハンドボール競技の戦術を理解し、競技規則について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- 取り組み意欲・態度（20%）
- レポート課題（20%）
- 実技テスト（30%）
- 筆記テスト（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- 「ハンドボール指導教本」財団法人日本ハンドボール協会 大修館書店
- 「ハンドボールの基本と戦術」酒巻清治 実業之日本社
- 「確実に上達するハンドボール」酒巻清治 実業之日本社

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では、インターネット等でハンドボールの試合映像を見て、競技規則の理解やプレーのイメージ作りをし、ハンドボールに関する知識を深めて下さい。

なお、本講義では、激しい運動が伴うため、日頃から体を動かす時間を作り、体力づくりを行うことを意識して下さい。また、傷害予防のために、授業の前後にはストレッチを行うことを心がけて下さい。

【必要な時間】

日常的且つ、継続的な学習活動を心がけ、1日40分（6日で4時間）を目安とします。

■その他

ハンドボールは非常に危険なスポーツであるため、必ず担当教員の指示に従って下さい。また、安全面を考慮し、装飾品の一切を外して下さい。

受講希望者が多い場合は、履修人数に制限をかけることがありますので、ご了承ください。

科目名	サッカー
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	田部井 祐介

■講義の目的および概要

本講義では、サッカーの「止める」、「蹴る」、「運ぶ」といった技術と戦術の基本を理解し、それらをゲームのどのような場面で使用するのが効果的なかを学ぶ。また、サッカーの歴史、文化的背景やサッカーの競技特性を理解し、サッカーを理論と実践で学ぶことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、実技と講義形式で行い、実技ではサッカーの基礎的技術、講義では専門的知識を得ることを目指す。

本講義は、サッカー協会公認の指導者ライセンスを有する教員が競技特性および競技規則を解説し、段階的な技術・戦術指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については講義内で解説する。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②サッカーの歴史・ルールの理解（講義）
- ③ボールに慣れよう
- ④ゲームをしよう・技能テスト
- ⑤パスをしよう（ボールコントロール）
- ⑥パスをしよう（多数ゴールゲーム）
- ⑦サッカーのコーチングⅠ（講義）
- ⑧シュートをしよう（ストップボール）
- ⑨シュートをしよう（シュートゲーム）
- ⑩ボールを運ぼう（ボールキープ）
- ⑪ボールを運ぼう（ラインゴールゲーム）
- ⑫サッカーのコーチングⅡ（講義）
- ⑬ゲームをしよう（ハーフコート）
- ⑭ゲームをしよう（フルコート）
- ⑮技能テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①チームワークを高め、仲間とともに課題や目標に挑戦できる。
- ②運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深めることができる。
- ③サッカーの競技特性を理解し、基礎技術を実践できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

技能テスト 40%
 レポート 30%
 授業内課題 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

「理論と実践で学ぶサッカーコーチング」中山雅雄編著 大修館書店

■授業外学習

【具体的な内容】

サッカーについての基礎知識、ルール等を理解しておく。
 怪我の予防において、基礎運動を継続しておく。

【必要な時間】

事前と事後それぞれ2時間を目安とする。

■その他

スポーツに適した服装、屋内シューズ（フットサルシューズが好ましい）と屋外シューズ（トレーニングシューズ・スパイクが好ましい）を用意すること。
4月中および荒天時には体育館で実施することがあります。

科目名	バレーボール[スポ指]
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	石川 みゆき

■講義の目的および概要

本講義では基本技術習得のほか、ルールや戦術、技術練習のポイント等を理解し指導に活かせるようになること、またバレーボールを通じて自主性、協調性など指導者としても必要となる資質の向上を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ルールや技術のポイント、指導方法等の解説を交えながら、技術練習やゲームなどチームごとの活動を主体に、バレーボールの実技を行います。
模擬授業に関しては、グループで指導案の作成から授業準備、実際の授業までを担当し、終了後には参加者の意見や感想も参考にできるよう振り返りの時間を設けます。

【課題に対するフィードバックの方法】

受講者が将来、指導する立場になることを想定し、授業内で課題を共有、意見交換や解説を交えながら解決を図ります。

■授業計画

- 基本編①ガイダンス、身体慣らしとパス練習
②バレーボールの来歴と特性、基本的なトレーニングとパス
③パスに関するルールと技術ポイント、ボールをつなぐためのパス練習
④実技テスト1(基本編)、ラリーゲーム
- 応用編⑤サーブとレセプションに関するルールと技術ポイント
⑥攻撃と守備に関するルールとフォーメーション、スパイクとブロック
⑦レセプションとディグから攻撃の組み立て練習
⑧実技テスト2(応用編)、ラリーゲーム
⑨模擬授業1…導入の工夫と体づくりのトレーニング
⑩模擬授業2…オーバーハンドパス習得のための工夫と練習方法
⑪模擬授業3…アンダーハンドパス習得のための工夫と練習方法
⑫模擬授業4…ボールをつなぐ楽しさを感じさせる練習方法
⑬模擬授業5…ラリーにつながる簡易ゲームの工夫
⑭実技テスト3(応用編)、ゲーム
⑮ゲーム、まとめ、レポート回収

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①バレーボールのルールや戦術、技術のポイントを理解し、基本的な技能を身につける。
- ②自ら課題の発見や解決を図り、指導に活かせるようになる。
- ③自律や協調など、チームプレーに必要な行動ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- | | |
|-----------------|-----|
| ①積極性、マナー、提出物 | 40% |
| ②模擬授業、実技テスト | 30% |
| ③レポート(指導案作成を含む) | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて資料を配布します。

【参考文献】

コーチング バレーボール(日本バレーボール協会 大修館書店)

■授業外学習

【具体的な内容】

ルール等の基本的な知識を得ておく取り組みやすいと思います。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

基本技能と指導方法を身につけるための授業です。実技テストで習熟度を見極めた2023（令和5）年4月1日
えで応用編に進みますので、基本編は必ず出席すること。
また模擬授業を行います。積極的に授業を担当する心構えで来てください。初回から
実技をします。保健体育科教員免許(教科に関する科目)の必修科目です。

科目名	バスケットボール
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	後藤 ゆり、(未定)

■講義の目的および概要

バスケットボールの歴史、ルール、競技特性を理解し、個人技術やチーム戦術を身につける。また、地域や学校で対象者の特性に応じた指導ができるよう、指導法、指導計画の立案・実践、審判法について学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

体育館での学習・実技を中心に展開する。本講義は、バスケットボール指導の実務経験のある教員が担当し、授業の前半で知識と技術を解説し、その後、バスケットボールの諸技術について実践を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で適宜解説を行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②バスケットボールについて（歴史、ルール、特性について）
- ③シュートとリバウンド技術
- ④パス技術
- ⑤ドリブル技術
- ⑥ディフェンス技術(フットワークとボディコントロール)
- ⑦個人および集団戦術1（1対1を中心に）
- ⑧個人および集団戦術2（2対2を中心に）
- ⑨個人および集団戦術3（3対2を中心に）
- ⑩リーグ戦を通してのチーム戦術の考案1（トランジションプレー）
- ⑪リーグ戦を通してのチーム戦術の考案2（スクリーンプレー）
- ⑫リーグ戦を通してのチーム戦術の考案3（ディレイオフェンス）
- ⑬リーグ戦を通してのオフィシャルの練習（審判方法含む）
- ⑭実技テスト、ゲーム（審判方法含む）
- ⑮指導計画の立案・実践

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①バスケットボールの歴史、ルール、競技特性を説明できる。
- ②バスケットボールの基本的な技術や戦術を実践できる。
- ③バスケットボール指導を対象者の特性を考慮して計画し、作成した指導計画書により実践できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- | | |
|---------------|-----|
| ①技術練習の進行度、達成度 | 30% |
| ②実技テスト | 40% |
| ③レポート（指導計画含む） | 30% |

■テキスト・参考文献

【参考文献】

- ・保健体育科学習指導要領
- ・その他適宜資料を配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：動画などから、バスケットボールの興味のあるプレーや練習方法などについて情報を得ておくこと。
 事後学習：講義内容についての小レポートや小テストへ準備学習が必要である。

【必要な時間】

事前および事後学習では、2時間程度の時間を要する。

■その他

実技科目であるので、身体を動かせるように体調管理や服装などの準備をしておくこと。なお、教員免許の取得を目指している学生は、保健体育科の学習指導要領を熟読のこと。

本科目は、保健体育科教員免許（教科に関する科目）の対象科目である。

科目名	生涯スポーツ演習
開講期・単位	3年 通年・選択 2単位・演習
担当者	佐久間 章、新井 貢

■講義の目的および概要

生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる生涯スポーツについて理解するとともに、学内外で開催されるスポーツに関わるイベントなどにボランティアスタッフとして参加し体験的に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室での講義、グループワークを踏まえ、実習体験として学内外で開催されるスポーツイベントにボランティア参加する。

本科目のほか、学部ボランティアするフィールドワーク等実践的場に参加することがある。

社会教育主事として生涯スポーツの推進に関わった実績を踏まえ、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を習得する

【課題に対するフィードバックの方】

必要に応じて課題、質問を果たし、授業内で解説する。また、授業後も時間を割いて、個別に対応する。

■授業計画

1. ガイダンス
2. 生涯スポーツの位置づけ
3. 生涯スポーツの現状と課題
4. ライフスタイルとスポーツ
5. グループワークⅠ「スポーツ実施率の向上戦略」
6. グループワークⅡ「スポーツを通じた地域の活性化」
7. グループワークⅢ「スポーツイベントの企画」
8. ボランティア実習の参加について
- 9～14 スポーツボランティア実習 2回（6時間分）を振替
15. 春学期の授業のまとめ、課題レポート
16. 秋学期ガイダンス
17. ボランティア実習中華発表
18. 実習参加について（中間確認）
- 19～28 スポーツボランティア実習3回（9時間分）を振替
29. 簿案ティア実習最終発表（実習最終確認）
30. 授業のまとめ、レポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①生涯スポーツの重要性を理解し、事業を企画立案することができる。
- ②自ら身に付けた知識、技能を実践的に展開することができる。
- ③スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①グループワークでの発表、提出物 30%
- ②実習への参加状況（主催団体からの報告を含む） 40%
- ③提出課題、レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

必要に応じて配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、スポーツに関わる新聞、ニュース、テレビ報道などを積極的に観て、幅広い知識と現状を理解する。
事後学習として、授業で身につけた知識、教養を、スポーツに関する事業やイベントにボランティア参加することで実践する。
科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

事前事後学習として、2時間を目安とする。

■その他

この科目は「実践キャリア実務士」の選択科目である。
事業参加に伴う交通費等については自己負担を原則とし、主催団体の指示に従うこと
。

科目名	地域社会と健康
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	林 美枝子

■講義の目的および概要

医療人類学や社会医学の分野から健康の新たな定義を学習する。WHO、あるいは日本の健康政策についての取り組みやその変遷についてを理解する。その後、日本における健康政策の具体的項目について学び、現在日本の健康阻害要因は何なのかを焦点を絞って考察する。最後に、地域包括ケアシステムの構築に向けた、地域の医療と介護の一括的な制度変更を学習し、健康をめぐる地域創生の現状を把握する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本は講義形式であるが、認知症サポーター養成講座を前半で1回実施する。グループワークは、授業を通しての課題について行い、グループワークの報告書で個別の参加度を確認する。報告書や授業内容の確認はManabaでの送信やメール添付で提出する。また出欠はResponで行うと同時に対面の場合は出欠シートへの記入でその最終確認とし、同時に授業態度を評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

資料は毎週学生に配布するが、リモートの場合はManabaに提示する。質問等はメールでの個別対応とする。

■授業計画

- ①授業の流れと課題、評価について 健康に関する考察1
- ②WHOの健康観、文化相対的視点からの健康に関する考察2
- ③SDGsとは何か そのゴールから地域社会と健康を探る
- ④認知症サポーター養成講座(実施回が変更される場合あり)
- ⑤現代社会における健康阻害要因の考察1 貧困と格差社会について
- ⑥現代社会における健康阻害要因の考察2 DV、性暴力被害の現状と取り組み
- ⑦健康阻害要因の考察3 社会的医原病の現在
- ⑧共生社会創りの推進、介護予防のための新総合事業とは
- ⑨多死社会の到来に備えて1 病院完結型社会から地域完結型社会へ
- ⑩多死社会の到来に備えて2 地域包括ケアシステムを理解する
- ⑪多死社会の到来に備えて3 地域での共助が始まっている
- ⑫医療と介護の一括化と地域包括ケアシステム
- ⑬地域社会と健康 アクティブ・ラーニング グループワーク1
- ⑭地域社会と健康 アクティブ・ラーニング グループワーク2
- ⑮まとめ(地域社会と健康について)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①国際的な新たな健康の定義や取り組みを理解する
- ②日本が推進する共生社会について認知する
- ③健康への自助力の向上に関して、現状を学習する
- ④身近な地域社会の健康、福祉資源を説明できること

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「スポーツ健康分野の課題分析力の修得」と「自立して行動できる姿勢、課題を発見し解決する能力」

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

出欠・自学自習シートへの書き込み 20%
 グループワークの報告書 20%
 定期試験 60%(配布資料の持ち込み可)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

林美枝子『介護人類学事始め 生老病死をめぐる考現学』明石書店
 ヘンリー・フェルスコ=ワイス 監訳 林美枝子『看取りのドゥーラ』明石書店

■授業外学習

【具体的な内容】

15回の授業が終了するまでの期間で、新聞や雑誌から介護予防、地域創造、共生社会をキーワードに、関連する時事問題の情報を常に確認すること。15回の遠隔授業が終了した時点で、出欠・自学自習シートに記入して提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

コロナ前は、この授業で毎年実施している近隣の福祉施設の見学を、昨年度までは中止していましたが、今年度は様子を見て、実施する可能性もあります。その際はバス代が若干発生します。

科目名	健康運動指導演習
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	後藤 ゆり、本多 理紗

■講義の目的および概要

本講義は、健康運動指導士の資格取得を目的とする演習および実習型講義である。具体的には、生活習慣病（心臓病、脳卒中、糖尿病等）の予防を目的に、生活習慣病のハイリスク者等に対し、安全で効果的な運動指導を円滑に実践できるための基礎理論と実践能力を修得することを目的とした演習および実習である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は、実技実習および現場実習形式を採用する。資格に関連する講義に加えて、能動的に学修を行う「水泳実習」および「健康産業施設等現場実習」を通じて、健康運動指導士の資格取得に必要な知識および実践力の獲得を目指す。本講義は、運動生理学を専門とする教員、健康教育を専門とする教員、および健康運動を専門とし、健康運動指導士としての実務経験のある教員が担当する。担当者それぞれの専門に関する基礎理論の教示および、実習先の健康運動指導士による指導を通じて、健康運動指導士としての必要な資質を養う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で適宜解説を行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②水泳・水中運動 (1) [9-5] 水中運動の基本と基本泳法
- ③水泳・水中運動 (2) [9-5] 中高年者や有患者など個々に合わせた指導法
- ④介護予防と運動 (1) [9-8] わが国の高齢化の実態と疾患状況について
- ⑤介護予防と運動 (2) [9-8] 介護予防と運動の役割について
- ⑥健康産業施設等現場実習 (1) [9-9] 対象者への接し方とコミュニケーション
- ⑦健康産業施設等現場実習 (2) [9-9] 施設管理業務の実践と安全管理
- ⑧健康産業施設等現場実習 (3) [9-9] 個人情報管理と守秘義務について
- ⑨健康産業施設等現場実習 (4) [9-9] 運動施設の機器の特徴について理解する
- ⑩健康産業施設等現場実習 (5) [9-9] 介護予防運動指導の実践について理解する
- ⑪健康産業施設等現場実習 (6) [9-9] 運動実施前の健康チェック
- ⑫健康産業施設等現場実習 (7) [9-9] 個人の特性に対応した体力測定
- ⑬健康産業施設等現場実習 (8) [9-9] 個別ケースに対応した運動プログラムの作成
- ⑭健康産業施設等現場実習 (9) [9-9] 個別ケースに対応した運動プログラムの提供
- ⑮健康産業施設等現場実習 (10) [9-9] 運動の記録と運動継続効果の把握

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

健康運動士の資格取得に向け、健康産業施設の現場従事者から実践理論を学び、健康づくりに必要な運動プログラムの企画・計画、指導、評価の一連のマネジメントが出来るようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 指導実技 (40%)
- レポート課題 (40%)
- 実習日誌 (20%)

■テキスト・参考文献

【参考文献】

健康運動指導士養成講習会テキスト（著者：健康・体力づくり事業財団 出版社：株式会社社会保険研究所）

■授業外学習

事前学習：健康運動指導士養成講習会テキストを講読し、実習先での活動に備え2023（令和5）年4月1日
ること。

事後学習：実習後の振り返り記録シートに記入し、実習先での活動をまとめ、
次回の実習に備えること。また、水泳実習、介護予防と運動について
の活動および授業内容の振り返りを併せて行うこと。これらをふまえ
事前および事後学習では、それぞれ、120分程度の時間を要する。

■その他

- ・健康運動指導士の資格取得希望者のみ受講可能とする。
- ・水泳実習（水中運動に関わる実技）の際、プール使用料500円を徴収する。

科目名	体づくり・器械運動
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	安田 純輝

■講義の目的および概要

体づくり運動は、体ほぐしの運動と体力を高める運動（実生活に生かす運動の計画）で構成される領域である。また、器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成される領域である。

本科目は、中学校及び高等学校の保健体育科の領域として位置づけられる体づくり運動及び器械運動の学習を通して、平衡性や巧緻性をはじめとする基礎的な運動能力ならびに指導技能を養成していくことを目的とする。同時に、体づくり運動ならびに器械運動を通じた心身の調和的な発達を図り、生涯にわたるスポーツ習慣の形成や定着を志向した視点に立ちながら、これら領域の楽しさや喜びについて体感していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は、基本的に演習形式による展開とする。但し、運動の特性や各領域の概要などの解説にあたっては、講義形式による展開とする。また、本科目は、体づくり運動・器械運動の指導実績を有する教員が担当する。

やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

本科目の課題は、eラーニングシステム（manaba）を活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、授業外での本科目に関する質問は、個別対応とする。

■授業計画

- ①オリエンテーション、体づくり運動の概要（講義）
- ②体ほぐしの運動の実践ならびに指導法
- ③体力を高める運動と実生活に活かす運動の計画の実践ならびに指導法
- ④器械運動の概要（講義）
- ⑤マット運動：回転系（接転）の実践ならびに指導法
- ⑥マット運動：回転系（ほん転）の実践ならびに指導法
- ⑦マット運動：巧技系の実践ならびに指導法
- ⑧マット運動：演技の実践ならびに指導法
- ⑨跳び箱運動：回転系の実践ならびに指導法
- ⑩跳び箱運動：切り返し系の実践ならびに指導法
- ⑪平均台運動の実践ならびに指導法
- ⑫マイクロティーチング1
- ⑬マイクロティーチング2
- ⑭マイクロティーチング3
- ⑮まとめ：評価及び振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、以下3点の達成と指導技能の養成を到達目標として位置づける。

- ①体づくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる。器械運動では、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。
- ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- ③体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる。器械運動に主体的に取り組むとともに、よい演技を講えようとする、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

①平常点評価：50%

発問に対する応答やディスカッションならびに実習への参加状況など、授業への取り組みに対する積極性を評価する。

②リフレクション：30%

毎時間リフレクションを実施する。実際に展開された内容と関連付けながら深く考察がなされているかを評価する。

③マイクロティーチング：10%

体づくり運動ならびに器械運動に関するマイクロティーチングを実践する。実践した内容について、目的・方法（教材）に一貫性が伴っているかを評価する。

④レポート：10%

本講義のまとめとしてレポート課題を提示する。提示された課題に対して深く考察がなされているかを評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料は、必要に応じて適宜配布する。

【参考文献】

文部科学省（2013）学校体育実技指導資料 第7集 体づくり運動：授業の考え方と進め方（改訂版）。東洋館出版社。

文部科学省（2015）学校体育実技指導資料 第10集 器械運動指導の手引。東洋館出版社。

文部科学省（2018a）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編。東山書房。

文部科学省（2018b）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：体育編。東洋館出版社。

文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編。東山書房。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では、今回の授業内容に関する専門用語やその意味についてまとめておくこと。

事後学習では、必要に応じて振り返りができるようにするために授業内容を要約すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

○その他

本科目は、中学校及び高等学校教諭免許状（保健体育）の取得に関する必修科目である。

履修希望が40名を超える場合には、教職課程を履修している学生を優先的に登録する。

各自、運動に適した服装で授業に参加すること。

科目名	陸上競技
開講期・単位	3年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	栗野 祐弥

■講義の目的および概要

本講義は、陸上競技を实践する上で必要な知識と技術を、運動生理学、バイオメカニクスおよびコーチングの観点から修得する。また、ヒトの運動の基本であり、あらゆるスポーツに共通した走・跳・投の力を伸ばす上で、合理的な身体の動かし方を学修する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、陸上競技場、グラウンド、教室とする。必要に応じて、授業冒頭に陸上競技の基本動作である走・跳・投、それぞれに対して、指導する上で必要な知識や、重要な観点を説明する。その後、それぞれの種目について実践を通じた体験学習も行う。基本的には、個人々人に対する技術指導とするが、必要に応じてグループワークも行うことで能動的学習の機会を促す。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等、実践的学習の場に参加することがある。本演習は、陸上競技を専門とし、指導に関する実務経験のある教員が担当する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する口頭および文章によるフィードバックを適宜行う。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②陸上競技の種目やルールについて
- ③陸上競技(走・跳・投)に関する理論
- ④短距離走1(短距離走の基本的技術)
- ⑤短距離走2(短距離走の専門的技術)
- ⑥障害物走1(障害物走の基本的技術)
- ⑦障害物走2(障害物走の専門的技術)
- ⑧障害物走3(障害物走実技試験)
- ⑨投擲1(投擲の基本的技術)
- ⑩投擲2(投擲の専門的技術)
- ⑪投擲3(投擲実技試験)
- ⑫跳躍1(跳躍の専門的技術技術)
- ⑬跳躍2(跳躍実技試験)
- ⑭リレー競技1(バトンパス)
- ⑮リレー競技2(チーム対抗リレー)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①陸上競技について専門的な知識や、競技のルールについての理解をする。
- ②走・跳・投それぞれに対して、合理的な身体の使い方を理解し、それを実技により体現できる力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

実技課題 (40%)
 課題提出状況および提出物 (40%)
 最終レポート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業内適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前事後学習として、「①スポーツ健康分野の基礎的知識の習得」、「②陸上競技のルール・種目等に関連した知識」に関する情報収集を推奨する。
科目に関する学部学科行事を実施した際には、到達目標に関するレポートを行う場合がある。

【必要な時間】

上記をふまえ、事前および事後学習はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

動きやすい服装(着替えも含む)を準備してください。必ず、運動靴に履き替え実技を行ってください。怪我を誘発する可能性のある装飾品等は全て外して受講してください。

科目名	水泳
開講期・単位	3年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	安田 純輝、小林 秀紹

■講義の目的および概要

水泳は、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなどから構成される。具体的には、浮く、呼吸をする、進むなどのそれぞれの技能の組み合わせによって成立している運動で、それぞれの泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

本科目は、中学校ならびに高等学校の保健体育科の領域として位置づけられる水泳の学習を通して、平衡性や巧緻性、全身持久力をはじめとする基礎的な運動能力ならびに指導技能を養成していくことを目的とする。同時に、水泳を通じた心身の調和的な発達を図り、生涯にわたるスポーツ習慣の形成や定着を志向した視点に立ちながら、課題達成・克服型スポーツに関する楽しさや喜びについて体感していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は、学内にプールが設置されていないため、公的施設を使用した集中講義形式での展開とする。

また、本科目は、公的施設を使用した演習形式とするが、事前事後指導は講義形式による展開とする。

本科目は、水泳（競泳）の国内主要大会・国際大会入賞の競技実績、水泳指導に関する実務経験及び指導資格（公益財団法人日本水泳連盟 基礎水泳指導員）、認定ライフセーバー（公益財団法人日本ライフセービング協会 ベーシックサーフライフセーバー）の資格を有する教員が授業を展開する。

やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

本科目の課題は、eラーニングシステム（manaba）を活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、授業外での本科目に関する質問は、個別対応とする。

■授業計画

- ①事前指導：水泳の概要（オリエンテーション）
- ②事前指導：水泳指導における安全管理と注意事項
- ③事前指導：体育科・保健体育科における水泳領域の位置づけ
- ④実技指導1：呼吸の調整を伴ったもぐる運動の実践ならびに指導法
- ⑤実技指導1：呼吸の調整を伴った浮く運動の実践ならびに指導法
- ⑥実技指導1：け伸びの実践ならびに指導法
- ⑦実技指導2：初歩的な泳ぎの実践ならびに指導法
- ⑧実技指導2：クロールの実践ならびに指導法
- ⑨実技指導2：背泳ぎの実践ならびに指導法
- ⑩実技指導3：平泳ぎの実践ならびに指導法
- ⑪実技指導3：バタフライの実践ならびに指導法
- ⑫実技指導3：スタート及びターンの実践ならびに指導法
- ⑬事後指導：実技指導の振り返り
- ⑭事後指導：アクアティックスポーツの概要
- ⑮事後指導：水泳の学習指導計画の作成ならびに発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

本講義は、以下3点の達成と指導技能の養成を到達目標として位置づける。

- ①記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐことができる。
- ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- ③水泳に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保しようとする事ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①平常点評価：50%
発問に対する応答やディスカッションならびに実習への参加状況を参考とする。
授業への取り組みに対する積極性を評価する。
- ②リフレクション：30%
毎時間リフレクションを実施する。
実際に展開された内容と関連付けながら深く考察がなされているかを評価する。
- ③学習指導計画の作成・発表：20%
本講義のまとめとして、水泳の学習指導案を作成し、その内容について発表する。
学習指導案に示された対象・目的・方法（教材）に一貫性が伴っているかを評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料は、必要に応じて適宜配布する。

【参考文献】

文部科学省（2014）学校体育実技指導資料 第4集 水泳指導の手引（三訂版）。アイ
フィス。
文部科学省（2018a）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編。東山
書房。
文部科学省（2018b）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説：体育編。東洋館出
版社。
文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育
編。東山書房。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では、次回の授業内容に関する専門用語やその意味についてまとめておくこ
と。
事後学習では、必要に応じて振り返りができるようにするために授業内容を要約する
こと。

【必要な時間】

各回の予習・復習には、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は、中学校・高等学校教諭免許状（保健体育）の取得に関する必修科目である。
履修希望が40名を超える場合には、教職課程を履修している学生を優先的に登録する。
実技指導の展開に際して、水着（競泳用もしくはフィットネス用）・スイミングキャ
ップ・ゴーグルは、各自で用意すること。

科目名	武道
開講期・単位	3年 春秋学期・選択 2単位・演習
担当者	林 満章

■講義の目的および概要

1. 武道 I の領域である「剣道」を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。
2. 剣道の理念、特性を理解する。
3. 公正、相手を尊重する態度、健康安全に留意する態度を養う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法・課題に対するフィードバックの方法】

実技中心に行う。基本技能段階では教員が主導、発展段階ではグループワークとし、学生が主体的に取り組む授業展開とする。課題については、授業内で解説すると共に資料を配付する。まとめの段階で自己評価シートを作成する。

■授業計画

- ①オリエンテーション・剣道の特性、歴史の理解、用具の配付
- ②基本技能①（着装・礼法・姿勢・目付・足裁き・蹲踞・構え）
- ③基本技能①の継続と②（防具の付け方・素振り・かけ声・切り返し）
- ④基本技能①②の継続と③（防具を着けての基本技能 面・小手・胴）
- ⑤基本技能①②③の継続と④（対人技能二段三段の技、応じ技・すりあげ技）
- ⑥基本技能①②③④の継続と⑤対人技能 抜き技・かかり稽古）
- ⑦基本技能①②③④⑤の継続と⑥（ごかく稽古）
- ⑧基本技能①②③④⑤⑥の継続
- ⑨基本技能①②③④⑤⑥の継続と⑦（試合稽古）
- ⑩基本技能①②③④⑤⑥⑦の継続
- ⑪基本技能①②③④⑤⑥⑦の継続と⑧（審判法）
- ⑫基本技能①②③④⑤⑥⑦⑧の継続
- ⑬実技試験項目の説明と稽古
- ⑭基本技能試験①（素振り）
- ⑮基本技能試験②（切り返し・基本打ち）
振り返り（自己評価シートの提出）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 礼法と技能の習得。
2. 剣道の授業を行うための知識と実践的な指導力を身に付ける。
3. 剣道理念の学び。
4. スポーツ健康分野の現状を知り、問題点を認識することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP 2)【コミュニケーション能力】
 (DP 4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP 5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- | | |
|----------------------|-----|
| 1. 授業への参加・意欲・態度 | 30% |
| 2. 自己評価シート・課題レポートの提出 | 20% |
| 3. 実技試験 | 50% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜資料を配付

■授業外学習

【具体的な内容・必要な時間】

科目に関連する学部学科行事を実施した際は、到達目標に関するレポートを提出する場合がある。授業終了後の防具・剣道着・袴・面づきん等の管理、授業における重点事項、専門用語についてノートにまとめる。
 予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

1. 本科目は教員免許（教科に関する科目）の対象科目であり、受講は、教職課程²³（令和5）年4月1日履修者のみとする。
2. 5,000円の受講料が必要。
（剣道着・袴の洗濯代、剣道用面づきん、籠手した、竹刀等修繕費）
但し、剣道授業に必要な防具等全て持っている学生は受講料はかからない。
- 3 春学期は女子学生全員と男子学生「番号2001番から2038番」まで。秋学期は男子学生「番号2039番から2301番」とする。

科目名	卒業研究[スポ指]
開講期・単位	4年 通年・選択 4単位・演習
担当者	佐藤 文亮、国田 賢治、大鐘 秀峰、安田 純輝、小林 秀紹、平田 嘉宏、後藤 ゆり、新井 貢、本多 理紗、林 満章、樋口 善英、阿南 浩司、阿井 英二郎

■講義の目的および概要

健康科学・栄養学・自然療法等の領域をテーマとして調査・研究を行い、論文を作成する。大学院での研究の基礎となる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室での講義やフィールドでの調査などから成果をまとめる。

【課題に対するフィードバックの方法】

学内外で成果を発表する機会を与える。

■授業計画

- ①研究に関わる文献・資料に関して討論し、研究の方向性をつける。
- ②研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ③第1回経過報告
題目構成や参考文献などを記述して指導教員へ提出
- ④研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ⑤研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ⑥研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ⑦研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ⑧研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ⑨第2回経過報告
草稿を指導教員へ提出
- ⑩草稿に関する指導
- ⑪研究に関わる分析・課題作成
- ⑫卒業課題について討論
卒業課題を教務課へ提出
- ⑬研究に関わる分析・資料作成
- ⑭卒業課題の返却・修正（1月中旬）
必要に応じて卒業課題の修正、論文最終版の作成。
- ⑮製本用原稿提出（2月上旬）
審査（2月中旬）
主査が審査し、成績評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

適切な調査・研究を行うことができる。
論文の構成を理解し、本文20,000字程度の論文を作成できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

研究調査・論文作成への取り組み（60%）と卒業課題の審査結果（40%）をもとに評価する。卒業課題の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

学部講義、3年時のゼミなどで培った知識・理論・研究方法などを再確認しておく。研究の進捗状況に応じて指導を行うので、いつでも進捗状況を報告できるようにしておくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内³（令和5）年4月1日
容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

科目名	テーマ研究 I [スポ指]
開講期・単位	4年 春学期・必修 2単位・演習
担当者	佐藤 文亮、国田 賢治、大鐘 秀峰、安田 純輝、小林 秀紹、平田 嘉宏、後藤 ゆり、新井 貢、本多 理紗、林 満章、樋口 善英、阿南 浩司、阿井 英二郎

■講義の目的および概要

健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

■授業計画

- ①研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ②研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ③研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ④研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑤研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑥研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑦研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑧研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑨研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑩研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑪研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑫研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑬研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑭研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
 - ⑮研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。
その際の行動計画については適宜申請を行う。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組む、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP 2) 【コミュニケーション能力】
 (DP 3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP 4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP 5) 【能動的に学び続ける力】
 (DP 6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

研究への取り組み(60%)と課題の審査結果(40%)をもとに評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・なし

【参考文献】

・適宜提示する

■授業外学習

【具体的な内容】

今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

科目名	テーマ研究Ⅱ[スポ指]
開講期・単位	4年 秋学期・必修 2単位・演習
担当者	佐藤 文亮、国田 賢治、大鐘 秀峰、安田 純輝、小林 秀紹、平田 嘉宏、後藤 ゆり、新井 貢、本多 理紗、林 満章、樋口 善英、阿南 浩司、阿井 英二郎

■講義の目的および概要

健康・栄養・生活習慣・身体活動・スポーツ関連の諸領域をテーマとして、調査・研究を継続して行い、論文作成を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実施場所は、教室、研究室であり、適宜活用する。状況によって、グループまたは個人ごとに研究活動を行う。ディスカッションやプレゼンテーションを行い、課題の探究や研究結果の提示を行う。また、テーマ研究活動の一環として、学外フィールドワーク、学内学外研究発表を行うことがある。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

研究活動によって作成されたレポート課題等に対するコメントや添削によってフィードバックを行う。

■授業計画

課題形式：論文形式で作成された言語表現物を基本とする。本文20,000字程度を目安とする。

- ①研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ②研究に関わる文献・資料収集と分析・討論

1. 第1回経過報告

編目構成や参考文献などを記述した文書を指導教員へ提出

- ③研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ④研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ⑤研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ⑥研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ⑦研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ⑧研究に関わる文献・資料収集と分析・討論
- ⑨研究に関わる文献・資料収集と分析・討論

2. 第2回経過報告

草稿を指導教員へ提出

- ⑩研究に関わる分析・課題作成
- ⑪研究に関わる分析・課題作成
- ⑫研究に関わる分析・課題作成

3. 課題提出

課題を教務学生課へ提出

- ⑬研究に関わる分析・資料作成
- ⑭研究に関わる分析・資料作成
4. 課題の返却・修正 (1月中旬)
必要に応じて卒業課題の修正

- ⑮研究に関わる分析・資料作成
5. 製本用原稿提出 (2月上旬)
6. 審査 (2月中旬)
主査が審査し、成績評価

※資料収集と分析は、学外における実習やフィールドワークが含まれる。その際の行動計画については適宜申請を行う。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、それに基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。能動的に取り組み、自らの考えを伝え、地域社会に貢献する意欲を有する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP 2) 【コミュニケーション能力】
- (DP 3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP 4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP 5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP 6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

研究検索・作成への取り組み・レポート提出（60%）と課題の審査結果（40%）を総合的に評価する。テーマ研究の審査基準は、構想力、論証力、表現力、独創性および基礎力の修得度合とする。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
・なし

【参考文献】
適宜提示する

■授業外学習

【具体的な内容】

今までに学習してきた知識・理論・研究の技法を再確認しておく。個別指導は研究の進捗状況に対応して行われるので、毎回進捗状況を報告できるように準備しておく。

【必要な時間】

個々の課題や作業、学外フィールドワーク、測定、調査、実験等多岐に渡る学習活動があり、予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

提出物が期日までに提出されない場合は、その時点で失格となる。また、提出物の内容が不十分な場合は、再提出を求めることがある。

科目名	スポーツ政策・行政論
開講期・単位	4年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

本講義は、スポーツに関する法体系・行政計画及び各種スポーツ政策についての理解を図るとともに、スポーツ政策・施策・事業等の現状について学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式での授業展開を基本としますが、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。また、次年度のスポーツ庁の予算要求資料を教材として、プレゼンテーションやグループディスカッション等により具体的な政策についての意見交換を行います。行政組織での実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。本科目のほか、学部学科が指定するフィールドワーク等実践的学習の場に参加することがあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②行政とは、国家行政組織と地方行政組織
- ③スポーツに関する法体系
- ④スポーツに関する行政計画
- ⑤スポーツ基本法とスポーツ基本計画
- ⑥スポーツ庁の組織と役割
- ⑦青少年のスポーツ政策
- ⑧高齢者のスポーツ政策
- ⑨障害者のスポーツ政策
- ⑩女性のスポーツ政策
- ⑪プロスポーツ政策
- ⑫総合型地域スポーツクラブ
- ⑬スポーツ政策の立案と審議会
- ⑭日本におけるスポーツ関連予算
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

スポーツ行政の仕組みや行政組織について理解し、スポーツ政策・施策・事業等の現状等について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

レポート 50%
 課題 30%
 毎回の提出物（振り返りシート）20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「スポーツ政策の現代的課題」諏訪伸夫、井上洋一、齋藤健司、出雲輝彦 編、日本評論社

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外学習として新聞やネット等によってスポーツイベントや行事についてのニュース記事をチェックし、日常的に現状理解に努めてください。また、自らもスポーツやスポーツボランティア活動に積極的に取り組むことを期待します。本講義では、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくための事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくための事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の本学開設科目です。また、授業中に、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。

科目名	教育原理[社会人]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	平野 良明

■講義の目的および概要

教育の思想や理論を学び、教育の本質を求めながら教育を巡る諸課題に向き合う。現職教員として、またリーダーとして、自らの教育論を耕し、他に対して根拠を以て語る力を育てる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教科書を軸に、参考文献等を活用し、講義と発表、討論を軸に進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回授業後に、授業内容に関する課題を提出し、manaba アンケートにて応える。

■授業計画

- ①オリエンテーション
養育とは何か ギリシャの3大哲学者と教育
- ②自然主義の教育と根っこ育て
- ③日本の幼児教育と倉橋惣三
- ④理想の幼児教育を求めて ルソー、デューイ、ブルーナ
(以下教科書による課題発表と討論)
- ⑤教育の諸相 人間形成とその教育機能
- ⑥学校という空間 学校論
- ⑦発達という神話 発達論の現在
- ⑧「教育」の再考 子ども再考
- ⑨子どもの問題と学校教育 不登校、いじめ、転換期の学校
- ⑩学びを支える教育実践 日本の教育の歴史
- ⑪教育の担い手としての教師 教師論
- ⑫家族が生み出す教育のドラマ 家庭の教育力
- ⑬「教育」の可能性 社会の変化と教育課題
- ⑭教育を再生する視点を求めて
- ⑮まとめ、全体の振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

豊かな実践経験を踏まえ、改めて教育の原理を学びなおし、日々の教育や時代の教育の諸相について根拠を以て語る力を身につける。さらに若い先生方のリーダーとして、その育ちを支える心と力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【経験を踏まえて専門知識を確かめ、深め、伝える力を持つ。】
 (DP3)【経験と時代への理解から幼児教育の課題に気づき、変える力となる。】
 (DP4)【育ち・障害・国籍等の多様性への理解を深め改革と協調の力になる。】

■成績評価基準と方法

課題小レポート (10課題)	50%…manaba アンケートにて提出
発表	30%
最終レポート	20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「教育学への視座」(萌文書林)

【参考文献】

必要に応じて紹介

■授業外学習

【具体的な内容】

5回目からは教科書を1章ずつ進める。発表割り当てあり。
発表者以外は事前に読んで考えてくる。
各回終了後感想レポートをmanabaにて提出。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

基本的に対面で実施する。
コロナ等による環境変化があった場合、遠隔も併用。

科目名	保育内容(健康)[社会人]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	蔵満 保幸

■講義の目的および概要

領域「健康」において、ユニークな取り組みを実施している幼稚園、認定こども園等を訪問し、実体験と聞き取りから自園での新たな教育課程作成への参考とすることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

夏季、冬季休業中に三日間集中の演習形式で実施します。
各園の課題についてディスカッションを実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

ディスカッションの結果を発表します。

■授業計画

- ①幼稚園、認定こども園見学
- ② "
- ③ "
- ④ "
- ⑤グループワーク、発表
- ⑥幼稚園、認定こども園見学
- ⑦ "
- ⑧ "
- ⑨ "
- ⑩グループワーク、発表
- ⑪幼稚園、認定こども園見学
- ⑫ "
- ⑬ "
- ⑭ "
- ⑮グループワーク、発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

勤務園での教育課程改革への良い指標とすることができる。
健康領域においてより良い教育課程を作成することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「幼児教育・保育領域における基礎知識、技能の習得およびそれを基にした専門知識、技能の習得」に基づき、子どもの健康諸問題の解決に」対応しうる能力を身につける。

■成績評価基準と方法

- ・提出物 60%
- ・まとめのレポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・訪問園の教育理念、目標、教育課程の事前学習
- ・GWのまとめ、報告書の作成

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	教育課程論Ⅱ[社会人]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	平野 良明

■講義の目的および概要

教育課程の編成主体が個々の教師であることを自覚し、幼児教育課程作成のための理論と実践についてこれまでの実践を振り返りながら学びを深める。代表的なカリキュラム論を学び、実践への視野を拓げる。また、10の姿や教育要領等だけでなく、インクルーシブ教育や幼小連携についても理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

資料の読解、解説と討論を中心としながら実践カリキュラムの検討など、実践を視野に講義中心で授業を展開する。

受講生のカリキュラム理解や教育要領理解にずれや差がある場合には、前半の予定を少し変更して幼稚園養育要領等の解説に時間をあてる。

後半3回は発表による実施。

【課題に対するフィードバックの方法】

各回、manabaアンケートによるレポート提出とそれへの応答による。

■授業計画

- 1、オリエンテーション
- 2、現代の幼児教育課程に求められるもの
- 3、4、カリキュラムの思想
コメニウス、ロック、ルソー、ピアジェ
ヴィゴツキー、デューイ、ブルーナ 他
- 5、倉橋惣三と日本の保育カリキュラム
- 6、7、カリキュラムの編成原理と子ども理解
日本の子ども、育ちの実態と課題
- 8、幼稚園教育要領と教育課程
- 9、拠り所としての教育要領 系統主義
児童中心主義
- 10、生きる力の基本育て園目標と長期的視野
- 11、評価と指導要録
- 12～14
実践事例報告会
自園の行事とカリキュラム 自園のよいところと課題
学びたい、真似をしたい…けれどそのための課題 他
- 15、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

幼稚園教育要領に基づくカリキュラムの編成原理や、今日求められている三つの柱、小学校入学までに育てたい10の姿等について確かな理解をし、文科省が示す幼児教育の意義と役割を踏まえたカリキュラム論を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【カリキュラム理論の理解を深め、質の高い教育実践のリーダーを目指す】

(DP2)【専門家として必要な能力について研修会等で指導・助言する力を備える】

(DP3)【幼児教育の課題に気づき、課題解決を目指すカリキュラム編成ができる】

■成績評価基準と方法

各回のmanabaレポート (30%)

実践カリキュラムの発表 (30%)

最終レポート (40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

幼稚園教育要領解説

【参考文献】

授業時、その都度紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前に次時の課題を示し、資料を配布するなど予習を促す。
日々の実践が学びの課題になっていることに気づかせ、事例を教材化させる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

1年間のキーワードは「自己理解と自己形成」

科目名	教育相談[社会人]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	佐々木 淑子

■講義の目的および概要

幼児教育の現場で生じる子どもの発達と教育にかかわる問題について、保育者が、当事者である子ども本人や保護者、および保育現場の保育者へ心理・教育的支援を行う上で必要な知識や技法を学び、保育者として相談に臨む態度を磨く。本授業の受講生は、すでに幼児教育の経験豊かなベテラン保育者であるが、子どもの問題が多様化、複雑化している現代社会における教育相談の課題を認識し、理解を深め、より高度な専門的スキルの習得を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本授業担当者の専門領域は臨床心理学である。ただし、本大学心理相談研究所で子どもへのプレイセラピーや保護者面接の経験、地域への子育て支援活動などを通して保育者との連携を経験している。問題の見立てとなるアセスメントやカウンセリング、発達心理学などの基礎知識に関する講義、アセスメントに関する演習、教員や受講生間のディスカッションを重視する事例検討などを並行して行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時に出された疑問点や重要課題、および提出されたレポートなど、随時に授業内やレポートにコメントする形でフィードバックする。

■授業計画

- ① オリエンテーションおよび受講生による問題提起・気になる子ども・親とは
- ② 子どもを巡る心理発達上の基礎知識
- ③ 教育相談&心理相談上の基礎知識～心について思い巡らす、心を受け止める事
- ④ 子どもの問題を見立てる上での基礎知識～アセスメントについて
- ⑤ 知っておきたいアセスメントとは～発達検査、描画など
- ⑥ 子どもの表現をどう理解するか1
- ⑦ 子どもの表現をどう理解するか2
- ⑧ 保護者との関係づくり1
- ⑨ 保護者との関係づくり2
- ⑩ 保育者が自己理解を深めるために～箱庭体験
- ⑪ 保育者が自己理解を深めるために～箱庭解釈&ディスカッション
- ⑫ 事例検討1
- ⑬ 事例検討2
- ⑭ 事例検討3
- ⑮ 振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

長年培ってきた保育者としての知見に、さらに臨床心理学的視点からの支援に関する知識や技法を取り入れることで、教育相談に携わる保育者の枠組みを豊かなものにする。そのことを言語的に整理しまとめて表現できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本講座が目指す一種免許を取得する上で、必要なより高度な専門性を磨く。
 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

- ① 授業への参加態度およびミニレポート (30%)
- ② 学期末課題 (70%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

特にテキストはありません。授業中に適宜、紹介します。
 ただし、以下の著書の購読をお勧めします。

馬場禮子・青木紀久代編「保育に生かす心理臨床」ミネルヴァ書房
 青木紀久代編著「実践・保育相談支援」みらい

■授業外学習

【具体的な内容】
見慣れない・聞きなれない概念や用語が出てくる可能性があるため、予習や復習が必要となる。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

受講生が提示する問題提起や提出可能な事例、および箱庭演習室の都合などを調整しながら、進めていきます。

科目名	幼児と健康[社会人]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	蔵満 保幸

■講義の目的および概要

子どものころや身体の発育や発達、あそび、食、睡眠を中心とした生活習慣について理解を深めます。
健康領域において受講生各自が考える(持つ)諸問題についてグループワークを中心に話し合い発表し、解決を図ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で実施します。
小グループでの話し合いを持ち発表します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時間内に解説するとともに授業以外にも指導の機会を設けます。

■授業計画

- ①ガイダンス、図書資料収集について
- ②北海道の子どもの体力・運動能力の現状と課題 I
- ③ " " II
- ④体力・運動能力についての事例研究、発表
- ⑤子どもを取り巻く健康や発達の諸問題
- ⑥健康や発達についての事例研究、発表
- ⑦子どもと生活リズム
- ⑧子どもの生活リズムについての事例研究、発表
- ⑨子どもと食
- ⑩子どもの食についての事例研究、発表
- ⑪子どもトピックス(疾病や安全)
- ⑫子どもトピックス(メディア、ゲーム)
- ⑬子どもトピックス(睡眠、生活習慣)
- ⑭子どもトピックス(運動、健康)
- ⑮振り返りと課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

幼児の発育発達と健康に影響する諸要因について理解を深める。
幼児の健全な成長と健康の維持増進に関する理解を深め、意識を高くすることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「幼児教育・保育領域における基礎知識、技能の習得およびそれを基にした専門知識、技能の習得」に基づき、子どもの健康諸問題の解決に対応しうる能力を身に付ける。

■成績評価基準と方法

- | | |
|--------|-----|
| ・ 提出物 | 30% |
| ・ 発表 | 30% |
| ・ レポート | 40% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

随時資料を配布します

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

配布資料の事前閲覧、発表のまとめ

【必要な時間】

事前事後共に1時間程度

■その他

科目名	実用英会話[入門]
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 0単位・演習
担当者	デントン ルーカス

■講義の目的および概要

初めて英会話にふれる方でも楽しく学べる授業です。海外の旅先や道で会った外国の方との会話や、すぐに使える便利な英語表現を使っているテキストを使用し、教員と一緒に声を出して勉強しましょう。新しい表現を学びながら、間違いを恐れずどんどん積極的に英語で聞く、読む、話す、書くスキルを伸ばしていくことが目的です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・テキストを使って話す、聞く練習をする
- ・自分にあつた書物を読む(Extensive Reading)
- ・授業の中で、文法問題やテキストに含まれていない表現が紹介される

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の答え合わせや学生のオリジナルライティングのチェックを行う。

■授業計画

- ① オリエンテーション、アイスブレイク・Orientation and ice-breakers
- ② 家族・Talking about family (話す、聞く、読む)
- ③ 家族・Talking about family (話す、文法問題)
- ④ お願い・Asking for things you need (話す、聞く、読む)
- ⑤ お願い・Asking for things you need (話す、文法問題)
- ⑥ 注文・Ordering a meal (話す、聞く、読む)
- ⑦ 注文・Ordering a meal (話す、文法問題)
- ⑧ 予約・Reserving a hotel room (話す、聞く、読む)
- ⑨ 予約・Reserving a hotel room (話す、文法問題)
- ⑩ 怪我・Getting help for minor medical problems (話す、聞く、読む)
- ⑪ 怪我・Getting help for minor medical problems (話す、文法問題)
- ⑫ ニュージーランド・Differences between New Zealand and Japan
- ⑬ 地元・Asking about where people are from (話す、聞く、読む)
- ⑭ 地元・Asking about where people are from (話す、文法問題)
- ⑮ 復習・Review of all units

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

授業以外で積極的に学ぶ必要性に気づき、生涯学習としてEFL(外国語としての英語)を勉強し続けるようになる。授業で紹介された英語表現をカンパセーションでつかうこと。日本語から通訳・翻訳ではなく、英語でやり取りを行うこと。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

社会人の方に点数を付けられないですが、積極的に勉強に取り組んでほしいと考えています。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

"Passport 1", English for International Communication, Student book (with full Audio CD) (Second Edition), by Angela Buckingham and Lewis Lansford, Oxford University Press

【参考文献】

Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English, with answers), by Raymond Murphy, Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

流暢な英語を話したい方は毎日復習や独り言を行ってください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は2時間を目安とします。

■その他

教員が紹介する学び技法以外、自分に合った勉強方法を見つけてみましょう。毎日英語に触れることを目標にしましょう。

科目名	実用英会話[中級]
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 0単位・演習
担当者	コクスフォード リチャード

■講義の目的および概要

実用英会話「中級」は、学習者が日常的な英語の場面で自信を持って、流暢に、そして柔軟に話せるようになることを目的としています。ロールプレイ・シミュレーションのタスクを通しグローバル言語としての英語を学び、様々な国の文化的特徴を探求しながら、話し方を練習していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

レッスンはスピーキングに重点を置いていますが、リスニングとリーディングの要素も含まれます。典型的なパターンは、まずレッスン前に各受講生が読むプレリーディングの内容についてのディスカッションを行い、次にリスニングの練習と講師から短いプレゼンテーションを受けます。その後、受講生はペアまたはグループでタスクをこなします。

【課題に対するフィードバックの方法】

ペアやグループワークの間、必要に応じてクラスでフィードバックを行い、最後に全員が理解できるように受講生のパフォーマンスで興味深かった点を説明します。

■授業計画

- ①Diagnostic test and explanation of roleplay simulations
- ②Meeting your neighbours
- ③Going Shopping
- ④Finding a film
- ⑤Dining out
- ⑥Getting sick
- ⑦Booking a holiday
- ⑧Contacting the police
- ⑨Attending a job interview
- ⑩中間テスト
- ⑪Working at a new job
- ⑫Being charitable
- ⑬Arguing with strangers
- ⑭ロールプレイの練習とフィードバックセッション
- ⑮期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自由に話す自信と、様々な相手とコミュニケーションするための語彙の柔軟性を身につけることができる。
将来のキャリアや留学に適したリスニングとスピーキングのスキルを向上させる。
また、英語圏の規範を学ぶことで、より国際的な市民となる。

【卒業認定】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

継続的な評価（毎週小テスト） 10%
授業中のパフォーマンス 20%
中間テスト(ロールプレイ)20%
期末テスト(ロールプレイ)50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講師がプリントを配布します。

【参考文献】

『Nice Talking With You 1 & 2』
著者：Tom Kenny & Linda Woo
出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

授業の前に、次のテーマについての資料を読み予習します。生徒の皆さんは、可能な限り考えられる言葉をブレインストーミングしてください。

【必要な時間】

授業終了後、クイズを交えたリスニングを行います。この際、生徒が先生に質問することも可能です。
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

文法はスピーキングの一要素に過ぎません。実際の会話で文法的に間違っても、その言葉があなたの目的を達成するのに役立つのであれば、問題ないのです。間違いを恐れずにどんどん話しましょう。

科目名	実用英会話[初級・春]
開講期・単位	1年 春学期・選択 0単位・演習
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

このコースは : Communicative language classと名付けることができます。実際に日常英会話によく使う表現や語彙を学び、一般的な言葉 (colloquial language) を使うことが目的です。テキストのBuilding FluencyのセクションやCDのリスニングなどはコンパクトで、使いやすい。
このクラスでは、クラスメイトと英語でお話すると同時に、自分のヴォキャブラリーを増やすことができます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・一部はペアワーク・グループ形式で行う。
- ・スピーキング中心に行う授業であるが、ライティングとリスニングアクティビティもあります。
- ・テキストがメインですが多読の紹介もあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

テキストで紹介される表現や文法的なストラクチャーをより深く理解・身に着けるため、課題を出し、添削をした後に戻します。

■授業計画

- ①Orientation・多読の紹介・テキストについて・Various greetings・class CD
- ②Unit 1 Guess where I'm from (first part: building fluency and listening)
- ③Unit 1(second part: writing and interviewing classmates), grammatical section
- ④Unit 2 Comfy seats (first part)
- ⑤Unit 2 (second part), grammatical section
- ⑥Unit 3 A trip to the art gallery (first part)
- ⑦Unit 3 (second part), grammatical section
- ⑧Unit 4 My quirky family (first part)
- ⑨Unit 4 (second part), grammatical section
- ⑩Unit 5 Scaredy cat
- ⑪Unit 6 The commute
- ⑫Unit 7 A close shave
- ⑬Unit 8 Excuses, excuses
- ⑭Unit 9 Moving on
- ⑮ Unit 10 Shop till you drop

There might be changes depending on how fast the class progress from one unit to the next.

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

基本的な英会話を身につけ、様々な場面に対応できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

評価なし

■テキスト・参考文献

【参考文献】 Essential Grammar in Use (elementary level), by Raymond Murphy,
出版社: Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回繰り返し復習を行うことが不可欠です。言語学習には繰り返し練習する大切さに気付いて、自らたくさん復習すること。英会話を楽しみながら新しい表現を身に着け、実践的に取り組むこと。テキストの内容は実際の英会話にすぐ使える表現を紹介しているので、覚えて使うこと。

【必要な時間】

個人差がありますが、予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

自分の英語のレベルアップを目指すなら、活動的な参加がとても必要なので、欠席や授業に遅れないように気をつけること。

科目名	実用英会話[初級・秋]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 0単位・演習
担当者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

このコースは : Communicative language classと名付けることができます。実際に日常英会話によく使う表現や語彙を学び、一般的な言葉 (colloquial language) を使うことが目的です。テキストのBuilding FluencyのセクションやCDのリスニングなどはコンパクトで、使いやすい。
このクラスでは、クラスメイトと英語でお話すると同時に、自分のヴォキャブラリーを増やすことができます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・一部はペアーワーク・グループ形式で行う。
- ・スピーキング中心に行う授業であるが、ライティングとリスニングアクティビティもあります。
- ・テキストがメインですが多読の紹介もあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

テキストで紹介される表現や文法的なストラクチャーをより深く理解・身に着けるため、課題を出し、添削をした後、戻す。

■授業計画

- ①Orientation・多読の紹介・テキストについて・Greetings・class CD
- ②Unit 5-10 Review
- ③Unit 11 Home sweet home (first part)
- ④Unit 11(second part), grammatical section
- ⑤Unit 12 The Life of the party (first part)
- ⑥Unit 12 (second part), grammatical section
- ⑦Unit13 Aussies are so cool (first part)
- ⑧Unit 13 (second part), grammatical section
- ⑨Unit 14 World's worst cook (first part)
- ⑩Unit 14 (second part), grammatical section
- ⑪Unit 15 Lucky dog (first part)
- ⑫Unit 15 (second part), grammatical section
- ⑬Unit 16 I want to be a superhero (first part)
- ⑭Unit 16 (second part), grammatical section
- ⑮Review of the Units 11-16

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

基本的な英会話を身につけ、様々な場面に対応できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

評価なし

■テキスト・参考文献

【テキスト】 Impact Conversation 1, by Sullivan, K. & Beuckens, T.
出版社 : Pearson Longman

2023 (令和5)年4月1日

【参考文献】
Essential Grammar in Use (elementary level), by Raymond Murphy, 出版社:
Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回繰り返し復習を行うことが不可欠です。言語学習には繰り返し練習する大切さに気付けて、自らたくさん復習すること。英会話を楽しみながら新しい表現を身に付け、実践的に取り組むこと。テキストの内容は実際の英会話にすぐ使える表現を紹介しているので、覚えて使うこと。

【必要な時間】

個人差がありますが、予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

自分の英語のレベルアップを目指すなら、活動的な参加がとても必要なため、欠席や授業に遅れないように気をつけること。

科目名	フラワーアレンジメント[園芸]
開講期・単位	3年 秋学期・自由 2単位・演習
担当者	佐藤 義光

■講義の目的および概要

フラワーアレンジメントの基本的なことからクリスマス、お正月などにもお花を上手に飾るアイデア、技術、知識を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回生花・ドライフラワー・プリザーブドフラワーなど使い技術講習を行います。2週間で1つの作品を作るなどして大きなものの制作も時間をかけて行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説します。

■授業計画

- ①ガイダンスおよびアンケート
 - ②丸いアレンジその1
 - ③ガーデンスタイルその1
 - ④丸いアレンジその2
 - ⑤ガーデンスタイルその2
 - ⑥グルーピングスタイル
 - ⑦ラウンドブーケ
 - ⑧ウエディング コサージュ
 - ⑨クリスマスリース (前半)
 - ⑩クリスマスリース (後半)
 - ⑪クリスマスツリーアレンジ
 - ⑫クリスマスアレンジ
 - ⑬お正月用しめ飾り
 - ⑭フリースタイル (今までの習ったことを元に自由に作ります)
 - ⑮フリースタイル (今までの習ったことを元に自由に作ります)
- 授業内容に多少の変更がある場合がございます。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

15回の授業を通してアレンジのテクニックを学び自宅でも簡単なアレンジを楽しむようにし又花の知識を身につける。就活などで趣味特技の欄に「フラワーアレンジメント」と書けるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

出席率を70%の評価とし重視します。毎回の制作したフラワーアレンジメントの評価を20%、授業への取り組みを10%の対象とします。完成作品の提出、作品内容、作品数、期限など条件の達成度70%、振り返りシート(小レポート)提出30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

無し

【参考文献】

無し

■授業外学習

【具体的な内容】

予習：次回の授業について確認

復習：使用した花材で再度制作し、資料を見直す

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業の履修には21,000円税別(1,500円税別×14回)の実習費が必要です。授業には花バサミが必要ですので各自用意してください。

科目名	園芸療法論[園芸]
開講期・単位	3年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	吉崎 俊一郎

■講義の目的および概要

植物及び園芸活動を媒体に療法として行うために必要な基礎的・基本的な知識を学ぶ。
園芸療法実践実習（イネーブルガーデン実習）に向けての基礎的な知識を学ぶ。植物を媒体とした活動の多様性を知り、学生の個々の学びとどのように関連しているかを考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

15回にわたり講義を中心に展開するが、園芸療法の実習を体験する。グループワークを取り入れる。
本講義は、園芸療法の資格を有し多種多様な経験豊富な教員がその経験や知識を基礎になるテキストに組み込み行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

進行具合を把握するために小テストを数回予定しています。

■授業計画

おおむね、以下の通り実践する。

- 1、オリエンテーション、園芸療法とは
- 2、園芸療法の歴史
- 3、4、人と植物の関わり
- 5、6、療法としての構造と要素
- 7、8、9、療法における園芸の効用と役割
- 10、11、園芸療法の適応と対象
- 12、園芸療法グループ制作活動
- 13、園芸療法の評価とプログラム
- 14、園芸療法の実践及び配慮事項
- 15、期末試験・試験解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

園芸療法の基礎的・基本的な知識を習得し、園芸療法士として必要な能力と態度を学びそれを説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

臨床心理学領域における基礎的知識、技能の修得およびそれを基にした専門知識、技能の修得や人文学領域に関する教養の修得。
(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

定期試験（50％）、
確認テスト（20％）、
振り返りシート（15％）、
課題（15％）による総合評価

■テキスト・参考文献

【テキスト】

都度配布いたします。

【参考文献】

ひとと植物・環境、山根寛、澤田みどり、青海社

■授業外学習

【具体的な内容】

授業中のみならず日ごろから園芸・医療・福祉・教育・心理等に関心をよせることが園芸療法を理解するための近道になります。

【必要な時間】

授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用して予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	アロマセラピー[園芸]
開講期・単位	3年 秋学期・自由 2単位・演習
担当者	瀬川 桂子

■講義の目的および概要

植物療法の一つであるアロマセラピーを、自身や身近な人の心身の健康に役立てられるよう、基礎知識の習得を目指します。植物の香りが、人の精神、心理、頭脳、身体へ及ぼす作用やメカニズム、芳香成分である精油の特性や抽出法、精油の利用に伴う解剖生理と倫理、安全な利用法を理解した上で、感染症の拡大等の社会的課題への対策、また急速に進む少子高齢化において生活習慣病の予防と健康寿命を支える手立てとして、新たな時代の健康観の立脚し、実習では実際に感覚を得ながら理解を深め、企業や医療・福祉・教育・災害等、様々な場面での活用についても考察していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

植物の芳香成分を利用するアロマセラピーとはどのようなものか、座学にて貴重な精油に含まれる有機化学成分や生体への作用、利用に伴う解剖生理について理解を深めます。実習では実際に香りを感じ安全で効果的な活用方法を理解し、自分なりに使用した感覚を自らの感性で表現しながらプレゼンテーションし、講師、他の学生と共有します。またグループワークやディスカッションを通じてさらに考えを深め合います。毎回の講義終了前に疑問や質問を受ける時間を設けます。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習後には課題として小レポートを次の講義までにまとめて提出のこと。質問、意見等と併せメール等でも随時受け付け、返信することとします。

■授業計画

- ①健康に関する現状とこれから ホリスティックな生活習慣と健康観の立脚
- ②アロマセラピーとは、アロマセラピーの歴史(A.ハンガリーウォーター作成)
- ③植物の芳香成分である精油についてとその抽出方法(B.ラベンダーの蒸留と芳香蒸留水のポトリング)
- ④芳香性有機化学成分の分類と特徴
- ⑤精油の安全な使い方と禁忌について
- ⑥植物の香り成分の吸収と代謝経路
- ⑦香りと嗅覚、脳神経の関係性 脳・神経組織(C.芳香の違いによる感覚の比較)
- ⑧精油のフィジカルへの効用と循環器(D.バスソルト作成、芳香蒸気吸入・ハンドバス・フットバス)
- ⑨精油のメンタルへの効用 神経伝達とホルモン (E.アロマ軟膏製作)
- ⑩精油の肌への効用と皮膚組織 (F.アロマ軟膏製作)
- ⑪精油の呼吸器への効用 公衆衛生に役立てる(G.感染予防アロマスプレー製作)
- ⑫セルフケアの重要性 自分自身の点検とケア(H.トリートメントオイルの作成)
- ⑬様々な分野での有効活用を考える 企業・予防医療・福祉・高齢者
- ⑭アロマセラピーを用いたケーススタディー
- ⑮精油各論

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会を構成する一人として、人の心身の健康に関する既存の価値観や、個人的・社会的課題になぜという疑問や関心を持つことから、多様性を認め合い、健やかに生きる為の礎として、植物療法の一手段である芳香療法の基礎理論や倫理・安全に利用する方法を学び、理解を深めることで専門的視点を培う。またその上で必要性や選択、場面に応じた活用を考えられるようになる。さらに目には見えない植物の芳香を自らの感性で表現することによりコミュニケーション能力を養い、よりよく生きる為、自身や身近な人の心身のケアに上手に役立て、社会へ貢献できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

実習後の小レポート(8回)40%、
講義のまとめを課題とする最終レポート(これからの健康観と植物の芳香活用)30%
授業態度(発言内容、協調性、積極性等)30%を総合して評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

一番詳しくてわかりやすい!アロマセラピーの教科書
新星出版社 著者:和田文緒 ISBN978-4-405-09165-8

【参考文献】日本アロマコーディネーター協会テキストP. 7 図表他
医学書院 目でみるからだのメカニズム第2版P.18~19図

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：テキストを事前に読み、わからない専門用語を調べておく。

事後学習：実習の記録、学習したことや感じたことを図や言葉を用いてクロッキー帳にまとめる。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	イネーブルガーデン実習[園芸]
開講期・単位	3年 通年・自由 2単位・実習
担当者	吉崎 俊一郎、津田 智恵子

■講義の目的および概要

園芸療法の実践に必要な知識・技術を身につける事が目的である。
様々な園芸療法プログラムの実践や園芸療法における対象者との接し方などを学ぶ。
自ら立案したプログラムを実践できるようになる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実習・演習形式で行う。実習において作業を機械的にこなすのではなく、意識しながら取り組む必要がある。また、実習・演習中にいつでもメモが取れる準備をしておくように。フィールドワークを通年とおして行う。

本講義は、園芸療法の資格を有し多種多様な経験豊富な教員がその経験や知識を基礎となるテキストに組み込み行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

学内での実習後の実習記録。
フィールドワークの記録またフィールドワーク先での動画撮影を元に
学生の動きを把握し学びに繋げる。

■授業計画

1. ガイダンス(実習内容と進め方)、グループ編成
- 2-4. 園芸療法実践基礎とその演習①-③
5. 集団園芸療法におけるプレゼンテーション
6. フィールドワーク (FW) ①
7. FW①フィードバック・まとめ
8. 園芸療法プログラム①、②とその演習
9. 園芸療法プログラム③とその演習
10. FW②
11. FW②フィードバック・まとめ
12. 園芸療法プログラム④、⑤とその演習
13. FW③
14. FW③フィードバック・まとめ
15. 園芸療法プログラム⑥とその演習
16. ガイダンス(実習内容と進め方)、グループ編成
- 17-18. FW④、フィードバック・まとめ
- 19-20. FW⑤、フィードバック・まとめ
21. 園芸療法プログラム⑦、⑧とその演習
- 22-23. 施設実習中間報告会 ①
- 24-25. 施設実習中間報告会 ②
26. 園芸療法プログラム⑨-⑩とその演習
28. FW⑥
29. FW⑥のフィードバック・まとめ
30. 期末まとめ

※フィールドワーク実習6回を予定しております。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

基本的園芸療法プログラムを学び、それを施設実習で実践できるようになる。
実習先で緊張せずに一連の流れを平常心でできるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- プレゼンテーション(15%)
- 中間報告(15%)
- 施設実習の成果(30%)
- 提出物(実習記録、課題レポート)(20%)
- 振り返りシート(20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
都度配布する。

【参考文献】
園芸リハビリテーション 山根 寛著 菅 由美子企画 医歯薬出版株式会社、園芸療法実践入門ー心へのアプローチ ミッチェル・ヒューソン著、エンパワメント研究所 ほか2冊

■授業外学習

【具体的な内容】
普段から園芸・福祉・医療・心理学等の情報を収集すること。
施設実習へ参加する前には、グループ毎に準備にじっくり時間をかけ、必ず活動のシミュレーションをしてから望むようにしてください。

【必要な時間】
授業で学んだことを中心に配布されたプリントを活用して
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

施設実習費として1,000円（1回）×6回の合計6,000円を徴収致します。
内訳としては、1回の実習の事前練習材料費+当日の材料費に使用します。

科目名	社会教育論
開講期・単位	1年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	松浦 賢一

■講義の目的および概要

本講義は、生涯学習社会構築において中心的役割を果たす社会教育主事に求められる基本的事項について学修します。特に、これまでの学歴(学校歴)の重視よりも、学習歴が適切に評価される生涯学習社会について、基本的な理解を図るとともに、生涯学習社会構築の必要性と行政の役割について、具体的な事例を踏まえ、学修していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式での授業展開を基本としますが、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。生涯学習・社会教育行政での経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②学習と教育、学習活動と偶発的学習
- ③生涯学習の理念と生涯学習社会
- ④「生涯学習」と「社会教育」
- ⑤日本の生涯学習の特徴、生涯学習振興の3つのモデル
- ⑥生涯学習社会の構築①(学歴社会の弊害の是正)
- ⑦生涯学習社会の構築②(社会の成熟化に伴う学習需要の増大)
- ⑧生涯学習社会の構築③(社会・経済の変化に対応するための学習の必要)
- ⑨生涯学習の構築と行政の役割①(普及啓発・学習活動の振興)
- ⑩生涯学習の構築と行政の役割②(学習成果評価システムの開発・普及)
- ⑪情報と生涯学習
- ⑫生涯学習と学習情報提供
- ⑬生涯学習と学習相談
- ⑭今後の生涯学習の基本的方向
- ⑮生涯学習関連施策の動向・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生涯学習の理念や生涯学習社会構築の必要性、および行政の役割について理解し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- レポート 50%
- 課題 30%
- 提出物 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

- 「生涯学習概論」山本恒夫・浅井経子・渋谷英章編、文憲堂
- 「入門・生涯学習政策」岡本薫著、(財)全日本社会教育連合会

■授業外学習

【具体的な内容】毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。インターネットや新聞等のメディアで、社会教育事業等のニュースや記事をチェックしてください。

【必要な時間】予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。 2023（令和5）年4月1日
授業中に、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。また、市内の社会教育施設へのFWを実施しますので、交通費の自己負担があります。

科目名	社会教育演習 I
開講期・単位	2年 通年・自由 1単位・演習
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図るために、社会教育施設の職員の実務を体験し、施設経営の現状を学ぶと共に、施設職員として求められる基礎的な知識・技術について獲得することを目標とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

社会教育施設の管理・運営及び受入事業・主催事業の企画・実施に求められる基本的な知識・技術について、施設における実務体験等を通して実践的に学修します。生涯学習・社会教育行政での経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。なお、課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②社会教育における施設について
- ③社会教育施設の種類と変遷
- ④公民館における事業
- ⑤図書館における事業
- ⑥博物館における事業
- ⑦青少年教育施設における事業
- ⑧社会教育施設におけるボランティアの養成
- ⑨社会教育施設の経営
- ⑩社会教育施設の利用相談とプログラム
- ⑪社会教育施設の事業の企画・運営
- ⑫社会教育施設の主催事業の実際
- ⑬社会教育施設の指導者
- ⑭社会教育施設の課題
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会教育施設の職員の実務を理解するとともに、施設職員として求められる基礎的な知識・技術を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP 1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP 2) 【コミュニケーション能力】
 (DP 3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP 4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP 5) 【能動的に学び続ける力】
 (DP 6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

レポート 50%
 課題 30%
 提出物 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「社会教育計画」山本恒夫・蛭田道春・浅井経子・山本和人編、文憲堂

■授業外学習

【具体的な内容】

社会教育施設の概要について、インターネット等を活用し概観しておくことが望ましい。また、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。
4月に、資格取得希望者を対象にした説明会を開催するので、必ず出席してください。
なお、この授業では、社会教育施設でのFWを実施するので交通費・食費等の費用負担があります。

科目名	生涯学習支援論 I
開講期・単位	2年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

この授業では、効果的な学習支援を進めるために、学習プログラムの編成視点、学習者の特性や集団形成のプロセス及び広報・広聴、学習情報提供・学習相談等について、具体的な事例を示しながら解説する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式での授業展開を基本としますが、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。生涯学習・社会教育行政の実務経験のある教員が、社会教育における学習支援について理解できるように具体的事例を示しながら講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②地域総合計画と生涯学習推進計画、社会教育計画
- ③事業計画の意義と内容
- ④学習プログラム編成の視点と手順
- ⑤学習者の特性（ペタゴジーとアンドラゴジー）
- ⑥集団と学習（集合学習と個人学習）
- ⑦学習集団形成のプロセスと支援
- ⑧社会教育の内容・方法・形態
- ⑨社会教育の広報・広聴
- ⑩社会教育調査とデータの活用
- ⑪社会教育行政における広報戦略
- ⑫学習情報提供の意義と実際
- ⑬学習相談の意義と実際
- ⑭社会教育行政と地域づくり
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ることを目的とする。特に、効果的に社会教育事業を展開していくために、必要となる学習プログラム編成や広報・広聴等の基礎的知識を身に付けることを到達目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

- レポート 50%
 課題 30%
 提出物 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「社会教育計画」山本恒夫・蛭田道春・浅井経子・山本和人編、文憲堂
 「社会教育計画策定ハンドブック」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（https://www.nier.go.jp/jissen/chosa/h23_handbook_all.pdf）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。 2023（令和5）年4月1日
4月に、資格取得希望者を対象にした説明会を開催するので、必ず出席してください
。この授業では、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言して
ください。

科目名	生涯学習支援論Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ることを目的とする。特に、学習プログラムを実際に立案する際の留意点を理解し、さらに指導者として求められるファシリテーションの知識と技術を身に付けることを到達目標とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

この授業では、効果的な学習支援を進めるために、学習プログラムを実際に立案する際の留意点や多様な参加型学習の方法やファシリテーション技法、および社会教育の評価について学修します。

生涯学習・社会教育行政での経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義形式での授業時には、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。なお、課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②社会教育事業と学習プログラム
- ③学習プログラムの編成
- ④地域課題の抽出と事業化（現代的課題への対応）
- ⑤学習プログラムの立案①（目的・対象・目標の設定）
- ⑥学習プログラムの立案②（スコープとシーケンス）
- ⑦学習プログラムの立案③（学習方法・学習場所・学習支援者の設定）
- ⑧学習プログラムの立案④（実施期日・学習時間・定員の設定）
- ⑨学習プログラムの立案⑤（事業名・評価方法の設定）
- ⑩参加型学習の意義と実際
- ⑪ファシリテーション技法
- ⑫社会教育における評価の意義
- ⑬社会教育における評価の内容と方法
- ⑭行政評価・事業評価の実際
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会教育計画における対象・領域について理解し、対象・領域別に個別事業計画（学習プログラム）を作成することができるようになることを到達目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

レポート 50%
課題 30%
提出物 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「社会教育計画」山本恒夫・蛭田道春・浅井経子・山本和人編、文憲堂
「社会教育計画策定ハンドブック」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（https://www.nier.go.jp/jissen/chosa/h23_handbook_all.pdf）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。
4月に、資格取得希望者を対象にした説明会を開催するので、必ず出席してください。
なお、この講義を十分に理解するためには、生涯学習支援論Ⅰを履修していることが望ましい。グループでの意見交換・協議を重ね学習プログラムを作成するので、話し合いに積極的に参加することが必要です。

科目名	社会教育実習
開講期・単位	2年 通年・自由 1単位・実習
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図るために、青少年教育施設の職員の実務を体験し、施設経営の現状を学ぶと共に、施設職員として求められる基礎的な知識・技術について獲得することを目標とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

青少年教育施設の管理・運営及び受入事業・主催事業の企画・実施に求められる基本的な知識・技術について実習を通して、実践的に学修します。

青少年教育施設での実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。なお、課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
青少年教育施設について
実習にあたっての留意点
- ②～⑭青少年教育施設実習
青少年教育施設の現状
青少年教育施設の経営（管理・運営）
青少年教育施設におけるボランティアの養成
青少年教育施設の事業運営（受入事業）
青少年教育施設の事業運営（主催事業の企画・運営）
- ⑮実習報告会・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

青少年教育施設の職員の実務を理解するとともに、施設職員として求められる基礎的な知識・技術を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

レポート 50%
 実習報告会プレゼンテーション 30%
 提出物（実習日誌）20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「社会教育計画」山本恒夫・蛭田道春・浅井経子・山本和人編、文憲堂

■授業外学習

【具体的な内容】

青少年教育施設の概要について、インターネット等を活用し概観しておくことが望ましい。また、参考図書やインターネット等を活用して事前学習が必要です。実習内容をふりかえり、実習日誌等を整理しておくため、事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。 2023（令和5）年4月1日
4月に、資格取得希望者を対象にした説明会を開催するので、必ず出席してください
。なお、実習にあたっての交通費・食費等は実費負担となります。

科目名	社会教育演習Ⅱ
開講期・単位	3年 通年・自由 2単位・演習
担当者	佐久間 章

■講義の目的および概要

高齢者を対象とした社会教育事業の企画・実施を通して、社会教育主事に求められる基礎的な知識・技術について実践的に獲得することを目標とする。
札幌国際大学社会人教養楽部の受講者を対象に、社会教育事業の企画・運営・評価の一連の業務を体験する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

個別事業計画（学習プログラム）の作成および評価の方法について、講義形式で行います。また、グループワークによって実際に個別事業計画の作成を行い、プレゼンテーションにより評価を行います。こうした一連の授業により、社会教育主事に求められる実践的な技術の習得を目指します。また、生涯学習・社会教育行政の実務経験のある教員が、社会教育事業のポイントを具体的事例を示しながら講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義形式での授業時には、必要に応じて資料及びワークシート等を配付し、グループワークやディスカッションなどの能動的な学修を行います。なお、課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②社会教育事業の企画
- ③プログラムの立案①（目的・対象・目標の設定）
- ④プログラムの立案②（スコープとシーケンス）
- ⑤プログラムの立案③（学習方法・学習場所・学習支援者の設定）
- ⑥プログラムの立案④（実施期日・学習時間・定員の設定）
- ⑦プログラムの立案⑤（事業名・評価方法の設定）
- ⑧募集要項・チラシ（ポスター）の作成
- ⑨広報の計画作成と実施
- ⑩社会教育事業の準備①
- ⑪社会教育事業の準備②
- ⑫社会教育事業の実施①
- ⑬社会教育事業の実施②
- ⑭事業の評価とふりかえり
- ⑮成果報告会とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会教育事業の企画・運営・評価の一連の業務について理解し、社会教育事業計画（学習プログラム）を作成することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2)【コミュニケーション能力】
- (DP3)【課題を発見し、解決する力】
- (DP4)【多様性の理解と協働する力】
- (DP5)【能動的に学び続ける力】
- (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

レポート 50%
課題 30%
提出物 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「社会教育計画」山本恒夫・蛭田道春・浅井経子・山本和人編、文憲堂
「社会教育計画策定ハンドブック」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（https://www.nier.go.jp/jissen/chosa/h23_handbook_all.pdf）

■授業外学習

【具体的な内容】

社会教育事業等の概要について、インターネット等を活用し概観しておくことが望ましい。また、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配布プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目は、社会教育主事の必修科目であるため、資格取得を希望する者として、4月に、資格取得希望者を対象にした説明会を開催するので、必ず出席してください。授業では、グループでの意見交換・協議を重ねプログラムを作成するので、話し合いに積極的に参加することが必要です。また、社会教育施設でのFWも実施するので、交通費等の費用が必要となります。

科目名	社会教育経営論 I
開講期・単位	3年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	松浦 賢一

■講義の目的および概要

多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図ることを目的とします。この授業では、地域において課題となっていることを取り上げ、今日的な課題に応える社会教育行政の経営の在り方について具体的な事例を通して理解するとともに、学習課題の把握と広報戦略、学習成果の評価・活用と学習支援者の育成についても学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッションなどの能動的な学修形式での授業展開を基本とし、毎回振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行います。必要に応じて資料及びワークシート等を配付します。
生涯学習・社会教育行政での実務経験のある教員が、具体的な事例を示しながら講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配付します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②社会教育行政とは (1) 社会教育行政の組織・体制
- ③社会教育行政とは (2) 社会教育主事の職務と役割
- ④地域人材の育成と活用
- ⑤社会教育行政における地域広報戦略
- ⑥地域課題の分析と把握、学習課題の把握のためのデータの活用
- ⑦今日的課題と社会教育行政の経営 (1) 少子高齢化と社会教育行政
- ⑧今日的課題と社会教育行政の経営 (2) 地域学校協働と社会教育行政
- ⑨今日的課題と社会教育行政の経営 (3) 多文化共生と社会教育行政
- ⑩今日的課題と社会教育行政の経営 (4) SDGsと社会教育行政
- ⑪今日的課題と社会教育行政の経営 (5) 地方分権・民間活用と社会教育行政
- ⑫社会教育行政の経営戦略 (1) 社会教育計画と評価
- ⑬社会教育行政の経営戦略 (2) EBPMと社会教育行政
- ⑭社会教育行政の経営戦略 (3) 地域課題解決プラン
- ⑮全体まとめ振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用の実際等の基礎的事項について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

レポート：40%
 課題：30%
 毎回の提出物（振り返りシート）：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配付します。

【参考文献】

『社会教育経営論－新たな系の創造を目指して－』浅井経子・合田隆史・原義彦・山本恒夫編著 理想社
 『社会教育経営論』浅井経子執筆・編集代表 ぎょうせい

■授業外学習

【具体的な内容】

身近な地域の課題やその課題の解決を図る各種事業について、インターネット等を活用し具体的事例等を収集しておくことが望ましい。また、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配付プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。4月に、資格取得希望者を対象にした説明会を開催するので、必ず出席してください。この授業では、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。

科目名	社会教育経営論Ⅱ
開講期・単位	3年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	松浦 賢一

■講義の目的および概要

多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図ることを目的とします。この授業では、社会教育を推進する地域ネットワークについて具体例を通して理解するとともに、社会教育施設の民間委託や資金調達など、社会教育施設の経営に関する今日の取組等についても学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッションなどの能動的な学修形式での授業展開を基本とし、毎回振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行います。必要に応じて資料及びワークシート等を配付します。
生涯学習・社会教育行政での実務経験のある教員が、具体的事例を示しながら講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、manabaを通じて資料を配付します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②地域社会と社会教育の現状と課題
- ③社会教育を推進するネットワーク型行政
- ④学校・家庭・地域の連携・協働
- ⑤NPO・企業等との連携・協働
- ⑥高等教育機関との連携・協働
- ⑦社会教育と地域防災ネットワーク（1）協働ネットワークと地域防災リーダー
- ⑧社会教育と地域防災ネットワーク（2）ネットワークを活用した防災教育
- ⑨社会教育を推進する施設間ネットワーク
- ⑩社会教育施設の現状と課題
- ⑪これからの社会教育施設の経営
- ⑫社会教育施設の経営戦略（1）民間活力の導入・指定管理者制度
- ⑬社会教育施設の経営戦略（2）社会教育施設のネットワーク
- ⑭社会教育施設の経営戦略（3）社会教育施設の自己点検・評価
- ⑮全体まとめ振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

NPO等の多様な主体との連携・協働や社会教育施設の経営戦略についての基礎的事項について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP2)【コミュニケーション能力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

レポート：40%
課題：30%
毎回の提出物（振り返りシート）：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配付します。

【参考文献】

『社会教育経営論—新たな系の創造を目指して—』浅井経子・合田隆史・原義彦・山本恒夫編著 理想社
『社会教育経営論』浅井経子執筆・編集代表 ぎょうせい

■授業外学習

【具体的な内容】

自分の住む地域の公民館、図書館、博物館等の社会教育施設を事前に見学あるいは体験利用しておくことが望ましい。また、毎回次時予告するので、参考図書やインターネット等により調べておくため、事前学習が必要です。受講後は、講義内容を配付プリント等でふりかえり、講義ノートを整理しておくため、事後学習が必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目を受講できるのは、社会教育士の資格取得を希望する学生だけです。4月に、資格取得希望者を対象にした説明会を開催するので、必ず出席してください。この講義を十分に理解するためには、社会教育経営論Ⅰを履修していることが望ましい。この授業では、随時指名して意見を求めますので、積極的に自分の考えを発言してください。

科目名	図書館概論
開講期・単位	1年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	武井 昭也

■講義の目的および概要

本講義では、図書館についての基礎的な内容を取り上げ、他の図書館司書科目の内容への橋渡しと方向づけを示すことを目的とする。図書館が社会にどのような意味を持ち、どのような役割を果たし、どのような機能を持ち、かつ歴史に果たした役割を理解して、現状と課題および展望を示す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキスト分担発表－映像資料での確認－ワークシートでの整理という展開で理解を深める。

【課題に対するフィードバックの方法】

発表への補足と意見交換、ワークシート補足

■授業計画

- ① 図書館とは何か
- ② 現代社会と図書館
- ③ グローバル化、情報化と図書館
- ④ 書物と図書館、読書と図書館
- ⑤ 図書館の理念
- ⑥ 図書館法規
- ⑦ 図書館図書館と行政、施策
- ⑧ 国立国会図書館と図書館ネットワーク
- ⑨ 地域社会と図書館
- ⑩ 公共図書館の精度と機能
- ⑪ 学校図書館の精度と機能
- ⑫ 大学図書館と学術ネットワーク
- ⑬ 図書館の歴史的展開
- ⑭ 図書館関係団体
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 図書館の定義が説明できる
- ② 図書館の意義と役割について正確な知識を持つ
- ③ 様々な図書館の機能について、その類似点と相違点を説明できる
- ④ 図書館関係の法的関係について知識を持つ
- ⑤ 図書館とネットワークについて説明できる
- ⑥ 図書館職員の役割と資格について説明できる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

図書館司書資格のための必修科目である。札幌国際大学が柔軟な思考力と実践力を貴ぶ学風の下、深く専門の学芸を教授研究し、職業および社会生活に必要な教育を施し、自由、自立、自省の精神による人間形成を重んじていることが教職課程の学修と人間形成に合致する。

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP4)【多様性の理解と協働する力】

(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- | | |
|----------|-----|
| ① 担当レジュメ | 40% |
| ② 発表 | 30% |
| ③ 定期試験 | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

JAL図書館情報学テキストシリーズⅢ-1 塩見昇監修「図書館概論」
日本図書館協会

【参考文献】

授業でその都度紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

- ①分担レジュメ作成と発表準備
- ②近隣にある公共図書館及び大学図書館を見学すること
- ②札幌国際大学OPACを活用すること

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

図書館関係の情報を新聞・雑誌・インターネット・大学図書館第2閲覧室の図書館関係雑誌から収集すること。

科目名	図書館制度・経営論
開講期・単位	1年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	河村 芳行

■講義の目的および概要

図書館に関する法律、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、各種調査と評価、管理形態等について解説する。特に、住民の図書館利用行動分析をもとに、図書館のサービス計画や図書館施設の設置・配置計画のあり方などについて扱う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義用テキストを配布します。テキストは、キーワード部分が空欄になっていますので、講義を聞き、書き込みをしてテキストを完成させてください。従って、講義に参加することが大前提となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

試験の結果については、講評という形で学内共有フォルダを通じて資料配布します。

■授業計画

- ① 図書館経営の視点：図書館経営の考え方について
- ② 図書館を取り巻く状況：利用者の変化と質への対応について
- ③ 図書館と地方自治体：地方自治体の中での図書館の位置づけについて
- ④ 図書館に関する法令：図書館法と図書館サービス関連法規について
- ⑤ 図書館サービスの評価と計画（1）：プランニング・プロセスについて
- ⑥ 図書館サービスの評価と計画（2）：図書館経営・サービスの現状分析
- ⑦ 公共図書館の地域計画（1）：設置計画に関する理論（卵型モデル）
- ⑧ 公共図書館の地域計画（2）：設置計画に関する理論（広域型モデル）
- ⑨ 公共図書館の地域計画（3）：図書館利用者・非利用者の行動分析
- ⑩ 公共図書館の地域計画（4）：距離と規模による類型別利用行動分析
- ⑪ 公共図書館の地域計画（5）：世帯レベルの利用行動分析
- ⑫ 公共図書館の地域計画（6）：大規模館選択要因分析
- ⑬ 公共図書館の地域計画（7）：複数館のネットワークによる充足性、平等性、効率性について
- ⑭ 公共図書館の地域計画（8）：行政サービス施設としての図書館設置のあり方について
- ⑮ まとめと到達度チェック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

図書館経営にかかわる組織、管理・運営、各種計画についての理解を深め、図書館間のネットワーク構築やサービス計画などといった図書館経営・運営のための施策を自らが考えることができるようになる。

【

卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための専門知識、技能を身に付けている学生に学位を授与する」に基づき、社会における図書館を取り巻く環境の変化に対応し得る図書館経営の知識の獲得を通じて、図書館司書あるいは図書館利用者として自立できる能力を身に付ける。

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP3) 【課題を発見し、解決する力】

(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

学期末試験として論述試験を行い、授業参加（小テスト）と学期末試験により評価を行います。試験は2問中1問は論述問題を出題し、出題意図に正確に答えているか、問題についての基本的知識を習得しているか、記述が説得的かつ論理的に展開されているかを基準に評価します。

授業参加（小テスト）：20%、

学期末試験：80%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義用テキストを配布します。

【参考文献】

葉袋秀樹・糸賀雅児編『図書館制度・経営論（現代図書館情報学シリーズ第2巻）』（樹村房）

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

初回到講義用テキストを事前配布するので目を通して予習してくる、また講義中に解説された内容を踏まえて、再度テキストを読み返し復習するようにしてください。配布テキストを基に最低でも60分程度の予習復習を行うことが望ましいです。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

講義中に指名して発言を求められることがありますので予習した上で講義に参加してください。

科目名	図書館情報技術論
開講期・単位	1年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	河村 芳行

■講義の目的および概要

情報機器の発展はめざましい。特にコンピュータはマルチ機能の強化により受動的環境から能動的・個性的・創造的な環境を展開する可能性をもたらしたと言える。現代社会においては情報の生産・処理・流通・利用が密接に結びついており、そこで生活する人間は情報を収集し、分析し、それを効果的に活用する能力が要求されている。情報技術の発達が社会の発展と変化に対してどのような影響を与えているかについて取り扱うと共に、今後の社会生活に必要な基礎的な情報技術を解説する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義用テキストを配布します。テキストは、キーワード部分が空欄になっていますので、講義を聞き、書き込みをしてテキストを完成させてください。従って、講義に参加することが大前提となります。

【課題に対するフィードバックの方法】

試験の結果については、講評という形で学内共有フォルダを通じて資料配布します。

■授業計画

- ①情報技術と社会 (1) : 情報の概念と情報メディアの歴史
- ②情報技術と社会 (2) : 情報メディアの技術史
- ③新しい情報技術と情報流通 (1) : コンピュータのしくみ
- ④新しい情報技術と情報流通 (2) : インターネットのしくみ
- ⑤新しい情報技術と情報流通 (3) : 小テスト及び解説、OSの進歩とサポート問題
- ⑥情報検索に関する基礎知識 (1) : 一次情報と二次情報
- ⑦情報検索に関する基礎知識 (2) : 検索式の作成と論理演算
- ⑧情報管理システムのしくみ (1) : データベースについて
- ⑨情報管理システムのしくみ (2) : 検索エンジンについて
- ⑩図書館における情報技術活用の現状 (1) : 分類目録システムのしくみからWebOPAC、CiNiiまで
- ⑪図書館における情報技術活用の現状 (2) : 図書館業務システムと館内ネットワーク
- ⑫電子資料の管理技術 (1) : 書物の解体と電子図書館
- ⑬電子資料の管理技術 (2) : デジタル情報社会に潜むデータ保存の危機について
- ⑭電子資料の管理技術 (3) : デジタルアーカイブ
- ⑮まとめと到達度チェック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

コンピュータ、インターネット、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等の基礎を理解し、情報探索およびマルチメディアの活用・応用能力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための専門知識、技能を身に付けている学生に学位を授与する」に基づき、情報社会において急速に進歩し続ける情報通信技術や情報機器についての基礎知識の獲得を通じて、そこで生活する人間として情報を収集し、分析し、それを効果的に活用し、社会人として自立できる能力を身に付ける。

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP3) 【課題を発見し、解決する力】

(DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

学期末試験として論述試験を行い、授業参加（小テスト）と学期末試験により評価を行います。

授業参加（小テスト）：20%、

学期末試験：80%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

講義用テキストを配布します。

【参考文献】

必要に応じて講義中に随時紹介します。

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

高度情報化社会における情報機器は日々急速な進歩を遂げているので、新聞・雑誌・パンフレット・広告・インターネット等で最新の情報を収集し、スクラップしておくの良いと思います。なお、初回に講義用テキストを事前配布しますので、配布テキストを基に最低でも60分程度の予習・復習を行うことが望ましいです。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

講義中に指名して発言を求められることがありますので予習した上で講義に参加してください。

科目名	図書館サービス概論
開講期・単位	1年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	新谷 良文

■講義の目的および概要

図書館は、ただ本を並べて貸すだけのための施設ではありません。本講義は、人間や社会にとっての図書館サービスの意義を探り、それを担う図書館員の使命や実務を理解することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

原則、講義形式で行いますが、講義終了前に次回の講義につながる小テストを8回程度行う予定です。15回目は講義全体のまとめを行います。本講義は公共図書館において長く実務経験を有する現職の図書館長が教員です。現代の図書館現場が行うサービスの全体像を把握できるよう講義を進めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義の中で、小テスト・レポートについて解説を行います。

■授業計画

- | | | |
|---|-----------|---------------------------|
| ① | オリエンテーション | |
| ② | 図書館の基本理念 | 民主主義社会を支える図書館（買う・借りる） |
| ③ | 〃 | 民主主義社会を支える図書館（全体の奉仕者） |
| ④ | 〃 | 民主主義社会を支える図書館（無料の原則） |
| ⑤ | 〃 | 民主主義社会を支える図書館（Lプラン） |
| ⑥ | 地域社会と図書館 | 図書館は地域の情報拠点（図書館の種類・資料の種類） |
| ⑦ | 〃 | 生涯学習施設としての図書館 |
| ⑧ | 〃 | 地域に根ざす（市民参加・ボランティア） |
| ⑨ | 〃 | 地域に根ざす（滞在型・危機管理） |
| ⑩ | 図書館のはたらき | 学校連携 |
| ⑪ | 〃 | 学校連携・国際化 |
| ⑫ | 〃 | 豊かな老後・障害者サービス |
| ⑬ | 〃 | 地域の百科事典・タイムカプセル |
| ⑭ | 〃 | 地域のサロン・アドバイザー |
| ⑮ | まとめと振り返り | |

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

一般的な図書館理解から抜け出し、実務者の視点から図書館を見ることができるようになること。
図書館の存在理念に基づき、実際に行われている多様なサービスの意義を理解できるようになること。

■成績評価基準と方法

小テスト（8回）：40%
レポート（1回）：60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜配布するプリント

【参考文献】

『これからの図書館像-地域を支える情報拠点をめざして-(報告)』
http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/286184/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701.htm

■授業外学習

【具体的な内容】

プリントは事前配布します。一読し、わからない言葉や図書館用語などを調べてから出席してください。（2時間）

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	情報サービス演習Ⅰ
開講期・単位	1年 秋学期・自由 1単位・演習
担当者	新谷 良文

■講義の目的および概要

情報サービスの担い手は、「調べ上手」であることと併せて「知らせ上手」である必要があります。現代における情報サービスの高度化は、情報を有効に活用できるようにするための利用者支援にも高い技術を要求しています。本講義では、デジタル情報を活用した情報サービスについて理解を深め、必要な技能の習得を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

第1回目から第6回目までは、レファレンスの心得等の基礎的な手法を学習します。第7回目から第10回目までは、主題別に各種オープンデータベースを活用した演習課題に取り組み、12回目以降は、スマホ版の図書館パスファインダーの作成に取り組みます。定期試験は行わず、ICTを活用した演習の成果物で評価を行います。本講義は、公共図書館において現職の図書館長として実務経験のある教員が現代の図書館現場で行なわれている情報サービスについて実践的な指導を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

演習課題については、すべて画面を使用して実演し、解説を行います。パスファインダー作成については、適宜個別指導を行うほか、最終講義にまとめを行います。

■授業計画

- | | |
|-----------------|--------------------|
| ①ガイダンス・「言葉」を調べる | |
| ②情報サービスの心得(1) | レファレンス事例から学ぶ |
| ③ " | " |
| ④ " | " |
| ④ファイル提出演習 | パワーポイント演習 |
| ⑤POP演習 | POP作成 |
| ⑥「画像」を調べる | 画像・医療情報など |
| ⑦ " | 記号・古典籍 |
| ⑧「数字」を調べる | 統計情報・経済情報など |
| ⑨「お仕事」を調べる | 知的財産権など |
| ⑩「本」を調べる | 出版流通図書・NDL・書影や書誌事項 |
| ⑪パスファインダー作成演習 | ガイダンス/作成 |
| ⑫ " | 作成 |
| ⑬ " | 作成 |
| ⑭ " | 作成 |
| ⑮ " | 提出・講評/まとめ |

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

★調べ上手になる

[主題や媒体に合わせたデジタル情報やデジタルコンテンツを活用できる]

★知らせ上手になる

[情報サービスにおける情報提供の決まりや技術を体得できる]

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP4) 【多様性の理解と協働する力】

(DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

演習提出(4回) : 40%

自作パスファインダー(1回) : 60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜配布するプリント

【参考文献】

『パスファインダーを作ろう-情報を探す道しるべ-(学校図書館入門シリーズ12)』石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会 全国学校図書館協議会 価格800円+税

■授業外学習

【具体的な内容】

演習は、各種データベースや開放端末などでの情報探索行動が自力で可能なことを前提としています。事前に検索練習を行った上で講義に臨んでください。(2時間)

講義中に演習する活用事例は、各データベースが持つ機能の全部ではありません。各データベースの多様な機能を試してみるなどして、サーチャーの技術を進化させてください。(2時間)

■その他

講義は、各自がパソコンを使用して演習を行えるようパソコン教室で行います。

科目名	図書館情報資源概論
開講期・単位	1年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	笹山 愉香

■講義の目的および概要

日々変化する現代において、図書館の使命でもある利用者がもっている「知る権利」を図書館情報資源を使ってサービスできるようにしていきます。
図書館情報資源の特製を理解し、使い方や利用の仕方を理解して的確に使い、司書としてのスキルを上げていけることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的にはプリントやPCを使った講義形式で行います。ただ講義の内容によって、図書館での見学、図書館の資料を使った演習やグループワークと取り入れて、能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で十分解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ① 図書館情報資源と司書
- ② 記録情報メディアの発展史
- ③ 印刷資料の種類と特製
- ④ 非印刷資料の種類と特製
- ⑤ 電子資料、ネットワーク情報資源
- ⑥ 図書館見学・出版流通システム
- ⑦ 図書館の「知的自由」
- ⑧ 蔵書論
- ⑨ 選定・配架と書庫管理
- ⑩ 選定実習①
- ⑪ 選定実習②
- ⑫ 実習発表①
- ⑬ 実習発表②
- ⑭ 受入実習
- ⑮ まとめ、図書館情報資源論と図書館サービス

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

図書館情報資源とは何か、自分の言葉で説明することができ、なおかつその特製を生かした選択ができること。また司書としての仕事を理解し、その知識で行動や選択ができるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
(DP4) 【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

レポート：30%
課題：40%
出席を含め、授業への積極的な参加態度：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布

【参考文献】

文献調査法—調査・レポート・論文作成必携— (情報リテラシー読本) 第9版
文献調査法シリーズ 毛利和弘著 DBジヤパン
「さっぽろの図書館」
「図書館情報資源概論 現代図書館情報学シリーズ8」岸田 和明/編著
「図書館の基礎と展望8 図書館情報資源概論」二村 健/シリーズ監修
「図書館情報資源概論 JLA図書館情報学テキストシリーズ8」馬場 俊明/編著

■授業外学習

【具体的な内容】

できたら近くの図書館への見学

毎回授業の冒頭に前回の復習をします。毎回メモをとり復習をするようにしてください。また、インターネットを使える環境なら、多くの図書館・図書施設のh pを閲覧しておいてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

授業に対する参加意欲、積極的な態度、発言も司書に必要なことだと認識しています。

それを理解したうえで授業に参加してください。

グループ演習を予定しています。

違う学科、学年の生徒同士が協力し課題を成し遂げることを重要視します。

科目名	情報資源組織論
開講期・単位	1年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	丹羽 秀人

■講義の目的および概要

図書館員にとって、最も基礎的な能力といえる目録と分類の基礎を理解できるようにします。紙ベースだった数十年前とは違い、コンピュータとインターネットの普及で、検索の概念が変わってきましたが、図書館システムは目録と分類を基本としています。目録と分類を知った上で、図書館現場で迅速で正確な検索ができるように、コンピュータでのデータについて指導していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

図書館員にとって分類と目録を理解していることが、第1歩です。各自本を持参してもらい、実際に分類と目録を作る事を主に行っていきます。その上で各地の図書館のはホームページを検索し、実際にデータが使われていることを理解し、そこで得た知識を図書選定に活かすことを知ってもらいます。第1回から10回目は目録と分類及びMARCの理解をしてもらうために、グループ討議などのアクティブラーニングを取り入れていきます。これらの知識は、蔵書の配架、図書の選定につながるものですから、第11回から13回で学習し、第14回ではその前提になる本の知識、第15回ではまとめとして学んだことを仕事に活かすことを考えてもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストについては、解説をします。レポート（小論文）には提出されたものに赤を入れます。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②分類の基礎的理解
- ③ " (演習、グループ討議)
- ④ " (演習、グループ討議)
- ⑤目録の基礎的理解
- ⑥ " (演習、グループ討議)
- ⑦ " (演習、グループ討議)
- ⑧MARCについての基礎的理解
- ⑨ " (演習)
- ⑩ " (演習)
- ⑪分類と配架
- ⑫図書の選定方法
- ⑬ " (演習、グループ討議)
- ⑭本が出来るまで
- ⑮図書館員の仕事

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

図書館員となり、初日には仕事にすぐ入ることの出来る知識を持ってもらいます。そのために、分類、目録の基本的知識を身につけてられるようにします。図書館員にはならない受講生もいると思いますが、分類、目録、MARCを学ぶことで、情報検索能力が高まります。インターネット上に情報はあふれていますが、ネット情報は確実ではないものが多数含まれていますし検索結果が恐ろしい数に上る場合があります。その中で必要とされる正確な情報を得る技術は、どんな分野に就職しても役立つものです。

【卒業認定】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

分類、目録、MARCについて小テストを行い、図書の選定についてはレポート（小論文）を書いてもらいます。

分類、目録、MARCの小テスト各20%、図書選定の小論文40%の比率で評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

プリントを作成し配布します。MARCについては、MARCを作成する会社に資料を提供してもらうよう依頼する予定です。

【参考文献】

日本十進分類法新訂10版（日本図書館協会）冊子版又はインターネット版
日本目録規則2018年版（日本図書館協会）冊子版又はインターネット版

■授業外学習

【具体的な内容】

次回資料プリントを配布することで予習してもらいます。
実際に図書館で説明したいので、附属図書館に行く時間を設けたいと考えています。
各自附属図書館、札幌市などの図書館の利用も予習にしたいと思います。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

図書館は楽しい場所ですから、授業でもその楽しさを知ってもらえるものしたいと考えています。

科目名	児童サービス論
開講期・単位	2年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	小丹枝 江里子

■講義の目的および概要

本講義では児童サービスの意義を理解し、子どもの発達段階にそった資料の選定、子どもと本を結びつける具体的な方法と技術を身につけることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

主に講義形式で行います。学校司書としての実務経験を生かし、絵本の読みかせ、ブックトークなど実務を重視した講義をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内またはmanabaにてフィードバックを行う。

■授業計画

- ①ガイダンス・児童サービスの意義・歴史
- ②子どもの生活と読書、児童サービスの動向
- ③児童サービスの諸活動
- ④子どもと本をつなぐ方法・技術① ミニお話会
- ⑤子どもと本をつなぐ方法・技術② 読み聞かせ実習 1
- ⑥児童資料の種類と特色① 読み聞かせ実習 2
- ⑦児童資料の種類と特色②
- ⑧児童サービスの運営
- ⑨児童コレクションの形成と管理 ブックトーク演習
- ⑩YAサービス
- ⑪乳幼児サービス
- ⑫特別支援サービス
- ⑬学校図書館への支援・連携
- ⑭地域諸機関との連携・キャリアアップ
- ⑮まとめ・試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

児童図書館員の専門性を説明できる
子どもの発達に合わせた資料の種類と特性を説明できる
子どもと本を結びつける技術と方法を理解する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための専門知識、技能を身に付けている学生に学位を授与する」に基づき、子どもの置かれている社会的状況を踏まえ、専門職である司書の知識、技術を持って子どもと本を結びつける能力を身に付ける。

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

ブックトークシナリオ 30%
ミニ課題 30%
試験 40%
で評価します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

児童サービス論 JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 6 新訂版 堀川昭代 編著

【参考文献】

- 『児童図書館サービス論』赤星隆子・荒井督子 編著 思想社
『児童文学論』リリアン・H. スミス 岩波書店
『えほんのせいかいこどものせいかい』松岡享子 著 日本エディタースクール出版部
『よみきかせわくわくハンドブック』代田知子 著 一声社
『昔話は残酷か』野村 滋 著 東京子ども図書館
『よみきかせのきほん』東京子ども図書館
『ブックトークのきほん』東京子ども図書館

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で紹介する本をできるだけ読むようにしてください。

【必要な時間】

予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科目名	情報サービス論
開講期・単位	2年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	新田 裕子

■講義の目的および概要

図書館における情報サービスの目的と意義を明らかにし、情報サービスの中核を担うレファレンスサービスに基軸を置きながら、情報検索サービスの方法、参考図書、データベース等の情報源、図書館利用教育など、今日的な情報サービスの概要や多様性について学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義を中心に授業を行うが、実際に札幌国際大学図書館蔵書検索、国立国会図書館NDL-ONLINEなど、実際にデータベース利用の体験をする。また、実務経験を活かした実習を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の課題提出で確認し、授業内で説明する。

■授業計画

- ①ガイダンス（授業のねらい、学習目標、各回の授業内容、予習・復習について、評価などの説明）、図書館の情報サービスとは
- ②館種別の情報サービス
- ③図書館における情報サービス① レファレンスサービスとレフェラルサービス
- ④図書館における情報サービス② カレントアウェアネスサービス他
- ⑤図書館における情報サービス③利用案内、読書相談、その他
- ⑥レファレンスサービスの理論と実際① レファレンスプロセス
- ⑦レファレンスサービスの理論と実際② レファレンスサービスの評価
- ⑧レファレンスサービスの理論と実際③ レファレンスサービスの体制づくり
- ⑨各種情報源の特質と利用法① 印刷資料—事実調査資料
- ⑩各種情報源の特質と利用法② 印刷資料—文献調査資料
- ⑪各種情報源の特質と利用法③ インターネット情報源
- ⑫各種情報源の組織化
- ⑬発信型情報サービスと図書館利用教育
- ⑭情報源の種類を知る(図書館実習)
- ⑮情報サービスの現状と遠望・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

図書館における「情報サービス」とは何か、また、その情報源であるレファレンスブックやデータベースについて理解を深めるとともに、新しい情報サービスや発信型図書館情報サービスについても理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

図書館司書として「自立して生きていくための専門知識、技能を身に付ける」ための学修

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

授業への取り組み・毎回の提出物 30%

課題提出 20%

期末試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

- 『情報サービス論』 山口真也・千錫烈・望月道浩 編著 ミネルヴァ書房 2018
『改訂 情報サービス論』 山崎久道・原田智子 編著 樹村房 2019
『情報サービス論』 竹之内 禎 編著 学文社 2013
『レファレンスブック 選びかた・使い方 三訂版』 長澤雅男・石黒祐子 共著 2016

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で取り上げるさまざまな情報サービスに関連するキーワードについて、関連資料による調査等を通して理解を補うようにする。また授業で学んだ内容（例；サイトやデータベースなど）をあらためて確認し、体験してみることに。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	情報サービス演習Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・自由 1単位・演習
担当者	今 尚之

■講義の目的および概要

図書館における「情報サービス」の中でも各種の「データベース」を活用した情報検索とその関連領域に関する基礎的な理論（知識）と技術を学習します。情報検索を局所的に捉えるのではなく、知識社会における調査、研究活動を支える理論と技能として学びます。

そのため、PCを使用した演習を通じて、データベースの理論と検索に必要な技能を修得し、図書館利用者の情報要求、知識社会の構築に応えるために必要な情報検索の基礎的な力量を獲得します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習を行います。講義ではデータベースや情報検索の理論をお話します。学習した理論を毎回の演習と総合演習問題で確認し、深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

大学が提供する学習支援システムから、演習課題の解答例を説明します。事後学習として自己採点を行い、振り返りをしてください。

そのほか、問い合わせ、質問などの回答では、必要なものについてシステムを使って共有します。

■授業計画

- ①授業のあらまし、図書館サービスと情報検索
受講の注意事項説明と確認、図書館サービスと情報検索、データ・情報・知識
- ②データベース（1）情報検索
情報検索の定義、データベースの要件／演習問題
- ③データベース（2）規則性
ファイル、可変長形式、デリミタ・タグ・インデックス／演習問題
- ④データベース（3）格納場所
記憶装置、編成方法、アクセス方法、データ＝モデル／演習問題
- ⑤コンピュータ目録（1）レコード構成
レコード構成、読み方、分かち書き、転置ファイル／演習問題
- ⑥コンピュータ目録（2）検索戦略
マッチング、例外規定、トランケーション、論理演算／演習問題
- ⑦コンピュータ目録（3）主題検索
件名標目票、適合率と再現率、主な検索サイト／演習問題
- ⑧総合演習問題（図書と雑誌本体の検索）
- ⑨学術論文（1）前付・本文、学術論文（2）後付
表題、抄録、序論・本論・結論「逆三角形型」／演習問題、引用・参照・参考、文献リスト（書式・対応方式）／演習問題
- ⑩学術論文（3）論文検索
雑誌記事索引、引用文献索引、インパクト＝ファクター／演習問題
- ⑪学術論文（4）全文検索
単語インデックス方式、文字インデックス方式、索引技法／演習問題
- ⑫学術論文（5）電子ジャーナル
シリアルズ＝クライシス、オープンアクセス運動／演習問題
- ⑬リレーショナル＝データベース
数学における「関係」正規化、演算操作、SQL／演習問題
- ⑭総合演習問題（雑誌論文の検索）
- ⑮総合演習問題（文献の検索）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・情報検索の仕組みとデータベースの基本的な原理を説明できるようになります。知識社会における調査、研究活動を支える情報検索の役割や理論、基本を説明できるようになります。
- ・具体的にデータベースを選択し、情報（文献）を検索することができるようになります。
- ・情報（文献）を必要とする利用者の要求に応えることができる基礎的な検索ができるようになります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

・図書館司書任用資格に必要な科目です。専門職である図書館司書としての力量と自覚を持って活躍できるようになってください。

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

・演習を含む授業です。全てに出席をしてください。諸事情で欠席する時には連絡²³（令和5）年4月1日して、自習課題に取り組んでください。欠席時の自習課題の提出がない場合には、成績評価の対象になりません。

・演習問題とそのふりかえり（40%）、総合演習問題（2回出題（30%+30%=60%））による総合評価（合計100%）です。

■テキスト・参考文献

【テキスト（必ず購入して持参してください）】

○ 宮沢厚雄著：「検索法キーノート」、樹村房、2018年

【参考文献】

○ 一般社団法人 情報科学技術協会 監修、原田智子編著：「プロの検索テクニック

検索技術者検定 2級 公式推奨参考書」、一般社団法人 情報科学技術協会、2018年

○ 伊藤民雄著：「インターネットで文献探索 2019年版（JLA図書館実践シリーズ7）」、日本図書館協会、2019年

○ 石井保廣著：「情報検索と情報発信の実際：フリーサイトでスキルアップ」、佐伯印刷、2018

○ 一般社団法人 情報科学技術協会発行：「情報の科学と技術」各号（

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jkg/-char/ja/>）

○ 大橋崇行著：「ライブラリーぶっくす 司書のお仕事 お探しの本は何ですか？」、勉誠出版、2018

○ 日本図書館協会：「図書館雑誌」各号

○ 図書館問題研究会：「みんなの図書館」各号

■授業外学習

【事前学習】

テキスト「検索法キーノート」の該当部分を読み、授業で詳しく聞きたいと思ったところなどのメモノートを作成します。（90分程度）

【事後学習】

演習問題を自己採点し、曖昧なところやわからないところを補います。システムにアクセスをしてふりかえり（感想や質問など）を投稿します。（90分程度）

■その他

・課題提出や諸連絡は、大学の学習支援システムを使用します。

・「図書館情報技術論」「図書館情報資源概論」「情報資源組織論」を先に履修しておくとう理解しやすいでしょう。

・情報科学技術協会「検索技術者検定」を受験できる基礎的な学習にもなります。「検索技術者検定」にもチャレンジしてください。

科目名	情報資源組織演習 I
開講期・単位	2年 春学期・自由 1単位・演習
担当者	新田 裕子

■講義の目的および概要

利用者が図書館の情報資源に確実にアクセスできるような資料組織化の理論と技術を学び、日本十進分類法（NDC）を用いた主題分析と分類作業の演習を行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

配布資料による説明と日本十進分類法（NDC）を用いて分類演習を行い、資料組織化の実際を理解できるように進める。また、実務経験を活かした館種の違いによる分類付与の内容についても解説する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の課題提出物で確認し、次の授業時に解説する。必要に応じて、適宜、個別に対応する。

■授業計画

- ①オリエンテーション—授業の進め方。情報資源の組織化の意義を知る—分類・件名
- ②日本十進分類法（NDC）の概要を理解する—分類表の構成、本表の見かた
- ③日本十進分類法（NDC）関連索引を使う
- ④分類作業の実際① 形式区分
- ⑤分類作業の実際② 地理区分、海洋区分
- ⑥分類作業の実際③ 言語区分、言語共通区分
- ⑦分類作業の実際④ 文学共通区分、地域的論述の細区分ほか
- ⑧補助表に関する演習問題
- ⑨分類規定① 複数主題（重点処置）、原著作・関連著作
- ⑩分類規定② 伝記
- ⑪演習問題
- ⑫日本十進分類法—各類別の分類 分類規定に関する演習問題
- ⑬件名表目録・図書記号・別置記号
- ⑭分類規定に関する演習問題
- ⑮全体のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

利用者が図書館で情報・資源に確実にアクセスできるような資料の組織的技術を学び、実践的な能力を身につける。
図書の主題を把握し、日本十進分類法（NDC）により分類記号を付与することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

図書館司書としての「専門知識・技能を身につける」ための学修（DP1）【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

授業への取組・提出物
演習問題 50%
試験 50%
により評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、プリントを配布する

【参考文献】

『改訂 情報資源組織演習』小西 和信・田窪 直規 編著 樹村房 2017
『情報資源組織演習 新訂版』和中幹雄・山中秀夫・横谷弘美 共著 日本図書館協会 2016

■授業外学習

【具体的な内容】

一年目科目のうち「情報資源組織論」を履修していることが望ましい。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	情報資源組織演習Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・自由 1単位・演習
担当者	武井 昭也

■講義の目的および概要

「情報資源組織演習Ⅰ」に続く科目である。『基本件名標目表(BSH)』『日本目録規則(NCR)』を活用する能力とさまざまな目録情報や書誌情報に関しての理解を深めることを目的とする。

演習課題に取り組み発表・提出を繰り返す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

情報資源の目録を作成する。説明—作業—課題提出・発表したものを解説・補足する。

『基本件名標目表(BSH)』『日本目録規則(NCR)』、WebOPACの情報、インターネット情報を参考にして演習を進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

manaba課題の取り組み発表と補足、プレゼンテーションとディスカッションを繰り返す。

■授業計画

- ①演習教材と目録法総則
- ②単行資料の記述—タイトル・責任表示・版・形態・注記・標準番号など
- ③各種資料の記述—録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料・電子資料など
- ④継続資料の記述—各書誌的事項
- ⑤標目および配列
- ⑥例題と総合演習
- ⑦主題分析
- ⑧基本件名標目表による件名作業
- ⑨日本十進分類法による分類作業
- ⑩分類記号付与の実際—分類規定
- ⑪インターネットで使える目録情報源とMARC
- ⑫いろいろな書誌情報源と目録作成
- ⑬コピーカタロギングって何だろう
- ⑭書誌コントロールと書誌ユーティリティ
- ⑮コンピュータ目録演習関連リソース

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①『基本件名標目表(BSH)』『日本目録規則(NCR)』、WebOPACの情報、インターネット情報の概要を理解し、使えるようになること。
- ②目録作業についての基本的技術を習得すること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

大学の学位授与方針は、柔軟な思考力と実践力を貴び、職業および社会生活に必要な教育により地域社会の創造と国際社会の発展に寄与する社会人育成を目的としている。また、短期大学部では実際の専門教育と職業教育を施すとともに、教養に関する広い知識を授け、人格を磨き生活および社会に貢献して文化の向上に寄与する良き社会人の育成を目的としている。図書館司書課程はこの大学・短期大学部の学位授与方針に合致する科目群である。

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

毎回の提出物 70%
最終課題 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

manaba上に資料・課題提示

【参考文献】

その都度紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

関連する文献や各図書館のWebOPACを使い、予習すること。また復習しさらに調べて確認すること。課題をこなすこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

科目名	図書館基礎特論
開講期・単位	2年 春学期・自由 1単位・講義
担当者	小丹枝 江里子

■講義の目的および概要

児童サービスにおいて子どもの本を知ることは大切なことの一つです。比べ読みをすることで資料の評価、選定の技術の修得を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本講義は学校司書の実務経験のある教員が選書の知識を活かして、資料の評価・選定方法の講義を実施します。主に講義形式で行いますが、グループディスカッションで比較検討し発表するなど能動的な学習を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内での解説、またはmanabaでのフィードバックを行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②絵本(物語)の構造 「生きて帰りし物語」
- ③昔話の中の「生きて帰りし」構造
- ④昔話を生かした日本の創作
- ⑤詩・わらべうた
- ⑥幼年文学①
- ⑦幼年文学②
- ⑧試験
- ⑨
- ⑩
- ⑪
- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子どもの本を知る。
子どもの本を選ぶ目を養い、選書の基準を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための専門知識、技能を身に付けている学生に学位を授与する」に基づき、児童サービスで重要な資料を知る、資料を評価する能力を身に付ける。
(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

レポート: 30%
リアクションペーパー: 30%
試験: 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『幼い子の文学』瀬田貞二著 中公新書 1980年

【参考文献】

『絵本論』瀬田貞二
『子どもと本』松岡亨子著 岩波新書 2015年

■授業外学習

【具体的な内容】

事前にテキストを読んでおくこと。
ロングセラーといわれる本をできるだけ読むこと。
また講義で紹介した本をできるだけ読むこと。

【必要な時間】

予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	図書館情報資源特論
開講期・単位	2年 秋学期・自由 1単位・講義
担当者	今 尚之

■講義の目的および概要

司書の資格を取得するためには、甲群(必修:11科目22単位)、乙群(選択2科目2単位)の13科目24 単位以上の取得が必要です。
「図書館情報資源特論」は「乙群:選択科目」に位置づけられています。 文部科学省が示している、「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目一覧 [13科目24単位]」では、次のように書かれています。

ここから

必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題 を選択し、講義や演習を行う。

ここまで

皆さんは、これまで、そして、いま現在、必修の「基礎科目 4科目・8単位」「図書館サービスに関する 科目 4科目・8単位」「図書館情報資源に関する科目 3科目・6単位」を受講し、単位を積み重ねてきた(積み重ねている)ものと思います。

「図書館情報資源特論」については、乙群(選択科目)です。そのねらいは「図書館情報資源に関する領域の課題を選択」し、教授することが求められています。

そのことから、近年の社会情勢から「社会のDX(Digital Transformation|デジタルトランスフォーメーション)と図書館の電子サービスの理解と可能性の検討」を「領域の課題」としました。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習課題に取り組み、さまざまなデジタル情報資源とその活用法を体験的に学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

演習中の質問に都度解答します。
課題解答を通して学習したまとめのふりかえりに対し必要に応じてコメントします。または、全体で共有します。

■授業計画

- ① ガイダンス／ユネスコ公共図書館宣言(2022年)と社会のDXに果たす役割
- ② 国立国会図書館が提供する電子図書館機能
- ③ レファレンス協同データベース事業
- ④ リポジトリ
- ⑤ デジタルアーカイブ
- ⑥ JAPAN SEARCH
- ⑦ まとめ考察(演習)- 社会のDXと図書館のDX

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 1 DXとはどのようなことか知ります。
- 2 改正されたユネスコ公共図書館宣言とDXについて考えます。
- 3 電子図書館の利活用を、国立国会図書館の電子サービスから検討します。
- 4 さまざまなリポジトリやデジタルアーカイブスを知り、図書館サービスの実践で活用できるようになります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

図書館司書任用資格に必要な科目です。専門職である図書館司書としての力量と自覚を持って活躍できるようになってください。
(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

ふりかえりを提出します。
質問内容はおおむね以下を予定しています。
用語説明に関する質問
演習課題取り組みの自己評価(学習成果)
全体を通して学習した内容に対する自己評価(学習成果)
テーマに関する考察

■テキスト・参考文献

【テキスト】

資料を配布します。

【参考文献】

伊藤民雄著：インターネットで文献探索 2022年版、日本図書館協会、2022.05
ほか授業中に紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：事前に提供するレジюмеを読み，深く学習したいテーマなどをピックアップする。

事後学習：演習課題に取り組んだ結果や身に付いた力量などについて自己評価を行い，小レポートを作成します。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	図書・図書館史
開講期・単位	2年 秋学期・自由 1単位・講義
担当者	横川 大輔

■講義の目的および概要

文字、情報、紙、本と読書、図書館とアーカイブの東西の歴史など、情報と人との関わり、情報の形態と機能、図書館やアーカイブについて文明史的な観点から概観する。

また、情報通信技術が著しく発展した現在社会と今後の情報社会における「情報」と「図書館」及び「司書」の役割、機能等について考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

知識を伝授する伝統的な講義形式の授業。授業内容の確認のため、毎回授業のノートを出し、さらにミニレポートを書く。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニレポートのフィードバックは、全体に対し次回授業で口頭で行い、個別にはmanaba上で行う。

■授業計画

- ①ガイダンス（何を学ぶのか、授業の進め方、成績評価方法など）
文字・情報媒体の歴史と図書館の始まり
- ②古代 巻物と冊子体
- ③中世 修道院
- ④近世① 印刷革命 書誌学と専門的な司書の誕生
- ⑤近世～近代 カフェと読書クラブから公共の図書館へ
- ⑥近代～現代 単館主義の終わり ネットワーク化
- ⑦日本の現代図書館史、
そして図書館の未来 国際化・デジタル化

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

図書と図書館の発展史を辿ることで、現代社会における情報と人との関わりを認識する視座を確立する。

【卒業認定】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

■成績評価基準と方法

ノート提出・・・26点
ミニレポート・・・26点
最終課題・・・48点

■テキスト・参考文献

【テキスト】用いない

【参考文献】

高山正也『図書館の日本文化史』ちくま新書（筑摩書店、2022年）
加藤三郎、村越貴代美『図書及び図書館史』新・図書館学シリーズ12（樹村房、1999年）

■授業外学習

【具体的な内容】

授業外学習として、授業でとったメモをノートにまとめ、ミニレポートを書く

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	教育原理[教職]
開講期・単位	1年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	塚本 智宏

■講義の目的および概要

教育という営みについて、私たちが直面している子どもの発達課題や教育問題などを例に、現代の教育学はそれらにどのように対処しようとしているのかを概観したうえで、現代に至るまでの西洋並びに日本の教育の歴史と思想・理念を振り返り、それらがどのように推移・蓄積されて今日に至っているのかを考察し、最終的には、現代的な教育の営みに対する歴史的・思想的アプローチの意義を確認することとする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義方式で行う。毎回振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行うっていく。原則として毎回小テストを課す。後半の授業で、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する

■授業計画

- ①前近代の社会と養育・教育の考え方と在り方
- ②近代社会への転換と近代教育の思想
- ③近代公教育制度成立とその歴史的背景
- ④近代学校教育の理念と教育・教授の思想
- ⑤近代社会の成立・発展と新教育の思想と実践
- ⑥戦前の日本の教育制度の歴史
- ⑦戦前日本の国家的教育理念と政策
- ⑧戦前の新教育運動と教育思想・実践
- ⑨戦後の教育改革と新しい教育の理念
- ⑩戦後の教育思想と教育実践
- ⑪現代教育が抱える問題と歴史・思想からのアプローチ
- ⑫教育という営みの特徴と必要性
- ⑬教育と人間形成
- ⑭教育と社会
- ⑮教育と人権

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

本授業では、教育の基本的な考え方とは、また、教育の理念とはいかなるものか、それらは教育の歴史や思想においてどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのか、これらを理解することが全体目標である。具体的には、以下の事項の理解を学習の到達目標とする。1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標、2) 子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係、3) 家族と社会による教育の歴史、4) 近代教育制度の成立と展開、5) 現代社会における教育課題への歴史的な視点、6) 家庭や子どもに関わる教育の思想、7) 学校や学習に関わる教育の思想、8) 代表的な教育家の思想。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教職課程の課程認定に関する一般目標、到達目標に準ずる。

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP3) 【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

毎回の授業後の①振り返りシートなど：15%、
② 中間レポート25%、③最終試験60%
①～③を土台に、総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

塚本智宏 子どもにではなく子どもと コルチャック先生の子育て・教育メッセージ

かりん舎 1,000円 テキストからの課題、中間レポートについて授業内で指示する

【参考文献】

文部科学省『中学校学習指導要領』・『高等学校学習指導要領』

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

常日頃から文献・ニュース・新聞などで、最近の教育関係を中心とした社会の動向・情報を入手するよう心がけること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	教師論[教職]
開講期・単位	1年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	大鐘 秀峰

■講義の目的および概要

本講義では「教師とは何か、教職とは何か」について主体的に考え、知識を深め、教職に向けて進路意識を高めることを目的とする。

【当科目に含む事項：○教職の意義及び教員の役割○教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）○進路選択に資する各種の機会の提供等

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを分担し全員が分担部分のレジュメを提出、代表者の発表後、意見交換と補足をしながら進める。必要に応じてVTRその他の視覚資料を用いる。

【課題に対するフィードバックの方法】

発表原稿はmanaba上のプロジェクトにアップ、発表に対する意見交換・補足。

■授業計画

- ①講義の概要把握・事前課題提出・レジュメの作り方・発表の仕方・分担決定
- ②教師を目指す
- ③初等教育の教師—その仕事と魅力
- ④中等教育の教師—その仕事と魅力
- ⑤日本の教師の特徴—国際比較データを読み解く
- ⑥教師像の史的展開—岐路に立つ教職
- ⑦教員の服務
- ⑧教員の権利と身分保障
- ⑨学び続ける教師—教員研修の意義と課題
- ⑩学校を構成する様々な専門職—チームとしての学校
- ⑪子どもが<いのち>に見える教師—東日本大震災・被災地からの発信
- ⑫いじめに向き合う自尊感情を育むということ
- ⑬性の多様性をめぐる学校・教師の課題
- ⑭「教える」ということの意味
- ⑮理想の教師を目指して<発表会>

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自らが受けてきた教育を下敷きに、教職に就くことへのモチベーションを高める知識を得ることができる、教職の意義や教員の役割、職務内容を知り、教職への意識を高めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

札幌国際大学が柔軟な思考力と実践力を貴ぶ学風の下、深く専門の学芸を教授研究し、職業および社会生活に必要な教育を施し、自由、自立、自省の精神による人間形成を重んじていることが教職課程の学修と人間形成に合致する教育職員免許取得のための科目である。

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

- | | |
|---|-----|
| ①事前提出課題（「自分の学校体験を振り返って—自分にとってのこれまでの学校生活と教師との出会いの意味—」） | 20% |
| ②教科書の分担箇所の発表 | 20% |
| ③教師・教職に関するレポート作成 | 30% |
| ④理想の教師に関するレポート作成 | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

汐見稔幸、佐伯胖編著『現代の教師論』ミネルヴァ書房（2019）その他プリントを適宜配付するのでファイルを用意すること。

【参考文献】

大村はま『教えるということ』共文社・池田修『教師になるということ』ひまわり社・林竹二『問い続けて』径書房・文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』・重松清『青い鳥』

■授業外学習

【具体的な内容】

- ①タイトル「自分の学校体験を振り返って—自分にとってのこれまでの学校生活と教師との出会いの意味—」について800字以上（A4版縦書き原稿用紙手書き左上綴じ）を1回目授業に持参、提出。指定条件と違う項目と遅れた場合は減点する。
- ②テキスト分担についてチームで相談し分担部分のレジメを提出、発表に備えること。打合せはOutlookメールで連絡を取り合うこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

教職に就くことを前提とした科目であり自意識の高い学生を望みます。

科目名	特別活動
開講期・単位	1年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	安井 政樹

■講義の目的および概要

これからの時代に必要とされる資質・能力の育成や学校教育の課題への対応に向けては、望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養おうとする特別活動が果たすべき役割を理解するとともに、その具体的な指導についても実践的に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

アクティブラーニングを重視した、講義演習型の授業です。基本的な理論の理解だけではなく、グループワークやディスカッションなどを大切にしながら、担当者の小学校における実務経験を生かして、実際の学校現場で役立つ実践的な力がつくように授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内にその都度、フィードバックをしていきます。課題については、manabaを活用して課題の得点や改善点をフィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション
(学習指導要領における特別活動の目標及び内容)
- ②我が国の学校教育を特徴付ける教育活動としての「特別活動」
(教育課程における特別活動と他教科との関連)
- ③特別活動の3つの区分
(児童会生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質)
- ④学級活動・ホームルーム活動の意義と実際
(合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導・集団活動の意義や指導の在り方)
- ⑤生徒会活動の意義と実際
- ⑥学校行事の意義の意義と実際・教育活動全体で取り組むカリキュラムマネジメント
- ⑦特別活動における取組の評価・改善活動の重要性
- ⑧特別活動における家庭地域住民や関係機関との連携の在り方
- ⑨学級活動の指導の実際 (模擬授業体験)
- ⑩学級活動の指導の実際 (模擬授業体験)
- ⑪学級活動の指導の実際 (指導案作成)
- ⑫模擬授業発表会
- ⑬模擬授業発表会
- ⑭まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- (1) 特別活動の意味、目標及び内容を理解する。
 - 1) 学習指導要領における特別活動の目標予備主な内容を理解している。
 - 2) 教育課程における特別活動の位置づけと各教科等との関連を理解している。
 - 3) 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。
 - 4) 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。
- (2) 特別活動の指導の在り方を理解する。
 - 1) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。
 - 2) 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。
 - 3) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
 - 4) 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
特別活動に関する知識や、学校現場で実際に活用できる力を身に付ける
- (DP2) コミュニケーション能力
模擬授業の良さや課題について対話を通して学ぶことで、建設的で創造的なコミュニケーションができるようになる。
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
模擬授業をしながら、改善に向けた問題発見・解決能力を養う。
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
学級内で尊重されるべきで「多様性」について理解し、共生社会の実現に向けて協働できる力を育成する。
- (DP5) 能動的に学び続ける力
児童生徒のために授業改善をすること、そのために学び続けることの大切さを実感する。
- (DP6) 社会に貢献する姿勢
よりよい社会の担い手を育てる特別の実際について考えることを通して、自らの在り方をみつめる。

■成績評価基準と方法

受講生が授業に臨む態度を重視し、毎時間の授業内容に関する理解度確認レポートと課題作成を基に以下の割合で総合的に評価を行う。

- A (45%) 授業内レポート3点×15回＝45点
B (40%) 指導案作り20点×2回＝40点
C (15%) 模擬授業15点×1回＝15点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・学級・学校文化を創る特別活動
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター著

【参考文献】

- ・学習指導要領解説 特別活動編

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストだけではなく、参考文献やインターネット上の資料などを見ながら、特別活動への理解を深めることを求めたい。

【必要な時間】

- 毎回の授業についての予習復習を各2時間程度を目安に主体的に取り組むことを求めたい。

■その他

- ・テキストは全員購入すること。第2回目に間に合うようにすぐに注文をすること。
- ・教職に関する科目であり、基本的にすべての回を出席することを前提として授業を進めます。できるだけ休むことがないように留意してください。

科目名	教育課程論
開講期・単位	2年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	平田 嘉宏

■講義の目的および概要

本講義の目的は、各学校が編成する教育課程を、その意義や編成の方法などとあわせて理解するとともに、各学校の実情に沿って実施・評価・改善するカリキュラム・マネジメントの意義を理解することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式に加え、必要に応じて調査学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングの方法を取り入れて行う。
高等学校で管理職や実務担当者として教育課程を編成・実施し、教育行政機関で教育課程編成・実施のための手引を作成した教員が、その実務経験を活かして、教育課程や関連する学校教育に関する事柄について、様々な視点から理解を深める講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題（試験やレポート等）の実施・提出後、次の回の授業でそれらについて解説する。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 学習指導要領の位置付けと教育課程
- ③ 学習指導要領の変遷
- ④ 育成すべき資質・能力、社会に開かれた教育課程
- ⑤ 学習指導要領の趣旨・内容1（総則等）
- ⑥ 学習指導要領の趣旨・内容2（各教科・科目等）
- ⑦ 教育課程の編成
- ⑧ 中学校における教育課程の編成の実際
- ⑨ 高等学校における教育課程の編成の実際
- ⑩ カリキュラム・マネジメントと教育課程の実施・評価・改善のサイクル
- ⑪ 教科書の選定・採択
- ⑫ 年間指導計画やシラバスの作成と学習評価及びICTの活用
- ⑬ 諸外国の学校制度と教育課程
- ⑭ 学校運営と教育課程
- ⑮ 全体のまとめ

場合によってはオンライン・オンデマンド授業の可能性がある。その際は、事前にmanaba等で連絡する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解し、説明できる。
- ② 教育課程編成の基本原則並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、説明できる。
- ③ 教科・領域・学年横断するカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

- | | |
|----------------|-----|
| ① 定期試験 | 50% |
| ② 振り返りシート・小テスト | 30% |
| ③ 課題等の提出物 | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ① 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説【総則編】 平成29年7月 文部科学省
- ② 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説【総則編】 平成30年7月 文部科学省

【参考文献】

適宜授業において紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：講義に必要な資料等がある場合は事前に配付する。テキストの関係部分と併せて事前に読んで授業に参加すること。常日頃からニュースや新聞などで、教育に関する情報を意識して把握すること。

事後学習：講義の内容を振り返るだけでなく、1回目から前回までの講義と今回の講義の内容がどのように関連しあっているかを確認すること。

【必要な時間】

事前事後学習にはそれぞれ2時間を要する。

■その他

国の教育行政の動向等によっては、教員免許状の取得に向けて必要となる最新情報を適宜授業の中で取り上げるので、授業計画には変更がありうる。

科目名	教育行財政[教職]
開講期・単位	2年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	大鐘 秀峰

■講義の目的および概要

現代の公教育制度を管理・運営・改革する教育行政作用の具体例をとおして学ぶとともに、その実践主体としての学校について組織と経営の観点から学ぶことによって、教育行政的視点を修得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式を中心とするが、ワークシートに取り組みながら内容に応じて応答型授業を展開する。また、復習レポート（3回）を課し、教育行政的視点の運用方法を学ぶ。

【課題に対するフィードバックの方法】

配付資料をファイルさせ、学修事項を適宜確認して、既習事項の定着を図る。

■授業計画

- ①ガイダンス—教育行政とは何か—…教育の目的と教育行財政制度
 - (1)現代の公教育制度
 - ②現代教育の諸問題と教育行政…いじめ、不登校、学級崩壊
 - ③現代の公教育制度…公教育の概念・構成原理・中央と地方
 - ④教育法規…日本国憲法・教育基本法・学校教育法
 - ⑤演習Ⅰ：レポート作成（②～④の復習）
- (2)学校経営上の諸問題
 - ⑥地方教育行政制度の仕組みと作用…教育委員会の実態
 - ⑦教員の養成と採用…教育職員の免許状・試験・選考
 - ⑧学校の管理と運営…教育課程経営・教科書・学校評価
 - ⑨教職員の服務と職務及び研修…教職員の懲戒と分限
 - ⑩演習Ⅱ：レポート作成（⑥～⑨の復習）
- (3)今日の教育改革
 - ⑪教育財政…教育費の配分・義務教育費・教員給与
 - ⑫学校安全と危機管理…さまざまな危機・マニュアルの整備
 - ⑬教員の働き方改革…勤務時間の意識化・部活動の地域移行
 - ⑭令和の日本型学校教育の構築…個別最適な学びと協働的な学び
 - ⑮演習Ⅲ：レポート作成（⑪～⑬の復習）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①教育の営みについて、教育行政的視点が持てること。
- ②教育行政と学校との関係を理解し、論点を見いだすことができること。
- ③学校の今日的課題を理解し、論点を見いだし、改善策を提案できること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP5) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

レポート課題（3回）
 1,2回目：25点
 3回目：50点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリント（ワークシート）を配付するので、ファイルを準備してください。

【参考文献】

文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』
 河野和清『現代教育の制度と行政〔改訂版〕』福村出版、2017年、
 勝野正章・藤本典裕編『教育行政学〔改訂新版〕』学文社、2015年
 勝野 正章、窪田 眞二他『教育六法』陽陽書房、2023年

■授業外学習

【具体的内容】

予習として事前に配付されたプリントを読解、課題に取り組んでくること。復習として、自分の感想や意見、問題点等をまとめること。

【必要な時間】

予習、復習の時間としては、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

なし

科目名	教育相談(カウンセリングを含む)[教職]
開講期・単位	2年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	榎本 光邦

■講義の目的および概要

教育相談は、幼児・児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討、分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

本講義は、公立小学校や公立教育相談室において、教育相談や特別支援教育（障がい児教育）に関する教育相談の実務経験のある教員が、その経験を生かして、多様な子どもに対しての効果的な教育相談の進め方を心理学の理念と方法を取り入れ、具体的に講義します。

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義時に行います。

■授業計画

- ①ガイダンス／学校教育と教育相談
- ②教育現場の実態
- ③教育相談の理論
- ④C. R. ロジャースの生涯と仕事(1) ～ロジャースの理論について
- ⑤C. R. ロジャースの生涯と仕事(2) ～カウンセリング演習
- ⑥教育相談の技法
- ⑦学級経営に活かす教育相談
- ⑧学校や園で使えるアセスメント
- ⑨保護者への理解と支援
- ⑩校内・園内および関係機関との連携
- ⑪スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用
- ⑫発達障害の理解と支援(1) ～AD/HD, SLDについて
- ⑬発達障害の理解と支援(2) ～自閉スペクトラム症について
- ⑭精神障害の理解と支援
- ⑮学級で使える心理ワーク演習

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門的知識・技能を活用する力】
 (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

定期試験（レポート形式・50%）に、毎回の受講後に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教師のたまごのための教育相談(改訂版) 会沢信彦・安齊順子(編) 北樹出版

【参考文献】

生徒指導提要 文部科学省

■授業外学習

【具体的な内容】

事後学修として、当日の授業内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。また、シラバスに提示されている次時の内容について大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートに予習として記載しておくこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心をもって下さい。

■その他

講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。

科目名	教育方法論[教職]
開講期・単位	2年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	塚本 智宏

■講義の目的および概要

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術等に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義方式で行う。原則として毎回振り返りシート記入提出。必要に応じてグループワークやディスカッションなど演習を取り入れ、能動的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する

■授業計画

ガイダンス

- ① 教育方法の歴史1(欧米) 教授学の原点
- ② 教育方法の歴史2(欧米) 近代学校と教授学/新教育と実験的教育
- ③ 教育方法の歴史3(戦後日本). 教科書・学習指導要領の変遷・科学と子ども・学力
- ④ 戦後日本の教育実践 授業とは? 教材研究・授業づくり
- ⑤ 戦後日本の教育実践 授業のプロセス 科学と授業
- ⑥ 戦後日本の教育実践 教科の枠を越えた授業
- ⑦ 戦後日本の教育実践 学習指導案をつくる
- ⑧ 現代の授業づくりへの要請 教育基本法・指導要領の改訂と変化
- ⑨ 学習指導案とは何か 指導案の構成と意味 (課題) 指導案作成
- ⑩ 授業をつくる 授業の流れと導入 導入をつくる試み (課題) GP学習
- ⑪ 授業を実践する指導技術 教師の立ち振る舞いと教育環境づくり
- ⑫ 授業研究と授業評価 (課題) 授業評価を試みる
- ⑬ 模擬授業 3人 (1-3班代表)
- ⑭ 模擬授業 3人 (4-6班代表)
- ⑮ 模擬授業 3人 (7-9班代表)

定期テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- (1) 教育方法の基礎的な理論と実践とを理解している
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現するのかを理解している
- (3) 授業を構成する基礎的な要件を理解している
- (4) 学習評価の基礎的な考えを理解している
- (5) 発問、板書等の基礎的な指導技術を身につけている
- (6) 学習目標、内容、教材、教具、授業展開、学習形態、評価規準などの視点を含めた学習指導案を作成することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教職課程の課程認定に関する一般目標、到達目標に準ずる。

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

授業振り返りシート15% 課題の提出と報告15%: 定期試験: 70%
以上を目安として、総合的に判断して評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

稲垣忠編著『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房、2019年
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房(平成29年告示)
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房(平成30年告示)

■授業外学習

2023（令和5）年4月1日

【具体的な内容】

常日頃から文献・ニュース・新聞などで、最近の教育（授業・教材・生徒指導関係）などを中心とした情報を入手するよう心がけること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	道徳教育の理論と指導
開講期・単位	2年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	安井 政樹

■講義の目的および概要

道徳教育の意義や原理、歴史等をふまえて、学校における道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法について学修をするとともに、道徳科の学習指導案の作成や道徳科の1時間の模擬授業を通して実践的な力を身に付ける科目である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークなどアクティブラーニングを取り入れた演習形式での授業である。道徳教育の意義などについてのディスカッションや指導者役と学習者に分かれて実施する。なお、担当者の小学校における実務経験をもとに、模擬授業などを通して、体験的な学びを重視した授業形態で展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時間の振り返りレポートや指導案については、manabaを活用してフィードバックを行う。ディスカッションや模擬授業については、授業内で適宜コメントでフィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション・道徳教育への問い-道徳は教えられるか- (道徳の本質)
- ②社会と道徳的価値
- ③現代的課題と道徳教育
- ④日本における道徳教育の歴史
- ⑤諸外国の道徳教育・道徳教育と宗教
- ⑥子供の心の成長と道徳性の発達
- ⑦学校における道徳教育 (道徳教育全体計画と指導計画)
- ⑧道徳教育・道徳科の目標と内容
- ⑨道徳科の特質を生かした多様な指導法
- ⑩道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計
- ⑪道徳科の評価と評価の一体化
- ⑫道徳科の指導計画と学習指導案
- ⑬道徳科の指導の実際 (模擬授業)
- ⑭道徳科の指導の実際 (模擬授業)
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- (1) 道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
- 1) 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。
 - 2) 道徳教育の歴史や現代借家委における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。
 - 3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。
 - 4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- (2) 学校の教育活動全体と通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
- 1) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。
 - 2) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。
 - 3) 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。
 - 4) 授業の狙いや指導過程を名アックにして、道徳家の学習指導案を作成することができる。
 - 5) 道徳科の特質を踏まえた学習評価の在り方を理解している。
 - 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

道徳教育に関する知識や、学校現場で実際に活用できる力を身に付ける。

(DP2) コミュニケーション能力

互いの良さや課題について対話を通して学ぶことで、建設的で創造的なコミュニケーションができるようになる。

(DP3) 課題を発見し、解決する力

模擬授業をしながら、改善に向けた問題発見・解決能力を養う。

(DP4) 多様性の理解と協働する力

道徳教育で大切な「多様性」について理解し、共生社会の実現に向けた協働する力を育成する。

(DP5) 能動的に学び続ける力

児童生徒のために授業改善をすること、そのために学び続けることの大切さを実感する。

(DP6) 社会に貢献する姿勢

道徳科の授業を通して、社会に貢献する姿勢を身に付ける。

■成績評価基準と方法

下記のABCを合わせて総合的に評価をする。

A(45%) 授業内レポート（毎時間）3点×15回＝45点

B(40%) 学習指導案 20点×2＝40点

C(15%) 模擬授業 15点×1＝15点

■テキスト・参考文献**【テキスト】**

- ・中学校道徳科 ゼロからわかる授業づくり 藤永啓吾
- ・必要に応じて、資料を配付します。

【参考文献】

- ・放送大学テキスト「道徳教育論」
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 など 授業内でも適宜紹介する。

■授業外学習**【具体的な内容】**

テキストや資料を活用した予習復習、指導案作りや模擬授業準備などをする。

【必要な時間】

毎回の授業について、主体的な予習復習を各2時間程度することを求める。

■その他

- ・できるだけ早めにテキストが届くように注文してください（全員購入）。
- ・教職に関する科目であり、どの回の内容も教師にとってとても大切な内容である。基本的に毎回出席することを前提として授業を展開するため、できるだけ欠席を避けることが望ましい。

科目名	総合的な学習の時間
開講期・単位	2年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

総合的な学習（探求）の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

チーム学校のもと、グループ討議（担任業務の共通理解）を中心に行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

年間計画、指導案を作成し、授業を実践することができる資質を身につけるため、単に授業ができるだけでなく、チーム学校としての学年団としての組織力・協調性が求められます。

■授業計画

- ①科目の趣旨と履修ガイダンス（学校視察の説明）
意義と原理…創設の経緯と要点（学習指導要領解説第1章）

■中学校■

- ②意義と原理（学習指導要領解説第2.3章）…目標の構成・趣旨、各学校において定める目標・内容
③指導計画の作成（学習指導要領解説第4章）…指導計画作成、内容の取扱い及び配慮事項
④指導計画、内容設定と課題・運用（学習指導要領解説第5章）
⑤年間指導計画及び単元指導の作成と基本的な考え方（学習指導要領解説第6章）
⑥評価、学習指導の考え方（学習指導要領解説第6章）
⑦体制〔校内組織、授業の確保、外部との連携〕（学習指導要領解説第6～9章）

■高等学校■

- ⑧意義と原理（学習指導要領解説第2.3章）…目標の構成・趣旨、各学校において定める目標・内容
⑨指導計画の作成（学習指導要領解説第4章）…指導計画作成、内容の取扱い及び配慮事項
⑩意義、特色ある学校づくり（学習指導要領解説第5章）
⑪指導計画及び単元指導の作成と基本的な考え方（学習指導要領解説第6.7章）
⑫時間の評価、学習指導の考え方（学習指導要領解説第8章）
⑬体制〔校内組織、授業の確保、外部との連携〕（学習指導要領解説第9.10章）
⑭総合的な学習・探求の時間 模擬授業①
⑮総合的な学習・探求の時間 模擬授業②、履修総括（試験）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【一般目標】

（1）総合的な学習の時間の意義と原理

総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。

【到達目標】

- 1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。
- 2) 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。

【一般目標】

（2）総合的な学習（探求）の時間の指導計画の作成

総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。

【到達目標】

- 1) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習（探求）の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。
- 2) 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習（探求）の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。

【一般目標】

（3）総合的な学習（探求）の時間の指導と評価

総合的な学習の時間（探求）の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

【到達目標】

- 1) 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。
- 2) 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教職課程のため、スチューデントハンドブックや教職履修カルテを参照すること。

（DP1）【専門知識・技能を活用する力】

（DP2）【コミュニケーション能力】

（DP5）【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①試験、および模擬授業・指導案…30%
- ②年間計画提出、口頭試問…30%
- ③単元指導案提出、口頭試問…30%
- ④総括 学習ファイル提出…10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

学習指導要領解説「中学校 総合的な学習の時間」

学習指導要領解説「高等学校 総合的な探求の時間の時間」

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

教職課程の授業を理解するにふさわしい事前課題・事後課題を提示します。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

科目名	生徒指導・進路指導
開講期・単位	2年 秋学期・自由 3単位・講義
担当者	武井 昭也

■講義の目的および概要

生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。

進路指導は、児童生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。

それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

各自の分担による資料作成と発表、意見交換、課題等の発表を繰り返し、理解を深める展開を繰り返す。映像資料や図書館文献・資料・インターネットからの情報を加味する。

【課題に対するフィードバックの方法】

manaba上レポートに課題提出、発表内容を確認し補足する。学修内容を「生徒指導・進路指導実践資料」にまとめ内容を確認する。

■授業計画

- ①授業展開の確認・発表分担・いじめや不登校、体罰などの話題提示・教育課程上の位置づけ
- ②事例発表と対応についての意見交換
- ③各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義
- ④集団指導・個別指導の方法
- ⑤生徒指導体制と教育指導体制の基礎的な考え方
- ⑥学級担任の役割、教科担任と校務分掌上の担当役割、組織的な取り組み
- ⑦基礎的な生活習慣の確立、規範意識の醸成
- ⑧児童生徒の自己理解と共感性を育むこと
- ⑨生徒指導に関する法令理解（校則・懲戒・体罰・停学・退学など）
- ⑩生徒指導上の課題（暴力行為・いじめ・不登校など）とその現状・対応
- ⑪生徒指導上の課題（インターネット・SNSなど）とその現状・対応
- ⑫生徒指導上の課題（児童虐待・貧困など）とその現状・対応
- ⑬生徒指導の基本視座、子ども理解と生徒指導
- ⑭いじめとは何かー歴史と現状
- ⑮いじめとは何かー対応・関係機関との連携
- ⑯キャリア教育など話題提示・教育課程上の進路指導・キャリア教育の位置づけ
- ⑰キャリア教育の歴史と基礎理論ーパーソンス・ホランド・マズロー・スーパー、日本の推移
- ⑱進路指導・キャリア教育の諸活動ー生徒理解と自己理解、体験活動、進路相談
- ⑲進路指導・キャリア教育の組織運営ー校内体制の確立、進路指導部、担任、各教科担当、関係機関との連携、家庭との連携
- ⑳進路指導・キャリア教育の計画実践ー小学校・中学校・高等学校・インターンシップ
21. キャリア・カウンセリングの理論・技法とその活用ー目的・特徴・留意点
22. キャリア形成と自己評価・ポートフォリオの活用
23. 教育の職業的意義

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

教育課程における生徒指導・キャリア教育の位置づけを理解できる。
 生徒指導・キャリア教育・進路指導の基礎的な考え方を理解できる。
 生徒指導上の課題について定義と課題、対応についての理解できる。
 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教育職員免許取得のための科目である。札幌国際大学の柔軟な思考力と実践力を貴ぶ学風の下、深く専門の学芸を教授研究し、職業および社会生活に必要な教育を施し、自由、自立、自省の精神による人間形成を重んじていることが教職課程の学修と人間形成に合致する。

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】

(DP2)【コミュニケーション能力】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

課題提出①②③	40%
発表と意見交換	20%
授業内容まとめレポート④	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

高等学校学習指導要領、同解説・中学校学習指導要領、同解説
 資料はmanaba上にアップして提示する。

【参考文献】

『青い鳥』重松清（新潮文庫）『いじめとは何か』森田洋司（中公新書）『問い続けて』林竹二（径書房）『思春期のこころ』清水将之（NHKブックス）

■授業外学習

【具体的な内容】

図書館文献・資料・インターネットを活用しての課題整理とレジュメ作成・発表準備。
 生徒指導とキャリア教育に関する新聞記事チェック・収集。レポート作成。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

中学生・高校生に説明する想定でわかりやすい資料を作成し発表
 引用出典を明示

テーマは以下から一つ選択 同一テーマは3チームまで
 個人または2人・3人チームで作成し発表（5分程度）

- いじめってなに
- 虐待とサポート
- 貧困と社会支援
- 児童相談所の機能
- 発達障がいと向き合い方
- 愛着って何
- 自己肯定感ってなに
- 非認知的能力ってなに
- 校則との向き合い方
- 部活動の意義と未来
- 業種と職種
- 就業形態
- 仕事ってなんだ
- 人生でかかるお金はどれくらい
- 多様性ってなに
- コミュニケーションの方法
- ストレスへの対処法
- 日本の年金制度一君はいつからいくら貰えるか
- 日本の税金
- 日本の医療福祉
- 一次産業の魅力
- 教育という仕事の魅力
- 日本の伝統工芸の職場

科目名	ICTを活用した教育
開講期・単位	2年 春学期・自由 1単位・講義
担当者	安井 政樹、平田 嘉宏

■講義の目的および概要

情報通信技術の活用の意義を理解するとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導及び校務について理解し、その基礎的な指導法に関する技術を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教室で講義を展開するとともに、個人のノートPCや電子黒板等によって演習を行う。

適宜グループ・ディスカッション、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニングの方法を取り入れる。

なお、演習中心の回にきめ細かな少人数指導を行ってスキルを高めるために、履修者を半数ずつ分けて、1週おきに授業を受けることがある。つまり、仮にロイロノートの基礎の演習を2週にわたり実施することとした場合、履修者はそのうちの1回だけ出席するということである。いつやるか、どちらの週に自分が当たるか等の詳細については、授業中に説明する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題提出後、授業で解説や紹介をすることでフィードバックする。

■授業計画

- ①情報通信技術の活用の意義
- ②ICTを活用した対面授業の在り方とその実際
- ③授業における効果的なICTの活用方法
- ④教育データの指導や評価への活用と情報セキュリティ
- ⑤遠隔授業におけるICTの活用方法
- ⑥校務支援システムによる校務の推進
- ⑦教科等横断的なICT活用能力の育成
- ⑧教育の様々な場面におけるICTの活用と情報モラル及び環境整備

すべて対面で行う予定であるが、やむを得ずオンライン・オンデマンド授業を行う場合は、事前にmanaba等で連絡する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。
- ②情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。
- ③児童生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

レポート（80%）
 発表内容（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

『教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)』2020(文部科学省)
www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
 『ICT活用の理論と実践 DX時代の教師を目指して』稲垣忠・佐藤和紀 北大路書房
 『ロイロノートのICT“超かんたんスキル”』和田誠 時事通信社

■授業外学習

【具体的な内容】

事前に関連する資料を読み込み、理解しておく。
授業後はそれまでの授業の内容を踏まえて課題を提出する。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は2022年度以降入学したスポーツ指導学科の教職課程履修者における必修科目の一つである。

各自のPCにはロイロノートをインストールし、授業において電子黒板へ送信し、できるだけ初等中等教育の学校現場に近い形態をとりながら、幅広い情報通信技術の習得を目指す。

科目名	介護等体験
開講期・単位	3年 春学期・自由 2単位・実習
担当者	平田 嘉宏、池森 康裕

■講義の目的および概要

本講義の目的は、介護等体験への必要な考え方や知識を身に付け、高齢者や障がい者福祉施設及び、特別支援学校での介護や介助、交流などの体験実習を通して、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、人の痛みのわかる教員の育成に資することである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

DVD等の映像教材から、福祉施設での生活を理解するとともに、生活支援技術演習を通して、高齢者や障がいのある人との関わりを理解する。更に体験学習等で学んだことについて「グループワーク」「プレゼンテーション」等を通して理解を深めるなど演習中心の授業を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、レポート返却時にコメントを付けて行う。

■授業計画

- ①ガイダンス・体験先希望調査
- ②介護体験の意義（映像）を理解する
- ③デイサービスの理解（映像）とレクリエーションの意義と方法
- ④高齢者の心身機能の特徴（高齢者疑似体験）を理解する
- ⑤安全な車いすの操作方法を理解し実施できる
- ⑥視覚障がい者のガイドヘルプを理解し実施できる
- ⑦身体障がい者の衣服の着脱介護を理解し実施できる
- ⑧体験実習のための事前指導
- ⑨高齢者・障がい者福祉施設での体験実習（5日間）
- ⑩特別支援学校の概要を理解する
- ⑪特別支援学校での体験実習（2日間）
- ⑫体験実習日誌の作成、礼状の作成
- ⑬体験実習の学びを報告し課題を共有する。（体験報告会1）
- ⑭体験実習の学びを報告し課題を共有する。（体験報告会2）
- ⑮全体のまとめ、体験実習レポートの提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

教師を目指すものとして、高齢者や障がいのある人々への理解を深め、差別や偏見のない社会づくりに貢献することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ① 実習体験レポート等： 40%
- ② 実習日誌： 30%
- ③ 報告会の振り返りシート： 30% 以上を総合して評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

関連資料を適宜配布する。

【参考文献】

『介護等体験マニュアルノート—社会福祉施設』（東京都社会福祉協議会：改訂版）

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：事前に配布した資料を読んで参加すること。毎回の授業の冒頭で前時の振り返りを行うので、重要事項等を調べておくこと。

事後学習：報告書や実習日誌のまとめ、礼状の作成などを通して、実習を振り返るとともに、常日頃から、自分たちが暮らす地域には、どのような福祉施設等があるのか調べておくよう心掛けること。

【必要な時間】

事前学習の時間は、2時間を目安とします。事後の学習時間は2時間を目安とします。

■その他

- ①受講者は教職課程を履修している学生に限る。
- ②中学校の免許状を取得する場合は必修である。
- ③実習時期により、講義内容の入れ替えがある。

2023（令和5）年4月1日

科目名	社会科・公民科指導法 I
開講期・単位	3年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

この授業は「教職課程 中学社会、高等学校公民」を履修する学生のためのものです。
 担当教員は、現場での実務経験を踏まえた、実践的な学びを展開します。
 特に、当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計と授業実践を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は、学習指導要領に沿って社会科・公民科の基本的な考え方などの一斉・講義式の学習形態が多いですが、後半は、学習指導案の作成、生徒が主体的に活動する学習、教室での模擬授業など実践的な授業展開となります。
 特に、教師として教壇に立ち、生徒の模範となるような姿勢（教材研究）が求められます。

【課題に対するフィードバックの方法】

特に、模擬授業では授業前の指導案の添削や授業後の合評会など、授業前後の取り組みが重要であり、現職教員と同じようにPDCAに基づく授業づくりが行えるよう指導します。

■授業計画

- ①学校教育全体における社会科授業との役割（教育計画と年間指導計画） 1-(1) 授業内試験
 - ②社会科・公民科の目標及び内容、教科の目標、学習指導要領の全体構造 1-(1)
 - ③中学校 公民的分野(1) 私たちと現代社会 目標、内容、内容の取扱い、指導上の留意点 1-(5)
 - ④中学校 公民的分野(2) 私たちと経済 目標、内容、内容の取扱い、指導上の留意点 1-(5)
 - ⑤高等学校 現代社会・倫理 目標、内容、内容の取扱い、指導上の留意点 1-(5)
 - ⑥高等学校 経済 目標、内容、内容の取扱い、指導上の留意点 1-(5)
 - ⑦* 授業内試験* 学習指導案の構造理解と指導計画の作成 2-(3)
 - ⑧評価の観点と評価規準・基準の設計 1-(2)
 - ⑨情報機器及び教材の効果的な活用② 2-(2)
 - ⑩模擬授業① 経済 2-(1)、2-(4)
 - ⑪模擬授業② 現代社会・倫理 2-(1)、2-(4)
 - ⑫模擬授業③ ICTを活用したアクティブラーニング 学力の実態に応じた授業設計 2-(1)、2-(4)
 - ⑬模擬授業④ 発展的な学習に関する授業 1-(4)、2-(4) 授業内試験
 - ⑭カリキュラムマネジメントにもとづくPDCAの理解と授業評価
 - ⑮試験問題の作成と考察…評価の観点と評価規準・基準の設計 1-(2)
- * 定期試験 レポート及び個別面接による口頭試問による試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【一般目標】

学習指導要領に示された当該教科の目標及び内容を理解する。

【到達目標】

- 1) 学習指導要領に示された当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
- 3) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
- 4) 発展的な学習内容について探究し、学習指導に位置付ける方法を理解している。
- 5) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

【一般目標】基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

【到達目標】

- 1) 子供の認識、思考及び学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
- 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
- 3) 学習指導案の構造を理解し、具体的な授業を想定した授業設計を行い、学習指導案を作成することができる。
- 4) 模擬授業の実当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教職課程科目のため、スタディガイドなどで学位授与の方針との相関関係を熟読すること。

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

試験（紙による）…30%、
口頭試問（合評会）…20%
模擬授業…30%
成果物（評価観点を含めた試験問題の作成）…20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- 1) 中学校学習指導要領解説 社会（平成29年6月 文部科学省）
- 2) 高等学校学習指導要領解説 地歴公民（平成29年6月 文部科学省）
- 3) 教科書1 高等学校・公共「公共」（東京書籍 公共701）
- 4) 教科書2 中学校・公民的分野「中学社会 公民 とともに生きる」（教育出版 公民902）

【参考文献】

適宜指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

各回のテーマにもとづき、指導案を提出し、この指導案に基づき模擬授業を実践、ふりかえりを行う。

【必要な時間】

事前学習 指導案作成など教材研究 2時間
事後学習 模擬授業などのふりかえり 2時間

■その他

科目名	社会科・公民科指導法Ⅱ
開講期・単位	3年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	横田 久貴

■講義の目的および概要

この授業は「教職課程 中学社会、高等学校公民」を履修する学生のためのものです。
担当教員は、現場での実務経験を踏まえた、実践的な学びを展開します。
特に、当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計と授業実践を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は、学習指導要領に沿って社会科・公民科の基本的な考え方などの一斉・講義式の学習形態が多いですが、後半は、学習指導案の作成、生徒が主体的に活動する学習、教室での模擬授業など実践的な授業展開となります。
特に、教師として教壇に立ち、生徒の模範となるような姿勢（教材研究）が求められます。

【課題に対するフィードバックの方法】

特に、模擬授業では授業前の指導案の添削や授業後の合評会など、授業前後の取り組みが重要であり、現職教員と同じようにPDCAに基づく授業づくりが行えるよう指導します。

■授業計画

- ①学校教育全体における社会科授業との役割（教育計画と年間指導計画） 1-(1) 授業内試験
 - ②社会科・公民科の目標及び内容、教科の目標、学習指導要領の全体構造 1-(1)
 - ③中学校 公民的分野(3) 私たちと政治 目標、内容、内容の取扱い、指導上の留意点 1-(5)
 - ④中学校 公民的分野(2) 私たちと国際社会の諸課題 目標、内容、内容の取扱い、指導上の留意点 1-(5)
 - ⑤高等学校 日本国憲法 目標、内容、内容の取扱い、指導上の留意点 1-(5)
 - ⑥高等学校 政治、国際政治 目標、内容、内容の取扱い、指導上の留意点 1-(5)
 - ⑦学習指導案の構造理解と指導計画の作成 2-(3)
 - ⑧評価の観点と評価規準・基準の設計 1-(2)
 - ⑨情報機器及び教材の効果的な活用② 2-(2)
 - ⑩模擬授業① 憲法 2-(1)、2-(4)
 - ⑪模擬授業② 政治 2-(1)、2-(4)
 - ⑫模擬授業③ ITCを活用したアクティブラーニング 学力の実態に応じた授業設計 2-(1)、2-(4)
 - ⑬模擬授業④ 発展的な学習に関する授業 1-(4)、2-(4) 授業内試験
 - ⑭カリキュラムマネジメントにもとづくPDCAの理解と授業評価
 - ⑮試験問題の作成と考察…評価の観点と評価規準・基準の設計 1-(2)
- * 定期試験 レポート及び個別面接による口頭試問による試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【一般目標】

基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

【到達目標】

- 1) 子供の認識、思考及び学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
- 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
- 3) 学習指導案の構造を理解し、具体的な授業を想定した授業設計を行い、学習指導案を作成することができる。
- 4) 模擬授業の実当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教職課程科目のため、スタディガイドなどで学位授与方針との相関関係を熟読すること。

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

試験（紙による）…30%
口頭試問（合評会）…20%
模擬授業…30%
成果物（評価観点を含めた試験問題の作成）…20%

■テキスト・参考文献

中学校学習指導要領解説 社会（平成29年6月 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 地歴公民（平成29年6月 文部科学省）
教科書1 高等学校・公民「公共」（東京書籍 公共701）
教科書2 高等学校・公民「倫理」（東京書籍 倫理311）
教科書3 中学校・公民的分野「中学社会 公民 とともに生きる」（教育出版 公民902）

【参考文献】

適宜指示します。【テキスト】

■授業外学習

【具体的な内容】

各回のテーマにもとづき、指導案を提出し、この指導案に基づき模擬授業を実践、ふりかえりを行う。

【必要な時間】

事前学習 指導案作成など教材研究 2時間
事後学習 模擬授業などのふりかえり 2時間

■その他

科目名	社会科・地理歴史科指導法 I
開講期・単位	3年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、中学校社会科（地理・歴史分野）、高等学校地理歴史科の歴史的な変遷と科目の目的を理解するとともに、より実践的な模擬授業を展開できることを目指す点にある。

そのため、本講義では、社会科系科目の基本的な知識を理解し、授業展開に必要な技能を習得するため、理想的で実践的な学習指導案を構想・作成してもらい、それを模擬授業として行ってもらう。その中で教員としての教科実践力を高めてもらう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は、一斉・講義式の学習形態中心に展開する。

後半は、「発表学習（模擬授業）」「ディスカッション」などを取り入れた授業展開となる。

本講義では、特に後半において、より実践的な内容を執り行うため、中学・高等学校での実務経験者がそれを活かした指導を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時の課題については、適宜、講義内で解説する。

後半に行う学習指導案作成については、「発表学習」としての模擬授業、そして、その後の「ディスカッション」としての模擬授業解説を繰り返し行い、最終的に提出物の学習指導案を作成してもらう。

■授業計画

- ①ガイダンス、社会科・地理歴史・公民科の教科構造
- ②社会科系科目の歴史と使命
- ③中学校社会科、高等学校地理歴史科の学習内容（新教育課程）
- ④小学校・中学校・高等学校の接続
- ⑤学習指導と学習評価
- ⑥学習指導と学習評価の一体化とシラバス・年間指導計画
- ⑦学習指導案とは、アクティブラーニングについて
- ⑧学習指導案に基づく模擬授業（発表学習A）と模擬授業検討会（合評会）、教材の効果的活用について（解説）
- ⑨学習指導案に基づく模擬授業（発表学習B）と模擬授業検討会（合評会）
- ⑩学習指導案に基づく模擬授業（発表学習C）と模擬授業検討会（合評会）
- ⑪学習指導案に基づく模擬授業（発表学習D）と模擬授業検討会（合評会）
- ⑫学習指導案に基づく模擬授業（発表学習E）と模擬授業検討会（合評会）
- ⑬学習指導案に基づく模擬授業（発表学習F）と模擬授業検討会（合評会）
- ⑭学習指導案に基づく模擬授業（発表学習F）と模擬授業検討会（合評会）
- ⑮最終提出物について

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①社会科及び地理歴史科教育の目的を理解できる。
- ②社会科系科目の基本的な知識の意味を理解できる。
- ③主体的で実践的な授業を組み立てることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、活用する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- | | |
|---------------------------|-----|
| ①学習指導案（最終提出物） | 25% |
| ②学習指導案に基づく模擬授業（授業技術）の実施 | 25% |
| ④教師としての発言・態度・意欲（立ち振る舞いなど） | 25% |
| ⑤講義時の（学習指導案以外の）提出物 | 25% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- 『中学校学習指導要領解説 社会編』文部科学省
 『中学社会 地理 地域に学ぶ』教育出版
 『中学社会 歴史 未来をひらく』教育出版

【参考文献】

※高校の地歴の教科書

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・社会に目を向け、模擬授業にむけたヒントを日頃から考えること。
- ・教科書や学習指導要領から学習指導案、板書計画を作成すること。
- ・各自で空き教室を利用し、板書等の練習などを行うこと。

【必要な時間】

- ・学習指導案作成だけで2時間以上は必要

■その他

- ・社会科・地理歴史科指導法Ⅱも同時に履修すること。
- ・テキストについては、社会科・公民科指導法で購入している場合は、代用してもよい。
- ・次年度の教育実習先の校種が高校の場合は、高校用の教科書も使用する。
- ・PCを持参することも推奨する。

科目名	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ
開講期・単位	3年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	齋藤 修

■講義の目的および概要

本講義の目的は、特に高等学校の地理歴史科における各科目の目標を理解することと、より実践的な授業を構築することである。

そのため、本講義では、地理、歴史系科目の学習指導案作成を中心に、それに基づいた授業を実際に行うものとする。その中で教員としての実践力を養うことを目指している。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半は、検定教科書を意識した学習指導案（板書計画のみ）による模擬授業を実施し、授業を行うことへの感覚を身に付ける。

後半は、中学校の地理分野、歴史分野、高校地歴分野（「地理総合」「歴史総合」）の授業の授業案作成とそれの模擬授業を行う。教材や学習法を工夫し、授業力向上に向けた基礎力を修得する。

【課題に対するフィードバックの方法】

「学習指導案作成⇒模擬授業⇒ディスカッション」のサイクルの中で、実務経験に基づく解説を受けながら、よりよい学習指導案作成を目指す。

■授業計画

- ①ガイダンス、教科書に基づいた板書計画の作成
- ②板書計画に基づいた模擬授業1と模擬授業検討会（合評会）
- ③板書計画に基づいた模擬授業2と模擬授業検討会（合評会）
- ④板書計画に基づいた模擬授業3と模擬授業検討会（合評会）
- ⑤板書計画に基づいた模擬授業4と模擬授業検討会（合評会）
- ⑥板書計画に基づいた模擬授業5と模擬授業検討会（合評会）
- ⑦板書計画に基づいた模擬授業6と模擬授業検討会（合評会）
- ⑧板書計画に基づいた模擬授業7と模擬授業検討会（合評会）
- ⑨資料や地図を用いた「地理総合」「歴史総合」の授業について（講義）
- ⑩学習指導要領から導いた地歴科模擬授業1と模擬授業検討会（合評会）
- ⑪学習指導要領から導いた地歴科模擬授業2と模擬授業検討会（合評会）
- ⑫学習指導要領から導いた地歴科模擬授業3と模擬授業検討会（合評会）
- ⑬学習指導要領から導いた地歴科模擬授業4と模擬授業検討会（合評会）
- ⑭学習指導要領から導いた地歴科模擬授業5と模擬授業検討会（合評会）
- ⑮社会科、地理歴史科教員の魅力と苦悩と最終学習指導案の提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①わかりやすい授業を展開できる。
- ②高等学校地理歴史科の各科目目標に沿った授業を組み立てることができる。
- ③学習指導要領に沿った授業を計画し、組み立てることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、活用する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①本時案、板書計画に基づいた模擬授業のまとめ（授業技術）20%
- ②模擬授業のまとめ（授業技術）20%
- ③教材の使用法、教授法の工夫（授業技術）20%
- ④最終学習指導案（授業方針、目的、表現、組立、計画など）30%
- ⑤教師としての発言・態度・意欲（立ち振る舞いなど）10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- 『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』文部科学省
 『高等学校 新地理総合』帝国書院
 『歴史総合 近代から現代へ』山川出版
 ※地歴科教科書は以前使用したものでも構わないが、「総合」の教科書は1冊必要。
 【参考文献】
 『すぐ実践できる! アクティブ・ラーニング 高校地歴公民』西川純編集 学陽書房
 『新しい世界史教育』鳥越泰彦 飯田共同印刷

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・社会に目を向け、模擬授業にむけたヒントを日頃から考えること。
- ・教科書や学習指導要領から学習指導案、板書計画を作成すること。
- ・各自で空き教室を利用し、板書等の練習などを行うこと。

【必要な時間】

- ・学習指導案作成だけで2時間以上は必要

■その他

- ・社会科・地理歴史科指導法Ⅰを履修している者は、Ⅱも履修すること。
- ・高校地歴教科書（地理総合、歴史総合）購入については、1つだけで構わない。
- ・PCを持参することも推奨する。

科目名	発達心理学[教職]
開講期・単位	3年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	榎本 光邦

■講義の目的および概要

発達心理学とは、年齢によって人の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当ててこれらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の一分野である。20世紀の中ごろまでは、子どもと青年の研究が中心であったが、その後、急速な高齢化社会の出現に伴って、それが緊急の社会的な問題となった先進国で老年期研究が盛んに行われ、ついで青年期と老年期の中間にあって社会をささえている成人の研究へと拡大していった。

本講義では、人間の一生を発達段階に沿って説明できるようになるとともに、自己概念を理解し、自らの今後の目標を具体的に立てられるようになることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討、分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

本講義は、公立・私立保育園・幼稚園、公立小学校や公立教育相談室において、教育相談や特別支援教育（障がい児教育）に関する巡回相談の実務経験のある教員が、その経験を生かして、人間の発達について概説し、各発達段階の子どもへの支援について具体的に講義します。

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義時に行います。

■授業計画

- ①発達心理学の歴史と方法
- ②胎児期・周産期
- ③感覚・運動の発達
- ④愛着の発達
- ⑤自己と感情の発達
- ⑥認知の発達
- ⑦言語の発達
- ⑧社会性・道徳性の発達
- ⑨遊び・仲間関係
- ⑩学習の理論
- ⑪障害と支援(1)～AD/HD, SLDへの支援
- ⑫障害と支援(2)～自閉スペクトラム症への支援, アセスメントについて
- ⑬心と行動の問題
- ⑭児童虐待
- ⑮エリクソンのライフサイクル論

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①人間の一生を発達段階に沿って説明できる。
- ②心理社会的危機について、具体例を用いて説明できる。
- ③発達障害について正しい知識および認識を持つ。
- ④自己概念を理解し、今後の目標を具体的に立てられる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門的知識・技能を活用する力】
 (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

定期試験（レポート形式・50％）に、毎回の受講後に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（50％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ベーシック発達心理学 関一夫・齋藤慈子編 東京大学出版会

【参考文献】

随時紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事後学修として、当日の授業内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。また、シラバスに提示されている次時の内容について大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートに予習として記載しておくこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心をもって下さい。

■その他

講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。

科目名	保健体育科指導法 I
開講期・単位	3年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	安田 純輝、新井 貢

■講義の目的および概要

本科目は、保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の目標・内容及び各領域の学習指導理論を踏まえた具体的な授業設計を行う方法を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は、講義形式を中心に展開する。但し、グループワークや指導法の学習に際しては、実技を交えた演習形式による展開とする。本科目は、保健体育科教育学に関する研究の遂行実績を有する教員及び高等学校保健体育科教員としての実務経験を有する教員が担当し、実際の保健体育科の授業場면을想定した中で指導者として相応しい資質を体験的に身に付けるとともにその評価方法についても学修する。やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

本科目の課題は、eラーニングシステム (manaba) を活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、授業外での本科目に関する質問は、個別対応とする。

■授業計画

- ①ガイダンス、学校教育活動全体における保健体育科の位置づけ
- ②保健体育科の目標及び内容
- ③保健体育科の指導計画と評価
- ④「体づくり運動」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑤「器械運動」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑥「陸上競技」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑦「水泳」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑧「球技」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑨「武道」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑩「ダンス」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑪「体育理論」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑫「健康な生活と疾病の予防」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑬「心身の機能の発達と心の健康」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑭「傷害の防止」「健康と環境」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑮まとめ、授業研究に取り組む姿勢の確立 (教場試験)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①学習指導要領に示された保健体育科の目標及び内容を理解できる。
- ②保健体育科の基礎的な学習指導理論を理解し、授業場면을想定した授業設計を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①リフレクション：30%
毎時間リフレクションを実施する。展開された内容と関連付けて考察がなされているかを評価する。
- ②マイクロティーチング：10%
各領域のマイクロティーチングを実践する。目的・方法 (教材) に一貫性が伴っているかを評価する。
- ③学習指導計画：30%
最終課題に、学習指導計画 (年間計画・単元計画・時間計画) の作成を課し、その完成度を評価する。
- ④教場試験：30%
15回目の授業において教場試験を実施する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

文部科学省 (2018) 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説: 保健体育編. 東山書房.

文部科学省 (2019) 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説: 保健体育編 体育編. 東山書房.

岡出美則ほか編 (2021) 体育科教育学入門 (三訂版). 大修館書店.

その他, 必要に応じて適宜資料を配布する.

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では, 学習指導要領を熟読し, 学習指導計画を作成できるよう理解を深めること.

事後学習では, 教育実習に向け実際に授業ができるよう準備を進めること.

【必要な時間】

予習・復習の時間は, それぞれ2時間を目安とする.

■その他

本科目は, 中学校ならびに高等学校教諭免許状 (保健体育) の取得に関する必修科目であるため,

教職課程を履修している学生のみ受講を認める.

また, 本科目を受講する際は, 原則として「保健体育科指導法Ⅲ」の同時受講を条件付ける.

科目名	保健体育科指導法Ⅱ
開講期・単位	3年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	安田 純輝、小林 秀紹

■講義の目的および概要

学習指導要領に示されている体育の目標に示されていることの意味や考え方を理解することは、新しい体育の方向を明らかにするうえで重要である。本科目では、保健体育科指導法Ⅰ・Ⅲで身につけた基本的な考え方や指導方法を展開できるよう、各種目における特性や発達段階における指導方法、教材や資料の使い方などを理解するとともに、実際に学校現場で活躍できるよう演習や実習を通して、個々の能力に応じた指導法や具体的な授業の展開方法を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は、講義形式を中心に展開する。但し、グループワークや指導法の学習に際しては、実技を交えた演習形式による展開とする。本科目は、保健体育科教育学に関する研究の遂行実績を有する教員及び高等学校保健体育科教員としての実務経験を有する教員が担当し、実際の保健体育科の授業場面を想定した中で指導者として相応しい資質を体験的に身に付けるとともにその評価方法についても学修する。やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

本科目の課題は、eラーニングシステム (manaba) を活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、授業外での本科目に関する質問は、個別対応とする。

■授業計画

※保健体育科指導法Ⅰ・Ⅲの履修内容を踏まえ、保健体育科指導法Ⅳとの連携を考慮しながら実施する。

- ①ガイダンス, 学校教育活動全体における保健体育科の位置づけ
- ②保健体育科の概念
- ③保健体育科の目標
- ④保健体育科の内容
- ⑤保健体育科における教育課程論
- ⑥保健体育科における教材・教具論
- ⑦保健体育科における学習形態論
- ⑧保健体育科における学習指導計画の作成
- ⑨保健体育科における教育評価論
- ⑩保健体育科における教材研究と授業研究
- ⑪保健体育科の授業実践①
- ⑫保健体育科の授業実践②
- ⑬保健体育科の授業実践③
- ⑭保健体育科の授業実践④
- ⑮まとめ, 教場試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①保健体育科教育の基本的な知識を理解することができる。
- ②適切な授業展開を立案し、目標に則った学習指導計画を作成することができる。
- ③効果的な授業を展開することができる。
- ④授業の結果を適切に評価することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①リフレクション：30%
毎時間リフレクションを実施する。展開された内容と関連付けて考察がなされているかを評価する。
- ②学習指導計画の作成及びマイクロティーチングの実践：30%
各領域に関する学習指導計画の作成ならびにマイクロティーチングを実践する。計画・実践した内容について、目的・方法（教材）に一貫性が伴っているかを評価する。
- ③教場試験：40%
15回目の授業において教場試験を実施する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

衛藤隆ほか編（2022）現代高等保健体育．大修館書店。
文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：保健体育編．東山書房。
文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：保健体育編 体育編．東山書房。
日本保健科教育学会編（2017）保健科教育法入門．大修館書店。
その他，必要に応じて適宜資料を配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では、学習指導要領を熟読し、学習指導計画を作成できるよう理解を深めること。

事後学習では、教育実習に向け実際に授業ができるよう準備を進めること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

本科目は、中学校ならびに高等学校教諭免許状（保健体育）の取得に関する必修科目であるため、教職課程を履修している学生のみ受講を認める。
本科目を受講する学生は、「保健体育科指導法Ⅰ」及び「保健体育科指導法Ⅲ」を履修済みであること。また、本科目を受講する際は、原則として「保健体育科指導法Ⅳ」の同時受講を条件付ける。

科目名	保健体育科指導法Ⅲ
開講期・単位	3年 春学期・自由 2単位・講義
担当者	安田 純輝、新井 貢

■講義の目的および概要

本科目は、保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の目標・内容及び各領域の学習指導理論を踏まえた具体的な授業設計を行う方法を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は、講義形式を中心に展開する。但し、グループワークや指導法の学習に際しては、実技を交えた演習形式による展開とする。本科目は、保健体育科教育学に関する研究の遂行実績を有する教員及び高等学校保健体育科教員としての実務経験を有する教員が担当し、実際の保健体育科の授業場면을想定した中で指導者として相応しい資質を体験的に身に付けるとともにその評価方法についても学修する。やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

本科目の課題は、eラーニングシステム (manaba) を活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、授業外での本科目に関する質問は、個別対応とする。

■授業計画

- ①ガイダンス、学校教育活動全体における保健体育科の位置づけ
- ②保健体育科の目標及び内容
- ③保健体育科の指導計画と評価
- ④「体づくり運動」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑤「器械運動」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑥「陸上競技」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑦「水泳」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑧「球技」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑨「武道」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑩「ダンス」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑪「体育理論」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑫「健康な生活と疾病の予防」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑬「心身の機能の発達と心の健康」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑭「傷害の防止」「健康と環境」における学習指導計画の立案・授業実践及び授業評価
- ⑮まとめ、授業研究に取り組む姿勢の確立 (教場試験)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①学習指導要領に示された保健体育科の目標及び内容を理解できる。
- ②保健体育科の基礎的な学習指導理論を理解し、授業場면을想定した授業設計を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】
 (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

- ①リフレクション：30%
毎時間リフレクションを実施する。展開された内容と関連付けて考察がなされているかを評価する。
- ②マイクロティーチング：10%
各領域のマイクロティーチングを実践する。目的・方法 (教材) に一貫性が伴っているかを評価する。
- ③学習指導計画：30%
最終課題に、学習指導計画 (年間計画・単元計画・時間計画) の作成を課し、その完成度を評価する。
- ④教場試験：30%
15回目の授業において教場試験を実施する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

文部科学省 (2018) 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説: 保健体育編. 東山書房.

文部科学省 (2019) 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説: 保健体育編 体育編. 東山書房.

岡出美則ほか編 (2021) 体育科教育学入門 (三訂版). 大修館書店.

その他, 必要に応じて適宜資料を配布する.

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では, 学習指導要領を熟読し, 学習指導計画を作成できるよう理解を深めること.

事後学習では, 教育実習に向け実際に授業ができるよう準備を進めること.

【必要な時間】

予習・復習の時間は, それぞれ2時間を目安とする.

■その他

本科目は, 中学校ならびに高等学校教諭免許状 (保健体育) の取得に関する必修科目であるため,

教職課程を履修している学生のみ受講を認める.

また, 本科目を受講する際は, 原則として「保健体育科指導法 I」の同時受講を条件付ける.

科目名	保健体育科指導法Ⅳ
開講期・単位	3年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	安田 純輝、新井 貢

■講義の目的および概要

本科目は、保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の目標・内容及び各領域の学習指導理論を踏まえた具体的な授業設計を行う方法を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

本科目は、講義形式を中心に展開する。但し、グループワークや指導法の学習に際しては、実技を交えた演習形式による展開とする。本科目は、保健体育科教育学に関する研究の遂行実績を有する教員及び高等学校保健体育科教員としての実務経験を有する教員が担当し、実際の保健体育科の授業場면을想定した中で指導者として相応しい資質を体験的に身に付けるとともにその評価方法についても学修する。やむを得ない事情で対面形式の授業が展開できない場合は、オンライン形式とすることがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

本科目の課題は、eラーニングシステム (manaba) を活用して提示し、授業内でフィードバックと解説を行う。また、授業外での本科目に関する質問は、個別対応とする。

■授業計画

- ①ガイダンス、学校教育活動全体における保健体育科の位置づけ
- ②保健体育科の目標及び内容
- ③保健体育科の指導計画と評価
- ④「体づくり運動」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑤「器械運動」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑥「陸上競技」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑦「水泳」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑧「球技」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑨「武道」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑩「ダンス」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑪「体育理論」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑫「現代社会と健康」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑬「安全な社会生活」「生涯を通じる健康」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑭「健康を支える環境づくり」における学習指導計画・模擬授業及び教育評価の実践
- ⑮まとめ、授業研究に取り組む姿勢の確立

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①学習指導要領に示された保健体育科の目標及び内容を理解できる。
- ②保健体育科の基本的な学習指導理論を理解し、授業場면을想定した授業設計を行うことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2) 【コミュニケーション能力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
 (DP5) 【能動的に学び続ける力】
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①リフレクション：30%
毎時間リフレクションを実施する。展開された内容と関連付けて考察がなされているかを評価する。
- ②学習指導計画：30%
模擬授業担当領域における学習指導計画（単元計画・時間計画）の作成を課し、その完成度を評価する。
- ③模擬授業：30%
模擬授業の達成度について、目標・内容・評価の一貫性や教材研究の観点から総合的に評価する。
- ④レポート：10%
本講義のまとめとしてレポート課題を設定する。課題に対して深く考察がなされているかを評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

文部科学省 (2018) 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説: 保健体育編. 東山書房.

文部科学省 (2019) 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説: 保健体育編 体育編. 東山書房.

岡出美則ほか編 (2021) 体育科教育学入門 (三訂版). 大修館書店.

その他, 必要に応じて適宜資料を配布する.

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では, 学習指導要領を熟読し, 学習指導計画を作成できるよう理解を深めること.

事後学習では, 教育実習に向け実際に授業ができるよう準備を進めること.

【必要な時間】

予習・復習の時間は, それぞれ2時間を目安とする.

■その他

本科目は, 中学校ならびに高等学校教諭免許状 (保健体育) の取得に関する必修科目であるため,

教職課程を履修している学生のみ受講を認める.

本科目を受講する学生は, 「保健体育科指導法Ⅰ」及び「保健体育科指導法Ⅲ」を履修済みであること. また, 本科目を受講する際は, 原則として「保健体育科指導法Ⅱ」の同時受講を条件付ける.

科目名	特別支援教育[教職]
開講期・単位	3年 秋学期・自由 2単位・講義
担当者	榎本 光邦

■講義の目的および概要

我が国では2007年4月1日から、それまでの障がい児教育の理念を広げた特別支援教育が展開されています。この講義では、障がい児教育の歴史を踏まえた上で、特別支援教育の理念を知り、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒への求められる指導・支援の実際を具体的に理解していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で進めますが、視聴覚教材なども使用し、提示内容を検討、分析し、その成果を必要に応じてディスカッションを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

本講義は、公立小学校や公立教育相談室において、教育相談や特別支援教育（障がい児教育）に関する教育相談の実務経験のある教員が、その経験を生かして、多様な子どもに対しての効果的な特別支援教育の進め方を心理学の理念と方法を取り入れ、具体的に講義します。

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義時に行います。

■授業計画

- ①特別支援教育の歴史
- ②特別支援教育の理念と制度
- ③特別支援教育の教育課程と教育課程編成上の留意事項
- ④視覚障害の理解と教育
- ⑤聴覚障害の理解と教育
- ⑥言語障害の理解と教育
- ⑦肢体不自由の理解と教育
- ⑧知的障害の理解と教育
- ⑨AD/HDの理解と教育
- ⑩SLDの理解と教育
- ⑪自閉スペクトラム症の理解と教育
- ⑫発達障害のある幼児児童生徒の園、学校での理解と指導
- ⑬特別支援教育に関わる、教師、保護者、専門機関の連携
- ⑭保育士・教員に求められる専門性
- ⑮特別支援教育を担うための自分自身の課題について

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①視覚、聴覚障害、言語、肢体不自由、知的障害、発達障害等を含む特別な教育ニーズを有する幼児、児童、生徒の障害特性に求められる支援を説明できる。
- ②特別な教育ニーズを有する子ども達を支援する教育計画や方法を説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門的知識・技能を活用する力】
 (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
 (DP4) 【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

定期試験（レポート形式・50%）に、毎回の受講後に作成する小レポート（リアクションペーパー）の評価（50%）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「子どもの気持ち」と「先生のギモン」から考える 学校で困っている子どもへの支援と指導 日戸由刈（監修）、安居院みどり・萬木はるか（編集） 学苑社

【参考文献】

随時紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事後学修として、当日の授業内容の復習や、提示されたり自ら見つけた発展課題をノートにまとめてください。また、シラバスに提示されている次時の内容について大切だと思われることや関連事項を事前に調べ、ノートに予習として記載しておくこと。

【必要な時間】

予習、復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。また、常日頃から、授業内容に関連したニュースや情報に関心をもって下さい。

■その他

講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。

科目名	教育実習 I
開講期・単位	4年 通年・自由 2単位・実習
担当者	大鐘 秀峰、平田 嘉宏、横田 久貴

■講義の目的および概要

教育実習は、高い専門性と責任感を要請されている教員になるための最も重要な教育実践であり、実習生が大学で学んだ知識や理論、技術を実践の場で具体的に展開させる、非常に大切な場である。

実際の授業や生徒指導の中に理論や知識を結びつけて生き生きとした教育を展開できる力を養うとともに、教師としての適格性や人間性について洞察を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実習校での実習です。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習校の指導に従うこと。

■授業計画

具体的な展開については、各実習校の実施計画に従って取り組むことになります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①児童・生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
- ②実習校の経営方針や特色ある活動を実施するための組織体制について理解する。
- ③学習指導要領及び児童生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
- ④学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ① 実習校の評価： 40%
- ② 実習報告書・実習日誌： 30%
- ③ 実習報告会等の成果： 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ① 教育実習日誌 (学術図書出版社)
- ② 教育実習の手引 (学術図書出版社)

【参考文献】

各実習校における教科書、地図帳、資料集、統計書などについては、事前に実習校と連絡を取り、教育実習開始前までに用意しておくこと。

■授業外学習

【具体的な内容】

教育実習日誌や教育実習の手引、その他配布資料を事前にしっかりと読んでおくこと。

事前事後学習としては、教師を目指す学生として、教育にかかわる新聞報道やニュースなどに注視し、深く考える姿勢を身に付けること。

【必要な時間】

与えられた業務(校務分掌、担任業務、授業計画・実践)を完遂するのに必要な時間

■その他

中学校教諭一種免許状の「保健体育」「社会」の取得希望者は、必ず履修すること。

科目名	教育実習Ⅱ
開講期・単位	4年 通年・自由 2単位・実習
担当者	大鐘 秀峰、平田 嘉宏、横田 久貴

■講義の目的および概要

教育実習は、高い専門性と責任感を要請されている教員になるための最も重要な教育実践であり、実習生が大学で学んだ知識や理論、技術を実践の場で具体的に展開させる、非常に大切な場である。

実際の授業や生徒指導の中に理論や知識を結びつけて生き生きとした教育を展開できる力を養うとともに、教師としての適格性や人間性について洞察を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実習校での実習です。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習校の指示に従うこと。

■授業計画

具体的な展開については、各実習校の実施計画に従って取り組むことになります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 児童・生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
- ② 実習校の経営方針や特色ある活動や実施するための組織体制について理解する。
- ③ 学習指導要領及び児童生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
- ④ 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ① 実習校の評価： 40%
- ② 実習報告書・実習日誌： 30%
- ③ 実習報告会等の成果： 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ① 教育実習日誌 (学術図書出版社)
- ② 教育実習の手引 (学術図書出版社)

【参考文献】

各実習校における教科書、地図帳、資料集、統計書などについては、事前に実習校と連絡を取り、教育実習開始前までに用意しておくこと。

■授業外学習

【テキスト】

- ① 教育実習日誌 (学術図書出版社)
- ② 教育実習の手引 (学術図書出版社)

【参考文献】

各実習校における教科書、地図帳、資料集、統計書などについては、事前に実習校と連絡を取り、教育実習開始前までに用意しておくこと。

■その他

教職課程履修者全員が履修すること。

科目名	教育実習(事前事後指導)
開講期・単位	4年 通年・自由 1単位・実習
担当者	大鐘 秀峰、平田 嘉宏、横田 久貴

■講義の目的および概要

教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践にかかわることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会である。

本講義の目的は、実践的指導力を有する指導教員のもとで、体験を積み、学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践のための基礎的基本的な能力と態度を身に付けることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義はグループワークやプレゼンテーション、ディベートなど能動的な学習活動を取り入れた授業を展開する。

教育実習の事前準備として、社会人としての基礎力や学習指導案の作成など基本的な事項等について理解する。

教育実習後は 実習報告書をまとめ発表し合い、教師という職業について、お互いに理解を深めつつ、教員としての適性等について理解する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、報告会では学生の相互評価を基に話し合うことを通してフィードバックする。

■授業計画

- ①教育実習の意義及び内容
- ②教育実習の準備と心得
- ③教育実習日誌の書き方、学習指導案の作成
- ④教育実習における研究授業（教科指導の技術と方法）
- ⑤教育実習報告会 1
- ⑥教育実習報告会 2
- ⑦教育実習報告会 3
- ⑧教育実習のまとめ、教職カルテの作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 教育実習生として遵守する義務等について理解する。
- ② 責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。
- ③ 教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までに更に習得することが必要な知識や技能等を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP2)【コミュニケーション能力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ① 実習校の評価： 30%
- ② 実習報告書・実習日誌： 30%
- ③ 実習報告会の成果： 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ① 教育実習日誌（学術図書出版社）
- ② 教育実習の手引（学術図書出版社）

【参考文献】

学習指導要領、生徒指導提要など（文部科学省）

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、関係教科の「学習指導要領」はもちろん、「教育実習の手引」を通読しておくこと。教育実習校について十分に調べるとともに、事前打ち合わせを行うこと。

事後学習として、報告書の作成を通して、生徒指導や教育相談等、部活動指導の在り方等についても理解を深めること。終了後は、礼状を書き郵送すること。

【必要な時間】

与えられた業務（校務分掌、担任業務、授業計画・実践）を完遂するのに必要な時間

■その他

教職課程履修者全員が履修すること。
教育実習校との事前事後の連携をしっかりと取ること。

科目名	教職実践演習(中・高)
開講期・単位	4年 秋学期・自由 2単位・演習
担当者	塚本 智宏、大鐘 秀峰、安田 純輝、平田 嘉宏、横田 久貴

■講義の目的および概要

本講義の目的は、教職課程科目やそれ以外の科目など様々な活動を通して、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられる教職実践演習の意義を理解し、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

本講義の目的は、教職課程科目やそれ以外の科目など様々な活動を通して、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられる教職実践演習の意義を理解し、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることである。

■授業計画

- ①ガイダンス、教職実践演習の意義
- ②使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項（グループ討議）
- ③社会性や対人関係能力に関する事項（役割演技、グループ討議）
- ④生徒理解や学級経営等に関する事項（外部講師による講義・演習、校務分掌）
- ⑤教科内容等の指導力に関する事項（ICTを用いた模擬授業・グループ討議）
- ⑥生徒指導について（外部講師による講義・演習、課外活動指導）
- ⑦学校体験活動1（社会人としての基本）
- ⑧学校体験活動2（児童・生徒指導の実際）
- ⑨学校体験活動3（児童・生徒指導の実際）
- ⑩学校体験活動4（教科指導に関する実践）
- ⑪学校体験活動5（教科指導に関する実践）
- ⑫学校体験活動6（現職教員との意見交換等）
- ⑬学校体験活動報告会1（発表、グループ討議）
- ⑭学校体験活動報告会2（発表、グループ討議）
- ⑮「教職履修カルテ」に基づく学習履歴の確認

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 教育に対する使命感や情熱を持ち、子どもたちから学び、共に成長しようとする姿勢をもって指導に当たることができる。
- ② 挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本を身に付けることができる。
- ③ 気軽に子どもたちと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができる。
- ④ 自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを生かした学習指導案を作成することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP4) 多様性の理解と協働する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力
 (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ① 振返シート・レポート課題 : 20%
- ② 学校体験活動報告会（発表＋原稿） : 30%
- ③ 学校体験活動日誌・提出物（礼状等） : 30%
- ④ 教職履修カルテ・アンケート評価 : 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

該当する教科・科目の中学校及び高等学校学習指導要領解説

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習は、学校体験活動実施校の概要や特色ある教育活動等について調べておくこと。事前に配布されたプリントについて調べて授業に参加すること。
事後学習は、学校体験活動の報告書の作成を通して振り返りをしっかりと行うこと。その際、礼状やアンケート等を必ず提出すること。

【必要な時間】

事前学習 2 時間程度
事後学習 2 時間程度

■その他

教職課程履修者全員が履修すること。
大学4年間の教職課程の集大成であるため、最後に教職履修カルテを提出する。